

科目名 日本語表現 I <a>

クラス a 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 米澤 洋子

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <b>

クラス b 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 古澤 夕起子

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <c>

クラス c 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 日塔 美代子

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <d>

クラス d 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 権藤 愛順

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <e>

クラス e 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I < f >

クラス f 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松井 治子

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <g>

クラス g

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40）授業中発表等（40）参加度（20）備考（0）

科目名 日本語表現 I <h>

クラス h 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 青木 亮人

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）



科目名 日本語表現 I <i>

クラス i 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 外村 彰

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <j>

クラス j 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 章彦

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <k>

クラス k 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 伊藤 典文

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I < I >

クラス I 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 鳥谷 善史

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <m>

クラス m 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 米澤 洋子

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <n>

クラス n 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 古澤 夕起子

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現 I <○>

クラス ○ 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 日塔 美代子

## テーマ

日本語表現の基礎

## 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

## 内 容

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <p>

クラス p 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 権藤 愛順

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）



科目名 日本語表現 I <q>

クラス q 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40）授業中発表等（40）参加度（20）備考（0）

科目名 日本語表現 I <r>

クラス r 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 松井 治子

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現 I <s>

クラス s 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

## テーマ

日本語表現の基礎

## 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

## 内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I < t >

クラス t 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 青木 亮人

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <u>

クラス u

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 外村 彰

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第 1 回 授業計画の説明

第 2 回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第 3 回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第 4 回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第 5 回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第 6 回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第 7 回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第 8 回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第 9 回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第 10 回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第 11 回 文章表現演習（2） 文章構成

第 12 回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第 13 回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第 14 回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第 15 回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <v>

クラス v 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 章彦

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）

科目名 日本語表現 I <w>

クラス w

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 伊藤 典文

#### テーマ

日本語表現の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

#### 内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40）授業中発表等（40）参加度（20）備考（0）

科目名 日本語表現 I <x>

クラス x 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 150

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 鳥谷 善史

**テーマ**

日本語表現の基礎

**授業の目的（獲得目標）**

これから大学での学修活動を開始する新入生を主な対象として、その基礎と成るような基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。

**内 容**

第1回 授業計画の説明

第2回 プレゼンテーション演習（1） キャリア・シートの記入 テーマ「これまでの私、今の私」

第3回 プレゼンテーション演習（2） 同 グループワーク

第4回 プレゼンテーション演習（3） キャリア・シートの記入 テーマ「卒業後の私、学生でない私」

第5回 プレゼンテーション演習（4） 同 グループ・ワーク

第6回 プレゼンテーション演習（5） キャリア・シートの記入 テーマ「大学生の私、子どもでない私」

第7回 プレゼンテーション演習（6） 同 グループ・ワーク

第8回 プレゼンテーション演習（7） 待遇の表現

第9回 プレゼンテーション演習（8） 対応の口語表現

第10回 文章表現演習（1） 文のしくみ

第11回 文章表現演習（2） 文章構成

第12回 文章表現演習（3） 原稿用紙の使い方

第13回 文章表現演習（4） 手紙と葉書

第14回 文章表現演習（5） 履歴書・エントリーシート

第15回 文章表現演習（6） 案内状・ビジネス文書

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（40） 授業中発表等（40） 参加度（20） 備考（0）



科目名 日本語表現 I <R a>

クラス R a

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 150

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松井 治子

#### テーマ

日本語文章能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

「実用的な文章の書き方」を身につけるための基本的知識の習得

#### 内 容

第1回 授業の進め方について

第2回 自己紹介と自己PR

第3回 文章の基本的ルール

第4回 レポートを書く1

第5回 レポートを書く2

第6回 レポートを書く3

第7回 敬語

第8回 手紙文の書き方1

第9回 手紙文の書き方2

第10回 手紙文の書き方3

第11回 意見文1

第12回 意見文2

第13回 意見文3 推敲1

第14回 推敲2

第15回 総復習とまとめ

#### 授業以外での学習方法

授業で学んだ視点に立ち、様々な文章を分析しながら読むこと、また、授業中に化した文章にたいしては添削・講評を加えるので、推敲したうえで書き直してみることを。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（20%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（30%）参加度（50%）備考（万一、落とした場合 →

単位認定制度：東京書籍「日本語検定3級」に合格すれば卒業単位は認定)

科目名 日本語表現 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <a>

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <c>

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 日塔 美代子

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <d>

クラス d 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <e>

クラス e 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <f>

クラス f 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <g>

クラス g 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 松井 治子

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <h>

クラス h 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <i></i>

クラス i 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 青木 亮人

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章読解法（4） 要約の方法その2

第6回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方

第7回 文章表現法（2） ロジカル・シンキング

第8回 文章表現法（3） 論説文と批評文

第9回 文章表現法（4） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

科目名 日本語表現Ⅱ <j>

クラス j 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 外村 彰

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <k>

クラス k 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ⅰ〉

クラス Ⅰ 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 150

履修条件 2010年度入学生対象科目

クラス指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

スタディー・スキルとしての文章表現法と文章読解法

授業の目的（獲得目標）

ゼミと中心とする専門教育を学習するに当たって最低限必要とされる読解力や文章作成能力の習得を目指す

内 容

第1回 授業計画の説明

第2回 文章読解法（1） 文脈のつかみ方

第3回 文章読解法（2） 論理のとらえ方

第4回 文章読解法（3） 要約の方法

第5回 文章表現法（1） レポート・小論文の書き方 その1

第6回 文章表現法（2） レポート・小論文の書き方 その2

第7回 文章表現法（3） 論説文と批評文 その1

第8回 文章表現法（4） 論説文と批評文 その2

第9回 文章表現法（5） 文章の形を知る

第10回 文章表現法（5） パラグラフを活用する

第11回 文章表現法（6） 資料を使って説明する

第12回 文章表現法（7） 要約、引用して批判する

第13回 文章表現法（8） 批判に反論しつつ批判する

第14回 最終レポートの作成（1） テーマ「大人とは何か？／大人になるとは？」

第15回 最終レポートの作成（2） グループワーク

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 備考（）

科目名 日本語表現Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 英語 I A <a>

クラス a 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 小川 享子

## テーマ

リスニング演習や TOEIC Test 対策の問題を解きながら、英語運用力（特にリスニング力）を身に付ける

## 授業の目的（獲得目標）

獲得目標：TOEICテストにおいて 40 点アップを目指す 内容：テキストは、日本人の学生がイギリスにホームステイに行くという状況設定の中で、日常生活、娯楽、授業などの様々なシーンでの会話やアナウンスなどから構成されています。そのようなリスニングパッセージの内容理解を試す問題を解きながら、英語力の向上を目指します。予定の授業内容は以下のとおりですが、受講生の様子をみながら、内容や進度を調整していきます。

## 内 容

- 第1回 授業方法、宿題、評価についての説明、生徒による自己紹介。リスニング問題への導入 (Going Abroad)
- 第2回 Staying at Hotel
- 第3回 Going to See a Musical!
- 第4回 Going Shopping
- 第5回 In Trouble!
- 第6回 Taking a Summer Program
- 第7回 Eating Out
- 第8回 Going to a Post Office and a Bank, Going to the Night Zoo!
- 第9回 Taking a sightseeing tour, In the library
- 第10回 Going to the National Gallery
- 第11回 Seeing a movie
- 第12回 Talking on the phone
- 第13回 Having a cold
- 第14回 Listening to the radio news
- 第15回 Review

## 授業以外での学習方法

リスニングの予習や単語の確認（復習）などを宿題として出す予定。やり方は授業内で説明します。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (35) 授業中発表等 (0) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20%」 授業中課題には宿題が含まれる。参加度には出席、および、指名されたときの発表などが含まれる。)

科目名 英語 I A <b>

クラス b

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 位置関係
- 第 4 回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 シャドーイング練習
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて 会話の展開を予測
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 頻出単語
- 第 9 回 人事・管理の表現 頻出単語
- 第 10 回 物資購入 ディクテーションの練習
- 第 11 回 財務関連表現 音の連結を学ぶ
- 第 12 回 メディア関連用語 設問の読み方
- 第 13 回 娯楽関連表現 頻出単語
- 第 14 回 健康関連表現 リテリングの練習
- 第 15 回 総復習

授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

科目名 英語 I A <c>

クラス c

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 位置関係に注目する
- 第 4 回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 リピーティングの練習
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて シャドーイングの練習
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 音の連結を知る。
- 第 10 回 物資購入 会話の流れ
- 第 11 回 財務関連表現 リテリングの練習
- 第 12 回 メディア関連用語 頻出単語を知る。
- 第 13 回 娯楽関連表現 ディクテーションの練習
- 第 14 回 健康関連表現 多聴のすすめ
- 第 15 回 総復習

授業以外での学習方法

毎週リスニング等、宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

科目名 英語 I A <d>

クラス d 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 櫃本 一美

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 自分で描写してみる。
- 第 4 回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 リピーティングの練習
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて シャドーイングの練習
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 サマライゼーションの練習
- 第 10 回 物資購入 ディクテーションの練習
- 第 11 回 財務関連表現 会話の流れをつかむ
- 第 12 回 メディア関連用語 頻出表現を知る
- 第 13 回 娯楽関連表現 選択肢の読み方
- 第 14 回 健康関連表現 問題の先読み
- 第 15 回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 I A <e>

クラス e 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 田中 美和子

## テーマ

実際に日常に使われている英語に慣れ親しむ

## 授業の目的（獲得目標）

CASEC にも役立つ総合的な英語力の要請

## 内 容

- 第 1 回 英和辞書の使い方 : Introduction: Roberta's interview
- 第 2 回 Watching the movie
- 第 3 回 Unit 1 : Notting Hill-Not a Bad Place to Be
- 第 4 回 推測・可能性の could
- 第 5 回 Unit 2 : Surreal, But Nice
- 第 6 回 依頼の表現 Would you . . . ?
- 第 7 回 Unit 3 : I'll Be Your Date/ After noon Tea Break
- 第 8 回 仮定法過去
- 第 9 回 Unit 4 : Miracles Do Happen
- 第 10 回 現在完了
- 第 11 回 Unit 5: Do you Want to Come Up?
- 第 12 回 仮定法過去完了
- 第 13 回 Unit 6: Nice Surprise, or Nasty Surprise/ Afternoon Tea Break 2
- 第 14 回 関係代名詞
- 第 15 回 全体のまとめ

## 授業以外での学習方法

英語映画をみて、英語に親しみましょう。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (40) 小テスト (10) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (30) 備考 (授業中は辞書を持参して下さい。全体の 3 分の 2 以上は出席をして下さい。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 I A < f >

---

クラス f

配当回生 1 回生

---

講義期間 前期

定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 ブット ルイズ

---

テーマ

Oral Communicative English

---

**授業の目的（獲得目標）**

The purpose of this course is to develop basic English communication skills. Focusing on interesting topics, this course will indirectly cover basic grammar, functions and vocabulary. It will also help you grow in speaking English confidently.

---

**内 容**

第1回 Introductions, and useful classroom language

第2回 Getting to know each other

第3回 Getting to know each other

第4回 Talking about interests

第5回 Talking about interests

第6回 Talking about family

第7回 Talking about family

第8回 Talking about people

第9回 Talking about people

第10回 Talking about work

第11回 Talking about work

第12回 Talking about past experiences

第13回 Talking about past experiences

第14回 Talking about sports

第15回 Final Review

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（40%）小テスト（60%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 英語 I A <g>

クラス g

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

### 履修条件

#### クラス指定

担当者 原 俊樹

### テーマ

「使える英語」を身に付ける；基礎からの英語理解（Native English Teacher のクラスの内容にも注意すること。）

### 授業の目的（獲得目標）

獲得目標：平易な英文の解釈・定型表現の演習を通して、英語表現の特性を基礎から見直し、英語理解・表現のための基礎的な知識（「文型的分析」や文法・単語・成句など）を整理し、英語と日本語の表現方法の違いも考えて、国際的に通用するコミュニケーション技能（読む・書く・聞く・話す）の実践力や基本的な英語の理解力・表現力を「論理的に考える力」として身に付け、英語運用能力を発展させる。 授業計画：基本的には、テキストに沿って行なう。これまでの知識の再確認に関する小テストを毎回課す予定。只単に、「単位さえ貰えれば良いのだ

### 内 容

- 第1回 講義概要・テキスト利用法の説明・基礎力判定
- 第2回 フォニクス（単語と発音）
- 第3回 主語－述語動詞の捉え方・自動詞と他動詞の違い
- 第4回 句動詞（群動詞）・I d i o m s
- 第5回 基本文型の捉え方（1） 単文；基本五文型と文の要素
- 第6回 基本文型の捉え方（2） 復文・重文・修飾の関係・接続の関係
- 第7回 述語動詞と時制（1）；基本時制
- 第8回 述語動詞と時制（2）；進行時制と進行形
- 第9回 述語動詞と時制（3）；完了時制と完了形・完了進行形
- 第10回 助動詞
- 第11回 態表現；能動態と受動態
- 第12回 不定詞とその用法
- 第13回 分詞とその用法
- 第14回 前期の文法総整理；各自の英語学習法の確立
- 第15回 第15週又は最終講義日；前期のまとめ

### 授業以外での学習方法

時間をうまく利用して、なるべく多くの練習（リスニング・ディクテーション・音読・読解など）をすること。テキスト理解に関しては、辞書をしっかりと利用し、単語の別の意味・例文にも注意して、予習・復習に使えるようにすること。毎日の努力・継続が必ず実を結ぶことを信じなさい。ALC NetAcademy も利用すること



---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（50）小テスト（20）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（10（座っているだけでは駄目））備考（）

科目名 英語 I A <h>

クラス h 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

文法の復習と 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の向上

授業の目的（獲得目標）

基礎文法の各種演習を通して総合的な英語力を強化する。ある大学生二人とその家族の日常生活のストーリーを楽しみながら、文法解説、語彙、応用、確認問題、ペア練習、作文、リスニング練習を随時進めて行き、その過程を通して今後の更なる英語学習のための基礎固めを行う。以下は進度の目安で、状況に応じて増減する場合があります。

内 容

第 1 回 授業説明 (1) This is my everyday life.

第 2 回 (1) This is my everyday life.

第 3 回 (2) Do you keep a diary?

第 4 回 (2) Do you keep a diary?

第 5 回 (3) These are my family photos.

第 6 回 (3) These are my family photos.

第 7 回 (4) Where are you from?

第 8 回 (4) Where are you from?

第 9 回 (5) We love our town, Sakura-Yokocho.

第 10 回 (5) We love our town, Sakura-Yokocho.

第 11 回 (6) I' m so busy this month!

第 12 回 (6) I' m so busy this month!

第 13 回 復習 (1)

第 14 回 復習 (2)

第 15 回 まとめ

授業以外での学習方法

テキスト内の会話部分などの対訳ノートを作成、語彙の暗記、発表の用意。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（40%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（\* この科目では毎授業必ず出席を取ります。\* 期末試験のほかに随時小テストを行い、中間テストは6月上旬を目安に行う予定です。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 IA <i></i>

---

クラス i 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 溝部 芳子

---

テーマ

英語コミュニケーション能力の向上

---

授業の目的（獲得目標）

身近な話題中心のリスニング教材とスクリプト等を使って、特に聞く力と読む力の向上を目的とする。

---

内 容

第1回 Introduction

第2回 Unit1: Nice to meet you.

第3回 Unit1: Nice to meet you.

第4回 Unit2: You have a great place!

第5回 Unit2: You have a great place!

第6回 Unit3: I'm looking for a book store.

第7回 Unit3: I'm looking for a book store.

第8回 Review 1

第9回 Unit4: Let's get together!

第10回 Unit4: Let's get together!

第11回 Unit5: How can I help you?

第12回 Unit5: How can I help you?

第13回 Unit6: My train's at two o'clock.

第14回 Unit6: My train's at two o'clock.

第15回 Review 2

---

授業以外での学習方法

Online のリスニング課題など授業内で指示します。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（40%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（出席は毎回とります。積極的な授業参加が求められます。）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 I A < j >

クラス j 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 植月 千砂

## テーマ

実話を楽しみながら、語彙力をつける。

## 授業の目的（獲得目標）

読解を通じて習得した語彙を、練習問題を通じてさらに理解を深め、実際に使えるようにする。またストーリーを聞き取って、自分で再現できるようにする。（授業開始後、クラスの実情に応じて以下の予定を調整することがある。）

## 内 容

第1回 1. Hello, My Name Is Scott

第2回 1. Hello, My Name Is Scott 2. Python Boy

第3回 2. Python Boy Review

第4回 3. Car-aoke

第5回 3. Car-aoke 4. Mud Day

第6回 4. Mud Day Review

第7回 5. His Mustache Pays

第8回 5. His Mustache Pays 6. Man Wants Pople to Laugh

第9回 6. Man Wants Pople to Laugh Review

第10回 Review (1~6)

第11回 7. Tall Hair

第12回 7. Tall Hair 8. Man Flies Like a Bird

第13回 8. Man Flies Like a Bird Review

第14回 9. 32 Days with Scorpions

第15回 9. 32 Days with Scorpions Review

## 授業以外での学習方法

- 1、語彙の練習 2、指定された練習問題

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (30%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 英語 I A <k>

クラス k 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 西山 裕子

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 リピーティングの練習
- 第 4 回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 時間の効果的な使い方
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて 会話の展開を知る
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 ディクテーションの練習
- 第 10 回 物資購入 問題の先読み
- 第 11 回 財務関連表現 キーセンテンスを聴き取る
- 第 12 回 メディア関連用語 シャドーイングの練習
- 第 13 回 娯楽関連表現 音の連結を知る
- 第 14 回 健康関連表現 頻出設問を知る
- 第 15 回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 I A < I >

---

クラス I 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 野口 博代

---

テーマ

Reading and understanding in English

---

**授業の目的（獲得目標）**

様々なトピックの英文を読み、英語で大意を把握しまとめる事が出来るようになることを目標とします。また、リスニングタスクを通して英語の音やリズムにも慣れましょう。

---

**内 容**

第1回 Introductions Fantasy Stories

第2回 Fantasy Stories

第3回 Movies are great!

第4回 Review 1 Extreme Sports

第5回 My Hobbies

第6回 Review 2 Intelligent Animals

第7回 Caring for Pets

第8回 Review 3 Inventions

第9回 Young Inventor

第10回 Review 4 Mystery Sightings

第11回 Mystery Tours

第12回 Review 5 The History of the Web

第13回 People Online

第14回 Review 6

第15回 Reading Activity

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（）



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 I A <m>

---

クラス m

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 クレイグ ギブス

---

テーマ

Four Skills Development in English for Academic Purposes

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to improve students' speaking, listening, reading, and writing skills for academic purposes. Syllabus Planning General requirement course intended to consolidate and to extent students' English usage through in-class and homewo

---

内 容

第1回 Course Introduction

第2回 Sample Question

第3回 Daily Life

第4回 Places

第5回 People & Professions

第6回 Things Around Us

第7回 Expression Ideas

第8回 Action

第9回 Situations

第10回 Describing Things

第11回 Company & Business

第12回 Marketing

第13回 Education & Others

第14回 Entertainment

第15回 Skills Review

---

授業以外での学習方法

Details given in class

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 (25%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 英語 I A <n>

クラス n 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 西山 裕子

テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 リピーティングの練習
- 第 4 回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 シャドーイングの練習
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて ディクテーションの練習
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 音の連結を知る
- 第 10 回 物資購入 頻出設問を知る
- 第 11 回 財務関連表現 会話の展開を知る
- 第 12 回 メディア関連用語 効果的な時間の使い方
- 第 13 回 娯楽関連表現 キーセンテンスを聴き取る
- 第 14 回 健康関連表現 頻出単語
- 第 15 回 総復習

授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 I A <○>

クラス ○ 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 小川 享子

## テーマ

リスニング演習や TOEIC Test 対策の問題を解きながら、英語運用力（特にリスニング力）を身に付ける

## 授業の目的（獲得目標）

獲得目標：TOEICテストにおいて40点アップを目指す 内容：テキストは、日本人の学生がイギリスにホームステイに行くという状況設定の中で、日常生活、娯楽、授業などの様々なシーンでの会話やアナウンスなどから構成されています。そのようなリスニングパッセージの内容理解を試す問題を解きながら、英語力の向上を目指します。予定の授業内容は以下のとおりですが、受講生の様子をみながら、内容や進度を調整していきます。

## 内 容

- 第1回 授業方法、宿題、評価についての説明、生徒による自己紹介。リスニング問題への導入(Going Abroad)
- 第2回 Staying at a hotel
- 第3回 Going to a musical
- 第4回 Going shopping
- 第5回 In trouble!
- 第6回 Taking a summer course
- 第7回 Eating out
- 第8回 Going to a post office and a bank!, Going to the night zoo!
- 第9回 Taking a sightseeing tour, In the library
- 第10回 Going to the National Gallery!
- 第11回 Seeing a movie!
- 第12回 Talking on the phone
- 第13回 Having a cold
- 第14回 Listening to the radio news
- 第15回 Review

## 授業以外での学習方法

リスニングの予習や単語・表現の復習などを宿題に出す予定。やり方は授業内で説明します。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (35) 授業中発表等 (0) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20%」 授業中課題には宿題が含まれる。参加度には出席、および、指名されたときの発表などが含まれる。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 I A <p>

---

クラス p 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 クレイグ ギブス

---

テーマ

Four Skills Development in English for Academic Purposes

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to improve students' speaking, listening, reading, and writing skills for academic purposes. Syllabus Planning General requirement course intended to consolidate and to extent students' English usage through in-class and homewo

---

内 容

- 第1回 Course Introduction
  - 第2回 Sample Question
  - 第3回 Daily Life
  - 第4回 Places
  - 第5回 People & Professions
  - 第6回 Things Around Us
  - 第7回 Expression Ideas
  - 第8回 Action
  - 第9回 Situations
  - 第10回 Describing Things
  - 第11回 Company & Business
  - 第12回 Marketing
  - 第13回 Education & Others
  - 第14回 Entertainment
  - 第15回 Skills Review
- 

授業以外での学習方法

Details given in class

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 (25%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 英語 I A <q>

クラス q

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 リピーティングの練習
- 第 4 回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 シャドーイングの練習
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて ディクテーションの練習
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 設問の読み方
- 第 10 回 物資購入 音の連結を知る
- 第 11 回 財務関連表現 頻出設問を知る
- 第 12 回 メディア関連用語 キーセンテンスを知る
- 第 13 回 娯楽関連表現 会話の展開を知る
- 第 14 回 健康関連表現 頻出語彙
- 第 15 回 総復習

授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 IA <r>

---

クラス r 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 野口 博代

---

テーマ

Reading and understanding in English

---

**授業の目的（獲得目標）**

様々なトピックの英文を読み、英語で内容把握しまとめることができるようになる事を目標とします。またリスニングタスクを通して、英語の音やリズムにも慣れましょう。

---

**内 容**

第1回 Intoroductions Fantasy Stories

第2回 Fantasy Stories

第3回 Movies are great!

第4回 Review 1 Extreme Sports

第5回 My Hobbies

第6回 Review 2 Intelligent Animals

第7回 Caring for Pets

第8回 Review 3 Inventions

第9回 Young Inventor

第10回 Review 4 Mystery Sightings

第11回 Mystery Tours

第12回 Review 5 The History of the Web

第13回 People Online

第14回 Review 6

第15回 Reading Activity

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 I A <s>

---

クラス s

配当回生 1 回生

---

講義期間 前期

定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 久保田 美佳

---

テーマ

文法の復習と 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の向上

---

授業の目的（獲得目標）

基礎文法の各種演習を通して総合的な英語力を強化する。ある大学生二人とその家族の日常生活のストーリーを楽しみながら、文法解説、語彙、応用、確認問題、ペア練習、作文、リスニング練習を随時進めて行き、その過程を通して今後の更なる英語学習のための基礎固めを行う。以下は進度の目安で、状況に応じて増減する場合があります。

---

内 容

第 1 回 授業説明 (1) This is my everyday life.

第 2 回 (1) This is my everyday life.

第 3 回 (2) Do you keep a diary?

第 4 回 (2) Do you keep a diary?

第 5 回 (3) These are my family photos.

第 6 回 (3) These are my family photos.

第 7 回 (4) Where are you from?

第 8 回 (4) Where are you from?

第 9 回 (5) We love our town, Sakura-Yokocho.

第 10 回 (5) We love our town, Sakura-Yokocho.

第 11 回 (6) I' m so busy this month!

第 12 回 (6) I' m so busy this month!

第 13 回 復習 (1)

第 14 回 復習 (2)

第 15 回 まとめ

---

授業以外での学習方法

テキスト内の会話部分などの対訳ノートを作成、語彙の暗記、発表の用意。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（40%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（\* この科目では毎授業必ず出席を取ります。\* 期末試験のほかに随時小テストを行い、中間テストは6月上旬を目安に行う予定です。）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 I A <t>

クラス t 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 植月 千砂

## テーマ

実話を楽しみながら、語彙力をつける。

## 授業の目的（獲得目標）

読解を通じて習得した語彙を、練習問題を通じてさらに理解を深め、実際に使えるようにする。またストーリーを聞き取って、自分で再現できるようにする。（授業開始後、クラスの実情に応じて予定を調整することがある。）

## 内 容

第1回 1. Hello, My Name Is Scott

第2回 1. Hello, My Name Is Scott 2. Python Boy

第3回 2. Python Boy Review

第4回 3. Car-aoke

第5回 3. Car-aoke 4. Mud Day

第6回 4. Mud Day Review

第7回 5. His Mustache Pays

第8回 5. His Mustache Pays 6. Man wants Pople to Laugh

第9回 6. Man wants Pople to Laugh Review

第10回 Review (1~6)

第11回 7. Tall Hair

第12回 7. Tall Hair 8. Man Flies Like a Bird

第13回 8. Man Flies Like a Bird Review

第14回 9. 32 Days with Scorpions

第15回 9. 32 Days with Scorpions Review

## 授業以外での学習方法

1. 語彙の学習 2. 指定された練習問題

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（30%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IA <u>

クラス u

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 30

**履修条件****クラス指定**

担当者 田中 美和子

**テーマ**

実際に日常に使われている英語に親しむ

**授業の目的（獲得目標）**

CASEC にも役立つ総合的な英語力の養成

**内 容**

第1回 英和辞書の使い方: Introduction: Roberta's interview

第2回 Watching the movie

第3回 Unit 1: Notting Hill-Not a Bad Place to Be

第4回 推測・可能性の could

第5回 Unit 2: Surreal, But Nice

第6回 依頼の表現 Would you ~?

第7回 Unit 3: I'll Be Your Date/ After noon Tea Break

第8回 仮定法過去

第9回 Unit 4: Miracles Do Happen

第10回 現在完了

第11回 Unit 5: Do you Want to Come Up?

第12回 仮定法過去完了

第13回 Unit 6: Nice Surprise, or Nasty Surprise/ Afternoon Tea Break 2

第14回 関係代名詞

第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

英語映画を見て英語に親しむ

**教科書****参考書****成績評価**

試験 (40) 小テスト (10) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (30) 備考 (全体の三分の二は出席するようにして下さい。辞書を使えるように持参して下さい。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 I A <v>

---

クラス v

配当回生 1 回生

---

講義期間 前期

定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 溝部 芳子

---

テーマ

英語コミュニケーション能力の向上

---

**授業の目的（獲得目標）**

身近な話題中心のリスニング教材とスクリプト等を使って、特に聞く力と読む力の向上を目的とする。

---

**内 容**

第1回 Introduction

第2回 Unit 1: Nice to meet you

第3回 Unit 1: Nice to meet you

第4回 Unit 2: You have a great place!

第5回 Unit 2: You have a great place!

第6回 Unit 3: I' m looking for a bookstore.

第7回 Unit 3: I' m looking for a bookstore.

第8回 Review 1

第9回 Unit 4: Let' s get together.

第10回 Unit 4: Let' s get together.

第11回 Unit 5: How can I help you?

第12回 Unit 5: How can I help you?

第13回 Unit 6: My train' s at two o' clock.

第14回 Unit 6: My train' s at two o' clock.

第15回 Review 2

---

**授業以外での学習方法**

Online のリスニング課題など授業内で指示します。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（40%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（出席は毎回とります。積極的な授業参加が求められます。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 I A <w>

---

クラス w

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 ブット ルイズ

---

テーマ

English Oral Communication

---

**授業の目的（獲得目標）**

The purpose of this course is to develop basic English communication skills. Focusing on interesting topics, this course will indirectly cover basic grammar, functions and vocabulary. It will also help you grow in speaking English confidently.

---

**内 容**

第1回 Introductions, and useful classroom language

第2回 Getting to know each other

第3回 Getting to know each other

第4回 Talking about interests

第5回 Talking about interests

第6回 Talking about family

第7回 Talking about family

第8回 Talking about people

第9回 Talking about people

第10回 Talking about work

第11回 Talking about work

第12回 Talking about past experiences

第13回 Talking about past experiences

第14回 Talking about sports

第15回 Final Review

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（40%）小テスト（60%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 英語 I A <x>

クラス x

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 リピーティングの練習
- 第 4 回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 スキャニングの練習
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて ディクテーションの練習
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 キーセンテンスを聴き取る
- 第 10 回 物資購入 音の連結を知る
- 第 11 回 財務関連表現 よく出る設問を知る
- 第 12 回 メディア関連用語 設問の効果的な読み方
- 第 13 回 娯楽関連表現 頻出語彙
- 第 14 回 健康関連表現 リテリングの練習
- 第 15 回 総復習

授業以外での学習方法

毎週リスニング等、宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 I A <y>

クラス y

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 櫃本 一美

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 位置関係 自分で描写してみる
- 第 4 回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 リピーティングの練習
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて シャドーイングの練習
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 リテリングの練習
- 第 10 回 物資購入 音の連結を知る
- 第 11 回 財務関連表現 よく出る設問を知る
- 第 12 回 メディア関連用語 ディクテーションの練習
- 第 13 回 娯楽関連表現 頻出単語
- 第 14 回 健康関連表現 効果的な時間の使い方
- 第 15 回 総復習

## 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

|       |            |      |      |
|-------|------------|------|------|
| 科目名   | 英語 I A <z> |      |      |
| クラス   | z          | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 30   |
| 履修条件  |            |      |      |
| クラス指定 |            |      |      |
| 担当者   | 原 俊樹       |      |      |

### テーマ

「使える英語」を身に付ける；基礎からの英語理解（Native English Teacher のクラスの内容にも注意すること。）

### 授業の目的（獲得目標）

獲得目標：平易な英文の解釈・定型表現の演習を通して、英語表現の特性を基礎から見直し、英語の理解・表現のための基礎的な知識（「文型的分析」や文法・単語・成句など）を整理し、英語と日本語の表現方法の違いも考えて、国際的に通用するコミュニケーション技能（読む・書く・聞く・話す）の実践力・基本的な英語の理解力・表現力を「論理的に考える力」として身に付け、英語運用能力を発展させる。 授業計画：基本的には、テキストに沿って行なう。これまでの知識の再確認に関する小テストを毎回課す予定。只単に、「単位さえ貰えれば良いの

### 内 容

- 第1回 講義概要・テキスト利用法の説明・基礎力判定
- 第2回 フォニクス（単語と発音）
- 第3回 主語－述語動詞の捉え方・自動詞と他動詞の違い
- 第4回 句動詞（群動詞）・I d i o m s
- 第5回 基本文型の捉え方（1） 単文；基本五文型と文の要素
- 第6回 基本文型の捉え方（2） 復文・重文・修飾の関係・接続の関係
- 第7回 述語動詞と時制（1）；基本時制
- 第8回 述語動詞と時制（2）；進行時制と進行形
- 第9回 述語動詞と時制（3）；完了時制と完了形・完了進行形
- 第10回 助動詞
- 第11回 態表現；能動態と受動態
- 第12回 不定詞とその用法
- 第13回 分詞とその用法
- 第14回 前期の文法総整理；各自の英語学習法の確立
- 第15回 第15週又は最終講義日；前期のまとめ

### 授業以外での学習方法

時間をうまく利用して、なるべく多くの練習（リスニング・ディクテーション・音読・読解など）をすること。テキスト理解に関しては、辞書をしっかりと利用し、単語の別の意味・例文にも注意して、予習・復習に使えるようにすること。毎日の努力・継続が必ず実を結ぶことを信じなさい。ALC NetAcademy も利用すること

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（50）小テスト（20）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（10（座っているだけでは駄目））備考（）

科目名 英語 I A

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

|             |          |      |      |
|-------------|----------|------|------|
| 科目名         | 英語 I <R> |      |      |
| クラス         | R a      | 配当回生 | 2 回生 |
| 講義期間        | 前期       | 定員   | 30   |
| <b>履修条件</b> |          |      |      |
| クラス指定       | 到達度別     |      |      |
| 担当者         | 杉山 泰     |      |      |

## テーマ

英語が分かれば日本語も分かる — 日英語対照をしながら学ぶ基礎英語

## 授業の目的（獲得目標）

「市橋達也が捕まった」を Ichibashi Tatsuya was arrested. とするのはなぜなのか。「受身構文」が理解できないまま、英語が嫌いになった学生が多い。「原爆は落ちた」のではなく、An A-bomb was dropped. であり、「これください」は I'll take this. となる。「主語」が必要な英語と、無くても問題ない日本語の対照をしながら、日本語文法だけでなく、英語文法を楽しく学んでもらう。特に、英語独特の「S+V+C 構文」「時制」「比較級」「受身」「仮定法」を楽しく学んでも

## 内 容

- 第1回 自己紹介（「杉山英語カード」の記入と英語での自己紹介）
- 第2回 Lesson 1 日英語の違い（主語と動詞と目的語 I love you. 構文）
- 第3回 S+V+O 構文と現在・過去・未来（酒を飲みに行く？=Will you go for a drink?）
- 第4回 Lesson 2 「私」からの発想。（ビールが飲みたい=I want to drink beer.）
- 第5回 I have a good time. 構文。「抽象的名詞」を have しよう。（fun, need, ability）
- 第6回 I have difficulty hiring a car in London. You have no need to marry him.
- 第7回 Lesson 3 「命令文」（On your mark. Get set. Go.）
- 第8回 Take it easy. （気楽に） 英語の看板は命令文ばかり。（Give Way は？）
- 第9回 Give me a call. 何でも訴えられる Give me... 表現。（Give me Tokyo は？）
- 第10回 Lesson 4 「be 動詞」という曲者（1） I am Japanese. \*I am Japan.
- 第11回 I am happy. 構文と It is pleasant for me to play with you. 構文。
- 第12回 You are a great loser. （S+V+C 構文）「～する人＝「動詞+er」
- 第13回 Lesson 5 「be 動詞」という曲者（2） It was hard for me to live. （不定詞構文）
- 第14回 「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日（俵万智の英訳）
- 第15回 雨雨降れ降れ母さんが蛇の目でお迎えうれしいな=I 主語と Mother 主語では？
- 第16回 Lesson 6 未来を示す英語。How long are you going to stay in the U.K.?
- 第17回 新聞英語の「be to...」表現。Will と be going to... と have a mind to...
- 第18回 Lesson 7 「不定詞」構文。I want to use a toilet.
- 第19回 I have no need to hurry. （ability, reason, mind, possibility, way）構文。
- 第20回 不定詞（1）I want to smoke. （2）I am happy to say... （3）He made me study.
- 第21回 Lesson 8 現在完了形。Have you eaten Okonomiyaki, or Japanese pancakes?
- 第22回 日本料理の英訳。（しゃぶしゃぶ、おでん、焼きめし、ラーメン、にぎり寿司）
- 第23回 Lesson 9 能動態と受動態。Was an A-bomb really dropped on Hiroshima?

- 第 24 回 Hatoyama was elected as Japanese Prime Minister. (鳩山氏が首相になった)
- 第 25 回 Lesson 10 5W と 1H で始まる疑問文。疑問文の作り方。
- 第 26 回 Lesson 11 動名詞構文。I enjoyed driving my new car.
- 第 27 回 Lesson 12 比較級構文。Which do you like better, chicken or beef?
- 第 28 回 Lesson 13 There was a bus blast in London.
- 第 29 回 Lesson 14 仮定法構文。起こりえないことの仮定。(時と時制のずれ)
- 第 30 回 日英語対照による楽しい英文法のまとめ。(日本語の「てにをは」)
- 

### 授業以外での学習方法

5 月に英語劇の鑑賞を計画している。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (30) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 (毎回「課題」レポート (宿題) を与えるので、欠席した学生は必ずその「課題」を遅れても提出すること。提出すれば、参加度評価を認める。)

科目名 英語 IB <a>

クラス a

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 小川 享子

#### テーマ

TOEIC test 対策の問題演習をしながら、英語運用力（特にリーディング、文法力）を身につけよう。

#### 授業の目的（獲得目標）

獲得目標： 基本的な語彙、文法項目を身に付け、TOEIC Test において、20 点アップを目指す。日常生活、娯楽、様々なビジネスシーン（就職、契約、宣伝など）をテーマとする主にリーディング教材を用い、演習問題を解き、英語力の向上を目指します。あわせて、英語運用力の基盤になる語彙と文法に関する知識が身に付くように、知識の整理しながら問題を解いていきます。予定の授業内容は以下のとおりですが、受講生の様子をみながら、内容や進度を調整していきます。

#### 内 容

- 第 1 回 TOEIC Test の構成、社会的な評価などについての説明。Pre-test: TOEIC 形式ミニテスト (part 5, 6, 7)
- 第 2 回 Daily life : 広告を読む、品詞の違い。
- 第 3 回 Places: カード、通知を読む。
- 第 4 回 Review: 単語・表現の整理、文法事項整理
- 第 5 回 People: 代名詞の練習。図表、メモを読む。
- 第 6 回 Travel: 手紙、メッセージを読む。
- 第 7 回 Review: 単語・表現の整理、文法事項整理
- 第 8 回 Business: 動詞の形。通知、メモを読む。
- 第 9 回 Office: 手紙を読む。
- 第 10 回 Review: 単語・表現の整理、文法事項整理
- 第 11 回 Technology : 語彙関連。概要、メモを読む。
- 第 12 回 Personnel: 記事を読む。
- 第 13 回 模擬テストに挑戦。
- 第 14 回 模擬テストに挑戦。
- 第 15 回 まとめ。夏休みに向けての学習説明。

#### 授業以外での学習方法

予習、語彙、文法の復習などかなりの宿題を出す予定。やり方は授業中に説明します。

#### 教科書

#### 参考書



---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (15) 授業中発表等 (0) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20%」 授業中の課題には、宿題の提出が含まれる。参加度には授業への出席と指名されたときの発表が含まれる。)

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <b>

クラス b 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 中井 翔

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 品詞の違い 広告を読む
- 第 2 回 日常生活 短文穴埋め問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 代名詞
- 第 4 回 人々の描写 長文穴埋め問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 動詞の形
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 読解問題（1つの文書）攻略法
- 第 7 回 オフィスにて 語彙関連
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 読解問題（2つの文書）攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 接続詞
- 第 10 回 物資購入 スキミングの練習
- 第 11 回 財務関連表現 時制
- 第 12 回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第 13 回 娯楽関連表現 前置詞
- 第 14 回 健康関連表現 リテリングの練習
- 第 15 回 総復習

## 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <c>

クラス c 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西村 尚人

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 品詞の違い 広告を読む
- 第 2 回 日常生活 語彙問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 代名詞
- 第 4 回 人々の描写 文法問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 動詞の形
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて 語彙関連
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 読解問題（1つの文書）攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 接続詞
- 第 10 回 物資購入 読解問題（2つの文書）攻略法
- 第 11 回 財務関連表現 時制
- 第 12 回 メディア関連用語 サマライゼーションの練習
- 第 13 回 娯楽関連表現 前置詞
- 第 14 回 健康関連表現 頻出単語を知る
- 第 15 回 総復習

## 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

科目名 英語 IB <d>

クラス d 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 櫃本 一美

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第 1 回 Reading Section 攻略法と時間配分
- 第 2 回 日常生活 短文穴埋め問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 スキミングの練習
- 第 4 回 人々の描写 文法問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 スキャニングの練習
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 語彙問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて キーセンテンスを読み取る
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 長文穴埋め問題攻略法
- 第 9 回 人事・管理の表現 頻出単語の研究
- 第 10 回 物資購入 読解問題攻略法（1つの文書）
- 第 11 回 財務関連表現 読解問題攻略法（2つの文書）
- 第 12 回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第 13 回 娯楽関連表現 速読の練習
- 第 14 回 健康関連表現 音読の練習
- 第 15 回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 IB <e>

---

クラス e 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ビショップ マイケル A. C

---

テーマ

Expressing opinions and exchanging ideas

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to help students express their thoughts in English through writing and speaking activities.

---

内 容

第1回 Course Mechanics and Introductions

第2回 The Internet

第3回 The Internet

第4回 NEETs

第5回 NEETs

第6回 Fashion

第7回 Fashion

第8回 Environment

第9回 Environment

第10回 Junk Food

第11回 Junk Food

第12回 Depopulation

第13回 Depopulation

第14回 Examinations

第15回 Examinations

---

授業以外での学習方法

Students are expected to read extensively in Japanese and in English as a part of their university education.

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (30) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 IB < f >

---

クラス f 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 松村 優子

---

テーマ

英語の歌と会話リスニングを利用して英語独特の音声特徴に慣れる

---

授業の目的（獲得目標）

1. 歌や会話を通して英語らしいリズムや発音に慣れる。 2. 歌をきっかけにして英語に対する関心を高める。
- 

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1

第3回 Unit 2

第4回 Unit 3

第5回 Unit 4

第6回 Unit 5

第7回 Unit 6

第8回 Unit 7

第9回 Unit 8

第10回 Unit 9

第11回 Unit 10

第12回 Unit 11

第13回 Unit 12

第14回 復習

第15回 復習 授業内容については進度によって変更することがあります。

---

授業以外での学習方法

授業内で説明する。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (15) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 英語 I B <g>

クラス g 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 ブライアン・スガイル

## テーマ

Expressing Your Ideas in English

## 授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

## 内 容

第1回 introductions

第2回 classroom English

第3回 student interviews-A

第4回 student interviews-B

第5回 likes

第6回 dislikes

第7回 abilities

第8回 describing people-A

第9回 describing people-B

第10回 families

第11回 occupations-A

第12回 occupations-B

第13回 experiences

第14回 sports

第15回 review

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (30) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <h>

クラス h 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 クーラン コーリ

## テーマ

テーマ： Pre-intermediate English

## 授業の目的（獲得目標）

Enable the students to use English, with a focus on speaking and writing, to apply what they have learned to simple, everyday situations.

## 内 容

第1回 Introductions

第2回 Unit 1, All about you, Sections A and B

第3回 Unit 1, All about you, Sections C and D

第4回 Unit 2, In class, Sections A and B

第5回 Unit 2, In class, Sections C and D

第6回 Unit 3, Favorite people, Sections A and B

第7回 Unit 3, Favorite people, Sections C and D

第8回 Video Lesson

第9回 Unit 4, Everyday life, Sections A and B

第10回 Unit 4, Everyday life, Sections C and D

第11回 Unit 5, Free time, Sections A and B

第12回 Unit 5, Free time, Sections A and B

第13回 Unit 6, Neighborhoods, Sections A and B

第14回 Unit 6, Neighborhoods, Sections C and D

第15回 Semester recap and video lesson

## 授業以外での学習方法

Reading/viewing printed and video media as well as accessing Internet URL on the Internet related to ESL learning. These will be provided from time to time in class.

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト (30) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB < i >

クラス i 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フリン ハンナ マイケル

## テーマ

Using English for Communication

## 授業の目的（獲得目標）

Improved speaking, listening and writing skills in a communicative context

## 内 容

第1回 Orientation

第2回 Introductions

第3回 Greetings

第4回 Naming objects

第5回 Object locations

第6回 Finding things

第7回 Talking about cities and countries

第8回 Giving information about place of origin, nationality

第9回 Describing people

第10回 Clothing and colors

第11回 Clothing and seasons

第12回 Telling time

第13回 Describing current activities

第14回 Commuting

第15回 Family relationships

## 授業以外での学習方法

Review Textbook

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (55%) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (45%) 備考 (Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include

traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall)

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <j>

クラス j 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

## テーマ

Gain confidence in oral and written communication in English

## 授業の目的（獲得目標）

This course will aim to improve students' self-expression in and understanding of real-life English. This will be a four-skills course with a focus on the productive skills of speaking and writing. Students will be expected to attend regularly, participa

## 内 容

- 第1回 Greetings; names in English
- 第2回 Exchanging personal information
- 第3回 Classmates and personal items
- 第4回 Classroom objects and classroom language
- 第5回 Talking about celebrities and describing people
- 第6回 Family and friends
- 第7回 Everyday activities and routines
- 第8回 Personal habits; your average week
- 第9回 Free time and TV shows
- 第10回 Computers and the Internet
- 第11回 Talking about your neighborhood
- 第12回 Telling time; local events
- 第13回 Talking about the weather
- 第14回 Sports and exercise
- 第15回 Final review

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (15) 小テスト (10) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (55) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <k>

クラス k 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西山 裕子

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 品詞の違い 広告を読む
- 第 2 回 日常生活 語彙問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 代名詞
- 第 4 回 人々の描写 文法問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 動詞の形
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて 語彙関連
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 読解問題攻略法（1つの文書）
- 第 9 回 人事・管理の表現 接続詞
- 第 10 回 物資購入 読解問題攻略法（2つの文書）
- 第 11 回 財務関連表現 時制
- 第 12 回 メディア関連用語 スキミングの練習
- 第 13 回 娯楽関連表現 前置詞
- 第 14 回 健康関連表現 スキャニングの練習
- 第 15 回 総復習

## 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 IB < I >

---

クラス I 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ソーソン マーカス

---

テーマ

Reading, Speaking, Video

---

授業の目的 (獲得目標)

In this class we will practice all the English skills, reading, writing, speaking and listening, using a video drama as the main theme.

---

内 容

第1回 Introductions

第2回 Natural pronunciation drills.

第3回 The aliens

第4回 Roswell Crash

第5回 Drama Acting

第6回 Characters

第7回 Missing

第8回 Questions

第9回 Vocabulary

第10回 River Dog

第11回 Telling a story

第12回 Reports

第13回 Blood Brothers

第14回 Toy House

第15回 Final Papers

---

授業以外での学習方法

DVD subtitles method and Journals

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 I B <m>

---

クラス m

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 金山 敬

---

テーマ

グローバル社会の中であって、世界の人々と共存し、理解しあうためにコミュニケーションの手段としての英語力を培うことは現代人にとって欠かせないこととなってきました。社会人となって生き生きとたおやかに活躍するために英語力を磨こうではありませんか。

---

授業の目的（獲得目標）

英語力、特に読解力と聴解力を伸ばすために取り組みやすい実話集を教材として実生活に役立つ基礎的な英語学習を目指します。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 CHAPTER 1 part 1

第3回 CHAPTER 1 part 2

第4回 CHAPTER 2 part 1

第5回 CHAPTER 2 part 2

第6回 CHAPTER 1&2 REVIEW

第7回 CHAPTER 3 part 1

第8回 CHAPTER 3 part 2

第9回 CHAPTER 4 part 1

第10回 CHAPTER 4 part 2

第11回 CHAPTER 3&4 REVIEW

第12回 CHAPTER 5 part1

第13回 CHAPTER 5 part2

第14回 CHAPTER 1~5 REVIEW

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価



試験 (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <n>

クラス n 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西山 裕子

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 品詞の違い 広告を読む
- 第 2 回 日常生活 語彙問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 代名詞
- 第 4 回 人々の描写 文法問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 動詞の形
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて 語彙関連
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 読解問題攻略法（1つの文書）
- 第 9 回 人事・管理の表現 接続詞
- 第 10 回 物資購入 読解問題攻略法（2つの文書）
- 第 11 回 財務関連表現 時制
- 第 12 回 メディア関連用語 スキミングの練習
- 第 13 回 娯楽関連表現 前置詞
- 第 14 回 健康関連表現 スキャニングの練習
- 第 15 回 総復習

## 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <○>

クラス ○ 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 小川 享子

## テーマ

TOEIC test 対策の問題演習をしながら、英語運用力（特にリーディング、文法力）を身につけよう。

## 授業の目的（獲得目標）

獲得目標： 基本的な語彙、文法項目を身に付け、TOEIC Test において、20 点アップを目指す。日常生活、娯楽、様々なビジネスシーン（就職、契約、宣伝など）をテーマとする主にリーディング教材を用い、演習問題を解き、英語力の向上を目指します。あわせて、英語運用力の基盤になる語彙と文法に関する知識が身に付くように、知識の整理しながら問題を解いていきます。予定の授業内容は以下のとおりですが、受講生の様子をみながら、内容や進度を調整していきます。

## 内 容

- 第 1 回 TOEIC Test の構成、社会的な評価などについての説明。 Pre-Test: TOEIC 形式によるミニテスト (part5, 6, 7)
- 第 2 回 Daily life: 広告を読む、品詞の違い。
- 第 3 回 Places: カード、通知を読む。
- 第 4 回 Review: 単語・表現の整理、文法事項の整理
- 第 5 回 People: 代名詞の練習。図表、メモを読む。
- 第 6 回 Travel: 手紙、メッセージを読む。
- 第 7 回 Review: 単語・表現の整理、文法事項の整理
- 第 8 回 Business: 動詞の形。通知、メモを読む。
- 第 9 回 Office: 手紙を読む。
- 第 10 回 Review: 単語・表現の整理、文法事項の整理
- 第 11 回 Technology: 語彙関連。メモ、概要を読む。
- 第 12 回 Personnel: 記事を読む。
- 第 13 回 模擬テストに挑戦。
- 第 14 回 模擬テストに挑戦。
- 第 15 回 まとめ。夏休みに向けての学習説明。

## 授業以外での学習方法

予習、語彙や文法の復習など宿題を多く出す予定。やり方は授業中に説明します。

## 教科書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (15) 授業中発表等 (0) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20%」 授業中評価には宿題提出が含まれる。参加度には、授業への出席と指名されたときの発表が含まれる。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 IB <p>

---

クラス p 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 金山 敬

---

テーマ

グローバル社会の中であって、世界の人々と共存し、理解しあうためにコミュニケーションの手段としての英語力を培うことは現代人にとって欠かせないこととなってきました。社会人となって生き生きとたおやかに活躍するために英語力を磨こうではありませんか。

---

授業の目的（獲得目標）

英語力、特に読解力と聴解力を伸ばすために取り組みやすい実話集を教材として実生活に役立つ基礎的な英語学習を目指します。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 CHAPTER 1 part 1

第3回 CHAPTER 1 part 2

第4回 CHAPTER 2 part 1

第5回 CHAPTER 2 part 2

第6回 CHAPTER 1&2 REVIEW

第7回 CHAPTER 3 part 1

第8回 CHAPTER 3 part 2

第9回 CHAPTER 4 part 1

第10回 CHAPTER 4 part 2

第11回 CHAPTER 3&4 REVIEW

第12回 CHAPTER 5 part1

第13回 CHAPTER 5 part2

第14回 CHAPTER 1~5 REVIEW

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <q>

クラス q 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 中井 翔

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 品詞の違い 広告を読む
- 第 2 回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 代名詞
- 第 4 回 人々の描写 語彙問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 動詞の形
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 短文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて 語彙関連
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 読解問題攻略法（1つの文書）
- 第 9 回 人事・管理の表現 接続詞
- 第 10 回 物資購入 読解問題攻略法（2つの文書）
- 第 11 回 財務関連表現 時制
- 第 12 回 メディア関連用語 スキミングの練習
- 第 13 回 娯楽関連表現 前置詞
- 第 14 回 健康関連表現 スキャニングの練習
- 第 15 回 総復習

## 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <r>

クラス r 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 ソーソン マーカス

## テーマ

Reading, Speaking, Video

## 授業の目的（獲得目標）

In this class we will practice all the English skills, reading, writing, speaking and listening, using a video drama as the main theme.

## 内 容

第1回 Introductions

第2回 Natural pronunciation drills.

第3回 The aliens

第4回 Roswell Crash

第5回 Drama Acting

第6回 Characters

第7回 Missing

第8回 Questions

第9回 Vocabulary

第10回 River Dog

第11回 Telling a story

第12回 Reports

第13回 Blood Brothers

第14回 Toy House

第15回 Final Papers

## 授業以外での学習方法

DVD subtitles method and Journals

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <s>

クラス s 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 クーラン コーリ

## テーマ

テーマ: Pre-intermediate English

## 授業の目的 (獲得目標)

Enable the students to use English, with a focus on speaking and writing, to apply what they have learned to simple, everyday situations.

## 内 容

第1回 Introductions

第2回 Unit 1, All about you, Sections A and B

第3回 Unit 1, All about you, Sections C and D

第4回 Unit 2, In class, Sections A and B

第5回 Unit 2, In class, Sections C and D

第6回 Unit 3, Favorite people, Sections A and B

第7回 Unit 3, Favorite people, Sections C and D

第8回 Video Lesson

第9回 Unit 4, Everyday life, Sections A and B

第10回 Unit 4, Everyday life, Sections C and D

第11回 Unit 5, Free time, Sections A and B

第12回 Unit 5, Free time, Sections A and B

第13回 Unit 6, Neighborhoods, Sections A and B

第14回 Unit 6, Neighborhoods, Sections C and D

第15回 Semester recap and video lesson

## 授業以外での学習方法

Reading/viewing printed and video media as well as accessing Internet URL on the Internet related to ESL learning. These will be provided from time to time in class.

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト (30) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <t>

クラス t 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

## テーマ

Gain confidence in oral and written communication in English

## 授業の目的（獲得目標）

This course will aim to improve students' self-expression in and understanding of real-life English. This will be a four-skills course with a focus on the productive skills of speaking and writing. Students will be expected to attend regularly, participat

## 内 容

- 第1回 Greetings; names in English
- 第2回 Exchanging personal information
- 第3回 Classmates and personal items
- 第4回 Classroom objects and classroom language
- 第5回 Talking about celebrities and describing people
- 第6回 Family and friends
- 第7回 Everyday activities and routines
- 第8回 Personal habits; your average week
- 第9回 Free time and TV shows
- 第10回 Computers and the Internet
- 第11回 Talking about your neighborhood
- 第12回 Telling time; local events
- 第13回 Talking about the weather
- 第14回 Sports and exercise
- 第15回 Final review

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (15) 小テスト (10) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (55) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 IB <u>

---

クラス u 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ビショップ マイケル A. C

---

テーマ

Expressing opinions and exchanging ideas

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to help students express their thoughts in English through writing and speaking activities.

---

内 容

第1回 Course Mechanics and Introductions

第2回 The Internet

第3回 The Internet

第4回 NEETs

第5回 NEETs

第6回 Fashion

第7回 Fashion

第8回 Environment

第9回 Environment

第10回 Junk Food

第11回 Junk Food

第12回 Depopulation

第13回 Depopulation

第14回 Examinations

第15回 Examinations

---

授業以外での学習方法

Students are expected to read extensively in Japanese and in English as a part of their university education.

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (30) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 IB <v>

---

クラス v 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 フリン ハンナ マイケル

---

テーマ

Using English for Communication

---

授業の目的（獲得目標）

Improved speaking, listening and writing skills in a communicative context

---

内 容

第1回 Orientation

第2回 Introductions

第3回 Greetings

第4回 Naming objects

第5回 Object locations

第6回 Finding things

第7回 Talking about cities and countries

第8回 Giving information about place of origin, nationality

第9回 Describing people

第10回 Clothing and colors

第11回 Clothing and seasons

第12回 Telling time

第13回 Describing current activities

第14回 Commuting

第15回 Family relationships

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (55%) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (45%) 参加度 (0) 備考 (Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations,

class reports, roleplays and recall)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語 I B <w>

---

クラス w 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 松村 優子

---

テーマ

英語独特の音声特徴に慣れる

---

授業の目的（獲得目標）

1. 歌や会話を通して英語らしいリズムや発音に慣れる。 2. 歌をきっかけにして英語に対する関心を高める。
- 

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1

第3回 Unit 2

第4回 Unit 3

第5回 Unit 4

第6回 Unit 5

第7回 Unit 6

第8回 Unit 7

第9回 Unit 8

第10回 Unit 9

第11回 Unit 10

第12回 Unit 11

第13回 Unit 12

第14回 復習

第15回 復習 授業内容については進度によって変更することがあります。

---

授業以外での学習方法

授業内で説明する。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (15) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 英語 I B <x>

クラス x 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西村 尚人

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 品詞の違い 広告を読む
- 第 2 回 日常生活 文法問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 代名詞
- 第 4 回 人々の描写 語彙問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 動詞の形
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて 語彙関連
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 読解問題攻略法（1つの文書）
- 第 9 回 人事・管理の表現 接続詞
- 第 10 回 物資購入 読解問題攻略法（2つの文書）
- 第 11 回 財務関連表現 時制
- 第 12 回 メディア関連用語 スキミングの練習
- 第 13 回 娯楽関連表現 前置詞
- 第 14 回 健康関連表現 スキャニングの練習
- 第 15 回 総復習

## 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 IB <y>

クラス y

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 櫃本 一美

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 品詞の違い 広告を読む
- 第 2 回 日常生活 語彙問題攻略法
- 第 3 回 場所の描写 代名詞
- 第 4 回 人々の描写 文法問題攻略法
- 第 5 回 旅行で使う表現 動詞の形
- 第 6 回 ビジネスで使う表現 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 オフィスにて 語彙関連
- 第 8 回 テクノロジー関連表現 読解問題攻略法（1つの文書）
- 第 9 回 人事・管理の表現 接続詞
- 第 10 回 物資購入 読解問題攻略法（2つの文書）
- 第 11 回 財務関連表現 時制
- 第 12 回 メディア関連用語 スキミングの練習
- 第 13 回 娯楽関連表現 前置詞
- 第 14 回 健康関連表現 スキャニングの練習
- 第 15 回 総復習

## 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20%」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語 I B < z >

クラス z 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 ブライアン・スガイル

## テーマ

Expressing Your Ideas in English

## 授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

## 内 容

第1回 introductions

第2回 classroom English

第3回 student interviews-A

第4回 student interviews-B

第5回 likes

第6回 dislikes

第7回 abilities

第8回 describing people-A

第9回 describing people-B

第10回 families

第11回 occupations-A

第12回 occupations-B

第13回 experiences

第14回 sports

第15回 review

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (30) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 英語 I B

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

|             |          |      |     |
|-------------|----------|------|-----|
| 科目名         | 英語Ⅱ〈R a〉 |      |     |
| クラス         | R a      | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期       | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |          |      |     |
| クラス指定       | 到達度別     |      |     |
| 担当者         | 杉山 泰     |      |     |

**テーマ**

基礎英語 (Basic English) で日本文化を伝えよう。

**授業の目的 (獲得目標)**

中学校で学んだ基礎英語で、かなり日本文化を伝えることができる。Go だけでも、Rice goes with natto and fresh eggs. で立派な説明になるし、natto も sticky traditional bean で十分だろう。大学生として fermented (発酵した) が使えればさらにいい。「白黒は日本文化には合う」とか「お刺身は日本酒に合う」も go with で簡単に言える。動詞に-er をつけたら、「~する人」になることを知れば、1000 以上のユニークな英語が作れる。  
Time is a go

**内 容**

- 第1回 自己紹介 (まずは、I am Japanese. I am a university student. から始めよう)
- 第2回 英語の基礎。S+V+O 構文で、日本を紹介してみよう。We have shrines in Kyoto.
- 第3回 第1課 一語一文。Udon, or Japanese white noodles with soup, please. から始めよう。
- 第4回 基本表現。No smoking. や No parking. が最もよく伝わる英語。 発展表現。Women only cars.
- 第5回 第2課 動詞+er (～する人、～する道具) I am a free worker. I am a mind reader. (心が読める)
- 第6回 基本表現。I am a heavy smoker. 発展表現。He is a social drinker. (酒好き)
- 第7回 第3課 動詞 ing (現在分詞と動名詞) I am feeling well. / I have a feeling that she will leave him.
- 第8回 基本表現。This train is leaving for Akita. 発展表現。They are being sent to the Middle East.
- 第9回 第4課 動詞-ed (過去分詞) I love fried rice. An A-bomb was dropped on Hiroshima.
- 第10回 基本表現。He is invited to the party. 発展表現。Would you like a scrambled egg?
- 第11回 第5課 be+形容詞 This wine is dry and drinkable.
- 第12回 基本表現。I am pleased to meet you. 発展表現。It is kind of you to massage me.
- 第13回 第6課 in, out I was already in bed. / My car was out of control.
- 第14回 基本表現。I will be in 10 minutes. 発展表現。She is out of hospital.
- 第15回 第7課 on と off と at Is the switch on? No, it's off.
- 第16回 基本表現。The store is at Oxford in London. 発展表現。The A-bomb was dropped on Hiroshima.
- 第17回 第8課 have Mozart had a keen ear for music.
- 第18回 基本表現。I don't have a driver's license. 発展表現。We had nothing to do with it.
- 第19回 第9課 come Dinner is ready. I am coming.
- 第20回 基本表現。Where do you come from? 発展表現。The train came out of the long tunnel.

- 第 21 回 第 10 課 go Ready, Get set, go!
- 第 22 回 基本表現。It is fun to go to Hokkaido. 発展表現。Let me go! This is not the place.
- 第 23 回 第 11 課 Take I take a walk every morning.
- 第 24 回 基本表現。Please take a taxi. 発展表現。It takes about one hour to the airport.
- 第 25 回 第 12 課 put Don't put off till tomorrow what you can do today.
- 第 26 回 基本表現。I put my PC on the desk. 発展表現。The mother puts her son to bed at nine.
- 第 27 回 第 13 課 give My boyfriend gave me a big smile.
- 第 28 回 基本表現。I gave up drinking to lose weight. 発展表現。Don't give your PIN number.
- 第 29 回 第 14 課 get 第 15 課 make Please make yourself comfortable.
- 第 30 回 基礎英語での発信型英語の総まとめ。各自、これまでに書いた英語を整理する。
- 

### 授業以外での学習方法

NHK のテレビ英会話、ラジオ英会話を利用して、日本文化の紹介の発信型英語を学ぼう。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (30) 小テスト ( ) 授業中課題 (20) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 (英語テスト 20%。※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。毎回宿題を出すので、欠席した学生は必ずその宿題を提出すること。)

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <a>

クラス a

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

リスニング演習や TOEIC Test 対策の問題を解きながら、英語運用力（特にリスニング力）を身につける

授業の目的（獲得目標）

主に TOEIC test 形式に沿った問題を解きながら、TOEIC test での得点アップを目指すとともに、リスニング力の向上を目指します。予定は以下のとおりですが、受講生の反応をみながら、進度や内容を調整していく予定です。

内 容

第1回 授業方法・評価などの説明

第2回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第3回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第4回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題、復習

第5回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第6回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第7回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題、復習

第8回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第9回 まとめテスト

第10回 まとめテスト

第11回 演習、まとめ

第12回 模擬テストに挑戦

第13回 模擬テストに挑戦

第14回 映画に学ぶリスニング

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

宿題を毎回のようにだします。やり方の説明は授業中に行います。

---

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (35) 授業中発表等 (0) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 授業中課題には、宿題が含まれる。参加度には授業への出席と指名されたときの発表も含まれる。)



科目名 英語ⅡA <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 中井 翔

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

科目名 英語ⅡA <c>

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 西村 尚人

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

科目名 英語ⅡA <d>

クラス d

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 櫃本 一美

テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <e>

クラス e 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 田中 美和子

## テーマ

実際に日常的に使われている表現を、自分でも使えるようになる。

## 授業の目的（獲得目標）

英語を正確に読み、発音できるようになる、

## 内 容

- 第1回 Introduction: Watching a movie
- 第2回 Unit 7 :These are Such Horrible Pictures
- 第3回 疑問詞+to 不定詞
- 第4回 Unit 8 :Breakfast in Bed, or Lunch , or Brunch
- 第5回 比較の表現
- 第6回 Unit 9 :Our Perspectives are Different/ Afternoon Tea Break
- 第7回 形容詞化した過去分詞
- 第8回 Unit 10 :Wait There are Things to Say
- 第9回 前置詞の用法
- 第10回 Unit 11 :Don't Forget--I'm Also Just a Girl
- 第11回 付加疑問文の用法
- 第12回 Unit 12 :Where's the Press Conference?/
- 第13回 前置詞の用法
- 第14回 Follow-up Grammar Practice
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

英語映画を必ず1つ見てみましょう。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30）小テスト（10）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（20）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 全体の3分の2以上、出席して下さい。辞書を持参して下さい

い。)

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA < f >

クラス f 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 ブット ルイズ

テーマ

English Oral Communication

### 授業の目的（獲得目標）

The purpose of this course is to continue developing basic English communication skills. Focusing on interesting topics, this course will indirectly cover basic grammar, functions and vocabulary. It will also help you grow in speaking English confidently.

### 内 容

- 第1回 Talking about other countries
- 第2回 Talking about other countries
- 第3回 Talking about experiences
- 第4回 Talking about experiences
- 第5回 Talking about places
- 第6回 Talking about places
- 第7回 Travel English Part 1: Traveling to Hawaii
- 第8回 Travel English Part 1: Traveling to Hawaii
- 第9回 Talking about Japanese things
- 第10回 Talking about Japanese things
- 第11回 Talking about future events
- 第12回 Talking about future events
- 第13回 Talking about school
- 第14回 Talking about school
- 第15回 Final Review

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（40%）小テスト（40%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（「英語テスト20% ※クラスに

より TOEIC-IP または CASEC を受験します。』)

科目名 英語ⅡA <g>

クラス g 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 原 俊樹

#### テーマ

ワン・ステップ上の英語運用能力を目指す。

#### 授業の目的（獲得目標）

獲得目標：基本的な英文の解釈・表現の演習を通して、日英双方の表現方法の違いを考えた上で、「感性」でなく「論理的に考え」て、実用的に使える英語・productiveな英語力を確実に会得し、英語運用能力としての4技能を充実・発展させる。グローバル化時代の英語（Englishes）を体験・体感し、的確に英語で様々なことを受信や発信をする能力を身に付ける。 授業計画：基本的には、英語Ⅰの発展的応用をテキストに沿って行なう。英語Ⅰ同様に今までの知識の確認・充実に関する小テストを毎回課す予定。只単に、「単位さえ貰え

#### 内 容

- 第1回 受講生への留意事項・前期の文法事項の確認
- 第2回 フォニクス（単語と発音）・Top Down Readingの説明
- 第3回 動名詞と用法
- 第4回 名詞と冠詞
- 第5回 代名詞
- 第6回 形容詞・副詞
- 第7回 前置詞
- 第8回 接続詞・重文・複文
- 第9回 疑問詞・疑問語句
- 第10回 関係詞；関係代名詞と関係副詞
- 第11回 比較；構文と形式
- 第12回 否定表現
- 第13回 省略・同格
- 第14回 後期の文法総整理
- 第15回 第15週又は最終講義日；後期のまとめ

#### 授業以外での学習方法

テキストや基本的な課題に対する予習・復習をこなすだけでなく、様々な機会を通して、英語に接する時間を多く持つこと。第2言語として英語を駆使する気構えを持って、授業に臨めるような学習方法を確立してください。ALC NetAcademy も利用すること

#### 教科書



**成績評価**

試験（40%）小テスト（15%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（5%（座っているだけでは駄目））  
備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <h>

クラス h 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 久保田 美佳

## テーマ

文法の復習と4技能（読む・書く・聞く・話す）の向上

## 授業の目的（獲得目標）

基礎文法の各種演習を通して総合的な英語力を強化する。英語ⅠⅠでは特にリスニング力と発音の向上を目指す。ある大学生二人とその家族の日常生活のストーリーを楽しみながら、文法解説、語彙、応用、確認問題、ペア練習、作文、リスニング練習を随時進めて行き、その過程を通して今後の更なる英語学習のための基礎固めを行う。以下は進度の目安で、状況に応じて増減する場合があります。

## 内 容

- 第1回 (7) Are you enjoying the Autumn Festival?
- 第2回 (7) Are you enjoying the Autumn Festival?
- 第3回 (8) How was the job interview?
- 第4回 (8) How was the job interview?
- 第5回 (9) What does he look like?
- 第6回 (9) What does he look like?
- 第7回 (10) Can you come to our Christmas Concert?
- 第8回 (10) Can you come to our Christmas Concert?
- 第9回 (11) Santa Claus is coming.
- 第10回 (11) Santa Claus is coming.
- 第11回 (12) Let's take a trip.
- 第12回 (12) Let's take a trip.
- 第13回 復習 (1)
- 第14回 復習 (2)
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

テキスト内の会話部分などの対訳ノートを作成、語彙の暗記、発表の用意。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 \* この科目では毎授業必ず出席を取ります。 \* 期末試験のほかに随時小テストを行い、中間テストは 11 月上旬を目安に行う予定です。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡA <i>

---

クラス i

配当回生 1回生

---

講義期間 後期

定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 溝部 芳子

---

テーマ

英語コミュニケーション能力の向上。

---

授業の目的（獲得目標）

身近な話題中心のリスニング教材とスクリプト等を使って、特に聞く力と読む力の向上を目的とする。

---

内 容

第1回 Introduction

第2回 Unit7: It's my favorite food!

第3回 Unit7: It's my favorite food!

第4回 Unit8: She has blue eyes.

第5回 Unit8: She has blue eyes.

第6回 Unit9: Black T-shirts are trendy.

第7回 Unit9: Black T-shirts are trendy.

第8回 Review 3

第9回 Unit10: It's a great job.

第10回 Unit10: It's a great job.

第11回 Unit11: It'll be hot and humid.

第12回 Unit11: It'll be hot and humid.

第13回 Unit12: Tell me about your friend.

第14回 Unit12: Tell me about your friend.

第15回 Review 4

---

授業以外での学習方法

Online のリスニング課題、リーディング課題など授業内で指示します。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（30%）小テスト（10%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。出席は毎回とります。積極的な授業参加が求められます。）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <j>

クラス j 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 植月 千砂

## テーマ

実話を楽しみながら、語彙力をつける

## 授業の目的（獲得目標）

読解を通じて習得した語彙を、練習問題を通じて深め、実際に使えるようにする。またストーリーを聞き取って、自分で再現できるようにする。（授業開始後、クラスの実情に応じて、以下の予定を調整することがある。）

## 内 容

第1回 10. Reaching to the Sky

第2回 10. Reaching to the Sky 11. His Car is His Kitchen

第3回 11. His Car is His Kitchen Review

第4回 12. Kind Woman Is a Winner

第5回 12. Kind Woman Is a Winner Review (7~12)

第6回 Review (7~12) 13. Students Study with Animals

第7回 13. Students Study with Animals 14. A Wild Ride

第8回 14. A Wild Ride Review

第9回 15. 53 1/2 Hot Dogs

第10回 15. 53 1/2 Hot Dog 16. Man Leaves Wife in the Atlantic

第11回 16. Man Leaves Wife in the Atlantic Review

第12回 17. Leopard Man

第13回 17. Leopard Man 18. Making International Star

第14回 18. Making An International Star Review

第15回 Review (13-18)

## 授業以外での学習方法

1. 語彙の復習 2. 指定された練習問題

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（30%）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（「英語

テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。)

科目名 英語ⅡA <k>

クラス k 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 西山 裕子

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡA <Ⅰ>

---

クラス I 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 野口 博代

---

テーマ

英文読解力の基礎固め

---

**授業の目的（獲得目標）**

現在、様々な分野で活躍する人々について書かれた平易な英文を読む作業を通して、語彙力の強化と基本的な構文や文法事項の定着を目指します。

---

**内 容**

第1回 Introductions Arnold Schwarzenegger

第2回 Arnold Schwarzenegger

第3回 Bill Gates

第4回 Bob Dylan

第5回 Calvin Klein

第6回 Sergey Brin & Larry Page

第7回 Review

第8回 Hillary Rodham Clinton

第9回 Jesse Jackson

第10回 Madonna

第11回 Martha Stewart

第12回 Ralph Lauren

第13回 Review

第14回 Stephen King

第15回 Steven Spielberg

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡA <m>

---

クラス m 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 クレイグ ギブス

---

テーマ

Four Skills Development in English for Academic Purposes

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to improve students' speaking, listening, reading, and writing skills for academic purposes. Syllabus Planning General requirement course intended to consolidate and to extent students' English usage through in-class and homework

---

内 容

第1回 Course Introduction

第2回 Travel

第3回 Telephone

第4回 Banking

第5回 Health

第6回 Cooking

第7回 Weather

第8回 Computers

第9回 Traffic

第10回 Advertisements

第11回 Negotiations

第12回 Organizations

第13回 Office Work

第14回 Politics

第15回 Environment

---

授業以外での学習方法

Details given in class

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (40%) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

科目名 英語ⅡA <n>

クラス n 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 西山 裕子

テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <○>

クラス ○ 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 小川 享子

## テーマ

TOEIC test 対策を通じて、英語運用力（特にリスニング力）を向上させよう。

## 授業の目的（獲得目標）

主に TOEIC test 形式に沿った問題を解きながら、TOEIC test での得点アップを目指すとともに、リスニング力の向上を目指します。予定は以下のとおりですが、受講生の反応をみながら、進度や内容を調整していく予定です。

## 内 容

第1回 後期授業のやり方、成績評価に関する説明 Pre-test for the TOEIC Test

第2回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第3回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第4回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題、まとめ

第5回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第6回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第7回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題、まとめ

第8回 Part1(picture description), Part2(question and response), Part3(conversation), and part4 (talk)の練習問題

第9回 まとめテスト

第10回 まとめテスト

第11回 演習、まとめ

第12回 模擬テストに挑戦

第13回 模擬テストに挑戦

第14回 映画に学ぶリスニング

第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

宿題をかなり多く出す予定です。やり方は授業中に説明。

---

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (35) 授業中発表等 (0) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 授業中課題には宿題の提出が含まれる。参加度には授業への出席、指名されたときの発表が含まれる。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡA <p>

---

クラス p 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 クレイグ ギブス

---

テーマ

Four Skills Development in English for Academic Purposes

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to improve students' speaking, listening, reading, and writing skills for academic purposes. Syllabus Planning General requirement course intended to consolidate and to extent students' English usage through in-class and homework

---

内 容

第1回 Course Introduction

第2回 Travel

第3回 Telephone

第4回 Banking

第5回 Health

第6回 Cooking

第7回 Weather

第8回 Computers

第9回 Traffic

第10回 Advertisements

第11回 Negotiations

第12回 Organizations

第13回 Office Work

第14回 Politics

第15回 Environment

---

授業以外での学習方法

Details given in class

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（40%）備考（「英語テスト 20% ※  
クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <q>

クラス q

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 中井 翔

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

## 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡA <r>

---

クラス r 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 野口 博代

---

テーマ

英文読解力の基礎固め

---

**授業の目的（獲得目標）**

現在、アメリカの様々な分野で活躍する人々について書かれた平易な英文を読む作業を通して、語彙力の強化と、基本的な構文や文法事項の定着を目指します。

---

**内 容**

第1回 Introductions Arnold Schwarzenegger

第2回 Arnold Schwarzenegger

第3回 Bill Gates

第4回 Bob Dylan

第5回 Calvin Klein

第6回 Sergey Brin & Larry Page

第7回 Review

第8回 Hillary Rodham Clinton

第9回 Jesse Jackson

第10回 Madonna

第11回 Martha Stewart

第12回 Ralph Lauren

第13回 Review

第14回 Stephen King

第15回 Steven Spielberg

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <s>

クラス s

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 久保田 美佳

## テーマ

文法の復習と4技能（読む・書く・聞く・話す）の向上

## 授業の目的（獲得目標）

基礎文法の各種演習を通して総合的な英語力を強化する。英語ⅠⅠでは特にリスニング力と発音の向上を目指す。ある大学生二人とその家族の日常生活のストーリーを楽しみながら、文法解説、語彙、応用、確認問題、ペア練習、作文、リスニング練習を随時進めて行き、その過程を通して今後の更なる英語学習のための基礎固めを行う。以下は進度の目安で、状況に応じて増減する場合があります。

## 内 容

- 第1回 (7) Are you enjoying the Autumn Festival?
- 第2回 (7) Are you enjoying the Autumn Festival?
- 第3回 (8) How was the job interview?
- 第4回 (8) How was the job interview?
- 第5回 (9) What does he look like?
- 第6回 (9) What does he look like?
- 第7回 (10) Can you come to our Christmas Concert?
- 第8回 (10) Can you come to our Christmas Concert?
- 第9回 (11) Santa Claus is coming.
- 第10回 (11) Santa Claus is coming.
- 第11回 (12) Let's take a trip.
- 第12回 (12) Let's take a trip.
- 第13回 復習 (1)
- 第14回 復習 (2)
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

テキスト内の会話部分などの対訳ノートを作成、語彙の暗記、発表の用意。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 \* この科目では毎授業必ず出席を取ります。 \* 期末試験のほかに随時小テストを行い、中間テストは 11 月上旬を目安に行う予定です。）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <t>

クラス t 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 植月 千砂

## テーマ

実話を楽しみながら、語彙力をつける。

## 授業の目的（獲得目標）

読解を通じて習得した語彙を、練習問題を通じてさらに理解を深め、実際に使えるようにする。またストーリーを聞き取って、自分で再現できるようにする。（授業開始後、以下の予定を調整することがある。）

## 内 容

- 第1回 10. Reaching to the sky
- 第2回 10. Reaching to the sky 11. His Car His Kitchen
- 第3回 11. His Car His Kitchen Review
- 第4回 12. Kind Woman Is a Winner
- 第5回 12. Kind Woman Is a Winner Review (7~12)
- 第6回 Review (7~12) 13. Students Study with Animals
- 第7回 13. Students Study with Anima
- 第8回 14. A Wild Ride
- 第9回 14. A Wild Ride Review
- 第10回 15. 53 1/2 Hot Dogs
- 第11回 15. 53 1/2 Hot Dogs 16. Man Leaves Wife in the Atlantic
- 第12回 16. Man Leaves Wife in the Atlantic Review
- 第13回 17. Leopard Man
- 第14回 17. Leopard Man 18. Making An International Star
- 第15回 Review (13~18)

## 授業以外での学習方法

1. 語彙の復習 2. 指定された練習問題

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（30%）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（「英語

テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。)

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <u>

クラス u 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 田中 美和子

## テーマ

実際に日常的に使われている表現を、自分でも使えるようになる。

## 授業の目的（獲得目標）

英語を正確に読み、発音できるようになる。

## 内 容

- 第1回 Introduction: Watching a movie
- 第2回 Unit 7 :These are Such Horrible Pictures
- 第3回 疑問詞+to 不定詞
- 第4回 Unit 8 :Breakfast in Bed, or Lunch , or Bruch
- 第5回 比較の表現
- 第6回 Unit 9 :Our Perspectives are Different/ Afternoon Tea Break
- 第7回 形容詞化した過去分詞
- 第8回 Unit 10 :Wait There are Things to Say
- 第9回 前置詞の用法
- 第10回 Unit 11 :Don't Forget--I'm Also Just a Girl
- 第11回 付加疑問文
- 第12回 Unit 12 :Where's ther Press Conference?/ Follow-up Grammar Practice
- 第13回 前置詞の用法
- 第14回 Follow-up Grammar Practice
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

文法問題を繰り返し自宅学習をして覚える。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30）小テスト（10）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（20）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 全体の3分の2以上の出席を望みます。辞書を必ず持参して

下さい。)

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <v>

クラス v

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 溝部 芳子

テーマ

英語コミュニケーション能力の向上

授業の目的（獲得目標）

身近な話題中心のリスニング教材とスクリプト等を使って、特に聞く力と読む力の向上を目的とする。

内 容

第1回 Introduction

第2回 Unit7: It's my favorite food!

第3回 Unit7: It's my favorite food!

第4回 Unit8: She has blue eyes.

第5回 Unit8: She has blue eyes.

第6回 Unit9: Black T-shirts are trendy.

第7回 Unit9: Black T-shirts are trendy.

第8回 Review 3

第9回 Unit10: It's a great job.

第10回 Unit10: It's a great job.

第11回 Unit11: It'll be hot and humid.

第12回 Unit11: It'll be hot and humid.

第13回 Unit12: Tell me about your friend.

第14回 Unit12: Tell me about your friend.

第15回 Review 4

授業以外での学習方法

Online のリスニング課題、リーディング課題など授業内で指示します。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（10%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。出席は毎回とります。積極的な授業参加が求められます。）



## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <w>

クラス w

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 ブット ルイズ

テーマ

English Oral Communication

### 授業の目的（獲得目標）

The purpose of this course is to continue developing basic English communication skills. Focusing on interesting topics, this course will indirectly cover basic grammar, functions and vocabulary. It will also help you grow in speaking English confidently.

### 内 容

- 第1回 Talking about other countries
- 第2回 Talking about other countries
- 第3回 Talking about experiences
- 第4回 Talking about experiences
- 第5回 Talking about places
- 第6回 Talking about places
- 第7回 Travel English Part 1: Traveling to Hawaii
- 第8回 Travel English Part 1: Traveling to Hawaii
- 第9回 Talking about Japanese things
- 第10回 Talking about Japanese things
- 第11回 Talking about future events
- 第12回 Talking about future events
- 第13回 Talking about school
- 第14回 Talking about school
- 第15回 Final Review

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（40%）小テスト（40%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（「英語テスト20% ※クラスに

より TOEIC-IP または CASEC を受験します。』)

科目名 英語ⅡA <x>

クラス x

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

科目名 英語ⅡA <y>

クラス y

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 櫃本 一美

テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡA <z>

クラス z

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 原 俊樹

## テーマ

ワン・ステップ上の英語運用能力を目指す。

## 授業の目的（獲得目標）

獲得目標：基本的な英文の解釈・表現の演習を通して、日英双方の表現方法の違いを考えた上で、「感性」でなく「論理的に考え」て、実用的に使える英語・productiveな英語力を確実に会得し、英語運用能力としての4技能を充実・発展させる。グローバル化時代の英語（Englishes）を体験・体感し、的確に英語で様々なことを受信や発信をする能力を身に付ける。授業計画：基本的には、英語Ⅰの発展的応用をテキストに沿って行なう。英語Ⅰ同様に今までの知識の確認・充実に関する小テストを毎回課す予定。只単に、「単位さえ貰え

## 内 容

- 第1回 受講生への留意事項・前期の文法事項の確認
- 第2回 フォニクス（単語と発音）・Top Down Readingの説明
- 第3回 動名詞と用法
- 第4回 名詞と冠詞
- 第5回 代名詞
- 第6回 形容詞・副詞
- 第7回 前置詞
- 第8回 接続詞・重文・複文
- 第9回 疑問詞・疑問語句
- 第10回 関係詞；関係代名詞と関係副詞
- 第11回 比較；構文と形式
- 第12回 否定表現
- 第13回 省略・同格
- 第14回 後期の文法総整理
- 第15回 第15週又は最終講義日；後期のまとめ

## 授業以外での学習方法

テキストや基本的な課題に対する予習・復習をこなすだけでなく、様々な機会を通して、英語に接する時間を多く持つこと。第2言語として英語を駆使する気構えを持って、授業に臨めるような学習方法を確立してください。ALC NetAcademy も利用すること

## 教科書

**成績評価**

試験（40%）小テスト（15%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（5%（座っているだけでは駄目））  
備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

科目名 英語ⅡA

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ <a>              |      |     |
| クラス   | a                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 小川 享子                |      |     |

## テーマ

看護のための英語を学んだり、TOEICテスト対策の問題演習を行い、英語の運用力を伸ばそう。

## 授業の目的（獲得目標）

このクラスの目的のひとつは、看護のための語彙、表現を学び身につけることにあり、またもうひとつは、TOEICテスト対策を通じて、英語の運用力を伸ばすことにあります。看護の典型的な状況に必要な英語を学び、リスニング力、リーディング力を伸ばしていきます。また日常生活、娯楽、職場での会話や、それらに関する広告や通告などの文章を読み、英語の運用力（リスニング、リーディング）を伸ばします。

## 内 容

- 第1回 授業方法、成績評価の説明。学生の自己紹介。
- 第2回 医療の英語：Hospital admission
- 第3回 医療の英語：The nurse's role
- 第4回 医療の英語：Life in the hospital
- 第5回 医療の英語：Taking vital signs
- 第6回 医療の英語：Taking vital signs
- 第7回 医療の英語：Providing meal assistance まとめ
- 第8回 TOEIC test 対策：旅行
- 第9回 TOEIC test 対策：旅行、オフィス
- 第10回 TOEIC test 対策：オフィス、レストラン
- 第11回 TOEIC test 対策：レストラン、新聞・雑誌
- 第12回 TOEIC test 対策：広告 いろいろなアクセントの英語に慣れよう。
- 第13回 TOEIC test 対策：就職活動
- 第14回 TOEIC test 対策：休暇
- 第15回 TOEIC test 対策：これまでの学習事項の復習など
- 第16回 TOEIC test 対策：オフィス
- 第17回 TOEIC test 対策：オフィス、ショッピング
- 第18回 TOEIC test 対策：ショッピング、国際会議
- 第19回 TOEIC test 対策：国際会議 いろいろなアクセントの英語に慣れよう
- 第20回 TOEIC test 対策：娯楽
- 第21回 TOEIC test 対策：娯楽、マーケティング
- 第22回 TOEIC test 対策：マーケティング、オフィス
- 第23回 TOEIC test 対策：オフィス、金融
- 第24回 TOEIC test 対策：金融、不動産



- 第 25 回 TOEIC test 対策：不動産
  - 第 26 回 TOEIC test 対策：Review, 模擬テストに挑戦
  - 第 27 回 TOEIC test 対策：Review, 模擬テストに挑戦
  - 第 28 回 TOEIC test 対策：Review, 模擬テストに挑戦
  - 第 29 回 TOEIC test 対策：Review, 模擬テストに挑戦
  - 第 30 回 前期学習事項のまとめ
- 

### **授業以外での学習方法**

リスニングの問題、語彙や語法の復習などを宿題に出す予定。やり方は授業中に説明します。

---

### **教科書**

### **参考書**

---

### **成績評価**

試験（0）小テスト（50）授業中課題（15）授業中発表等（0）参加度（15）備考（「英語テスト 20%」  
授業中課題には宿題の提出、参加度には授業への参加と指名されたときの発表が含まれる。）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ <b>              |      |     |
| クラス   | b                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 西山 裕子                |      |     |

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 Part V 短文穴埋め問題攻略法
- 第3回 Part I 写真描写問題攻略法
- 第4回 文型・名詞の修飾
- 第5回 Part II 応答問題攻略法
- 第6回 Part VI 長文穴埋め問題攻略法
- 第7回 Part III 会話問題攻略法
- 第8回 接続詞・知覚動詞・使役動詞
- 第9回 Part IV 説明文問題攻略法
- 第10回 Part VII 1つの文書 読解問題攻略法
- 第11回 シャドーイングの練習
- 第12回 助動詞・時制
- 第13回 サマライゼーションの練習
- 第14回 Part VII 2つの文書 読解問題攻略法
- 第15回 ディクテーションの練習
- 第16回 前置詞・不定詞
- 第17回 会話の広げ方の練習
- 第18回 スキミングの練習
- 第19回 リンキングの理解
- 第20回 仮定法・受動態
- 第21回 破裂音の聞き取り方
- 第22回 スキャニングの練習
- 第23回 演習問題
- 第24回 動名詞・分詞構文
- 第25回 演習問題
- 第26回 演習問題
- 第27回 演習問題

第 28 回 演習問題

第 29 回 演習問題

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20%」）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ <c>              |      |     |
| クラス   | c                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 西村 尚人                |      |     |

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 品詞の違い 広告を読む
- 第3回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第4回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第5回 場所の描写 広告を読む
- 第6回 場所の描写 代名詞
- 第7回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第8回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第9回 旅行で使う表現 メッセージを読む
- 第10回 旅行で使う表現 動詞の形
- 第11回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第12回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第13回 オフィスにて 手紙を読む
- 第14回 オフィスにて 語彙関連
- 第15回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第16回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第17回 人事・管理の表現 記事を読む
- 第18回 人事・管理の表現 接続詞
- 第19回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第20回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第21回 財務関連表現 レシピを読む
- 第22回 財務関連表現 時制
- 第23回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第24回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第25回 娯楽関連表現 Eメールを読む
- 第26回 娯楽関連表現 前置詞
- 第27回 健康関連表現 読解問題攻略法

第 28 回 健康関連表現 読解問題攻略法

第 29 回 総復習

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等、宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20%」）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ <d>              |      |     |
| クラス   | d                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 中井 翔                 |      |     |

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 Part V 短文穴埋め問題攻略法
- 第 3 回 Part I 写真描写問題攻略法
- 第 4 回 文型・時制
- 第 5 回 Part II 応答問題攻略法
- 第 6 回 Part VI 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 Part III 会話問題攻略法
- 第 8 回 名詞・代名詞・形容詞・副詞
- 第 9 回 Part IV 説明文問題攻略法
- 第 10 回 Part VII 1つの文書 読解問題攻略法
- 第 11 回 シャドーイングの練習
- 第 12 回 不定詞・動名詞
- 第 13 回 サマライゼーションの練習
- 第 14 回 Part VII 2つの文書 読解問題攻略法
- 第 15 回 ディクテーションの練習
- 第 16 回 助動詞・使役・知覚
- 第 17 回 会話の広げ方の練習
- 第 18 回 スキミングの練習
- 第 19 回 リンキングの理解
- 第 20 回 仮定法・比較
- 第 21 回 破裂音の聞き取り方
- 第 22 回 スキャニングの練習
- 第 23 回 演習問題
- 第 24 回 接続詞・関係詞・分詞
- 第 25 回 演習問題
- 第 26 回 演習問題
- 第 27 回 演習問題

第 28 回 演習問題

第 29 回 演習問題

第 30 回 演習問題

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20%」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス e 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 クーラン コーリ

---

**テーマ**

Pre-intermediate English

---

**授業の目的（獲得目標）**

Enable the students to use English, with a focus on speaking and writing, to apply what they have learned to simple, everyday situations.

---

**内 容**

- 第1回 Introductions
  - 第2回 Unit 1, All about you, Sections A and B
  - 第3回 Unit 1, All about you, Sections C and D
  - 第4回 Unit 2, In class, Sections A and B
  - 第5回 Unit 2, In class, Sections C and D
  - 第6回 Unit 3, Favorite people, Sections A and B
  - 第7回 Unit 3, Favorite people, Sections C and D
  - 第8回 Video Lesson
  - 第9回 Unit 4, Everyday life, Sections A and B
  - 第10回 Unit 4, Everyday life, Sections C and D
  - 第11回 Unit 5, Free time, Sections A and B
  - 第12回 Unit 5, Free time, Sections A and B
  - 第13回 Unit 6, Neighborhoods, Sections A and B
  - 第14回 Unit 6, Neighborhoods, Sections C and D
  - 第15回 Semester recap and video lesson
- 

**授業以外での学習方法**

Reading/viewing printed and video media as well as accessing Internet URL on the Internet related to ESL learning. These will be provided from time to time in class.

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**



試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ                  |      |     |
| クラス   | e                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 久保田 美佳               |      |     |

## テーマ

会話力の基礎を固める

## 授業の目的（獲得目標）

会話のための基本構文を習得する。会話の対訳を使ってスムーズに英語の文が言えるようになる練習をすると同時に、英文の聞き取りや模倣を通してリスニング力強化と発音矯正を行う。以下は進度の目安で、状況に応じて増減する場合があります。

## 内 容

- 第1回 授業説明 (1) Yes/No Questionとその応答 (Yes/No Question Q & A)
- 第2回 (2) What…? とその応答 (‘What…?’ Q & A)
- 第3回 (3) 「場所」をたずねる ‘Where’ とその応答 (‘Where’ to ask questions about the place Q & A)
- 第4回 (4) 「時」をたずねる ‘When’ とその応答 (‘When’ to ask questions about the time Q & A)
- 第5回 (5) 「理由」をたずねる ‘Why’ とその応答 (‘Why’ to ask questions about the reason Q & A)
- 第6回 (6) 他の疑問詞 (How, Which, Who, Whose, Whom) (The other interrogatives: How, Which, Who, Whose, Whom Q & A) (7) まとめ：疑問文をつくる練習 (Review: Forming Questions on the Text)
- 第7回 復習 I (8) 許可・提案・誘い (Permissions, Suggestions, and Invitations)
- 第8回 (9) 出会いと様々な挨拶 (Meeting People, and saying Hello and Good-bye)
- 第9回 (10) 自己紹介 (Introducing Yourself)
- 第10回 (11) 日常生活や趣味 (Your Daily Life and Hobbies)
- 第11回 (12) 自分の性格や特徴 (Your Personality and Physical Features)
- 第12回 (13) 家族および家庭生活 (Your Family Life)
- 第13回 (14) 教室内で意味や発音などについて質問する (Asking Meaning, Pronunciation and etc., in Class)
- 第14回 (15) 学校や授業や活動 (Your Classes and Extracurricular Activities)
- 第15回 復習 I I

## 授業以外での学習方法

会話部分の音読練習、語句の暗記、小テスト等のための自主学習が必要です。

## 教科書

### 成績評価

試験（40%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（\* この科目では毎授業必ず出席を取ります。\* 期末試験のほかに随時小テストを行い、中間テストは6月上旬を目安に行う予定です。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス f 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 クレイグ ギブス

---

**テーマ**

Four Skills Development in English for Academic Purposes

---

**授業の目的（獲得目標）**

The goal of this course is to improve students' speaking, listening, reading, and writing skills for academic purposes. Syllabus Planning General requirement course intended to consolidate and to extent students' English usage through in-class and homework.

---

**内容**

- 第1回 Course Introduction
  - 第2回 TOEIC Skills & Strategies [1]
  - 第3回 TOEIC Skills & Strategies [2]
  - 第4回 TOEIC Skills & Strategies [3]
  - 第5回 TOEIC Skills & Strategies [4]
  - 第6回 TOEIC Skills & Strategies [5]
  - 第7回 TOEIC Skills & Strategies [6]
  - 第8回 Review Exercise [1]
  - 第9回 TOEIC Skills & Strategies [7]
  - 第10回 TOEIC Skills & Strategies [8]
  - 第11回 TOEIC Skills & Strategies [9]
  - 第12回 TOEIC Skills & Strategies [10]
  - 第13回 TOEIC Skills & Strategies [11]
  - 第14回 TOEIC Skills & Strategies [12]
  - 第15回 Review Exercise [2]
- 

**授業以外での学習方法**

Details given in class

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 (25%) 参加度 (50%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス f

配当回生 2回生

---

講義期間

定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 金山 敬

---

### テーマ

グローバル社会の中にあって、世界の人々と共存し、理解しあうためにコミュニケーションの手段としての英語力を培うことは現代人にとって欠かせないこととなってきました。社会人となって生き生きとたおやかに活躍するために英語力を磨こうではありませんか。

---

### 授業の目的（獲得目標）

英語力、特に読解力と聴解力を伸ばすために写真と最新のニューヨーク事情を伝えたエッセイを教材として実生活に役立つ基礎的な英語学習を目指します。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 LESSON 1

第3回 LESSON 2

第4回 LESSON 3

第5回 LESSON 1～3 REVIEW

第6回 LESSON 4

第7回 LESSON 5

第8回 LESSON 6

第9回 LESSON 4～6 REVIEW

第10回 LESSON 7

第11回 LESSON 8

第12回 LESSON 9

第13回 LESSON 10

第14回 LESSON 7～10 REVIEW

第15回 まとめ

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス g 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 溝部 芳子

---

### テーマ

医療現場、特に看護現場で必要な英語を学ぶ

---

### 授業の目的（獲得目標）

看護現場における基礎的な英語コミュニケーション能力の習得をめざす。特に話す力、聞く力の向上を目的とする。ただし、進度はクラスの状況を見て調整する。

---

### 内 容

第1回 Introduction, Unit1: Hospital Admission

第2回 Unit1: Hospital Admission

第3回 Unit2: The Nurse's Role

第4回 Unit3: Life in the Hospital

第5回 Unit4: Taking Vital Signs 1

第6回 Unit5: Taking Vital Signs 2

第7回 Unit6: Providing Meal Assistance

第8回 Review 1

第9回 Unit7: Rehabilitation 1

第10回 Unit8: Rehabilitation 2

第11回 Unit9: Shampooing in Bed

第12回 Unit10: Foot-bath

第13回 Unit11: Taking a Blood Sample

第14回 Unit12: Outpatient Clinic

第15回 Review 2

---

### 授業以外での学習方法

授業内で指示します。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（40%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（出席は毎回とります）。



積極的な授業参加が求められます。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス g

配当回生 2回生

---

講義期間

定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 フリン ハンナ マイケル

---

### テーマ

Using English for Communication

---

### 授業の目的（獲得目標）

Improved speaking, listening and writing skills in a communicative context

---

### 内容

第1回 Orientation

第2回 Introductions

第3回 Exchanging personal information

第4回 How do you spend your day?

第5回 Work and school

第6回 Daily schedules

第7回 How much is it?

第8回 Shopping

第9回 Making Comparisons

第10回 Entertainment

第11回 Likes and dislikes

第12回 Invitations

第13回 Talking about family

第14回 Exchanging information about the present

第15回 Exercise and Sports

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (55%) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (45%) 備考 (Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations,

class reports, roleplays and recall)

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ                  |      |     |
| クラス   | h                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 田中 美和子               |      |     |

**テーマ**

基本的な文法事項の習得

**授業の目的（獲得目標）**

実際に使える文法を習得していく

**内 容**

- 第1回 Introduction of the classes 挨拶・自己紹介
- 第2回 Unit 1 名詞（数えられる名詞・数えられない名詞）
- 第3回 Unit 1 冠詞
- 第4回 Unit 2 一般動詞（命令文）
- 第5回 Unit 2 一般動詞（現在形）
- 第6回 Unit 3 be 動詞＋形容詞
- 第7回 Unit 3 前置詞
- 第8回 Unit 4 疑問文 1
- 第9回 Unit 4 疑問文 2
- 第10回 Unit 5 過去形 1
- 第11回 Unit 5 過去形 2
- 第12回 Unit 6 現在進行形
- 第13回 Unit 6 未来の表現
- 第14回 Grammar Follow up
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

ダイアローグを覚えるまで音読してみましょう。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（40）小テスト（10）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（30）備考（3分の2以上の出席を求めます。辞書を授業中に使いますので、持参してください。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス h 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ビショップ マイケル A. C

---

### テーマ

Developing students' world knowledge of history, geography, and culture.

---

### 授業の目的（獲得目標）

In this course, students will watch DVDs and then use English to write and speak about our World Heritage.

---

### 内 容

第1回 Course Mechanics and Introductions

第2回 Grand Canyon National Park

第3回 Grand Canyon National Park

第4回 The Great Wall of China

第5回 The Great Wall of China

第6回 Taj Mahal

第7回 Taj Mahal

第8回 Uluru-Kata Tjuta National Park

第9回 Uluru-Kata Tjuta National Park

第10回 Paris and the Banks of the Seine

第11回 Paris and the Banks of the Seine

第12回 Historic Site of Machu Picchu

第13回 Historic Site of Machu Picchu

第14回 Greenwich

第15回 Greenwich

---

### 授業以外での学習方法

Students are expected to read extensively in both Japanese and English as part of their university education.

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (30%) 小テスト (15%) 授業中課題 (15%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス i 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 山崎 清水

---

**テーマ**

リーディングを主に総合的な英語運用能力を習得

---

**授業の目的（獲得目標）**

平易な文章で書かれた英文を読みながら英語力の向上を目指す

---

**内 容**

第1回 William Adams

第2回 Philipp F. von Siebold

第3回 Ranald MacDonald

第4回 Matthew Perry

第5回 Townsend Harris

第6回 Thomas Glover

第7回 Edward House

第8回 William Griffis

第9回 Josiah Conder

第10回 Alice M. Bacon

第11回 Walter Weston

第12回 Lafcadio Hearn

第13回 William M. Vories

第14回 Douglas MacArthur

第15回 Edwin O. Reischauer

---

**授業以外での学習方法**

テキストの読解部分を宿題として予習すること。詳細は授業で説明する。

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験（50）小テスト（20）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（10）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス i 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 スミス ジョン

---

**テーマ**

English communication

---

**授業の目的（獲得目標）**

Improve English communication

---

**内 容**

第1回 News article discussion

第2回 News article discussion

第3回 News article discussion

第4回 News article discussion

第5回 News article discussion

第6回 News article discussion

第7回 News article discussion

第8回 News article discussion

第9回 News article discussion

第10回 News article discussion

第11回 News article discussion

第12回 News article discussion

第13回 News article discussion

第14回 News article discussion

第15回 News article discussion

---

**授業以外での学習方法**

Preview articles for discussion.

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験（80%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（Active participation is of value.）



## 2010 Syllabus

科目名 英語Ⅲ

クラス j 配当回生 2回生

講義期間 定員 30

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

クラス指定 到達度別

担当者 松村 優子

### テーマ

医療系・看護系英語に慣れる

### 授業の目的（獲得目標）

1. 病気や身体の英語名称を覚える。
2. 看護の現場で使用される会話表現を学習する。

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 2

第3回 Unit 3

第4回 Unit 4

第5回 Unit 5

第6回 Unit 6

第7回 Unit 7

第8回 Unit 8

第9回 Unit 9

第10回 Unit 10

第11回 Unit 11

第12回 Unit 12

第13回 Unit 13

第14回 Unit 14

第15回 復習 授業内容については進度によって変更することがあります。

### 授業以外での学習方法

授業以外での学習方法 授業内で説明する。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (15) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス j

配当回生 2回生

---

講義期間

定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ブット ルイズ

---

### テーマ

English Oral Communication

---

### 授業の目的（獲得目標）

The purpose of this course is to develop basic English communication skills. Focusing on interesting topics, this course will indirectly cover basic grammar, functions and vocabulary. It will also help you grow in speaking English confidently.

---

### 内容

第1回 Introductions, and useful classroom language

第2回 Getting to know each other

第3回 Getting to know each other

第4回 Talking about interests

第5回 Talking about interests

第6回 Talking about family

第7回 Talking about family

第8回 Talking about people

第9回 Talking about people

第10回 Talking about work

第11回 Talking about work

第12回 Talking about past experiences

第13回 Talking about past experiences

第14回 Talking about sports

第15回 Final Review

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（40%）小テスト（60%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ <k>              |      |     |
| クラス   | k                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 櫃本 一美                |      |     |

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 Part V 短文穴埋め問題攻略法
- 第3回 Part I 写真描写問題攻略法
- 第4回 基本文型の理解
- 第5回 Part II 応答問題攻略法
- 第6回 Part VI 長文穴埋め問題攻略法
- 第7回 Part III 会話問題攻略法
- 第8回 名詞の修飾
- 第9回 Part IV 説明文問題攻略法
- 第10回 Part VII 1つの文書 読解問題攻略法
- 第11回 シャドーイングの練習
- 第12回 接続詞の理解
- 第13回 サマライゼーションの練習
- 第14回 Part VII 2つの文書 読解問題攻略法
- 第15回 ディクテーションの練習
- 第16回 知覚動詞・使役動詞
- 第17回 会話の広げ方の練習
- 第18回 スキミングの練習
- 第19回 リンキングの理解
- 第20回 助動詞・時制
- 第21回 破裂音の聞き取り方
- 第22回 スキャニングの練習
- 第23回 演習問題
- 第24回 前置詞・不定詞
- 第25回 演習問題
- 第26回 演習問題
- 第27回 演習問題

第 28 回 演習問題

第 29 回 総復習

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20%」）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ                  |      |     |
| クラス   | I                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 原 俊樹                 |      |     |

## テーマ

ーコミュニケーションの手段としての「普段着の英語」を目指してー (Native English Teacher のクラスの内容にも注意すること。)

## 授業の目的 (獲得目標)

獲得目標：英語理解のために必要最低限の基礎的な知識（文型的分析や文法・単語・成句など）を確認・再整理する。英語と日本語の表現方法の相違を考えた上で、「使える英語・productive な英語」運用能力としての4技能を確実に身に付け、英語を通して、「情報」を「知識」化し、双方向のコミュニケーションを可能にする実践的・総合的な英語運用能力を身に付ける。 授業計画：基本的には、テキストに沿って行なう。知識の再確認に関する小テストを毎回課す予定。 只単に、「単位さえ貰えれば良いのだ」という姿勢ではなく、テキス

## 内 容

- 第1回 講義概要・テキストの利用法の説明
- 第2回 英文の捉え方；単文・主語－述語動詞・時制
- 第3回 英文の捉え方；自動詞・他動詞・文型(1)
- 第4回 英文の捉え方；単文と文型(2)
- 第5回 英文の捉え方；文の要素以外の語句と修飾の関係、接続詞・複文・重文
- 第6回 文中品詞の把握と語法；名詞・代名詞
- 第7回 文中品詞の把握と語法；形容詞・副詞・比較
- 第8回 文中品詞の把握と語法；前置詞と前置詞句
- 第9回 文中品詞の把握と語法；接続詞・関係詞
- 第10回 文中品詞の把握と語法；同格・省略
- 第11回 英文の読み取り；Top Down Reading
- 第12回 英文の読み取り；Top Down Reading
- 第13回 英文の読み取り；Scanning
- 第14回 各自の英語学習法の確立－基本知識・文法の総整理を踏まえて、極力日本語を使わない、インタラクティブな解釈法・表現法を身に付ける。
- 第15回 又は最終講義日；前期のまとめ

## 授業以外での学習方法

ALCNetwork の利用・言語番組の視聴など英語に接する機会をなるべく多く持つこと。テキストに関しては、受験時代の「文法参考書」や辞書をしっかりと利用し、単語・熟語の意味・用法、英語特有の表現をきちんとピックアップして予習・復習に使えるようにすること。毎日の努力の継続が必ず実を結ぶことを信じなさい。(手抜き

は自分の首を絞める。)

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (50) 小テスト (20) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (10 (座っているだけでは駄目)) 備考  
( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス I 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ブライアン・スガイル

---

**テーマ**

Expressing More of Your Ideas in English

---

**授業の目的（獲得目標）**

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

---

**内 容**

第1回 classroom English

第2回 introductions

第3回 student interviews

第4回 comparisons

第5回 work-A

第6回 work-B

第7回 directions

第8回 travel English-A

第9回 travel English-B

第10回 talking about experiences-A

第11回 talking about experiences-A

第12回 cooking

第13回 food

第14回 puzzles and projects

第15回 review of topics

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験 (30) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス m 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 野口 博代

---

### テーマ

Reading and understanding in English

---

### 授業の目的（獲得目標）

様々なトピックの英文を読み、英語で内容把握しまとめることができるようになる事を目標とします。またリスニングタスクを通して英語の音やリズムにも慣れましょう。

---

### 内 容

- 第1回 Introductions Fantasy Stories
  - 第2回 Fantasy Stories
  - 第3回 Movies are great!
  - 第4回 Review 1 Extreme Sports
  - 第5回 My Hobbies
  - 第6回 Review 2 Intelligent Animals
  - 第7回 Caring for Pets
  - 第8回 Review 3 Inventions
  - 第9回 Young Inventor
  - 第10回 Review 4 Mystery Sightings
  - 第11回 Mystery Tours
  - 第12回 Review 5 The History of the Web
  - 第13回 People Online
  - 第14回 Review 6
  - 第15回 Reading Activity
- 

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（）



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス m 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ソーソン マーカス

---

**テーマ**

Acting Drama Video

---

**授業の目的（獲得目標）**

This class will practice all the English skills, performing scenes, dialogues and studying vocabulary from a video drama.

---

**内 容**

第1回 Introductions

第2回 Characters

第3回 Pilot

第4回 Natural pronunciation

第5回 Question and Answer

第6回 Vocabulary Review

第7回 Acting scenes

第8回 Reporting

第9回 Story Review

第10回 Last Journals

第11回 Vocabulary

第12回 Who said it?

第13回 Summary

第14回 Performing

第15回 Final Papers

---

**授業以外での学習方法**

Journal writing and Video subtitles method

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験 (20) 小テスト (20) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 ( )

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ <n>              |      |     |
| クラス   | n                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 西村 尚人                |      |     |

### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 品詞の違い 広告を読む
- 第3回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第4回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第5回 場所の描写 広告を読む
- 第6回 場所の描写 代名詞
- 第7回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第8回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第9回 旅行で使う表現 メッセージを読む
- 第10回 旅行で使う表現 動詞の形
- 第11回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第12回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第13回 オフィスにて 手紙を読む
- 第14回 オフィスにて 語彙関連
- 第15回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第16回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第17回 人事・管理の表現 記事を読む
- 第18回 人事・管理の表現 接続詞
- 第19回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第20回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第21回 財務関連表現 レシピを読む
- 第22回 財務関連表現 時制
- 第23回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第24回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第25回 娯楽関連表現 Eメールを読む
- 第26回 娯楽関連表現 前置詞
- 第27回 健康関連表現 読解問題攻略法

第 28 回 健康関連表現 読解問題攻略法

第 29 回 総復習

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等、宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20%」）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ                  |      |     |
| クラス   | ○                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 原 俊樹                 |      |     |

## テーマ

ーコミュニケーションの手段としての「普段着の英語」を目指してー (Native English Teacher のクラスの内容にも注意すること。)

## 授業の目的 (獲得目標)

獲得目標：英語理解のために必要最低限の基礎的な知識（文型的分析や文法・単語・成句など）を確認・再整理する。英語と日本語の表現方法の相違を考えた上で、「使える英語・productive な英語」運用能力としての4技能を確実に身に付け、英語を通して、「情報」を「知識」化し、双方向のコミュニケーションを可能にする実践的・総合的な英語運用能力を身に付ける。 授業計画：基本的には、テキストに沿って行なう。知識の再確認に関する小テストを毎回課す予定。 只単に、「単位さえ貰えれば良いのだ」という姿勢ではなく、テキス

## 内 容

- 第1回 講義概要・テキストの利用法の説明
- 第2回 英文の捉え方；単文・主語－述語動詞・時制
- 第3回 英文の捉え方；自動詞・他動詞・単文と文型(1)
- 第4回 英文の捉え方；単文と文型(2)
- 第5回 英文の捉え方；文の要素以外の語句と修飾の関係、接続詞・複文・重文
- 第6回 文中品詞の把握と語法；名詞・代名詞
- 第7回 文中品詞の把握と語法；形容詞・副詞・比較
- 第8回 文中品詞の把握と語法；前置詞と前置詞句
- 第9回 文中品詞の把握と語法；接続詞・関係詞
- 第10回 文中品詞の把握と語法；同格・省略
- 第11回 英文の読み取り；Top Down Reading
- 第12回 英文の読み取り；Top Down Reading
- 第13回 英文の読み取り；Scanning
- 第14回 各自の英語学習法の確立－基本知識・文法の総整理を踏まえて、極力日本語を使わない、インタラクティブな解釈法・表現法を身に付ける。
- 第15回 (最終講義日) 前期のまとめ

## 授業以外での学習方法

ALC Network の利用・言語番組の視聴など英語に接する機会をなるべく多く持つこと。テキストに関しては、受験時代の「文法参考書」や辞書をしっかりと利用し、単語・熟語の意味・用法、英語特有の表現をきちんとピックアップして予習・復習に使えるようにすること。毎日の努力の継続が必ず実を結ぶことを信じなさい。(手抜き

は自分の首を絞める。)

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (50) 小テスト (20) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (10 (座っているだけでは駄目)) 備考  
( )

## 2010 Syllabus

科目名 英語Ⅲ

クラス ○ 配当回生 2回生

講義期間 定員 30

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

クラス指定 到達度別

担当者 ブライアン・スガイル

**テーマ**

Expressing More of Your Ideas in English

**授業の目的（獲得目標）**

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

**内 容**

第1回 introductions

第2回 classroom English

第3回 student interviews-A

第4回 student interviews-B

第5回 likes

第6回 dislikes

第7回 abilities

第8回 describing people-A

第9回 describing people-B

第10回 families

第11回 occupations-A

第12回 occupations-B

第13回 experiences

第14回 sports

第15回 review

**授業以外での学習方法****教科書****参考書****成績評価**

試験 (30) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス p 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 クレイグ ギブス

---

**テーマ**

Four Skills Development in English for Academic Purposes

---

**授業の目的（獲得目標）**

The goal of this course is to improve students' speaking, listening, reading, and writing skills for academic purposes. Syllabus Planning General requirement course intended to consolidate and to extent students' English usage through in-class and homework.

---

**内容**

- 第1回 Course Introduction
  - 第2回 TOEIC Skills & Strategies [1]
  - 第3回 TOEIC Skills & Strategies [2]
  - 第4回 TOEIC Skills & Strategies [3]
  - 第5回 TOEIC Skills & Strategies [4]
  - 第6回 TOEIC Skills & Strategies [5]
  - 第7回 TOEIC Skills & Strategies [6]
  - 第8回 Review Exercise [1]
  - 第9回 TOEIC Skills & Strategies [7]
  - 第10回 TOEIC Skills & Strategies [8]
  - 第11回 TOEIC Skills & Strategies [9]
  - 第12回 TOEIC Skills & Strategies [10]
  - 第13回 TOEIC Skills & Strategies [11]
  - 第14回 TOEIC Skills & Strategies [12]
  - 第15回 Review Exercise [2]
- 

**授業以外での学習方法**

Details given in class

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 (25%) 参加度 (50%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス p 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 金山 敬

---

### テーマ

グローバル社会の中であって、世界の人々と共存し、理解しあうためにコミュニケーションの手段としての英語力を培うことは現代人にとって欠かせないこととなってきました。社会人となって生き生きとたおやかに活躍するために英語力を磨こうではありませんか。

---

### 授業の目的（獲得目標）

英語力、特に読解力と聴解力を伸ばすために写真と最新のニューヨーク事情を伝えたエッセイを教材として実生活に役立つ基礎的な英語学習を目指します。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 LESSON 1

第3回 LESSON 2

第4回 LESSON 3

第5回 LESSON 1～3 REVIEW

第6回 LESSON 4

第7回 LESSON 5

第8回 LESSON 6

第9回 LESSON 4～6 REVIEW

第10回 LESSON 7

第11回 LESSON 8

第12回 LESSON 9

第13回 LESSON 10

第14回 LESSON 7～10 REVIEW

第15回 まとめ

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ <q>              |      |     |
| クラス   | q                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 櫃本 一美                |      |     |

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 Part V 短文穴埋め問題攻略法
- 第3回 Part I 写真描写問題攻略法
- 第4回 基本文型の理解
- 第5回 Part II 応答問題攻略法
- 第6回 Part VI 長文穴埋め問題攻略法
- 第7回 Part III 会話問題攻略法
- 第8回 名詞の修飾
- 第9回 Part IV 説明文問題攻略法
- 第10回 Part VII 1つの文書 読解問題攻略法
- 第11回 シャドーイングの練習
- 第12回 接続詞の理解
- 第13回 サマライゼーションの練習
- 第14回 Part VII 2つの文書 読解問題攻略法
- 第15回 ディクテーションの練習
- 第16回 知覚動詞・使役動詞
- 第17回 会話の広げ方の練習
- 第18回 スキミングの練習
- 第19回 リンキングの理解
- 第20回 助動詞・時制
- 第21回 破裂音の聞き取り方
- 第22回 スキャニングの練習
- 第23回 演習問題
- 第24回 前置詞・不定詞
- 第25回 演習問題
- 第26回 演習問題
- 第27回 演習問題

第 28 回 演習問題

第 29 回 総復習

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20%」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス r 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 山崎 清水

---

### テーマ

リーディングを主に総合的な英語運用能力を習得

---

### 授業の目的（獲得目標）

平易な文章で書かれた英文を読みながら英語力の向上を目指す

---

### 内 容

第1回 William Adams

第2回 Philipp F. von Siebold

第3回 Ranald MacDonald

第4回 Matthew Perry

第5回 Townsend Harris

第6回 Thomas Glover

第7回 Edward House

第8回 William Griffis

第9回 Josiah Conder

第10回 Alice M. Bacon

第11回 Walter Weston

第12回 Lafcadio Hearn

第13回 William M. Vories

第14回 Douglas MacArthur

第15回 Edwin O. Reischauer

---

### 授業以外での学習方法

テキストの読解部分を宿題として予習すること。詳細は授業で説明する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（50）小テスト（20）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（10）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス r 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 スミス ジョン

---

**テーマ**

English communication

---

**授業の目的（獲得目標）**

Improve English communication

---

**内 容**

第1回 News article discussion

第2回 News article discussion

第3回 News article discussion

第4回 News article discussion

第5回 News article discussion

第6回 News article discussion

第7回 News article discussion

第8回 News article discussion

第9回 News article discussion

第10回 News article discussion

第11回 News article discussion

第12回 News article discussion

第13回 News article discussion

第14回 News article discussion

第15回 News article discussion

---

**授業以外での学習方法**

Preview articles for discussion.

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験（80%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（Active participation is of value.）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス s 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 溝部 芳子

---

**テーマ**

英語コミュニケーション能力の向上。

---

**授業の目的（獲得目標）**

身近な話題中心のリスニング教材とスクリプト等を使って、特に聞く力と読む力の向上を目的とする。

---

**内 容**

- 第1回 Introduction
  - 第2回 Unit1: Nice to meet you.
  - 第3回 Unit1: Nice to meet you.
  - 第4回 Unit2: You have a great place!
  - 第5回 Unit2: You have a great place!
  - 第6回 Unit3: I'm looking for a bookstore.
  - 第7回 Unit3: I'm looking for a bookstore.
  - 第8回 Review 1
  - 第9回 Unit4: Let's get together.
  - 第10回 Unit4: Let's get together.
  - 第11回 Unit5: How can I help you?
  - 第12回 Unit5: How can I help you?
  - 第13回 Unit6: My train's at two o'clock.
  - 第14回 Unit6: My train's at two o'clock.
  - 第15回 Review 2
- 

**授業以外での学習方法**

Online のリスニング課題など授業内で指示します。

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験（40%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（出席は毎回とります。積極的な授業参加が求められます。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス s 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 フリン ハンナ マイケル

---

**テーマ**

Using English for Communication

---

**授業の目的（獲得目標）**

Improved speaking, listening and writing skills in a communicative context

---

**内 容**

- 第1回 Orientation
  - 第2回 Introductions
  - 第3回 Exchanging personal information
  - 第4回 How do you spend your day?
  - 第5回 Work and school
  - 第6回 Daily schedules
  - 第7回 How much is it?
  - 第8回 Shopping
  - 第9回 Making Comparisons
  - 第10回 Entertainment
  - 第11回 Likes and dislikes
  - 第12回 Invitations
  - 第13回 Talking about family
  - 第14回 Exchanging information about the present
  - 第15回 Exercise and Sports
- 

**授業以外での学習方法**

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (55%) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (45%) 備考 (Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations,



class reports, roleplays and recall)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス t 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 野口 博代

---

### テーマ

基本的な英文法の確認と定着

---

### 授業の目的（獲得目標）

英文読解やリスニング作業など様々なタスクに取り組み、英文法の基礎を固め、定着させることを目指します。

---

### 内 容

第1回 Introductions Unit 1

第2回 Unit 1 / Unit 2

第3回 Unit 2 / Unit 3

第4回 Unit 3 / Unit 4

第5回 Unit 4 / Unit 5

第6回 Unit 5

第7回 Review

第8回 Unit 6

第9回 Unit 6 / Unit 7

第10回 Unit 7

第11回 Unit 8

第12回 Unit 9

第13回 Unit 10

第14回 Unit 11

第15回 Review

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス t 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ソーソン マーカス

---

**テーマ**

Acting Drama Video

---

**授業の目的（獲得目標）**

This class will practice all the English skills, performing scenes, dialogues and studying vocabulary from a video drama.

---

**内 容**

第1回 Introductions

第2回 Characters

第3回 Pilot

第4回 Natural pronunciation

第5回 Question and Answer

第6回 Vocabulary Review

第7回 Acting scenes

第8回 Reporting

第9回 Story Review

第10回 Last Journals

第11回 Vocabulary

第12回 Who said it?

第13回 Summary

第14回 Performing

第15回 Final Papers

---

**授業以外での学習方法**

Journal writing and Video subtitles method

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験 (20) 小テスト (20) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス u 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 松村 優子

---

### テーマ

ビデオ教材を利用して、オーラルコミュニケーション能力を伸ばす。

---

### 授業の目的（獲得目標）

1. 自然な日常会話、インタビューの聞き取りを学習する。2. 現地ロケによる臨場感あふれるシーンを視聴して、必須表現を学習する。

---

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1, 2

第3回 Unit 3, 4

第4回 Unit 5, 6

第5回 Unit 7, 8

第6回 Unit 9, 10

第7回 Unit 11, 12

第8回 Unit 13, 14

第9回 Unit 15

第10回 Unit 16

第11回 Unit 17

第12回 Unit 18

第13回 Unit 19

第14回 Unit 20

第15回 復習 授業内容については進度によって変更することがあります。

---

### 授業以外での学習方法

授業内で説明する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (15) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス u

配当回生 2回生

---

講義期間

定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ブット ルイズ

---

### テーマ

English Oral Communication

---

### 授業の目的（獲得目標）

The purpose of this course is to develop basic English communication skills. Focusing on interesting topics, this course will indirectly cover basic grammar, functions and vocabulary. It will also help you grow in speaking English confidently.

---

### 内容

第1回 Introductions, and useful classroom language

第2回 Getting to know each other

第3回 Getting to know each other

第4回 Talking about interests

第5回 Talking about interests

第6回 Talking about family

第7回 Talking about family

第8回 Talking about people

第9回 Talking about people

第10回 Talking about work

第11回 Talking about work

第12回 Talking about past experiences

第13回 Talking about past experiences

第14回 Talking about sports

第15回 Final Review

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（40%）小テスト（60%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス v

配当回生 2回生

---

講義期間

定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 田中 美和子

---

### テーマ

基本的な文法事項の習得

---

### 授業の目的（獲得目標）

実際に使える文法を習得していく

---

### 内 容

- 第1回 Introduction of the classes 挨拶・自己紹介
  - 第2回 Unit 1 名詞（数えられる名詞・数えられない名詞）
  - 第3回 Unit 1 冠詞
  - 第4回 Unit 2 一般動詞（命令文）
  - 第5回 Unit 2 一般動詞（現在形）
  - 第6回 Unit 3 be 動詞＋形容詞
  - 第7回 Unit 3 前置詞
  - 第8回 Unit 4 疑問文 1
  - 第9回 Unit 4 疑問文 2
  - 第10回 Unit 5 過去形 1
  - 第11回 Unit 5 過去形 2
  - 第12回 Unit 6 現在進行形
  - 第13回 Unit 6 未来の表現
  - 第14回 Grammar Follow up
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

ダイアローグを覚えるまで音読してみましょう。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（40）小テスト（10）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（30）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅲ

---

クラス v 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ビショップ マイケル A. C

---

**テーマ**

Developing students' world knowledge of history, geography, and culture.

---

**授業の目的（獲得目標）**

In this course, students will watch DVDs and use English to write and speak about our world heritage.

---

**内 容**

第1回 Course Mechanics and Introductions

第2回 Grand Canyon National Park

第3回 Grand Canyon National Park

第4回 The Great Wall of China

第5回 The Great Wall of China

第6回 Taj Mahal

第7回 Taj Mahal

第8回 Uluru-Kata Tjuta National Park

第9回 Uluru-Kata Tjuta National Park

第10回 Paris and the Banks of the Seine

第11回 Paris and the Banks of the Seine

第12回 Historic Site of Machu Picchu

第13回 Historic Site of Machu Picchu

第14回 Greenwich

第15回 Greenwich

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験（30%）小テスト（15%）授業中課題（15%）授業中発表等（）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ <w>              |      |     |
| クラス   | w                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 彌永 啓子                |      |     |

## テーマ

TOEIC 試験対策による英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

トピック別の TOEIC 試験演習やタスク中心の聴き取りを通して、TOEIC600 点以上の英語運用能力獲得を目指します。（以下の予定は学生の状況を考慮しながら変更する可能性があります。）

## 内 容

- 第1回 学習に関するガイダンス
- 第2回 Listening: At the Airport
- 第3回 Unit 1: Travel (TOEIC 演習)
- 第4回 Listening: Dating
- 第5回 Unit 2: Daily Life (TOEIC 演習)
- 第6回 Listening: Health
- 第7回 Unit 3: Health (TOEIC 演習)
- 第8回 Listening: Ordering Food
- 第9回 Unit 4: Eating Out (TOEIC 演習)
- 第10回 Listening: Family Events
- 第11回 Unit 5: Events (TOEIC 演習)
- 第12回 Unit 1-5 まとめ、文法演習
- 第13回 Unit 6: Entertainment (TOEIC 演習)
- 第14回 Listening: News
- 第15回 Unit 7: Media (TOEIC 演習)
- 第16回 Listening: Office Work
- 第17回 Unit 8: Office (TOEIC 演習)
- 第18回 Listening: Job Preferences
- 第19回 Unit 9: Personnel (TOEIC 演習)
- 第20回 Listening TOEIC 演習①
- 第21回 Unit 10: Finance (TOEIC 演習)
- 第22回 Unit 5-10 まとめ、文法演習
- 第23回 Unit 11: Sales Promotion (TOEIC 演習)
- 第24回 Listening: Buying and Selling
- 第25回 Unit 12: Purchasing (TOEIC 演習)
- 第26回 Listening TOEIC 演習②



第 27 回 Unit 13: Employment (TOEIC 演習)

第 28 回 Listening TOEIC 演習③

第 29 回 Unit 14: Training (TOEIC 演習)

第 30 回 模擬試験、まとめ

---

### 授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングの宿題を課しますので、これらをきちんとこなしてください。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 備考 (「英語テスト 20%」)

## 2010 Syllabus

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 科目名   | 英語Ⅲ                  |
| クラス   | x                    |
| 講義期間  | 配当回生 2回生             |
| 履修条件  | 定員 30                |
| クラス指定 | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |
| 担当者   | 到達度別                 |
|       | クーラン コーリ             |

---

**テーマ**

Pre-intermediate English

---

**授業の目的（獲得目標）**

Enable the students to use English, with a focus on speaking and writing, to apply what they have learned to simple, everyday situations.

---

**内 容**

第1回 Introductions

第2回 Unit 1, All about you, Sections A and B

第3回 Unit 1, All about you, Sections C and D

第4回 Unit 2, In class, Sections A and B

第5回 Unit 2, In class, Sections C and D

第6回 Unit 3, Favorite people, Sections A and B

第7回 Unit 3, Favorite people, Sections C and D

第8回 Video Lesson

第9回 Unit 4, Everyday life, Sections A and B

第10回 Unit 4, Everyday life, Sections C and D

第11回 Unit 5, Free time, Sections A and B

第12回 Unit 5, Free time, Sections A and B

第13回 Unit 6, Neighborhoods, Sections A and B

第14回 Unit 6, Neighborhoods, Sections C and D

第15回 Semester recap and video lesson

---

**授業以外での学習方法**

Reading/viewing printed and video media as well as accessing Internet URL on the Internet related to ESL learning. These will be provided from time to time in class.

---

**教科書**


---

**参考書**


---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅲ                  |      |     |
| クラス   | x                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 久保田 美佳               |      |     |

## テーマ

会話力の基礎を固める

## 授業の目的（獲得目標）

会話のための基本構文を習得する。会話の対訳を使ってスムーズに英語の文が言えるようになる練習をすると同時に、英文の聞き取りや模倣を通してリスニング力強化と発音矯正を行う。以下は進度の目安で、状況に応じて増減する場合があります。

## 内 容

- 第1回 授業説明 (1) Yes/No Questionとその応答 (Yes/No Question Q & A)
- 第2回 (2) What…? とその応答 (‘What…?’ Q & A)
- 第3回 (3) 「場所」をたずねる ‘Where’ とその応答 (‘Where’ to ask questions about the place Q & A)
- 第4回 (4) 「時」をたずねる ‘When’ とその応答 (‘When’ to ask questions about the time Q & A)
- 第5回 (5) 「理由」をたずねる ‘Why’ とその応答 (‘Why’ to ask questions about the reason Q & A)
- 第6回 (6) 他の疑問詞 (How, Which, Who, Whose, Whom) (The other interrogatives: How, Which, Who, Whose, Whom Q & A) (7) まとめ：疑問文をつくる練習 (Review: Forming Questions on the Text)
- 第7回 復習 I (8) 許可・提案・誘い (Permissions, Suggestions, and Invitations)
- 第8回 (9) 出会いと様々な挨拶 (Meeting People, and saying Hello and Good-bye)
- 第9回 (10) 自己紹介 (Introducing Yourself)
- 第10回 (11) 日常生活や趣味 (Your Daily Life and Hobbies)
- 第11回 (12) 自分の性格や特徴 (Your Personality and Physical Features)
- 第12回 (13) 家族および家庭生活 (Your Family Life)
- 第13回 (14) 教室内で意味や発音などについて質問する (Asking Meaning, Pronunciation and etc., in Class)
- 第14回 (15) 学校や授業や活動 (Your Classes and Extracurricular Activities)
- 第15回 復習 I I

## 授業以外での学習方法

会話部分の音読練習、語句の暗記、小テスト等のための自主学習が必要です。

## 教科書

### 成績評価

試験（40%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（\* この科目では毎授業必ず出席を取ります。\* 期末試験のほかに随時小テストを行い、中間テストは6月上旬を目安に行う予定です。）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |      |
|-------|----------------------|------|------|
| 科目名   | 英語Ⅲ <R a>            |      |      |
| クラス   | R a                  | 配当回生 | 2 回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 30   |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |      |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |      |
| 担当者   | 杉山 泰                 |      |      |

## テーマ

基礎英語で俵万智の和歌を訳しながら、発信型の英語を学ぼう

## 授業の目的（獲得目標）

中学で学んだ基礎英文法で、e-mail を書くのが第一の目標だが、それだけでなく、俵万智の和歌を毎回やさしい英語で訳せることを学んでもらいたい。

## 内 容

- 第1回 自己紹介 (I am Japanese. I am from Nagasaki. から始めよう)
- 第2回 日本紹介 (We have tankaculture in Japan.) 海外に発信しよう。
- 第3回 Drill 1 be 動詞 [翻訳課題] 「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日
- 第4回 Drill 1 一般動詞 (翻訳課題) また電話しろよと言って受話器置く君に今すぐ電話をしたい
- 第5回 Drill 2 主語と動詞 (翻訳課題) 愛してる愛していない花の数だけ愛があればいいのに (英語の主語は?)
- 第6回 Drill 2 主語と動詞 (翻訳課題) 焼肉とグラタンが好きという少女よ私はあなたのお父さんが好き
- 第7回 Drill 3 修飾語 (翻訳課題) この部屋に君が確かにいたことのジャイアンツコーンを食べてしまえり
- 第8回 Drill 3 修飾語 (翻訳課題) ただ君の部屋に音を立てたくてダイヤル回す水曜の午後
- 第9回 Drill 4 be 動詞 (翻訳課題) 「寒いね」と言えば「寒いね」と答える人のいるあたたかさ
- 第10回 Drill 4 be 動詞 (翻訳課題) 事件とも呼べず右手の上にある一人暮らしの腐ったレモン
- 第11回 Drill 5 過去形 (翻訳課題) 今日風呂が休みだったと言うようなことを話していたい毎日
- 第12回 Drill 5 過去形 (翻訳課題) この部屋で君と暮らしていた女の髪の長さを知りたいタベ
- 第13回 Drill 6 疑問文 (翻訳課題) ガーベラの首を両手で持ち上げておまえ一番好きなのは誰
- 第14回 Drill 6 疑問文 (翻訳課題) 吾をさらいエンジンをかけた八月の朝をあなたは覚えているか
- 第15回 Drill 7 否定文 (翻訳課題) 妻のこと「母さん」と呼ぶためらいのなきことなにかあたたかきこと
- 第16回 Drill 7 否定文 (翻訳課題) 男ではなくて大人の返事する君にチョコレート革命起こす
- 第17回 Drill 8 一般動詞 (翻訳課題) 真夜中に吾を思い出す人のあることの幸せ受話器を取りぬ
- 第18回 Drill 8 一般動詞 (翻訳課題) 二時間でシンデレラとなる吾を前に核戦争の話などする
- 第19回 Drill 9 進行形 (翻訳課題) 気がつけば君の好める花模様ばかり手にしている試着室
- 第20回 Drill 9 進行形 (翻訳課題) 「また恋の歌作っているのか」とおもしろそうに心配そうに
- 第21回 Drill 10 疑問文 (翻訳課題) わが髪を三度切りたる美容師に「初めてですか」と聞かれて座る
- 第22回 Drill 10 疑問文 (翻訳課題) あの人と幸せでしょうか、お母さん。父さんは無口を通して逝きました。

- 第 23 回 Drill 11 否定文 (翻訳課題) 食べたいでもやせたいというコピーあり愛されたいでも愛したくない
- 第 24 回 Drill 11 否定文 (翻訳課題) 電話から少し離れてお茶を飲む聞いてないよというように飲む
- 第 25 回 Drill 12 未来の文 (翻訳課題) 「三〇で俺は死ぬよ」と言う君とそれなら吾もそれまで生きん
- 第 26 回 Drill 12 未来の文 (翻訳課題) ハンバーガーショップの席を立ち上がるように男を捨ててしまおう
- 第 27 回 Drill 13 助動詞 (翻訳課題) 思い出はミックスベジタブルのようだけれど解凍してはいけない
- 第 28 回 Drill 14 who の疑問文 (翻訳課題) ガーベラの首を両手で持ち上げておまえ一番好きなのは誰
- 第 29 回 Drill 15 why の疑問文 (why-because 論理で英作文)
- 第 30 回 まとめと解説 (俵万智の短歌の翻訳集作成)
- 

### 授業以外での学習方法

5 月に英語劇鑑賞を行なう予定。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (20) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (毎回添削して返すので、4 回生などで参加できなかった場合は、次回に必ずその (翻訳課題) をもらって、家で英作してくる。遅れて提出すれば、参加していなくとも、それなりの評価をする。)

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡB〈a〉

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 小川 享子

## テーマ

TOEIC Test 対策を通して、英語運用力（特にリーディング、文法）をさらに向上させる。

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC test でよく見かけられる語彙、文法項目に目を通し、知識を身につけ、2回生以降の学習につながるようにする。そのために、前期に引き続き、日常生活、旅行、様々なビジネスシーン（人事、金融、通知など）をテーマとする主にリーディング教材を用いて演習問題を解きながら、TOEIC テストで頻出のパッセージのパターンを学びます。また英語運用力の基盤になる語彙と文法に関する知識の整理しながら問題を解いていきます。予定の授業内容は以下のとおりですが、受講生の様子をみながら、内容や進度を調整していきます。

## 内 容

第1回 授業の進め方、評価方法の確認。 Technology: メモと概要を読む

第2回 Personnel: 記事を読む

第3回 Management: 通知を読む。接続詞、その他の語彙、表現の整理。

第4回 Purchasing: レシートを読む。

第5回 Finances: レシピを読む。時制の整理。

第6回 Media: 記事を読む。語彙、表現の整理。

第7回 Entertainment: 前置詞。Eメールを読む。

第8回 Health: Fax を読む。

第9回 Review: 語彙、表現の整理、文法事項の整理。

第10回 Restaurants: 熟語。申し込み用紙を読む。

第11回 後期学習事項の総まとめ（語彙、表現、文法事項の整理）。その他の頻出文法事項の整理など。

第12回 模擬テストに挑戦

第13回 模擬テストに挑戦

第14回 Let's enjoy a movie and its script.

第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

語彙、表現、文法事項に関する予習、復習の宿題をかなり多く出す予定。やり方は授業中に説明。

## 教科書

## 参考書



---

## 成績評価

試験（0）小テスト（50）授業中課題（15）授業中発表等（0）参加度（15）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 授業中課題には、宿題の提出、参加度には授業への出席と指名されたときの発表が含まれる。）

科目名 英語ⅡB <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 中井 翔

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

科目名 英語ⅡB <c>

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西村 尚人

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

科目名 英語ⅡB <d>

クラス d 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 櫃本 一美

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡB <e>

---

クラス e 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ビショップ マイケル A. C

---

テーマ

Expressing opinions and exchanging ideas

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to help students express their thoughts in English through writing and speaking activities.

---

内 容

第1回 Review of items studied in the previous semester

第2回 Animal Testing

第3回 Animal Testing

第4回 Temporary Workers

第5回 Temporary Workers

第6回 Robot Care

第7回 Robot Care

第8回 College

第9回 College

第10回 Genetically Modified Food

第11回 Genetically Modified Food

第12回 Welfare

第13回 Welfare

第14回 Writing practice of material from previous units

第15回 Writing practice of material from previous units

---

授業以外での学習方法

Students are expected to read extensively in Japanese and in English as a part of their university education.

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (20) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡB < f >

---

クラス f 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 松村 優子

---

テーマ

映画を利用して、リスニング、語彙力など英語の総合力を伸ばす。

---

授業の目的（獲得目標）

1. 自然な会話の英語に慣れる。 2. 会話頻出表現を学習する。 3. ストーリーを楽しみながら内容理解に努める。

---

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1

第3回 Unit 2

第4回 Unit 3

第5回 Unit 4

第6回 Unit 5

第7回 Unit 6

第8回 Unit 7

第9回 Unit 8

第10回 Unit 9

第11回 Unit 10

第12回 プリント教材等

第13回 プリント教材等

第14回 復習

第15回 復習 授業内容については進度によって変更することがあります。

---

授業以外での学習方法

テキスト付属のCDについて指定個所を聞くこと（詳細は授業内で説明します。）

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20% ※クラ

スにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。J)



## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡB <g>

クラス g 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 到達度別

担当者 ブライアン・スガイル

**テーマ**

Expressing Your Ideas in English

**授業の目的（獲得目標）**

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

**内 容**

第1回 introductions

第2回 classroom English

第3回 Talking about Other Countries-A

第4回 Talking about Other Countries-B

第5回 Talking about Experiences

第6回 Talking about Places

第7回 Travel English: Traveling to Hawaii-A

第8回 Travel English: Traveling to Hawaii-B

第9回 Talking about Japanese Things-A

第10回 Talking about Japanese Things-B

第11回 Talking about Future Events

第12回 Talking about School

第13回 Travel English: Traveling to Thailand

第14回 Talking about Sickness and Health

第15回 review of topics

**授業以外での学習方法****教科書****参考書****成績評価**

試験（20）小テスト（）授業中課題（30）授業中発表等（）参加度（30）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡB <h>

---

クラス h 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 クーラン コーリ

---

テーマ

Intermediate English

---

授業の目的（獲得目標）

Enable the students to use English, with a focus on speaking and writing, to apply what they have learned to everyday situations.

---

内 容

第1回 Unit 7, Going away, Sections A and B

第2回 Unit 7, Going away, Sections C and D

第3回 Unit 8, At home, Sections A and B

第4回 Unit 8, At home, Sections C and D

第5回 Unit 9, Things happen, Sections A and B

第6回 Unit 9, Things happen, Sections C and D

第7回 Unit 10, Communication, Sections A and B

第8回 Video lesson

第9回 Unit 10, Communication, Sections C and D

第10回 Unit 11, Appearances, Sections A and B

第11回 Unit 11, Appearances, Sections C and D

第12回 Unit 12, Looking ahead, Sections A and B

第13回 Christmas themed lesson

第14回 Unit 12, Looking ahead, Sections C and D

第15回 Recap and video lesson

---

授業以外での学習方法

Reading/viewing printed and video media as well as accessing Internet URL on the Internet related to ESL learning. These will be provided from time to time in class.

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (25) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (30) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡB <i>

クラス i 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フリン ハンナ マイケル

## テーマ

Using English for Communication

## 授業の目的（獲得目標）

Improved speaking, listening and writing skills in a communicative context

## 内 容

- 第1回 Houses and Apartments
- 第2回 Furniture in a room
- 第3回 Dream Home
- 第4回 Jobs
- 第5回 Workplaces
- 第6回 Giving opinions about jobs and workplaces
- 第7回 Foods
- 第8回 Likes and dislikes
- 第9回 Eating habits
- 第10回 Popular Sports
- 第11回 Sports talk
- 第12回 Abilities and talents
- 第13回 Months and dates
- 第14回 Birthdays and Plans
- 第15回 Holidays and special occasions

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（35%）授業中課題（0%）授業中発表等（0）参加度（45%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and

vocabulary tests, in class speaking and listening evalua)

科目名 英語ⅡB <j>

クラス j 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

**テーマ**

Continue to build confidence in oral and written communication in English

**授業の目的（獲得目標）**

This course will build on the first semester course with the same aim of improving students' self-expression in and understanding of real-life English. This will be a four-skills course with a focus on the productive skills of speaking and writing. This c

**内 容**

- 第1回 Clothes and fashion
- 第2回 Language for shopping
- 第3回 Sightseeing & Travel
- 第4回 World countries
- 第5回 National languages, customs and cuisine
- 第6回 Talking about last night
- 第7回 Describing how your week was
- 第8回 Describing memories
- 第9回 Telling stories
- 第10回 Talking about vacations
- 第11回 Weekend activities
- 第12回 Eating habits
- 第13回 Talking about food
- 第14回 Reviewing restaurants
- 第15回 Final Review

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスに

より TOEIC-IP または CASEC を受験します。』)

科目名 英語ⅡB <k>

クラス k 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西山 裕子

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）



## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡB <Ⅰ>

クラス Ⅰ 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 到達度別

担当者 ソーソン マーカス

**テーマ**

Reading Speaking Video

**授業の目的（獲得目標）**

This class practices all the English skills in a video drama.

**内 容**

第1回 Story Review

第2回 New Characters

第3回 Acting scenes

第4回 The woods

第5回 Alien Hunters

第6回 Liz and Max

第7回 Michaels Independence

第8回 Balance

第9回 Story Telling

第10回 Crazy

第11回 The New girl

第12回 Reports

第13回 Story Review

第14回 Performing

第15回 Final Papers

**授業以外での学習方法**

Journals and video subtitles method

**教科書****参考書****成績評価**

試験（15）小テスト（20）授業中課題（15）授業中発表等（15）参加度（15）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

---

科目名 英語ⅡB <m>

---

クラス m

配当回生 1回生

---

講義期間 後期

定員 30

---

**履修条件**

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 金山 敬

---

**テーマ**

グローバル社会の中であって、世界の人々と共存し、理解しあうためにコミュニケーションの手段としての英語力を培うことは現代人にとって欠かせないこととなってきました。社会人となって生き生きとたおやかに活躍するために英語力を磨こうではありませんか。

---

**授業の目的（獲得目標）**

英語力、特に読解力と聴解力を伸ばすために取り組みやすい実話集を教材として実生活に役立つ基礎的な英語学習を目指します。

---

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 CHAPTER 6 part 1

第3回 CHAPTER 6 part 2

第4回 CHAPTER 7 part 1

第5回 CHAPTER 7 part 2

第6回 CHAPTER 6&7 REVIEW

第7回 CHAPTER 8 part 1

第8回 CHAPTER 8 part 2

第9回 CHAPTER 9 part 1

第10回 CHAPTER 9 part 2

第11回 CHAPTER 8&9 REVIEW

第12回 CHAPTER 10 part 1

第13回 CHAPTER 10 part 2

第14回 CHAPTER 6~10 REVIEW

第15回 まとめ

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（10%）小テスト（10%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（英語テスト 20% ※  
クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。）

科目名 英語ⅡB <n>

クラス n 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西山 裕子

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30％）小テスト（20％）授業中課題（10％）授業中発表等（0％）参加度（20％）備考（「英語テスト20％ ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡB <○>

クラス ○ 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 小川 享子

## テーマ

TOEIC Test 対策を通して、英語運用力（特にリーディング、文法）をさらに向上させる。

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC test でよく見かけられる語彙、文法項目に目を通し知識を身につけ、2回生以降の学習につながるようにする。そのために、前期に引き続き、日常生活、旅行、様々なビジネスシーン（人事、金融、通知など）をテーマとする主にリーディング教材を用いて演習問題を解きながら、TOEIC テストで頻出のパッセージのパターンを学びます。また英語運用力の基盤になる語彙と文法に関する知識の整理しながら問題を解いていきます。予定の授業内容は以下のとおりですが、受講生の様子をみながら、内容や進度を調整していきます。

## 内 容

第1回 授業の進め方、評価方法の確認。 Technology: メモと概要を読む。

第2回 Personnel: 記事を読む。

第3回 Management: 通知を読む。接続詞、その他の語彙、表現の整理。

第4回 Purchasing: レシートを読む。

第5回 Finances: レシピを読む。時制の整理。

第6回 Media: 記事を読む。語彙、表現の整理。

第7回 Entertainment: 前置詞。Eメールを読む。

第8回 Health: Fax を読む。

第9回 Review: 語彙、表現の整理、文法事項の整理。

第10回 Restaurants: 熟語。申し込み用紙を読む。

第11回 後期学習事項の総まとめ（語彙、表現、文法事項の整理）。その他の頻出文法事項の整理など。

第12回 模擬テストに挑戦

第13回 模擬テストに挑戦

第14回 Let's enjoy a movie and its script.

第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

語彙、文法事項の予習、復習の宿題を多く出す予定。やり方は授業中に説明します。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0）小テスト（50）授業中課題（15）授業中発表等（0）参加度（15）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 授業中の課題には宿題の提出、参加度には授業への出席と指名されたときの発表などが含まれる。）

---

科目名 英語ⅡB <p>

---

クラス p 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

**履修条件**

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 金山 敬

---

**テーマ**

グローバル社会の中であって、世界の人々と共存し、理解しあうためにコミュニケーションの手段としての英語力を培うことは現代人にとって欠かせないこととなってきました。社会人となって生き生きとたおやかに活躍するために英語力を磨こうではありませんか。

---

**授業の目的（獲得目標）**

英語力、特に読解力と聴解力を伸ばすために取り組みやすい実話集を教材として実生活に役立つ基礎的な英語学習を目指します。

---

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 CHAPTER 6 part 1

第3回 CHAPTER 6 part 2

第4回 CHAPTER 7 part 1

第5回 CHAPTER 7 part 2

第6回 CHAPTER 6&7 REVIEW

第7回 CHAPTER 8 part 1

第8回 CHAPTER 8 part 2

第9回 CHAPTER 9 part 1

第10回 CHAPTER 9 part 2

第11回 CHAPTER 8&9 REVIEW

第12回 CHAPTER 10 part 1

第13回 CHAPTER 10 part 2

第14回 CHAPTER 6~10 REVIEW

第15回 まとめ

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（10%）小テスト（10%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（英語テスト 20% ※  
クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。）



科目名 英語ⅡB <q>

クラス q 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 中井 翔

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡB <r>

クラス r 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 ソーソン マーカス

## テーマ

Reading Speaking Video

## 授業の目的（獲得目標）

This class practices all the English skills in a video drama.

## 内 容

第1回 Story Review

第2回 New Characters

第3回 Acting scenes

第4回 The woods

第5回 Alien Hunters

第6回 Liz and Max

第7回 Michaels Independence

第8回 Balance

第9回 Story Telling

第10回 Crazy

第11回 The New girl

第12回 Reports

第13回 Story Review

第14回 Performing

第15回 Final Papers

## 授業以外での学習方法

Journals and video subtitles method

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（15）小テスト（20）授業中課題（15）授業中発表等（15）参加度（15）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡB <s>

---

クラス s 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 クーラン コーリ

---

テーマ

Intermediate English

---

授業の目的（獲得目標）

Enable the students to use English, with a focus on speaking and writing, to apply what they have learned to everyday situations.

---

内 容

- 第1回 Unit 7, Going away, Sections A and B
  - 第2回 Unit 7, Going away, Sections C and D
  - 第3回 Unit 8, At home, Sections A and B
  - 第4回 Unit 8, At home, Sections C and D
  - 第5回 Unit 9, Things happen, Sections A and B
  - 第6回 Unit 9, Things happen, Sections C and D
  - 第7回 Unit 10, Communication, Sections A and B
  - 第8回 Video lesson
  - 第9回 Unit 10, Communication, Sections C and D
  - 第10回 Unit 11, Appearances, Sections A and B
  - 第11回 Unit 11, Appearances, Sections C and D
  - 第12回 Unit 12, Looking ahead, Sections A and B
  - 第13回 Christmas themed lesson
  - 第14回 Unit 12, Looking ahead, Sections C and D
  - 第15回 Recap and video lesson
- 

授業以外での学習方法

Reading/viewing printed and video media as well as accessing Internet URL on the Internet related to ESL learning. These will be provided from time to time in class.

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (25) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (30) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

科目名 英語ⅡB <t>

クラス t 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

#### テーマ

Continue to build confidence in oral and written communication in English

#### 授業の目的（獲得目標）

This course will build on the first semester course with the same aim of improve students' self-expression in and understanding of real-life English. This will be a four-skills course with a focus on the productive skills of speaking and writing. This cla

#### 内 容

- 第1回 Clothes and fashion
- 第2回 Language for shopping
- 第3回 Sightseeing & Travel
- 第4回 World countries
- 第5回 National languages, customs and cuisine
- 第6回 Talking about last night
- 第7回 Describing how your week was
- 第8回 Describing memories
- 第9回 Telling stories
- 第10回 Talking about vacations
- 第11回 Weekend activities
- 第12回 Eating habits
- 第13回 Talking about food
- 第14回 Reviewing restaurants
- 第15回 Final Review

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスに

より TOEIC-IP または CASEC を受験します。』)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡB <u>

---

クラス u 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ビショップ マイケル A. C

---

テーマ

Expressing opinions and exchanging ideas

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to help students express their thoughts in English through writing and speaking activities.

---

内 容

第1回 Review of items studied in the previous semester

第2回 Animal Testing

第3回 Animal Testing

第4回 Temporary Workers

第5回 Temporary Workers

第6回 Robot Care

第7回 Robot Care

第8回 College

第9回 College

第10回 Genetically Modified Food

第11回 Genetically Modified Food

第12回 Welfare

第13回 Welfare

第14回 Writing practice of material from previous units

第15回 Writing practice of material from previous units

---

授業以外での学習方法

Students are expected to read extensively in Japanese and in English as a part of their university education.

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (20) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)



## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡB <v>

クラス v 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フリン ハンナ マイケル

## テーマ

Using English for Communication

## 授業の目的（獲得目標）

Improved speaking, listening and writing skills in a communicative context

## 内 容

- 第1回 Houses and Apartments
- 第2回 Furniture in a room
- 第3回 Dream Home
- 第4回 Jobs
- 第5回 Workplaces
- 第6回 Giving opinions about jobs and workplaces
- 第7回 Foods
- 第8回 Likes and dislikes
- 第9回 Eating habits
- 第10回 Popular Sports
- 第11回 Sports talk
- 第12回 Abilities and talents
- 第13回 Months and dates
- 第14回 Birthdays and Plans
- 第15回 Holidays and special occasions

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（35%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（45%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and

vocabulary tests, in class speaking and listening evalua)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語ⅡB <w>

---

クラス w 配当回生 1回生

---

講義期間 通年 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 松村 優子

---

テーマ

映画を利用して、リスニング、語彙力など英語の総合力を伸ばす。

---

授業の目的（獲得目標）

1. 自然な会話の英語に慣れる。 2. 会話頻出表現を学習する。 3. ストーリーを楽しみながら内容理解に努める。

---

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1

第3回 Unit 2

第4回 Unit 3

第5回 Unit 4

第6回 Unit 5

第7回 Unit 6

第8回 Unit 7

第9回 Unit 8

第10回 Unit 9

第11回 Unit 10

第12回 プリント教材等

第13回 プリント教材等

第14回 復習

第15回 復習 授業内容については進度によって変更することがあります。

---

授業以外での学習方法

テキスト付属のCDについて指定個所を聞くこと（詳細は授業内で説明します。）

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20% ※クラ

スにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。J)

科目名 英語ⅡB <x>

クラス x 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西村 尚人

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30％）小テスト（20％）授業中課題（10％）授業中発表等（0％）参加度（20％）備考（「英語テスト20％ ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

科目名 英語ⅡB <y>

クラス y

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

#### 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 櫃本 一美

#### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

#### 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 日常生活 写真描写問題攻略法
- 第3回 場所の描写
- 第4回 人々の描写 応答問題攻略法
- 第5回 旅行で使う表現
- 第6回 ビジネスで使う表現 会話問題攻略法
- 第7回 オフィスにて
- 第8回 テクノロジー関連表現 説明文問題攻略法
- 第9回 人事・管理の表現
- 第10回 物資購入 短文穴埋め問題攻略法
- 第11回 財務関連表現
- 第12回 メディア関連用語 長文穴埋め問題攻略法
- 第13回 娯楽関連表現
- 第14回 健康関連表現 読解問題攻略法
- 第15回 総復習

#### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

科目名 英語ⅡB <z>

クラス z 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 ブライアン・スガイル

## テーマ

Expressing Your Ideas in English

## 授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

## 内 容

第1回 introductions

第2回 classroom English

第3回 Talking about Other Countries-A

第4回 Talking about Other Countries-B

第5回 Talking about Experiences

第6回 Talking about Places

第7回 Travel English: Traveling to Hawaii-A

第8回 Travel English: Traveling to Hawaii-B

第9回 Talking about Japanese Things-A

第10回 Talking about Japanese Things-B

第11回 Talking about Future Events

第12回 Talking about School

第13回 Travel English: Traveling to Thailand

第14回 Talking about Sickness and Health

第15回 review of topics

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（20）小テスト（）授業中課題（30）授業中発表等（）参加度（30）備考（「英語テスト20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

科目名 英語ⅡB

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ〈a〉               |      |     |
| クラス   | a                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 小川 享子                |      |     |

## テーマ

看護のための英語を学んだり、TOEICテスト対策の問題演習を行い、英語の運用力を伸ばそう。

## 授業の目的（獲得目標）

前期同様、このクラスの目的のひとつは、看護のための語彙、表現を学び身につけることにあり、またもうひとつは、TOEICテスト対策、受験を通じて、英語の運用力を伸ばすことにあります。前期に引き続き、さまざまな状況下での看護の英語を学んだり、日常生活、娯楽、職場での会話や、それらに関する広告や通告などの文章を読み、英語運用力（リスニング、リーディング）をさらに伸ばします。今期の英語学習がまとまって英語を学ぶ最後の機会になる受講生もいると思われるので、TOEICテストで、これまでの最高得点が出せるようできる限

## 内 容

- 第1回 後期授業の方法、成績評価についての説明。医療の英語：Providing Meal Assistance
- 第2回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（1, 11, 21, 31）
- 第3回 医療の英語：Rehabilitation 1
- 第4回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（2, 12, 22, 32）
- 第5回 医療の英語：Shampooing in bed
- 第6回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（3, 13, 23, 33）
- 第7回 リーディング：実践形式
- 第8回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（4, 14, 24, 34）
- 第9回 学習事項の復習とまとめ
- 第10回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（5, 15, 25, 35）
- 第11回 リーディング：実践形式
- 第12回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（6, 16, 26, 36）
- 第13回 リーディング：実践形式
- 第14回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（7, 17, 27, 37）
- 第15回 学習事項の復習とまとめ
- 第16回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（8, 18, 28, 38）
- 第17回 リーディング：実践形式（Part5, 6, 7）
- 第18回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（9, 19, 29, 39）
- 第19回 リスニング：テキスト（Score Goals in TOEIC Test Listening 500）のDrill（10, 20, 30, 40）
- 第20回 リーディング：実践形式
- 第21回 リスニング；リーディング演習
- 第22回 リスニング、リーディング：模擬テストに挑戦
- 第23回 リスニング、リーディング：模擬テストに挑戦

- 第 24 回 リスニング、リーディング：模擬テストに挑戦  
第 25 回 リスニング、リーディング：模擬テストに挑戦  
第 26 回 医療の英語：Foot-bath  
第 27 回 医療の英語：Taking a blood sample  
第 28 回 医療の英語：Outpatient clinic  
第 29 回 まとめ  
第 30 回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

リスニング (Score Goals in TOEIC Test Listening 500) は宿題として出す予定。やり方は授業中に説明。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (35) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 授業中課題には宿題の提出、参加度には授業への出席と指名されたときの発表が含まれる。)

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ <b>              |      |     |
| クラス   | b                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 西山 裕子                |      |     |

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第1回 TOEIC概説 クラスルール
- 第2回 Part V 短文穴埋め問題攻略法
- 第3回 Part I 写真描写問題攻略法
- 第4回 文型・名詞の修飾
- 第5回 Part II 応答問題攻略法
- 第6回 Part VI 長文穴埋め問題攻略法
- 第7回 Part III 会話問題攻略法
- 第8回 接続詞・知覚動詞・使役動詞
- 第9回 Part IV 説明文問題攻略法
- 第10回 Part VII 1つの文書 読解問題攻略法
- 第11回 シャドーイングの練習
- 第12回 助動詞・時制
- 第13回 サマライゼーションの練習
- 第14回 Part VII 2つの文書 読解問題攻略法
- 第15回 ディクテーションの練習
- 第16回 前置詞・不定詞
- 第17回 会話の広げ方の練習
- 第18回 スキミングの練習
- 第19回 リンキングの理解
- 第20回 仮定法・受動態
- 第21回 破裂音の聞き取り方
- 第22回 スキャニングの練習
- 第23回 演習問題
- 第24回 動名詞・分詞構文
- 第25回 演習問題
- 第26回 演習問題
- 第27回 演習問題

第 28 回 演習問題

第 29 回 演習問題

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ <c>              |      |     |
| クラス   | c                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 西村 尚人                |      |     |

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 Part V 短文穴埋め問題攻略法
- 第 3 回 Part I 写真描写問題攻略法
- 第 4 回 文型・名詞の修飾
- 第 5 回 Part II 応答問題攻略法
- 第 6 回 Part VI 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 Part III 会話問題攻略法
- 第 8 回 接続詞・知覚動詞・使役動詞
- 第 9 回 Part IV 説明文問題攻略法
- 第 10 回 Part VII 1つの文書 読解問題攻略法
- 第 11 回 シャドーイングの練習
- 第 12 回 助動詞・時制
- 第 13 回 サマライゼーションの練習
- 第 14 回 Part VII 2つの文書 読解問題攻略法
- 第 15 回 ディクテーションの練習
- 第 16 回 前置詞・不定詞
- 第 17 回 会話の広げ方の練習
- 第 18 回 スキミングの練習
- 第 19 回 リンキングの理解
- 第 20 回 仮定法・受動態
- 第 21 回 破裂音の聞き取り方
- 第 22 回 スキャニングの練習
- 第 23 回 演習問題
- 第 24 回 動名詞・分詞構文
- 第 25 回 演習問題
- 第 26 回 演習問題
- 第 27 回 演習問題

第 28 回 演習問題

第 29 回 演習問題

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

|       |                           |      |     |
|-------|---------------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語IV                      |      |     |
| クラス   | e                         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                           | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語 I または英語 II を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                      |      |     |
| 担当者   | クーラン コーリ                  |      |     |

## テーマ

Intermediate English

## 授業の目的（獲得目標）

Enable the students to use English, with a focus on speaking and writing, to apply what they have learned to everyday situations.

## 内 容

- 第1回 Unit 7, Going away, Sections A and B
- 第2回 Unit 7, Going away, Sections C and D
- 第3回 Unit 8, At home, Sections A and B
- 第4回 Unit 8, At home, Sections C and D
- 第5回 Unit 9, Things happen, Sections A and B
- 第6回 Unit 9, Things happen, Sections C and D
- 第7回 Unit 10, Communication, Sections A and B
- 第8回 Video lesson
- 第9回 Unit 10, Communication, Sections C and D
- 第10回 Unit 11, Appearances, Sections A and B
- 第11回 Unit 11, Appearances, Sections C and D
- 第12回 Unit 12, Looking ahead, Sections A and B
- 第13回 Christmas themed lesson
- 第14回 Unit 12, Looking ahead, Sections C and D
- 第15回 Recap and video lesson

## 授業以外での学習方法

Reading/viewing printed and video media as well as accessing Internet URL on the Internet related to ESL learning. These will be provided from time to time in class.

## 教科書

- 書籍 1 : Touchstone 2
- 著者 1 : Michael McCarthy, et al
- 出版社 1 : Cambridge
- 出版年 1 : 2005

## 参考書

書籍1 : Printouts from the teacher

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (25) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (30) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)



## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ                  |      |     |
| クラス   | e                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 久保田 美佳               |      |     |

## テーマ

会話力の基礎を固め、英語で文を作る基本をマスターする

## 授業の目的（獲得目標）

会話のための基本構文を習得し、自ら英文を作るための基礎を学習する。英語Ⅲから引き続き、会話の対訳を使ってスムーズに正しい発音で英語の文が言えるようになること。また、英語の語順に着目した英作文の演習を行い、口頭練習などを通して確実な知識として定着させることを目指す。以下は進度の目安で、状況に応じて増減する場合があります。

## 内 容

- 第1回 授業説明 (16) 空港、機内で (At the Airport and In a Cabin) / 【英作文】: (1) 5つの基本文型を中心とした問題
- 第2回 (17) ホテル、レストラン、買い物 (At the Hotel, Restaurant and Going Shopping) / 【英作文】: (2) 進行形
- 第3回 (18) 電話で (Speaking on the Phone) / 【英作文】: (3) 助動詞
- 第4回 (19) 記号と数字 (Signs and Numbers) / 【英作文】: 復習問題Ⅰ
- 第5回 【英作文】: (4) 受動態
- 第6回 【英作文】: (5) 比較
- 第7回 復習 Ⅰ
- 第8回 【英作文】: (6) 完了時制
- 第9回 【英作文】: (7) 不定詞 (to 不定詞)
- 第10回 【英作文】: (8) 現在分詞と過去分詞
- 第11回 【英作文】: (9) 動名詞
- 第12回 【英作文】: (10) 関係代名詞
- 第13回 【英作文】: (11) 関係副詞
- 第14回 【英作文】: (12) 接続詞
- 第15回 復習 ⅠⅠ

## 授業以外での学習方法

会話部分の音読練習、語句の暗記、英作文のための和文英訳、小テスト等のための自主学習が必要です。

## 教科書

書籍1 : 会話作文への第一歩

著者 1 : 佐々本誠治、津村公博、富士本美矢子、Matt Naiman

出版社 1 : 朝日出版社

出版年 1 : 2009

ISBN1 : 978-4255153025

書籍 2 : 語順が身につく英作文

著者 2 : 登美博之

出版社 2 : 朝日出版社

出版年 2 : 2009

ISBN2 : 978-4255153605

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 (「英語テスト 20% ※ クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 \* この科目では毎授業必ず出席を取ります。 \* 期末試験のほかに随時小テストを行い、中間テストは 11 月上旬を目安に行う予定です。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス f 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 クレイグ ギブス

---

**テーマ**

Four Skills Development in English for Academic Purposes

---

**授業の目的（獲得目標）**

The goal of this course is to improve students' speaking, listening, reading, and writing skills for academic purposes. Syllabus Planning General requirement course intended to consolidate and to extent students' English usage through in-class and homework.

---

**内容**

第1回 Course Introduction

第2回 The Internet

第3回 Weddings

第4回 Music

第5回 Sightseeing

第6回 Shopping

第7回 Customs

第8回 Crime

第9回 New Products

第10回 Global Matters

第11回 Parties

第12回 Skiing

第13回 Dating

第14回 Hospitals

第15回 Employment

---

**授業以外での学習方法**

Details given in class

---

**教科書**

書籍1 : Navigator for the TOEIC Test

著者1 : Beaver, Donald Walker, Michael Mihara, Kei

出版社1 : Nan'un-do

出版年1 : 2006

## 参考書

書籍1 : English-Japanese/Japanese-English electronic or paper dictionary (student' s choice)

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (40%) 備考 (「英語テスト 20% ※  
クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス f 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 金山 敬

---

### テーマ

グローバル社会の中であって、世界の人々と共存し、理解しあうためにコミュニケーションの手段としての英語力を培うことは現代人にとって欠かせないこととなってきました。社会人となって生き生きとたおやかに活躍するために英語力を磨こうではありませんか。

---

### 授業の目的（獲得目標）

英語力、特に読解力と聴解力を伸ばすために写真と最新のニューヨーク事情を伝えたエッセイを教材として実生活に役立つ基礎的な英語学習を目指します。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 LESSON 11

第3回 LESSON 12

第4回 LESSON 13

第5回 LESSON 11～13 REVIEW

第6回 LESSON 14

第7回 LESSON 15

第8回 LESSON 16

第9回 LESSON 14～16 REVIEW

第10回 LESSON 17

第11回 LESSON 18

第12回 LESSON 19

第13回 LESSON 20

第14回 LESSON 17～20 REVIEW

第15回 まとめ

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

書籍1 : IMAGES OF NEW YORK

著者1 : Jim Knudsen 他

出版社1 : 南雲堂

出版年1 : 2004年

## 参考書

---

### 成績評価

試験（10%）小テスト（10%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（英語テスト 20% ※  
クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス g 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 溝部 芳子

---

### テーマ

医療現場、特に看護現場で必要な英語を学ぶ。

---

### 授業の目的（獲得目標）

看護現場における基礎的な英語コミュニケーション能力の習得をめざす。特に話す力、聞く力の向上を目的とする。授業内容・進度はクラスの状況を見て変更する可能性がある。

---

### 内 容

- 第1回 Introduction
  - 第2回 Hospital Departments
  - 第3回 Application Forms
  - 第4回 Parts of the Body
  - 第5回 Illness
  - 第6回 Daily Routine
  - 第7回 Hospital Objects
  - 第8回 Review (1)
  - 第9回 Locations of Hospital Objects
  - 第10回 Hospital Directions and Instructions
  - 第11回 Directions (Outside the Hospital)
  - 第12回 Chatting with a Patient
  - 第13回 Taking a Medical History
  - 第14回 Hospital Procedures
  - 第15回 Review (2)
- 

### 授業以外での学習方法

授業内で指示します。

---

### 教科書

書籍1 : Vital Signs

出版社1 : 南雲堂

### 参考書

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（10%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。出席は毎回とります。積極的な授業参加が求められます。）



## 2010 Syllabus

科目名 英語IV

クラス g 配当回生 2回生

講義期間 定員 30

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

クラス指定 到達度別

担当者 フリン ハンナ マイケル

**テーマ**

Using English for Communication

**授業の目的（獲得目標）**

Improved speaking, listening and writing skills in a communicative context

**内 容**

第1回 Free time

第2回 Past events

第3回 Weekend activities

第4回 Your Neighborhood

第5回 Places in a city

第6回 Asking about quantities

第7回 Appearance and dress

第8回 Identifying people

第9回 Clothing styles

第10回 Have you ever...

第11回 Past experiences

第12回 Unusual Activities

第13回 Health Problems

第14回 Medication and remedies

第15回 Asking for and giving advice

**授業以外での学習方法****教科書**

書籍1 : Interchange Third Edition Student's Book 1

著者1 : Jack C. Richards

出版社1 : Cambridge University Press

ISBN1 : 0521601738

書籍2 : Interchange Third Edition Workbook 1

著者2 : Jack C. Richards

出版社2 : Cambridge University Press

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (35%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (45%) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evalua)

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ                  |      |     |
| クラス   | h                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 田中 美和子               |      |     |

### テーマ

応用が利く英文法の習得

### 授業の目的（獲得目標）

実際に使える文法を習得していく

### 内 容

- 第1回 Introduction Unit7 現在完了1
- 第2回 Unit7 現在完了2
- 第3回 Unit8 比較級
- 第4回 Unit8 最上級
- 第5回 Unit9 動名詞
- 第6回 Unit9 不定詞
- 第7回 Unit10 助動詞1
- 第8回 Unit10 助動詞2
- 第9回 Unit11 受動態1
- 第10回 Unit11 受動態2
- 第11回 Unit12 接続詞
- 第12回 Unit13 関係代名詞
- 第13回 Unit14 名詞節1
- 第14回 Unit14 名詞節2
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

文法問題を繰り返し学習して覚えましょう。

### 教科書

書籍1 : Grammar Compass

著者1 : Kayoko Horiuchi, Kayoko Murakami, Masanori Kayoi

出版社1 : センゲージラーニング株式会社

出版年1 : 2010年

ISBN1 : 9784863121607

**成績評価**

試験（30）小テスト（10）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（20）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 3分の2以上の出席を求めます。授業中に辞書を使いますので、持参してください。）

## 2010 Syllabus

|       |                           |      |     |
|-------|---------------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語IV                      |      |     |
| クラス   | h                         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                           | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語 I または英語 II を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                      |      |     |
| 担当者   | ビショップ マイケル A. C           |      |     |

## テーマ

Developing students' world knowledge of history, geography, and culture.

## 授業の目的（獲得目標）

In this course, students will watch DVDs and use English to write and speak about our world heritage.

## 内 容

- 第1回 Review of items studied in the previous semester
- 第2回 The Medina of Fez
- 第3回 The Medina of Fez
- 第4回 The Royal Palace of Drottningholm
- 第5回 The Royal Palace of Drottningholm
- 第6回 Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia
- 第7回 Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia
- 第8回 Gusuku Sites
- 第9回 Gusuku Sites
- 第10回 The Alambra, Granada
- 第11回 The Alambra, Granada
- 第12回 Te Wahipounamu
- 第13回 Te Wahipounamu
- 第14回 Archaeological Areas of Pompeii
- 第15回 Archaeological Areas of Pompeii

## 授業以外での学習方法

## 教科書

- 書籍 1 : Exploring World Heritage on DVD
- 著者 1 : Hisakazu Tsukano et al.
- 出版社 1 : Seibido
- 出版年 1 : 2010
- ISBN1 : 978-4-7919-3118

## 参考書

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（15%）授業中課題（15%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス i 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 山崎 清水

---

### テーマ

リーディングを主に総合的な英語運用能力を習得

---

### 授業の目的（獲得目標）

平易な文章で書かれた英文を読みながら英語力の向上を目指す

---

### 内 容

- 第1回 The American Character
  - 第2回 Popular Spectator Sports
  - 第3回 September 11: A New Memorial Day
  - 第4回 The U.S. Role in the Middle East
  - 第5回 So Sue Me: Lawsuits
  - 第6回 Sushi & Baseball: How Americans See the Japanese
  - 第7回 Youth Culture
  - 第8回 The World's Policeman?
  - 第9回 The Healthy American?
  - 第10回 Contemporary Families
  - 第11回 The New Patriotism
  - 第12回 Guns and the American Spirit
  - 第13回 Student Life in Universities
  - 第14回 Let Me Help: Volunteering
  - 第15回 Race in America: Melting Pot or Salad Bowl?
- 

### 授業以外での学習方法

テキストの読解部分を宿題として予習すること。詳細は授業で説明する。

---

### 教科書

書籍1 : Eyes on the U.S. — Its Roots & Soul

著者1 : 中川準治/Peter Serafin

出版社1 : 三修社

出版年1 : 2003

### 参考書

---

## 成績評価

試験（40）小テスト（10）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（10）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス i 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 スミス ジョン

---

**テーマ**

English communication

---

**授業の目的（獲得目標）**

Improve English communication

---

**内 容**

- 第1回 News article discussion
  - 第2回 News article discussion
  - 第3回 News article discussion
  - 第4回 News article discussion
  - 第5回 News article discussion
  - 第6回 News article discussion
  - 第7回 News article discussion
  - 第8回 News article discussion
  - 第9回 News article discussion
  - 第10回 News article discussion
  - 第11回 News article discussion
  - 第12回 News article discussion
  - 第13回 News article discussion
  - 第14回 News article discussion
  - 第15回 News article discussion
- 

**授業以外での学習方法**

Preview articles for discussion.

---

**教科書**

- 書籍 1 : What You Got? Workbook 2
- 著者 1 : John Alan Smith
- 出版社 1 : HIGUCHI PRESS, OSAKA, JAPAN
- 出版年 1 : 2010

**参考書**

---

## 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 Active participation is of value.）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス j 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 松村 優子

---

**テーマ**

健康、医療問題に関する英語に慣れる

---

**授業の目的（獲得目標）**

1. 健康、医療関係の語彙を習得する。 2. 健康、医療関係の会話表現を学習する。
- 

**内容**

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 2

第3回 Unit 3

第4回 Unit 4

第5回 Unit 5

第6回 Unit 6

第7回 Unit 7

第8回 Unit 8

第9回 Unit 9

第10回 Unit 10

第11回 Unit 11

第12回 Unit 12

第13回 復習

第14回 復習

第15回 復習 授業内容については進度によって変更することがあります。

---

**授業以外での学習方法**

授業内で説明する。

---

**教科書**

書籍1 : Because We Care

著者1 : 井上真紀他著

出版社1 : Cengage Learning

**参考書**

書籍1 : 授業内で紹介する。

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス j 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ブット ルイズ

---

**テーマ**

English Oral Communication

---

**授業の目的（獲得目標）**

The purpose of this course is to continue developing basic English communication skills. Focusing on interesting topics, this course will indirectly cover basic grammar, functions and vocabulary. It will also help you grow in speaking English confidently.

---

**内容**

- 第1回 Talking about other countries
  - 第2回 Talking about other countries
  - 第3回 Talking about experiences
  - 第4回 Talking about experiences
  - 第5回 Talking about places
  - 第6回 Talking about places
  - 第7回 Travel English Part 1: Traveling to Hawaii
  - 第8回 Travel English Part 1: Traveling to Hawaii
  - 第9回 Talking about Japanese things
  - 第10回 Talking about Japanese things
  - 第11回 Talking about future events
  - 第12回 Talking about future events
  - 第13回 Talking about school
  - 第14回 Talking about school
  - 第15回 Final Review
- 

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

書籍1 : Vital Signs: Essential English for Healthcare Professionals

著者1 : Moroka Sugiura

出版社1 : Naundo

出版年1 : 2009

**成績評価**

試験（40%）小テスト（40%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ <k>              |      |     |
| クラス   | k                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 櫃本 一美                |      |     |

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 Part V 短文穴埋め問題攻略法
- 第 3 回 Part I 写真描写問題攻略法
- 第 4 回 基本文型の理解
- 第 5 回 Part II 応答問題攻略法
- 第 6 回 Part VI 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 Part III 会話問題攻略法
- 第 8 回 名詞の修飾
- 第 9 回 Part IV 説明文問題攻略法
- 第 10 回 Part VII 1つの文書 読解問題攻略法
- 第 11 回 シャドーイングの練習
- 第 12 回 接続詞の理解
- 第 13 回 サマライゼーションの練習
- 第 14 回 Part VII 2つの文書 読解問題攻略法
- 第 15 回 ディクテーションの練習
- 第 16 回 知覚動詞・使役動詞
- 第 17 回 会話の広げ方の練習
- 第 18 回 スキミングの練習
- 第 19 回 リンキングの理解
- 第 20 回 助動詞・時制
- 第 21 回 破裂音の聞き取り方
- 第 22 回 スキャニングの練習
- 第 23 回 演習問題
- 第 24 回 前置詞・不定詞
- 第 25 回 演習問題
- 第 26 回 演習問題
- 第 27 回 演習問題

第 28 回 演習問題

第 29 回 演習問題

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）



|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ                  |      |     |
| クラス   | I                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 原 俊樹                 |      |     |

### テーマ

－英語運用能力・理解力の総仕上げ－（Native English Teacher のクラスの授業内容にも注意すること。）

### 授業の目的（獲得目標）

獲得目標： 英文の解釈・表現の演習を通して、日英双方の表現方法の違いを考えた上で、いつでもどこでも、第二言語として国際的に通用する基本的な英語の理解力・表現力を確実に身に付けて、実用的に使える・productive な英語力を確実に体得し、英語能力の4技能を充実・発展させる。 授業計画：基本的には、英語Ⅲの発展的応用。テキストに沿って行なう。基礎知識確認のための小テストも毎回課す予定。積極的に授業に参加し、様々な分野の情報・世界の情勢を的確に把握する力を身に付ける気概を持ってください。 授業スケジュール

### 内 容

- 第1回 受講生への留意事項伝達。前期の理解度の確認
- 第2回 単文の構造分析の総合的確認 － 文の要素と修飾語句；文型（1）
- 第3回 単文の構造分析の総合的確認 － 文の要素と修飾語句；文型（2）－ 1
- 第4回 単文の構造分析の総合的確認 － 文の要素と修飾語句；文型（2）－ 2
- 第5回 重文の構造分析の総合的確認 － 等位接続詞と省略・語句の接続
- 第6回 複文の構造分析の総合的確認（1） － 従属接続詞とその用法
- 第7回 複文の構造分析の総合的確認（2） － 関係詞とその用法（1） 関係代名詞
- 第8回 複文の構造分析の総合的確認（3） － 関係詞とその用法（2） 関係副詞
- 第9回 句の構造分析の総合的確認（1） － 句の種類と修飾
- 第10回 句の構造分析の総合的確認（2） － 準動詞の句とその用法（1） 分詞・分詞構文・動名詞
- 第11回 句の構造分析の総合的確認（3） － 準動詞の句とその用法（2） 動名詞・不定詞
- 第12回 各自の英語学習法の確立（1）＝基本知識・文法の総整理を踏まえ、日本語と英語の相違をしっかりと考えた上で、個々独自の「英語解釈法・表現法」を身に付ける。
- 第13回 各自の英語学習法の確立（2）
- 第14回 各自の英語学習法の確立（3）
- 第15回 （最終講義日）：後期のまとめ

### 授業以外での学習方法

基本的な課題に対する予習・復習をこなすだけでなく、様々な機会を通して、英語に接する時間を多く持つこと。第2言語として英語を駆使する気構えを持って、授業に臨めるような学習方法を確立してください。 Alk Net Academy やその他の語学関係番組を通してなるべく英語に接する機会を持ってください。 自分の努力が報われるような学習を身に付けなさい。

---

## 教科書

書籍1 : “The Human Touch (ヒューマン・タッチー青春時代の諸問題ー)”

著者1 : W. I. Phillips & F. Nakano (W. I. Phillip & 中野富士雄)

出版社1 : Asahi Press (朝日出版社)

出版年1 : 2009

ISBN1 : ¥1800E

書籍2 : (英語Ⅲ/Ⅳで使用)

## 参考書

書籍1 : 高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等 / 1年次のテキスト・ノート

書籍2 : 中辞典以上の英和・和英・英々辞典 (電子辞書は、確認のためだけに使うこと)

---

## 成績評価

試験 (40%) 小テスト (15%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (5% (座っているだけでは駄目))

備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス I 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ブライアン・スガイル

---

**テーマ**

Expressing More of Your Ideas in English

---

**授業の目的（獲得目標）**

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

---

**内容**

- 第1回 classroom English
  - 第2回 introductions
  - 第3回 Talking about Health-A
  - 第4回 Talking about Health-B
  - 第5回 Suggesting
  - 第6回 Inviting
  - 第7回 Travel English: Restaurants-A
  - 第8回 Travel English: Restaurants-B
  - 第9回 Talking about the Past
  - 第10回 Travel English: Shopping
  - 第11回 Giving Advice
  - 第12回 Talking about Unreal Situations
  - 第13回 Talking about Movies
  - 第14回 Talking about TV
  - 第15回 review of topics
- 

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

書籍1 : Talk a Lot: Book Two – Second Edition

著者1 : David Martin

出版社1 : EFL Press

ISBN1 : 4580244420148

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (20) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス m 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 野口 博代

---

### テーマ

英文読解力の基礎固め

---

### 授業の目的（獲得目標）

現在、アメリカの様々な分野で活躍する人々について書かれた平易な英文を読む作業を通して、語彙力の強化と基本的な構文や文法事項の定着を目指します。

---

### 内 容

第1回 Introductions Arnold Schwarzenegger

第2回 Arnold Schwarzenegger

第3回 Bill Gates

第4回 Bob Dylan

第5回 Calvin Klein

第6回 Sergey Brin & Larry Page

第7回 Review

第8回 Hillary Rodham Clinton

第9回 Jesse Jackson

第10回 Madonna

第11回 Martha Stewart

第12回 Ralph Lauren

第13回 Review

第14回 Stephen King

第15回 Steven Spielberg

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

書籍1 : Cultural Leaders in America Today

著者1 : Edward Hoffman

出版社1 : Asahi Press

出版年1 : 2008

ISBN1 : 9784255154527

**成績評価**

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス m 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ソーソン マーカス

---

**テーマ**

Acting Drama Video

---

**授業の目的（獲得目標）**

This class will practice all the English skills, performing scenes, dialogues and studying vocabulary from a video drama.

---

**内 容**

第1回 Introductions

第2回 Characters

第3回 Pilot

第4回 Natural pronunciation

第5回 Question and Answer

第6回 Vocabulary Review

第7回 Acting scenes

第8回 Reporting

第9回 Story Review

第10回 Last Journals

第11回 Vocabulary

第12回 Who said it?

第13回 Summary

第14回 Performing

第15回 Final Papers

---

**授業以外での学習方法**

Journal writing and Video subtitles method

---

**教科書**

書籍1 : Acting English Drama

著者1 : Makusa Isaac

出版社1 : Big Japan Express

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (20) 小テスト (20) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)



## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ <n>              |      |     |
| クラス   | n                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 西村 尚人                |      |     |

## テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

## 内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 Part V 短文穴埋め問題攻略法
- 第 3 回 Part I 写真描写問題攻略法
- 第 4 回 文型・名詞の修飾
- 第 5 回 Part II 応答問題攻略法
- 第 6 回 Part VI 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 Part III 会話問題攻略法
- 第 8 回 接続詞・知覚動詞・使役動詞
- 第 9 回 Part IV 説明文問題攻略法
- 第 10 回 Part VII 1つの文書 読解問題攻略法
- 第 11 回 シャドーイングの練習
- 第 12 回 助動詞・時制
- 第 13 回 サマライゼーションの練習
- 第 14 回 Part VII 2つの文書 読解問題攻略法
- 第 15 回 ディクテーションの練習
- 第 16 回 前置詞・不定詞
- 第 17 回 会話の広げ方の練習
- 第 18 回 スキミングの練習
- 第 19 回 リンキングの理解
- 第 20 回 仮定法・受動態
- 第 21 回 破裂音の聞き取り方
- 第 22 回 スキャニングの練習
- 第 23 回 演習問題
- 第 24 回 動名詞・分詞構文
- 第 25 回 演習問題
- 第 26 回 演習問題
- 第 27 回 演習問題

第 28 回 演習問題

第 29 回 演習問題

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ                  |      |     |
| クラス   | ○                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 原 俊樹                 |      |     |

## テーマ

－英語運用能力・理解力の総仕上げ－（Native English Teacher のクラスの授業内容にも注意すること。）

## 授業の目的（獲得目標）

獲得目標： 英文の解釈・表現の演習を通して、日英双方の表現方法の違いを考えた上で、いつでもどこでも、第二言語として国際的に通用する基本的な英語の理解力・表現力を確実に身に付けて、実用的に使える・productive な英語力を確実に体得し、英語能力の4技能を充実・発展させる。 授業計画：基本的には、英語Ⅲの発展的応用。テキストに沿って行なう。基礎知識確認のための小テストも毎回課す予定。積極的に授業に参加し、様々な分野の情報・世界の情勢を的確に把握する力を身に付ける気概を持ってください。 授業スケジュール

## 内 容

- 第1回 受講生への留意事項伝達。前期の理解度の確認
- 第2回 単文の構造分析の総合的確認 － 文の要素と修飾語句；文型（1）
- 第3回 単文の構造分析の総合的確認 － 文の要素と修飾語句；文型（2）－ 1
- 第4回 単文の構造分析の総合的確認 － 文の要素と修飾語句；文型（2）－ 2
- 第5回 重文の構造分析の総合的確認 － 等位接続詞と省略・語句の接続
- 第6回 複文の構造分析の総合的確認（1） － 従属接続詞とその用法
- 第7回 複文の構造分析の総合的確認（2） － 関係詞とその用法（1） 関係代名詞
- 第8回 複文の構造分析の総合的確認（3） － 関係詞とその用法（2） 関係副詞
- 第9回 句の構造分析の総合的確認（1） － 句の種類と修飾
- 第10回 句の構造分析の総合的確認（2） － 準動詞の句とその用法（1） 分詞・分詞構文・動名詞
- 第11回 句の構造分析の総合的確認（3） － 準動詞の句とその用法（2） 動名詞・不定詞
- 第12回 各自の英語学習法の確立（1）＝基本知識・文法の総整理を踏まえ、日本語と英語の相違をしっかりと考えた上で、個々独自の「英語解釈法・表現法」を身に付ける。
- 第13回 各自の英語学習法の確立（2）
- 第14回 各自の英語学習法の確立（3）
- 第15回 （最終講義日）：後期のまとめ

## 授業以外での学習方法

基本的な課題に対する予習・復習をこなすだけでなく、様々な機会を通して、英語に接する時間を多く持つこと。第2言語として英語を駆使する気構えを持って、授業に臨めるような学習方法を確立してください。 Alk Net Academy やその他の語学関係番組を通してなるべく英語に接する機会を持ってください。 自分の努力が報われるような学習を身に付けなさい。

---

## 教科書

書籍1 : “The Human Touch (ヒューマン・タッチー青春時代の諸問題ー)”

著者1 : W. I. Phillips & F. Nakano (W. I. Phillip & 中野富士雄)

出版社1 : Asahi Press (朝日出版社)

出版年1 : 2009

ISBN1 : ¥1800E

書籍2 : (英語Ⅲ/Ⅳで使用)

## 参考書

書籍1 : 高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等 / 1年次のテキスト・ノート

書籍2 : 中辞典以上の英和・和英・英々辞典 (電子辞書は、確認のためだけに使うこと)

---

## 成績評価

試験 (40%) 小テスト (15%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (5% (座っているだけでは駄目))

備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス ○ 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ブライアン・スガイル

---

**テーマ**

Expressing More of Your Ideas in English

---

**授業の目的（獲得目標）**

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

---

**内 容**

第1回 introductions

第2回 classroom English

第3回 Talking about Other Countries-A

第4回 Talking about Other Countries-B

第5回 Talking about Experiences

第6回 Talking about Places

第7回 Travel English: Traveling to Hawaii-A

第8回 Travel English: Traveling to Hawaii-B

第9回 Talking about Japanese Things-A

第10回 Talking about Japanese Things-B

第11回 Talking about Future Events

第12回 Talking about School

第13回 Travel English: Traveling to Thailand

第14回 Talking about Sickness and Health

第15回 review of topics

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

書籍1 : Talk a Lot: Book One - Second Edition

著者1 : David Martin

出版社1 : EFL Press

ISBN1 : 4580244420117

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (20) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス p 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 クレイグ ギブス

---

**テーマ**

Four Skills Development in English for Academic Purposes

---

**授業の目的（獲得目標）**

The goal of this course is to improve students' speaking, listening, reading, and writing skills for academic purposes. Syllabus Planning General requirement course intended to consolidate and to extent students' English usage through in-class and homework.

---

**内容**

第1回 Course Introduction

第2回 The Internet

第3回 Weddings

第4回 Music

第5回 Sightseeing

第6回 Shopping

第7回 Customs

第8回 Crime

第9回 New Products

第10回 Global Matters

第11回 Parties

第12回 Skiing

第13回 Dating

第14回 Hospitals

第15回 Employment

---

**授業以外での学習方法**

Details given in class

---

**教科書**

書籍1 : Navigator for the TOEIC Test

著者1 : Beaver, Donald Walker, Michael Mihara, Kei

出版社1 : Nan'un-do

出版年1 : 2006

## 参考書

書籍1 : English-Japanese/Japanese-English electronic or paper dictionary (student' s choice)

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (40%) 備考 (「英語テスト 20% ※  
クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス p 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 金山 敬

---

### テーマ

グローバル社会の中であって、世界の人々と共存し、理解しあうためにコミュニケーションの手段としての英語力を培うことは現代人にとって欠かせないこととなってきました。社会人となって生き生きとたおやかに活躍するために英語力を磨こうではありませんか。

---

### 授業の目的（獲得目標）

英語力、特に読解力と聴解力を伸ばすために写真と最新のニューヨーク事情を伝えたエッセイを教材として実生活に役立つ基礎的な英語学習を目指します。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 LESSON 11

第3回 LESSON 12

第4回 LESSON 13

第5回 LESSON 11～13 REVIEW

第6回 LESSON 14

第7回 LESSON 15

第8回 LESSON 16

第9回 LESSON 14～16 REVIEW

第10回 LESSON 17

第11回 LESSON 18

第12回 LESSON 19

第13回 LESSON 20

第14回 LESSON 17～20 REVIEW

第15回 まとめ

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

書籍1 : IMAGES OF NEW YORK

著者1 : Jim Knudsen 他

出版社1 : 南雲堂

出版年1 : 2004年

## 参考書

---

### 成績評価

試験（10%）小テスト（10%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（英語テスト 20% ※  
クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。）

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ <q>              |      |     |
| クラス   | q                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 櫃本 一美                |      |     |

### テーマ

TOEIC 対策を通じた英語運用能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

TOEIC 試験でスコア 50 点アップを目指す

### 内 容

- 第 1 回 TOEIC 概説 クラスルール
- 第 2 回 Part V 短文穴埋め問題攻略法
- 第 3 回 Part I 写真描写問題攻略法
- 第 4 回 基本文型の理解
- 第 5 回 Part II 応答問題攻略法
- 第 6 回 Part VI 長文穴埋め問題攻略法
- 第 7 回 Part III 会話問題攻略法
- 第 8 回 名詞の修飾
- 第 9 回 Part IV 説明文問題攻略法
- 第 10 回 Part VII 1つの文書 読解問題攻略法
- 第 11 回 シャドーイングの練習
- 第 12 回 接続詞の理解
- 第 13 回 サマライゼーションの練習
- 第 14 回 Part VII 2つの文書 読解問題攻略法
- 第 15 回 ディクテーションの練習
- 第 16 回 知覚動詞・使役動詞
- 第 17 回 会話の広げ方の練習
- 第 18 回 スキミングの練習
- 第 19 回 リンキングの理解
- 第 20 回 助動詞・時制
- 第 21 回 破裂音の聞き取り方
- 第 22 回 スキャニングの練習
- 第 23 回 演習問題
- 第 24 回 前置詞・不定詞
- 第 25 回 演習問題
- 第 26 回 演習問題
- 第 27 回 演習問題

第 28 回 演習問題

第 29 回 演習問題

第 30 回 総復習

---

### 授業以外での学習方法

毎週リスニング等を宿題を課すとともに、毎回小テストを実施する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ                  |      |     |
| クラス   | r                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 山崎 清水                |      |     |

**テーマ**

リーディングを主に総合的な英語運用能力を習得

**授業の目的（獲得目標）**

平易な文章で書かれた英文を読みながら英語力の向上を目指す

**内 容**

- 第1回 The American Character
- 第2回 Popular Spectator Sports
- 第3回 September 11: A New Memorial Day
- 第4回 The U.S. Role in the Middle East
- 第5回 So Sue Me: Lawsuits
- 第6回 Sushi & Baseball: How Americans See the Japanese
- 第7回 Youth Culture
- 第8回 The World's Policeman?
- 第9回 The Healthy American?
- 第10回 Contemporary Families
- 第11回 The New Patriotism
- 第12回 Guns and the American Spirit
- 第13回 Student Life in Universities
- 第14回 Let Me Help: Volunteering
- 第15回 Race in America: Melting Pot or Salad Bowl?

**授業以外での学習方法**

テキストの読解部分を宿題として予習すること。詳細は授業で説明する。

**教科書**

書籍1 : Eyes on the U.S. — Its Roots & Soul

著者1 : 中川準治/Peter Serafin

出版社1 : 三修社

出版年1 : 2003

**参考書**

---

## 成績評価

試験（40）小テスト（10）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（10）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス r 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 スミス ジョン

---

**テーマ**

English communication

---

**授業の目的（獲得目標）**

Improve English communication

---

**内容**

- 第1回 News article discussion
  - 第2回 News article discussion
  - 第3回 News article discussion
  - 第4回 News article discussion
  - 第5回 News article discussion
  - 第6回 News article discussion
  - 第7回 News article discussion
  - 第8回 News article discussion
  - 第9回 News article discussion
  - 第10回 News article discussion
  - 第11回 News article discussion
  - 第12回 News article discussion
  - 第13回 News article discussion
  - 第14回 News article discussion
  - 第15回 News article discussion
- 

**授業以外での学習方法**

Preview articles for discussion.

---

**教科書**

- 書籍 1 : What You Got? Workbook 2
- 著者 1 : John Alan Smith
- 出版社 1 : HIGUCHI PRESS, OSAKA, JAPAN
- 出版年 1 : 2010

**参考書**

---

## 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 Active participation is of value.）



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス s 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 溝部 芳子

---

**テーマ**

英語コミュニケーション能力の向上

---

**授業の目的（獲得目標）**

身近な話題中心のリスニング教材やスクリプト等を使って、特に聞く力と読む力の向上を目的とする。

---

**内 容**

第1回 Introduction

第2回 Unit7: It's my favorite food!

第3回 Unit7: It's my favorite food!

第4回 Unit8: She has blue eyes.

第5回 Unit8: She has blue eyes.

第6回 Unit9: Black T-shirts are trendy.

第7回 Unit9: Black T-shirts are trendy.

第8回 Review 3

第9回 Unit10: It's a great job.

第10回 Unit10: It's a great job.

第11回 Unit11: It'll be hot and humid.

第12回 Unit11: It'll be hot and humid.

第13回 Unit12: Tell me about your friend.

第14回 Unit12: Tell me about your friend.

第15回 Review 2

---

**授業以外での学習方法**

Online のリスニング課題、リーディング課題など授業内で指示します。

---

**教科書**

書籍1 : Sounds Good

著者1 : Ken Beatty

出版社1 : Pearson Longman

**参考書**

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（10%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。出席は毎回とります。積極的な授業参加が求められます。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス s 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 フリン ハンナ マイケル

---

**テーマ**

Using English for Communication

---

**授業の目的（獲得目標）**

Improved speaking, listening and writing skills in a communicative context

---

**内 容**

第1回 Free time

第2回 Past events

第3回 Weekend activities

第4回 Your Neighborhood

第5回 Places in a city

第6回 Asking about quantities

第7回 Appearance and dress

第8回 Identifying people

第9回 Clothing styles

第10回 Have you ever...

第11回 Past experiences

第12回 Unusual Activities

第13回 Health Problems

第14回 Medication and remedies

第15回 Asking for and giving advice

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

書籍1 : Interchange Third Edition Student's Book 1

著者1 : Jack C. Richards

出版社1 : Cambridge University Press

ISBN1 : 0521601738

書籍2 : Interchange Third Edition Workbook 1

著者2 : Jack C. Richards

出版社2 : Cambridge University Press

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (35%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (45%) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evalua)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス t 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 野口 博代

---

### テーマ

基本的な英文法の確認と定着

---

### 授業の目的（獲得目標）

英文読解やリスニング作業など様々なタスクに取り組み、英文法の基礎を固め、定着させることを目指します。

---

### 内 容

第1回 Introductions Unit 12

第2回 Unit 12 / Unit 13

第3回 Unit 13

第4回 Unit 14

第5回 Unit 14 / Unit 15

第6回 Unit 15

第7回 Review

第8回 Unit 16

第9回 Unit 17

第10回 Unit 18

第11回 Unit 19

第12回 Unit 20

第13回 Unit 21

第14回 Unit 22

第15回 Review

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

書籍1 : English Charge

著者1 : Robert Hickling / 市川康弘

出版社1 : 金星堂

出版年1 : 2010

ISBN1 : 9784764738904

### 参考書

---

## 成績評価

試験（20%）小テスト（10%）授業中課題（20%）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス t 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ソーソン マーカス

---

**テーマ**

Acting English Drama

---

**授業の目的（獲得目標）**

This class will practice all the English skills, performing scenes, dialogues and studying vocabulary from a video drama.

---

**内 容**

- 第1回 Review Story
  - 第2回 New Characters
  - 第3回 Into the woods
  - 第4回 Play acting a scene
  - 第5回 The Convention
  - 第6回 Blind Date
  - 第7回 Independence Day
  - 第8回 A Flash
  - 第9回 Crazy
  - 第10回 The New Girl
  - 第11回 Tess, Lies and Video
  - 第12回 Max to Max
  - 第13回 Story telling
  - 第14回 The White Room
  - 第15回 Final Papers
- 

**授業以外での学習方法**

Journal writing and video subtitles method.

---

**教科書**

書籍1 : Acting Video Drama

**参考書**

---

**成績評価**

試験（15）小テスト（20%）授業中課題（15%）授業中発表等（15）参加度（15）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）



## 2010 Syllabus

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス u 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 松村 優子

---

### テーマ

映画を利用して、リスニング、語彙力など英語の総合力を伸ばす。

---

### 授業の目的（獲得目標）

1. 自然な会話の英語に慣れる。 2. 会話頻出表現を学習する。 3. ストーリーを楽しみながら内容理解に努める。

---

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1

第3回 Unit 2

第4回 Unit 3

第5回 Unit 4

第6回 Unit 5

第7回 Unit 6

第8回 Unit 7

第9回 Unit 8

第10回 Unit 9

第11回 Unit 10

第12回 プリント教材等

第13回 プリント教材等

第14回 復習

第15回 復習 授業内容については進度によって変更することがあります。

---

### 授業以外での学習方法

テキスト付属のCDについて指定個所を聞くこと（詳細は授業内で説明します。）

---

### 教科書

書籍1 : The Devil Wears Prada

著者1 : 神谷久美子他著

出版社1 : 松柏社

### 参考書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (15) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス u 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 ブット ルイズ

---

**テーマ**

English Oral Communication

---

**授業の目的（獲得目標）**

The purpose of this course is to continue developing basic English communication skills. Focusing on interesting topics, this course will indirectly cover basic grammar, functions and vocabulary. It will also help you grow in speaking English confidently.

---

**内 容**

- 第1回 Talking about other countries
  - 第2回 Talking about other countries
  - 第3回 Talking about experiences
  - 第4回 Talking about experiences
  - 第5回 Talking about places
  - 第6回 Talking about places
  - 第7回 Travel English Part 1: Traveling to Hawaii
  - 第8回 Travel English Part 1: Traveling to Hawaii
  - 第9回 Talking about Japanese things
  - 第10回 Talking about Japanese things
  - 第11回 Talking about future events
  - 第12回 Talking about future events
  - 第13回 Talking about school
  - 第14回 Talking about school
  - 第15回 Final Review
- 

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

書籍 1 : Talk a Lot Book 1

著者 1 : David Martin

出版社 1 : EFL Press

出版年 1 : 2003

**成績評価**

試験（40%）小テスト（40%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）

---

科目名 英語Ⅳ

---

クラス v 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 田中 美和子

---

### テーマ

応用が利く英文法の習得

---

### 授業の目的（獲得目標）

実際に使える英文法を習得していく

---

### 内 容

第1回 Introduction Unit7 現在完了1

第2回 Unit7 現在完了2

第3回 Unit8 比較級

第4回 Unit8 最上級

第5回 Unit9 動名詞

第6回 Unit9 不定詞

第7回 Unit10 助動詞1

第8回 Unit10 助動詞2

第9回 Unit11 受動態1

第10回 Unit11 受動態2

第11回 Unit12 接続詞

第12回 Unit13 関係代名詞

第13回 Unit14 名詞節1

第14回 Unit14 名詞節2

第15回 まとめ

---

### 授業以外での学習方法

文法問題を繰り返し学習して覚えましょう。

---

### 教科書

書籍1 : Grammar Compass

著者1 : Kayoko Horiuchi, Kayoko Murakami, Masanori Kayoi

出版社1 : センゲージラーニング株式会社

出版年1 : 2010年

ISBN1 : 9784863121607

### 成績評価

試験（30）小テスト（10）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（20）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 全体の 3 分の 2 以上の出席を求めます。辞書は授業中に使いますので、持参してください。）

## 2010 Syllabus

|       |                           |      |     |
|-------|---------------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語IV                      |      |     |
| クラス   | v                         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                           | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語 I または英語 II を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                      |      |     |
| 担当者   | ビショップ マイケル A. C           |      |     |

## テーマ

Developing students' world knowledge of history, geography, and culture.

## 授業の目的（獲得目標）

In this course, students will watch DVDs and use English to write and speak about our world heritage.

## 内 容

- 第1回 Review of items studied in the previous semester
- 第2回 The Medina of Fez
- 第3回 The Medina of Fez
- 第4回 The Royal Palace of Drottningholm
- 第5回 The Royal Palace of Drottningholm
- 第6回 Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia
- 第7回 Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia
- 第8回 Gusuku Sites
- 第9回 Gusuku Sites
- 第10回 The Alambra, Granada
- 第11回 The Alambra, Granada
- 第12回 Te Wahipounamu
- 第13回 Te Wahipounamu
- 第14回 Archaeological Areas of Pompeii
- 第15回 Archaeological Areas of Pompeii

## 授業以外での学習方法

Students are expected to read extensively in Japanese and in English as a part of their university education.

## 教科書

- 書籍1 : Exploring World Heritage on DVD
- 著者1 : Hisakazu Tsukano et al.
- 出版社1 : Seibido
- 出版年1 : 2010
- ISBN1 : 978-4-7919-3118

**成績評価**

試験（30%）小テスト（15%）授業中課題（15%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」）



|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ <w>              |      |     |
| クラス   | w                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 彌永 啓子                |      |     |

### テーマ

TOEIC 試験対策による英語運用能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

トピック別の TOEIC 試験演習やタスク中心の聴き取りを通して、TOEIC600 点以上の英語運用能力獲得を目指します。（以下の予定は学生の状況を考慮しながら変更する可能性があります。）

### 内 容

- 第1回 学習に関するガイダンス
- 第2回 Listening: School Subjects
- 第3回 Listening: Geography
- 第4回 Listening: Housing
- 第5回 Listening: Tours
- 第6回 Listening: Health
- 第7回 Listening: Stress and Relaxation
- 第8回 Listening: Famous Personalities
- 第9回 TOEIC 演習(1)、文法頻出項目(1)
- 第10回 TOEIC 演習(2)、文法頻出項目(2)
- 第11回 TOEIC 演習(3)、文法頻出項目(3)
- 第12回 TOEIC 演習(4)、文法頻出項目(4)
- 第13回 (1)～(4)復習とまとめ
- 第14回 TOEIC 演習(5)、文法頻出項目(5)
- 第15回 TOEIC 演習(6)、文法頻出項目(6)
- 第16回 TOEIC 演習(7)、文法頻出項目(7)
- 第17回 TOEIC 演習(8)、文法頻出項目(8)
- 第18回 (5)～(8)復習とまとめ
- 第19回 弱点補強、文法・語彙問題演習
- 第20回 Mini-TOEIC (1)
- 第21回 TOEIC 演習(9)、読解練習(1)
- 第22回 TOEIC 演習(10)、読解練習(2)
- 第23回 TOEIC 演習(11)、読解練習(3)
- 第24回 読解練習(4)
- 第25回 読解練習(5)
- 第26回 読解練習(6)

第 27 回 Mini-TOEIC (2)

第 28 回 弱点補強、文法・語彙問題演習

第 29 回 模擬試験

第 30 回 模擬試験解説とまとめ

---

### 授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングの宿題を課しますので、これらをきちんとこなしてください。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

---

科目名 英語IV

---

クラス x 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 英語 I または英語 II を修得済みであること。

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 クーラン コーリ

---

**テーマ**

Intermediate English

---

**授業の目的（獲得目標）**

Enable the students to use English, with a focus on speaking and writing, to apply what they have learned to everyday situations.

---

**内 容**

- 第1回 Unit 7, Going away, Sections A and B
  - 第2回 Unit 7, Going away, Sections C and D
  - 第3回 Unit 8, At home, Sections A and B
  - 第4回 Unit 8, At home, Sections C and D
  - 第5回 Unit 9, Things happen, Sections A and B
  - 第6回 Unit 9, Things happen, Sections C and D
  - 第7回 Unit 10, Communication, Sections A and B
  - 第8回 Video lesson
  - 第9回 Unit 10, Communication, Sections C and D
  - 第10回 Unit 11, Appearances, Sections A and B
  - 第11回 Unit 11, Appearances, Sections C and D
  - 第12回 Unit 12, Looking ahead, Sections A and B
  - 第13回 Christmas themed lesson
  - 第14回 Unit 12, Looking ahead, Sections C and D
  - 第15回 Recap and video lesson
- 

**授業以外での学習方法**

Reading/viewing printed and video media as well as accessing Internet URL on the Internet related to ESL learning. These will be provided from time to time in class.

---

**教科書**

書籍 1 : Touchstone 2

著者 1 : Michael McCarthy, et al

出版社 1 : Cambridge

出版年 1 : 2005

## 参考書

書籍1 : Printouts from the teacher

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (25) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (15) 参加度 (30) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」)

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅳ                  |      |     |
| クラス   | x                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |     |
| 担当者   | 久保田 美佳               |      |     |

## テーマ

会話力の基礎を固め、英語で文を作る基本をマスターする

## 授業の目的（獲得目標）

会話のための基本構文を習得し、自ら英文を作るための基礎を学習する。英語Ⅲから引き続き、会話の対訳を使ってスムーズに正しい発音で英語の文が言えるようになること。また、英語の語順に着目した英作文の演習を行い、口頭練習などを通して確実な知識として定着させることを目指す。以下は進度の目安で、状況に応じて増減する場合があります。

## 内 容

- 第1回 授業説明 (16) 空港、機内で (At the Airport and In a Cabin) / 【英作文】: (1) 5つの基本文型を中心とした問題
- 第2回 (17) ホテル、レストラン、買い物 (At the Hotel, Restaurant and Going Shopping) / 【英作文】: (2) 進行形
- 第3回 (18) 電話で (Speaking on the Phone) / 【英作文】: (3) 助動詞
- 第4回 (19) 記号と数字 (Signs and Numbers) / 【英作文】: 復習問題Ⅰ
- 第5回 【英作文】: (4) 受動態
- 第6回 【英作文】: (5) 比較
- 第7回 復習 Ⅰ
- 第8回 【英作文】: (6) 完了時制
- 第9回 【英作文】: (7) 不定詞 (to 不定詞)
- 第10回 【英作文】: (8) 現在分詞と過去分詞
- 第11回 【英作文】: (9) 動名詞
- 第12回 【英作文】: (10) 関係代名詞
- 第13回 【英作文】: (11) 関係副詞
- 第14回 【英作文】: (12) 接続詞
- 第15回 復習 ⅠⅠ

## 授業以外での学習方法

会話部分の音読練習、語句の暗記、英作文のための和文英訳、小テスト等のための自主学習が必要です。

## 教科書

書籍1 : 会話作文への第一歩

著者 1 : 佐々本誠治、津村公博、富士本美矢子、Matt Naiman

出版社 1 : 朝日出版社

出版年 1 : 2009

ISBN1 : 978-4255153025

書籍 2 : 語順が身につく英作文

著者 2 : 登美博之

出版社 2 : 朝日出版社

出版年 2 : 2009

ISBN2 : 978-4255153605

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 (「英語テスト 20% ※ クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 \* この科目では毎授業必ず出席を取ります。 \* 期末試験のほかに随時小テストを行い、中間テストは 11 月上旬を目安に行う予定です。)

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |      |
|-------|----------------------|------|------|
| 科目名   | 英語Ⅳ 〈R a〉            |      |      |
| クラス   | R a                  | 配当回生 | 2 回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 30   |
| 履修条件  | 英語Ⅰまたは英語Ⅱを修得済みであること。 |      |      |
| クラス指定 | 到達度別                 |      |      |
| 担当者   | 杉山 泰                 |      |      |

## テーマ

文化的基礎知識 (Cultural Literacy) を最大限利用しながら、基礎英語で日本文化を発信していく。

## 授業の目的 (獲得目標)

日本語は世界の 6000 語の言語の中で 10 位以内に入る大言語であり、人口も 193 の国連加盟国の中で 10 位に位置している。日本食も国連で Macrobiotics として健康食と認められ、トム・クルーズもマドンナも実践している。寿司バーも世界中にあり、ミッシェランの三つ星のレストランも日本には数多くある。寿司やすき焼きは sushi, sukiyaki でも通じるが、「ご飯」や「おでん」や「お好み焼き」をやさしい英語でどう表現すればいいのか。「うどん」や「そば」や「ラーメン」、さらには「鳥居」「風呂敷」「密教」など日

## 内 容

- 第1回 自己紹介 (I am Japanese. I am interested in Japanese Buddhism.)
- 第2回 Lesson 1 There is 構文。京都には何があるか。また、何があったのか。空海の密教はどんなものか。
- 第3回 日英対照文法。「ある」と「いる」の区別と am, are, is の区別をどう説明する? 「be 動詞」の英作文。
- 第4回 Lesson 2 Reading (新しい卵はなぜ沈む) オノマトピア研究。なぜ日本語には擬態語が多いのか?
- 第5回 比較級 the+比較級, the+比較級構文。日本語に比較級はあるのか? 「そっちがうまい」
- 第6回 Lesson 3 「こ・そ・あ・ど」体系の日本語。「生か死か、それが問題だ」=That is the question.
- 第7回 新聞社の英語試験 (時事英語研究)
- 第8回 Lesson 4 受け身構文。「能動態と受動態」
- 第9回 There is no need 構文での発信型英語。There is no life without death. (仏教の説明に最適)
- 第10回 Lesson 5 同格の that 構文。I have a feeling that she will leave him. (英作に便利な that)
- 第11回 I have a feeling that... 構文を用いての、発信型英語。(～という気がする)
- 第12回 Lesson 6 現在分詞と過去分詞 (現在進行形と受動態と完了形)
- 第13回 発信型英語。Have you eaten okonomiyaki, or Japanese pancakes?
- 第14回 Lesson 7 分詞構文。オバマ大統領が好む「分詞構文」の研究。
- 第15回 分詞構文による英作。日本料理の英語。「現在完了形」を使った発信型英語。
- 第16回 Lesson 8 仮定法。仮定法過去と仮定法過去完了の違い。日本語になぜ仮定法がないのか?
- 第17回 仮定法による英作。Basic English の研究。ことわざ研究。
- 第18回 Lesson 9 接続詞。接続詞を用いた It is... that... の構文と「強調構文」の見分け方。
- 第19回 接続詞を用いた論理的英語。Why... because 論理で英語を書こう。
- 第20回 Lesson 10 形容詞の研究。比較級を用いての英作。
- 第21回 日本語に比較級はあるか。Second best という発想がない日本語の弱点。
- 第22回 Lesson 11 動名詞構文。I have a lot of fun visiting British Museum.

- 第 23 回 動名詞構文の英作。(Mind, miss, enjoy, give up, avoid, finish, escape, practice, stop)
- 第 24 回 Lesson 12 動詞+er=～する人 He is a trouble maker. 構文による英作。
- 第 25 回 S+V+C 構文を利用した英作。(maker, reader, user, worker, player, attacker, receiver,)
- 第 26 回 Lesson 13 節と句。That... 構文と「前置詞+名詞」構文。
- 第 27 回 前置詞の次には必ず名詞がくる。日本語の「て、に、を、は」と英語の前置詞。
- 第 28 回 Lesson 14 日本語にない不定冠詞と定冠詞。英語では「名詞を裸にするな」。
- 第 29 回 主語、時制、名詞の数のチェックを必ずする。発信型の英作。
- 第 30 回 発信型英語の総まとめ。やさしい英語での日本文化紹介を書いてもらう。
- 

### 授業以外での学習方法

NHK のラジオ英語講座、テレビ英語講座を聞いてもらう。また、週間英字新聞の切り抜きをしてもらう。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (30) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20) 備考 (「英語テスト 20% ※クラスにより TOEIC-IP または CASEC を受験します。」 毎回宿題のプリントをやってもらうので、欠席した学生は必ず翌週、そのプリントをもらい、遅れとして提出すること。)



## 2010 Syllabus

|       |        |      |     |
|-------|--------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅴ〈a〉 |      |     |
| クラス   | a      | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期     | 定員   | 30  |
| 履修条件  |        |      |     |
| クラス指定 |        |      |     |
| 担当者   | 彌永 啓子  |      |     |

## テーマ

TOEIC 試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

7月のTOEIC試験で700点以上を目指します。英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC600点以上の学生が対象となります。600点未満で履修を希望する場合には、必ず事前に担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。【注意事項】英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります（aからb、bからa）ので注意してください。英語コミュニケーション学科新2回生は、英語ⅤⅥの受講は3回生

## 内 容

- 第1回 受講に際しての留意点、TOEIC試験対策のための英語学習に関する全般的な指導
- 第2回 写真問題演習1、文法頻出項目1
- 第3回 写真問題演習2、文法頻出項目2
- 第4回 応答問題演習1、文法頻出項目3
- 第5回 応答問題演習2、文法頻出項目4
- 第6回 応答問題演習3、文法頻出項目5
- 第7回 応答問題演習4、文法頻出項目まとめ1
- 第8回 会話問題演習1、文法頻出項目6
- 第9回 会話問題演習2、文法頻出項目7
- 第10回 会話問題演習3、文法頻出項目8
- 第11回 会話問題演習4、文法頻出項目9
- 第12回 会話問題演習5、文法頻出項目10
- 第13回 既出語彙のまとめ、文法頻出項目まとめ2
- 第14回 アナウンス問題演習1、広告文
- 第15回 アナウンス問題演習2、オフィス文書1
- 第16回 アナウンス問題演習3、オフィス文書2
- 第17回 アナウンス問題演習4、告知文1
- 第18回 アナウンス問題演習5、告知文2
- 第19回 既出語彙のまとめ、文法項目総合問題
- 第20回 リスニング総合1、e-mailと返信1
- 第21回 リスニング総合2、e-mailと返信2
- 第22回 リスニング総合3、e-mailと添付書類1
- 第23回 リスニング総合4、e-mailと添付書類2

第 24 回 リスニング総合 5、既出語彙のまとめ

第 25 回 模擬試験演習 1

第 26 回 模擬試験解答解説

第 27 回 弱点補強

第 28 回 模擬試験演習 2

第 29 回 模擬試験解答解説

第 30 回 弱点補強

---

### 授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施します。又、毎週リスニングを中心とする宿題を課します。これらをしっかりとこなすようにしてください。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (20) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 備考 (試験は7月の土曜日に実施予定の TOEIC-IP 試験結果に基づくものとしますので、受講者は全員これを受験しなければなりません。このため、別途 IP 受験料が徴収されることとなりますので注意して下さい。)

|       |         |      |     |
|-------|---------|------|-----|
| 科目名   | 英語Ⅴ <b> |      |     |
| クラス   | b       | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期      | 定員   | 30  |
| 履修条件  |         |      |     |
| クラス指定 |         |      |     |
| 担当者   | 彌永 啓子   |      |     |

### テーマ

TOEIC 試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

7月のTOEIC試験で600点以上を目指します。英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC500点以上の学生が対象となります。500点未満で履修を希望する場合には、必ず事前に担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。【注意事項】英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります（aからb、bからa）ので注意してください。英語コミュニケーション学科新2回生は、英語ⅤⅥの受講は3回生

### 内容

- 第1回 受講に際しての留意点、TOEIC試験対策のための英語学習に関する全般的な指導
- 第2回 Part 1 の出題パターンと演習
- 第3回 Part 2 の出題パターンと演習
- 第4回 Part 3 の出題パターンと演習
- 第5回 Part 4 の出題パターンと演習
- 第6回 シーン別総合演習 (Travel)
- 第7回 シーン別総合演習 (Daily Life)
- 第8回 シーン別総合演習 (Health)
- 第9回 シーン別総合演習 (Eating Out)
- 第10回 シーン別総合演習 (Event)
- 第11回 まとめと復習、頻出文法項目演習
- 第12回 シーン別総合演習 (Entertainment)
- 第13回 シーン別総合演習 (Media)
- 第14回 シーン別総合演習 (Office)
- 第15回 シーン別総合演習 (Personnel)
- 第16回 シーン別総合演習 (Finance)
- 第17回 まとめと復習、頻出文法項目演習
- 第18回 シーン別総合演習 (Sales Promotion)
- 第19回 シーン別総合演習 (Purchasing)
- 第20回 シーン別総合演習 (Employment)
- 第21回 シーン別総合演習 (Training)
- 第22回 シーン別総合演習 (Management)
- 第23回 まとめと復習、頻出文法項目演習

- 第 24 回 Part 2, 長文統合問題演習 (1)
  - 第 25 回 Part 3, 長文統合問題演習 (2)
  - 第 26 回 Part 4, 長文統合問題演習 (3)
  - 第 27 回 模擬試験練習 (1)
  - 第 28 回 解答解説、弱点補強
  - 第 29 回 模擬試験練習 (2)
  - 第 30 回 解答解説、弱点補強
- 

### **授業以外での学習方法**

毎回語彙テストを実施します。又、毎週リスニングを中心とする宿題を課します。これらをしっかりとこなすようにしてください。

---

### **教科書**

### **参考書**

---

### **成績評価**

試験 (20) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 備考 (試験は7月の土曜日に実施予定の TOEIC-IP 試験結果の基づくものとしますので、受講者は全員これを受験しなければなりません。このため、別途 IP 受験料が徴収されることとなりますので注意して下さい。)

科目名 英語VI <a>

クラス a

配当回生 2回生

講義期間 後期

定員 30

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 彌永 啓子

#### テーマ

TOEIC 試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

#### 授業の目的（獲得目標）

12月のTOEIC試験で750点以上を目指します。英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC650点以上の学生が対象となります。650点未満で履修を希望する場合には、必ず事前に担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。【注意事項】英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります（aからb、bからa）ので注意してください。英語コミュニケーション学科新2回生は、英語VVIの受講は3回

#### 内容

第1回 受講に際しての留意点、TOEIC試験対策のための英語学習に関する全般的な指導

第2回 写真問題の留意点、文法頻出項目1

第3回 応答問題の留意点、文法頻出項目2

第4回 会話問題の留意点、文法頻出項目3

第5回 アナウンス問題の留意点、文法頻出項目4

第6回 リスニング実践演習、文法頻出項目総合

第7回 リスニング実践演習、典型的な文書1

第8回 リスニング実践演習、典型的な文書2

第9回 リスニング実践演習、典型的な文書3

第10回 リスニング実践演習、典型的な文書4

第11回 Part 2 実践演習、文法実践演習

第12回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ

第13回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ

第14回 Part 2 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ

第15回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ

第16回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ

第17回 Part 2 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ

第18回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ

第19回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ

第20回 Part 2 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ

第21回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ

第22回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ

第23回 模擬試験1

- 第 24 回 模擬試験解説と弱点補強
  - 第 25 回 Part 2 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ
  - 第 26 回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
  - 第 27 回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
  - 第 28 回 模擬試験 2
  - 第 29 回 模擬試験解答解説
  - 第 30 回 文法最終実践演習による弱点強化
- 

### 授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施します。又、毎週リスニングを中心とする宿題を課します。これらをしっかりとこなすようにしてください。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (20) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 備考 (試験は 12 月の土曜日に実施予定の TOEIC-IP 試験結果に基づくものとしますので、受講者は全員これを受験しなければなりません。このため、別途 IP 受験料が徴収されることとなりますので注意して下さい。)

## 2010 Syllabus

|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 英語VI <b> |      |     |
| クラス   | b        | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期       | 定員   | 30  |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 |          |      |     |
| 担当者   | 彌永 啓子    |      |     |

## テーマ

TOEIC 試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

12月のTOEIC試験で650点以上を目指します。英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず事前に担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。【注意事項】英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります（aからb、bからa）ので注意してください。英語コミュニケーション学科新2回生は、英語VVIの受講は3回

## 内 容

- 第1回 受講に際しての留意点、TOEIC試験対策のための英語学習に関する全般的な指導
- 第2回 写真問題の留意点、文法頻出項目1
- 第3回 応答問題の留意点、文法頻出項目2
- 第4回 会話問題の留意点、文法頻出項目3
- 第5回 アナウンス問題の留意点、文法頻出項目4
- 第6回 リスニング実践演習、文法頻出項目総合
- 第7回 リスニング実践演習、典型的な文書1
- 第8回 リスニング実践演習、典型的な文書2
- 第9回 リスニング実践演習、典型的な文書3
- 第10回 リスニング実践演習、典型的な文書4
- 第11回 Part 2 実践演習、文法実践演習
- 第12回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第13回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第14回 Part 2 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第15回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第16回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第17回 Part 2 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第18回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第19回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第20回 Part 2 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第21回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第22回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第23回 模擬試験1

- 第 24 回 模擬試験解説と弱点補強
  - 第 25 回 Part 2 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ
  - 第 26 回 Part 3 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
  - 第 27 回 Part 4 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
  - 第 28 回 模擬試験 2
  - 第 29 回 模擬試験解答解説
  - 第 30 回 文法最終実践演習による弱点強化
- 

### **授業以外での学習方法**

毎回語彙テストを実施します。又、毎週リスニングを中心とする宿題を課します。これらをしっかりとこなすようにしてください。

---

### **教科書**

### **参考書**

---

### **成績評価**

試験 (20) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 備考 (試験は 12 月の土曜日に実施予定の TOEIC-IP 試験結果に基づくものとしますので、受講者は全員これを受験しなければなりません。このため、別途 IP 受験料が徴収されることとなりますので注意して下さい。)



---

科目名 English Speaking <a>

---

クラス a 配当回生 1回生

---

講義期間 通年 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 フライアンハスガイル

---

テーマ

Daily English

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to help students become used to speaking English fluently.

---

内 容

第1回 classroom English

第2回 introductions

第3回 student interviews

第4回 food

第5回 Japan

第6回 shopping

第7回 music

第8回 transportation

第9回 work

第10回 family

第11回 travel

第12回 Europe

第13回 famous people

第14回 current events

第15回 review of topics

第16回 classroom English review

第17回 reacquainting

第18回 recent experiences

第19回 sports

第20回 home

第21回 health

第22回 entertainment

第23回 animals

第24回 weather

第25回 America

第26回 superstitions

第27回 education

第 28 回 nationalities

第 29 回 student-generated worksheets

第 30 回 review of topics

---

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (20) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | English Speaking <b> |      |     |
| クラス   | b                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 通年                   | 定員   | 40  |
| 履修条件  |                      |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | フォスター ヘンリー           |      |     |

---

**テーマ**

Practical oral communication skills in English

---

**授業の目的（獲得目標）**

This course aims to improve the ability to communicate naturally in English through intensive interaction and listening-for-speaking practice. This class will require regular attendance, regular homework submission, active participation and interaction wi

---

**内 容**

第1回 Spelling and numbers

第2回 Countries and languages

第3回 Locations

第4回 Actions

第5回 Review 1

第6回 Occupations

第7回 Free time activities

第8回 Possessions

第9回 Buying things

第10回 Review 2

第11回 The past: Where were you?

第12回 The past: What did you do?

第13回 Making plans

第14回 On the telephone

第15回 Review 3

第16回 Abilities

第17回 Personal information

第18回 Time and date

第19回 Daily routines

第20回 Review 4

第21回 Location and moving things

第22回 Directions

第23回 Describing people

第24回 Talking about family

第25回 Review 5

第 26 回 Likes and dislikes

第 27 回 The future

第 28 回 The past

第 29 回 In a restaurant

第 30 回 Review 6

---

## 授業以外での学習方法

---

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (15) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 (0) 参加度 (55) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 English Speaking

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|     |                 |
|-----|-----------------|
| 科目名 | English Writing |
|-----|-----------------|

|     |      |     |
|-----|------|-----|
| クラス | 配当回生 | 1回生 |
|-----|------|-----|

|      |    |    |    |
|------|----|----|----|
| 講義期間 | 通年 | 定員 | 40 |
|------|----|----|----|

履修条件

クラス指定

|     |       |      |
|-----|-------|------|
| 担当者 | フォスター | ヘンリー |
|-----|-------|------|

テーマ

Learn basic English composition through writing about your world

**授業の目的（獲得目標）**

This course will build the skills necessary for writing English paragraphs and help learners become confident and independent writers. Regular attendance, homework submission and interaction with classmates is required. このコースは、英語の短作文（パラグラフィティング）の基礎を学習し、

**内 容**

- 第1回 Introduction: sentences & paragraphs
- 第2回 Writing about a classmate
- 第3回 Family: reading/analyzing/prewriting
- 第4回 Family: peer reading & revising
- 第5回 Family: grammar/editing
- 第6回 Favorite activities: reading/analyzing/prewriting
- 第7回 Favorite activities: peer reading & revising
- 第8回 Favorite activities: grammar/editing
- 第9回 Your day: reading/analyzing/prewriting
- 第10回 Your day: peer reading & revising
- 第11回 Your day: grammar/editing
- 第12回 Descriptions: reading/analyzing/prewriting
- 第13回 Descriptions: peer reading & revising
- 第14回 Descriptions: grammar/editing
- 第15回 Review
- 第16回 Introduction: Your summer vacation
- 第17回 Places: reading/analyzing/prewriting
- 第18回 Places: peer reading & revising
- 第19回 Places: grammar/editing
- 第20回 Instructions: reading/analyzing/prewriting
- 第21回 Instructions: peer reading & revising
- 第22回 Instructions: grammar/editing
- 第23回 Narratives: reading/analyzing/prewriting
- 第24回 Narratives: peer reading & revising
- 第25回 Narratives: grammar/editing

第26回 Opinion: reading/analyzing/prewriting

第27回 Opinion: peer reading & revising

第28回 Opinion: grammar/editing

第29回 Reflection: looking back on the year

第30回 Looking ahead

---

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (15) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (45) 備考 ( )

科目名 英語臨地演習

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 人生論概説

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化と社会 I (日本)

クラス

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 情報処理演習 I <a>

クラス a 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 座古 亜紀

#### テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

#### 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

#### 内 容

第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴

第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス

第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット

第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力

第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存

第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成

第 7 回 Word2003 (4) 練習問題

第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作

第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数

第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集

第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題

第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成

第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定

第 14 回 総復習

第 15 回 テストとまとめ

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |              |      |      |
|-------|--------------|------|------|
| 科目名   | 情報処理演習 I <b> |      |      |
| クラス   | b            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40   |
| 履修条件  |              |      |      |
| クラス指定 | 大学指定         |      |      |
| 担当者   | 小田内 尚美       |      |      |

## テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

## 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <c>

クラス c 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 座古 亜紀

## テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

## 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )



|       |              |      |      |
|-------|--------------|------|------|
| 科目名   | 情報処理演習 I <d> |      |      |
| クラス   | d            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40   |
| 履修条件  |              |      |      |
| クラス指定 | 大学指定         |      |      |
| 担当者   | 小田内 尚美       |      |      |

### テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

### 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

### 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|             |              |      |      |
|-------------|--------------|------|------|
| 科目名         | 情報処理演習 I <e> |      |      |
| クラス         | e            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40   |
| <b>履修条件</b> |              |      |      |
| クラス指定       | 大学指定         |      |      |
| 担当者         | 座古 亜紀        |      |      |

**テーマ**

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

**授業の目的（獲得目標）**

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

**内 容**

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

**授業以外での学習方法****教科書**

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 情報処理演習 I < f >

クラス f 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小田内 尚美

## テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

## 内 容

第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴

第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス

第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット

第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力

第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存

第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成

第 7 回 Word2003 (4) 練習問題

第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作

第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数

第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集

第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題

第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成

第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定

第 14 回 総復習

第 15 回 テストとまとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

|             |              |      |      |
|-------------|--------------|------|------|
| 科目名         | 情報処理演習 I <g> |      |      |
| クラス         | g            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40   |
| <b>履修条件</b> |              |      |      |
| クラス指定       | 大学指定         |      |      |
| 担当者         | 座古 亜紀        |      |      |

### テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

### 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

### 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <h>

クラス h 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 吉野 衣美

## テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

## 内 容

第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴

第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス

第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット

第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力

第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存

第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成

第 7 回 Word2003 (4) 練習問題

第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作

第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数

第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集

第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題

第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成

第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定

第 14 回 総復習

第 15 回 テストとまとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習 I <i>

クラス i 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 座古 亜紀

#### テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

#### 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

#### 内 容

第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴

第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス

第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット

第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力

第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存

第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成

第 7 回 Word2003 (4) 練習問題

第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作

第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数

第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集

第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題

第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成

第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定

第 14 回 総復習

第 15 回 テストとまとめ

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <j>

クラス j 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 吉野 衣美

## テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

## 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習 I <k>

クラス k 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 座古 亜紀

#### テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

#### 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

#### 内 容

第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴

第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス

第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット

第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力

第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存

第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成

第 7 回 Word2003 (4) 練習問題

第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作

第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数

第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集

第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題

第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成

第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定

第 14 回 総復習

第 15 回 テストとまとめ

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <I>

クラス I 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 吉野 衣美

## テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

## 内 容

第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴

第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス

第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット

第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力

第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存

第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成

第 7 回 Word2003 (4) 練習問題

第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作

第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数

第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集

第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題

第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成

第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定

第 14 回 総復習

第 15 回 テストとまとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|             |              |      |      |
|-------------|--------------|------|------|
| 科目名         | 情報処理演習 I <m> |      |      |
| クラス         | m            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40   |
| <b>履修条件</b> |              |      |      |
| クラス指定       | 大学指定         |      |      |
| 担当者         | 吉野 衣美        |      |      |

**テーマ**

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

**授業の目的（獲得目標）**

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

**内 容**

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

**授業以外での学習方法****教科書**

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

|             |              |      |      |
|-------------|--------------|------|------|
| 科目名         | 情報処理演習 I <n> |      |      |
| クラス         | n            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40   |
| <b>履修条件</b> |              |      |      |
| クラス指定       | 大学指定         |      |      |
| 担当者         | 小田内 尚美       |      |      |

### テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

### 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

### 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <○>

クラス ○ 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 吉野 衣美

## テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

## 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|       |              |      |      |
|-------|--------------|------|------|
| 科目名   | 情報処理演習 I <p> |      |      |
| クラス   | p            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40   |
| 履修条件  |              |      |      |
| クラス指定 | 大学指定         |      |      |
| 担当者   | 小田内 尚美       |      |      |

## テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

## 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |              |      |      |
|-------|--------------|------|------|
| 科目名   | 情報処理演習 I <q> |      |      |
| クラス   | q            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40   |
| 履修条件  |              |      |      |
| クラス指定 | 大学指定         |      |      |
| 担当者   | 吉野 衣美        |      |      |

## テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

## 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習 I <r>

クラス r 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小田内 尚美

#### テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

#### 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

#### 内 容

第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴

第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウィルス、不正アクセス

第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット

第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力

第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存

第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成

第 7 回 Word2003 (4) 練習問題

第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作

第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数

第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集

第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題

第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成

第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定

第 14 回 総復習

第 15 回 テストとまとめ

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 情報処理演習Ⅱ〈a〉 |      |     |
| クラス   | a          | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   | 40  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 大学指定       |      |     |
| 担当者   | 座古 亜紀      |      |     |

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法



## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ <b> |      |     |
| クラス         | b           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 小田内 尚美      |      |     |

### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

### 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 情報処理演習Ⅱ <c> |      |     |
| クラス   | c           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 40  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 大学指定        |      |     |
| 担当者   | 座古 亜紀       |      |     |

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ <d> |      |     |
| クラス         | d           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 小田内 尚美      |      |     |

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 情報処理演習Ⅱ <e> |      |     |
| クラス   | e           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 40  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 大学指定        |      |     |
| 担当者   | 座古 亜紀       |      |     |

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法



## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |               |      |     |
|-------------|---------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ < f > |      |     |
| クラス         | f             | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期            | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |               |      |     |
| クラス指定       | 大学指定          |      |     |
| 担当者         | 小田内 尚美        |      |     |

### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

### 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ <g> |      |     |
| クラス         | g           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 座古 亜紀       |      |     |

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ <h> |      |     |
| クラス         | h           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 吉野 衣美       |      |     |

### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メールを活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

### 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習Ⅱ <i>

クラス i 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 40

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 座古 亜紀

#### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

#### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

#### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

#### 授業以外での学習方法



## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習Ⅱ <j>

クラス j 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 40

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 吉野 衣美

#### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

#### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

#### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

#### 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ <k> |      |     |
| クラス         | k           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 座古 亜紀       |      |     |

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習Ⅱ〈I〉

クラス I 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 40

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 吉野 衣美

#### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

#### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

#### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

#### 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習Ⅱ <m>

クラス m 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 40

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 吉野 衣美

#### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

#### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

#### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メールを活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

#### 授業以外での学習方法



## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ <n> |      |     |
| クラス         | n           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 小田内 尚美      |      |     |

### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

### 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 情報処理演習Ⅱ <○> |      |     |
| クラス   | ○           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 40  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 大学指定        |      |     |
| 担当者   | 吉野 衣美       |      |     |

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ <p> |      |     |
| クラス         | p           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 小田内 尚美      |      |     |

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ <q> |      |     |
| クラス         | q           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 吉野 衣美       |      |     |

### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メールを活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

### 授業以外での学習方法



## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 情報処理演習Ⅱ <r> |      |     |
| クラス         | r           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 小田内 尚美      |      |     |

### テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

### 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

### 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

### 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 情報処理演習Ⅳ

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 情報処理演習Ⅳ

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 情報処理演習Ⅳ

クラス d 配当回生 1回生

講義期間 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 情報処理演習Ⅴ

クラス d 配当回生 1回生

講義期間 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

---

科目名 情報処理演習Ⅴ

---

クラス e 配当回生 1回生

---

講義期間 定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 情報処理演習Ⅴ

クラス f

配当回生 1回生

講義期間

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 情報処理演習VI

クラス d 配当回生 1回生

講義期間 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 情報処理演習VI

クラス e 配当回生 1回生

講義期間 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 情報処理演習VI

クラス f

配当回生 1回生

講義期間

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 情報処理演習Ⅶ

---

クラス b

配当回生 1回生

---

講義期間

定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 松永 順子

---

テーマ

データベースによるデータの管理と操作

---

### 授業の目的（獲得目標）

(1) Access によるデータベースの作成・操作ができることを目指す。(2) SQL によるデータベースの作成・操作ができることを目指す。〔授業計画〕 情報技術の飛躍的な向上により、企業内には顧客情報・売上情報など多種多様のデータが大量に日々蓄積されています。特定のテーマや目的にそって集められたデータの集まりを「データベース」といい、データベースを作成・管理するソフトウェアを「データベースソフトウェア」といいます。このデータベースの概念を理解し、効率的に操作する実力をつけることが、現在の企業活動の中では

---

### 内 容

第1回 データベースの概要・設計と作成、テーブルの作成

第2回 テーブル作成

第3回 クエリ

第4回 フォーム

第5回 "

第6回 クエリの応用

第7回 集計クエリ

第8回 レポートの作成

第9回 レポートの編集

第10回 リレーションシップと参照整合性

第11回 アクションクエリの基礎

第12回 メイン・サブフォームの基礎

第13回 Access-SQL ビューでの SQL 基本操作

第14回 SQL によるデータベースの作成

第15回 まとめとレポート作成

---

### 授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

---

### 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 情報処理演習Ⅷ

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

---

科目名 情報処理演習Ⅹ

---

クラス c 配当回生 1回生

---

講義期間 定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 情報リテラシー I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 情報リテラシーⅡ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 情報リテラシーⅢ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 情報リテラシーⅣ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 フランス語 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 志賀 亮一

テーマ

フランス語の基礎（その1）

授業の目的（獲得目標）

フランス語の発音と、文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

内 容

第1回 ガイダンス：講義「フランス語とはどんな言語か？」＋授業の進め方

第2回 フランス語のアルファベット：文字の呼び方と筆記体

第3回 発音記号と発音の仕方①：母音

第4回 発音記号と発音の仕方②：鼻母音と子音

第5回 名詞の変化：性と数

第6回 不定冠詞の変化

第7回 定冠詞の変化

第8回 品質形容詞の変化①

第9回 品質形容詞の変化②

第10回 不規則動詞 *etre* の直説法現在①

第11回 不規則動詞 *etre* の直説法現在②＋第1章リーダー

第12回 不規則動詞 *avoir* の直説法現在①

第13回 不規則動詞 *avoir* の直説法現在②

第14回 第一群規則動詞の直説法現在①

第15回 第一群規則動詞の直説法現在②

第16回 第2章リーダー＋基数形容詞

第17回 所有形容詞の変化①

第18回 所有形容詞の変化②

第19回 指示形容詞の変化

第20回 不規則動詞 *pouvoir* の直説法現在

第21回 不規則動詞 *vouloir* の直説法現在

第22回 命令法①

第23回 命令法②

第24回 代名詞 *on* ＋形容詞 *tout*

第25回 第3章リーダー

第26回 不規則動詞 *aller* の直説法現在

第 27 回 不規則動詞 aller の命令法

第 28 回 まとめ

第 29 回 まとめのテスト

第 30 回 テストの解答と解説

---

### 授業以外での学習方法

初習外国語なので予習はかなり困難。むしろ、各回終了ごとに 10–20 分程度復習する (ex. 通学返りの車中でその日のノートを読み返す) ことが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (50%) 小テスト (50%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 フランス語 I <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



|       |                        |      |     |
|-------|------------------------|------|-----|
| 科目名   | フランス語Ⅱ                 |      |     |
| クラス   |                        | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                     | 定員   | 50  |
| 履修条件  | フランス語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                        |      |     |
| 担当者   | 志賀 亮一                  |      |     |

## テーマ

フランス語の基礎（その2）

## 授業の目的（獲得目標）

フランス語Ⅰで学んだ事項を基礎に、フランス語の基礎知識をさらに深め、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

## 内 容

- 第1回 不規則動詞 venir の直説法現在
- 第2回 不規則動詞 venir の命令法
- 第3回 近接未来：aller +不定法
- 第4回 近接過去：venir de +不定法
- 第5回 部分冠詞の変化
- 第6回 不規則動詞 faire の直説法現在
- 第7回 不規則動詞 faire の命令法
- 第8回 非人称表現①：etre と avoir
- 第9回 非人称表現②：faire
- 第10回 非人称表現③：本来の非人称動詞
- 第11回 第4章のリーダー
- 第12回 不規則動詞 prendre の直説法現在
- 第13回 不規則動詞 prendre の命令法
- 第14回 不規則動詞 devoir の直説法現在
- 第15回 不規則動詞 devoir の命令法
- 第16回 不規則動詞 voir の直説法現在
- 第17回 不規則動詞 voir の命令法
- 第18回 形容詞・副詞の比較①
- 第19回 形容詞と副詞の比較②
- 第20回 形容詞と副詞の比較③
- 第21回 形容詞と副詞の最上級①
- 第22回 形容詞と副詞の最上級②
- 第23回 比較と最上級の例外
- 第24回 数・量の比較と最上級
- 第25回 関係代名詞 qui と que
- 第26回 強調構文

第 27 回 第 5 章のリーダー

第 28 回 まとめ

第 29 回 まとめのテスト

第 30 回 テストの解答と解説

---

### 授業以外での学習方法

初習外国語なので、文法の予習はかなり困難。むしろ、フランス語 I と同様、各回終了ごとに 10–20 分程度復習することが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (50%) 小テスト (50%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 フランス語Ⅱ <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 フランス語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 フランス語Ⅲ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件 フランス語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 志賀 亮一

テーマ

フランス語基礎知識の完成（その1）

授業の目的（獲得目標）

フランス語Ⅱまでで身につけた知識をもとに、さらに高度な文法事項を学び、それらを用いたやや長い文を聴き、話し、読み、書く力を修得する

内 容

第1回 不規則動詞 mettre の直説法現在

第2回 不規則動詞 mettre の命令法

第3回 不規則動詞 dire の直説法現在

第4回 不規則動詞 dire の命令法

第5回 補語人称代名詞①

第6回 補語人称代名詞②

第7回 補語人称代名詞③

第8回 補語人称代名詞④

第9回 小テスト（補語人称代名詞）

第10回 直説法複合過去①

第11回 直説法複合過去②

第12回 直説法複合過去③

第13回 複合過去と補語人称代名詞

第14回 小テスト（複合過去）

第15回 第7章リーダー

第16回 代名動詞の直説法現在①

第17回 代名動詞の直説法現在②

第18回 代名動詞の命令法

第19回 代名動詞の複合過去①

第20回 代名動詞の複合過去②

第21回 小テスト（代名動詞）

第22回 受動態

第23回 直説法半過去①

第24回 直説法半過去②

第25回 直説法半過去③

第26回 小テスト（直説法半過去）

第 27 回 不規則動詞 lire の現在、命令法、複合過去、半過去

第 28 回 不規則動詞 écrire の現在、命令法、複合過去、半過去

第 29 回 過去分詞の一致①

第 30 回 過去分詞の一致②

---

### 授業以外での学習方法

2 年目とはいえ初習の文法事項が多いので、予習はかなり困難。毎回授業後に 20–30 分程度の復習することを奨める

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (100%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 フランス語Ⅲ <b>

クラス b

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 志賀 亮一

テーマ

フランス語基礎知識の完成（その1）

授業の目的（獲得目標）

フランス語Ⅱまでで身につけた知識をもとに、さらに高度な文法事項を学び、それらを用いたやや長い文を聴き、話し、読み、書く力を修得する

内 容

第1回 不規則動詞 mettre の直説法現在

第2回 不規則動詞 mettre の命令法

第3回 不規則動詞 dire の直説法現在

第4回 不規則動詞 dire の命令法

第5回 補語人称代名詞①

第6回 補語人称代名詞②

第7回 補語人称代名詞③

第8回 補語人称代名詞④

第9回 小テスト（補語人称代名詞）

第10回 直説法複合過去①

第11回 直説法複合過去②

第12回 直説法複合過去③

第13回 複合過去と補語人称代名詞

第14回 小テスト（複合過去）

第15回 第7章リーダー

第16回 代名動詞の直説法現在①

第17回 代名動詞の直説法現在②

第18回 代名動詞の命令法

第19回 代名動詞の複合過去①

第20回 代名動詞の複合過去②

第21回 小テスト（代名動詞）

第22回 受動態

第23回 直説法半過去①

第24回 直説法半過去②

第25回 直説法半過去③

第26回 小テスト（直説法半過去）

第 27 回 不規則動詞 lire の現在、命令法、複合過去、半過去

第 28 回 不規則動詞 écrire の現在、命令法、複合過去、半過去

第 29 回 過去分詞の一致①

第 30 回 過去分詞の一致②

---

### 授業以外での学習方法

2 年目とはいえ初習の文法事項が多いので、予習はかなり困難。毎回授業後に 20–30 分程度の復習することを奨める

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (100%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |                        |     |    |
|-------|------------------------|-----|----|
| 科目名   | フランス語Ⅳ                 |     |    |
| クラス   | 配当回生                   | 1回生 |    |
| 講義期間  | 後期                     | 定員  | 50 |
| 履修条件  | フランス語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者 |     |    |
| クラス指定 |                        |     |    |
| 担当者   | 志賀 亮一                  |     |    |

### テーマ

フランス語基礎知識の完成（その2）と応用

### 授業の目的（獲得目標）

フランス語の基礎的な規則をほぼ完全にマスターし、それらを用いたやや複雑な文を話し、聴き、書き、読む力を身につけるとともに、それを応用して、自己紹介、日記、日常的なことがらをフランス語で書くことを目標とする。

### 内 容

- 第1回 関係代名詞 ou
- 第2回 関係代名詞 dont
- 第3回 指示代名詞と関係代名詞
- 第4回 第9章リーダー①
- 第5回 第9章リーダー②
- 第6回 partir 型動詞①：現在、命令法
- 第7回 partir 型動詞②：複合過去、半過去
- 第8回 rendre 型動詞①：現在、命令法
- 第9回 rendre 型動詞②：複合過去、半過去
- 第10回 直説法大過去①：助動詞 avoir の場合
- 第11回 直説法大過去②：助動詞 etre の場合
- 第12回 小テスト：複合過去、半過去、大過去
- 第13回 現在分詞①：形容詞としての用法
- 第14回 現在分詞②：副詞としての用法
- 第15回 ジェロンディフ
- 第16回 小テスト（現在分詞とジェロンディフ）
- 第17回 中性代名詞①：le (l')
- 第18回 中性代名詞②：y
- 第19回 中世代名詞③：en
- 第20回 第10課リーダー
- 第21回 直説法単純未来①
- 第22回 直説法単純未来②
- 第23回 直説法前未来
- 第24回 小テスト（単純未来）
- 第25回 第11章リーダー



第 26 回 条件法現在①

第 27 回 条件法現在②

第 28 回 条件方過去

第 29 回 小テスト（条件方）

第 30 回 2 年間のまとめ

---

### 授業以外での学習方法

2 年目とはいえ初習の文法事項が多いので、予習はかなり困難。毎回授業後に 20–30 分程度の復習することを奨める。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（100%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 フランス語Ⅳ <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 志賀 亮一

テーマ

フランス語基礎知識の完成（その2）と応用

### 授業の目的（獲得目標）

フランス語の基礎的な規則をほぼ完全にマスターし、それらを用いたやや複雑な文を話し、聴き、書き、読む力を身につけるとともに、それを応用して、自己紹介、日記、日常的なことがらをフランス語で書くことを目標とする。

### 内 容

- 第1回 関係代名詞 ou
- 第2回 関係代名詞 dont
- 第3回 指示代名詞と関係代名詞
- 第4回 第9章リーダー①
- 第5回 第9章リーダー②
- 第6回 partir 型動詞①：現在、命令法
- 第7回 partir 型動詞②：複合過去、半過去
- 第8回 rendre 型動詞①：現在、命令法
- 第9回 rendre 型動詞②：複合過去、半過去
- 第10回 直説法大過去①：助動詞 avoir の場合
- 第11回 直説法大過去②：助動詞 etre の場合
- 第12回 小テスト：複合過去、半過去、大過去
- 第13回 現在分詞①：形容詞としての用法
- 第14回 現在分詞②：副詞としての用法
- 第15回 ジェロンディフ
- 第16回 小テスト（現在分詞とジェロンディフ）
- 第17回 中性代名詞①：le (l')
- 第18回 中性代名詞②：y
- 第19回 中世代名詞③：en
- 第20回 第10課リーダー
- 第21回 直説法単純未来①
- 第22回 直説法単純未来②
- 第23回 直説法前未来
- 第24回 小テスト（単純未来）
- 第25回 第11章リーダー

第 26 回 条件法現在①

第 27 回 条件法現在②

第 28 回 条件方過去

第 29 回 小テスト（条件方）

第 30 回 2 年間のまとめ

---

### 授業以外での学習方法

2 年目とはいえ初習の文法事項が多いので、予習はかなり困難。毎回授業後に 20–30 分程度の復習することを奨める。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（100%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|       |            |      |      |
|-------|------------|------|------|
| 科目名   | ドイツ語 I <a> |      |      |
| クラス   | a          | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 50   |
| 履修条件  |            |      |      |
| クラス指定 |            |      |      |
| 担当者   | 久下 泰弘      |      |      |

## テーマ

ドイツ語入門その 1

## 授業の目的（獲得目標）

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その 1

## 内 容

- 第 1 回 授業の進め方について、辞書の話
- 第 2 回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
- 第 3 回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現
- 第 4 回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現
- 第 5 回 Lektion 1 「ルクセンブルク」 動詞の現在人称変化（規則変化）
- 第 6 回 Lektion 1 「ルクセンブルク」 語順、定動詞の位置
- 第 7 回 Lektion 1 「ルクセンブルク」 自己紹介
- 第 8 回 Lektion 1 「ルクセンブルク」 多言語社会 ルクセンブルク
- 第 9 回 Lektion 2 「マンガ文化」 名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
- 第 10 回 Lektion 2 「マンガ文化」 名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
- 第 11 回 Lektion 2 「マンガ文化」 格の用法、職業名のいろいろ
- 第 12 回 Lektion 2 「マンガ文化」 ~するのが好きです、ドイツとフランスに新たな雪解けが
- 第 13 回 Lektion3 「フランクフルト」 人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
- 第 14 回 Lektion3 「フランクフルト」 命令形
- 第 15 回 Lektion3 「フランクフルト」 人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順
- 第 16 回 Lektion3 「フランクフルト」 乗り物表現、ドイツの鉄道
- 第 17 回 Lektion4 「フライブルク」 名詞の複数形、定冠詞類
- 第 18 回 Lektion4 「フライブルク」 不定冠詞類、否定冠詞
- 第 19 回 Lektion4 「フライブルク」 身につけるもの、家族をあらわす表現
- 第 20 回 Lektion4 「フライブルク」 買い物、エコ先進国ドイツ
- 第 21 回 Lektion5 「チューリヒ」 前置詞と格
- 第 22 回 Lektion5 「チューリヒ」 前置詞と名詞の融合形
- 第 23 回 Lektion5 「チューリヒ」 非人称表現
- 第 24 回 Lektion5 「チューリヒ」 街の様子、時刻の言い方、スイス銀行と守秘義務
- 第 25 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習
- 第 26 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習
- 第 27 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習

第 28 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習

第 29 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習

第 30 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習

---

#### **授業以外での学習方法**

CD を活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験 (40 %) 小テスト (20 %) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (40 %) 参加度 ( ) 備考 (授業出席重視。)

|       |            |      |      |
|-------|------------|------|------|
| 科目名   | ドイツ語 I <b> |      |      |
| クラス   | b          | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 50   |
| 履修条件  |            |      |      |
| クラス指定 |            |      |      |
| 担当者   | 久下 泰弘      |      |      |

### テーマ

ドイツ語入門その 1

### 授業の目的（獲得目標）

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その 1

### 内 容

- 第 1 回 授業の進め方について、辞書の話
- 第 2 回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
- 第 3 回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現
- 第 4 回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現
- 第 5 回 Lektion 1 「ルクセンブルク」 動詞の現在人称変化（規則変化）
- 第 6 回 Lektion 1 「ルクセンブルク」 語順、定動詞の位置
- 第 7 回 Lektion 1 「ルクセンブルク」 自己紹介
- 第 8 回 Lektion 1 「ルクセンブルク」 多言語社会 ルクセンブルク
- 第 9 回 Lektion 2 「マンガ文化」 名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
- 第 10 回 Lektion 2 「マンガ文化」 名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
- 第 11 回 Lektion 2 「マンガ文化」 格の用法、職業名のいろいろ
- 第 12 回 Lektion 2 「マンガ文化」 ~するのが好きです、ドイツとフランスに新たな雪解けが
- 第 13 回 Lektion3 「フランクフルト」 人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
- 第 14 回 Lektion3 「フランクフルト」 命令形
- 第 15 回 Lektion3 「フランクフルト」 人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順
- 第 16 回 Lektion3 「フランクフルト」 乗り物表現、ドイツの鉄道
- 第 17 回 Lektion4 「フライブルク」 名詞の複数形、定冠詞類
- 第 18 回 Lektion4 「フライブルク」 不定冠詞類、否定冠詞
- 第 19 回 Lektion4 「フライブルク」 身につけるもの、家族をあらわす表現
- 第 20 回 Lektion4 「フライブルク」 買い物、エコ先進国ドイツ
- 第 21 回 Lektion5 「チューリヒ」 前置詞と格
- 第 22 回 Lektion5 「チューリヒ」 前置詞と名詞の融合形
- 第 23 回 Lektion5 「チューリヒ」 非人称表現
- 第 24 回 Lektion5 「チューリヒ」 街の様子、時刻の言い方、スイス銀行と守秘義務
- 第 25 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習
- 第 26 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習
- 第 27 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習

第 28 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習

第 29 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習

第 30 回 前期のまとめとドイツ語 2 への橋渡し、補足練習

---

#### **授業以外での学習方法**

CD を活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験 (40 %) 小テスト (20 %) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (40 %) 参加度 ( ) 備考 (授業出席重視。)

|       |                       |      |     |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 科目名   | ドイツ語Ⅱ <a>             |      |     |
| クラス   | a                     | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                    | 定員   | 50  |
| 履修条件  | ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                       |      |     |
| 担当者   | 久下 泰弘                 |      |     |

### テーマ

ドイツ語入門その2

### 授業の目的（獲得目標）

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その2

### 内 容

- 第1回 Lektion 6 「外国人労働者」 話法の助動詞
- 第2回 Lektion 6 「外国人労働者」 従属接続詞と副文
- 第3回 Lektion 6 「外国人労働者」 不定代名詞、～に行きたいです
- 第4回 Lektion 6 「外国人労働者」 ドイツ映画の現在
- 第5回 Lektion 7 「食習慣」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
- 第6回 Lektion 7 「食習慣」 形容詞の格変化、混合変化
- 第7回 Lektion 7 「食習慣」 不定詞
- 第8回 Lektion 7 「食習慣」 食べ物の単語、ドイツ人とパン
- 第9回 Lektion 8 「負の遺産」 動詞の3基本形、現在完了形
- 第10回 Lektion 8 「負の遺産」 現在完了形に用いる助動詞
- 第11回 Lektion 8 「負の遺産」 時を表す副詞句
- 第12回 Lektion 8 「負の遺産」 休暇旅行
- 第13回 Lektion9 「モーツアルトとイタリア音楽」 過去形、再帰代名詞と再帰動詞
- 第14回 Lektion9 「モーツアルトとイタリア音楽」 再帰代名詞と再帰動詞
- 第15回 Lektion9 「モーツアルトとイタリア音楽」 前置詞と人称代名詞との融合形
- 第16回 Lektion9 「モーツアルトとイタリア音楽」 オペラ鑑賞
- 第17回 Lektion10 「プラハ出身の作家カフカ」 形容詞・副詞の比較
- 第18回 Lektion10 「プラハ出身の作家カフカ」 関係代名詞
- 第19回 Lektion10 「プラハ出身の作家カフカ」 反対語のいろいろ
- 第20回 Lektion10 「プラハ出身の作家カフカ」 ホテルに宿泊、プラハ出身のカフカ
- 第21回 ステップアップのためのドイツ語、受動形
- 第22回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
- 第23回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式
- 第24回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式
- 第25回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題
- 第26回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題
- 第27回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題



第 28 回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題

第 29 回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題

第 30 回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題

---

### 授業以外での学習方法

CD を活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (40 %) 小テスト (20 %) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (40 %) 参加度 ( ) 備考 (出席重視)

## 2010 Syllabus

|       |                       |      |     |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 科目名   | ドイツ語Ⅱ <b>             |      |     |
| クラス   | b                     | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                    | 定員   | 50  |
| 履修条件  | ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                       |      |     |
| 担当者   | 久下 泰弘                 |      |     |

## テーマ

ドイツ語入門その2

## 授業の目的（獲得目標）

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その2

## 内 容

- 第1回 Lektion 6 「外国人労働者」 話法の助動詞
- 第2回 Lektion 6 「外国人労働者」 従属接続詞と副文
- 第3回 Lektion 6 「外国人労働者」 不定代名詞、～に行きたいです
- 第4回 Lektion 6 「外国人労働者」 ドイツ映画の現在
- 第5回 Lektion 7 「食習慣」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
- 第6回 Lektion 7 「食習慣」 形容詞の格変化、混合変化
- 第7回 Lektion 7 「食習慣」 不定詞
- 第8回 Lektion 7 「食習慣」 食べ物の単語、ドイツ人とパン
- 第9回 Lektion 8 「負の遺産」 動詞の3基本形、現在完了形
- 第10回 Lektion 8 「負の遺産」 現在完了形に用いる助動詞
- 第11回 Lektion 8 「負の遺産」 時を表す副詞句
- 第12回 Lektion 8 「負の遺産」 休暇旅行
- 第13回 Lektion9 「モーツアルトとイタリア音楽」 過去形
- 第14回 Lektion9 「モーツアルトとイタリア音楽」 再帰代名詞と再帰動詞
- 第15回 Lektion9 「モーツアルトとイタリア音楽」 前置詞と人称代名詞との融合形
- 第16回 Lektion9 「モーツアルトとイタリア音楽」 オペラ鑑賞
- 第17回 Lektion10 「プラハ出身の作家カフカ」 形容詞・副詞の比較
- 第18回 Lektion10 「プラハ出身の作家カフカ」 関係代名詞
- 第19回 Lektion10 「プラハ出身の作家カフカ」 反対語のいろいろ
- 第20回 Lektion10 「プラハ出身の作家カフカ」 ホテルに宿泊、プラハ出身のカフカ
- 第21回 ステップアップのためのドイツ語、受動形
- 第22回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
- 第23回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式
- 第24回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式
- 第25回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題
- 第26回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題
- 第27回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題

第 28 回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題

第 29 回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題

第 30 回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題

---

### 授業以外での学習方法

CD を活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (40 %) 小テスト (20 %) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (40 %) 参加度 ( ) 備考 (出席重視)

|       |                       |      |     |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 科目名   | ドイツ語Ⅲ                 |      |     |
| クラス   |                       | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期                    | 定員   | 50  |
| 履修条件  | ドイツ語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                       |      |     |
| 担当者   | 久下 泰弘                 |      |     |

## テーマ

ドイツ語応用その1

## 授業の目的（獲得目標）

ドイツ語初級後期読解練習、および中級への橋渡しとなる表現練習

## 内 容

- 第1回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第2回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第3回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第4回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第5回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第6回 第1課「到着」本文読解練習、資料プリント配布（以下同様）
- 第7回 第1課「到着」文法の復習、定関係代名詞、不規則人称変化、完了形、再帰代名詞
- 第8回 第1課「到着」聞き取り練習、表現してみよう
- 第9回 第1課「到着」語彙をふやそう
- 第10回 第1課「到着」話し方トレーニング、「到着のあいさつ」
- 第11回 第2課「ホテル探し」本文読解練習、資料プリント配布（以下同様）
- 第12回 第2課「ホテル探し」文法の復習、前置詞、話法の助動詞
- 第13回 第2課「ホテル探し」聞き取り練習、表現してみよう
- 第14回 第2課「ホテル探し」語彙をふやそう
- 第15回 第2課「ホテル探し」話し方トレーニング、「道のたずね方」
- 第16回 第3課 「ホテルにて」本文読解練習、資料プリント配布（以下同様）
- 第17回 第3課 「ホテルにて」文法の復習、不定詞、指示代名詞
- 第18回 第3課 「ホテルにて」聞き取り練習、表現してみよう
- 第19回 第3課 「ホテルにて」語彙をふやそう
- 第20回 第3課 「ホテルにて」話し方トレーニング、「フロントでの会話」
- 第21回 第4課 「レストランで」本文読解練習、資料プリント配布（以下同様）
- 第22回 第4課 「レストランで」文法の復習、比較表現、現在分詞と過去分詞
- 第23回 第4課 「レストランで」聞き取り練習、表現してみよう
- 第24回 第4課 「レストランで」語彙をふやそう
- 第25回 第4課 「レストランで」話し方トレーニング、「注文の仕方」
- 第26回 まとめとドイツ語Ⅳへの橋渡し 資料プリント配布
- 第27回 まとめとドイツ語Ⅳへの橋渡し 資料プリント配布

第 28 回 まとめとドイツ語Ⅳへの橋渡し 資料プリント配布

第 29 回 まとめとドイツ語Ⅳへの橋渡し 資料プリント配布

第 30 回 まとめとドイツ語Ⅳへの橋渡し 資料プリント配布

---

#### **授業以外での学習方法**

添付の CD を活用すること。発音、聞き取りを怠らないこと。

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験 (40 %) 小テスト (20 %) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (40 %) 参加度 ( ) 備考 (出席重視)

|       |                       |      |     |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 科目名   | ドイツ語Ⅳ                 |      |     |
| クラス   |                       | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                    | 定員   | 50  |
| 履修条件  | ドイツ語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                       |      |     |
| 担当者   | 久下 泰弘                 |      |     |

## テーマ

ドイツ語応用その2

## 授業の目的（獲得目標）

ドイツ語中級への橋渡しとなる読解練習、及び自己表現練習

## 内 容

- 第1回 第5課 「買い物」読解練習、読み合わせプリント配布（以下同様）
- 第2回 第5課 「買い物」文法の復習 序数、完了形
- 第3回 第5課 「買い物」聞き取り練習、表現してみよう
- 第4回 第5課 「買い物」語彙をふやそう
- 第5回 第5課 「買い物」話し方トレーニング 「おみやげを買う」
- 第6回 第6課 「アパート探し」読解練習、読み合わせプリント配布（以下同様）
- 第7回 第6課 「アパート探し」文法の復習 命令法、従属接続詞、前置詞
- 第8回 第6課 「アパート探し」聞き取り練習、表現してみよう
- 第9回 第6課 「アパート探し」語彙をふやそう
- 第10回 第6課 「アパート探し」話し方トレーニング 「電話をかける」
- 第11回 第7課 「ハイキング」読解練習、読み合わせプリント配布（以下同様）
- 第12回 第7課 「ハイキング」文法の復習 過去形、受動態
- 第13回 第7課 「ハイキング」聞き取り練習、表現してみよう
- 第14回 第7課 「ハイキング」語彙をふやそう
- 第15回 第7課 「ハイキング」話し方トレーニング 「ハイキングにさそわれて」
- 第16回 第8課 「招待される」読解練習、読み合わせプリント配布（以下同様）
- 第17回 第8課 「招待される」文法の復習 接続法、前置詞と人称代名詞の融合形
- 第18回 第8課 「招待される」聞き取り練習、表現してみよう
- 第19回 第8課 「招待される」語彙をふやそう
- 第20回 第8課 「招待される」話し方トレーニング 「訪問先での会話」
- 第21回 第9課 「医者にて」読解練習、読み合わせプリント配布（以下同様）
- 第22回 第9課 「医者にて」文法の復習 否定詞、間接話法、過去分詞の形容詞的用法
- 第23回 第9課 「医者にて」聞き取り練習、表現してみよう
- 第24回 第9課 「医者にて」語彙をふやそう
- 第25回 第9課 「医者にて」話し方トレーニング 「診察室、薬局にて」
- 第26回 第10課 「手紙」読解練習、読み合わせプリント配布（以下同様）
- 第27回 第10課 「手紙」文法の復習 形容詞の名詞化、方向を表す前置詞

第 28 回 第 10 課 「手紙」 聞き取り練習、表現してみよう

第 29 回 第 10 課 「手紙」 語彙をふやそう

第 30 回 第 10 課 「手紙」 話し方トレーニング 「手紙・カードの書き方」

---

#### 授業以外での学習方法

添付の CD を活用すること。発音、聞き取りを怠らないこと。

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (40 %) 小テスト (20 %) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (40 %) 参加度 ( ) 備考 (出席重視)

科目名 中国語 I <a>

クラス a

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

### 授業の目的（獲得目標）

発音の基礎と基本的表現を身につける。週に2回ずつ授業を行う。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。教室ではおもに各種の練習を行い、文法はあまり説明しない。文法事項は教科書の説明を読んで各自で理解しておくこと。発音部分は毎回1課ずつ学習し、その後は3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語 I）に第8課まで終了する。

### 内 容

第1回 中国語について、授業について

第2回 発音1 母音

第3回 発音2 子音

第4回 発音3 鼻音

第5回 発音4 声調

第6回 第1課 あいさつと自己紹介（私は鈴木といいます。学生です。専攻は文学です。）

第7回 反復練習

第8回 復習

第9回 第2課 動詞、～する（ご飯を食べる。）

第10回 反復練習

第11回 復習

第12回 第3課 ～したい、～しなければならない（上海へ行きたい。）

第13回 反復練習

第14回 復習

第15回 第4課 年月日と曜日、時刻（明日は火曜日です。）

第16回 反復練習

第17回 復習

第18回 第5課 ものを数える（ノートを二冊買う。四人家族です。）

第19回 反復練習

第20回 復習

第21回 第6課 形容詞（今日はすごく寒い。）

第22回 反復練習

第23回 復習



- 第 24 回 第 7 課 比較（これはあれよりも安い。）  
第 25 回 反復練習  
第 26 回 復習  
第 27 回 第 8 課 ～で、～に、～と（京都で映画を見る。）  
第 28 回 反復練習  
第 29 回 復習  
第 30 回 復習
- 

#### 授業以外での学習方法

単語カードを作るなどして、単語はすべて覚えること。また、各課文は、繰り返し朗読するのが望ましい。

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50%) 備考 ( )

|       |           |      |      |
|-------|-----------|------|------|
| 科目名   | 中国語 I <b> |      |      |
| クラス   | b         | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 50   |
| 履修条件  |           |      |      |
| クラス指定 |           |      |      |
| 担当者   | トウ カ      |      |      |

テーマ

中国語入門

### 授業の目的（獲得目標）

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの単語に、音が上がったたり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで、非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。発音部分は毎回1課ずつ学習し、その後は3回の授業で1課ずつ進む。ときどき単語小テスト、発音テストなどを行う予定。成績は、これらのテストと出席による。

### 内 容

第1回 中国語について、授業について

第2回 発音1 母音

第3回 発音2 子音

第4回 発音3 鼻音

第5回 発音4 声調

第6回 発音復習

第7回 第1課 私は鈴木といいます

第8回 練習問題

第9回 課文

第10回 第2課 私は学生です

第11回 練習問題

第12回 課文

第13回 第3課 日本文学を勉強しています

第14回 練習問題

第15回 課文

第16回 第4課 兄弟はいますか

第17回 練習問題

第18回 課文

第19回 第5課 今年20歳になりました

第20回 練習問題

第21回 課文

第22回 第6課 明日は何曜日ですか

第23回 練習問題

第24回 課文

第 25 回 第 7 課 私の家は北京にあります

第 26 回 練習問題

第 27 回 課文

第 28 回 第 8 課 中国へ行ったことがありますか

第 29 回 練習問題

第 30 回 課文

---

### 授業以外での学習方法

新出単語は、単語カードを作るなどして、すべて覚えること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

|       |           |      |      |
|-------|-----------|------|------|
| 科目名   | 中国語 I <c> |      |      |
| クラス   | c         | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 50   |
| 履修条件  |           |      |      |
| クラス指定 |           |      |      |
| 担当者   | トウ カ      |      |      |

テーマ

中国語入門

### 授業の目的（獲得目標）

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの単語に、音が上がったたり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで、非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。発音部分は毎回1課ずつ学習し、その後は3回の授業で1課ずつ進む。ときどき単語小テスト、発音テストなどを行う予定。成績は、これらのテストと出席による。

### 内 容

第1回 中国語について、授業について

第2回 発音1 母音

第3回 発音2 子音

第4回 発音3 鼻音

第5回 発音4 声調

第6回 発音復習

第7回 第1課 私は鈴木といいます

第8回 練習問題

第9回 課文

第10回 第2課 私は学生です

第11回 練習問題

第12回 課文

第13回 第3課 日本文学を勉強しています

第14回 練習問題

第15回 課文

第16回 第4課 兄弟はいますか

第17回 練習問題

第18回 課文

第19回 第5課 今年20歳になりました

第20回 練習問題

第21回 課文

第22回 第6課 明日は何曜日ですか

第23回 練習問題

第24回 課文

第 25 回 第 7 課 私の家は北京にあります

第 26 回 練習問題

第 27 回 課文

第 28 回 第 8 課 中国へ行ったことがありますか

第 29 回 練習問題

第 30 回 課文

---

### 授業以外での学習方法

新出単語は、単語カードを作るなどして、すべて覚えること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

|       |           |      |      |
|-------|-----------|------|------|
| 科目名   | 中国語 I <d> |      |      |
| クラス   | d         | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 50   |
| 履修条件  |           |      |      |
| クラス指定 |           |      |      |
| 担当者   | 蒲 豊彦      |      |      |

テーマ

中国語入門

### 授業の目的（獲得目標）

発音の基礎と基本的表現を身につける。週に2回ずつ授業を行う。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。教室ではおもに各種の練習を行い、文法はあまり説明しない。文法事項は教科書の説明を読んで各自で理解しておくこと。発音部分は毎回1課ずつ学習し、その後は3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語 I）に第8課まで終了する。

### 内 容

第1回 中国語について、授業について

第2回 発音1 母音

第3回 発音2 子音

第4回 発音3 鼻音

第5回 発音4 声調

第6回 第1課 あいさつと自己紹介（私は鈴木といいます。学生です。専攻は文学です。）

第7回 反復練習

第8回 復習

第9回 第2課 動詞、～する（ご飯を食べる。）

第10回 反復練習

第11回 復習

第12回 第3課 ～したい、～しなければならない（上海へ行きたい。）

第13回 反復練習

第14回 復習

第15回 第4課 年月日と曜日、時刻（明日は火曜日です。）

第16回 反復練習

第17回 復習

第18回 第5課 ものを数える（ノートを二冊買う。四人家族です。）

第19回 反復練習

第20回 復習

第21回 第6課 形容詞（今日はすごく寒い。）

第22回 反復練習

第23回 復習

- 第 24 回 第 7 課 比較（これはあれよりも安い。）  
第 25 回 反復練習  
第 26 回 復習  
第 27 回 第 8 課 ～で、～に、～と（京都で映画を見る。）  
第 28 回 反復練習  
第 29 回 復習  
第 30 回 復習
- 

#### 授業以外での学習方法

単語カードを作るなどして、単語はすべて覚えること。また、各課文は、繰り返し朗読するのが望ましい。

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50%) 備考 ( )

|       |           |          |
|-------|-----------|----------|
| 科目名   | 中国語 I <e> |          |
| クラス   | e         | 配当回生 1回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員       |
| 履修条件  |           |          |
| クラス指定 |           |          |
| 担当者   | 黄 ワンティン   |          |

テーマ

中国語入門

### 授業の目的（獲得目標）

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの単語に、音が上がったたり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで、非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。発音部分は毎回1課ずつ学習し、その後は3回の授業で1課ずつ進む。ときどき単語小テスト、発音テストなどを行う予定。成績は、これらのテストと出席による。

### 内 容

第1回 中国語について、授業について

第2回 発音1 母音

第3回 発音2 子音

第4回 発音3 鼻音

第5回 発音4 声調

第6回 発音復習

第7回 第1課 私は鈴木といいます

第8回 練習問題

第9回 課文

第10回 第2課 私は学生です

第11回 練習問題

第12回 課文

第13回 第3課 日本文学を勉強しています

第14回 練習問題

第15回 課文

第16回 第4課 兄弟はいますか

第17回 練習問題

第18回 課文

第19回 第5課 今年20歳になりました

第20回 練習問題

第21回 課文

第22回 第6課 明日は何曜日ですか

第23回 練習問題

第24回 課文



第 25 回 第 7 課 私の家は北京にあります

第 26 回 練習問題

第 27 回 課文

第 28 回 第 8 課 中国へ行ったことがありますか

第 29 回 練習問題

第 30 回 課文

---

### 授業以外での学習方法

新出単語は、単語カードを作るなどして、すべて覚えること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

|       |             |           |
|-------|-------------|-----------|
| 科目名   | 中国語 I < f > |           |
| クラス   | f           | 配当回生 1 回生 |
| 講義期間  | 前期          | 定員        |
| 履修条件  |             |           |
| クラス指定 |             |           |
| 担当者   | 黄 ワンティン     |           |

テーマ

中国語入門

### 授業の目的（獲得目標）

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの単語に、音が上がったたり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで、非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。発音部分は毎回1課ずつ学習し、その後は3回の授業で1課ずつ進む。ときどき単語小テスト、発音テストなどを行う予定。成績は、これらのテストと出席による。

### 内 容

第1回 中国語について、授業について

第2回 発音1 母音

第3回 発音2 子音

第4回 発音3 鼻音

第5回 発音4 声調

第6回 発音復習

第7回 第1課 私は鈴木といいます

第8回 練習問題

第9回 課文

第10回 第2課 私は学生です

第11回 練習問題

第12回 課文

第13回 第3課 日本文学を勉強しています

第14回 練習問題

第15回 課文

第16回 第4課 兄弟はいますか

第17回 練習問題

第18回 課文

第19回 第5課 今年20歳になりました

第20回 練習問題

第21回 課文

第22回 第6課 明日は何曜日ですか

第23回 練習問題

第24回 課文

第 25 回 第 7 課 私の家は北京にあります

第 26 回 練習問題

第 27 回 課文

第 28 回 第 8 課 中国へ行ったことがありますか

第 29 回 練習問題

第 30 回 課文

---

### 授業以外での学習方法

新出単語は、単語カードを作るなどして、すべて覚えること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 中国語Ⅱ〈a〉              |      |     |
| クラス   | a                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 蒲 豊彦                 |      |     |

## テーマ

中国語入門

## 授業の目的（獲得目標）

発音の基礎と基本的表現を身につける。週に2回ずつ授業を行う。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。教室ではおもに各種の練習を行い、文法はあまり説明しない。文法事項は教科書の説明を読んで各自で理解しておくこと。発音部分は毎回1課ずつ学習し、その後は3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第8課まで終了する。

## 内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第9課 時刻（8時に学校へ行く。）
- 第3回 反復練習
- 第4回 復習
- 第5回 第10課 時間の長さ（7時間寝る）
- 第6回 反復練習
- 第7回 復習
- 第8回 復習（9, 10課）
- 第9回 第11課 ～できる（中国語を話すことができますか。）
- 第10回 反復練習
- 第11回 復習
- 第12回 第12課 ～したことがある、～している（上海へ行ったことがありますか。）
- 第13回 反復練習
- 第14回 復習
- 第15回 復習（11, 12課）
- 第16回 第13課 ～で、～に、～と（家でテレビを見る。）
- 第17回 反復練習
- 第18回 復習
- 第19回 第14課 ～させる、～してもらう（お茶をどうぞ。）
- 第20回 反復練習
- 第21回 復習
- 第22回 復習（13, 14課）
- 第23回 第15課 方向補語（部屋に入って来る。）

- 第 24 回 反復練習
  - 第 25 回 復習
  - 第 26 回 第 16 課 様態補語 (じょうずに歌う。)
  - 第 27 回 反復練習
  - 第 28 回 復習
  - 第 29 回 復習 (15、16 課)
  - 第 30 回 まとめ
- 

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 中国語Ⅱ <b>             |      |     |
| クラス   | b                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | トウ カ                 |      |     |

## テーマ

中国語入門

## 授業の目的（獲得目標）

前期の授業を継続し、発音の基礎と基本的表現を身につける。

## 内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第9課 私はピアノが弾けます
- 第3回 練習問題
- 第4回 課文
- 第5回 第10課 パリへ行きたい
- 第6回 練習問題
- 第7回 課文
- 第8回 第11課 コーヒーが好きですか、それとも紅茶？
- 第9回 練習問題
- 第10回 課文
- 第11回 復習等
- 第12回 第12課 お腹いっぱいになりました
- 第13回 練習問題
- 第14回 課文
- 第15回 第13課 聞き取れますか
- 第16回 練習問題
- 第17回 課文
- 第18回 第14課 ちょっとお腹がすいた
- 第19回 練習問題
- 第20回 課文
- 第21回 復習等
- 第22回 第15課 窓は開いています
- 第23回 練習問題
- 第24回 課文
- 第25回 第16課 ちょっと考えさせてください
- 第26回 練習問題
- 第27回 課文

第 28 回 復習等

第 29 回 復習と小テスト等の再試験

第 30 回 復習と小テスト等の再試験

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 中国語Ⅱ <c>             |      |     |
| クラス   | c                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | トウ カ                 |      |     |

## テーマ

中国語入門

## 授業の目的（獲得目標）

前期の授業を継続し、発音の基礎と基本的表現を身につける。

## 内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第9課 私はピアノが弾けます
- 第3回 練習問題
- 第4回 課文
- 第5回 第10課 パリへ行きたい
- 第6回 練習問題
- 第7回 課文
- 第8回 第11課 コーヒーが好きですか、それとも紅茶？
- 第9回 練習問題
- 第10回 課文
- 第11回 復習等
- 第12回 第12課 お腹いっぱいになりました
- 第13回 練習問題
- 第14回 課文
- 第15回 第13課 聞き取れますか
- 第16回 練習問題
- 第17回 課文
- 第18回 第14課 ちょっとお腹がすいた
- 第19回 練習問題
- 第20回 課文
- 第21回 復習等
- 第22回 第15課 窓は開いています
- 第23回 練習問題
- 第24回 課文
- 第25回 第16課 ちょっと考えさせてください
- 第26回 練習問題
- 第27回 課文



第 28 回 復習等

第 29 回 復習と小テスト等の再試験

第 30 回 復習と小テスト等の再試験

---

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 中国語Ⅱ <d>             |      |     |
| クラス   | d                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 蒲 豊彦                 |      |     |

## テーマ

中国語入門

## 授業の目的（獲得目標）

発音の基礎と基本的表現を身につける。週に2回ずつ授業を行う。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。教室ではおもに各種の練習を行い、文法はあまり説明しない。文法事項は教科書の説明を読んで各自で理解しておくこと。発音部分は毎回1課ずつ学習し、その後は3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第8課まで終了する。

## 内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第9課 時刻（8時に学校へ行く。）
- 第3回 反復練習
- 第4回 復習
- 第5回 第10課 時間の長さ（7時間寝る）
- 第6回 反復練習
- 第7回 復習
- 第8回 復習（9, 10課）
- 第9回 第11課 ～できる（中国語を話すことができますか。）
- 第10回 反復練習
- 第11回 復習
- 第12回 第12課 ～したことがある、～している（上海へ行ったことがありますか。）
- 第13回 反復練習
- 第14回 復習
- 第15回 復習（11, 12課）
- 第16回 第13課 ～で、～に、～と（家でテレビを見る。）
- 第17回 反復練習
- 第18回 復習
- 第19回 第14課 ～させる、～してもらう（お茶をどうぞ。）
- 第20回 反復練習
- 第21回 復習復習
- 第22回 復習（13, 14課）
- 第23回 第15課 方向補語（部屋に入って来る。）

- 第 24 回 反復練習
  - 第 25 回 復習
  - 第 26 回 第 16 課 様態補語 (じょうずに歌う。)
  - 第 27 回 反復練習
  - 第 28 回 復習
  - 第 29 回 復習 (15、16 課)
  - 第 30 回 まとめ
- 

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50%) 備考 ( )

---

科目名 中国語Ⅱ〈e〉

---

クラス e

配当回生 1回生

---

講義期間 後期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 黄 ワンティン

---

テーマ

中国語入門

---

### 授業の目的（獲得目標）

前期の授業を継続し、発音の基礎と基本的表現を身につける。

---

### 内 容

第1回 前期の復習

第2回 第9課 私はピアノが弾けます

第3回 練習問題

第4回 課文

第5回 第10課 パリへ行きたい

第6回 練習問題

第7回 課文

第8回 第11課 コーヒーが好きですか、それとも紅茶？

第9回 練習問題

第10回 課文

第11回 復習等

第12回 第12課 お腹いっぱいになりました

第13回 練習問題

第14回 課文

第15回 第13課 聞き取れますか

第16回 練習問題

第17回 課文

第18回 第14課 ちょっとお腹がすいた

第19回 練習問題

第20回 課文

第21回 復習等

第22回 第15課 窓は開いています

第23回 練習問題

第24回 課文

第25回 第16課 ちょっと考えさせてください

第26回 練習問題

第27回 課文

第 28 回 復習等

第 29 回 復習と小テスト等の再試験

第 30 回 復習と小テスト等の再試験

---

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 中国語Ⅱ < f >

クラス f

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 黄 ワンティン

テーマ

中国語入門

### 授業の目的（獲得目標）

前期の授業を継続し、発音の基礎と基本的表現を身につける。

### 内 容

第1回 前期の復習

第2回 第9課 私はピアノが弾けます

第3回 練習問題

第4回 課文

第5回 第10課 パリへ行きたい

第6回 練習問題

第7回 課文

第8回 第11課 コーヒーが好きですか、それとも紅茶？

第9回 練習問題

第10回 課文

第11回 復習等

第12回 第12課 お腹いっぱいになりました

第13回 練習問題

第14回 課文

第15回 第13課 聞き取れますか

第16回 練習問題

第17回 課文

第18回 第14課 ちょっとお腹がすいた

第19回 練習問題

第20回 課文

第21回 復習等

第22回 第15課 窓は開いています

第23回 練習問題

第24回 課文

第25回 第16課 ちょっと考えさせてください

第26回 練習問題

第27回 課文

第 28 回 復習等

第 29 回 復習と小テスト等の再試験

第 30 回 復習と小テスト等の再試験

---

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

|       |                      |     |    |
|-------|----------------------|-----|----|
| 科目名   | 中国語Ⅲ                 |     |    |
| クラス   | 配当回生                 | 1回生 |    |
| 講義期間  | 前期                   | 定員  | 50 |
| 履修条件  | 中国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者 |     |    |
| クラス指定 |                      |     |    |
| 担当者   | トウ カ                 |     |    |

### テーマ

中国語中級

### 授業の目的（獲得目標）

さまざまな基本表現を身につける。このクラスは中国語Ⅰ、Ⅱを終えた人を対象とする。「初級」で学んだことをふまえて、さらに「中級」へとレベルアップをめざす。さまざまな場面を想定して、会話の練習を行う。具体的には、文法を学ぶというよりは、表現方法を学ぶことになる。たとえば、人にものを頼むとき、人を誘うときは、それぞれどのように言えばよいのか、といったことである。

### 内 容

- 第1回 授業説明、発音の復習
- 第2回 第1課 機内で
- 第3回 練習問題
- 第4回 復習、小テスト等
- 第5回 第2課 両替する
- 第6回 練習問題
- 第7回 復習、小テスト等
- 第8回 第3課 ホテルで(1)
- 第9回 練習問題
- 第10回 復習、小テスト等
- 第11回 第4課 ホテルで(2)
- 第12回 練習問題
- 第13回 復習、小テスト等
- 第14回 復習
- 第15回 第5課 タクシーを拾う
- 第16回 練習問題
- 第17回 復習、小テスト等
- 第18回 第6課 道を尋ねる
- 第19回 練習問題
- 第20回 復習、小テスト等
- 第21回 第7課 バスに乗る
- 第22回 練習問題
- 第23回 復習、小テスト等
- 第24回 第8課 レストランで



第 25 回 練習問題

第 26 回 復習、小テスト等

第 27 回 第 9 課 電話をする

第 28 回 練習問題

第 29 回 復習、小テスト等

第 30 回 復習、小テスト等

---

### 授業以外での学習方法

授業時間は、週に 2 回しかないため、すこしでも会話ができるようになるためには、授業外での自習が大切になる。進出単語と新しく学んだ表現は、単語カードその他を利用してかならず憶えてほしい。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 中国語Ⅳ

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 50

---

履修条件 中国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者

---

クラス指定

---

担当者 蒲 豊彦

---

テーマ

中国語中級

---

授業の目的（獲得目標）

さまざまな基本表現を身につける。中国語Ⅲと同じ教科書を使い、同じ授業の進め方でその続きを学ぶ。教科書をすべて終了する。

---

内 容

第1回 前期の復習

第2回 第11課 写真を撮る

第3回 練習問題

第4回 復習

第5回 第12課 天気について

第6回 練習問題

第7回 復習

第8回 第13課 長城に登る

第9回 練習問題

第10回 復習

第11回 第14課 故宮遊覧

第12回 練習問題

第13回 復習

第14回 第15課 天壇で遊ぶ

第15回 練習問題

第16回 復習

第17回 第16課 京劇を見る

第18回 練習問題

第19回 復習

第20回 第17課 餃子を作る

第21回 練習問題

第22回 復習

第23回 第18課 汽車に乗る

第24回 練習問題

第25回 復習

第26回 第19課 兵馬俑

第 27 回 練習問題

第 28 回 第 20 課 美人の謎

第 29 回 練習問題

第 30 回 復習

---

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (50%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50%) 備考 ( )

|       |           |      |      |
|-------|-----------|------|------|
| 科目名   | 韓国語 I <a> |      |      |
| クラス   | a         | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 50   |
| 履修条件  |           |      |      |
| クラス指定 |           |      |      |
| 担当者   | 朴 恵貞      |      |      |

### テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

### 授業の目的（獲得目標）

ハングル（韓国語の文字）の習得及び、簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。

### 内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 アンニョンハセヨ？ 挨拶表現（1）、 母音（1）
- 第3回 母音（1）の練習 韓国語（韓国文化）に関するコラム①
- 第4回 チャル プタッカムニダ 挨拶表現（2）、 子音（1）
- 第5回 子音（1）の練習、 母音（2） 韓国語（韓国文化）に関するコラム②
- 第6回 アンニョンイ カセヨ 挨拶表現（3）、 子音（2）
- 第7回 DVD 鑑賞（韓国歴史の理解）①
- 第8回 子音（2）の練習、 母音（3） 韓国語（韓国文化）に関するコラム③
- 第9回 コマプスムニダ 挨拶表現（4）、 母音と子音の復習とまとめ
- 第10回 韓国語の終声 韓国語（韓国文化）に関するコラム④
- 第11回 チェソンナムニダ 挨拶表現（5）、 韓国語の終声の練習
- 第12回 発音の変化を覚えよう①
- 第13回 発音の変化を覚えよう② ハングルによる日本語表記
- 第14回 DVD 鑑賞（韓国社会の理解）②
- 第15回 韓国語で自己紹介をしてみよう！
- 第16回 指定詞の表現：「ナムニダ体」と「ヘヨ体」、 文法① 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑤
- 第17回 指定詞の否定形の表現：「ナムニダ体」と「ヘヨ体」、 文法② 疑問詞の表現
- 第18回 指示代名詞の表現 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑥
- 第19回 用言の「ナムニダ体」の表現
- 第20回 用言の「ナムニダ体」の表現の練習 友達を作ろう！
- 第21回 存在詞の表現、 文法③ 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑦
- 第22回 K-POP を聴いてみよう！（韓国社会の理解）③
- 第23回 漢数詞と助数詞の表現
- 第24回 漢数詞と助数詞の表現の練習、 文法④ 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑧
- 第25回 固有数詞と助数詞の表現
- 第26回 固有数詞と助数詞の表現の練習 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑨
- 第27回 買い物をしてみよう！ 食事などに誘ってみよう！

第 28 回 DVD 鑑賞（韓国社会の理解）④

第 29 回 「韓国語 I」の授業のまとめ、 補足練習①

第 30 回 「韓国語 I」の授業のまとめ、 補足練習②

---

### 授業以外での学習方法

授業を楽しむためにもテキストの CD を活用し予習・復習を心かけること。 韓国のドラマ・映画と K-POP などを楽しみながら韓国社会を理解すること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%） 小テスト（15%） 授業中課題（15%） 授業中発表等（10%） 参加度（30%） 備考（授業出席重視）

|       |           |      |      |
|-------|-----------|------|------|
| 科目名   | 韓国語 I <b> |      |      |
| クラス   | b         | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 50   |
| 履修条件  |           |      |      |
| クラス指定 |           |      |      |
| 担当者   | 崔 孝先      |      |      |

### テーマ

楽しく、効果的に韓国語を学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

韓国語が読める、書ける、自己紹介ができることを目指す。

### 内 容

- 第 1 回 韓国語を学ぶ前に、韓国全般に渡って広く紹介
- 第 2 回 基本文字(母音 10 文字)
- 第 3 回 ”
- 第 4 回 基本文字(子音 14 文字)
- 第 5 回 ”
- 第 6 回 基本文字組み合わせ
- 第 7 回 複母音(11 文字)
- 第 8 回 ”
- 第 9 回 文字の組み合わせ
- 第 10 回 バッチム
- 第 11 回 40 文字とバッチムの組み合わせ
- 第 12 回 ”
- 第 13 回 第 1 課。歌 1 で読みと聞き取り練習
- 第 14 回 第 1 課。歌 2 で読みと聞き取り練習
- 第 15 回 韓国語のパソコン打ちと、韓国のインターネット開き方
- 第 16 回 第 2 課。歌 3 で読みと聞き取り練習
- 第 17 回 第 2 課。歌 4 で読みと聞き取り練習
- 第 18 回 第 2 課。歌 5 で読みと聞き取り練習
- 第 19 回 自己紹介文作成
- 第 20 回 ”
- 第 21 回 第 3 課。歌 6 で読みと聞き取り練習
- 第 22 回 第 3 課。歌 7 で読みと聞き取り練習
- 第 23 回 第 3 課。歌 8 で読みと聞き取り練習
- 第 24 回 第 4 課。歌 9 で読みと聞き取り練習
- 第 25 回 第 4 課。歌 10 で読みと聞き取り練習
- 第 26 回 第 4 課。歌 11 で読みと聞き取り練習
- 第 27 回 韓国映画視聴

第 28 回 ”

第 29 回 スピーチテスト

第 30 回 筆記テスト

---

### 授業以外での学習方法

韓国語の歌番組視聴

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（20％）小テスト（20％）授業中課題（20％）授業中発表等（20％）参加度（20％）備考（出席が優先で、積極的な参加度と授業時の態度を重視したいと思います。）

|       |           |      |      |
|-------|-----------|------|------|
| 科目名   | 韓国語 I <c> |      |      |
| クラス   | c         | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 50   |
| 履修条件  |           |      |      |
| クラス指定 |           |      |      |
| 担当者   | 朴 恵貞      |      |      |

### テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

### 授業の目的（獲得目標）

ハングル（韓国語の文字）の習得及び、簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。

### 内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 アンニョンハセヨ？ 挨拶表現（1）、 母音（1）
- 第3回 母音（1）の練習 韓国語（韓国文化）に関するコラム①
- 第4回 チャル プタッカムニダ 挨拶表現（2）、 子音（1）
- 第5回 子音（1）の練習、 母音（2） 韓国語（韓国文化）に関するコラム②
- 第6回 アンニョンイ カセヨ 挨拶表現（3）、 子音（2）
- 第7回 DVD 鑑賞（韓国歴史の理解）①
- 第8回 子音（2）の練習、 母音（3） 韓国語（韓国文化）に関するコラム③
- 第9回 コマプスムニダ 挨拶表現（4）、 母音と子音の復習とまとめ
- 第10回 韓国語の終声 韓国語（韓国文化）に関するコラム④
- 第11回 チェソンナムニダ 挨拶表現（5）、 韓国語の終声の練習
- 第12回 発音の変化を覚えよう①
- 第13回 発音の変化を覚えよう② ハングルによる日本語表記
- 第14回 DVD 鑑賞（韓国社会の理解）②
- 第15回 韓国語で自己紹介をしてみよう！
- 第16回 指定詞の表現：「ナムニダ体」と「ヘヨ体」、 文法① 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑤
- 第17回 指定詞の否定形の表現：「ナムニダ体」と「ヘヨ体」、 文法② 疑問詞の表現
- 第18回 指示代名詞の表現 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑥
- 第19回 用言の「ナムニダ体」の表現
- 第20回 用言の「ナムニダ体」の表現の練習 友達を作ろう！
- 第21回 存在詞の表現、 文法③ 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑦
- 第22回 K-POP を聴いてみよう！（韓国社会の理解）③
- 第23回 漢数詞と助数詞の表現
- 第24回 漢数詞と助数詞の表現の練習、 文法④ 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑧
- 第25回 固有数詞と助数詞の表現
- 第26回 固有数詞と助数詞の表現の練習 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑨
- 第27回 買い物をしてみよう！ 食事などに誘ってみよう！



第 28 回 DVD 鑑賞（韓国社会の理解）④

第 29 回 「韓国語 I」の授業のまとめ、 補足練習①

第 30 回 「韓国語 I」の授業のまとめ、 補足練習②

---

### 授業以外での学習方法

授業を楽しむためにもテキストの CD を活用し予習・復習を心かけること。 韓国のドラマ・映画と K-POP などを楽しみながら韓国社会を理解すること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（15%）授業中課題（15%）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（授業出席重視）

科目名 韓国語 I <d>

クラス d 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 崔 孝先

テーマ

楽しく、効果的に韓国語を学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

韓国語が読める、書ける、自己紹介ができることを目指す。

内 容

- 第 1 回 韓国語を学ぶ前に、韓国全般に渡って広く紹介
- 第 2 回 基本文字(母音 10 文字)
- 第 3 回 ”
- 第 4 回 基本文字(子音 14 文字)
- 第 5 回 ”
- 第 6 回 基本文字組み合わせ
- 第 7 回 複母音(11 文字)
- 第 8 回 ”
- 第 9 回 文字の組み合わせ
- 第 10 回 バッチム
- 第 11 回 40 文字とバッチムの組み合わせ
- 第 12 回 ”
- 第 13 回 第 1 課。歌 1 で読みと聞き取り練習
- 第 14 回 第 1 課。歌 2 で読みと聞き取り練習
- 第 15 回 韓国語のパソコン打ちと、韓国のインターネット開き方
- 第 16 回 第 2 課。歌 3 で読みと聞き取り練習
- 第 17 回 第 2 課。歌 4 で読みと聞き取り練習
- 第 18 回 第 2 課。歌 5 で読みと聞き取り練習
- 第 19 回 自己紹介文作成
- 第 20 回 ”
- 第 21 回 第 3 課。歌 6 で読みと聞き取り練習
- 第 22 回 第 3 課。歌 7 で読みと聞き取り練習
- 第 23 回 第 3 課。歌 8 で読みと聞き取り練習
- 第 24 回 第 4 課。歌 9 で読みと聞き取り練習
- 第 25 回 第 4 課。歌 10 で読みと聞き取り練習
- 第 26 回 第 4 課。歌 11 で読みと聞き取り練習
- 第 27 回 韓国映画視聴

第 28 回 ”

第 29 回 スピーチテスト

第 30 回 筆記テスト

---

### 授業以外での学習方法

韓国語の歌番組視聴

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（出席が優先で、積極的な参加度と授業時の態度を重視したいと思います。）

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 韓国語Ⅱ <a>             |      |     |
| クラス   | a                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 朴 恵貞                 |      |     |

### テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

### 授業の目的（獲得目標）

自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。

### 内 容

- 第1回 久しぶりに会った時などの会話表現 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
- 第3回 用言の「ヘヨ体」の表現 文法①
- 第4回 用言の「ヘヨ体」の表現の練習 韓国語（韓国文化）に関するコラム①
- 第5回 用言の「ヘヨ体」の縮約形と融合形の表現 文法②
- 第6回 用言の「ヘヨ体」の縮約形と融合形の表現の練習 韓国語（韓国文化）に関するコラム②
- 第7回 DVD鑑賞（韓国社会の理解）①
- 第8回 用言の「ヘヨ体」の表現の復習とまとめ 方向位置の表現、文法③
- 第9回 擬声語、擬態語の表現
- 第10回 過去形の表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」①
- 第11回 過去形の表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」② 韓国語（韓国文化）に関するコラム③
- 第12回 用言の否定形の表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」
- 第13回 用言の不可能形の表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」 韓国語（韓国文化）に関するコラム④
- 第14回 DVD鑑賞（韓国社会の理解）②
- 第15回 尊敬表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」
- 第16回 特殊な尊敬語の表現 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑤
- 第17回 動作の継続表現 希望表現
- 第18回 韓国の食文化の紹介、文法⑤ 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑥
- 第19回 電話で食事などに誘ってみよう！ 時制表現
- 第20回 婉曲、根拠、仮定の表現 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑦
- 第21回 韓国の諺を覚えてみよう！
- 第22回 K-POPを学んでみよう！（韓国社会の理解）③
- 第23回 動詞、存在詞の連体形の表現：現在、過去、未来
- 第24回 形容詞、指定詞の連体形の表現：現在、過去、未来
- 第25回 外来語の表現 韓国の慣用句を覚えてみよう！
- 第26回 韓国語で手紙（年賀状）を書いてみよう！ 文法⑥
- 第27回 意思、相談、可能形の表現

第 28 回 DVD 鑑賞（韓国社会の理解）④

第 29 回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ、 補足練習①

第 30 回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ、 補足練習②

---

### 授業以外での学習方法

授業を楽しむためにもテキストの CD を活用し予習・復習を心かけること。 韓国のドラマ・映画と K-POP を楽しみながら韓国社会を理解すること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%） 小テスト（15%） 授業中課題（15%） 授業中発表等（10%） 参加度（30%） 備考（授業出席重視）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 韓国語Ⅱ <b>             |      |     |
| クラス   | b                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 崔 孝先                 |      |     |

## テーマ

楽しく、効果的に韓国語を学ぶ。

## 授業の目的（獲得目標）

前期の続きで、文法を押さえると同時に読み書きに重点を置きながら、会話練習。

## 内 容

- 第1回 前期の文字と文法の復習。歌12で読み書きと聞き取りの練習復習
- 第2回 前期の文字と文法の復習。歌13で読み書きと聞き取りの練習復習
- 第3回 第5課、歌14読み書きと聞き取りの練習復習
- 第4回 第5課、歌15読み書きと聞き取りの練習復習
- 第5回 第5課、歌1読み書きと聞き取りの練習復習
- 第6回 第6課、歌2読み書きと聞き取りの練習復習
- 第7回 第6課、歌3読み書きと聞き取りの練習復習
- 第8回 第6課、歌4読み書きと聞き取りの練習復習
- 第9回 第7課、歌5読み書きと聞き取りの練習復習
- 第10回 第7課、歌6読み書きと聞き取りの練習復習
- 第11回 第7課、歌7読み書きと聞き取りの練習復習
- 第12回 第8課、歌8読み書きと聞き取りの練習復習
- 第13回 第8課、歌9読み書きと聞き取りの練習復習
- 第14回 第8課、歌10読み書きと聞き取りの練習復習
- 第15回 第9課、歌11読み書きと聞き取りの練習復習
- 第16回 第9課、歌12読み書きと聞き取りの練習復習
- 第17回 第9課、歌13読み書きと聞き取りの練習復習
- 第18回 第10課、歌14読み書きと聞き取りの練習復習
- 第19回 第10課、歌15読み書きと聞き取りの練習復習
- 第20回 第10課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第21回 第11課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第22回 第11課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第23回 第11課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第24回 第12課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第25回 第12課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第26回 第12課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第27回 韓国映画の視聴

第 28 回 ”

第 29 回 スピーチテスト

第 30 回 筆記テスト

---

#### 授業以外での学習方法

韓国の歌番組視聴

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 韓国語Ⅱ <c>             |      |     |
| クラス   | c                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 朴 恵貞                 |      |     |

### テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

### 授業の目的（獲得目標）

自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。

### 内 容

- 第1回 久しぶりに会った時などの会話表現 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
- 第3回 用言の「ヘヨ体」の表現文法①
- 第4回 用言の「ヘヨ体」の表現の練習 韓国語（韓国文化）に関するコラム①
- 第5回 用言の「ヘヨ体」の縮約形と融合形の表現 文法②
- 第6回 用言の「ヘヨ体」の縮約形と融合形の表現の練習 韓国語（韓国文化）に関するコラム②
- 第7回 DVD鑑賞（韓国社会の理解）①
- 第8回 用言の「ヘヨ体」の表現の復習とまとめ 方向位置の表現、文法③
- 第9回 擬声語、擬態語の表現
- 第10回 過去形の表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」①
- 第11回 過去形の表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」② 韓国語（韓国文化）に関するコラム③
- 第12回 用言の否定形の表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」
- 第13回 用言の不可能形の表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」 韓国語（韓国文化）に関するコラム④
- 第14回 DVD鑑賞（韓国社会の理解）②
- 第15回 尊敬表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」
- 第16回 特殊な尊敬語の表現 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑤
- 第17回 動作の継続表現 希望表現
- 第18回 韓国の食文化の紹介、文法⑤ 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑥
- 第19回 電話で食事などに誘ってみよう！ 時制表現
- 第20回 婉曲、根拠、仮定の表現 韓国語（韓国文化）に関するコラム⑦
- 第21回 韓国の諺を覚えてみよう！
- 第22回 K-POPを学んでみよう！（韓国社会の理解）
- 第23回 動詞、存在詞の連体形の表現：現在、過去、未来
- 第24回 形容詞、指定詞の連体形の表現：現在、過去、未来
- 第25回 外来語の表現 韓国の慣用句を覚えてみよう！
- 第26回 韓国語で手紙（年賀状）を書いてみよう！ 文法⑥
- 第27回 意思、相談、可能形の表現



第 28 回 DVD 鑑賞（韓国社会の理解）④

第 29 回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ、 補足練習①

第 30 回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ、 補足練習②

---

### 授業以外での学習方法

授業を楽しむためにもテキストの CD を活用し予習・復習を心かけること。 韓国のドラマ・映画と K-POP を楽しみながら韓国社会を理解すること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（15%）授業中課題（15%）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（授業出席重視）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 韓国語Ⅱ <d>             |      |     |
| クラス   | d                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 崔 孝先                 |      |     |

## テーマ

楽しく、効果的に韓国語を学ぶ。

## 授業の目的（獲得目標）

前期の続きで、文法を押さえると同時に読み書きに重点を置きながら、会話練習。

## 内 容

- 第1回 前期の文字と文法の復習。歌12で読み書きと聞き取りの練習復習
- 第2回 前期の文字と文法の復習。歌13で読み書きと聞き取りの練習復習
- 第3回 第5課、歌14読み書きと聞き取りの練習復習
- 第4回 第5課、歌15読み書きと聞き取りの練習復習
- 第5回 第5課、歌1読み書きと聞き取りの練習復習
- 第6回 第6課、歌2読み書きと聞き取りの練習復習
- 第7回 第6課、歌3読み書きと聞き取りの練習復習
- 第8回 第6課、歌4読み書きと聞き取りの練習復習
- 第9回 第7課、歌5読み書きと聞き取りの練習復習
- 第10回 第7課、歌6読み書きと聞き取りの練習復習
- 第11回 第7課、歌7読み書きと聞き取りの練習復習
- 第12回 第8課、歌8読み書きと聞き取りの練習復習
- 第13回 第8課、歌9読み書きと聞き取りの練習復習
- 第14回 第8課、歌10読み書きと聞き取りの練習復習
- 第15回 第9課、歌11読み書きと聞き取りの練習復習
- 第16回 第9課、歌12読み書きと聞き取りの練習復習
- 第17回 第9課、歌13読み書きと聞き取りの練習復習
- 第18回 第10課、歌14読み書きと聞き取りの練習復習
- 第19回 第10課、歌15読み書きと聞き取りの練習復習
- 第20回 第10課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第21回 第11課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第22回 第11課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第23回 第11課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第24回 第12課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第25回 第12課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第26回 第12課、歌の読み書きと聞き取りの練習復習
- 第27回 韓国映画の視聴

第 28 回 “

第 29 回 スピーチテスト

第 30 回 筆記テスト

---

### 授業以外での学習方法

韓国の歌番組視聴

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（）

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 韓国語Ⅲ                 |      |     |
| クラス   |                      | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 韓国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 朴 恵貞                 |      |     |

### テーマ

韓国語の習熟

### 授業の目的（獲得目標）

韓国語会話能力（自己意思表示が可能なレベル）及び読解能力の向上を目指す。

### 内 容

- 第1回 授業の進め方について お互いのことを知ろう！
- 第2回 指定詞の「ハムニダ体」の表現 指定詞の「ハムニダ体」の否定表現
- 第3回 用言の「ハムニダ体」の表現 用言の「ハムニダ体」の否定表現
- 第4回 自分の力で読んでみよう！① 疑問詞 の表現
- 第5回 存在詞の「ハムニダ体」の表現
- 第6回 指示、所有、位置表現
- 第7回 用言の「ヘヨ体」の表現
- 第8回 用言の「ヘヨ体」の否定表現
- 第9回 韓国（文化）に親しもう！① DVD 鑑賞
- 第10回 指定詞、存在詞の「ハムニダ体」の過去形の表現
- 第11回 用言の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形の表現①
- 第12回 用言の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形の表現②
- 第13回 用言の変則活用形の表現① 文法①
- 第14回 指定詞の「ヘヨ体」の表現と否定表現 文法②
- 第15回 漢数詞の応用 文法③
- 第16回 韓国（文化）に親しもう！② DVD 鑑賞
- 第17回 固有数詞の応用
- 第18回 用言の変則活用形の表現② 文法④
- 第19回 自分の力で読んでみよう！②
- 第20回 理由、原因表現
- 第21回 丁寧なお願い表現
- 第22回 勧誘、願望表現 文法⑤
- 第23回 目的、逆説表現 韓国（文化）を知ろう！③
- 第24回 注文してみよう！ 尊敬表現、特殊な尊敬語の表現
- 第25回 推量、推測表現 比較、感嘆表現
- 第26回 尊敬表現の過去形の表現：「ハムニダ体」と「ヘヨ体」 禁止表現
- 第27回 病気の症状を説明してみよう！ 提案、順序表現

第 28 回 韓国（文化）に親しもう！④ DVD 鑑賞

第 29 回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ、 補足練習①

第 30 回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ、 補足練習②

---

#### 授業以外での学習方法

NHK テレビ、ラジオ講座を聴くこと。韓国のドラマ・映画と K-POP 等を楽しみながら韓国（文化）をよく知ること。

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験（25%）小テスト（15%）授業中課題（10%）授業中発表等（20%）参加度（30%）備考（授業出席重視）

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 韓国語Ⅳ                 |      |     |
| クラス   |                      | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 韓国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者 |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 朴 恵貞                 |      |     |

## テーマ

韓国語の習熟

## 授業の目的（獲得目標）

韓国語会話能力の一層の向上と共に、長文の読み書きと聴き取りができることを目指す。

## 内 容

- 第1回 夏休みの過ごし方を話してみよう！ 「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習②
- 第3回 計画、予定表現 許可、承諾表現
- 第4回 意思表現 形容詞の連体形の表現
- 第5回 作文をしてみよう！①
- 第6回 聴解能力を向上させよう！① DVD鑑賞
- 第7回 可能・不可能と能力の有無を表す表現 動作の進行表現
- 第8回 条件、選択表現 用言の変則活用形の表現①
- 第9回 理想のタイプについて話してみよう！ 経験表現
- 第10回 動詞の連体形の表現
- 第11回 読解をしてみよう！①
- 第12回 買い物をしてみよう！ 用言の変則活用形の表現②
- 第13回 意図、許可表現 色についての表現
- 第14回 聴解能力を向上させよう！② DVD鑑賞
- 第15回 道案内をしてみよう！ 授受表現
- 第16回 丁寧な要請表現 状況の説明の表現、 方向表現
- 第17回 作文をしてみよう！②
- 第18回 当為表現 禁止表現
- 第19回 確認、感嘆表現 用言の変則活用形の表現③
- 第20回 日韓の文化の違いを韓国語で話してみよう！
- 第21回 読解をしてみよう！②
- 第22回 聴解能力を向上させよう！③ DVD鑑賞
- 第23回 推量・推測表現 同時動作の表現
- 第24回 作文をしてみよう！③
- 第25回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！①
- 第26回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！②
- 第27回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！③

第 28 回 聴解能力を向上させよう！④ DVD 鑑賞

第 29 回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ、 補足練習①

第 30 回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ、 補足練習②

---

#### 授業以外での学習方法

NHK テレビ、ラジオ講座を聴くこと。 韓国の新聞・雑誌などを積極的に読むこと。

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験（25%）小テスト（15%）授業中課題（10%）授業中発表等（20%）参加度（30%）備考（授業出席重視）

---

科目名 数学演習 I <a>

---

クラス a 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 鷹羽 美栄子

---

テーマ

将来の仕事や生き方の中で必要とされる数学について、基礎を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校 I までの数学について理解する。 数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。授業中にはできるだけ問題を解く練習をしたい。

---

内 容

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 数について

第 3 回 整数の性質

第 4 回 有理数

第 5 回 量を考える

第 6 回 正負の数の意味と計算

第 7 回 ピタゴラスの定理と無理数

第 8 回 文字式の利用

第 9 回 一次方程式・連立方程式の意味と解法

第 10 回 一次方程式の応用

第 11 回 展開と因数分解

第 12 回 二次方程式の意味と解法

第 13 回 二次方程式の応用

第 14 回 数学を楽しむ

第 15 回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（40%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）



---

科目名 数学演習 I <b>

---

クラス b 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 鷹羽 美榮子

---

テーマ

将来の仕事や生き方の中で必要とされる数学について学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校 I までの数学について基礎を学ぶ。数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。授業中にはできるだけ問題を解く練習をしたい。

---

内 容

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 数について

第 3 回 整数の性質(公約数・公倍数・素数)

第 4 回 有理数(分数・小数・循環小数)

第 5 回 量を考える(速度・密度・濃度)

第 6 回 正負の数の意味と理解

第 7 回 ピタゴラスの定理と無理数

第 8 回 文字式の利用

第 9 回 一次方程式・連立方程式の意味と解法

第 10 回 一次方程式の応用

第 11 回 展開と因数分解

第 12 回 二次方程式の意味と解法

第 13 回 二次方程式の応用

第 14 回 まとめ・数を楽しむ

第 15 回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 ( )

---

科目名 数学演習 I <c>

---

クラス c 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 鷹羽 美榮子

---

テーマ

将来の仕事や生き方の中で必要とされる数学について基礎を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校 I までの数学について理解する。数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。授業中にはできるだけ問題を解く練習をしたい。

---

内 容

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 数について

第 3 回 整数の性質(公約数・公倍数・素数)

第 4 回 有理数(分数・小数・循環小数)

第 5 回 量を考える(速度・密度・濃度)

第 6 回 正負の数の意味と計算

第 7 回 ピタゴラスの定理と無理数

第 8 回 文字式の利用

第 9 回 一次方程式・連立方程式の意味と解法

第 10 回 一次方程式の応用

第 11 回 展開と因数分解

第 12 回 二次方程式の意味と解法

第 13 回 二次方程式の応用

第 14 回 まとめ・数を楽しむ

第 15 回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (40%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 数学演習 I <d>

クラス d 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 白井 安夫

テーマ

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

中学から高校1年までの数学について理解する。（内容） 数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。授業中にはできるだけ問題を解く練習をしたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 数について
- 第3回 整数の性質（公約数・公倍数・素数）
- 第4回 有理数（分数・小数・循環小数）
- 第5回 量を考える（速度・密度・濃度）
- 第6回 正負の数の意味と計算
- 第7回 ピタゴラスの定理と無理数
- 第8回 文字式の利用
- 第9回 一次方程式・連立方程式の意味と解法
- 第10回 一次方程式の応用
- 第11回 展開と因数分解
- 第12回 二次方程式の意味と解法
- 第13回 二次方程式の応用
- 第14回 まとめと確認テスト
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

課題を出すので、かならずやってくること

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（40%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中

課題には、提出物・レポートを含む)

---

科目名 数学演習 I <e>

---

クラス e 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 白井 安夫

---

テーマ

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校1年までの数学について理解する。（内容） 数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。授業中にはできるだけ問題を解く練習をしたい。

---

内容

第1回 ガイダンス

第2回 数について

第3回 整数の性質（公約数・公倍数・素数）

第4回 有理数（分数・小数・循環小数）

第5回 量を考える（速度・密度・濃度）

第6回 正負の数の意味と計算

第7回 ピタゴラスの定理と無理数

第8回 文字式の利用

第9回 一次方程式・連立方程式の意味と解法

第10回 一次方程式の応用

第11回 展開と因数分解

第12回 二次方程式の意味と解法

第13回 二次方程式の応用

第14回 まとめと確認テスト

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

課題を出すので、必ずやってくること

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（40%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中

課題には、提出物・レポートを含む)

---

科目名 数学演習 I < f >

---

クラス f 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 白井 安夫

---

テーマ

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校 1 年までの数学について理解する。（内容） 数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。授業中にはできるだけ 問題を解く練習をしたい。

---

内 容

- 第 1 回 ガイダンス
  - 第 2 回 数について
  - 第 3 回 整数の性質（公約数・公倍数・素数）
  - 第 4 回 有理数（分数・小数・循環小数）
  - 第 5 回 量を考える（速度・密度・濃度）
  - 第 6 回 正負の数の意味と計算
  - 第 7 回 ピタゴラスの定理と無理数
  - 第 8 回 文字式の利用
  - 第 9 回 一次方程式・連立方程式の意味と解法
  - 第 10 回 一次方程式の応用
  - 第 11 回 展開と因数分解
  - 第 12 回 二次方程式の意味と解法
  - 第 13 回 二次方程式の応用
  - 第 14 回 まとめと確認テスト
  - 第 15 回 総括
- 

授業以外での学習方法

課題を出すので、必ずやってくること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（40%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中

課題には、提出物・レポートを含む。)



---

科目名 数学演習 I <g>

---

クラス g 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 和田 登美子

---

テーマ

将来の仕事で必要とされる数学の基礎を学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高1までの数学について理解する 数学の基礎を固めるために、授業中はできるだけ問題を解く練習をしたい。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 数について

第3回 整数の性質（公約数・公倍数・素数）

第4回 有理数（分数・小数・循環小数）

第5回 量を考える（速度・密度・濃度）

第6回 正の数・負の数の意味と計算

第7回 三平方の定理と無理数

第8回 文字式の利用

第9回 一次方程式・連立方程式の意味と解法

第10回 一次方程式の応用

第11回 式の展開と因数分解

第12回 二次方程式の意味と解法

第13回 二次方程式の応用

第14回 まとめと確認テスト

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

課題を出すので、必ずやってくること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 数学演習 I <h> |      |     |
| クラス   | h          | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 40  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 |            |      |     |
| 担当者   | 和田 登美子     |      |     |

### テーマ

将来の仕事で必要とされる数学の基礎を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

中学から高1までの数学について理解する 数学の基礎を固めるために、授業中はできるだけ問題を解く練習をしたい。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 数について
- 第3回 整数の性質（公約数・公倍数・素数）
- 第4回 有理数（分数・小数・循環小数）
- 第5回 量を考える（速度・密度・濃度）
- 第6回 正の数・負の数の意味と計算
- 第7回 三平方の定理と無理数
- 第8回 文字式の利用
- 第9回 一次方程式・連立方程式の意味と解法
- 第10回 一次方程式の応用
- 第11回 式の展開と因数分解
- 第12回 二次方程式の意味と解法
- 第13回 二次方程式の応用
- 第14回 まとめと確認テスト
- 第15回 総括

### 授業以外での学習方法

課題を出すので、必ずやってくること。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 数学演習 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 数学演習Ⅱ <a>

---

クラス a 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 鷹羽 美榮子

---

テーマ

将来の仕事や生き方の中で必要とされる数学について学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校Ⅰまでの数学について理解する。数と基礎的な計算についての理解を確かなものとする。簡単な図形の計算も取り入れ、計算して解く楽しみを味わえるようにする。

---

内 容

第1回 ガイダンスと学力診断テスト

第2回 関数とは何か

第3回 1次関数の基礎

第4回 1次関数の応用

第5回 2次関数の基礎

第6回 関数とグラフ

第7回 2次関数とそのグラフ

第8回 2次関数の最大値・最小値

第9回 場合の数と確率（1）

第10回 場合の数と確率（2）

第11回 平行と合同

第12回 三角形と四角形

第13回 平面図形

第14回 まとめ・数を楽しむ

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（40%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 数学演習Ⅱ <b>

---

クラス b 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 鷹羽 美栄子

---

テーマ

将来の仕事や生き方の中で必要とされる数学について基礎を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校Ⅰまでの数学について基礎を学ぶ。数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。図形の簡単な計算も取り入れる。授業中にはできるだけ問題を解く練習をしたい。

---

内 容

第1回 ガイダンスと学力診断調査

第2回 関数とは何か

第3回 1次関数の基礎

第4回 1次関数の応用

第5回 2次関数の基礎

第6回 関数とグラフ

第7回 2次関数とそのグラフ

第8回 2次関数の最大値・最小値

第9回 場合の数と確率（1）

第10回 場合の数と確率（2）

第11回 平行と合同

第12回 三角形と四角形

第13回 平面図形

第14回 まとめ・数を楽しむ

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（40%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 数学演習Ⅱ <c>

---

クラス c 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 鷹羽 美栄子

---

テーマ

将来の仕事や生き方の中で必要とされる数学について基礎を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校Ⅰまでの数学について理解する。数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。図形領域の簡単な計算も取り入れる。授業中にはできるだけ問題を解く練習をしたい。

---

内 容

第1回 ガイダンスと学力診断調査

第2回 関数とは何か

第3回 1次関数の基礎

第4回 1次関数の応用

第5回 2次関数の基礎

第6回 関数とグラフ

第7回 2次関数とそのグラフ

第8回 2次関数の最大値・最小値

第9回 場合の数と確率（1）

第10回 場合の数と確率（2）

第11回 平行と合同

第12回 三角形と四角形

第13回 平面図形

第14回 まとめ・数を楽しむ

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（40%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 数学演習Ⅱ <d>

---

クラス d 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 白井 安夫

---

テーマ

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校1年までの数学について理解する。（内容） 数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。授業中はできるだけ 計算問題を解く練習をしたい。

---

内 容

第1回 ガイダンスと学力診断調査

第2回 関数とは何か

第3回 1次関数の基礎

第4回 1次関数の応用

第5回 2次関数の基礎

第6回 関数とグラフ

第7回 2次関数とそのグラフ

第8回 2次関数の最大値・最小値

第9回 場合の数と確率°

第10回 平行と合同

第11回 三角形と四角形

第12回 平面図形（1）

第13回 平面図形（2）

第14回 まとめと確認テスト

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

課題を出すので、必ずやってくること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（20%）小テスト（30%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業

中課題には、提出物・レポートを含む。)



---

科目名 数学演習Ⅱ <e>

---

クラス e 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 白井 安夫

---

テーマ

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校1年までの数学について理解する。（内容） 数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。授業中はできるだけ計算問題を解く練習をしたい。

---

内容

- 第1回 ガイダンスと学力診断調査
  - 第2回 関数とは何か
  - 第3回 1次関数の基礎
  - 第4回 1次関数の応用
  - 第5回 2次関数の基礎
  - 第6回 関数とグラフ
  - 第7回 2次関数とそのグラフ
  - 第8回 2次関数の最大値・最小値
  - 第9回 場合の数と確率
  - 第10回 平行と合同
  - 第11回 三角形と四角形
  - 第12回 平面図形（1）
  - 第13回 平面図形（2）
  - 第14回 まとめと確認テスト
  - 第15回 総括
- 

授業以外での学習方法

課題を出すので、必ずやってくること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（20%）小テスト（30%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業

中課題には、提出物・レポートを含む。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 数学演習Ⅱ < f >

---

クラス f

配当回生 1回生

---

講義期間 後期

定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 白井 安夫

---

テーマ

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高校1年までの数学について理解する。（内容） 数と基礎的な計算についての理解を確かなものにする。授業中はできるだけ計算問題を解く練習をしたい。

---

内容

第1回 ガイダンスと学力診断調査

第2回 関数とは何か

第3回 1次関数の基礎

第4回 1次関数の応用

第5回 2次関数の基礎

第6回 関数とグラフ

第7回 2次関数とそのグラフ

第8回 2次関数の最大値・最小値

第9回 場合の数と確率

第10回 平行と合同

第11回 三角形と四角形

第12回 平面図形（1）

第13回 平面図形（2）

第14回 まとめと確認テスト

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

課題を出すので、必ずやってくること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（20%）小テスト（30%）授業中課題（20%）授業中発表等（0）参加度（30%）備考（授業中

課題には、提出物・レポートを含む。）

---

科目名 数学演習Ⅱ <g>

---

クラス g 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 和田 登美子

---

テーマ

将来の仕事で必要とされる数学の基礎を学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高1までの数学について理解する 数学の基礎を固めるために、授業中はできるだけ問題を解く練習をしたい。

---

内 容

第1回 ガイダンスと学力診断調査

第2回 関数とは何か

第3回 一次関数の基礎

第4回 一次関数の応用

第5回 二次関数の基礎

第6回 関数とグラフ

第7回 二次関数とグラフ

第8回 二次関数の最大値・最小値

第9回 場合の数と確率

第10回 平行と合同

第11回 三角形と四角形

第12回 平面図形（1）

第13回 平面図形（2）

第14回 まとめと確認テスト

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

課題を出すので、必ずやってくること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0）小テスト（40）授業中課題（40）授業中発表等（0）参加度（20）備考（）

---

科目名 数学演習Ⅱ <h>

---

クラス h 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 和田 登美子

---

テーマ

将来の仕事で必要とされる数学の基礎を学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

中学から高1までの数学について理解する 数学の基礎を固めるために、授業中はできるだけ問題を解く練習をしたい。

---

内 容

第1回 ガイダンスと学力診断調査

第2回 関数とは何か

第3回 一次関数の基礎

第4回 一次関数の応用

第5回 二次関数の基礎

第6回 関数とグラフ

第7回 二次関数とグラフ

第8回 二次関数の最大値・最小値

第9回 場合の数と確率

第10回 平行と合同

第11回 三角形と四角形

第12回 平面図形（1）

第13回 平面図形（2）

第14回 まとめと確認テスト

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

課題を出すので、必ずやってくること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0）小テスト（40）授業中課題（40）授業中発表等（0）参加度（20）備考（）

---

科目名 数学演習Ⅲ

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 岡本 哲弥

---

テーマ

ネットワーク論について理解を深める。

---

### 授業の目的（獲得目標）

昨今、ネットワーク論が社会学、経営学などの分野でも応用されている。本授業では、ネットワーク論に求められるグラフ理論や行列の基本的な数学を学習し、簡単な演習を通じてネットワーク分析を学ぶ。

---

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 行列とは
  - 第3回 行列の加減
  - 第4回 行列の乗法
  - 第5回 逆行列
  - 第6回 行列の連立方程式
  - 第7回 行列のまとめ
  - 第8回 グラフの種類
  - 第9回 グラフと行列
  - 第10回 ネットワーク分析（関係）
  - 第11回 ネットワーク分析（大きさ・密度）
  - 第12回 ネットワーク分析（クリーク）
  - 第13回 ネットワーク分析（中心性）
  - 第14回 演習
  - 第15回 総括
- 

### 授業以外での学習方法

数学を学ぶには基本から一步一步積み上げていく必要があるので、理解不足の部分は必ず復習して下さい。（スケジュールについては、受講生の理解度などに配慮して、若干の入れ替え・変更を行う可能性がある。）

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（レポートの評価を重視するので、課題には積極的に取り組む必要があります。）



---

科目名 簿記演習 I <a>

---

クラス a 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 100

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 山本 耕二

---

テーマ

簿記システムの基礎的理解

---

授業の目的（獲得目標）

簿記一巡の手続きを理解する

---

内 容

第1回 ガイダンス 資産、負債、資本と貸借対照表

第2回 収益・費用と損益計算書

第3回 取引

第4回 小テスト（確認テスト）

第5回 勘定と仕訳

第6回 帳簿の記入

第7回 決算と財務諸表

第8回 元帳の締め切りと財務諸表の作成（1）

第9回 元帳の締め切りと財務諸表の作成（2）

第10回 精算表の作成

第11回 現金、現金過不足

第12回 当座預金、当座借越

第13回 小口現金、商品売買（1）

第14回 商品売買（2）

第15回 まとめ

第16回 前期末テスト

---

授業以外での学習方法

毎回宿題を出します。簿記を理解するには予習及び復習が欠かせません。何度も繰返し、問題を解きながら自力で理解して行くように。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (65%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (35%) 備考 ( )

|       |            |      |      |
|-------|------------|------|------|
| 科目名   | 簿記演習 I <b> |      |      |
| クラス   | b          | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 100  |
| 履修条件  |            |      |      |
| クラス指定 |            |      |      |
| 担当者   | 山本 耕二      |      |      |

### テーマ

簿記システムの基礎的理解

### 授業の目的（獲得目標）

簿記一巡の手続きを理解する

### 内 容

- 第 1 回 ガイダンス 資産、負債、資本と貸借対照表
- 第 2 回 収益・費用と損益計算書
- 第 3 回 取引
- 第 4 回 小テスト（確認テスト）
- 第 5 回 勘定と仕訳
- 第 6 回 帳簿の記入
- 第 7 回 決算と財務諸表
- 第 8 回 元帳の締め切りと財務諸表の作成（1）
- 第 9 回 元帳の締め切りと財務諸表の作成（2）
- 第 10 回 精算表の作成
- 第 11 回 現金、現金過不足
- 第 12 回 当座預金、当座借越
- 第 13 回 小口現金、商品売買（1）
- 第 14 回 商品売買（2）
- 第 15 回 まとめ
- 第 16 回 前期末テスト

### 授業以外での学習方法

毎回宿題を出します。簿記を理解するには予習及び復習が欠かせません。何度も繰返し、問題を解きながら自力で理解して行くように。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (65%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (35%) 備考 ( )

---

科目名 簿記演習 I <c>

---

クラス c 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員 100

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 山本 耕二

---

テーマ

簿記システムの基礎的理解

---

授業の目的（獲得目標）

簿記一巡の手続きを理解する

---

内 容

第1回 ガイダンス 資産、負債、資本と貸借対照表

第2回 収益・費用と損益計算書

第3回 取引

第4回 小テスト（確認テスト）

第5回 勘定と仕訳

第6回 帳簿の記入

第7回 決算と財務諸表

第8回 元帳の締め切りと財務諸表の作成（1）

第9回 元帳の締め切りと財務諸表の作成（2）

第10回 精算表の作成

第11回 現金、現金過不足

第12回 当座預金、当座借越

第13回 小口現金、商品売買（1）

第14回 商品売買（2）

第15回 まとめ

第16回 前期末テスト

---

授業以外での学習方法

毎回宿題を出します。簿記を理解するには予習及び復習が欠かせません。何度も繰返し、問題を解きながら自力で理解して行くように。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (65%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (35%) 備考 ( )

科目名 簿記演習 I <d>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 簿記演習 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



|       |                  |      |     |
|-------|------------------|------|-----|
| 科目名   | 簿記演習Ⅱ <a>        |      |     |
| クラス   | a                | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期               | 定員   | 100 |
| 履修条件  | 簿記演習Ⅰを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 |                  |      |     |
| 担当者   | 山本 耕二            |      |     |

### テーマ

簿記システムの詳細の理解

### 授業の目的（獲得目標）

簿記の本質を理解する。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス 商品有高帳
- 第2回 売掛金・買掛金（1）
- 第3回 売掛金・買掛金（2）、その他の債権と債務（1）
- 第4回 その他の債権と債務（2）
- 第5回 その他の債権と債務（3）、手形（1）
- 第6回 手形（2）
- 第7回 手形（3）、有価証券
- 第8回 固定資産、資本金と引出金
- 第9回 収益と費用
- 第10回 税金、帳簿と伝票
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 決算整理手続
- 第13回 精算表の作成
- 第14回 決算振替手続と元帳の締め切り、財務諸表の作成
- 第15回 まとめ
- 第16回 後期末試験

### 授業以外での学習方法

簿記演習Ⅰ（前期）で学んだ基礎的理解が必要です。前期と同様、毎回宿題を出します。何度も繰返し、問題を解きながら自力で解決して行くように。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (65%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (35%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                  |      |     |
|-------|------------------|------|-----|
| 科目名   | 簿記演習Ⅱ <b>        |      |     |
| クラス   | b                | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期               | 定員   | 100 |
| 履修条件  | 簿記演習Ⅰを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 |                  |      |     |
| 担当者   | 山本 耕二            |      |     |

## テーマ

簿記システムの詳細の理解

## 授業の目的（獲得目標）

簿記の本質を理解する。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス 商品有高帳
- 第2回 売掛金・買掛金（1）
- 第3回 売掛金・買掛金（2）、その他の債権と債務（1）
- 第4回 その他の債権と債務（2）
- 第5回 その他の債権と債務（3）、手形（1）
- 第6回 手形（2）
- 第7回 手形（3）、有価証券
- 第8回 固定資産、資本金と引出金
- 第9回 収益と費用
- 第10回 税金、帳簿と伝票
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 決算整理手続
- 第13回 精算表の作成
- 第14回 決算振替手続と元帳の締め切り、財務諸表の作成
- 第15回 まとめ
- 第16回 後期末試験

## 授業以外での学習方法

簿記演習Ⅰ（前期）で学んだ基礎的理解が必要です。前期と同様、毎回宿題を出します。何度も繰返し、問題を解きながら自力で解決して行くように。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (65%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (35%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 簿記演習Ⅱ <c>

---

クラス c 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 100

---

履修条件 簿記演習Ⅰを修得済みであること。

---

クラス指定

---

担当者 山本 耕二

---

### テーマ

簿記システムの詳細の理解

---

### 授業の目的（獲得目標）

簿記の本質を理解する。

---

### 内 容

- 第1回 ガイダンス 商品有高帳
  - 第2回 売掛金・買掛金（1）
  - 第3回 売掛金・買掛金（2）、その他の債権と債務（1）
  - 第4回 その他の債権と債務（2）
  - 第5回 その他の債権と債務（3）、手形（1）
  - 第6回 手形（2）
  - 第7回 手形（3）、有価証券
  - 第8回 固定資産、資本金と引出金
  - 第9回 収益と費用
  - 第10回 税金、帳簿と伝票
  - 第11回 試算表の作成
  - 第12回 決算整理手続
  - 第13回 精算表の作成
  - 第14回 決算振替手続と元帳の締め切り、財務諸表の作成
  - 第15回 まとめ
  - 第16回 後期末試験
- 

### 授業以外での学習方法

簿記演習Ⅰ（前期）で学んだ基礎的理解が必要です。前期と同様、毎回宿題を出します。何度も繰返し、問題を解きながら自力で解決して行くように。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (65%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (35%) 備考 ( )

科目名 簿記演習Ⅱ <d>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 簿記演習Ⅰを修得済みであること。

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 簿記演習Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件 簿記演習Ⅰを修得済みであること。

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 日本語 I

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定 到達度別

担当者 河村 静江

### テーマ

日本語運用能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

1. 日本語能力試験 1 級の合格 2. 聴解能力を養う

### 内 容

- 第 1 回 オリエンテーション及び自己紹介
- 第 2 回 ニュースの聞き取り①
- 第 3 回 日本語能力試験 1 級問題①
- 第 4 回 ニュースの聞き取り②
- 第 5 回 日本語能力試験 1 級問題②
- 第 6 回 ニュースの聞き取り③
- 第 7 回 日本語能力試験 1 級問題③
- 第 8 回 ニュースの聞き取り④
- 第 9 回 日本語能力試験 1 級問題④
- 第 10 回 ニュースの聞き取り⑤
- 第 11 回 発表内容の検討
- 第 12 回 復習
- 第 13 回 映画の聞き取り
- 第 14 回 発表①
- 第 15 回 発表② 必要に応じて学外授業を行います。

### 授業以外での学習方法

日本語能力試験に向けての準備を行う。出される課題を行う。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（35%）授業中課題（0%）授業中発表等（35%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 日本語 I

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 外国人留学生のみ履修可

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 中崎 崇

---

### テーマ

日本語運用能力の向上

---

### 授業の目的（獲得目標）

この講義では、専門の文章（社会科学の各分野の入門書や論文など）の読み方を学ぶ。その他、社会科学に関する基本的な語彙や知識を習得することも目標である。

---

### 内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明
  - 第2回 第1課 何の話かをつかむ
  - 第3回 第1課 何の話かをつかむ
  - 第4回 第2課 何が問題になっているかをつかむ
  - 第5回 第2課 何が問題になっているかをつかむ
  - 第6回 第3課 言いたいことは何かをつかむ
  - 第7回 第3課 言いたいことは何かをつかむ
  - 第8回 第4課 歴史を扱った文章を読む
  - 第9回 第4課 歴史を扱った文章を読む
  - 第10回 第5課 二項対立を見抜く
  - 第11回 第5課 二項対立を見抜く
  - 第12回 第6課 筆者の立場を見抜く
  - 第13回 第6課 筆者の立場を見抜く
  - 第14回 第7課 文章を整理して理解する
  - 第15回 第7課 文章を整理して理解する 必要に応じて学外授業を行います
- 

### 授業以外での学習方法

配布プリントなど教材の予習・復習をする。確認テストに向けての勉強を継続的に行う。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（なお、出席回数

が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。)

---

科目名 日本語 I

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 外国人留学生のみ履修可

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 中川 裕子

---

### テーマ

日本語運用能力の向上

---

### 授業の目的（獲得目標）

生活全般および大学での学習活動に必要な基礎的な理解力、表現力を身につける。ACTFL-OPI (全米外国語教育協会 口頭表現能力測定) Advance (上級) ~ Superior (超級) の口頭表現能力をめざす。

---

### 内 容

- 第1回 場面にふさわしい自己紹介
  - 第2回 自分の国の行事紹介
  - 第3回 詳細な情景描写
  - 第4回 困った状況への対応と交渉
  - 第5回 構成を考えた簡潔な説明
  - 第6回 不満への対処
  - 第7回 わかりやすい表現への言い換え
  - 第8回 場面・状況に適した説明
  - 第9回 接続表現の効果的な使用
  - 第10回 抽象的な表現を用いた説明
  - 第11回 複眼的視点で意見を述べる
  - 第12回 感情を生き生きと伝える
  - 第13回 発表活動①
  - 第14回 発表活動②
  - 第15回 期末試験
  - 第16回 まとめ 必要に応じて学外授業を行います
- 

### 授業以外での学習方法

配布物の予習と復習。練習問題(毎回提出)や課題ノート(各自の興味に基づいて調べたことをまとめる)に取り組む。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（10%）授業中課題（30%）授業中発表等（20%）参加度（10%）備考（）

科目名 日本語 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定 到達度別

担当者 中崎 崇

## テーマ

日本語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

大学での生活・学習に必要なスキル（読解する・書く・発表する・議論する・聞き取る・調べるなど）を総合的に学ぶ。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明
- 第2回 ユニット1 ひと味違う自己紹介
- 第3回 ユニット1 ひと味違う自己紹介
- 第4回 ユニット1 ひと味違う自己紹介
- 第5回 ユニット1 ひと味違う自己紹介
- 第6回 ユニット2 間取りの本当の意味
- 第7回 ユニット2 間取りの本当の意味
- 第8回 ユニット2 間取りの本当の意味
- 第9回 ユニット2 間取りの本当の意味
- 第10回 ユニット3 「買う」楽しみ
- 第11回 ユニット3 「買う」楽しみ
- 第12回 ユニット3 「買う」楽しみ
- 第13回 ユニット3 「買う」楽しみ
- 第14回 重要表現の確認
- 第15回 まとめ 必要に応じて学外授業を行います

## 授業以外での学習方法

配布プリントなど教材の予習・復習をする。確認テストに向けての勉強を継続的に行う。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（35%）授業中課題（35%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（なお、出席回数

が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。)

科目名 日本語 I <c>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 日本語Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定 到達度別

担当者 河村 静江

### テーマ

日本語運用能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

日本語能力試験1級の合格。聴解能力を養う。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション及び自己紹介
- 第2回 ニュースの聞き取り①
- 第3回 日本語能力試験1級問題①
- 第4回 ニュースの聞き取り②
- 第5回 日本語能力試験1級問題②
- 第6回 ニュースの聞き取り③
- 第7回 日本語能力試験1級問題③
- 第8回 ニュースの聞き取り④
- 第9回 日本語能力試験1級問題④
- 第10回 ニュースの聞き取り⑤
- 第11回 発表内容の検討
- 第12回 映画の聞き取り
- 第13回 復習
- 第14回 発表①
- 第15回 発表② 必要に応じて学外授業を行います。

### 授業以外での学習方法

日本語能力試験の準備を行う。出される課題を行う。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（35%）授業中課題（0%）授業中発表等（35%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |             |     |  |
|-------|-------------|-----|--|
| 科目名   | 日本語Ⅱ        |     |  |
| クラス   | 配当回生        | 1回生 |  |
| 講義期間  | 定員          | 30  |  |
| 履修条件  | 外国人留学生のみ履修可 |     |  |
| クラス指定 | 到達度別        |     |  |
| 担当者   | 中崎 崇        |     |  |

## テーマ

日本語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

大学での生活・学習に必要なスキルの中から、上級レベルの会話力の育成を目指す。日本語能力検定試験1級合格に必要な語彙の知識を習得する。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明
- 第2回 第1課「自己紹介で好印象をあたえよう」内容理解
- 第3回 第1課「自己紹介で好印象をあたえよう」発表・評価
- 第4回 語彙1日目～4日目
- 第5回 第2課「きっかけを語ろう」内容理解
- 第6回 第2課「きっかけを語ろう」発表・評価
- 第7回 語彙5日目～8日目
- 第8回 第4課「町の様子を話そう」内容理解
- 第9回 第4課「町の様子を話そう」発表・評価
- 第10回 語彙9日目～12日目
- 第11回 第6課「スポーツのおもしろさを伝えよう」内容理解
- 第12回 第6課「スポーツのおもしろさを伝えよう」発表・評価
- 第13回 語彙13日目～16日目
- 第14回 第10課「ストーリーを話そう」内容理解
- 第15回 第10課「ストーリーを話そう」発表・評価 必要に応じて学外授業を行います

## 授業以外での学習方法

配布プリントなど教材の予習・復習をする。確認テストに向けての勉強を継続的に行う。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（50%）参加度（30%）備考（なお、出席回数が全

授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。)

科目名 日本語Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定 到達度別

担当者 中川 裕子

### テーマ

日本語運用能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

大学での学習に必要な理解力、表現力を身につける。特に、口頭表現能力、聴解能力の向上に重点を置く。

### 内 容

- 第1回 説明内容の聞き取り/5分間スピーチ
- 第2回 数量・形状の説明の聞き取り/5分間スピーチ
- 第3回 カタカナ語の聞き取り/5分間スピーチ
- 第4回 原因・理由の聞き取り/5分間スピーチ
- 第5回 まとまりのある内容の聞き取り/5分間スピーチ
- 第6回 ニュース①(気象情報)/5分間スピーチ
- 第7回 ニュース②(事件・事故)/5分間スピーチ
- 第8回 ニュース③(経済・社会)/5分間スピーチ
- 第9回 ニュース④(政治)/5分間スピーチ
- 第10回 ニュース⑤(科学技術)/5分間スピーチ
- 第11回 ニュース⑥(身近な話題)/5分間スピーチ
- 第12回 ニュース⑦(教育・文化)/5分間スピーチ
- 第13回 発表活動①
- 第14回 発表活動②
- 第15回 期末試験
- 第16回 まとめ 必要に応じて学外授業を行います

### 授業以外での学習方法

配布プリントの復習。課題ノート(各自の興味にもとづく内容をまとめる)に取り組む。授業での発表準備。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験(30%) 小テスト(10%) 授業中課題(30%) 授業中発表等(20%) 参加度(10%) 備考( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本語Ⅱ

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 外国人留学生のみ履修可

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 中崎 崇

---

**テーマ**

日本語運用能力の向上

---

**授業の目的（獲得目標）**

大学での生活・学習に必要なスキルの中から、聞き取り、文章力・プレゼンカの育成を目指す。

---

**内 容**

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明
  - 第2回 グラフの読み方
  - 第3回 第2課「いつ、どこで買う」（話し合ってみましょう）
  - 第4回 第2課「いつ、どこで買う」（情報1 グラフ・ことば）
  - 第5回 第2課「いつ、どこで買う」（情報2 読み物・表現）
  - 第6回 第2課「いつ、どこで買う」（情報2 読み物）
  - 第7回 アンケート調査
  - 第8回 アンケートシート作成
  - 第9回 アンケートシート完成・実施
  - 第10回 アンケート集計
  - 第11回 アンケートのまとめ方
  - 第12回 原稿完成、グラフ・図の作成
  - 第13回 発表
  - 第14回 フィードバック
  - 第15回 まとめ 必要に応じて学外授業を行います
- 

**授業以外での学習方法**

配布プリントなど教材の予習・復習をする。確認テストに向けての勉強を継続的に行う。

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（20%）参加度（30%）備考（なお、出席回数  
が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語Ⅱ <c>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 日本語Ⅲ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定 到達度別

担当者 河村 静江

### テーマ

日本語能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

上級レベルの読解・作文・プレゼンテーション能力を養う

### 内 容

- 第1回 第1課「異文化適応」①
- 第2回 第1課「異文化適応」①
- 第3回 第2課「いじめ」①
- 第4回 第2課「いじめ」②
- 第5回 第3課「衝動買いを誘導する」①
- 第6回 第3課「衝動買いを誘導する」②
- 第7回 第4課「ビデオカメラの人間工学」①
- 第8回 第4課「ビデオカメラの人間工学」②
- 第9回 第5課「多様化の中のテレビ」①
- 第10回 第5課「多様化の中のテレビ」②
- 第11回 第6課「フリーター」①
- 第12回 第6課「フリーター」②
- 第13回 第7課「安全でおいしい水を飲むために」
- 第14回 発表①
- 第15回 発表② 必要に応じて学外授業を行います。

### 授業以外での学習方法

毎回出される課題を行う

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（35%）授業中課題（0%）授業中発表等（35%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |             |     |  |
|-------|-------------|-----|--|
| 科目名   | 日本語Ⅲ        |     |  |
| クラス   | 配当回生        | 2回生 |  |
| 講義期間  | 定員          | 30  |  |
| 履修条件  | 外国人留学生のみ履修可 |     |  |
| クラス指定 | 到達度別        |     |  |
| 担当者   | 中崎 崇        |     |  |

## テーマ

日本語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

この講義では、敬語や授受表現といった「待遇表現」について学ぶ。待遇上のマナーを守り、社会的な場面で求められる話し方ができるようになることを目標とする。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明
- 第2回 I 待遇表現と敬語（待遇表現とは）
- 第3回 I 待遇表現と敬語（敬語について）
- 第4回 II 様々な表現と使い方（敬語表現 動詞の形と使い方）
- 第5回 II 様々な表現と使い方（敬語表現 あらたまった表現）
- 第6回 II 様々な表現と使い方（授受表現）
- 第7回 II 様々な表現と使い方（丁寧体と普通体の使い分け）
- 第8回 III 待遇表現が用いられる場面（依頼・誘いと承諾）
- 第9回 III 待遇表現が用いられる場面（助言・忠告）
- 第10回 III 待遇表現が用いられる場面（主張・意見）
- 第11回 III 待遇表現が用いられる場面（許可・申し出）
- 第12回 III 待遇表現が用いられる場面（感謝・おわび）
- 第13回 総合演習Ⅰ・Ⅱ
- 第14回 総合演習Ⅲ・Ⅳ
- 第15回 まとめ 必要に応じて学外授業を行います

## 授業以外での学習方法

配布プリントなど教材の予習・復習をする。確認テストに向けての勉強を継続的に行う。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（70%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（なお、出席回数



全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。)

|       |             |
|-------|-------------|
| 科目名   | 日本語Ⅲ        |
| クラス   | 配当回生 2回生    |
| 講義期間  | 定員 30       |
| 履修条件  | 外国人留学生のみ履修可 |
| クラス指定 | 到達度別        |
| 担当者   | 中川 裕子       |

### テーマ

日本語運用能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

大学での学習に必要な理解力、表現力を身につける。読解と作文に重点を置く。

### 内 容

- 第1回 文章構成(序論、本論、結論)/定義の表現
- 第2回 文章構成(起承転結)/分類の表現
- 第3回 文章構成(問題点の指摘⇒解決策の提案⇒意見の主張)/図表の表現
- 第4回 文章構成(問題提起⇒意見の引用⇒反対の立場表明⇒意見の主張)
- 第5回 要約練習①－文体の統一
- 第6回 引用表現
- 第7回 分析して説明する－ことわざや慣用表現の効果的な使用法
- 第8回 比較対照して説明する
- 第9回 目的・理由を説明する－因果関係の表現
- 第10回 事実の報告－小見出しをつけて報告する
- 第11回 要約練習②－要旨を書く
- 第12回 要約練習③－箇条書きで要点をまとめる
- 第13回 発表活動①
- 第14回 発表活動②
- 第15回 期末試験
- 第16回 まとめ 必要に応じて学外授業を行います

### 授業以外での学習方法

教科書および配布プリントの予習、復習。練習問題(毎回配布)、課題ノート(各自の興味に基づき調べたことをまとめる)に取り組む。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（30%）小テスト（10%）授業中課題（30%）授業中発表等（20%）参加度（10%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |             |
|-------|-------------|
| 科目名   | 日本語Ⅲ        |
| クラス   | 配当回生 2回生    |
| 講義期間  | 定員 30       |
| 履修条件  | 外国人留学生のみ履修可 |
| クラス指定 | 到達度別        |
| 担当者   | 中崎 崇        |

## テーマ

日本語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

この講義は、会話場面における聴解力と場面に応じて適切に話す会話力の育成を目標とする。具体的には、会話の内容についての正確な理解だけでなく、話し手の意図や感情についても正しく理解できる能力や、会話の相手や場所に応じた話し方ができる能力の習得をめざす。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明
- 第2回 第1課 今、いないんですけどー伝言ー
- 第3回 第1課 今、いないんですけどー伝言ー
- 第4回 第2課 一緒に往って見ない？ー勧誘ー
- 第5回 第2課 一緒に往って見ない？ー勧誘ー
- 第6回 第3課 これ、使わせてもらってもいいかなってー許可ー
- 第7回 第3課 これ、使わせてもらってもいいかなってー許可ー
- 第8回 第4課 渋滞してるらしいですよー確かな情報・不確かな情報ー
- 第9回 第4課 渋滞してるらしいですよー確かな情報・不確かな情報ー
- 第10回 第5課 そこをなんとかー依頼・指示ー
- 第11回 第5課 そこをなんとかー依頼・指示ー
- 第12回 第6課 予約しておいたはずなんですけどー文句ー
- 第13回 第6課 予約しておいたはずなんですけどー文句ー
- 第14回 第7課 中華のほうがいいんじゃない？ー提案ー
- 第15回 第7課 中華のほうがいいんじゃない？ー提案ー 必要に応じて学外授業を行います

## 授業以外での学習方法

配布プリントなど教材の予習・復習をする。確認テストに向けての勉強を継続的に行う。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（10%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（30%）備考（なお、出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語Ⅲ <c>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語Ⅳ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定 到達度別

担当者 河村 静江

**テーマ**

日本語運用能力の向上

**授業の目的（獲得目標）**

上級レベルの読解・作文・プレゼンテーション能力を養う

**内 容**

第1回 第1課「食文化」①

第2回 第1課「食文化」②

第3回 第2課「仕事」①

第4回 第2課「仕事」②

第5回 第3課「生活習慣と宗教」①

第6回 第3課「生活習慣と宗教」②

第7回 第4課「リサイクル」①

第8回 第4課「リサイクル」②

第9回 第4課「リサイクル」③

第10回 第5課「ジェンダー」①

第11回 第5課「ジェンダー」②

第12回 発表内容の検討

第13回 復習

第14回 発表①

第15回 発表② 必要に応じて学外授業を行います。

**授業以外での学習方法**

毎回出される課題を行う

**教科書****参考書****成績評価**

試験（0%）小テスト（35%）授業中課題（0%）授業中発表等（35%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 日本語Ⅳ

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 定員 30

---

履修条件 外国人留学生のみ履修可

---

クラス指定 到達度別

---

担当者 中崎 崇

---

### テーマ

日本語運用能力の向上

---

### 授業の目的（獲得目標）

大学での生活・学習に必要なスキルの中から、上級レベルの語彙力の育成を目指す。日本語能力検定試験1級合格に必要な聴解の知識を習得する。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明

第2回 新聞の基礎知識

第3回 第1課「気象」本文理解

第4回 第1課「気象」聴き取り・練習問題

第5回 聴解8日目～11日目

第6回 第2課「自然災害」本文理解

第7回 第2課「自然災害」聴き取り・練習問題

第8回 聴解12日目～15日目

第9回 第3課「事故」本文理解

第10回 第3課「事故」聴き取り・練習問題

第11回 聴解16日目～19日目

第12回 第4課「トラブル・不祥事」本文理解

第13回 第4課「トラブル・不祥事」聴き取り・練習問題

第14回 第5課「社会問題」本文理解

第15回 第5課「社会問題」聴き取り・練習問題 必要に応じて学外授業を行います

---

### 授業以外での学習方法

配布プリントなど教材の予習・復習をする。確認テストに向けての勉強を継続的に行う。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（50%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（なお、出席回数



が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。)

|       |             |     |  |
|-------|-------------|-----|--|
| 科目名   | 日本語Ⅳ        |     |  |
| クラス   | 配当回生        | 2回生 |  |
| 講義期間  | 定員          | 30  |  |
| 履修条件  | 外国人留学生のみ履修可 |     |  |
| クラス指定 | 到達度別        |     |  |
| 担当者   | 中川 裕子       |     |  |

### テーマ

日本語運用能力の向上

### 授業の目的（獲得目標）

大学での学習に必要な理解力、表現力を身につける。特に論文読解、作文に重点を置く。

### 内 容

- 第1回 話し言葉と書き言葉の使い分け
- 第2回 論文などでよく用いられる表現の特徴
- 第3回 段落構成練習－アウトラインを組み立てる
- 第4回 序論(背景説明、問題提起、方向付け)/図形の表現
- 第5回 序論(背景説明、問題提起、方向付け)/文末表現
- 第6回 本論(論拠、結論提示、論の展開)/引用の方法
- 第7回 本論(論拠、結論提示、論の展開)/定義や分類の表現
- 第8回 本論(論拠、結論提示、論の展開)/要約練習
- 第9回 結論(全体のまとめ、評価、展望提示、参考文献、資料など)
- 第10回 論文読解練習①(全体構成、序論)
- 第11回 論文読解練習②(本論－実験調査型、理論型)
- 第12回 論文読解練習③(結論－まとめ、結論の要約、自己評価、今後の課題)
- 第13回 発表活動①
- 第14回 発表活動②
- 第15回 期末試験
- 第16回 まとめ 必要に応じて学外授業を行います

### 授業以外での学習方法

教科書および配布物の予習、復習。練習問題(毎回提出)、課題ノート(各自の興味に基づき調べたことをまとめる)に取り組む。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（30%）小テスト（10%）授業中課題（30%）授業中発表等（20%）参加度（10%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |             |
|-------|-------------|
| 科目名   | 日本語Ⅳ        |
| クラス   | 配当回生 2回生    |
| 講義期間  | 定員 30       |
| 履修条件  | 外国人留学生のみ履修可 |
| クラス指定 | 到達度別        |
| 担当者   | 中崎 崇        |

## テーマ

日本語運用能力の向上

## 授業の目的（獲得目標）

日本語能力試験 1・2 級に合格するための知識、特に試験 3 科目のうち「文字・語彙」「聴解」の知識の獲得を目指す。

## 内 容

- 第 1 回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明
- 第 2 回 第 2 章 語彙「カタカナ①」「カタカナ②」 試験に出る聴解 1 日目、2 日目
- 第 3 回 第 2 章 語彙「接続詞①」「接続詞②」 試験に出る聴解 3 日目、4 日目
- 第 4 回 第 2 章 語彙「副詞・副詞的表現①」「副詞・副詞的表現②」 試験に出る聴解 5 日目、6 日目
- 第 5 回 第 2 章 語彙「副詞・副詞的表現③」「副詞・副詞的表現④」 試験に出る聴解 7 日目、8 日目
- 第 6 回 第 2 章 語彙「ようすを表す言葉①」「ようすを表す言葉②」 試験に出る聴解 9 日目、10 日目
- 第 7 回 第 2 章 語彙「感じ方・気持ちを表す言葉」「動作を表す言葉」 試験に出る聴解 11 日目、12 日目
- 第 8 回 第 2 章 語彙「行動を表す言葉」「物・事を表す言葉①」 試験に出る聴解 13 日目、14 日目
- 第 9 回 第 2 章 語彙「物・事を表す言葉②」「意味のたくさんある言葉①」 試験に出る聴解 15 日目、16 日目
- 第 10 回 第 2 章 語彙「意味のたくさんある言葉②」「発音が似ている言葉」 試験に出る聴解 17 日目、18 日目
- 第 11 回 第 2 章 語彙「見た目が似ている言葉」「意味が似ている言葉」 試験に出る聴解 19 日目、20 日目
- 第 12 回 第 2 章 語彙「総まとめ問題 語彙 1 2 級」「総まとめ問題 語彙 2 2 級」 試験に出る聴解 21 日目、22 日目
- 第 13 回 第 1 章 文字「同じ読みの言葉 音読み①」「同じ読みの言葉 音読み②」 試験に出る聴解 23 日目、24 日目
- 第 14 回 第 1 章 文字「同じ読みの言葉 音読み③」「同じ読みの言葉 音読み④」 試験に出る聴解 25 日目、26 日目
- 第 15 回 第 1 章 文字「同じ読みの言葉 訓読み①」「同じ読みの言葉 訓読み②」 試験に出る聴解 27 日目、28 日目 必要に応じて学外授業を行います

## 授業以外での学習方法

配布プリントなど教材の予習・復習をする。確認テストに向けての勉強を継続的に行う。

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（70%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（なお、出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語Ⅳ <c>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |             |      |      |
|-------|-------------|------|------|
| 科目名   | 日本事情 I <a>  |      |      |
| クラス   | a           | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期          | 定員   | 30   |
| 履修条件  | 外国人留学生のみ履修可 |      |      |
| クラス指定 |             |      |      |
| 担当者   | 取屋 淳子       |      |      |

### テーマ

日本の文化や生活習慣・季節の行事などを通して、それらの背景にある日本人の考え方などを探る。

### 授業の目的（獲得目標）

それぞれの習慣や行事などは、日本人の歩んできた歴史や考え方と密接に関係している。この講義では、言葉にも焦点を当て、文化から出てきた独特な慣用句なども学んでいく。自国との相違点や共通点を発見し、自分なりの意見を言えるようにする。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション(自己紹介)、日本人と桜
- 第2回 年中行事①
- 第3回 年中行事②
- 第4回 「色」について
- 第5回 着物について
- 第6回 日本料理
- 第7回 日本の伝統的な遊び
- 第8回 日本人の宗教観(寺・神社)
- 第9回 関西弁
- 第10回 日本の童謡・歌
- 第11回 日本の教育
- 第12回 日本の祭り
- 第13回 発表&ディスカッション①
- 第14回 発表&ディスカッション②
- 第15回 発表&ディスカッション③

### 授業以外での学習方法

日本の生活や習慣、行事などへの積極的な参加を望む。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（20%）参加度（50%）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 日本事情 I <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 日本事情Ⅱ <a>   |      |     |
| クラス   | a           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 外国人留学生のみ履修可 |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 辻野 里枝       |      |     |

**テーマ**

映像作品や新聞記事などから日本の社会や文化について学ぶ。

**授業の目的（獲得目標）**

さまざまな場面で使用されている日本語に触れ、日本の社会や文化について理解を深める。また作品や記事を通して自分の意見を日本語で述べることにより日本語表現能力の向上を目指す。

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介
- 第2回 年中行事、生活習慣（1）
- 第3回 衣食住
- 第4回 観光
- 第5回 流行
- 第6回 年中行事、生活習慣（2）
- 第7回 マナー
- 第8回 交通
- 第9回 情報
- 第10回 年中行事、生活習慣（3）
- 第11回 環境
- 第12回 DVD鑑賞（映画）
- 第13回 DVD鑑賞（映画）
- 第14回 年中行事、生活習慣（4）
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

日ごろから新聞やニュースなどに関心を持ち、情報獲得を心がけること。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40%）授業中発表等（40%）参加度（20%）備考（毎回テーマについて事前

もしくは事後に書く作業を行い、評価の対象とする。)

## 2010 Syllabus

科目名 日本事情Ⅱ <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |             |
|-------|-------------|
| 科目名   | 日本事情Ⅲ       |
| クラス   | 配当回生 2回生    |
| 講義期間  | 前期 定員 30    |
| 履修条件  | 外国人留学生のみ履修可 |
| クラス指定 |             |
| 担当者   | 取屋 淳子       |

## テーマ

日本のポップカルチャー(特に日本アニメやマンガ)から見た日本の文化や習慣

## 授業の目的(獲得目標)

アニメやマンガを題材にして、内容やセリフだけではなく、その中に隠されているメッセージや日本独特の文化や習慣などを探っていく。一つの作品をさまざまな視点から見ることで、日本という国を見ていく。

## 内 容

第1回 日本アニメを代表するジブリ作品(マンガなども)を中心に、毎回テーマを決めて、内容やセリフなどから分かる日本文化を見ていく。一つの作品を平均4回の講義で観て、詳しく内容を分析し、そこから分かる日本人の考え方や感想などをクラスで発表したり、レポートにまとめていく。日本アニメやマンガの歴史なども紹介し、日本がなぜ「アニメ・マンガ大国」となりえたのか、といった背景にあるものにも言及していく。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

## 授業以外での学習方法

たくさんのアニメやマンガに触れ、さまざまな視点から詳しく観て、自分なりの考察を加える。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（20%）参加度（40%）備考（

科目名 日本事情Ⅳ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者 辻野 里枝

テーマ

日本の社会や文化について自国との比較を通し、相互理解を促す。

授業の目的（獲得目標）

この授業は演習形式で受講生自ら調査し、発表することにより日本語の総合的な運用能力を養うことを目標とする。

内 容

第1回 オリエンテーション、自己紹介

第2回 調査方法、発表の説明

第3回 テーマ提示（日本の若者）

第4回 調査概要を決定、調査実施

第5回 発表準備

第6回 発表、質疑応答

第7回 テーマ提示（日本の芸能）

第8回 調査概要を決定、調査実施

第9回 発表準備

第10回 発表、質疑応答

第11回 テーマ提示（日本の社会問題）

第12回 調査概要を決定、調査実施

第13回 発表準備

第14回 発表、質疑応答

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

日ごろから新聞やニュースなどに関心を持ち、情報獲得に心がけること。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40%）授業中発表等（40%）参加度（20%）備考（授業中の発言など積極的

な授業参加を重視する。)



|       |   |     |                |
|-------|---|-----|----------------|
| 科目名   | 日本文化演習 I  |     |                |
| クラス   | 配当回生  | 3回生 |                |
| 講義期間  | 前期  | 定員  | 10 (外国人留学生を除く) |
| 履修条件  | (1)外国人留学生、または、(2)日本語教授法 I～IVのうち、1つ以上の科目を履修中または修得済みであること |     |                |
| クラス指定 |   |     |                |
| 担当者   | 志賀 亮一   |     |                |

### テーマ

現場で知る日本の伝統文化

### 授業の目的 (獲得目標)

日本の伝統文化をできるだけよく知るため、授業および各自で文化財や伝統行事を見学し、その体験を授業でプレゼンテーションする (一人2回程度) とともに、レポートとして蓄積し、最後に「わたしの日本文化体験記」を制作する。なお、プレゼンテーション授業では、受講生の投票によって毎回「優秀賞」を決定し、ささやかな賞品を贈る予定である。 【注意事項】 2010年度より留学生以外も受講が可能となります。ただし、日本語教授法 I～IVのいずれかの科目を履修中または修得済みであることが前提条件となります。また、定員 (留学生除く)

### 内 容

|      |                             |                            |
|------|-----------------------------|----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                       | 授業の進め方と半年間の予定および第1回目の見学先決定 |
| 第2回  | 第1回目見学換                     |                            |
| 第3回  | 第1回目の見学体験プレゼンテーションとレポート・その1 | (一人10分で6-7人)               |
| 第4回  | 第1回目の見学体験プレゼンテーションとレポート・その2 | (一人10分で6-7人)               |
| 第5回  | 第2回目の見学                     |                            |
| 第6回  | 第2回目の見学体験プレゼンテーションとレポート・その1 | (一人10分で6-7人)               |
| 第7回  | 第2回目の見学体験プレゼンテーションとレポート・その2 | (一人10分で6-7人)               |
| 第8回  | 第3回目の見学                     |                            |
| 第9回  | 第3回目の見学体験プレゼンテーションとレポート・その1 | (一人10分で6-7人)               |
| 第10回 | 第3回目の見学体験プレゼンテーションとレポート・その2 | (一人10分で6-7人)               |
| 第11回 | 第4回目の見学                     |                            |
| 第12回 | 第4回目の見学体験プレゼンテーションとレポート・その1 | (一人10分で6-7人)               |
| 第13回 | 第4回目の見学体験プレゼンテーションとレポート・その2 | (一人10分で6-7人)               |
| 第14回 | 第5回目の見学                     |                            |
| 第15回 | レポート「わたしの日本文化体験記」講評         |                            |

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（うえの「授業中課題」とは、最終提出の「わたしの日本文化体験記」のこと。）

|       |   |      |                |
|-------|---|------|----------------|
| 科目名   | 日本文化演習Ⅱ   |      |                |
| クラス   | a   | 配当回生 | 3回生            |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 10 (外国人留学生を除く) |
| 履修条件  | (1)外国人留学生、または、(2)日本語教授法Ⅰ～Ⅳのうち、1つ以上の科目を履修中または修得済みであること |      |                |
| クラス指定 |   |      |                |
| 担当者   | 中谷 武雄   |      |                |

### テーマ

京都での日本文化の体験

### 授業の目的（獲得目標）

京都という地理的条件をいかして、歴史的遺産や伝統行事などを見学し、日本文化への理解を深める。内容：京都近辺の神社・仏閣、歴史的建造物、美術館・博物館、また伝統行事や祭りなどを実際に見学し、参加する。授業ではプリントを配布して、まず見学先にかんする簡単な文献の講読によって基礎知識をえ、次回に実際に見学する。前年度の見学例は、清水寺、銀閣寺、金閣寺、二条城、下鴨神社、その他山科周辺の名跡である。印象に残った見学先についてレポートを提出し、添削を受けた上で、講義時間に発表する。（以下の授業計画はあくまでも参考

### 内 容

- 第1回 イン트로ダクション：自己紹介
- 第2回 二条城
- 第3回 発表会＋事前学習
- 第4回 金閣寺
- 第5回 発表会＋事前学習
- 第6回 京都御所
- 第7回 発表会＋事前学習
- 第8回 南禅寺
- 第9回 発表会＋事前学習
- 第10回 下鴨神社
- 第11回 発表会＋事前学習
- 第12回 平安神宮
- 第13回 発表会＋事前学習
- 第14回 祇園界隈
- 第15回 発表会＋半年のまとめ

### 授業以外での学習方法

授業中に読み切れなかった配付資料については必ず目を通すとともに、レポートに取り上げた対象については、独自に情報を追加すること。

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (100%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 日本文化演習Ⅱ <b>

クラス 配当回生 3回生

講義期間 その他 定員

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 現代社会論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 現代社会と経済

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 国際関係論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 卒業研究 (英)

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミ I (英)

クラス A

配当回生

講義期間

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミ I (英)

クラス 配当回生

講義期間 定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 研究入門ゼミⅡ〈Z A〉 |      |     |
| クラス         | Z A          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 後期           | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 浅井 雅志        |      |     |

**テーマ**

自分を取り巻く状況から「問題」を発見し、それについて調べ、その内容を発表する能力の伸長

**授業の目的（獲得目標）**

前期に習得した「問題」の発見の仕方、資料の調べ方、論の展開の仕方、発表の仕方、等々の力を生かして、今度は自分で「問題」を見つけ、それについて調べ、レジュメにまとめて発表してもらおう。発表は一人ないし二人で行い、その後、前期と同じ要領でディスカッションを行いたい。参考文献の使い方や引用の方法についても指導する。

**内 容**

- 第1回 インTRODakション、参考文献の調べ方
- 第2回 学生発表、討論（1）
- 第3回 学生発表、討論（2）
- 第4回 学生発表、討論（3）
- 第5回 学生発表、討論（4）
- 第6回 学生発表、討論（5）
- 第7回 学生発表、討論（6）
- 第8回 学生発表、討論（7）
- 第9回 学生発表、討論（8）
- 第10回 学生発表、討論（9）
- 第11回 学生発表、討論（10）
- 第12回 学生発表、討論（11）
- 第13回 共通テーマでの全体討議（1）
- 第14回 共通テーマでの全体討議（2）
- 第15回 共通テーマでの全体討議（3）、総括、ペーパー提出

**授業以外での学習方法**

授業で配布する読書リストから好きな本を選び、前・後期各3回ずつ感想文を提出してもらおう。国際関係や異文化理解に関する本や新聞記事を読み、テレビ番組を見る。自分を取り巻いている大きな環境に敏感になる工夫をする。

**教科書**

**成績評価**

試験 (40) 小テスト ( ) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ(英)

クラス B

配当回生

講義期間

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|             |   |      |     |
|-------------|---|------|-----|
| 科目名         | Reading & Academic Presentation I <Z a> |      |     |
| クラス         | Z a                                     | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 前期                                      | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |   |      |     |
| クラス指定       | 大学指定                                    |      |     |
| 担当者         | アンガス ノーマン                               |      |     |

**テーマ**

A Pre-intermediate Reading and Vocabulary Course

**授業の目的（獲得目標）**

(1) To get students into the habit of reading regularly. (2) To reinforce basic reading skills learned at high school (3) To ensure complete confidence with a basic 1,000 word vocabulary (3) To develop pre-intermediate reading and vocabulary skills and k

**内 容**

- 第1回 Introduction: reading techniques
- 第2回 Textbook pages 1-15
- 第3回 Textbook pages 16-30
- 第4回 Textbook pages 31-45
- 第5回 Textbook pages 46-60
- 第6回 Textbook pages 61-75
- 第7回 Textbook pages 76-90
- 第8回 Textbook pages 91-105
- 第9回 Textbook pages 106-120
- 第10回 Textbook pages 121-135
- 第11回 Textbook pages 136-150
- 第12回 Textbook pages 151-165
- 第13回 Textbook pages 166-176
- 第14回 Vocaulary round-up
- 第15回 Final discussion and evaluation

**授業以外での学習方法**

Students will be introduced to the self-study materials available in the English Department Common Room and the Language Centre.

**教科書****参考書**

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (30%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 (Students will have regular reading homework with questions on the text. These will be handed in and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 1,000 word list.)



## 2010 Syllabus

|             |   |      |      |
|-------------|---|------|------|
| 科目名         | Reading & Academic Presentation I <Z b> |      |      |
| クラス         | Z b                                     | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期                                      | 定員   | 30   |
| <b>履修条件</b> |   |      |      |
| クラス指定       | 大学指定                                    |      |      |
| 担当者         | 山崎 清水                                   |      |      |

**テーマ**

リーディング演習

**授業の目的（獲得目標）**

平易な文章で書かれた英文を読みながら読解力と語彙力を身につけることを目指す

**内 容**

- 第1回 The American West: Myth and Reality
- 第2回 Race and Class in America
- 第3回 Interracial Love and Marriage
- 第4回 Religion: America's Double Vision
- 第5回 The Jury System
- 第6回 Hate Crime
- 第7回 Guns and Media
- 第8回 Heroes: Legends and Lies
- 第9回 War and Media: The First Casualty
- 第10回 Sports and the American Way
- 第11回 Health and Diet
- 第12回 Failing Grades: Teachers in American Public Education
- 第13回 Rock Music and American Values
- 第14回 Hollywood and 9/11
- 第15回 A New Frontier: The Personal Computer and the Internet

**授業以外での学習方法**

テキストの読解部分を宿題として予習すること。詳細は授業で説明する。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（50）小テスト（20）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（10）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 Reading & Academic Presentation I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|             |  |      |      |
|-------------|--|------|------|
| 科目名         | Reading & Academic Presentation II <Z a> |      |      |
| クラス         | Z a                                      | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 後期                                       | 定員   | 30   |
| <b>履修条件</b> |  |      |      |
| クラス指定       | 大学指定                                     |      |      |
| 担当者         | アンガス ノーマン                                |      |      |

**テーマ**

A Pre-intermediate Reading and Vocabulary Course

**授業の目的（獲得目標）**

(1) To introduce students to a variety of types of reading texts (2) To build on the basic reading skills learned in the first semester class (3) To ensure complete confidence with a basic 2,000 word vocabulary (4) To develop pre-intermediate reading and

**内 容**

- 第1回 Text 1: a speech on a personal topic
- 第2回 Text 2: a newspaper article on a current event
- 第3回 Text 3: an essay on a Japanese cultural topic
- 第4回 Text 4: an academic summary
- 第5回 Text 5: a short story (1)
- 第6回 Text 5: a short story (2)
- 第7回 Text 6: short humorous skits
- 第8回 Text 7: a dramatic monologue (1)
- 第9回 Text 7: a dramatic monologue (2)
- 第10回 Text 8: excerpt from a movie script
- 第11回 Text 9: an academic essay (1)
- 第12回 Text 9: an academic essay (2)
- 第13回 Text 10: a diary
- 第14回 Vocabulary round-up
- 第15回 Final discussion and evaluation

**授業以外での学習方法**

Students will be encouraged to keep up their self-study programme using the graded readers in the English Department Common Room and Language Centre.

**教科書****参考書**

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (30%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 (Students will have regular reading homework with questions on the text. These will be handed in and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 2,000 word list.)

## 2010 Syllabus

|             |  |      |      |
|-------------|--|------|------|
| 科目名         | Reading & Academic Presentation II <Z b> |      |      |
| クラス         | Z b                                      | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 後期                                       | 定員   | 30   |
| <b>履修条件</b> |  |      |      |
| クラス指定       | 大学指定                                     |      |      |
| 担当者         | 山崎 清水                                    |      |      |

**テーマ**

リーディング演習

**授業の目的（獲得目標）**

平易な文章で書かれた英文を読みながら読解力と語彙力を身につけることを目指す

**内 容**

- 第1回 Greeting
- 第2回 Making Contact
- 第3回 Dressing
- 第4回 Moving and Touching
- 第5回 Chatting
- 第6回 Choosing Your Language
- 第7回 Eating and Drinking
- 第8回 Gift-giving
- 第9回 Time-keeping
- 第10回 Working Together
- 第11回 Visiting Homes
- 第12回 Using Gestures
- 第13回 Getting Around
- 第14回 Negotiating
- 第15回 Playing

**授業以外での学習方法**

テキストの読解部分を宿題として予習すること。詳細は授業で説明する。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（50）小テスト（20）授業中課題（10）授業中発表等（10）参加度（10）備考（テキストの読解部分を宿題として予習すること。詳細は授業で説明する。）

## 2010 Syllabus

科目名 Listening II

クラス b

配当回生

講義期間

定員 30

履修条件

クラス指定 当該科目は、クラス指定される科目です。aクラスで仮登録されますが、最終的に登録されるクラスは異なる場合があります。

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|             |                                       |      |      |
|-------------|---------------------------------------|------|------|
| 科目名         | Writing & Vocabulary Building I <Z a> |      |      |
| クラス         | Z a                                   | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期                                    | 定員   | 30   |
| <b>履修条件</b> |                                       |      |      |
| クラス指定       | 到達度別                                  |      |      |
| 担当者         | アンガス ノーマン                             |      |      |

**テーマ**

Developing lower intermediate level writing and presentation skills

**授業の目的（獲得目標）**

(1) To reinforce English writing skills learned at high school (2) To develop basic presentation skills on a variety of topics (3) To produce a final, formally-typed essay of over 400 words The written work and presentations that the students will make, on

**内 容**

- 第1回 Unit One: Introduction; Good Speeches, Good Speakers
- 第2回 Unit Two: Reading Preparation; Introduce Yourself
- 第3回 Student Presentations (i); self-introductions
- 第4回 Unit Three: Reading Preparation; Someone You Should Know
- 第5回 Student Presentations (ii); introducing your family
- 第6回 Unit Four: Reading Preparation; Have You Ever Been There?
- 第7回 Student Presentations (iii); introducing your country and home town
- 第8回 Unit Five: Reading Preparation; How to Make a Spectacular Dish
- 第9回 Student Presentations (iv); introducing a Japanese recipe
- 第10回 Unit Six: Reading Preparation; Let Me Tell You What Happened
- 第11回 Student Presentations (v); talking about a particular incident
- 第12回 Unit Seven: Reading Preparation; In the World Today
- 第13回 Student Presentations (vi); talking about a current event
- 第14回 Unit Eight: Reading Preparation; Cause and Consequence
- 第15回 Student Presentations (vii); talking about a current problem in Japan, and final assessments

**授業以外での学習方法**

Practice using the extensive DVD and CD materials for the textbook Recording and listening to your own speeches Reading famous speeches in collected anthologies Listening to English speeches on TV

**教科書****参考書**

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 (All students are required to produce a final essay of over 400 words, and make three class presentations.)



## 2010 Syllabus

|       |                                       |      |     |
|-------|---------------------------------------|------|-----|
| 科目名   | Writing & Vocabulary Building I <Z b> |      |     |
| クラス   | Z b                                   | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期                                    | 定員   | 30  |
| 履修条件  |                                       |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                                  |      |     |
| 担当者   | フォスター ヘンリー                            |      |     |

## テーマ

Develop confidence in writing and presenting in English

## 授業の目的（獲得目標）

This course will develop basic paragraph writing and academic presentation skills. Requirements include regular writing assignments, three major presentations and a final 400-word essay.

## 内 容

- 第1回 The basics of writing
- 第2回 The basics of presenting
- 第3回 Morning vs. night person: pre-writing & drafting
- 第4回 Morning vs. night person: revising and editing
- 第5回 Presentation 1
- 第6回 Important people: pre-writing & drafting
- 第7回 Important people: revising and editing
- 第8回 Presentation 2
- 第9回 The weekend: pre-writing and drafting
- 第10回 The weekend: revising and editing
- 第11回 Presentation 3
- 第12回 Presentation 3 continued
- 第13回 Writing longer essays
- 第14回 Writing longer essays continued
- 第15回 Final review and consolidation

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                                       |      |      |
|-------|---------------------------------------|------|------|
| 科目名   | Writing & Vocabulary Building I <Z c> |      |      |
| クラス   | Z c                                   | 配当回生 | 4 回生 |
| 講義期間  | 前期                                    | 定員   |      |
| 履修条件  |                                       |      |      |
| クラス指定 |                                       |      |      |
| 担当者   | クラーク アンドリュウ                           |      |      |

## テーマ

Writing and Presentation skills

## 授業の目的（獲得目標）

The goals of this class are to improve writing and presentation skills.

## 内 容

- 第1回 Introduction to writing
- 第2回 Types of writing & Structure
- 第3回 Practice Paper 1
- 第4回 Grammar & Editing
- 第5回 Practice Paper 1 Rewrite
- 第6回 Introduction to presentations
- 第7回 Practice Presentation 1
- 第8回 Practice Paper 2
- 第9回 Grammar & Editing
- 第10回 Paper 2 Rewrite
- 第11回 Presentation 2
- 第12回 Presentation 2 continued
- 第13回 Final Paper Editing
- 第14回 Final Presentations
- 第15回 Final Presentations continued

## 授業以外での学習方法

Homework, including research, reading and writing assignments, will be included in the participation grade for this course.

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

|             |  |      |     |
|-------------|--|------|-----|
| 科目名         | Writing & Vocabulary Building II <Z a> |      |     |
| クラス         | Z a                                    | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期                                     | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |  |      |     |
| クラス指定       | 到達度別                                   |      |     |
| 担当者         | アンガス ノーマン                              |      |     |

**テーマ**

Developing lower intermediate writing and presentation skills

**授業の目的（獲得目標）**

(1) To reinforce English writing skills learned at high school (2) To develop basic presentation skills on a variety of topics (3) To produce a final English essay of over 800 words The written work and presentations that the students will make, one being

**内 容**

- 第1回 Unit Nine: Reading Preparation: What Dreams may Come
- 第2回 Student Presentations: My Future
- 第3回 Unit Ten: Reading Preparation: For Example
- 第4回 Student Presentations: Comparing Japan and the West
- 第5回 Unit Eleven: Reading Preparation: Hold Your Ground
- 第6回 Student Presentations: Standing up for Japan
- 第7回 Unit Twelve: Reading Preparations: Measuring Solutions
- 第8回 Student Presentations: How I see it
- 第9回 Unit Thirteen: Reading Preparation: Lies and Statistics
- 第10回 Student Presentations: Cultural Bias
- 第11回 Unit Fourteen: Reading Preparation: Picture This
- 第12回 Student Presentations: Describing a Situation
- 第13回 Unit Fifteen: Reading Preparation: Common Ground
- 第14回 Student Presentations: Acting as an International Mediator
- 第15回 Final summing up and assessments

**授業以外での学習方法**

Practice using the extensive DVD and CD materials for the textbook Recording and listening to your own speeches Reading famous speeches in collected anthologies Listening to English speeches on TV

**教科書****参考書**

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 (All students are required to produce a final essay of over 800 words, and make three class presentations.)

## 2010 Syllabus

|             |  |      |      |
|-------------|--|------|------|
| 科目名         | Writing & Vocabulary Building II <Z b> |      |      |
| クラス         | Z b                                    | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 後期                                     | 定員   | 30   |
| <b>履修条件</b> |  |      |      |
| クラス指定       | 到達度別                                   |      |      |
| 担当者         | フォスター ヘンリー                             |      |      |

**テーマ**

Develop confidence in writing and presenting in English

**授業の目的（獲得目標）**

This course will continue developing paragraph writing and academic presentation skills. Requirements include regular writing assignments, three major presentations and a final 800-word essay.

**内 容**

- 第1回 A scary or funny experience: pre-writing and drafting
- 第2回 A scary or funny experience: revision and editing
- 第3回 Holidays: pre-writing and drafting
- 第4回 Holidays: revision and editing
- 第5回 Presentation 1
- 第6回 A favorite place: pre-writing and drafting
- 第7回 A favorite place: revision and editing
- 第8回 Presentation 2
- 第9回 The ideal spouse: pre-writing and drafting
- 第10回 The ideal spouse: revision and editing
- 第11回 Presentation 3
- 第12回 Writing an opinion essay: reading and analyzing
- 第13回 Writing an opinion essay: pre-writing and drafting
- 第14回 Writing an opinion essay: revision and editing
- 第15回 Final review and consolidation

**授業以外での学習方法****教科書****参考書****成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (35) 授業中発表等 (25) 参加度 (40) 備考 ( )

|       |                  |      |      |
|-------|------------------|------|------|
| 科目名   | S A P-Prep <Z d> |      |      |
| クラス   | Z d              | 配当回生 | 3 回生 |
| 講義期間  | 前期               | 定員   |      |
| 履修条件  |                  |      |      |
| クラス指定 |                  |      |      |
| 担当者   | 西村 友美            |      |      |

## テーマ

通訳入門

## 授業の目的（獲得目標）

基本的な通訳訓練法を身につける。通訳過程を理解し、簡単な逐次通訳・同時通訳ができるようになること。聞いたことを瞬時に口頭で訳す通訳者の頭の中はどうなっているのだろうか。通訳をいろいろな角度から観察したり、解剖してその中身を覗いてみよう。また、プロとして活躍する通訳者はきわめて高い語学力を持っていると言われる。この授業では、実際の通訳訓練法を取り入れ、受講生の英語力を養成する。シャドーイングをはじめ、一般の語学学習にもたいへん効果があるといわれる通訳訓練を実際におこなう。また、簡単な通訳も練習し、日

## 内 容

- 第1回 通訳とは、通訳実例の観察
- 第2回 Unit 1 自己紹介、通訳実例の分析
- 第3回 Unit 2 社会、クイック・リスポンス
- 第4回 Unit 3 大学生活、シャドーイング(1)
- 第5回 Unit 4 教育（留学）、シャドーイング(2)
- 第6回 Unit 5 社会（ファッション）、スラッシュ・リーディング
- 第7回 Unit 6 医療（メタボリック症候群）、サイト・トランスレーション
- 第8回 Unit 7 日本文化（アニメ・漫画）、中間まとめ
- 第9回 Unit 8 教育（ボランティア活動）、逐次通訳（1）
- 第10回 Unit 9 社会（長寿社会）、逐次通訳（2）
- 第11回 Unit 10 国際交流Ⅰ（実践演習）、逐次通訳（3）
- 第12回 Unit 11 日本文化（伝統的な行事）、同時通訳（1）
- 第13回 Unit 12 環境、同時通訳（2）
- 第14回 Unit 13 国際交流Ⅱ（実践演習）、「On-line の理解」の解剖と日英語対照研究
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

授業で紹介する通訳トレーニングを毎日実行すること。通訳のトレーニングを別の場で試してみること、応用してみること。

## 教科書

**成績評価**

試験 (70) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | Reading & Academic Presentation III <a> |      |     |
| クラス   | a                                       | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  |   |      |     |
| クラス指定 | 大学指定                                    |      |     |
| 担当者   | アングス ノーマン                               |      |     |

## テーマ

Intermediate readings on cultural topics and presentation skills for SAP

## 授業の目的（獲得目標）

(1) To familiarize students with Japanese and other cultural issues in English (2) To develop presentation skills (3) To reinforce PowerPoint skills

## 内 容

- 第1回 Reading text: Bertrand Russell - What I Have Lived For
- 第2回 Student presentations
- 第3回 Reading text: Japanese Daily Life
- 第4回 Student presentations
- 第5回 Reading text: Japanese Food
- 第6回 Student presentations
- 第7回 Reading text: Japanese Religion
- 第8回 Student presentations
- 第9回 Reading text: Japanese Language
- 第10回 Student presentations
- 第11回 Reading text: Japanese Thinking
- 第12回 Student presentations
- 第13回 Reading text: Japan Now
- 第14回 Student presentations
- 第15回 Final discussion and assessment

## 授業以外での学習方法

Extensive reading on Japanese culture in English

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（Students will be required



to produce three presentations, one of which must be PowerPoint.)

## 2010 Syllabus

|       |                                       |      |     |
|-------|---------------------------------------|------|-----|
| 科目名   | Reading & Academic Presentation Ⅲ <b> |      |     |
| クラス   | b                                     | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                                    | 定員   | 30  |
| 履修条件  |                                       |      |     |
| クラス指定 | 大学指定                                  |      |     |
| 担当者   | ブライアン・スガイル                            |      |     |

## テーマ

Introducing Japanese culture in English

## 授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to help students be able to discuss and explain about Japanese culture in English.

## 内 容

- 第1回 introductions, basic information
- 第2回 sushi
- 第3回 festivals
- 第4回 trains/commuting
- 第5回 student presentations
- 第6回 student presentations
- 第7回 weddings
- 第8回 sento
- 第9回 tea ceremony
- 第10回 student presentations
- 第11回 student presentations
- 第12回 universities
- 第13回 new year
- 第14回 student presentations
- 第15回 student presentations

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 Listening Ⅲ

クラス a

配当回生

講義期間

定員 30

履修条件

クラス指定 当該科目は、クラス指定される科目です。aクラスで仮登録されますが、最終的に登録されるクラスは異なる場合があります。

担当者 鎌田 明子

テーマ

上級英語のリスニング力訓練

授業の目的（獲得目標）

報道関係の英語や映画の英語などの、上級英語の理解力を養う訓練。上級の英語を理解する力を養う。また留学時の授業に対応できる英語力を得るための訓練をおこなう。教科書は使用しないが、授業時に適宜教材を与える。

内 容

- 第1回 ガイダンス1
- 第2回 ガイダンス2 英文の大意把握訓練
- 第3回 短文のListening 1
- 第4回 短文のListening 2 と書き取り
- 第5回 短文のListening 3 と大意把握
- 第6回 短文、小テスト1
- 第7回 長文のListening 1
- 第8回 長文のListening 2 と書き取り
- 第9回 長文のListening 3
- 第10回 長文のListening 4
- 第11回 長文のListening 5 と小テスト
- 第12回 長文のListening 6
- 第13回 長文のListening 7 と書き取り
- 第14回 長文のListening 8
- 第15回 全体のまとめ

授業以外での学習方法

リスニングの実力をつけるには、授業時間内の訓練だけでは不足であるから、自習時間をできるだけ作り出して反復練習することが重要である。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (20%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 Listening Ⅲ

クラス a

配当回生

講義期間

定員 30

履修条件

クラス指定 当該科目は、クラス指定される科目です。aクラスで仮登録されますが、最終的に登録されるクラスは異なる場合があります。

担当者 野口 博代

テーマ

メッセージを正しく理解するためのリスニング。

授業の目的（獲得目標）

海外の TV コマーシャルを教材に、その文化的社会的背景についても学びます。自然な英語を聞きながら、メッセージを正確に捉えるリスニングの力の養成を目指します。

内 容

第1回 Introductions Meijer-Higher Standards, Lower Prices

第2回 This Calls for a Bud Light

第3回 Anti-Discrimination Campaign

第4回 McDonald's-King of Fast-Food Restaurants

第5回 Relax, it's FedEx.

第6回 BMW-A Car beyond Reason

第7回 Banking for the Filthy Rich

第8回 Learning Languages

第9回 Pepsi-Ask for More

第10回 United Nations Development Programme

第11回 Disney-Magic Happens

第12回 Coca-Cola-For Everyone

第13回 Anti-Smoking Campaign

第14回 Counterfeit Mini Coopers

第15回 Hallmark of a Teacher

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（）

科目名 Listening Ⅲ

クラス

配当回生

講義期間

定員 30

履修条件

クラス指定 当該科目は、クラス指定される科目です。aクラスで仮登録されますが、最終的に登録されるクラスは異なる場合があります。

担当者 西村 友美

テーマ

Academic Listening

### 授業の目的（獲得目標）

英語の講義に対応するリスニング力を養成する。 英語の講義をいかに聞くか、いかにノートを取るか、などのスキルを訓練する。留学を目指す日本人学習者を意識したトピックを楽しみながら学習し、後期の留学に役立ててほしい。 一方テキストでは、留学生活で出会う日常生活の中の様々な表現を聞き取る練習をする。これらは、しっかり身に付け、自分でも使いこなせるようにマスターしてほしい。

### 内 容

- 第1回 Academic Listening とは
- 第2回 道を尋ねる、lecture listening: main idea を聞き取る
- 第3回 教授と面談する、lecture listening: signal words に気をつける
- 第4回 住む場所を見つける、lecture listening: key words を聞き取る
- 第5回 ハウスシェアをする、lecture listening: topic と subtopic を聞き取る
- 第6回 進路について語る、lecture listening: supporting ideas を聞き取る
- 第7回 就業体験をする、lecture listening: numbers に気をつける
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 習慣の違い、lecture listening: 省略と記号の利用
- 第10回 トラブルの解消方法、lecture listening: 表やスケッチの利用
- 第11回 知人・家族を紹介される(1)、lecture listening: cause and effect
- 第12回 知人・家族を紹介される(2)、lecture listening: ウェーブ、矢印、括弧などの利用
- 第13回 成績について話し合う、lecture listening: 質問を考えながら聞く
- 第14回 テストに臨む
- 第15回 総合まとめ

### 授業以外での学習方法

課題リスニングとエクササイズの実行

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (50) 小テスト (20) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 Listening Ⅲ

クラス

配当回生

講義期間

定員 30

履修条件

クラス指定 当該科目は、クラス指定される科目です。aクラスで仮登録されますが、最終的に登録されるクラスは異なる場合があります。

担当者 日高 周平

テーマ

リスニング能力の向上

授業の目的（獲得目標）

日常生活/海外の大学で必需となるリスニング能力の向上

内 容

第1回 講義概要・成績評価の方法などの説明

第2回 Unit 1 The Start Introduction to Our Foreign Students Series / Foreign Students Series: Starting Out

第3回 Unit 2 What to Choose Considering an Online Education Program / Accrediting Agencies Play Important Part in US Higher Education

第4回 Unit 3 Getting a Visa Every Foreign Student Needs a Visa to Enter US / What Foreign Students Need to Know About the SEVIS System

第5回 Unit 4 Applying to an American College Getting in to an American College: The Application Process / Higher Education in America: College Entrance Exams

第6回 Unit 5 English Tests for International Students Taking the TOEFL/English Tests: Comparing the TOEFL and the TOEIC

第7回 Unit 6 Other Examination to Get into Schools in US Higher Education in US: Many Schools Accept the IELTS / Taking the GMAT to Get into Business School

第8回 Unit 7 The Cost of Study Foreign Students Series: Adding up the Costs of Study in the US / College Costs in US: Tuition, Housing...and Health Care

第9回 Unit 8 Personnel Unit 8 Foreign Students In the United States For Foreign Students in US, Financial Aid Limited / US Had Fewer Students Last Year From India, Japan

第10回 Unit 9 Students Exchange Programs Coming to America as a Fulbrighter / Choosing a Students Exchange Program to Come to the US

第11回 Unit 10 Supports International Students Can Get Studying in the US: Four Kinds of Financial Aid / A College Handbook Just for International Students

第12回 Unit 11A University as a Community Helping Foreign Students in the US Feel at Home / Coming to Terms with Academic Titles at US Colleges

第13回 Unit 12 Kinds of Degrees Choose Your Degree at an American College or University / Doctoral Degree: Aiming for the Top

第14回 Unit 13 Questions from Listeners 1 Studying Agriculture in the US / Breaking into News:



**授業以外での学習方法**

配布する単語リストを完全に覚えきること。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (40) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (60) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                                     |      |     |
|-------|-------------------------------------|------|-----|
| 科目名   | Writing & Vocabulary Building Ⅲ <a> |      |     |
| クラス   | a                                   | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                                  | 定員   | 30  |
| 履修条件  |                                     |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                                |      |     |
| 担当者   | フォスター ヘンリー                          |      |     |

## テーマ

Research Paper Preparation & Vocabulary Building

## 授業の目的（獲得目標）

This course develops the skills, strategies and procedures necessary for writing longer essays, culminating in a 1,200-word research paper. We will also study vocabulary and vocabulary acquisition strategies.

## 内 容

- 第1回 What is an essay?
- 第2回 Audience and topic
- 第3回 Writing process
- 第4回 Read and analyze: explanatory and problem-solution essays
- 第5回 Read and analyze: comparison-contrast and persuasive essays
- 第6回 Selecting a topic; brainstorming and preliminary research
- 第7回 Organization: the thesis statement and outlining
- 第8回 Writing an introduction: hook, lead-in, thesis statement
- 第9回 Writing a conclusion
- 第10回 Further research and drafting the body: using support
- 第11回 Connecting paragraphs: transitions
- 第12回 Critical review and revision
- 第13回 Editing techniques
- 第14回 Referencing: in-text citations
- 第15回 Writing the list of Works Cited

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (15) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (45) 備考 ( )

|       |                                     |      |     |
|-------|-------------------------------------|------|-----|
| 科目名   | Writing & Vocabulary Building Ⅲ <b> |      |     |
| クラス   | b                                   | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                                  | 定員   | 30  |
| 履修条件  |                                     |      |     |
| クラス指定 | 到達度別                                |      |     |
| 担当者   | クラーク アンドリュウ                         |      |     |

**テーマ**

Writing Skills

**授業の目的（獲得目標）**

The goals of this class are to improve writing skills. In this class students will review English grammar, and organizing and writing papers in English. They will also learn to do research and write an academic paper.

**内 容**

- 第1回 Introduction
- 第2回 Review writing & Structure
- 第3回 Practice Paper 1
- 第4回 Grammar & Editing
- 第5回 Practice Paper 1 Rewrite
- 第6回 Introduction to research papers
- 第7回 Research Topics
- 第8回 Research Sources
- 第9回 Research Paper 1
- 第10回 Grammar & Editing
- 第11回 Research Paper Rewrite
- 第12回 Final Paper outline
- 第13回 Final Paper Draft
- 第14回 Final Paper Editing
- 第15回 Final Paper Discussion

**授業以外での学習方法****教科書****参考書****成績評価**

試験（30%）小テスト（15%）授業中課題（15%）授業中発表等（15%）参加度（25%）備考（）

---

科目名 音声学

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 北林 利治

---

テーマ

日英語の比較からみた英語の音声

---

### 授業の目的（獲得目標）

(1) 英語の発音方法について学びながら、音声学の基礎知識を獲得すること。(2) 英語の音声を聞き分けたり、ただしく発音できるようになること。言語をコミュニケーションの手段として考えた場合、音声は言語において重要であることはいうまでもない。本来、息をしたり、食物をとったりするための器官である口、気管などをことばを発する道具としてどのように使うのか、唇や舌をどうコントロールして音を発するのかを解明するのが音声学の仕事である。このクラスでは、英語と日本語とを比較しながら、英語の発音の特徴について考えてい

---

### 内 容

- 第1回 音声学とは
  - 第2回 日本語の音声と英語の音声
  - 第3回 英語と日本語の音節①
  - 第4回 英語と日本語の音節②
  - 第5回 英語と日本語のアクセント①
  - 第6回 英語と日本語のアクセント②
  - 第7回 英語と日本語の母音①
  - 第8回 英語と日本語の母音②
  - 第9回 英語と日本語の母音③
  - 第10回 英語と日本語の子音①
  - 第11回 英語と日本語の子音②
  - 第12回 英語と日本語の子音③
  - 第13回 英語と日本語の子音④
  - 第14回 英語と日本語の音声面における比較
  - 第15回 英語と日本語の音声面における比較
- 

### 授業以外での学習方法

発音の練習は、クラス以外でも行なってもらう。練習問題を与えるので、各自で練習をすること。練習のための有益なウェブサイトをたくさんある。クラスで紹介するのでクラス外で練習をすること。

---

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（90%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（10%）備考（）

科目名 翻訳基礎論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

An introduction to translation practice, strategies and theory

授業の目的（獲得目標）

(1) To increase the students' awareness about languages and their various characters (2) To provide them with knowledge about the different types of translation (3) To show them strategies to help them translate between English and Japanese

内容

第1回 PowerPoint introduction: the world's languages, language families and a comparison of the Japanese and English languages

第2回 PowerPoint: different types of translation

第3回 The translation process

第4回 PowerPoint: introduction to translation theory

第5回 Basic translation strategies (1)

第6回 Basic translation strategies (2)

第7回 Basic translation strategies (3)

第8回 PowerPoint: textual analysis

第9回 How to use dictionaries, the thesaurus, the Internet, and other translation resources; and their dangers

第10回 Technical translation

第11回 Literary translation

第12回 Advanced translation strategies: transposition

第13回 Advanced translation strategies: componential analysis

第14回 Translation of a set text

第15回 Final discussion and evaluation

授業以外での学習方法

I have a wide range of translation texts and exercises that can be made available for students who wish to practice the strategies taught in class, and a wide variety of books on the subject of translation.

教科書

**成績評価**

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 (Students will have a short translation assignment to be handed in towards their final grade as well as an 'unseen' translation test.)

科目名 通訳基礎論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 西村 友美

テーマ

通訳入門

### 授業の目的（獲得目標）

基本的な通訳訓練法を身につける。通訳過程を理解し、簡単な逐次通訳・同時通訳ができるようになること。聞いたことを瞬時に口頭で訳す通訳者の頭の中はどうなっているのだろうか。通訳をいろいろな角度から観察したり、解剖してその中身を覗いてみよう。また、プロとして活躍する通訳者はきわめて高い語学力を持っていると言われる。この授業では、実際の通訳訓練法を取り入れ、受講生の英語力を養成する。シャドーイングをはじめ、一般の語学学習にもたいへん効果があるといわれる通訳訓練を実際におこなう。また、簡単な通訳も練習し、日

### 内 容

第1回 通訳とは、通訳実例の観察

第2回 Unit 1 自己紹介、通訳実例の分析

第3回 Unit 2 社会、クイック・リスポンス

第4回 Unit 3 大学生活、シャドーイング(1)

第5回 Unit 4 教育（留学）、シャドーイング(2)

第6回 Unit 5 社会（ファッション）、スラッシュ・リーディング

第7回 Unit 6 医療（メタボリック症候群）、サイト・トランスレーション

第8回 Unit 7 日本文化（アニメ・漫画）、中間まとめ

第9回 Unit 8 教育（ボランティア活動）、逐次通訳（1）

第10回 Unit 9 社会（長寿社会）、逐次通訳（2）

第11回 Unit 10 国際交流Ⅰ（実践演習）、逐次通訳（3）

第12回 Unit 11 日本文化（伝統的な行事）、同時通訳（1）

第13回 Unit 12 環境、同時通訳（2）

第14回 Unit 13 国際交流Ⅱ（実践演習）、「On-line の理解」の解剖と日英語対照研究

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

授業で紹介する通訳トレーニングを毎日実行すること。通訳のトレーニングを別の場で試してみること、応用してみること。

### 教科書



**成績評価**

試験 (70) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                                   |     |    |
|-------|-----------------------------------|-----|----|
| 科目名   | International Business English II |     |    |
| クラス   | 配当回生                              | 2回生 |    |
| 講義期間  | 前期                                | 定員  | 30 |
| 履修条件  |                                   |     |    |
| クラス指定 |                                   |     |    |
| 担当者   | 森田 繁夫                             |     |    |

**テーマ**

多国籍の人々が働くような国際的な職場を想定する。様々なビジネス場面において必要とされるコミュニケーションスキルを学ぶ。下記対象者に最適のプログラム

1. 国際ビジネスの場で働くキャリアに関心のある学生
2. ビジネスキャリアで活かせる実践的な英語スキルを身に付けたい学生

**授業の目的（獲得目標）**

国際ビジネスにおいて必要とされるビジネス・マネジメントのノウハウやマーケティングのコンセプト等を通してコミュニケーションスキルを獲得する

**内 容**

- 第1回 Talking About Your Company
- 第2回 Making Conversation
- 第3回 Arranging Meetings and Schedules
- 第4回 Getting Ahead
- 第5回 Turning A Company Around
- 第6回 Describing Processes
- 第7回 Teamwork
- 第8回 Managing Changes
- 第9回 Clients and Customers
- 第10回 Corporate Goals
- 第11回 Describing and Comparing Products
- 第12回 Challenges to Managements
- 第13回 Motivation and Productivity
- 第14回 Advertising Strategies
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

1. 付属 CD : Conversation セクションの録音を聴き、自然な英語に慣れる 2. Phrase Book : 授業で学ぶ語彙・文法表現を持ち運び便利な冊子で習得する

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（20%）参加度（30%）備考（）

科目名 英語圏文化研究Ⅱ a (外国事情Ⅱ)

クラス 配当回生

講義期間 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 英語圏文化研究Ⅱ a (外国事情Ⅱ)

クラス 配当回生

講義期間 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 英語圏文化研究Ⅱb (英米文学論Ⅱ)

---

クラス 配当回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 浅井 雅志

---

テーマ

英語文化圏に対する理解を深める

---

### 授業の目的 (獲得目標)

いまや世界の「基準」とも見なされているアングロ・アメリカ文化を中心とする「英語圏文化」についての理解を深めるとともに、これらの国々と日本、そしてその中の個人であるあなたが、今どのような関係をもっているか、これからもつべきかについて考える 受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低2回、関心を持ったテーマについてにペーパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。

---

### 内 容

第1回 イン트로ダクション

第2回 アイルランド

第3回 英国 (1)

第4回 英国 (2)

第5回 英国 (3)

第6回 アメリカ合衆国 (1)

第7回 アメリカ合衆国 (2)

第8回 アメリカ合衆国 (3)

第9回 アメリカ合衆国 (4)

第10回 アメリカ合衆国 (5)

第11回 アメリカ合衆国 (6)

第12回 アメリカ合衆国 (7)

第13回 カナダ

第14回 オーストラリア・ニュージーランド

第15回 総括

---

### 授業以外での学習方法

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（35%）小テスト（）授業中課題（35%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 英語圏文化研究Ⅱb (英米文学論Ⅱ)

クラス 配当回生

講義期間 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 英語圏文化研究Ⅱc (国際ビジネスⅡ)

クラス 配当回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

日英語の比較からみた英語の音声

### 授業の目的 (獲得目標)

(1) 英語の発音方法について学びながら、音声学の基礎知識を獲得すること。(2) 英語の音声を聞き分けたり、ただしく発音できるようになること。言語をコミュニケーションの手段として考えた場合、音声は言語において重要であることはいうまでもない。本来、息をしたり、食物をとったりするための器官である口、気管などをことばを発する道具としてどのように使うのか、唇や舌をどうコントロールして音を発するのかを解明するのが音声学の仕事である。このクラスでは、英語と日本語とを比較しながら、英語の発音の特徴について考えてい

### 内 容

- 第1回 音声学とは
- 第2回 日本語の音声と英語の音声
- 第3回 英語と日本語の音節①
- 第4回 英語と日本語の音節②
- 第5回 英語と日本語のアクセント①
- 第6回 英語と日本語のアクセント②
- 第7回 英語と日本語の母音①
- 第8回 英語と日本語の母音②
- 第9回 英語と日本語の母音③
- 第10回 英語と日本語の子音①
- 第11回 英語と日本語の子音②
- 第12回 英語と日本語の子音③
- 第13回 英語と日本語の子音④
- 第14回 英語と日本語の音声面における比較
- 第15回 英語と日本語の音声面における比較

### 授業以外での学習方法

発音の練習は、クラス以外でも行なってもらう。練習問題を与えるので、各自で練習をすること。練習のための有益なウェブサイトをたくさんある。クラスで紹介するのでクラス外で練習をすること。

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（90%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（10%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                       |      |    |
|-------|-----------------------|------|----|
| 科目名   | 英語圏文化研究Ⅱc（国際ビジネスⅡ）〈b〉 |      |    |
| クラス   | b                     | 配当回生 |    |
| 講義期間  | 前期                    | 定員   | 40 |
| 履修条件  |                       |      |    |
| クラス指定 |                       |      |    |
| 担当者   | 金武 創                  |      |    |

## テーマ

グローバル時代における企業と経済の基本的理解

## 授業の目的（獲得目標）

国際金融と貿易を中心に液化化する世界経済を読み解き、キャリア形成の一助とする。新卒就職を考えている学生が経済新聞を読解できる程度の経済・経営の基礎知識を理解させる。

## 内 容

- 第1回 経済のグローバル化とは何か 1
- 第2回 経済のグローバル化とは何か 2
- 第3回 経済を動かす循環機能としての金融
- 第4回 金融仲介と金融システム
- 第5回 リスクマネジメントとポートフォリオ
- 第6回 銀行の機能と役割
- 第7回 家計と金融
- 第8回 株式と外貨資産
- 第9回 資金調達
- 第10回 金融政策
- 第11回 貿易の基礎理論
- 第12回 比較優位
- 第13回 日本の貿易
- 第14回 キャリア形成と国際経済
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（100%）授業中発表等（）参加度（）備考（受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価（授業中課題）とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない）

|       |                 |    |    |
|-------|-----------------|----|----|
| 科目名   | Current English |    |    |
| クラス   | 配当回生            |    |    |
| 講義期間  | 前期              | 定員 | 40 |
| 履修条件  |                 |    |    |
| クラス指定 |                 |    |    |
| 担当者   | 弓場 俊也           |    |    |

### テーマ

国際ビジネスに必要な異文化理解

### 授業の目的（獲得目標）

国際ビジネスパーソンに必要な異文化理解力と適応能力を養い、ビジネス英語と貿易実務を習得して、海外取引の多様なフィールドで活躍できる実践的能力を身につける。 内容 ビジネスのグローバル化が進み、現在は大企業のみならず中小企業などでも多種多様の会社が広い意味において「国際ビジネス」に携わる状況になってきた。国際ビジネスの現場で異文化の人々と接点を見つけ交流を深めるためには相手の国の歴史・文化・習慣を理解する努力が必要である。英語が話せれば国際人というわけでもない。充実した内容が伴わなければ、対話は成立しない

### 内 容

- 第1回 国際ビジネスにおける異文化理解（オリエンテーション）
- 第2回 ビジネスライティングの基礎
- 第3回 海外取引の基本的な流れ
- 第4回 ビジネス・Eメールの基礎
- 第5回 国際取引に使われる書類
- 第6回 ビジネス交渉の仕方
- 第7回 ビジネスライティングの応用
- 第8回 貿易条件・貿易決済・国際物流で使われる英語
- 第9回 異文化コミュニケーション
- 第10回 国際ビジネスにおける異文化理解のツールとしての英語力強化
- 第11回 国際ビジネスにおける異文化理解のツールとしての英語力強化
- 第12回 国際ビジネスにおける異文化理解のツールとしての英語力強化
- 第13回 国際ビジネスにおける異文化理解のツールとしての英語力強化
- 第14回 国際ビジネスにおける異文化理解のツールとしての英語力強化
- 第15回 国際ビジネスにおける異文化理解のツールとしての英語力強化

### 授業以外での学習方法

本講義で学んだ異文化理解のノウハウを、後期の海外留学でより実効性のあるものにしてもらいたい。

### 教科書

**成績評価**

試験（34）小テスト（33）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（33）備考（なお開講期間中に本英語検定試験3級を合格した者は加点する。）

科目名 Current English

クラス 配当回生

講義期間 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 English Communication I

クラス

配当回生

講義期間

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 English Communication I

クラス

配当回生

講義期間

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 English Communication I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

翻訳の基礎を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

英日翻訳に必要とされる様々な手法を学び、原文の意図を的確に訳す能力を養う

内 容

- 第1回 講義概要・成績評価などに関する説明
- 第2回 英日翻訳の基礎技術 A
- 第3回 英日翻訳の基礎技術 B
- 第4回 翻訳演習（歌詞）
- 第5回 翻訳演習（歌詞）
- 第6回 翻訳演習（歌詞）
- 第7回 翻訳演習（歌詞）
- 第8回 翻訳演習（歌詞）
- 第9回 翻訳演習（映画字幕）
- 第10回 翻訳演習（映画字幕）
- 第11回 翻訳演習（雑誌記事）
- 第12回 翻訳演習（新聞記事）
- 第13回 翻訳演習（各自、発表へ向けて課題を選択する）
- 第14回 翻訳演習（各自、発表へ向けて課題を選択する）
- 第15回 発表

授業以外での学習方法

授業中に指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験（40）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（60）備考（）

---

科目名 English Communication II

---

クラス 配当回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 浅井 雅志

---

テーマ

To have a better understanding on the relationship between Japan and USA.

---

授業の目的（獲得目標）

This class is designed for those students who are interested in how Japan has been influenced by the Western cultures, and also how Japan has influenced the West. The class will be run entirely in English. And you have to read a lot! In 1860, the empir

---

内 容

- 第1回 Introduction
  - 第2回 As We Saw Them (1)
  - 第3回 As We Saw Them (2)
  - 第4回 As We Saw Them (3)
  - 第5回 As We Saw Them (4)
  - 第6回 As We Saw Them (5)
  - 第7回 As We Saw Them (6); Short test (1)
  - 第8回 As We Saw Them (7)
  - 第9回 As We Saw Them (8)
  - 第10回 As We Saw Them (9)
  - 第11回 As We Saw Them (10)
  - 第12回 As We Saw Them (11)
  - 第13回 As We Saw Them (12)
  - 第14回 As We Saw Them (13); Short Test (2)
  - 第15回 Summing Up
- 

授業以外での学習方法

Read the textbook and related books

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (30) 小テスト (30) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 English CommunicationⅢ

クラス 配当回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Area Studies (The United Kingdom)

### 授業の目的（獲得目標）

The aim of this course is to give the students a general picture of the history, life, culture and people of The United Kingdom. Each session will pick up one aspect of the country then, after a short lecture, we will view some visual materials, review what

### 内 容

- 第1回 Geography
- 第2回 History
- 第3回 The Monarchy
- 第4回 Parliament and the EC
- 第5回 Holidays and Festivals
- 第6回 Education
- 第7回 The Welfare State
- 第8回 Sport
- 第9回 Northern Ireland
- 第10回 Wales
- 第11回 Scotland
- 第12回 London
- 第13回 Food
- 第14回 A Multi-racial Society
- 第15回 Final discussion and evaluation

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 English CommunicationⅢ

クラス

配当回生

講義期間

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 English CommunicationIV

クラス

配当回生

講義期間

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 English CommunicationIV

クラス

配当回生

講義期間

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 English CommunicationIV

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

Essay and presentation

授業の目的（獲得目標）

Learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of essays.

内 容

第1回 Introduction & Course description

第2回 The Sentence and the Paragraph PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Unity and Coherence

第3回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第4回 Descriptive Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第5回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第6回 Example Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第7回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第8回 Process Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第9回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第10回 Opinion Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第11回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第12回 Narrative Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第13回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第14回 Presentations 1

第15回 Presentations 2

授業以外での学習方法

Students will be required to write essays, both inside and outside the class. Students are welcome to contact me via email.

教科書

参考書

成績評価

試験 (40) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (60) 備考 (Students will be graded on class



work, attendance, participation and writing tests. Regular attendance is mandatory.)

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 英語コミュニケーション演習 I <a>  |      |     |
| クラス   | a  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までの領域別必修科目、領域別選択必修科目および英語 I・II・III・IV (全56単位)のうち36単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | アンガス ノーマン  |      |     |

## テーマ

Practical Business English

## 授業の目的 (獲得目標)

Students will learn the vocabulary and mentality of English-based international business, and increase their knowledge of the international business world. We will use a business English textbook as an introduction to the world of international business

## 内 容

- 第1回 Introduction: the textbook and class aims
- 第2回 Unit 1: a new job; preparation and textbook work
- 第3回 Unit 1: presentations; induction programmes
- 第4回 Unit 2: organizations and roles; preparation and textbook work
- 第5回 Unit 2: presentations; business structuring
- 第6回 Unit 3: quality; preparation and textbook work
- 第7回 Unit 3: presentations; quality control and ISO
- 第8回 Unit 4: money; preparation and textbook work
- 第9回 Unit 4: presentations; the Euro
- 第10回 Unit 5: import-export; preparation and textbook work
- 第11回 Unit 5: presentations; trade fairs
- 第12回 Unit 6: travel; preparation and textbook work
- 第13回 Unit 6: presentations; business travel and IT alternatives
- 第14回 Free topic PowerPoint presentations (1)
- 第15回 Free topic PowerPoint presentations (2); and evaluation

## 授業以外での学習方法

Following NHK Business English Courses Reading English Newspapers/Magazines

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (20%) 小テスト ( ) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 (Students will be required to produce a final essay on a business topic.)

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 英語コミュニケーション演習 I <b>  |      |     |
| クラス   | b  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までの領域別必修科目、領域別選択必修科目および英語 I・II・III・IV (全56単位)のうち36単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 浅井 雅志  |      |     |

## テーマ

近代日本はどのように描かれてきたか、なぜ日本は現在のような国になったのか

## 授業の目的 (獲得目標)

西洋と接触し、近代化あるいは西洋化を始めた日本は、内外からどのように見られていたのだろうか。明治期の日本人、外国人の書いた代表的な著作を読みながら、当時の日本人が外国(人)＝他者をどう認識し、また自己をどう認識していたかについて考えてみたい。この問題は、なぜ日本は現在こうした国になり、こうした文化をもっているのかという問題あるいは疑問と直結している。自分という人間は日本というある一つの文化の中に生まれ、知らないうちにその文化の「鑄型」にはめ込まれてきたのだから、この問題を考えることは、自分という存在の「成

## 内 容

- 第1回 イン트로ダクション、Difficulties
- 第2回 The Japanese Family (1)
- 第3回 The Japanese Family (2)
- 第4回 The Introduction of Buddhism (1)
- 第5回 The Introduction of Buddhism (2)
- 第6回 The Higher Buddhism (1)
- 第7回 The Higher Buddhism (2)
- 第8回 Feudal Integration (1)
- 第9回 Feudal Integration (2)
- 第10回 Reflections (1)
- 第11回 Reflections (2)
- 第12回 “Introduction,” Imagining Japan (1)
- 第13回 “Introduction,” Imagining Japan (2)
- 第14回 “Introduction,” Imagining Japan (3)
- 第15回 総括、ペーパー提出

## 授業以外での学習方法

## 教科書

**成績評価**

試験（40%）小テスト（30%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（20%）備考（）

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 英語コミュニケーション演習 I <c>  |      |     |
| クラス   | c  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までの領域別必修科目、領域別選択必修科目および英語 I・II・III・IV (全56単位)のうち36単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 西村 友美  |      |     |

## テーマ

アカデミック・スタディ・スキルの養成と通訳技術のブラッシュアップ

## 授業の目的（獲得目標）

日本語と英語の比較に関心がある。人が言語を超えて理解するとはどんなことなのか知りたい。——そのような関心や疑問を、通訳を通じて考えてみよう。また、文献のみならず自ら通訳を実践しながら考えよう。そのために通常の授業での通訳訓練だけでなく、学外にも出て、京都の名所を英語でガイドしたり、通訳ボランティアなどを実践する。そうして考えたことを論理的に表現する訓練をする（教科書の使用）。さらに、橘での残り2年間でどのような目標をもって進むのかを考え、ゼミの活動を通じてそれを実行する。ゼミ生どうしの絆をしつ

## 内 容

- 第1回 スタディ・スキルとは
- 第2回 プレゼン1回目、逐次通訳演習
- 第3回 プレゼン1回目、逐次通訳演習
- 第4回 プレゼン1回目、逐次通訳演習
- 第5回 他己紹介と通訳演習
- 第6回 他己紹介と通訳演習
- 第7回 他己紹介と通訳演習
- 第8回 同時通訳演習
- 第9回 同時通訳演習
- 第10回 プレゼン2回目、同時通訳演習
- 第11回 プレゼン2回目、同時通訳演習
- 第12回 プレゼン2回目、同時通訳演習
- 第13回 通訳ガイド（情報収集と練習）
- 第14回 通訳ガイド（情報収集と練習）
- 第15回 学外授業（京都英語観光ガイド）

## 授業以外での学習方法

読書を習慣にする。プレゼンのための準備。多聴多読。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (60) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 英語コミュニケーション演習 I <d>  |      |     |
| クラス   | d  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までの領域別必修科目、領域別選択必修科目および英語 I・II・III・IV (全56単位)のうち36単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 北林 利治  |      |     |

### テーマ

これからの英語教育を考える

### 授業の目的（獲得目標）

2002年に策定された『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想のもとにある英語教育観は、このクラスがテキストとして使用する『危機にある日本の英語教育』で適切に述べられている通り、「英語の運用能力を身につけた人材を育成することこそ、学校英語教育の目的」があるということになる。この英語教育観が真剣に検討されたことがあるだろうか？また、この考え方は、言語がコミュニケーションの道具であるという言語観に究極的には結びつくものであるが、この言語観が学校英語教育の目的に照らして、納得のいくまで議論されたこと

### 内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プレゼンテーションの基礎
- 第3回 受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
- 第6回 アカデミックライティングの基礎①
- 第7回 受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
- 第11回 アカデミックライティングの基礎②
- 第12回 受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表（3回目）、クラスでの討論、まとめ

### 授業以外での学習方法

文献をたくさん読むこと。また、教科書②を使って、翻訳の練習をクラス外で行う。

### 教科書



**成績評価**

試験（0%）小テスト（10%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（10%）備考（4回以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はしません。）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 英語コミュニケーション演習Ⅱ <a>   |      |     |
| クラス   | a  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までの領域別必修科目、領域別選択必修科目および英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（全56単位）のうち36単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | アンガス ノーマン  |      |     |

## テーマ

Practical Business English

## 授業の目的（獲得目標）

Students will learn the vocabulary and mentality of English-based international business, and increase their knowledge of the international business world. We will use a business English textbook as an introduction to the world of international business

## 内 容

- 第1回 Unit 7: career prospects; listening and reading
- 第2回 Unit 7: student presentations; human resources
- 第3回 Unit 8: time is money; preparation and textbook work
- 第4回 Unit 8: student presentations; time management
- 第5回 Unit 9: the customer; preparation and textbook work
- 第6回 Unit 9: student presentations; customer service & CRM
- 第7回 Fourth-year student presentations
- 第8回 Unit 10: business online; preparation and textbook work
- 第9回 Unit 10: student presentations; e-commerce
- 第10回 Unit 11: not for profit; preparation and textbook work
- 第11回 Unit 11: not for profit; preparation and textbook work
- 第12回 Unit 12: problem-solving; preparation and textbook work
- 第13回 Unit 12: student presentations; problem-solving issues
- 第14回 Preparing for the final essay
- 第15回 Link to fourth-year class and choosing themes for the graduation theses

## 授業以外での学習方法

Following NHK Business English Courses Reading English Newspapers/Magazines

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (20%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 (Students will be required to produce a formally-typed essay at the end of this course, which will link to their fourth-year graduation thesis.)

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 英語コミュニケーション演習Ⅱ <b>   |      |     |
| クラス   | b  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までの領域別必修科目、領域別選択必修科目および英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（全56単位）のうち36単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 浅井 雅志  |      |     |

## テーマ

近代日本の誕生を外国人の目から見る

## 授業の目的（獲得目標）

明治初期に外交官として来日したアーネスト・サトウの著作を読み、近代日本がどのように誕生したかについての理解を深める

## 内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 A Diplomat in Japan(1)
- 第3回 A Diplomat in Japan(2)
- 第4回 A Diplomat in Japan(3)
- 第5回 A Diplomat in Japan(4)
- 第6回 A Diplomat in Japan(5)
- 第7回 A Diplomat in Japan(6)
- 第8回 A Diplomat in Japan(7)
- 第9回 A Diplomat in Japan(8)
- 第10回 A Diplomat in Japan(9)
- 第11回 A Diplomat in Japan(10)
- 第12回 A Diplomat in Japan(11)
- 第13回 A Diplomat in Japan(12)
- 第14回 A Diplomat in Japan(13)
- 第15回 総括

## 授業以外での学習方法

テキストおよび参考文献を読む

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 英語コミュニケーション演習Ⅱ <c>   |      |     |
| クラス   | c  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までの領域別必修科目、領域別選択必修科目および英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（全56単位）のうち36単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 西村 友美  |      |     |

## テーマ

通訳に関わる諸側面の考察と通訳スキルの向上

## 授業の目的（獲得目標）

この授業は、受講者が通訳に関わる諸側面を観察し、自らテーマを見つけ、その問題の解明と表現をすることができるようになることをめざす。同時に、考察する対象として選んだ素材を通訳するトレーニングを行う。グループに分かれて英語の報道番組ビデオを時差通訳した作品を作り、授業で発表する。これらの作業を通じ、自分の卒研テーマを探す。春休みから具体的に卒研の作品制作第1段階に着手してもらう予定である。

## 内 容

- 第1回 プレゼン1回目
- 第2回 プレゼン1回目
- 第3回 プレゼン1回目
- 第4回 報道番組時差通訳（事例研究）
- 第5回 報道番組時差通訳（リスニング）
- 第6回 報道番組時差通訳（時差通訳練習）
- 第7回 報道番組時差通訳（時差通訳演習）
- 第8回 プロジェクト発表(1)
- 第9回 プロジェクト発表(2)
- 第10回 プロジェクト発表(3)
- 第11回 プロジェクト発表(4)
- 第12回 プレゼン2回目（プロジェクト・テーマ）
- 第13回 プレゼン2回目（プロジェクト・テーマ）
- 第14回 プレゼン2回目（プロジェクト・テーマ）
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

プレゼンの準備。 グループ・プロジェクトの作品制作および発表の準備。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (60) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 英語コミュニケーション演習Ⅱ <d>   |      |     |
| クラス   | d  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までの領域別必修科目、領域別選択必修科目および英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（全56単位）のうち36単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 北林 利治  |      |     |

## テーマ

現代英語教育の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

(1)前期に引き続いて、現代日本の英語教育について理解を深める。(2)上記のテーマで英語で発表したり、レポートにまとめる。基本的には、前期の「英語コミュニケーション演習Ⅱ」の内容を発展させていく。前期と同様に、クラスでのプレゼンテーション、そして、後期は書くこと（レポートの作成）にも力を入れたい。明晰な英語を書くことを通して、論理的な思考方法とは何かという問題も考えていきたい。卒業論文を意識して、テーマの設定、論の進め方、レポートの形式などを扱っていく。加えて、前期からの続きとして、前期のテキ

## 内 容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 プレゼンテーションについて
- 第3回 受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
- 第6回 アカデミックライティングの基礎①
- 第7回 受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
- 第11回 アカデミックライティングの基礎②
- 第12回 受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表（3回目）、クラスでの討論

## 授業以外での学習方法

参考文献の一覧をクラスでわたすので、クラス外で読むこと。

## 教科書



**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。）

科目名 Theory & Application I a (翻訳研究)

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

翻訳の基礎を学ぶ

授業の目的 (獲得目標)

英日翻訳に必要とされる様々な手法を学び、原文の意図を的確に訳す能力を養う

内 容

- 第1回 講義概要・成績評価などに関する説明
- 第2回 英日翻訳の基礎技術 A
- 第3回 英日翻訳の基礎技術 B
- 第4回 翻訳演習 (歌詞)
- 第5回 翻訳演習 (歌詞)
- 第6回 翻訳演習 (歌詞)
- 第7回 翻訳演習 (歌詞)
- 第8回 翻訳演習 (歌詞)
- 第9回 翻訳演習 (映画字幕)
- 第10回 翻訳演習 (映画字幕)
- 第11回 翻訳演習 (雑誌記事)
- 第12回 翻訳演習 (新聞記事)
- 第13回 翻訳演習 (各自、発表へ向けて課題を選択する)
- 第14回 翻訳演習 (各自、発表へ向けて課題を選択する)
- 第15回 発表

授業以外での学習方法

授業中に指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (60) 備考 ( )

科目名 国際ビジネス実務演習 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 門 元則

テーマ

貿易実務を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

これから貿易を学ぶ学生を対象として、貿易実務知識のベーシックをテーマ別にまとめて、楽しく学習します。スキルアップで新たな可能性を開拓する貿易実務検定試験C級対策もこれにより行い易くなります。

内 容

- 第1回 貿易取引の全体像の理解
- 第2回 市場調査から契約の成立まで
- 第3回 信用状の基礎知識
- 第4回 品質条件・数量条件等
- 第5回 インコタームズの基礎知識
- 第6回 貿易運送
- 第7回 貨物海上保険
- 第8回 貿易取引に関するその他の保険
- 第9回 代金決済
- 第10回 船積から輸出代金の回収まで（前編）
- 第11回 船積から輸出代金の回収まで（後編）
- 第12回 「船積通知の受領」から「貨物の引取り」まで（前編）
- 第13回 「船積通知の受領」から「貨物の引取り」まで（後編）
- 第14回 外国為替相場と為替変動リスクの回避
- 第15回 国際貿易体制の基礎知識
- 第16回 （補講・予備）

授業以外での学習方法

日頃の新聞・テレビ・ラジオ等のニュース、特に政治・経済・海外関係の出来事に関心を注ぐようにする。

教科書

参考書

成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（20%）参加度（40%）備考（参加度とは、授業出席度の  
ことです。）

## 2010 Syllabus

科目名 Theory & Application II a (通訳研究)

クラス 配当回生

講義期間 定員 45

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 Theory & Application II c (ジェンダー研究)

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 芝原 妙子

---

テーマ

Gender-related topics

---

**授業の目的 (獲得目標)**

This course will cover the basics of cultural diversity, especially focusing on gender. Topics will include gender as it relates to cultural identity, and cultural values and beliefs and their roles in intercultural communication. It will take an experie

---

**内 容**

- 第1回 Introduction to gender
  - 第2回 Cultural Identity & Gender Part 1
  - 第3回 Cultural Identity & Gender Part 2
  - 第4回 Perceptions and Stereotypes Part 1
  - 第5回 Perceptions and Stereotypes Part 2
  - 第6回 Communication styles Part 1
  - 第7回 Communication styles Part 2
  - 第8回 Communication styles Part 3
  - 第9回 Mid-Term
  - 第10回 Cultural values and beliefs part 1
  - 第11回 Cultural values and beliefs part 2
  - 第12回 Intercultural Conflict Styles Part 1
  - 第13回 Intercultural Conflict Styles Part 2
  - 第14回 Final Project due and Wrap-up Discussion
  - 第15回 Wrap-up Discussion
- 

**授業以外での学習方法**

Details will be given in class.

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (60%) 小テスト (0%) 授業中課題 (15%) 授業中発表等 (15%) 参加度 (10%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 Essay & Presentation II

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

Essay and presentation

授業の目的（獲得目標）

Learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of essays.

内 容

第1回 Introduction & Course description

第2回 The Sentence and the Paragraph PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Unity and Coherence

第3回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第4回 Descriptive Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第5回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第6回 Example Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第7回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第8回 Process Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第9回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第10回 Opinion Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第11回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第12回 Narrative Paragraphs PART 1: Stimulating Ideas to PART 3: Developing Your Ideas

第13回 PART 4: Editing Your Writing and PART 5: Putting It All Together

第14回 Presentations 1

第15回 Presentations 2

授業以外での学習方法

Students will be required to write essays, both inside and outside the class. Students are welcome to contact me via email.

教科書

参考書

成績評価

試験 (40) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (60) 備考 (Students will be graded on class



work, attendance, participation and writing tests. Regular attendance is mandatory.)

科目名 Critical Reading II

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

Developing critical reading skills.

授業の目的（獲得目標）

This course is designed to improve students' reading skills through varieties of reading tasks and discussion activities.

内 容

- 第1回 Introduction and breaking the ice
- 第2回 Kirin: A taste of success
- 第3回 Edwin: Jeans "made in Japan"
- 第4回 NPC: Starting from worse than scratch
- 第5回 Kobayashi Pharmaceutical: The name of the game
- 第6回 Itochu: Trading in one's old line
- 第7回 Kameda Seika: Life's little pleasures
- 第8回 Urawa Red Diamonds: Sharing the passion
- 第9回 Terumo: Caring about your health
- 第10回 Daiseki: Re-thinking "Nimby"
- 第11回 Kikkoman: Soy sauce forever
- 第12回 Shoei: Keeping ahead
- 第13回 Yamaha: The sound of music everywhere
- 第14回 Review for final examination
- 第15回 Follow-up and final examination

授業以外での学習方法

Students are expected to read the assigned chapter prior to coming to class.

教科書

参考書

成績評価

試験 (40) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (60) 備考 ( )

科目名 国際ビジネス実務演習Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 門 元則

テーマ

貿易英語を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

ケース・スタディ方式により、輸出入取引の実務を楽しく学びながら体系的に把握し、貿易英語を修得する。貿易実務検定C級以上合格を目指す。

内 容

- 第1回 輸出取引の流れ
- 第2回 取引先照会依頼から売買契約書の送付まで
- 第3回 売約書の送付から為替予約まで
- 第4回 為替予約から貨物の船積手配まで
- 第5回 貨物の船積手配から船積完了まで
- 第6回 船積完了から荷為替取組まで
- 第7回 インコタームズ
- 第8回 輸入取引の流れ
- 第9回 引合いから契約まで
- 第10回 契約から信用状の発行まで
- 第11回 信用状の発行から本船入港まで
- 第12回 本船入港から通関完了まで
- 第13回 船積書類到着から荷物貸渡手続完了まで
- 第14回 クレームについて。安全保障貿易。
- 第15回 貿易実務検定C級合格の為の問題解説・傾向と対策
- 第16回 （補講・予備）

授業以外での学習方法

コンテナ・ターミナル（神戸港：ポート・アイランドまたは大阪港：南港咲洲）のCY、CFS等で、運輸・通関の現場および港湾施設見学。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（20%）参加度（40%）備考（参加度とは、授業出席度の事です。）

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <a>

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の目的（獲得目標）

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第4回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第5回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第6回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第7回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第8回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第9回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第10回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第11回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第12回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第13回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第14回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第15回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <b>

クラス b

配当回生 4回生

講義期間 前期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 浅井 雅志

#### テーマ

卒業論文作成に向けて

#### 授業の目的（獲得目標）

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

#### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第4回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第5回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第6回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第7回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第8回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第9回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第10回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第11回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第12回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第13回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第14回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第15回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )



科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ < c >

クラス c

配当回生 4回生

講義期間 前期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 西村 友美

#### テーマ

卒業論文作成に向けて

#### 授業の目的（獲得目標）

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

#### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第4回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第5回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第6回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第7回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第8回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第9回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第10回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第11回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第12回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第13回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第14回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第15回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <d>

クラス d 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 北林 利治

#### テーマ

卒業論文作成に向けて

#### 授業の目的（獲得目標）

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

#### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第4回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第5回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第6回 卒業研究進捗状況報告（序論）

第7回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第8回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第9回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第10回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第11回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第12回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第13回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第14回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

第15回 卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈a〉

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 アンガス ノーマン

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

**内 容**

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈b〉

クラス b 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 浅井 雅志

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

**内 容**

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )



科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ <c>

クラス c 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 西村 友美

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

**内 容**

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ <d>

クラス d 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 北林 利治

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

**内 容**

第1回 中間発表の準備

第2回 中間発表の準備

第3回 中間発表の準備

第4回 中間発表の準備

第5回 中間発表

第6回 執筆要領、注意事項などの指導

第7回 執筆要領、注意事項などの指導

第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導

第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導

第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導

第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導

第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導

第13回 卒業研究提出後報告とまとめ

第14回 卒業研究提出後報告とまとめ

第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 卒業研究(英) <a>

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(英) <b>

クラス b 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 卒業研究(英) <c>

クラス c 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 西村 友美

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 卒業研究(英) <d>

---

クラス d 配当回生 4回生

---

講義期間 集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 北林 利治

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



---

科目名 研究入門ゼミ I (日) <A>

クラス A

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 25

---

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

---

**テーマ**

日本語を掘り下げる

---

**授業の目的 (獲得目標)**

日本語はもっとも身近な存在だが、そこには私たちが知らない〈謎〉が潜んでいる。その〈謎〉を発見し、解明する方法をマスターする。

---

**内 容**

- 第1回 なぜ日本語を考えるのか？
  - 第2回 助数詞の分析 (1) 助数詞による〈世界〉のとらえ方
  - 第3回 助数詞の分析 (2) データにもとづいた掘り下げ
  - 第4回 格助詞の分析 (1) 格助詞による意味の表し方
  - 第5回 格助詞の分析 (2) データにもとづいた掘り下げ
  - 第6回 基本動詞の意味を分析する
  - 第7回 分析の方法
  - 第8回 データ分析 (1)
  - 第9回 データ分析 (2)
  - 第10回 受講生による報告 (1)
  - 第11回 受講生による報告 (2)
  - 第12回 受講生による報告 (3)
  - 第13回 受講生による報告 (4)
  - 第14回 受講生による報告 (5)
  - 第15回 受講生による報告 (6)
- 

**授業以外での学習方法**

日ごろからことばに関心を持つことが大切です。文学作品、新聞、雑誌、話しことばに至るまで日本語学の対象はどこにでもあります。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミ I (日) <B>

クラス B

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

#### テーマ

日本文学研究の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

大学で日本文学を研究するための基礎的な知識と方法を習得する。演習形式の発表までのノウハウを身につける。

#### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表テーマの設定、参考文献・資料の探し方
- 第3回 発表の準備、レジュメ作成方法
- 第4回 発表への質疑応答、レジュメからレポートへ
- 第5回 予定表作成
- 第6回 作品分析の実例1
- 第7回 作品分析の実例2
- 第8回 学生によるグループ発表1
- 第9回 学生によるグループ発表2
- 第10回 学生によるグループ発表3
- 第11回 学生によるグループ発表4
- 第12回 個人発表（前半発表の補遺）1
- 第13回 個人発表（前半発表の補遺）2
- 第14回 個人発表（前半発表の補遺）3
- 第15回 個人発表（前半発表の補遺）4
- 第16回 まとめ

#### 授業以外での学習方法

日本文学の作品を積極的に多読すること。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（40％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（40％）参加度（20％）備考（期末試験はレポー

ト形式とする。)

科目名 研究入門ゼミ I (日) <C>

クラス C

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

#### テーマ

古典文学へのアプローチ

#### 授業の目的（獲得目標）

代表的な作品を通して日本文化について考える。古典文学の幅広さと魅力を知る。自分で作品を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。

#### 内 容

第1回 授業のねらいと進め方についての説明

第2回 じつは不思議な物語；『竹取物語』

第3回 恋は和歌から始まった；『和泉式部日記』

第4回 「昔話」の認識を改める；『御伽草子』

第5回 学んで遊ぶ古典；『伊勢物語』から『仁勢物語』へ

第6回 怪談とは何かを考える；『雨月物語』

第7回 これまでのまとめ

第8回 自分のお気に入り作品を捜してみる

第9回 本文を入手し、概要を知る

第10回 各自の選んだ作品について、その魅力を語る（プレゼンテーション）①

第11回 同上②

第12回 同上③

第13回 同上④

第14回 同上⑤

第15回 これまでのまとめ

#### 授業以外での学習方法

本文をきちんと読み、作品について自分なりに考えてみる。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミ I (日) <D>

クラス D

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 新谷 泰一

#### テーマ

書の基本の総合的学習

#### 授業の目的（獲得目標）

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など基本的な知識の修得をめざす。

#### 内 容

第1回 ミーティング。基本的知識調査。

第2回 基本的知識調査内容の解説。書学習のための心構え。

第3回 書とは何か。書の性格と特徴。

第4回 ”

第5回 書の今日的意味。これからの書。

第6回 書の線・造形・墨色について。

第7回 ”

第8回 姿勢・執筆の研究。

第9回 用筆・運筆の研究。

第10回 ”

第11回 臨書と鑑賞。

第12回 ”

第13回 臨書と創作。

第14回 書の創作。

第15回 まとめ。

#### 授業以外での学習方法

多くの書に接し鑑賞する機会を持つこと。特に古典の臨書をしっかりすること。また書の参考書を多く読み、与えられた資料を再読し内容を十分理解しておくこと。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (10) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ(日)〈A〉

クラス A 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

#### テーマ

小説と映像

#### 授業の目的（獲得目標）

原作の小説と映画を比較鑑賞し、芸術作品のひとつの「異本」としての映画、その現代的享受について考察する。

#### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 川端康成「山の音」 1
- 第3回 川端康成「山の音」 2
- 第4回 福永武彦「廃市」 1
- 第5回 福永武彦「廃市」 2
- 第6回 三浦哲郎「忍ぶ川」 1
- 第7回 三浦哲郎「忍ぶ川」 2
- 第8回 有吉佐和子「華岡青洲の妻」 1
- 第9回 有吉佐和子「華岡青洲の妻」 2
- 第10回 田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」 1
- 第11回 田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」 2
- 第12回 南木佳士「阿弥陀堂だより」 1
- 第13回 南木佳士「阿弥陀堂だより」 2
- 第14回 村上春樹「トニー滝谷」 1
- 第15回 村上春樹「トニー滝谷」 2
- 第16回 まとめ

#### 授業以外での学習方法

扱う作品は通読すること。他にも原作と映画の比較鑑賞を試みること。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（60％）小テスト（）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（20％）備考（試験はレポート

形式とする。)



科目名 研究入門ゼミⅡ(日)〈B〉

クラス B 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

#### テーマ

古典文学へのアプローチ

#### 授業の目的（獲得目標）

代表的な作品を通して日本文化について考える。古典文学の幅広さと魅力を知る。自分で作品を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。

#### 内 容

第1回 授業のねらいと進め方についての説明

第2回 じつは不思議な物語；『竹取物語』

第3回 恋は和歌から始まった；『和泉式部日記』

第4回 「昔話」の認識を改める；『御伽草子』

第5回 学んで遊ぶ古典；『伊勢物語』から『仁勢物語』へ

第6回 怪談とは何かを考える；『雨月物語』

第7回 これまでのまとめ

第8回 自分のお気に入り作品を捜してみる

第9回 本文を入手し、概要を知る

第10回 各自の選んだ作品について、その魅力を語る（プレゼンテーション）①

第11回 同上②

第12回 同上③

第13回 同上④

第14回 特別講義（時期は未定）

第15回 これまでのまとめ

#### 授業以外での学習方法

本文をきちんと読み、作品について自分なりに考えてみる。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（20）授業中発表等（50）参加度（30）備考（）

---

科目名 研究入門ゼミⅡ(日)〈C〉

クラス C

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 25

---

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

---

テーマ

日本語を掘り下げる

---

授業の目的（獲得目標）

日本語はもっとも身近な存在だが、そこには私たちが知らない〈謎〉が潜んでいる。その〈謎〉を発見し、解明する方法をマスターする。

---

内 容

- 第1回 なぜ日本語を考えるのか？
  - 第2回 助数詞の分析（1）助数詞による〈世界〉のとらえ方
  - 第3回 助数詞の分析（2）データにもとづいた掘り下げ
  - 第4回 格助詞の分析（1）格助詞による意味の表し方
  - 第5回 格助詞の分析（2）データにもとづいた掘り下げ
  - 第6回 基本動詞の意味を分析する
  - 第7回 分析の方法
  - 第8回 データ分析（1）
  - 第9回 データ分析（2）
  - 第10回 受講生による報告（1）
  - 第11回 受講生による報告（2）
  - 第12回 受講生による報告（3）
  - 第13回 受講生による報告（4）
  - 第14回 受講生による報告（5）
  - 第15回 受講生による報告（6）
- 

授業以外での学習方法

日ごろからことばに関心を持つことが大切です。文学作品、新聞、雑誌、話しことばに至るまで日本語学の対象はどこにでもあります。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ(日)〈D〉

クラス D

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 新谷 泰一

#### テーマ

書の基本の総合的学習

#### 授業の目的（獲得目標）

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など基本的な知識の修得をめざす。

#### 内 容

第1回 書体と書風。

第2回 文字の成立と書体の発達、推移。

第3回 ”

第4回 篆書の鑑賞と表現。

第5回 隷書の鑑賞と表現。

第6回 楷書の造形。

第7回 行・草の造形。

第8回 漢字書の歴史。

第9回 ”

第10回 仮名書の歴史。

第11回 人と書。

第12回 ”

第13回 用具・用材について。

第14回 ”

第15回 まとめ。

#### 授業以外での学習方法

多くの書に接し鑑賞し、臨書をしっかりすること。また書に関する参考書を多く読み、書への理解を深めること。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (10) 参加度 (30) 備考 ( )

|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 書法 I <a> |      |     |
| クラス   | a        | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期       | 定員   | 20  |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 | 大学指定     |      |     |
| 担当者   | 佐々木 広成   |      |     |

### テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

### 授業の目的（獲得目標）

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。

### 内 容

- 第1回 文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕
- 第2回 楷書の成立と変遷
- 第3回 孔子廟堂碑の基本点画①
- 第4回 孔子廟堂碑の基本点画②
- 第5回 孔子廟堂碑 半紙臨書①
- 第6回 孔子廟堂碑 半紙臨書②
- 第7回 孔子廟堂碑 半切臨書
- 第8回 孔子廟堂碑 半切臨書作品互評会
- 第9回 関中本千字文 基本点画①
- 第10回 関中本千字文 基本点画②
- 第11回 関中本千字文 半紙臨書①
- 第12回 関中本千字文 半紙臨書②
- 第13回 関中本千字文 半切臨書
- 第14回 関中本千字文 半切臨書作品互評会
- 第15回 孔子廟堂碑又は関中本千字文いずれかの倣書作品の制作

### 授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（授業中最終試験（0%））小テスト（（0%））授業中課題（（提出物・レポート）（80%））授業中発表等（ディスカッションへの参加（0%））参加度（出席率（20%））備考（）

|             |          |      |      |
|-------------|----------|------|------|
| 科目名         | 書法 I <b> |      |      |
| クラス         | b        | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期       | 定員   | 20   |
| <b>履修条件</b> |          |      |      |
| クラス指定       | 大学指定     |      |      |
| 担当者         | 尾西 正成    |      |      |

**テーマ**

楷書の書法を理解し、表現力を身につける

**授業の目的（獲得目標）**

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。—書は人なり—と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書之美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。

**内 容**

- 第 1 回 ガイダンス・文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕
- 第 2 回 楷書の成立と変遷
- 第 3 回 孔子廟堂碑の基本点画
- 第 4 回 孔子廟堂碑の基本点画①
- 第 5 回 孔子廟堂碑 半紙臨書②
- 第 6 回 孔子廟堂碑 半紙臨書③
- 第 7 回 孔子廟堂碑 半切臨書①
- 第 8 回 孔子廟堂碑 半切臨書② \*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第 9 回 関中本千字文 基本点画
- 第 10 回 関中本千字文 半紙臨書①
- 第 11 回 関中本千字文 半紙臨書②
- 第 12 回 関中本千字文 半紙臨書③
- 第 13 回 関中本千字文 半切臨書①
- 第 14 回 関中本千字文 半切臨書② \*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第 15 回 做書作品の制作 \*条幅臨書作品の互評会を行う

**授業以外での学習方法**

条幅形式での臨書や做書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞、又そのレポート提出。  
夏期休暇時には課題あり

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 (授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい)

|       |        |      |     |
|-------|--------|------|-----|
| 科目名   | 書法Ⅱ〈a〉 |      |     |
| クラス   | a      | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期     | 定員   | 20  |
| 履修条件  |        |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 佐々木 広成 |      |     |

### テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

### 授業の目的（獲得目標）

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。

### 内 容

- 第1回 北魏の書について
- 第2回 張猛龍碑について
- 第3回 張猛龍碑の基本点画①
- 第4回 張猛龍碑の基本点画②
- 第5回 張猛龍碑 半紙臨書
- 第6回 張猛龍碑 半切臨書
- 第7回 張猛龍碑 半切臨書作品の互評会
- 第8回 ちょ遂良の楷書
- 第9回 雁塔聖教序の結体
- 第10回 雁塔聖教序の用筆
- 第11回 雁塔聖教序 半紙臨書
- 第12回 雁塔聖教序 半切臨書
- 第13回 雁塔聖教序 半切臨書作品互評会
- 第14回 魏晉小楷、鍾よう、王羲之
- 第15回 隸書

### 授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（授業中最終試験（0%））小テスト（（0%））授業中課題（提出物・レポート（80%））授業中発表等（ディスカッションへの参加（0%））参加度（出席率（20%））備考（）



|       |         |      |     |
|-------|---------|------|-----|
| 科目名   | 書法Ⅱ <b> |      |     |
| クラス   | b       | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期      | 定員   | 20  |
| 履修条件  |         |      |     |
| クラス指定 | 大学指定    |      |     |
| 担当者   | 尾西 正成   |      |     |

### テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

### 授業の目的（獲得目標）

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

### 内 容

- 第1回 北魏の書について
- 第2回 張猛龍碑について
- 第3回 張猛龍碑の基本点画
- 第4回 張猛龍碑 半紙臨書①
- 第5回 張猛龍碑 半紙臨書②
- 第6回 張猛龍碑 半切臨書①
- 第7回 張猛龍碑 半切臨書② \*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第8回 ※遂良の楷書について
- 第9回 雁塔聖教序の基本点画
- 第10回 雁塔聖教序 半紙臨書①
- 第11回 雁塔聖教序 半紙臨書②
- 第12回 雁塔聖教序 半切臨書①
- 第13回 雁塔聖教序 半切臨書② \*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第14回 第14回 魏晉小楷・王羲之
- 第15回 第15回 顔真卿の楷書 \*条幅臨書作品の互評会を行う

### 授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（80）授業中発表等（0）参加度（20）備考（授業への意欲的な取り組み、

自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい)

|       |         |      |     |
|-------|---------|------|-----|
| 科目名   | 書法Ⅲ <a> |      |     |
| クラス   | a       | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期      | 定員   | 20  |
| 履修条件  |         |      |     |
| クラス指定 | 大学指定    |      |     |
| 担当者   | 橋本 二三   |      |     |

### テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

### 授業の目的（獲得目標）

基本的なかな書法の修得。

### 内 容

- 第1回 高野切について
- 第2回 高野切第三種の書について
- 第3回 高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
- 第4回 高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
- 第5回 高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
- 第6回 高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
- 第7回 高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
- 第8回 高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
- 第9回 高野切第三種の背臨
- 第10回 高野切第三種の集字
- 第11回 高野切第三種の倣書
- 第12回 高野切第一種の書について
- 第13回 高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
- 第14回 高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
- 第15回 高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>

### 授業以外での学習方法

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む 授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。）

|       |         |      |     |
|-------|---------|------|-----|
| 科目名   | 書法Ⅲ <b> |      |     |
| クラス   | b       | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期      | 定員   | 20  |
| 履修条件  |         |      |     |
| クラス指定 | 大学指定    |      |     |
| 担当者   | 橋本 二三   |      |     |

### テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

### 授業の目的（獲得目標）

基本的なかな書法の修得。

### 内 容

- 第1回 高野切について
- 第2回 高野切第三種の書について
- 第3回 高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
- 第4回 高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
- 第5回 高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
- 第6回 高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
- 第7回 高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
- 第8回 高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
- 第9回 高野切第三種の背臨
- 第10回 高野切第三種の集字
- 第11回 高野切第三種の倣書
- 第12回 高野切第一種の書について
- 第13回 高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
- 第14回 高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
- 第15回 高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>

### 授業以外での学習方法

豊かな表現力に養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。）

|       |        |      |     |
|-------|--------|------|-----|
| 科目名   | 書法Ⅳ〈a〉 |      |     |
| クラス   | a      | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期     | 定員   | 20  |
| 履修条件  |        |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 橋本 二三  |      |     |

### テーマ

臨書を中心とした基本的な書法の研究。

### 授業の目的（獲得目標）

基本的なかな書法の修得。

### 内 容

- 第1回 高野切第一種の臨書①〈線運動・墨法・構成等〉
- 第2回 高野切第一種の臨書②〈線運動・墨法・構成等〉
- 第3回 高野切第一種の臨書③〈線運動・墨法・構成等〉
- 第4回 高野切第一種の背臨
- 第5回 高野切第一種の集字
- 第6回 高野切第一種の倣書
- 第7回 寸松庵色紙について
- 第8回 寸松庵色紙の臨書①〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
- 第9回 寸松庵色紙の臨書②〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
- 第10回 寸松庵色紙の臨書③〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
- 第11回 寸松庵色紙の臨書④〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
- 第12回 寸松庵色紙の集字
- 第13回 寸松庵色紙の倣書
- 第14回 寸松庵色紙の倣書
- 第15回 寸松庵色紙の倣書

### 授業以外での学習方法

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。）

|       |         |      |     |
|-------|---------|------|-----|
| 科目名   | 書法Ⅳ <b> |      |     |
| クラス   | b       | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期      | 定員   | 20  |
| 履修条件  |         |      |     |
| クラス指定 | 大学指定    |      |     |
| 担当者   | 橋本 二三   |      |     |

### テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

### 授業の目的（獲得目標）

基本的なかな書法の修得。

### 内 容

- 第1回 高野切第一種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
- 第2回 高野切第一種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
- 第3回 高野切第一種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
- 第4回 高野切第一種の背臨
- 第5回 高野切第一種の集字
- 第6回 高野切第一種の倣書
- 第7回 寸松庵色紙について
- 第8回 寸松庵色紙の臨書①<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
- 第9回 寸松庵色紙の臨書②<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
- 第10回 寸松庵色紙の臨書③<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
- 第11回 寸松庵色紙の臨書④<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
- 第12回 寸松庵色紙の集字
- 第13回 寸松庵色紙の倣書
- 第14回 寸松庵色紙の倣書
- 第15回 寸松庵色紙の倣書

### 授業以外での学習方法

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。）

科目名 日本語学概説 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

現代日本語の諸相

### 授業の目的（獲得目標）

音声・音韻，文字・表記・語彙，文法，意味・機能といった観点から，私たちが使っている現代の日本語がどんな特徴を持つ言語なのかを明らかにする。これをとおして，日本人にとって日本語がいかに未知の存在であるかを理解する。

### 内 容

- 第1回 導入
- 第2回 世界の言語と日本語—言語類型論から日本語を見る
- 第3回 日本語の音声・音韻（1）日本語の“音”の特徴
- 第4回 日本語の音声・音韻（2）音の単位とアクセント
- 第5回 日本語の文字・表記（1）かなづかいを中心に
- 第6回 日本語の文字・表記（2）漢字と国語国字問題
- 第7回 日本語の語彙（1）形態論① 日本語の“語”
- 第8回 日本語の語彙（2）形態論② 複合と派生
- 第9回 日本語の語彙（3）品詞
- 第10回 日本語の文法（1）助詞の文法
- 第11回 日本語の文法（2）文法としての活用
- 第12回 日本語の文法（3）文の“内”と“外”
- 第13回 日本語の意味
- 第14回 日本語の機能
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 日本語学概説Ⅱ

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 安達 太郎

---

テーマ

日本語の多様性

---

### 授業の目的（獲得目標）

歴史的変化，地理的変異，さまざまな属性（世代差，男女差，場面差）によることばの実態など，日本語の多様性を示す現象について考察を加えていく。これをとおして，自分自身のことばを相対化する視点を獲得することを目指す。

---

### 内 容

第1回 導入

第2回 日本語史（1）音韻変化

第3回 日本語史（2）仮名づかいの変遷

第4回 日本語史（3）語彙の変遷

第5回 日本語史（4）文法の変化①概観

第6回 日本語史（5）文法の変化②各論

第7回 方言学（1）方言の概観と方言区画

第8回 方言学（2）東西対立と方言圏論

第9回 方言学（3）方言地理学

第10回 方言学（4）方言の変化

第11回 社会言語学（1）話し手・聞き手の属性と日本語使用の関係

第12回 社会言語学（2）若者のことばと言語行動の現在

第13回 社会言語学（3）ことばの男女差

第14回 社会言語学（4）外国人の日本語

第15回 まとめ

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）



科目名 日本文学史 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

軍記物とその展開

授業の目的（獲得目標）

1、軍記や語り物が人間をどのように描いてきたかを知る。2、先行の文学がいかに引き継がれ、あたらしい作品を生み出していったかを学ぶ。

内 容

- 第1回 取り上げる作品と授業のねらいについて
- 第2回 『保元物語』の崇徳院と源為朝
- 第3回 『雨月物語』と『椿説弓張月』
- 第4回 『平治物語』の源義朝と鎌田正清
- 第5回 常盤の物語
- 第6回 これまでのまとめ
- 第7回 『平家物語』の平清盛
- 第8回 『平家物語』の女性
- 第9回 『平家物語』の脇役（忠度、経正、那須与一）
- 第10回 『平家物語』の源氏（実盛、義仲、頼朝、義経）
- 第11回 これまでのまとめ
- 第12回 『平家物語』を素材にした能、浄瑠璃
- 第13回 『義経記』と能、浄瑠璃
- 第14回 『曾我物語』と舞、浄瑠璃
- 第15回 これまでのまとめ

授業以外での学習方法

授業では作品の一部しか紹介できないので、興味を持ったものをできるだけ読んで下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（60）授業中課題（10）授業中発表等（）参加度（30）備考（）

科目名 日本文学史Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近代文学史

### 授業の目的（獲得目標）

明治時代の文学について理解と知識を深める。あわせて名作小説を鑑賞する。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 坪内逍遙「小説神髓」と「当世書生気質」
- 第3回 二葉亭四迷「浮雲」
- 第4回 樋口一葉「たけくらべ」1
- 第5回 樋口一葉「たけくらべ」2
- 第6回 森鷗外「舞姫」1
- 第7回 森鷗外「舞姫」2
- 第8回 泉鏡花「高野聖」1
- 第9回 泉鏡花「高野聖」2
- 第10回 田山花袋「蒲団」1
- 第11回 田山花袋「蒲団」2
- 第12回 夏目漱石「三四郎」1
- 第13回 夏目漱石「三四郎」2
- 第14回 谷崎潤一郎「刺青」
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

### 授業以外での学習方法

講義で扱う作品は全文通読を必須とする。他にも言及する作品を積極的に通読すること。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（60％）小テスト（）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（20％）備考（）

---

科目名 篆刻 I

---

クラス 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 小早川 修治

---

テーマ

篆刻の歴史と印式・印例の理解

---

### 授業の目的（獲得目標）

篆刻理論の習得 [内容] 篆刻の歴史を通覧し、その後、印の種類・印式などを順を追って解説、篆刻に対する理解を深めるとともに、印のあり方を実作を通して習得する。

---

### 内 容

第 1 回 篆刻の歴史の解説

第 2 回 篆刻の種類と解説

第 3 回 篆刻の種類と解説

第 4 回 印式の解説 二文字の朱文印・白文印を印稿の段階から製作する。

第 5 回 同上

第 6 回 同上

第 7 回 同上

第 8 回 同上

第 9 回 同上

第 10 回 同上

第 11 回 同上

第 12 回 同上

第 13 回 同上

第 14 回 同上

第 15 回 同上

---

### 授業以外での学習方法

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (80%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (10%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 篆刻Ⅱ

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 小早川 修治

---

テーマ

刻印の技術の修

---

**授業の目的（獲得目標）**

篆刻技術の習得 [内容] 「篆刻Ⅰ」で習得した印の理解の上に立ち、それらを実際に制作し、その技術の習得を目的とする。篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。それ故、普段から篆書に慣れ親しんでおくことが、技術習得の上で重要になってくる。「篆刻Ⅰ」を履修していることが望ましい。

---

**内 容**

第1回 刻印の実習 四文字の白文・朱文印を製作する。折にふれ、漢銅印、拓本等ほ文物を鑑賞。

第2回 同上

第3回 同上

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 側款の刻り方 側款の文章表現（款識の書き方） 印材・印譜の鑑賞 夏期休暇中に近人名家の印を模写 製本（四ツ目綴じ） 冬期休暇中に自刻の印を押印 製本（四ツ目綴じ）し夫々提出。

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

---

**授業以外での学習方法**

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (80%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (10%) 備考 ( )

科目名 基礎演習 I (日) <a>

クラス a

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

#### テーマ

日本文学研究の基礎

#### 授業の目的（獲得目標）

大学で日本文学を研究するための基礎的な知識と方法を習得する。演習形式の発表までのノウハウを身につける。

#### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表テーマの設定、参考文献・資料の探し方
- 第3回 発表の準備、レジュメ作成方法
- 第4回 発表への質疑応答、レジュメからレポートへ
- 第5回 予定表作成
- 第6回 作品分析の実例1
- 第7回 作品分析の実例2
- 第8回 学生によるグループ発表1
- 第9回 学生によるグループ発表2
- 第10回 学生によるグループ発表3
- 第11回 学生によるグループ発表4
- 第12回 個人発表（前半発表の補遺）1
- 第13回 個人発表（前半発表の補遺）2
- 第14回 個人発表（前半発表の補遺）3
- 第15回 個人発表（前半発表の補遺）4
- 第16回 まとめ

#### 授業以外での学習方法

日本文学の作品を積極的に多読すること。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（40％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（40％）参加度（20％）備考（期末試験はレポー

ト形式とする。)



科目名 基礎演習 I (日) <b>

クラス b 配当回生 2 回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学へのアプローチ

授業の目的 (獲得目標)

多くの作品に触れることで、文学の幅広さを知る。きちんと本文を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。論文の書き方を学ぶ。

内 容

第 1 回 授業のねらいと進め方についての説明

第 2 回 お気に入りの作品をさがし、本文を入手する

第 3 回 各自の選んだ作品について、概要をまとめ、魅力を探る

第 4 回 作品の魅力を語る (プレゼンテーション) ①

第 5 回 同上②

第 6 回 同上③

第 7 回 同上④

第 8 回 同上⑤

第 9 回 論文を検索し、収集する

第 10 回 論文の組み立て方、論述の仕方について学ぶ

第 11 回 すぐれた論文を紹介する①

第 12 回 同上②

第 13 回 同上③

第 14 回 同上④

第 15 回 これまでのまとめ

授業以外での学習方法

本文をきちんと読み、作品について自分なりに考えてみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 ( )

---

科目名 基礎演習 I (日) <c>

クラス c

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員 30

---

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

---

テーマ

日本語を掘り下げる

---

授業の目的 (獲得目標)

日本語はもっとも身近な存在だが、そこには私たちが知らない〈謎〉が潜んでいる。その〈謎〉を発見し、解明する方法をマスターする。

---

内 容

- 第1回 なぜ日本語を考えるのか？
  - 第2回 助数詞の分析 (1) 助数詞による〈世界〉のとらえ方
  - 第3回 助数詞の分析 (2) データにもとづいた掘り下げ
  - 第4回 格助詞の分析 (1) 格助詞による意味の表し方
  - 第5回 格助詞の分析 (2) データにもとづいた掘り下げ
  - 第6回 基本動詞の意味を分析する
  - 第7回 分析の方法
  - 第8回 データ分析 (1)
  - 第9回 データ分析 (2)
  - 第10回 受講生による報告 (1)
  - 第11回 受講生による報告 (2)
  - 第12回 受講生による報告 (3)
  - 第13回 受講生による報告 (4)
  - 第14回 受講生による報告 (5)
  - 第15回 受講生による報告 (6)
- 

授業以外での学習方法

日ごろからことばに関心を持つことが大切です。文学作品、新聞、雑誌、話しことばに至るまで日本語学の対象はどこにでもあります。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

---

科目名 基礎演習Ⅱ(日)〈a〉

---

クラス a 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 大学指定

---

担当者 安達 太郎

---

テーマ

日本語を掘り下げる

---

授業の目的（獲得目標）

日本語はもっとも身近な存在だが、そこには私たちが知らない〈謎〉が潜んでいる。その〈謎〉を発見し、解明する方法をマスターする。

---

内 容

- 第1回 なぜ日本語を考えるのか？
  - 第2回 助数詞の分析（1）助数詞による〈世界〉のとらえ方
  - 第3回 助数詞の分析（2）データにもとづいた掘り下げ
  - 第4回 格助詞の分析（1）格助詞による意味の表し方
  - 第5回 格助詞の分析（2）データにもとづいた掘り下げ
  - 第6回 基本動詞の意味を分析する
  - 第7回 分析の方法
  - 第8回 データ分析（1）
  - 第9回 データ分析（2）
  - 第10回 受講生による報告（1）
  - 第11回 受講生による報告（2）
  - 第12回 受講生による報告（3）
  - 第13回 受講生による報告（4）
  - 第14回 受講生による報告（5）
  - 第15回 受講生による報告（6）
- 

授業以外での学習方法

日ごろからことばに関心を持つことが大切です。文学作品、新聞、雑誌、話しことばに至るまで日本語学の対象はどこにでもあります。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 基礎演習Ⅱ(日)〈b〉

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

**テーマ**

小説と映像

**授業の目的（獲得目標）**

原作の小説と映画を比較鑑賞し、芸術作品のひとつの「異本」としての映画、その現代的享受について考察する。

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 川端康成「山の音」1

第3回 川端康成「山の音」2

第4回 福永武彦「廃市」1

第5回 福永武彦「廃市」2

第6回 三浦哲郎「忍ぶ川」1

第7回 三浦哲郎「忍ぶ川」2

第8回 有吉佐和子「華岡青洲の妻」1

第9回 有吉佐和子「華岡青洲の妻」2

第10回 田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」1

第11回 田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」2

第12回 南木佳士「阿弥陀堂だより」1

第13回 南木佳士「阿弥陀堂だより」2

第14回 村上春樹「トニー滝谷」1

第15回 村上春樹「トニー滝谷」2

第16回 まとめ

**授業以外での学習方法**

扱う作品は通読すること。他にも原作と映画の比較鑑賞を試みること。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（60％）小テスト（）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（20％）備考（試験はレポート

形式とする。)

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(日)〈c〉

クラス c 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

## テーマ

古典文学へのアプローチ

## 授業の目的（獲得目標）

多くの作品に触れることで、文学の幅広さを知る。きちんと本文を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。論文の書き方を学ぶ。

## 内 容

- 第1回 授業のねらいと進め方についての説明
- 第2回 お気に入りの作品をさがし、本文を入手する
- 第3回 各自の選んだ作品について、概要をまとめ、魅力を探る
- 第4回 作品の魅力を語る（プレゼンテーション）①
- 第5回 同上②
- 第6回 同上③
- 第7回 同上④
- 第8回 同上⑤
- 第9回 論文を検索し、収集する
- 第10回 論文の組み立て方、論述の仕方について学ぶ
- 第11回 すぐれた論文を紹介する①
- 第12回 同上②
- 第13回 同上③
- 第14回 同上④
- 第15回 特別講義（時期は未定）

## 授業以外での学習方法

本文をきちんと読み、作品について自分なりに考えてみる。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（20）授業中発表等（50）参加度（30）備考（）



科目名 漢字古典研究 I <a>

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 20

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 佐々木 広成

#### テーマ

漢字古典の鑑賞と書法解明

#### 授業の目的（獲得目標）

多くの古典に触れ知識とすると同時に、さまざまな書法の習得をめざす。

#### 内 容

第1回 中国書道史の基礎知識

第2回 甲骨文字 漢字の起源

第3回 鍾鼎文（金文）

第4回 石鼓文

第5回 刻石の書

第6回 漢代の隸書①

第7回 漢代の隸書②

第8回 木簡・平復帖・残紙・李柏尺牘

第9回 王羲之の書①

第10回 王羲之の書②

第11回 北魏の書（造像記を中心として）

第12回 隋代の書①

第13回 隋代の書②

第14回 初唐の三大家（欧・虞・ちょ）

第15回 鑑賞ノート（作品貼付）提出

#### 授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞をし、そのレポートの提出。夏季休暇には課題あり。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（授業中最終試験（0%））小テスト（（0%））授業中課題（提出物・レポート（80%））授業中発表等（ディスカッションへの参加（0%））参加度（出席率（20%））備考（）

科目名 漢字古典研究 I <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 20

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

**テーマ**

漢字古典の鑑賞と書法解明（文字発生から魏・晋・隋・唐代まで）

**授業の目的（獲得目標）**

多くの古典に触れ知識とすると同時に、さまざまな書法の習得をめざす。この授業は、さまざまな漢字古典に触れ、鑑賞力と表現力を一層確かなものにするべく設けられ、中国における文字発生から唐代までの書体の変遷と完成を自分の眼と手で確かめることとしたい。多くの古典を手がけることによって、異なる書風の、書法の習得に努めると共に、その時代や書者の書の理想を追求、幅広い書表現のあり方を考えることとする。授業は1時間数古典をこなし、臨書作業と鑑賞ノートの作成を行い、臨書を通して得た技法の解明と自らの手応えを記してファイル

**内 容**

- 第1回 ガイダンス 中国書道史の基礎知識
- 第2回 甲骨文字 漢字の起源
- 第3回 鍾鼎文（金文）
- 第4回 石鼓文
- 第5回 刻石の書
- 第6回 漢代の隷書①
- 第7回 漢代の隷書②
- 第8回 木簡・平復帖・残紙・李柏尺牘
- 第9回 王羲之の書①
- 第10回 王羲之の書②
- 第11回 北魏の書（造像記を中心として）
- 第12回 隋代の書①
- 第13回 隋代の書②
- 第14回 初唐の三大家
- 第15回 鑑賞ノート（作品貼付）提出

**授業以外での学習方法**

各時代の古典の選択や分量など、個々に任される。相当量は家庭での学習になると思われるので、綿密な計画を立てて、授業に臨んでもらいたい。

**教科書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 (鑑賞ノート、授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい)

科目名 漢字古典研究Ⅱ〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 20

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 佐々木 広成

**テーマ**

漢字古典の鑑賞と書法解明

**授業の目的（獲得目標）**

多くの古典に触れ、知識とすると同時に、さまざまな書法の習得をめざす。

**内 容**

- 第1回 唐代の書
- 第2回 唐代の書 顔真卿
- 第3回 宋三大家 米ふつ
- 第4回 宋三大家 蘇 ・ 王庭堅
- 第5回 元代の書
- 第6回 明代の書
- 第7回 明末清初の初（王鐸を中心として）
- 第8回 清代の書
- 第9回 日本の書の流れ（漢字を中心として）
- 第10回 日本最古の碑
- 第11回 日本奈良時代の書
- 第12回 日本平安時代の書・三跡
- 第13回 日本江戸時代の書（良寛など）
- 第14回 古典臨書の意味
- 第15回 鑑賞ノート（作品貼付）提出

**授業以外での学習方法**

展覧会などを鑑賞し、そのレポートの提出。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（授業中最終試験（0%））小テスト（（0%））授業中課題（（提出物・レポート）（80%））授業中発表等（ディスカッションへの参加（0%））参加度（出席率（20%））備考（）

科目名 漢字古典研究Ⅱ <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 20

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

**テーマ**

漢字古典の鑑賞と書法解明（唐・宋・元・明・清代各名家及び日本の漢字名跡）

**授業の目的（獲得目標）**

多くの古典に触れ、知識とすると同時に、さまざまな書法の習得をめざす。この授業は、さまざまな漢字古典に触れ、鑑賞力と表現力を一層確かなものにするべく設けられ、中国中唐以後、明清代に到る名家たちの劇跡を自分の眼と手で確かめることとしたい。多くの古典名跡を手がけることによって、異なる書風の習得と、その時代の書者の書の理想を追求し、幅広い書表現のあり方を考えることとする。授業は1時間数古典をこなし、臨書と鑑賞ノートの作成を行い、臨書を通して得た技法の解明や自らの手応えを記してファイルすることとする。

**内 容**

第1回 ガイダンス・唐代の書

第2回 唐代中期以降の書①

第3回 唐代中期以降の書②

第4回 宋三大家 米※

第5回 宋三大家 蘇軾・黄庭堅

第6回 元代の書

第7回 明代の書

第8回 明末清初の書①

第9回 明末清初の書②

第10回 明末清初の書③

第11回 清代以降の書

第12回 日本の書の流れ（漢字を中心として） 日本奈良時代以前の書

第13回 日本平安時代の書・三跡

第14回 日本江戸時代の書（良寛など）

第15回 第15回 鑑賞ノート（作品貼付）提出

**授業以外での学習方法**

各時代の古典の選択や分量など、個々に任される。相当量は家庭での学習となると思われるので、綿密な計画を立てて、授業に臨んでもらいたい。

**教科書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 (鑑賞ノート、授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい)

科目名 かな古典研究 I <a>

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 20

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

#### テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

#### 授業の目的（獲得目標）

多様なかな書美の理解と書法の修得。

#### 内 容

第1回 万葉仮名の作品について①

第2回 万葉仮名の作品について②

第3回 万葉仮名の作品について③

第4回 万葉仮名の作品について④

第5回 草仮名の作品について

第6回 草仮名の典型「秋萩帖」

第7回 草仮名の作品について

第8回 女手の完成期の作品「高野切」①

第9回 女手の完成期の作品「高野切」②

第10回 高野切系統の作品について①

第11回 高野切系統の作品について②

第12回 高野切系統の作品について③

第13回 平安三色紙の作品「継色紙」

第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」

第15回 平安三色紙の作品「升色紙」

#### 授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。）

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | かな古典研究 I <b> |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 20  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 橋本 二三        |      |     |

### テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

### 授業の目的（獲得目標）

多様なかな書美の理解と書法の修得。

### 内 容

- 第1回 万葉仮名の作品について①
- 第2回 万葉仮名の作品について②
- 第3回 万葉仮名の作品について③
- 第4回 万葉仮名の作品について④
- 第5回 草仮名の作品について
- 第6回 草仮名の典型「秋萩帖」
- 第7回 草仮名の作品について
- 第8回 女手の完成期の作品「高野切」①
- 第9回 女手の完成期の作品「高野切」②
- 第10回 高野切系統の作品について①
- 第11回 高野切系統の作品について②
- 第12回 高野切系統の作品について③
- 第13回 平安三色紙の作品「継色紙」
- 第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
- 第15回 平安三色紙の作品「升色紙」

### 授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。）



|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | かな古典研究Ⅱ <a> |      |     |
| クラス         | a           | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 20  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 橋本 二三       |      |     |

**テーマ**

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

**授業の目的（獲得目標）**

多様なかな書美の理解と書法の修得。

**内 容**

- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」
- 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
- 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
- 第4回 院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
- 第5回 世尊寺家の書流について①
- 第6回 世尊寺家の書流について②
- 第7回 世尊寺家の書流について③
- 第8回 世尊寺家の書流について④
- 第9回 平安時代末期の作品「針切」
- 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
- 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
- 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
- 第15回 江戸時代の書について(良寛)

**授業以外での学習方法**

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。）

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | かな古典研究Ⅱ <b> |      |     |
| クラス         | b           | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 20  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 橋本 二三       |      |     |

**テーマ**

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

**授業の目的（獲得目標）**

多様なかな書美の理解と書法の修得。

**内 容**

- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」
- 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
- 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
- 第4回 院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
- 第5回 世尊寺家の書流について①
- 第6回 世尊寺家の書流について②
- 第7回 世尊寺家の書流について③
- 第8回 世尊寺家の書流について④
- 第9回 平安時代末期の作品「針切」
- 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
- 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
- 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
- 第15回 江戸時代の書について(良寛)

**授業以外での学習方法**

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。）

科目名 日本文学史 I

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 日本語日本文学講読 a (日本語文法研究 I)

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 安達 太郎

---

テーマ

日本語文法入門

---

### 授業の目的 (獲得目標)

言語使用の裏側には文法という名の規則性が隠れているが、私たちはふだんその存在を意識することはない。この講義では、私たちの日常にあふれている日本語から文法を見つけ出す作業を通じて、みずからのことばを意識のもとに引っ張り出し、相対化する視点を修得する。I では、名詞、形容詞、副詞に関わる規則性の発見に取り組む。

---

### 内 容

- 第1回 ことばの仕組み
  - 第2回 あいさつの文法
  - 第3回 動詞・名詞・形容詞の境界
  - 第4回 文法としての活用
  - 第5回 名詞の性質 (1) コトとモノ
  - 第6回 名詞の性質 (2) 場所
  - 第7回 名詞の性質 (3) 人
  - 第8回 名詞の性質 (4) 相対的關係
  - 第9回 名詞の性質 (5) 単数と複数
  - 第10回 名詞の修飾
  - 第11回 性質と時間
  - 第12回 比較とその広がり
  - 第13回 副詞による修飾
  - 第14回 副詞による修飾?
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

下記の参考書や『日本語学』(明治書院)、『月刊言語』(大修館書店)といった雑誌のバックナンバーを手にとつて、気になる論文を読んでください。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 日本語日本文学講読 b (日本語文法研究Ⅱ)

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 安達 太郎

---

テーマ

日本語文法入門

---

### 授業の目的 (獲得目標)

言語使用の裏側には文法という名の規則性が隠れているが、私たちはふだんその存在を意識することはない。この講義では、私たちの日常にあふれている日本語から文法を見つけ出す作業を通じて、みずからのことばを意識のもとに引っ張り出し、相対化する視点を修得する。Ⅱでは、動詞、複文、談話における規則性の発見に取り組む。

---

### 内 容

- 第1回 「文法する」こと
  - 第2回 動きの始まりと終わり
  - 第3回 時間の文法
  - 第4回 出来事の類型 (1) 動作と変化
  - 第5回 出来事の類型 (2) 存在
  - 第6回 出来事の類型 (3) 所有
  - 第7回 出来事の類型 (4) 移動
  - 第8回 出来事の類型 (5) 思考
  - 第9回 立場の文法
  - 第10回 原因と結果
  - 第11回 仮定
  - 第12回 連続する出来事の表現
  - 第13回 主張と質問
  - 第14回 つぶやきの文法
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

下記の参考書や『日本語学』(明治書院)、『月刊言語』(大修館書店)といった雑誌のバックナンバーを手にとつて、気になる論文を読んでください。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 日本語日本文学講読 c (社会言語学 I)

クラス 配当回生 2 回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

ことばの変化と社会の相関（日本の諸方言を中心に）

授業の目的（獲得目標）

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する。ここでは、これまでの研究の潮流を確認し、今後の展開や可能性について検討したい。

内 容

第 1 回 社会言語学とは

第 2 回 日本の社会言語学とその研究分野

第 3 回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に） 1（現象の分析）

第 4 回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に） 2（通時的側面）

第 5 回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に） 3（共時的側面）

第 6 回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に） 4（方言からみる変化の実態）

第 7 回 文法の変化（ら抜き言葉を中心に） 5（属性からみる変化の実態）

第 8 回 まとめと確認小テスト

第 9 回 音声音韻の変化（ガ行鼻濁音を中心に） 1（音声学概説）

第 10 回 音声音韻の変化（ガ行鼻濁音を中心に） 2（音声学概説）

第 11 回 音声音韻の変化（ガ行鼻濁音を中心に） 3（現象の分析）

第 12 回 音声音韻の変化（ガ行鼻濁音を中心に） 4（共時的側面・通時的側面）

第 13 回 音声音韻の変化（ガ行鼻濁音を中心に） 5（変化の実態）

第 14 回 まとめと確認小テスト

第 15 回 欧米の社会言語学について

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価



試験（なし）小テスト（30%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（50%）備考（総  
授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。）

科目名 日本語日本文学講読 d (社会言語学Ⅱ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

関西方言の社会言語学的研究 (日本語諸方言の概説と大阪弁及び京ことばを中心に)

授業の目的 (獲得目標)

日本各地の方言について概観したうえで、現在の「大阪弁」及び「京ことば」を社会言語学的視点から考察し、その実態や変化を理解する。

内 容

- 第1回 社会言語学と方言学
- 第2回 方言と言語の違いについて
- 第3回 共通語と標準語
- 第4回 方言の分布について1 (周圏分布)
- 第5回 方言の分布について2 (東西分布他)
- 第6回 方言の分布について3 (アクセントの分布について)
- 第7回 方言の分布について4 (アクセントの分布について)
- 第8回 まとめと確認小テスト
- 第9回 日本語諸方言の実態 (方言区画論)
- 第10回 関西方言とは
- 第11回 大阪弁と京ことば1
- 第12回 大阪弁と京ことば2
- 第13回 大阪弁と京ことば3
- 第14回 まとめと確認小テスト
- 第15回 京ことばと言語意識

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (なし) 小テスト (30%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (50%) 備考 (総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。)

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読 e (平安文学研究 I) <a>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 金光 桂子

テーマ

『源氏物語』夕顔巻を読む

授業の目的 (獲得目標)

光源氏と夕顔の悲恋を描いた物語を、原文のことばの美しさを味わいながら読み、平安時代の人々の生活やものの考え方を知る。授業は演習形式を取り入れて行う。

内 容

- 第1回 夕顔の垣根
- 第2回 乳母の見舞いと女からの歌
- 第3回 光源氏の返歌
- 第4回 女の周辺を探らせる
- 第5回 名のり合わぬ恋
- 第6回 八月十五夜の五条の家
- 第7回 某の院へ
- 第8回 顔を見せた源氏
- 第9回 物の怪出現
- 第10回 女の死
- 第11回 源氏、帰邸
- 第12回 東山の寺へ
- 第13回 源氏、病む
- 第14回 女の素姓
- 第15回 源氏の哀傷歌

授業以外での学習方法

授業中に読めなかった部分や、他の巻も読んでみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (50%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読 e (平安文学研究 I) <b>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 金光 桂子

テーマ

『源氏物語』夕顔巻を読む

授業の目的 (獲得目標)

光源氏と夕顔の悲恋を描いた物語を、原文のことばの美しさを味わいながら読み、平安時代の人々の生活やものの考え方を知る。授業は演習形式を取り入れて行う。

内 容

- 第1回 夕顔の垣根
- 第2回 乳母の見舞いと女からの歌
- 第3回 光源氏の返歌
- 第4回 女の周辺を探らせる
- 第5回 名のり合わぬ恋
- 第6回 八月十五夜の五条の家
- 第7回 某の院へ
- 第8回 顔を見せた源氏
- 第9回 物の怪出現
- 第10回 女の死
- 第11回 源氏、帰邸
- 第12回 東山の寺へ
- 第13回 源氏、病む
- 第14回 女の素姓
- 第15回 源氏の哀傷歌

授業以外での学習方法

授業中に読めなかった部分や、他の巻も読んでみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (50%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読 f (平安文学研究Ⅱ) <a>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 金光 桂子

テーマ

『源氏物語』末摘花巻を読む

授業の目的 (獲得目標)

光源氏の失敗談を描いた物語を、原文のことばの美しさを味わいながら読み、平安時代の人々の生活やものの考え方を知る。授業は演習形式を取り入れて行う。

内 容

- 第1回 夕顔の思い出
- 第2回 常陸宮の姫君の琴
- 第3回 頭中将と遭遇
- 第4回 恋文の競合
- 第5回 命婦を責め立てる
- 第6回 八月十五夜、常陸宮邸訪問
- 第7回 姫君との一夜
- 第8回 後朝の贈答
- 第9回 雪の夜の訪問
- 第10回 姫君の顔を見る
- 第11回 雪の朝・その後の二人
- 第12回 歳暮、姫君からの贈り物
- 第13回 「末摘花」の由来
- 第14回 年明け、姫君を訪れる
- 第15回 愛らしい紫の君

授業以外での学習方法

授業中に読めなかった部分や、他の巻も読んでみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (50%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読 f (平安文学研究Ⅱ) <b>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 金光 桂子

テーマ

『源氏物語』末摘花巻を読む

授業の目的 (獲得目標)

光源氏の失敗談を描いた物語を、原文のことばの美しさを味わいながら読み、平安時代の人々の生活やものの考え方を知る。授業は演習形式を取り入れて行う。

内 容

- 第1回 夕顔の思い出
- 第2回 常陸宮の姫君の琴
- 第3回 頭中将と遭遇
- 第4回 恋文の競合
- 第5回 命婦を責め立てる
- 第6回 八月十五夜、常陸宮邸訪問
- 第7回 姫君との一夜
- 第8回 後朝の贈答
- 第9回 雪の夜の訪問
- 第10回 姫君の顔を見る
- 第11回 雪の朝・その後の二人
- 第12回 歳暮、姫君からの贈り物
- 第13回 「末摘花」の由来
- 第14回 年明け、姫君を訪れる
- 第15回 愛らしい紫の君

授業以外での学習方法

授業中に読めなかった部分や、他の巻も読んでみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 日本語日本文学講読 g (古典文学研究 I)

クラス 配当回生 4 回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

近松門左衛門の代表作に触れる

授業の目的 (獲得目標)

江戸時代の文豪近松の名作から、名場面を味わう。制約の多い時代を生きた老若男女がどのように描かれているか、演劇の脚本としてどんなところが工夫されているのかを学ぶ。

内 容

第 1 回 授業の進め方、参考文献等について

第 2 回 『出世景清』を読む①

第 3 回 『出世景清』を読む②

第 4 回 『出世景清』を読む③

第 5 回 『曾根崎心中』を読む①

第 6 回 『曾根崎心中』を読む②

第 7 回 『用明天王職人鑑』を読む①

第 8 回 『用明天王職人鑑』を読む②

第 9 回 『用明天王職人鑑』を読む③

第 10 回 『けいせい反魂香』を読む①

第 11 回 『けいせい反魂香』を読む②

第 12 回 『けいせい反魂香』を読む③

第 13 回 『国性爺合戦』を読む①

第 14 回 『国性爺合戦』を読む②

第 15 回 これまでのまとめ

授業以外での学習方法

テキストに目を通しておくこと。また、関心のある作品については、ぜひ全文を読んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 日本語日本文学講読 h (古典文学研究Ⅱ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

『南総里見八犬伝』を読む

授業の目的 (獲得目標)

江戸時代の大ベストセラーであった馬琴読本の面白さを知る。

内 容

第1回 八犬伝の享受について

第2回 八房と伏姫

第3回 信乃と額蔵

第4回 芳流閣

第5回 犬士見八と小文吾

第6回 玉の由来

第7回 五犬士集結

第8回 一角と妖怪

第9回 莊介、小文吾

第10回 毛野の仇討ち

第11回 犬江親兵衛の活躍

第12回 八犬士集結

第13回 連合軍結成

第14回 国府台、洲崎の戦い

第15回 大団円

授業以外での学習方法

教科書は全巻が収載されているわけではないので、興味をもった所は現代語訳の本文を読んでください。ネットサイトも充実しています。(下記参照)

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 (講読担当が当たらない受講



生については、レポートの提出を求めます。)

科目名 日本語日本文学講読ⅰ（近代文学研究Ⅰ）

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 外村 彰

テーマ

近代小説を読む。

### 授業の目的（獲得目標）

明治から昭和戦後期にかけての、近代小説を読解します。近代小説（詩もとりあげます）の名作、わけても何事かに向け、情熱をかたむける登場人物を描いた短篇に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察をしてゆきたいと考えています。それぞれの文学者の作風、また各作品の叙述、構想、主題をとらえることを、到達目標とします。

### 内 容

- 第1回 概説 文学経験と人間
- 第2回 国木田独歩「画の悲み」
- 第3回 夏目漱石「幻影の盾」1
- 第4回 夏目漱石「幻影の盾」2
- 第5回 志賀直哉「清兵衛と瓢箪」
- 第6回 菊池寛「恩讐の彼方に」1
- 第7回 菊池寛「恩讐の彼方に」2
- 第8回 芥川龍之介「尾生の信」
- 第9回 阿部知二「化生」
- 第10回 宮沢賢治「毒もみのすきな署長さん」
- 第11回 岡本かの子「巴里祭」
- 第12回 室生犀星「宝篋印塔」
- 第13回 八木重吉「心よ」、井上靖「生涯」
- 第14回 中島敦「名人伝」
- 第15回 平塚武二「たまむしのずしの物語」
- 第16回 井伏鱒二「草野球の球審」

### 授業以外での学習方法

授業で扱う作品は通読すること。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（出席重視。欠席が三分の二を超えた者は単位不認定。定期試験として教室試験を実施（教科書のみ持ち込み可）。）

科目名 日本語日本文学講読Ⅱ(近代文学研究Ⅱ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 外村 彰

テーマ

近代小説を読む。

### 授業の目的(獲得目標)

明治から昭和戦後期にかけての、近代小説を読解します。近代小説(詩もとりあげます)の名作、わけても何事かに向け、情熱をかたむける登場人物を描いた短篇に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察をしてゆきたいと考えています。それぞれの文学者の作風、また各作品の叙述、構想、主題をとらえることを、到達目標とします。

### 内 容

- 第1回 概説 文学経験と人間
- 第2回 国木田独歩「画の悲み」
- 第3回 夏目漱石「幻影の盾」1
- 第4回 夏目漱石「幻影の盾」2
- 第5回 志賀直哉「清兵衛と瓢箪」
- 第6回 菊池寛「恩讐の彼方に」1
- 第7回 菊池寛「恩讐の彼方に」2
- 第8回 芥川龍之介「尾生の信」
- 第9回 阿部知二「化生」
- 第10回 宮沢賢治「毒もみのすきな署長さん」
- 第11回 岡本かの子「巴里祭」
- 第12回 室生犀星「宝篋印塔」
- 第13回 八木重吉「心よ」、井上靖「生涯」
- 第14回 中島敦「名人伝」
- 第15回 平塚武二「たまむしのずしの物語」
- 第16回 井伏鱒二「草野球の球審」

### 授業以外での学習方法

授業で扱う作品は通読すること。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（出席重視。欠席が三分の二を超えた者は単位不認定。定期試験として教室試験を実施（教科書のみ持ち込み可）。）

科目名 日本語日本文学講読 k (現代文学研究 I) <a>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

近現代の児童文学を読む

授業の目的 (獲得目標)

児童文学を通して現代につながるこども観について考える

内 容

第1回 オリエンテーション 近代のこども観について

第2回 「野薔薇」小川未明

第3回 「蜘蛛の糸」芥川龍之介

第4回 「一房の葡萄」有島武郎

第5回 「木の葉の小判」江口渙

第6回 「蝗の大旅行」佐藤春夫

第7回 「ある島のきつね」浜田広介

第8回 「水仙月の四日」宮沢賢治

第9回 「オツベルと象」宮沢賢治

第10回 「鷹の巣とり」千葉省三

第11回 「魔法」坪田譲治

第12回 「がきのめし」壺井栄

第13回 「牛をつないだ樁の木」新美南吉

第14回 「金魚のお使い」与謝野晶子

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

とりあげる作品は短編なので必ず読んでくることは当然として、できればその作家の他作品についても読んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (30%) 小テスト ( ) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 ( ) 備考 (「試験」はレポートによっ

て評価する。「授業中課題」は毎時提出してもらい感想文を指す。感想文を提出しない場合は欠席扱いとする。  
「授業中発表」は自分が希望する作品について発表してもらい、その内容を評価する。）

科目名 日本語日本文学講読 k (現代文学研究 I) <b>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

戦後の現代文学のなかから名作小説を読む。

授業の目的 (獲得目標)

戦後の文学を年代順に読み、社会・人間・文学、三者の相互関係を考察する。その作業を通じて、作品への鑑賞眼や現代文学への問題意識を養成することを目標とする。

内 容

- 第1回 石川達三「生きている兵隊」
- 第2回 梅崎春生「桜島」
- 第3回 大岡昇平「野火」①
- 第4回 大岡昇平「野火」②
- 第5回 安岡章太郎「ガラスの靴」
- 第6回 小島信夫「小銃」「アメリカン・スクール」
- 第7回 吉行淳之介「驟雨」
- 第8回 遠藤周作「白い人・黄色い人」
- 第9回 三島由紀夫「金閣寺」①
- 第10回 三島由紀夫「金閣寺」②
- 第11回 安部公房「砂の女」①
- 第12回 安部公房「砂の女」②
- 第13回 福永武彦「忘却の河」①
- 第14回 福永武彦「忘却の河」②
- 第15回 円地文子「妖」・河野多恵子「蟹」
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

授業で扱う作品を通読すること。同じ作家の他の作品も自主的積極的に読むこと。

教科書

参考書

成績評価



試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読Ⅰ（現代文学研究Ⅱ）〈a〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

小説の中に描かれた「先生」について考察する

授業の目的（獲得目標）

小説の中に描かれた「先生」について考察した論文を読み、扱われた作品に戻って自分はどのように読むかを考えることができる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 寺子屋の先生
- 第2回 小金井喜美子「千住の家」1
- 第3回 小金井喜美子「千住の家」2
- 第4回 石川啄木「雲は天才である」1
- 第5回 石川啄木「雲は天才である」2
- 第6回 夏目漱石「野分」1
- 第7回 夏目漱石「野分」2
- 第8回 島崎藤村「破戒」1
- 第9回 島崎藤村「破戒」2
- 第10回 森鷗外「羽鳥千尋」1
- 第11回 森鷗外「羽鳥千尋」2
- 第12回 宮沢賢治「茨海小学校」1
- 第13回 宮沢賢治「茨海小学校」2
- 第14回 芥川龍之介「毛利先生」1
- 第15回 芥川龍之介「毛利先生」2

授業以外での学習方法

教科書に収録された論文に目を通して授業に参加してください。また作品についてはプリントを用意しますので、次の週までに読んで来てください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (30%) 小テスト ( ) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 ( ) 備考 (「試験」はレポートによって評価する。「授業中課題」は毎時提出してもらった感想文を指す。感想文を提出しない場合は欠席扱いとする。「授業中発表」は自分が希望する作品について発表してもらい、その内容を評価する。)

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読Ⅰ（現代文学研究Ⅱ）〈b〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

昭和60年代以降の文学

授業の目的（獲得目標）

昭和60年代以降の小説作品を読み、現代文学の潮流について知識を深め、メディアミックス時代の小説の行方を考察する。

内 容

- 第1回 概説及びガイダンス
- 第2回 島田雅彦「僕は模造人間」・池澤夏樹「スティル・ライフ」
- 第3回 山田詠美「蝶々の纏足」
- 第4回 吉本ばなな「白河夜船」
- 第5回 村上春樹「TV ピープル」・「眠り」
- 第6回 大江健三郎「静かな生活」
- 第7回 江國香織「きらきらひかる」
- 第8回 辻仁成「パッサジオ」
- 第9回 小川洋子「薬指の標本」
- 第10回 川上弘美「蛇を踏む」
- 第11回 石田衣良「うつくしい子ども」
- 第12回 保坂和志「この人の域」・「残響」
- 第13回 吉田修一「パーク・ライフ」
- 第14回 金原ひとみ「蛇にピアス」
- 第15回 瀬尾まい子「幸福な食卓」
- 第16回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で扱う作品は必ず通読すること。同じ作家の別の作品も積極的に読むことが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（期末試験はレポート形式とする。）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読 m(メディア・表現研究 I)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 日本語日本文学講読 n(メディア・表現研究Ⅱ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 田口 道昭

テーマ

現代日本映画の鑑賞と考察

授業の目的（獲得目標）

最近の日本映画の中から、様々なジャンルやテーマのものを鑑賞しながら、映画を批評的に観ることを学ぶと同時に、現代日本の社会や文化について考える。なお、取り上げる作品・テーマは、学生の鑑賞状況や関心に応じて変更することがある。

内 容

- 第1回 現代日本映画の現状と問題点
- 第2回 映画紹介 戦後の女性史（1）
- 第3回 同上（2）
- 第4回 同上（3）
- 第5回 映画紹介 ジェンダーを考える（1）
- 第6回 同上（2）
- 第7回 同上（3）
- 第8回 映画紹介 死者との対話（1）
- 第9回 同上（2）
- 第10回 同上（3）
- 第11回 映画紹介 国境を越える（1）
- 第12回 同上（2）
- 第13回 同上（3）
- 第14回 映画紹介 現代の子どもたち（1）
- 第15回 同上（2）

授業以外での学習方法

授業で紹介する映画はできるだけ見ておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（70パーセント）小テスト（）授業中課題（20パーセント）授業中発表等（）参加度（10パーセント）備考（映画作品に関するその都度の小レポートと出席、試験の結果による。）



科目名 日本語日本文学特講 e (日記文学研究)

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 日本語日本文学講読 p (文芸創作実習)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

文学作品のパロディー創作

授業の目的 (獲得目標)

文学作品のパロディーと、典拠を比較鑑賞する。そのうえで、各自でパロディーを創作する。それらの作業を通して、作品創作への理解と興味を培うことを目標とする。

内 容

- 第1回 昔話のパロディー 太宰治「お伽草紙」
- 第2回 文学作品のパロディー 中島京子「FUTON」
- 第3回 中島敦「山月記」
- 第4回 実習
- 第5回 芥川龍之介「藪の中」
- 第6回 実習
- 第7回 太宰治「走れメロス」
- 第8回 実習
- 第9回 坂口安吾「桜の森の満開の下」
- 第10回 実習
- 第11回 森鷗外「百物語」
- 第12回 実習
- 第13回 その他のパロディー紹介 1
- 第14回 その他のパロディー紹介 2
- 第15回 実習
- 第16回 実習

授業以外での学習方法

典拠となっている作品を通読しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（実習作品の提出をもって、試験とする。）

科目名 書論・鑑賞 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 下野 健児

テーマ

『書譜』（唐、孫過庭）を読む（一）

### 授業の目的（獲得目標）

『書譜』真跡本をテキストにし、書法史と関連づけながら本文の内容を理解するとともに、簡単な草書体を習得することも目的とする。『書譜』真跡本は、草書学習における必須の古典とされているが、中国書論史上においても重要な古典である。講義では本文をいくつかの章に分け、読解をすすめる。また、草書で書かれた本文を楷書に置き換える作業を行なうことによって、簡単な草書体の習得をめざす（小テストあり）。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

### 内 容

第1回 ガイダンス—『書譜』について（解題、参考書など）

第2回 本文読解 1

第3回 本文読解 2

第4回 本文読解 3

第5回 本文読解 4

第6回 本文読解 5

第7回 本文読解 6

第8回 本文読解 7

第9回 本文読解 8

第10回 本文読解 9

第11回 本文読解 10

第12回 本文読解 11

第13回 本文読解 12

第14回 本文読解 13

第15回 前期のまとめ。レポート提出。

### 授業以外での学習方法

中国書道史上の名品を図版などで鑑賞しておくこと。できれば、博物館・美術館などにでかけて、作品（真跡）鑑賞する機会を多く作ることが望ましい。

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業中課題（前期末レポート））

---

科目名 書論・鑑賞Ⅱ

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 下野 健児

---

テーマ

『書譜』（唐、孫過庭）を読む（二）

---

### 授業の目的（獲得目標）

『書譜』真跡本をテキストにし、書法史と関連づけながら本文の内容を理解するとともに、簡単な草書体を習得することも目的とする。『書譜』真跡本は、草書学習における必須の古典とされているが、中国書論史上においても重要な古典である。講義では本文をいくつかの章に分け、読解をすすめる。また、草書で書かれた本文を楷書に置き換える作業を行なうことによって、簡単な草書体の習得をめざす（小テストあり）。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス—『書譜』について（解題、参考書など）

第2回 本文読解 1

第3回 本文読解 2

第4回 本文読解 3

第5回 本文読解 4

第6回 本文読解 5

第7回 本文読解 6

第8回 本文読解 7

第9回 本文読解 8

第10回 本文読解 9

第11回 本文読解 10

第12回 本文読解 11

第13回 本文読解 12

第14回 本文読解 13

第15回 後期のまとめ。レポート提出。

---

### 授業以外での学習方法

中国書道史上の名品を図版などで鑑賞しておくこと。できれば、博物館・美術館などにでかけて、作品（真跡）鑑賞する機会を多く作ることが望ましい。

---

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業中課題（学期末レポート））

科目名 中国書道史

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 新谷 泰一

テーマ

中国書道史の研究

授業の目的（獲得目標）

中国における書の歴史的推移を理解し、書の多様性と日本の書との関わりについて理解する。

内 容

第1回 文字の創造。漢字の創造。

第2回 殷・周時代の書。

第3回 文字の統一。篆書の完成。

第4回 隷書の発生。各書体の萌芽。

第5回 漢時代の書。

第6回 //

第7回 三国時代の書。

第8回 王羲之の出現と書道史的意義。

第9回 南北朝時代の書。

第10回 随時代の書。初唐の書。

第11回 中唐・晩唐の書。

第12回 宋時代の書。

第13回 元・明・清時代の書。

第14回 //

第15回 中国近現代の書。まとめ。

授業以外での学習方法

前もって参考書をよく読んでおくこと。古典の法帖などをじっくり鑑賞しておくこと。配布した資料を再読し、確実に覚えること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 ( )



科目名 日本書道史

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 新谷 泰一

テーマ

日本書道史の研究

授業の目的（獲得目標）

日本書道の歴史的推移についての理解。

内 容

- 第1回 漢字の伝来とその受容。  
第2回 飛鳥時代・奈良時代の書。  
第3回            "  
第4回 万葉仮名の発現。  
第5回 平安時代の書。  
第6回 仮名の創成および完成。  
第7回 三筆の書。  
第8回 三跡の書。  
第9回 多様な仮名書美の推移。能筆家と作品。  
第10回           "  
第11回           "  
第12回 鎌倉時代から江戸時代に至る私用書流の形成と展開。  
第13回           "  
第14回           "  
第15回 まとめ。

授業以外での学習方法

前もって参考書をよく読んでおくこと。古典の影印本をじっくり鑑賞しておくこと。配布した資料を再読し、しっかり覚えること。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（）授業中課題（60）授業中発表等（20）参加度（20）備考（）

科目名 日本語日本文学特講 k (舞台芸術研究)

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <a>

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。

クラス指定 希望制

担当者 林 久美子

**テーマ**

古典文学研究（中・近世）

**授業の目的（獲得目標）**

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

**内 容**

第1回 授業の進め方について

第2回 卒論で取り上げたい作品について発表する

第3回 同上

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 文献を収集し、論文を読む

第8回 同上

第9回 同上

第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 前期の総括と夏休みの課題について

**授業以外での学習方法**

作品を熟読する。図書館に足しげく通う。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（60）参加度（40）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 日本語日本文学演習 I <b>            |      |     |
| クラス   | b                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 甲斐 睦朗                      |      |     |

## テーマ

源氏物語の登場人物に関するすぐれた論文を批判的に読む（1）

## 授業の目的（獲得目標）

獲得目標 平安時代の女流仮名物語の頂点にたつ源氏物語には数多くの人物が描きだされている。その中から、主要な人物を取り上げて、その人物がどのような観点から取り上げられているかについて検討を加える。人柄、容姿・容貌、服装、行動、筆遣いなど様々な観点から描出されているが、これまで発表されている論文は、そのどういう側面で切り取っているか、学ぶべき面はどういうことかなど。確保する。 授業計画 前期は、人物論を中心に構成する。数多くの登場する源氏物語の主要な人物から、各自特定の人物に焦点を当てて、その人物がど

## 内 容

- 第1回 この授業の方針の説明：参考書の提示、前期のシラバス等の説明
- 第2回 桐壺更衣論を読む—教師担当
- 第3回 桐壺帝論を読む—教師担当
- 第4回 夕顔論を読む
- 第5回 紫の上論を読む（1）—少女期
- 第6回 光源氏論を読む（1）青年期
- 第7回 葵の上論を読む
- 第8回 六条御息所論を読む
- 第9回 藤壺宮論を読む
- 第10回 朧月夜論を読む
- 第11回 紫の上論を読む（2）
- 第12回 女三の宮論を読む
- 第13回 宇治の中君論を読む
- 第14回 薫中将論を読む
- 第15回 浮舟論を読む

## 授業以外での学習方法

源氏物語の人物論は毎年数多くが発表されている。そこで、図書館で、それらについて調査することが期待される。

## 教科書

**成績評価**

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (演習の発表 (40%)、授業中の発言 (40%)、最終レポート (20%))

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <c>

クラス c 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。

クラス指定 希望制

担当者 野村 幸一郎

### テーマ

日本近現代文学の研究

### 授業の目的（獲得目標）

日本近現代文学の研究方法を習得する

### 内 容

- 第1回 授業計画全体の説明
- 第2回 論文の書き方（1）
- 第3回 論文の書き方（2）
- 第4回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』発表
- 第5回 太宰治『人間失格』発表
- 第6回 坂口安吾『桜の森の満開の下』発表
- 第7回 三島由紀夫『潮騒』発表
- 第8回 遠藤周作『沈黙』発表
- 第9回 村上春樹『ノルウェイの森』発表
- 第10回 村上龍『限りなく透明に近いブルー』発表
- 第11回 山田詠美『風葬の教室』発表
- 第12回 吉本ばなな『キッチン』発表
- 第13回 角野栄子『魔女の宅急便』発表
- 第14回 梨木香歩『西の魔女が死んだ』発表
- 第15回 卒業論文のテーマ発表

### 授業以外での学習方法

発表の準備

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（60）参加度（40）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 日本語日本文学演習 I <d>            |      |     |
| クラス   | d                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 辻本 千鶴                      |      |     |

## テーマ

近現代文学研究（演習）

## 授業の目的（獲得目標）

作品を読む力・論文を書く力を養成することを目標とする。同時に卒論の対象とする作家・作品・テーマを絞り込んでいけるよう、準備を進める。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 作品分析の事例 芥川龍之介「舞踏会」1
- 第3回 作品分析の事例 芥川龍之介「舞踏会」2
- 第4回 個人発表 樋口一葉「大つごもり」
- 第5回 個人発表 夏目漱石「坊っちゃん」
- 第6回 個人発表 森鷗外「雁」1
- 第7回 個人発表 森鷗外「雁」2
- 第8回 個人発表 芥川龍之介「戯作三昧」1
- 第9回 個人発表 芥川龍之介「戯作三昧」2
- 第10回 個人発表 志賀直哉「小僧の神様」
- 第11回 個人発表 谷崎潤一郎「春琴抄」1
- 第12回 個人発表 谷崎潤一郎「春琴抄」2
- 第13回 個人発表 川端康成「伊豆の踊子」
- 第14回 個人発表 川端康成「禽獣」
- 第15回 個人発表 太宰治「富嶽百景」
- 第16回 個人発表 太宰治「斜陽」

## 授業以外での学習方法

自分の担当日でなくとも、発表作品を事前に通読してから授業に出席すること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（40%）参加度（20%）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <e>

クラス e 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。

クラス指定 希望制

担当者 安達 太郎

### テーマ

卒業論文に向けてのテーマの探求

### 授業の目的（獲得目標）

日本語学は広い領域をもっているので卒業論文のテーマを見つけるのは難しい。受講生各自の「引っかかり」を「テーマ」として確定していくことを目指す。

### 内 容

第1回 卒論に向けての第一歩

第2回 論文に挑戦（1）

第3回 論文に挑戦（2）

第4回 受講生による一次報告（1）

第5回 受講生による一次報告（2）

第6回 受講生による一次報告（3）

第7回 論文に挑戦（3）

第8回 受講生による2次報告（1）

第9回 受講生による2次報告（2）

第10回 受講生による2次報告（3）

第11回 受講生による2次報告（4）

第12回 受講生による2次報告（5）

第13回 論文に挑戦（4）

第14回 論文に挑戦（5）

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ〈a〉

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。

クラス指定 希望制

担当者 林 久美子

### テーマ

古典文学研究（中・近世）

### 授業の目的（獲得目標）

卒業論文作成

### 内 容

第1回 夏休み中の作業について報告する

第2回 文献、資料検索、論文収集を進めつつ、読解を深める

第3回 同上

第4回 同上

第5回 中間発表会に参加する（時期は未確定）

第6回 テーマの絞り方、その他について討論・講評し、最終テーマを決定する

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 一年間の取り組みへの総括と今後の進め方について確認する

### 授業以外での学習方法

作品の読みを深め、資料を収集する。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（60）参加度（40）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 日本語日本文学演習Ⅱ <b>             |      |     |
| クラス   | b                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 甲斐 睦朗                      |      |     |

## テーマ

源氏物語の登場人物に関するすぐれた論文を批判的に読む（2）

## 授業の目的（獲得目標）

獲得目標 平安時代の女流仮名物語の頂点にたつ源氏物語には数多くの人物が描きだされている。その中から、主要な人物を取り上げて、その人物がどのような観点から取り上げられているかについて検討を加える。人柄、容姿・容貌、服装、行動、筆遣いなど様々な観点から描出されているが、これまで発表されている論文は、そのどういう側面で切り取っているか、学ぶべき面はということかなど。確保する。 授業計画 前期は、人物論を中心に構成する。数多くの登場する源氏物語の主要な人物から、各自特定の人物に焦点を当てて、その人物がど

## 内 容

- 第1回 この授業の方針の説明：参考書の提示、前期のシラバス等の説明
- 第2回 紫の上論を読む（3）
- 第3回 六条御息所論を読む（2）
- 第4回 玉鬘論を読む
- 第5回 光源氏論を読む（2）
- 第6回 明石の君論を読む
- 第7回 雲居の雁論を読む
- 第8回 柏木論を読む
- 第9回 藤壺宮論を読む（2）
- 第10回 朧月夜論を読む（2）—若菜上巻
- 第11回 匂宮論を読む
- 第12回 女三の宮論を読む（2）
- 第13回 宇治の大君論を読む
- 第14回 薫中将論を読む
- 第15回 浮舟論を読む（2）

## 授業以外での学習方法

源氏物語の人物論は毎年数多くが発表されている。そこで、図書館で、それらについて調査することが期待される。

## 教科書

**成績評価**

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (演習の発表 (40%)、授業中の発言 (40%)、最終レポート (20%))

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <c>

クラス c 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。

クラス指定 希望制

担当者 野村 幸一郎

### テーマ

卒業論文の作成

### 授業の目的（獲得目標）

前期で修得した論文執筆の方法をもとに、卒業論文の制作に着手する。前期では対象作品に登場する主人公の人物像を明らかにすることを目標とする

### 内 容

- 第1回 授業計画全体の説明
- 第2回 受講生による発表
- 第3回 受講生による発表
- 第4回 受講生による発表
- 第5回 卒業論文中間発表会（日程変更の可能性あり）
- 第6回 受講生による発表
- 第7回 受講生による発表
- 第8回 受講生による発表
- 第9回 上回生による模擬発表（日程変更の可能性あり）
- 第10回 受講生による発表
- 第11回 受講生による発表
- 第12回 外部講師による講義（日程変更の可能性あり）
- 第13回 受講生による発表
- 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

発表の準備

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（60）参加度（40）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 日本語日本文学演習Ⅱ <d>             |      |     |
| クラス   | d                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 辻本 千鶴                      |      |     |

## テーマ

近現代文学研究（演習）

## 授業の目的（獲得目標）

作品を読む力・論文を書く力を養成することを目標とする。同時に卒論の対象とする作家・作品・テーマを絞り込んでいけるよう、準備を進める。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス・参考文献の紹介
- 第2回 前半発表 選んだ作家・作品の紹介1
- 第3回 前半発表 選んだ作家・作品の紹介2
- 第4回 前半発表 選んだ作家・作品の紹介3
- 第5回 前半発表 選んだ作家・作品の紹介4
- 第6回 前半発表 選んだ作家・作品の紹介5
- 第7回 前半発表 選んだ作家・作品の紹介6
- 第8回 前半まとめ
- 第9回 後半発表 テーマ・着目点を設けての発表1
- 第10回 後半発表 テーマ・着目点を設けての発表2
- 第11回 後半発表 テーマ・着目点を設けての発表3
- 第12回 後半発表 テーマ・着目点を設けての発表4
- 第13回 後半発表 テーマ・着目点を設けての発表5
- 第14回 後半発表 テーマ・着目点を設けての発表6
- 第15回 後半まとめ
- 第16回 四回生ゼミにむけて

## 授業以外での学習方法

自分の担当日でなくとも、発表作品を事前に通読してから授業に出席すること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（40%）参加度（20%）備考（期末試験はレポート形式とする。）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <e>

クラス e 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。

クラス指定 希望制

担当者 安達 太郎

### テーマ

卒業論文に向けての方法論の模索

### 授業の目的（獲得目標）

テーマが具体的にイメージできるようになったら、そのテーマにふさわしい方法論を模索する段階に入る。それぞれの関心を研究していくための方法論の確定を目指す。

### 内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 受講生による3次報告（1）
- 第3回 受講生による3次報告（2）
- 第4回 受講生による3次報告（3）
- 第5回 受講生による3次報告（4）
- 第6回 受講生による3次報告（5）
- 第7回 受講生による4次報告（1）
- 第8回 受講生による4次報告（2）
- 第9回 受講生による4次報告（3）
- 第10回 受講生による4次報告（4）
- 第11回 受講生による4次報告（5）
- 第12回 発表の方法
- 第13回 受講生による5次報告（1）
- 第14回 受講生による5次報告（2）
- 第15回 受講生による5次報告（3）

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）



科目名 書法Ⅴ〈a〉

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 20

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 新谷 泰一

**テーマ**

行・草書の書法の研究

**授業の目的（獲得目標）**

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。

**内 容**

第1回 行草書の表現

第2回 王羲之とその書法

第3回 集字聖教序の書法

第4回 集字聖教序の臨書（半紙）

第5回 "（半紙）

第6回 "（半切）

第7回 "（半切）

第8回 臨書作品の相互批評・まとめ

第9回 米?の書法

第10回 蜀素帖の書法

第11回 蜀素帖の臨書（半紙）

第12回 "（半切）

第13回 ?溪詩卷他の臨書（半紙）

第14回 "（半切）

第15回 米?臨書作品の互評 まとめ

**授業以外での学習方法**

家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりとすること。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

|             |        |      |     |
|-------------|--------|------|-----|
| 科目名         | 書法Ⅴ〈b〉 |      |     |
| クラス         | b      | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 前期     | 定員   | 20  |
| <b>履修条件</b> |        |      |     |
| クラス指定       | 大学指定   |      |     |
| 担当者         | 佐々木 広成 |      |     |

**テーマ**

基本的な行・草書法の習得により、書作の幅を広げる。

**授業の目的（獲得目標）**

自在で幅広い字形の表現力と筆を扱う技術の習得をめざす

**内 容**

- 第1回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第2回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第3回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第4回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第5回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第6回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第7回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第8回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第9回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第10回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第11回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第12回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第13回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第14回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第15回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用

**授業以外での学習方法**

滑らかで自由な運筆が出来るようになるには、十分な書き込みが必要である。教室のみでなく、家庭での豊富な練習が向上に繋がる。授業で学習する以外の古典への挑戦も望まれる。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（授業中最終試験（0%））小テスト（（0%））授業中課題（提出物・レポート（80%））授業中発表等（デ

スカッションへの参加 (0%) 参加度 (出席率 (20%)) 備考 ( )

科目名 書法Ⅵ〈a〉

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 20

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 新谷 泰一

**テーマ**

行草書の書法の研究

**授業の目的（獲得目標）**

自在で幅広い表現技術の修得

**内 容**

- 第1回 王羲之・十七帖の書法  
 第2回 十七帖の臨書（半紙）  
 第3回 "（半紙）  
 第4回 "（半切）  
 第5回 "（半切）互評会  
 第6回 十七帖の倣書（半切）  
 第7回 "（半切）互評会  
 第8回 中国歴代の行・草書古典の臨書（半紙）  
 第9回 "（半切）  
 第10回 "（半紙）  
 第11回 "（半切）  
 第12回 "（半切）  
 第13回 中国歴代の行草書古典の倣書（半切）  
 第14回 "（半切）  
 第15回 倣書作品の互評会・まとめ

**授業以外での学習方法**

家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0）小テスト（）授業中課題（70）授業中発表等（）参加度（30）備考（）

## 2010 Syllabus

|             |         |      |     |
|-------------|---------|------|-----|
| 科目名         | 書法Ⅵ <b> |      |     |
| クラス         | b       | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 後期      | 定員   | 20  |
| <b>履修条件</b> |         |      |     |
| クラス指定       | 大学指定    |      |     |
| 担当者         | 佐々木 広成  |      |     |

**テーマ**

行書。草書の書法を習得し、書作の幅を広げる。

**授業の目的（獲得目標）**

自在で幅広い字形の表現力と筆を扱う技術の習得を目指す。

**内 容**

- 第1回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第2回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第3回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第4回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第5回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第6回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第7回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第8回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第9回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第10回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第11回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第12回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第13回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第14回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
- 第15回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。

**授業以外での学習方法**

滑らかで自由な運筆をするため、家庭でも十分な練習を欠かさない。授業で扱う古典以外の古典の臨書にも挑戦することを望む。展覧会などの鑑賞も積極的にしたい。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（授業中最終試験（0%））小テスト（（0%））授業中課題（提出物・レポート（80%））授業中発表等（デ

スカッションへの参加 (0%) 参加度 (出席率 (20%)) 備考 ( )

|       |        |      |     |
|-------|--------|------|-----|
| 科目名   | 書法Ⅶ〈a〉 |      |     |
| クラス   | a      | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期     | 定員   | 20  |
| 履修条件  |        |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 橋本 二三  |      |     |

### テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

### 授業の目的（獲得目標）

多様なかな書法の修得。

### 内 容

- 第1回 関戸本古今和歌集について
- 第2回 関戸本古今和歌集の技法について
- 第3回 関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
- 第4回 関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
- 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
- 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
- 第7回 関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
- 第8回 関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
- 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
- 第10回 関戸本古今和歌集の倣書①
- 第11回 関戸本古今和歌集の倣書②
- 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③
- 第13回 創作への展開①
- 第14回 創作への展開②
- 第15回 創作への展開③

### 授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0％）小テスト（0％）授業中課題（80％）授業中発表等（0％）参加度（20％）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む。）

|             |         |      |     |
|-------------|---------|------|-----|
| 科目名         | 書法Ⅶ <b> |      |     |
| クラス         | b       | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 前期      | 定員   | 20  |
| <b>履修条件</b> |         |      |     |
| クラス指定       | 大学指定    |      |     |
| 担当者         | 横山 弘平   |      |     |

**テーマ**

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

**授業の目的（獲得目標）**

多様なかな書法の修得。 内 容 2回生時で修得した表現技法をさらに豊かにするため、院政期の仮名美の中でもっとも多様な線表現をくりひろげた「関戸本古今和歌集」をとり上げ、徹底して習熟する。また本科目では創作への展開力をよりつけるため、倣書学習と並行して行い、より高い表現能力を修得する。

**内 容**

- 第1回 関戸本古今和歌集について
- 第2回 関戸本古今和歌集の技法について
- 第3回 関戸本古今和歌集の臨書① (用字・造形・連綿手法等)
- 第4回 関戸本古今和歌集の臨書② (用字・造形・連綿手法等)
- 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③ (用字・造形・連綿手法等)
- 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④ (用字・造形・連綿手法等)
- 第7回 関戸本古今和歌集の臨書① (さまざまな線運動と墨法)
- 第8回 関戸本古今和歌集の臨書② (さまざまな線運動と墨法)
- 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③ (さまざまな線運動と墨法)
- 第10回 関戸本古今和歌集の倣書①
- 第11回 関戸本古今和歌集の倣書②
- 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③
- 第13回 創作への展開①
- 第14回 創作への展開②
- 第15回 創作への展開③

**授業以外での学習方法**

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

**教科書****参考書****成績評価**



試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 書法Ⅷ <a>

クラス a

配当回生 3回生

講義期間 後期

定員 20

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

#### テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

#### 授業の目的（獲得目標）

多様なかな書法の修得。

#### 内 容

第1回 継色紙について

第2回 継色紙の技法について

第3回 継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)

第4回 継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)

第5回 継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)

第6回 継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)

第7回 継色紙の臨書①(線表現と墨法)

第8回 継色紙の臨書②(線表現と墨法)

第9回 継色紙の臨書③(線表現と墨法)

第10回 継色紙の倣書①

第11回 継色紙の倣書②

第12回 継色紙の倣書③

第13回 創作に向けて(散らし書きについて)

第14回 創作に向けて(帖・卷子について)

第15回 創作への展開

#### 授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題には提出物とレポートを含む。）

科目名 書法Ⅷ <b>

クラス b

配当回生 3回生

講義期間 後期

定員 20

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 横山 弘平

#### テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

#### 授業の目的（獲得目標）

多様なかな書法の修得。 内 容 2回生時で修得した表現技法をさらに豊かにするため、古朴で力強い線表現と緻密で変化に富んだ散らし書きの妙味を見せる「継色紙」をとり上げ、徹底して習熟する。また創作への展開力をよりつけるため、倣書学習を並行して行い、より高い表現能力を修得する。

#### 内 容

第1回 継色紙について

第2回 継色紙の技法について

第3回 継色紙の臨書①（用字・造形・構成法）

第4回 継色紙の臨書②（用字・造形・構成法）

第5回 継色紙の臨書③（用字・造形・構成法）

第6回 継色紙の臨書④（用字・造形・構成法）

第7回 継色紙の臨書①（線表現と墨法）

第8回 継色紙の臨書②（線表現と墨法）

第9回 継色紙の臨書③（線表現と墨法）

第10回 継色紙の倣書①

第11回 継色紙の倣書②

第12回 継色紙の倣書③

第13回 創作に向けて（散らし書きについて）

第14回 創作に向けて（帖・卷子について）

第15回 創作への展開

#### 授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 (授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい)

科目名 日本語日本文学特講 a (日本語史 I)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

授業の目的 (獲得目標)

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半 (鎌倉時代・南北朝時代) の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

内 容

第1回 日本語史について (ガイダンス・概観・時代区分とこの講義で扱う時代について)

第2回 上代 (概観・文字・表記)

第3回 上代 (音韻1)

第4回 上代 (音韻2)

第5回 上代 (語法 (文法))

第6回 上代 (語彙)

第7回 上代 (文体・文章)

第8回 上代・まとめと小テスト

第9回 中古 (概観・文字・表記)

第10回 中古 (音韻)

第11回 中古 (語法 (文法))

第12回 中古 (語彙)

第13回 中古 (文体・文章)

第14回 中古・まとめと小テスト

第15回 中世 (南北朝時代まで) の概観

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (なし) 小テスト (30%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (50%) 備考 ( 総

授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。)

科目名 日本語日本文学特講 a (日本語史 I)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 日本語日本文学特講 b (日本語史Ⅱ)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

授業の目的 (獲得目標)

現在我々が話す日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、近代語に区分される、中世後半・近世・近代の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

内 容

第1回 日本語史について (ガイダンス・概観・時代区分とこの講義で扱う時代について)

第2回 中世 (古代語から近代語へ・緩衝としての南北朝時代の概観)

第3回 中世 (特に、南北朝時代以降) (音韻)

第4回 中世 (特に、南北朝時代以降) (文法)

第5回 中世 (特に、南北朝時代以降) (語彙)

第6回 中世 (特に、南北朝時代以降) (文体・文章)

第7回 中世・まとめと小テスト

第8回 近世 (概観)

第9回 近世 (文字・表記・文体)

第10回 近世 (音韻)

第11回 近世 (文法)

第12回 近世 (語彙)

第13回 近世・まとめと小テスト

第14回 近代以降概観 1

第15回 近代以降概観 2

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (なし) 小テスト (30%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (50%) 備考 ( 総



授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。)

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講 b(日本語史Ⅱ)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                         |      |  |
|-------|-------------------------|------|--|
| 科目名   | 日本語日本文学特講 c (現代日本語研究 I) |      |  |
| クラス   | 配当回生                    | 3 回生 |  |
| 講義期間  | 前期                      | 定員   |  |
| 履修条件  |                         |      |  |
| クラス指定 |                         |      |  |
| 担当者   | 伊藤 典文                   |      |  |

## テーマ

編集入門・・・DTPの実践 ワードプロソフト「Word」によるDTPへの第一歩

## 授業の目的（獲得目標）

印象的で読みやすい編集・デザイン案を企画できる技術と感覚を養成する。ビジネスDTP「DTP検定Ⅲ種」の合格を目指す。 授業計画 編集は出版界をはじめ多くのマスメディアで必要とされる技術です。編集のプロを目指す人はもちろんですが、ビジネスの世界でも企画書・プレゼンテーション・社内報・PR誌・その他多くの社内文書と編集はさまざまな分野で必要とされています。 本講義は「ワード」による編集入門です。Windowsの世界で最もよく使用されるワードプロソフト「Word」は、単に文章入力だけのソフトではありません。

## 内 容

- 第1回 編集DTPとはなにか
- 第2回 レイアウトの準備
- 第3回 文字入力と誌面構成
- 第4回 画像の読み込み
- 第5回 用紙と色
- 第6回 デザインのコツ
- 第7回 出力形態と画像データ
- 第8回 色使い・フォントの知識
- 第9回 案内状やチラシの作成・編集の実践
- 第10回 検定問題・練習
- 第11回 検定問題・練習
- 第12回 検定試験のID入手法・申し込み方法
- 第13回 これまでの復習
- 第14回 検定を目指す、問題点・課題
- 第15回 作品制作と提出

## 授業以外での学習方法

「編集」に関する本を読むこと。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (70) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本語日本文学特講 d (現代日本語研究Ⅱ)

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 伊藤 典文

---

テーマ

プレゼンテーションの仕方 自己発言力と説得力の習得

---

**授業の目的 (獲得目標)**

プレゼンテーションとは、情報伝達の一環で、聴衆に対して作品、計画提案、研究成果、開発商品などの情報を、口頭や機器を用いて説明し、説得、売り込みをはかる行為です。簡単に言えば、自分が発見した事実や自分の意見を、他の人々にいかに伝えるか、という技術です。社会人としてますます必要とされる技術です。本講義では、時事問題を取り上げます。社会、政治、経済、金融、教育、学芸、芸能、医療、環境と、さまざまな分野で起きつつある事件や動向の中から、自分の関心と興味のあるテーマを選んで、それをひとつの成果として発表して

---

**内 容**

- 第1回 プレゼンテーションとは何か
  - 第2回 時事・社会問題からテーマを選ぶ
  - 第3回 テーマ1 質疑と討議
  - 第4回 テーマ2 質疑と討議
  - 第5回 情報収集と分析
  - 第6回 プレゼンソフト「パワーポイント」入門
  - 第7回 パワーポイント実践1
  - 第8回 パワーポイント実践2
  - 第9回 パワーポイント実践3
  - 第10回 グループによるプレゼンテーション
  - 第11回 グループ発表
  - 第12回 グループ発表
  - 第13回 グループ発表
  - 第14回 グループ発表
  - 第15回 プレゼンテーションの総括
- 

**授業以外での学習方法**

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 日本語日本文学特講 e (京都と文学)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 睦朗

テーマ

源氏物語第2部の若菜上下巻の文章表現を歴史や風俗などに目配りしつつ読む

### 授業の目的（獲得目標）

平安時代の女流仮名物語の頂点にたつ源氏物語の文章表現を読む。当時の風俗や制度などの知識・理解を通じた読み方ができるようにする。毎時、用意した課題から一つを選んで小さなレポートを提出する。すぐれたレポートは、次時に紹介して、教室における読みの確かさと広がり確保する。授業計画 源氏物語は主人公光源氏の青年期を中心に描く第1部がよく読まれている。第2部は40歳を迎えて社会的な栄華の極まりを見せる光源氏が家族関係の苦渋を味わう物語が展開する。後期の特講 e は、若菜上・下巻を通して、貴族の男女関係、家庭の在り方

### 内 容

- 第1回 紫式部について：紫式部日記 紫式部集 山科とのかかわり、曾祖父藤原兼輔
- 第2回 源氏物語の桐壺巻：桐壺更衣と桐壺帝。藤壺宮と光源氏
- 第3回 源氏物語の第1部：全33巻。若紫巻の藤壺宮との密会の場面など
- 第4回 源氏物語の第3部：宇治の八の宮と大君、中君、浮舟。匂宮と薫中将の競い
- 第5回 源氏物語の第2部：外見の華やかさと内面の苦渋
- 第6回 女三の宮の処遇：結局降嫁の道を選び、年齢差のある光源氏に降嫁させる
- 第7回 紫の上の苦悩：同じ藤壺宮の姪であるが、女三の宮との身分の格差を思う
- 第8回 紫の上危篤：光源氏がつきっきりで看病する。女三の宮は六条院
- 第9回 柏木の登場：夕霧の従兄弟の柏木は、女三の宮との結婚を切望していた
- 第10回 六条院の蹴鞠の遊び：夕霧と柏木は御簾の奥の女三の宮を目撃
- 第11回 女三の宮の飼う猫：女三の宮を見るきっかけになった唐猫を抱き可愛がる柏木
- 第12回 柏木は何度も手紙をとどけるが、相手にしてもらえない
- 第13回 柏木計画して六条院の女三の宮の部屋に侵入
- 第14回 女三の宮懊悩：光源氏が女三の宮の病気を見舞う。女三の宮の歌の応対
- 第15回 光源氏、女三の宮の懐妊の相手が柏木であると知る
- 第16回 試験：全20問から10問を出題し、5問を解答する

### 授業以外での学習方法

源氏物語の第2部の講読としては、第1部の既読が期待される。現代語訳あるいは概要などで源氏物語についての知識を持つようにする。声に出して読む努力をする。図書館の5階の源氏物語の書棚に親しむ。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（30）小テスト（）授業中課題（50）授業中発表等（）参加度（）備考（最終レポート（20%）。なお、出席が10回を下回る場合は、単位を認めない。就職活動のための欠席は単なる欠席とする。）



科目名 日本語日本文学特講 f (女性文学研究)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 睦朗

テーマ

源氏物語第2部の若菜上下巻の文章表現を歴史や風俗などに目配りしつつ読む

### 授業の目的（獲得目標）

平安時代の女流仮名物語の頂点にたつ源氏物語の文章表現を読む。当時の風俗や制度などの知識・理解を通じた読み方ができるようにする。毎時、用意した課題から一つを選んで小さなレポートを提出する。すぐれたレポートは、次時に紹介して、教室における読みの確かさと広がり確保する。授業計画 源氏物語は主人公光源氏の青年期を中心に描く第1部がよく読まれている。第2部は40歳を迎えて社会的な栄華の極まりを見せる光源氏が家族関係の苦渋を味わう物語が展開する。前期の特講 f は、特に若菜上巻を通して、当時の夫婦、家庭の在り方、女

### 内 容

- 第1回 作者紫式部：紫式部日記、紫式部集、山科とのかかわり、曾祖父藤原兼輔
- 第2回 源氏物語桐壺巻：『読み解き源氏物語—桐壺巻の光と影』（明治書院）
- 第3回 源氏物語第1部：全33巻。葵の上、六条の御息所、紫の上など
- 第4回 源氏物語第3部：宇治の八の宮と大君、中君、浮舟。匂宮と薫中将の競い
- 第5回 若菜上巻冒頭：朱雀院の懊悩から始まる書き出しは異質
- 第6回 皇女の生き方：入内、降嫁、斎宮、出家、独身を通す生き方のいずれを選ぶか
- 第7回 女三の宮を降嫁させるとすれば、誰が最適者か。朱雀院の悩み
- 第8回 候補者夕霧：将来性、年齢などの面で適切な人物だが、愛妻雲居の雁が問題
- 第9回 光源氏の若菜の儀：四十歳を迎えて天下に名声が轟く光源氏
- 第10回 女三の宮は、藤壺宮の姪である紫の上とは従姉妹。紫のゆかりの二人の姫君
- 第11回 婿に迷った朱雀院は候補者を光源氏に絞る。断れない、断わりたくない心境
- 第12回 女三の宮の降嫁による光源氏の期待と失望。紫の上の絶望
- 第13回 光源氏の運命を定めた朧月夜の君との逢瀬。何人もの女流作家絶賛の場面
- 第14回 明石の姫君皇子出産。紫の上、女三の宮に対面。屈辱と優しさ
- 第15回 六条院の女あるじ紫の上、二条院に移り住む。二条院は桐壺更衣の実家
- 第16回 試験：全20問から10問を出題し、5問を解答する

### 授業以外での学習方法

源氏物語の第2部の講読としては、第1部の既読が期待される。現代語訳あるいは概要などで知識を持つようにする。声に出して読む努力をする。図書館の5階の源氏物語の書棚に親しむ。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（30）小テスト（）授業中課題（50）授業中発表等（）参加度（）備考（最終レポート（20%）。なお、出席が10回を下回る場合は、単位を認めない。就職活動のための欠席は単なる欠席とする。）

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講 g (歌舞伎・浄瑠璃研究 I)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

歌舞伎について学ぶ

授業の目的 (獲得目標)

京都を代表する文化のひとつとして近世から続いている歌舞伎とは、どのような演劇であるのか、その歴史と作品について知る。

内 容

- 第1回 歌舞伎と浄瑠璃
- 第2回 出雲の阿国と遊女歌舞伎
- 第3回 野郎歌舞伎の始まり
- 第4回 坂田藤十郎と近松門左衛門
- 第5回 義太夫狂言
- 第6回 並木宗輔の作品
- 第7回 市川団十郎と江戸歌舞伎
- 第8回 江戸歌舞伎と舞踊
- 第9回 鶴屋南北の怪談劇
- 第10回 悪婆もの
- 第11回 黙阿弥の白浪物
- 第12回 現代の歌舞伎
- 第13回 受講生による作品紹介①
- 第14回 受講生による作品紹介②
- 第15回 これまでのまとめ

授業以外での学習方法

機会があれば劇場に足を運び、無理な場合は、メディアセンターのビデオやテレビ放映、シネマ歌舞伎などで鑑賞してください。脚本の翻刻も多数ありますので、読んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 (授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。発表者はレポートを免除されることがあります。)

## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講 h (歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅱ)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文楽（人形浄瑠璃）入門

授業の目的（獲得目標）

歌舞伎と並ぶ上方発祥の古典芸能「文楽」（人形浄瑠璃）について知る

内 容

- 第1回 文楽とはどんな芸能か
- 第2回 浄瑠璃の起源
- 第3回 金平浄瑠璃
- 第4回 近松門左衛門とその作品①
- 第5回 近松門左衛門とその作品②
- 第6回 文楽鑑賞（時期は前後することがあります）
- 第7回 これまでのまとめ
- 第8回 三名作①「仮名手本忠臣蔵」
- 第9回 三名作②「義経千本桜」
- 第10回 三名作③「菅原伝授手習鑑」
- 第11回 その他の名作
- 第12回 近代文学と文楽
- 第13回 受講生による作品解説①
- 第14回 受講生による作品解説②
- 第15回 これまでのまとめ

授業以外での学習方法

文楽公演の鑑賞にできるだけ参加してください。また、興味を持った作品を読んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（70）授業中発表等（0）参加度（30）備考（課題レポートは、発表をもって場合があります。）

科目名 日本語日本文学特講ⅰ（近代文学研究Ⅲ）

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

近代（明治・大正期）の児童観、および児童文学について考察する

授業の目的（獲得目標）

日本近代における児童文学の特徴の一つは、非常に多くの作家が児童文学と関わりを持ったことである。夏目漱石、森鷗外といった文豪、童謡運動に取り組んだ北原白秋など枚挙に暇がない。授業では歌人として著名な与謝野晶子を中心に、当該の時期の諸作品を読み、児童雑誌を紹介しながら近代の児童観について理解することを目標とする。当然ながら、現代の児童観との相違・共通する点についても課題となるだろう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 江戸時代の児童観
- 第2回 明治の児童文学～おとぎばなしの時代 巖谷小波「こがね丸」
- 第3回 小波おとぎばなしと「少年世界」
- 第4回 明治期の少女雑誌「少女世界」「少女の友」
- 第5回 与謝野晶子のおいたちと児童文学との関わり
- 第6回 晶子の童話1「金魚のお使い」「女の大將」
- 第7回 晶子の童話2「ニコライと文ちゃん」「金ちゃん蛭」
- 第8回 明治から大正へ 唱歌と童謡を聞いてみよう
- 第9回 大正の児童文学～童話の時代 「赤い鳥」という雑誌1
- 第10回 「赤い鳥」という雑誌2
- 第11回 木下杢太郎「崑崙山」（雑誌「童話」より）
- 第12回 晶子の少女小説「環の一年間」1
- 第13回 晶子の少女小説「環の一年間」2
- 第14回 晶子の少女小説「八つの夜」
- 第15回 まとめ 近代の児童観はどのように継承されたか

授業以外での学習方法

授業で紹介する作品をなるべく読んでおくことが望ましい。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（期末に提出するレポート 40%）小テスト（）授業中課題（毎回の感想文 60%）授業中発表等（）参加度（）備考（毎回感想文の提出を求め、それを以て出席とします。したがって参加度 60%という意味でもありません。）

科目名 日本語日本文学特講Ⅱ(近代文学研究Ⅳ)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

近代における「職業の発見」について考察する

### 授業の目的（獲得目標）

テキスト『職業の発見』には、明治・大正期を中心に、「天職」を求めて「転職」した人たちの人間ドラマが再現されている。作家、ジャーナリスト、政治家、商人、教員などの職業に転職する契機やそれ以後の生き方を知ることが、授業の目的であると同時に、就職について考えているあなたたちにも示唆を与えてくれるだろう。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション 「ロックで独立する方法」 忌野清志郎  
 第2回 職業と自己本位1 小説家から社会啓蒙としての演劇へ 坪内逍遙  
 第3回 職業と自己本位2 詩は天職ではない 石川啄木  
 第4回 職業と自己本位2 詩は天職ではない 石川啄木  
 第5回 職業と自己本位3 小説家は職業にあらず 永井荷風  
 第6回 職業と自己本位4 ダダイストとして生きる 辻 潤  
 第7回 職業と自己本位5 道楽か職業か 夏目漱石  
 第8回 職業と自己本位5 道楽か職業か 夏目漱石  
 第9回 転職の思想1 言論人から政治家へ 石橋湛山  
 第10回 転職の思想2 官僚から民俗学者へ 柳田国男  
 第11回 転職の思想3 養蚕家からパン屋へ 相馬愛蔵  
 第12回 転職の思想4 養蚕家からパン屋へ 相馬愛蔵  
 第13回 生活は才能の鉱脈1 自由学園を創立 羽仁もと子  
 第14回 生活は才能の鉱脈2 印刷工から作家へ 松本清張  
 第15回 生活は才能の鉱脈3 転職の女王、作家になる 林芙美子

### 授業以外での学習方法

ふだんから職業をめぐる報道や作品に関心を持ってください。

教科書

参考書

成績評価



試験（レポート40%）小テスト（）授業中課題（感想文60%）授業中発表等（）参加度（）備考（毎回、感想文の提出を求め、それを以て出席とします。したがって参加度60%ということでもあります。）

---

科目名 日本語日本文学特講 k (現代文学研究Ⅲ)

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 伊藤 典文

---

テーマ

20世紀の日本文学・・・名作鑑賞を通じて

---

### 授業の目的（獲得目標）

21世紀の今日、文学は大きな変貌を余儀なくされています。今こそ、改めて明治・大正・昭和という時代を「読み直す」ことが求められています。近・現代文学の名作講読を通じて、文学的感動の新たな発見に努めます。それはとりもなおさず、真摯に「自分」と向き合う時間と空間の獲得を意味します。「青春」をおう歌するための・・・

授業計画 夏目漱石「坊っちゃん」、芥川龍之介「地獄変」、坂口安吾「桜の森の満開の下」の三作品を読んでいます。講義形式ですが、随時、質疑討議（ディスカッション）や感想文も書いてもらいます。作品の

---

### 内 容

- 第1回 文学とは何か（概要）
  - 第2回 夏目漱石「坊っちゃん」講読
  - 第3回 映画「坊っちゃん」鑑賞
  - 第4回 作品解読・分析
  - 第5回 作品解読・分析
  - 第6回 質疑と討議
  - 第7回 芥川龍之介「地獄変」講読
  - 第8回 映画「地獄変」鑑賞
  - 第9回 作品解読・分析
  - 第10回 作品解読・分析
  - 第11回 質疑と討議
  - 第12回 坂口安吾「桜の森の満開の下」講読
  - 第13回 映画「桜の森の満開の下」鑑賞
  - 第14回 作品解読・分析
  - 第15回 質疑と討議
- 

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (10) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 日本語日本文学特講Ⅰ(現代文学研究Ⅳ)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮沢賢治の文学と思想

授業の目的(獲得目標)

アニミズム・生命信仰を視座として宮沢賢治の世界観を理解する

内 容

第1回 宮沢賢治の生涯

第2回 『グスコブドリの伝記』とテクノボーの思想

第3回 『オツベルと象』読解(1)

第4回 『オツベルと象』読解(2)

第5回 『オツベルと象』読解(3)

第6回 本学客員教授角野栄子氏による講義

第7回 『なめとこ山の熊』読解(1)

第8回 『なめとこ山の熊』読解(2)

第9回 『なめとこ山の熊』読解(3)

第10回 本学客員教授角野栄子氏による講義

第11回 『銀河鉄道の夜』読解(1)

第12回 『銀河鉄道の夜』読解(2)

第13回 『銀河鉄道の夜』読解(3)

第14回 宮沢賢治の思想

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業内で取り上げる作品は事前に読んでくること

教科書

参考書

成績評価

試験(70) 小テスト(0) 授業中課題(30) 授業中発表等(0) 参加度(0) 備考( )

科目名 日本語日本文学特講m(メディア・表現研究Ⅲ)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮崎駿の思想

授業の目的（獲得目標）

『風の谷ナウシカ』『もののけ姫』を視座として、宮崎駿の思想・文明観を理解する

内 容

- 第1回 アナーキズムとの接点・『風の谷のナウシカ』読解（1）
- 第2回 共生の構造・『風の谷ナウシカ』読解（2）
- 第3回 自然に背反する人為・『風の谷ナウシカ』から『天空の城ラピュタ』へ
- 第4回 国民国家へのまなざし・『紅の豚』と『ハウルの動く城』
- 第5回 照葉樹林文化論との交錯・『もののけ姫』読解（1）
- 第6回 柳田国男との接点・『もののけ姫』から『となりのトトロ』へ
- 第7回 アニミズムの受容をめぐる・『もののけ姫』読解（2）
- 第8回 タタリ神とデダラボッチ・『もののけ姫』読解（3）
- 第9回 司馬遼太郎・網野善彦との接点・『もののけ姫』読解（4）
- 第10回 自立という問題系（1）『魔女の宅急便』
- 第11回 自立という問題系（2）『千と千尋の神隠し』
- 第12回 自立という問題系（3）『崖の上のポニョ』
- 第13回 宮崎駿と宮沢賢治の接点
- 第14回 宮崎駿の文明批判
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で取り上げる映像作品は事前に見てくること

教科書

参考書

成績評価

試験（60）小テスト（）授業中課題（40）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 日本語日本文学特講 n (メディア・表現研究Ⅳ)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 志賀 亮一

テーマ

図像が語る言説――ジェンダー表現を素材として――

### 授業の目的（獲得目標）

テレビのコマーシャルから高度な芸術作品まで、視覚メディアに登場する図像は、すべてなんらかの言説を含んでいる。授業では、主として欧米の視覚メディアにみられる女性の図像をとりあげ、それらがどのような女性観やジェンダー意識を語っているのかを解明することをつうじて、図像表現から言説を読みとる方法論と実際を学ぶ。

### 内 容

第1回 基本概念――視覚メディア、言説、ジェンダーなど――の解説と授業の進め方

第2回 視覚メディアにおける女性像――四つの要素（母親、妻、主婦、妖婦）

第3回 母親――女性すなわち子孫を再生産するもの①

第4回 母親――女性すなわち子孫を再生産するもの②

第5回 母親――女性すなわち子孫を再生産するもの③

第6回 妻――夫（男性）を補助するもの①

第7回 妻――夫（男性）を補助するもの②

第8回 妻――夫（男性）を補助するもの③

第9回 主婦――家庭を管理するもの①

第10回 主婦――家庭を管理するもの②

第11回 主婦――家庭を管理するもの③

第12回 妖婦 *Femme fatale* ――男性を陥れるもの①

第13回 妖婦 *Femme fatale* ――男性を陥れるもの②

第14回 妖婦 *Femme fatale* ――男性を陥れるもの③

第15回 妖婦 *Femme fatale* ――男性を陥れるもの④

### 授業以外での学習方法

①授業中に作成したメモを読み返すこと ②随時配布されるプリントをかならず読了すること

教科書

参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（80%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（授業でとりあげる女性像の四つの要素（母親、妻、主婦、妖婦）ごとに各1回、計4回課題を課す（各20%）ので、かならずすべて提出すること。）

## 2010 Syllabus

|       |                        |      |     |
|-------|------------------------|------|-----|
| 科目名   | 日本語日本文学特講○(アナウンス技術研究Ⅰ) |      |     |
| クラス   |                        | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期                     | 定員   | 30  |
| 履修条件  | 日本語日本文学科優先             |      |     |
| クラス指定 |                        |      |     |
| 担当者   | 飛鳥井 雅和                 |      |     |

## テーマ

自分自身を、母国語である「日本語」で過不足なく口頭表現出来る人を目指す。

## 授業の目的(獲得目標)

口下手・話下手の克服と、あらゆる業界・場面で自分自身を自らの口で表現出来る能力「自己表現力」の獲得と、その能力のアップを目指す。放送界45年の現役アナウンサー・飛鳥井が指導します。

## 内 容

- 第1回 この授業の狙い
- 第2回 自分の声・話し方を知ろう
- 第3回                    "
- 第4回 正しい発声～その理論と実際～
- 第5回                    "
- 第6回 正しい発音～その理論と実際～
- 第7回                    "
- 第8回 正しい話の組み立て方～その理論と実際～
- 第9回                    "
- 第10回 スピーチの実際
- 第11回                   "
- 第12回                   "
- 第13回                   "
- 第14回                   "
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

テレビ・ラジオ、新聞等のニュースを注視して下さい。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(25%) 参加度(25%) 備考( )



## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講 p (アナウンス技術研究Ⅱ)

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件 日本語日本文学科優先

クラス指定

担当者 飛鳥井 雅和

### テーマ

自分自身を、母国語である「日本語」で過不足なく口頭表現出来る人を目指す。

### 授業の目的（獲得目標）

口下手・話下手の克服と、あらゆる業界・場面で自分自身を自らの口で表現出来る「自己表現力」の獲得とその能力のアップを目指す。放送界45年の現役アナウンサー・飛鳥井が指導します。 \*前期よりグレードアップするため、前期との通年での受講を勧めます。

### 内 容

- 第1回 この講座の狙い
- 第2回 自分の声・話し方を知ろう
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 正しい発声～その理論と実際～
- 第6回 //
- 第7回 正しい発音～その理論と実際～
- 第8回 //
- 第9回 正しい話の組み立て方～その理論と実際～
- 第10回 //
- 第11回 スピーチの実際
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

テレビ・ラジオ、新聞のニュースを注視して下さい。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（25%）参加度（25%）備考（）

---

科目名 書論特講 c

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 下野 健児

---

テーマ

書論選読（一）

---

### 授業の目的（獲得目標）

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文になれるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養うことが目的となる。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス（「書論とは何か」、参考書・工具書の紹介）

第2回 書論選読1

第3回 書論選読2

第4回 書論選読3

第5回 書論選読4

第6回 書論選読5

第7回 書論選読6

第8回 書論選読7

第9回 書論選読8

第10回 書論選読9

第11回 書論選読10

第12回 書論選読11

第13回 書論選読12

第14回 書論選読13

第15回 前期のまとめ。レポート提出。

---

### 授業以外での学習方法

書に関する書物（できれば他の芸術に関しても）をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業中課題（期末レポート））

---

科目名 書論特講 d

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 下野 健児

---

テーマ

書論選読（二）

---

### 授業の目的（獲得目標）

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文になれるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養うことが目的となる。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス（「書論とは何か」、参考書・工具書の紹介）

第2回 書論選読1

第3回 書論選読2

第4回 書論選読3

第5回 書論選読4

第6回 書論選読5

第7回 書論選読6

第8回 書論選読7

第9回 書論選読8

第10回 書論選読9

第11回 書論選読10

第12回 書論選読11

第13回 書論選読12

第14回 書論選読13

第15回 後期のまとめ。レポート提出。

---

### 授業以外での学習方法

書に関する書物（できれば他の芸術に関しても）をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業中課題（期末レポート））

---

科目名 現代書研究 I

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 尾西 正成

---

テーマ

書と現代、書と人間を見つめ、今日の社会に最も相応しい書の在り方を探求する

---

授業の目的（獲得目標）

少字数書、漢字かな交じりの書の在り方を考え書表現を試みる。制作中心の授業展開となるため授業時間以外の製作・学習が中心となる。授業での課題を通して自分自身で高い目標を立て、様々な表現方法に挑戦する熱意を持ってほしい。

---

内 容

第1回 現代書とは。また過去の現代書の実践について

第2回 古典から学ぶもの（現代書と古典のかかわり）

第3回 現代書をつくる（素材と書美の関係）

第4回 調和体とは（その書に大切なものとは）

第5回 調和体作品制作①作品形式と形態

第6回 調和体作品制作②撰文または選文

第7回 調和体作品制作③さまざま工夫

第8回 調和体作品制作④書美の完成

第9回 一字書の美を探る

第10回 一字書 古典より文字を撰び書く

第11回 少字数作品①ことばの表現

第12回 少字数作品②余白の工夫

第13回 少字数作品③筆・紙の試行錯誤

第14回 現代書の鑑賞と表現の理解

第15回 書における現代性のありか

---

授業以外での学習方法

展覧会などの作品鑑賞や、自宅での作品制作。多くの課題を与える予定なので熱心で真摯な学習態度を期待する

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 (作品、レポート、授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい)



科目名 現代書研究Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

書と現代、書と人間と見つめ、今日の社会に最も相応しい書の在り方を探求する。

授業の目的（獲得目標）

現代における書の実情を考えながら、少字数書、漢字かな交じりの書のあり方を考え書表現を試みる。制作中心の授業展開となるため授業時間以外の製作・学習が中心となる。授業での課題を通して自分自身で高い目標を立て、様々な表現方法に挑戦する熱意を持ってほしい。

内 容

- 第1回 書の現代性とは
- 第2回 現代書へのアプローチ（良寛を参考に）①
- 第3回 現代書へのアプローチ（良寛を参考に）②
- 第4回 言葉と書のかかわりについて
- 第5回 現代書へのアプローチ（高村光太郎の実践を参考に）①
- 第6回 現代書へのアプローチ（高村光太郎の実践を参考に）②
- 第7回 書と精神性について
- 第8回 現代書へのアプローチ（日本の墨蹟を参考に）①
- 第9回 現代書へのアプローチ（日本の墨蹟を参考に）②
- 第10回 生活の中に生きる書①
- 第11回 生活の中に生きる書②
- 第12回 条幅作品の研究①
- 第13回 条幅作品の研究②
- 第14回 条幅作品の研究③
- 第15回 これからの書について

授業以外での学習方法

展覧会などの作品鑑賞や、自宅での作品制作。多くの課題を与える予定なので熱心で真摯な学習態度を期待する

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 (作品、レポート、授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい)

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <a>

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 林 久美子

**テーマ**

古典文学研究（中・近世）

**授業の目的（獲得目標）**

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

**内 容**

第1回 授業の進め方について

第2回 卒論で取り上げたい作品について発表する

第3回 同上

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 文献を収集し、論文を読む

第8回 同上

第9回 同上

第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 前期の総括と夏休みの課題について

**授業以外での学習方法**

作品を熟読する。図書館に足しげく通う。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（60）参加度（40）備考（）

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <b>

クラス b 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 甲斐 睦朗

**テーマ**

源氏物語の登場人物に関するすぐれた論文を批判的に読む（1）

**授業の目的（獲得目標）**

獲得目標 平安時代の女流仮名物語の頂点にたつ源氏物語には数多くの人物が描きだされている。その中から、主要な人物を取り上げて、その人物がどのような観点から取り上げられているかについて検討を加える。人柄、容姿・容貌、服装、行動、筆遣いなど様々な観点から描出されているが、これまで発表されている論文は、そのどういう側面で切り取っているか、学ぶべき面はどういうことかなど。確保する。 授業計画 前期は、人物論を中心に構成する。数多くの登場する源氏物語の主要な人物から、各自特定の人物に焦点を当てて、その人物がど

**内 容**

第1回 この授業の方針の説明：参考書の提示、前期のシラバス等の説明

第2回 桐壺更衣論を読む—教師担当

第3回 桐壺帝論を読む—教師担当

第4回 夕顔論を読む

第5回 紫の上論を読む（1）—少女期

第6回 光源氏論を読む（1）青年期

第7回 葵の上論を読む

第8回 六条御息所論を読む

第9回 藤壺宮論を読む

第10回 朧月夜論を読む

第11回 紫の上論を読む（2）

第12回 女三の宮論を読む

第13回 宇治の中君論を読む

第14回 薫中将論を読む

第15回 浮舟論を読む

**授業以外での学習方法**

源氏物語の人物論は毎年数多くが発表されている。そこで、図書館で、それらについて調査することが期待される。

**教科書**

**成績評価**

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (演習の発表 (40%)、授業中の発言 (40%)、最終レポート (20%))

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <c>

クラス c 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 野村 幸一郎

**テーマ**

日本近現代文学の研究

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文の研究対象としている文学作品について構造およびプロットの解明を到達目標とする

**内 容**

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 受講生による発表
- 第3回 受講生による発表
- 第4回 受講生による発表
- 第5回 受講生による発表
- 第6回 受講生による発表
- 第7回 受講生による発表
- 第8回 受講生による発表
- 第9回 受講生による発表
- 第10回 受講生による発表
- 第11回 受講生による発表
- 第12回 受講生による発表
- 第13回 受講生による発表
- 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

発表の準備

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (60) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <d>

クラス d 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 辻本 千鶴

**テーマ**

卒業論文作成

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文作成に向けて議論を積み重ね、着実に成果を上げていくことを目標とする。

**内 容**

第1回 導入

第2回 受講生による第1次報告（1）

第3回 受講生による第1次報告（2）

第4回 受講生による第1次報告（3）

第5回 受講生による第1次報告（4）

第6回 受講生による第1次報告（5）

第7回 受講生による第1次報告（6）

第8回 受講生による第2次報告（1）

第9回 受講生による第2次報告（2）

第10回 受講生による第2次報告（3）

第11回 受講生による第2次報告（4）

第12回 受講生による第2次報告（5）

第13回 受講生による第2次報告（6）

第14回 まとめ1

第15回 まとめ2

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <e>

クラス e

配当回生 4回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文作成

授業の目的（獲得目標）

卒業論文作成に向けて議論を積み重ね、着実に成果を上げていくことを目標とする。

内 容

第1回 導入

第2回 受講生による第1次報告（1）

第3回 受講生による第1次報告（2）

第4回 受講生による第1次報告（3）

第5回 受講生による第1次報告（4）

第6回 受講生による第1次報告（5）

第7回 受講生による第1次報告（6）

第8回 受講生による第2次報告（1）

第9回 受講生による第2次報告（2）

第10回 受講生による第2次報告（3）

第11回 受講生による第2次報告（4）

第12回 受講生による第2次報告（5）

第13回 受講生による第2次報告（6）

第14回 まとめ1

第15回 まとめ2

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈a〉

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 林 久美子

## テーマ

古典文学研究（中・近世）

## 授業の目的（獲得目標）

卒業論文作成

## 内 容

第1回 夏休み中の作業について報告する

第2回 文献、資料検索、論文収集を進めつつ、読解を深める

第3回 同上

第4回 同上

第5回 中間発表会に参加する（時期は未確定）

第6回 テーマの絞り方、その他について討論・講評し、最終テーマを決定する

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 一年間の取り組みへの総括と今後の進め方について確認する

## 授業以外での学習方法

作品の読みを深め、資料を収集する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（60）参加度（40）備考（）

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈b〉

クラス b 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 甲斐 睦朗

**テーマ**

源氏物語の登場人物に関するすぐれた論文を批判的に読む（2）

**授業の目的（獲得目標）**

獲得目標 平安時代の女流仮名物語の頂点にたつ源氏物語には数多くの人物が描きだされている。その中から、主要な人物を取り上げて、その人物がどのような観点から取り上げられているかについて検討を加える。人柄、容姿・容貌、服装、行動、筆遣いなど様々な観点から描出されているが、これまで発表されている論文は、そのどういう側面で切り取っているか、学ぶべき面はどういうことかなど。確保する。 授業計画 前期は、人物論を中心に構成する。数多くの登場する源氏物語の主要な人物から、各自特定の人物に焦点を当てて、その人物がど

**内 容**

第1回 この授業の方針の説明：参考書の提示、前期のシラバス等の説明

第2回 紫の上論を読む（3）

第3回 六条御息所論を読む（2）

第4回 玉鬘論を読む

第5回 光源氏論を読む（2）

第6回 明石の君論を読む

第7回 雲居の雁論を読む

第8回 柏木論を読む

第9回 藤壺宮論を読む（2）

第10回 朧月夜論を読む（2）—若菜上巻

第11回 匂宮論を読む

第12回 女三の宮論を読む（2）

第13回 宇治の大君論を読む

第14回 薫中将論を読む

第15回 浮舟論を読む（2）

**授業以外での学習方法**

源氏物語の人物論は毎年数多くが発表されている。そこで、図書館で、それらについて調査することが期待される。

**教科書**

**成績評価**

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (演習の発表 (40%)、授業中の発言 (40%)、最終レポート (20%))

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <c>

クラス c 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 野村 幸一郎

**テーマ**

日本近現代文学の研究

**授業の目的（獲得目標）**

卒業研究の対象となる作品について、その主題の解明を目標とする

**内 容**

第1回 授業計画の説明

第2回 受講生による発表

第3回 受講生による発表

第4回 受講生による発表

第5回 受講生による発表

第6回 卒業論文中間発表会

第7回 受講生による発表

第8回 受講生による発表

第9回 外部講師による授業

第10回 受講生による発表

第11回 受講生による発表

第12回 受講生による発表

第13回 国文橋原稿の執筆の添削

第14回 国文橋原稿の執筆と添削

第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

発表の準備

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (60) 参加度 (40) 備考 ( )

---

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <d>

---

クラス d 配当回生 4回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

**履修条件**

---

クラス指定 希望制

---

担当者 辻本 千鶴

---

**テーマ**

卒業論文の完成

---

**授業の目的（獲得目標）**

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させることを目標とする。

---

**内 容**

第1回 導入

第2回 受講生による第1次報告（1）

第3回 受講生による第1次報告（2）

第4回 受講生による第1次報告（3）

第5回 受講生による第1次報告（4）

第6回 受講生による第1次報告（5）

第7回 受講生による第1次報告（6）

第8回 受講生による第2次報告（1）

第9回 受講生による第2次報告（2）

第10回 受講生による第2次報告（3）

第11回 受講生による第2次報告（4）

第12回 受講生による第2次報告（5）

第13回 受講生による第2次報告（6）

第14回 まとめ1

第15回 まとめ2

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <e>

---

クラス e 配当回生 4回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 安達 太郎

---

テーマ

卒業論文の完成

---

授業の目的（獲得目標）

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させることを目標とする。

---

内 容

第1回 導入

第2回 受講生による第1次報告（1）

第3回 受講生による第1次報告（2）

第4回 受講生による第1次報告（3）

第5回 受講生による第1次報告（4）

第6回 受講生による第1次報告（5）

第7回 受講生による第1次報告（6）

第8回 受講生による第2次報告（1）

第9回 受講生による第2次報告（2）

第10回 受講生による第2次報告（3）

第11回 受講生による第2次報告（4）

第12回 受講生による第2次報告（5）

第13回 受講生による第2次報告（6）

第14回 まとめ1

第15回 まとめ2

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究（日）〈a〉

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究（日）〈b〉

クラス b 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 睦朗

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究（日）〈c〉

クラス c 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 卒業研究（日）〈d〉

---

クラス d 配当回生 4回生

---

講義期間 集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 辻本 千鶴

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 卒業研究（日）〈e〉

---

クラス e 配当回生 4回生

---

講義期間 集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 安達 太郎

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 作品研究 I <a> |      |     |
| クラス   | a          | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 20  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 大学指定       |      |     |
| 担当者   | 新谷 泰一      |      |     |

### テーマ

漢字作品の創作研究

### 授業の目的（獲得目標）

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの表現力を身につけさせる。

### 内 容

- 第1回 古典臨書作品の制作（半切）
- 第2回           "           （半切）
- 第3回           "           （連落）
- 第4回           "           （連落）
- 第5回           "           （2×8）
- 第6回           "           （2×8）
- 第7回           "           （2×8）
- 第8回 古典の倣書作品の準備
- 第9回           "           （形式・用具用材の工夫）
- 第10回 倣書作品の制作（卒業制作の準備）
- 第11回           "
- 第12回           "
- 第13回           "
- 第14回           "
- 第15回           "           ※授業は毎回作品を持ちより、相互批評を中心に進める。

### 授業以外での学習方法

作品は家庭で十分に書き込み、持ち寄ること。持ち寄る作品の質を高める努力をし、授業に臨むこと。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0）小テスト（）授業中課題（50）授業中発表等（20）参加度（30）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 作品研究 I <b> |      |     |
| クラス   | b          | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 20  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 大学指定       |      |     |
| 担当者   | 新谷 泰一      |      |     |

## テーマ

漢字作品の創作研究

## 授業の目的（獲得目標）

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの表現力を身につけさせる。

## 内 容

- 第1回 古典臨書作品の制作（半切）  
 第2回           "           （半切）  
 第3回           "           （連落）  
 第4回           "           （連落）  
 第5回           "           （2×8）  
 第6回           "           （2×8）  
 第7回           "           （2×8）  
 第8回 古典の倣書作品の準備  
 第9回           "           （形式・用具用材の工夫）  
 第10回 倣書作品の制作（卒業制作の準備）  
 第11回           "  
 第12回           "  
 第13回           "  
 第14回           "  
 第15回           "           ※授業は毎回作品を持ちより、相互批評を中心に進める。

## 授業以外での学習方法

作品は家庭で十分に書き込み、持ち寄ること。持ち寄る作品の質を高める努力をし、授業に臨むこと。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0）小テスト（）授業中課題（50）授業中発表等（20）参加度（30）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 作品研究Ⅱ <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 新谷 泰一     |      |     |

**テーマ**

漢字作品の創作研究

**授業の目的（獲得目標）**

古典の学習から得た技術を基に、自らの表現力を身につける。創作活動を通して創る喜びを感得する。

**内 容**

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定
- 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 //
- 第12回 卒業制作の完成
- 第13回 互評・反省会
- 第14回 自由制作
- 第15回 // まとめ

**授業以外での学習方法**

家庭で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力し授業に臨むこと。

**教科書****参考書****成績評価**

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 作品研究Ⅱ <b> |      |     |
| クラス   | b         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 新谷 泰一     |      |     |

## テーマ

漢字作品の創作研究

## 授業の目的（獲得目標）

古典の学習から得た技術を基に、自らの表現力を身につける。創作活動を通して創る喜びを感得する。

## 内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定
- 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 //
- 第12回 卒業制作の完成
- 第13回 互評・反省会
- 第14回 自由制作
- 第15回 // まとめ

## 授業以外での学習方法

家庭で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力し授業に臨むこと。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 ( )

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 作品研究Ⅲ <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 横山 弘平     |      |     |

**テーマ**

古典に基づく創作

**授業の目的（獲得目標）**

基礎からの展開。自らの創作力の養成。 内 容 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。 さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

**内 容**

- 第1回 倣書の方法について
- 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検
- 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首
- 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首
- 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首
- 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首
- 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
- 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
- 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
- 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
- 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)
- 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)
- 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
- 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
- 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

**授業以外での学習方法**

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

**教科書****参考書****成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (20) 参加度 (10) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 作品研究Ⅲ <b> |      |     |
| クラス   | b         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 横山 弘平     |      |     |

## テーマ

古典に基づく創作

## 授業の目的（獲得目標）

基礎からの展開。自らの創作力の養成。 内 容 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。 さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

## 内 容

- 第1回 倣書の方法について
- 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検
- 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首
- 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首
- 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首
- 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首
- 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
- 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
- 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
- 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
- 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)
- 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)
- 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
- 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
- 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

## 授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (20) 参加度 (10) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 作品研究Ⅳ <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 横山 弘平     |      |     |

## テーマ

古典に基づく創作

## 授業の目的（獲得目標）

基礎からの展開。自らの創作力の養成。 内 容 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。 さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

## 内 容

|      |                           |        |            |
|------|---------------------------|--------|------------|
| 第1回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (1)    | 配字と構成      |
| 第2回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (2)    | 配字と構成      |
| 第3回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (3)    | 配字と構成      |
| 第4回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (4)    | 運筆のリズムと線質  |
| 第5回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (5)    | 運筆のリズムと線質  |
| 第6回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (6)    | 運筆のリズムと線質  |
| 第7回  | 主体的作品の習熟                  | (1)    | 古筆の再確認     |
| 第8回  | 主体的作品の習熟                  | (2)    | 変化と統一      |
| 第9回  | 主体的作品の習熟                  | (3)    | 墨法効果       |
| 第10回 | 制作作品の相互研究                 | ≪中間発表≫ |            |
| 第11回 | 作品の完成に向けて                 | (1)    | 全体構成の研究    |
| 第12回 | 作品の完成に向けて                 | (2)    | 線質の確認と墨法効果 |
| 第13回 | 作品の完成に向けて                 | (3)    | 作品の選別      |
| 第14回 | いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして） | (1)    |            |
| 第15回 | いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして） | (2)    |            |

## 授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (20) 参加度 (10) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 作品研究Ⅳ <b> |      |     |
| クラス   | b         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 横山 弘平     |      |     |

## テーマ

古典に基づく創作

## 授業の目的（獲得目標）

基礎からの展開。自らの創作力の養成。 内 容 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。 さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

## 内 容

|      |                           |        |            |
|------|---------------------------|--------|------------|
| 第1回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (1)    | 配字と構成      |
| 第2回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (2)    | 配字と構成      |
| 第3回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (3)    | 配字と構成      |
| 第4回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (4)    | 運筆のリズムと線質  |
| 第5回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (5)    | 運筆のリズムと線質  |
| 第6回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (6)    | 運筆のリズムと線質  |
| 第7回  | 主体的作品の習熟                  | (1)    | 古筆の再確認     |
| 第8回  | 主体的作品の習熟                  | (2)    | 変化と統一      |
| 第9回  | 主体的作品の習熟                  | (3)    | 墨法効果       |
| 第10回 | 制作作品の相互研究                 | ≪中間発表≫ |            |
| 第11回 | 作品の完成に向けて                 | (1)    | 全体構成の研究    |
| 第12回 | 作品の完成に向けて                 | (2)    | 線質の確認と墨法効果 |
| 第13回 | 作品の完成に向けて                 | (3)    | 作品の選別      |
| 第14回 | いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして） | (1)    |            |
| 第15回 | いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして） | (2)    |            |

## 授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (20) 参加度 (10) 備考 ( )

12408580

2010 Syllabus

科目名 卒業研究（書）

クラス 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 横山 弘平

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 研究入門ゼミ I (歴) <A>

クラス A

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 25

---

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 増淵 徹

---

**テーマ**

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

---

**授業の目的（獲得目標）**

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

---

**内 容**

第1回 テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説

第2回 図書館の実際的利用方法の解説、史料読解の実際（1）

第3回 史料読解の実際（2）

第4回 現地観察の方法（学外授業）

第5回 個別発表と質疑（1）

第6回 個別発表と質疑（2）

第7回 個別発表と質疑（3）

第8回 個別発表と質疑（4）

第9回 個別発表と質疑（5）

第10回 個別発表と質疑（6）

第11回 個別発表と質疑（7）

第12回 個別発表と質疑（8）

第13回 個別発表と質疑（9）

第14回 個別発表と質疑（10）

第15回 完成レポート作成の指導 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

---

**授業以外での学習方法**

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。歴史は足で学ぶものでもある。

---

**教科書**

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 (完成レポートの未提出者には単位修得を認めない。)

|             |                  |      |      |
|-------------|------------------|------|------|
| 科目名         | 研究入門ゼミ I (歴) <B> |      |      |
| クラス         | B                | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期               | 定員   | 25   |
| <b>履修条件</b> |                  |      |      |
| クラス指定       | 大学指定             |      |      |
| 担当者         | 細川 涼一            |      |      |

**テーマ**

『新選組始末記』を読みながら歴史の調べ方を覚える

**授業の目的（獲得目標）**

子母澤寛『新選組始末記』など新選組三部作を読み、新選組の歴史を幕末史の中に位置づけるとともに、レジュームの作り方、本の内容のまとめ方、歴史の調べ方の基本的ツールを獲得する。新選組は小説はもとより、映画やドラマ・漫画の題材となつて根強い人気を持っているが、そのエピソードのほとんどは子母澤寛『新選組始末記』（1928年）などの新選組三部作から出ている。子母澤は祖父が彰義隊くずれであったことから、明治政府の主導によって確立され、勝者の立場から書かれた官製の維新史観に反発を持ち、それが賊軍とされた新選組の史実を発掘

**内 容**

- 第1回 子母澤寛『新選組始末記』と幕末史の見方（1）
- 第2回 子母澤寛『新選組始末記』と幕末史の見方（2）
- 第3回 子母澤寛『新選組始末記』と幕末史の見方（3）
- 第4回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（1）芹沢鴨暗殺
- 第5回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（2）芹沢鴨暗殺2
- 第6回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（3）池田屋事件
- 第7回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（4）池田屋事件2
- 第8回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（5）沖田総司
- 第9回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（6）山南敬助
- 第10回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（7）吉村貫一郎
- 第11回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（8）武田観柳斎
- 第12回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（9）松原忠司・谷三十郎
- 第13回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（10）原田左之助
- 第14回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（11）油小路の決闘
- 第15回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（12）箱館戦争と土方歳三 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

**授業以外での学習方法**

テキストの当該部分を事前に読んでおくこと。

**教科書**

**成績評価**

試験 (30 %) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (30 %) 参加度 (40 %) 備考 ( )



科目名 研究入門ゼミ I (歴) <C>

クラス C

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 25

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 横田 冬彦

**テーマ**

歴史学の方法 (古文書から歴史を考える)

**授業の目的 (獲得目標)**

歴史学研究の基礎となる、史料をよみ、課題を立てて、史料を分析し、そこから一定の結論を引き出し、それを叙述する、という一連の過程を、実際に行ってみる。そのことによって、歴史学の研究手法についての理解を深めることを目的とする。

**内 容**

第1回 導入

第2回 本学所蔵の古文書をよむ (1)

第3回 古文書をよむ (2)

第4回 古文書をよむ (3)

第5回 参考論文をよむ (1)

第6回 古文書をよむ (4)

第7回 古文書をよむ (5)

第8回 古文書をよむ (6)

第9回 参考論文をよむ (2)

第10回 読んだ古文書を分析する (1)

第11回 古文書を分析する (2)

第12回 古文書を分析する (3)

第13回 古文書を分析する (4)

第14回 レポートの作成

第15回 まとめ なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

**授業以外での学習方法**

講義中に指示する

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

科目名 研究入門ゼミ I (歴) <D>

クラス D 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小野 浩

#### テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

#### 授業の目的 (獲得目標)

歴史研究における一次史料 (根本史料) とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を 1 つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。発表

#### 内 容

第 1 回 第 1 回 導論 一次史料とは何か? その 1 歴史研究における史料の意味

第 2 回 第 2 回 導論 一次史料とは何か? その 2 文献史料についての説明

第 3 回 過去の発表レジュメの具体的紹介

第 4 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 1

第 5 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 2

第 6 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 3

第 7 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 4

第 8 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 5

第 9 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 6

第 10 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 7

第 11 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 8

第 12 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 9

第 13 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 10

第 14 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 11

第 15 回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その 12 なお歴史学に関する講演会等を 1 回行うことがある。

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（）

|             |                  |      |      |
|-------------|------------------|------|------|
| 科目名         | 研究入門ゼミ I (歴) <E> |      |      |
| クラス         | E                | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期               | 定員   | 25   |
| <b>履修条件</b> |                  |      |      |
| クラス指定       | 大学指定             |      |      |
| 担当者         | 松浦 京子            |      |      |

**テーマ**

世界史上の人物について研究する

**授業の目的（獲得目標）**

歴史学科学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす。ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。

**内 容**

- 第1回 入門ゼミとは 本演習のねらい（卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得）
- 第2回 テーマ（世界史上の人物）設定と問題提起（歴史的問いかけ）
- 第3回 文献検索、収集のやり方（図書館利用ガイダンス）2、3回目は順不同
- 第4回 問題設定に対する回答を得るための分析・整理、それに沿った読み上げ原稿（400字詰め原稿用紙で7～8枚程度の分量）
- 第5回 レジュメの作成について+模擬報告
- 第6回 これより、学生番号順に学生の発表報告①（報告時間は20分程度を目安とする）と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第7回 学生報告②、質疑応答、教員よりコメント
- 第8回 学生報告③、質疑応答、教員よりコメント
- 第9回 学生報告④、質疑応答、教員よりコメント
- 第10回 学生報告⑤、質疑応答、教員よりコメント
- 第11回 学生報告⑥、質疑応答、教員よりコメント
- 第12回 学生報告⑦、質疑応答、教員よりコメント
- 第13回 学生報告⑧、質疑応答、教員よりコメント
- 第14回 学生報告⑨、質疑応答、教員よりコメント
- 第15回 これまでの総括 レポートの作成、提出

**授業以外での学習方法**

各自が、発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメの作成を進め、逐次、教員と面談の上アドヴァイスを受けること

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) <F>

クラス F 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 南 直人

## テーマ

歴史に関する研究の基礎的能力の育成

## 授業の目的 (獲得目標)

世界史上の重要なトピックについて自分の力で調査し分析し発表する能力を修得する。

## 内 容

第 1 回 大学で学ぶ意義

第 2 回 卒業後の進路、将来の人生設計

第 3 回 歴史学の意義、その社会的役割

第 4 回 歴史学とは何か、その方法論(1) (この 3 回においては、テキストに従って 3-5 名程度のグループ発表をおこなう。グループ分けやそれぞれが発表するトピックについては教員から指示する。各グループでテキストを深く読み理解し、役割分担を決めて発表の準備をする。)

第 5 回 歴史学とは何か、その方法論(2)

第 6 回 歴史学とは何か、その方法論(3)

第 7 回 研究発表・レジュメ作成方法ガイダンス

第 8 回 個人別発表(1) (個人別発表においては、世界史上の事件、人物、歴史的変化、国際関係等について個人別の発表をおこなう。トピックは、教員から与えられた選択肢の中から自分で自由に選択する。トピックについての文献・資料を収集し、レジュメを準備する。)

第 9 回 個人別発表(2)

第 10 回 個人別発表(3)

第 11 回 個人別発表(4)

第 12 回 個人別発表(5)

第 13 回 個人別発表(6)

第 14 回 個人別発表(7)

第 15 回 まとめ・総括 (なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ 1 回程度行うことがある)

## 授業以外での学習方法

発表者は必ずレジュメを準備し、さらに発表用の原稿を準備しておかねばならない。また、授業中に紹介する歴史学に関する多くの文献を各自読んで欲しい。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (40%) 備考 ( )



科目名 研究入門ゼミⅡ(歴)〈A〉

クラス A

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 25

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 小野 浩

**テーマ**

世界史の文献史料の調査と発表

**授業の目的（獲得目標）**

獲得目標 歴史研究における一次史料（根本史料）とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。 内容 歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづい

**内 容**

第1回 導論 一次史料とは何か？ その1 歴史研究における史料の意味

第2回 導論 一次史料とは何か？ その2 文献史料についての説明

第3回 過去の発表レジュメの具体的紹介

第4回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その1

第5回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その2

第6回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その3

第7回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その4

第8回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その5

第9回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その6

第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その7

第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その8

第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その9

第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その10

第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その11

第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その12 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（）

|             |               |      |     |
|-------------|---------------|------|-----|
| 科目名         | 研究入門ゼミⅡ(歴)〈B〉 |      |     |
| クラス         | B             | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期            | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |               |      |     |
| クラス指定       | 大学指定          |      |     |
| 担当者         | 松浦 京子         |      |     |

**テーマ**

世界史上の人物について研究する

**授業の目的（獲得目標）**

歴史学科学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす。ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。

**内 容**

- 第1回 入門ゼミとは 本演習のねらい(卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得)
- 第2回 テーマ(世界史上の人物)設定と問題提起(歴史的問いかけ)
- 第3回 文献検索、収集のやり方(図書館利用ガイダンス) 2、3回目は順不同
- 第4回 問題設定に対する回答を得るための分析・整理、それに沿った読み上げ原稿(400字詰め原稿用紙で7～8枚程度の分量)の作成
- 第5回 レジュメの作成について+模擬報告
- 第6回 これより、学生番号順に学生の発表報告①(報告時間は20分程度を目安とする)と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第7回 学生報告②、質疑応答、教員よりコメント
- 第8回 学生報告③、質疑応答、教員よりコメント
- 第9回 学生報告④、質疑応答、教員よりコメント
- 第10回 学生報告⑤、質疑応答、教員よりコメント
- 第11回 学生報告⑥、質疑応答、教員よりコメント
- 第12回 学生報告⑦、質疑応答、教員よりコメント
- 第13回 学生報告⑧、質疑応答、教員よりコメント
- 第14回 学生報告⑨、質疑応答、教員よりコメント
- 第15回 これまでの総括 レポートの作成、提出

**授業以外での学習方法**

各自が、発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメの作成を進め、逐次、教員と面談の上アドヴァイスを受けること

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴)〈C〉

クラス C

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 南 直人

#### テーマ

歴史に関する研究の基礎的能力の育成

#### 授業の目的（獲得目標）

世界史上の重要なトピックについて自分の力で調査し分析し発表する能力を修得する。

#### 内 容

第1回 大学で学ぶ意義

第2回 卒業後の進路、将来の人生設計

第3回 歴史学の意義、その社会的役割

第4回 歴史学とは何か、その方法論(1)

第5回 歴史学とは何か、その方法論(2)

第6回 歴史学とは何か、その方法論(3)（この3回においては、テキストに従って3-5名程度のグループ発表をおこなう。グループ分けやそれぞれが発表するトピックについては教員から指示する。各グループでテキストを深く読み理解し、役割分担を決めて発表の準備をする。）

第7回 研究発表・レジュメ作成方法ガイダンス

第8回 個人別発表(1)（この6回においては、世界史上の事件、人物、歴史的変化、国際関係等について個人別の発表をおこなう。トピックは、教員から与えられた選択肢の中から自分で自由に選択する。トピックについての文献・資料を収集し、レジュメを準備する。）

第9回 個人別発表(2)

第10回 個人別発表(3)

第11回 個人別発表(4)

第12回 個人別発表(5)

第13回 個人別発表(6)

第14回 個人別発表(7)

第15回 まとめ・総括（なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある）

#### 授業以外での学習方法

発表者は必ずレジュメを準備し、さらに発表用の原稿を準備しておかねばならない。また、授業中に紹介する歴史学に関する多くの文献を各自読んで欲しい。

#### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（50）参加度（40）備考（）

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴)〈D〉

クラス D 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 増淵 徹

#### テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

#### 授業の目的（獲得目標）

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。 レポートの作成に際しては、担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件にしており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

#### 内 容

- 第1回 テキストの解説。授業の展開及びレポートの作成方法の解説
- 第2回 図書館の実際的利用方法の解説。史料読解の実際（1）
- 第3回 史料読解の実際（2）
- 第4回 現地観察の方法（学外授業）
- 第5回 個別発表と質疑（1）
- 第6回 個別発表と質疑（2）
- 第7回 個別発表と質疑（3）
- 第8回 個別発表と質疑（4）
- 第9回 個別発表と質疑（5）
- 第10回 個別発表と質疑（6）
- 第11回 個別発表と質疑（7）
- 第12回 個別発表と質疑（8）
- 第13回 個別発表と質疑（9）
- 第14回 個別発表と質疑（10）
- 第15回 完成レポート作成の指導 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

#### 授業以外での学習方法

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。歴史は足で学ぶものでもある。

#### 教科書

#### 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 (完成レポートの未提出者には原則として単位修得を認めない)



|             |               |      |     |
|-------------|---------------|------|-----|
| 科目名         | 研究入門ゼミⅡ(歴)〈E〉 |      |     |
| クラス         | E             | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期            | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |               |      |     |
| クラス指定       | 大学指定          |      |     |
| 担当者         | 細川 涼一         |      |     |

**テーマ**

『新選組始末記』を読みながら歴史の調べ方を覚える

**授業の目的（獲得目標）**

子母澤寛『新選組始末記』など新選組三部作を読み、新選組の歴史を幕末史の中に位置づけるとともに、レジユメの作り方、本の内容のまとめ方、歴史の調べ方の基本的ツールを獲得する。新選組は小説はもとより、映画やドラマ・漫画の題材となって根強い人気を持っているが、そのエピソードのほとんどは子母澤寛『新選組始末記』（1928年）などの新選組三部作から出ている。子母澤は祖父が彰義隊くずれであったことから、明治政府の主導によって確立され、勝者の立場から書かれた官製の維新史観に反発を持ち、それが賊軍とされた新選組の史実を発掘

**内 容**

- 第1回 子母澤寛『新選組始末記』と幕末史の見方（1）
- 第2回 子母澤寛『新選組始末記』と幕末史の見方（2）
- 第3回 子母澤寛『新選組始末記』と幕末史の見方（3）
- 第4回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（1）芹沢鴨暗殺
- 第5回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（2）芹沢鴨暗殺2
- 第6回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（3）池田屋事件
- 第7回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（4）池田屋事件2
- 第8回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（5）沖田総司
- 第9回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（6）山南敬助
- 第10回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（7）吉村貫一郎
- 第11回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（8）武田観柳斎
- 第12回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（9）松原忠司・谷三十郎
- 第13回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（10）原田左之助
- 第14回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（11）油小路の決闘
- 第15回 子母澤寛『新選組始末記』と関連史料を読む（12）箱館戦争と土方歳三 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

**授業以外での学習方法**

テキストの当該部分を事前に読んでおくこと。

**教科書**

**成績評価**

試験 (30 %) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (30 %) 参加度 (40 %) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴)〈F〉

クラス F

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 25

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 横田 冬彦

**テーマ**

歴史学の方法（古文書から歴史を考える）

**授業の目的（獲得目標）**

歴史学研究の基礎となる、史料をよみ、課題を立てて、史料を分析し、そこから一定の結論を引き出し、それを叙述する、という一連の過程を、実際に行ってみる。そのことによって、歴史学の研究手法についての理解を深めることを目的とする。

**内 容**

第1回 導入

第2回 本学所蔵の古文書をよむ（1）

第3回 古文書をよむ（2）

第4回 古文書をよむ（3）

第5回 参考文献をよむ（1）

第6回 古文書をよむ（4）

第7回 古文書をよむ（5）

第8回 古文書をよむ（6）

第9回 参考文献をよむ（2）

第10回 読んだ古文書を分析する（1）

第11回 古文書を分析する（2）

第12回 古文書を分析する（3）

第13回 古文書を分析する（4）

第14回 レポート作成

第15回 まとめ なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

**授業以外での学習方法**

講義中に指示する

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

科目名 歴史学総合講義

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人, 小野 浩, 島居 一康, 高久 嶺之介, 細川 涼一, 増淵 徹, 松浦 京子, 横田 冬彦

テーマ

歴史教科書を読み直す

### 授業の目的（獲得目標）

高校の日本史と世界史の教科書を再検討することによって、専門的な歴史学と高校までに学んできた歴史授業との本質的な違いを認識し、それを通じて、学問としての歴史学の面白さや奥深さを学ぶ。

### 内 容

- 第1回 歴史教科書におけるイスラム（1）【小野 浩】
- 第2回 歴史教科書におけるイスラム（2）【小野 浩】
- 第3回 歴史教科書における中国史（1）【島居 一康】
- 第4回 歴史教科書におけるイギリス史（1）【松浦 京子】
- 第5回 歴史教科書におけるイギリス史（2）【松浦 京子】
- 第6回 歴史教科書におけるドイツ史（1）【南 直人】
- 第7回 歴史教科書におけるドイツ史（2）【南 直人】
- 第8回 歴史教科書における日本古代史（1）【増淵 徹】
- 第9回 歴史教科書における日本古代史（2）【増淵 徹】
- 第10回 歴史教科書における日本中世史（1）【細川 涼一】
- 第11回 歴史教科書における日本中世史（2）【細川 涼一】
- 第12回 歴史教科書における日本近世史（1）【横田 冬彦】
- 第13回 歴史教科書における日本近世史（2）【横田 冬彦】
- 第14回 歴史教科書における日本近現代史（1）【高久 嶺之介】
- 第15回 歴史教科書における日本近現代史（2）【高久 嶺之介】

### 授業以外での学習方法

授業担当の各教員から紹介された文献を自分でよく読んでみる

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（70）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

---

科目名 日本史概説 I

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 増淵 徹

---

テーマ

古代・中世の政治と社会

---

### 授業の目的（獲得目標）

高等学校までの日本史学習の知識を踏まえ、古代・中世の政治・社会・文化の展開を総合的に把握する。各時代・時期の特徴的事象をとり上げ、その背景にある政治や社会の特質を追求する形式で進める。

---

### 内 容

- 第1回 歴史の区分
  - 第2回 古代「都市」論の問題点
  - 第3回 東アジアの政治的秩序と日本
  - 第4回 倭王武の時代
  - 第5回 大化改新をどう考えるか
  - 第6回 都城の成立と展開
  - 第7回 日本律令制国家の特質
  - 第8回 桓武・嵯峨朝の位相
  - 第9回 将門の乱の位置
  - 第10回 院政と権門都市の成立
  - 第11回 鎌倉幕府の成立と東大寺の再建
  - 第12回 中世前期の対外関係
  - 第13回 鹿苑寺・慈照寺とその周辺
  - 第14回 中世国家論
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

下記参考書などを読んでおくこと

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（80）小テスト（20）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（0）備考（受講者数の問題で小テストの

実施が困難な場合は、評価を「参加度」に振り向ける。）

---

科目名 日本史概説Ⅱ

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 高久 嶺之介

---

テーマ

日本における国家と社会Ⅱ

---

授業の目的（獲得目標）

近世・近代の国家と社会の内容とその変遷について、広い視野で捉えられるようにする。

---

内 容

第1回 近世・近代はどういう時代か（概説）

第2回 キリスト教禁止と鎖国

第3回 同上

第4回 武家の統制と朝廷への対応

第5回 同上

第6回 江戸時代の地域社会

第7回 同上

第8回 幕末の政治状況

第9回 同上

第10回 同上

第11回 帝国憲法体制と議会

第12回 日清・日露戦争

第13回 同上

第14回 昭和の戦争

第15回 同上

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）



科目名 東洋史概説 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 井上 徳子

テーマ

東洋史の流れを概説する

授業の目的（獲得目標）

古代から近代までの歴史の流れと各時代の特徴を把握することを目標とする

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 原人・新石器時代
- 第3回 殷・周
- 第4回 春秋戦国時代
- 第5回 秦
- 第6回 漢
- 第7回 三国時代
- 第8回 魏晋南北朝
- 第9回 唐
- 第10回 宋
- 第11回 モンゴル
- 第12回 明
- 第13回 清
- 第14回 19世紀の中国
- 第15回 試験

授業以外での学習方法

高校での世界史の学習を前提としているので、高等学校の教科書（『世界史B』）の知識が最低限必要となる。したがってこの知識を身につけるべく、概説書などを積極的に読んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験（80％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20％）備考（）

科目名 東洋史概説Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

東方イスラム世界史概説

### 授業の目的（獲得目標）

一次史料を紹介しつつ、イスラムの勃興からイスラム期イラン・中央アジアの歴史の流れを大まかに把握することを目標とする。イラン・中央アジアを中心とする東方イスラム世界の歴史を、モンゴル人・トルコ人・ペルシア人の果たした役割に注目しつつ概観する。ただし、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じることもある。また、高校での世界史の学習を前提としている。（昨今、高校で世界史を学習していないことを訴える学生が多々いるが、この授業は、そういった学生のために高校の世界史教科書をおさらいするも

### 内 容

- 第1回 イスラムとは何か－六信五行
- 第2回 預言者ムハンマドの生涯
- 第3回 イスラムの人名と暦
- 第4回 カリフ－4カリフ・ウマイヤ家・アッバース家
- 第5回 アリー信仰とシーア派
- 第6回 イスラムの学術文化 その1 翻訳活動と「12世紀ルネサンス」
- 第7回 イスラムの学術文化 その2 歴史学
- 第8回 サーマーン朝とテュルク人マムルーク
- 第9回 カラハン朝
- 第10回 セルジューク朝・ホラズム＝シャー朝
- 第11回 モンゴルの西征
- 第12回 ティムールの興起とティムール朝
- 第13回 バーブルとムガル朝の成立
- 第14回 フマーユーンとアクバル
- 第15回 サファヴィー朝の成立

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（）

科目名 西洋史概説 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 専次

テーマ

ヨーロッパ文明の形成と確立

授業の目的（獲得目標）

ヨーロッパ文明は中世と呼ばれる時代に形成された。古代末期から中世において、どのようにヨーロッパ文明が形成されたかを理解する。

内 容

- 第1回 ヨーロッパの地理・言語・宗教
- 第2回 帝政末期のローマ帝国と地中海世界
- 第3回 ゲルマン人の民族移動と部族王国
- 第4回 イスラームの地中海進出
- 第5回 フランク王国の発展
- 第6回 カロリング帝国とカール大帝
- 第7回 ノルマン人とイングランド王国の成立
- 第8回 産業技術の革新と農村社会の変動
- 第9回 叙任権闘争とグレゴリウス改革（1）
- 第10回 叙任権闘争とグレゴリウス改革（2）
- 第11回 十字軍とヨーロッパの膨張
- 第12回 12世紀ルネサンスと大学の誕生
- 第13回 中世都市の発達
- 第14回 黒死病と「危機」の時代
- 第15回 イタリア戦争と主権国家体制の形成

授業以外での学習方法

講義では、高校の世界史の教科書程度の知識は必要になるが、下記の教科書を読むのが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験（80％）小テスト（10％）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（10％）備考（）

科目名 西洋史概説Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

近代ヨーロッパの歴史の基礎的理解と新しい歴史学の視点

授業の目的（獲得目標）

近代ヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、より深い概説的理解をはかる。とくに近代世界システム論や最近の人口史、家族史の視点から近代ヨーロッパの歴史を概観する。

内 容

- 第1回 従来の歴史学と新しい歴史学
- 第2回 近代世界システムの形成
- 第3回 ポルトガルのアジア進出
- 第4回 スペインの新大陸支配
- 第5回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー
- 第6回 イギリスの商業革命と大西洋貿易
- 第7回 英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
- 第8回 産業革命とフランス革命の新解釈
- 第9回 大英帝国のヘゲモニー
- 第10回 19世紀ヨーロッパ社会
- 第11回 20世紀のヨーロッパ（1）
- 第12回 20世紀のヨーロッパ（2）
- 第13回 人口史からみたヨーロッパ史
- 第14回 ヨーロッパの家族史
- 第15回 新しい歴史学の可能性（環境史など）

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献を読み進めること

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（70）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

科目名 考古学概説 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学研究が明らかにした時代相・技術史

### 授業の目的（獲得目標）

あな（遺構）・もの（遺物）で構成されている遺跡を、どのように解釈するかという方法と考古学研究が明らかにしてきた過去の社会像、土器・金属器・瓦などの出土遺物の精緻な研究成果を理解する。

### 内 容

- 第1回 考古学研究の方法とその特徴
- 第2回 狩猟採集の社会——縄文時代
- 第3回 狩猟採集から農耕へ——弥生時代
- 第4回 金属生産の開始——銅鐸の変遷と祭祀
- 第5回 学外授業 物集女車塚古墳見学 5月15日(土)予定
- 第6回 大墓の時代——古墳時代
- 第7回 歴史時代の考古学
- 第8回 土器の語る世界①——古代・中世の土器概説
- 第9回 土器の語る世界②——輸入陶磁器
- 第10回 学外授業 博物館参観 6月20日(日)予定
- 第11回 金属生産の歴史①——青銅鑄物
- 第12回 金属生産の歴史②——鑄鉄鑄物
- 第13回 古代瓦の美——飛鳥・白鳳・天平の甍
- 第14回 古代の平瓦作り——失われた伝統技術
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（65%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（15%）備考（）

科目名 考古学概説Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学からみた地域と文化

授業の目的（獲得目標）

日本各地の地域性を示す遺跡において解明されている個性豊かな地域の考古学的知見から、特色をもった地域文化が、どのように成立したかを理解する。

内 容

第1回 日本文化の地域性

第2回 弥生時代の北九州

第3回 瀬戸内の土器製塩

第4回 中国山地のたたら製鉄

第5回 陶邑の須恵器生産

第6回 土師器「かわらけ」の世界

第7回 学外授業 正倉院展（奈良国博）見学 11月5日（金）予定

第8回 正倉院展見学の復習

第9回 東海地方の焼物——猿投・瀬戸・常滑

第10回 古代・中世の京都の墓

第11回 学外授業 博物館見学 12月5日（日）予定

第12回 鎌倉・平泉の考古学

第13回 江戸時代の考古学

第14回 日本領の「異国」琉球の歴史と文化

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（65%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（15%）備考（）

科目名 女性史講読Ⅱ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



|       |               |      |     |
|-------|---------------|------|-----|
| 科目名   | 日本史基礎ゼミ I <a> |      |     |
| クラス   | a             | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期            | 定員   | 30  |
| 履修条件  |               |      |     |
| クラス指定 | 希望制           |      |     |
| 担当者   | 増淵 徹          |      |     |

### テーマ

古代の法から社会像を考える

### 授業の目的（獲得目標）

『類聚三代格』をテキストに、古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的な方法論の修得を第一の目標とする。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料文訓読の課題を課す。

### 内 容

- 第1回 授業解説、テキストの解説（1）
- 第2回 テキストの解説（2）、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
- 第3回 テキスト解説（3）、史料読解の実際演習（1）
- 第4回 史料読解の実際演習（2）
- 第5回 個別発表（1）
- 第6回 個別発表（2）
- 第7回 個別発表（3）
- 第8回 個別発表（4）
- 第9回 個別発表（5）
- 第10回 個別発表（6）
- 第11回 個別発表（7）
- 第12回 個別発表（8）
- 第13回 個別発表（9）
- 第14回 個別発表（10）
- 第15回 個別発表（11） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

### 授業以外での学習方法

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 (「授業中課題」には、授業でのレポートと課題とを含む。)

科目名 日本史基礎ゼミ I <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 細川 涼一

**テーマ**

吾妻鏡を読む

**授業の目的（獲得目標）**

鎌倉幕府の記録書である吾妻鏡を読むことで、中世史料・中世の漢文の読解に習熟することを目標とする。吾妻鏡は平氏の滅亡と源義経関係の記事を中心に講読していく。

**内 容**

第1回 吾妻鏡の講読（1）

第2回 吾妻鏡の講読（2）

第3回 吾妻鏡の講読（3）

第4回 吾妻鏡の講読（4）

第5回 吾妻鏡の講読（5）

第6回 吾妻鏡の講読（6）

第7回 吾妻鏡の講読（7）

第8回 吾妻鏡の講読（8）

第9回 吾妻鏡の講読（9）

第10回 吾妻鏡の講読（10）

第11回 吾妻鏡の講読（11）

第12回 吾妻鏡の講読（12）

第13回 吾妻鏡の講読（13）

第14回 吾妻鏡の講読（14）

第15回 吾妻鏡の講読（15） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

**授業以外での学習方法**

史料についてよく予習・復習をすること。テキストはプリントで配布する。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（40％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（30％）参加度（30％）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |               |      |     |
|-------|---------------|------|-----|
| 科目名   | 日本史基礎ゼミ I <c> |      |     |
| クラス   | c             | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期            | 定員   | 30  |
| 履修条件  |               |      |     |
| クラス指定 | 希望制           |      |     |
| 担当者   | 尾下 成敏         |      |     |

## テーマ

「泰重卿記」を読む

## 授業の目的（獲得目標）

近世前期の公家土御門泰重の日記「泰重卿記」の元和6年（1620）の記事を読みます。受講生の義務は、①記事の読み下し、②担当記事の逐語訳・事項解説の作成と報告、③近世公家社会の制度・慣習に関する調査と報告です。

## 内 容

第1回 ガイダンス、および近世公家社会と公家日記に関する概説①

第2回 近世公家社会と公家日記に関する概説②

第3回 「泰重卿記」の熟読（第3回から第15回まで内容は同じ。適宜、小テストも実施） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

## 授業以外での学習方法

「泰重卿記」は、江戸時代前期の文化や京都の状況を知る上で重要な史料ですが、同時に研究書や辞書などの硬い文章を丁寧に読まない限り、よく理解できない史料でもあります。ですので、予習・復習は欠かさず行ってください。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( 試験を行わない代わりに、小テストを3回行います。また欠席が多い受講生、報告を怠る受講生は落第とします。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本史基礎ゼミ I <d>

---

クラス d 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 高久 嶺之介

---

テーマ

幕末・明治の各種史料を読む。

---

授業の目的（獲得目標）

日本近代史史料を解読する能力を養う。下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようにする。

---

内 容

第1回 史料解読の方法

第2回 「安政の大獄」

第3回 同上

第4回 「池田屋事件」

第5回 「禁門の変」

第6回 「薩長盟約」

第7回 同上

第8回 「王政復古の号令」

第9回 同上

第10回 「鳥羽・伏見の戦い」

第11回 「大坂遷都の建白」

第12回 「徴兵令」

第13回 「琵琶湖疏水」

第14回 「明治の新聞」

第15回 同上 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

---

授業以外での学習方法

京都には幕末・明治の史蹟が数多くある。京都を散策してほしい。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（60％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（10％）参加度（30％）備考（）

科目名 日本史基礎ゼミⅡ〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 増淵 徹

#### テーマ

古代の法から社会像を考える

#### 授業の目的（獲得目標）

『類聚三代格』をテキストに、古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的な方法論の修得を第一の目標とする。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めなければならない。補完する手段として史料訓読の課題を出す予定である。

#### 内容

- 第1回 授業の進行方法の説明。テキストの解説（1）
- 第2回 テキストの解説（2）。図書館の活用方法とレポート作成方法の説明
- 第3回 テキストの解説（3）。史料読解の実際演習（1）
- 第4回 史料読解の実際演習（2）
- 第5回 個別発表（1）
- 第6回 個別発表（2）
- 第7回 個別発表（3）
- 第8回 個別発表（4）
- 第9回 個別発表（5）
- 第10回 個別発表（6）
- 第11回 個別発表（7）
- 第12回 個別発表（8）
- 第13回 個別発表（9）
- 第14回 個別発表（10）
- 第15回 個別発表（11） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

#### 授業以外での学習方法

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。

#### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 (「授業中課題」には、授業でのレポートと課題とを含む)



## 2010 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 細川 涼一

## テーマ

吾妻鏡を読む

## 授業の目的（獲得目標）

鎌倉幕府の記録書である吾妻鏡を読むことで、中世史料・中世の漢文の読解に習熟することを目標とする。吾妻鏡は平氏の滅亡と源義経関係の記事を中心に講読していく。

## 内 容

- 第1回 吾妻鏡の講読（1）
- 第2回 吾妻鏡の講読（2）
- 第3回 吾妻鏡の講読（3）
- 第4回 吾妻鏡の講読（4）
- 第5回 吾妻鏡の講読（5）
- 第6回 吾妻鏡の講読（6）
- 第7回 吾妻鏡の講読（7）
- 第8回 吾妻鏡の講読（8）
- 第9回 吾妻鏡の講読（9）
- 第10回 吾妻鏡の講読（10）
- 第11回 吾妻鏡の講読（11）
- 第12回 吾妻鏡の講読（12）
- 第13回 吾妻鏡の講読（13）
- 第14回 吾妻鏡の講読（14）
- 第15回 吾妻鏡の講読（15） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

## 授業以外での学習方法

史料についてよく予習・復習をすること。テキストはプリントで配布する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（40％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（30％）参加度（30％）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本史基礎ゼミⅡ〈c〉

---

クラス c 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 尾下 成敏

---

テーマ

豊臣秀吉文書を読む

---

授業の目的（獲得目標）

豊臣秀吉発給文書のうち、都市政策・農村政策に関する文書などを読み、豊臣政権下の法と慣習について理解を深める授業です。受講生の義務は、①文書の読み下し、②担当箇所の逐語訳・事項解説の作成と報告、③近世前期の政治・社会・文化に関する調査と報告です。

---

内 容

第1回 ガイダンス、および秀吉発給文書に関する概説①

第2回 秀吉発給文書に関する概説②

第3回 秀吉発給文書の熟読（第3回から第15回まで内容は同じ。適宜、小テストも実施） なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

秀吉発給文書は、非常に面白い史料ですが、同時に研究書や辞書などの硬い文章を丁寧に読まない限り、よく理解できない史料でもあります。ですので、予習・復習は欠かさず行ってください。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（0）小テスト（30）授業中課題（10）授業中発表等（30）参加度（30）備考（試験を行わない代わりに、小テストを3回行います。また欠席が多い受講生、報告を怠る受講生は落第とします。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <d>

---

クラス d 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 高久 嶺之介

---

テーマ

幕末・明治の史料を読む。

---

授業の目的（獲得目標）

日本近代史史料を解読する能力を養う。下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようにする。

---

内 容

第1回 史料購読の方法

第2回 「安政の大獄」

第3回 同上

第4回 「池田屋事件」

第5回 「禁門の変」

第6回 「薩長盟約」

第7回 同上

第8回 「王政復古の号令」

第9回 同上

第10回 「鳥羽・伏見の戦い」

第11回 「大坂遷都の建白」

第12回 「徴兵令」

第13回 「琵琶湖疏水」

第14回 「明治の新聞」

第15回 同上 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

---

授業以外での学習方法

京都には京幕末・明治の史蹟が数多くある。京都を散策してほしい。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（60％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（10％）参加度（30％）備考（）

|             |               |      |      |
|-------------|---------------|------|------|
| 科目名         | 世界史基礎ゼミ I <a> |      |      |
| クラス         | a             | 配当回生 | 2 回生 |
| 講義期間        | 前期            | 定員   | 30   |
| <b>履修条件</b> |               |      |      |
| クラス指定       | 希望制           |      |      |
| 担当者         | 小野 浩          |      |      |

**テーマ**

美術と建築からイスラム世界を見る

**授業の目的（獲得目標）**

伝存するイスラム美術作品や建築物を見ることでイスラム世界の多様性と共通性を学ぶ。ただし、あくまで歴史の授業なのでそれぞれの美術作品や建築物を産み出した各地域や王朝の政治史と絡めてそれらを扱う。最近出た枅屋友子著『すぐわかるイスラームの美術 建築・写本芸術・工芸』東京美術 2009（2000 円）をテキストにする。この書は全頁カラーなので、できれば購入しておくのが望ましいが、購入していない者にはコピーして配布する。最初の何回かは出席者の輪読形式をとり、その都度解説を加えていくが、途中からは担当者を決めてコメ

**内 容**

- 第 1 回 イスラム世界の多様性と共通性（講義）
- 第 2 回 テキストの概略説明
- 第 3 回 出席者全員によるテキストの輪読と教員による解説（1）
- 第 4 回 出席者全員によるテキストの輪読と教員による解説（2）
- 第 5 回 出席者全員によるテキストの輪読と教員による解説（3）
- 第 6 回 出席者全員によるテキストの輪読と教員による解説（4）
- 第 7 回 テキスト内容の紹介とコメントを付したレジュメにもとづく担当者の発表（1）
- 第 8 回 テキスト内容の紹介とコメントを付したレジュメにもとづく担当者の発表（2）
- 第 9 回 テキスト内容の紹介とコメントを付したレジュメにもとづく担当者の発表（3）
- 第 10 回 テキスト内容の紹介とコメントを付したレジュメにもとづく担当者の発表（4）
- 第 11 回 テキスト内容の紹介とコメントを付したレジュメにもとづく担当者の発表（5）
- 第 12 回 テキスト内容の紹介とコメントを付したレジュメにもとづく担当者の発表（6）
- 第 13 回 テキスト内容の紹介とコメントを付したレジュメにもとづく担当者の発表（7）
- 第 14 回 テキスト内容の紹介とコメントを付したレジュメにもとづく担当者の発表（8）
- 第 15 回 テキスト内容の紹介とコメントを付したレジュメにもとづく担当者の発表（9） なお歴史学に関する講演会等を 1 回行うことがある。

**授業以外での学習方法****教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（）

科目名 世界史基礎ゼミ I <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 南 直人

**テーマ**

西洋史学専門研究への入門

**授業の目的（獲得目標）**

専門的な西洋史研究のために必要な基礎的知識・技法の修得をめざす 内容：西洋史学の概説的／専門的知識、専門研究のスタイル、近年における種々の専門的研究テーマについて学習する。そのために、いくつかの概説書から適宜テーマを選定し、各人がそれぞれ指定されたテーマについて、種々の資料・史料を収集して内容をまとめ、発表していく。原則として1回の授業で3～5名程度が発表する。概説書として次のようなものが挙げられる。

『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』；『西洋の歴史[近現代編]』；『イギリス近代史』；『近代フランスの歴

**内 容**

第1回 歴史学の意義、就職・進路の問題

第2回 西洋史研究へのイントロダクション

第3回 西洋古代史概説(1)

第4回 西洋古代史概説(2)

第5回 西洋古代史概説(3)

第6回 西洋中世史概説(1)

第7回 西洋中世史概説(2)

第8回 西洋中世史概説(3)

第9回 西洋近世史概説(1)

第10回 西洋近世史概説(2)

第11回 西洋近代史概説(1)

第12回 西洋近代史概説(2)

第13回 西洋近代史概説(3)

第14回 西洋現代史概説(1)

第15回 西洋現代史概説(2)

第16回 (なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある)

**授業以外での学習方法**

上に挙げた文献以外にもさまざまな概説書があるので、それらをできるだけ読んでおくことが望ましい

**教科書**

**成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（50）参加度（40）備考（）



科目名 世界史基礎ゼミⅡ〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 米田 健志

#### テーマ

東アジア史研究入門

#### 授業の目的（獲得目標）

主として東アジアの歴史を研究するために必要な基礎知識の習得をめざす。具体的には次のことがらである。①参考文献の探し方と利用法。②辞書・事典の利用法。③東アジア史に関する史料の探し方。東アジアという地域は広く、その歴史は長く多様である。受講生諸君も一人一人が異なる興味・関心をもっていることだろう。したがって、この授業では、まず各人がそれぞれの興味・関心に沿ったテーマを決める。ついで、そのテーマに関する文献を調べてレジュメを作成、授業においてその発表を行い、それにもとづいて他の受講生との討論をする、

#### 内 容

第1回 ガイダンス、発表順の決定

第2回 東アジア研究に関する文献紹介

第3回 発表と討論

第4回 発表と討論

第5回 発表と討論

第6回 発表と討論

第7回 発表と討論

第8回 発表と討論

第9回 発表と討論

第10回 発表と討論

第11回 発表と討論

第12回 発表と討論

第13回 発表と討論

第14回 発表と討論

第15回 授業のまとめ 尚、この授業では必要に応じて、学外授業を行う事がある。

#### 授業以外での学習方法

東アジア史に関しては、これまでに大変多くの文献が出版されているので、ぜひとも積極的に図書館を利用して、文献・情報を集めるよう心がけて欲しい。

#### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（35%）参加度（15%）備考（特になし）

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 世界史基礎ゼミⅡ〈b〉 |      |     |
| クラス         | b           | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 希望制         |      |     |
| 担当者         | 松浦 京子       |      |     |

**テーマ**

西洋史上の著名な史料を読む

**授業の目的（獲得目標）**

史料から意味内容を読み取る訓練。西洋史を学ぶにあたって、英文文献の読解は必須のツールである。また、歴史研究をすすめるには、史料を読み解き、それが物語る（示す）内容の持つ歴史的意味を理解できなければならない。これらの点をふまえて、Weidenfeld and Nicolson 社刊の Illustrated History of Europe に掲載されている抜粋史料の読解を行うと同時に、英文史料が物語る事象についての別種の邦訳史料を読むことで、史料から何かを読み取れるかを考えていきたい。受講生は、英文史料の

**内 容**

- 第1回 英文テキストの提示と内容解説、分担の決定
- 第2回 史料解読についての講義 邦訳史料の提示
- 第3回 4回生卒論中間報告会の聴講
- 第4回 ゼミ生報告1、質疑応答、事象解説
- 第5回 ゼミ生報告2、質疑応答、事象解説
- 第6回 ゼミ生報告3、質疑応答、事象解説
- 第7回 インターミッション（教員による講義）と小テスト
- 第8回 ゼミ生報告4、質疑応答、事象解説
- 第9回 ゼミ生報告5、質疑応答、事象解説
- 第10回 ゼミ生報告6、質疑応答、事象解説
- 第11回 インターミッション（教員による講義）と小テスト
- 第12回 ゼミ生報告7、質疑応答、事象解説
- 第13回 ゼミ生報告8、質疑応答、事象解説
- 第14回 ゼミ生報告9、質疑応答、事象解説
- 第15回 まとめと解説と小テスト

**授業以外での学習方法****教科書****参考書**

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (30%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

---

科目名 出土文字史料論 I

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 増淵 徹

---

テーマ

出土文字資料から考える遺跡と歴史像

---

### 授業の目的（獲得目標）

出土文字資料の研究上の位置づけを理解するとともに、それらを適切に解釈し、そこからどのような歴史像を描くことができるかについての、基本的な方法論を理解することを目的とする。なお、Iにおいては、官衙遺跡を中心に扱う。

---

### 内 容

- 第1回 歴史研究の素材としての出土文字資料の位置づけ
  - 第2回 出土文字資料の素材と特性（1）
  - 第3回 出土文字資料の素材と特性（2）
  - 第4回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（平城宮跡1）
  - 第5回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（平城宮跡2）
  - 第6回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（平城宮跡3）
  - 第7回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（斎宮跡）
  - 第8回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（下野国府跡1）
  - 第9回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（下野国府跡2）
  - 第10回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（下野国府跡3）
  - 第11回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（八幡林官衙遺跡1）
  - 第12回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（八幡林官衙遺跡2）
  - 第13回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（国分寺と文字瓦1）
  - 第14回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（国分寺と文字瓦2）
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

遺跡は、さまざまな材料を基に多面的に理解するものである。書籍や報告書だけでなく、遺跡を訪れたり、説明会に参加したりして、遺跡と文献史料の両方の視点から学ぶ姿勢を身につけてほしい。なお、機会があれば、1回程度、資料館または遺跡の見学を行いたい。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (70) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 出土文字史料論Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 集中 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 休講

テーマ

出土文字資料から考える遺跡と歴史像

### 授業の目的（獲得目標）

目的自体はⅠと同一であるが、Ⅰで履修した知識や方法論を踏まえ、Ⅰとは別の遺跡とその出土文字資料を採り上げ、理解を前進させる。そのためにⅠよりも文献史料を多用して授業を構成し、出土文字資料と文献史料との双方向からの歴史像構成という点で一段高い理解力の修得を目指す。なお、機会があれば、1回程度、資料館もしくは遺跡の見学を行う。

### 内 容

- 第1回 歴史研究の素材としての出土文字資料の特性（Ⅰの復習）。
- 第2回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（飯塚遺跡1）
- 第3回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（飯塚遺跡2）
- 第4回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（飯塚遺跡3）
- 第5回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（飯塚遺跡4）
- 第6回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（荘園遺跡1）
- 第7回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（荘園遺跡2）
- 第8回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（荘園遺跡3）
- 第9回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（地方の官衙的遺跡1）
- 第10回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（地方の官衙的遺跡2）
- 第11回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（地方の官衙的遺跡3）
- 第12回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（新出の文字資料1）
- 第13回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（新出の文字資料2）
- 第14回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像（新出の文字資料3）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

Ⅰと同様である。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験 (70) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 ( )



---

科目名 古文書学 A I (中世) <a>

クラス a

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員 40

---

履修条件

クラス指定

担当者 大田 壮一郎

---

テーマ

古文書の様式を学ぶ

---

授業の目的 (獲得目標)

古代・中世における古文書の各様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を修得する。

---

内 容

第1回 インTRODakションー講義の進め方ー

第2回 古文書とは?ー様式と機能ー

第3回 古文書の様式 I: 公式様文書 (1)

第4回 古文書の様式 I: 公式様文書 (2)

第5回 古文書の様式 I: 公式様文書 (3)

第6回 古文書の様式 I: 公式様文書 (4)

第7回 古文書の様式 II: 公家様文書 (1)

第8回 古文書の様式 II: 公家様文書 (2)

第9回 古文書の様式 II: 公家様文書 (3)

第10回 古文書の様式 II: 公家様文書 (4)

第11回 古文書の様式 III: 武家様文書 (1)

第12回 古文書の様式 III: 武家様文書 (2)

第13回 古文書の様式 III: 武家様文書 (3)

第14回 古文書の様式 III: 武家様文書 (4)

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

講義では基本的に活字の古文書を扱うが、『演習古文書選』(吉川弘文館)等で写真版の古文書を確認しておくこと。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（50%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（期末テストを主とするが、講義中の確認テスト（出席点も兼ねる）を規定回数以下しか受けていない場合は単位取得の対象とならない。）

科目名 古文書学 A I (中世) <b>

クラス b

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 大田 壮一郎

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の目的 (獲得目標)

古代・中世における古文書の各様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を修得する。

内 容

第1回 インTRODakションー講義の進め方ー

第2回 古文書とは?ー様式と機能ー

第3回 古文書の様式 I : 公式様文書 (1)

第4回 古文書の様式 I : 公式様文書 (2)

第5回 古文書の様式 I : 公式様文書 (3)

第6回 古文書の様式 I : 公式様文書 (4)

第7回 古文書の様式 II : 公家様文書 (1)

第8回 古文書の様式 II : 公家様文書 (2)

第9回 古文書の様式 II : 公家様文書 (3)

第10回 古文書の様式 II : 公家様文書 (4)

第11回 古文書の様式 III : 武家様文書 (1)

第12回 古文書の様式 III : 武家様文書 (2)

第13回 古文書の様式 III : 武家様文書 (3)

第14回 古文書の様式 III : 武家様文書 (4)

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義では基本的に活字の古文書を扱うが、『演習古文書選』(吉川弘文館)等で写真版の古文書を確認しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（期末テストを主とするが、講義中の確認テスト（出席点も兼ねる）を規定回数以下しか受けていない場合は単位取得の対象とならない。）

科目名 古文書学 AII (中世) <a>

クラス a

配当回生 2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 大田 壮一郎

テーマ

古文書研究の実践

### 授業の目的 (獲得目標)

古文書学 AI で学んだ様式論を前提に、古文書の写真版を題材に古文書研究の方法を実践形式で学び、活字史料では読み取れないモノとしての古文書の性格を理解する。この講義を通して古文書からできる限り多くの情報を引き出す能力を養う。

### 内 容

- 第1回 インTRODクシヨンー講義の進め方ー
- 第2回 古文書研究の基礎ー様式論の復習ー
- 第3回 古文書研究の基礎ー文書の伝来と管理ー
- 第4回 モノとしての古文書
- 第5回 中世武家文書の世界ー鎌倉幕府の場合 (1)ー
- 第6回 中世武家文書の世界ー鎌倉幕府の場合 (2)ー
- 第7回 中世武家文書の世界ー室町幕府の場合 (1)ー
- 第8回 中世武家文書の世界ー室町幕府の場合 (2)ー
- 第9回 室町時代の政治と文書システム (1)
- 第10回 室町時代の政治と文書システム (2)
- 第11回 室町時代の政治と文書システム (3)
- 第12回 室町時代の政治と文書システム (4)
- 第13回 戦国大名文書の世界 (1)
- 第14回 戦国大名文書の世界 (2)
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

講義では崩し字の読み方を指導する時間が確保できないので、基本的な用例については各自辞典等で自習されたい。また、博物館の展示等で出来るだけ現物の古文書に触れてほしい。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（50%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（期末テストを主とするが、講義中の確認テスト（出席点も兼ねる）を規定回数以下しか受けていない場合は単位取得の対象とならない。）

科目名 古文書学 AII (中世) <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 大田 壮一郎

テーマ

古文書研究の実践

### 授業の目的 (獲得目標)

古文書学 AI で学んだ様式論を前提に、古文書の写真版を題材に古文書研究の方法を実践形式で学び、活字史料では読み取れないモノとしての古文書の性格を理解する。この講義を通して古文書からできる限り多くの情報を引き出す能力を養う。

### 内 容

- 第1回 インTRODクシヨンー講義の進め方ー
- 第2回 古文書研究の基礎ー様式論の復習ー
- 第3回 古文書研究の基礎ー文書の伝来と管理ー
- 第4回 モノとしての古文書
- 第5回 中世武家文書の世界ー鎌倉幕府の場合 (1)ー
- 第6回 中世武家文書の世界ー鎌倉幕府の場合 (2)ー
- 第7回 中世武家文書の世界ー室町幕府の場合 (1)ー
- 第8回 中世武家文書の世界ー室町幕府の場合 (2)ー
- 第9回 室町時代の政治と文書システム (1)
- 第10回 室町時代の政治と文書システム (2)
- 第11回 室町時代の政治と文書システム (3)
- 第12回 室町時代の政治と文書システム (4)
- 第13回 戦国大名文書の世界 (1)
- 第14回 戦国大名文書の世界 (2)
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

講義では崩し字の読み方を指導する時間が確保できないので、基本的な用例については各自辞典等で自習されたい。また、博物館の展示等で出来るだけ現物の古文書に触れてほしい。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（50%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（期末テストを主とするが、講義中の確認テスト（出席点も兼ねる）を規定回数以下しか受けていない場合は単位取得の対象とならない。）



科目名 古文書学B I (近世) <a>

クラス a

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 小倉 宗

テーマ

日本近世の古文書

### 授業の目的（獲得目標）

日本近世の古文書（くずし字）を解読することを目的とします。 授業計画： 日本近世の古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、事前に配付した古文書のコピーを読んでいます。 この授業は、後期の「古文書学B II（近世）」とあわせて履修することを前提とします。 徳川将軍の領知宛行状（りょうちあてがいじょう）を中心に、江戸時代の重要な古文書を取りあげ、典型的な文字や文章について学習します。

### 内 容

第1回 古文書とくずし字

第2回 古文書とくずし字

第3回 村に関する古文書

第4回 村に関する古文書

第5回 村に関する古文書

第6回 町に関する古文書

第7回 町に関する古文書

第8回 町に関する古文書

第9回 寺社に関する古文書

第10回 寺社に関する古文書

第11回 寺社に関する古文書

第12回 武家に関する古文書

第13回 武家に関する古文書

第14回 武家に関する古文書

第15回 まとめ 古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を積み重ねることが何よりも大切です。 きちんとした出席と予習・復習を求めます。

### 授業以外での学習方法

博物館や資（史）料館などを訪れて、古文書の原物や写真を見ましょう。 地元や京都における近世の歴史に関心を持ちましょう。

### 教科書

**成績評価**

試験 (60) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

|       |                  |      |     |
|-------|------------------|------|-----|
| 科目名   | 古文書学B I (近世) <b> |      |     |
| クラス   | b                | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期               | 定員   | 40  |
| 履修条件  |                  |      |     |
| クラス指定 |                  |      |     |
| 担当者   | 小倉 宗             |      |     |

### テーマ

日本近世の古文書

### 授業の目的（獲得目標）

日本近世の古文書（くずし字）を解読することを目的とします。 授業計画：日本近世の古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、事前に配付した古文書のコピーを読んでいます。この授業は、後期の「古文書学B II（近世）」を履修せず、前期のみで完結することを前提とします。徳川将軍の領知宛行状（りょうちあてがいじょう）を中心に、江戸時代の重要な古文書を取りあげ、典型的な文字や文章について学習します。

### 内 容

第1回 古文書とくずし字

第2回 古文書とくずし字

第3回 村に関する古文書

第4回 村に関する古文書

第5回 村に関する古文書

第6回 町に関する古文書

第7回 町に関する古文書

第8回 町に関する古文書

第9回 寺社に関する古文書

第10回 寺社に関する古文書

第11回 寺社に関する古文書

第12回 武家に関する古文書

第13回 武家に関する古文書

第14回 武家に関する古文書

第15回 まとめ 古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を積み重ねることが何よりも大切です。きちんとした出席と予習・復習を求めます。

### 授業以外での学習方法

博物館や資（史）料館などを訪れて、古文書の原物や写真を見ましょう。地元や京都における近世の歴史に関心を持ちましょう。

### 教科書

**成績評価**

試験 (60) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 古文書学BI (近世) <c>

クラス c 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 40

## 履修条件

## クラス指定

担当者 岩崎 奈緒子

## テーマ

江戸時代のさまざまな種類の古文書に慣れる。

## 授業の目的 (獲得目標)

江戸時代の古文書にあらわれる文章表現を音読できるようになる。

## 内 容

- 第1回 私的な文書 1 家族
- 第2回 私的な文書 2 家族
- 第3回 私的な文書 3 個人
- 第4回 私的な文書 4 個人
- 第5回 私的な文書 5 個人
- 第6回 公的な文書 1 村
- 第7回 公的な文書 2 村
- 第8回 公的な文書 3 村
- 第9回 公的な文書 4 町
- 第10回 公的な文書 5 町
- 第11回 公的な文書 6 町
- 第12回 公的な文書 7 町
- 第13回 公的な文書 8 幕府・藩
- 第14回 公的な文書 9 幕府・藩
- 第15回 公的な文書 10 幕府・藩

## 授業以外での学習方法

授業で学習した内容を復習する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (備考参照) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (授業の冒頭に、前の授業で学習した内容を把握できているかどうか、小さなテストをします。その小テストの累計と、学期末のテストの合

計を成績とします。授業で行う小テストを1回5点として、全14回で合計70点、学期末試験を30点として、成績を評価します。)

科目名 古文書学BⅡ（近世）〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 小倉 宗

テーマ

日本近世の古文書

### 授業の目的（獲得目標）

日本近世の古文書を解読し、その内容を把握することを目的とします。 授業計画：古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、事前に配付した古文書のコピーを読みすすめ、日本近世の社会に関する理解を深めます。この授業は、前期の「古文書学BⅠ（近世）」とあわせて履修することを前提とします。徳川将軍の御内書（ごないしょ）を中心に、江戸時代の重要な古文書を取りあげ、典型的な文字や文章について学習します。

### 内 容

第1回 古文書と近世の社会

第2回 古文書と近世の社会

第3回 村に関する古文書

第4回 村に関する古文書

第5回 村に関する古文書

第6回 町に関する古文書

第7回 町に関する古文書

第8回 町に関する古文書

第9回 寺社に関する古文書

第10回 寺社に関する古文書

第11回 寺社に関する古文書

第12回 武家に関する古文書

第13回 武家に関する古文書

第14回 武家に関する古文書

第15回 まとめ 古文書を解読する力をつけるためには、予習と復習を積み重ねることが何よりも大切です。きちんとした出席と予習・復習を求めます。

### 授業以外での学習方法

日本近世の歴史に関する書物を読みましょう。古文書の写真を載せたり、それを活字に起こした史料集を見ましょう。

### 教科書

**成績評価**

試験 (60) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 古文書学BⅡ（近世）〈b〉

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 40

## 履修条件

## クラス指定

担当者 岩崎 奈緒子

## テーマ

江戸時代のさまざまな種類の古文書に慣れる。

## 授業の目的（獲得目標）

江戸時代の古文書のくずし字を音読できるようになる。

## 内 容

- 第1回 私的な文書 1 家族
- 第2回 私的な文書 2 家族
- 第3回 私的な文書 3 個人
- 第4回 私的な文書 4 個人
- 第5回 私的な文書 5 個人
- 第6回 公的な文書 1 村
- 第7回 公的な文書 2 村
- 第8回 公的な文書 3 村
- 第9回 公的な文書 4 町
- 第10回 公的な文書 5 町
- 第11回 公的な文書 6 町
- 第12回 公的な文書 7 町
- 第13回 公的な文書 8 幕府・藩
- 第14回 公的な文書 9 幕府・藩
- 第15回 公的な文書 10 幕府・藩

## 授業以外での学習方法

授業で学習した内容を復習する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（授業の冒頭に、前の授業で学習した内容を把握できているかどうか、小さなテストをします。その小テストの累計と、学期末のテストの合

計を成績とします。授業で行う小テストを1回5点として、全14回で合計70点、学期末試験を30点として、成績を評価します。)

科目名 日本思想史 I

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 古文書学C I (近世)

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件 古文書学B I (近世) またはB II (近世) を修得済みもしくは同等以上の者

---

クラス指定

---

担当者 横田 冬彦

---

テーマ

近世古文書の整理と解説 (1)

---

### 授業の目的 (獲得目標)

本学所蔵の近世古文書の現物を使って、その扱い方、整理、目録作成などをおこなう。ティーチング・アシスタントや大学院生の指導をうける。将来大学院進学や博物館学芸員をめざす学生のための授業。古文書の解読能力が中級であることを条件とするので (少なくとも古文書学B I・IIは修了していること)、最初の授業で読解試験をおこなう。

---

### 内 容

第1回 古文書読解能力試験

第2回 導入

第3回 古文書を解読する (1)

第4回 古文書を解読する (2)

第5回 古文書を解読する (3)

第6回 古文書を解読する (4)

第7回 古文書を整理する (1)

第8回 古文書を整理する (2)

第9回 古文書を整理する (3)

第10回 古文書を整理する (4)

第11回 古文書を整理する (5)

第12回 古文書を分析する (1)

第13回 古文書を分析する (2)

第14回 古文書を分析する (3)

第15回 報告会

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（30%）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（）

科目名 古文書学CⅡ（近世）

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 古文書学CⅠ（近世）を履修の者もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 横田 冬彦

テーマ

近世古文書の整理と解説（2）

### 授業の目的（獲得目標）

本学所蔵の近世古文書の現物を使って、その扱い方、整理、目録作成などをおこなう。ティーチング・アシスタントや大学院生の指導をうける。将来大学院進学や博物館学芸員をめざす学生のための授業。古文書の解読能力が中級であることを条件とする。古文書学CⅡをとっていることを条件とする。

### 内 容

第1回 導入および古文書読解能力についての試験（受講予定者は全員受けること） 受講についての相談にも応じます（前期授業の最後に示したものと一部変更があります）

第2回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第3回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第4回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第5回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第6回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第7回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第8回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第9回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第10回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第11回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第12回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第13回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第14回 整理した古文書によるレポートの報告会

第15回 整理した古文書によるレポートの報告会

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 世界史特講ⅰ（ヨーロッパ・アメリカ史Ⅰ）

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 日本史特講 a (古代史)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 告井 幸男

テーマ

平安時代中後期の歴史的位

### 授業の目的 (獲得目標)

・当該期に関する基礎的知識を獲得し、時代の特徴を把握する。 ・ 関連資料・関連文献の読解力の涵養。 ・ 特に古記録・古文書・儀式書・法制書・絵巻・文学作品などの記述から、歴史的諸様相を立体的に再構成する能力の錬磨。 ・ 当該期研究に関するネットやデータベースの利用方法への習熟。

### 内 容

- 第1回 日常的紛争の解決と処理
- 第2回 貴族社会の諸関係
- 第3回 検非違使の位置づけ
- 第4回 後世への展開と他地域との比較
- 第5回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説
- 第6回 平安京の概要―宮外諸司・後院・諸家など―
- 第7回 平安宮諸門・諸司の様相―諸政の具体相―
- 第8回 内裏諸殿舎・諸司と儀式
- 第9回 紫宸殿を中心とする空間の構成
- 第10回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説
- 第11回 行財政における個人的権限の顕現
- 第12回 下級官人の上訴行動
- 第13回 石清水臨時祭の展開
- 第14回 近衛の楽と雅楽の楽
- 第15回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説

### 授業以外での学習方法

授業が始まる前に前回の授業内容を反芻する。授業中に分からない語句などがあつた場合は、その日のうちに辞典などで調べる。授業中に出てきた史料や文献について、日頃より図書館などで馴れておく。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（25%×3）授業中課題（5%）授業中発表等（5%）参加度（15%）備考（）

科目名 日本史特講 b (古代史)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 告井 幸男

テーマ

平安時代の官人社会

授業の目的 (獲得目標)

・ 貴族よりは階級が下の、中下級官人たちの具体的様相を把握する。 ・ 単なる人物伝・伝記には終わらない、人物像の構築。 ・ 官司請負制の前史と歴史的可能性の認識。 ・ 歴史資料と文学資料の総合的利用による歴史像の構成。

内 容

第1回 医道官人1

第2回 医道官人2

第3回 天文道・暦道

第4回 陰陽道

第5回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説

第6回 算道

第7回 明法道1

第8回 明法道2

第9回 明法道3

第10回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説

第11回 明経道

第12回 絵師

第13回 楽人

第14回 宮道氏

第15回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説

授業以外での学習方法

授業が始まる前に前回の授業内容を反芻する。授業中に分からない語句などがあった場合は、その日のうちに辞典などで調べる。授業中に出てきた史料や文献について、日頃より図書館などで馴れておく。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（25%×3）授業中課題（5%）授業中発表等（5%）参加度（15%）備考（）

科目名 日本史特講 c (中世史)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 細川 涼一

テーマ

中世寺院と民衆・女性の生活

### 授業の目的（獲得目標）

中世寺院を舞台として、民衆・女性の生活を知る。中世の宗教・芸能を通して、中世に生きた民衆や女性の生活や心性を探ることを目的とする。具体的には、京都や畿内近国の中世の寺院を舞台として、そこに生きた人々の社会生活史的解明を行う。内容は講義形式で、何回かで一つの話題が完結する方法をとる。

### 内 容

- 第1回 京都・小野小町伝説の寺(1)小野随心院と深草少将の百夜通い伝説
- 第2回 京都・小野小町伝説の寺(2)小町の衰老落魄説話
- 第3回 京都・小野小町伝説の寺(3)市原野小町寺と謡曲「通小町」
- 第4回 中世の被差別民衆(1)
- 第5回 中世の被差別民衆(2)
- 第6回 中世の被差別民衆(番外)関ヶ原の戦と大谷吉継
- 第7回 源実朝の妻の生涯と京都西八条遍照心院(1)源実朝と実朝の妻
- 第8回 源実朝の妻の生涯と京都西八条遍照心院(2)実朝の妻と遍照心院
- 第9回 源実朝の妻の生涯と京都西八条遍照心院(3)安達泰盛と実朝の妻
- 第10回 後醍醐天皇と神泉苑(1)「京都は神泉苑から生まれた」
- 第11回 後醍醐天皇と神泉苑(2)後醍醐天皇の宗教政策と神泉苑
- 第12回 後醍醐天皇と神泉苑(3)後醍醐天皇の側近僧と天狗
- 第13回 中世における戦争と平和(1)蒙古襲来と仏教
- 第14回 中世における戦争と平和(2)中世における八幡信仰
- 第15回 中世における戦争と平和(3)南北朝内乱と楠木正儀

### 授業以外での学習方法

配布されたプリントをよく復習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50 %) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50 %) 備考 ( )

---

科目名 日本史特講 d (中世史)

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 田端 泰子

---

テーマ

中世社会の構造とその変革

---

### 授業の目的 (獲得目標)

鎌倉期から秀吉政権期までの中世全期について、社会構造の変化の過程を主軸に置き、その変化に政治はどのように対応したのか、政権担当者からの諸政策はどのような変化を社会にもたらしたのか、二方向から検討することにしたい。

---

### 内 容

- 第1回 中世庄園の成立
  - 第2回 庄園と公領
  - 第3回 鎌倉幕府と地頭制
  - 第4回 鎌倉期の村落
  - 第5回 「御百姓申状」
  - 第6回 室町幕府の諸政策
  - 第7回 守護と国人領主
  - 第8回 庄家一揆・土一揆・徳政一揆
  - 第9回 応仁・文明の乱
  - 第10回 戦国期の京都
  - 第11回 戦国大名毛利氏の領国支配
  - 第12回 今川・武田・後北条氏と東国社会
  - 第13回 織田信長の時代
  - 第14回 秀吉政権の成立
  - 第15回 関ヶ原合戦とその評価
- 

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (80%) 小テスト ( ) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (10%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 日本史特講 e (近世史)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 恒春

テーマ

16世紀後期の政治と社会 I

### 授業の目的（獲得目標）

天文12（1543）年、ポルトガル人の種子島来航により日本社会は初めてヨーロッパという異域の人と邂逅することとなった。これからおよそ1世紀のあいだキリスト教の受容を通じてヨーロッパ社会と交流をもつこととなる。当該期、日本社会は戦国の世から統一政権成立への過渡期であり、ヨーロッパ人がもたらした文物は天下一統に大きく寄与するところがあった。16世紀末期に天下を掌握した豊臣秀吉の台頭は、以後の日本社会を考えていく上で重要な劃期となる。講義では豊臣政権の歴史的性格を多面的に宣教師たちの史料をも援用しながら検討し

### 内 容

- 第1回 大航海時代 その1
- 第2回 大航海時代 その2
- 第3回 鉄炮の伝来
- 第4回 ザビエル来日
- 第5回 大航海時代 小活
- 第6回 織田信長の上洛
- 第7回 室町幕府の崩壊
- 第8回 信長の諸政策
- 第9回 信長という男
- 第10回 信長の台頭 小活
- 第11回 本能寺、賤ヶ岳、秀吉の天下取り
- 第12回 小牧長久手の戦い、家康との拮抗
- 第13回 関白政権の誕生 その1
- 第14回 関白政権の誕生 その2
- 第15回 秀吉という男 小活

### 授業以外での学習方法

講義中その都度指示する

### 教科書

### 参考書



---

## 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（〈学部生〉最終試験 50%  
授業中課題（レポート）30% 出席率 20% 〈大学院〉最終試験 50% 授業中課題（レポート）50% 出  
席率 0%）

科目名 日本史特講 f (近世史)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 恒春

テーマ

16世紀後期の日本社会 II

### 授業の目的 (獲得目標)

天文12(1543)年、ポルトガル人の種子島来航により日本社会は初めてヨーロッパ人という異域の人びとと邂逅することとなった。これからおよそ1世紀のあいだキリスト教の受容を通じてヨーロッパ社会と交流をもつこととなる。当該期、日本社会は戦国の世から統一政権成立への過渡期でありヨーロッパ人のもたらした文物は天下一統に大きく寄与することとなった。16世紀末期、天下を掌握した豊臣秀吉の台頭は、以後の日本社会を考えていくうえで重要な劃期となる。講義では豊臣政権の歴史的な性格を多面的に宣教師たちの史料を援用しながら検

### 内 容

- 第1回 宣教師ルイス・フロイスのみた日本 その1
- 第2回 宣教師ルイス・フロイスのみた日本 その2
- 第3回 アレッサンドロ・ヴァリニャーノの来日 その1
- 第4回 アレッサンドロ・ヴァリニャーノの来日 その2
- 第5回 宣教師たちの見た日本 小活
- 第6回 秀吉の諸政策
- 第7回 小田原攻めと天下一統
- 第8回 朝鮮出兵と国内
- 第9回 挫折と秀頼誕生
- 第10回 豊臣政権の歴史的な性格 小活
- 第11回 16世紀後期の朝廷
- 第12回 正親町天皇・後陽成天皇
- 第13回 武家官位と朝廷
- 第14回 豊臣秀吉発給文書
- 第15回 武家と朝廷 総括

### 授業以外での学習方法

講義中その都度指示する

### 教科書

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（〈学部生〉最終試験 50%  
授業中課題（レポート）30% 出席率 20% 〈大学院〉最終試験 50% 授業中課題（レポート）50% 出  
席率 0%）

## 2010 Syllabus

科目名 日本史特講 g (近現代史)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代地域社会の変容 I

**授業の目的 (獲得目標)**

日本近代の地域社会が明治・大正・昭和戦前期を通じてどのように変化していくか京都府・滋賀県を中心的素材として明らかにする (前期は明治期のみ)。

**内 容**

第1回 前期で何を話すか (概説)

第2回 維新の諸隊 (赤報隊、山国隊、山科郷士)

第3回 同上

第4回 国の「文明開化」政策は村々にどのように入っていくか (小学校、徴兵、地租改正など)。

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 府県会と町村会

第9回 同上

第10回 明治維新後、交通体系はどのように変わってくるか

第11回 同上

第12回 琵琶湖疏水

第13回 同上

第14回 明治の自然災害と不況

第15回 同上

**授業以外での学習方法**

京都・滋賀の史蹟を紹介する。できれば歩いてほしい。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (70%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 日本史特講 h (近現代史)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

近代地域社会の変容 II

授業の目的 (獲得目標)

日本近代の地域社会が明治・大正・昭和を通じてどのように変容していくかを京都府・滋賀県を中心的素材として明らかにする。

内 容

- 第1回 後期の授業の進め方 (概説)
- 第2回 町村合併と新たな村の誕生
- 第3回 同上
- 第4回 日清・日露戦争を通じて地域社会はどう変わるか。
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 日露戦後の地域社会
- 第8回 大正期の地域社会
- 第9回 同上
- 第10回 交通の発達
- 第11回 観光の進展
- 第12回 同上
- 第13回 昭和の戦争と地域社会
- 第14回 同上
- 第15回 同上

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (70%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

---

科目名 日本女性史特講 I

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 田端 泰子

---

テーマ

女性史研究の現状と今後の課題

---

### 授業の目的（獲得目標）

日本の女性史研究は戦前期の高群逸枝の著作以来、近年は広く深く研究が進んでいる。この研究の現状を先ず理解し、そこに見られる今後のさまざまな問題点をあぶり出してみる。

---

### 内 容

- 第1回 原始・古代の労働と性差
  - 第2回 都城の変遷と女性
  - 第3回 平安京の貴族女性
  - 第4回 平安期女性の財産権
  - 第5回 院政期女院論
  - 第6回 鎌倉期女性の財産権
  - 第7回 地頭級領主の存在形態
  - 第8回 南北朝内乱期の女性
  - 第9回 室町期京都の商工業者
  - 第10回 将軍家と日野家
  - 第11回 戦国期東国の女性
  - 第12回 戦国期畿内・西国の女性
  - 第13回 「洛中洛外図」と京の変遷
  - 第14回 織豊政権と大名の妻その1
  - 第15回 織豊政権と大名の妻その2
- 

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（80%）小テスト（）授業中課題（10%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）

科目名 日本女性史特講Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 細川 涼一

テーマ

動乱の時代を生きた女性たち（源平合戦期・幕末・近代）

授業の目的（獲得目標）

源平合戦期・幕末戊辰戦争・近代を舞台に、動乱期を生きた女性たちの姿を具体的に探る。内容は講義形式で、何回かで一つの話題が完結する方法をとる。

内 容

- 第1回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（1）
- 第2回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（2）
- 第3回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（3）
- 第4回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（4）
- 第5回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（5）
- 第6回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―まとめ『吾妻鏡』の方法
- 第7回 源平合戦期の女性2 女武者巴（1）
- 第8回 源平合戦期の女性2 女武者巴（2）
- 第9回 源平合戦期の女性3 建礼門院
- 第10回 幕末会津戊辰戦争と娘子軍（1）
- 第11回 幕末会津戊辰戦争と娘子軍（2）
- 第12回 幕末会津戊辰戦争と娘子軍（3）
- 第13回 近代の都市空間とモダンガール（1）
- 第14回 近代の都市空間とモダンガール（2）
- 第15回 近代の都市空間とモダンガール（3）

授業以外での学習方法

配布されたプリント（とくに史料）を読んで復習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（50％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（50％）備考（）

科目名 日本思想史Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 文化史・文化交流史 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 田中 哲雄

テーマ

発掘庭園から見た日本庭園史

授業の目的（獲得目標）

発掘庭園で検出された庭園遺跡から従来の日本庭園史を見直し、新たな日本庭園史を理解し、今後検出される発掘庭園についての基礎知識がもてる。

内 容

- 第1回 日本庭園史の研究と庭園史
- 第2回 庭園用語
- 第3回 庭園の発生と原始の庭園
- 第4回 古事記・万葉集・日本書紀の中の庭園記事
- 第5回 飛鳥時代の庭園遺跡
- 第6回 続日本紀・懐風藻の庭園記事
- 第7回 奈良時代の庭園遺跡
- 第8回 「作庭記」の購読
- 第9回 「作庭記」平安時代庭園の呼称
- 第10回 平安時代（平安宮・京）の庭園遺跡
- 第11回 平安時代（平安宮・京以外）の庭園遺跡
- 第12回 中世寺院の庭園遺跡
- 第13回 中世城館の庭園遺跡
- 第14回 平城宮庭園遺跡の見学
- 第15回 平城京庭園遺跡の見学

授業以外での学習方法

参考文献を紹介

教科書

参考書

成績評価

試験（レポート(70%)）小テスト（）授業中課題（（20%））授業中発表等（）参加度（（10%））備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 文化史・文化交流史Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 外書研究 a

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 井上 徳子

---

テーマ

中国語の文献の講読

---

**授業の目的（獲得目標）**

中国語テキストの読解力を要請すると共に、中国史についての知識・認識を深めることを目標とする

---

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 中国語文献講読(1)

第3回 中国語文献講読(2)

第4回 中国語文献講読(3)

第5回 中国語文献講読(4)

第6回 中国語文献講読(5)

第7回 中国語文献講読(6)

第8回 中国語文献講読(7)

第9回 中国語文献講読(8)

第10回 中国語文献講読(9)

第11回 中国語文献講読(10)

第12回 中国語文献講読(11)

第13回 中国語文献講読(12)

第14回 中国語文献講読(13)

第15回 中国語文献講読(14)

---

**授業以外での学習方法**

受講者は、テキストについて予習してくること。また、授業で扱われている時代や人物などに関する文章を積極的に読み、知識の習得に心がけてもらいたい。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（この授業では、古代から中

世の間に幾度となく都となった西安の歴史について、中国語で概説したテキストを購読する。第2回目以降は、テキスト本文を受講者が順番に日本語訳し、井上が必要に応じて訂正・補足を行う、というかたちで授業を進める。原則として毎回全員が訳読を分担してもらいたい。その際、中国音による発音は課さない。これは、決して発音を軽視するわけではなく、限られた時間を最大限、この授業の主眼である読解力の養成や内容の理解に充当するためである。また、テキストを読み進めるなかで、関連する資料を随時配布する。)

科目名 外書研究 b

クラス 配当回生 2 回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

アジア史関連英語文献選読

### 授業の目的（獲得目標）

アジア史に関する英語文献をテキストにして、常に文法に留意しつつ精読する姿勢を習得する。単語を辞書で引いてそれを適当に組み合わせて意味の通るように日本語化する、といった態度を排し、まずなによりも文法的に読解することを目指す。テキストはアジア歴史に関連するものを適宜選んで配布する。テキストごとに書誌的知識と歴史背景を簡単に解説するが、初回から最終回まで通して出席者全員で輪読していくので、毎回十分な予習が必須となる。

### 内 容

- 第 1 回 この授業の方針説明
- 第 2 回 テキストの解説
- 第 3 回 全員による輪読および内容の解説 その 1
- 第 4 回 全員による輪読および内容の解説 その 2
- 第 5 回 全員による輪読および内容の解説 その 3
- 第 6 回 全員による輪読および内容の解説 その 4
- 第 7 回 全員による輪読および内容の解説 その 5
- 第 8 回 全員による輪読および内容の解説 その 6
- 第 9 回 全員による輪読および内容の解説 その 7
- 第 10 回 全員による輪読および内容の解説 その 8
- 第 11 回 全員による輪読および内容の解説 その 9
- 第 12 回 全員による輪読および内容の解説 その 10
- 第 13 回 全員による輪読および内容の解説 その 11
- 第 14 回 全員による輪読および内容の解説 その 12
- 第 15 回 全員による輪読および内容の解説 その 13

### 授業以外での学習方法

授業までに必ず文献の予習をしておくこと。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（）

---

科目名 外書研究 c

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 山内 暁子

---

テーマ

古代ギリシア・ローマにおける女性

---

### 授業の目的（獲得目標）

西洋史を学ぶために必要な英語読解の力を、古代の女性に関する史料を読むことによって身に付けていきます。文章を正確にとらえると共に、そこから読み取れる社会の様子や、時代背景、そして史料自体が持つ意味について学んでいきます。英語を読む授業ですが、歴史の知識を身に付ける手段としてとらえていますので、文法事項よりも内容把握に重点がおかれます。史料を読み、解説を聞くことによって、自分なりの歴史像を持ってもらうことが目標です。古代史になじみがなくても大丈夫のように、基本事項から説明を行います。さらに参考資料を配布し、古

---

### 内 容

- 第1回 イン트로ダクション
  - 第2回 古代における女性の立場
  - 第3回 家の中の女性たち（1）
  - 第4回 家の中の女性たち（2）
  - 第5回 女性への評価（1）
  - 第6回 女性への評価（2）
  - 第7回 様々な女性たち：妻
  - 第8回 様々な女性たち：愛人
  - 第9回 様々な女性たち：女王
  - 第10回 女と男（1）
  - 第11回 女と男（2）
  - 第12回 宗教における女性（1）
  - 第13回 宗教における女性（2）
  - 第14回 宗教における女性（3）
  - 第15回 総括
- 

### 授業以外での学習方法

授業中に適宜指示します。

---

### 教科書

### 成績評価

試験（35）小テスト（）授業中課題（15）授業中発表等（25）参加度（25）備考（評価の中心は授業中に和訳を発表することにおかれます。毎回予習して参加するようにして下さい。）



科目名 外書研究 d

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 山内 暁子

テーマ

古代ギリシア・ローマにおける宗教

### 授業の目的（獲得目標）

西洋史を学ぶために必要な英語読解の力を、古代の宗教に関する史料を読むことによって身に付けていきます。文章を正確にとらえると共に、そこから読み取れる社会の様子や、時代背景、そして史料自体が持つ意味について学んでいきます。英語を読む授業ですが、歴史の知識を身に付ける手段としてとらえていますので、文法事項よりも内容把握に重点がおかれれます。史料を読み、解説を聞くことによって、自分なりの歴史像を持ってもらうことが目標です。古代史になじみがなくても大丈夫なように、基本事項から説明を行います。さらに参考資料を配布し、古

### 内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 古代世界における祭り：ギリシア
- 第3回 古代世界における祭り：ローマ（1）
- 第4回 古代世界における祭り：ローマ（2）
- 第5回 女性と宗教：ギリシア（1）
- 第6回 女性と宗教：ギリシア（2）
- 第7回 女性と宗教：ローマ（1）
- 第8回 女性と宗教：ローマ（2）
- 第9回 周縁的な宗教：ギリシア
- 第10回 周縁的な宗教：ローマ
- 第11回 多神教とキリスト教（1）
- 第12回 多神教とキリスト教（2）
- 第13回 キリスト教（1）
- 第14回 キリスト教（2）
- 第15回 総括

### 授業以外での学習方法

授業中に適宜指示します。

### 教科書

### 成績評価

試験（35）小テスト（）授業中課題（15）授業中発表等（25）参加度（25）備考（評価の中心は授業中に和訳を発表することにおかれます。毎回予習して参加するようにして下さい。）

科目名 外書研究 e

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 鷺田 睦朗

テーマ

専門学術文献（英語）の読解

### 授業の目的（獲得目標）

英語で書かれた歴史学の専門論文（入門的なものも含む）を読み、その内容を正確に理解する能力を修得する。まずは逐語訳をおこないその内容を正確に理解する。さらに、専門論文についての種々の約束事についての理解もはかる。文献は近現代ヨーロッパの歴史にかかわるテーマで、適切なものを指定する。最初に受講者の英語能力を測るため、少し入門的・一般的な文献を読む。

### 内 容

第1回 外国語文献の読解の重要性、英語文献の特徴などの説明

第2回 比較的易しい入門的文献の読解(1)

第3回 比較的易しい入門的文献の読解(2)

第4回 比較的易しい入門的文献の読解(3)

第5回 少しむずかしい入門的文献の読解(1)

第6回 少しむずかしい入門的文献の読解(2)

第7回 少しむずかしい入門的文献の読解(3)

第8回 少しむずかしい入門的文献の読解(4)

第9回 平均的な専門的文献の読解(1)

第10回 平均的な専門的文献の読解(2)

第11回 平均的な専門的文献の読解(3)

第12回 平均的な専門的文献の読解(4)

第13回 平均的な専門的文献の読解(5)

第14回 平均的な専門的文献の読解(6)

第15回 平均的な専門的文献の読解(7)

### 授業以外での学習方法

授業の予習は必ずおこなうことは当然として、それ以外の文献も自主的に読んでいただきたい。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 外書研究 f

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 佐藤 専次

---

テーマ

ヨーロッパ中世史に関する英語文献の講読

---

**授業の目的（獲得目標）**

西洋中世史に関する英語文献を講読して、西洋史の英文を正確に理解して的確に翻訳し、かつ西洋中世史について理解を深める。

---

**内 容**

第1回 ヨーロッパ中世に関する英語文献を講読する。本年は、図版を豊富に使用してヨーロッパ中世をわかりやすく概観した、George Holmes, The Oxford Illustrated History of Medieval Europe をテキストに使用する。授業では、英文を読み進めながら内容について解説していく。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

**授業以外での学習方法**

毎回全員に訳させる予定でいるので、確実な予習が必要である。

---

**教科書**

**参考書**

---

## 成績評価

試験（40%） 小テスト（） 授業中課題（） 授業中発表等（30%） 参加度（30%） 備考（）

科目名 世界史特講 a (東アジア史 I)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 世界史特講 b (東アジア史Ⅱ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 世界史特講 c (東アジア史Ⅲ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 島居 一康

テーマ

東アジア諸民族の国家形成

授業の目的 (獲得目標)

中国とその周辺民族の国家形成の歴史を概観し、現代東アジア世界の構造を理解する。

内 容

第1回 東アジアの諸民族と現代東アジア諸国

第2回 中国文明の起源－黄河文明と長江文明－

第3回 春秋戦国時代の社会と国家

第4回 秦漢帝国と漢民族の形成

第5回 分裂時代の中国と東アジア世界－五胡・倭国・高句麗－

第6回 隋唐世界帝国とトルコ系民族－鮮卑・突厥・ウイグル－

第7回 チベット系民族の国家形成－吐蕃・西夏－

第8回 モンゴル系民族の国家形成－契丹・蒙古－

第9回 ツングース計民族の国家形成－渤海・女真・満洲－

第10回 近世東アジアの中華帝国－元・明・清－

第11回 東アジアの近代化－アヘン戦争・明治維新・日清戦争－

第12回 「中華民族」と中国の国民国家建設－洋務運動・辛亥革命

第13回 中華人民共和国と社会主義建設

第14回 「多民族国家」中国の民族問題

第15回 現代東アジア世界の諸問題

授業以外での学習方法

基礎的な知識や学術用語等について、概説書・事典等参考文献と共に、インターネットを活用した予習を指示することがある。

教科書

参考書

成績評価

試験 (筆記試験を行う。) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (出欠確認を行う。) 備考 (筆

記試験の成績を 60%、授業への出席状況を 40%の比率で評価する。)

科目名 世界史特講 d (東アジア史Ⅳ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 島居 一康

テーマ

東南アジア諸民族の国家形成

授業の目的 (獲得目標)

東南アジア諸民族の国家形成の歴史を概観し、現代東南アジア世界の構造を理解する。

内 容

- 第1回 ベトナム族の始祖伝説と越南国
- 第2回 「独立ベトナム」の発展
- 第3回 クメール帝国とラオス・カンボジア
- 第4回 フランス領インドシナの成立
- 第5回 インドシナ戦争とベトナム戦争
- 第6回 タイ族の南下－スコタイ朝からアユタヤ朝－
- 第7回 ビルマ族・モン族・シャン族の国家形成
- 第8回 タイとビルマの抗争－トンブリ朝からバンコク朝－
- 第9回 タイの近代化－日本との比較－
- 第10回 英領ビルマの成立から「ミャンマー」軍事政権へ
- 第11回 マラッカ王国の成立と繁栄
- 第12回 英領海峡植民地－マレーシアとシンガポール－
- 第13回 インドネシアの海洋王国－シュリービジャヤ・マジャパヒト－
- 第14回 オランダ領インドネシアの成立と発展
- 第15回 スペイン領フィリピン諸島の歴史

授業以外での学習方法

基礎的な知識や学術用語等について、概説書・事典等参考文献とともに、インターネットを活用した予習を指示することがある。

教科書

参考書

成績評価

試験 (筆記試験を行う。) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (出欠確認を行う。) 備考 (筆

記試験の成績を 60%、授業への出席状況を 40%の比率で評価する。)

## 2010 Syllabus

科目名 世界史特講 e (中央・西アジア史 I)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 世界史特講 f (中央・西アジア史Ⅱ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

ユーラシアにおけるテュルク・モンゴルの歴

### 授業の目的 (獲得目標)

ユーラシア大陸に興起したテュルク・モンゴル系遊牧民国家の足跡を紹介し、彼らの世界史上に果たした役割を考察する。遊牧民は定住民が主役の座を占める現代世界においては社会の隅に追いやられたような扱いを受け、高校の教科書などでも正当な位置づけがなされていない。だが、大陸東方からざっと見渡しても、匈奴・鮮卑・柔然・突厥・ウイグル・契丹・カルルク・ハザル・ガズナ朝・カラハン朝・セルジューク朝・大モンゴル帝国とその後継勢力・ティムール朝・ムガル朝・サファヴィー朝・オスマン朝といった具合にテュルク・モンゴル系の人びとが築

### 内 容

- 第1回 ユーラシアの歴史とは――ヨーロッパ中心史観からの脱皮 その1 大モンゴル帝国――モンゴルが東西を結ぶ その2 ティムール登場 ティムール朝の文化 サファヴィー朝の成立 モンゴル・テュルクの暦 その1 モンゴル・テュルクの暦 その2
- 第2回 ユーラシアの歴史とは――ヨーロッパ中心史観からの脱皮 その2
- 第3回 テュルク・モンゴル諸族の分布
- 第4回 匈奴の国家組織
- 第5回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その1
- 第6回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その2
- 第7回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その4
- 第8回 ウイグルと唐
- 第9回 ウイグルとソグド人
- 第10回 西ウイグル国と仏教
- 第11回 モンゴルの興起――チンギス・カンの征服活動
- 第12回 大モンゴル帝国――モンゴルが東西を結ぶ その1
- 第13回 大モンゴル帝国――モンゴルが東西を結ぶ その2
- 第14回 ティムールとティムール朝の文化
- 第15回 テュルクとモンゴルの暦

### 授業以外での学習方法

### 教科書

**成績評価**

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（

科目名 世界史特講 g (中央・西アジア史Ⅲ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史 I

### 授業の目的 (獲得目標)

エジプト古代王朝史の前半の流れを知り、理解を深める 内容・授業の進め方/ 古代エジプト文明の特色は、約三千年の長きにわたりオリエント世界で重要な役割を担った点に最もよく見出せる。授業では、その文明を生み出す前提となった風土をはじめとし、国家統一へと向かう先王朝時代、国家の基礎が形成される初期王朝時代、壮大なピラミッドの造営事業を成し遂げた古王国時代、そして、文化の爛熟期である中王国時代にいたる王朝史を辿る (それに続く王朝史後半は後期の世界史特講 h で扱う)。またそれと並行して、古代エジプト史を理解する

### 内 容

第1回 講座解説 (映像資料観賞を含む)

第2回 自然環境と地理的背景：ナイルの恵み

第3回 先王朝時代：農耕の始まり

第4回 先王朝時代：農耕社会の成長

第5回 国家統一へ/ナルメル王のパレットを読む

第6回 初期王朝時代：国家基盤の形成

第7回 古王国時代：ピラミッドの出現/王権の確立

第8回 古王国時代：ピラミッドの変遷

第9回 古王国時代：ギザの三大ピラミッド

第10回 古王国時代：ピラミッド建造の背景

第11回 古王国時代：繁栄の終焉

第12回 第一中間期：統一の崩壊/社会変革

第13回 中王国時代：文化の熟成/古典の形成

第14回 総括 (映像資料観賞/レポート提出を含む)

第15回 総括 (映像資料観賞/レポート提出を含む) ※講義の流れの中で、各回のテーマ (内容) は前後する場合もある。

### 授業以外での学習方法

古代エジプト人たちの残した遺跡や遺物、また記録が王朝史を解明する原点であることは言うまでもない。最近では、それらの文化遺産の多くが書物だけにとどまらず、様々な形で紹介されているので、それらも積極的に利用することが望ましい。『古代エジプト文明と遺跡 (全17巻)』: 早稲田大学・古代エジプト調査室製作のビデオ (本学AVセンター収蔵) など。



---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (80) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 世界史特講 h (中央・西アジア史IV)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史 II

### 授業の目的 (獲得目標)

エジプト古代王朝史の後半の流れを知り、理解を深める 内容・授業の進め方/ 前期の世界史特講 g に引き続き、国家の統一が再び崩壊する第二中間期を契機として、輝かしい繁栄が再来する新王国時代、さらには衰退へと向かう末期王朝時代までの古代エジプト王朝史の後半を辿る。さらに、アレクサンダー大王によるエジプト征服や女王クレオパト(7世)に代表されるプトレマイオス王朝を概観する。なお、トトメス一族やハトシェプスウト女王、異端王アクエンアテン、ツタンカーメン王ならびにラメセス大王(2世)が生きた時代として知られる新王

### 内 容

第1回 講座解説(映像資料観賞を含む)

第2回 王朝史前半を振り返る/大民族移動の嵐

第3回 第二中間期 : 異民族ヒクソスの支配

第4回 第二中間期 : エジプト解放戦争

第5回 第二中間期 : 再統一と武力外交

第6回 新王国時代 : ハトシェプスウト女王1

第7回 新王国時代 : ハトシェプスウト女王2

第8回 新王国時代 : トトメス3世の侵略戦争

第9回 新王国時代 : アメンヘテプ3世と帝国の栄華

第10回 新王国時代 : アマルナ宗教改革の断行

第11回 新王国時代 : ツタンカーメン王の治世

第12回 新王国時代 : ラメセス2世の奮闘/栄光の終焉

第13回 末期王朝~ギリシア・ローマ時代/新時代の幕開け、アレクサンダー大王の到来

第14回 総括(映像資料観賞/レポート提出を含む)

第15回 総括(映像資料観賞/レポート提出を含む) ※講義の流れの中で各回のテーマは前後することもある。

### 授業以外での学習方法

古代エジプト史に関連する研究成果を掲載している雑誌や論集に目を通すことも大切である。主なものとしては屋形禎亮他/岩波講座・世界歴史2『オリエント世界』、日本オリエント学会・編集発行の『オリエント』、早稲田大学エジプト学会・編集発行の『エジプト学研究』など。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (80%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 世界史特講 i (ヨーロッパ・アメリカ史 I)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

食という視点からヨーロッパの歴史を考察する

授業の目的 (獲得目標)

ヨーロッパの中世から近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ史についての理解を深める。前期の授業では、ヨーロッパ世界が拡大し、非ヨーロッパ世界を支配していく過程と食との関わりを中心に考察する。

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 ヨーロッパの食文化の特質 (1)
- 第3回 ヨーロッパの食文化の特質 (2)
- 第4回 香辛料の世界史的役割 (1)
- 第5回 香辛料の世界史的役割 (2)
- 第6回 「コロンブスの交換」 (1)
- 第7回 「コロンブスの交換」 (2)
- 第8回 「コロンブスの交換」 (3)
- 第9回 ジャガイモとトウモロコシ (1)
- 第10回 ジャガイモとトウモロコシ (2)
- 第11回 新しい飲料の導入
- 第12回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配
- 第13回 ヨーロッパ的食生活の成立 (1)
- 第14回 ヨーロッパ的食生活の成立 (2)
- 第15回 まとめ・総括

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (10) 授業中課題 (60) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 世界史特講 j (ヨーロッパ・アメリカ史Ⅱ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

食という視点からヨーロッパの歴史を考察する

授業の目的 (獲得目標)

ヨーロッパの中世から近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ史についての理解を深める。後期はヨーロッパの近代社会の形成と食生活との関わりについて考察する。

内 容

- 第1回 食の歴史の意義 (食にかかわる諸側面を考える)
- 第2回 食品偽装問題 (1)
- 第3回 食品偽装問題 (2)
- 第4回 食品監視システム (1)
- 第5回 食品監視システム (2)
- 第6回 食の科学化 (1)
- 第7回 食の科学化 (2)
- 第8回 食教育 (1)
- 第9回 食教育 (2)
- 第10回 食事作法 (1)
- 第11回 食事作法 (2)
- 第12回 外食の発達 (1)
- 第13回 外食の発達 (2)
- 第14回 外食の発達 (3)
- 第15回 まとめ・総括

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (10) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 (0)

## 2010 Syllabus

科目名 世界史特講 k (ヨーロッパ・アメリカ史Ⅲ)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 世界史特講Ⅰ（ヨーロッパ・アメリカ史Ⅳ）

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 世界女性史特講 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

19世紀イギリス社会と女性 I

### 授業の目的（獲得目標）

19世紀にヘゲモニー国家として未曾有の繁栄を誇ったとされるイギリスにあって、女性達はどのような生活を送っていたのか。前期においては、教育と結婚生活を中心に概観する。その仮定で、当時のイギリス社会を特徴づけた「産業革命＝工業化」「階級制度」「植民地帝国」「帝国主義と大衆民主主義」といった要素が、女性達の有り様を公然と、また暗黙裏に規定していたことについて理解することをめざす。

### 内 容

- 第1回 19世紀（ヴィクトリア期）の社会構造
- 第2回 二類型の女性と、それぞれの階級にとっての教育の意味
- 第3回 ガヴァネス教育と女学校教育
- 第4回 女子教育改革運動1（背景としてのガヴァネス問題とフェミニズム）
- 第5回 女子教育改革運動2（成果としての中等教育改革から大学教育へ）
- 第6回 労働者階級女子の教育（労働と教育の狭間）
- 第7回 初等公教育制度
- 第8回 共同学習としての相互改良運動と女性（女性協同組合ギルドの成果）
- 第9回 女性にとっての教育まとめと復習（小テスト）
- 第10回 婚姻制度の変遷
- 第11回 労働者階級女性にとっての結婚①（望ましい選択肢にして危険な賭）
- 第12回 労働者階級女性にとっての結婚②（家計責任者としての奮闘）
- 第13回 中流階級女性にとっての結婚①（唯一の選択肢）
- 第14回 中流階級女性にとっての結婚②（家庭の天使の実態）
- 第15回 結婚の意味についてのまとめと復習（小テスト）

### 授業以外での学習方法

19世紀イギリス社会全般に関する文献を幅広く通読すること

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (40%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 世界女性史特講Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

19世紀イギリス社会と女性Ⅱ

### 授業の目的（獲得目標）

19世紀にヘゲモニー国家として未曾有の繁栄を誇ったとされるイギリスにあって、女性達はどのような生活を送っていたのか。後期においては、労働と余暇生活を中心に概観する。その過程で、当時のイギリス社会を特徴づけた「産業革命＝工業化」「階級制度」「植民地帝国」「帝国主義と大衆民主主義」といった要素が、女性達の在り様を公然と、また暗黙裏に規定していたことについて理解することをめざす。

### 内 容

第1回 前工業化期の女性賃金労働の種類と労働構造の特質

第2回 ヴィクトリア期（工業化社会）における女性賃金労働の種類と労働構造の特質1（センサスデータによる静態型分析）

第3回 ヴィクトリア期（工業化社会）における女性賃金労働の種類と労働構造の特質2（センサスデータによる動態型分析）

第4回 婚姻状況による労働形態の差

第5回 労働組合と女性

第6回 女性労働運動と social feminism

第7回 ホワイトブラウス職（教職、事務職）の登場

第8回 中流階級女性の社会進出としての公務職、専門職

第9回 女性労働のまとめと復習（小テスト）

第10回 近代社会の産物としての余暇時間

第11回 中流階級女性特有の余暇活動1（conspicuous leisure）

第12回 中流階級女性特有の余暇活動2（charity, voluntary society）

第13回 労働者階級女性と余暇（労働の傍らの気晴らし、余暇の商業化）

第14回 労働者階級女性の社会活動（余暇活動としての mothers' meeting）

第15回 女性と余暇のまとめと復習（小テスト）

### 授業以外での学習方法

19世紀イギリス社会全般に関する文献を広く通読すること

### 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (40%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習 I <a>  |      |     |
| クラス   | a  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミ I・II、基礎ゼミ I・II、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミ I または研究入門ゼミ II のいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 増淵 徹   |      |     |

## テーマ

日本古代史研究 I

## 授業の目的（獲得目標）

古代史を研究する上で基本的な史料の読解や研究方法を修得し、次年度の卒業研究に必要な能力の向上を目的とする。講読（古代史）とは異なる史料（平安期）を扱い、徹底的に史料を読むなかで、史料読解の基礎的な力量の向上を図ることに主眼を置く。なお、古代の遺跡や研究機関への見学（1回）、歴史学研究の課題に関する講演会（あるいはミニシンポジウム）を予定（1回）している。

## 内 容

- 第1回 授業の進め方の解説。テキストの解説
- 第2回 図書館の活用及び論文検索の方法の解説。レポートの作成方法の解説。
- 第3回 史料の読解演習（1）
- 第4回 史料の読解演習（2）
- 第5回 個別発表（1）
- 第6回 個別発表（2）
- 第7回 個別発表（3）
- 第8回 個別発表（4）
- 第9回 個別発表（5）
- 第10回 個別発表（6）
- 第11回 個別発表（7）
- 第12回 個別発表（8）
- 第13回 個別発表（9）
- 第14回 個別発表（10）
- 第15回 個別発表（11）

## 授業以外での学習方法

古代史に関する知識の量的拡充が何より重要であり、そのために可能な限りの多読を勧める。活字に親しむ意欲に欠ける学生は望まない。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (10) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習 I <b>  |      |     |
| クラス   | b  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミ I・II、基礎ゼミ I・II、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミ I または研究入門ゼミ II のいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 細川 涼一  |      |     |

## テーマ

中世政治史・思想史・芸能史・民衆生活史の史料・論文を読む

## 授業の目的（獲得目標）

中世史研究の状況を知るとともに、論文読解の方法を身につけ、自分自身の研究作成にむけた目標を設定していくことにしたい。この授業では、日本中世史関係の論文から、ゼミ参加者の興味のある論文を読むとともに、適宜ゼミ参加者の研究発表を行っていく。前期には、「東寺百合文書」から都市京都の民衆、東寺領荘園の農民の生活がうかがえる史料を読むと同時に、関連論文の講読を行っていく。

## 内 容

- 第1回 「東寺百合文書」の講読（1）「東寺百合文書」とは
- 第2回 「東寺百合文書」の講読（2）東寺南大門前茶屋史料
- 第3回 「東寺百合文書」の講読（3）中世の茶屋をめぐる論文講読
- 第4回 「東寺百合文書」の講読（4）中世の茶屋をめぐる論文講読
- 第5回 「東寺百合文書」の講読（5）東寺と手猿楽史料
- 第6回 「東寺百合文書」の講読（6）東寺と手猿楽史料
- 第7回 「東寺百合文書」の講読（7）中世の猿楽能をめぐる論文講読
- 第8回 「東寺百合文書」の講読（8）中世の猿楽能をめぐる論文講読
- 第9回 「東寺百合文書」の講読（9）備中国新見荘のたまがき書状
- 第10回 「東寺百合文書」の講読（10）備中国新見荘のたまがき書状
- 第11回 「東寺百合文書」の講読（11）備中国新見荘の農民をめぐる論文講読
- 第12回 「東寺百合文書」の講読（12）備中国新見荘の農民をめぐる論文講読
- 第13回 「東寺百合文書」の講読（13）備中国新見荘の農民をめぐる論文講読
- 第14回 「東寺百合文書」の講読（14）山城国上下久世荘百姓等の起請文
- 第15回 「東寺百合文書」の講読（15）山城国上下久世荘百姓等の起請文 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

## 授業以外での学習方法

事前に配られた史料・論文を読んでおくこと。史料・論文はプリントで配布する。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (50 %) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (25 %) 参加度 (25 %) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習 I <c>  |      |     |
| クラス   | c  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミ I・II、基礎ゼミ I・II、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミ I または研究入門ゼミ II のいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 横田 冬彦  |      |     |

## テーマ

日本近世史研究の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

日本近世史研究を行うにあたっての、基本的な問題についての理解を深め、近世史の重要論文などの講読と批判、研究史と問題の設定、史料の収集と分析、論述のまとめ方などについて学ぶ。

## 内 容

- 第1回 演習の導入、文献・史料検索などについての導入
- 第2回 第一論文の講読（1）
- 第3回 第一論文の講読（2）
- 第4回 第一論文の講読（3）
- 第5回 第一論文についてのレポート作成
- 第6回 第二論文の講読（1）
- 第7回 第二論文の講読（2）
- 第8回 第二論文の講読（3）
- 第9回 第二論文のついてのレポート作成
- 第10回 第三論文の講読（1）
- 第11回 第三論文の講読（2）
- 第12回 第三論文の講読（3）
- 第13回 第三論文についてのレポート作成
- 第14回 まとめ、卒論のテーマ設定についての導入
- 第15回 期間中、歴史学科講演会を実施する

## 授業以外での学習方法

最初の演習で指示する

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習 I <d>  |      |     |
| クラス   | d  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミ I・II、基礎ゼミ I・II、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミ I または研究入門ゼミ II のいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 高久 嶺之介   |      |     |

## テーマ

日本近代史の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

研究論文を読みこなす能力や史料読解力など日本近代史を学ぶための必要な知識の習得

## 内 容

- 第1回 ゼミの運営方法と卒論テーマを決めていく際の心得
- 第2回 日本近代史にかかわる文献・史料の検索の仕方
- 第3回 日本近代史に関する著書・研究論文の選択方法と読み方
- 第4回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（1）
- 第5回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（2）
- 第6回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（3）
- 第7回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（4）
- 第8回 日本近代史に係るビデオ視聴（1）
- 第9回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（5）
- 第10回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（6）
- 第11回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（7）
- 第12回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（8）
- 第13回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（9）
- 第14回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（10）
- 第15回 日本近代史に関するビデオ視聴（2） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

## 授業以外での学習方法

事前に配布された文献を読んでくること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習 I <e>  |      |     |
| クラス   | e  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミ I・II、基礎ゼミ I・II、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミ I または研究入門ゼミ II のいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 田端 泰子  |      |     |

## テーマ

中世後期から織豊政権期社会の種々相：庄園村落に住む人々、都市に住む人々、

## 授業の目的（獲得目標）

中世の都市と農村・漁村・山村では、政権を握った人々の施策によって、人々の暮らしや考え方や生活形態が大きく異なるという現象が生じている。京に住む為政者の暮らしが、被支配者の行動や文化とどのように関連していたのか、主な史料と論文を読みつつ、中世後期の社会を政治、経済、生活の面から考えてみる。中世前期と後期の違いがわかるようになってもらいたい。

## 内 容

- 第1回 「太平記」や足利尊氏文書を読む。
- 第2回 ”
- 第3回 ”
- 第4回 室町期の政治に関する主要論文を読む。
- 第5回 ”
- 第6回 ”
- 第7回 戦国大名の家法を読む。
- 第8回 ”
- 第9回 戦国期に関する主要論文を読む。
- 第10回 ”
- 第11回 「信長公記」を読む。
- 第12回 ”
- 第13回 織豊政権に関する主要論文を読む。
- 第14回 ”
- 第15回 ” なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

**成績評価**

試験（50%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（50%）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習Ⅱ〈a〉   |      |     |
| クラス   | a   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミⅠ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミⅠまたは研究入門ゼミⅡのいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 増淵 徹  |      |     |

## テーマ

日本古代史研究Ⅱ

## 授業の目的（獲得目標）

演習Ⅰに続き、日本古代史を研究する上での史料読解・研究方法の習得と、そのための力量向上を目指す。演習Ⅰでの到達度をみながら、史料読解か論文演習を選択して授業を展開する。到達度が高い場合は平安期の別の史料の読解に進み、広く時代を研究するために多様な史料に対応できる能力の獲得を目指す。そうでない場合は論文演習に転じ、次年度における卒業研究に対応できる能力を早めに獲得する方向を目指す。なお、Ⅰと同様、学外学習（1回）や講演会（1回）を予定している。

## 内 容

- 第1回 テキストの配布と授業進行方法の説明
- 第2回 レポート作成の方法の説明
- 第3回 個別発表（1）
- 第4回 個別発表（2）
- 第5回 個別発表（3）
- 第6回 個別発表（4）
- 第7回 個別発表（5）
- 第8回 個別発表（6）
- 第9回 個別発表（7）
- 第10回 個別発表（8）
- 第11回 個別発表（9）
- 第12回 個別発表（10）
- 第13回 個別発表（11）
- 第14回 個別発表（12）
- 第15回 卒業研究に向けての指導

## 授業以外での学習方法

自分の興味のある分野に関連する論文や著作を多数読むこと。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (10) 参加度 (30) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習Ⅱ〈b〉   |      |     |
| クラス   | b   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミⅠ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミⅠまたは研究入門ゼミⅡのいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 細川 涼一   |      |     |

## テーマ

中世史をめぐる各自が研究したテーマを発表する

## 授業の目的（獲得目標）

中世史研究の状況を知るとともに、論文読解の方法を身につけ、自分自身の研究作成にむけた目標を設定していくことにしたい。この授業では、日本中世史関係の論文から、ゼミ参加者の興味のある論文を読むとともに、適宜ゼミ参加者の研究発表を行っていく。後期には、ゼミ参加者各自が自分の興味ある分野について調べた内容を発表し、皆で討論を行う。

## 内 容

- 第1回 発表と討論（1）
- 第2回 発表と討論（2）
- 第3回 発表と討論（3）
- 第4回 発表と討論（4）
- 第5回 発表と討論（5）
- 第6回 発表と討論（6）
- 第7回 発表と討論（7）
- 第8回 発表と討論（8）
- 第9回 発表と討論（9）
- 第10回 発表と討論（10）
- 第11回 発表と討論（11）
- 第12回 発表と討論（12）
- 第13回 発表と討論（13）
- 第14回 発表と討論（14）
- 第15回 発表と討論（15） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

## 授業以外での学習方法

研究発表に向けて関係する研究書・論文をよく読んで調べること。

## 教科書

**成績評価**

試験 (40 %) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (30 %) 参加度 (30 %) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習Ⅱ <c>  |      |     |
| クラス   | c   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミⅠ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミⅠまたは研究入門ゼミⅡのいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 横田 冬彦   |      |     |

## テーマ

近世史研究の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

卒業論文作成にむけた第一段階。自分のたてたテーマにそくしてこれまでの研究論文や研究書を収集し、読み込み、研究史をまとめ、そこから自分なりの課題を引き出す。対象とすべき史料を収集し、分析に入るといった、第一段階の作業をおこなう。年度末には、8000字程度のレポートを作成する。

## 内 容

- 第1回 卒業論文作成のための導入
- 第2回 4回生の卒業論文中間発表会への参加
- 第3回 参考文献検索・史料収集などについてのガイダンス
- 第4回 個別発表（1）
- 第5回 個別発表（2）
- 第6回 個別発表（3）
- 第7回 個別発表（4）
- 第8回 個別発表（5）
- 第9回 個別発表（6）
- 第10回 個別発表（7）
- 第11回 個別発表（8）
- 第12回 個別発表（9）
- 第13回 個別発表（10）
- 第14回 まとめ・レポート作成について
- 第15回 期間中に、歴史学科講演会を実施する

## 授業以外での学習方法

演習中に指示する

## 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（20%）参加度（30%）備考（

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習Ⅱ〈d〉   |      |     |
| クラス   | d   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミⅠ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミⅠまたは研究入門ゼミⅡのいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 高久 嶺之介  |      |     |

## テーマ

日本近代史の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

基礎的作業を継続するとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

## 内 容

- 第1回 3回生後期のゼミ運営方法討議
- 第2回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（1）
- 第3回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（2）
- 第4回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（3）
- 第5回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（4）
- 第6回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（5）
- 第7回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（6）
- 第8回 近代史に関するビデオ鑑賞（1）
- 第9回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（7）
- 第10回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（8）
- 第11回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（9）
- 第12回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（10）
- 第13回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（11）
- 第14回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（12）
- 第15回 近代史に関するビデオ鑑賞（2） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

## 授業以外での学習方法

文献リスト、史料リストを作成する。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習Ⅱ <e>  |      |     |
| クラス   | e   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミⅠ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミⅠまたは研究入門ゼミⅡのいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 田端 泰子   |      |     |

## テーマ

（前期と同様）

## 授業の目的（獲得目標）

受講生はほぼ卒論で研究したいテーマを決めていると思われるので、後期は、前期で獲得した予備知識を元に、各自が自主的に発表することとしたい。

## 内 容

- 第1回 受講生の発表。  
 第2回 〃  
 第3回 〃  
 第4回 〃  
 第5回 〃  
 第6回 〃  
 第7回 〃  
 第8回 〃  
 第9回 中間総括。弱点克服に必要な資料があればここで購読に切り替える。  
 第10回 〃  
 第11回 受講生の発表。  
 第12回 〃  
 第13回 〃  
 第14回 〃  
 第15回 〃 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( 100% ) 参加度 ( ) 備考 ( )



---

科目名 日本史講読 I <a>

---

クラス a 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

**履修条件**

---

クラス指定 希望制

---

担当者 増淵 徹

---

**テーマ**

奈良時代の史料を読む

---

**授業の目的（獲得目標）**

『続日本紀』の講読を通して、律令制に関する基礎的知識を習得するとともに、史料から問題点を発見し、自ら追求し、論文に結実させる研究能力を身につける。参加者は必ず報告を担当するが、報告の一巡後には他の奈良時代史料を読む場合もある。授業終了後には、担当した資料部分に関してレポートを提出させ、能力の状況をチェックする。

---

**内 容**

第1回 古代史の史料講読入門（1）－授業計画の説明、テキストの解説、レポート作成の方法－

第2回 古代史の史料講読入門（2）－他史料の利用法、図書館での文献検索の方法解説－

第3回 テキスト講読訓練

第4回 個別報告1

第5回 個別報告2

第6回 個別報告3

第7回 個別報告4

第8回 個別報告5

第9回 個別報告6

第10回 個別報告7

第11回 個別報告8

第12回 個別報告9

第13回 個別報告10

第14回 個別報告11

第15回 個別報告12

---

**授業以外での学習方法**

読書を通して古代史に関する知識量を豊富にすること。報告担当者以外にも史料の読みや解釈についての意見を求めるので、必ず予習して参加すること。

---

**教科書**

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 日本史講読 I <b>

クラス b 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 山田 徹

**テーマ**

鎌倉幕府の法令を読む —御成敗式目と追加法—

**授業の目的（獲得目標）**

「中世法制史料の読解力と、関連事項を調べる力をつける。」 法制史料は、文書・記録と並んで、中世史研究の基本的な史料です。本講では、御成敗式目など鎌倉幕府の法令を読み、上記の能力の養成を目指します。また、こうした法令を読み解いていくことで、中世社会で何が問題とされ、それに対して幕府がどのような対策をとろうとしていたのかも、わかってゆくことでしょう。

**内 容**

第1回 ガイダンス（テキストの配布と分担決定）

第2回 史料講読の基礎確認

第3回 史料講読の基礎確認 第一課題提出

第4回 史料の講読

第5回 史料の講読

第6回 史料の講読

第7回 史料の講読

第8回 史料の講読

第9回 史料の講読

第10回 史料の講読

第11回 史料の講読

第12回 史料の講読

第13回 史料の講読

第14回 史料の講読

第15回 史料の講読 第二課題提出

**授業以外での学習方法**

授業で取り上げることのできる法令は限られています。それ以外にも、中世法令の読解にチャレンジしてみてください。また、授業中に指示する研究書や論文にも、ぜひ目を通してみましょう。

**教科書**

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (第 1 回に決定した担当範囲に関して、読み下し・逐語訳・関連事項についてのレジユメを第 3 回までに提出してもらい (第一課題)、第 4 回以降の進行は、そのレジユメに沿った報告を順番におこなうかたちで進めていきます。成績評価は、この第一課題と報告のほか、授業の途中で提示する第二課題 (第 15 回までに提出) によっておこないます。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本史講読 I <c>

---

クラス c 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 尾下 成敏

---

テーマ

京都町触を読む

---

授業の目的（獲得目標）

享保4年（1719）以降、京都で出された町触を読む授業です。受講生の義務は以下の通り、①町触の読み下し、②担当した町触（20行程度）の逐語訳・事項解説の作成と報告、③他の史料をみて判明した点などを報告する。なお、本授業では、町触などの触書の性格に焦点を当てる予定です。

---

内 容

第1回 ガイダンス、および京都町触に関する概説

第2回 京都町触の熟読（第2回から第15回まで内容は同じ。適宜、小テストも実施）

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

テキスト中の漢文は返り点のない難解な漢文です。予習・復習を欠かさず行ってください。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(0) 小テスト(20) 授業中課題(30) 授業中発表等(35) 参加度(15) 備考( 試験を行わない代わりに、小テストを2回行います。また課題を2回出します。なお、欠席が多い受講生、報告を怠る受講生は、落第とします。)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 日本史講読 I <d> |      |     |
| クラス   | d           | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期          | 定員   | 30  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 希望制         |      |     |
| 担当者   | 田中 智子       |      |     |

テーマ

近代日本の手紙を読む

**授業の目的（獲得目標）**

日本近代史史料を読解する能力を養い、あわせて19世紀後半の日本史に対する理解を深める。史料解読を通じ、当時の文体や語法に慣れ親しむと同時に、関連史料や研究書の探し方を習得することをめざす。近代日本を代表するジャーナリスト・文筆家の徳富蘇峰（1863～1957）。彼をめぐる膨大な史料のなかから、明治期に彼に宛てられた書簡を読み、その思想内容や多彩な交友関係を検討し、彼が生きた時代についてのイメージをふくらませる。授業は、受講者が用意したレジュメをもとに進められる。受講生は、割り当てられた部分について、文章の

**内 容**

第1回 授業の進め方や史料に関するガイダンス

第2回 同上

第3回 受講生による発表、質疑応答、こちらからの補足説明

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

いろいろな人物の手紙を読んでみる。

**教科書**

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (45) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (45) 参加度 (10) 備考 ( )



---

科目名 日本史講読Ⅱ <a>

---

クラス a 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

**履修条件**

---

クラス指定 希望制

---

担当者 増淵 徹

---

**テーマ**

奈良時代の史料を読む

---

**授業の目的（獲得目標）**

『続日本紀』の講読（Ⅰとは別の箇所を扱う）を通して、律令制に関する基礎知識を学習するとともに、史料から問題点を発見し、自ら追求し、論文として結実させる研究能力を磨くことを目標とする。以下はⅠと同様。

---

**内 容**

第1回 授業解説1－授業計画の説明、報告担当順の決定－

第2回 授業解説2－奈良時代の他史料の解説ほか－

第3回 個別報告1

第4回 個別報告2

第5回 個別報告3

第6回 個別報告4

第7回 個別報告5

第8回 個別報告6

第9回 個別報告7

第10回 個別報告8

第11回 個別報告9

第12回 個別報告10

第13回 個別報告11

第14回 個別報告12

第15回 個別報告13

---

**授業以外での学習方法**

読書により古代史に関する知識の量的獲得に努めること。必ず予習して参加すること。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（30）授業中発表等（40）参加度（30）備考（）

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 日本史講読Ⅱ <b> |      |     |
| クラス   | b          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   | 30  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 山田 徹       |      |     |

### テーマ

建武政権の法令を読む — 『建武記』に記された法—

### 授業の目的（獲得目標）

「中世法制史料の読解力と、関連事項を調べる力をつける。」 法制史料は、文書・記録と並んで、中世史研究の基本的な史料です。本講では、『建武記』に記された建武政権の法令を読み、上記の能力の養成を目指します。また、こうした法令を読み解いていくことで、この時期に噴出した社会の諸問題や、復古とも革新ともいわれる後醍醐天皇の政権の本質も、みえてくることでしょう。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス（テキストの配布と分担決定）
- 第2回 史料講読の基礎確認
- 第3回 史料講読の基礎確認 第一課題提出
- 第4回 史料の講読
- 第5回 史料の講読
- 第6回 史料の講読
- 第7回 史料の講読
- 第8回 史料の講読
- 第9回 史料の講読
- 第10回 史料の講読
- 第11回 史料の講読
- 第12回 史料の講読
- 第13回 史料の講読
- 第14回 史料の講読
- 第15回 史料の講読 第二課題提出

### 授業以外での学習方法

授業で取り上げることのできる法令は限られています。それ以外にも、中世法令の読解にチャレンジしてみてください。また、授業中に指示する研究書や論文にも、ぜひ目を通してみましょう。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (第 1 回に決定した担当範囲に関して、読み下し・逐語訳・関連事項についてのレジユメを第 3 回までに提出してもらい (第一課題)、第 4 回以降の進行は、そのレジユメに沿った報告を順番におこなうかたちで進めていきます。成績評価は、この第一課題と報告のほか、授業の途中で提示する第二課題 (第 15 回までに提出) によっておこないます。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本史講読Ⅱ <c>

---

クラス c 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 尾下 成敏

---

テーマ

京都町触を読む

---

授業の目的（獲得目標）

天保12年（1841）以降、京都で出された町触を読む授業です。受講生の義務は以下の通り、①町触の読み下し、②担当した町触の逐語訳・事項解説の作成と報告、③他の史料をみて判明した点などを報告する。なお、本授業では、町触などの触書の性格に焦点を当てる予定です。

---

内 容

第1回 ガイダンス、および天保改革に関する論文の輪読①

第2回 天保改革に関する論文の輪読②

第3回 京都町触の熟読（第3回から第15回まで内容は同じ。適宜、小テストも実施）

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

テキスト中の漢文は返り点のない難解な漢文です。予習・復習を欠かさず行ってください。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (35) 参加度 (15) 備考 ( 試験を行わない代わりに、小テストを2回行います。また課題を2回出します。なお、欠席が多い受講生、報告を怠る受講生は、落第とします。)

科目名 日本史講読Ⅱ <d>

クラス d 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

**テーマ**

近代日本の新聞を読む

**授業の目的（獲得目標）**

日本近代史史料を読解する能力を養い、あわせて明治・大正期の日本史に対する理解を深める。史料解読を通じ、当時の文体や語法に慣れ親しむと同時に、関連史料や研究書の探し方を習得することをめざす。新聞は「東京朝日新聞」、「朝野新聞」、「都新聞」、「万朝報」などを使用する。授業は、受講者が用意したレジュメをもとに進められる。受講生は、割り当てられた紙面について、文章の音読ができるようにした上で、語句の意味、人名や事件名、歴史的背景を調べ、関連史料や論点をレジュメ化して提示し、発表することを求められる。

**内 容**

- 第1回 授業の進め方、史料についてのガイダンス
- 第2回 同上
- 第3回 受講生による発表、質疑応答、こちらからの補足説明
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

いろいろな新聞を読んでみる。

**教科書**

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (60) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (30) 参加度 (10) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 世界史演習 I <a>  |      |     |
| クラス   | a  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミ I・II、基礎ゼミ I・II、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミ I または研究入門ゼミ II のいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 島居 一康  |      |     |

## テーマ

中国史史料講読

## 授業の目的（獲得目標）

中国史の学習の基礎となる漢文・中国語分権の読解力を修得する。

## 内 容

- 第1回 漢文読解の基礎(1)
- 第2回 漢文読解の基礎(2)
- 第3回 漢文読解の基礎(3)
- 第4回 漢文読解の基礎(4)
- 第5回 漢文読解の基礎(5)
- 第6回 漢文読解の基礎(6)
- 第7回 各種漢文史料の講読(1)
- 第8回 各種漢文史料の講読(2)
- 第9回 各種漢文史料の講読(3)
- 第10回 各種漢文史料の講読(4)
- 第11回 各種漢文史料の講読(5)
- 第12回 各種漢文史料の講読(6)
- 第13回 中国語学術論文・史料の講読(1)
- 第14回 中国語学術論文・史料の講読(2)
- 第15回 中国語学術論文・史料の講読(3) なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

## 授業以外での学習方法

必要に応じて参考書等による予習を指示する。

## 教科書

## 参考書



## 成績評価

試験（筆記試験を行う。）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（出欠確認を行う。）備考（筆記試験の成績を 60%、授業への出席状況を 40%の比率で評価する。）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 世界史演習 I <b>  |      |     |
| クラス   | b  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミ I・II、基礎ゼミ I・II、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミ I または研究入門ゼミ II のいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 小野 浩   |      |     |

## テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

専門論文の読み方を会得することを目標とする。また文献探索・収集の仕方も習得する。内容 前期は初めの3～4回分を使って中央アジア・西アジアの歴史に関する学術論文を選読し、歴史の専門論文とはいかなるものかを習得させる。専門論文を読む場合、内容全体はもとより一文一文をおろそかにせず徹底して精読する姿勢が要求される点で、通常の読書とは異なる。たとえ日本語の論文であろうと、その内容がほぼ理解できるとは限らないのである。読んでみても解らないとき、著者の論旨が把握し難いのか、それとも自分自身の知識不足ゆえに理

## 内容

- 第1回 基本的工具類の紹介説明——目録・入門書・地図等
- 第2回 文献を探す——具体的に文献の所蔵確認およびその検索方法につき説明する
- 第3回 選定した学術論文の内容解説
- 第4回 担当者による内容報告（レジュメ配布）と質疑応答 その1
- 第5回 担当者による内容報告（レジュメ配布）と質疑応答 その2
- 第6回 担当者による内容報告（レジュメ配布）と質疑応答 その3
- 第7回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その1
- 第8回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その2
- 第9回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その3
- 第10回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その4
- 第11回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その5
- 第12回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その6
- 第13回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その7
- 第14回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その8
- 第15回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その9

## 授業以外での学習方法

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 世界史演習 I <c>  |      |     |
| クラス   | c  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミ I・II、基礎ゼミ I・II、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミ I または研究入門ゼミ II のいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 南 直人   |      |     |

## テーマ

西洋史の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探しだし、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学び、さらに研究発表および質疑・応答・討論の基本的な作法を身につける。まず最初は、全体的なガイダンスをおこない、テーマの設定の際の注意、学术论文の探し方などを学ぶ。その後各自で研究発表をしていく。それぞれのテーマに従って、文献・史料を探し出し、その内容を理解し、まとめ、発表する。

## 内 容

- 第1回 卒論の書き方、テーマ、卒業後の進路
- 第2回 文献探索の方法、図書館情報の利用方法の学習
- 第3回 卒業研究に関する基礎知識、これまでの卒業研究の内容の学習
- 第4回 個別発表1回目（1）
- 第5回 個別発表1回目（2）
- 第6回 個別発表1回目（3）
- 第7回 個別発表1回目（4）
- 第8回 個別発表1回目（5）
- 第9回 個別発表1回目（6）
- 第10回 個別発表2回目（1）
- 第11回 個別発表2回目（2）
- 第12回 個別発表2回目（3）
- 第13回 個別発表2回目（4）
- 第14回 個別発表2回目（5）
- 第15回 個別発表2回目（6）
- 第16回 （なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある）

## 授業以外での学習方法

自分のテーマを見つけだすために自分が関心を持つ分野の概説書・専門書等を読んでおくこと。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (50) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 世界史演習 I <d>  |      |     |
| クラス   | d  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミ I・II、基礎ゼミ I・II、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミ I または研究入門ゼミ II のいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 松浦 京子  |      |     |

## テーマ

文献検索に基づき、西洋史に関する学術研究論文を読む

## 授業の目的（獲得目標）

卒業論文作成に向けて各自が問題（テーマ）を発見するために、学術雑誌の論文を渉猟し、精読し、問題認識や設定、研究手法などを読み取り、西洋史学に対する研究視点を養うことを目的とする。

## 内容

- 第1回 歴史研究とは何かについて。本ゼミの目的（卒論作成に向けて必須のスキルとメソッドの獲得、テーマの設定、研究視点の多様性の認識）について講義
- 第2回 図書館ガイダンスに基づく、専門文献の検索の手法ならびに入手法についての説明
- 第3回 学術論文とは。松浦論文を用いて、文献の精読（批判的精読）、研究の視点、分析手法、論文構成について学ぶ。
- 第4回 松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う。①
- 第5回 松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う。②
- 第6回 これ以降は、受講者が順番に発表し、質疑応答・討論の形式をとるので、積極的に参加・発言することが望ましい。各自が関心を持っている地域、時代（大まかな区分でかまわない）に関して、どのような歴史上の課題が設定できるかを念頭におきつつ、各自の関心に関わる研究論文をできるだけ広く収集し、精読し、4本の簡単な内容紹介と1本については詳細な内容紹介を行う。これらの学習を通じて、卒論のテーマのしぼり込みを行う。ゼミ生報告1-①と質疑応答
- 第7回 ゼミ生報告1-②と質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告1-③と質疑応答
- 第9回 ゼミ生報告1-④と質疑応答
- 第10回 ゼミ生報告1-⑤と質疑応答
- 第11回 歴史学学生ミニシンポジウム—歴史学研究の課題（この企画の日時は未定。5回目以降のいずれかの回に設定する）
- 第12回 ゼミ生各自の一回目の報告が終了した時点で、おおよそのテーマ（関心対象となる事件、事象、もしくは地域、時代が）絞られてきていることが求められる。それに基づき、13回目以降は、各自がテーマに沿った文献リストを作成し、簡単な研究動向を報告する。ゼミ生報告2-①とリストチェック
- 第13回 ゼミ生報告2-②とリストチェック
- 第14回 ゼミ生報告2-③とリストチェック

### 授業以外での学習方法

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析・整理する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 世界史演習Ⅱ〈a〉   |      |     |
| クラス   | a   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミⅠ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミⅠまたは研究入門ゼミⅡのいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 島居 一康   |      |     |

## テーマ

中国史上の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

中国史の学習に必要な基礎知識と研究方法を修得する。

## 内 容

- 第1回 古代史(殷周・春秋戦国・秦漢)研究の諸問題(1)  
 第2回 古代史(殷周・春秋戦国・秦漢)研究の諸問題(2)  
 第3回 古代史(殷周・春秋戦国・秦漢)研究の諸問題(3)  
 第4回 古代史(殷周・春秋戦国・秦漢)研究の諸問題(4)  
 第5回 中世史(三国・魏晋南北朝・隋唐)研究の諸問題(1)  
 第6回 中世史(三国・魏晋南北朝・隋唐)研究の諸問題(2)  
 第7回 中世史(三国・魏晋南北朝・隋唐)研究の諸問題(3)  
 第8回 中世史(三国・魏晋南北朝・隋唐)研究の諸問題(4)  
 第9回 近世史(宋・遼・金・元・明・清)研究の諸問題(1)  
 第10回 近世史(宋・遼・金・元・明・清)研究の諸問題(2)  
 第11回 近世史(宋・遼・金・元・明・清)研究の諸問題(3)  
 第12回 近世史(宋・遼・金・元・明・清)研究の諸問題(4)  
 第13回 近代史(中華民国・中華人民共和国)研究の諸問題(1)  
 第14回 近代史(中華民国・中華人民共和国)研究の諸問題(2)  
 第15回 近代史(中華民国・中華人民共和国)研究の諸問題(3) なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

## 授業以外での学習方法

必要に応じて参考書等による予習を指示する。

## 教科書

## 参考書



---

## 成績評価

試験（筆記試験は行わない。）小テスト（）授業中課題（各自に課題を与える。）授業中発表等（各自発表させる。）参加度（）備考（各自に与えた課題を発表させ、その内容によって評価する。）

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 世界史演習Ⅱ〈b〉   |      |     |
| クラス   | b   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミⅠ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミⅠまたは研究入門ゼミⅡのいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 小野 浩  |      |     |

## テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

各人の卒論へ向けたテーマの模索と成果発表 内 容 後期は第1回から最終の第15回まで通して、各人の問題関心に沿った発表とそれに対する討論をおこない、卒論のテーマを考えていく。前期と同様に史料収集、目録からの論文探索、主要学術誌の紹介等は授業中に適宜行う。ただし、学外者を招いて講演会を開くこともある。

## 内 容

- 第1回 卒論の書き方、ルールを説明する。
- 第2回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その1
- 第3回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その2
- 第4回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その3
- 第5回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その4
- 第6回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その5
- 第7回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その6
- 第8回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その7
- 第9回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その8
- 第10回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その9
- 第11回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その10
- 第12回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その11
- 第13回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その12
- 第14回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その13
- 第15回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その14

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 世界史演習Ⅱ <c>  |      |     |
| クラス   | c   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミⅠ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミⅠまたは研究入門ゼミⅡのいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 南 直人  |      |     |

## テーマ

西洋史の諸問題

## 授業の目的（獲得目標）

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探しだし、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学び、さらに研究発表および質疑・応答・討論の基本的な作法を身につける。

## 内 容

第1回 卒論の書き方、テーマ、卒業後の進路

第2回 これまでの卒業研究の内容の復習

第3回 個別発表1回目（1）

第4回 個別発表1回目（2）

第5回 個別発表1回目（3）

第6回 個別発表1回目（4）

第7回 個別発表1回目（5）

第8回 個別発表1回目（6）

第9回 個別発表2回目（1）

第10回 個別発表2回目（2）

第11回 個別発表2回目（3）

第12回 個別発表2回目（4）

第13回 個別発表2回目（5）

第14回 個別発表2回目（6）

第15回 まとめ、卒論への展望 なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演会をそれぞれ1回程度行うことがある。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（50）参加度（40）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 世界史演習Ⅱ〈d〉   |      |     |
| クラス   | d   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 次の①と②の条件を両方満たしていること。①必修科目（研究入門ゼミⅠ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、歴史学総合講義）全10単位のうち6単位を修得済みであること。（加えて研究入門ゼミⅠまたは研究入門ゼミⅡのいずれか1科目2単位を修得済みであること。）②2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 松浦 京子   |      |     |

## テーマ

西洋史に関する学術文献にもとづく研究発表

## 授業の目的（獲得目標）

卒業論文作成に向けて確定したテーマに見合う基礎知識の獲得をめざす

## 内 容

- 第1回 （講義）研究テーマから問題提起へ ―研究動向整理と問題点の発見
- 第2回 （講義）論文構成の進め方 ―研究報告的講義と研究の発展過程の説明
- 第3回 4回生ゼミと合同の卒論中間発表会
- 第4回 これ以降、前期に引き続いて、受講者が順番に発表し、質疑応答・討論の形式をとる。前期の作業の成果を受けて、受講者は、卒業論文のテーマを確定する。そのうえで各自のテーマに沿って、そのテーマから論文課題を抽出するために当該時期・領域に関する概説書、古典的地位を得ている研究書を広く収集し、精読し基本的知識の獲得と理解に努めなければならない。後期のゼミでは、各自が進めている研究成果を発表と言う形でゼミ生仲間に披露し、質疑応答や担当教員からの指導を通して、意義あるかたちに整え、論文の問題関心をしぼっていか
- 第5回 ゼミ生報告と質疑応答3-②（基本的知識の収集成果に基づく報告）
- 第6回 ゼミ生報告と質疑応答3-③（基本的知識の収集成果に基づく報告）
- 第7回 ゼミ生報告と質疑応答3-④（基本的知識の収集成果に基づく報告）
- 第8回 ゼミ生報告と質疑応答3-⑤（基本的知識の収集成果に基づく報告）
- 第9回 歴史学研究ミニシンポジウム（日時は移動の可能性あり）
- 第10回 ゼミ生報告と質疑応答4-①（問題関心の明示、それに対応した報告）
- 第11回 ゼミ生報告と質疑応答4-②（問題関心の明示、それに対応した報告）
- 第12回 ゼミ生報告と質疑応答4-③（問題関心の明示、それに対応した報告）
- 第13回 ゼミ生報告と質疑応答4-④（問題関心の明示、それに対応した報告）
- 第14回 ゼミ生報告と質疑応答4-⑤（問題関心の明示、それに対応した報告）
- 第15回 1年の研究成果のチェックと、今後の（就職活動に関しての確認も含めて）研究方針の立案

## 授業以外での学習方法

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関

心にそって分析・整理する。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 世界史講読 I <a>

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 小野 浩

**テーマ**

中央アジア・西アジア史関連の文献史料と論文を読む

**授業の目的（獲得目標）**

中央アジア・西アジア史に関連する史料（旅行記も含む）および論文を読み、歴史史料と専門論文の読み方を習得する。 内 容 前近代の中央アジア・西アジア史に関わる文献史料（旅行記を含む）を選び輪読する。英語文献を選定することもある。テキストは出席者の関心を考慮する（コピーにして配布）。毎回全員で輪読し、内容から問題点を読み取る。

**内 容**

第1回 授業の目的説明、およびテキストの説明と選定。

第2回 史料ないし論文の概略の解説 その1

第3回 輪読と内容の解説 その1

第4回 輪読と内容の解説 その2

第5回 輪読と内容の解説 その3

第6回 輪読と内容の解説 その4

第7回 輪読と内容の解説 その5

第8回 輪読と内容の解説 その6

第9回 史料ないし論文の概略の解説 その2

第10回 輪読と内容の解説 その1

第11回 輪読と内容の解説 その2

第12回 輪読と内容の解説 その3

第13回 輪読と内容の解説 その4

第14回 輪読と内容の解説 その5

第15回 輪読と内容の解説 その6

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**



試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 世界史講読 I <b> |      |     |
| クラス         | b           | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 前期          | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 希望制         |      |     |
| 担当者         | 宮本 純二       |      |     |

**テーマ**

古代エジプト史と女性

**授業の目的（獲得目標）**

関連史料をもとに、古代エジプト王家において女性が置かれた立場について理解を深める 内容・授業の進め方 / 古代エジプト王朝史は、「王家の女性たち」の華麗な生涯によって彩られている。女性ながらファラオの権勢を手中にしたハトシェプスウト女王、異端のアマルナ時代に夫君と並ぶ権力を行使したネフェルティティ王妃、そしてかのクレオパトラ女王、等々。当時のエジプトにおいて、女性は、社会的地位を十分に認められ、十分な敬意を払われていた。この授業では、まず担当者（宮本）が各時代を代表する「王家の女性」を解説すると共に、当時

**内 容**

- 第1回 導入（講座説明・映像資料観賞）
- 第2回 エジプトの風土と社会
- 第3回 古王国時代：スネフル王とヘテプヘレス王妃
- 第4回 中王国時代：王女たちの墓と宝物
- 第5回 新王国時代1：ハトシェプスウト女王・ネフェルティティ王妃
- 第6回 新王国時代2：ラメセス2世とネフェルタリ王妃
- 第7回 ギリシア・ローマ時代：クレオパトラ女王
- 第8回 課題発表
- 第9回 課題発表
- 第10回 課題発表
- 第11回 課題発表
- 第12回 課題発表
- 第13回 課題発表
- 第14回 総括・指導（映像資料観賞・レポート提出を含む）
- 第15回 総括・指導（映像資料観賞・レポート提出を含む） ※なお受講者数に対応して、授業の流れは変わる場合がある。

**授業以外での学習方法**

古代エジプト史に関連する研究成果を掲載している雑誌や論集に目を通し、考察の着眼点や論述の進め方などを知ることも大切である。屋形禎亮他／岩波講座・世界歴史2『オリエント世界』や、日本オリエント学会・編集発行の研究雑誌『オリエント』、早稲田大学エジプト学会・編集発行の『エジプト学研究』など。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (40) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 世界史講読 I <c>

クラス c 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

**テーマ**

英語文献の精読と内容理解

**授業の目的（獲得目標）**

英語文献史料の正確な翻訳力と、それを史料として用いる力を身につけることを目指す。西洋史研究において必携である英語文献の読解能力を身につけ向上させるために、比較的平易な英語研究書をゼミ生で輪読し、内容についての質疑応答を行う。テキストは、19世紀イギリスで横行し後に社会問題となった児童労働の実態と、その解消のために尽力した人物ならびに運動を概観した Elizabeth Longmate, *Children at Work 1830-1885*, (Then and There Series), U.K., 1

**内 容**

第1回 テキストの紹介、担当箇所の決定

第2回 背景としての奴隷制貿易反対運動と博愛主義運動の説明と、冒頭数頁の全訳と特記事項の紹介

第3回 これ以降学生の翻訳報告に入る 学生報告①と質疑応答

第4回 学生報告②と質疑応答

第5回 学生報告③と質疑応答

第6回 ここまでの内容に関連する事象についての解説（労働者の家庭と子ども）

第7回 学生報告④と質疑応答

第8回 学生報告⑤と質疑応答

第9回 学生報告⑥と質疑応答

第10回 ここまでの内容に関する事象（イギリスの農業事情、教育事情）

第11回 学生報告⑦と質疑応答

第12回 学生報告⑧と質疑応答

第13回 学生報告⑨と質疑応答

第14回 学生報告⑩と質疑応答

第15回 内容把握確認のための総括と、解説

**授業以外での学習方法**

関連文献の収集と精読

**教科書**

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 世界史講読Ⅱ〈a〉

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 小野 浩

**テーマ**

中央アジア・西アジア史関連の文献史料と論文を読む

**授業の目的（獲得目標）**

中央アジア・西アジア史に関連する文献史料（旅行記も含む）および論文を選読し、歴史史料と専門論文の読み方を習得する。 内 容 前近代の中央アジア・西アジア史に関わる文献史料（旅行記を含む）と専門論文を選んで輪読する。英語文献を選定することもある。テキストは出席者の関心を考慮する（コピーして配布）。毎回全員で輪読し、内容から問題点を読み取る。

**内 容**

第1回 授業の目的、および史料・論文の解説と選定。

第2回 史料・論文の概略説明 その1

第3回 輪読と内容の解説 その1

第4回 輪読と内容の解説 その2

第5回 輪読と内容の解説 その3

第6回 輪読と内容の解説 その4

第7回 輪読と内容の解説 その5

第8回 輪読と内容の解説 その6

第9回 史料・論文の概略説明 その2

第10回 輪読と内容の解説 その1

第11回 輪読と内容の解説 その2

第12回 輪読と内容の解説 その3

第13回 輪読と内容の解説 その4

第14回 輪読と内容の解説 その5

第15回 輪読と内容の解説 その6

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（

|             |            |      |     |
|-------------|------------|------|-----|
| 科目名         | 世界史講読Ⅱ <b> |      |     |
| クラス         | b          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 後期         | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |            |      |     |
| クラス指定       | 希望制        |      |     |
| 担当者         | 宮本 純二      |      |     |

**テーマ**

古代エジプト文明とオリエント世界

**授業の目的（獲得目標）**

古代エジプト文明と周辺のオリエント諸地域との「交流史」をたどり、その相互影響を探ると共に、研究の現状を知る 内容・授業の進め方/ 周囲を砂漠や海に囲まれた「隔離された自然環境」の下で、古代エジプト人が非常に「個性的な文明」を築いたことはよく知られている。とはいえ、彼等は外の世界、すなわち周辺諸地域で暮らす人々との関係を絶ち、完全に孤立していたというわけではない。それどころか、最初の国家統一以来、エジプト人たちは、外部からの大きな刺激や影響を幾度も受けて成長しているのである。このような視点をもとに、関連

**内 容**

- 第1回 導入（講座説明・古代エジプト王朝史概説）
- 第2回 シュメール文明とバビロニア
- 第3回 シリア・パレスティナの都市国家
- 第4回 ミタンニ王国／馬と戦車
- 第5回 鉄の王国ヒッタイト／カデシュの戦い
- 第6回 アッシリアのエジプト侵攻 ギリシア（クレタ）からの贈物
- 第7回 アフリカ（クシュ王国）とヌビアの黄金 聖なる香料の国（プント）
- 第8回 課題発表
- 第9回 課題発表
- 第10回 課題発表
- 第11回 課題発表
- 第12回 課題発表
- 第13回 課題発表
- 第14回 総括・指導（映像資料観賞・レポート提出を含む）
- 第15回 総括・指導（映像資料観賞・レポート提出を含む） ※なお受講者数に対応して、授業の流れは変わる場合もある。

**授業以外での学習方法**

エジプトを含めた古代オリエント史に関する論考を掲載している雑誌や論集を読み、研究・考察の着眼点や論述の進め方などを知ることが大切である。屋形禎亮他 岩波講座・世界歴史2『オリエント世界』（1998）および、日本オリエント学会・編集発行の研究雑誌『オリエント』、早稲田大学エジプト学会・編集発行の『エジプト学研



究』など。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (40) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 世界史講読Ⅱ <c>

クラス c 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 鷺田 睦朗

**テーマ**

西洋史関連文献を読む

**授業の目的（獲得目標）**

西洋史学のさまざまなテーマに関する専門的学術論文を読解し、西洋史学学界における基本的な論点や問題関心についての理解を深める。後期は第1回から最終の第15回まで通して、各人の問題関心に沿った発表とそれに対する討論をおこない、卒論のテーマを考えていく。特に後期は、4回生からの卒論作成を意識しつつ、自分の関心あるテーマの論文を探索することも行う。

**内 容**

- 第1回 卒業論文作成に向けての説明
- 第2回 専門論文内容紹介（古代）（1）
- 第3回 専門論文内容紹介（古代）（2）
- 第4回 専門論文内容紹介（古代）（3）
- 第5回 専門論文内容紹介（中世）（1）
- 第6回 専門論文内容紹介（中世）（2）
- 第7回 専門論文内容紹介（中世）（3）
- 第8回 専門論文内容紹介（近世）（1）
- 第9回 専門論文内容紹介（近世）（2）
- 第10回 専門論文内容紹介（近世）（3）
- 第11回 専門論文内容紹介（近代）（1）
- 第12回 専門論文内容紹介（近代）（2）
- 第13回 専門論文内容紹介（近代）（3）
- 第14回 専門論文内容紹介（現代）（1）
- 第15回 専門論文内容紹介（現代）（2）

**授業以外での学習方法**

発表する文献以外に参考文献など幅広く読んでいくこと。

**教科書**

**参考書**

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (60) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 女性史特別演習 I

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 田端 泰子

---

テーマ

日本の女性史と世界の女性史

---

**授業の目的（獲得目標）**

女性史の対象は同じでも、国や地域によって課題は異なる。東洋の女性史を西洋の目から、西洋の女性史を東洋の目でながめて、共通点や違いを明らかにし、女性史研究全体の水準アップに寄与したい。

---

**内 容**

第1回 この回に松浦教授と相談の上、半年分の計画を発表する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（50%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（50%）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 女性史特別演習 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 定員 25

## 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

## テーマ

多様な地域の女性史の比較研究

## 授業の目的（獲得目標）

卒業論文のテーマを決めるための先行研究の読解ができる能力を身につけることをめざす。女性史をテーマとしている学生を、日本史、東アジア史、西アジア史、西洋史の区別なく一堂に集めて、それぞれの課題、手法を互いに吟味し切磋琢磨することを通して、女性史としての卒業論文を執筆することをめざす。地域、国によって女性史研究の進展の度合いはさまざまであり、また、課題として据えられる事象も、またそれへのアプローチ法も異なっている。こうしたことを各ゼミ生の発表を通して理解することは、自らの女性史研究に役立つはずである。

## 内 容

- 第1回 (講義) 女性史特別演習とは
- 第2回 4回生と合同の卒業論文中間報告会
- 第3回 (講義) 日本女性史の研究動向①
- 第4回 (講義) 日本女性史の研究動向②
- 第5回 (講義) 西洋女性史研究の歴史①
- 第6回 (講義) 西洋女性史研究の歴史②
- 第7回 ゼミ生各自報告1-①
- 第8回 ゼミ生各自報告1-②
- 第9回 ゼミ生各自報告1-③
- 第10回 ゼミ生各自報告1-④
- 第11回 ゼミ生各自報告1-⑤
- 第12回 ゼミ生各自報告1-⑥
- 第13回 ゼミ生各自報告1-⑦
- 第14回 (講義) 日本女性史に関する講義
- 第15回 (講義) 西洋女性史に関する講義 総括と来年度へ向けて

## 授業以外での学習方法

各自、それぞれのテーマ、課題にそって、文献収集と精読、分析、考察に努めること

## 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 女性史講読 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性史の流れをつかむ。

授業の目的（獲得目標）

原始・古代から男女両性が協力しつつ社会生活を送ってきた。しかし現実には、史料として残っているのは男性のものが圧倒的に多い。その理由を考え、残されている史料から女性史を学ぶ方法、論文になるまでの過程、できあがった論文の読み込みまで行うことにより、女性史研究の方法についてすべてを学ぶ機会とする。

内 容

- 第1回 日本古代女性史に関する概説書を読む。
- 第2回 "
- 第3回 "
- 第4回 日本中世女性史に関する論文を読む。
- 第5回 "
- 第6回 "
- 第7回 日本中世女性史に関する主な史料を読む。
- 第8回 "
- 第9回 "
- 第10回 日本の織豊期女性史に関する論文を読む。
- 第11回 "
- 第12回 "
- 第13回 日本近世女性史に関する主な論文を読む。
- 第14回 "
- 第15回 "

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（80％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（20％）参加度（）備考（）

科目名 女性史講読Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

ヨーロッパにおける歴史と女性

### 授業の目的（獲得目標）

西洋史研究の中の女性像を理解することをめざす ヨーロッパの歴史を、女性という切り口から読み解いていく。邦語論文を読むことによって、まずその時代の基礎知識を把握し、さらに女性の姿について理解を深めることをめざす。出席者は論文を読んでレジュメを作成し、議論に参加することが求められる。論文は各自が選択するかたちをとるので、興味ある領域を学ぶ手がかりとしてしてほしい。・女性の身体・セクシュアリテ・女性のイメージ・政治・経済・宗教における女性の活動・歴史的イベントにおける女性の役割 上に挙げたテーマを中心に、

### 内 容

第1回 講義)ゼミの進め方、課題テキストに関する解説。女性史とは何か

第2回 講義)最新の研究報告

第3回 これ以降は、ゼミ生の報告と質疑応答ですすめていく。ゼミ生報告①と質疑応答

第4回 ゼミ生報告②と質疑応答

第5回 ゼミ生報告③と質疑応答

第6回 ゼミ生報告④と質疑応答

第7回 ゼミ生報告⑤と質疑応答

第8回 ゼミ生報告⑥と質疑応答

第9回 ゼミ生報告⑦と質疑応答

第10回 ゼミ生報告⑧と質疑応答

第11回 ゼミ生報告⑨と質疑応答

第12回 ゼミ生報告⑩と質疑応答

第13回 ゼミ生報告⑪と質疑応答

第14回 ゼミ生報告⑫と質疑応答

第15回 ゼミ生報告⑬と質疑応答

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書



---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (50%) 備考 ( )

---

科目名 日本史演習Ⅲ <a>

---

クラス a 配当回生 4回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

**履修条件**

---

クラス指定 希望制

---

担当者 増淵 徹

---

**テーマ**

卒業研究の展開

---

**授業の目的（獲得目標）**

自分の関心を明確化するとともに、その分野に関わる卒業論文作成を目指した個人研究を進展させる。同時に、テーマの絞り方や研究史の整理・評価、史料の読解やそこからの問題点の引き出し方など、随時授業における各人の報告をもとに討論を行い、より広い視点と客観性の維持に配慮できるようにする。なお、必要に応じて卒業研究の参考になるように、学外授業や学外講師を招いての講演を行うことがある。

---

**内 容**

- 第1回 個人研究の進め方に関する概括的指導
  - 第2回 個人研究の見通しの報告と指導
  - 第3回 個別発表（1）
  - 第4回 個別発表（2）
  - 第5回 個別発表（3）
  - 第6回 個別発表（4）
  - 第7回 個別発表（5）
  - 第8回 個別発表（6）
  - 第9回 個別発表（7）
  - 第10回 個別発表（8）
  - 第11回 個別発表（9）
  - 第12回 個別発表（10）
  - 第13回 個別発表（11）
  - 第14回 個別発表（12）
  - 第15回 後期に向けての卒業研究に関する概括的指導
- 

**授業以外での学習方法**

論文と史料の博搜に努めること

---

**教科書**

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 日本史演習Ⅲ <b> |      |     |
| クラス   | b          | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 25  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 細川 涼一      |      |     |

テーマ

卒業論文作成に向けて

### 授業の目的（獲得目標）

卒業論文を完成させる。日本史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。 ○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

### 内 容

第1回 全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）

第2回 個別発表（1）

第3回 個別発表（2）

第4回 個別発表（3）

第5回 個別発表（4）

第6回 個別発表（5）

第7回 個別発表（6）

第8回 個別発表（7）

第9回 個別発表（8）

第10回 個別発表（9）

第11回 個別発表（10）

第12回 個別発表（11）

第13回 個別発表（12）

第14回 個別発表（13）

第15回 個別発表（14） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (20 %) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50 %) 参加度 (30 %) 備考 ( )

---

科目名 日本史演習Ⅲ <c>

---

クラス c 配当回生 4回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 横田 冬彦

---

テーマ

近世史研究の諸問題

---

授業の目的（獲得目標）

卒業論文作成の第二段階。特に史料の読み込みを中心とした分析をおこなう。

---

内 容

第1回 導入

第2回 3回生の年度末レポートの講評など

第3回 個別報告（1）

第4回 個別報告（2）

第5回 個別報告（3）

第6回 個別報告（4）

第7回 個別報告（5）

第8回 個別報告（6）

第9回 学外見学をおこなう

第10回 個別報告（7）

第11回 個別報告（8）

第12回 個別報告（9）

第13回 個別報告（10）

第14回 レポート作成について

第15回 まとめ なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

---

授業以外での学習方法

講義中に指示する

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（）

科目名 日本史演習Ⅲ <d>

クラス d 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文作成に向けて自己のテーマにもとづく研究を深化させる。

**内 容**

第1回 4回生前期のゼミ運営方法討議

第2回 卒論の内容にかかわる個別報告（1）

第3回 卒論の内容にかかわる個別報告（2）

第4回 卒論の内容にかかわる個別報告（3）

第5回 卒論の内容にかかわる個別報告（4）

第6回 卒論の内容にかかわる個別報告（5）

第7回 卒論の内容にかかわる個別報告（6）

第8回 卒論の内容にかかわる個別報告（7）

第9回 卒論の内容にかかわる個別報告（8）

第10回 卒論の内容にかかわる個別報告（9）

第11回 卒論の内容にかかわる個別報告（10）

第12回 卒論の内容にかかわる個別報告（11）

第13回 卒論の内容にかかわる個別報告（12）

第14回 卒論の内容にかかわる個別報告（13）

第15回 卒論の内容にかかわる個別報告（14） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）

科目名 日本史演習Ⅲ <e>

クラス e 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文作成に向けて自己のテーマにもとづく研究を深化させる。

**内 容**

第1回 4回生前期のゼミ運営方法討議

第2回 卒論の内容にかかわる個別報告（1）

第3回 卒論の内容にかかわる個別報告（2）

第4回 卒論の内容にかかわる個別報告（3）

第5回 卒論の内容にかかわる個別報告（4）

第6回 卒論の内容にかかわる個別報告（5）

第7回 卒論の内容にかかわる個別報告（6）

第8回 卒論の内容にかかわる個別報告（7）

第9回 卒論の内容にかかわる個別報告（8）

第10回 卒論の内容にかかわる個別報告（9）

第11回 卒論の内容にかかわる個別報告（10）

第12回 卒論の内容にかかわる個別報告（11）

第13回 卒論の内容にかかわる個別報告（12）

第14回 卒論の内容にかかわる個別報告（13）

第15回 卒論の内容にかかわる個別報告（14） なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）



---

科目名 日本史演習Ⅳ <a>

---

クラス a 配当回生 4回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 増淵 徹

---

テーマ

卒業研究の完成

---

### 授業の目的（獲得目標）

卒業研究をさらに進め、卒業論文として集成させることを目的とする。後半は個別指導を重点に置く。なお、必要に応じて、卒業研究の参考となるように、学外学習や学外講師を招いての講演会を行うことがある。

---

### 内 容

第1回 後期開始段階における研究の進行状況のチェックと指導

第2回 中間報告に向けての指導

第3回 中間報告での指摘事項への対応指導

第4回 個別発表（1）

第5回 個別発表（2）

第6回 個別発表（3）

第7回 個別発表（4）

第8回 個別発表（5）

第9回 個別発表（6）

第10回 個別発表（7）

第11回 個別発表（8）

第12回 個別発表（9）

第13回 個別発表（10）

第14回 個別発表（11）

第15回 卒業研究への評価

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（50）授業中発表等（20）参加度（30）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本史演習Ⅳ <b>

---

クラス b 配当回生 4回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 細川 涼一

---

テーマ

卒業論文作成に向けて

---

授業の目的（獲得目標）

卒業論文を完成させる。日本史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。 ○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

---

内 容

第1回 全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）

第2回 個別発表（1）

第3回 個別発表（2）

第4回 個別発表（3）

第5回 個別発表（4）

第6回 個別発表（5）

第7回 個別発表（6）

第8回 個別発表（7）

第9回 個別発表（8）

第10回 個別発表（9）

第11回 個別発表（10）

第12回 個別発表（11）

第13回 個別発表（12）

第14回 個別発表（13）

第15回 個別発表（14）

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（80 %）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（10 %）参加度（10 %）備考（成績評価は卒論作成に向けての準備稿も含めて行う。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本史演習Ⅳ <c>

---

クラス c 配当回生 4回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 横田 冬彦

---

テーマ

近世史研究の諸問題

---

授業の目的（獲得目標）

卒業論文の作成の第三段階。卒業論文を書き完成させる。

---

内 容

第1回 合宿（中間発表会に向けた報告準備）

第2回 合宿（中間発表会に向けた報告準備）

第3回 合宿（中間発表会に向けた報告準備）

第4回 中間発表会

第5回 卒業論文の形式と書き方

第6回 下書き検討（1）

第7回 下書き検討（2）

第8回 下書き検討（3）

第9回 下書き検討（4）

第10回 下書き検討（5）

第11回 下書き検討（6）

第12回 下書き検討（7）

第13回 下書き検討（8）

第14回 卒業論文の最終調整

第15回 反省会

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

科目名 日本史演習Ⅳ <d>

クラス d 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文の作成

**内 容**

- 第1回 卒業論文作成のための指導（1）
- 第2回 卒業論文作成のための指導（2）
- 第3回 卒論の内容にかかわる個別報告（1）
- 第4回 卒論の内容にかかわる個別報告（2）
- 第5回 卒論の内容にかかわる個別報告（3）
- 第6回 卒論の内容にかかわる個別報告（4）
- 第7回 卒論の内容にかかわる個別報告（5）
- 第8回 卒論の内容にかかわる個別報告（6）
- 第9回 卒論の内容にかかわる個別報告（7）
- 第10回 卒論の内容にかかわる個別報告（8）
- 第11回 最終盤卒論作成のための指導（1）
- 第12回 卒論の内容にかかわる個別報告（2）
- 第13回 卒論作成後の反省会（1）
- 第14回 卒論作成後の反省会（2）
- 第15回 卒論作成後の反省会（3）

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（）

科目名 日本史演習Ⅳ〈e〉

クラス e 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文の作成

**内 容**

- 第1回 卒業論文作成のための指導（1）
- 第2回 卒業論文作成のための指導（2）
- 第3回 卒論の内容にかかわる個別報告（1）
- 第4回 卒論の内容にかかわる個別報告（2）
- 第5回 卒論の内容にかかわる個別報告（3）
- 第6回 卒論の内容にかかわる個別報告（4）
- 第7回 卒論の内容にかかわる個別報告（5）
- 第8回 卒論の内容にかかわる個別報告（6）
- 第9回 卒論の内容にかかわる個別報告（7）
- 第10回 卒論の内容にかかわる個別報告（8）
- 第11回 最終盤卒論作成のための指導（1）
- 第12回 卒論の内容にかかわる個別報告（2）
- 第13回 卒論作成後の反省会（1）
- 第14回 卒論作成後の反省会（2）
- 第15回 卒論作成後の反省会（3）

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(歴) <日 a>

クラス 日 a 配当回生 4 回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(歴) <日 b>

クラス 日 b 配当回生 4 回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 細川 涼一

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(歴) <日c>

クラス 日c

配当回生 4回生

講義期間 集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 横田 冬彦

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(歴) <日 d>

クラス 日 d 配当回生 4 回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 卒業研究(歴) <世 a>

---

クラス 世 a 配当回生 4 回生

---

講義期間 集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 島居 一康

---

テーマ

---

授業の目的 (獲得目標)

---

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(歴) <世 b>

クラス 世 b 配当回生 4 回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 卒業研究(歴) <世 c>

---

クラス 世 c 配当回生 4 回生

---

講義期間 集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 南 直人

---

テーマ

---

授業の目的 (獲得目標)

---

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(歴) <世 d>

クラス 世 d 配当回生 4 回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 世界史演習Ⅲ <a>

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 島居 一康

**テーマ**

中国史史料講読

**授業の目的（獲得目標）**

中国史の学習の基礎となる漢文・中国語文献の読解力を修得する。

**内 容**

第1回 漢文読解の基礎(1)

第2回 漢文読解の基礎(2)

第3回 漢文読解の基礎(3)

第4回 漢文読解の基礎(4)

第5回 漢文読解の基礎(5)

第6回 漢文読解の基礎(6)

第7回 各種漢文史料の講読(1)

第8回 各種漢文史料の講読(2)

第9回 各種漢文史料の講読(3)

第10回 各種漢文史料の講読(4)

第11回 各種漢文史料の講読(5)

第12回 各種漢文史料の講読(6)

第13回 中国語学術論文・史料の読解(1)

第14回 中国語学術論文・史料の読解(2)

第15回 中国語学術論文・史料の読解(3)

**授業以外での学習方法**

必要に応じて参考書等による予習を指示する。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（筆記試験を行う。）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（出欠確認を行う。）備考（筆記試験の成績を60%、授業への出席状況を40%の比率で評価する。）

科目名 世界史演習Ⅲ <b>

クラス b 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 小野 浩

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文を完成させる 内 容 世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。 ○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

**内 容**

第1回 全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）

第2回 個別発表（1）

第3回 個別発表（2）

第4回 個別発表（3）

第5回 個別発表（4）

第6回 個別発表（5）

第7回 個別発表（6）

第8回 個別発表（7）

第9回 個別発表（8）

第10回 個別発表（9）

第11回 個別発表（10）

第12回 個別発表（11）

第13回 個別発表（12）

第14回 個別発表（13）

第15回 個別発表（14）

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**



## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（）

科目名 世界史演習Ⅲ <c>

クラス c 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 南 直人

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

**内 容**

第1回 全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）

第2回 個別発表（1）

第3回 個別発表（2）

第4回 個別発表（3）

第5回 個別発表（4）

第6回 個別発表（5）

第7回 個別発表（6）

第8回 個別発表（7）

第9回 個別発表（8）

第10回 個別発表（9）

第11回 個別発表（10）

第12回 個別発表（11）

第13回 個別発表（12）

第14回 個別発表（13）

第15回 個別発表（14）

第16回 （なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外授業・学外講師を招いての講演等を行うことがある）

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (60) 参加度 (40) 備考 ( )

---

科目名 世界史演習Ⅲ <d>

---

クラス d 配当回生 4回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

**履修条件**

---

クラス指定 希望制

---

担当者 松浦 京子

---

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

---

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文を完成させる 世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。 ○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する

---

**内 容**

第1回 全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）

第2回 個別発表1

第3回 個別発表2

第4回 個別発表3

第5回 個別発表4

第6回 個別発表5

第7回 個別発表6

第8回 個別発表7

第9回 個別発表8

第10回 個別発表9

第11回 個別発表10

第12回 個別発表11

第13回 個別発表12

第14回 個別発表13

第15回 個別発表14

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (60%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 世界史演習IV <a>

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 島居 一康

**テーマ**

中国史上の諸問題

**授業の目的（獲得目標）**

中国史の学習に必要な基礎知識と研究方法を修得する。

**内 容**

- 第1回 古代史(殷周・春秋戦国・秦漢)研究の諸問題(1)
- 第2回 古代史(殷周・春秋戦国・秦漢)研究の諸問題(2)
- 第3回 古代史(殷周・春秋戦国・秦漢)研究の諸問題(3)
- 第4回 古代史(殷周・春秋戦国・秦漢)研究の諸問題(4)
- 第5回 中世史(三国・魏晋南北朝・隋唐)研究の諸問題(1)
- 第6回 中世史(三国・魏晋南北朝・隋唐)研究の諸問題(2)
- 第7回 中世史(三国・魏晋南北朝・隋唐)研究の諸問題(3)
- 第8回 中世史(三国・魏晋南北朝・隋唐)研究の諸問題(4)
- 第9回 近世史(宋・遼・金・元・明・清)研究の諸問題(1)
- 第10回 近世史(宋・遼・金・元・明・清)研究の諸問題(2)
- 第11回 近世史(宋・遼・金・元・明・清)研究の諸問題(3)
- 第12回 近世史(宋・遼・金・元・明・清)研究の諸問題(4)
- 第13回 近代史(中華民国・中華人民共和国)研究の諸問題(1)
- 第14回 近代史(中華民国・中華人民共和国)研究の諸問題(2)
- 第15回 近代史(中華民国・中華人民共和国)研究の諸問題(3)

**授業以外での学習方法**

必要に応じて参考書等による予習を指示する。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（筆記試験は行わない。）小テスト（）授業中課題（各自に課題を与える。）授業中発表等（各自の課題を発表させる。）参加度（）備考（各自に与えて課題を発表させ、その内容によって評価する。）

## 2010 Syllabus

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 世界史演習Ⅳ <b> |      |     |
| クラス   | b          | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   | 25  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 小野 浩       |      |     |

テーマ

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文を完成させる 内 容 世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。 ○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導（なお必要に応

**内 容**

第1回 個別発表（1）

第2回 個別発表（2）

第3回 個別発表（3）

第4回 個別発表（4）

第5回 個別発表（5）

第6回 個別発表（6）

第7回 個別発表（7）

第8回 個別発表（8）

第9回 個別発表（9）

第10回 個別発表（10）

第11回 個別発表（11）

第12回 個別発表（12）

第13回 個別発表（13）

第14回 個別発表（14）

第15回 個別発表（15）

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（）



科目名 世界史演習Ⅳ <c>

クラス c 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 南 直人

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

**内 容**

第1回 個別発表（1）

第2回 個別発表（2）

第3回 個別発表（3）

第4回 個別発表（4）

第5回 個別発表（5）

第6回 個別発表（6）

第7回 個別発表（7）

第8回 個別発表（8）

第9回 個別発表（9）

第10回 個別発表（10）

第11回 個別発表（11）

第12回 個別発表（12）

第13回 個別発表（13）

第14回 個別発表（14）

第15回 個別発表（15）

第16回 （なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある）

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (60) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 世界史演習Ⅳ <d>

クラス d 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

卒業論文を完成させる 世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。 ○中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

**内 容**

- 第1回 全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）
- 第2回 卒業論文中間発表会に向けての指導
- 第3回 卒業論文中間発表会
- 第4回 中間発表会を受けての反省会 卒業論文執筆要領の説明
- 第5回 個別指導1
- 第6回 個別指導2
- 第7回 個別指導3
- 第8回 個別指導4
- 第9回 個別指導5
- 第10回 個別指導6
- 第11回 個別指導7
- 第12回 個別指導8
- 第13回 個別指導9
- 第14回 卒業論文試問に向けて
- 第15回 卒業論文総括

**授業以外での学習方法**

夏季休暇の終わり近く（9月中旬）に、卒論合宿を予定している。

**教科書**

**参考書**

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (60%) 備考 ( )

科目名 女性史特別演習Ⅱ

クラス 配当回生 4回生

講義期間 定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 田端 泰子

テーマ

世界女性史と日本女性史

授業の目的（獲得目標）

4回生対象なので、各自の卒業研究のテーマに合わせ、発表形式で論文の完成と内容の質的向上を目指す。

内 容

第1回 受講者の発表。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（100%）参加度（）備考（）

---

科目名 女性史特別演習Ⅱ

---

クラス 配当回生 4回生

---

講義期間 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 松浦 京子

---

テーマ

多様な地域の女性史の比較研究

---

### 授業の目的（獲得目標）

一つは、卒業論文のテーマに応じた問題設定をするための先行研究理解を深めること。もう一つは、卒業論文の問題設定に基づいて各自が到達した研究成果につき、相互チェックを行うこと。女性史をテーマとしている学生を、日本史、東アジア史、西アジア史、西洋史の区別なく一堂に集めて、それぞれの課題、手法を互いに吟味し切磋琢磨することを通して、女性史としての卒業論文を執筆することをめざす。地域、国によって女性史研究の進展の度合いはさまざまであり、また、課題として据えられる事象も、またそれへのアプローチ法も異なっている。こ

---

### 内 容

- 第1回 （講義）今期の女性史演習の進め方
  - 第2回 （講義）日本女性史の最新研究1
  - 第3回 （講義）日本女性史の最新研究2
  - 第4回 （講義）西洋女性史の最新研究1
  - 第5回 （講義）西洋女性史の最新研究2
  - 第6回 ゼミ生報告1と質疑応答
  - 第7回 ゼミ生報告2と質疑応答
  - 第8回 ゼミ生報告3と質疑応答
  - 第9回 ゼミ生報告4と質疑応答
  - 第10回 ゼミ生報告5と質疑応答
  - 第11回 ゼミ生報告6と質疑応答
  - 第12回 ゼミ生報告7と質疑応答
  - 第13回 ゼミ生報告8と質疑応答
  - 第14回 ゼミ生報告9と質疑応答
  - 第15回 ゼミ生報告10と質疑応答
- 

### 授業以外での学習方法

各自、それぞれのテーマ、課題にそって、文献収集と精読、分析、考察に努めること

---

### 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 卒業論文・卒業研究（財）

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 研究入門ゼミ I (財) <A>

クラス A 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 王 衛明, 有坂 道子

#### テーマ

《王 衛明》 文化財の中の工芸作品を中心にして研究法と調査法について学ぶ 《有坂 道子》 文字史料に親しむ

#### 授業の目的（獲得目標）

《王 衛明》 初めて工芸作品を研究するため、興味をもたせ、その魅力について理解させる。 《有坂 道子》 自分で研究テーマを設定し、研究成果を発表するとはどういうことか学ぶ

#### 内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス 《王 衛明》
- 第2回 工芸作品事例の発表① 《王 衛明》
- 第3回 工芸作品の事例発表② 《王 衛明》
- 第4回 工芸作品の事例発表③ 《王 衛明》
- 第5回 工芸作品の事例発表④ 《王 衛明》
- 第6回 工芸作品の事例発表⑤ 《王 衛明》
- 第7回 発表についてのディスカッションと、問題点の指摘 《王 衛明》
- 第8回 工芸史研究法について 《王 衛明》
- 第9回 ゼミの進め方についてのガイダンス 《有坂 道子》
- 第10回 ゼミ発表① 《有坂 道子》
- 第11回 ゼミ発表② 《有坂 道子》
- 第12回 ゼミ発表③ 《有坂 道子》
- 第13回 ゼミ発表④ 《有坂 道子》
- 第14回 ゼミ発表⑤ 《有坂 道子》
- 第15回 ゼミ発表⑥ 《有坂 道子》
- 第16回 総括 《有坂 道子》 なお必要に応じて学外授業を行うことがある。

#### 授業以外での学習方法

《王 衛明》 スライド、図録などを適宜示し、工芸の魅力について示す 《有坂 道子》 できるだけ身の回りのさまざまなことに興味を持ち、本や新聞などをよく読むこと。

#### 教科書

#### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（《王 衛明》  
授業への参加度と理解）

科目名 研究入門ゼミ I (財) <B>

クラス B 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・一瀬 和夫

#### テーマ

《有坂 道子》 文字史料に親しむ 《一瀬 和夫》 文化財について深く考えてみる

#### 授業の目的（獲得目標）

《有坂 道子》 自分で研究テーマを設定し、研究成果を発表するとはどういうことか学ぶ 《一瀬 和夫》 今ある知識をもとに仮説をたてて検証したことを発表、討議してまとめる。そのことで、様々な事象について発見、気づき、考え、楽しみ、それを知らせ、話し合う方法を修得する。

#### 内 容

- 第1回 ゼミの進め方についてのガイダンス 《有坂 道子》
- 第2回 ゼミ発表① 《有坂 道子》
- 第3回 ゼミ発表② 《有坂 道子》
- 第4回 ゼミ発表③ 《有坂 道子》
- 第5回 ゼミ発表④ 《有坂 道子》
- 第6回 ゼミ発表⑤ 《有坂 道子》
- 第7回 ゼミ発表⑥ 《有坂 道子》
- 第8回 総括 《有坂 道子》
- 第9回 「好きなこと」と「したい」こと
- 第10回 歴史は必然か偶然か？
- 第11回 歴史とは何か？
- 第12回 文化財とは何か？
- 第13回 博物館とは何か？
- 第14回 考古学とは何か？
- 第15回 レポート作成法
- 第16回 論文の書き方 なお必要に応じて学外授業を行うことがある。

#### 授業以外での学習方法

《有坂 道子》 できるだけ身の回りのさまざまなことに興味を持ち、本や新聞などをよく読むこと。《一瀬 和夫》 身のまわりの「もの」をつねに観察し、つねにその意味を考えてみる。

#### 教科書

#### 参考書

---

## 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（《有坂 道子》試験 0% 小テスト 0% 授業中課題 0% 授業中発表等 50% 参加度 50% 《一瀬 和夫》試験 0% 小テスト 0% 授業中課題 40% 授業中発表等 40% 参加度 20%）

|       |                  |      |      |
|-------|------------------|------|------|
| 科目名   | 研究入門ゼミ I (財) <C> |      |      |
| クラス   | C                | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期               | 定員   | 25   |
| 履修条件  |                  |      |      |
| クラス指定 | 大学指定             |      |      |
| 担当者   | 一瀬 和夫, 弓場 紀知     |      |      |

### テーマ

《一瀬 和夫》 文化財について深く考えてみる 《弓場 紀知》 文化財の研究法—工芸作品を中心にして

### 授業の目的（獲得目標）

《一瀬 和夫》 今ある知識をもとに仮説をたてて検証したことを発表、討議してまとめる。そのことで、様々な事象について発見、気づき、考え、楽しみ、それを知らせ、話し合う方法を修得する。学外授業あり。《弓場 紀知》 文化財の中で工芸作品を中心にして、その研究法を理解し、興味を持たせる。さらに文化財とは何かを考えさせる

### 内 容

- 第1回 「好きなこと」と「したい」こと 《一瀬 和夫》
- 第2回 歴史は必然か偶然か？ 《一瀬 和夫》
- 第3回 歴史とは何か？ 《一瀬 和夫》
- 第4回 文化財とは何か？ 《一瀬 和夫》
- 第5回 博物館とは何か？ 《一瀬 和夫》
- 第6回 考古学とは何か？ 《一瀬 和夫》
- 第7回 レポート作成法 《一瀬 和夫》
- 第8回 論文の書き方 《一瀬 和夫》
- 第9回 授業の進め方についてのガイダンス 《弓場 紀知》
- 第10回 工芸作品事例の発表—① 《弓場 紀知》
- 第11回 工芸作品の事例発表—② 《弓場 紀知》
- 第12回 工芸作品の事例発表—③ 《弓場 紀知》
- 第13回 工芸作品の事例発表—④ 《弓場 紀知》
- 第14回 工芸作品の事例発表—⑤ 《弓場 紀知》
- 第15回 工芸作品の事例発表—⑥ 《弓場 紀知》
- 第16回 発表についての指導と今後の進め方の指導 《弓場 紀知》

### 授業以外での学習方法

《一瀬 和夫》 身のまわりの「もの」をつねに観察し、つねにその意味を考えてみる。《弓場 紀知》 スライド、図録などの資料をみせポイントを示す

### 教科書

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（《一瀬 和夫》試験 0% 小テスト 0% 授業中課題 40% 授業中発表等 40% 参加度 20% 《弓場 紀知》試験 0% 小テスト 0% 授業中課題 0% 授業中発表等 50% 参加度 50%）

|             |               |      |     |
|-------------|---------------|------|-----|
| 科目名         | 研究入門ゼミⅡ(財)〈A〉 |      |     |
| クラス         | A             | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期            | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |               |      |     |
| クラス指定       | 大学指定          |      |     |
| 担当者         | 一瀬 和夫、弓場 紀知   |      |     |

**テーマ**

《一瀬 和夫》 文化財について深く考えてみる 《弓場 紀知》 文化財の研究法—工芸作品を中心にして

**授業の目的（獲得目標）**

《一瀬 和夫》 今ある知識をもとに仮説をたてて検証したことを発表、討議してまとめる。そのことで、様々な事象について発見、気づき、考え、楽しみ、それを知らせ、話し合う方法を修得する。《弓場 紀知》 文化財の中で工芸作品を中心にして、その研究法を理解し、興味を持たせる。さらに文化財とは何かを考えさせる

**内 容**

- 第1回 「好きなこと」と「したい」こと 《一瀬 和夫》
- 第2回 歴史は必然か偶然か？ 《一瀬 和夫》
- 第3回 歴史とは何か？ 《一瀬 和夫》
- 第4回 文化財とは何か？ 《一瀬 和夫》
- 第5回 博物館とは何か？ 《一瀬 和夫》
- 第6回 考古学とは何か？ 《一瀬 和夫》
- 第7回 レポート作成法 《一瀬 和夫》
- 第8回 論文の書き方 《一瀬 和夫》
- 第9回 授業の進め方についてのガイダンス 《弓場 紀知》
- 第10回 工芸作品事例の発表—① 《弓場 紀知》
- 第11回 工芸作品の事例発表—② 《弓場 紀知》
- 第12回 工芸作品の事例発表—③ 《弓場 紀知》
- 第13回 工芸作品の事例発表—④ 《弓場 紀知》
- 第14回 工芸作品の事例発表—⑤ 《弓場 紀知》
- 第15回 工芸作品の事例発表—⑥ 《弓場 紀知》
- 第16回 発表についての指導と今後の進め方の指導 《弓場 紀知》 なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

**授業以外での学習方法**

《一瀬 和夫》 身のまわりの「もの」をつねに観察し、つねにその意味を考えてみる。《弓場 紀知》 スライド、図録などの資料をみせポイントを示す

**教科書**

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（《一瀬 和夫》試験 0% 小テスト 0% 授業中課題 40% 授業中発表等 40% 参加度 20% 《弓場 紀知》試験 0% 小テスト 0% 授業中課題 0% 授業中発表等 50% 参加度 50%）



## 2010 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(財)〈B〉

クラス B 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 弓場 紀知. 王 衛明

## テーマ

《弓場 紀知》文化財の研究法—工芸作品を中心にして 《王 衛明》文化財の中の工芸作品を中心にして研究法と調査法について学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

《弓場 紀知》文化財の中で工芸作品を中心にして、その研究法を理解し、興味を持たせる。さらに文化財とは何かを考えさせる 《王 衛明》初めて工芸作品を研究するため、興味をもたせ、その魅力について理解させる。

## 内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス 《弓場 紀知》
- 第2回 工芸作品事例の発表—① 《弓場 紀知》
- 第3回 工芸作品事例の発表—② 《弓場 紀知》
- 第4回 工芸作品事例の発表—③ 《弓場 紀知》
- 第5回 工芸作品事例の発表—④ 《弓場 紀知》
- 第6回 工芸作品事例の発表—⑤ 《弓場 紀知》
- 第7回 発表についての指導と今後の進め方の指導 《弓場 紀知》
- 第8回 授業の進め方についてのガイダンス 《王 衛明》
- 第9回 工芸作品の事例発表—① 《王 衛明》
- 第10回 工芸作品の事例発表—② 《王 衛明》
- 第11回 工芸作品の事例発表—③ 《王 衛明》
- 第12回 工芸作品の事例発表—④ 《王 衛明》
- 第13回 工芸作品の事例発表—⑤ 《王 衛明》
- 第14回 発表についてのディスカッションと、問題点の指摘 《王 衛明》
- 第15回 工芸史研究法について なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

## 授業以外での学習方法

《弓場 紀知》スライド、図録などの資料をみせポイントを示す 《王 衛明》スライド、図録などを適宜示し、工芸の魅力について示す

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（《王 衛明》  
授業への参加度と理解）

科目名 研究入門ゼミⅡ(財)〈C〉

クラス C 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 王 衛明, 有坂 道子

#### テーマ

《王 衛明》文化財の中の工芸作品を中心にして研究法と調査法について学ぶ 《有坂 道子》文字史料に親しむ

#### 授業の目的（獲得目標）

《王 衛明》初めて工芸作品を研究するため、興味をもたせ、その魅力について理解させる。《有坂 道子》自分で研究テーマを設定し、研究成果を発表するとはどういうことか学ぶ

#### 内 容

第1回 授業の進め方についてのガイダンス 《王 衛明》

第2回 工芸作品事例の発表① 《王 衛明》

第3回 工芸作品の事例発表② 《王 衛明》

第4回 工芸作品の事例発表③ 《王 衛明》

第5回 工芸作品の事例発表④ 《王 衛明》

第6回 工芸作品の事例発表⑤ 《王 衛明》

第7回 発表についてのディスカッションと、問題点の指摘 《王 衛明》

第8回 工芸史研究法について 《王 衛明》

第9回 ゼミの進め方についてのガイダンス 《有坂 道子》

第10回 ゼミ発表① 《有坂 道子》

第11回 ゼミ発表② 《有坂 道子》

第12回 ゼミ発表③ 《有坂 道子》

第13回 ゼミ発表④ 《有坂 道子》

第14回 ゼミ発表⑤ 《有坂 道子》

第15回 ゼミ発表⑥ 《有坂 道子》

第16回 総括 《有坂 道子》 なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。 なお必要に応じて学外授業を行うことがある。

#### 授業以外での学習方法

《王 衛明》スライド、図録などを適宜示し、工芸の魅力について示す 《有坂 道子》できるだけ身の回りのさまざまなことに興味を持ち、本や新聞などをよく読むこと。

#### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（《王 衛明》  
授業への参加度と理解）

科目名 考古学概説

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

土中にパッキングされた過去の状況を見たのは誰か？それは誰のものか？

授業の目的（獲得目標）

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的变化を理解し、考古学を自己の創造へと応用するために備える。

内 容

- 第1回 考古学者のイメージスケッチ、考古学の多様性（文献伝承、美術史、技術史、民族誌、唯物史観、ジェンダー、フェミニズム、パブリック）
- 第2回 考古学の枠組み・過去に何が起こったか
- 第3回 考古学の目的と方法
- 第4回 状況—遺跡の認知と発掘調査
- 第5回 層位と共存、文化面と層位学
- 第6回 型式学と編年研究
- 第7回 型式のセリエーション
- 第8回 相対年代と絶対年代の間
- 第9回 考古学の文化解釈
- 第10回 集落形態と遺跡・遺構分布
- 第11回 遺物の形態と機能の分析
- 第12回 行動パターンと共存のコンテクスト
- 第13回 アッセンブリッジと集団行動パターン
- 第14回 考古学の歴史解釈法・観念と実践、そして歴史
- 第15回 『達成された』から『選択する』考古学に向けて

授業以外での学習方法

発掘調査記事の新聞切抜きと発掘調査（現地説明会等）・史跡整備地の見学

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (45) 授業中発表等 (10) 参加度 (45) 備考 ( )

科目名 美術工芸史概説

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・王 衛明

テーマ

《有坂 道子》 文字と古文書から見る美術工芸史 《王 衛明》 美術工芸史における作品の鑑賞と研究方法

授業の目的（獲得目標）

《有坂 道子》 文字資料や古文書に関する基礎的な知識を身につける。美術工芸の研究に欠かせない文字資料に関する基礎知識を身につけるため、古文書・古記録を中心に、文字に関わる歴史資料について幅広く学ぶ。古文書とは何か。古文書にはどのようなものがあるのか。時代によって変化する古文書のかたちや種類など様式について、また古文書特有の用語や読み方など古文書をあつかう上で必要となる基本的な知識について学ぶ。《王 衛明》 美術史学の発展と基本的な研究の仕方を知ることから、各自の研究能力を身につける。この講義では、

内 容

第1回 古文書とは

第2回 古文書の価値

第3回 古文書の伝来

第4回 古文書の材料

第5回 古文書の用語

第6回 紙のかたち

第7回 古文書の様式

第8回 美術史の基本概念と研究範囲

第9回 美術史の基本概念と研究範囲

第10回 文化財と文物の意味－美術史研究資料論

第11回 美術史研究の課題－世界美術史における東洋美術の意味

第12回 美術史研究の基本方法

第13回 美術史研究の基本方法

第14回 美術史に関する入門書と参考文献の総解説－美術史関係文献、目録の調べ方

第15回 内容総括

授業以外での学習方法

《有坂 道子》 授業の復習をすること。博物館や美術館などの展示を積極的に見学すること。《王 衛明》 自発的に各地の博物館、資料館、寺社または特別展などを訪れ、展示されている美術工芸品に関する形象的資料を観察し、作品を見る目、問題意識を養うことが大切。

教科書

**成績評価**

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（）



---

科目名 日本美術史 I

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 仙海 義之

---

テーマ

主題からみる日本の絵画

---

### 授業の目的（獲得目標）

後期開講の日本美術史Ⅱと連動し、前期の日本美術史Ⅰでは、画題を切り口として日本絵画に諸相あることを理解し、その歴史的展開を考察するための導入口とする。

---

### 内 容

第1回 オリエンテーション —講義計画 日本の絵画には、どのようなものがあるでしょう。「日本美術史Ⅰ」では、作品に描かれたモチーフ・テーマ・内容などの観点により、絵画の種類を分類することから、色々なタイプの絵画作品があることを知っていただきたいと思います。講義の各回ごと、主題別に分けた作品を、デジタル画像などによってできるだけ多く観ていただきながら、作品の形状・技法・作家など、日本美術史に関する専門的な知識をフォローします。日本の絵画作品が持つ、楽しさ・美しさ・力強さなどの様々な価値を発見して下さい

第2回 絵を観るために

第3回 花鳥画① 四季

第4回 花鳥画② 吉祥

第5回 風景画① 山水

第6回 風景画② 名所

第7回 人物画① 身体

第8回 人物画② 肖像

第9回 風俗画① 姿態

第10回 風俗画② 行事

第11回 説話画① 叙事

第12回 説話画② 物語

第13回 宗教画① 尊像

第14回 宗教画② 教義

第15回 総括

---

### 授業以外での学習方法

講義時にもお知らせしますが、美術館・博物館などの展覧、寺社の特別拝観など、美術品・文化財に触れる機会を多く持たれるようにお勧めします。

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（30 %）小テスト（）授業中課題（30 %）授業中発表等（）参加度（40 %）備考（授業参加度（出席）を重視します。出席率が60%に満たない方には、合格レベルの評価を差上げられません。）

科目名 日本美術史Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 仙海 義之

テーマ

歴史からみる日本の絵画

### 授業の目的（獲得目標）

前期開講の日本美術史Ⅰと連動し、後期の日本美術史Ⅱでは、各時代の絵画に諸相が生み出された要因を、社会史や文化史との関連を通じて歴史的に考察する。

### 内 容

第1回 オリエンテーション —講義計画 「日本美術史Ⅰ」では、日本絵画を主題によって分類し、様々な作品があることを見てきました。後期授業では、何故このように色々な主題の絵画が描かれたのか？ということについて考えてみましょう。これを探るために、それぞれの絵画は、どのような人たちによって鑑賞され、楽しまれ、拝まれたのか？という点を歴史的に追ってみます。各回ごとに、いくつかの作品を取り上げ、その作品を支持した人々の身分・階層などの社会性や、思想・信仰などの精神性から、どのような内容や表現が作品に求められ、

第2回 近代① 国家

第3回 近世③ 町人

第4回 近世② 幕府

第5回 近世① 大名

第6回 中世③ 将軍

第7回 中世② 禅宗

第8回 中世① 武士

第9回 近古③ 院政

第10回 近古② 貴族

第11回 近古① 宮中

第12回 中古③ 密教

第13回 中古② 寺院

第14回 中古① 朝廷

第15回 総括

### 授業以外での学習方法

講義時にもお知らせしますが、美術館・博物館などの展観、寺社の特別拝観など、美術品・文化財に触れる機会を多く持たれるようにお勧めします。

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（30 %）小テスト（）授業中課題（30 %）授業中発表等（）参加度（40 %）備考（授業参加度（出席）を重視します。出席率が60%に満たない方には、合格レベルの評価を差上げられません。）

科目名 東洋美術史 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 紀知

テーマ

シルクロードの美術

授業の目的（獲得目標）

漢代から元代の東西交流の歴史の流れの中での美術工芸のあゆみを考える

内 容

- 第1回 シルクロードとは
- 第2回 漢代のシルクロードと美術工芸
- 第3回 南北朝のシルクロードと美術工芸
- 第4回 随、唐代のシルクロードと東西交流—1
- 第5回 随、唐代のシルクロードと東西交流—2
- 第6回 新羅、統一新羅次太に見るシルクロード
- 第7回 正倉院御物に見るシルクロード
- 第8回 シルクロードからシーロードへ
- 第9回 陶磁の東西交流—1
- 第10回 陶磁の東西交流—2
- 第11回 モンゴル帝国時代の東西交流—1
- 第12回 モンゴル帝国時代の東西交流—2
- 第13回 モンゴル帝国時代の東西交流—3
- 第14回 ポストモンゴル時の東西交流
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

博物館、美術館での見学

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（）

科目名 東洋美術史Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

### 授業の目的（獲得目標）

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。オリент（東洋）という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業では、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、同時に中国において近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複

### 内 容

- 第1回 概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
- 第2回 史前・原始社会の美術—文明の形態
- 第3回 夏文明に関する諸説の検討
- 第4回 二里頭遺跡の発掘及び青銅文明の出現
- 第5回 商周の美術—青銅器の出現と文飾の意味
- 第6回 春秋・戦国時代の美術—帛画・青銅工芸品、漆器（美術副葬品の出現）
- 第7回 秦代の美術—始皇帝陵と兵馬俑
- 第8回 秦代美術の問題点—その源流を考える
- 第9回 漢代の美術—死後世界の憧憬とその表現
- 第10回 墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
- 第11回 東アジア地域における秦漢美術の意義
- 第12回 魏晋南北朝時代—職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題。
- 第13回 中国古代の絵画史論—謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
- 第14回 魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
- 第15回 内容総括

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (100) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 西洋美術史 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 邦洋

テーマ

美術（主に絵画、彫刻）作品から、作者のメッセージを読む。

授業の目的（獲得目標）

美術作品は何も知らなくても、表面的な美しさは分かる。しかし、すぐれた作品はただ感覚的な美しさだけではなく、もっと深いメッセージを伝えようとしていることを知ってほしい。そのメッセージを読み解くための「技術」の獲得をめざす。

内 容

第1回 絵画の見方のいろいろ ～絵が「分かる」とはどういうことか？～

第2回 「物語る絵画」①旧約の世界

第3回 「物語る絵画」②新約の世界

第4回 「物語る絵画」③レオナルド作「最後の晩餐」の修復の過程を記録したビデオ視聴

第5回 「物語る絵画」④最後の晩餐の系譜

第6回 「物語る絵画」⑤古典モチーフ ～ギリシア神話～

第7回 「物語る絵画」⑥古典モチーフ ～神話以外の文学～

第8回 「讃える絵画」①聖母子

第9回 「讃える絵画」②聖人

第10回 「讃える絵画」③世俗の人間

第11回 「世界を観る絵画」①ミケランジェロ作「最後の審判」の修復の過程を記録したビデオ視聴

第12回 「世界を観る絵画」②最後の審判の系譜

第13回 「世界を観る絵画」③現実観

第14回 「世界を観る絵画」③自然と都市

第15回 まとめ（試験含む）

授業以外での学習方法

展覧会、テレビの美術番組を見る。その時々展覧会については、授業内で紹介する。

教科書

参考書

成績評価



試験 (100%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 西洋美術史Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 邦洋

テーマ

美術（主に絵画、彫刻）作品から、作者のメッセージを読む。

授業の目的（獲得目標）

美術作品は何も知らなくても、表面的な美しさは分かる。しかし、すぐれた作品はただ感覚的な美しさだけでなく、もっと深いメッセージを伝えようとしていることを知ってほしい。そのメッセージを読み解くための「知識・技術」と「絵画の文法」の獲得をめざす。

内 容

第1回 絵画の題名について

第2回 「記録する絵画」①歴史

第3回 「記録する絵画」②人間

第4回 「記録する絵画」③自然

第5回 「誇示する絵画」①画術の栄光

第6回 「誇示する絵画」②知識

第7回 「誇示する絵画」③ダブル・イメージ

第8回 「誇示する絵画」④裸体の系譜

第9回 「絵画の文法」①空間 ～遠近法～

第10回 「絵画の文法」②明暗 ～陰影法～

第11回 「絵画の文法」③時間

第12回 「絵画の文法」④身振り

第13回 「絵画の文法」⑤構図

第14回 「交差する東西のまなざし」

第15回 試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（80％）小テスト（）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 民俗学 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

民俗信仰の世界—日本人のカミとホトケ—

### 授業の目的（獲得目標）

現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス—何を学ぶか
- 第2回 柳田国男の人と学問—導入的視点から
- 第3回 民俗と民俗学について
- 第4回 ご先祖様って何？—盆行事（1）
- 第5回 ご先祖様って何？—盆行事（2）
- 第6回 ご先祖様って何？—盆行事（3）
- 第7回 ご先祖様って何？—盆行事（4）
- 第8回 怪獣の民俗学「ゴジラ」(1)
- 第9回 怪獣の民俗学「ゴジラ」(2)
- 第10回 怪獣の民俗学「ゴジラ」(3)
- 第11回 野の仏たち—民俗的地蔵信仰の世界
- 第12回 地獄・極楽の図—熊野観心十界図の世界—
- 第13回 水神と毘沙門天(1)
- 第14回 水神と毘沙門天(2)
- 第15回 サブカルチャーの民俗学—祓いの構造と現代アニメ—（I）
- 第16回 まとめとレポート提出

### 授業以外での学習方法

民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。

### 教科書

**成績評価**

試験（50 パーセント）小テスト（）授業中課題（20 パーセント）授業中発表等（）参加度（出席 30 パーセント）備考（テキストはありません。プリントを配布します。試験は、レポート提出）

科目名 民俗学Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

民俗信仰の世界—日本人のカミとホトケ—

### 授業の目的（獲得目標）

現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。

### 内 容

- 第1回 那智参詣曼荼羅の世界—導入として
- 第2回 民俗と民俗学について
- 第3回 お年玉を貰うと歳をとってしまうのだ—正月行事（1）
- 第4回 お年玉を貰うと歳をとってしまうのだ—正月行事（2）
- 第5回 お年玉を貰うと歳をとってしまうのだ—正月行事（3）
- 第6回 映画『大魔神』で学ぶ日本人の神観念(1)
- 第7回 映画『大魔神』で学ぶ日本人の神観念(2)
- 第8回 映画『大魔神』で学ぶ日本人の神観念(3)
- 第9回 裸祭りの諸相—なぜ裸になるのか—(1)
- 第10回 裸祭りの諸相—なぜ裸になるのか—(2)
- 第11回 京洛の福神信仰(1)
- 第12回 京洛の福神信仰(2)
- 第13回 『もののけ姫』の宗教民俗学—序論的考察
- 第14回 昔話の観音—民俗的観音信仰の諸相(1)
- 第15回 昔話の観音—民俗的観音信仰の諸相(2)
- 第16回 まとめとレポート提出

### 授業以外での学習方法

民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。

### 教科書

**成績評価**

試験（50 パーセント）小テスト（）授業中課題（20 パーセント）授業中発表等（）参加度（出席 30 パーセント）備考（テキストはありません。プリントを配布します。試験は、レポート提出）

|             |               |      |     |
|-------------|---------------|------|-----|
| 科目名         | 文化財基礎ゼミ I <a> |      |     |
| クラス         | a             | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期            | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |               |      |     |
| クラス指定       | 大学指定          |      |     |
| 担当者         | 一瀬 和夫         |      |     |

**テーマ**

考古学事象の観察、記録、解釈の流れをつかむ。

**授業の目的（獲得目標）**

I hear and I forget. I see and I remember. I do and I understand. をもとに、自己の研究課題の設定方法を修得する。

**内 容**

- 第1回 『選択する』考古学、パラダイムの転換、データと理論
- 第2回 史跡の見学発表の検討
- 第3回 史跡での見学発表
- 第4回 「状況」コンテキストと発掘調査報告の整理方法
- 第5回 オブジェクト・ワークショップ（はさみ、のり・テープ・ホッチキス使用）
- 第6回 オブジェクト・レポート発表（複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ）
- 第7回 オブジェクト・レポート発表（複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ）
- 第8回 「もの」がもつ観念構成的な領域と機能
- 第9回 「もの」からくるライフサイクルを考えるためのテーマの設定
- 第10回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論
- 第11回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論
- 第12回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論
- 第13回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論
- 第14回 考古学的コンテキストを検討する
- 第15回 さらなるレポートの課題の報告と研究の見通し

**授業以外での学習方法**

気に入ったものをつねに探す。博物館・ショッピング街などを意識的に見学する。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40）授業中発表等（40）参加度（20）備考（）

科目名 文化財基礎ゼミ I <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子

**テーマ**

古文書の調査と整理・保存・利用

**授業の目的（獲得目標）**

実際の古文書調査で必要となる諸知識を身につけ、実務における課題を考える

**内 容**

- 第1回 古文書調査とは
- 第2回 古文書調査の流れ
- 第3回 古文書調査の方法（1）
- 第4回 古文書調査の方法（2）
- 第5回 古文書調査の方法（3）
- 第6回 古文書の保存と活用
- 第7回 学外授業（施設見学）
- 第8回 古文書を読むには
- 第9回 実例研究（1）
- 第10回 実例研究（2）
- 第11回 実例研究（3）
- 第12回 実例研究（4）
- 第13回 実例研究（5）
- 第14回 実例研究（6）
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（0）参加度（60%）備考（）



科目名 文化財基礎ゼミ I <c>

クラス c 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 王 衛明

#### テーマ

美術史的調査と資料蒐集法

#### 授業の目的（獲得目標）

美術工芸史の研究においては、その前提として、作品の「取り扱い」による調査手段が不可欠なことである。社寺、美術館、博物館など作品のある場所に出向き、自分の目で作品を認識し、謂る知識と観察眼という研究者の調査経験が求められる。具体的に、模擬文化財で反復訓練することや、または教員から実例を取り上げて説明することによって、様々作品に対する調査法、形象資料記録の仕方、鑑識法及びイメージ分析法を実践する。

#### 内 容

- 第1回 美術作品の調査方法：絵画・彫刻、発掘美術資料の蒐集法に関する解説
- 第2回 美術作品の調査方法：絵画・彫刻、発掘美術資料の蒐集法に関する解説
- 第3回 美術作品の形象記述法に関する実習—出土美術資料
- 第4回 美術作品の記録・観察方法—仏教造像
- 第5回 美術作品の記録・観察方法—仏教造像
- 第6回 美術作品の記録・観察方法—屏風絵
- 第7回 美術作品の記録・観察方法—屏風絵
- 第8回 美術作品の記録・観察方法—屏風絵
- 第9回 美術作品の記録・観察方法—掛軸（山水画・仏画）
- 第10回 美術作品の記録・観察方法—掛軸（山水画・仏画）
- 第11回 美術作品の記録・観察方法—掛軸（山水画・仏画）
- 第12回 美術作品の記録・観察方法—絵物巻
- 第13回 美術作品の記録・観察方法—絵物巻
- 第14回 美術作品の記録・観察方法—絵物巻
- 第15回 美術作品の鑑識と研究方法—文化財調書の作り方に関する解説及び講評

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (30%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (70%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 文化財基礎ゼミⅡ〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 巽 淳一郎

## テーマ

考古学は仮説とその検証を積み重ねることによって真理に近づく学問であることを理解させ、考察に当たっては批判的精神をもって対処すべきことを伝える。

## 授業の目的（獲得目標）

諸説を盲目的に信頼するのではなく、批判的に見る目を養う。そのためには、実際に自分の目で考古学資料を観察することの重要性を理解させる。

## 内 容

第1回 ガイダンス 授業の進め方 獲得目標の説明

第2回 論文購読 課題設定

第3回 論文購読 課題設定

第4回 論文購読 課題設定

第5回 論文購読 課題設定

第6回 論文購読 課題設定

第7回 論文購読のまとめ

第8回 校外学習

第9回 課題発表

第10回 課題発表

第11回 課題発表

第12回 課題発表

第13回 課題発表

第14回 総括

第15回 校外学習 発掘現場見学

## 授業以外での学習方法

遺跡見学・遺物展示参観、発掘現場見学を勧め、遺物・遺跡に対する観察力を育む。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（なし）小テスト（）授業中課題（60%）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（課題に対する取り組み方、発表内容、発表態度を基に評価。）

## 2010 Syllabus

科目名 文化財基礎ゼミⅡ〈b〉

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子

**テーマ**

古文書の調査と整理・保存・利用

**授業の目的（獲得目標）**

実際の古文書調査で必要となる諸知識を身につけ、実務における課題を考える

**内 容**

- 第1回 古文書とは
- 第2回 古文書調査の流れ
- 第3回 古文書調査の方法（1）
- 第4回 古文書調査の方法（2）
- 第5回 古文書調査の方法（3）
- 第6回 古文書の保存と活用
- 第7回 学外授業（施設見学）
- 第8回 古文書を読むには
- 第9回 実例研究（1）
- 第10回 実例研究（2）
- 第11回 実例研究（3）
- 第12回 実例研究（4）
- 第13回 実例研究（5）
- 第14回 実例研究（6）
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること

**教科書****参考書****成績評価**

試験（0）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（0）参加度（60%）備考（）

科目名 文化財基礎ゼミⅡ <c>

クラス c 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 弓場 紀知

#### テーマ

工芸史の基礎的研究

#### 授業の目的（獲得目標）

3回生のゼミに進むための、工芸史の実践的研究。受講生は博物館、美術館などで作品の観察を調査させて発表する。

#### 内 容

- 第1回 授業の進め方に対するガイダンス
- 第2回 陶磁器の研究法
- 第3回 漆作品の研究法
- 第4回 金作品の研究法
- 第5回 近現代の伝統工芸の研究法
- 第6回 事例発表―①
- 第7回 事例発表―②
- 第8回 事例発表―③
- 第9回 事例発表―④
- 第10回 事例発表―⑤
- 第11回 事例発表―⑥
- 第12回 事例発表―⑦
- 第13回 工芸史研究に関する文献研究
- 第14回 絵画、考古などの関連分野との比較研究
- 第15回 総括

#### 授業以外での学習方法

実体資料による調査。博物館、美術館での観察

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（授業への

参加度と発表)

科目名 考古学研究 I (古代 I)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

弥生・古墳時代に生み出された「かたち」を考える。

授業の目的（獲得目標）

人間本来と交流から発生して生み出される共通する「かたち」と、特異な人間生活に関わる地域・時代性からくる「かたち」を比較する。

内 容

第1回 「かたち」自然と影響

第2回 「うつす」三角縁神獣鏡

第3回 「つける」直弧文

第4回 「つける」金と銀の武器・武具

第5回 「はこぶ」船と馬

第6回 「はこぶ」そりと修羅

第7回 「はこぶ」道と区画

第8回 「くらす」洪水と噴火で埋もれたムラ

第9回 「くらす」館と宮

第10回 「くらす」巷のまつり

第11回 「のこす」倭国の古墳

第12回 「のこす」大王の墓

第13回 「つたわる」皇帝の墓

第14回 「つたわる」シルクロード辺境

第15回 「かたち」の工房 ※なお、講師を招いて講演会を実施することがある。

授業以外での学習方法

自然現象と人間が創造したものについての共通点を見つめてみる。身のまわりにある特異な習慣に注目する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 考古学研究Ⅱ（古代Ⅱ）

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 考古学研究Ⅳ（中世Ⅱ）

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 紀知

テーマ

古代祭祀遺跡の研究

授業の目的（獲得目標）

沖の島祭祀遺跡を中心にして、日本の古代祭祀を考える。さらに韓国の古代祭祀遺跡との比較研究も行い、関連性について考える。

内 容

- 第1回 授業の進め方に関するガイダンス
- 第2回 日本の古代祭祀について—原始時代
- 第3回 日本の古代祭祀について—古墳時代
- 第4回 日本の古代祭祀について—律令時代
- 第5回 祭祀遺跡研究史
- 第6回 沖ノ島祭祀遺跡調査史
- 第7回 沖ノ島祭祀遺跡—岩上祭祀
- 第8回 沖ノ島祭祀遺跡—岩陰祭祀
- 第9回 沖ノ島祭祀遺跡—半岩陰半露天祭祀
- 第10回 沖ノ島祭祀遺跡—露天祭祀
- 第11回 韓国竹幕洞祭祀遺跡について
- 第12回 沖ノ島祭祀遺跡と竹幕洞祭祀遺跡
- 第13回 沖ノ島祭祀遺跡の歴史的意義—①
- 第14回 沖ノ島祭祀遺跡の歴史的意義—②
- 第15回 沖ノ島祭祀の終焉 なお本講義では必要に応じて学外（実地）授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（内容の理解と授業への参加）

科目名 文献史料学 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

文献史料を読む

授業の目的（獲得目標）

史料を読み解く力を身につける

内 容

第1回 江戸時代の文献史料

第2回 史料を読むために

第3回 古文書の基礎知識（1）

第4回 古文書の基礎知識（2）

第5回 文献史料の読み方・調べ方（1）

第6回 文献史料の読み方・調べ方（2）

第7回 古文書を読む一文書から知る江戸時代（1）

第8回 古文書を読む一文書から知る江戸時代（2）

第9回 古文書を読む一文書から知る江戸時代（3）

第10回 古文書を読む一文書から知る江戸時代（4）

第11回 古文書を読む一文書から知る江戸時代（5）

第12回 古文書を読む一文書から知る江戸時代（6）

第13回 古文書を読む一文書から知る江戸時代（7）

第14回 古文書を読む一文書から知る江戸時代（8）

第15回 まとめと総括

授業以外での学習方法

必ず復習をし、できるだけ予習をすること。また、博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（50%）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（50%）備考（）

科目名 文献史料学Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

歴史考古学の研究法。歴史時代の考古遺物・遺跡を文献史料等を駆使し総合的に分析する方法を学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

歴史考古学と関連する基本的な文献史料の把握と読解力を養う。

内 容

第1回 『西大寺流記資財帳』から見た西大寺発掘成果

第2回 古代のまじない 1

第3回 古代のまじない 2

第4回 百万塔

第5回 富本銭の話

第6回 古代の大嘗祭

第7回 焼物の調貢納制度

第8回 古代焼物の器銘考証

第9回 墨書土器

第10回 地鎮・鎮壇

第11回 喫茶の始まり

第12回 古代役人の執務と生活

第13回 帯金具

第14回 天皇家の寺 百済大寺

第15回 官営工房二題（飛鳥池遺跡・長登製銅所）

第16回 試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 東洋美術史特講 I

クラス 4 Z

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

### 授業の目的（獲得目標）

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

### 内 容

- 第1回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第2回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第3回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第4回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第5回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第6回 漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
- 第7回 漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
- 第8回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第9回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第10回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第11回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察（キジル石窟、敦煌石窟）
- 第12回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察（キジル石窟、敦煌石窟）
- 第13回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察（キジル石窟、敦煌石窟）
- 第14回 内容総括
- 第15回 内容総括

### 授業以外での学習方法

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（100）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 美術工芸史研究 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

### 授業の目的（獲得目標）

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

### 内 容

- 第1回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第2回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第3回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第4回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第5回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第6回 漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
- 第7回 漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
- 第8回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第9回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第10回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第11回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察（キジル石窟、敦煌石窟）
- 第12回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察（キジル石窟、敦煌石窟）
- 第13回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察（キジル石窟、敦煌石窟）
- 第14回 内容総括
- 第15回 内容総括

### 授業以外での学習方法

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（100）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 美術工芸史研究Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

授業の目的（獲得目標）

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

内 容

- 第1回 敦煌石窟（莫高窟、榆林窟、西千仏洞）
- 第2回 敦煌石窟（莫高窟、榆林窟、西千仏洞）
- 第3回 敦煌石窟（莫高窟、榆林窟、西千仏洞）
- 第4回 仏教芸術の東漸（炳靈寺石窟）
- 第5回 仏教芸術の東漸（炳靈寺石窟）
- 第6回 麦積山石窟
- 第7回 麦積山石窟
- 第8回 北魏仏教芸術の興起—雲岡石窟
- 第9回 北魏仏教芸術の興起—雲岡石窟
- 第10回 北魏仏教芸術の興起—雲岡石窟
- 第11回 中原漢民族地域における仏教芸術の繁栄—龍門石窟
- 第12回 中原漢民族地域における仏教芸術の繁栄—龍門石窟
- 第13回 中原漢民族地域における仏教芸術の繁栄—龍門石窟
- 第14回 内容総括
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験（100）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化財特講 I (古代文化史)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

仁徳陵古墳と世界遺産の関係をみる

授業の目的 (獲得目標)

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。「百舌鳥・古市古墳群 仁徳陵古墳をはじめとする巨大古墳群」のうちの仁徳陵古墳の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあり方を具体的に考えてみる。

内 容

- 第1回 世界遺産とは
- 第2回 世界遺産の登録とは
- 第3回 仁徳陵古墳の評価とは
- 第4回 古墳時代のシンボル
- 第5回 あばかれた内部
- 第6回 仁徳陵古墳の話題性
- 第7回 墳丘の復原
- 第8回 埴輪と須恵器
- 第9回 古墳時代のネットワーク
- 第10回 古墳時代の空間イメージ
- 第11回 仁徳陵古墳の見学
- 第12回 王陵の考古学
- 第13回 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録要件とは
- 第14回 百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値とは
- 第15回 文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

授業以外での学習方法

まちと歴史遺産の調和関係を考えてみる

教科書

参考書

成績評価



試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 文化財特講Ⅱ(中近世文化史)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

原始から現代まで連綿と繋がる焼物の歴史を通じて、各時代の焼者が生まれた社会的背景を考える。

授業の目的(獲得目標)

日本陶磁史の把握。各時代の時代性と焼物の関係を理解する。ひいては、焼物を通観することで有形文化財の保存・活用を考える力を養う。

内 容

第1回 はじめに 授業内容 進め方についてのガイダンス

第2回 焼物の分類 土器部門 1

第3回 土器部門 2

第4回 土器部門 3 埴輪

第5回 炆器部門の成立と展開

第6回 7世紀における焼物様式の転換

第7回 瓦生産と須恵器工人 瓦工人集団の成立

第8回 7世紀末葉における焼物様式の転換

第9回 律令体制下における焼物生産と供給 1

第10回 律令体制下における焼物生産と供給 2

第11回 陶器(施釉陶器)の成立とその背景

第12回 陶器の変遷

第13回 中世陶器の胎動と各中世窯の状況

第14回 輸入陶磁器

第15回 近世陶磁器

第16回 試験

授業以外での学習方法

博物館で各焼物の検分を薦める。

教科書

参考書

成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 文化財特講Ⅲ(建築)

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 島田 敏男

テーマ

日本建築史と歴史的建造物の保存・活用

授業の目的(獲得目標)

伝統的建造物の歴史にもとづく価値付け方法、およびその保存・活用方法を理解する。

内 容

- 第1回 歴史的建造物の基礎知識
- 第2回 住宅の歴史
- 第3回 神社の歴史
- 第4回 寺院の歴史
- 第5回 歴史的建造物の保護の歴史
- 第6回 歴史的建造物の保護の制度
- 第7回 歴史的建造物の管理と防災
- 第8回 歴史的建造物の修復
- 第9回 学外授業 社寺建築と町並(清水寺～祇園新橋)
- 第10回 学外授業 社寺建築と町並(清水寺～祇園新橋)
- 第11回 学外授業 日本の民家(日本民家集落博物館)
- 第12回 学外授業 日本の民家(日本民家集落博物館)
- 第13回 町並保存の制度と方法
- 第14回 歴史的建造物の活用
- 第15回 レポート講評会

授業以外での学習方法

文化財に指定されている建造物に限らず、町のなかで活用されている歴史的建造物に注意し、どのような目的で保存され、どのような手法が用いられているかを常に考える。

教科書

参考書

成績評価

試験(0) 小テスト(0) 授業中課題(55) 授業中発表等(0) 参加度(45) 備考( )

---

科目名 文化財特講IV(染織)

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 中村 千枝子

---

テーマ

日本の染織文化の変遷

---

### 授業の目的(獲得目標)

布を織る・染めるなどの行為は古くから繰り返し行われてきた。その行為は時代の推移とともに華麗に変化しつつ、現代にまで脈々と受け継がれてきた。日本の染織文化を中心に、その変遷を各時代の歴史的背景を追いながら解説する。

---

### 内 容

- 第1回 概論
  - 第2回 古代の染織
  - 第3回 弥生時代の染織
  - 第4回 古墳時代の染織
  - 第5回 上代の染織
  - 第6回 正倉院の染織 1
  - 第7回 正倉院の染織 2
  - 第8回 平安時代の染織
  - 第9回 名物裂
  - 第10回 能装束
  - 第11回 小袖 1
  - 第12回 小袖 2
  - 第13回 小袖 3
  - 第14回 まとめ
  - 第15回 まとめと授業内レポート
- 

### 授業以外での学習方法

博物館・美術館・寺社などに赴き、伝世されてきた宝物を観る。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (70) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 考古学実習 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

考古学にとって最も基本的な遺物の観察法と遺物の図化表現法を身に付ける。

授業の目的（獲得目標）

土器の観察と実測表現。拓本

内 容

第1回 ガイダンス 実測の基本

第2回 土器実測実習

第3回 土器実測実習

第4回 土器実測実習

第5回 土器実測実習

第6回 土器実測実習

第7回 土器実測実習

第8回 土器実測実習

第9回 土器実測実習

第10回 拓本実習

第11回 拓本実習

第12回 実測課題の作成

第13回 実測課題の作成

第14回 実測課題の作成

第15回 実測課題の作成

授業以外での学習方法

考古学関係の職を目指している学生には、空き時間を利用して補習をおこなう。

教科書

参考書

成績評価

試験（なし）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（課題実測図を評価対称とする。）

科目名 考古学実習Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

考古学にとって最も基本的な遺物の観察法と遺物の図化表現法を身に付ける。

授業の目的（獲得目標）

平面形状体の観察と実測表現法、大型遺物の縮小実測法を習得。

内 容

- 第1回 平面形状体実測の実際
- 第2回 石器・木器の実測実習
- 第3回 石器・木器の実測実習
- 第4回 石器・木器の実測実習
- 第5回 石器・木器の実測実習
- 第6回 石器・木器の実測実習
- 第7回 石器・木器の実測実習
- 第8回 石器・木器の実測実習
- 第9回 石器・木器の実測実習
- 第10回 石器・木器の実測実習
- 第11回 大型遺物の縮小実測実習
- 第12回 大型遺物の縮小実測実習
- 第13回 大型遺物の縮小実測実習
- 第14回 大型遺物の縮小実測実習
- 第15回 大型遺物の縮小実測実習

授業以外での学習方法

考古学関係の仕事に就きたいと思っている学生には、授業外の時間でも実測訓練に協力する。

教科書

参考書

成績評価

試験（なし）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（実測図の総合評価。）



科目名 美術工芸史実習 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

美術工芸品の研究に関する調査と分析方法の実習

授業の目的（獲得目標）

美術史を研究するために、その前提とする美術品の取扱い、基本的な技術と調査方法を身につける。

内 容

第1回 美術工芸品の取り扱い

第2回 絵画と彫刻作品の基本調査、実測及び図像制作に関する解説

第3回 制作実習－仏像・金銅仏像・神獸鏡文様・宝篋印塔など

第4回 制作実習－仏像・金銅仏像・神獸鏡文様・宝篋印塔など

第5回 制作実習－仏像・金銅仏像・神獸鏡文様・宝篋印塔など

第6回 制作実習－仏像・金銅仏像・神獸鏡文様・宝篋印塔など

第7回 制作実習－実測面及び図像绘制の具体的作業

第8回 制作実習－実測面及び図像绘制の具体的作業

第9回 制作実習－実測面及び図像绘制の具体的作業

第10回 制作実習－実測面及び図像绘制の具体的作業

第11回 博物館・寺院・特別展の見学などの学外実習を行い、また、実習した美術資料の整理・分類について解説する。

第12回 博物館・寺院・特別展の見学などの学外実習を行い、また、実習した美術資料の整理・分類について解説する。

第13回 博物館・寺院・特別展の見学などの学外実習を行い、また、実習した美術資料の整理・分類について解説する。

第14回 博物館・寺院・特別展の見学などの学外実習を行い、また、実習した美術資料の整理・分類について解説する。

第15回 内容総括

授業以外での学習方法

日頃から博物館、美術館、文化財遺跡を訪れ、また重要な特別展を見学し、その美術工芸品を実見することによって問題意識を養うこと。また、見学などの学外授業の参加を義務づける。

教科書

**成績評価**

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 美術工芸史実習Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書に親しむ

授業の目的（獲得目標）

さまざまな古文書の姿を知る

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 古文書に関する基礎知識

第3回 古文書の整理と解説（1）

第4回 古文書の整理と解説（2）

第5回 古文書の整理と解説（3）

第6回 学外授業

第7回 古文書の整理と解説（4）

第8回 古文書の整理と解説（5）

第9回 古文書の整理と解説（6）

第10回 古文書の整理と解説（7）

第11回 学外授業

第12回 古文書の整理と解説（8）

第13回 古文書の整理と解説（9）

第14回 古文書の整理と解説（10）

第15回 まとめと総括

授業以外での学習方法

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（30%）授業中発表等（0）参加度（70%）備考（）

---

科目名 文化財調査実習 I

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 秋期集中 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 一瀬 和夫

---

テーマ

考古学の基本となる測量調査、発掘調査の一連の手続きにふれる

---

### 授業の目的（獲得目標）

いろいろな役割を測量や発掘調査が含むことを体で感じ、その中でまず自身が進んで行動できるものを見つけ、そこから発掘技術の修得へと向かう。本学で夏期に実施する測量調査、発掘調査に6日以上（4週間程行う本学の調査の中で日程を選択調整する）、事前にそれに伴う平板測量などの学習と打合せを行う3日間に参加することを条件とする。

---

### 内 容

第1回 平板測量などの学習

第2回 平板測量などの学習

第3回 打合せ

第4回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第5回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第6回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第7回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第8回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第9回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第10回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第11回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第12回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第13回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第14回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

第15回 調査（伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測）

---

### 授業以外での学習方法

発掘調査や遺跡調査の現地説明会などに参加してみる。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (60) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 文化財調査実習Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 文化財学演習 I <a>               |      |     |
| クラス   | a                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 巽 淳一郎、一瀬 和夫                |      |     |

### テーマ

自ら資料を収集し、分析、考察する力を養う。

### 授業の目的（獲得目標）

自分で分析、考察した結果をみんなの前で分かりやすく話す。

### 内 容

- 第1回 ゼミ方式のガイダンス 課題設定
- 第2回 討論会 発掘調査は銅あるべきか
- 第3回 郊外学習 発掘調査現場見学
- 第4回 課題発表 質疑応答
- 第5回 課題発表 質疑応答
- 第6回 課題発表 質疑応答
- 第7回 課題発表 質疑応答
- 第8回 課題発表 質疑応答
- 第9回 課題発表 質疑応答
- 第10回 課題発表 質疑応答
- 第11回 課題発表 質疑応答
- 第12回 課題発表 質疑応答
- 第13回 課題発表 質疑応答
- 第14回 課題発表 質疑応答
- 第15回 前期ゼミ総括 夏休みの課題割り当て

### 授業以外での学習方法

考古学に関する書物保管公開機関の紹介

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（なし）小テスト（）授業中課題（60%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（与えられた課題に対する取り組み方、発表内容、発表の仕方を基準に評価。）

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 文化財学演習 I <b>               |      |     |
| クラス   | b                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 弓場 紀知                      |      |     |

### テーマ

工芸作品の研究－1

### 授業の目的（獲得目標）

工芸史専攻生のための作品研究の方法。文献、関連図録などを中心に研究の方法論を取得する。特に前期では工芸史の研究史について講義を行う。

### 内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
- 第2回 工芸史研究の対象について
- 第3回 工芸史研究史－日本陶磁器
- 第4回 工芸史研究史－韓国陶磁器
- 第5回 工芸史研究史－中国陶磁器
- 第6回 工芸史研究史－茶陶
- 第7回 工芸史研究史－日本の漆工
- 第8回 工芸史研究史－中国の漆工
- 第9回 工芸史研究史－イスラーム陶器
- 第10回 工芸史研究史－イスラームガラス
- 第11回 工芸史研究史－ヨーロッパの陶磁器
- 第12回 工芸史研究史－伝統工芸〈陶磁器〉
- 第13回 工芸史研究史－伝統工芸〈その他〉
- 第14回 研究史に関するディスカッション
- 第15回 総括

### 授業以外での学習方法

博物館、美術館の見学と調査

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0％）小テスト（0％）授業中課題（0％）授業中発表等（50％）参加度（50％）備考（）



## 2010 Syllabus

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 文化財学演習 I <c>               |      |     |
| クラス   | c                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 王 衛明                       |      |     |

## テーマ

美術工芸品の研究に関する基本研究法

## 授業の目的（獲得目標）

美術史研究はいかなる作業であるかについて理解していく。また、操作の方法について議論する。（1）文献出典の探源 （2）時代の判断及び様式考察の方法 （3）芸術作品成立の時代背景の考察方法 （4）関連文献の調べ方

## 内 容

- 第1回 各自の研究テーマを設定する
- 第2回 各自の研究テーマを設定する
- 第3回 学外授業（特別展見学）
- 第4回 発表
- 第5回 発表
- 第6回 発表
- 第7回 発表
- 第8回 学外授業（特別展見学）
- 第9回 発表
- 第10回 発表
- 第11回 発表
- 第12回 発表
- 第13回 学外授業（特別展見学）
- 第14回 発表成果を各自まとめる
- 第15回 総括

## 授業以外での学習方法

授業時に指定する参考文献や、自分の選定した研究分野に関する文献資料や論文などをよく読むこと。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 文化財学演習 I <d>               |      |     |
| クラス   | d                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 有坂 道子                      |      |     |

## テーマ

近世の古文書を読む（初級）

## 授業の目的（獲得目標）

古文書の読解力を身につける

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習（1）
- 第3回 演習（2）
- 第4回 演習（3）
- 第5回 演習（4）
- 第6回 学外授業
- 第7回 演習（5）
- 第8回 演習（6）
- 第9回 演習（7）
- 第10回 演習（8）
- 第11回 学外授業
- 第12回 演習（9）
- 第13回 演習（10）
- 第14回 演習（11）
- 第15回 総括

## 授業以外での学習方法

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0）小テスト（40%）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（60%）備考（0）

## 2010 Syllabus

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 文化財学演習Ⅱ〈a〉                 |      |     |
| クラス   | a                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 巽 淳一郎、一瀬 和夫                |      |     |

## テーマ

卒業論文作成に向けて、自分で資料を集め、分析、考察し、みんなの前で発表し意見を聞く。

## 授業の目的（獲得目標）

研究史を踏まえ、自分で資料分析、考察する力を付ける。

## 内 容

|      |          |      |            |
|------|----------|------|------------|
| 第1回  | 夏休みの課題発表 | 質疑応答 |            |
| 第2回  | 夏休みの課題発表 | 質疑応答 |            |
| 第3回  | 夏休みの課題発表 | 質疑応答 |            |
| 第4回  | 夏休みの課題発表 | 質疑応答 |            |
| 第5回  | 校外学習     |      |            |
| 第6回  | 各自課題研究発表 | 質疑応答 |            |
| 第7回  | 各自課題研究発表 | 質疑応答 |            |
| 第8回  | 各自課題研究発表 | 質疑応答 |            |
| 第9回  | 各自課題研究発表 | 質疑応答 |            |
| 第10回 | 各自課題研究発表 | 質疑応答 |            |
| 第11回 | 各自課題研究発表 | 質疑応答 | 各自研究計画作成指示 |
| 第12回 | 校外学習     |      |            |
| 第13回 | 各自研究計画発表 |      |            |
| 第14回 | 各自研究計画発表 |      |            |
| 第15回 | 後期ゼミ総括   |      |            |

## 授業以外での学習方法

研究会の紹介

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（なし）小テスト（）授業中課題（60%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（）

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 文化財学演習Ⅱ <b>                |      |     |
| クラス   | b                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 弓場 紀知                      |      |     |

### テーマ

工芸作品の研究－2

### 授業の目的（獲得目標）

日本、韓国、中国、イスラームの工芸の歴史を中心に講義する。このことにより工芸に関する歴史的流れを理解させる。

### 内 容

- 第1回 授業の進め方に関するガイダンス
- 第2回 工芸とは何か。技術史か芸術史か。
- 第3回 日本の陶磁器の歴史－古代
- 第4回 日本の陶磁器の歴史－中世
- 第5回 日本の陶磁器の歴史－近世①
- 第6回 日本の陶磁器の歴史－近世②
- 第7回 韓国の陶磁器の歴史－統一新羅以前
- 第8回 韓国の陶磁器の歴史－高麗時代
- 第9回 韓国の陶磁器の歴史－朝鮮王朝時代
- 第10回 中国陶磁史－古代
- 第11回 中国陶磁史－隋・唐
- 第12回 中国陶磁史－宋
- 第13回 中国陶磁史－元
- 第14回 中国陶磁史－明・清
- 第15回 イスラーム陶磁史

### 授業以外での学習方法

博物館・美術館での見学と調査

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0％）小テスト（0％）授業中課題（50％）授業中発表等（0％）参加度（50％）備考（）

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 文化財学演習Ⅱ <c>                |      |     |
| クラス   | c                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 王 衛明                       |      |     |

### テーマ

美術工芸品の研究に関する調査と分析方法の実習

### 授業の目的（獲得目標）

美術史を研究するために、その前提とする美術品の取扱い、基本的な技術と調査方法を身につける。美術工芸史研究においては、実際にモノを保存し、展示する博物館、美術館など諸機関の活用が重要である。本実習では、関西周辺の博物館、美術館の常設、企画展の実地見学を中心に置き、また仏教美術を中心に有力な作品群を所蔵する寺院をも定期的に訪ね、学習による概念的知識を実地に検証し、学生が自ら問題を発見し、美術品実物に対する判断力、理解力を高めることを目指す。将来の専門研究に備えて必須の、美術工芸品の取り扱いの基本的技術

### 内 容

- 第1回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第2回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第3回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第4回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第5回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第6回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第7回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第8回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第9回 学芸員の仕事と役割、展示活動の一環とした出品目録の編集、制作する
- 第10回 学芸員の仕事と役割、展示活動の一環とした出品目録の編集、制作する
- 第11回 研究資料の分類と保存、論文図版の製作技法
- 第12回 研究資料の分類と保存、論文図版の製作技法
- 第13回 研究資料の分類と保存、論文図版の製作技法
- 第14回 研究資料の分類と保存、論文図版の製作技法
- 第15回 研究資料の分類と保存、論文図版の製作技法

### 授業以外での学習方法

日頃から博物館、美術館、文化財遺跡を訪れ、また重要な特別展を見学し、その美術工芸品を実見することによって問題意識を養うこと。また、各回に挿んで、博物館、寺院、特別展の見学などの課外授業も行い、参加を義務付ける。

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                            |      |     |
|-------|----------------------------|------|-----|
| 科目名   | 文化財学演習Ⅱ <d>                |      |     |
| クラス   | d                          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期                         | 定員   | 25  |
| 履修条件  | 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制                        |      |     |
| 担当者   | 有坂 道子                      |      |     |

## テーマ

近世の古文書を読む（初級）

## 授業の目的（獲得目標）

古文書の読解力を身につける

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習（1）
- 第3回 演習（2）
- 第4回 演習（3）
- 第5回 演習（4）
- 第6回 学外授業
- 第7回 演習（5）
- 第8回 演習（6）
- 第9回 演習（7）
- 第10回 演習（8）
- 第11回 学外授業
- 第12回 演習（9）
- 第13回 演習（10）
- 第14回 演習（11）
- 第15回 総括

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0）小テスト（40%）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（60%）備考（）



科目名 考古学実習Ⅲ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

組織、群としての発掘調査成果を記録する考古学研究の基礎となる実践方法を知る

授業の目的（獲得目標）

今日、発掘されたものはどのような手続きで処置されているのかを知り、フィジカルなチームプレーで行うことの多い調査の流れというものを理解して、研究へとつなげていくことを目的とする。

内 容

- 第1回 考古遺物のスケッチと観察
- 第2回 展示・活用開発の技術—チームワーク・ワークショップ
- 第3回 展示・活用開発の技術—チームワーク・ワークショップ
- 第4回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図
- 第5回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図
- 第6回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図
- 第7回 野外での測量
- 第8回 野外での測量
- 第9回 野外での測量
- 第10回 Photoshop・Illustratorによる遺跡分布図の作成
- 第11回 Photoshop・Illustratorによる調査区設定図の作成
- 第12回 Photoshop・Illustratorによる土層断面図の作成
- 第13回 Photoshop・Illustratorによる遺構平面図の作成
- 第14回 Photoshop・Illustratorによる出土状況図の作成
- 第15回 土器づくりと考古資料の展示の見学

授業以外での学習方法

Photoshop、Illustrator のコンピュータ・ソフトに触れてみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 考古学実習Ⅳ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

発掘調査成果を記録、報告するという考古学研究の基礎の中で自己研究をまとめる操作方法をつかむ

授業の目的（獲得目標）

I do and I understand. I work and I utilize. をもとに、主に統計、写真、絵画、デザイン、印刷、展示、プレゼンテーション、教育、ボランティア的要素などを備える発掘調査報告書の作成技術の修得をめざす。

内 容

第1回 報告書作成の概要

第2回 遺物のデジタル写真撮影

第3回 遺物のデジタル写真撮影と Photoshop による画像修正

第4回 Illustrator による遺構のレイアウト

第5回 Illustrator による遺構のレイアウトとスケール・方位等の作成

第6回 Illustrator による遺物のレイアウト

第7回 Illustrator による遺物のレイアウトとスケール・ナンバリング等の作成

第8回 InDesign による編集

第9回 InDesign による編集

第10回 コロタイプ印刷過程の見学

第11回 原稿作成

第12回 原稿作成

第13回 自己の実習報告書の製本

第14回 展示実習、模型、ハンズ・オン装置の製作工程の見学

第15回 報告書とそれに伴うプレゼンテーションの総評

授業以外での学習方法

デジタルカメラ、Photoshop（画像）、Illustrator（製図）、InDesign（印刷編集）のコンピュータ・ソフトに触れる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 美術工芸史実習Ⅲ <a>

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 紀知

テーマ

工芸作品の具体的研究

授業の目的（獲得目標）

前期では陶磁器をのぞく諸工芸についてその特質、素材、技法について図録、美術館での観察する。

内 容

- 第1回 授業の進め方に関するガイダンス
- 第2回 泉屋博古館
- 第3回 中国古代美術の収集について
- 第4回 京都考古資料館
- 第5回 洛中出土の桃山陶磁器
- 第6回 京都国立博物館
- 第7回 中国陶磁器を中心とする鑑賞陶磁器について
- 第8回 朝鮮陶磁器を中心とする鑑賞陶磁器について
- 第9回 楽美術館
- 第10回 楽焼について
- 第11回 野村美術館
- 第12回 茶陶について
- 第13回 京都国立近代美術館
- 第14回 京都の近現代の陶磁器
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

前期では見学、調査を中心に進める

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（）

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 美術工芸史実習Ⅲ <b> |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 25  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 |              |      |     |
| 担当者   | 王 衛明         |      |     |

### テーマ

美術工芸品の研究に関する調査と分析方法の実習

### 授業の目的（獲得目標）

美術史を研究するために、その前提とする美術品の取扱い、基本的な技術と調査方法を身につける。美術工芸史研究においては、実際にモノを保存し、展示する博物館、美術館など諸機関の活用が重要である。本実習では、関西周辺の博物館、美術館の常設、企画展の実地見学を中心に置き、また仏教美術を中心に有力な作品群を所蔵する寺院をも定期的に訪ね、学習による概念的知識を実地に検証し、学生が自ら問題を発見し、美術品実物に対する判断力、理解力を高めることを目指す。 将来の専門研究に備えて必須の、美術工芸品の取り扱いの基本的技術と

### 内 容

- 第1回 美術工芸品の取り扱い
- 第2回 絵画と彫刻作品の基本調査、実測及び図像制作に関する解説
- 第3回 制作実習－仏像・金銅仏像・神獸鏡文様・宝篋印塔など
- 第4回 制作実習－仏像・金銅仏像・神獸鏡文様・宝篋印塔など
- 第5回 制作実習－仏像・金銅仏像・神獸鏡文様・宝篋印塔など
- 第6回 制作実習－仏像・金銅仏像・神獸鏡文様・宝篋印塔など
- 第7回 制作実習－実測面及び図像绘制の具体的作業
- 第8回 制作実習－実測面及び図像绘制の具体的作業
- 第9回 制作実習－実測面及び図像绘制の具体的作業
- 第10回 制作実習－実測面及び図像绘制の具体的作業
- 第11回 博物館・寺院・特別展の見学などの学外実習を行い、また、実習した美術資料の整理・分類について解説する。
- 第12回 博物館・寺院・特別展の見学などの学外実習を行い、また、実習した美術資料の整理・分類について解説する。
- 第13回 博物館・寺院・特別展の見学などの学外実習を行い、また、実習した美術資料の整理・分類について解説する。
- 第14回 博物館・寺院・特別展の見学などの学外実習を行い、また、実習した美術資料の整理・分類について解説する。
- 第15回 内容総括

### 授業以外での学習方法

---

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（50）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（50）備考（日頃から博物館、美術館、文化財遺跡を訪れ、また重要な特別展を見学し、その美術工芸品を実見することによって問題意識を養うこと。また、見学などの学外授業の参加を義務づける。）

科目名 美術工芸史実習Ⅲ <c>

クラス c

配当回生 3回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の目的（獲得目標）

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 実習（1）

第3回 実習（2）

第4回 実習（3）

第5回 実習（4）

第6回 学外授業

第7回 実習（5）

第8回 実習（6）

第9回 実習（7）

第10回 実習（8）

第11回 学外授業

第12回 実習（9）

第13回 実習（10）

第14回 実習（11）

第15回 総括

授業以外での学習方法

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（30%）参加度（70%）備考（）

科目名 美術工芸史実習Ⅳ〈a〉

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 紀知

テーマ

工芸作品の研究

授業の目的（獲得目標）

受講生による発表を中心に行う。このことにより卒業論文のテーマを絞り込ませる

内 容

第1回 授業の進め方に関するガイダンス

第2回 模擬発表—陶磁器

第3回 模擬発表—漆器

第4回 発表—1

第5回 発表—2

第6回 発表—3

第7回 発表—4

第8回 発表—5

第9回 発表に対する検討

第10回 発表—6

第11回 発表—7

第12回 発表—8

第13回 発表に対する検討

第14回 質疑応答

第15回 総括

授業以外での学習方法

博物館・美術館の見学

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（）



|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 美術工芸史実習Ⅳ〈b〉 |      |     |
| クラス   | b           | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 25  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 王 衛明        |      |     |

### テーマ

美術工芸品の研究に関する調査と分析方法の実習

### 授業の目的（獲得目標）

美術工芸史研究においては、実際にモノを保存し、展示する博物館、美術館など諸機関の活用が重要である。本実習では、関西周辺の博物館、美術館の常設、企画展の現地見学を中心に置き、また仏教美術を中心に有力な作品群を所蔵する寺院をも定期的に訪ね、学習による概念的知識を実地に検証し、学生が自ら問題を発見し、美術品実物に対する判断力、理解力を高めることを目指す。将来の専門研究に備えて必須の、美術工芸品の取り扱いの基本的技術と調査方法を身につけるために、具体的に以下の諸事項について「美術工芸史実習Ⅰ」とあわせて一年間

### 内 容

- 第1回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第2回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第3回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第4回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第5回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第6回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第7回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第8回 絵画、特に壁画模写の基本方法に関する実習
- 第9回 学芸員の仕事と役割、展示活動の一環とした出品目録の編集、制作する
- 第10回 学芸員の仕事と役割、展示活動の一環とした出品目録の編集、制作する
- 第11回 研究資料の分類と保存、論文図版の製作技法
- 第12回 研究資料の分類と保存、論文図版の製作技法
- 第13回 研究資料の分類と保存、論文図版の製作技法
- 第14回 研究資料の分類と保存、論文図版の製作技法
- 第15回 内容総括

### 授業以外での学習方法

日頃から博物館、美術館、文化財遺跡を訪れ、また重要な特別展を見学し、その美術工芸品を実見することによって問題意識を養うこと。また、各回に挿んで、博物館、寺院、特別展の見学などの課外授業も行い、参加を義務付ける。

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 美術工芸史実習Ⅳ <c>

クラス c 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の目的（獲得目標）

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 実習（1）

第3回 実習（2）

第4回 実習（3）

第5回 実習（4）

第6回 学外授業

第7回 実習（5）

第8回 実習（6）

第9回 実習（7）

第10回 実習（8）

第11回 学外授業

第12回 実習（9）

第13回 実習（10）

第14回 実習（11）

第15回 総括

授業以外での学習方法

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（30%）参加度（70%）備考（0）

---

科目名 古都学 I

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 巽 淳一郎

---

テーマ

日本古代都城の成立と展開を国際的視野で捉え、日本の都城の特質を理解する。

---

授業の目的（獲得目標）

日本都城の成立と展開を理解させる。東アジア諸国古代都城の実体を学びわが国都城との相違点、共通点を考えさせる。

---

内 容

- 第1回 東アジア古代都城の概説
  - 第2回 7世紀の宮 1
  - 第3回 7世紀の宮 2
  - 第4回 本格的な都城 藤原京の成立
  - 第5回 藤原京の造営 構造
  - 第6回 平城京 1
  - 第7回 平城京 2
  - 第8回 難波宮・紫香楽宮・恭仁宮
  - 第9回 長岡京
  - 第10回 平安京
  - 第11回 中国都城 1
  - 第12回 中国都城 2
  - 第13回 中国都城 3
  - 第14回 朝鮮三国の都城
  - 第15回 渤海の都城
  - 第16回 試験
- 

授業以外での学習方法

日本古代都城跡（飛鳥・藤原宮・平城宮など）を訪ねることを薦める。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 古都学Ⅱ〈Z〉

クラス Z

配当回生 4回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

京都の歴史と文化の特性を探る。

授業の目的（獲得目標）

京都の歴史と文化が歴史・文化遺産として現代に影響を与え生きていることを理解する。授業計画 平安京以前の京都、平安京の構造、民衆の生活、中世の京都、近世の京都など各時代の遺跡について、発掘調査の成果から具体的に考古学的な遺構・遺物の検討や実見することで古都の知見を掘り下げる

内 容

第1回 平安宮の構造と諸官衙

第2回 平安宮内の調査

第3回 平安京の条坊制

第4回 右京域と左京域の調査

第5回 寺院の造営

第6回 平安京出土の遺物

第7回 院政期と鎌倉時代の遺跡

第8回 室町時代の遺跡

第9回 織豊期の遺跡

第10回 近世京都の発展

第11回 山科盆地の遺跡

第12回 山城の古代寺院

第13回 京都の庭園遺跡

第14回 知りえた知見をもとに京都市考古資料館、平安宮跡の見学

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

京都の街を歩く

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 古都学Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 前田 義明

テーマ

京都の歴史と文化の特性を探る。

授業の目的（獲得目標）

京都の歴史と文化が歴史・文化遺産として現代に影響を与え生きていることを理解する。授業計画 平安京以前の京都、平安京の構造、民衆の生活、中世の京都、近世の京都など各時代の遺跡について、発掘調査の成果から具体的に考古学的な遺構・遺物の検討や実見することで古都の知見を掘り下げる

内 容

第1回 平安宮の構造と諸官衙

第2回 平安宮内の調査

第3回 平安京の条坊制

第4回 右京域と左京域の調査

第5回 寺院の造営

第6回 平安京出土の遺物

第7回 院政期と鎌倉時代の遺跡

第8回 室町時代の遺跡

第9回 織豊期の遺跡

第10回 近世京都の発展

第11回 山科盆地の遺跡

第12回 山城の古代寺院

第13回 京都の庭園遺跡

第14回 知りえた知見をもとに京都市考古資料館、平安宮跡の見学

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

京都の街を歩く

教科書

参考書

成績評価



試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 地域文化論

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中西 和子

テーマ

「地域文化」の成立を考える

### 授業の目的（獲得目標）

なぜ、「地域」ごとに「文化」が異なるのか、また、「地域」を越えて共通する「文化」が成立し得るのかという問題から「地域文化」の今後の在り方について考える力をつける。

### 内 容

- 第1回 イントロダクション 今、どうして“地域文化”？—または、(地域)文化の力で(地域)社会は元気になるのか
- 第2回 “たぬき”といえど何でしょう—消えていくタヌキと割としぶといキツネ
- 第3回 「地域」のスケールと「文化」—どこからどこまでが“京都”なのか：山科は京都？
- 第4回 地域文化の成立と自然・技術—石の文化と木の文化
- 第5回 ハイカルチャーと地域文化—京都人は“キモノ”を着て“お茶”と“お花”を嗜む？
- 第6回 ポップカルチャーと地域文化—ジャパンはクールか？
- 第7回 地域のアイデンティティと外来文化—京都の“フランス橋”をどう思う？
- 第8回 地域文化の新しさ—アフタヌーンティの成立
- 第9回 地域文化の伝統性—日本の主食？お米と醤油
- 第10回 地域文化の商品化—(生)京菓子和全国展開した八橋
- 第11回 地域文化を担う主体—葵祭・祇園祭・時代祭
- 第12回 私たちがイメージする“地域文化”と行政の“地域文化”
- 第13回 ご当地キティにみる京都のイメージ(付：多品種少量という文化)
- 第14回 地域を持たない文化はあるのか？—グローバル化とデジタルディバイド
- 第15回 地域文化の未来を考える—本当に観光資源たりうるか？

### 授業以外での学習方法

授業中に紹介する本を読み、事前に下調べをしておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（10%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけでなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。）

科目名 木簡・金石文学

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 渡辺 晃宏

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質とそれらが語る新しい歴史像

授業の目的（獲得目標）

歴史を考える上で欠くことのできない位置を占めるようになった木簡を始めとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読みながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探究する。

内 容

第1回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。

第2回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。

第3回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。

第4回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心としこれと対照的な性格の資料群である二条大路木簡（光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。

第5回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心としこれと対照的な性格の資料群である二条大路木簡（光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。

第6回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心としこれと対照的な性格の資料群である二条大路木簡（光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。

第7回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡（長屋王という貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。

第8回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡（長屋王という貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。

第9回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡（長屋王という貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。

第10回 平城宮跡（奈文研）での実地授業（日程は変更もあり得る）。

第11回 平城宮跡（奈文研）での実地授業（日程は変更もあり得る）。

第12回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。

第13回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。

第14回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。

第15回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体の

まとめを行う。

---

### 授業以外での学習方法

木簡を初めとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などへの積極的な参加を期待する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡を初めとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えるので、取り上げる木簡やその順序に変更が生じる場合がある。

---

### 教科書

- 書籍 1 : 特に使用しない。
- 書籍 2 : 適宜プリント等を配布する。

### 参考書

- 書籍 1 : 木簡の社会史 (講談社学術文庫)  
著者 1 : 鬼頭清明  
出版社 1 : 講談社  
出版年 1 : 2005
  - 書籍 2 : 平城京と木簡の世紀 (講談社学術文庫)  
著者 2 : 渡辺晃宏  
出版社 2 : 講談社  
出版年 2 : 2009
  - 書籍 3 : 日本古代木簡選  
著者 3 : 木簡学会  
出版社 3 : 岩波書店  
出版年 3 : 1990
  - 書籍 4 : 日本古代木簡集成  
著者 4 : 木簡学会  
出版社 4 : 東京大学出版会  
出版年 4 : 2001
- 

### 成績評価

試験 (80) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 文化財行政論

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 一瀬 和夫

---

### テーマ

文化財保護行政と社会 行政用語からきた文化財という言葉を考えてみる

---

### 授業の目的（獲得目標）

永く国家行政主導でつづいてきた文化財行政は平成 11 年の保護法改正をうけて文化庁長官から都道府県・指定都市教育委員会に一部の権限が委譲されている。社会情勢に敏感な文化財行政の変化を基礎におき、文化財学の枠組みを理解する。

---

### 内 容

- 第 1 回 文化財保護の現状
  - 第 2 回 文化財保護の課題と展望
  - 第 3 回 日本における文化財保護制度の萌芽
  - 第 4 回 美術工芸品の保護と公開・活用
  - 第 5 回 建造物の保護と公開・活用
  - 第 6 回 記念物・史跡の保護と整備・活用
  - 第 7 回 古式銃砲・美術刀剣類の保護
  - 第 8 回 文化財保護法の制定
  - 第 9 回 埋蔵文化財の保護
  - 第 10 回 無形文化財・民俗文化財及び文化財の保存技術の保護と活用
  - 第 11 回 指定主義と登録主義、原因者負担制度
  - 第 12 回 重要文化的景観の選定と保存・活用
  - 第 13 回 文化財の国際交流と協力、古都保存法
  - 第 14 回 文化財と博物館および国立劇場・文化財研究所
  - 第 15 回 文化財の見学とガイダンス なお、講師を招いて講演会を実施することがある
- 

### 授業以外での学習方法

身の回りの指定・登録・選定文化財にふれて、その価値を考えてみる

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 木簡・金石文学Ⅱ〈Z〉 |      |     |
| クラス   | Z           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）     |      |     |

## テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質とそれらが語る新しい歴史像

## 授業の目的（獲得目標）

歴史を考える上で欠くことのできない位置を占めるようになった木簡を始めとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読みながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探求する。

## 内 容

- 第1回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。
- 第2回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。
- 第3回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。
- 第4回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心としこれと対照的な性格の資料群である二条大路木簡（光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。
- 第5回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心としこれと対照的な性格の資料群である二条大路木簡（光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。
- 第6回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心としこれと対照的な性格の資料群である二条大路木簡（光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。
- 第7回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡（長屋王という貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。
- 第8回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡（長屋王という貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。
- 第9回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡（長屋王という貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。
- 第10回 平城宮跡（奈文研）での実地授業（日程は変更もあり得る）。
- 第11回 平城宮跡（奈文研）での実地授業（日程は変更もあり得る）。
- 第12回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第13回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第14回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。
- 第15回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体の



まとめを行う。

---

### 授業以外での学習方法

木簡を初めとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などへの積極的な参加を期待する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡を初めとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えるので、取り上げる木簡やその順序に変更が生じる場合がある。

---

### 教科書

- 書籍 1 : 特に使用しない。
- 書籍 2 : 適宜プリント等を配布する。

### 参考書

- 書籍 1 : 木簡の社会史（講談社学術文庫）  
著者 1 : 鬼頭清明  
出版社 1 : 講談社  
出版年 1 : 2005
  - 書籍 2 : 平城京と木簡の世紀（講談社学術文庫）  
著者 2 : 渡辺晃宏  
出版社 2 : 講談社  
出版年 2 : 2009
  - 書籍 3 : 日本古代木簡選  
著者 3 : 木簡学会  
出版社 3 : 岩波書店  
出版年 3 : 1990
  - 書籍 4 : 日本古代木簡集成  
著者 4 : 木簡学会  
出版社 4 : 東京大学出版会  
出版年 4 : 2001
- 

### 成績評価

試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（）

科目名 東アジア文化財特講 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

東アジアにおける鉛釉陶器の起源と展開

授業の目的（獲得目標）

東アジア諸国の鉛釉陶器の実体を把握し、わが国の鉛釉陶器（7世紀の緑釉陶器・8世紀の奈良三彩）の淵源を考えさせる。

内 容

- 第1回 中国の鉛釉陶器の起源（ガラス生産の始まり）
- 第2回 戦国時代のガラス工芸と鉛釉陶器
- 第3回 漢代の鉛釉陶器 1
- 第4回 漢代の鉛釉陶器 2
- 第5回 分裂時代の全国各地における鉛釉陶器生産状況
- 第6回 北魏平城時代の鉛釉陶器
- 第7回 北魏洛陽時代における鉛釉陶器生産の新動向
- 第8回 華北・華南の窯業生産の動向
- 第9回 華北における青瓷の生産開始と白瓷の出現。
- 第10回 東魏・北齊時代の鉛釉陶器の革新
- 第11回 隋の鉛釉陶器と真正白瓷
- 第12回 初唐の鉛釉陶器 唐三彩の出現
- 第13回 唐三彩の生産と供給
- 第14回 朝鮮半島の鉛釉陶器（高句麗・百済・新羅）
- 第15回 日本古代の鉛釉陶器
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

弓場先生の中国陶磁講義を受講することを学生に伝え、また関連する東アジアの鉛釉陶器を博物館等で実見することを薦める。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 東アジア文化財特講Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

日本の原始・古代文化と深く関わりを有する中国文明の新成果を学び、異文化を理解するとともに、わが国の文化を見つめ直す。

授業の目的（獲得目標）

中国文明を理解し、わが国の各時代文化を国際的な視角から考える素養と知識を身に付けさせる。

内 容

第1回 ガイダンス 授業内容、授業の進め方 中国考古学概説

第2回 中国新石器時代研究状況 1

第3回 中国新石器時代研究状況 2

第4回 中国新石器時代研究状況 3

第5回 中国新石器時代研究状況 4

第6回 夏文化の研究動向

第7回 殷商文化の研究動向 1

第8回 殷商文化の研究動向 2

第9回 殷商文化の研究動向 3

第10回 西周文化の研究動向 1

第11回 西周文化の研究動向 2

第12回 東周文化(春秋・戦国時代文化)

第13回 統一秦の文化の研究動向

第14回 西漢文化研究動向

第15回 新・東漢文化研究動向

第16回 試験

授業以外での学習方法

中国古代史の概説書の購読を薦める。

教科書

参考書

成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 保存科学 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 中川 正人

テーマ

文化財の科学的調査と保存法

### 授業の目的（獲得目標）

文化財を保存するためには、まず資料の材質や構造、劣化状況の把握につとめることが求められる。本科目では、文化財の科学的調査と保存法の事例を数多く紹介するとともに、分析機器を用いた美術工芸品や考古資料の調査法を実習形式で取り入れながら授業を進めていく。

### 内 容

- 第1回 木の保存科学(木の組成と構造)
- 第2回 木の保存科学(劣化と保存処理)
- 第3回 木材の科学(プレパラート作成法)
- 第4回 木材の科学(顕微鏡観察)
- 第5回 鉄の保存科学(劣化と保存処理)
- 第6回 青銅の保存科学(劣化と保存処理)
- 第7回 X線ラジオグラフィー(撮影・現像)
- 第8回 文化財の科学分析(蛍光X線分析法)
- 第9回 色彩の科学(色彩の原理)
- 第10回 顔料の科学(朱とベンガラ)
- 第11回 壁画の保存と活用(環境保全)
- 第12回 壁画の模写(模写の材料と技術)
- 第13回 木簡の保存科学(赤外線観察)
- 第14回 木簡の保存科学(真空凍結乾燥法)
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

最近、博物館や美術館では科学的な調査や研究をふまえた企画や展示を行っているところが多い。科学的調査法の基礎を学んだうえでそうした展示を見てほしい。新たな発見があると思う。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（授業中課題は、授業内容についての質問などを小レポート形式で提出）

---

科目名 保存科学Ⅱ

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 中川 正人

---

テーマ

文化財の保存と活用

---

### 授業の目的（獲得目標）

文化財を後世に遺し伝えるためには、単に修理するだけでなく保存環境を整えることが必要である。本科目では、博物館における文化財の保存と活用の事例を紹介し、博物館ワークショップという形で具体的な作業を組み入れながら実習形式の授業を進めていく。

---

### 内 容

- 第1回 紙の保存科学（劣化と保存対策）
  - 第2回 紙の保存科学（酸性紙問題）
  - 第3回 博物館ワークショップー1（企画）
  - 第4回 博物館ワークショップー2（実施）
  - 第5回 博物館の環境学ー1（温度・湿度・照明）
  - 第6回 博物館の環境学ー2（防虫・防災・管理運営）
  - 第7回 博物館ワークショップー3（企画）
  - 第8回 博物館ワークショップー4（実施）
  - 第9回 文化財の保存修復ー1（修復の倫理）
  - 第10回 文化財の保存修復ー2（絵画の修復）
  - 第11回 博物館ワークショップー5（企画）
  - 第12回 博物館ワークショップー6（実施）
  - 第13回 漆の保存科学（劣化と保存処理）
  - 第14回 繊維の保存科学（劣化と対策）
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

博物館や美術館をできるだけ数多く見学し、展示品の環境、展示法、博物館の活動などにどういった工夫がみられるか注視したい。

---

教科書

参考書

---



## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（授業中課題は、授業内容についての質問などを小レポート形式で提出）

科目名 考古学演習Ⅲ

クラス a 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 文化財学演習Ⅲ <a>

---

クラス a 配当回生 4回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

**履修条件**

---

クラス指定 希望制

---

担当者 巽 淳一郎

---

**テーマ**

卒業論文作成にむけて

---

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

---

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 文化財学演習（1）

第3回 文化財学演習（2）

第4回 文化財学演習（3）

第5回 文化財学演習（4）

第6回 学外授業

第7回 文化財学演習（5）

第8回 文化財学演習（6）

第9回 文化財学演習（7）

第10回 文化財学演習（8）

第11回 学外授業

第12回 文化財学演習（9）

第13回 文化財学演習（10）

第14回 文化財学演習（11）

第15回 総括

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (100%) 参加度 (0%) 備考 ( )

---

科目名 文化財学演習Ⅲ <b>

---

クラス b 配当回生 4回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 弓場 紀知

---

テーマ

卒業論文作成にむけて

---

### 授業の目的（獲得目標）

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

---

### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 文化財学演習（1）

第3回 文化財学演習（2）

第4回 文化財学演習（3）

第5回 文化財学演習（4）

第6回 学外授業

第7回 文化財学演習（5）

第8回 文化財学演習（6）

第9回 文化財学演習（7）

第10回 文化財学演習（8）

第11回 学外授業

第12回 文化財学演習（9）

第13回 文化財学演習（10）

第14回 文化財学演習（11）

第15回 総括

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (100%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 文化財学演習Ⅲ <c>

クラス c 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

**テーマ**

卒業論文作成にむけて

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 文化財学演習（1）

第3回 文化財学演習（2）

第4回 文化財学演習（3）

第5回 文化財学演習（4）

第6回 学外授業

第7回 文化財学演習（5）

第8回 文化財学演習（6）

第9回 文化財学演習（7）

第10回 文化財学演習（8）

第11回 学外授業

第12回 文化財学演習（9）

第13回 文化財学演習（10）

第14回 文化財学演習（11）

第15回 総括

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (100%) 参加度 (0%) 備考 ( )



---

科目名 文化財学演習Ⅲ <d>

---

クラス d 配当回生 4回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

**履修条件**

---

クラス指定 希望制

---

担当者 有坂 道子

---

**テーマ**

卒業論文作成にむけて

---

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

---

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 文化財学演習（1）

第3回 文化財学演習（2）

第4回 文化財学演習（3）

第5回 文化財学演習（4）

第6回 学外授業

第7回 文化財学演習（5）

第8回 文化財学演習（6）

第9回 文化財学演習（7）

第10回 文化財学演習（8）

第11回 学外授業

第12回 文化財学演習（9）

第13回 文化財学演習（10）

第14回 文化財学演習（11）

第15回 総括

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (100%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 考古学演習Ⅳ

クラス a 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 文化財学演習IV <a>

---

クラス a 配当回生 4回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

**履修条件**

---

クラス指定 希望制

---

担当者 巽 淳一郎

---

**テーマ**

卒業論文作成にむけて

---

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

---

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 文化財学演習（1）

第3回 文化財学演習（2）

第4回 文化財学演習（3）

第5回 文化財学演習（4）

第6回 学外授業

第7回 文化財学演習（5）

第8回 文化財学演習（6）

第9回 文化財学演習（7）

第10回 文化財学演習（8）

第11回 学外授業

第12回 文化財学演習（9）

第13回 文化財学演習（10）

第14回 文化財学演習（11）

第15回 総括

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (100%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 文化財学演習Ⅳ <b>

クラス b 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 弓場 紀知

**テーマ**

卒業論文作成にむけて

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 文化財学演習（1）

第3回 文化財学演習（2）

第4回 文化財学演習（3）

第5回 文化財学演習（4）

第6回 学外授業

第7回 文化財学演習（5）

第8回 文化財学演習（6）

第9回 文化財学演習（7）

第10回 古文書演習（8）

第11回 学外授業

第12回 文化財学演習（9）

第13回 文化財学演習（10）

第14回 文化財学演習（11）

第15回 総括

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (100%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 文化財学演習Ⅳ <c>

クラス c 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

**テーマ**

卒業論文作成にむけて

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 文化財学演習（1）

第3回 文化財学演習（2）

第4回 文化財学演習（3）

第5回 文化財学演習（4）

第6回 学外授業

第7回 文化財学演習（5）

第8回 文化財学演習（6）

第9回 文化財学演習（7）

第10回 文化財学演習（8）

第11回 学外授業

第12回 文化財学演習（9）

第13回 文化財学演習（10）

第14回 文化財学演習（11）

第15回 総括 尚、この授業では必要に応じて、学外授業を行うことがある。

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**



試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (100%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 文化財学演習Ⅳ <d>

クラス d 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 有坂 道子

**テーマ**

卒業論文作成にむけて

**授業の目的（獲得目標）**

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

**内 容**

第1回 ガイダンス

第2回 文化財学演習（1）

第3回 文化財学演習（2）

第4回 文化財学演習（3）

第5回 文化財学演習（4）

第6回 学外授業

第7回 文化財学演習（5）

第8回 文化財学演習（6）

第9回 文化財学演習（7）

第10回 文化財学演習（8）

第11回 学外授業

第12回 文化財学演習（9）

第13回 文化財学演習（10）

第14回 文化財学演習（11）

第15回 総括

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (100%) 参加度 (0%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究〈a〉

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 卒業研究〈b〉

クラス 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 紀知

テーマ

卒業論文作成のための実践的演習

授業の目的（獲得目標）

4回生の卒論作成のアドバイスと、完成にむけての指導

内 容

- 第1回 卒論指導－1
- 第2回 卒論指導－2
- 第3回 卒論指導－3
- 第4回 卒論指導－4
- 第5回 卒論指導－5
- 第6回 卒論指導－6
- 第7回 卒論指導－7
- 第8回 卒論指導－8
- 第9回 卒論指導－9
- 第10回 卒論指導－10
- 第11回 卒論指導－11
- 第12回 卒論指導－12
- 第13回 卒論指導－13
- 第14回 卒論指導－14
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

とくになし

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（卒論作成への意欲）

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究 <c>

クラス 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 卒業研究 <d>

クラス 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 美術工芸史演習Ⅲ

クラス a 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 美術工芸史演習Ⅲ

クラス b 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 美術工芸史演習Ⅲ

クラス c 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 美術工芸史演習Ⅳ

クラス a 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 美術工芸史演習Ⅳ

クラス b 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 美術工芸史演習Ⅳ

クラス c 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 卒業研究(財)

クラス 考 a

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(財)

クラス 美 a

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 卒業研究(財)

クラス 美 b

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究 <Z d>

クラス 美 c

配当回生

講義期間 集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |                  |      |      |
|-------|------------------|------|------|
| 科目名   | 研究入門ゼミ I (児) <A> |      |      |
| クラス   | A                | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期               | 定員   | 30   |
| 履修条件  |                  |      |      |
| クラス指定 | 大学指定             |      |      |
| 担当者   | 神谷 栄司            |      |      |

### テーマ

大学での「学び方」を学ぶ — 学びの転換をはかる —

### 授業の目的（獲得目標）

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。すなわち、調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった基礎的で能動的な学習の方法と姿勢をゼミ形式で学ぶ。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

### 内 容

- 第1回 児童教育学科についてのガイダンスとイントロダクション
- 第2回 プレゼンテーション① — 相手に印象づける自己紹介
- 第3回 図書館の利用方法を学ぶ — 文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く
- 第4回 図書館の利用方法：文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く
- 第5回 クリティカル・リーディング — 本の読み方を学ぶ
- 第6回 要約の仕方を学ぶ
- 第7回 （合同ゼミ）プレゼンテーション② — 先輩オリターから学ぶ
- 第8回 専門教育への導入① — 保育・教育学習発表会の計画
- 第9回 専門教育への導入②—仕事についての「素朴な疑問集」の作成と回答づくり
- 第10回 専門教育への導入③—上記①と現職保育士・教師等の講話をもとに意見交換
- 第11回 コミュニケーション力を高める① — クラス企画をたてる。
- 第12回 専門教育への導入④ — 保育・教育学習発表会の計画
- 第13回 コミュニケーション力を高める② — クラス企画の実践(学内、あるいは、学外で実施)
- 第14回 （合同ゼミ）レポートの書き方を学ぶ — 保育所、小学校の行事（運動会）見学の観点と報告レポートの書き方
- 第15回 振り返り— 「学びの転換」の観点から

### 授業以外での学習方法

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                  |      |      |
|-------|------------------|------|------|
| 科目名   | 研究入門ゼミ I (児) <B> |      |      |
| クラス   | B                | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期               | 定員   | 30   |
| 履修条件  |                  |      |      |
| クラス指定 | 大学指定             |      |      |
| 担当者   | 加用 美代子           |      |      |

## テーマ

大学での「学び方」を学ぶ — 学びの転換をはかる —

## 授業の目的（獲得目標）

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。すなわち、調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった基礎的で能動的な学習の方法と姿勢をゼミ形式で学ぶ。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

## 内 容

- 第1回 児童教育学科についてのガイダンスとイントロダクション
- 第2回 プレゼンテーション① — 相手に印象づける自己紹介
- 第3回 図書館の利用方法を学ぶ — 文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く
- 第4回 図書館の利用方法：文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く
- 第5回 クリティカル・リーディング — 本の読み方を学ぶ
- 第6回 要約の仕方を学ぶ
- 第7回 (合同ゼミ) プレゼンテーション② — 先輩オリターから学ぶ
- 第8回 専門教育への導入① — 保育・教育学習発表会の計画
- 第9回 専門教育への導入②—仕事についての「素朴な疑問集」の作成と回答づくり
- 第10回 専門教育への導入③—上記①と現職保育士・教師等の講話をもとに意見交換
- 第11回 コミュニケーション力を高める① — クラス企画をたてる。
- 第12回 専門教育への導入④ — 保育・教育学習発表会の計画
- 第13回 コミュニケーション力を高める② — クラス企画の実践(学内、あるいは、学外で実施)
- 第14回 (合同ゼミ) レポートの書き方を学ぶ — 保育所、小学校の行事(運動会)見学の観点と報告レポートの書き方
- 第15回 振り返り — 「学びの転換」の観点から

## 授業以外での学習方法

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

|             |                  |      |      |
|-------------|------------------|------|------|
| 科目名         | 研究入門ゼミ I (児) <C> |      |      |
| クラス         | C                | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期               | 定員   | 30   |
| <b>履修条件</b> |                  |      |      |
| クラス指定       | 大学指定             |      |      |
| 担当者         | 小寺 隆幸            |      |      |

**テーマ**

大学での「学び方」を学ぶ — 学びの転換をはかる —

**授業の目的（獲得目標）**

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。すなわち、調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった基礎的で能動的な学習の方法と姿勢をゼミ形式で学ぶ。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

**内 容**

- 第1回 児童教育学科についてのガイダンスとイントロダクション
- 第2回 プレゼンテーション① — 相手に印象づける自己紹介
- 第3回 図書館の利用方法を学ぶ — 文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く
- 第4回 図書館の利用方法：文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く
- 第5回 クリティカル・リーディング — 本の読み方を学ぶ
- 第6回 要約の仕方を学ぶ
- 第7回 (合同ゼミ) プレゼンテーション② — 先輩オリターから学ぶ
- 第8回 専門教育への導入① — 保育・教育学習発表会の計画
- 第9回 専門教育への導入②—仕事についての「素朴な疑問集」の作成と回答づくり
- 第10回 専門教育への導入③—上記①と現職保育士・教師等の講話をもとに意見交換
- 第11回 コミュニケーション力を高める① — クラス企画をたてる。
- 第12回 専門教育への導入④ — 保育・教育学習発表会の計画
- 第13回 コミュニケーション力を高める② — クラス企画の実践(学内、あるいは、学外で実施)
- 第14回 (合同ゼミ) レポートの書き方を学ぶ — 保育所、小学校の行事(運動会)見学の観点と報告レポートの書き方
- 第15回 振り返り— 「学びの転換」の観点から

**授業以外での学習方法**

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

**教科書**

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

|             |                  |      |      |
|-------------|------------------|------|------|
| 科目名         | 研究入門ゼミ I (児) <D> |      |      |
| クラス         | D                | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 前期               | 定員   | 30   |
| <b>履修条件</b> |                  |      |      |
| クラス指定       | 大学指定             |      |      |
| 担当者         | 池田 修             |      |      |

**テーマ**

大学での「学び方」を学ぶ — 学びの転換をはかる —

**授業の目的（獲得目標）**

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。すなわち、調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった基礎的で能動的な学習の方法と姿勢をゼミ形式で学ぶ。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

**内 容**

- 第1回 児童教育学科についてのガイダンスとイントロダクション
- 第2回 プレゼンテーション① — 相手に印象づける自己紹介
- 第3回 図書館の利用方法を学ぶ — 文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く
- 第4回 図書館の利用方法：文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く
- 第5回 クリティカル・リーディング — 本の読み方を学ぶ
- 第6回 要約の仕方を学ぶ
- 第7回 (合同ゼミ) プレゼンテーション② — 先輩オリターから学ぶ
- 第8回 専門教育への導入① — 保育・教育学習発表会の計画
- 第9回 専門教育への導入②—仕事についての「素朴な疑問集」の作成と回答づくり
- 第10回 専門教育への導入③—上記①と現職保育士・教師等の講話をもとに意見交換
- 第11回 コミュニケーション力を高める① — クラス企画をたてる。
- 第12回 専門教育への導入④ — 保育・教育学習発表会の計画
- 第13回 コミュニケーション力を高める② — クラス企画の実践(学内、あるいは、学外で実施)
- 第14回 (合同ゼミ) レポートの書き方を学ぶ — 保育所、小学校の行事(運動会)見学の観点と報告レポートの書き方
- 第15回 振り返り— 「学びの転換」の観点から

**授業以外での学習方法**

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

**教科書**



## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) <E>

クラス E 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

## テーマ

大学での「学び方」を学ぶ — 学びの転換をはかる —

## 授業の目的（獲得目標）

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。すなわち、調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった基礎的で能動的な学習の方法と姿勢をゼミ形式で学ぶ。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

## 内 容

第1回 児童教育学科についてのガイダンスとイントロダクション

第2回 プレゼンテーション① — 相手に印象づける自己紹介

第3回 図書館の利用方法を学ぶ — 文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く

第4回 図書館の利用方法：文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 — 一文一義の文を書く

第5回 クリティカル・リーディング — 本の読み方を学ぶ

第6回 要約の仕方を学ぶ

第7回 (合同ゼミ) プレゼンテーション② — 先輩オリターから学ぶ

第8回 専門教育への導入① — 保育・教育学習発表会の計画

第9回 専門教育への導入②—仕事についての「素朴な疑問集」の作成と回答づくり

第10回 専門教育への導入③—上記①と現職保育士・教師等の講話をもとに意見交換

第11回 コミュニケーション力を高める① — クラス企画をたてる。

第12回 専門教育への導入④ — 保育・教育学習発表会の計画

第13回 コミュニケーション力を高める② — クラス企画の実践(学内、あるいは、学外で実施)

第14回 (合同ゼミ) レポートの書き方を学ぶ — 保育所、小学校の行事(運動会)見学の観点と報告レポートの書き方

第15回 振り返り— 「学びの転換」の観点から

## 授業以外での学習方法

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) <F>

クラス F 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 三山 岳

## テーマ

大学での「学び方」を学ぶ - 学びの転換をはかる -

## 授業の目的（獲得目標）

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。すなわち、調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった基礎的で能動的な学習の方法と姿勢をゼミ形式で学ぶ。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

## 内 容

第1回 児童教育学科についてのガイダンスとイントロダクション

第2回 プレゼンテーション① - 相手に印象づける自己紹介

第3回 図書館の利用方法を学ぶ - 文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 - 一文一義の文を書く

第4回 図書館の利用方法：文献の探し方、文献一覧表の作成 / 文の書き方 - 一文一義の文を書く

第5回 クリティカル・リーディング - 本の読み方を学ぶ

第6回 要約の仕方を学ぶ

第7回 (合同ゼミ) プレゼンテーション② - 先輩オリターから学ぶ

第8回 専門教育への導入① - 保育・教育学習発表会の計画

第9回 専門教育への導入②-仕事についての「素朴な疑問集」の作成と回答づくり

第10回 専門教育への導入③-上記①と現職保育士・教師等の講話をもとに意見交換

第11回 コミュニケーション力を高める① - クラス企画をたてる。

第12回 専門教育への導入④ - 保育・教育学習発表会の計画

第13回 コミュニケーション力を高める② - クラス企画の実践(学内、あるいは、学外で実施)

第14回 (合同ゼミ) レポートの書き方を学ぶ - 保育所、小学校の行事(運動会)見学の観点と報告レポートの書き方

第15回 振り返り - 「学びの転換」の観点から

## 授業以外での学習方法

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ(児)〈A〉

クラス A

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 三山 岳

#### テーマ

大学での学び方を学ぶー学びの転換をはかる

#### 授業の目的（獲得目標）

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。研究入門ゼミⅠでの学習の成果をふまえ、調べる、考える、読む、書く、意見交換する、発表するといった能動的な学習方法による学びを発展させる。 保育現場や教育現場にふれる機会をもち、現実の子どもの姿や保育士・教師の仕事の実際を知り、教育・保育への関心を深める。

#### 内 容

- 第1回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー1／レジュメをつくる - プレゼンテーションへの準備
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー2
- 第3回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「小学校・保育園の運動会」
- 第4回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー3
- 第5回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践をふりかえる
- 第6回 文献を読む・要約する - 1
- 第7回 文献を読む・要約する - 2
- 第8回 文献を読む・要約する - 3
- 第9回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー1
- 第10回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー1
- 第11回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー2
- 第12回 教育・保育についての課題探求ー1（調べる・読む・考える・書く）
- 第13回 教育・保育についての課題探求ー2（発表する・意見交換する）
- 第14回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー2
- 第15回 振り返りー「学びの転換」の観点から

#### 授業以外での学習方法

現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

#### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ(児)〈B〉

クラス B 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小寺 隆幸

#### テーマ

大学での学び方を学ぶー学びの転換をはかる

#### 授業の目的（獲得目標）

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。研究入門ゼミⅠでの学習の成果をふまえ、調べる、考える、読む、書く、意見交換する、発表するといった能動的な学習方法による学びを発展させる。 保育現場や教育現場にふれる機会をもち、現実の子どもの姿や保育士・教師の仕事の実際を知り、教育・保育への関心を深める。

#### 内 容

- 第1回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー1／レジュメをつくる - プレゼンテーションへの準備
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー2
- 第3回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「小学校・保育園の運動会」
- 第4回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー3
- 第5回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践をふりかえる
- 第6回 文献を読む・要約する - 1
- 第7回 文献を読む・要約する - 2
- 第8回 文献を読む・要約する - 3
- 第9回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー1
- 第10回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー1
- 第11回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー2
- 第12回 教育・保育についての課題探求ー1（調べる・読む・考える・書く）
- 第13回 教育・保育についての課題探求ー2（発表する・意見交換する）
- 第14回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー2
- 第15回 振り返りー「学びの転換」の観点から

#### 授業以外での学習方法

現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

#### 教科書



**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ(児)〈C〉

クラス C

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 神谷 栄司

#### テーマ

大学での学び方を学ぶー学びの転換をはかる

#### 授業の目的（獲得目標）

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。研究入門ゼミⅠでの学習の成果をふまえ、調べる、考える、読む、書く、意見交換する、発表するといった能動的な学習方法による学びを発展させる。 保育現場や教育現場にふれる機会をもち、現実の子どもの姿や保育士・教師の仕事の実際を知り、教育・保育への関心を深める。

#### 内 容

- 第1回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー1／レジュメをつくる - プレゼンテーションへの準備
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー2
- 第3回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「小学校・保育園の運動会」
- 第4回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー3
- 第5回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践をふりかえる
- 第6回 文献を読む・要約する - 1
- 第7回 文献を読む・要約する - 2
- 第8回 文献を読む・要約する - 3
- 第9回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー1
- 第10回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー1
- 第11回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー2
- 第12回 教育・保育についての課題探求ー1（調べる・読む・考える・書く）
- 第13回 教育・保育についての課題探求ー2（発表する・意見交換する）
- 第14回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー2
- 第15回 振り返りー「学びの転換」の観点から

#### 授業以外での学習方法

現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

#### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0) 備考 ( )

|             |               |      |     |
|-------------|---------------|------|-----|
| 科目名         | 研究入門ゼミⅡ(児)〈D〉 |      |     |
| クラス         | D             | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期            | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |               |      |     |
| クラス指定       | 大学指定          |      |     |
| 担当者         | 倉持 祐二         |      |     |

**テーマ**

大学での学び方を学ぶー学びの転換をはかる

**授業の目的（獲得目標）**

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。研究入門ゼミⅠでの学習の成果をふまえ、調べる、考える、読む、書く、意見交換する、発表するといった能動的な学習方法による学びを発展させる。保育現場や教育現場にふれる機会をもち、現実の子どもの姿や保育士・教師の仕事の実際を知り、教育・保育への関心を深める。

**内 容**

- 第1回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー1／レジュメをつくる - プレゼンテーションへの準備
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー2
- 第3回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「小学校・保育園の運動会」
- 第4回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー3
- 第5回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践をふりかえる
- 第6回 文献を読む・要約する - 1
- 第7回 文献を読む・要約する - 2
- 第8回 文献を読む・要約する - 3
- 第9回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー1
- 第10回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー1
- 第11回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー2
- 第12回 教育・保育についての課題探求ー1（調べる・読む・考える・書く）
- 第13回 教育・保育についての課題探求ー2（発表する・意見交換する）
- 第14回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー2
- 第15回 振り返りー「学びの転換」の観点から

**授業以外での学習方法**

現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

**教科書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ（児）〈E〉

クラス E 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 磯田 三津子

#### テーマ

大学での学び方を学ぶー学びの転換をはかる

#### 授業の目的（獲得目標）

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。研究入門ゼミⅠでの学習の成果をふまえ、調べる、考える、読む、書く、意見交換する、発表するといった能動的な学習方法による学びを発展させる。 保育現場や教育現場にふれる機会をもち、現実の子どもの姿や保育士・教師の仕事の実際を知り、教育・保育への関心を深める。

#### 内 容

- 第1回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー1／レジュメをつくる - プレゼンテーションへの準備
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー2
- 第3回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「小学校・保育園の運動会」
- 第4回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー3
- 第5回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践をふりかえる
- 第6回 文献を読む・要約する - 1
- 第7回 文献を読む・要約する - 2
- 第8回 文献を読む・要約する - 3
- 第9回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー1
- 第10回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー1
- 第11回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー2
- 第12回 教育・保育についての課題探求ー1（調べる・読む・考える・書く）
- 第13回 教育・保育についての課題探求ー2（発表する・意見交換する）
- 第14回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー2
- 第15回 振り返りー「学びの転換」の観点から

#### 授業以外での学習方法

現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

#### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0) 備考 ( )

科目名 研究入門ゼミⅡ（児）〈F〉

クラス F 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 生源寺 孝浩

#### テーマ

大学での学び方を学ぶー学びの転換をはかる

#### 授業の目的（獲得目標）

大学での学びに必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と姿勢を育て「学び」の転換をはかる。研究入門ゼミⅠでの学習の成果をふまえ、調べる、考える、読む、書く、意見交換する、発表するといった能動的な学習方法による学びを発展させる。 保育現場や教育現場にふれる機会をもち、現実の子どもの姿や保育士・教師の仕事の実際を知り、教育・保育への関心を深める。

#### 内 容

- 第1回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー1／レジュメをつくる - プレゼンテーションへの準備
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー2
- 第3回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「小学校・保育園の運動会」
- 第4回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践ー3
- 第5回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践をふりかえる
- 第6回 文献を読む・要約する - 1
- 第7回 文献を読む・要約する - 2
- 第8回 文献を読む・要約する - 3
- 第9回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー1
- 第10回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー1
- 第11回 批評文を書く - 教育・保育に関する論点ー2
- 第12回 教育・保育についての課題探求ー1（調べる・読む・考える・書く）
- 第13回 教育・保育についての課題探求ー2（発表する・意見交換する）
- 第14回 合同ゼミ（コース別）ープレゼンテーション「フィールドワーク・子どもとのかかわりから」ー2
- 第15回 振り返りー「学びの転換」の観点から

#### 授業以外での学習方法

現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

#### 教科書



**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0) 備考 ( )

---

科目名 教育原論

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 八木 英二

---

テーマ

テーマ：教育の基本問題と教育改革

---

### 授業の目的（獲得目標）

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

---

### 内 容

- 第1回 教育の理念
  - 第2回 教育の歴史及び思想
  - 第3回 発達と教育
  - 第4回 学習指導要領について
  - 第5回 様々な教育方法
  - 第6回 教科指導の意義
  - 第7回 生活指導実践の意義
  - 第8回 教育の公共性
  - 第9回 中学校の進路指導
  - 第10回 高校の進路指導
  - 第11回 教育専門職論
  - 第12回 日本の教育制度
  - 第13回 教育改革動向
  - 第14回 教育基本法と学校教育
  - 第15回 教育の国際的合意形成
- 

### 授業以外での学習方法

様々な教育書を各自で意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（40%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 現代と教育

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 井ノ口 貴史・竹中 佳子

---

テーマ

教師として身につけるべき現代認識

---

### 授業の目的（獲得目標）

私たちはどのような時代を生活しているかを同時代的視点から捉えるとともに、現代社会が取り組むべき教育の課題を考える。

---

### 内 容

- 第1回 現代はどのような時代か①：日米安保条約と沖縄
  - 第2回 現代はどのような時代か②：ポスト冷戦下の日本
  - 第3回 戦争と子どもたち①：ヒロシマ・ナガサキと核問題
  - 第4回 戦争と子どもたち②：劣化ウラン弾とイラクの子どもたち
  - 第5回 現代と貧困①：格差社会と日本の姿
  - 第6回 現代と貧困②：教育格差と子どもたち
  - 第7回 学校現場から教育を考える①：小学校
  - 第8回 学校現場から教育を考える②：幼稚園
  - 第9回 ジェンダーと教育（1）
  - 第10回 ジェンダーと教育（2）
  - 第11回 ジェンダーと教育（3）
  - 第12回 保育士の仕事を考える
  - 第13回 在日外国人と教育：日本の植民地支配と在日コリアン
  - 第14回 在日外国人と教育：オールドカマー・ニューカマーの教育課題
  - 第15回 人権教育の視座から学校教育を考える
- 

### 授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される国際情勢や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (40%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (15%) 参加度 (15%) 備考 ( )

科目名 学校教育論〈Z〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 横山 政夫

### テーマ

学校現場が抱える様々な問題や困難に触れ、教育実践事例を紹介しながら、生徒指導を切り口にして、学校や教師の役割について探求する。

### 授業の目的（獲得目標）

学校や教師の役割を探求するために、次のことを期待する。①マスコミによって作られた、教育や少年問題に対する誤った認識を、統計情報などによって修正すること。②学校現場が抱えている諸問題の実像や実践事例を知ること。③生徒指導の原理と方法についての基礎知識を獲得すること。

### 内 容

- 第1回 マスコミの教育報道を検証する
- 第2回 無差別殺傷事件から教育課題を考える
- 第3回 生徒指導がめざすもの
- 第4回 事例研究1「A高校の生徒指導」
- 第5回 「指導」、「管理」とは何か
- 第6回 問題行動指導の基本
- 第7回 まとめ①：A高校の生徒指導の検討
- 第8回 「自己実現」、「規律と適応」、「自尊感情」
- 第9回 事例研究2「荒れたB中学校の再建への取り組み」
- 第10回 生活指導の歴史
- 第11回 生活指導実践「やまびこ学校」
- 第12回 戦後教育の出発点—「山びこ学校」を生んだ時代背景
- 第13回 まとめ②：実践「やまびこ学校」の検討
- 第14回 カウンセリング理論から学ぶ「生徒理解」
- 第15回 学校や教師の役割を考える

### 授業以外での学習方法

配布する資料は、レポート作成に備えてきちんと管理すること。資料の原典を読むこと。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（講義の終わりに、講義カードに自分の意見・質問を記入し提出。次回の講義で活用する。カードは、授業中課題の一つで、評価対象になります。）

科目名 こども理解 I (幼児)

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 八木 英二

テーマ

実践で子どもたちと向き合う大切さ

授業の目的 (獲得目標)

幼児理解の基盤となる子どもの行為の意味と理解や発達の考え方、子どもたちがクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを実際の現場での事例を通して検討し、理解を深める。

内 容

- 第1回 園づくりと子ども
- 第2回 現場における諸問題と保育士
- 第3回 様々な保育形態
- 第4回 2歳と3歳の姿 (理解の理論及び事例検討)
- 第5回 4歳と5歳の姿 (理解の理論及び事例検討)
- 第6回 6歳の就学 (理解の理論及び事例検討)
- 第7回 入園当初の姿
- 第8回 カメとカエルの遊び
- 第9回 ルール遊びの成立
- 第10回 お話遊びの成立
- 第11回 ツバメの遊び
- 第12回 ドングリの遊び
- 第13回 木の葉の遊び
- 第14回 劇遊びと生活発表会
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

幼児にふさわしいと思われる童話を選び学生どうしで読み聞かせをし合うなど、各自で独自のシミュレーションを重ねるような学習活動の発展を期待する。

教科書

参考書

成績評価



試験 (40%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 こども理解Ⅱ（児童）

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 守山 紗弥加

テーマ

学校教育における子どもの姿を、様々な場面や世界、立場から多様な視点で捉え、理解する。

授業の目的（獲得目標）

教育の場に生起している子どもの姿、それらが表している意味について考える。とともに、実際の体験活動や自分たちの経験の共有を通して、気づき、生み出される各々の子どもを捉える力、視点をはぐくむことを目指す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション & プロローグ
- 第2回 「子ども」という存在
- 第3回 学校という場所
- 第4回 子どもと社会／子どもと家庭
- 第5回 子どもと生活／子どもと文化
- 第6回 子どもを理解するための手立ていろいろ①
- 第7回 子どもを理解するための手立ていろいろ②
- 第8回 前半の振り返り
- 第9回 後半の自己計画
- 第10回 授業で子どもを考える
- 第11回 子どもにかかわる仕事
- 第12回 実践活動
- 第13回 実践活動
- 第14回 実践活動
- 第15回 まとめ & エピローグ

授業以外での学習方法

日頃から、思ったこと、感じたことをその都度書き留めていく習慣をつける。いろいろな場で子どもを「みる」ことを心がける。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 教職入門

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。

### 授業の目的（獲得目標）

今日の教育・学校・子どもをとりまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校づくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

### 内 容

- 第1回 教育をとりまく状況と今日の教育課題
- 第2回 教師に期待されること、教師としての生き方、教師の日常
- 第3回 学習指導の歴史的な変遷と、現代に求められる学力
- 第4回 小学校での授業創りの実際（算数を例に考える）
- 第5回 少人数指導・習熟度別指導を巡って
- 第6回 子どもたちの現状と生活指導の課題
- 第7回 いじめや不登校にどう取り組むか
- 第8回 学級作りの取り組み
- 第9回 総合的な学習の時間の意義と実際
- 第10回 特別支援教育について（ADHD などの子どもたちの指導について）
- 第11回 評価についての様々な考え方と実際
- 第12回 保護者・地域との連携をどうつくるか
- 第13回 教師としての研修、教師の権利と責任、教師の身分保障、教師を巡る法的問題
- 第14回 幼児教育の中での教師の仕事
- 第15回 教師に求められる国際的視野

### 授業以外での学習方法

教育の理念を深く掘り下げるために、古典とされる書物、あるいは現在の優れた実践記録などを読む。教育を巡る様々なできごとや教育改革の報道に注目し、自分が教師であればどのように考え対処するか、という問題意識を常に持つ。

### 教科書

**成績評価**

試験（40%） 小テスト（30%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（0%） 参加度（0%） 備考（）

|       |                                |      |      |
|-------|--------------------------------|------|------|
| 科目名   | 日本語コミュニケーション技術 I (ディベート) <Z a> |      |      |
| クラス   | Z a                            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | その他                            | 定員   |      |
| 履修条件  |                                |      |      |
| クラス指定 |                                |      |      |
| 担当者   | 閉講 (開⇒閉)                       |      |      |

## テーマ

建設的議論や論理的討議のためのコミュニケーション技術としてディベートの初歩を学ぶ

## 授業の目的 (獲得目標)

様々な専門分野を統合するジェネラリストには文系理系を問わない異なる立場を理解し広い視野の中で論理的コミュニケーションを行う技術が必要である。単なる言い争いと建設的な議論の違いをディベートの形式を通して理解し、論理的で説得力のある討論のスキルとディベート指導方法の基礎を習得する。

## 内 容

- 第 1 回 イントロダクション：ディベートとはどんなものか？ 巷での使い方やイメージとこれから取り上げるディベートの相違について。
- 第 2 回 Cats & Dogs：時間内でしゃべる際の緊張と焦り。ディベートはどのようなゲームなのかを Cats & Dogs というゲームを通して理解する。
- 第 3 回 主張の構成要素：誤解やすれ違いの原因である隠された前提とは。スピーチを構造化するためのラベルとは？
- 第 4 回 スピーチで伝える：言葉はなぜ傷つけるのか？／言葉の力を支える身体性とは。
- 第 5 回 三つの要素と反駁の形：ゴンギツネをテーマに相手に伝わり易いスピーチの型を実習する。
- 第 6 回 桃太郎を追求する：広く知られた桃太郎を視点を変えてディベート材料とすることで前提と視点の自由化を鍛える。
- 第 7 回 チーム対抗戦 1 肯定側の責任とは：チーム対抗戦を行いながら肯定側の役割を理解する。
- 第 8 回 チーム対抗戦 2 否定側の責任とは：チーム対抗戦を行いながら否定側の役割を理解する。
- 第 9 回 ジャッジの仕方：判定基準とフローシートを用いてどのようにジャッジするかを学ぶ。
- 第 10 回 模擬政策ディベート論題提示：代表的な政策論題をどのように取り上げるか検討し、論題を選択する。
- 第 11 回 エビデンスの集め方と整理の仕方：論点をサポートするためのエビデンスの収集の仕方から利用方法の見直しを行う。
- 第 12 回 チーム対抗戦 3 チームワーク：ディベートのステージごとの役割の違いとチームワークのあり方。
- 第 13 回 論点の再整理：役割変更：チーム対抗戦を重ねることでチーム内の役割の違いと協力のあり方を学ぶ。
- 第 14 回 チーム対抗戦 4 全体の流れを作る：ディベート対抗戦の中で主張の一貫性と論破のための戦略を学ぶ。
- 第 15 回 全体の検討：自らのディベート経験を通してどのような技術が必要か、指導上どのようなことに留意せねばならないかを検討する。

## 授業以外での学習方法

授業内で提示する課題に対する調査や模擬ディベートの為の立案に積極的に取り組むことが必要である。日常的な問題について視点を変えて検討することを習慣化することが望まれる。

---

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（40%）備考（）

---

科目名 教育心理学 <a>

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 宮嶋 邦明

---

テーマ

子どもの発達と教育

---

### 授業の目的（獲得目標）

教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。具体的には、「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する指導や援助の基本的な視点を得ることができるようにすること。教育現場の様々な問題を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察する

---

### 内 容

- 第1回 教育心理学とは、本講義が目指すもの
  - 第2回 系統発生と個体発生、子どもの発達にとって必要な基本条件
  - 第3回 発達の原理と発達段階
  - 第4回 ピアジェの発生的認識論とヴィゴツキーの社会文化的発達論
  - 第5回 学習の原理と学習理論、行動主義とゲシュタルト学説
  - 第6回 忘却の原理と忘却理論
  - 第7回 学習動機とその発達（障がいのある児童の学習課程を含む）
  - 第8回 人格の構造と人格理論（障がいのある児童の発達を含む）
  - 第9回 欲求の階層構造と人格発達
  - 第10回 子どもの行動と防衛機制
  - 第11回 教育評価とは、指導と評価
  - 第12回 絶対評価、相対評価、到達度評価
  - 第13回 関心・意欲・態度と教育評価
  - 第14回 試験
  - 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ
- 

### 授業以外での学習方法

授業は包括的、概論的なものとなるため、それを補う意味で、各柱立てに沿ってのレポート（計4回、各1200字程度）を求める。その際、提示された参考文献を必ず参照することを求める。

---

教科書

参考書



---

## 成績評価

試験（70%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（）

|       |       |      |     |
|-------|-------|------|-----|
| 科目名   | 教育心理学 |      |     |
| クラス   | b     | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 定員    |      |     |
| 履修条件  |       |      |     |
| クラス指定 |       |      |     |
| 担当者   |       |      |     |

テーマ

子どもの発達と教育

### 授業の目的（獲得目標）

教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。具体的には、「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する指導や援助の基本的な視点を得ることができるようにすること。教育現場の様々な問題を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察する

### 内 容

- 第1回 教育心理学とは、本講義が目指すもの
- 第2回 系統発生と個体発生、子どもの発達にとって必要な基本条件
- 第3回 発達の原理と発達段階
- 第4回 ピアジェの発生的認識論とヴィゴツキーの社会文化的発達論
- 第5回 学習の原理と学習理論、行動主義とゲシュタルト学説
- 第6回 忘却の原理と忘却理論
- 第7回 学習動機とその発達（障がいのある児童の学習課程を含む）
- 第8回 人格の構造と人格理論（障がいのある児童の発達を含む）
- 第9回 欲求の階層構造と人格発達
- 第10回 子どもの行動と防衛機制
- 第11回 教育評価とは、指導と評価
- 第12回 絶対評価、相対評価、到達度評価
- 第13回 関心・意欲・態度と教育評価
- 第14回 試験
- 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ

### 授業以外での学習方法

授業は包括的、概論的なものとなるため、それを補う意味で、各柱立てに沿ってのレポート（計4回、各1200字程度）を求める。その際、提示された参考文献を必ず参照することを求める。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（70%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（）

科目名 児童心理学

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 自然科学概論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 生源寺 孝浩

テーマ

小学校教師として生きて働く自然観を育む

### 授業の目的（獲得目標）

小学校教師として理科を指導するとき、豊かな自然観を持っている必要がある。その豊かな自然観を持てるようにするための基礎を学ぶ。

### 内 容

第1回 「ものとその重さ」に関する調査と講義のオリエンテーション

第2回 ものと重さ①⇒ レンガの縦置きと横置きで重さはどうなるでしょう。

第3回 ものと重さ②⇒ 油粘土が台秤から垂れ下がっています。重さはどうなるでしょう。

第4回 ものの形と重さ①⇒ 体重計に両足でののりと片足でののりと、うーんとふんばってののりとは重さに違いがありますか。

第5回 ものの形と重さ②⇒水の上に木片が浮いたら重さはどうなるでしょう。 ものの変化と重さ①⇒砂糖が水に溶けたら重さはどうなるでしょう。

第6回 ものの変化と重さ①⇒アルコールが熱をもらうと体積が大きくなります。重さはどうなるでしょう。

第7回 水素に重さがありますか。酸素、窒素、二酸化炭素の重さを量ってみよう。教室いっぱいの空気の重さはどれだけか。

第8回 ものの変化と重さ②⇒丸底フラスコ中で炭素が酸素の中で化合して燃えました。燃える前の重さに比べて重さはどうなったでしょう。

第9回 ものの変化と重さ③⇒火種のついたスチールウールに酸素の入った集気瓶をかぶせます。水位は変化するか。

第10回 ものの変化と重さ④⇒スチールウールが天秤で釣り合っています。片方に火をつけて燃やします。天秤はどちらにかたむくでしょう。アフターテスト。

第11回 ものの弾性変形①⇒バネは力を受けると変形し、力を受けなくなると元の形に戻る。これを弾性という。 ものの弾性変形②⇒ガラス棒は弾性変形しますか。5ミリ厚の鉄板は弾性変形しますか。

第12回 音は振動であり、振動はものに弾性があるからである。火ばさみ（大型ピンセット）から毛抜き（小形ピンセット）までを振動させてみよう。音が伝わればそのものには弾性がある。コイルと磁石で弾性探し。

第13回 ものは地球から力を受けている。力があいこすともものは止まる。バネの場面とスポンジの場面で考えてみよう。

第14回 タテの世界では重力を受けているものを、横に動かすときどのような力を受けるでしょう。考えてみよう。摩擦の話。

第15回 宇宙空間の物体の運動について。

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 数学概論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

算数教育の数学的基礎を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

幼児や小学生に算数を教える上で基本となる数・量・関数・図形・統計などの基本的な知識と考え方を学ぶ。教科教育法（算数）の前段として位置づける。

内 容

第1回 数とは何か 十進位取り記数法の考え方

第2回 加法減法

第3回 乗法除法

第4回 九九表の分析

第5回 分離量と連続量（小数・分数）

第6回 外延量（長さ、重さ、面積など）

第7回 内包量（密度、濃度、速度など）

第8回 正負の数 数の拡張

第9回 基本図形（角 三角形 四角形 円）

第10回 対称性としきつめ

第11回 求積

第12回 関数とは何か

第13回 座標と変換

第14回 確率の考え方

第15回 統計

授業以外での学習方法

\*宿題を出すのでしっかり取り組むこと。 \*授業中に小テストを随時行う。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（20%）授業中課題（30%）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（）

科目名 音楽概論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 磯田 三津子

テーマ

音楽に関する基礎的な知識を得る

授業の目的（獲得目標）

(1) いくつかの音楽のジャンルについて理解を深める。(2) 音楽史の基礎知識を習得する。(3) 音楽と人間のかかわりについて探求することができる。

内 容

- 第1回 身の回りの音、自然界の音
- 第2回 西洋音楽－中世とバロックの音楽
- 第3回 西洋音楽－古典派の音楽
- 第4回 西洋音楽－ロマン派の音楽
- 第5回 西洋音楽－近代・現代の音楽
- 第6回 ポピュラー音楽－アメリカ南部の音楽
- 第7回 ポピュラー音楽－リズム&ブルースからロックンロールへ
- 第8回 ポピュラー音楽－1960年代～1970年代のアメリカの音楽
- 第9回 メディアと音楽
- 第10回 世界の音楽（さまざまな声と楽器）
- 第11回 世界の音楽（祭と音楽）
- 第12回 世界の音楽（宗教と音楽）
- 第13回 日本の音楽1
- 第14回 日本の音楽2
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

音楽に関連する本や雑誌を読む。いろいろなジャンルの音楽を聴く。

教科書

参考書

成績評価

試験（80％）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（20）備考（0）



## 2010 Syllabus

|       |            |      |      |
|-------|------------|------|------|
| 科目名   | 音楽演習 I <a> |      |      |
| クラス   | a          | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   | 30   |
| 履修条件  |            |      |      |
| クラス指定 | 大学指定       |      |      |
| 担当者   | 磯田 三津子     |      |      |

## テーマ

コードによるピアノ伴奏法

## 授業の目的（獲得目標）

コードによるピアノ伴奏の基礎技能を養う。基礎的な音楽理論を理解する。保育園、幼稚園、小学校低学年で歌われているうたの伴奏を弾く。

## 内 容

- 第1回 音階とコードネームの基礎／左手ベースの練習
- 第2回 左手ベースと右手和音の練習1（メジャーコード）
- 第3回 左手ベースと右手和音の練習2（マイナーコード）
- 第4回 左手ベースと右手和音の練習3（ドミナントセブンスコード）
- 第5回 左手ベースと右手和音の練習4（マイナーセブンスコード）
- 第6回 第1回から第5回までのまとめ
- 第7回 発表会に向けて
- 第8回 発表会
- 第9回 右手和音の展開型
- 第10回 セブンスコードの音の省略
- 第11回 伴奏のリズムの工夫
- 第12回 前奏のアレンジ
- 第13回 第7回から第10回までのまとめ
- 第14回 発表会に向けて
- 第15回 発表会

## 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習 I <b> |      |     |
| クラス   | b          | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   | 30  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 大学指定       |      |     |
| 担当者   | 服部 さやか     |      |     |

**テーマ**

コードによるピアノ伴奏法

**授業の目的（獲得目標）**

コードによるピアノ伴奏の基礎技能を養う。基礎的な音楽理論を理解する。保育園、幼稚園、小学校低学年で歌われているうたの伴奏を弾く。

**内 容**

- 第1回 音階とコードネームの基礎／左手ベースの練習
- 第2回 左手ベースと右手和音の練習1（メジャーコード）
- 第3回 左手ベースと右手和音の練習2（マイナーコード）
- 第4回 左手ベースと右手和音の練習3（ドミナントセブンスコード）
- 第5回 左手ベースと右手和音の練習4（マイナーセブンスコード）
- 第6回 第1回から第5回までのまとめ
- 第7回 発表会に向けて
- 第8回 発表会
- 第9回 右手和音の展開型
- 第10回 セブンスコードの音の省略
- 第11回 伴奏のリズムの工夫
- 第12回 前奏のアレンジ
- 第13回 第7回から第10回までのまとめ
- 第14回 発表会に向けて
- 第15回 発表会

**授業以外での学習方法**

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習

**教科書****参考書****成績評価**

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習 I <c> |      |     |
| クラス   | c          | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   | 30  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 大学指定       |      |     |
| 担当者   | 山口 梨紗      |      |     |

**テーマ**

コードによるピアノ伴奏法

**授業の目的（獲得目標）**

コードによるピアノ伴奏の基礎技能を養う。基礎的な音楽理論を理解する。保育園、幼稚園、小学校低学年で歌われているうたの伴奏を弾く。

**内 容**

- 第1回 音階とコードネームの基礎／左手ベースの練習
- 第2回 左手ベースと右手和音の練習1（メジャーコード）
- 第3回 左手ベースと右手和音の練習2（マイナーコード）
- 第4回 左手ベースと右手和音の練習3（ドミナントセブンスコード）
- 第5回 左手ベースと右手和音の練習4（マイナーセブンスコード）
- 第6回 第1回から第5回までのまとめ
- 第7回 発表会に向けて
- 第8回 発表会
- 第9回 右手和音の展開型
- 第10回 セブンスコードの音の省略
- 第11回 伴奏のリズムの工夫
- 第12回 前奏のアレンジ
- 第13回 第7回から第10回までのまとめ
- 第14回 発表会に向けて
- 第15回 発表会

**授業以外での学習方法**

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習

**教科書****参考書****成績評価**

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

|       |            |      |      |
|-------|------------|------|------|
| 科目名   | 音楽演習 I <d> |      |      |
| クラス   | d          | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   | 30   |
| 履修条件  |            |      |      |
| クラス指定 | 大学指定       |      |      |
| 担当者   | 山口 梨紗      |      |      |

**テーマ**

コードによるピアノ伴奏法

**授業の目的（獲得目標）**

コードによるピアノ伴奏の基礎技能を養う。基礎的な音楽理論を理解する。保育園、幼稚園、小学校低学年で歌われているうたの伴奏を弾く。

**内 容**

- 第1回 音階とコードネームの基礎／左手ベースの練習
- 第2回 左手ベースと右手和音の練習1（メジャーコード）
- 第3回 左手ベースと右手和音の練習2（マイナーコード）
- 第4回 左手ベースと右手和音の練習3（ドミナントセブンスコード）
- 第5回 左手ベースと右手和音の練習4（マイナーセブンスコード）
- 第6回 第1回から第5回までのまとめ
- 第7回 発表会に向けて
- 第8回 発表会
- 第9回 右手和音の展開型
- 第10回 セブンスコードの音の省略
- 第11回 伴奏のリズムの工夫
- 第12回 前奏のアレンジ
- 第13回 第7回から第10回までのまとめ
- 第14回 発表会に向けて
- 第15回 発表会

**授業以外での学習方法**

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習

**教科書****参考書****成績評価**

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習 I <e> |      |     |
| クラス   | e          | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   | 30  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 大学指定       |      |     |
| 担当者   | 山口 梨紗      |      |     |

**テーマ**

コードによるピアノ伴奏法

**授業の目的（獲得目標）**

コードによるピアノ伴奏の基礎技能を養う。基礎的な音楽理論を理解する。保育園、幼稚園、小学校低学年で歌われているうたの伴奏を弾く。

**内 容**

- 第1回 音階とコードネームの基礎／左手ベースの練習
- 第2回 左手ベースと右手和音の練習1（メジャーコード）
- 第3回 左手ベースと右手和音の練習2（マイナーコード）
- 第4回 左手ベースと右手和音の練習3（ドミナントセブンスコード）
- 第5回 左手ベースと右手和音の練習4（マイナーセブンスコード）
- 第6回 第1回から第5回までのまとめ
- 第7回 発表会に向けて
- 第8回 発表会
- 第9回 右手和音の展開型
- 第10回 セブンスコードの音の省略
- 第11回 伴奏のリズムの工夫
- 第12回 前奏のアレンジ
- 第13回 第7回から第10回までのまとめ
- 第14回 発表会に向けて
- 第15回 発表会

**授業以外での学習方法**

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習

**教科書****参考書****成績評価**

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習Ⅱ <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 30  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 山口 梨紗     |      |     |

### テーマ

ピアノ伴奏の基礎技能を習得する

### 授業の目的（獲得目標）

保育園、幼稚園の音楽表現、小学校の音楽授業で活用できるピアノ伴奏の基礎的な技能を養う。ピアノ伴奏のための実践的な知識と技能を修得する。

### 内 容

- 第1回 ディミニッシュコード、ディミニッシュセブンスコードの練習／子どもの歌①
- 第2回 オギュメントコードの練習／子どもの歌②
- 第3回 サスペンデッドコードの練習／子どもの歌③
- 第4回 シックスコードと、数字付き（付加音）コードの練習／子どもの歌④
- 第5回 第1回から第4回までのまとめ／発表会に向けて
- 第6回 発表会
- 第7回 ベースの応用（1）－展開型ベース／子どもの歌⑤
- 第8回 ベースの応用（2）－非和音を使ったベース／バイエル①
- 第9回 総合練習曲（1）／バイエル②
- 第10回 総合練習曲（2）／バイエル③
- 第11回 メジャー（長調）で使うコード／マイナー（単調）で使うコード／バイエル④
- 第12回 他の調から借りてくるコード（1）／バイエル⑤
- 第13回 他の調から借りてくるコード（2）／バイエル⑥
- 第14回 まとめ
- 第15回 発表

### 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習Ⅱ <b> |      |     |
| クラス   | b         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 30  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 山口 梨紗     |      |     |

## テーマ

ピアノ伴奏の基礎技能を習得する

## 授業の目的（獲得目標）

保育園、幼稚園の音楽表現、小学校の音楽授業で活用できるピアノ伴奏の基礎的な技能を養う。ピアノ伴奏のための実践的な知識と技能を修得する。

## 内 容

- 第1回 ディミニッシュコード、ディミニッシュセブンスコードの練習／子どもの歌①
- 第2回 オギュメントコードの練習／子どもの歌②
- 第3回 サスペンデッドコードの練習／子どもの歌③
- 第4回 シックスコードと、数字付き（付加音）コードの練習／子どもの歌④
- 第5回 第1回から第4回までのまとめ／発表会に向けて
- 第6回 発表会
- 第7回 ベースの応用（1）－展開型ベース／子どもの歌⑤
- 第8回 ベースの応用（2）－非和音を使ったベース／バイエル①
- 第9回 総合練習曲（1）／バイエル②
- 第10回 総合練習曲（2）／バイエル③
- 第11回 メジャー（長調）で使うコード／マイナー（単調）で使うコード／バイエル④
- 第12回 他の調から借りてくるコード（1）／バイエル⑤
- 第13回 他の調から借りてくるコード（2）／バイエル⑥
- 第14回 まとめ
- 第15回 発表

## 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習Ⅱ <c>    |      |     |
| クラス   | c            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 30  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 服部 さやか、山本 善則 |      |     |

### テーマ

ピアノ伴奏の基礎技能を習得する

### 授業の目的（獲得目標）

保育園、幼稚園の音楽表現、小学校の音楽授業で活用できるピアノ伴奏の基礎的な技能を養う。ピアノ伴奏のための実践的な知識と技能を修得する。

### 内 容

- 第1回 ディミニッシュコード、ディミニッシュセブンスコードの練習／子どもの歌①
- 第2回 オギュメントコードの練習／子どもの歌②
- 第3回 サスペンデッドコードの練習／子どもの歌③
- 第4回 シックスコードと、数字付き（付加音）コードの練習／子どもの歌④
- 第5回 第1回から第4回までのまとめ／発表会に向けて
- 第6回 発表会
- 第7回 ベースの応用（1）－展開型ベース／子どもの歌⑤
- 第8回 ベースの応用（2）－非和音を使ったベース／バイエル①
- 第9回 総合練習曲（1）／バイエル②
- 第10回 総合練習曲（2）／バイエル③
- 第11回 メジャー（長調）で使うコード／マイナー（単調）で使うコード／バイエル④
- 第12回 他の調から借りてくるコード（1）／バイエル⑤
- 第13回 他の調から借りてくるコード（2）／バイエル⑥
- 第14回 まとめ
- 第15回 発表

### 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）



|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習Ⅱ <d>    |      |     |
| クラス   | d            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 30  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 服部 さやか、山本 善則 |      |     |

### テーマ

ピアノ伴奏の基礎技能を習得する

### 授業の目的（獲得目標）

保育園、幼稚園の音楽表現、小学校の音楽授業で活用できるピアノ伴奏の基礎的な技能を養う。ピアノ伴奏のための実践的な知識と技能を修得する。

### 内 容

- 第1回 ディミニッシュコード、ディミニッシュセブンスコードの練習／子どもの歌①
- 第2回 オギュメントコードの練習／子どもの歌②
- 第3回 サスペンデッドコードの練習／子どもの歌③
- 第4回 シックスコードと、数字付き（付加音）コードの練習／子どもの歌④
- 第5回 第1回から第4回までのまとめ／発表会に向けて
- 第6回 発表会
- 第7回 ベースの応用（1）－展開型ベース／子どもの歌⑤
- 第8回 ベースの応用（2）－非和声音を使ったベース／バイエル①
- 第9回 総合練習曲（1）／バイエル②
- 第10回 総合練習曲（2）／バイエル③
- 第11回 メジャー（長調）で使うコード／マイナー（単調）で使うコード／バイエル④
- 第12回 他の調から借りてくるコード（1）／バイエル⑤
- 第13回 他の調から借りてくるコード（2）／バイエル⑥
- 第14回 まとめ
- 第15回 発表

### 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習Ⅱ <e>    |      |     |
| クラス   | e            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 30  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 服部 さやか、山本 善則 |      |     |

### テーマ

ピアノ伴奏の基礎技能を習得する

### 授業の目的（獲得目標）

保育園、幼稚園の音楽表現、小学校の音楽授業で活用できるピアノ伴奏の基礎的な技能を養う。ピアノ伴奏のための実践的な知識と技能を修得する。

### 内 容

- 第1回 ディミニッシュコード、ディミニッシュセブンスコードの練習／子どもの歌①
- 第2回 オギュメントコードの練習／子どもの歌②
- 第3回 サスペンデッドコードの練習／子どもの歌③
- 第4回 シックスコードと、数字付き（付加音）コードの練習／子どもの歌④
- 第5回 第1回から第4回までのまとめ／発表会に向けて
- 第6回 発表会
- 第7回 ベースの応用（1）－展開型ベース／子どもの歌⑤
- 第8回 ベースの応用（2）－非和音を使ったベース／バイエル①
- 第9回 総合練習曲（1）／バイエル②
- 第10回 総合練習曲（2）／バイエル③
- 第11回 メジャー（長調）で使うコード／マイナー（単調）で使うコード／バイエル④
- 第12回 他の調から借りてくるコード（1）／バイエル⑤
- 第13回 他の調から借りてくるコード（2）／バイエル⑥
- 第14回 まとめ
- 第15回 発表

### 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いた個人練習。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（60）小テスト（0）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

科目名 美術概論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 上中 良子

テーマ

美術と人間、美術と教育・保育との関連について理解する。

授業の目的（獲得目標）

○子どもにとっての美術表現活動の意味を考察すると共に、西洋と日本における美術の流れをおさえた上で近代以降の日本の美術教育史に触れ、受講者自身が受けてきた美術教育の体験交流をふまえて美術教育のありようを考える。○ジャンルごとの簡単な制作実習も行う。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 西洋美術史の概要

第3回 日本美術史の概要

第4回 造形表現のための具体 ○「色」の理論 ○多様な描材と描法①（色紙作り）

第5回 造形表現のための具体 ○多様な描材と描法②（デカルコマニー・コラージュ他）

第6回 美術の楽しさ・美術の意味：作って遊ぶ楽しさ体験①（紙ぶんぶんゴマ）

第7回 美術の楽しさ・美術の意味：作って遊ぶ楽しさ体験②（登るおもちゃ）

第8回 作品の見方：美術教育史との関連で

第9回 子どもの発達と表現①（乳幼児期）

第10回 子どもの発達と表現②（学童期～思春期）

第11回 美術の楽しさ・美術の意味：自己表現としての『絵綴り方活動』に学ぶ①（低学年）

第12回 美術の楽しさ・美術の意味：自己表現としての『絵綴り方活動』に学ぶ②（中・高学年）

第13回 これまでの学習を生かしてミニ絵本作り（計画→構成）

第14回 これまでの学習を生かしてミニ絵本作り（完成→鑑賞）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

○展覧会なども含めて美術作品の鑑賞の機会を意識して持つこと。○問題意識を持って乳幼児期・児童期の美術（造形）作品に触れる機会を持つこと。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（40％）小テスト（）授業中課題（30％）授業中発表等（）参加度（30％）備考（全回出席・全課題提出を前提とする）

科目名 体育概論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

文化としての体育・スポーツを理解し、その文化の継承・発展を考える

授業の目的（獲得目標）

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的などの多方面の基礎知識を身に付ける。そして体育・スポーツについて、仲間と共に考えることができる力、体育・スポーツを正しく理解する力を身に付けて欲しい。

内 容

第1回 オリエンテーション 「投げる」遊び・動作の習得と運動発達

第2回 人間の運動発達と現代の子どもの運動能力

第3回 筋肉の構造と筋力の発達や特性

第4回 人間の汗と体温調節のしくみ

第5回 人間の運動学習（わかる・できるようになる）

第6回 眼の仕組みとスポーツにおける眼の役割（スポーツビジョン）

第7回 相撲の歴史と文化（日本のスポーツ・運動文化）

第8回 陸上競技の歴史と文化（世界のスポーツの歴史）

第9回 スポーツの科学、カーブはなぜカーブするのか

第10回 体育とは何か、スポーツとはどうちがうのか

第11回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表①

第12回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表②

第13回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表③

第14回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表④

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

1. 体育・スポーツとは何か、自分で受けてきた（あるいは受けている）体育・スポーツの授業を振り返り、またクラブやサークルで行っているスポーツ・身体活動を振り返り考えてみましょう。 2. 新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合結果ばかりではなく、試合の作戦、選手の技術、ファンへのサービス、地域・社会への貢献など、社会的、文化的、歴史的な背景等々、多くの視点で見てください。

教科書

**成績評価**

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（しっかり授業に参加（出席）すること）

科目名 発達心理学〈幼a〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

大人になるということ

授業の目的（獲得目標）

成人期にいたるまでの人間の発達について概観する。成長するとはどういうことか、大人になるとはどういうことかについての理解を深める。

内 容

第1回 発達心理学とは、本講義がめざすもの

第2回 人格の構造

第3回 無条件反射と条件反射

第4回 第2信号系としての「ことば」

第5回 「カベ」と「シマ」の仮説

第6回 乳幼児期① 「循環反応」、「模倣」、「遊び」

第7回 乳幼児期② 「アニミズム」、「直感的思考」、「自己中心的思考」

第8回 児童期① 「保存性」、「経験的思考」、「具体的思考」

第9回 児童期② 「生活的概念」、「科学的概念」

第10回 思春期① ケース検討① 「もうひとりの自分」の誕生、「自分との対話」

第11回 思春期② ケース検討② 「おとな感覚」の芽生え、「自立と依存」

第12回 思春期③ ケース検討③ 「同性の友人関係」の意義

第13回 青年期① ケース検討④ 「問題行動」をどうみるか

第14回 青年期② ケース検討⑤ ある大学生の「成育史」

第15回 まとめ

第16回 試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）

科目名 発達心理学 <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

大人になるということ

授業の目的（獲得目標）

成人期にいたるまでの人間の発達について概観する。成長するとはどういうことか、大人になるとはどういうことかについての理解を深める。

内 容

第1回 発達心理学とは、本講義がめざすもの

第2回 人格の構造

第3回 無条件反射と条件反射

第4回 第2信号系としての「ことば」

第5回 「カベ」と「シマ」の仮説

第6回 ピアジェの知能観と知能発達論

第7回 乳幼児期 「循環反応」、「模倣」、「アニミズム」、「直感的思考」、「自己中心的思考」等。

第8回 児童期 「保存性」、「経験的思考」、「具体的思考」、「仮説的思考」等。

第9回 ヴィゴツキーの「生活的概念」と「科学的概念」

第10回 思春期① ケース検討① （「もうひとりの自分」、「自分との対話」）

第11回 思春期② ケース検討② （「おとな感覚」、「自立と依存」）

第12回 思春期③ ケース検討③ （同性の「友人関係」の意義）

第13回 青年期① ケース検討④ （「問題行動」をどうみるか）

第14回 青年期② ケース検討⑤ （ある大学生の「成育史」）

第15回 まとめ

第16回 試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）



科目名 社会福祉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

社会福祉の制度・政策・実践方法について理解する。

授業の目的（獲得目標）

社会福祉の価値・理念に基づく社会福祉の制度、政策、そして、社会福祉援助の実践体系や仕組み、その進め方を学び、今日の社会福祉の果たすべき役割とその重要性について理解する。

内 容

- 第1回 社会福祉の概念と理念
- 第2回 現代社会の特徴と福祉ニーズ
- 第3回 欧米における社会福祉の歴史
- 第4回 日本における社会福祉の歴史
- 第5回 社会福祉の制度体系1
- 第6回 社会福祉の制度体系2
- 第7回 社会福祉のサービス評価と実践体制
- 第8回 社会福祉の行政・財政
- 第9回 社会福祉従事者と資格制度
- 第10回 社会福祉の専門性と倫理
- 第11回 社会福祉援助技術の基本的枠組み
- 第12回 少子高齢社会への対応
- 第13回 社会福祉基礎構造改革
- 第14回 今後の社会福祉
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業前に、テキストを読む。日頃から福祉に関するニュースに関心を持ち、新聞等を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 備考 ( )

科目名 保育原理 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

幼児保育の年間の流れ——保育実践の事実のなかから理論を取り出す

授業の目的（獲得目標）

1. 幼児保育実践の年間の流れのイメージをもつ。 2. 保育の主題について理解する。 3. 保育の諸段階（積み上げ）について理解する。 4. 保育実践の事実のなかに含まれる理論問題に関心を持つ。

内 容

第1回 オリエンテーション（幼児とその保育について先入観なく事実を捉えることについて）

第2回 4～6月の幼児保育① 園庭の自然（小さな自然の世界）と保育

第3回 4～6月の幼児保育② 園庭の自然（小さな自然の世界）と保育の主題

第4回 4～6月の幼児保育③ 中くらいの自然の世界と保育

第5回 4～6月の幼児保育④ この時期の絵本の位置づけ

第6回 自然に対する幼児の見方・感じ方

第7回 物語に対する幼児の理解と共感

第8回 9～12月の幼児保育① 運動会とそれ以降の保育のあり方

第9回 9～12月の幼児保育② ドングリを主題にした保育（中くらいの自然の世界）

第10回 9～12月の幼児保育③ ドングリを主題にした保育（絵本の役割）

第11回 9～12月の幼児保育④ ドングリを主題にした保育（大きな自然の世界）

第12回 9～12月の幼児保育⑤ 木の葉を主題にした保育

第13回 9～12月の幼児保育⑥ 長編の物語とこの時期の保育

第14回 1～3月の幼児保育① 劇遊びについて

第15回 1～3月の幼児保育② 年間の保育と劇づくり

授業以外での学習方法

授業の折に紹介する文献にあたること。

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（授業毎に質問・感想を

書いてもらうが、これも参加度のなかに含まれる。)

科目名 保育原理Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

保育所保育の諸原理を深める

授業の目的（獲得目標）

1. 保育所保育のいくつかの原理について深める 2. その諸原理について保育の事実をもとに説明することができる。 3. 常識的な見方（経験的な見方）を克服する努力を行う。

内 容

第1回 オリエンテーション（保育＝子守、保育＝早期教育という二つの見方を克服することについて）

第2回 子どもの発達の原因① 乳幼児期をひとつの原因で語っていいのか？

第3回 子どもの発達の原因② 子どもと大人の関係（3歳未満児と3歳以上児）

第4回 遊びによる保育の原因① 乳幼児の好む遊びにも発達がある

第5回 遊びによる保育の原因② 遊びにおけるイメージとルール

第6回 遊びによる保育の原因① 子どもの喜びとその質（発達の最近接領域について）

第7回 保育カリキュラムの原因① 3歳未満児と3歳以上児のカリキュラム

第8回 保育カリキュラムの原因② 倉橋惣三の誘導保育理論について

第9回 「養護と教育の統一」の原因① ケアリングの理念

第10回 「養護と教育の統一」の原因② 養護活動のなかの教育作用と教育活動のなかの養護作用

第11回 保育記録論① 保育記録の具体性について

第12回 保育記録論② 保育記録の継続性について

第13回 保育実践の研究方法論

第14回 保育制度論

第15回 おわりに—保育と人間観について

授業以外での学習方法

テキストの代わりに授業の資料を配布するので、そこに示された課題について考察すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（授業毎に質問・感想を

書いてもらうが、これも参加度のなかに含まれる。)

|       |                       |     |  |
|-------|-----------------------|-----|--|
| 科目名   | 日本語コミュニケーション技術(ディベート) |     |  |
| クラス   | 配当回生                  | 1回生 |  |
| 講義期間  | 後期                    | 定員  |  |
| 履修条件  |                       |     |  |
| クラス指定 |                       |     |  |
| 担当者   | 智原 栄一                 |     |  |

## テーマ

建設的議論や論理的討議のためのコミュニケーション技術としてディベートの初歩を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

様々な専門分野を統合するジェネラリストには文系理系を問わない異なる立場を理解し広い視野の中で論理的コミュニケーションを行う技術が必要である。単なる言い争いと建設的な議論の違いをディベートの形式を通して理解し、論理的で説得力のある討論のスキルとディベート指導方法の基礎を習得する。

## 内 容

- 第1回 イントロダクション：ディベートとはどんなものか？ 巷での使い方やイメージとこれから取り上げるディベートの相違について。
- 第2回 Cats & Dogs：時間内でしゃべる際の緊張と焦り。ディベートはどのようなゲームなのかをCats & Dogsというゲームを通して理解する。
- 第3回 主張の構成要素：誤解やすれ違いの原因である隠された前提とは。スピーチを構造化するためのラベルとは？
- 第4回 スピーチで伝える：言葉はなぜ傷つけるのか？／言葉の力を支える身体性とは。
- 第5回 三つの要素と反駁の形：ゴンギツネをテーマに相手に伝わり易いスピーチの型を実習する。
- 第6回 桃太郎を追求する：広く知られた桃太郎を視点を変えてディベート材料とすることで前提と視点の自由化を鍛える。
- 第7回 チーム対抗戦1 肯定側の責任とは：チーム対抗戦を行いながら肯定側の役割を理解する。
- 第8回 チーム対抗戦2 否定側の責任とは：チーム対抗戦を行いながら否定側の役割を理解する。
- 第9回 ジャッジの仕方：判定基準とフローシートを用いてどのようにジャッジするかを学ぶ。
- 第10回 模擬政策ディベート論題提示：代表的な政策論題をどのように取り上げるか検討し、論題を選択する。
- 第11回 エビデンスの集め方と整理の仕方：論点をサポートするためのエビデンスの収集の仕方から利用方法の見直しを行う。
- 第12回 チーム対抗戦3 チームワーク：ディベートのステージごとの役割の違いとチームワークのあり方。
- 第13回 論点の再整理：役割変更：チーム対抗戦を重ねることでチーム内の役割の違いと協力のあり方を学ぶ。
- 第14回 チーム対抗戦4 全体の流れを作る：ディベート対抗戦の中で主張の一貫性と論破のための戦略を学ぶ。
- 第15回 全体の検討：自らのディベート経験を通してどのような技術が必要か、指導上どのようなことに留意せねばならないかを検討する。

## 授業以外での学習方法

授業内で提示する課題に対する調査や模擬ディベートの為の立案に積極的に取り組むことが必要である。日常的な問題について視点を変えて検討することを習慣化することが望まれる。

---

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習(児) <a>

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 小寺 隆幸

## テーマ

児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども理解について学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

子どもの表現（特に詩）から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション（教職教育としての学びについて）
- 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第3回 「心ってこんなに動くんだ」① グループ討議と発表
- 第4回 「心ってこんなに動くんだ」② グループ討議と発表
- 第5回 「心ってこんなに動くんだ」③ グループ討議と発表
- 第6回 フィールドワーク中間まとめ
- 第7回 「心ってこんなに動くんだ」④ グループ討議と発表
- 第8回 「心ってこんなに動くんだ」⑤ グループ討議と発表
- 第9回 「心ってこんなに動くんだ」⑥ グループ討議と発表
- 第10回 西條先生の講演（予定）
- 第11回 優れた教育実践から学ぶ
- 第12回 現代の教育課題を考える
- 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成
- 第14回 フィールドワークのまとめ
- 第15回 基礎演習総括

## 授業以外での学習方法

\*教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。 \*新聞やニュースを通して社会における教育や子どもの状況を知り、問題意識を持つ。 \*教育に関わる書物を読む。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価



試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習(児) <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 生源寺 孝浩

テーマ

児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども理解について学ぶ

授業の目的（獲得目標）

子どもの表現（特に詩）から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション（教職教育としての学びについて）
- 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第3回 「心ってこんなに動くんだ」① グループ討議と発表
- 第4回 「心ってこんなに動くんだ」② グループ討議と発表
- 第5回 「心ってこんなに動くんだ」③ グループ討議と発表
- 第6回 フィールドワーク中間まとめ
- 第7回 「心ってこんなに動くんだ」④ グループ討議と発表
- 第8回 「心ってこんなに動くんだ」⑤ グループ討議と発表
- 第9回 「心ってこんなに動くんだ」⑥ グループ討議と発表
- 第10回 西條先生の講演（予定）
- 第11回 優れた教育実践から学ぶ
- 第12回 現代の教育課題を考える
- 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成
- 第14回 フィールドワークのまとめ
- 第15回 基礎演習総括

授業以外での学習方法

\* 教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。 \* 新聞やニュースを通して社会における教育や子どもの状況を知り、問題意識を持つ。 \* 教育に関わる書物を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習(児) <c>

クラス c

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 三山 岳

テーマ

児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども理解について学ぶ

授業の目的（獲得目標）

子どもの表現（特に詩）から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション（教職教育としての学びについて）
- 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第3回 「心ってこんなに動くんだ」① グループ討議と発表
- 第4回 「心ってこんなに動くんだ」② グループ討議と発表
- 第5回 「心ってこんなに動くんだ」③ グループ討議と発表
- 第6回 フィールドワーク中間まとめ
- 第7回 「心ってこんなに動くんだ」④ グループ討議と発表
- 第8回 「心ってこんなに動くんだ」⑤ グループ討議と発表
- 第9回 「心ってこんなに動くんだ」⑥ グループ討議と発表
- 第10回 西條先生の講演（予定）
- 第11回 優れた教育実践から学ぶ
- 第12回 現代の教育課題を考える
- 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成
- 第14回 フィールドワークのまとめ
- 第15回 基礎演習総括

授業以外での学習方法

\*教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。 \*新聞やニュースを通して社会における教育や子どもの状況を知り、問題意識を持つ。 \*教育に関わる書物を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

科目名 基礎演習(児) <d>

クラス d

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 加用 美代子

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法について気づき深め、自らの学習・研究課題を認識する。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 観察と記録の仕方について
- 第3回 保育の論点「年度初めの保育」
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第5回 体験学習（5月）の振り返りと研究課題の設定
- 第6回 研究課題の検討
- 第7回 研究課題の報告
- 第8回 研究報告をさらに深める
- 第9回 体験学習（6月）の振り返りと研究課題の設定
- 第10回 研究課題の検討
- 第11回 研究課題の報告
- 第12回 「子どもが楽しめる企画と技術」プラン作成
- 第13回 体験学習（6月）の振り返りと研究課題の設定
- 第14回 研究課題の報告
- 第15回 体験学習と授業を通して学んだこと（報告会）

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回（午前中半日）の体験学習（フィールドワーク）を行う。日常も保育園・幼稚園などでボランティアを積極的に行い、子ども・保育者・保護者についての理解を深める。また、さまざまな保育実践記録を読む。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（

---

科目名 基礎演習(児) <e>

---

クラス e 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 神谷 栄司

---

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法について気づき深め、自らの学習・研究課題を認識する。

---

内 容

- 第1回 授業の進め方について
  - 第2回 観察と記録の仕方について
  - 第3回 保育の論点「年度初めの保育」
  - 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
  - 第5回 体験学習（5月）の振り返りと研究課題の設定
  - 第6回 研究課題の検討
  - 第7回 研究課題の報告
  - 第8回 研究報告をさらに深める
  - 第9回 体験学習（6月）の振り返りと研究課題の設定
  - 第10回 研究課題の検討
  - 第11回 研究課題の報告
  - 第12回 「子どもが楽しめる企画と技術」プラン作成
  - 第13回 体験学習（6月）の振り返りと研究課題の設定
  - 第14回 研究課題の報告
  - 第15回 体験学習と授業を通して学んだこと（報告会）
- 

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回（午前中半日）の体験学習（フィールドワーク）を行う。日常も保育園・幼稚園などでボランティアを積極的に行い、子ども・保育者・保護者についての理解を深める。また、さまざまな保育実践記録を読む。

---

教科書

参考書

---



## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 基礎演習(児) < f >

---

クラス f 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 磯田 三津子

---

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法について気づき深め、自らの学習・研究課題を認識する。

---

内 容

- 第1回 授業の進め方について
  - 第2回 観察と記録の仕方について
  - 第3回 保育の論点「年度初めの保育」
  - 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
  - 第5回 体験学習（5月）の振り返りと研究課題の設定
  - 第6回 研究課題の検討
  - 第7回 研究課題の報告
  - 第8回 研究報告をさらに深める
  - 第9回 体験学習（6月）の振り返りと研究課題の設定
  - 第10回 研究課題の検討
  - 第11回 研究課題の報告
  - 第12回 「子どもが楽しめる企画と技術」プラン作成
  - 第13回 体験学習（6月）の振り返りと研究課題の設定
  - 第14回 研究課題の報告
  - 第15回 体験学習と授業を通して学んだこと（報告会）
- 

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回（午前中半日）の体験学習（フィールドワーク）を行う。日常も保育園・幼稚園などでボランティアを積極的に行い、子ども・保育者・保護者についての理解を深める。また、さまざまな保育実践記録を読む。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 児童教育総合演習 <a> |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   | 30  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 三山 岳         |      |     |

### テーマ

児童の指導に関する実践記録とその理論的考察を読み、子どもをその状況の中で理解する視点を学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

子どもが生きている社会や状況の中で子どもを理解する視点を学ぶ。ゼミ討議の運営を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方などについて学ぶ。

### 内 容

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」総括
- 第7回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論④
- 第10回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論⑤
- 第11回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論⑥
- 第12回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論⑦
- 第13回 竹内先生の講演（予定）
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習総括

### 授業以外での学習方法

\*教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。 \*新聞やニュースを通して社会における教育や子どもの状況を知り、問題意識を持つ。 \*教育に関わる書物を読む。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

科目名 児童教育総合演習〈b〉

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 小寺 隆幸

**テーマ**

児童の指導に関する実践記録とその理論的考察を読み、子どもをその状況の中で理解する視点を学ぶ。

**授業の目的（獲得目標）**

子どもが生きている社会や状況の中で子どもを理解する視点を学ぶ。ゼミ討議の運営を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方などについて学ぶ。

**内 容**

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」総括
- 第7回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論④
- 第10回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論⑤
- 第11回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論⑥
- 第12回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論⑦
- 第13回 竹内先生の講演（予定）
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習総括

**授業以外での学習方法**

\*教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。 \*新聞やニュースを通して社会における教育や子どもの状況を知り、問題意識を持つ。 \*教育に関わる書物を読む。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 児童教育総合演習 <c> |      |     |
| クラス         | c            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期           | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 池田 修         |      |     |

**テーマ**

児童の指導に関する実践記録とその理論的考察を読み、子どもをその状況の中で理解する視点を学ぶ。

**授業の目的（獲得目標）**

子どもが生活している社会や状況の中で子どもを理解する視点を学ぶ。ゼミ討議の運営を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方などについて学ぶ。

**内 容**

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」総括
- 第7回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論④
- 第10回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論⑤
- 第11回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論⑥
- 第12回 実践記録の検討と竹内文献を巡る議論⑦
- 第13回 竹内先生の講演（予定）
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習総括

**授業以外での学習方法**

\* 教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。 \* 新聞やニュースを通して社会における教育や子どもの状況を知り、問題意識を持つ。 \* 教育に関わる書物を読む。

**教科書****参考書****成績評価**



試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 児童教育総合演習 <d>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|             |            |      |     |
|-------------|------------|------|-----|
| 科目名         | 保育総合演習 <a> |      |     |
| クラス         | a          | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期         | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |            |      |     |
| クラス指定       | 大学指定       |      |     |
| 担当者         | 口野 隆史      |      |     |

**テーマ**

子どもの成長発達と保育の内容・方法を学ぶ

**授業の目的（獲得目標）**

保育現場での体験学習（フィールドワーク）を通して、子どもの成長発達、年間の保育の流れ、指導と援助の方法などについての気づきを深める。さらに、それらの体験と学内で学んだことをもとに模擬保育を行い、自分で指導案を作成できる力を身に付ける。

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション及び課題の提示（指導案を探し良いものを選択）
- 第2回 体験学習（9月）の振り返りと課題
- 第3回 指導案の作成①（指導案のグループ内発表）と保育士の役割（課題：行事とは）
- 第4回 体験学習（10月）の振り返りと課題
- 第5回 子どもが楽しめる企画と技術（クラスの取り組みの準備）
- 第6回 子どもが楽しめる企画と技術（クラスの取り組みの振り返り）
- 第7回 保育の論点「保育と行事」（3回目の課題の報告・論議）
- 第8回 指導案の作成②（グループでの指導案作成）
- 第9回 指導案の作成③（模擬保育発表準備）及び体験学習（11月）の振り返りと課題
- 第10回 模擬保育発表①（2グループ発表）
- 第11回 模擬保育発表②（2グループ発表）
- 第12回 模擬保育の振り返り及び体験学習（12月）の振り返りと課題
- 第13回 1年間のまとめ①（報告集の原稿作成）
- 第14回 1年間のまとめ②（報告集作成）及び体験学習（1月）の振り返りと課題
- 第15回 現場体験と大学での学習を通して学んだこと「報告会」

**授業以外での学習方法**

この授業の課題として、月1回（午前の半日）の「体験学習（フィールドワーク）」を行う。日常も保育園・幼稚園などでボランティアを積極的に行い、子ども・保育士・保護者について理解を深める。様々な保育実践記録を読む。

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（）

|             |            |      |     |
|-------------|------------|------|-----|
| 科目名         | 保育総合演習 <b> |      |     |
| クラス         | b          | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期         | 定員   | 30  |
| <b>履修条件</b> |            |      |     |
| クラス指定       | 大学指定       |      |     |
| 担当者         | 加用 美代子     |      |     |

**テーマ**

子どもの成長発達と保育の内容・方法を学ぶ

**授業の目的（獲得目標）**

保育現場での体験学習（フィールドワーク）を通して、子どもの成長発達、年間の保育の流れ、指導と援助の方法などについての気づきを深める。さらに、それらの体験と学内で学んだことをもとに模擬保育を行い、自分で指導案を作成できる力を身に付ける。

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション及び課題の提示（指導案を探し良いものを選択）
- 第2回 体験学習（9月）の振り返りと課題
- 第3回 指導案の作成①（指導案のグループ内発表）と保育士の役割（課題：行事とは）
- 第4回 体験学習（10月）の振り返りと課題
- 第5回 子どもが楽しめる企画と技術（クラスの取り組みの準備）
- 第6回 子どもが楽しめる企画と技術（クラスの取り組みの振り返り）
- 第7回 保育の論点「保育と行事」（3回目の課題の報告・論議）
- 第8回 指導案の作成②（グループでの指導案作成）
- 第9回 指導案の作成③（模擬保育発表準備）及び体験学習（11月）の振り返りと課題
- 第10回 模擬保育発表①（2グループ発表）
- 第11回 模擬保育発表②（2グループ発表）
- 第12回 模擬保育の振り返り及び体験学習（12月）の振り返りと課題
- 第13回 1年間のまとめ①（報告集の原稿作成）
- 第14回 1年間のまとめ②（報告集作成）及び体験学習（1月）の振り返りと課題
- 第15回 現場体験と大学での学習を通して学んだこと「報告会」

**授業以外での学習方法**

この授業の課題として、月1回（午前の半日）の「体験学習（フィールドワーク）」を行う。日常も保育園・幼稚園などでボランティアを積極的に行い、子ども・保育士・保護者について理解を深める。様々な保育実践記録を読む。

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（

科目名 保育総合演習 <c>

クラス c 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 神谷 栄司

#### テーマ

子どもの成長発達と保育の内容・方法を学ぶ

#### 授業の目的（獲得目標）

保育現場での体験学習（フィールドワーク）を通して、子どもの成長発達、年間の保育の流れ、指導と援助の方法などについての気づきを深める。さらに、それらの体験と学内で学んだことをもとに模擬保育を行い、自分で指導案を作成できる力を身に付ける。

#### 内 容

- 第1回 オリエンテーション及び課題の提示（指導案を探し良いものを選択）
- 第2回 体験学習（9月）の振り返りと課題
- 第3回 指導案の作成①（指導案のグループ内発表）と保育士の役割（課題：行事とは）
- 第4回 体験学習（10月）の振り返りと課題
- 第5回 子どもが楽しめる企画と技術（クラスの取り組みの準備）
- 第6回 子どもが楽しめる企画と技術（クラスの取り組みの振り返り）
- 第7回 保育の論点「保育と行事」（3回目の課題の報告・論議）
- 第8回 指導案の作成②（グループでの指導案作成）
- 第9回 指導案の作成③（模擬保育発表準備）及び体験学習（11月）の振り返りと課題
- 第10回 模擬保育発表①（2グループ発表）
- 第11回 模擬保育発表②（2グループ発表）
- 第12回 模擬保育の振り返り及び体験学習（12月）の振り返りと課題
- 第13回 1年間のまとめ①（報告集の原稿作成）
- 第14回 1年間のまとめ②（報告集作成）及び体験学習（1月）の振り返りと課題
- 第15回 現場体験と大学での学習を通して学んだこと「報告会」

#### 授業以外での学習方法

この授業の課題として、月1回（午前の半日）の「体験学習（フィールドワーク）」を行う。日常も保育園・幼稚園などでボランティアを積極的に行い、子ども・保育士・保護者について理解を深める。様々な保育実践記録を読む。

#### 教科書

#### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（



---

科目名 教育課程研究

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 八木 英二

---

テーマ

教育課程の構造と教育実践

---

### 授業の目的（獲得目標）

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわ

---

### 内 容

- 第1回 教育課程の構造と意味
  - 第2回 内申書、通知票について
  - 第3回 目標と評価のあり方
  - 第4回 観点別評価の意味
  - 第5回 教育実践評価と授業公開（初等）
  - 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理（初等）
  - 第7回 教科書の採択システム
  - 第8回 教科書づくり
  - 第9回 教科と教科外の教育方法（初等）
  - 第10回 総合学習について（初等）
  - 第11回 身体と教育課程（初等）
  - 第12回 教育課程と授業づくり（初等）
  - 第13回 思春期の教育階梯
  - 第14回 SNE（特別なニーズ教育）について
  - 第15回 授業のまとめ
- 

### 授業以外での学習方法

よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。

---

### 教科書

**成績評価**

試験（40%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 教育方法の研究

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梅本 裕

テーマ

<授業をつくる>ことのイメージを育む

### 授業の目的（獲得目標）

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活

### 内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」社会科における発信型の授業とは何か？
- 第2回 「見たこと作文」子どもが<動く>授業の条件とは？
- 第3回 「木の葉の駅で」発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか？」教授行為とは何か？
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての<指示・発問・説明・応答・制御>
- 第6回 「お化け屋敷で算数を」こどもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」<雰囲気の良い授業>の構造は？
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」インターネットとコンピュータでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」<分析ツールを教える>国語の授業
- 第11回 「オオカミ狩りはいいことか？」総合学習とは何か？
- 第12回 授業づくりの記号論的構造<教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価>
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」授業の機能とITの活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

- (1) 新聞やテレビなどのマスメディアでの教育問題の紹介に注意を払い、理論的説明を試みることを期待する。
- (2) 小中高時代のノートや教科書があれば、それを手がかりにして、自分がどのような授業を受けたかを振り返ってみよう。「教わったようには教えない」とするならば、どんな教え方が可能か調べてみよう。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (60%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 教育と情報技術

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

授業等で活用できる様々な情報技術を習得する

### 授業の目的（獲得目標）

現在、教育の現場では、日々、新しい情報技術が導入されており、教員もそれに対応していくだけの技術を身につけなければならなくなっている。この授業では、よく利用されているオフィス・ソフトや、フリーソフトを利用して、できるだけ低コストで情報技術を活用した授業が行えるような技術を身につける。内容については以下の通り予定しているが、受講生の希望に配慮して柔軟に対応したい。

### 内 容

第1回 イントロダクション：教育と情報技術についての概論

第2回 Microsoft Excel の活用（1）：基本機能の復習

第3回 Microsoft Excel の活用（2）：ダイナミックな文書作成の手段として Excel を利用する

第4回 Microsoft Excel の活用（3）：VBA を活用する

第5回 CMS を利用して情報を発信する（1）：Dokuwiki を使った情報発信

第6回 CMS を利用して情報を発信する（2）：Dokuwiki でコラボレーション

第7回 CMS を利用して情報を発信する（3）：Moodle を利用した教材の作成

第8回 CMS を利用して情報を発信する（4）：Moodle による成績評価

第9回 Wii リモコンと赤外線ペンを利用した簡易電子黒板システム（1）：赤外線ペンの作成と Bluetooth の設定

第10回 Wii リモコンと赤外線ペンを利用した簡易電子黒板システム（2）：電子ホワイトボードソフト「白板ソフト（フリー版）」の利用

第11回 Wii リモコンと赤外線ペンを利用した簡易電子黒板システム（3）：電子黒板を使った授業の実践

第12回 フリーソフトを利用する（1）：漢字学習、ローマ字学習に活用する

第13回 フリーソフトを利用する（2）：白地図を利用した社会科学習

第14回 フリーソフトを利用する（3）：GRAPES を利用してグラフを描く

第15回 全体のまとめ

### 授業以外での学習方法

課題は、指定された期日までに必ず完成させておくこと。また、教育の現場で情報技術を活用するためのヒントは、書籍やインターネットの上にたくさん存在するので、できるだけそのような情報に接するように心がけること。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 教育制度論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 真佐樹

テーマ

教育法規・現行教育制度に関する理解を得る

授業の目的（獲得目標）

教育法規・教育制度に関する基礎的知識を修得することを獲得目標とする。

内 容

- 第1回 授業開設の趣旨と学習のしかた
- 第2回 三権分立と教育行政
- 第3回 法令の意義・構成・法令相互の関係
- 第4回 教育法規の基本
- 第5回 教育行政組織（中央教育行政組織）
- 第6回 教育行政組織（地方教育行政組織）
- 第7回 学校のしくみ・学校体系
- 第8回 教育内容・教科書制度
- 第9回 教育職員(1)
- 第10回 教育職員(2)
- 第11回 教育職員(3)
- 第12回 高等教育機関
- 第13回 教育財政
- 第14回 教育時事
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

普段から、新聞・雑誌・テレビなどの報じる教育をめぐる問題に関心をもつようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（30%）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

---

科目名 道徳教育の研究

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 碓井 敏正

---

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

---

### 授業の目的（獲得目標）

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。前半の授業は講義形式を基本とするが、後半の授業では、主として「道徳の時間」においてどのような授業が可能なのかを実践的に追究していきたい。また、現場の先生を呼んで、道徳教育のユニークな実践例をはなしてもらう予定である。

---

### 内 容

- 第1回 道徳とは何か
  - 第2回 道徳教育の歴史（明治以降）
  - 第3回 道徳教育の歴史（戦後）
  - 第4回 日本の学校教育の現実
  - 第5回 小学校における道徳教育の捉え方
  - 第6回 小学生の道徳的発達の特徴
  - 第7回 全面主義と特設主義
  - 第8回 全面主義を前提とした特設主義
  - 第9回 道徳の時間と各教科の関係
  - 第10回 道徳教育と特別活動、総合学習との関係
  - 第11回 道徳教育の要としての道徳の時間
  - 第12回 道徳の時間の展開の仕方
  - 第13回 家庭、地域と道徳教育
  - 第14回 現場における道徳教育の実践例
  - 第15回 評価の問題とまとめ
- 

### 授業以外での学習方法

ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道徳意識について常に関心を払うこと。

---

### 教科書

### 参考書

---



## 成績評価

試験 (70%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (0%) 備考 ( )

|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | 特別活動論    |
| クラス   | 配当回生 3回生 |
| 講義期間  | 秋期集中 定員  |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   | 土作 彰     |

テーマ

集団で学び合う意義

### 授業の目的（獲得目標）

①特別活動の基本的な概念を理解すること。②全教育活動の中で特別活動の視点を活かした学級経営、授業展開をいかに工夫するかを考察し理解すること。講義は極力減らし、模擬授業を主に進める。その後、グループで授業づくり演習、検討会を行う。「教育現場では何が必要故、何をどのようにすべきなのか」という視点を常に持ち続けながら進めていく。

### 内 容

- 第1回 授業ガイダンスと特別活動の内容・意義
- 第2回 集団教育の意義
- 第3回 学級づくりと授業づくり（国語編）
- 第4回 学級づくりと授業づくり（算数・理科編）
- 第5回 学級崩壊を考える
- 第6回 授業づくり演習と検討（1～3班）
- 第7回 児童会活動・クラブ活動・学校行事（異学級、異学年の指導）
- 第8回 学級づくりと授業づくり（理科・社会編）
- 第9回 授業づくり演習と検討（4～6班）
- 第10回 学級づくりと授業づくり（道徳・学活編）
- 第11回 学級づくりと授業づくり（体育・図工編）
- 第12回 授業づくり演習と検討（7～9班）
- 第13回 ワークショップ型ステーション授業と日々の授業
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

### 授業以外での学習方法

様々な集団（教育集団は勿論のことバイト先やサークルなど）で、「自分一人だけでは決して身に付かない力は何か？」という視点を持ちながら毎日を大切に過ごして欲しい。また、特別活動に関する実践記録をたくさん読んで欲しい。

### 教科書

**成績評価**

試験（30%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（）

科目名 生徒・進路指導

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 倉本 頼一

テーマ

進路・生徒指導の理論と実践

### 授業の目的（獲得目標）

学校現場における進路・生徒指導の理論と実践を具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。講義とグループ討議・交流を原則とする。1回～3回までは進路・生徒指導の理論・歴史講義。具体的事例からは「課題・問題」についてグループ討議、発表交流・まとめをする。（授業はじめに前時まとめと教育関係ニュース紹介）

### 内 容

- 第1回 こどもの現状・課題と進路・生徒指導 授業計画と授業の進め方
- 第2回 進路指導の理論とその歴史・課題
- 第3回 生徒指導の理論とその歴史・課題
- 第4回 集団に入れない子ども・登校しぶりの対応どうするか
- 第5回 不登校の子どもの理解とその指導
- 第6回 幼い子どもの「いじめ」その理解と対応
- 第7回 「いじめ」問題子どもの心・本音と指導
- 第8回 子どもの「けんか」「暴力」とその指導
- 第9回 子どもの「問題行動」「万引き」の指導と対応
- 第10回 「問題行動」「非行」問題とその指導
- 第11回 子どもの「荒れ」「学級崩壊」とその対応
- 第12回 学級の規律・問題と集団作り
- 第13回 課題を持つ子どもと学級行事・取り組み
- 第14回 子どもの問題と進路指導の課題
- 第15回 「進路・生徒指導」まとめと試験・評価について

### 授業以外での学習方法

不登校・いじめ・非行等生徒指導関係の教育関係の本をたくさん読む。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（80%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（授業感想・まとめの提出：毎時間終了の時、短い感想文の提出をもとめます。それを出席確認と評価の参考資料にします。）

科目名 教育相談

クラス 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 倉本 頼一

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

### 授業の目的（獲得目標）

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

### 内 容

- 第1回 子どもの現状と教育相談の意義 授業計画
- 第2回 教育相談の機能と限界
- 第3回 教育相談の歩み
- 第4回 教育相談の事例検討（1）不登校、いじめ等
- 第5回 教育相談の事例検討（2）対人恐怖、神経症等
- 第6回 ストレスマネジメント
- 第7回 教育相談に役立つ基礎的理論と技法（1）精神分析論（フロイト）
- 第8回 " （2）自己理論（ロジャーズ）
- 第9回 " （3）行動理論、論理療法
- 第10回 " （4）交流分析、ゲシュタルト理論他
- 第11回 人間理解とカウンセリングマインド
- 第12回 人間関係づくりのエクササイズ
- 第13回 望ましいコミュニケーションのために
- 第14回 まとめと復習
- 第15回 試験

### 授業以外での学習方法

小説・自伝・人物評論などの読書、引きこもり・対人恐怖・摂食障害など心の問題を扱った読書。さまざまな機会をとらえ、人間ウォッチング（いろんな人がいるなー！）に努める。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（80%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（）

科目名 教育実践基礎研究 e (表現教育論)

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 体育実技〈a〉

クラス a

配当回生 2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 新野 守

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技能の習熟

授業の目的（獲得目標）

①スポーツのルールを理解し、基礎技能の習熟を図る。 ②お互いに教えあい、指導のポイントに迫る

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 体づくり運動①

第3回 体づくり運動②

第4回 体づくり運動③

第5回 鉄棒運動

第6回 跳び箱運動

第7回 マット運動

第8回 連続技と表現

第9回 陸上運動①

第10回 陸上運動②

第11回 陸上運動③

第12回 フットボール①

第13回 フットボール②

第14回 バスケットボール①

第15回 バスケットボール②

第16回 バスケットボール③

授業以外での学習方法

筋トレ、ストレッチ、

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 (授業ノート、教育者としての)

自覚、技能習熟の意欲を重視する。)

科目名 体育実技 <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 新野 守

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技能の習熟

授業の目的（獲得目標）

①スポーツのルールを理解し、基礎技能の習熟を図る。 ②お互いに教えあい、指導のポイントに迫る。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 体づくり運動①

第3回 体づくり運動②

第4回 体づくり運動③

第5回 鉄棒運動

第6回 跳び箱運動

第7回 マット運動

第8回 連続技と表現

第9回 陸上運動①

第10回 陸上運動②

第11回 陸上運動③

第12回 フットボール①

第13回 フットボール②

第14回 バスケットボール①

第15回 バスケットボール②

第16回 バスケットボール③

授業以外での学習方法

ストレッチ、筋トレ

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 (授業ノート、教育者としての)

自覚、技能習熟の意欲を重視する。)

|       |         |      |     |
|-------|---------|------|-----|
| 科目名   | 幼児体育〈a〉 |      |     |
| クラス   | a       | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期      | 定員   | 40  |
| 履修条件  |         |      |     |
| クラス指定 | 大学指定    |      |     |
| 担当者   | 口野 隆史   |      |     |

### テーマ

どんな子どもに育てて欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

### 授業の目的（獲得目標）

体育を通して、育てたい“子ども（幼児）像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能（適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力）を獲得する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領）
- 第2回 自己の体力の理解と仲間づくりⅠ〈集団での運動課題〉長縄跳び、パラバルーン
- 第3回 自己の体力の理解と仲間づくりⅡ〈集団での運動課題〉ジャンケン遊び、鬼遊び
- 第4回 手具を用いた運動Ⅰ〈ボール〉用具の特性理解と動作理解（投げる、受けるなど）
- 第5回 手具を用いた運動Ⅱ〈縄〉用具の特性理解と動作理解（跳ぶ、引く、各種縄跳び）
- 第6回 手具を用いた運動Ⅲ〈輪〉用具の特性理解と動作理解（ケンパ、輪転がし、輪投げ）
- 第7回 手具を用いた運動Ⅳ〈棒〉用具の特性理解と動作理解（バンブーダンス、棒体操）
- 第8回 手具を用いない運動Ⅰ〈様々な鬼遊び①〉（少人数で単純なルールで）
- 第9回 手具を用いない運動Ⅱ〈様々な鬼遊び②〉（多人数でやや複雑なルールで）
- 第10回 手具を用いない運動Ⅲ〈マット運動①〉感覚・動きづくり
- 第11回 手具を用いない運動Ⅳ〈マット運動②〉側転を学ぶ
- 第12回 身近な物を用いた運動Ⅰ〈新聞紙〉用具の特性理解と動作理解（遊びの創造）
- 第13回 身近な物を用いた運動Ⅱ〈新聞紙〉作成した用具での運動遊び
- 第14回 子どもの運動発達を理解
- 第15回 レポート作成について&まとめ

### 授業以外での学習方法

1. 子どもの頃にどんな遊びをしたか思い出して下さい。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみましょう。 2. テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払って下さい。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみましょう。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (40%) 備考 ( )

|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 幼児体育 <b> |      |     |
| クラス   | b        | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期       | 定員   | 40  |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 | 大学指定     |      |     |
| 担当者   | 口野 隆史    |      |     |

### テーマ

どんな子どもに育てて欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

### 授業の目的（獲得目標）

体育を通して、育てたい“子ども（幼児）像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能（適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力）を獲得する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領）
- 第2回 自己の体力の理解と仲間づくりⅠ<集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン
- 第3回 自己の体力の理解と仲間づくりⅡ<集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び
- 第4回 手具を用いた運動Ⅰ<ボール>用具の特性理解と動作理解（投げる、受けるなど）
- 第5回 手具を用いた運動Ⅱ<縄>用具の特性理解と動作理解（跳ぶ、引く、各種縄跳び）
- 第6回 手具を用いた運動Ⅲ<輪>用具の特性理解と動作理解（ケンパ、輪転がし、輪投げ）
- 第7回 手具を用いた運動Ⅳ<棒>用具の特性理解と動作理解（バンブーダンス、棒体操）
- 第8回 手具を用いない運動Ⅰ<様々な鬼遊び①>（少人数で単純なルールで）
- 第9回 手具を用いない運動Ⅱ<様々な鬼遊び②>（多人数でやや複雑なルールで）
- 第10回 手具を用いない運動Ⅲ<マット運動①>感覚・動きづくり
- 第11回 手具を用いない運動Ⅳ<マット運動②>側転を学ぶ
- 第12回 身近な物を用いた運動Ⅰ<新聞紙>用具の特性理解と動作理解（遊びの創造）
- 第13回 身近な物を用いた運動Ⅱ<新聞紙>作成した用具での運動遊び
- 第14回 子どもの運動発達を理解
- 第15回 レポート作成について&まとめ

### 授業以外での学習方法

1. 子どもの頃にどんな遊びをしたか思い出して下さい。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみましょう。 2. テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払って下さい。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみましょう。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (40%) 備考 ( )



|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 幼児体育 <c> |      |     |
| クラス   | c        | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期       | 定員   | 40  |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 | 大学指定     |      |     |
| 担当者   | 口野 隆史    |      |     |

### テーマ

どんな子どもに育てて欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

### 授業の目的（獲得目標）

体育を通して、育てたい“子ども（幼児）像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能（適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力）を獲得する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領）
- 第2回 自己の体力の理解と仲間づくりⅠ<集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン
- 第3回 自己の体力の理解と仲間づくりⅡ<集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び
- 第4回 手具を用いた運動Ⅰ<ボール>用具の特性理解と動作理解（投げる、受けるなど）
- 第5回 手具を用いた運動Ⅱ<縄>用具の特性理解と動作理解（跳ぶ、引く、各種縄跳び）
- 第6回 手具を用いた運動Ⅲ<輪>用具の特性理解と動作理解（ケンパ、輪転がし、輪投げ）
- 第7回 手具を用いた運動Ⅳ<棒>用具の特性理解と動作理解（バンブーダンス、棒体操）
- 第8回 手具を用いない運動Ⅰ<様々な鬼遊び①>（少人数で単純なルールで）
- 第9回 手具を用いない運動Ⅱ<様々な鬼遊び②>（多人数でやや複雑なルールで）
- 第10回 手具を用いない運動Ⅲ<マット運動①>感覚・動きづくり
- 第11回 手具を用いない運動Ⅳ<マット運動②>側転を学ぶ
- 第12回 身近な物を用いた運動Ⅰ<新聞紙>用具の特性理解と動作理解（遊びの創造）
- 第13回 身近な物を用いた運動Ⅱ<新聞紙>作成した用具での運動遊び
- 第14回 子どもの運動発達を理解
- 第15回 レポート作成について&まとめ

### 授業以外での学習方法

1. 子どもの頃にどんな遊びをしたか思い出して下さい。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみましょう。 2. テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払って下さい。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみましょう。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅲ 〈幼A〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 磯田 三津子

## テーマ

保育園・幼稚園の音楽活動を展開するために必要な知識と技能の習得

## 授業の目的（獲得目標）

『バイエル』80番代以降の曲を3曲以上弾くことができる。子どもの歌を弾き歌いすることができる。楽典についての理解を深める。

## 内 容

- 第1回 こどものうたの弾き歌い（1）／楽典－楽譜の意味、音名と階名
- 第2回 こどものうたの弾き歌い（2）／楽典－音程（長短）
- 第3回 こどものうたの弾き歌い（3）／楽典－音程（完全）
- 第4回 こどものうたの弾き歌い（4）／楽典－音程（増・減）
- 第5回 発表会／楽典－音階と調
- 第6回 ピアノーバイエル（1）／楽典：調の判定（長調）
- 第7回 ピアノーバイエル（2）／楽典－調の判定（短調）
- 第8回 ピアノーバイエル（3）／楽典－調の判定（練習問題）
- 第9回 バイエル（4）／楽典－さまざまな記号（強弱、速度記号）
- 第10回 発表会／楽典：さまざまな記号（奏法、曲想記号）
- 第11回 ピアノーバイエル（5）／楽典－反復記号
- 第12回 ピアノーバイエル（6）／楽典－リズムと拍子（4部音符を1拍と数える場合）
- 第13回 ピアノーバイエル（7）／楽典－リズムと拍子（8部音符を1拍と数える場合）
- 第14回 ピアノーバイエル（8）／楽典－リズムとメロディ
- 第15回 発表会

## 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いて個人練習をする。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（40）小テスト（40）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（20）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習Ⅲ 〈幼B〉 |      |     |
| クラス   | b          | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   | 30  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 大学指定       |      |     |
| 担当者   | 服部 さやか     |      |     |

## テーマ

保育園・幼稚園の音楽活動を展開するために必要な知識と技能の習得

## 授業の目的（獲得目標）

『バイエル』80番代以降の曲を3曲以上弾くことができる。子どもの歌を弾き歌いすることができる。楽典についての理解を深める。

## 内 容

- 第1回 こどものうたの弾き歌い（1）／楽典－楽譜の意味、音名と階名
- 第2回 こどものうたの弾き歌い（2）／楽典－音程（長短）
- 第3回 こどものうたの弾き歌い（3）／楽典－音程（完全）
- 第4回 こどものうたの弾き歌い（4）／楽典－音程（増・減）
- 第5回 発表会／楽典－音階と調
- 第6回 ピアノーバイエル（1）／楽典：調の判定（長調）
- 第7回 ピアノーバイエル（2）／楽典－調の判定（短調）
- 第8回 ピアノーバイエル（3）／楽典－調の判定（練習問題）
- 第9回 バイエル（4）／楽典－さまざまな記号（強弱、速度記号）
- 第10回 発表会／楽典：さまざまな記号（奏法、曲想記号）
- 第11回 ピアノーバイエル（5）／楽典－反復記号
- 第12回 ピアノーバイエル（6）／楽典－リズムと拍子（4部音符を1拍と数える場合）
- 第13回 ピアノーバイエル（7）／楽典－リズムと拍子（8部音符を1拍と数える場合）
- 第14回 ピアノーバイエル（8）／楽典－リズムとメロディ
- 第15回 発表会

## 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いて個人練習をする。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（40）小テスト（40）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（20）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習Ⅲ <c> |      |     |
| クラス   | c         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 30  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 服部 さやか    |      |     |

## テーマ

保育園・幼稚園の音楽活動を展開するために必要な知識と技能の習得

## 授業の目的（獲得目標）

『バイエル』80番代以降の曲を3曲以上弾くことができる。子どもの歌を弾き歌いすることができる。楽典についての理解を深める。

## 内 容

- 第1回 こどものうたの弾き歌い（1）／楽典－楽譜の意味、音名と階名
- 第2回 こどものうたの弾き歌い（2）／楽典－音程（長短）
- 第3回 こどものうたの弾き歌い（3）／楽典－音程（完全）
- 第4回 こどものうたの弾き歌い（4）／楽典－音程（増・減）
- 第5回 発表会／楽典－音階と調
- 第6回 ピアノーバイエル（1）／楽典：調の判定（長調）
- 第7回 ピアノーバイエル（2）／楽典－調の判定（短調）
- 第8回 ピアノーバイエル（3）／楽典－調の判定（練習問題）
- 第9回 バイエル（4）／楽典－さまざまな記号（強弱、速度記号）
- 第10回 発表会／楽典：さまざまな記号（奏法、曲想記号）
- 第11回 ピアノーバイエル（5）／楽典－反復記号
- 第12回 ピアノーバイエル（6）／楽典－リズムと拍子（4部音符を1拍と数える場合）
- 第13回 ピアノーバイエル（7）／楽典－リズムと拍子（8部音符を1拍と数える場合）
- 第14回 ピアノーバイエル（8）／楽典－リズムとメロディ
- 第15回 発表会

## 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いて個人練習をする。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（40）小テスト（40）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（20）備考（）

科目名 音楽演習Ⅲ <d>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅲ <e>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 音楽演習Ⅳ 〈幼A〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 30

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 磯田 三津子

#### テーマ

保育園・幼稚園における音楽活動

#### 授業の目的（獲得目標）

保育園・幼稚園の現場で歌われているうたのレパートリーを広げる。身体表現、音楽づくりなどを体験し、音楽を用いた様々な活動について学習する。

#### 内 容

第1回 音楽と動き①／季節の歌（春）

第2回 音楽と動き②／手遊びと季節の歌（夏）

第3回 リトミック①／手遊びと季節の歌（秋）

第4回 リトミック②／手遊びと季節の歌（冬）

第5回 音楽と動き、リトミックのまとめと発表会／行事と生活の歌

第6回 音楽と遊び①

第7回 音楽と遊び②

第8回 手作り楽器

第9回 音楽づくり①

第10回 音楽づくり②

第11回 合奏①

第12回 合奏②

第13回 愛唱曲

第14回 愛唱曲

第15回 発表会

#### 授業以外での学習方法

子どもの歌、手遊びなどの資料を収集し、練習する。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40）授業中発表等（40）参加度（20）備考（）



---

科目名 音楽演習Ⅳ〈幼B〉

---

クラス b 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定 大学指定

---

担当者 嶋田 春奈

---

テーマ

保育園・幼稚園における音楽活動

---

授業の目的（獲得目標）

保育園・幼稚園の現場で歌われているうたのレパートリーを広げる。身体表現、音楽づくりなどを体験し、音楽を用いた様々な活動について学習する。

---

内 容

第1回 音楽と動き①／季節の歌（春）

第2回 音楽と動き②／手遊びと季節の歌（夏）

第3回 リトミック①／手遊びと季節の歌（秋）

第4回 リトミック②／手遊びと季節の歌（冬）

第5回 音楽と動き、リトミックのまとめと発表会／行事と生活の歌

第6回 音楽と遊び①

第7回 音楽と遊び②

第8回 手作り楽器

第9回 音楽づくり①

第10回 音楽づくり②

第11回 合奏①

第12回 合奏②

第13回 愛唱曲

第14回 愛唱曲

第15回 発表会

---

授業以外での学習方法

子どもの歌、手遊びなどの資料を探し、練習する。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（授業中最終試験（40パーセント））小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（授業中発表・ディスカッ

ションへの参加（40パーセント）参加度（出席率（20パーセント））備考（）

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 音楽演習Ⅳ <c> |      |     |
| クラス   | c         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 30  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 笹野 恵理子    |      |     |

## テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱と器楽の技能を養う。

## 授業の目的（獲得目標）

教科書教材や合唱曲などの歌のレパートリーを広げる。小学校で使われている色々な楽器の演奏を体験し、演奏の基礎を理解する。

## 内 容

- 第1回 イントロダクション：本授業の目的と概要 音楽ゲーム
- 第2回 リズム遊びと音楽づくり
- 第3回 リズムアンサンブルといろいろな打楽器
- 第4回 低学年の歌唱教材
- 第5回 中学年の歌唱教材
- 第6回 高学年の歌唱教材
- 第7回 器楽教材－鍵盤ハーモニカ
- 第8回 器楽教材－リコーダー
- 第9回 器楽教材－リコーダー・アンサンブル
- 第10回 合奏－1
- 第11回 合奏－2
- 第12回 合唱曲
- 第13回 行事／集会で歌われているうた
- 第14回 音楽会／学芸会で歌われているうた
- 第15回 発表会

## 授業以外での学習方法

授業で学習した曲、教科書教材、子どもの歌の曲集を用いて個人練習をしてください。いろいろな音楽に日常から接するようにしてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (40) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 音楽演習Ⅳ <d>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅳ <e>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 社会科概論

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

小学校社会科の全体像をつかむ

### 授業の目的（獲得目標）

各学年の社会科の授業実践を体験的に学びながら、社会科の学習指導の基礎的な技能の習得をめざす。さらに、2008年度版学習指導要領が求める社会科学習から今後の実践的課題について考える。実際に地域を歩いて調べ、地域の教材づくりも試みる。

### 内 容

- 第1回 社会科で何を学ぶのか（社会科の誕生）
- 第2回 2008年度版学習指導要領を読む
- 第3回 小学校3年の授業実践 地域の生産労働を教える
- 第4回 小学校4年の授業実践 地図の見方を教える
- 第5回 小学校5年の授業実践 日本の工業を教える
- 第6回 小学校6年の授業実践 農村に住む武士の時代を教える
- 第7回 小学校6年の授業実践 日本の戦争を教える
- 第8回 社会科の教材づくりの発想
- 第9回 学外授業／地域を調べる
- 第10回 地域の教材をつくる①
- 第11回 地域の教材をつくる②
- 第12回 地域の産業を教える教材の発表
- 第13回 地域の歴史的な内容を教える教材の発表
- 第14回 地域の自然や地理を教える教材の発表
- 第15回 試験とまとめ

### 授業以外での学習方法

『2008年度版 小学校学習指導要領解説 社会科編』や小学校社会科に関する実践書に興味をもち、自らの力で読みすすめていくことを期待する。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（40%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（0%）備考（単位取得の条件として2/3以上の出席を求める。）



科目名 国語概論

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中崎 崇, 新谷 泰一

テーマ

国語（日本語）を分析対象として科学的・客観的に考えるための基礎知識を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

無意識に習得し、何の問題もなく運用することができる国語（日本語）について意識化し、これまで気づくことのなかった日本語の特性に目を向けることのできる能力を養うことを目標とします。具体的には、比較研究や対照研究などによる外からの視点を通して日本語の特性について考える。

内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明
- 第2回 国語としての日本語
- 第3回 外国語としての日本語
- 第4回 言語の系譜・系統からみた日本語Ⅰ（比較言語学）
- 第5回 言語の系譜・系統からみた日本語Ⅱ（日本語の系統）
- 第6回 言語類型論からみた日本語Ⅰ（形態的類型論と日本語）
- 第7回 言語類型論からみた日本語Ⅱ（語順類型論と日本語）
- 第8回 対照研究からみた日本語Ⅰ（情報の後置性・省略）
- 第9回 対照研究からみた日本語Ⅱ（名詞に関わる日本語の特性）
- 第10回 日本語の音と形Ⅰ（日本語の子音と母音）
- 第11回 日本語の音と形Ⅱ（日本語の音節・音素）
- 第12回 まとめ
- 第13回 言語事項Ⅰ（小学校における書写）
- 第14回 言語事項Ⅱ（中学校における書写）
- 第15回 言語事項Ⅲ（高等学校における書道）

授業以外での学習方法

授業中に配布されたプリントと設問について授業後、もう一度目を通しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（60%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（なお、出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。）

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 絵画・工芸演習〈幼A〉 |      |     |
| クラス   | a           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期          | 定員   | 40  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 大学指定        |      |     |
| 担当者   | 上中 良子       |      |     |

### テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方の解説及び計画） 紙で作る①（くるくるプロペラ・トンころり）
- 第2回 紙で作る②（ニコマアニメ、紙万華鏡）
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①：牛乳パックでびっくりヘビ・紙コップ & ビニール傘袋でムクムク君
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：飛び出しカード作り（計画⇒制作前半）
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ③：飛び出しカード作り（制作後半⇒鑑賞）
- 第6回 基礎的な描材と描法実践（フィンガーペインティング・スタンプング・マーブリング等）
- 第7回 自然素材を生かした造形活動『土』①：土粘土作り（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第8回 自然素材を生かした造形活動『土』②：作陶（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第9回 壁面掲示①：グループ作り→計画・構成
- 第10回 壁面掲示②：完成→鑑賞
- 第11回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる①：グループ作り→計画・構成
- 第12回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる②：作成
- 第13回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる③：演じる・鑑賞
- 第14回 指導・展開法：指導案の書き方
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。（美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加）○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50 %）授業中発表等（）参加度（50 %）備考（全回出席が前提です。）

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 絵画・工芸演習〈幼b〉 |      |     |
| クラス   | b           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期          | 定員   | 40  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 大学指定        |      |     |
| 担当者   | 上中 良子       |      |     |

## テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方の解説及び計画） 紙で作る①（くるくるプロペラ・トンこりり）
- 第2回 紙で作る②（ニコマアニメ）
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①：牛乳パックでびっくりヘビ・紙コップ & ビニール傘袋でムクムク君
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：飛び出しカード作り（計画⇒制作前半）
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ③：飛び出しカード作り（制作後半⇒鑑賞）
- 第6回 基礎的な描材と描法実践（フィンガーペインティング・スタンピング・マーブリング等）
- 第7回 自然素材を生かした造形活動『土』①：土粘土作り（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第8回 自然素材を生かした造形活動『土』②：作陶（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第9回 壁面掲示①：グループ作り→計画・構成
- 第10回 壁面掲示②：完成→鑑賞
- 第11回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる①：グループ作り→計画・構成
- 第12回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる②：作成
- 第13回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる③：演じる・鑑賞
- 第14回 指導・展開法：指導案の書き方
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。（美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加）○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

## 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50 %）授業中発表等（）参加度（50 %）備考（全回出席が前提です。）

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 絵画・工芸演習 <c> |      |     |
| クラス   | c           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 40  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 大学指定        |      |     |
| 担当者   | 上中 良子       |      |     |

### テーマ

児童期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方の解説及び計画） 紙で作る①（くるくるプロペラ）
- 第2回 紙で作る②（ニコマアニメ、紙万華鏡）
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①：板返し
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：ポップアップカード作り（計画⇒制作前半）
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：ポップアップカード作り（制作後半⇒鑑賞）
- 第6回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』①：土粘土作り・テーマ掘り起こし（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第7回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』②：テーマ深め⇒作陶開始
- 第8回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』③：作陶完成⇒鑑賞（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第9回 基礎的な技法実践（木版画）①表現構想⇒彫り
- 第10回 基礎的な技法実践（木版画）②刷り⇒鑑賞
- 第11回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』①：「竹ぶんぶんゴマ」のための竹切り・割き
- 第12回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』②：「竹ぶんぶんゴマ」のための竹削り
- 第13回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』③：「竹ぶんぶんゴマ」完成⇒回し遊び発表
- 第14回 感動を描画に（竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現）①：計画・構成
- 第15回 感動を描画に（竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現）②：彩色⇒鑑賞

### 授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。（美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加）○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（全回出席が前提です）



## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 絵画・工芸演習 <d> |      |     |
| クラス   | d           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 40  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 大学指定        |      |     |
| 担当者   | 上中 良子       |      |     |

## テーマ

児童期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方の解説及び計画） 紙で作る①（くるくるプロペラ）
- 第2回 紙で作る②（ニコマアニメ、紙万華鏡）
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①：板返し
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：ポップアップカード作り（計画⇒制作前半）
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：ポップアップカード作り（制作後半⇒鑑賞）
- 第6回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』①：土粘土作り・テーマ掘り起こし（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第7回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』②：テーマ深め⇒作陶開始
- 第8回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』③：作陶完成⇒鑑賞（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第9回 基礎的な技法実践（木版画）①表現構想⇒彫り
- 第10回 基礎的な技法実践（木版画）②刷り⇒鑑賞
- 第11回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』①：「竹ぶんぶんゴマ」のための竹切り・割き
- 第12回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』②：「竹ぶんぶんゴマ」のための竹削り
- 第13回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』③：「竹ぶんぶんゴマ」完成⇒回し遊び発表
- 第14回 感動を描画に（竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現）①：計画・構成
- 第15回 感動を描画に（竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現）②：彩色⇒鑑賞

## 授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。（美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加）○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

## 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（全回出席が前提です）

## 2010 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習 <e>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |               |      |      |
|-------|---------------|------|------|
| 科目名   | 絵画・工芸演習 < f > |      |      |
| クラス   | f             | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 後期            | 定員   | 40   |
| 履修条件  |               |      |      |
| クラス指定 | 大学指定          |      |      |
| 担当者   | 上中 良子         |      |      |

## テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

## 内 容

- 第 1 回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方の解説及び計画） 紙で作る①（くるくるプロペラ・トンこりり）
- 第 2 回 紙で作る②（ニコマアニメ、紙万華鏡）
- 第 3 回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①：牛乳パックでびっくりヘビ・紙コップ & ビニール傘袋でムクムク君
- 第 4 回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：飛び出しカード作り（計画⇒制作前半）
- 第 5 回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ③：飛び出しカード作り（制作後半⇒鑑賞）
- 第 6 回 基礎的な描材と描法実践（フィンガーペインティング・スタンプング・マーブリング等）
- 第 7 回 自然素材を生かした造形活動『土』①：土粘土作り（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第 8 回 自然素材を生かした造形活動『土』②：作陶（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第 9 回 壁面掲示①：グループ作り→計画・構成
- 第 10 回 壁面掲示②：完成→鑑賞
- 第 11 回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる①：グループ作り→計画・構成
- 第 12 回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる②：作成
- 第 13 回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる③：演じる・鑑賞
- 第 14 回 指導・展開法：指導案の書き方
- 第 15 回 まとめ

## 授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。（美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加）○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

## 教科書

**成績評価**

試験（0&）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（全回出席が前提です。）

## 2010 Syllabus

|       |             |      |      |
|-------|-------------|------|------|
| 科目名   | 絵画・工芸演習 <g> |      |      |
| クラス   | g           | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 40   |
| 履修条件  |             |      |      |
| クラス指定 | 大学指定        |      |      |
| 担当者   | 上中 良子       |      |      |

## テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

## 内 容

- 第 1 回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方の解説及び計画） 紙で作る①（くるくるプロペラ・トンこりり）
- 第 2 回 紙で作る②（ニコマアニメ）
- 第 3 回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①：牛乳パックでびっくりヘビ・紙コップ & ビニール傘袋でムクムク君
- 第 4 回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：飛び出しカード作り
- 第 5 回 基礎的な描材と描法実践（フィンガーペインティング・スタンプング・マーブリング等）
- 第 6 回 基礎的な描材と描法実践（染紙づくり）
- 第 7 回 自然素材を生かした造形活動『土』①：土粘土作り（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第 8 回 自然素材を生かした造形活動『土』②：作陶（ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第 9 回 壁面掲示①：グループ作り→計画・構成
- 第 10 回 壁面掲示②：完成→鑑賞
- 第 11 回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる①：グループ作り→計画・構成
- 第 12 回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる②：作成
- 第 13 回 行事等と造形活動＝『大型紙芝居』等を作り演じる③：演じる・鑑賞
- 第 14 回 指導・展開法：指導案の書き方
- 第 15 回 まとめ

## 授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。（美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加）○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

## 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50 %）授業中発表等（）参加度（50 %）備考（全回出席が前提です。）

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 絵画・工芸演習 <h> |      |     |
| クラス   | h           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 40  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 大学指定        |      |     |
| 担当者   | 上中 良子       |      |     |

### テーマ

児童期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方の解説及び計画） 紙で作る①（くるくるプロペラ）
- 第2回 紙で作る②（ニコマアニメ、紙万華鏡）
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①：板返
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：ポップアップカード作り（計画⇒制作前半）
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：ポップアップカード作り（制作後半⇒鑑賞）
- 第6回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』①：ゲストティーチャーに学ぶ（土粘土作り）
- 第7回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』②：ゲストティーチャーに学ぶ（作陶）
- 第8回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』③：ゲストティーチャーに学ぶ（作陶完成⇒鑑賞）
- 第9回 基礎的な技法実践（木版画）①表現構想⇒彫り
- 第10回 基礎的な技法実践（木版画）②刷り⇒鑑賞
- 第11回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』①：「竹ぶんぶんゴマ」のための竹切り・割り
- 第12回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』②：「竹ぶんぶんゴマ」のための竹削り
- 第13回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』③：「竹ぶんぶんゴマ」完成⇒回し遊び発表
- 第14回 感動を描画に（竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現）①：計画・構成
- 第15回 感動を描画に（竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現）②：彩色⇒鑑賞

### 授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。（美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加）○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

### 教科書

### 参考書



---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（全回出席が前提です）

科目名 絵画・工芸演習 <i></i>

クラス i 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 40

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 上中 良子

#### テーマ

児童期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

#### 授業の目的（獲得目標）

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

#### 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方の解説及び計画） 紙で作る①（くるくるプロペラ）
- 第2回 紙で作る②（ニコマアニメ、紙万華鏡）
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①：板返し
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：ポップアップカード作り（計画⇒制作前半）
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②：ポップアップカード作り（制作後半⇒鑑賞）
- 第6回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』①：ゲストティーチャーに学ぶ（土粘土作り）
- 第7回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』②：ゲストティーチャーに学ぶ（作陶）
- 第8回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』③：ゲストティーチャーに学ぶ（作陶完成⇒鑑賞）
- 第9回 基礎的な技法実践（木版画）①表現構想⇒彫り
- 第10回 基礎的な技法実践（木版画）②刷り⇒鑑賞
- 第11回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』①：「竹ぶんぶんゴマ」のための竹切り・割り
- 第12回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』②：「竹ぶんぶんゴマ」のための竹削り
- 第13回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』③：「竹ぶんぶんゴマ」完成⇒回し遊び発表
- 第14回 感動を描画に（竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現）①：計画・構成
- 第15回 感動を描画に（竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現）②：彩色⇒鑑賞

#### 授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。（美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加）○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

#### 教科書

#### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（全回出席が前提です）

科目名 家庭科概論

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 今宿 信子

テーマ

家庭科教育の目標と教育内容についての理解を深め、児童の興味を引き出す指導方法を探求する

授業の目的（獲得目標）

衣・食・住や家族の生活に対する基礎的な知識を習得し、体験的学習に児童が意欲的に取り組めるような授業について考える

内 容

- 第1回 家庭科の授業を振り返る
- 第2回 家庭科を児童はどうみているか
- 第3回 小学校家庭科の新・旧の内容構成について
- 第4回 家庭科の目標
- 第5回 家庭の仕事を見つめよう
- 第6回 なぜ食べるのか考えよう
- 第7回 1日の食事を調べ問題点を見つける
- 第8回 暮らしの中の布製品を調べよう
- 第9回 品物の買い方を考えよう
- 第10回 1日の生活時間を見直してみよう
- 第11回 季節に合う暮らしを考えよう
- 第12回 衣服の着方を考えよう
- 第13回 快適な住まい方を工夫しよう
- 第14回 家庭へ地域へふれ合いを広げよう
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

日常生活の中で家庭科学習の実践をしようとする意欲を持ち努力すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (70) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 生活科概論

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 園部 勝章

テーマ

小学校低学年での、自然や社会にかかわる学びを創る。

授業の目的（獲得目標）

子どもの認識を高めるために、小学校低学年での教科教育は国語や算数の学びが大切になる。そして、自然や社会にかかわる認識を高めることにもなる。教科教育としての生活科は、生き物や空気やじしゃく、科学工作、そして、子どもたちの生活の場で働く人たちの営みを知ること、自然認識や社会認識の基礎を身につけることを知る。

内 容

第1回 小学校低学年での教科教育が果たす役割（教科教育としての生活科の任務） ※3種類の草花紹介は、1～13回

第2回 小学校低学年での自然や社会にかかわる学びの意味（子どもにとって学ぶ意義）

第3回 学習指導要領と中央教育審議会初等中等教育部会「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」、生活科の教科書

第4回 生き物（植物）とのふれあいと栽培

第5回 生き物（動物）とのふれあいと飼育

第6回 じしゃくで、鉄さがし

第7回 豆電球と乾電池で、金属さがし

第8回 くうきとのふれあい

第9回 ものをとかそう

第10回 音あそび

第11回 科学工作（うごくおもちゃ・やじろべえづくり）

第12回 学校・家ではたらく人

第13回 のうかのしごと—米づくり

第14回 生活科学習指導案づくり

第15回 テスト

第16回 テストの解説とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

**成績評価**

試験（60％）小テスト（）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（20％）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(国語)〈a〉 |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 池田 修         |      |     |

## テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

## 授業の目的（獲得目標）

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

## 内 容

- 第1回 国語科って何？ 授業ガイダンス 学習指導要領では？ どんな力をつける教科？ 国語科教育の歴史 学習権宣言 授業と家庭学習の循環 教科通信
- 第2回 国語の授業を作る基礎 発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方
- 第3回 メモ指導 聞く生徒を育てるために。 箇条書き、マッピング、マンダラート、 KJ法
- 第4回 漢字指導 1 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導 四字熟語でポン たほいや 百人一首 簡単な学習ゲーム論
- 第5回 読書指導 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション、図書館の使いかた指導
- 第6回 ポートフォリオ学習 和綴じ本づくり
- 第7回 作文指導 1 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方、アイデア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価
- 第8回 作文指導 2 デジタルストーリーテリングの可能性
- 第9回 作文指導 3 「書き込み回覧作文」による評価
- 第10回 学習指導案作り 国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。
- 第11回 テスト問題と採点方法 国語科のテスト問題をお互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
- 第12回 音読／プレゼン指導 滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際
- 第13回 句会方式による指導 句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト
- 第14回 模擬授業1 国語の模擬授業を行う
- 第15回 模擬授業2 まとめ 国語の模擬授業を行う まとめ

## 授業以外での学習方法

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組で



の授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

---

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(国語)〈b〉 |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 池田 修         |      |     |

## テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

## 授業の目的（獲得目標）

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

## 内 容

- 第1回 国語科って何？ 授業ガイダンス 学習指導要領では？ どんな力をつける教科？ 国語科教育の歴史 学習権宣言 授業と家庭学習の循環 教科通信
- 第2回 国語の授業を作る基礎 発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方
- 第3回 メモ指導 聞く生徒を育てるために。 箇条書き、マッピング、マンダラート、 KJ法
- 第4回 漢字指導 1 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導 四字熟語でポン たほいや 百人一首 簡単な学習ゲーム論
- 第5回 読書指導 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション、図書館の使いかた指導
- 第6回 ポートフォリオ学習 和綴じ本づくり
- 第7回 作文指導 1 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方、アイデア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価
- 第8回 作文指導 2 デジタルストーリーテリングの可能性
- 第9回 作文指導 3 「書き込み回覧作文」による評価
- 第10回 学習指導案作り 国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。
- 第11回 テスト問題と採点方法 国語科のテスト問題をお互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
- 第12回 音読／プレゼン指導 滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際
- 第13回 句会方式による指導 句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト
- 第14回 模擬授業1 国語の模擬授業を行う
- 第15回 模擬授業2 まとめ 国語の模擬授業を行う まとめ

## 授業以外での学習方法

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組で

の授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

---

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（）

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(社会)〈a〉 |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等10名まで   |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 倉持 祐二        |      |     |

## テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

## 授業の目的（獲得目標）

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

## 内 容

- 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
- 第2回 社会科教材研究入門
- 第3回 社会科授業の発問づくり
- 第4回 小学校社会科の授業方法
- 第5回 学習指導案をつくる
- 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究
- 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
- 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
- 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
- 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと

## 授業以外での学習方法

(1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(社会)〈b〉 |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等10名まで   |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 倉持 祐二        |      |     |

## テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

## 授業の目的（獲得目標）

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

## 内 容

- 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
- 第2回 社会科教材研究入門
- 第3回 社会科授業の発問づくり
- 第4回 小学校社会科の授業方法
- 第5回 学習指導案をつくる
- 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究
- 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
- 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
- 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
- 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと

## 授業以外での学習方法

(1) 学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2) 授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(算数)〈a〉 |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 小寺 隆幸        |      |     |

## テーマ

小学校算数の指導法を理解する

## 授業の目的（獲得目標）

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける。各回のテーマの指導案作成を課題とし、模擬授業や集団討論等を通して指導法の理解を深めていく。それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

## 内 容

- 第1回 小学校1年生の数概念指導
- 第2回 1位数の加法・減法
- 第3回 2位数の加法・減法
- 第4回 整数の乗法
- 第5回 整数の除法
- 第6回 小数とその加減
- 第7回 小数の乗除
- 第8回 分数とその加減
- 第9回 分数の乗除
- 第10回 外延量と測定
- 第11回 内包量
- 第12回 小学校の先生の講義
- 第13回 比例
- 第14回 図形
- 第15回 統計

## 授業以外での学習方法

\* 宿題を出すのでしっかり取り組むこと。 \* 授業中に小テストを随時行う。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価



試験 (0%) 小テスト (40%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (0%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 教科教育法(算数)〈b〉

クラス b 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 他学科生等 10名まで

クラス指定 大学指定

担当者 小寺 隆幸

### テーマ

小学校算数の指導法を理解する

### 授業の目的（獲得目標）

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける。それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

### 内 容

第1回 小学校1年生の数概念指導

第2回 1位数の加法・減法

第3回 2位数の加法・減法

第4回 整数の乗法

第5回 整数の除法

第6回 小数とその加減

第7回 小数の乗除

第8回 分数とその加減

第9回 分数の乗除

第10回 外延量と測定

第11回 内包量

第12回 小学校の先生の講義

第13回 比例

第14回 図形

第15回 統計

### 授業以外での学習方法

\* 宿題を出すのでしっかり取り組むこと。 \* 授業中に小テストを随時行う。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(理科)〈a〉 |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等10名まで   |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 生源寺 孝浩       |      |     |

### テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

### 授業の目的（獲得目標）

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

### 内 容

- 第1回 理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
- 第2回 「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進。光の反射。
- 第3回 「くうき」（ものの場所性・不可入性）
- 第4回 熱と温度／熱の伝導と熱の移動（対流・輻射）熱によるものの変化（Ⅰ）：膨張
- 第5回 熱によるものの変化（Ⅱ）：三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
- 第6回 種の実りと種の拡散
- 第7回 気体と燃焼＝気体
- 第8回 気体と燃焼＝燃焼
- 第9回 豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
- 第10回 磁石の性質とはたらき（小3&小6）／磁石ごまの製作
- 第11回 電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
- 第12回 「やじろべえ」を教材化する
- 第13回 「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
- 第14回 水溶液の性質とはたらき（1）＝酸性の水溶液
- 第15回 水溶液の性質とはたらき（2）＝アルカリ性の水溶液

### 授業以外での学習方法

（1）小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

### 教科書

**成績評価**

試験（20%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(理科)〈b〉 |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 生源寺 孝浩       |      |     |

## テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

## 授業の目的（獲得目標）

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

## 内 容

- 第1回 理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
- 第2回 「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進。光の反射。
- 第3回 「くうき」（ものの場所性・不可入性）
- 第4回 熱と温度／熱の伝導と熱の移動（対流・輻射）熱によるものの変化（Ⅰ）：膨張
- 第5回 熱によるものの変化（Ⅱ）：三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
- 第6回 種の実りと種の拡散
- 第7回 気体と燃焼＝気体
- 第8回 気体と燃焼＝燃焼
- 第9回 豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
- 第10回 磁石の性質とはたらき（小3&小6）／磁石ごまの製作
- 第11回 電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
- 第12回 「やじろべえ」を教材化する
- 第13回 「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
- 第14回 水溶液の性質とはたらき（1）＝酸性の水溶液
- 第15回 水溶液の性質とはたらき（2）＝アルカリ性の水溶液

## 授業以外での学習方法

（1）小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

## 教科書

**成績評価**

試験（20%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（）

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(生活)〈a〉 |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 生源寺 孝浩       |      |     |

## テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

## 授業の目的（獲得目標）

小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学

## 内 容

- 第1回 生活科教育の目的：自立への基礎を育むために。
- 第2回 実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
- 第3回 「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
- 第4回 地図を片手に東西南北一地域の自然と社会から学ぶ（含む：安全対策）
- 第5回 笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
- 第6回 「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
- 第7回 「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
- 第8回 「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
- 第9回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①（含む：安全対策）
- 第10回 生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
- 第11回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②（含む：安全対策）
- 第12回 はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①
- 第13回 生活科の指導案。何が重要なポイントか。
- 第14回 生活科の指導案をグループで発表・評価する。
- 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ

## 授業以外での学習方法

（1）小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

## 教科書

**成績評価**

試験（20%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（）



|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(生活)〈b〉 |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 生源寺 孝浩       |      |     |

## テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

## 授業の目的（獲得目標）

小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学

## 内 容

- 第1回 生活科教育の目的：自立への基礎を育むために。
- 第2回 実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
- 第3回 「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
- 第4回 地図を片手に東西南北一地域の自然と社会から学ぶ（含む：安全対策）
- 第5回 笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
- 第6回 「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
- 第7回 「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
- 第8回 「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
- 第9回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①（含む：安全対策）
- 第10回 生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
- 第11回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②（含む：安全対策）
- 第12回 はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①
- 第13回 生活科の指導案。何が重要なポイントか。
- 第14回 生活科の指導案をグループで発表・評価する。
- 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ

## 授業以外での学習方法

（1）小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

## 教科書

**成績評価**

試験（20%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（）

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(音楽)〈a〉 |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等10名まで   |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 磯田 三津子       |      |     |

## テーマ

音楽授業をつくる

## 授業の目的（獲得目標）

（1）小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。（2）授業を進めるための実践的な方法を理解する。（3）特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的
- 第2回 表現・歌唱ー共通教材
- 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材
- 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌
- 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム
- 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ
- 第7回 表現・器楽ー合奏
- 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器
- 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり
- 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業
- 第11回 授業行為と音楽授業
- 第12回 実践事例から学ぶ
- 第13回 指導案の作成と準備
- 第14回 模擬授業ー器楽・創作
- 第15回 模擬授業ー歌唱

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(音楽)〈b〉 |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 磯田 三津子       |      |     |

## テーマ

音楽授業をつくる

## 授業の目的（獲得目標）

（1）小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。（2）授業を進めるための実践的な方法を理解する。（3）特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的
- 第2回 表現・歌唱ー共通教材
- 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材
- 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌
- 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム
- 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ
- 第7回 表現・器楽ー合奏
- 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器
- 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり
- 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業
- 第11回 授業行為と音楽授業
- 第12回 実践事例から学ぶ
- 第13回 指導案の作成と準備
- 第14回 模擬授業ー器楽・創作
- 第15回 模擬授業ー歌唱

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(家庭)〈a〉 |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 今宿 信子        |      |     |

## テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

## 授業の目的（獲得目標）

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

## 内 容

- 第1回 学習指導要領改訂のいきさつ
- 第2回 家庭科の内容構成
- 第3回 家庭科の目標・内容
- 第4回 指導計画作成上の留意点
- 第5回 家庭科学習指導案の書き方（1）（教材と教具）
- 第6回 家庭科学習指導案の書き方（2）（児童と生活実態）
- 第7回 年間指導計画、題材計画について
- 第8回 指導形態及び指導方法
- 第9回 視聴覚教材とその取り扱いについて
- 第10回 授業をする技術
- 第11回 評価の目的・評価の観点について
- 第12回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①（日常の食事と調理）
- 第13回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②（衣服と住まい）
- 第14回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③（消費生活と環境）
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（60%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(家庭)〈b〉 |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 今宿 信子        |      |     |

## テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

## 授業の目的（獲得目標）

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

## 内 容

- 第1回 学習指導要領改訂のいきさつ
- 第2回 家庭科の内容構成
- 第3回 家庭科の目標・内容
- 第4回 指導計画作成上の留意点
- 第5回 家庭科学習指導案の書き方（1）（教材と教具）
- 第6回 家庭科学習指導案の書き方（2）（児童と生活実態）
- 第7回 年間指導計画、題材計画について
- 第8回 指導形態及び指導方法
- 第9回 視聴覚教材とその取り扱いについて
- 第10回 授業をする技術
- 第11回 評価の目的・評価の観点について
- 第12回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①（日常の食事と調理）
- 第13回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②（衣服と住まい）
- 第14回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③（消費生活と環境）
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）



|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(体育)〈a〉 |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 新野 守         |      |     |

### テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ててほしいのかを考える

### 授業の目的（獲得目標）

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を（理想でもよいのである程度）描けるようにする。各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

### 内 容

- 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る 体育授業の目的・目標
- 第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
- 第3回 体育授業の指導方法と評価
- 第4回 優れた体育授業について学ぶ
- 第5回 陸上競技① 陸上競技の授業実践を学ぶ
- 第6回 陸上競技② 模擬授業「短距離走」を題材に
- 第7回 陸上競技③ 模擬授業「リレー」を題材に
- 第8回 器械運動① マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
- 第9回 器械運動② 模擬授業「側転」を題材に
- 第10回 器械運動③ 模擬授業「お話マット」を題材に
- 第11回 球技① 球技の授業実践を学ぶ
- 第12回 球技② 模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
- 第13回 球技③ 模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
- 第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらったりする時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみて下さい。 2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(体育)〈b〉 |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで  |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 新野 守         |      |     |

## テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ててほしいのかを考える

## 授業の目的（獲得目標）

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を（理想でもよいのである程度）描けるようにする。各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

## 内 容

- 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る 体育授業の目的・目標
- 第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
- 第3回 体育授業の指導方法と評価
- 第4回 優れた体育授業について学ぶ
- 第5回 陸上競技① 陸上競技の授業実践を学ぶ
- 第6回 陸上競技② 模擬授業「短距離走」を題材に
- 第7回 陸上競技③ 模擬授業「リレー」を題材に
- 第8回 器械運動① マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
- 第9回 器械運動② 模擬授業「側転」を題材に
- 第10回 器械運動③ 模擬授業「お話マット」を題材に
- 第11回 球技① 球技の授業実践を学ぶ
- 第12回 球技② 模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
- 第13回 球技③ 模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
- 第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらったりする時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみて下さい。 2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 教科教育法(図画工作)〈a〉

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 他学科生等 10名まで

クラス指定 大学指定

担当者 上中 良子

### テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

表現教育としての図画工作、学童期の発達段階と表現のありようを理解し、具体的な指導内容と方法を理解する。

### 内 容

- 第1回 図画工作教育のめざすものとは：学習指導要領と図画工作教育
- 第2回 図画工作指導の実際：描画表現実践（現場実践者：ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第3回 図画工作指導の実際：手仕事表現実践（現場実践者：ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第4回 図画工作指導の実際：色彩指導実技
- 第5回 日本の美術教育の歴史と課題から「自由と主体性」を考える
- 第6回 図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」を考える
- 第7回 図画工作指導の実際「他教科・他分野との関連での実践」を考える
- 第8回 幼児期・低学年期の図画工作教育：入門期としての図画工作教育
- 第9回 中学年期の図画工作教育：9歳の節を抑えた図画工作教育
- 第10回 高学年期の図画工作教育：プレ思春期の図画工作
- 第11回 鑑賞授業&図画工作教育と評価
- 第12回 実践に向けて学習指導案作成
- 第13回 模擬授業と検証①
- 第14回 模擬授業と検証②
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

○自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。 ○教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。 ○自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（全回出席が前提。その都度の課題の重要性。）

## 2010 Syllabus

|       |                |      |     |
|-------|----------------|------|-----|
| 科目名   | 教科教育法(図画工作)〈b〉 |      |     |
| クラス   | b              | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期             | 定員   | 40  |
| 履修条件  | 他学科生等 10名まで    |      |     |
| クラス指定 | 大学指定           |      |     |
| 担当者   | 上中 良子          |      |     |

## テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

表現教育としての図画工作、学童期の発達段階と表現のありようを理解し、具体的な指導内容と方法を理解する。

## 内 容

- 第1回 図画工作教育のめざすものとは：学習指導要領と図画工作教育
- 第2回 図画工作指導の実際：描画表現実践（現場実践者：ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第3回 図画工作指導の実際：手仕事表現実践（現場実践者：ゲストティーチャーに学ぶ）
- 第4回 図画工作指導の実際：色彩指導実技
- 第5回 日本の美術教育の歴史と課題から「自由と主体性」を考える
- 第6回 図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」を考える
- 第7回 図画工作指導の実際「他教科・他分野との関連での実践」を考える
- 第8回 幼児期・低学年期の図画工作教育：入門期としての図画工作教育
- 第9回 中学年期の図画工作教育：9歳の節を抑えた図画工作教育
- 第10回 高学年期の図画工作教育：プレ思春期の図画工作
- 第11回 鑑賞授業&図画工作教育と評価
- 第12回 実践に向けて学習指導案作成
- 第13回 模擬授業と検証①
- 第14回 模擬授業と検証②
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

○自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。 ○教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。 ○自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (30%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 備考 ( )



|       |       |     |  |
|-------|-------|-----|--|
| 科目名   | 学級担任論 |     |  |
| クラス   | 配当回生  | 3回生 |  |
| 講義期間  | 後期    | 定員  |  |
| 履修条件  |       |     |  |
| クラス指定 |       |     |  |
| 担当者   | 池田 修  |     |  |

## テーマ

学級担任とは何かを考える

## 授業の目的（獲得目標）

学級担任の仕事を理解する。やがて教師として学級担任を持つ時に必要な「引き出し」をできるだけ多く理解し、さらに身につけることを目指す。それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として学級担任の仕事を実験的に行ってみる。学生諸君の積極的な発言、活動を期待する。

## 内 容

- 第1回 学級とは何か・授業ガイダンス 学級開きを通して、学級を考えてみる。先生と 児童との距離感、黄金の三日間、3・7・30の法則。
- 第2回 学級担任の仕事 学級担任の仕事の種類や範囲を考えてみる。また、学級担任が「学級作り」で考えることを考える。担任窓口論、学級経営年間指導案、学級担任事務、学級通信、学級指導の記録などを手掛かりとする。
- 第3回 学級レクリエーション 子どもは遊びの中から学んでいく。その遊びを学級の中で最初に組織するのは担任である。学級レクリエーションの例を見ながら、いくつかの具体的な方法を実際にやってみる。
- 第4回 学級集団内のグループ 公的集団と私的集団。班作り（生活班と学習班）、実行委員会、専門委員会、生徒会、プロジェクトチーム、学習係、お助け組、会社、遊び仲間、女子集団、ソシオメトリなどを考える。
- 第5回 学級の環境作り 子どもは生活リズムと環境を土台にして学習を行う。そのため重要な「座席・掲示物・給食・掃除・教室美化」について指導方法を考える。
- 第6回 体験作文の指導 学級担任の仕事の大きな一つに、子どもたちに作文を書かせるというものがある。運動会、遠足、新学期など様々な場面で子どもたちに作文を書かせる。その指導方法について学ぶ。
- 第7回 担任の一日の仕事を考える1 出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
- 第8回 担任の一日の仕事を考える2 出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
- 第9回 場面別指導1 忘れ物、遅刻の指導を中心に扱う。
- 第10回 場面別指導2 私語、学習遅進児への対応を中心に扱う。
- 第11回 場面別指導3 喧嘩、いじめ、からかいなどのトラブルへの対応を中心に扱う。
- 第12回 保護者との関係作り 保護者との協力関係を作ることが、子どもの成長に繋がる。保護者会、家庭訪問、三者面談、電話対応などを中心に扱う。
- 第13回 通知表の書き方 架空の児童の通知表を実際に書いてみる。
- 第14回 通知表の相互評価 実際に書いてみた、架空の児童の通知表の相互評価を行う。
- 第15回 まとめ 「書き込み回覧作文」による学級担任論の授業評価
- 第16回 \* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師の

先生をお招きする可能性もある。

---

### **授業以外での学習方法**

学級担任は、子どもや保護者から見れば学校の窓口である。学校のすべての仕事が広く関わってくる。それぞれの仕事を理解し、有機的に関連づけて子どもの成長に活かすことが期待される。学習集団であり生活集団でもある学級を束ね、より高いところに導こうとする担任の仕事は多岐に渡り、豊かで複雑である。新聞記事などに出る教育の話題、問題、課題について、もし自分が学級担任ならどのように取り組むのかと日常的に考え、文章にまとめることを勧める。それは、教員採用試験の学習にも直結するであろう。

---

### **教科書**

### **参考書**

---

### **成績評価**

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（0%）備考（積極的な参加を期待する。）

---

科目名 教育・心理統計学

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 三山 岳

---

テーマ

教育・心理学の論文を読むために必要な統計学の知識を学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

教育・心理学の論文を理解するためには統計学の知識が必要となります。この授業では教育・心理学の分野で多く用いられる統計手法の基本的な知識を学び、研究論文が読めるようになることを目指します。

---

内 容

- 第1回 ガイダンス（心理学はなぜ統計を使うのか？）
  - 第2回 心理学の論文を実際に読んでみよう
  - 第3回 心理測定の役割とその方法
  - 第4回 心理測定の数値データと適切さ
  - 第5回 データの散らばり（代表値・標準偏差・正規分布）
  - 第6回 統計的検定（相関係数・ $\chi^2$  検定・t 検定）
  - 第7回 因子分析と主成分分析①
  - 第8回 因子分析と主成分分析②
  - 第9回 1 要因分散分析①
  - 第10回 1 要因分散分析②
  - 第11回 2 要因分散分析①
  - 第12回 2 要因分散分析②
  - 第13回 重回帰分析①
  - 第14回 重回帰分析②
  - 第15回 最終まとめ
- 

授業以外での学習方法

授業で学習することと、新聞やテレビなどで見かけるアンケート調査との違いに日頃から注目するようにしてください

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (70%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

---

科目名 保育内容総論

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 60

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 八木 英二

---

テーマ

保育内容の総合性と指導の基本をつかむ

---

### 授業の目的（獲得目標）

保育内容の健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域を総合的にとらえる視点を養う。さらに発達過程と幼児理解を基礎にした保育を行うための教育課程の編成と長期・短期の指導計画の立案過程について学ぶ。実践事例に数多くふれながら、あわせて教育・保育実習の実習ができるような実習指導計画の作成方法について学んでいく。

---

### 内 容

- 第1回 幼稚園教育要領と保育所保育指針
  - 第2回 自然（環境）と社会（人間関係）の関係
  - 第3回 小学校への接続
  - 第4回 入園当初の計画
  - 第5回 ごっこ遊びの意義
  - 第6回 遊びの素材論
  - 第7回 遊びの発展
  - 第8回 身振り表現の意義
  - 第9回 お話を聞くこと
  - 第10回 童話の扱い
  - 第11回 保育計画とは何か
  - 第12回 前期の保育
  - 第13回 後期の保育
  - 第14回 劇遊びと生活発表
  - 第15回 授業のまとめ
- 

### 授業以外での学習方法

できるだけ実践事例に多くふれることが大切であるが、学生同士で生活における自身の遊びの文化的社会的な意味を論議しあうなど、生涯発達の観点からも遊びの意義を広げ深めることを期待する。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（40%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(健康)〈a〉 |      |     |
| クラス         | a           | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 口野 隆史       |      |     |

**テーマ**

幼稚園、保育所における健康・体育領域の指導についての理解を深める

**授業の目的（獲得目標）**

乳幼児の運動発達、運動遊びについて理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

**内 容**

- 第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか？
- 第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
- 第3回 就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
- 第4回 人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
- 第5回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
- 第6回 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の内容（特に健康領域）の理解
- 第7回 幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
- 第8回 子どもの健康をとりまく環境の理解
- 第9回 子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
- 第10回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
- 第11回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
- 第12回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
- 第13回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
- 第14回 模擬保育の振り返り
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

1. テレビや新聞の健康、体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は授業で話題にし、みんなに意見を聞いてみましょう。
2. 身近に乳幼児がいれば、その様子を保護者も一緒に観察してみましょう（不審者と間違えられないように注意して）。

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）



## 2010 Syllabus

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(健康) <b> |      |     |
| クラス         | b            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期           | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 口野 隆史        |      |     |

**テーマ**

幼稚園、保育所における健康・体育領域の指導についての理解を深める

**授業の目的（獲得目標）**

乳幼児の運動発達、運動遊びについて理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

**内 容**

- 第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか？
- 第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
- 第3回 就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
- 第4回 人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
- 第5回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
- 第6回 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の内容（特に健康領域）の理解
- 第7回 幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
- 第8回 子どもの健康をとりまく環境の理解
- 第9回 子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
- 第10回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
- 第11回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
- 第12回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
- 第13回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
- 第14回 模擬保育の振り返り
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

1. テレビや新聞の健康、体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は授業で話題にし、みんなに意見を聞いてみましょう。
2. 身近に乳幼児がいれば、その様子を保護者も一緒に観察してみましょう（不審者と間違えられないように注意して）。

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(健康) <c> |      |     |
| クラス         | c            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期           | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 森 博文         |      |     |

**テーマ**

幼稚園、保育所における健康・体育領域の指導についての理解を深める

**授業の目的（獲得目標）**

乳幼児の運動発達、運動遊びについて理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

**内 容**

- 第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか？
- 第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
- 第3回 就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
- 第4回 人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
- 第5回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
- 第6回 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の内容（特に健康領域）の理解
- 第7回 幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
- 第8回 子どもの健康をとりまく環境の理解
- 第9回 子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
- 第10回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
- 第11回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
- 第12回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
- 第13回 グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
- 第14回 模擬保育の振り返り
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

1. テレビや新聞の健康、体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は授業で話題にし、みんなに意見を聞いてみましょう。
2. 身近に乳幼児がいれば、その様子を保護者も一緒に観察してみましょう（不審者と間違えられないように注意して）。

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

|             |               |      |     |
|-------------|---------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(人間関係)〈a〉 |      |     |
| クラス         | a             | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期            | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |               |      |     |
| クラス指定       | 大学指定          |      |     |
| 担当者         | 加用 美代子        |      |     |

**テーマ**

人と関わる力の基盤を育てる保育

**授業の目的（獲得目標）**

現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

**内 容**

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
- 第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
- 第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会
- 第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成
- 第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立
- 第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで
- 第7回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
- 第8回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
- 第9回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
- 第10回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
- 第11回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
- 第12回 子ども同士関係と保育者—異年齢の子ども同士の間わり 事例検討
- 第13回 子ども同士関係と保育者 事例検討のまとめ
- 第14回 多文化社会のなかでの保育
- 第15回 保護者との関係づくり

**授業以外での学習方法**

現場ボランティアや体験学習等の機会に、子ども同士の関係や大人の関わり方を具体的によく観察し、記録をとっておくこと。また、さまざまな実践記録を読むこと。

**教科書****参考書**

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|             |                |      |     |
|-------------|----------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(人間関係) <b> |      |     |
| クラス         | b              | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期             | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |                |      |     |
| クラス指定       | 大学指定           |      |     |
| 担当者         | 加用 美代子         |      |     |

**テーマ**

人と関わる力の基盤を育てる保育

**授業の目的（獲得目標）**

現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

**内 容**

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして
- 第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
- 第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会
- 第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成
- 第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立
- 第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで
- 第7回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
- 第8回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
- 第9回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
- 第10回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
- 第11回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
- 第12回 子ども同士との関係と保育者—異年齢の子ども同士との関わり 事例検討
- 第13回 子ども同士との関係と保育者 事例検討のまとめ
- 第14回 多文化社会のなかでの保育
- 第15回 保護者との関係づくり

**授業以外での学習方法**

現場ボランティアや体験学習等の機会に、子ども同士の関係や大人の関わり方を具体的によく観察し、記録をとっておくこと。また、さまざまな実践記録を読むこと。

**教科書****参考書**

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|             |                |      |     |
|-------------|----------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(人間関係) <c> |      |     |
| クラス         | c              | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期             | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |                |      |     |
| クラス指定       | 大学指定           |      |     |
| 担当者         | 谷口 敦子          |      |     |

**テーマ**

人と関わる力の基盤を育てる保育

**授業の目的（獲得目標）**

現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

**内 容**

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
- 第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会
- 第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成
- 第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立
- 第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで
- 第7回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
- 第8回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
- 第9回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
- 第10回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
- 第11回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
- 第12回 子ども同士関係と保育者—異年齢の子ども同士の間わり 事例検討
- 第13回 子ども同士関係と保育者 事例検討のまとめ
- 第14回 多文化社会のなかでの保育
- 第15回 保護者との関係づくり

**授業以外での学習方法**

現場ボランティアや体験学習等の機会に、子ども同士の関係や大人の関わり方を具体的によく観察し、記録をとっておくこと。また、さまざまな実践記録を読むこと。

**教科書****参考書**

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(環境)〈a〉 |      |     |
| クラス         | a           | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 藤井 修        |      |     |

## テーマ

乳幼児期の子どもの自発性が育つ保育環境を創造するため、その理論と実際を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。1 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。2 子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。3 身近な自然を子どもの興味・関心の対象とする

## 内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
- 第2回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
- 第3回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
- 第4回 あそびの概念をめぐる絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
- 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
- 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
- 第7回 子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第8回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第9回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第10回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ビオトープ
- 第11回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」と「保育環境スケール」
- 第12回 人的環境としての保育者
- 第13回 多様な保育ニーズと福祉施設としての保育
- 第14回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

1 生活圏の自然環境を観察する力を、身近な植物を同定する技術・知識の習得を通じて発展させていこう。保育に実用的な草花遊びのレパートリーを普段から増やす努力を求める。2 園芸を生活のなかに取り入れ、積極的に住環境の緑化を促進する方法の習得を求める。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（60%） 小テスト（0%） 授業中課題（20%） 授業中発表等（0%） 参加度（20%） 備考（）

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(環境) <b> |      |     |
| クラス         | b            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 藤井 修         |      |     |

### テーマ

乳幼児期の子どもの自発性が育つ保育環境を創造するため、その理論と実際を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。1 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。2 子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。3 身近な自然を子どもの興味・関心の対象とする

### 内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史の変遷
- 第2回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
- 第3回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
- 第4回 あそびの概念をめぐる絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
- 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
- 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
- 第7回 子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第8回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第9回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第10回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ビオトープ
- 第11回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」と「保育環境スケール」
- 第12回 人的環境としての保育者
- 第13回 多様な保育ニーズと福祉施設としての保育
- 第14回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

1 生活圏の自然環境を観察する力を、身近な植物を同定する技術・知識の習得を通じて発展させていこう。保育に実用的な草花遊びのレパートリーを普段から増やす努力を求める。2 園芸を生活のなかに取り入れ、積極的に住環境の緑化を促進する方法の習得を求める。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（60%） 小テスト（0%） 授業中課題（20%） 授業中発表等（0%） 参加度（20%） 備考（）

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(環境) <c> |      |     |
| クラス         | c            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 藤井 修         |      |     |

### テーマ

乳幼児期の子どもの自発性が育つ保育環境を創造するため、その理論と実際を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。1 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。2 子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。3 身近な自然を子どもの興味・関心の対象とする

### 内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史の変遷
- 第2回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
- 第3回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
- 第4回 あそびの概念をめぐる絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
- 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
- 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
- 第7回 子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第8回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第9回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第10回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ビオトープ
- 第11回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」と「保育環境スケール」
- 第12回 人的環境としての保育者
- 第13回 幼児教育に求められる保育環境の質
- 第14回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

### 授業以外での学習方法

1 生活圏の自然環境を観察する力を、身近な植物を同定する技術・知識の習得を通じて発展させていこう。保育に実用的な草花遊びのレパートリーを普段から増やす努力を求める。2 園芸を生活のなかに取り入れ、積極的に住環境の緑化を促進する方法の習得を求める。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（60%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（）



|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(言語)〈a〉 |      |     |
| クラス         | a           | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期          | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 神谷 栄司       |      |     |

**テーマ**

テーマ：乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

**授業の目的（獲得目標）**

1. 乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握する。 2. 3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。 3. 外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。 4. 幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。 5. 乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。 6. 言語の指導として総合的表現活動について考察する。 乳幼児のことばの発達および乳幼児

**内 容**

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
- 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで
- 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで
- 第4回 外的言語、自己中心的言語、内的言語
- 第5回 書きことばの前史
- 第6回 ことばと思考の発達
- 第7回 形象、複合、概念
- 第8回 ことばと身ぶり
- 第9回 ことばと想像
- 第10回 ことばと情動
- 第11回 ことばと遊び①
- 第12回 ことばと遊び②
- 第13回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第14回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第15回 劇遊びのなかのことばと身ぶり

**授業以外での学習方法**

適宜参考文献を紹介する

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験 (50%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(言語) <b> |      |     |
| クラス         | b            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 神谷 栄司        |      |     |

**テーマ**

テーマ：乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

**授業の目的（獲得目標）**

1. 乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握する。 2. 3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。 外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。 4. 幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。 5. 乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。 6. 言語の指導として総合的表現活動について考察する。 乳幼児のことばの発達および乳幼児の人

**内 容**

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
- 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで
- 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで
- 第4回 外的言語、自己中心的言語、内的言語
- 第5回 書きことばの前史
- 第6回 ことばと思考の発達
- 第7回 形象、複合、概念
- 第8回 ことばと身ぶり
- 第9回 ことばと想像
- 第10回 ことばと情動
- 第11回 ことば遊びの重要性 ことば遊びを楽しむ
- 第12回 ことば遊びの実際 ことば遊びを楽しませる
- 第13回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第14回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第15回 劇遊びのなかのことばと身ぶり

**授業以外での学習方法**

適宜参考文献を紹介する

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験 (50%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(言語) <c> |      |     |
| クラス         | c            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 神谷 栄司        |      |     |

**テーマ**

テーマ：乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

**授業の目的（獲得目標）**

1. 乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握する。 2. 3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。 外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。 4. 幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。 5. 乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。 6. 言語の指導として総合的表現活動について考察する。 乳幼児のことばの発達および乳幼児の人

**内 容**

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
- 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで
- 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで
- 第4回 外的言語、自己中心的言語、内的言語
- 第5回 書きことばの前史
- 第6回 ことばと思考の発達
- 第7回 形象、複合、概念
- 第8回 ことばと身ぶり
- 第9回 ことばと想像
- 第10回 ことばと情動
- 第11回 ことば遊びの重要性 ことば遊びを楽しむ
- 第12回 ことば遊びの実際 ことば遊びを楽しませる
- 第13回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第14回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第15回 劇遊びのなかのことばと身ぶり

**授業以外での学習方法**

適宜参考文献を紹介する

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験 (50%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 保育内容(言語) |      |     |
| クラス   | d        | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  |          | 定員   | 40  |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 | 大学指定     |      |     |
| 担当者   |          |      |     |

### テーマ

テーマ：乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

### 授業の目的（獲得目標）

1. 乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握する。 2. 3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。 外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。 4. 幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。 5. 乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。 6. 言語の指導として総合的表現活動について考察する。 乳幼児のことばの発達および乳幼児の人

### 内 容

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
- 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで
- 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで
- 第4回 外的言語、自己中心的言語、内的言語
- 第5回 書きことばの前史
- 第6回 ことばと思考の発達
- 第7回 形象、複合、概念
- 第8回 ことばと身ぶり
- 第9回 ことばと想像
- 第10回 ことばと情動
- 第11回 ことば遊びの重要性 ことば遊びを楽しむ
- 第12回 ことば遊びの実際 ことば遊びを楽しませる
- 第13回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第14回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第15回 劇遊びのなかのことばと身ぶり

### 授業以外での学習方法

適宜参考文献を紹介する

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (50%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )



|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 保育内容(表現) <a> |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 谷口 敦子        |      |     |

### テーマ

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

### 授業の目的（獲得目標）

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。乳幼児期のいろいろな表現について資料を基に理解し特質・意義をふまえた指導法を学ぶ。

### 内 容

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
- 第2回 絵本の意義と伝え方
- 第3回 絵本の読み聞かせの実践
- 第4回 紙芝居の意義と演じ方
- 第5回 紙芝居の演じ方と実践
- 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践
- 第7回 粘土あそび等造形活動
- 第8回 ペープサートの意義と表現について
- 第9回 ペープサートの作成と演出について
- 第10回 ペープサートによる実践
- 第11回 劇づくりの意義と指導法
- 第12回 劇づくりの作成、準備
- 第13回 劇づくりの役割分担と演技
- 第14回 劇づくりによる表現、実践
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

1：広く自然にふれ様々な文化を見聞する 2：表現方法の検討・計画を行い、素材づくりを行う

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(表現) <b> |      |     |
| クラス         | b            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 谷口 敦子        |      |     |

**テーマ**

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

**授業の目的（獲得目標）**

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。乳幼児期のいろいろな表現について資料を基に理解し特質・意義をふまえた指導法を学ぶ。

**内 容**

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
- 第2回 絵本の意義と伝え方
- 第3回 絵本の読み聞かせの実践
- 第4回 紙芝居の意義と演じ方
- 第5回 紙芝居の演じ方と実践
- 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践
- 第7回 粘土あそび等造形活動
- 第8回 ペープサートの意義と表現について
- 第9回 ペープサートの作成と演出について
- 第10回 ペープサートによる実践
- 第11回 劇づくりの意義と指導法
- 第12回 劇づくりの作成、準備
- 第13回 劇づくりの役割分担と演技
- 第14回 劇づくりによる表現、実践
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

1：広く自然にふれ様々な文化を見聞する 2：表現方法の検討・計画を行い、素材づくりを行う

**教科書****参考書****成績評価**

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

|             |              |      |     |
|-------------|--------------|------|-----|
| 科目名         | 保育内容(表現) <c> |      |     |
| クラス         | c            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 40  |
| <b>履修条件</b> |              |      |     |
| クラス指定       | 大学指定         |      |     |
| 担当者         | 谷口 敦子        |      |     |

**テーマ**

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

**授業の目的（獲得目標）**

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。乳幼児期のいろいろな表現について資料を基に理解し特質・意義をふまえた指導法を学ぶ。

**内 容**

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
- 第2回 絵本の意義と伝え方
- 第3回 絵本の読み聞かせの実践
- 第4回 紙芝居の意義と演じ方
- 第5回 紙芝居の演じ方と実践
- 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践
- 第7回 粘土あそび等造形活動
- 第8回 ペープサートの意義と表現について
- 第9回 ペープサートの作成と演出について
- 第10回 ペープサートによる実践
- 第11回 劇づくりの意義と指導法
- 第12回 劇づくりの作成、準備
- 第13回 劇づくりの役割分担と演技
- 第14回 劇づくりによる表現、実践
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

1：広く自然にふれ様々な文化を見聞する 2：表現方法の検討・計画を行い、素材づくりを行う

**教科書****参考書****成績評価**

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 現代文学研究 I

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

近現代の児童文学を読む

授業の目的（獲得目標）

児童文学を通して現代につながるこども観について考える

内 容

第1回 オリエンテーション 近代のこども観について

第2回 「野薔薇」小川未明

第3回 「蜘蛛の糸」芥川龍之介

第4回 「一房の葡萄」有島武郎

第5回 「木の葉の小判」江口渙

第6回 「蝗の大旅行」佐藤春夫

第7回 「ある島のきつね」浜田広介

第8回 「水仙月の四日」宮沢賢治

第9回 「オツベルと象」宮沢賢治

第10回 「鷹の巣とり」千葉省三

第11回 「魔法」坪田譲治

第12回 「がきのめし」壺井栄

第13回 「牛をつないだ樁の木」新美南吉

第14回 「金魚のお使い」与謝野晶子

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

とりあげる作品は短編なので必ず読んでくることは当然として、できればその作家の他作品についても読んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験（30％）小テスト（）授業中課題（40％）授業中発表等（30％）参加度（）備考（「試験」はレポートによっ

て評価する。「授業中課題」は毎時提出してもらい感想文を指す。感想文を提出しない場合は欠席扱いとする。  
「授業中発表」は自分が希望する作品について発表してもらい、その内容を評価する。）

|       |         |      |     |
|-------|---------|------|-----|
| 科目名   | 現代文学研究Ⅱ |      |     |
| クラス   | a       | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | その他     | 定員   |     |
| 履修条件  |         |      |     |
| クラス指定 |         |      |     |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉） |      |     |

### テーマ

小説の中に描かれた「先生」について考察する

### 授業の目的（獲得目標）

小説の中に描かれた「先生」について考察した論文を読み、扱われた作品に戻って自分はどのように読むかを考えることができる。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション 寺子屋の先生
- 第2回 小金井喜美子「千住の家」1
- 第3回 小金井喜美子「千住の家」2
- 第4回 石川啄木「雲は天才である」1
- 第5回 石川啄木「雲は天才である」2
- 第6回 夏目漱石「野分」1
- 第7回 夏目漱石「野分」2
- 第8回 島崎藤村「破戒」1
- 第9回 島崎藤村「破戒」2
- 第10回 森鷗外「羽鳥千尋」1
- 第11回 森鷗外「羽鳥千尋」2
- 第12回 宮沢賢治「茨海小学校」1
- 第13回 宮沢賢治「茨海小学校」2
- 第14回 芥川龍之介「毛利先生」1
- 第15回 芥川龍之介「毛利先生」2

### 授業以外での学習方法

教科書に収録された論文に目を通して授業に参加してください。また作品についてはプリントを用意しますので、次の週までに読んで来てください。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（30%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（）備考（「試験」はレポートによって評価する。「授業中課題」は毎時提出してもらった感想文を指す。感想文を提出しない場合は欠席扱いとする。「授業中発表」は自分が希望する作品について発表してもらい、その内容を評価する。）

科目名 児童文学研究

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 外村 彰

テーマ

近代小説を読む。

### 授業の目的（獲得目標）

明治から昭和戦後期にかけての、近代小説を読解します。近代小説（詩もとりあげます）の名作、わけても何事かに向け、情熱をかたむける登場人物を描いた短篇に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察をしてゆきたいと考えています。それぞれの文学者の作風、また各作品の叙述、構想、主題をとらえることを、到達目標とします。

### 内 容

- 第1回 概説 文学経験と人間
- 第2回 国木田独歩「画の悲み」
- 第3回 夏目漱石「幻影の盾」1
- 第4回 夏目漱石「幻影の盾」2
- 第5回 志賀直哉「清兵衛と瓢箪」
- 第6回 菊池寛「恩讐の彼方に」1
- 第7回 菊池寛「恩讐の彼方に」2
- 第8回 芥川龍之介「尾生の信」
- 第9回 阿部知二「化生」
- 第10回 宮沢賢治「毒もみのすきな署長さん」
- 第11回 岡本かの子「巴里祭」
- 第12回 室生犀星「宝篋印塔」
- 第13回 八木重吉「心よ」、井上靖「生涯」
- 第14回 中島敦「名人伝」
- 第15回 平塚武二「たまむしのずしの物語」
- 第16回 井伏鱒二「草野球の球審」

### 授業以外での学習方法

授業で扱う作品は通読すること。

教科書

参考書



---

## 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（出席重視。欠席が三分の二を超えた者は単位不認定。定期試験として教室試験を実施（教科書のみ持ち込み可）。）

科目名 児童文化論

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮沢賢治の文学と思想

授業の目的（獲得目標）

アニミズム・生命信仰を視座として宮沢賢治の世界観を理解する

内 容

第1回 宮沢賢治の生涯

第2回 『グスコブドリの伝記』とテクノボーの思想

第3回 『オツベルと象』読解（1）

第4回 『オツベルと象』読解（2）

第5回 『オツベルと象』読解（3）

第6回 本学客員教授角野栄子氏による講義

第7回 『なめとこ山の熊』読解（1）

第8回 『なめとこ山の熊』読解（2）

第9回 『なめとこ山の熊』読解（3）

第10回 本学客員教授角野栄子氏による講義

第11回 『銀河鉄道の夜』読解（1）

第12回 『銀河鉄道の夜』読解（2）

第13回 『銀河鉄道の夜』読解（3）

第14回 宮沢賢治の思想

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業内で取り上げる作品は事前に読んでくること

教科書

参考書

成績評価

試験（70）小テスト（0）授業中課題（30）授業中発表等（0）参加度（0）備考（0）

科目名 児童福祉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

児童福祉の法体系、施設及び機関の機能等を理解し、「子どもの最善の利益」を保障する児童福祉のあり方を考える。

授業の目的（獲得目標）

現代社会における児童の成長・発達と生活実態について学び、社会における児童の位置づけを理解する。また、児童福祉法制、児童福祉機関及施設を体系的に学び、福祉サービスの現状と課題への認識を高め、児童福祉の専門職としての保育士の役割を理解する。

内 容

- 第1回 児童福祉法の理念
- 第2回 児童福祉改革
- 第3回 イギリスにおける児童福祉の展開
- 第4回 日本における児童福祉の展開
- 第5回 児童福祉の法体系
- 第6回 児童福祉のサービス供給体制
- 第7回 児童福祉の財政1
- 第8回 児童福祉の財政2
- 第9回 児童養護問題の変遷
- 第10回 児童養護サービスの現状と課題
- 第11回 現代家族と保育問題1
- 第12回 現代家族と保育問題2
- 第13回 障害児福祉の理念と課題
- 第14回 児童福祉とソーシャルワーク
- 第15回 女性・労働・家族

授業以外での学習方法

子ども家庭福祉の動向や子ども・家庭に関わるニュース等に常に関心をもち、図書・新聞記事・ニュース番組等から情報を得るように心がける。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 養護原理

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

子どもの権利と社会的養護

授業の目的（獲得目標）

子どもの権利、援助の理念を理解し、社会的養護の意義、役割を考える。

内 容

- 第1回 児童養護の理念
- 第2回 子どもの権利と児童福祉施設
- 第3回 子どもが生活する場に関する基礎知識
- 第4回 日常を通じた援助
- 第5回 支援的援助
- 第6回 治療的援助
- 第7回 自立に向けての援助
- 第8回 生と性の倫理
- 第9回 社会による養護を促進する仕組み
- 第10回 児童養護施設と乳児院
- 第11回 障害を持つ子どもの施設
- 第12回 児童自立支援施設と情緒障害児短期治療施設
- 第13回 里親養護の特徴
- 第14回 児童福祉施設の運営
- 第15回 これからの児童福祉施設援助者

授業以外での学習方法

講義時に紹介する本を読む。施設等へのボランティアに積極的に参加する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 小児保健 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

小児の成長発達を促進する事ができるために必要な知識を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

小児の成長発達の特徴を理解する。 小児の成長発達にあった日常生活の援助方法を理解する

内 容

第1回 小児保健の理念、目的 人口動態統計、保健衛生統計からみた小児の健康実態と課題

第2回 小児の成長・発達及び健康に及ぼす要因 1) 家族と小児の健康 2) 生活環境と小児の健康

第3回 健康で健全な小児を育成するための社会システム・方策 1) 母子保健行政〔仕組み、法的根拠、乳幼児健康診査・保健指導等〕

第4回 健康で健全な小児を育成するための社会システム・方策 2) 予防接種、小児医療制度 3) 小児の事故と安全

第5回 育児に関わる家族のストレス、児童虐待と家族支援

第6回 小児の生活と健康支援〔養護・しつけ〕 1) 乳児期

第7回 小児の生活と健康支援〔養護・しつけ〕 2) 幼児期

第8回 小児の成長発達の特徴

第9回 胎児の成長発達

第10回 新生児の成長発達（1）

第11回 新生児の成長発達（2）

第12回 乳児期の子どもの成長発達（1）

第13回 乳児期の子どもの成長発達（2）

第14回 幼児期の子どもの成長発達

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（80％）小テスト（0％）授業中課題（20％）授業中発表等（0％）参加度（0％）備考（）

---

科目名 小児保健Ⅱ

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 長谷川 功. 堀 妙子

---

テーマ

病気によってみられる症状に対する看護の方法を学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

1. 子どもに見られる症状の特徴を理解する
  2. みられた症状を軽減するための看護方法を理解する
- 

内 容

第1回 熱のある子どもの看護

第2回 発疹がみられる子どもの看護

第3回 下痢・腹痛・嘔吐など消化器の症状がみられる子どもの看護

第4回 咳など呼吸器の症状がみられる子どもの看護

第5回 アレルギーがみられる子どもの看護

第6回 けいれんや意識障害がみられる子どもの看護

第7回 まとめ

第8回 先天異常・発育と栄養の障害

第9回 感染症と予防接種

第10回 代謝内分泌・アレルギー疾患

第11回 呼吸器・循環器疾患

第12回 消化器疾患・腎泌尿器疾患・血液疾患

第13回 神経・運動器疾患・精神疾患

第14回 その他の小児疾患

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（80%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（）

科目名 小児保健実習

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

乳幼児期の子どもの健康に過ごすために必要な援助方法を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 乳幼児期の子どもの日常生活の援助方法を理解する 2. 乳幼児期の子どもの健康管理の方法を学ぶ 3. 乳幼児期の子どもが病気になったときの看護方法を学ぶ

内 容

- 第1回 子どもの日常生活の世話（講義）
- 第2回 抱き方・更衣の方法（演習）
- 第3回 調乳方法（演習）
- 第4回 沐浴（演習）
- 第5回 こどもの健康管理[1]（講義）
- 第6回 身体計測（演習）
- 第7回 こどもの健康管理[2]（講義）
- 第8回 バイタルサイン測定[1]（演習）
- 第9回 バイタルサイン測定[2]（演習）
- 第10回 体調不良の子どもの看護（講義）
- 第11回 投薬の方法、温罨法、冷罨法（演習）
- 第12回 子どもの事故とその防止（講義）
- 第13回 子どものけがの応急処置（講義）
- 第14回 子どもの救急蘇生（演習）
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（）



|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 小児栄養 <a> |      |     |
| クラス   | a        | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期       | 定員   | 40  |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 |          |      |     |
| 担当者   | 馬引 美香    |      |     |

### テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活

### 授業の目的（獲得目標）

子どもが健やかに成長するために必要とされる栄養の知識を学び、基本的な調理技術を身につけることを目的とする。

### 内 容

- 第1回 小児栄養の意義
- 第2回 小児の発育・発達と栄養（味覚・食物嗜好・食習慣の形成）
- 第3回 食品と栄養に関する基礎知識1
- 第4回 食品と栄養に関する基礎知識2
- 第5回 食品と栄養に関する基礎知識3
- 第6回 食品と栄養に関する基礎知識4
- 第7回 乳児期栄養 母乳栄養
- 第8回 乳児期栄養 人工栄養・混合栄養
- 第9回 食べる機能の発達
- 第10回 離乳期栄養
- 第11回 離乳期栄養（調理実習1）
- 第12回 離乳期栄養（調理実習2）
- 第13回 離乳期栄養（調理実習3）
- 第14回 幼児期栄養
- 第15回 まとめ（試験を含む）

### 授業以外での学習方法

授業内容について興味や疑問をもったときは、文献やインターネットでさらに自分で調べてみてほしい。そのための質問や相談は大いに歓迎する。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (50%) 小テスト (10%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

---

科目名 小児栄養 <b>

---

クラス b 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 馬引 美香

---

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活

---

授業の目的（獲得目標）

子どもが健やかに成長するために必要とされる栄養の知識を学び、基本的な調理技術を身につけることを目的とする。

---

内 容

第1回 小児栄養の意義

第2回 小児の発育・発達と栄養（味覚・食物嗜好・食習慣の形成）

第3回 食品と栄養に関する基礎知識1

第4回 食品と栄養に関する基礎知識2

第5回 食品と栄養に関する基礎知識3

第6回 食品と栄養に関する基礎知識4

第7回 乳児期栄養 母乳栄養

第8回 乳児期栄養 人工栄養・混合栄養

第9回 食べる機能の発達

第10回 離乳期栄養

第11回 離乳期栄養（調理実習1）

第12回 離乳期栄養（調理実習2）

第13回 離乳期栄養（調理実習3）

第14回 幼児期栄養

第15回 まとめ（試験を含む）

---

授業以外での学習方法

授業内容について興味や疑問をもったときは、文献やインターネットでさらに自分で調べてみてほしい。そのための質問や相談は大いに歓迎する。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (50%) 小テスト (10%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 精神保健

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 加藤 博史

---

テーマ

子どもの精神的不健康な状態に対する対応や予防、および精神的健康の保持・増進について学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

乳幼児期の各期においてみられる精神保健上の問題について理解する。家庭や地域、保育やその他の専門機関との連携についても理解する。 ●この科目では毎授業必ず出席を取ります。

---

内 容

第1回 オリエンテーション 保育と精神保健

第2回 こころの健康とは

第3回 乳児期の精神保健

第4回 幼児期の精神保健

第5回 学童期の精神保健

第6回 思春期の精神保健

第7回 生活環境と精神保健1

第8回 生活環境と精神保健2

第9回 子どものこころの問題1

第10回 子どものこころの問題2

第11回 保育の場における精神保健活動

第12回 子育て支援とこころの健康

第13回 特別支援の必要な精神保健の問題

第14回 まとめ

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（50%）小テスト（20%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 家族援助論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

### テーマ

子どもを取り巻く地域社会・家族の現状を理解し、「子どもの最善の利益」を保障するための家族支援のあり様、意義を考える。

### 授業の目的（獲得目標）

多様な現代家族のあり方や親・家族の置かれた状況を理解した上で、子どもの育つ重要な環境としての親・家族の養育力を維持あるいは向上させる支援のあり方を学ぶ。

### 内 容

第1回 子どもの権利—乳幼児の権利

第2回 子どもと家族

第3回 現代社会と家族の変容

第4回 家族関係と家族問題

第5回 児童福祉関連諸施策の展開と少子化対策

第6回 近年の主な少子化対策とその課題

第7回 子育て家庭の課題と支援

第8回 特別な配慮を必要とする家庭の課題と支援

第9回 家族支援の原則

第10回 家族支援の方法

第11回 家族支援の諸理論

第12回 事例から支援の実際を学ぶ—機関・施設における家族支援

第13回 事例から支援の実際を学ぶ—在宅子育て家庭への支援

第14回 事例から支援の実際を学ぶ—虐待環境にある家族への支援

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

児童館や保育所等、身近な児童福祉施設を訪問し、子どもにとっての親・家族について考える機会を多く持つようにする。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (0) 参加度 (10) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 乳児保育〈a〉      |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 | 大学指定         |      |     |
| 担当者   | 加用 美代子・山口 陽子 |      |     |

## テーマ

現代社会における乳児保育の位置づけを理解し、乳児保育の内容と方法を学ぶ。

## 授業の目的（獲得目標）

0歳から2歳児クラスまでの子どもの発達を理解し、それを踏まえた保育の内容と方法を理解する。また、乳児保育の歴史と現状を知り、今後の課題を検討する視点を養う。

## 内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 乳児保育とは何か
- 第3回 乳児保育の歩みと現状
- 第4回 乳児保育の実際
- 第5回 乳児の発達を学ぶ①
- 第6回 乳児の発達を学ぶ②
- 第7回 乳児保育をめぐる論点
- 第8回 乳児の基本的生活と豊かな遊びをつくりだす視点
- 第9回 0歳児の生活と遊び①
- 第10回 0歳児の生活と遊び②
- 第11回 1歳児の生活と遊び①
- 第12回 1歳児の生活と遊び②
- 第13回 2歳児の生活と遊び①
- 第14回 2歳児の生活と遊び②
- 第15回 乳児保育の教材研究

## 授業以外での学習方法

現場ボランティアや体験学習の機会に、子どもの発達や保育者の係り方、保育環境等を良く観察し、できるだけきろくをとっておくこと。また、乳児期の育児に関わるさまざまな情報に目を配り、摂取しておくこと。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価



試験 (0%) 小テスト (30%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (15%) 参加度 (15%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |               |      |     |
|-------|---------------|------|-----|
| 科目名   | 乳児保育 <b>      |      |     |
| クラス   | b             | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期            | 定員   | 40  |
| 履修条件  |               |      |     |
| クラス指定 | 大学指定          |      |     |
| 担当者   | 加用 美代子. 山口 陽子 |      |     |

## テーマ

現代社会における乳児保育の位置づけを理解し、乳児保育の内容と方法を学ぶ。

## 授業の目的（獲得目標）

0歳から2歳児クラスまでの子どもの発達を理解し、それを踏まえた保育の内容と方法を理解する。また、乳児保育の歴史と現状を知り、今後の課題を検討する視点を養う。

## 内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 乳児保育とは何か
- 第3回 乳児保育の歩みと現状
- 第4回 乳児保育の実際
- 第5回 乳児の発達を学ぶ①
- 第6回 乳児の発達を学ぶ②
- 第7回 乳児保育をめぐる論点
- 第8回 乳児の基本的生活と豊かな遊びをつくりだす視点
- 第9回 0歳児の生活と遊び①
- 第10回 0歳児の生活と遊び②
- 第11回 1歳児の生活と遊び①
- 第12回 1歳児の生活と遊び②
- 第13回 2歳児の生活と遊び①
- 第14回 2歳児の生活と遊び②
- 第15回 乳児保育の教材研究

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（50%）授業中発表等（15%）参加度（15%）備考（）

科目名 障害児保育

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 三山 岳

テーマ

障害に関する基礎的知識と障害児保育の意義を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

障害児の保育を行っていくために必要な障害の基礎的な知識を学ぶとともに、実際の具体的な保育実践と支援の事例を読みながら障害児保育の意義を学びます。また障害児保育を行うために活用できる社会的資源や、その利用の仕方についても学びます。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス（“障害”とは何だろうか）
- 第2回 多様な子どもたちと保育者の役割
- 第3回 障害児を含めたクラスづくりを考える
- 第4回 事例検討（グループ学習と発表）①
- 第5回 事例検討（グループ学習と発表）②
- 第6回 事例検討（グループ学習と発表）③
- 第7回 事例検討（グループ学習と発表）④
- 第8回 事例検討（グループ学習と発表）⑤
- 第9回 事例検討（グループ学習と発表）⑥
- 第10回 事例検討（グループ学習と発表）⑦
- 第11回 すべての子どもが参加する保育とは
- 第12回 保護者や同僚との連携について考える
- 第13回 障害児保育で活用できる社会的資源
- 第14回 障害児保育の進め方（個別計画とねらい）
- 第15回 最終まとめ・学期末テスト

### 授業以外での学習方法

障害児保育の実践記録が書いてある本を探し、読んでみるようにしてください

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（50%）参加度（20%）備考（毎回の授業の終わりに小レポート（感想等）を書いてもらう予定です）

科目名 障害児保育 <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡田 有司

テーマ

障害に関する基礎的知識と障害児保育の意義を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

本授業では、まず障害児の保育に必要な基礎的な知識を身につけることを目的とします。そして、それらの知識に基づき、実際の保育場でどのような保育が必要なのかについて、具体的に考えられるようになることを目指します。その際に、子どもの発達や周囲との連携という視点を持ちながら、障害児保育について理解を深めてもらいたいと思います。

### 内 容

第1回 イン트로ダクション：自己紹介、授業の到達目標・授業の進め方・成績評価方法等の説明、各回の授業概要の説明

第2回 障害とは：障害の意味・様々な障害

第3回 子どもの発達と障害①

第4回 子どもの発達と障害②

第5回 障害児を含めたクラスの在り方

第6回 障害児の保護者への対応

第7回 周囲との連携に基づいた保育

第8回 個別計画の立て方：アセスメント・実施・振り返り

第9回 事例検討（グループ学習と発表）①

第10回 事例検討（グループ学習と発表）②

第11回 事例検討（グループ学習と発表）③

第12回 事例検討（グループ学習と発表）④

第13回 事例検討（グループ学習と発表）⑤

第14回 事例検討（グループ学習と発表）⑥

第15回 まとめ：これまでの講義の振り返り、試験の実施

### 授業以外での学習方法

障害を身近なものとして捉えられるよう、普段から障害に関する本やテレビ番組を見るよう心がけて下さい

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（45%）授業中発表等（）参加度（15%）備考（授業ではグループワークを行うので、積極的に発言し参加してください）

## 2010 Syllabus

|       |         |      |     |
|-------|---------|------|-----|
| 科目名   | 養護内容〈a〉 |      |     |
| クラス   | a       | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期      | 定員   | 40  |
| 履修条件  |         |      |     |
| クラス指定 | 大学指定    |      |     |
| 担当者   | 春田 真樹   |      |     |

## テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養護の意義と実際を理解する。

## 授業の目的（獲得目標）

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の援助の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を獲得する。

## 内 容

- 第1回 子どもの養護と保育士（オリエンテーション）
- 第2回 児童福祉施設の子どもたち
- 第3回 施設養護のプロセスの理解
- 第4回 施設養護のプロセスの展開
- 第5回 保育士の基本的な養護援助・支援① 児童養護施設を中心に
- 第6回 保育士の基本的な養護援助・支援② 障害系施設を中心に
- 第7回 こころの援助① 施設養護におけるこころの援助
- 第8回 こころの援助② 子どもとのコミュニケーション
- 第9回 親子関係の援助
- 第10回 地域・学校との関係づくり
- 第11回 自己実現・自立への支援・援助① 自立の考え方
- 第12回 自己実現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助
- 第13回 児童福祉施設の運営管理
- 第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること（たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等）により、授業の学習が補完されると思います。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 (この授業は毎回必ず出席を取ります。また、小グループ等による発表を予定しています。授業中の課題は随時お知らせします。)



## 2010 Syllabus

科目名 養護内容〈b〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 40

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 春田 真樹

## テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養護の意義と実際を理解する。

## 授業の目的（獲得目標）

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の援助の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を獲得する。

## 内 容

- 第1回 子どもの養護と保育士（オリエンテーション）
- 第2回 児童福祉施設の子どもたち
- 第3回 施設養護のプロセスの理解
- 第4回 施設養護のプロセスの展開
- 第5回 保育士の基本的な養護援助・支援① 児童養護施設を中心に
- 第6回 保育士の基本的な養護援助・支援② 障害系施設を中心に
- 第7回 こころの援助① 施設養護におけるこころの援助
- 第8回 こころの援助② 子どもとのコミュニケーション
- 第9回 親子関係の援助
- 第10回 地域・学校との関係づくり
- 第11回 自己実現・自立への支援・援助① 自立の考え方
- 第12回 自己実現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助
- 第13回 児童福祉施設の運営管理
- 第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること（たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等）により、授業の学習が補完されると思います。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 (この授業は毎回必ず出席を取ります。また、小グループ等による発表を予定しています。授業中の課題は随時お知らせします。)

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習 I <a> |      |     |
| クラス   | a          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 20  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 宮嶋 邦明      |      |     |

### テーマ

子どもの発達と教育をめぐる諸問題

### 授業の目的（獲得目標）

文献等の読解と検討を通じて、研究「テーマ」を設定する基礎能力の向上を目指す。また、文献や資料を読み取り、分析する力量の向上を目指す。

### 内 容

- 第1回 本演習の概要説明、及び本演習が目指すもの
- 第2回 文献の講読と検討
- 第3回 文献の講読と検討
- 第4回 文献の講読と検討
- 第5回 文献の講読と検討
- 第6回 文献の講読と検討
- 第7回 文献の講読と検討
- 第8回 文献の講読と検討
- 第9回 関心領域についてのレジュメ作成と発表
- 第10回 関心領域についてのレジュメ作成と発表
- 第11回 関心領域についてのレジュメ作成と発表
- 第12回 関心領域についての文献リストの作成と発表
- 第13回 関心領域についての文献リストの作成と発表
- 第14回 関心領域についての文献リストの作成と発表
- 第15回 まとめと夏季課題について

### 授業以外での学習方法

図書館や自宅での、テーマ（関心領域）に沿った文献等の収集、ノート作成は必須である。適当な時期での「ゼミ合宿」を検討する。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト () 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 () 備考 ()

## 2010 Syllabus

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習 I <b> |      |     |
| クラス   | b          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 20  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 加用 美代子     |      |     |

## テーマ

「子どもの発達と生活・遊び」に関する基礎的学習

## 授業の目的（獲得目標）

乳幼児および学童期の子どもの発達にとって、生活や遊びがどのような意味を持っているかを考えながら、それらの実態や、充実を旨とする保育・教育活動のあり方について、問題意識を深める。あわせて、子育てする側の実態や支援についても対象とする。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ゼミテーマに関する各自の関心を話し合う。
- 第3回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む① 関連報告と討論
- 第4回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む② 関連報告と討論
- 第5回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む③ 関連報告と討論
- 第6回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む④ 関連報告と討論
- 第7回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む⑤ 関連報告と討論
- 第8回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む⑥ 関連報告と討論
- 第9回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む⑦ 関連報告と討論
- 第10回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む⑧ 関連報告と討論
- 第11回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む⑨ 関連報告と討論・
- 第12回 子どもの発達と生活・遊びに関する文献を読む⑩ 関連報告と討論
- 第13回 子どもの発達と生活・遊びに関する調査の計画作り
- 第14回 子どもの発達と生活・遊びに関する調査の計画作り
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

基本文献に関連した資料や文献を捜して読む。また、関心を持った事柄について、観察や調査による事実収集を試みる。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（）

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習 I <c> |      |     |
| クラス   | c          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 20  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 小寺 隆幸      |      |     |

### テーマ

子どもの数認識と算数教育、および平和教育と総合学習のあり方について考える。

### 授業の目的（獲得目標）

幼稚園、小学校の各段階の子どもたちの数量認識を探り、算数教育のあり方、内容、方法について理解を深める。また平和をテーマとする総合学習の実践を調べ、あらたな教材や内容を構想する。各自が関心のあるテーマを考え、そのテーマにそって調べたことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。

### 内 容

- 第1回 問題意識の交流
- 第2回 基本文献を読む①
- 第3回 基本文献を読む②
- 第4回 基本文献を読む③
- 第5回 基本文献を読む④
- 第6回 基本文献を読む⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

学外授業等を行うことがある 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（0%）



|             |            |      |     |
|-------------|------------|------|-----|
| 科目名         | 教育演習 I <d> |      |     |
| クラス         | d          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 前期         | 定員   | 20  |
| <b>履修条件</b> |            |      |     |
| クラス指定       | 希望制        |      |     |
| 担当者         | 口野 隆史      |      |     |

### テーマ

子どもの運動発達、スポーツ・運動文化及び体育指導について基礎文献に学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

子ども運動発達、スポーツ・運動文化、または幼児や児童の運動遊びや体育指導に関する保育や教育の実践記録を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。そのテーマにそって調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、自らの問題意識を深める。

### 内 容

第1回 運動遊びの指導、体育科教育学の研究対象と領域、研究の方法論について（幼児や児童の運動遊びや体育指導にかかわる保育・教育実践上の課題をつかむために、子どもの運動発達、スポーツ・運動文化、体育指導に関する基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、さらにその研究課題を深めるための資料を収集し、わかったことをまとめて発表を行っていく）

第2回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む①

第3回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む②

第4回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む③

第5回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む④

第6回 ここまでの内容の整理と個別発表の計画づくり

第7回 個別発表と質疑・応答・討議①

第8回 個別発表と質疑・応答・討議②

第9回 個別発表と質疑・応答・討議③

第10回 個別発表と質疑・応答・討議④

第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤

第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥

第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦

第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧

第15回 前期の振り返りと夏期休暇及び後期の課題・まとめ（学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）

### 授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、本学や他大学、その他の図書館を利用して、子どもの運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する論文や実践（『たのしい体育・スポーツ』『体育科教育』『教育』『保育問題研究』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載）を読む。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（授業中、他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。）

|             |            |      |      |
|-------------|------------|------|------|
| 科目名         | 教育演習 I <e> |      |      |
| クラス         | e          | 配当回生 | 3 回生 |
| 講義期間        | 前期         | 定員   | 20   |
| <b>履修条件</b> |            |      |      |
| クラス指定       | 希望制        |      |      |
| 担当者         | 生源寺 孝浩     |      |      |

**テーマ**

子どもたちが賢くなる営みー自然を中心に（I）

**授業の目的（獲得目標）**

たくさんの実践報告に出会い、その中から授業実践の思想と方法を学ぶ。特に自然を学ぶことが子どもの発達にどのような影響を及ぼすのかの視点を大切にしたい。また、それぞれの実践報告に出てくる実験観察などについて実際にやってみることを通して認識を新たにしたい。

**内 容**

- 第1回 授業実践、特に、理科・算数科教育の研究対象と領域、研究の方法論について
- 第2回 典型的な実践報告を読み、実践報告の読み方、学ぶべき視点についての指導①
- 第3回 典型的な実践報告を読み、実践報告の読み方、学ぶべき視点についての指導②
- 第4回 子どもと自然学会第13回岐阜徳山大会に参加し、開発と自然について考える。（学外授業）
- 第5回 実践報告の探し方がわかり、興味関心のある単元の実践報告を見つけて読み、抄録して発表する。また、関連する実験・観察を行う①
- 第6回 実践報告の探し方がわかり、興味関心のある単元の実践報告を見つけて読み、抄録して発表する。また、関連する実験・観察を行う②
- 第7回 実践報告の探し方がわかり、興味関心のある単元の実践報告を見つけて読み、抄録して発表する。また、関連する実験・観察を行う③
- 第8回 実践報告の探し方がわかり、興味関心のある単元の実践報告を見つけて読み、抄録して発表する。また、関連する実験・観察を行う④
- 第9回 実践報告の探し方がわかり、興味関心のある単元の実践報告を見つけて読み、抄録して発表する。また、関連する実験・観察を行う⑤
- 第10回 関連ある実践の報告を探して読み、共通点と対立点、問題点を見つけて発表、討論する。また、関連する実験・観察を行う①
- 第11回 関連ある実践の報告を探して読み、共通点と対立点、問題点を見つけて発表、討論する。また、関連する実験・観察を行う②
- 第12回 関連ある実践の報告を探して読み、共通点と対立点、問題点を見つけて発表、討論する。また、関連する実験・観察を行う③
- 第13回 関連ある実践の報告を探して読み、共通点と対立点、問題点を見つけて発表、討論する。また、関連する実験・観察を行う④
- 第14回 10月の科学ボランティアについて準備のための議論をする。
- 第15回 関連ある実践の報告を探して読み、共通点と対立点、問題点を見つけて発表、討論する。また、関連する実験・観察を行う⑤

---

**授業以外での学習方法**

実践報告の抄録を書く。

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

|             |              |      |      |
|-------------|--------------|------|------|
| 科目名         | 教育演習 I < f > |      |      |
| クラス         | f            | 配当回生 | 3 回生 |
| 講義期間        | 前期           | 定員   | 20   |
| <b>履修条件</b> |              |      |      |
| クラス指定       | 希望制          |      |      |
| 担当者         | 池田 修         |      |      |

**テーマ**

主に国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献に学ぶ

**授業の目的（獲得目標）**

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献、または幼児や児童のことばに関する認識を育てる保育実践や教育実践の記録を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。テーマにそって調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、問題意識を深める。幼児や児童ことばの形成にかかわる教育実践上の課題と、学級づくりに関する実践上の課題をつかむために、ことばの発達と教育に関する基本文献、学級づくりのための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、わかったことをまとめて発表

**内 容**

- 第 1 回 社会科教育学の研究対象と領域、研究の方法論について
- 第 2 回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む①
- 第 3 回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む②
- 第 4 回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む③
- 第 5 回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む④
- 第 6 回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む⑤、個別発表の計画づくり
- 第 7 回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第 8 回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第 9 回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第 10 回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第 11 回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第 12 回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第 13 回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第 14 回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第 15 回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第 16 回 （学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）

**授業以外での学習方法**

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践（『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載）を読む。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（積極的な参加を期待する。）

科目名 教育演習 I <g>

クラス g 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 20

#### 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 森本 美絵

#### テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

#### 授業の目的（獲得目標）

基本となる文献を読み、各自が関心のあるテーマを探す。

#### 内 容

- 第1回 研究方法について学ぶー1
- 第2回 研究方法について学ぶー2
- 第3回 基本文献1の講読の分担報告ー1
- 第4回 基本文献1の講読の分担報告ー2
- 第5回 基本文献1の講読の分担報告ー3
- 第6回 基本文献1の講読の分担報告ー4
- 第7回 質疑・応答・討議
- 第8回 基本文献2の講読の分担報告ー1
- 第9回 基本文献2の講読の分担報告ー2
- 第10回 基本文献2の講読の分担報告ー3
- 第11回 基本文献2の講読の分担報告ー4
- 第12回 質疑・応答・討議
- 第13回 基本文献3の講読の分担報告ー1
- 第14回 基本文献3の講読の分担報告ー2
- 第15回 基本文献3の講読の分担報告ー3

#### 授業以外での学習方法

基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用して、できるだけ多くの文献を読む。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習 I <h> |      |     |
| クラス   | h          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 20  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 三山 岳       |      |     |

### テーマ

“気になる子ども”の保育と教育の課題に関する基本的文献を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

障害のある子や発達の遅れが心配な子、虐待を受けている子など、いわゆる“気になる子”と言われる子どもの保育や教育活動の進め方や、そのなかで現れる子どもの様子や行動などについての理解を深め、そこで見られる課題や問題について考えます。また特別な支援ニーズについての考え方を学び、保育や教育との関連を踏まえながら、各自の問題意識を掘り下げることを目指します。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス（レジュメの作り方と資料集めの仕方について）
- 第2回 “気になる子”に関する基本的文献を読む①
- 第3回 “気になる子”に関する基本的文献を読む②
- 第4回 “気になる子”に関する基本的文献を読む③
- 第5回 “気になる子”に関する基本的文献を読む④
- 第6回 これまでの学習内容の整理と個別発表の計画づくり
- 第7回 個別発表と全体での討論①
- 第8回 個別発表と全体での討論②
- 第9回 個別発表と全体での討論③
- 第10回 個別発表と全体での討論④
- 第11回 個別発表と全体での討論⑤
- 第12回 個別発表と全体での討論⑥
- 第13回 個別発表と全体での討論⑦
- 第14回 個別発表と全体での討論⑧
- 第15回 前期のまとめ

### 授業以外での学習方法

基本的文献に関連して、各自の興味のある資料や文献を探して読む。

### 教科書

### 参考書



## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 教育演習 I

クラス i 配当回生 3回生

講義期間 定員 20

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 上中 良子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する

### 授業の目的（獲得目標）

全人格形成と結びついた表現営みの意味を探るための基本的な視点を掴み取り、子どもの発達及び内面の充実と表現とのかかわりを、さまざまな角度から深く追求する研究力を身につける。各自が問題意識を掘り起こし、研究活動の第一段階に入る。

### 内 容

第1回 オリエンテーション：表現教育学の研究対象と領域、研究の方法論について

第2回 子どもの発達と表現教育に関する基本文献を読む①：1章

第3回 子どもの発達と表現教育に関する基本文献を読む②：2章

第4回 子どもの発達と表現教育に関する基本文献を読む③：3章

第5回 子どもの発達と表現教育に関する基本文献を読む④：4章

第6回 子どもの発達と表現教育に関する基本文献を読む⑤：5章

第7回 実践取材&調査と分析①

第8回 実践取材&調査と分析②

第9回 個別発表と質疑・応答・討議①②

第10回 個別発表と質疑・応答・討議③④

第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤⑥

第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑦⑧

第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑨⑩

第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑪⑫

第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑬⑭

### 授業以外での学習方法

（学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加…やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、子どもの発達と美術教育・生活綴方教育及び教育の本質に関する論文（実績のある大学のそれらに関わる論文集）や実践（教育研究会での報告集や『子どもと美術』『美育文化』『生活綴方』などの雑誌にも数多く掲載されている）を読む。○多くの研究会に参加し、数多くの現場実践と子どもの表現に触れる。

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（全回出席を前提とする）

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習 I <j> |      |     |
| クラス   | j          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 20  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 倉持 祐二      |      |     |

### テーマ

小学生の学びと授業を考える基本文献を読む

### 授業の目的（獲得目標）

小学生の学びの特徴や小学校の授業のあり方を考えるための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深めるための資料を収集し、わかったことをまとめて発表する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション 私が選ぶ小学校の授業 BEST 3
- 第2回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む①
- 第3回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む②
- 第4回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む③
- 第5回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む④
- 第6回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む⑤
- 第7回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む⑥
- 第8回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む⑦
- 第9回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む⑧
- 第10回 学外授業／学校歴史博物館の見学
- 第11回 私が選んだ小学校の教育実践を語る①
- 第12回 私が選んだ小学校の教育実践を語る②
- 第13回 私が選んだ小学校の教育実践を語る③
- 第14回 私が選んだ小学校の教育実践を語る④
- 第15回 私が選んだ小学校の教育実践を語る⑤
- 第16回 （学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）

### 授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけるために、大学図書館を利用し、『教育』『生活教育』『歴史地理教育』『社会科教育』『どの子も伸びる』『授業づくりネットワーク』などの教育関係の雑誌を定期的に読む。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 教育演習 I <k>

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 20

## 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 磯田 三津子

## テーマ

子どもと音楽／国際理解と多文化共生

## 授業の目的（獲得目標）

音楽や音楽科教育、保育・幼稚園と小学校における国際理解と多文化共生に関する基本文献を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、問題意識を深める。

## 内 容

- 第1回 調査のテーマについて話し合う。領域、研究の方法について。
- 第2回 音楽、音楽科教育、国際理解、多文化共生に関する基本文献を読む①
- 第3回 音楽、音楽科教育、国際理解、多文化共生に関する基本文献を読む②
- 第4回 音楽、音楽科教育、国際理解、多文化共生に関する基本文献を読む③
- 第5回 音楽、音楽科教育、国際理解、多文化共生に関する基本文献を読む④
- 第6回 音楽、音楽科教育、国際理解、多文化共生に関する基本文献を読む⑤、個別発表の計画づくり
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑨

## 授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して論文や雑誌などを読む。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (40) 参加度 (20) 備考 ( )

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅱ <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 宮嶋 邦明     |      |     |

### テーマ

子どもの発達と教育をめぐる諸問題

### 授業の目的（獲得目標）

卒業論文に向けての、テーマ設定と構想の骨格を準備すること

### 内 容

- 第1回 夏季課題についての発表
- 第2回 夏季課題についての発表
- 第3回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
- 第4回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
- 第5回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
- 第6回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
- 第7回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
- 第8回 テーマを絞り込んでの問題意識の整理と発表
- 第9回 テーマを絞り込んでの問題意識の整理と発表
- 第10回 テーマを絞り込んでの問題意識の整理と発表
- 第11回 テーマを絞り込んでの問題意識の整理と発表
- 第12回 テーマを絞り込んでの問題意識の整理と発表
- 第13回 卒業論文作成に向けての作業計画
- 第14回 卒業論文作成に向けての作業計画
- 第15回 まとめと春季課題

### 授業以外での学習方法

文献等は計画的に収集しておくこと。新聞等をよく読み、必要な記事はスクラップしておくことが望ましい。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅱ <b> |      |     |
| クラス   | b         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 加用 美代子    |      |     |

### テーマ

「子どもの発達と生活・遊び」に関する研究課題を探る

### 授業の目的（獲得目標）

乳幼児期及び学童期の子どもの発達にとって、生活や遊びが持つ意味と、それらを充実させる保育・教育活動のあり方、現代の子どもの実態などについて、文献を読み進めたり、小調査を行いながら、各自の問題意識を焦点化する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ゼミテーマに関する各自の問題意識を話しあう
- 第3回 子どもの発達と生活・遊びに関する調査の検討
- 第4回 子どもの発達と生活・遊びに関する調査の検討
- 第5回 個別発表と討論①
- 第6回 個別発表と討論②
- 第7回 個別発表と討論③
- 第8回 個別発表と討論④
- 第9回 個別発表と討論⑤
- 第10回 個別発表と討論⑥
- 第11回 個別発表と討論⑦
- 第12回 個別発表と討論⑧
- 第13回 個別発表と討論⑨
- 第14回 個別発表と討論⑩
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

各自の問題意識に沿って、資料や文献を探して読む。また関心を持った事柄について、観察や調査による資料収集を試みる。

### 教科書

### 参考書



## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅱ <c> |      |     |
| クラス   | c         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 小寺 隆幸     |      |     |

### テーマ

子どもの数認識と算数教育、および平和教育や総合学習のあり方について考える。

### 授業の目的（獲得目標）

各自が関心のあるテーマにそって、文献を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。

### 内 容

- 第1回 夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬
- 第15回 半年間のまとめ

### 授業以外での学習方法

学外授業を適宜、行うことがある 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（

|             |           |      |     |
|-------------|-----------|------|-----|
| 科目名         | 教育演習Ⅱ <d> |      |     |
| クラス         | d         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 後期        | 定員   | 20  |
| <b>履修条件</b> |           |      |     |
| クラス指定       | 希望制       |      |     |
| 担当者         | 口野 隆史     |      |     |

**テーマ**

子どもの運動発達、スポーツ・運動文化及び体育指導について理論と実践に学ぶ

**授業の目的（獲得目標）**

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みその内容を理解する。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題についての理解を深める

**内 容**

- 第1回 夏期休暇の研究成果の交流、個別発表の計画づくり（「教育演習Ⅰ」の中で深めようとしたテーマにそって、新しい文献や論文ならびに教育実践記録などを幅広く収集する。そして、それらの内容を理解し、整理し、順番に発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の発表の到達点と課題を明らかにしていく） 15回目  
後期の振り返りと最終学年への課題・まとめ（学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第8回 中間まとめ（各自及び全体の進捗状況の確認と今後課題）
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第15回 後期の振り返りと最終学年への課題・まとめ（学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）

**授業以外での学習方法**

自分の研究テーマを見つけ出すために、本学や他大学、その他の図書館を利用して、子どもの運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する論文や実践（『たのしい体育・スポーツ』『体育科教育』『教育』『保育問題研究』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載）を読む。

**教科書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（授業中、他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅱ <e> |      |     |
| クラス   | e         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 生源寺 孝浩    |      |     |

### テーマ

子どもたちが賢くなる営みー自然を中心に（Ⅱ）

### 授業の目的（獲得目標）

たくさんの実践報告に出会い、その中から授業実践の思想と方法を学ぶ。特に自然を学ぶことが子どもの発達にどのような影響を及ぼすのかの視点を大切にしたい。また、それぞれの実践報告に出てくる実験観察などについて実際にやってみることを通して認識を新たにしたい。

### 内 容

- 第1回 関連ある実践の報告を探して読み、共通点と対立点、問題点を見つけて発表、討論する。また、関連する実験・観察を行う⑥
- 第2回 関連ある実践の報告を探して読み、共通点と対立点、問題点を見つけて発表、討論する。また、関連する実験・観察を行う⑦
- 第3回 12月の科学ボランティアについて議論し、計画書を作る。
- 第4回 12月の科学ボランティア当日に向けてリハーサルをする。見合って検討を加える。
- 第5回 12月の科学ボランティア当日の取り組みを総括する。
- 第6回 理科の教科書から1つの単元を見つけ、その教科用指導書の指導の流れと民間教育研究団体の指導の流れを比較検討する①
- 第7回 理科の教科書から1つの単元を見つけ、その教科用指導書の指導の流れと民間教育研究団体の指導の流れを比較検討する②
- 第8回 選んだ単元の関連する単元は何年生の何という単元であり、その到達目標と方向目標は何かを吟味検討する①
- 第9回 選んだ単元の関連する単元は何年生の何という単元であり、その到達目標と方向目標は何かを吟味検討する②
- 第10回 認識の「のぼりおり」を意識した単元一覧表を作る①
- 第11回 認識の「のぼりおり」を意識した単元一覧表を吟味する①
- 第12回 認識の「のぼりおり」を意識した単元一覧表を作る②
- 第13回 認識の「のぼりおり」を意識した単元一覧表を吟味する②
- 第14回 認識の「のぼりおり」を意識した単元一覧表を作る③
- 第15回 認識の「のぼりおり」を意識した単元一覧表を吟味する③

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅱ < f > |      |     |
| クラス   | f           | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 20  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 希望制         |      |     |
| 担当者   | 池田 修        |      |     |

### テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する理論と実践に学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文を書き進める準備を始める。「教育演習Ⅰ」の中で深めようとしたテーマにそって、新しい文献や論文ならびに教育実践記録などを幅広く収集し、内容を理解してまとめ、順番に発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の発表の到達点と課題を明らかにしていく。模擬授業なども実施したい。

### 内 容

- 第1回 夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

### 授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、社会認識の発達と教育に関する論文や実践（『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載）を読む。

### 教科書



**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 教育演習Ⅱ <g>

クラス g

配当回生 3回生

講義期間 後期

定員 20

#### 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 森本 美絵

#### テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を「子どもの最善の利益」の視点から考える。

#### 授業の目的（獲得目標）

「教育演習Ⅰ」の学びを踏まえて、新たな文献講読や調査から、各自の関心テーマの焦点化をはかる。

#### 内 容

- 第1回 個別発表と質疑・応答・討論－1
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討論－2
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討論－3
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討論－4
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討論－5
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討論－6
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討論－7
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討論－8
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討論－9
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討論－10
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討論－11
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討論－12
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討論－13
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討論－14
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討論－15

#### 授業以外での学習方法

各自の研究テーマを明確にするために、図書館等を活用して、多くの文献を読む。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅱ <h> |      |     |
| クラス   | h         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 三山 岳      |      |     |

### テーマ

“気になる子ども”の保育と教育の課題に関する理論と実践を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

「教育演習Ⅰ」の中で深めようとしたテーマにそって、新たな文献や論文、実践記録・実践報告などを幅広く収集する。集めた資料の内容を理解して整理し、各自が発表を行う。全体での討議では、各自の発表の到達点と課題を明確にしていく。

### 内 容

- 第1回 夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり
- 第2回 個別発表と全体での討議①
- 第3回 個別発表と全体での討議②
- 第4回 個別発表と全体での討議③
- 第5回 個別発表と全体での討議④
- 第6回 個別発表と全体での討議⑤
- 第7回 個別発表と全体での討議⑥
- 第8回 個別発表と全体での討議⑦
- 第9回 個別発表と全体での討議⑧
- 第10回 個別発表と全体での討議⑨
- 第11回 個別発表と全体での討議⑩
- 第12回 個別発表と全体での討議⑪
- 第13回 個別発表と全体での討議⑫
- 第14回 個別発表と全体での討議⑬
- 第15回 後期のまとめと最終学年に向けた課題整理

### 授業以外での学習方法

大学の図書館や国会図書館、CiNii などを利用して、“気になる子”に関する論文や雑誌記事を読み、各自の研究テーマを見つけ出す

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 教育演習Ⅱ

クラス i 配当回生 3回生

講義期間 定員 20

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 上中 良子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する

授業の目的（獲得目標）

全人格形成と結びついた表現営みの意味を探るための基本的な視点を掴み取り、子どもの発達及び内面の充実と表現とのかかわりを、さまざまな角度から深く追求する研究力を身につける。各自の問題意識による研究活動第二段階に入る。

内 容

第1回 前期以降の研究成果の交流、各自の研究計画発表

第2回 個別発表と質疑・応答・討議①

第3回 個別発表と質疑・応答・討議②

第4回 個別発表と質疑・応答・討議③

第5回 個別発表と質疑・応答・討議④

第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤

第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥

第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦

第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧

第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨

第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩

第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪

第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫

第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬

第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

授業以外での学習方法

（学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加…やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、子どもの発達と美術教育・生活綴方教育及び教育の本質に関する論文（実績のある大学のそれらに関わる論文集）や実践（教育研究会での報告集や『子どもと美術』『美育文化』『生活綴方』などの雑誌にも数多く掲載されている）を読む。○多くの研究会に参加し、数多くの現場実践と子どもの表現に触れる。

教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（全回出席を前提とする）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅱ <j> |      |     |
| クラス   | j         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 倉持 祐二     |      |     |

### テーマ

小学生の学びと授業をテーマにした研究と実践に学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

小学生の学びと授業をテーマにした研究論文や実践書を幅広く収集し、その中から関心のあるテーマにそって内容を理解してまとめ、順番に発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の発表の到達点と課題を明らかにしていく。

### 内 容

- 第1回 夏休みの研究成果の交流／実物教材をつくる
- 第2回 教材と授業についての文献を読む①
- 第3回 教材と授業についての文献を読む②
- 第4回 小学生の学びと教材づくり①
- 第5回 小学生の学びと教材づくり②
- 第6回 小学生の学びと教材づくり③
- 第7回 小学生の学びと教材づくり④
- 第8回 小学生の学びと教材づくり⑤
- 第9回 学外授業／奈良教育大学附属小学校の授業見学
- 第10回 学外授業／奈良教育大学附属小学校の授業見学
- 第11回 奈良教育大学附属小学校の授業を検討する①
- 第12回 奈良教育大学附属小学校の授業を検討する②
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第16回 （学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）

### 授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけるために、大学図書館を利用し、『教育』『生活教育』『歴史地理教育』『社会科教育』『どの子も伸びる』『授業づくりネットワーク』などの教育関係の雑誌を定期的に読む。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（）



科目名 教育演習Ⅱ <k>

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 20

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 磯田 三津子

テーマ

子どもと音楽／国際理解と多文化共生

授業の目的（獲得目標）

各自が関心のあるテーマにそって、文献を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。「教育演習Ⅰ」の中で深めたテーマにそって、文献を幅広く収集し、内容を理解してまとめ、順番に発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の発表の到達点と課題を明らかにしていく。

内 容

第1回 夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり

第2回 個別発表と質疑・応答・討議①

第3回 個別発表と質疑・応答・討議②

第4回 個別発表と質疑・応答・討議③

第5回 個別発表と質疑・応答・討議④

第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤

第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥

第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦

第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧

第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨

第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩

第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪

第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫

第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬

第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (40) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 教育実践発展研究 a(特別支援教育論)

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                       |      |     |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 科目名   | 教育実践発展研究 d(教材開発論) <a> |      |     |
| クラス   | a                     | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期                    | 定員   |     |
| 履修条件  |                       |      |     |
| クラス指定 | 200                   |      |     |
| 担当者   | 三上 周治                 |      |     |

## テーマ

実践的な教材を開発する能力を育てる。

## 授業の目的（獲得目標）

■獲得目標 各教科各単元の特性を考え、子ども達のレイネンスを意識して、教材を考えること。子どもの身体的特性や、認識のありようも加味して教材を作ろうとすること。 ■内容／授業の進め方 まず、教材や単元の本質的なことについて、何か一つテーマをあげ自分たちで考えて貰う。または、実際に授業内容を自ら経験してもらう。その上で、具体的な教材を作ってもらう。

## 内 容

- 第1回 教材と子どもの認識の関係性に付いて、学生の討論を交えて明らかにする。
- 第2回 社会科／地図上の面積の測定方法を考えたのち、実際に測定し、点格子板を作る。
- 第3回 地図上の山地の形状を予想し粘土で作る。その後、立体等高線模型を作る。
- 第4回 体育／自分たちで、走り幅跳びの実測をしてデータを集める。高速度カメラで撮影し、指導のポイントを話し合う。
- 第5回 自分たちで、走り高飛びの実測をしてデータを集める。高速度カメラで撮影し、指導のポイントを話し合う。
- 第6回 データに基づいて、それぞれの個人到達目標表を作成する。
- 第7回 解剖史を学び、小学校教育の解剖のあり方を考えてもらう。
- 第8回 アジ（肉食系の魚）の解剖手順を学び、臓器各部の学習と観察の観点を学ぶ。
- 第9回 イワシ（草食系の魚）の解剖手順を学び、臓器各部の学習と観察の観点を学ぶ。
- 第10回 解剖で取り出した消化管にシリコンを注入して、シリコンレプリカを作成する。
- 第11回 算数／の教材づくり（）
- 第12回 授業で実際に使える教材を大量（10個以上）に作成する。制作技術を身につける。
- 第13回 自分たちの作った教材の授業を想定した解説書をつくる。
- 第14回 理科の研究会に行き、教材の実演解説をする。
- 第15回 現場の先生の反応について意見交換をし、今後の教材作りについて、まとめのレポートを書く

## 授業以外での学習方法

理科の研究会に赴き、教材フェスティバルの様な場で、現場の教師に向かって実演解説をする。そのために、買ってもらえる程の完成度を持った教材を複数個作る。

## 教科書

書籍 1 : すべて、自作のプリントを使用する。

## 参考書

書籍 1 : 授業で文献リストを配布する。

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 (制作した教材の完成度 (40%)  
レポート (30%))

## 2010 Syllabus

|       |                       |      |     |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 科目名   | 教育実践発展研究 d(教材開発論) <b> |      |     |
| クラス   | b                     | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期                    | 定員   |     |
| 履修条件  |                       |      |     |
| クラス指定 | 40                    |      |     |
| 担当者   | 三上 周治                 |      |     |

## テーマ

実践的な教材を開発する能力を育てる。

## 授業の目的（獲得目標）

■獲得目標 各教科各単元の特性を考え、子ども達のレイネンスを意識して、教材を考えること。子どもの身体的特性や、認識のありようも加味して教材を作ろうとすること。 ■内容／授業の進め方 まず、教材や単元の本質的なことについて、何か一つテーマをあげ自分たちで考えて貰う。または、実際に授業内容を自ら経験してもらう。その上で、具体的な教材を作ってもらう。

## 内 容

- 第1回 教材と子どもの認識の関係性に付いて、学生の討論を交えて明らかにする。
- 第2回 社会科／地図上の面積の測定方法を考えたのち、実際に測定し、点格子板を作る。
- 第3回 地図上の山地の形状を予想し粘土で作る。その後、立体等高線模型を作る。
- 第4回 体育／自分たちで、走り幅跳びの実測をしてデータを集める。高速度カメラで撮影し、指導のポイントを話し合う。
- 第5回 自分たちで、走り高飛びの実測をしてデータを集める。高速度カメラで撮影し、指導のポイントを話し合う。
- 第6回 データに基づいて、それぞれの個人到達目標表を作成する。
- 第7回 解剖史を学び、小学校教育の解剖のあり方を考えてもらう。
- 第8回 アジ（肉食系の魚）の解剖手順を学び、臓器各部の学習と観察の観点を学ぶ。
- 第9回 イワシ（草食系の魚）の解剖手順を学び、臓器各部の学習と観察の観点を学ぶ。
- 第10回 解剖で取り出した消化管にシリコンを注入して、シリコンレプリカを作成する。
- 第11回 算数／の教材づくり（）
- 第12回 授業で実際に使える教材を大量（10個以上）に作成する。制作技術を身につける。
- 第13回 自分たちの作った教材の授業を想定した解説書をつくる。
- 第14回 理科の研究会に行き、教材の実演解説をする。
- 第15回 現場の先生の反応について意見交換をし、今後の教材作りについて、まとめのレポートを書く

## 授業以外での学習方法

理科の研究会に赴き、教材フェスティバルの様な場で、現場の教師に向かって実演解説をする。そのために、買ってもらえる程の完成度を持った教材を複数個作る。

## 教科書

書籍 1 : すべて、自作のプリントを使用する。

## 参考書

書籍 1 : 授業で文献リストを配布する。

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 (制作した教材の完成度 (40%)  
レポート (30%))

## 2010 Syllabus

科目名 教育実践発展研究 g(こどもの障害の理解)

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



|       |                          |     |  |
|-------|--------------------------|-----|--|
| 科目名   | 日本語コミュニケーション技術Ⅱ(上級ディベート) |     |  |
| クラス   | 配当回生                     | 3回生 |  |
| 講義期間  | 前期                       | 定員  |  |
| 履修条件  |                          |     |  |
| クラス指定 |                          |     |  |
| 担当者   | 智原 栄一                    |     |  |

### テーマ

ディベートの功罪を踏まえ、論理的コミュニケーションのツールとしていかに活用するか

### 授業の目的（獲得目標）

ディベートの実際を様々な論題を通して習得すると共に、このようなコミュニケーション技術がどのように活用できるかを討議する。これまでにディベートのトレーニングを受けた経験があるかどうかは問わない。建設的な議論を行うための論理的コミュニケーション技術としてディベートをどのように活用するか・その功罪を理解した上でいかに指導するか について実践を通して習得する。

### 内 容

- 第1回 ディベートの導入段階：講座全体の概要 と ディベートの原則（肯定側／否定側の役割とタイムテーブル）
- 第2回 チーム分けとミニディベート1。次回の論題を選考。
- 第3回 ディベートの負の側面：ディベートはなぜ敬遠されるか？ どんなところが傷つけるのか。感情と論理。
- 第4回 ミニディベート2
- 第5回 ディベートを支える技術：ディベートをどう活かすか。資料の探し方と肯定側立論のパターン。説得と納得の構造。
- 第6回 ミニディベート3（ミニディベート2と同じ論題で）。次回の論題を選考。
- 第7回 ディベートの枠組み：よいディベートを行うための論題設定を考える。現状維持の論理。
- 第8回 チーム分けとミニディベート4
- 第9回 ディベート指導用資料とは：良いフローシートの構成とは。ディベートの流れを導くための指導用資料を準備する
- 第10回 ミニディベート5（ミニディベート4と同じ論題）。次回の論題を選考。
- 第11回 ディベートでのやり取り：質の良い反駁や良いQ&Aをするためのドリル。ジャッジの教育的効果。
- 第12回 チーム分けとミニディベート6。次回の論題を選考。
- 第13回 より広い範囲への応用：政策的な問題だけでなく文学作品解釈や哲学的テーマにディベート手法で斬り込む。
- 第14回 ミニディベート7
- 第15回 ディベート指導のあり方：どのような場面でディベートを活かすかをチームごとにプレゼンする。

### 授業以外での学習方法

授業内で提示する課題に対する調査や模擬ディベートの為の立案に積極的に取り組むことが必要である。日常的な問題について視点を変えて検討することを習慣化することが望まれる。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（30%）参加度（50%）備考（）

---

科目名 歌舞伎・浄瑠璃研究 I

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 林 久美子

---

テーマ

歌舞伎について学ぶ

---

### 授業の目的（獲得目標）

京都を代表する文化のひとつとして近世から続いている歌舞伎とは、どのような演劇であるのか、その歴史と作品について知る。

---

### 内 容

- 第1回 歌舞伎と浄瑠璃
  - 第2回 出雲の阿国と遊女歌舞伎
  - 第3回 野郎歌舞伎の始まり
  - 第4回 坂田藤十郎と近松門左衛門
  - 第5回 義太夫狂言
  - 第6回 並木宗輔の作品
  - 第7回 市川団十郎と江戸歌舞伎
  - 第8回 江戸歌舞伎と舞踊
  - 第9回 鶴屋南北の怪談劇
  - 第10回 悪婆もの
  - 第11回 黙阿弥の白浪物
  - 第12回 現代の歌舞伎
  - 第13回 受講生による作品紹介①
  - 第14回 受講生による作品紹介②
  - 第15回 これまでのまとめ
- 

### 授業以外での学習方法

機会があれば劇場に足を運び、無理な場合は、メディアセンターのビデオやテレビ放映、シネマ歌舞伎などで鑑賞してください。脚本の翻刻も多数ありますので、読んでください。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 (授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。発表者はレポートを免除されることがあります。)

科目名 歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文楽（人形浄瑠璃）入門

授業の目的（獲得目標）

歌舞伎と並ぶ上方発祥の古典芸能「文楽」（人形浄瑠璃）について知る

内 容

- 第1回 文楽とはどんな芸能か
- 第2回 浄瑠璃の起源
- 第3回 金平浄瑠璃
- 第4回 近松門左衛門とその作品①
- 第5回 近松門左衛門とその作品②
- 第6回 文楽鑑賞（時期は前後することがあります）
- 第7回 これまでのまとめ
- 第8回 三名作①「仮名手本忠臣蔵」
- 第9回 三名作②「義経千本桜」
- 第10回 三名作③「菅原伝授手習鑑」
- 第11回 その他の名作
- 第12回 近代文学と文楽
- 第13回 受講生による作品解説①
- 第14回 受講生による作品解説②
- 第15回 これまでのまとめ

授業以外での学習方法

文楽公演の鑑賞にできるだけ参加してください。また、興味を持った作品を読んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（70）授業中発表等（0）参加度（30）備考（課題レポートは、発表をもって場合があります。）

---

科目名 現代日本語研究 I

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 伊藤 典文

---

テーマ

編集入門・・・DTPの実践 ワードプロソフト「Word」によるDTPへの第一歩

---

### 授業の目的（獲得目標）

印象的で読みやすい編集・デザイン案を企画できる技術と感覚を養成する。ビジネスDTP「DTP検定Ⅲ種」の合格を目指す。 授業計画 編集は出版界をはじめ多くのマスメディアで必要とされる技術です。編集のプロを目指す人はもちろんですが、ビジネスの世界でも企画書・プレゼンテーション・社内報・PR誌・その他多くの社内文書と編集はさまざまな分野で必要とされています。 本講義は「ワード」による編集入門です。Windowsの世界で最もよく使用されるワードプロソフト「Word」は、単に文章入力だけのソフトではありません。

---

### 内 容

- 第1回 編集DTPとはなにか
  - 第2回 レイアウトの準備
  - 第3回 文字入力と誌面構成
  - 第4回 画像の読み込み
  - 第5回 用紙と色
  - 第6回 デザインのコツ
  - 第7回 出力形態と画像データ
  - 第8回 色使い・フォントの知識
  - 第9回 案内状やチラシの作成・編集の実践
  - 第10回 検定問題・練習
  - 第11回 検定問題・練習
  - 第12回 検定試験のID入手法・申し込み方法
  - 第13回 これまでの復習
  - 第14回 検定を目指す、問題点・課題
  - 第15回 作品制作と提出
- 

### 授業以外での学習方法

「編集」に関する本を読むこと。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (70) 備考 ( )

---

科目名 現代日本語研究Ⅱ

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 その他 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 閉講（開⇒閉）

---

テーマ

プレゼンテーションの仕方 自己発言力と説得力の習得

---

### 授業の目的（獲得目標）

プレゼンテーションとは、情報伝達の一つで、聴衆に対して作品、計画提案、研究成果、開発商品などの情報を、口頭や機器を用いて説明し、説得、売り込みをはかる行為です。簡単に言えば、自分が発見した事実や自分の意見を、他の人々にいかに伝えるか、という技術です。社会人としてますます必要とされる技術です。本講義では、時事問題を取り上げます。社会、政治、経済、金融、教育、学芸、芸能、医療、環境と、さまざまな分野で起きつつある事件や動向の中から、自分の関心と興味のあるテーマを選んで、それをひとつの成果として発表して

---

### 内 容

- 第1回 プレゼンテーションとは何か
  - 第2回 時事・社会問題からテーマを選ぶ
  - 第3回 テーマ1 質疑と討議
  - 第4回 テーマ2 質疑と討議
  - 第5回 情報収集と分析
  - 第6回 プレゼンソフト「パワーポイント」入門
  - 第7回 パワーポイント実践1
  - 第8回 パワーポイント実践2
  - 第9回 パワーポイント実践3
  - 第10回 グループによるプレゼンテーション
  - 第11回 グループ発表
  - 第12回 グループ発表
  - 第13回 グループ発表
  - 第14回 グループ発表
  - 第15回 プレゼンテーションの総括
- 

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書



---

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 社会福祉援助技術〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 40

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

**テーマ**

保育者として社会福祉援助技術を用いて、子どもや親・家族の支援に活用できる実践力をつける。

**授業の目的（獲得目標）**

社会福祉援助技術の基本的な体系、発展的経緯、援助関係の基本原則を学ぶとともに、ロールプレイなどの体験を通して、信頼関係を築くコミュニケーション技術を習得する。

**内 容**

- 第1回 保育士に求められるソーシャルワークとは何か。
- 第2回 ソーシャルワークの体系
- 第3回 ソーシャルワークの発展的経緯
- 第4回 ソーシャルワークの活用される場と援助過程
- 第5回 援助関係の基本原則
- 第6回 自己理解
- 第7回 他者理解
- 第8回 保育現場での相談
- 第9回 コミュニケーションスキル1
- 第10回 コミュニケーションスキル2
- 第11回 コミュニケーションスキル3
- 第12回 他機関・他施設との連携—情報整理・分析
- 第13回 他機関・他施設との連携—意見交換・情報伝達
- 第14回 虐待ケースへの対応、支援効果の測定
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

日常生活における自分のコミュニケーションを振り返り、コミュニケーション技術を意識して活用するなどの体験を多く持つようにする。

**教科書****参考書****成績評価**

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 社会福祉援助技術〈b〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 40

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

**テーマ**

保育者として社会福祉援助技術を用いて、子どもや親・家族の支援に活用できる実践力をつける。

**授業の目的（獲得目標）**

社会福祉援助技術の基本的な体系、発展的経緯、援助関係の基本原則を学ぶとともに、ロールプレイなどの体験を通して、信頼関係を築くコミュニケーション技術を習得する。

**内 容**

第1回 保育士に求められるソーシャルワークとは何か。

第2回 ソーシャルワークの体系

第3回 ソーシャルワークの発展的経緯

第4回 ソーシャルワークの活用される場と援助過程

第5回 援助関係の基本原則

第6回 自己理解

第7回 他者理解

第8回 保育現場での相談

第9回 コミュニケーションスキル1

第10回 コミュニケーションスキル2

第11回 コミュニケーションスキル3

第12回 他機関・他施設との連携—情報整理・分析

第13回 他機関・他施設との連携—意見交換・情報伝達

第14回 虐待ケースへの対応、支援効果の測定

第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

日常生活における自分のコミュニケーションを振り返り、コミュニケーション技術を意識して活用するなどの体験を多く持つようにする。

**教科書****参考書****成績評価**

試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 学校調査 I (国内)

クラス 配当回生 3 回生

講義期間 集中 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 加用 美代子. 磯田 三津子. 神谷 栄司. 口野 隆史. 宮嶋 邦明. 森本 美絵. 八木 英二

テーマ

保育園・幼稚園における調査と報告

授業の目的 (獲得目標)

以下のような保育園・幼稚園を調査し、考察を深める。 1) 特色のある実践を行っている保育園・幼稚園 2) 公開研究をしている保育園・幼稚園

内 容

第 1 回 調査対象選定

第 2 回 調査対象調整

第 3 回 調査対象事前調査 1

第 4 回 調査対象事前調査 2

第 5 回 調査対象事前調査 3

第 6 回 実地調査 1

第 7 回 実地調査 2

第 8 回 実地調査 3

第 9 回 実地調査 4

第 10 回 実地調査 5

第 11 回 まとめと振り返り 1

第 12 回 まとめと振り返り 2

第 13 回 まとめと振り返り 3

第 14 回 まとめと振り返り 4

第 15 回 学校調査 1 (保育園・幼稚園) まとめ

授業以外での学習方法

保育や幼児教育に関する時事ニュースに関心をもつ。関心のある事柄について調査する。 \* 他の発表者の発表内容に関しても興味を持つ。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 学校調査Ⅱ（国内）

クラス 配当回生 3回生

講義期間 集中 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 小寺 隆幸. 池田 修. 上中 良子. 倉持 祐二. 生源寺 孝浩. 三山 岳

テーマ

特定の学校施設を選び、提示されたテーマを持ってグループを構成し仮説に基づく定点観測の機会から学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

調査対象についての考察を深める。 調査対象： 1) ユニークな学校づくりをしている学校 2) 恩師、雑誌や本などで魅力的な実践をしている先生 3) 公開研究をしている学校

内 容

第1回 調査対象選定

第2回 調査対象調整

第3回 調査対象事前調査1

第4回 調査対象事前調査2

第5回 調査対象事前調査3

第6回 実地調査1

第7回 実地調査2

第8回 実地調査3

第9回 実地調査4

第10回 実地調査5

第11回 まとめと振り返り1

第12回 まとめと振り返り2

第13回 まとめと振り返り3

第14回 まとめと振り返り4

第15回 学校調査2 総括

授業以外での学習方法

\* 教育に関する時事ニュースに関心を持って調べる。 \* 他の発表者の発表内容に関しても興味を持つ。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（30%）参加度（0%）備考（）



## 2010 Syllabus

---

科目名 学校調査Ⅲ（海外）

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 その他 定員 40

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 閉講（開⇒閉）

---

テーマ

カナダの小学校を参観する

---

**授業の目的（獲得目標）**

海外の学校を見学する。授業のようす、子どもたちの生活、教師の仕事ぶりについて見聞を広め、日本の学校教育や教育実践と対比し、それぞれの学校教育の特徴、違う点や共通点について理解を深める。今年度は2011年の2月に、本学の提携校オカナガン大学のあるカナダBC州Vernonという町の小学校を訪ねる。おおよそ1週間間に、小学校を訪問し、授業を参観するとともに、先生や子どもたちと交流する予定である。また小学生のいる家庭にホームステイし、子どもたちの生活や親子関係のようすを知り、カナダの家庭の雰囲気に触れることも予

---

**内 容**

第1回 集中講義的な科目なので、詳細なスケジュールは受講者に別に提示する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

**授業以外での学習方法**

事前の学習の内容はガイダンス時に説明するが、英語の学習だけは各自で計画的にすすめることが強く望まれる。

---

**教科書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (60) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |           |
|-------|-----------|
| 科目名   | 学校調査Ⅳ（海外） |
| クラス   | 配当回生 3回生  |
| 講義期間  | その他 定員 40 |
| 履修条件  |           |
| クラス指定 |           |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）   |

テーマ

カナダの小学校を参観する

**授業の目的（獲得目標）**

海外の学校を見学する。授業のようす、子どもたちの生活、教師の仕事ぶりについて見聞を広め、日本の学校教育や教育実践と対比し、それぞれの学校教育の特徴、違う点や共通点について理解を深める。今年度は2011年の2月に、本学の提携校オカナガン大学のあるカナダBC州Vernonという町の小学校を訪ねる。おおよそ1週間間に、小学校を訪問し、授業を参観するとともに、先生や子どもたちと交流する予定である。また小学生のいる家庭にホームステイし、子どもたちの生活や親子関係のようすを知り、カナダの家庭の雰囲気に触れることも予

**内 容**

第1回 集中講義的な科目なので、詳細なスケジュールは受講者に別に提示する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

**授業以外での学習方法**

事前の学習の内容はガイダンス時に説明するが、英語の学習だけは各自で計画的にすすめることが強く望まれる。

**教科書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (60) 備考 ( )

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅲ <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 生源寺 孝浩    |      |     |

### テーマ

子どもたちが賢くなる営みー自然を中心に（Ⅲ）卒業論文作成に向けて（1）

### 授業の目的（獲得目標）

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を行い卒業論文の意義と目的の理解とテーマの決定ならびに中間発表を行うことができるようにする。

### 内 容

- 第1回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定①
- 第2回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定②
- 第3回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定③
- 第4回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定④
- 第5回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導①
- 第6回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導②
- 第7回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③
- 第8回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導④
- 第9回 順次、各自の研究テーマについて発表①
- 第10回 順次、各自の研究テーマについて発表②
- 第11回 順次、各自の研究テーマについて発表③
- 第12回 順次、各自の研究テーマについて発表④
- 第13回 中間発表にむけての指導と中間発表後、執筆要領、留意事項などについて指導①
- 第14回 中間発表にむけての指導と中間発表後、執筆要領、留意事項などについて指導②
- 第15回 中間発表にむけての指導と中間発表後、執筆要領、留意事項などについて指導③

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（60）参加度（40）備考（）

科目名 教育演習Ⅲ <b>

クラス b 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員 20

#### 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 池田 修

#### テーマ

卒業論文作成に向けて

#### 授業の目的（獲得目標）

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導

#### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方。テーマの絞り方。討論・講評し、最終テーマを決定させる。文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導。

第3回 卒論進捗報告（序論）

第4回 卒論進捗報告（序論）

第5回 卒論進捗報告（序論）

第6回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第7回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第8回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第9回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第10回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第11回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第12回 卒論中間発表会 1

第13回 卒論中間発表会 2

第14回 卒論中間発表会 3

第15回 総括

#### 授業以外での学習方法

卒業研究のテーマに関して調査研究を進める。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（60%）参加度（20%）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅲ <c> |      |     |
| クラス   | c         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 倉持 祐二     |      |     |

### テーマ

卒業論文作成に向けて

### 授業の目的（獲得目標）

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞りこみ、論文にまとめる。

### 内 容

- 第1回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ①
- 第2回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ②
- 第3回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ③
- 第4回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導①
- 第5回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導②
- 第6回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③
- 第7回 各自の研究テーマについての発表①
- 第8回 各自の研究テーマについての発表②
- 第9回 各自の研究テーマについての発表③
- 第10回 中間発表にむけての指導①
- 第11回 中間発表にむけての指導②
- 第12回 中間発表にむけての指導③
- 第13回 中間発表後、執筆要領、留意事項など細部について指導する①
- 第14回 中間発表後、執筆要領、留意事項など細部について指導する②
- 第15回 中間発表後、執筆要領、留意事項など細部について指導する③

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅲ <d> |      |     |
| クラス   | d         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 口野 隆史     |      |     |

### テーマ

卒業論文のテーマ・方法を明確にし、卒業論文作成の態勢を整える

### 授業の目的（獲得目標）

これまで学内外で学習してきたことから、自らの研究テーマ、自らの研究の独自性についてメンバーと共に明らかにしていく。それに従い、どのような方法で調査・研究を進めればよいか同様に明らかにしていく。さらに、調査・研究によって得られた知見、資料、データをどのように分析・総合すればよいか検討する。これらことを通じ、研究の方法および自らのテーマに関する内容について理解を深める。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション 授業の計画（学生各自の卒業論文作成に向けての前期及びこの1年の計画）についての理解
- 第2回 各自の研究の進捗状況（研究の動機、テーマ、特色など）の報告及びその検討①
- 第3回 各自の研究の進捗状況（研究の動機、テーマ、特色など）の報告及びその検討②
- 第4回 各自の研究の進捗状況（研究の動機、テーマ、特色など）の報告及びその検討③
- 第5回 各自の研究方法の検討①
- 第6回 各自の研究方法の検討②
- 第7回 各自の研究方法の検討③
- 第8回 中間まとめ（研究のテーマ、方法などに関する確認）
- 第9回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集①
- 第10回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集②
- 第11回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集③
- 第12回 調査のデータ及び文献資料等の分析①
- 第13回 調査のデータ及び文献資料等の分析②
- 第14回 調査のデータ及び文献資料等の分析③
- 第15回 まとめ 各自ゼミ内発表及び中間発表に向けての課題整理

### 授業以外での学習方法

各自で、また小グループで研究テーマ、方法、内容について学習を進める。他のゼミの学生とも、また他大学の学生とも交流し、自らの研究の特徴について考える。

### 教科書



**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（授業中、他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。）

|             |           |      |     |
|-------------|-----------|------|-----|
| 科目名         | 教育演習Ⅲ <e> |      |     |
| クラス         | e         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間        | 前期        | 定員   | 20  |
| <b>履修条件</b> |           |      |     |
| クラス指定       | 希望制       |      |     |
| 担当者         | 上中 良子     |      |     |

**テーマ**

人格の発達と表現の関係を研究する

**授業の目的（獲得目標）**

発達及び内面の充実と表現とのかかわりを、さまざまな角度から深く追求する研究力を身につけ、主張のある論文にまとめる。（自らのテーマに沿って研究視点を深め、内容を主張のあるものにまとめて〔オリジナルな視点〕で発表を行う。討議を重ねる中で各自の研究の到達点と課題を明らかにし、研究活動第三段階に入る。）○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導 ○順次、各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導 ○中間発表後、執筆

**内 容**

- 第1回 「教育演習Ⅰ」「教育演習Ⅱ」の研究成果の交流&各自の研究計画発表  
 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①  
 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②  
 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③  
 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④  
 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤  
 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥  
 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦  
 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧  
 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨  
 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩  
 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪  
 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫  
 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬  
 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

**授業以外での学習方法**

（学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加…やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、子どもの発達と美術教育・生活綴方教育及び教育の本質に関する論文（実績のある大学のそれらに関わる論文集）や実践（教育研究会での報告集や『子どもと美術』『美育文化』『生活綴方』などの雑誌にも数多く掲載されている）を読む。○恒常的に現場実践と子ども

もの表現から学び、整理する。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（全回出席を前提とする）

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅲ < f > |      |     |
| クラス   | f           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期          | 定員   | 20  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 | 希望制         |      |     |
| 担当者   | 磯田 三津子      |      |     |

## テーマ

卒業論文作成に向けて

## 授業の目的（獲得目標）

卒業論文の作成に向けて、テーマを設定する。テーマにしたがって文献を収集し、卒業論文の構成を構想する。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文の書き方（1）
- 第3回 卒業論文の書き方（2）
- 第4回 卒業論文の進展状況についての報告—研究の目的（1）
- 第5回 卒業論文の進展状況についての報告—研究の目的（2）
- 第6回 卒業論文の進展状況についての報告—研究の目的（3）
- 第7回 卒業論文の進展状況についての報告—研究の目的（4）
- 第8回 卒業論文の進展状況についての報告—研究の目的（5）
- 第9回 卒業論文の進展状況についての報告—先行研究（1）
- 第10回 卒業論文の進展状況についての報告—先行研究（3）
- 第11回 卒業論文の進展状況についての報告—文献の検討（1）
- 第12回 卒業論文の進展状況についての報告—文献の検討（2）
- 第13回 卒業論文の進展状況についての報告—調査について（1）
- 第14回 卒業論文の進展状況についての報告—調査について（2）
- 第15回 卒業論文の進展状況についての報告—まとめ

## 授業以外での学習方法

卒業論文の作成に向けて、文献を収集する。調査対象を焦点化し、調査を進める。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（60）授業中発表等（0）参加度（40）備考（0）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅲ <g> |      |     |
| クラス   | g         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 宮嶋 邦明     |      |     |

### テーマ

卒業論文作成に向けて

### 授業の目的（獲得目標）

卒業論文を全員が書き上げることを目指す。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒論進捗報告（構想）
- 第4回 卒論進捗報告（構想）
- 第5回 卒論進捗報告（構想）
- 第6回 卒論進捗報告（構想）
- 第7回 卒論進捗報告（先行研究）
- 第8回 卒論進捗報告（先行研究）
- 第9回 卒論進捗報告（先行研究）
- 第10回 卒論進捗報告（先行研究）
- 第11回 卒論進捗報告（本論・調査内容）
- 第12回 卒論進捗報告（本論・調査内容）
- 第13回 卒論進捗報告（本論・調査内容）
- 第14回 卒論進捗報告（本論・調査内容）
- 第15回 まとめと夏期課題

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅲ <h> |      |     |
| クラス   | h         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 加用 美代子    |      |     |

**テーマ**

卒業研究を進める

**授業の目的（獲得目標）**

研究テーマを決定し、課題に見合った研究方法を身につけつつ研究を進める。

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 資料収集・結果の整理について①
- 第3回 資料収集・結果の整理について②
- 第4回 グループ調査結果の報告と討論①
- 第5回 グループ調査結果の報告と討論②
- 第6回 論文作成の要領と諸注意
- 第7回 各自の研究テーマの報告と検討
- 第8回 各自の研究テーマの報告と検討
- 第9回 各自の研究テーマの報告と検討
- 第10回 各自の研究テーマの報告と検討
- 第11回 各自の研究進捗状況の報告と討論
- 第12回 各自の研究進捗状況の報告と討論
- 第13回 各自の研究進捗状況の報告と討論
- 第14回 各自の研究進捗状況の報告と討論
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法****教科書****参考書****成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅲ <j> |      |     |
| クラス   | j         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 神谷 栄司     |      |     |

**テーマ**

卒業論文作成に向けて

**授業の目的（獲得目標）**

1. 卒業論文に必要な共通項目について理解を深める。 2. 各学生の課題意識を整理できるように援助する。 3. 卒業論文の中間発表を行う。

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文の必要条件について
- 第3回 各人の課題意識の発表①
- 第4回 各人の課題意識の発表②
- 第5回 各人の課題意識の発表③
- 第6回 課題意識の発表にかかわる指導・助言①
- 第7回 課題意識の発表にかかわる指導・助言②
- 第8回 各人のテーマの発表①
- 第9回 各人のテーマの発表②
- 第10回 各人のテーマの発表③
- 第11回 テーマについての個別指導①
- 第12回 テーマについての個別指導②
- 第13回 中間発表①
- 第14回 中間発表②
- 第15回 中間発表の事後指導

**授業以外での学習方法**

卒業論文作成に向けた個人作業

**教科書****参考書****成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 (1. 授業中発表の評価は中間

発表を中心とする。 2. その他の発表は参加度に加える。)



|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅳ〈a〉 |      |     |
| クラス   | a        | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期       | 定員   | 20  |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 | 希望制      |      |     |
| 担当者   | 生源寺 孝浩   |      |     |

### テーマ

子どもたちが賢くなる営みー自然を中心に（Ⅳ）卒業論文作成に向けて（2）

### 授業の目的（獲得目標）

卒業研究にむけての各自のテーマに応じた個別指導を行い、期日までに卒業論文を作成することができるようにする。

### 内 容

- 第1回 順次、各自の研究テーマについて発表①
- 第2回 順次、各自の研究テーマについて発表②
- 第3回 順次、各自の研究テーマについて発表③
- 第4回 順次、各自の研究テーマについて発表④
- 第5回 執筆要領、留意事項などについて指導①
- 第6回 執筆要領、留意事項などについて指導②
- 第7回 論文作成にむけての個別指導①
- 第8回 論文作成にむけての個別指導②
- 第9回 論文作成にむけての個別指導③
- 第10回 論文作成にむけての個別指導④
- 第11回 論文作成にむけての個別指導⑤
- 第12回 各自の研究を発表し講評、学び合う①
- 第13回 各自の研究を発表し講評、学び合う②
- 第14回 各自の研究を発表し講評、学び合う③
- 第15回 各自の研究を発表し講評、学び合う④

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（60）参加度（40）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅳ <b> |      |     |
| クラス   | b         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 池田 修      |      |     |

## テーマ

卒業論文を完成させる

## 授業の目的（獲得目標）

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を受け、卒業論文を完成する。

## 内 容

- 第1回 卒論進捗報告（結論）
- 第2回 卒論進捗報告（結論）
- 第3回 卒論進捗報告（結論）
- 第4回 卒論中間報告会
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論中間報告会
- 第7回 卒論ドラフト相互チェック
- 第8回 卒論ドラフト相互チェック
- 第9回 卒論ドラフト相互チェック
- 第10回 卒論最終報告（全体）
- 第11回 卒論最終報告（全体）
- 第12回 卒論最終報告（全体）
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

## 授業以外での学習方法

卒業研究のテーマについての調査研究。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（60%）参加度（20%）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅳ <c> |      |     |
| クラス   | c         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 倉持 祐二     |      |     |

### テーマ

卒業論文作成に向けて

### 授業の目的（獲得目標）

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞りこみ、論文にまとめる。

### 内 容

- 第1回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定する①
- 第2回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定する②
- 第3回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定する③
- 第4回 文献や資料等の検索・収集についての個別指導①
- 第5回 文献や資料等の検索・収集についての個別指導②
- 第6回 文献や資料等の検索・収集についての個別指導③
- 第7回 論文作成にむけての個別指導①
- 第8回 論文作成にむけての個別指導②
- 第9回 論文作成にむけての個別指導③
- 第10回 論文作成にむけての個別指導④
- 第11回 論文作成にむけての個別指導⑤
- 第12回 論文作成にむけての個別指導⑥
- 第13回 論文作成にむけての個別指導⑦
- 第14回 論文作成にむけての個別指導⑧
- 第15回 論文作成にむけての個別指導⑨

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅳ <d> |      |     |
| クラス   | d         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 口野 隆史     |      |     |

### テーマ

自らの研究をまとめ卒業論文作成し、自らの研究成果を発表する

### 授業の目的（獲得目標）

これまで学内外で学習してきたことをまとめ、卒業論文を作成する。また、自らの研究の内容を適切に伝えることができるようにする。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション 授業計画（卒業論文作成及び発表を含めた後期の計画）の理解
- 第2回 研究結果の検討（結果の考察）①
- 第3回 研究結果の検討（結果の考察）②
- 第4回 研究結果の検討（結果の考察）③
- 第5回 研究結果の検討（考察から結論へ）①
- 第6回 研究結果の検討（考察から結論へ）②
- 第7回 研究結果の検討（考察から結論へ）③
- 第8回 中間発表（章立て、研究概要）
- 第9回 卒業論文執筆①
- 第10回 卒業論文執筆②
- 第11回 卒業論文執筆③
- 第12回 卒業論文執筆④
- 第13回 卒業論文提出
- 第14回 卒業論文講評
- 第15回 まとめ 4年間の学びを振り返って

### 授業以外での学習方法

各自で、また小グループで研究テーマ、方法、内容について学習を進める。他のゼミの学生とも、また他大学の学生とも交流し、自らの研究の特徴について考える。自らの研究を上手く伝える工夫を考える。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（授業中、他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。）

|             |           |      |     |
|-------------|-----------|------|-----|
| 科目名         | 教育演習Ⅳ <e> |      |     |
| クラス         | e         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間        | 後期        | 定員   | 20  |
| <b>履修条件</b> |           |      |     |
| クラス指定       | 希望制       |      |     |
| 担当者         | 上中 良子     |      |     |

**テーマ**

人格の発達と表現の関係を研究する

**授業の目的（獲得目標）**

発達及び内面の充実と表現とのかかわりを、さまざまな角度から深く追求する研究力を身につけ、主張のある論文にまとめる。（『教育演習Ⅲ』で展開した研究視点を本格的に深め、まとめて発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の研究の到達点と課題を明らかにし、研究まとめ最終段階に入る。）○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導 ○順次、各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導 ○中間発表後、執筆要領、留意事項など細部に

**内 容**

- 第1回 『教育演習Ⅲ』の研究成果の交流&各自の研究最終まとめ計画発表
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑮

**授業以外での学習方法**

（学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加…やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、子どもの発達と美術教育・生活綴方教育及び教育の本質に関する論文（実績のある大学のそれらに関わる論文集）や実践（教育研究会での報告集や『子どもと美術』『美育文化』『生活綴方』などの雑誌にも数多く掲載されている）を読む。○恒常的に現場実践と子ども

もの表現から学び、整理する。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（全回出席を前提とする）

科目名 教育演習Ⅳ < f >

クラス f 配当回生 4回生

講義期間 後期前半 定員 20

#### 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 磯田 三津子

#### テーマ

卒業論文の作成

#### 授業の目的（獲得目標）

卒業論文の章構成をする。収集した文献、あるいは調査資料を考察し、卒業論文としてまとめる。

#### 内 容

- 第1回 卒業論文の進展状況の報告—結論について（1）
- 第2回 卒業論文の進展状況の報告—結論について（2）
- 第3回 卒業論文の進展状況の報告—結論について（3）
- 第4回 卒業論文の進展状況の報告—全体（1）
- 第5回 卒業論文の進展状況の報告—全体（2）
- 第6回 卒業論文の進展状況の報告—全体（3）
- 第7回 卒業論文の進展状況の報告—全体（4）
- 第8回 卒業論文の進展状況の報告—全体（5）
- 第9回 卒業論文の進展状況の報告—提出に向けて（1）
- 第10回 卒業論文の進展状況の報告—提出に向けて（2）
- 第11回 卒業論文の進展状況の報告—提出に向けて（3）
- 第12回 卒業論文の発表と意見交換（1）
- 第13回 卒業論文の発表と意見交換（2）
- 第14回 卒業論文の発表と意見交換（3）
- 第15回 まとめ

#### 授業以外での学習方法

卒業論文を書きすすめる。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（80）授業中発表等（10）参加度（10）備考（）



|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅳ <g> |      |     |
| クラス   | g         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 宮嶋 邦明     |      |     |

### テーマ

卒業論文作成に向けて

### 授業の目的（獲得目標）

卒業論文を全員が書き上げることを目指す。

### 内 容

- 第1回 卒論進捗報告（全体概要）
- 第2回 卒論進捗報告（全体概要）
- 第3回 卒論進捗報告（全体概要）
- 第4回 卒論進捗報告（全体概要）
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告（全体）
- 第7回 卒論最終報告（全体）
- 第8回 卒論最終報告（全体）
- 第9回 卒論最終報告（全体）
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭諮問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 まとめと「卒論集」の作成

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（）

科目名 教育演習Ⅳ〈h〉

クラス h 配当回生 4回生

講義期間 後期 定員 20

**履修条件**

クラス指定 希望制

担当者 加用 美代子

**テーマ**

卒業研究を進め、論文完成をめざす

**授業の目的（獲得目標）**

課題に見合った研究方法と論文の書き方を身につけ、卒業論文を完成させる。

**内 容**

- 第1回 論文執筆上の諸注意
- 第2回 卒論進捗状況の報告と討論
- 第3回 卒論進捗状況の報告と討論
- 第4回 卒論進捗状況の報告と討論
- 第5回 卒論進捗状況の報告と討論
- 第6回 卒論進捗状況の報告と討論
- 第7回 卒論中間報告会
- 第8回 卒論中間報告会
- 第9回 卒論進捗状況の報告と討論
- 第10回 卒論進捗状況の報告と討論
- 第11回 卒論進捗状況の報告と討論
- 第12回 卒論最終報告
- 第13回 卒論最終報告
- 第14回 卒論最終報告
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 教育演習Ⅳ <j> |      |     |
| クラス   | j         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 20  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 神谷 栄司     |      |     |

### テーマ

卒業論文の作成

### 授業の目的（獲得目標）

1. 卒業論文作成過程で各人の研究内容に即した研究方法を深める。
2. 卒業論文を賛成する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文のテーマ、章立て等の発表①
- 第3回 卒業論文のテーマ、章立て等の発表②
- 第4回 卒業論文のテーマ、章立て等の発表③
- 第5回 卒業論文のテーマ、章立て等の発表④
- 第6回 卒業論文のテーマ、章立て等の発表⑤
- 第7回 卒業論文のテーマ、章立て等の発表⑥
- 第8回 卒業論文個別相談①
- 第9回 卒業論文個別相談②
- 第10回 卒業論文個別相談③
- 第11回 卒業論文個別相談④
- 第12回 卒業論文個別相談⑤
- 第13回 卒業論文個別相談⑥
- 第14回 卒業論文の発表会①
- 第15回 卒業論文の発表会②

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（60）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（40）備考（1. ここでいう試験とは卒業論文のことである。 2. 参加度にはテーマ・章立て等の発表も含む。）

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究〈a〉

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 生源寺 孝浩

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究〈b〉

クラス b 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 卒業研究 <c>

---

クラス c 配当回生 4回生

---

講義期間 集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 倉持 祐二

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究 <d>

クラス d 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究 <e>

クラス e

配当回生 4回生

講義期間 集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上中 良子

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



|       |        |      |     |
|-------|--------|------|-----|
| 科目名   | 卒業研究   |      |     |
| クラス   | f      | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 集中     | 定員   |     |
| 履修条件  |        |      |     |
| クラス指定 |        |      |     |
| 担当者   | 磯田 三津子 |      |     |

### テーマ

卒業論文の作成

### 授業の目的（獲得目標）

卒業論文で取り組みたい課題を明らかにする。論文の書き方を習得する。研究の方法を理解する。卒業論文を完成させる。

### 内 容

- 第1回 卒業論文の進展状況の報告—課題意識の明確化（1）
- 第2回 卒業論文の進展状況の報告—課題意識の明確化（2）
- 第3回 卒業論文の進展状況の報告—課題意識の明確化（3）
- 第4回 卒業論文の進展状況の報告—先行研究の検討（1）
- 第5回 卒業論文の進展状況の報告—先行研究の検討（2）
- 第6回 卒業論文の進展状況の報告—先行研究の検討（3）
- 第7回 卒業論文の進展状況の報告—文献の検討と考察（1）
- 第8回 卒業論文の進展状況の報告—文献の検討と考察（2）
- 第9回 卒業論文の進展状況の報告—文献の検討と考察（3）
- 第10回 卒業論文の進展状況の報告—調査について（1）
- 第11回 卒業論文の進展状況の報告—調査について（2）
- 第12回 卒業論文の進展状況の報告—調査について（3）
- 第13回 卒業論文の進展状況の報告—文献の検討と調査のまとめ（1）
- 第14回 卒業論文の進展状況の報告—文献の検討と調査のまとめ（2）
- 第15回 卒業論文の進展状況の報告—文献の検討と調査のまとめ（3）
- 第16回 卒業論文の進展状況の報告—結論について（1）
- 第17回 卒業論文の進展状況の報告—結論について（2）
- 第18回 卒業論文の進展状況の報告—結論について（3）
- 第19回 卒業論文の進展状況の報告—全体（1）
- 第20回 卒業論文の進展状況の報告—全体（2）
- 第21回 卒業論文の進展状況の報告—全体（3）
- 第22回 卒業論文の進展状況の報告—全体（4）
- 第23回 卒業論文の進展状況の報告—全体（5）
- 第24回 卒業論文の進展状況の報告—提出に向けて（1）
- 第25回 卒業論文の進展状況の報告—提出に向けて（2）
- 第26回 卒業論文の進展状況の報告—提出に向けて（3）

- 第 27 回 卒業論文の発表と意見交換（1）  
第 28 回 卒業論文についての発表と意見交換（2）  
第 29 回 卒業論文の発表と意見交換（3）  
第 30 回 まとめ
- 

#### **授業以外での学習方法**

卒業論文を書きすすめる。

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（80）授業中発表等（0）参加度（10）備考（）

科目名 卒業研究〈g〉

クラス g

配当回生 4回生

講義期間 集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究〈h〉

クラス h 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 加用 美代子

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究 < i >

クラス i 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究 <j>

クラス j

配当回生 4回生

講義期間 集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 教育実習（小学校）Ⅰ

クラス 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件 以下の科目の内、13科目以上を修得済みであること。教職入門、教育原論、教育心理学、児童心理学、教育制度論、教育課程研究、教科教育法（国語）、教科教育法（社会）、教科教育法（算数）、教科教育法（理科）、教科教育法（生活）、教科教育法（音楽）、教科教育法（図画工作）、教科教育法（家庭）、教科教育法（体育）、道徳教育の研究、特別活動論、教育方法の研究、生徒・進路指導、教育相談

クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習

### 授業の目的（獲得目標）

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

### 内 容

- 第1回 学級担任の児童に対する願いをつかむ
- 第2回 児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする
- 第3回 学校の一日のくらしの内容をつかむ
- 第4回 学習指導案の基本的な内容と様式を知る
- 第5回 教科教育の役割と具体的な内容をつかむ
- 第6回 教科外教育の役割と具体的な内容をつかむ
- 第7回 児童相互の関係に目をむける
- 第8回 指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ①
- 第9回 指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ②
- 第10回 指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ③
- 第11回 指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ④
- 第12回 児童の新しい面を見いだすように努める
- 第13回 児童会の組織や実際のとりくみについて知る
- 第14回 学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ
- 第15回 実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする

### 授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。）



## 2010 Syllabus

科目名 教育実習（小学校）Ⅱ

クラス 配当回生 4回生

講義期間 集中 定員

履修条件 以下の科目の内、13科目以上を修得済みであること。教職入門、教育原論、教育心理学、児童心理学、教育制度論、教育課程研究、教科教育法（国語）、教科教育法（社会）、教科教育法（算数）、教科教育法（理科）、教科教育法（生活）、教科教育法（音楽）、教科教育法（図画工作）、教科教育法（家庭）、教科教育法（体育）、道徳教育の研究、特別活動論、教育方法の研究、生徒・進路指導、教育相談

クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習（教育実習 事前・事後指導）

### 授業の目的（獲得目標）

小学校実習の事前・本実習・事後の過程をイメージしながら、小学校教育の役割や実際の教育課程の理解、指導者としての心構えや意欲を高める。そのうえで、現場での実習を行い、教師への志を確かなものにする。

### 内 容

第1回 教育実習で学ぶこと（実習校訪問の報告、教育実習の意義と心構え）

第2回 教育実習 Q&A

第3回 学校の役割（実習校の教育方針、年間行事）

第4回 学校の役割（実習校の教育課程の特長、人権教育）

第5回 教師の仕事（教育職員免許法、教員の適性と資質）

第6回 教師の仕事（教育に関する法律）

第7回 授業実習の基礎・基本（授業とは何か）

第8回 授業実習の基礎・基本（指導法について）

第9回 授業実習の基礎・基本（授業観察のポイント）

第10回 現代子ども理解の基礎・基本（人間関係調整能力の育成について）

第11回 現代子ども理解の基礎・基本（学級づくりについて）

第12回 現代子ども理解の基礎・基本（特別な教育を必要とする子どもの理解）

第13回 教育実習直前ガイダンス

第14回 実習簿・教育実習成績報告票・指導教諭総評をもとに、実習まとめレポートを作成する。

第15回 次年度実習生の2回生との合同の教育実習反省会を実施し、実習生の教育実習報告及び質疑応答を行う。

### 授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

### 教科書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。）

科目名 文化政策基礎演習Ⅱ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策基礎演習Ⅱ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策基礎演習Ⅲ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策基礎演習Ⅲ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策基礎演習Ⅳ〈Z B〉

クラス Z B

配当回生 2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

都市的文化装置である文化施設のマネジメントに関する研究

授業の目的（獲得目標）

前期に引き続き、都市的文化装置としての図書館、美術館・博物館、劇場・ホールなどの意義とマネジメントの現状、課題について学ぶ

内 容

第1回 夏休みの課題の提出と報告

第2回 夏休み中の新聞スクラップの報告

第3回 教科書「新版 図書館の発見」第1章を読む。担当者が発表し討議をする。以下同じ

第4回 教科書第2章を読む

第5回 教科書第3章を読む

第6回 教科書第4章を読む

第7回 教科書第5章を読む

第8回 教科書第6章を読む

第9回 教科書第7章を読む

第10回 滋賀県立図書館を見学する

第11回 図書館見学についてのレポート作成し、報告する

第12回 劇場・ホールに関する文献資料を読んで、現状、課題を把握する

第13回 同上

第14回 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの見学とオペラ見学

第15回 びわ湖ホールに関するレポートの作成と報告、まとめ

授業以外での学習方法

前期に引き続き新聞を読んでスクラップし、新聞記事の目次を作る

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

---

科目名 文化政策基礎演習Ⅳ〈Z d〉

---

クラス Z d

配当回生 4回生

---

講義期間 後期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 河野 良平

---

テーマ

建築・インテリア等の見学計画とその実施

---

### 授業の目的（獲得目標）

テーマに沿った建物見学に加え、各班内でしっかりと打合せし合理的でスムーズな見学計画をまとめることを目標とする。4、5人一班で5班とし（班長を1人選出）、各班一回ずつ見学計画を立てる。各班とも見学の予定表を責任持って作成し、事前にゼミで報告する。見学のテーマ・日程・時間・場所・予算・見学する建物についての説明等について全員で確認する。見学後のゼミでは問題点や改善点について班の全員が意見を述べること。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス、班決め

第2回 見学計画1班発表

第3回 見学計画1班修正、2班発表

第4回 見学1班

第5回 見学1班反省、見学計画2班修正、3班発表

第6回 見学2班

第7回 見学2班反省、見学計画3班修正、4班発表

第8回 見学3班

第9回 見学3班反省、見学計画4班修正、5班発表

第10回 見学4

第11回 見学4班反省、見学5修正

第12回 見学5

第13回 5班反省、授業

第14回 建築に関する授業

第15回 授業のまとめ、来年度への展望

---

### 授業以外での学習方法

授業内で適宜指示します。

---

教科書

参考書

---



## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 文化政策基礎演習Ⅳ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化経済論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 生活過程論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 企業経営論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）





科目名 非営利組織論 I

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 文化産業論〈Z〉

---

クラス Z

配当回生

---

講義期間 後期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 中谷 武雄

---

テーマ

文化産業論の展開と到達点

---

### 授業の目的（獲得目標）

獲得目標：文化産業論の生成と発展の過程を検証しつつ現代の到達点を確認する 文化産業を媒介に文化と経済の相互関係の重要性の認識が深まり、先端産業や戦略産業としての位置づけが明確になってきていることを理解する。 内容：以下の順番で講義する

---

### 内 容

- 第1回 文化産業の定義
  - 第2回 スロスビー：文化産業三層同心円モデル
  - 第3回 スロスビー：文化資本(と社会発展)
  - 第4回 スロスビー：文化価値と経済価値
  - 第5回 スロスビー：文化産業政策
  - 第6回 スロスビー：創造性の経済学
  - 第7回 中間のまとめと試験
  - 第8回 トフラー：文化の消費者
  - 第9回 トフラー：3極構造
  - 第10回 トフラー：文化の爆発・民主化
  - 第11回 池上惇：文化の社会的循環と文化産業の3層構造
  - 第12回 アドルノ：大衆欺瞞の手段としての文化産業
  - 第13回 DCMSと創造産業
  - 第14回 デジタル化と著作権
  - 第15回 まとめと試験
- 

### 授業以外での学習方法

文化産業の重要性を経済、社会、政治、そして生活の側面から把握するように、幅広い関心をもって参加してほしい。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（50）小テスト（50）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 地域産業論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 環境経済論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 国際経済論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

グローバル時代における企業と経済の基本的理解

授業の目的（獲得目標）

国際金融と貿易を中心に液化化する世界経済を読み解き、キャリア形成の一助とする。新卒就職を考えている学生が経済新聞を読解できる程度の経済・経営の基礎知識を理解させる。

内 容

- 第1回 経済のグローバル化とは何か 1
- 第2回 経済のグローバル化とは何か 2
- 第3回 経済を動かす循環機能としての金融
- 第4回 金融仲介と金融システム
- 第5回 リスクマネジメントとポートフォリオ
- 第6回 銀行の機能と役割
- 第7回 家計と金融
- 第8回 株式と外貨資産
- 第9回 資金調達
- 第10回 金融政策
- 第11回 貿易の基礎理論
- 第12回 比較優位
- 第13回 日本の貿易
- 第14回 キャリア形成と国際経済
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（100%）授業中発表等（）参加度（）備考（受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価（授業中課題）とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない）

科目名 社会政策論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

文化政策の理論と実際に触れ、熟達する。

授業の目的（獲得目標）

獲得目標：文化政策の現代的な意義を、文化法、文化経済や文化マネジメントなどの側面より、総合的に理解する。内容：後藤和子編『文化政策学：法・経済・マネジメント』を教科書として採用し、その内容を中心に順次説明し、講義する。

内 容

第1回 文化と文化政策

第2回 グローバリゼーションと文化政策

第3回 教科書：序：文化政策とは何か

第4回 1：文化政策の歩み

第5回 2：文化政策の理論的基礎

第6回 3：文化政策の法的枠組み

第7回 中間テスト

第8回 4：文化政策のマネジメント

第9回 5：文化政策の評価

第10回 6：地方自治体における文化政策

第11回 7：まちづくりと文化政策

第12回 8：文化産業の発展

第13回 展望：文化政策研究の国際的動向

第14回 文化芸術振興基本法、創造都市論、など

第15回 まとめと期末テスト

授業以外での学習方法

社会の文化化の流れの中で、総合政策としての文化政策を理解するために、社会全般の動きに注意すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (50) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



|       |        |      |
|-------|--------|------|
| 科目名   | 財政学〈Z〉 |      |
| クラス   | Z      | 配当回生 |
| 講義期間  | 後期     | 定員   |
| 履修条件  |        |      |
| クラス指定 |        |      |
| 担当者   | 中谷 武雄  |      |

### テーマ

財政政策による新しい社会（社会システム）の展望

### 授業の目的（獲得目標）

国民経済は市場経済部門だけでなく、財政＝政府部門を不可欠の契機として成立していることを理解するとともに、政府の失敗（および市場の失敗）といわれる事態についても考察する。内容：神野直彦『財政の仕組みがわかる本』を教科書として採用する。まず財政学の基礎概念を説明した後に、その内容に沿って順次説明し、講義する。その目次は以下のとおりである。（毎回1章ずつ進行予定。）

### 内 容

- 第1回 財政の現状
- 第2回 財政とは何か？
- 第3回 租税とは何か
- 第4回 国債とは何か
- 第5回 1：財政って何だろう
- 第6回 2：予算って何だろう
- 第7回 3：税はどんなしくみになっているのだろう
- 第8回 4：どんなところにお金を使っているのだろう
- 第9回 5：借金は財政にどんな意味をもつか
- 第10回 6：国と自治体の関係
- 第11回 7：いま財政がかかえる問題
- 第12回 8：財政の未来像をえがく
- 第13回 2011：税制改革
- 第14回 2011：予算（案）
- 第15回 まとめと試験

### 授業以外での学習方法

世界の経済の動きと日本の財政との関係を念頭においてニュースを読み解くとともに、財政・公共政策による新しい経済社会の展望を描く努力してほしい。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（50）小テスト（）授業中課題（50）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化行政論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

文化財行政の現状と課題

### 授業の目的（獲得目標）

文化財の保護という仕事は、これまで国都道府県市町村の行政体を中心となっておこなってきた。その仕事内容は、現実的な仕事である。また、最近は、時代の変化に対応した文化財行政のありかたが求められている。これらの文化財行政の現実と課題を理解する。

### 内 容

第1回 近代国家成立以前の文化財保護

第2回 近代の行政的文化財保護の歴史① 国家成立期の文化財事情

第3回 近代の行政的文化財保護の歴史② 文化財保護法の成立

第4回 文化財とナショナリズムの形成

第5回 埋蔵文化財の調査現場の仕事

第6回 教育委員会の仕事①（ゲストスピーカー）埋蔵文化財

第7回 埋蔵文化財に関する文化財行政のまとめ

第8回 学外授業 整備された遺跡・建築

第9回 日本と世界の世界遺産

第10回 教育委員会の仕事②（ゲストスピーカー）世界遺産

第11回 行政体の文化財保護組織・保存問題

第12回 文化財行政の課題① 大学・博物館・行政組織・民間の関係の変貌

第13回 文化財行政の課題② 民間調査組織と資格問題

第14回 文化財行政の課題③ 文化財の有効活用

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

各地の博物館・美術館・資料館・遺跡(史跡)公園を訪ね、展示資料や経営運営方法を見学して、その社会的な役割について学習すること。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（65%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（15%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 地域芸術文化振興論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

芸術や文化と地域振興の関わりに関する研究

授業の目的（獲得目標）

地域振興とは何か、芸術や文化が果たす役割は何かについて事例から学ぶ。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 まちと文化の関係について 事例1 高島市川端のある暮らし

第3回 同上 事例2 滋賀県高月町雨森区の暮らし

第4回 まちづくりと文化 事例3 歴史ある町並みを蘇らせる取り組み

第5回 同上 事例4 鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落の取り組み

第6回 サントリー地域文化賞について、ゲストスピーカーによるレクチャー

第7回 サントリー地域文化賞受賞団体から事例を学ぶ

第8回 企業と文化 事例5 石見銀山生活文化研究所の取り組み

第9回 アートと地域 事例6 越後妻有アートトリエンナーレ

第10回 同上 事例7 直島・犬島のアートプロジェクト

第11回 事例から学ぶ地域振興の意義と地域活性化のポイント、芸術や文化の役割

第12回 創造都市論について

第13回 同上

第14回 創造都市を支える仕組み

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

身近なまちづくりの事例に関心を払い、できれば参加してみることに

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（）

科目名 地方自治・地域経営論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

現代日本の地方自治と地方財政を総合的に考察するとともに、優れた地域づくりの実践例を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

現代日本の地方自治と地方財政について、ビデオを素材にイメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 夕張問題
- 第2回 医療・保健・福祉と財政（1）
- 第3回 医療・保健・福祉と財政（2）
- 第4回 コミュニティと財政（1）
- 第5回 コミュニティと財政（2）
- 第6回 交通政策と財政
- 第7回 情報公開と財政
- 第8回 内なる国際化と財政
- 第9回 まちづくりと財政の事例（1）宮崎県綾町
- 第10回 まちづくりと財政の事例（2）山形県長井市
- 第11回 まちづくりと財政の事例（3）愛媛県内子町
- 第12回 まちづくりと財政の事例（4）大分県由布院温泉
- 第13回 まちづくりと財政の事例（5）熊本県黒川温泉
- 第14回 まちづくりと財政の事例（6）徳島県上勝町
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む（とくに経済面、政治面、社会面など） 地方自治や地方財政を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 観光文化政策論 <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

観光政策の基礎を理解する

授業の目的（獲得目標）

観光振興の利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する

内 容

第1回 観光の基本構造

第2回 観光とレクリエーション

第3回 観光商品

第4回 事例研究 文化遺産と観光

第5回 旅行に対する需要

第6回 パック旅行の長所と短所

第7回 旅行代理店の長所と短所

第8回 観光産業の競争

第9回 観光行動

第10回 観光交通

第11回 国際観光

第12回 観光の経済効果

第13回 観光による受益と負担

第14回 持続可能な観光 自然環境保全と市場規制

第15回 観光振興を推進する主体 ※なお、講師を招いて講演会を実施することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（80%）授業中発表等（）参加度（）備考（受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価（授業中課題）とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない。）

科目名 旅行産業論 <Z a>

クラス Z a

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報やメディアについて学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報やメディアがかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

内 容

第1回 観光情報とは

第2回 観光情報とメディア

第3回 観光ビジネスとメディア活用について①

第4回 観光ビジネスとメディア活用について②

第5回 観光ビジネスとメディア活用について③

第6回 いろいろな観光情報メディア

第7回 観光情報誌を分析する①

第8回 観光情報誌を分析する②

第9回 観光情報誌を分析する③

第10回 観光情報誌を分析する④

第11回 観光関連のWebサイトを分析する①

第12回 観光関連のWebサイトを分析する②

第13回 観光関連のWebサイトを分析する③

第14回 観光関連のWebサイトを分析する④

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業時間内で課題発表を求めるので、自宅学習が必要になる。

教科書

参考書

成績評価

試験（20）小テスト（0）授業中課題（30）授業中発表等（30）参加度（20）備考（）



科目名 旅行産業論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 地域計画論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

都市計画及び建築を考える場合に大きく影響する、地域開発や地域計画について述べる。地域開発の歴史や実態を把握し、地域計画のあり方を考察するとともに、地域計画を行う場合の視点や諸技術について解説する。

授業の目的（獲得目標）

地域計画のあり方を考える際に、とくに重要な景観問題について、ビデオを素材にイメージ豊かに学ぶ。

内 容

第1回 講義の目標・構成

第2回 日本の地域開発史

第3回 日本の地域開発と国土構造

第4回 都市地域における地域計画

第5回 農村地域における地域計画

第6回 地域開発に関わる環境問題

第7回 総合計画と部門（テーマ）別計画

第8回 都道府県と市町村との関係から見た地域計画

第9回 中間まとめ

第10回 地域計画の技法①（土地利用、空間計画）

第11回 地域計画の技法②（経済計画）

第12回 地域計画の技法③（社会計画）

第13回 地域計画の実践例①

第14回 地域計画の実践例②

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞を毎日読むこと（とくに経済面、政治面、社会面など）

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 地域計画論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 アメニティ社会論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 アーツマネジメント総論 <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメントを学ぶ入り口

### 授業の目的（獲得目標）

アーツマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アーツマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アーツマネジメントの分類ができる。

### 内 容

第1回 これからの予定の紹介（冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアーツマネージャーなので、適宜、生のアーツマネジメントの姿を挿入することを促進する。）

第2回 アーツマネジメントのABC

第3回 アーツマネジメントの定義と文化政策、まちづくりとの関係

第4回 アーツスペース（劇場ホール、美術館）とアーツカンパニー（劇団、楽団など）

第5回 学外授業 6/20 東部文化会館（予定）

第6回 アーツスペース論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～

第7回 アーツの分類

第8回 限界芸術論1・・・結婚式など冠婚葬祭を例示する

第9回 限界芸術論2・・・ウェディングプランナーとフューネラルマネージャー

第10回 アーツマネジメントの分類と歴史

第11回 アーツマネージャーを招いて（外部講師）

第12回 指定管理者制度など行政的マネジメント課題

第13回 非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ

第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係

第15回 まとめ・・・アーツ（マネジメント）の公共性とは

### 授業以外での学習方法

アーツマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。なお、東部文化会館でのアーツ体験は、子どもの文化フォーラムの一貫であり、準備や当日の障害者サポートなどのお手伝いを呼びかけるので、できるだけ学修として参加すること。

### 教科書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (毎回、A5 版程度の用紙 (出席確認を兼ねるもの) に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものを A5 用紙で提出して 15 回をクリアすることをめざす。)

## 2010 Syllabus

|       |                         |      |
|-------|-------------------------|------|
| 科目名   | アーツマネジメント論Ⅱ(演劇・ダンス) <Z> |      |
| クラス   | Z                       | 配当回生 |
| 講義期間  | 前期                      | 定員   |
| 履修条件  |                         |      |
| クラス指定 |                         |      |
| 担当者   | 小暮 宣雄                   |      |

## テーマ

アーツマネジメントを学ぶ入り口

## 授業の目的(獲得目標)

アーツマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アーツマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アーツマネジメントの分類ができる。

## 内 容

第1回 これからの予定の紹介(冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアーツマネージャーなので、適宜、生のアーツマネジメントの姿を挿入することを促進する。)

第2回 アーツマネジメントのABC

第3回 アーツマネジメントの定義と文化政策、まちづくりとの関係

第4回 アーツスペース(劇場ホール、美術館)とアーツカンパニー(劇団、楽団など)

第5回 学外授業 6/20 東部文化会館(予定)

第6回 アーツスペース論~劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実~

第7回 アーツの分類

第8回 限界芸術論1・・・結婚式など冠婚葬祭を例示する

第9回 限界芸術論2・・・ウェディングプランナーとフューネラルマネージャー

第10回 アーツマネジメントの分類と歴史

第11回 アーツマネージャーを招いて(外部講師)

第12回 指定管理者制度など行政的マネジメント課題

第13回 非営利民間活動の公共性~アーツNPOと企業メセナ

第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係

第15回 まとめ・・・アーツ(マネジメント)の公共性とは

## 授業以外での学習方法

アーツマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。なお、東部文化会館でのアーツ体験は、子どもの文化フォーラムの一貫であり、準備や当日の障害者サポートなどのお手伝いを呼びかけるので、できるだけ学修として参加すること。

## 教科書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (毎回、A5 版程度の用紙 (出席確認を兼ねるもの) に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものを A5 用紙で提出して 15 回をクリアすることをめざす。)



科目名 アーツ研究 I (舞台技術論) <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉山 準

テーマ

劇場および舞台芸術の社会的意義を考える

授業の目的 (獲得目標)

舞台芸術を作り支える様々なスタッフの仕事を理解するとともに、舞台芸術が上演される場所 (劇場) そのものの機構および役割を理解すること、そして舞台芸術を支える環境について理解することを通じて、劇場や舞台芸術の社会的意義を考える。

内 容

第1回 オリエンテーション (評価の仕方、授業のねらい) 舞台芸術とは何か。舞台表現の魅力とその可能性について考える。

第2回 イベントを企画する意図や目的について / 芸術 (イベント) が社会に果たす役割について

第3回 事例を見ながらイベントの考察 / 目的別の事例について 1

第4回 事例を見ながらイベントの考察 / 目的別の事例について 2

第5回 芸術による地域振興の事例を紹介。その歩みと今後について考える

第6回 地域振興の為にアートイベントが行われている現場を見学 (学外授業)

第7回 劇場の機構と技術スタッフの仕事について 1

第8回 劇場の機構と技術スタッフの仕事について 2

第9回 創造に関わるスタッフの仕事について 1

第10回 創造に関わるスタッフの仕事について 2

第11回 プロデューサー、制作スタッフの仕事について

第12回 実際の上演を見て考察する (劇場見学を兼ねた芸術鑑賞 / 学外授業)

第13回 地域における舞台芸術の動向

第14回 文化行政と劇場 (芸術イベント) との関わりについて

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

イベント現場の視察、劇場の視察と作品鑑賞を行う。それ以外に劇場等が行う何らかの催しにスタッフとして関与し、その意義を考えてみる事を期待する。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 アーツ研究Ⅱ(音楽芸術論) <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

総合芸術オペラについて歴史、形態などを学んだ上でオペラのプロデュースについて研究をする。

授業の目的(獲得目標)

舞台芸術の中でも最も多くの要素を持つオペラ、そのプロデュース過程を学ぶことは、演劇、バレエ・ダンス、シンフォニー、美術・衣裳デザインなど多くの要素を同時に学ぶことにつながる。このため、「オペラ」を取り上げて「劇場」「舞台」「舞台制作」「制作過程」「制作スタッフ」などについての理解を深める。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 オペラの歴史(1)

第3回 オペラの歴史(2)

第4回 オペラの音楽的構造

第5回 イタリア・オペラとドイツ・オペラ

第6回 オペラ劇場の構造

第7回 「劇場」で「オペラ」を作る意味について

第8回 びわ湖ホール制作担当者をゲストに迎えて

第9回 びわ湖ホール舞台制作担当者をゲストに迎えて

第10回 びわ湖ホールで行われるオペラ公演についての事前学習

第11回 同上

第12回 公開リハーサルの見学

第13回 びわ湖ホールでオペラを鑑賞する

第14回 びわ湖ホールでのオペラ鑑賞についてレポートをまとめ発表する

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

劇場、DVD、テレビなどでできるだけ多くのオペラを鑑賞すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト () 授業中課題 (50%) 授業中発表等 () 参加度 (50%) 備考 ()

## 2010 Syllabus

科目名 アーツ鑑賞演習 I (音楽・美術) <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

さまざまな芸術（アーツ）を鑑賞し、言葉化する。

授業の目的（獲得目標）

アーツのジャンルを知り、触れたことのないアーツへの接近に勇気を持つ。実際にいくらかはアーツにじかに（ライブで）触れる。触れたアーツを言葉にする練習を続けるようになる。

内 容

第1回 オリエンテーション・・・(注)土曜日、3時間(2つの時限)で行う予定(原則は隔週だが異なる場合あり)なので、2回分がほぼセットになっていると見てください。

第2回 鑑賞とは何か・・・音楽を例にして

第3回 アーツのジャンル、その創造と鑑賞の関係

第4回 美術工芸デザインにおけるそれぞれの特質、その鑑賞とは

第5回 美術館と画廊における展示の実際を知ろう

第6回 映画の誕生から今日までの駆け足映画史

第7回 映画を鑑賞するコツを知る・・・映画のなかでその演出と役者をクローズアップして考えていく

第8回 演劇のざっとした歴史

第9回 劇作家とは、演出家とは

第10回 演劇鑑賞・・・学外授業の予定：ここでは一応演劇を想定しているが、受講者および実際の公演の予定を見て適宜ふさわしい実演芸術を決める

第11回 アフタートーク・・・学外授業の予定

第12回 ダンスをざっと知る+伝統芸能の入門の入門

第13回 音楽、ライブとしてのコンサート

第14回 オペラとミュージカル、あるいは、映画と記録映像の関係について

第15回 まとめ アーツを言葉化する演習

授業以外での学習方法

なにせ、美術工芸デザイン、映画、演劇ダンス、音楽、伝統芸能などアーツは多岐にわたるので、少し受講者の興味によって重点化していくことにする。土曜日に2~3回は学外に出る(ので、現地集合になる。ただし、やむをえない理由で欠席になっても別のもので代替出来るようにする。授業以外におけるアーツの鑑賞についても、評価するので、積極的に鑑賞すること 何はともあれ、基本は鑑賞する姿勢とその言葉化である。

教科書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40）授業中発表等（）参加度（60）備考（出席をして、そのあとに常にきちんとアーツの言葉化をしていることを最重視する。出席できない場合も配慮するが、どのようなアーツを見るかはこちらが色々提供するので、参考 URL や掲示板を注意してみること。）

## 2010 Syllabus

科目名 アーツ鑑賞演習Ⅱ(演劇・ダンス) <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

さまざまな芸術(アーツ)を鑑賞し、言葉化する。

授業の目的(獲得目標)

アーツのジャンルを知り、触れたことのないアーツへの接近に勇気を持つ。実際にいくらかはアーツにじかに(ライブで)触れる。触れたアーツを言葉にする練習を続けるようになる。

内 容

第1回 オリエンテーション・・・(注)土曜日、3時間(2つの時限)で行う予定(原則は隔週だが異なる場合あり)なので、2回分がほぼセットになっていると見てください。

第2回 鑑賞とは何か・・・音楽を例にして

第3回 アーツのジャンル、その創造と鑑賞の関係

第4回 美術工芸デザインにおけるそれぞれの特質、その鑑賞とは

第5回 美術館と画廊における展示の実際を知ろう

第6回 映画の誕生から今日までの駆け足映画史

第7回 映画を鑑賞するコツを知る・・・映画のなかでその演出と役者をクローズアップして考えていく

第8回 演劇のざっとした歴史

第9回 劇作家とは、演出家とは

第10回 演劇鑑賞・・・学外授業の予定：ここでは一応演劇を想定しているが、受講者および実際の公演の予定を見て適宜ふさわしい実演芸術を決める

第11回 アフタートーク・・・学外授業の予定

第12回 ダンスをざっと知る+伝統芸能の入門の入門

第13回 音楽、ライブとしてのコンサート

第14回 オペラとミュージカル、あるいは、映画と記録映像の関係について

第15回 まとめ アーツを言葉化する演習

授業以外での学習方法

なにせ、美術工芸デザイン、映画、演劇ダンス、音楽、伝統芸能などアーツは多岐にわたるので、少し受講者の興味によって重点化していくことにする。土曜日に2~3回は学外に出る(ので、現地集合になる。ただし、やむをえない理由で欠席になっても別のもので代替出来るようにする。授業以外におけるアーツの鑑賞についても、評価するので、積極的に鑑賞すること 何はともあれ、基本は鑑賞する姿勢とその言葉化である。

教科書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40）授業中発表等（）参加度（60）備考（出席をして、そのあとに常にきちんとアーツの言葉化をしていることを最重視する。出席できない場合も配慮するが、どのようなアーツを見るかはこちらが色々提供するので、参考 URL や掲示板を注意してみること。）



|       |         |      |
|-------|---------|------|
| 科目名   | 建築計画〈Z〉 |      |
| クラス   | Z       | 配当回生 |
| 講義期間  | 前期      | 定員   |
| 履修条件  |         |      |
| クラス指定 |         |      |
| 担当者   | 竹山 清明   |      |

### テーマ

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

### 授業の目的（獲得目標）

居住者の生活要求を大切にした住宅設計・計画のあり方を学ぶ。平均的な家族像を中心に、若年者や高齢者も含め多様な生活要求を探り、豊かな家庭生活・地域生活の高いレベルでの実現をサポートする平面計画・空間計画・環境計画・構造計画・材料工法などの有るべき姿を学び考える

### 内 容

第1回 ガイダンス、建築計画の役割

第2回 住活様式と住宅の変化

第3回 人間の基本動作 1

第4回 人間の基本動作 2

第5回 戸建住宅の配置計画

第6回 戸建住宅の平面計画

第7回 戸建住宅の各室計画

第8回 戸建住宅の基本計画 1

第9回 戸建住宅の基本計画 2

第10回 団地計画

第11回 集合住宅の形式と配置計画

第12回 集合住宅の平面計画

第13回 集合住宅の住戸計画 1

第14回 集合住宅の住戸計画 2

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

住宅の計画やデザインを学ぶ上で、人々の日常生活のあり方を学ぶことは重要である。また質の高い空間イメージの理解や把握も最も大きい役割を果たす。建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して、様々な生活のあり方や課題、魅力的な空間イメージや美しいデザインを常日頃から学ぶことは重要である。

### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (50%) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 都市・建築文化史 I <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 良平

### テーマ

主に西洋の建築が都市や人々の生活の中でどのような役割を果たしてきたかについて事例を挙げながら詳しく検証していく。建築物だけでなく、小説、絵画などの芸術や映画の舞台など、それらにまつわる様々な事象から幅広く都市・建築と文化の関係を概観する。

### 授業の目的（獲得目標）

人間の文化水準の向上と共に建築や都市が発生・発展してきた。西洋の文化において建築や都市がどのように現われているかを、映画を中心とした映像、絵画や彫刻（インスタレーション）といった美術作品、ポスターや写真を利用したグラフィック・デザイン、小説等に現われる文学空間等の事例を確認していく。そこから、都市や建築の見方、表現の意図や方法の読み取り方を学び、その面白さに気付いて欲しい。

### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 教会建築

第3回 「ローマの休日」とローマ

第4回 新古典主義と建築家

第5回 近代建築

第6回 摩天楼

第7回 パリと芸術

第8回 移動する建築

第9回 近代へのアンチテーゼ

第10回 村上春樹の小説空間

第11回 アートと都市・建築

第12回 都市と郊外

第13回 アメリカの西海岸

第14回 未来都市

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

普段から建築・デザイン・アート関係の図書、雑誌、テレビやインターネットを利用して情報を得るよう心掛ける。

### 教科書

**成績評価**

試験 (40) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 都市・建築文化史Ⅱ〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 石井 和浩

### テーマ

我が国では、古代においては中国文明に学び都城を建設し、中世においては町衆と武将たちが取り組んだ都市づくりが進み、近世においては、幕藩体制のもとで、城下町と在郷町を成立させてきた都市づくりの歴史的展開をたどり、日本固有の都市・建築の特性を理解することができることを目指す。

### 授業の目的（獲得目標）

住まい（建築）が人を育て、「まち」をつくり、「まち」が「ひと」を育てる。このような事象を日本の都市建築史から検証することによって、冷静な判断力を養い、これからの「生き方」の動機付となる。日本の社会に影響を与えた「まち」「ひと」「建築」を図表資料・映像やエピソードを交えて考察する。

### 内 容

- 第1回 都市の誕生と建築
- 第2回 中国の都城制
- 第3回 日本的「都城」のなりたちと日本的「都城」の特性
- 第4回 「都城」制の変容としての平安京
- 第5回 古代における建築文化
- 第6回 中世・町衆の都市
- 第7回 民衆の町づくりとしての寺内町
- 第8回 戦国武将の町づくり
- 第9回 中世・戦国期の建築文化
- 第10回 城下町の成立と構成
- 第11回 幕藩体制と都市
- 第12回 在郷町の展開と城下町の変容
- 第13回 近世の建築文化
- 第14回 近代都市・近代的統一国家の構想
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

図書館収蔵の関連書籍や出来るだけ実物を事前に見学すること。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 都市景観論 <Z> |      |     |
| クラス   | Z         | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   |     |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 |           |      |     |
| 担当者   | 織田 直文     |      |     |

### テーマ

都市の空間、社会、文化をデザインする。

### 授業の目的（獲得目標）

快適で美しく、活力に満ちた文化都市を創る思想と技術を獲得する。地方における地域課題を類型化し、主に実践例をもとに、その地域の空間、社会、文化のデザイン手法を解説していく。

### 内 容

- 第1回 講義の進め方、「都市デザイン」の概念について
- 第2回 文化政策と臨地まちづくりによる地域活性化
- 第3回 コンパクトシティ論と中心市街地活性化の課題と手法
- 第4回 歴史的商店街の意義と活性化方策
- 第5回 まちづくりにおける「溜まり場」論
- 第6回 伝統的な祭りの保存と活用
- 第7回 伝統産業、産地の活性化
- 第8回 文化施設とまちづくり
- 第9回 文化観光とまちづくり
- 第10回 キャラクター活用によるまちづくり
- 第11回 地域づくりコーディネーター論
- 第12回 地域イベントの意義と技術
- 第13回 地域イベント実例の現地調査<1>
- 第14回 地域イベント実例の現地調査<2>
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

様々な都市に出かけ、その都市の長短を観察し、記録をとるよう努める

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 生活文化論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 住居と環境

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化施設計画論 <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

総合芸術オペラについて歴史、形態などを学んだ上でオペラのプロデュースについて研究をする。

授業の目的（獲得目標）

舞台芸術の中でも最も多くの要素を持つオペラ、そのプロデュース過程を学ぶことは、演劇、バレエ・ダンス、シンフォニー、美術・衣裳デザインなど多くの要素を同時に学ぶことにつながる。このため、「オペラ」を取り上げて「劇場」「舞台」「舞台制作」「制作過程」「制作スタッフ」などについての理解を深める。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 オペラの歴史（1）

第3回 オペラの歴史（2）

第4回 オペラの音楽的構造

第5回 イタリア・オペラとドイツ・オペラ

第6回 オペラ劇場の構造

第7回 「劇場」で「オペラ」を作る意味について

第8回 びわ湖ホール制作担当者をゲストに迎えて

第9回 びわ湖ホール舞台制作担当者をゲストに迎えて

第10回 びわ湖ホールで行われるオペラ公演についての事前学習

第11回 同上

第12回 公開リハーサルの見学

第13回 びわ湖ホールでオペラを鑑賞する

第14回 びわ湖ホールでのオペラ鑑賞についてレポートをまとめ発表する

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

劇場、DVD、テレビなどでできるだけ多くのオペラを鑑賞すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト () 授業中課題 (50%) 授業中発表等 () 参加度 (50%) 備考 ()

---

科目名 福祉住環境論 <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

---

テーマ

住まい手にとって安全、快適で文化的な住宅づくりを学ぼう。

---

授業の目的（獲得目標）

住宅を生活と環境の側面からとらえ、既往の建築計画学の成果である寸法計画、規模や形態に関する計画、地域計画などの知見も取り入れながら、住宅の設計の基本と応用を学ぶ。具体的な住宅作品を解説・評価し、住まい手について安全で快適、かつ健康的で文化的な住宅とはどのようなものかを考察する。また、設計や管理計画に関する知見についても学び、将来の実務に役立つ知識を修得する。

---

内 容

- 第1回 住宅の定義および生活と住環境
  - 第2回 住宅計画学の体系と計画のプロセス
  - 第3回 住空間の形態と設計
  - 第4回 住宅計画のための調査の種類と進め方
  - 第5回 人間の寸法と設計の方法
  - 第6回 法規と設計
  - 第7回 平面計画の方法
  - 第8回 構造計画の方法
  - 第9回 室内環境の計画
  - 第10回 住宅設計事例の研究①
  - 第11回 住宅設計事例の研究②
  - 第12回 地域計画における住宅計画と景観づくり
  - 第13回 住宅の管理
  - 第14回 住み手参加による集合住宅デザイン
  - 第15回 まとめ
- 

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (10) 参加度 (30) 備考 ( )

|       |               |      |
|-------|---------------|------|
| 科目名   | インテリアデザイン論〈Z〉 |      |
| クラス   | Z             | 配当回生 |
| 講義期間  | 前期            | 定員   |
| 履修条件  |               |      |
| クラス指定 |               |      |
| 担当者   | 西山 紀子         |      |

### テーマ

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて、有識者の話等聞きながら学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

### 授業の目的（獲得目標）

インテリアデザインの歴史を知り、今日のデザインの成り立ちを理解する。人間と空間の関係性を知り、エレメントも含めてヒューマンスケールからの発想を習得する。現代社会におけるインテリアデザインの在りようを知り、問題や課題を発見する。以上を通して、一人ひとりの人間が自分自身の手で触れ、肌で感じ、目や耳で確かめることのできる身近な空間をいかに造り上げていくか？という課題に取り組む力を身に付ける。

### 内 容

第1回 暮らしとインテリア

第2回 日本の住まいとインテリア 西洋のインテリアと家具の様式

第3回 インテリアと寸法

第4回 インテリアの性能と安全性

第5回 空間のデザイン

第6回 インテリアの色彩、テクスチャー

第7回 インテリアの仕上げ材料

第8回 家具の種類、配置、インテリアファブリック

第9回 照明計画と照明器具

第10回 インテリアの構法とデザイン

第11回 室内環境の計画

第12回 インテリアの計画演習1

第13回 インテリアの計画演習2

第14回 インテリアの計画演習3

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

日常生活においてもインテリアデザインへの関心を忘れずに、身の周りの空間に気を配り、専門書だけでなくさまざまなメディアを通して広く情報を得るように心掛けること。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（20%）小テスト（50%）授業中課題（0%）授業中発表等（20%）参加度（10%）備考（インテリアデザインに関する基礎的知識を確実に修得するため、授業途中に随時行う復習小テストを重視する。）

科目名 設計製図演習 I <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 良平

### テーマ

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

### 授業の目的（獲得目標）

始めに教科書に沿って図面をトレースすることから、製図の基本を学ぶ。次に現在自分が住んでいる部屋の実測を行い、スケール感やインテリアのデザインについて考える。最後に小住宅の設計を行い、基本的な設計の進め方と図面と模型による建築・インテリアの表現を修得する。

### 内 容

第1回 ガイダンス1

第2回 ガイダンス2

第3回 線の引き方1

第4回 線の引き方2

第5回 木造住宅のトレース1、平面図

第6回 木造住宅のトレース2、平面図

第7回 木造住宅のトレース3、立面図・断面図

第8回 木造住宅のトレース4、立面図・断面図

第9回 木造住宅のトレース5、矩計図

第10回 木造住宅のトレース6、矩計図

第11回 部屋の改装1、実測とエスキース

第12回 部屋の改装2、実測とエスキース

第13回 部屋の改装3、平面図・展開図

第14回 部屋の改装4、平面図・展開図

第15回 部屋の改装5、模型制作

第16回 部屋の改装6、模型制作

第17回 部屋の改装7、模型制作

第18回 部屋の改装8、模型制作

第19回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース

第20回 小住宅の設計2、課題趣旨説明、エスキース

第21回 小住宅の設計3、エスキース、平面図の作成

第22回 小住宅の設計4、エスキース、平面図の作成

第23回 小住宅の設計5、立面図・断面図の作成



第 24 回 小住宅の設計 6、立面図・断面図の作成

第 25 回 小住宅の設計 7、模型制作

第 26 回 小住宅の設計 8、模型制作

第 27 回 小住宅の設計 9、模型制作

第 28 回 小住宅の設計 10、模型制作

第 29 回 講評とまとめ 1

第 30 回 講評とまとめ 2

---

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

|       |            |      |
|-------|------------|------|
| 科目名   | 設計製図演習Ⅱ〈Z〉 |      |
| クラス   | Z          | 配当回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   |
| 履修条件  |            |      |
| クラス指定 |            |      |
| 担当者   | 河野 良平      |      |

### テーマ

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

### 授業の目的（獲得目標）

前半は製図を中心に行う。インテリアコーディネーター実技試験程度の図面を中心に練習する。後半は木造小住宅の設計を行う。基本的な設計の進め方、図面、模型とパースによる表現を修得する。木造戸建て住宅の見学を通して、スケール感や平面計画の重要性を学ぶ。

### 内 容

第1回 ガイダンス1

第2回 ガイダンス2

第3回 インテリア・パースの練習1、一点透視図

第4回 インテリア・パースの練習2、一点透視図

第5回 インテリア・パースの練習3、二点透視図1

第6回 インテリア・パースの練習4、二点透視図1

第7回 インテリア・パースの練習5、二点透視図2

第8回 インテリア・パースの練習6、二点透視図2

第9回 アクソノメトリック図の作成1

第10回 アクソノメトリック図の作成2

第11回 アクソノメトリック図の作成3

第12回 アクソノメトリック図の作成4

第13回 講評1

第14回 講評2

第15回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース

第16回 戸建て住宅の設計2、課題趣旨説明、エスキース

第17回 戸建て住宅の設計3、エスキース

第18回 戸建て住宅の設計4、エスキース

第19回 戸建て住宅の設計5、平面図の作成

第20回 戸建て住宅の設計6、平面図の作成

第21回 戸建て住宅の設計7、立面図の作成

第22回 戸建て住宅の設計8、立面図の作成

第23回 戸建て住宅の設計9、断面図の作成

第 24 回 戸建て住宅の設計 10、断面図の作成

第 25 回 戸建て住宅の設計 11、模型

第 26 回 戸建て住宅の設計 12、模型

第 27 回 戸建て住宅の設計 13、模型

第 28 回 戸建て住宅の設計 14、模型

第 29 回 講評とまとめ 1

第 30 回 講評とまとめ 2

---

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習 I

クラス a 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習Ⅰ〈ZB〉

クラス ZB

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

自治体の文化政策や公立文化施設の運営に関する研究

授業の目的（獲得目標）

卒業研究に向けて、各自の研究テーマを探し、研究の手法や発表する能力、レポート作成の能力を養う。指定管理者制度について学ぶことによって、自治体の文化政策や公立文化施設の意義、役割、現状と課題について理解を深めるとともに、公立文化施設の運営、マネジメントのあり方について考える。

内 容

第1回 オリエンテーション 各自の現段階での関心事や研究テーマについて発表する

第2回 指定管理者制度についての概説を行う

第3回 教科書「指定管理者制度 文化的公共性を支えるのは誰か」第1章を読んで、担当者が発表し、討議する。以下同じ

第4回 教科書第2章、第4章

第5回 新聞記事スクラップ目次の報告

第6回 教科書第5種、第6章

第7回 教科書第7章、コラム

第8回 教科書第8章、第9章

第9回 教科書第10章、第11章

第10回 教科書第12章

第11回 新聞記事スクラップ目次の報告

第12回 卒業研究のテーマについて（1）

第13回 卒業研究のテーマについて（2）

第14回 卒業研究のテーマについて（3）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞記事を読んでスクラップし目次を作って提出する 夏休みにゼミ合宿を行うとともに、研究テーマについて検討を進める。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

科目名 文化政策専門演習 I

クラス c 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習 I

クラス d 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 文化政策専門演習 I

クラス e 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策専門演習 I

クラス f 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 文化政策専門演習 I

クラス g 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習 I

クラス h 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習Ⅱ

クラス a 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策専門演習Ⅱ〈ZB〉

クラス ZB

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

卒業論文に向けて研究を進める

**授業の目的（獲得目標）**

卒業研究のテーマを決めて、文献調査を行い、文献を読んで報告するなど、卒業研究を深めることにする。夏休み中に研究テーマについてまとめ、後期はその発表から始める。

**内 容**

第1回 夏休みの課題（卒業研究のテーマ設定とその理由について）を発表する。

第2回 同上

第3回 同上

第4回 夏休み中の新聞スクラップの報告

第5回 同上

第6回 4回生の卒論中間発表会に参加する

第7回 卒業研究のすすめ方について

第8回 卒業研究について各自の取り組みを順次発表し、これからのすすめ方について検討する

第9回 同上

第10回 同上

第11回 新聞スクラップの報告

第12回 卒業研究について、この時点でのまとめを行い、4回生になってからの研究の方向性を検討する

第13回 同上

第14回 同上

第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

卒業研究を進める。前期に引き続き新聞スクラップを行い目次を作って報告する

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0％）小テスト（）授業中課題（30％）授業中発表等（30％）参加度（40％）備考（）

科目名 文化政策専門演習Ⅱ

クラス c 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策専門演習Ⅱ

クラス d 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 文化政策専門演習Ⅱ <Z e>

クラス e

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

現代における住宅の表現に関する研究

授業の目的（獲得目標）

住宅空間の表現に対する自分の興味を再確認し、それらに関する知識を増やす。専門演習1で発表したテーマから一つを選び、それに対する他の学生からの発表や意見を聞くことで自分の選んだテーマについてより一層理解を深める。また、就活に関する発表と見学も予定している。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表1

第3回 発表1

第4回 発表1

第5回 発表2

第6回 発表2

第7回 発表2

第8回 業界研究発表

第9回 業界研究発表

第10回 業界研究発表

第11回 見学

第12回 見学

第13回 発表3

第14回 発表3

第15回 発表3、まとめ、卒業研究への展望

授業以外での学習方法

授業内で適宜指示します。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 文化政策専門演習Ⅱ

---

クラス f 配当回生

---

講義期間 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習Ⅱ

クラス g

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 文化政策専門演習Ⅱ

クラス h 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 都市景観論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 法学概論 I

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 政治学概論 I

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 消費者行動論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策専門演習Ⅲ <a>

クラス a

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる（1）テーマの設定と調査

授業の目的（獲得目標）

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。なお、併せてテキストの輪読を行う。

内 容

第1回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。

第2回 論理の構成、目次の作成

第3回 論理的な文章を書く方法

第4回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査

第5回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査

第6回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査

第7回 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第8回 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第9回 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第10回 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第11回 中間発表に向けての指導。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

第12回 中間発表に向けての指導。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

第13回 中間発表に向けての指導。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

第14回 中間発表に向けての指導。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習Ⅲ <b>

クラス b

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

卒業研究と就活

授業の目的（獲得目標）

卒業研究の展望を得る

内 容

第1回 春休み報告

第2回 卒業研究：個人発表

第3回 卒業研究：個人発表

第4回 卒業研究：個人発表

第5回 卒業研究：個人発表

第6回 就活中間報告

第7回 卒業研究：個人発表

第8回 卒業研究：個人発表

第9回 卒業研究：個人発表

第10回 卒業研究：個人発表

第11回 就活中間報告

第12回 夏期休暇研究・行動計画

第13回 時間を調整して学外散策に出かける

第14回 時間を調整して学外散策に出かける

第15回 時間を調整して学外散策に出かける

授業以外での学習方法

卒業研究と就活を両立させる。

教科書

参考書

成績評価

試験（○）小テスト（○）授業中課題（○）授業中発表等（100）参加度（○）備考（○）

科目名 文化政策専門演習Ⅲ <c>

クラス c

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西山 紀子

テーマ

卒業論文・卒業研究を完成させる。(1) -テーマの設定と調査

授業の目的（獲得目標）

卒業論文作成者は、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。卒業研究作成者は、課題に見合った研究方法を身につけ、卒業研究を完成させる。(ゼミ合宿あり)

内 容

第1回 卒業研究を進めるための一般指導と現地調査、各自のテーマに応じた個別指導をする。テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法

第2回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法

第3回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法

第4回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法

第5回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法

第6回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法

第7回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第8回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第9回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第10回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第11回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第12回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。

第13回 中間発表に向けての指導。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

- 第 14 回 中間発表に向けての指導。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方  
第 15 回 中間発表に向けての指導。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方
- 

### 授業以外での学習方法

日常生活においても各自のテーマに係る関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (20%) 小テスト ( ) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習Ⅲ <d>

クラス d

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

キャリア開発と卒業論文執筆の準備

授業の目的（獲得目標）

1. 卒業論文のテーマを吟味する 2. 専門文献の調査を推進する 3. キャリア開発への積極的取り組み

内 容

- 第1回 キャリア開発1  
 第2回 キャリア開発2  
 第3回 卒論テーマの設定1  
 第4回 卒論テーマの設定2  
 第5回 卒論テーマの設定3  
 第6回 卒論テーマの設定4  
 第7回 文献の探索と引用1  
 第8回 文献の探索と引用2  
 第9回 文献の探索と引用3  
 第10回 文献の探索と引用4  
 第11回 キャリア開発3  
 第12回 キャリア開発4  
 第13回 中間報告への準備1  
 第14回 中間報告への準備2  
 第15回 中間報告への準備3

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（100%）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|       |               |      |
|-------|---------------|------|
| 科目名   | 文化政策専門演習Ⅲ <e> |      |
| クラス   | e             | 配当回生 |
| 講義期間  | 前期            | 定員   |
| 履修条件  |               |      |
| クラス指定 |               |      |
| 担当者   | 織田 直文         |      |

### テーマ

研究テーマを自分で探し、決め、調査し、ゼミで議論し、成果をまとめよう。

### 授業の目的（獲得目標）

卒業研究テーマを各自が考え、研究計画や調査結果などを順番にゼミにて発表し、討論する。卒論テーマは、例えば祭・イベント、歴史事象や人物にちなんだまちづくり、自然・環境を活かしたまちづくり、伝統産業・観光等の振興、町家・町並み、中心市街地や歴史的商店街の活性化、さらにはまちづくりの担い手論、住民参加、NPO、協働のまちづくり、男女共同参画型まちづくりなどである。このことにより、自主的に課題発見をし、物事を科学的に分析し、他者に表現する力を獲得する。

### 内 容

第1回 ゼミの進め方について。研究とは、論文とは何かについて。研究計画書の書き方、調査研究の手法などについて理解する。研究発表順の決定。

第2回 過去の卒論研究。発表と討論。

第3回 過去の卒論研究。発表と討論。

第4回 過去の卒論研究。発表と討論。

第5回 過去の卒論研究。発表と討論。

第6回 過去の卒論研究。発表と討論。

第7回 中間まとめ。

第8回 発表と討論。

第9回 発表と討論。

第10回 発表と討論。

第11回 発表と討論。

第12回 発表と討論。

第13回 発表と討論。

第14回 発表と討論。

第15回 前期のまとめと後期の進め方の調整。

### 授業以外での学習方法

過去の先輩たちの卒業論文や研究をよく読む。それ以外にも様々な論文を読む習慣を身につける。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )



科目名 文化政策専門演習Ⅲ < f >

クラス f

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

卒業論文を完成させる (1) テーマの設定と調査

授業の目的 (獲得目標)

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

内 容

第1回 卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。

第2回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定する。

第3回 ・論理の構成、目次の作成

第4回 ・論理的な文章を書く方法

第5回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。

第6回 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査

第7回 ・順次各自の研究テーマについて発表する

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 中間報告に向けての指導・レジュメの作成方法

第12回 ・質疑応答の仕方

第13回 中間報告に向けて各自発表する

第14回 同上

第15回 同上

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習Ⅲ <g>

クラス g

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

卒業研究の完成

### 授業の目的（獲得目標）

卒業研究へ向けて各自が設定したテーマが相応しいか検討する。また、設定したテーマをどのような方法で研究すればよいか具体的に提案し、研究を実証する資料を収集する。印象や感想ではなく、客観的な事実やその関係について調べ、そこから気付いたことや考えたことを発表する。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス（ゼミのねらい、進め方、テーマの決め方や発表方法などについて）
- 第2回 テーマ発表と質疑応答（1）
- 第3回 テーマ発表と質疑応答（2）
- 第4回 テーマ発表と質疑応答（3）
- 第5回 テーマ発表と質疑応答（4）
- 第6回 資料調査発表と質疑応答（1）
- 第7回 資料調査発表と質疑応答（2）
- 第8回 資料調査発表と質疑応答（3）
- 第9回 資料調査発表と質疑応答（4）
- 第10回 事例分析発表と質疑応答（1）
- 第11回 事例分析発表と質疑応答（2）
- 第12回 事例分析発表と質疑応答（3）
- 第13回 事例分析発表と質疑応答（4）
- 第14回 まとめ、後期に向けての課題
- 第15回 ゼミ合宿

### 授業以外での学習方法

授業内で適宜指示します。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

---

科目名 文化政策専門演習Ⅲ <h>

クラス h

配当回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

---

テーマ

アーツマネジメント研究を形にしていく

---

授業の目的（獲得目標）

アーツマネジメント研究を自分の研究、制作として形にするための計画をつくること 卒業研究（論文・制作）の準備と着手をきちんとおこなうこと

---

内 容

- 第1回 はじめに
  - 第2回 自分の卒業研究の内容確認
  - 第3回 卒業研究の作法の確認
  - 第4回 卒業制作と卒業研究の違い、共通事項
  - 第5回 卒業研究の企画書発表（1）
  - 第6回 卒業研究の企画書発表（2）
  - 第7回 卒業研究の企画書発表（3）
  - 第8回 卒業研究の企画書発表（4）
  - 第9回 卒業研究のための先行事例と文献の確認
  - 第10回 フィールドワークの作法とノーツの確認
  - 第11回 卒業研究の概要発表（1）
  - 第12回 卒業研究の概要発表（2）
  - 第13回 卒業研究の概要発表（3）
  - 第14回 卒業研究の概要発表（4）
  - 第15回 まとめ、夏休みの確認
- 

授業以外での学習方法

卒業研究の作業は授業中ではできないものではないので、授業外で文献を読み、フィールドワークにおいてはインタビューや観察を丹念にし、記録すること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (60) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習Ⅳ〈a〉

クラス a 配当回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる（2）調査の整理と論文の完成

### 授業の目的（獲得目標）

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、基本的には第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。

### 内 容

第1回 進捗状況を相互に確認する。

第2回 論文テーマに応じて個別に指導する。

第3回 論文テーマに応じて個別に指導する。

第4回 論文テーマに応じて個別に指導する。

第5回 論文テーマに応じて個別に指導する。

第6回 論文テーマに応じて個別に指導する。

第7回 論文テーマに応じて個別に指導する。

第8回 論文テーマに応じて個別に指導する。

第9回 中間発表を実施する。

第10回 執筆要領、注意事項など細部について指導する。卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・ 論  
理構成および文章のチェック ・ 資料の再点検

第11回 執筆要領、注意事項など細部について指導する。卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・ 論  
理構成および文章のチェック ・ 資料の再点検

第12回 執筆要領、注意事項など細部について指導する。卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・ 論  
理構成および文章のチェック ・ 資料の再点検

第13回 口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・ レジユメの作成方法 ・  
質疑応答の仕方

第14回 口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・ レジユメの作成方法 ・  
質疑応答の仕方

第15回 口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・ レジユメの作成方法 ・  
質疑応答の仕方

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 文化政策専門演習Ⅳ <b>

クラス b

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

卒業研究（+就活）

授業の目的（獲得目標）

卒業研究の完成！

内 容

- 第1回 夏期休暇報告
- 第2回 卒業研究中間発表会
- 第3回 卒業研究：個人研究
- 第4回 卒業研究：個人研究
- 第5回 卒業研究：個人研究
- 第6回 卒業研究：個人研究
- 第7回 就活総括
- 第8回 卒業研究：個人研究
- 第9回 卒業研究：個人研究
- 第10回 卒業研究：個人研究
- 第11回 卒業研究：個人研究
- 第12回 卒業研究総括と1年のまとめ
- 第13回 時間を調整して学外散策に出かける
- 第14回 時間を調整して学外散策に出かける
- 第15回 時間を調整して学外散策に出かける

授業以外での学習方法

卒業研究に全力を尽くすこと！

教科書

参考書

成績評価

試験（○）小テスト（○）授業中課題（○）授業中発表等（100）参加度（○）備考（○）



科目名 文化政策専門演習Ⅳ <c>

クラス c 配当回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 西山 紀子

テーマ

卒業論文を完成させる。(2) - 調査の整理と論文の完成

授業の目的 (獲得目標)

卒業論文作成者は、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。卒業研究作成者は、課題に見合った研究方法を身につけ、卒業研究を完成させる。

内 容

第1回 卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。進捗状況を相互に確認する。

第2回 中間発表

第3回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。

第4回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。

第5回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。

第6回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。

第7回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。

第8回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検

第9回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検

第10回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検

第11回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検

第12回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検

第13回 口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジユメの作成方法 ・質疑応答の仕方

第14回 口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジユメの作成方法 ・質疑応答の仕方

第15回 口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジユメの作成方法 ・質疑応答の仕方 なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

日常生活においても各自のテーマに係る関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

**成績評価**

試験（20%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）

科目名 文化政策専門演習Ⅳ <d>

クラス d

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

卒業論文の完成

授業の目的（獲得目標）

1. 卒業論文を完成させる
2. 口頭試問への準備

内 容

第1回 中間報告の準備1

第2回 中間報告の準備2

第3回 中間報告の準備3

第4回 中間報告の準備4

第5回 中間報告1

第6回 中間報告2

第7回 卒論の準備報告と指導1

第8回 卒論の準備報告と指導2

第9回 卒論の準備報告と指導3

第10回 卒論の準備報告と指導4

第11回 卒論の準備報告と指導5

第12回 口頭試問への準備1

第13回 口頭試問への準備2

第14回 口頭試問への準備3

第15回 口頭試問への準備4

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（100%）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化政策専門演習Ⅳ〈e〉

クラス e

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

卒業論文、卒業研究をまとめよう。

授業の目的（獲得目標）

各自が決定し、前期に進めてきた調査研究作業の成果を、論文や研究成果として、形にすることで、成果の表現力を獲得する。

内 容

第1回 後期の進め方、ゼミでの発表順を決めるとともに、論文構成の仕方、論文執筆要領などについて学習する。

第2回 発表と討論

第3回 発表と討論

第4回 発表と討論

第5回 発表と討論

第6回 発表と討論

第7回 中間まとめ

第8回 論文（案）発表と討論

第9回 論文（案）発表と討論

第10回 論文（案）発表と討論

第11回 論文（案）発表と討論

第12回 論文（案）発表と討論

第13回 論文（案）発表と討論

第14回 論文（案）発表と討論

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

過去の卒業論文から優れたものを選び、熟読し、自分の論文執筆の参考にする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 文化政策専門演習Ⅳ < f >

クラス f 配当回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

卒業論文を完成させる（２）調査の整理と論文の完成

授業の目的（獲得目標）

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

内 容

第 1 回 卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第 1 回から第 15 回にわたり、以下の内容で指導を進める。

第 2 回 ・進捗状況を相互に確認する。

第 3 回 同上

第 4 回 ・夏休み後、10 月中をめどに中間発表を実施する。

第 5 回 ・中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する

第 6 回 同上

第 7 回 ・卒業研究を進めるための個別指導を行う。 論理構成及び文章のチェック 資料の再点検

第 8 回 同上

第 9 回 同上

第 10 回 同上

第 11 回 同上

第 12 回 同上

第 13 回 同上

第 14 回 ・口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 レジユメの作成方法

質疑応答の仕方 卒論正誤表の作成

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（０％）小テスト（）授業中課題（３０％）授業中発表等（４０％）参加度（３０％）備考（）

---

科目名 文化政策専門演習Ⅳ <g>

---

クラス g

---

配当回生

---

講義期間 後期

---

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 河野 良平

---

テーマ

卒業研究の完成

---

### 授業の目的（獲得目標）

卒業論文完成へ向け、収集した資料を分析し、一覧表にまとめ、本文を執筆する。卒業制作はスケッチ、図面や模型を複数つくることによって、アイデアやテーマと形や空間が一致するよう作業を進める。両者ともこれらの作業から得られた特徴や方向性が、結論や作品に繋がるということを常に意識しながら作業する。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス、資料整理（一覧表の作成）と分析、質疑応答（1）

第2回 資料整理と分析、質疑応答（2）

第3回 資料整理と分析、質疑応答（3）

第4回 中間発表会

第5回 目次構成と目的・方法、質疑応答（1）

第6回 目次構成と目的・方法、質疑応答（2）

第7回 目次構成と目的・方法、質疑応答（3）

第8回 結論と考察、質疑応答（1）

第9回 結論と考察、質疑応答（2）

第10回 結論と考察、質疑応答（3）

第11回 要約の発表（1）

第12回 要約の発表（2）

第13回 発表練習（1）

第14回 発表練習（2）

第15回 発表練習（3）

---

### 授業以外での学習方法

授業内で適宜指示します。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )



科目名 文化政策専門演習Ⅳ <h>

クラス h

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメント研究の完成

授業の目的（獲得目標）

アーツマネジメント研究として卒業研究（論文・制作）の作業を続け完成させること 卒業研究（論文・制作）を要約して対外的に提示できるようにすること

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 夏休みの作業の報告とこれからのスケジュールづくり
- 第3回 卒業論文の進捗状況の把握と疑問点の解消
- 第4回 卒業制作の準備・手伝い
- 第5回 卒業制作の本番における参加（本人は作業）
- 第6回 卒業論文の部分的発表と点検（1）
- 第7回 卒業論文の部分的発表と点検（2）
- 第8回 卒業論文の部分的発表と点検（3）
- 第9回 卒業論文の部分的発表と点検（4）
- 第10回 これからのアーツマネジメントと私たち（総括的に）
- 第11回 卒業論文の完成と添削（1）
- 第12回 卒業論文の完成と添削（2）
- 第13回 卒業論文の完成と添削（3）
- 第14回 卒業研究を要約し対外的に伝えるために
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

卒業制作の場合は、現場の作業。卒業論文は現地調査などのあと、自分自身の論稿をまとめる作業を各自行うこと。研究室で個別添削。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 卒業研究(政) <政 a>

クラス a

配当回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 卒業研究(政) <政 b>

クラス b 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 卒業研究(政) <政c>

クラス c 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 西山 紀子

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 卒業研究(政) <政 d>

クラス d

配当回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |             |      |
|-------|-------------|------|
| 科目名   | 卒業研究(政)〈政e〉 |      |
| クラス   | e           | 配当回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |
| 履修条件  |             |      |
| クラス指定 |             |      |
| 担当者   | 織田 直文       |      |

**テーマ**

自分で研究テーマを決め、計画的に調査し、卒業論文・研究を仕上げる。

**授業の目的（獲得目標）**

卒論テーマは、例えば祭・イベント、歴史事象や人物にちなんだまちづくり、自然・環境を活かしたまちづくり、伝統産業・観光等の振興、町家・町並み、中心市街地や歴史的商店街の活性化、さらにはまちづくりの担い手論、住民参加、NPO、協働のまちづくり、男女共同参画型まちづくりなどである。こののにより、自主的に課題発見をし、物事を科学的に分析し、他者に表現する力を獲得する。

**内 容**

第1回 各自が研究計画を作成し、1年間を通して自主的に調査研究、卒業制作などに取り組むが、専門演習（ゼミ）で、積極的に発表・討論し、仕上げていくようにする。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

**授業以外での学習方法**

過去の先輩たちの卒論や制作を参考に学ぶ。様々論文を読む習慣を身に付ける。

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験 (30) 小テスト (20) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(政) <政 f>

クラス f

配当回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 卒業研究(政) <政 g>

クラス g 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 卒業研究(政) <政h>

クラス h 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 卒業研究(政)

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 現代マネジメント基礎演習Ⅳ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 現代マネジメント基礎演習Ⅳ〈Z d〉

クラス Z d

配当回生 1 回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

経営者論

### 授業の目的（獲得目標）

企業の経営者の回顧録を 3-6 本輪読し、2 回の発表を通じて、経営者のリーダーシップや戦略行動、哲学などを学ぶ。

### 内 容

- 第 1 回 授業の概要、報告やレジュメの作成要領の説明、発表日程の決定
- 第 2 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 3 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 4 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 5 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 6 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 7 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 8 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 9 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 10 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 11 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 12 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 13 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 14 回 学生による報告 (A2, 2 枚のレジュメ, 2-30 分の発表、質疑応答、議論)
- 第 15 回 全体の総括

### 授業以外での学習方法

経済新聞を読む習慣を身につけてください。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (70) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 (2 回の発表、出席率、議論への

参加度などを総合的に考慮して成績評価を行います。授業中、私語や食事は厳禁としますので、注意してください。)

科目名 社会調査・フィールドワーク入門〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦

テーマ

授業の目的（獲得目標）

社会調査・フィールドワークの意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

内 容

第1回 社会調査とは何か 社会調査の目的

第2回 社会学と社会調査の歴史

第3回 調査方法論 調査倫理

第4回 量的調査と質的調査

第5回 国勢調査 官庁統計 事業所・企業統計調査 世論調査

第6回 調査票調査

第7回 調査票作成

第8回 サンプリング

第9回 データ化作業

第10回 データ分析

第11回 フィールドワークとはなにか

第12回 フィールドワークの事例

第13回 聞き取り調査 参与観察法

第14回 ドキュメント分析

第15回 （まとめ）社会調査の意義

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（期末レポート70%）



科目名 企業経営論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の目的（獲得目標）

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

内 容

- 第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点
- 第2回 企業の目的と存在価値
- 第3回 財・サービスの提供機関としての企業
- 第4回 企業の形態論
- 第5回 株式会社制度の出現と展開
- 第6回 株式会社の本質と特徴
- 第7回 株式会社の組織
- 第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
- 第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較
- 第10回 企業の境界
- 第11回 企業関係の構造と行動
- 第12回 企業統合の形態論と M&A
- 第13回 公企業論
- 第14回 協同組合
- 第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック

授業以外での学習方法

日経新聞を読む習慣を身に付けてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験、出席率、受講態度を総合的に考慮し、成績評価を行う。授業中、私語、食事等は厳禁となっているので、注意を要する。）

科目名 日本企業論 <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の目的（獲得目標）

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

内 容

- 第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点
- 第2回 企業の目的と存在価値
- 第3回 財・サービスの提供機関としての企業
- 第4回 企業の形態論
- 第5回 株式会社制度の出現と展開
- 第6回 株式会社の本質と特徴
- 第7回 株式会社の組織
- 第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
- 第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較
- 第10回 企業の境界
- 第11回 企業関係の構造と行動
- 第12回 企業統合の形態論と M&A
- 第13回 公企業論
- 第14回 協同組合
- 第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック

授業以外での学習方法

日経新聞を読む習慣を身に付けてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験、出席率、受講態度を総合的に考慮し、成績評価を行う。授業中、私語、食事等は厳禁となっているので、注意を要する。）

科目名 医療福祉経営論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントの入門

### 授業の目的（獲得目標）

医療問題を解決するうえでマネジメントの知見は有益である。この授業では、医療分野におけるマネジメントの基本的な内容について、制度レベル、経営レベル、技術レベルの3つのレベルで理解を深める。

### 内 容

- 第1回 ガイダンスと話題提供
- 第2回 医療マネジメントの特徴
- 第3回 医療制度のマネジメント（1） 医療保険制度
- 第4回 医療制度のマネジメント（2） 介護保険制度
- 第5回 医療制度のマネジメント（3） 医療福祉複合体
- 第6回 医療制度のマネジメント（4） 医療法人制度改革
- 第7回 医療経営のマネジメント（1） 診療報酬
- 第8回 医療経営のマネジメント（2） 人的資源管理
- 第9回 医療経営のマネジメント（3） 業務管理
- 第10回 医療経営のマネジメント（4） ファイナンス
- 第11回 医療技術のマネジメント（1） 医療の経済評価の基礎
- 第12回 医療技術のマネジメント（2） 費用効果分析
- 第13回 医療技術のマネジメント（3） 費用効用分析
- 第14回 医療技術のマネジメント（4） 費用便益分析
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

新聞や雑誌の記事に目を通すなど、医療に対する理解と関心を持つこと。授業中に紹介した参考書などを積極的に読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (25) 授業中発表等 (0) 参加度 (25) 備考 ( )

|       |            |      |
|-------|------------|------|
| 科目名   | メディア文化論〈Z〉 |      |
| クラス   | Z          | 配当回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   |
| 履修条件  |            |      |
| クラス指定 |            |      |
| 担当者   | 大野 道邦      |      |

### テーマ

メディアと文化および社会との相互作用について

### 授業の目的（獲得目標）

伝統的な日本文化・社会や現代のポストモダン文化・社会について、これらのタイプの社会において文化を表現し伝達する「メディア」に焦点をあてて考える。自分自身が属する社会の中の文化に固有な表現形態について客観的、批判的に知ることができ、国際的に自文化を説明し伝達する能力をつけることができる。授業の具体的内容は、メディアとしての文化現象の変化を、近世（瓦版・浮世絵・浮世草子・黄表紙・番付・歌舞伎・浄瑠璃など）、近代（新聞・雑誌・小説・ラジオ・テレビ・映画・演劇など）、現代（インターネット・電子メール・ケー

### 内 容

- 第1回 はじめに メディアと文化 メディアと社会
- 第2回 メディアとは何か メディア文化の二重性 メディアと社会の相互作用
- 第3回 メディアの種類
- 第4回 伝統社会とメディア 江戸のメディア
- 第5回 江戸のジャーナリズム
- 第6回 メディアとしての歌舞伎
- 第7回 近代化とメディア——ジャーナリズムの誕生
- 第8回 マス・メディアと大衆社会
- 第9回 現代とメディア
- 第10回 消費社会とメディア
- 第11回 グローバリゼーションとメディア
- 第12回 ポストモダンとメディア
- 第13回 テレビ
- 第14回 インターネットとケータイ
- 第15回 まとめ メディアの変化と社会・文化の変貌

### 授業以外での学習方法

参考書のいずれかを大学図書館などを利用し読んでおくこと。

### 教科書

**成績評価**

試験（期末レポート70%）小テスト（）授業中課題（15%）授業中発表等（）参加度（15%）備考（授業中課題（小レポート）および参加度 30% 期末レポート 70%）

## 2010 Syllabus

科目名 経営情報システム論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大澤 光

テーマ

企業などの組織の「経営情報システム」の概念、役割、方法を、経営組織とIT(information technology)の両面から学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

経営組織とITの両面から「経営情報システム」の概念、役割、方法を身につける。

内 容

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 経営+情報+システム、業務+戦術+戦略のこと
- 第3回 経営管理と経営情報システムのこと
- 第4回 ITと経営情報システムのこと
- 第5回 データ、データベース、データ検索のこと
- 第6回 業務情報システムのこと
- 第7回 ネットワークのこと
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 オフィス情報システムのこと
- 第10回 コミュニケーションのこと
- 第11回 eコマースのこと
- 第12回 セキュリティーのこと
- 第13回 経営戦略と経営情報システムのこと
- 第14回 経営情報システムの構築と運用のこと
- 第15回 最終まとめ

授業以外での学習方法

教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、「授業情報サイト」を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、毎回の授業についての「小レポート」（分かったこと／分からなかったこと）を教室で提出する。また、必要に応じて出題される「演習問題」への取り組みの結果をサイトに提出する。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（6回以上欠席すると（累計出席時間 2/3 未満）、単位は取得できない。）



科目名 消費者行動論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡本 哲弥

テーマ

マーケティング・リサーチを学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

本科目はマーケティング・リサーチでよく用いられる代表的な統計解析の基本的な考え方と適用方法を習得する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 統計解析の概要

第3回 SPSSの基礎

第4回 相関分析

第5回 重回帰分析の理論（1）：最小2乗法と決定係数

第6回 重回帰分析の理論（2）：回帰モデルの仮説検定

第7回 重回帰分析の実際

第8回 因子分析の考え方

第9回 因子分析の実際

第10回 分散分析の考え方

第11回 分散分析の実際

第12回 調査データを用いた分析（1）

第13回 調査データを用いた分析（2）

第14回 レポートの作成（1）

第15回 レポートの作成（2）

授業以外での学習方法

マーケティングリサーチを習得するには一步一步積み上げていく必要があるので、理解不足の部分は必ず復習して下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（レポートの評価を重視す

るので、課題には積極的に取り組む必要があります。)

科目名 経営戦略論 I <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 仲田 正機

テーマ

経営戦略の基本問題と基礎理論を理解する

授業の目的（獲得目標）

経営方針もしくは経営戦略の基本問題と基礎理論を学ぶとともに、実際の会社の具体的なケースを取り上げて理解を深める

内 容

- 第1回 経営戦略とは何か、それをどのように学ぶか
- 第2回 経営戦略論の基礎知識—初期の理論から競争戦略論の登場まで
- 第3回 経営戦略論の新展開を理解する
- 第4回 今日では「競争優位の戦略」論が主流である
- 第5回 「継続的な競争優位の源泉」に関する諸理論を知る
- 第6回 ジョンソン・エンド・ジョンソンの経営戦略
- 第7回 同上（2）
- 第8回 マンチェスター・ユナイテッドの経営戦略
- 第9回 信越化学工業の経営戦略
- 第10回 同上（2）
- 第11回 セイコーインスツルの経営戦略
- 第12回 同上（2）
- 第13回 ソフトバンクの経営戦略
- 第14回 同上（2）
- 第15回 経営戦略論と競争優位論の再検討
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

受講者一人ひとりが、身近なところで観察できる経営戦略について気づいてもらえるようにガイダンスしながら講義を進めるので、各自、自学自習に努めてほしい。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 経営戦略論Ⅱ（◇企業提携講座）〈Z〉

クラス Z 配当回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 仲田 正機

テーマ

おもに京都の企業人や各種の経済団体等から経験豊かなゲストスピーカーをお招きして組織文化、経営戦略、人材育成方針等について学ぶ

授業の目的（獲得目標）

企業経営や経済団体等の運営に直接に関係しておられるトップ・マネジメント職位にある人々から実務体験を直接にお聞きして、組織文化と経営戦略について理解を深めるのが獲得目標である。

内 容

- 第1回 4月15日 講義のねらいと計画（現代ビジネス学部 仲田正機教授）
- 第2回 4月22日 大日本スクリーン製造（株）（前 常任監査役 野栗和哉 様）
- 第3回 4月29日 オムロン〈株〉（元 副社長 明致親吾 様）
- 第4回 5月6日 宝ホールディングス（株）（経営企画部副部長 高谷竜一 様）
- 第5回 5月13日 島津メクテム（株）（代表取締役社長 藤城 享 様）
- 第6回 5月20日 京都電子計算（株）（元 専務取締役 駒井一正 様）
- 第7回 5月27日 社団法人 京都工業会（前 専務理事 浅井利彦 様）
- 第8回 6月3日（株）ミトラ・トヨタカ・インドネシア（前社長 細川一郎 様）
- 第9回 6月10日（株）福田巧芸社（社長付部長 徳岡宏武 様）
- 第10回 6月17日（有）キャップス（代表取締役 清水智子 様）
- 第11回 6月24日 京都生活協同組合（専務理事 山本祐司 様）
- 第12回 7月1日 共英製鋼（株）（常務取締役 合六直吉 様）
- 第13回 7月8日（株）ケーケーシ情報システム（取締役 松下直弘 様）
- 第14回 7月15日 京都経営者協会（専務理事 向井仲和美 様）
- 第15回 7月22日 まとめと今後の展望（現代ビジネス学部 仲田正機教授）

授業以外での学習方法

まず、経営戦略に関する専門書をよむこと、これに関しては講義の中で折にふれて紹介する。講義に関連する会社や団体のホームページを見て、事前に調べた上で講義に出席し、質問を用意するように指導します。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 企業と文化〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

社会に信頼される企業の構築について

授業の目的（獲得目標）

企業を巡った利害関係者の存在を理解し、社会の良き市民としての企業像を探る。

内 容

- 第1回 講義概要と社会的脈絡での企業像
- 第2回 日本における企業の社会的責任とステイクホルダー
- 第3回 企業犯罪・不祥事
- 第4回 企業行動憲章の試みと限界
- 第5回 課業環境の構造変化(1)
- 第6回 課業環境の構造変化(2)
- 第7回 企業価値を計る新しい尺度
- 第8回 企業の社会的責任の基礎概念の総括及び理解度チェック
- 第9回 CSR の概念
- 第10回 CSR の3つの次元
- 第11回 CSR の国際比較(1)
- 第12回 CSR の国際比較(2)
- 第13回 企業行動基準
- 第14回 企業評価基準の変化
- 第15回 積極的な社会的責任論の主要理論の総括及び理解度チェック

授業以外での学習方法

経済新聞を読む習慣を身に付けてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験（持ち込み不可）と出席率、受講態度で評価します。授業中、私語や食事は厳禁ですので、ご注意ください。）

---

科目名 マーケティング論 I <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 岡本 哲弥

---

テーマ

現実のマーケティングへの理解を深める

---

授業の目的（獲得目標）

今日のビジネス、特にマーケティングや流通に関する新聞記事などを読みこなせる（理論的に把握できる）だけのマーケティング論の知識を修得する。

---

内 容

第1回 ガイダンス／マーケティングとは

第2回 製品

第3回 価格

第4回 流通

第5回 プロモーション

第6回 セグメンテーション

第7回 製品ライフサイクル

第8回 市場地位別のマーケティング戦略

第9回 業界の競争構造分析

第10回 全社・事業戦略

第11回 事業とドメイン

第12回 消費者行動論

第13回 市場調査

第14回 サービス・マーケティング

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に注意を向け、授業で学んだマーケティング論の視点から解釈するように心がける。

---

教科書

参考書

---

成績評価



試験 (0%) 小テスト (70%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名           マーケティング論 I

クラス

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 マーケティング論Ⅱ (◇企業提携講座) <Z>

---

クラス Z 配当回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 岡本 哲弥

---

テーマ

マーケティング論における重要なトピック (各論) について理解する。

---

授業の目的 (獲得目標)

マーケティングに関する現象について実際のケースを取り上げながら、理論的に把握するための重要な概念を学んでいく。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ブランド論 (1)

第3回 ブランド論 (2)

第4回 ブランド論 (3)

第5回 消費者行動論 (1)

第6回 消費者行動論 (2)

第7回 顧客満足度 (1)

第8回 顧客満足度 (2)

第9回 価格 (1)

第10回 価格 (2)

第11回 マーケティング・チャネル論 (1)

第12回 マーケティング・チャネル論 (2)

第13回 ロジスティクス (1)

第14回 ロジスティクス (2)

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に注意を向け、授業で学んだマーケティング論の視点から解釈するように心がける。(スケジュールについては、受講生の理解度などに配慮して、若干の入れ替え・変更を行う可能性がある。)

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (70%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 マーケティング・リサーチ〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡本 哲弥

テーマ

マーケティング・リサーチを学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

本科目はマーケティング・リサーチでよく用いられる代表的な統計解析の基本的な考え方と適用方法を習得する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 統計解析の概要

第3回 SPSS の基礎

第4回 相関分析

第5回 重回帰分析の理論（1）：最小2乗法と決定係数

第6回 重回帰分析の理論（2）：回帰モデルの仮説検定

第7回 重回帰分析の実際

第8回 因子分析の考え方

第9回 因子分析の実際

第10回 分散分析の考え方

第11回 分散分析の実際

第12回 調査データを用いた分析（1）

第13回 調査データを用いた分析（2）

第14回 レポートの作成（1）

第15回 レポートの作成（2）

授業以外での学習方法

マーケティングリサーチを習得するには一步一步積み上げていく必要があるので、理解不足の部分は必ず復習して下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（レポートの評価を重視す

るので、課題には積極的に取り組む必要があります。)

|       |               |      |
|-------|---------------|------|
| 科目名   | 国際マーケティング論〈Z〉 |      |
| クラス   | Z             | 配当回生 |
| 講義期間  | 後期            | 定員   |
| 履修条件  |               |      |
| クラス指定 |               |      |
| 担当者   | 近藤 文男         |      |

テーマ

日本企業の国際マーケティング

### 授業の目的（獲得目標）

国内マーケティングが国内市場を対象とするのに対して、国際マーケティングは国際市場を対象とする。国際市場は国内市場と異なり、国によって生活習慣や文化の違いが大きく、その戦略は国際マーケティングとは異なる特異な形態をとる。本講義では、国際マーケティングの基本原則を踏まえ、日本の電機企業を中心とし、その他自動車、アパレル、トイレットリー、食品などの企業をケースとして具体的に紹介し、その特徴について認識を深める。

### 内 容

第1回 国際マーケティングの定義と国際マーケティング学説

第2回 国際マーケティングの製品戦略

第3回 国際マーケティングのブランド戦略とプロモーション戦略

第4回 国際マーケティングの価格戦略

第5回 国際マーケティングのチャネル戦略

第6回 三洋電機の輸出マーケティング

第7回 パナソニックの輸出マーケティング

第8回 ソニーの輸出マーケティング

第9回 ユニクロのグローバル・マーケティング

第10回 花王のグローバル・マーケティング

第11回 味の素のグローバル・マーケティング

第12回 トヨタ自動車のグローバル・マーケティング

第13回 ソニーのグローバル・マーケティング

第14回 パナソニックのグローバル・マーケティング

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

国際マーケティングに関するニュースや新聞記事・雑誌などに注目し、国際マーケティングに関する関心を高めること。

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題として毎回感想文・質問を中心とするレポートを提出してもらいます。）



|       |                  |      |
|-------|------------------|------|
| 科目名   | 会計学〈Z〉           |      |
| クラス   | Z                | 配当回生 |
| 講義期間  | 後期               | 定員   |
| 履修条件  | 会計学入門を修得済みであること。 |      |
| クラス指定 |                  |      |
| 担当者   | 河野 充央            |      |

### テーマ

財務諸表の見方を理解する

### 授業の目的（獲得目標）

会計学入門で学んだ基礎知識・基礎理論をもとに、財務諸表（B/S, P/L, C/F）の構造に関して、さらに高度な知識を習得し、財務諸表の正しい見方を理解するための基礎を作る。なお、「会計学入門」の講義を受講し、単位を取得したものでなければ、あるいは、それに相応する学力を有するものでなければ、本講義を受講しても、目標に達することは困難であり、単位の取得は難しい。

### 内 容

- 第1回 費用・収益の会計（1） ①発生主義 ②実現主義 現金主義 など
- 第2回 費用・収益の会計（2） ①費用収益対応の原則 ②個別対応・期間対応 など
- 第3回 資産の評価（1） ①取得原価 ②取替原価 など
- 第4回 資産の評価（2） ①売却時価 ②正味実現可能価額 ②割引現在価値 など
- 第5回 資産会計（1） ①資産会計の意義 ②資産の分類基準 など
- 第6回 資産会計（2） ①流動資産 ②有形固定資産 など
- 第7回 資産会計（3） ①無形固定資産 ②繰延資産 など
- 第8回 負債会計（1） ①負債会計の意義 ②金銭債務 など
- 第9回 負債会計（2） ①引当金 ②社債 など
- 第10回 資本会計（1） ①資本会計の意義 ②純資産の分類 など
- 第11回 資本会計（2） ①株式会社の設立 ②増資 など
- 第12回 資本会計（3） ①自己株式 ②剰余金の配当 など
- 第13回 その他（1） ①金融商品の会計 ②外貨換算の会計 など
- 第14回 その他（2） ①税効果会計 ②連結会計 など
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

テキスト以外に、応用レベルのプリントを、かなり配賦するので、これらを使って積極的に学習すること。わからない点に関しては、積極的に質問するようにすること。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（40）小テスト（30）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30）備考（ 講義期間中に、数回の小テストを実施する。小テストの点数は、最終成績に大きく影響するので、毎回の講義を真剣に受講すること。）

科目名 簿記論(基礎簿記論) <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

複雑な商取引の理解

授業の目的(獲得目標)

商取引の分析方法の習得。本講義は、簿記の基礎的仕組み(簿記一巡の手続等)を理解しているということ为前提に進められるので、簿記演習ⅠおよびⅡの単位取得者、もしくは、日商簿記3級合格者レベルの学力がないものは、本講義の単位取得は困難である。

内 容

第1回 ガイダンスー資金の流れと会計の役割ー

第2回 現金預金取引

第3回 有価証券取引

第4回 債権債務取引

第5回 手形取引(1) 裏書取引等

第6回 手形取引(2) 不渡処理等

第7回 引当金取引

第8回 商品売買取引(1) 商品勘定の分割 等

第9回 商品売買取引(2) 割引割戻 等

第10回 特殊商品売買取引(1) 未着品取引 等

第11回 特殊商品売買取引(2) 割賦販売 等

第12回 固定資産取引(1) 取得・減価償却 等

第13回 固定資産取引(2) 無形固定資産・投資 等

第14回 損益取引

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義中に配賦する教材プリントや参考書をよく読んで、積極的に学習し、質問に来ることを希望する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (30) 小テスト (30) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( 小テストを数回実施する。  
小テストの評価を重視するので、毎回の講義を真剣に受講すること。)

|       |          |      |
|-------|----------|------|
| 科目名   | 応用簿記論〈Z〉 |      |
| クラス   | Z        | 配当回生 |
| 講義期間  | その他      | 定員   |
| 履修条件  |          |      |
| クラス指定 |          |      |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）  |      |

### テーマ

株式会社とその会計システムの理解

### 授業の目的（獲得目標）

財務会計システムの基礎を習得。本講義は、応用簿記演習Ⅰの内容に引き続いて行なう。したがって、応用簿記演習Ⅰの単位取得者、もしくは、日商簿記3級合格者レベルの学力がないものの単位取得は困難である。

### 内 容

- 第1回 株式会社会計（1） 設立等
- 第2回 株式会社会計（2） 創立費等
- 第3回 株式会社会計（3） 剰余金等
- 第4回 株式会社会計（4） 企業統合
- 第5回 株式会社会計（5） 社債
- 第6回 税金
- 第7回 決算（1） 決算整理等
- 第8回 決算（2） 決算集合勘定
- 第9回 決算（3） 財務諸表
- 第10回 本支店会計（1） 本支店間取引等
- 第11回 本支店会計（2） 合併財務諸表
- 第12回 帳簿組織
- 第13回 伝票会計（1）
- 第14回 伝票会計（2）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

講義中に配賦する教材プリントや参考書をよく読んで、積極的に学習し、質問に来ることを希望する。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（30）小テスト（30）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（40）備考（小テストを数回実施する。）

小テストの評価を重視するので、毎回の講義を真剣に受講すること。)

|       |        |      |
|-------|--------|------|
| 科目名   | 企業法〈Z〉 |      |
| クラス   | Z      | 配当回生 |
| 講義期間  | 前期     | 定員   |
| 履修条件  |        |      |
| クラス指定 |        |      |
| 担当者   | 山田 廣己  |      |

## テーマ

企業と法（企業に関する法規制）

## 授業の目的（獲得目標）

企業（個人企業や会社企業）の組織や活動に関する基本的な法律知識を修得する。

## 内 容

第1回 企業と経済活動： 企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。

第2回 資本主義・市場経済・貨幣（金融）制度： 企業をとりまく資本主義、市場経済について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。

第3回 企業をめぐる法規制： 企業組織・企業活動に関するさまざまな法律、法規定、たとえば、商法、会社法、民法や独占禁止法や金融商品取引法などに触れる。

第4回 企業の組織： 個人企業や組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社などの組織を説明し、さらに、国内で活動する外国会社についても触れる。

第5回 企業の経営者・従業員： 経営者である取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。

第6回 企業グループ： 会社はグループを形成して企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合併（ごうべん）企業についても触れる。

第7回 企業の資金： 企業（株式会社）が企業活動を行うには資金が必要である。その資金の調達方法を説明する。金融市場の国際化についても触れる。

第8回 投資と利殖（りしょく）： 株式会社が発行する株式や社債は人々の投資・利殖の対象であり、証券をはじめとして金融商品の取引、商品先物取引や為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。

第9回 企業の失敗： 企業の事業活動が失敗に終わったとき（倒産）の処理方法を説明する。

第10回 企業の責任： 企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織・活動に関して発生するさまざまな責任を概説する。

第11回 競争と独占（1）： 独占禁止法の話をする。

第12回 競争と独占（2）： 独占禁止法の話をする。

第13回 企業の決済手段： 手形・小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明 する。

第14回 企業の決済手段： 手形・小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明

第15回 予 備

## 授業以外での学習方法

新聞などを読んで企業（会社）の組織・活動に興味を持つように心がけてください。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（50%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間中ごろにレポートの提出を求める。最終講義日に筆記試験を行う。以上を総合的に判断して評価する。）



科目名 金融論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 医療福祉計画論 <Z>

クラス Z

配当回生 2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

格差拡大社会における医療福祉制度の役割と課題

授業の目的（獲得目標）

医療福祉制度を中心に日本の社会保障制度に関する基本的な知識を習得するとともに、格差拡大社会を生き抜くための基本的なリテラシーを身につける。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 社会保障の理念と歩み

第3回 社会保障論の展開

第4回 日本の社会保障の全体像

第5回 社会保険と民間保険

第6回 医療保険制度（1）一保険者間格差

第7回 医療保険制度（2）一無保険者と混合診療

第8回 公的年金制度（1）基礎年金と厚生年金

第9回 公的年金制度（2）企業年金、ポートフォリオ運用

第10回 労働保険（1）雇用保険

第11回 労働保険（2）労災保険

第12回 公的扶助と社会福祉（1）

第13回 公的扶助と社会福祉（2）

第14回 自助、共助、公助

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業中で指示する参考文献にできるだけ目を通すとともに、医療問題や社会保障に関する新聞、雑誌記事等に注意を払ってください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (理解度の確認のために小テストを実施します。)

科目名 ヒューマン・サービス論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 重田 博正

テーマ

ヒューマン・サービス(以下HSと略)における労働者の健康・働きがいとマネジメント

授業の目的(獲得目標)

HSの担い手である労働者の健康問題の重要性を理解し、その健康と働きがいを保障するマネジメントのポイントを理解する。

内 容

第1回 HSとHS労働者の健康問題

第2回 職業性疲労と筋骨格系負担

第3回 労働と健康の実態①—保育労働

第4回 労働と健康の実態②—障害児学校、手話通訳者

第5回 労働と健康の実態③—ホームヘルパー、看護師

第6回 夜間労働の負担

第7回 HS労働のストレス① ストレスの生理学的研究からメンタルストレス研究へ

第8回 HS労働のストレス② 職業性ストレスの枠組

第9回 HS労働のストレス③ コミュニケーション労働のストレス

第10回 HS労働のストレス④ ストレスの緩衝要因

第11回 HS労働のストレス⑤ ストレスの社会性

第12回 HSの組織とマネジメント① HS組織の特徴と基本課題

第13回 HSの組織とマネジメント② 組織運営の実例

第14回 HSの組織とマネジメント③ 職場集団の理論

第15回 HS労働者の健康を守るために

授業以外での学習方法

教科書

参考書

書籍1 : ストレスもつかれもとんでいけ

著者1 : 重田博正

出版社1 : フォーラム・A

出版年1 : 1999年

書籍 2 : 保育士のメンタルヘルス

著者 2 : 重田博正

出版社 2 : かもがわ出版

出版年 2 : 2007 年

書籍 3 : 手話通訳者のメンタルヘルス

著者 3 : 重田博正

出版社 3 : 文理閣

出版年 3 : 2009 年

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0) 参加度 (60%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 社会保障論

クラス

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 地域福祉論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 非営利組織論 <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

---

テーマ

非営利組織の役割

---

授業の目的（獲得目標）

現代社会における非営利セクター、非営利組織の役割に関する基本的な知識を習得し、今後の経済社会のあり方を構想する。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 非営利組織とは

第3回 非営利組織の理論

第4回 政府、企業、非営利組織

第5回 英米の非営利セクターと法制度

第6回 日本の非営利セクターと法制度

第7回 日本の非営利セクターの活動領域（1）

第8回 日本の非営利セクターの活動領域（2）

第9回 日本の非営利セクターの活動領域（3）

第10回 日本の非営利セクターの活動領域（4）

第11回 日本の非営利セクターの活動領域（5）

第12回 非営利組織の人的資源管理

第13回 非営利組織の資金管理

第14回 非営利組織と経済社会の変革

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

授業中に指示する参考文献や配布する資料にしっかり目を通すこと。新聞、雑誌等で非営利組織に関する記事に注意を払うこと。

---

教科書

参考書

---

成績評価



試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (理解度の確認のために小テストを実施します。)

|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 医療経済論〈Z〉 |      |     |
| クラス   | Z        | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期       | 定員   |     |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 |          |      |     |
| 担当者   | 高山 一夫    |      |     |

**テーマ**

医療経済学入門

**授業の目的（獲得目標）**

医療経済学の基礎を学習します。医療制度や経済理論に関する知識を必ずしも前提とはしませんが、「医療マネジメント入門」「医療福祉政策論」「経済学Ⅰ」「公衆衛生学」なども併せて履修すると、理解が深まると思います。

**内 容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 健康と保健医療サービスの需要
- 第3回 需要、弾力性、健康
- 第4回 投入要素の効率的な使用
- 第5回 保健医療サービス供給の費用
- 第6回 基本的な市場モデル
- 第7回 供給者誘発需要と代理関係
- 第8回 市場の失敗と政府
- 第9回 経済評価の理論的基礎
- 第10回 費用の測定
- 第11回 便益の測定
- 第12回 選択の枠組みとしての経済評価
- 第13回 世界の保健医療システム
- 第14回 保健医療セクター改革の国際動向
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

授業中配布する資料や参考文献を用いてしっかり復習すること。

**教科書****参考書****成績評価**

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (理解度を確認する目的で小テストを実施します。)

科目名 地域文化とメディア <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦

テーマ

メディアと文化および社会との相互作用について

### 授業の目的（獲得目標）

伝統的な日本文化・社会や現代のポストモダン文化・社会について、これらのタイプの社会において文化を表現し伝達する「メディア」に焦点をあてて考える。自分自身が属する社会の中の文化に固有な表現形態について客観的、批判的に知ることができ、国際的に自文化を説明し伝達する能力をつけることができる。授業の具体的内容は、メディアとしての文化現象の変化を、近世（瓦版・浮世絵・浮世草子・黄表紙・番付・歌舞伎・浄瑠璃など）、近代（新聞・雑誌・小説・ラジオ・テレビ・映画・演劇など）、現代（インターネット・電子メール・ケー

### 内 容

- 第1回 はじめに メディアと文化 メディアと社会
- 第2回 メディアとは何か メディア文化の二重性 メディアと社会の相互作用
- 第3回 メディアの種類
- 第4回 伝統社会とメディア 江戸のメディア
- 第5回 江戸のジャーナリズム
- 第6回 メディアとしての歌舞伎
- 第7回 近代化とメディア——ジャーナリズムの誕生
- 第8回 マス・メディアと大衆社会
- 第9回 現代とメディア
- 第10回 消費社会とメディア
- 第11回 グローバリゼーションとメディア
- 第12回 ポストモダンとメディア
- 第13回 テレビ
- 第14回 インターネットとケータイ
- 第15回 まとめ メディアの変化と社会・文化の変貌

### 授業以外での学習方法

参考書のいずれかを大学図書館などを利用し読んでおくこと。

### 教科書

**成績評価**

試験（期末レポート70%）小テスト（）授業中課題（15%）授業中発表等（）参加度（15%）備考（授業中課題（小レポート）および参加度 30% 期末レポート 70%）

## 2010 Syllabus

科目名 マスコミとジャーナリズム

クラス 配当回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦・加賀田 茂敏

テーマ

メディア制作の現場——広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネット——

### 授業の目的（獲得目標）

グローバル化とポストモダンの交錯する今日、広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどのメディアが社会や文化や人間に及ぼす影響はきわめておおい。本講は、メディアの解読の仕方や生成の条件・プロセスを知り（メディア・リテラシー）、メディアを能動的に使いこなす自ら作り出しうる能力（メディア・プラクティス）の基礎を与える。こうして、メディアの実態とその可能性を理解する。本講は、将来、広告を中心としてマス・メディアのさまざまな領域で活躍しようとする学生に対する第一線の現場からのメッセージでもある。

### 内 容

第1回 本講義の趣旨 大野 道邦

第2回 広告とは—〈広告産業論〉 (株)大広関西 営業推進局 加賀田 茂敏

第3回 広告マーケティング (株)大広 大阪本社 ソリューション開発局

第4回 クリエイティブ (株)大広 大阪本社 クリエイティブ局

第5回 メディア環境論 (株)博報堂DYメディアパートナーズ

第6回 インターネットの世界 (株)博報堂DYメディアパートナーズ

第7回 テレビ番組制作の現場 KBS京都 アナウンサー

第8回 テレビ業界 民放在阪テレビ局

第9回 新聞記事 朝日新聞

第10回 エンターテインメントビジネス 松竹芸能

第11回 出版業界 関西 出版社

第12回 ラジオ番組の現場 FM京都 営業局

第13回 スポーツビジネス (株)博報堂DYメディアパートナーズ

第14回 メディアと社会と文化 大野 道邦

第15回 おわりに 大野道邦

### 授業以外での学習方法

メディア関係の図書や資料や電子情報等に適宜、目を通しておくこと。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (備考参照) 授業中発表等 (0%) 参加度 (備考参照) 備考 (参加度+小レポート 60%, 最終レポート 40%)

科目名 コミュニケーション論

クラス

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 文化施設マネジメント論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

劇場・ホールのマネジメントについての研究

授業の目的（獲得目標）

法律・制度の変化と国や自治体の文化政策の変遷の中で、国公立の劇場、ホールが抱える課題とマネジメントのあり方について学ぶ。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 戦後日本の文化政策の変遷

第3回 文化芸術振興基本法について

第4回 文化関係予算の現状

第5回 文化施設の運営主体について～国の文化施設・独立行政法人

第6回 文化施設の運営主体について～自治体の文化施設への指定管理者制度の導入

第7回 指定管理者制度の現状と課題

第8回 劇場とは何をするとところなのか（1）～公共劇場の歴史と現状

第9回 劇場とは何をするとところなのか（2）～劇場の種類とモデル

第10回 公共劇場の活動事例（1）市立の劇場の活動事例（ゲストを迎えて）

第11回 公共劇場の活動事例（2）県立の劇場の活動事例（ゲストを迎えて）

第12回 新国立劇場の活動について

第13回 劇場の活動を支える組織と資金について

第14回 劇場での仕事について

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

できるだけ多くの舞台を鑑賞すること。身近な劇場やホール、文化会館の活動に関心を持つこと

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（）

科目名 イベント・メディア開発論〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉山 準

テーマ

劇場および舞台芸術の社会的意義を考える

授業の目的（獲得目標）

舞台芸術を作り支える様々なスタッフの仕事を理解するとともに、舞台芸術が上演される場所（劇場）そのものの機構および役割を理解すること、そして舞台芸術を支える環境について理解することを通じて、劇場や舞台芸術の社会的意義を考える。

内 容

第1回 オリエンテーション（評価の仕方、授業のねらい）舞台芸術とは何か。舞台表現の魅力とその可能性について考える。

第2回 イベントを企画する意図や目的について／芸術（イベント）が社会に果たす役割について

第3回 事例を見ながらイベントの考察／目的別の事例について1

第4回 事例を見ながらイベントの考察／目的別の事例について2

第5回 芸術による地域振興の事例を紹介。その歩みと今後について考える

第6回 地域振興の為にアートイベントが行われている現場を見学(学外授業)

第7回 劇場の機構と技術スタッフの仕事について1

第8回 劇場の機構と技術スタッフの仕事について2

第9回 創造に関わるスタッフの仕事について1

第10回 創造に関わるスタッフの仕事について2

第11回 プロデューサー、制作スタッフの仕事について

第12回 実際の上演を見て考察する（劇場見学を兼ねた芸術鑑賞／学外授業）

第13回 地域における舞台芸術の動向

第14回 文化行政と劇場（芸術イベント）との関わりについて

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

イベント現場の視察、劇場の視察と作品鑑賞を行う。それ以外に劇場等が行う何らかの催しにスタッフとして関与し、その意義を考えてみる事を期待する。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 社会調査方法論 <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

### 授業の目的（獲得目標）

社会調査の設計と実施に必要な基礎的知識、技法、それから心構えを学ぶ。すなわち、自らが関心あるテーマを設定し、それに応じて、現実世界から第一次資料（直接自らが利用できる資料）を収集し、分析できる形にまで整理していく能力を養う。そういった意味で、本講義は理論と実践をつなぐ橋渡しの役割を担う。

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 調査の目的と方法

第3回 調査のプロセス

第4回 調査の企画設計

第5回 サンプリング（1）

第6回 サンプリング（2）

第7回 中間試験

第8回 調査票作成（1）

第9回 調査票作成（2）

第10回 インタビュー調査

第11回 調査の実施

第12回 コーディング・データのクリーニング、データの集計と分析

第13回 さまざまな社会調査

第14回 調査の倫理、社会への還元

第15回 まとめ 授業方式 講義と実習を平行して行う。実習では、課題や模擬調査を通じて、知識と技法を体感的に身につける。

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（30）小テスト（30）授業中課題（20）授業中発表等（）参加度（20）備考（）

|       |               |      |
|-------|---------------|------|
| 科目名   | 統計学基礎論（現マ）〈Z〉 |      |
| クラス   | Z             | 配当回生 |
| 講義期間  | 後期            | 定員   |
| 履修条件  |               |      |
| クラス指定 |               |      |
| 担当者   | 大澤 光          |      |

---

 テーマ
 

---

### 授業の目的（獲得目標）

本科目は、官庁や企業が公表する統計や調査結果を理解し、あるいは、社会調査を行うときに必要となる「統計学」の基礎的な知識と態度を身につけることを目的としている。授業では、まず、社会調査における「統計」の意味・目的、「データ」の種類・性質、実際の「統計調査」の事例を学び、続いて、「量的なデータ」のうち、「一変量データ」については、単純集計、度数分布、代表値、ばらつきなど、「二変量データ」については、クロス集計、相関関係などの意味、計算の仕方、グラフの読み方・描き方を学ぶ。

### 内 容

第1回 授業ガイダンス：社会調査と統計学

第2回 調査方法とデータの種類：定性調査と定量調査、質的データと量的データ

第3回 定性調査（フィールドワーク論文）の事例

第4回 定量調査（官庁統計や簡単な調査報告）の事例

第5回 基本統計量：代表値

第6回 基本等計量：ちらばり

第7回 度数分布表とヒストグラム

第8回 正規分布

第9回 様々な図表化

第10回 クロス集計表

第11回 散布図と相関分析

第12回 因果関係と相関関係

第13回 疑似相関

第14回 単回帰分析

第15回 順位相関分析 授業方式 授業は「講義形式」で行う。教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、教員がインターネット上に設けている「授業情報サイト」(<http://groups.yahoo.co.jp/group/osawa-school/>)を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、毎回の授業内容の理解をより確かなものにするため、毎回の授業の終了時に出題される「小演習」の解答をサイトに提出する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（授業中に行う「中間試験」(50%)と「最終試験」(50%)の結果の評価による。）

|       |             |      |
|-------|-------------|------|
| 科目名   | データ分析基礎論〈Z〉 |      |
| クラス   | Z           | 配当回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   |
| 履修条件  |             |      |
| クラス指定 |             |      |
| 担当者   | 阪本 崇        |      |

テーマ

推測統計の基礎となる理論を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

社会調査の過程では、アンケート調査などを通じて様々な数値データを得ることができる。こうしたデータは一見ただけでは何の意味もない数字の集まりであるかのようにしか見えないかもしれない。しかし、統計的な手法を用いて分析すれば、こうしたデータの中に様々な意味を見いだすことができるようになる。この授業の目的は、第一に、社会調査において必要となる統計学、とりわけ推測統計の基礎を理解することである。第2に、授業の中で得た統計学の知識を実際にデータ（現実のデータの場合もあれば、仮説的なデータの場合もある）に適用して

### 内 容

第1回 イントロダクション：記述統計と推測統計、データの種類

第2回 記述統計の復習（1）：中心の特性値（なぜ平均値だけではいけないのか）

第3回 記述統計の復習（2）：バラツキの特性値（散らばっている異の表し方）

第4回 母集団と標本：母集団と標本の基本的な考え方、無作為抽出、記述統計と推測統計

第5回 確率論の基礎と離散確率分布：ベルヌーイ分布と二項分布を中心に

第6回 連続確率の考え方と連続確率分布：正規分布と中心極限定理を中心に

第7回 母集団の平均がありそうな範囲を求める（平均の推定）

第8回 平均についての仮説が正しいかを調べる（平均と平均差の検定）

第9回 統計を支持率調査やリスク評価に応用する：比率と分散の推定・検定

第10回 練習問題と解答・解説

第11回 2つのデータに関係はあるか？（オッズ比と相関係数）

第12回 2つのデータの関係にはどのような意味があるのか？（回帰分析）

第13回 見せかけの関係と真の関係（偏相関分析）

第14回 関係は本当にあるのか？（相関関係と回帰式の検定）

第15回 練習問題と解答・解説、まとめ 授業方式 講義＋実習課題を基本的な形式とするが、受講整数が少なければ情報教室を利用して演習を行う可能性がある。

### 授業以外での学習方法

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )



|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 社会調査 I <Z> |      |     |
| クラス   | Z          | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | その他        | 定員   |     |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 |            |      |     |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）    |      |     |

## テーマ

### 授業の目的（獲得目標）

本科目は、社会調査の課題の選択、企画・計画、調査の実施、結果の分析・考察から報告書の作成、プレゼンテーションにいたるプロセスの“すべて”を実習を通して体験的に身につけることを目的としている。授業では、「量的な調査」を中心に、課題の選択、調査の企画・計画（含、類似調査のサーベイ）、仮説の構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者の選定、サンプリング、調査の実施などのフィールドワーク、エディティング、調査結果の統計的な集計・分析、仮説の検証、考察、報告書の作成、プレゼンテーションを行う。

## 内 容

- 第1回 社会調査とは
- 第2回 調査する課題の検討（含、情報収集、文献調査）
- 第3回 仮説の検討・構成
- 第4回 調査計画の検討・立案
- 第5回 調査票の作成（含、予備調査）
- 第6回 標本抽出の方法
- 第7回 調査の実施
- 第8回 データの入力・クリーニング
- 第9回 データ分析（単純集計、クロス集計）
- 第10回 データ分析（相関分析、仮説検定）
- 第11回 データ分析（多変量解析による分析）
- 第12回 分析結果の考察
- 第13回 報告書の作成
- 第14回 グループ発表①
- 第15回 グループ発表② 「実習」は、4～6名のグループ単位で進め、グループごとに調査する課題を検討・選択し、その課題に対して、情報収集・文献調査、仮説の設定、調査の立案、調査票の作成を行い、受講生が調査員として調査を実施する。収集されたデータをデータ分析し、最終的に、分析結果を報告書として取りまとめ、プレゼンテーションを実施する。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 (授業中発表 50% 提出物 50%)

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 社会調査Ⅱ 〈Z〉 |      |     |
| クラス   | Z         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   |     |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 |           |      |     |
| 担当者   | 田村 周一     |      |     |

### テーマ

量的調査とデータ分析を中心に、社会調査を体験的に学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

社会調査の企画・設計から報告書作成まで、全過程を実習形式で学習する授業で、本授業では主に量的調査とデータの分析について学ぶ。

### 内 容

- 第1回 インTRODクシヨ、概説
- 第2回 量的社会調査の企画、設計
- 第3回 量的社会調査のテーマ設定、仮説構成
- 第4回 量的社会調査の質問項目設計
- 第5回 対象者・地域の選定、サンプリング
- 第6回 調査票作成、プリテスト、実査時の注意事項
- 第7回 調査データの入力、整理（エディティング、コーディング、データクリーニング）
- 第8回 SPSS (PASW Statistic) を用いた調査データの記述的分析
- 第9回 SPSS (PASW Statistic) を用いた調査データのサンプル選択、カテゴリの統合法
- 第10回 SPSS (PASW Statistic) を用いたクロス集計表の作成・分析
- 第11回 SPSS (PASW Statistic) を用いた相関係数の分析
- 第12回 SPSS (PASW Statistic) を用いた単回帰・重回帰分析
- 第13回 分析結果報告の記述方法
- 第14回 分析結果報告書の作成
- 第15回 研究成果の報告と討論 ※1人1台ずつのPCを使って実習を行う。調査票の作成、実査、データ分析、結果報告書の作成とプレゼンテーションについては数名のグループ単位で行う予定である。

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（出席および授業中提出物

30% 期末レポート 70%)

科目名 現代マネジメント専門演習 I

クラス a 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 現代マネジメント専門演習 I

クラス b 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 現代マネジメント専門演習 I

クラス c 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 現代マネジメント専門演習 I

クラス d 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 現代マネジメント専門演習 I <Z e>

クラス Z e

配当回生 3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

経営者論

### 授業の目的（獲得目標）

経営者のリーダーシップ、状況判断力、戦略、管理能力について理解を深める。

### 内 容

- 第1回 授業概要、報告、レジュメ作成要領の説明、報告者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第14回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第15回 全体の総括

### 授業以外での学習方法

2回の報告、出席率、受講態度などを総合的に考慮して成績評価を行います。授業中、私語、お菓子など食事は厳禁ですので、ご注意ください。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（70）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30）備考（経済新聞を読む習慣を身につけ

てください。)

## 2010 Syllabus

科目名 現代マネジメント専門演習 I

クラス f 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 現代マネジメント専門演習 I

クラス g 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅱ

クラス a 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅱ

クラス b 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅱ

クラス c 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅱ

クラス d 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅱ〈Z e〉

クラス Z e

配当回生 4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

経営者論

### 授業の目的（獲得目標）

経営者のリーダーシップ、状況判断力、戦略、管理能力について理解を深める。

### 内 容

- 第1回 授業概要、報告、レジュメ作成要領の説明、報告者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第14回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第15回 全体の総括

### 授業以外での学習方法

2回の報告、出席率、受講態度などを総合的に考慮して成績評価を行います。授業中、私語、お菓子など食事は厳禁ですので、ご注意ください。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（70）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30）備考（経済新聞を読む習慣を身につけ

てください。)

## 2010 Syllabus

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅱ

クラス f 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅱ

クラス g 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅲ <a>

クラス a

配当回生 4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 仲田 正機

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒論進捗報告（序論）

第4回 卒論進捗報告（序論）

第5回 卒論進捗報告（序論）

第6回 卒論進捗報告（序論）

第7回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第8回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第9回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第10回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第11回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第12回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第13回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第14回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）

---

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅲ <b>

クラス b

配当回生 4回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

---

テーマ

卒業論文を作成する。

---

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒論進捗報告（序論）

第4回 卒論進捗報告（序論）

第5回 卒論進捗報告（序論）

第6回 卒論進捗報告（序論）

第7回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第8回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第9回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第10回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第11回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第12回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第13回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第14回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅲ <c>

クラス c

配当回生 4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡本 哲弥

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒論進捗報告（序論）

第4回 卒論進捗報告（序論）

第5回 卒論進捗報告（序論）

第6回 卒論進捗報告（序論）

第7回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第8回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第9回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第10回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第11回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第12回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第13回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第14回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅲ <d>

クラス d

配当回生 4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒論進捗報告（序論）

第4回 卒論進捗報告（序論）

第5回 卒論進捗報告（序論）

第6回 卒論進捗報告（序論）

第7回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第8回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第9回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第10回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第11回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第12回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第13回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第14回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）



科目名 現代マネジメント専門演習Ⅲ <e>

クラス e

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒論進捗報告（序論）

第4回 卒論進捗報告（序論）

第5回 卒論進捗報告（序論）

第6回 卒論進捗報告（序論）

第7回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第8回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第9回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第10回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第11回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第12回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第13回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第14回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅲ < f >

クラス f

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒論進捗報告（序論）

第4回 卒論進捗報告（序論）

第5回 卒論進捗報告（序論）

第6回 卒論進捗報告（序論）

第7回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第8回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第9回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第10回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）

第11回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第12回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第13回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第14回 卒論進捗報告（本論：調査内容）

第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅲ <g>

クラス g

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

卒業研究を作成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒論進捗報告（序論）
- 第4回 卒論進捗報告（序論）
- 第5回 卒論進捗報告（序論）
- 第6回 卒論進捗報告（序論）
- 第7回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
- 第8回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
- 第9回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
- 第10回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
- 第11回 卒論進捗報告（本論：調査内容）
- 第12回 卒論進捗報告（本論：調査内容）
- 第13回 卒論進捗報告（本論：調査内容）
- 第14回 卒論進捗報告（本論：調査内容）
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅲ

クラス h 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅳ〈a〉

クラス a 配当回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 仲田 正機

テーマ

卒業研究を完成させる

授業の目的（獲得目標）

先ず中間報告を行い、そこでの討論と講評を参考にして、各自、研究内容を再検討し、これに基づいて論文の執筆に取り掛かる。

内 容

- 第1回 夏季休暇中に準備した、卒業論文の中間報告原案を各自が報告し、討論する
- 第2回 同上〈2〉
- 第3回 中間報告〈全員が発表〉、質疑応答〈討論〉、講評。
- 第4回 中間発表後の加筆修正を含めた個人研究の発表・討論、講評
- 第5回 同上〈2〉
- 第6回 同上〈3〉
- 第7回 同上〈4〉
- 第8回 同上〈5〉
- 第9回 卒業論文完成に向けて、論文執筆・清書要領・注意事項など細部の指導
- 第10回 同上〈2〉
- 第11回 卒業論文の完成の確認と各自報告
- 第12回 同上〈2〉
- 第13回 口頭試問に向けてプレゼンテーションと質疑応答の準備・態度・方法を指導する
- 第14回 同上〈2〉
- 第15回 同上〈3〉

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅳ〈b〉

クラス b 配当回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

内 容

- 第1回 卒論進捗報告（結論）
- 第2回 卒論進捗報告（結論）
- 第3回 卒論進捗報告（結論）
- 第4回 卒論進捗報告（結論）
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告（全体）
- 第7回 卒論最終報告（全体）
- 第8回 卒論最終報告（全体）
- 第9回 卒論最終報告（全体）
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅳ <c>

クラス c 配当回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡本 哲弥

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

内 容

- 第1回 卒論進捗報告（結論）
- 第2回 卒論進捗報告（結論）
- 第3回 卒論進捗報告（結論）
- 第4回 卒論進捗報告（結論）
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告（全体）
- 第7回 卒論最終報告（全体）
- 第8回 卒論最終報告（全体）
- 第9回 卒論最終報告（全体）
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅳ〈d〉

クラス d

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

内 容

- 第1回 卒論進捗報告（結論）
- 第2回 卒論進捗報告（結論）
- 第3回 卒論進捗報告（結論）
- 第4回 卒論進捗報告（結論）
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告（全体）
- 第7回 卒論最終報告（全体）
- 第8回 卒論最終報告（全体）
- 第9回 卒論最終報告（全体）
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅳ〈e〉

クラス e

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

内 容

- 第1回 卒論進捗報告（結論）
- 第2回 卒論進捗報告（結論）
- 第3回 卒論進捗報告（結論）
- 第4回 卒論進捗報告（結論）
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告（全体）
- 第7回 卒論最終報告（全体）
- 第8回 卒論最終報告（全体）
- 第9回 卒論最終報告（全体）
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅳ〈f〉

クラス f

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

内 容

- 第1回 卒論進捗報告（結論）
- 第2回 卒論進捗報告（結論）
- 第3回 卒論進捗報告（結論）
- 第4回 卒論進捗報告（結論）
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告（全体）
- 第7回 卒論最終報告（全体）
- 第8回 卒論最終報告（全体）
- 第9回 卒論最終報告（全体）
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（55%）参加度（45%）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅳ〈g〉

クラス g 配当回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の目的（獲得目標）

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

内 容

- 第1回 卒論進捗報告（結論）
- 第2回 卒論進捗報告（結論）
- 第3回 卒論進捗報告（結論）
- 第4回 卒論進捗報告（結論）
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告（全体）
- 第7回 卒論最終報告（全体）
- 第8回 卒論最終報告（全体）
- 第9回 卒論最終報告（全体）
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

科目名 現代マネジメント専門演習Ⅳ

クラス h 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(マ) <マ a>

クラス a 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 仲田 正機

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(マ) <マ b>

クラス b 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(マ) <マc>

クラス c 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡本 哲弥

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(マ) <マ d>

クラス d 配当回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

---

科目名 卒業研究(マ) <マ e>

---

クラス e 配当回生

---

講義期間 通年 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 高山 一夫

---

テーマ

---

授業の目的 (獲得目標)

---

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(マ) <マ f>

クラス f

配当回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(マ) <マ g>

クラス g 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 卒業研究(マ)

クラス h 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 基礎演習 I (マ) <A>

クラス a

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 25

---

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 岡本 哲弥

---

テーマ

マーケティング論に親しむ

---

授業の目的 (獲得目標)

マーケティング論のテキストの輪読、講演会への参加等を通じて、ゼミ形式での発表や討論に慣れる。報告者は、内容を要約したレジュメを作成し、疑問点や論点を提示する。全員で意見や感想を述べ合いながら理解を深めていく。

---

内 容

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 発表方法について

第 3 回 学生による報告 (1)

第 4 回 学生による報告 (2)

第 5 回 学生による報告 (3)

第 6 回 学生による報告 (4)

第 7 回 学生による報告 (5)

第 8 回 学生による報告 (6)

第 9 回 学生による報告 (7)

第 10 回 学生による報告 (8)

第 11 回 学生による報告 (9)

第 12 回 学生による報告 (10)

第 13 回 学生による報告 (11)

第 14 回 総括 (1)

第 15 回 総括 (2)

---

授業以外での学習方法

テキストをよく読み、十分に準備した上で、授業に参加する。日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に関心を持っておく。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (60%) 備考 ( )

科目名 基礎演習 I (マ) <B>

クラス b 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 高山 一夫

#### テーマ

大学における学習スキルの習得と学習習慣の確立

#### 授業の目的（獲得目標）

大学での勉強は自学自習が原則であり、学習スキルの獲得と学習習慣の確立とが学生生活の円滑なスタートの条件である。また、学習習慣のある若者ほど、卒業後の正規雇用比率が高いとの調査結果もある。演習では、①大学での基本的学習スキルについての解説、②映像教材によりマネジメントの実際を学ぶ、③グループ・ディスカッションの3つの内容で、これからの学生生活に不可欠な力と技能を伸ばす。

#### 内 容

第1回 ガイダンス 自己紹介、演習の内容紹介、ポートフォリオの説明等

第2回 大学での学び（1） なぜ勉強するのか、効率的な学習

第3回 大学での学び（2） やる気を高める、学習習慣（時間管理）

第4回 大学での学び（3） 本の読み方

第5回 大学での学び（4） プレゼンテーションの基本

第6回 映像教材を用いた学習（1）

第7回 映像教材を用いた学習（2）

第8回 映像教材を用いた学習（3）

第9回 映像教材を用いた学習（4）

第10回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（1）

第11回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（2）

第12回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（3）

第13回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（4）

第14回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（5）

第15回 まとめ

#### 授業以外での学習方法

予習復習をしっかりと行い、グループワークに積極的に参加すること。学習ポートフォリオを作成し、学習記録と配布物等を各自保存すること。

#### 教科書

#### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習 I (マ) <C>

クラス c 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 李 在鎬

## テーマ

経営者論

## 授業の目的（獲得目標）

組織を成功に導いた経営者の哲学、リーダーシップについて考察し、現代ビジネス学の楽しさを覚える。

## 内 容

- 第1回 授業概要、報告、レジュメ作成要領の説明、報告者及び報告日程の決定
- 第2回 ①②学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第3回 ③④学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第4回 ⑤⑥学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第5回 ⑦⑧学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第6回 ⑨⑩学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第7回 ⑪⑫学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第8回 前半の総括、理解度チェック
- 第9回 ⑬⑭学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第10回 ⑮⑯学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第11回 ⑰⑱学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第12回 ⑲⑳学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第13回 ①②学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第14回 ③④学生による報告(A4, 2枚分のレジュメ、2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第15回 全体の総括、マネジメント現場の見学、理解度チェック

## 授業以外での学習方法

経済新聞を読む習慣を身につけてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験(70) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(30) 備考(2回の報告、出席率、受講態度などを総合的に考慮して成績評価を行います。授業中、私語、お菓子など食事は厳禁ですので、ご注意ください)

い。

科目名 基礎演習 I (マ) <D>

クラス d 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 阪本 崇

**テーマ**

具体的な経済問題に触れながら、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを身につける

**授業の目的（獲得目標）**

ゼミナールという授業の形式は、大学に特徴的なものであると同時に、自分自身で研究するという大学での学習スタイルの基礎となるものでもある。この授業では、具体的な経済問題に触れながら、大学で学ぶために必要なアカデミックスキルを身につけることを目的とする。授業の一環として、企業見学などの学外授業も行いたいと考えているが、具体的な行き先や時期については受講生と相談の上で決定したいと思う。

**内 容**

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 学ぶことの意義を考える
- 第3回 調べる技術を身につける
- 第4回 書く技術を身につける
- 第5回 意見を述べる技術を身につける
- 第6回 議論する技術を身につける
- 第7回 テキストの輪読：はじめに
- 第8回 テキストの輪読：第1章
- 第9回 テキストの輪読：第2章
- 第10回 テキストの輪読：第3章
- 第11回 テキストの輪読：第4章
- 第12回 テキストの輪読：第5章
- 第13回 テキストの輪読：第6章、第7章
- 第14回 テキストの輪読：第8章、第9章
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておくことが必要である。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければならない。また、日常から社会全体について幅広い関心を持ち、大学生らしい教養を身につける努力を行って欲しい。

**教科書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 基礎演習 I (マ) <E>

クラス e

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安田 康晴, 鈴木 靖奈

#### テーマ

大学で学ぶ」ということはどういう事かを考え、自ら行動できる

#### 授業の目的（獲得目標）

1 主体的に学習する姿勢を身につける 2 自分の考えや意見を論理的に発言できる 3 他者の意見を真剣に聴ける 4 自らの疑問点と学習課題を見出せる

#### 内 容

- 第 1 回 オリエンテーション、グループ編成
- 第 2 回 時事問題購読およびグループワーク
- 第 3 回 時事問題購読およびグループワーク
- 第 4 回 時事問題購読およびグループワーク
- 第 5 回 時事問題購読およびグループワーク
- 第 6 回 時事問題発表
- 第 7 回 時事問題発表
- 第 8 回 課題文献および資料収集
- 第 9 回 課題文献および資料収集
- 第 10 回 課題文献および資料収集
- 第 11 回 課題文献および資料収集
- 第 12 回 グループワーク
- 第 13 回 グループワーク
- 第 14 回 グループワーク
- 第 15 回 課題発表

#### 授業以外での学習方法

課題に伴う校外授業を行うこともある

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (60) 備考 (この科目では参加度を重視

する)

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習 I (マ) <F>

クラス f

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 夏目 美樹. 北嶋 勝彦

## テーマ

「大学で学ぶ」ことはどのようなことかを考え、自ら行動する。

## 授業の目的（獲得目標）

1 主体的に学習する姿勢を身につける 2 自分の考えや意見を論理的に発言できる 3 他者の意見を真剣に聴ける 4 自らの疑問点と学習課題を見出せる

## 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献購読、グループワーク

第3回 文献購読、グループワーク

第4回 文献購読、グループワーク

第5回 文献購読、グループワーク

第6回 文献購読、グループワーク

第7回 文献購読、グループワーク

第8回 発表

第9回 文献購読、グループワーク

第10回 文献購読、グループワーク

第11回 文献購読、グループワーク

第12回 文献購読、グループワーク

第13回 文献購読、グループワーク

第14回 文献購読、グループワーク

第15回 発表

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

---

科目名 基礎演習Ⅱ(マ)〈A〉

---

クラス a 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 大学指定

---

担当者 高山 一夫

---

テーマ

学習習慣の確立と貧困論（世代的連鎖論）の学習

---

授業の目的（獲得目標）

演習の前半では専門科目の学習への動機付けを兼ねて映像教材を用いた学習を行う。後半ではテキストを用いてグループ・ワークを行い、そこで得た知見や主張について討論する。

---

内 容

- 第1回 ガイダンス 夏休み課題の回収、学習ポートフォリオ等
  - 第2回 大学における学習スキルの復習 本の読み方、レジュメの作成方法
  - 第3回 映像教材を用いた学習（1）
  - 第4回 映像教材を用いた学習（2）
  - 第5回 映像教材を用いた学習（3）
  - 第6回 映像教材を用いた学習（4）
  - 第7回 映像教材を用いた学習（5）
  - 第8回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（1）
  - 第9回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（2）
  - 第10回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（3）
  - 第11回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（4）
  - 第12回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（5）
  - 第13回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（6）
  - 第14回 テキストを用いたグループ・ワークと討論（7）
  - 第15回 まとめ
- 

授業以外での学習方法

テキストの予習と復習、グループワークに積極的に参加すること。学習ポートフォリオを作成し、学習内容や配布物等を各自保存すること。

---

教科書

参考書

---

成績評価



試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 基礎演習Ⅱ(マ)〈B〉

---

クラス b 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 大学指定

---

担当者 岡本 哲弥

---

テーマ

マーケティング論に親しむ

---

授業の目的（獲得目標）

マーケティング論のテキストの輪読を通じて、ゼミ形式での発表や討論に慣れる。報告者は、内容を要約したレジュメを作成し、疑問点や論点を提示する。全員で意見や感想を述べ合いながら理解を深めていく。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表方法について

第3回 学生による報告(1)

第4回 学生による報告(2)

第5回 学生による報告(3)

第6回 学生による報告(4)

第7回 学生による報告(5)

第8回 学生による報告(6)

第9回 学生による報告(7)

第10回 学生による報告(8)

第11回 学生による報告(9)

第12回 学生による報告(10)

第13回 学生による報告(11)

第14回 総括(1)

第15回 総括(2)

---

授業以外での学習方法

テキストをよく読み、十分に準備した上で、授業に参加する。日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に関心を持っておく。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (60%) 備考 ( )

科目名 基礎演習Ⅱ(マ)〈C〉

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 阪本 崇

**テーマ**

具体的な経済問題に触れながら、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを身につける

**授業の目的（獲得目標）**

ゼミナールという授業の形式は、大学に特徴的なものであると同時に、自分自身で研究するという大学での学習スタイルの基礎となるものでもある。この授業では、具体的な経済問題に触れながら、大学で学ぶために必要なアカデミックスキルを身につけることを目的とする。授業の一環として、企業見学などの学外授業も行いたいと考えているが、具体的な行き先や時期については受講生と相談の上で決定したいと思う。

**内 容**

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 学ぶことの意義を考える
- 第3回 調べる技術を身につける
- 第4回 核技術を身につける
- 第5回 意見を述べる技術を身につける
- 第6回 議論する技術を身につける
- 第7回 テキストの輪読：はじめに
- 第8回 テキストの輪読：第1章
- 第9回 テキストの輪読：第2章
- 第10回 テキストの輪読：第3章
- 第11回 テキストの輪読：第4章
- 第12回 テキストの輪読：第5章
- 第13回 テキストの輪読：第6章、第7章
- 第14回 テキストの輪読：第8章、第9章
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておくことが必要である。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければならない。また、日常から社会全体について幅広い関心を持ち、大学生らしい教養を身につける努力を行って欲しい。

**教科書**

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(マ)〈D〉

クラス d 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 李 在鎬

## テーマ

経営者論

## 授業の目的（獲得目標）

組織を成功に導いた経営者の回顧録を輪読し、発表と議論を通じて、経営者のリーダーシップや戦略・管理行動について理解を深める。

## 内 容

- 第1回 授業の概要、報告やレジュメの作成要領の説明、発表日程の決定
- 第2回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第8回 前半の総括、理解度チェック
- 第9回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第14回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第15回 全体の総括、理解度チェック

## 授業以外での学習方法

経済新聞を読む習慣を身につけてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験(70) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(30) 備考(2回の報告、出席率、受講態度)

などを総合的に考慮して成績評価を行います。授業中、私語、食事は厳禁ですので、ご注意ください。)

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(マ)〈E〉

クラス e 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 夏目 美樹. 北嶋 勝彦

## テーマ

「大学で学ぶ」ということはどういう事かを考え、自ら行動する。

## 授業の目的（獲得目標）

1 主体的に学習する姿勢を身につける 2 自分の考えや意見を論理的に発言できる 3 他者の意見を真剣に聴ける 4 自らの疑問点と学習課題を見出せる

## 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献購読、グループワーク

第3回 文献購読、グループワーク

第4回 文献購読、グループワーク

第5回 文献購読、グループワーク

第6回 文献購読、グループワーク

第7回 文献購読、グループワーク

第8回 発表

第9回 文献購読、グループワーク

第10回 文献購読、グループワーク

第11回 文献購読、グループワーク

第12回 文献購読、グループワーク

第13回 文献購読、グループワーク

第14回 文献購読、グループワーク

第15回 発表

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )



科目名 基礎演習Ⅱ(マ)〈F〉

クラス f

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安田 康晴, 鈴木 靖奈

#### テーマ

「大学で学ぶ」ということはどういう事かを考え、自ら行動できる

#### 授業の目的（獲得目標）

1 主体的に学習する姿勢を身につける 2 自分の考えや意見を論理的に発言できる 3 他者の意見を真剣に聴ける 4 自らの疑問点と学習課題を見出せる

#### 内容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 時事問題購読およびグループワーク
- 第3回 時事問題購読およびグループワーク
- 第4回 時事問題購読およびグループワーク
- 第5回 時事問題購読およびグループワーク
- 第6回 発表
- 第7回 課題文献および資料収集
- 第8回 課題文献および資料収集
- 第9回 課題文献および資料収集
- 第10回 課題文献および資料収集
- 第11回 グループワーク
- 第12回 グループワーク
- 第13回 グループワーク
- 第14回 グループワーク
- 第15回 課題発表

#### 授業以外での学習方法

課題によっては校外授業を行うこともある

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (60) 備考 (この科目では参加度を重視)

する)

科目名 現代マネジメント基礎論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 日本企業論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 会計学入門

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

会計の基礎的思考の習得

### 授業の目的（獲得目標）

会計学（企業会計）という社会科学は、資本主義の原理に則って、経済情報を処理し、伝達する、非常に精密に組み立てられたコミュニケーションのための道具である。このことを、理解するのが、本講義の目的である。本講義では、初心者にも理解しやすいように、平易に書かれたテキストを使用するが、講義のレベルを下げないように、多くのサブ教材を使用するので、しっかりと勉強してもらいたい。

### 内 容

第1回 ガイダンス ①企業経営の仕組み ②会計の役割 ③ステークホルダーについて

第2回 資金の調達と運用 (1) ①貸借対照表の本質 ②資産・負債・純資産の部の意味 など

第3回 資金の調達と運用 (2) ①株式会社の仕組み ②株主 ③自己資本の意義 など

第4回 資金の調達と運用 (3) ①債権者 ②他人資本の意義 など

第5回 資金の調達と運用 (4) ①直接金融と間接金融 ②株主と債権者の違い ③株価 など

第6回 資金の調達と運用 (5) ①株主と債権者のリスク ②資本コスト ③稼得利益 など

第7回 資金の調達と運用 (6) ①貨幣性資産と非貨幣性資産 ②資産の意義とその分類 など

第8回 資産の活用と資金の回収 (1) ①会計期間の意味 ②資産と費用の違い ③経営努力と経営成果 など

第9回 資産の活用と資金の回収 (2) ①価値の創造 ②ステークホルダーへの価値の分配 など

第10回 複式簿記の理解 (1) 記帳練習

第11回 複式簿記の理解 (2) 記帳練習

第12回 複式簿記の理解 (3) 記帳練習

第13回 複式簿記の理解 (4) ①複式簿記の原理（簿記一巡の手続き等） ②会計の報告機能 など

第14回 企業経営と資金の流れの総理解

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

テキスト以外に、応用レベルのプリントを、かなり配賦するので、これらを使って積極的に学習すること。わからない点に関しては、積極的に質問するようにすること。

### 教科書

### 成績評価

試験（40）小テスト（30）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30）備考（ 講義期間中に数回の小テストを実施する。小テストの点数は最終成績に大きく影響するので、毎回の講義を真剣に受講すること。）

科目名 医療福祉マネジメント入門〈Z〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントの入門

### 授業の目的（獲得目標）

医療問題を解決するうえでマネジメントの知見は有益である。この授業では、医療分野におけるマネジメントの基本的な内容について、制度レベル、経営レベル、技術レベルの3つのレベルで理解を深める。

### 内 容

- 第1回 ガイダンスと話題提供
- 第2回 医療マネジメントの特徴
- 第3回 医療制度のマネジメント（1） 医療保険制度
- 第4回 医療制度のマネジメント（2） 介護保険制度
- 第5回 医療制度のマネジメント（3） 医療福祉複合体
- 第6回 医療制度のマネジメント（4） 医療法人制度改革
- 第7回 医療経営のマネジメント（1） 診療報酬
- 第8回 医療経営のマネジメント（2） 人的資源管理
- 第9回 医療経営のマネジメント（3） 業務管理
- 第10回 医療経営のマネジメント（4） ファイナンス
- 第11回 医療技術のマネジメント（1） 医療の経済評価の基礎
- 第12回 医療技術のマネジメント（2） 費用効果分析
- 第13回 医療技術のマネジメント（3） 費用効用分析
- 第14回 医療技術のマネジメント（4） 費用便益分析
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

新聞や雑誌の記事に目を通すなど、医療に対する理解と関心を持つこと。授業中に紹介した参考書などを積極的に読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (25) 授業中発表等 (0) 参加度 (25) 備考 ( )



|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | メディア論    |
| クラス   | 配当回生 1回生 |
| 講義期間  | 後期 定員    |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   | 大野 道邦    |

テーマ

メディアと文化および社会との相互作用について

### 授業の目的（獲得目標）

伝統的な日本文化・社会や現代のポストモダン文化・社会について、これらのタイプの社会において文化を表現し伝達する「メディア」に焦点をあてて考える。自分自身が属する社会の中の文化に固有な表現形態について客観的、批判的に知ることができ、国際的に自文化を説明し伝達する能力をつけることができる。授業の具体的内容は、メディアとしての文化現象の変化を、近世（瓦版・浮世絵・浮世草子・黄表紙・番付・歌舞伎・浄瑠璃など）、近代（新聞・雑誌・小説・ラジオ・テレビ・映画・演劇など）、現代（インターネット・電子メール・ケー

### 内 容

- 第1回 はじめに メディアと文化 メディアと社会
- 第2回 メディアとは何か メディア文化の二重性 メディアと社会の相互作用
- 第3回 メディアの種類
- 第4回 伝統社会とメディア 江戸のメディア
- 第5回 江戸のジャーナリズム
- 第6回 メディアとしての歌舞伎
- 第7回 近代化とメディア——ジャーナリズムの誕生
- 第8回 マス・メディアと大衆社会
- 第9回 現代とメディア
- 第10回 消費社会とメディア
- 第11回 グローバリゼーションとメディア
- 第12回 ポストモダンとメディア
- 第13回 テレビ
- 第14回 インターネットとケータイ
- 第15回 まとめ メディアの変化と社会・文化の変貌

### 授業以外での学習方法

参考書のいずれかを大学図書館などを利用し読んでおくこと。

### 教科書

**成績評価**

試験（期末レポート70%）小テスト（）授業中課題（15%）授業中発表等（）参加度（15%）備考（授業中課題（小レポート）および参加度 30% 期末レポート 70%）

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 医療事務研究 I <a> |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 秋期集中         | 定員   | 30  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 |              |      |     |
| 担当者   | 森本 育子        |      |     |

テーマ

医療事務研究

### 授業の目的（獲得目標）

医療事務技能審査2級(医科)＝2級メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。 ※この科目は医療事務技能審査2級(医科)＝2級メディカルクラーク(医科)の受験資格を得るための科目です。 9/1, 9/2, 9/3, 9/4, 9/6 で講義実施

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 医療保険制度

第3回 窓口業務

第4回 初診料・再診料 1

第5回 初診料・再診料 2

第6回 投薬 1

第7回 投薬 2

第8回 注射 1

第9回 注射 2

第10回 医学管理・在宅 1

第11回 医学管理・在宅 2

第12回 画像診断 1

第13回 画像診断 2

第14回 レセプト点検 1

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

●医療事務研究 I・II・対策講座は連続した講義であり、医療事務研究 I・IIに加えて対策講座を受講する義務があります。対策講座受講には、別途対策講座受講料が必要となります。 ●対策講座受講料は、受講者数により多少の変動はありますが1万円程度となります。その他、問題集代 7, 100 円が必要です。(詳細については後日アナウンス) ●対策講座受講料は前期受講登録訂正期間中の納入期限までに納入してください。(納入期限は後日アナウンス) 対策講座実施日程：9/13, 9/14, 9/15, 9/16, 9/17 ※医

### 教科書

**成績評価**

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |              |          |
|-------|--------------|----------|
| 科目名   | 医療事務研究 I <b> |          |
| クラス   | b            | 配当回生 1回生 |
| 講義期間  | 秋期集中         | 定員       |
| 履修条件  |              |          |
| クラス指定 |              |          |
| 担当者   | 辻出 英子        |          |

テーマ

医療事務研究

### 授業の目的（獲得目標）

医療事務技能審査2級(医科)＝2級メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。 ※この科目は医療事務技能審査2級(医科)＝2級メディカルクラーク(医科)の受験資格を得るための科目です。 9/1, 9/2, 9/3, 9/4, 9/6 で講義実施

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 医療保険制度

第3回 窓口業務

第4回 初診料・再診料 1

第5回 初診料・再診料 2

第6回 投薬 1

第7回 投薬 2

第8回 注射 1

第9回 注射 2

第10回 医学管理・在宅 1

第11回 医学管理・在宅 2

第12回 画像診断 1

第13回 画像診断 2

第14回 レセプト点検 1

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

●医療事務研究 I・II・対策講座は連続した講義であり、医療事務研究 I・IIに加えて対策講座を受講する義務があります。対策講座受講には、別途対策講座受講料が必要となります。 ●対策講座受講料は、受講者数により多少の変動はありますが1万円程度となります。その他、問題集代7,100円が必要です。(詳細については後日アナウンス) ●対策講座受講料は前期受講登録訂正期間中の納入期限までに納入してください。(納入期限は後日アナウンス) 対策講座実施日程：9/13, 9/14, 9/15, 9/16, 9/17 ※医

### 教科書

**成績評価**

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 医療事務研究Ⅱ <a> |      |     |
| クラス   | a           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 秋期集中        | 定員   | 30  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 森本 育子       |      |     |

テーマ

医療事務研究

### 授業の目的（獲得目標）

医療事務技能審査2級(医科)＝2級メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。 ※この科目は医療事務技能審査2級(医科)＝2級メディカルクラーク(医科)の受験資格を得るための科目です。 9/7, 9/8, 9/9, 9/10, 9/11 で講義実施

### 内 容

第1回 処置1

第2回 処置2

第3回 リハビリ

第4回 医療保険制度

第5回 手術1

第6回 手術2

第7回 検査1

第8回 検査2

第9回 検査3

第10回 検査4

第11回 入院料

第12回 レセプト点検2

第13回 患者接遇1

第14回 患者接遇2

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

●医療事務研究Ⅰ・Ⅱ・対策講座は連続した講義であり、医療事務研究Ⅰ・Ⅱに加えて対策講座を受講する義務があります。対策講座受講には、別途対策講座受講料が必要となります。 ●対策講座受講料は、受講者数により多少の変動はありますが1万円程度となります。その他、問題集代7,100円が必要です。(詳細については後日アナウンス) ●対策講座受講料は前期受講登録訂正期間中の納入期限までに納入してください。(納入期限は後日アナウンス) 対策講座実施日程：9/13, 9/14, 9/15, 9/16, 9/17 ※医療

### 教科書

**成績評価**

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（）



## 2010 Syllabus

|       |             |          |
|-------|-------------|----------|
| 科目名   | 医療事務研究Ⅱ <b> |          |
| クラス   | b           | 配当回生 1回生 |
| 講義期間  | 秋期集中        | 定員       |
| 履修条件  |             |          |
| クラス指定 |             |          |
| 担当者   | 辻出 英子       |          |

テーマ

医療事務研究

### 授業の目的（獲得目標）

医療事務技能審査2級(医科)＝2級メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。 ※この科目は医療事務技能審査2級(医科)＝2級メディカルクラーク(医科)の受験資格を得るための科目です。 9/7, 9/8, 9/9, 9/10, 9/11 で講義実施

### 内 容

第1回 処置1

第2回 処置2

第3回 リハビリ

第4回 医療保険制度

第5回 手術1

第6回 手術2

第7回 検査1

第8回 検査2

第9回 検査3

第10回 検査4

第11回 入院料

第12回 レセプト点検2

第13回 患者接遇1

第14回 患者接遇2

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

●医療事務研究Ⅰ・Ⅱ・対策講座は連続した講義であり、医療事務研究Ⅰ・Ⅱに加えて対策講座を受講する義務があります。対策講座受講には、別途対策講座受講料が必要となります。 ●対策講座受講料は、受講者数により多少の変動はありますが1万円程度となります。その他、問題集代7,100円が必要です。(詳細については後日アナウンス) ●対策講座受講料は前期受講登録訂正期間中の納入期限までに納入してください。(納入期限は後日アナウンス) 対策講座実施日程：9/13, 9/14, 9/15, 9/16, 9/17 ※医療

### 教科書

**成績評価**

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（）

科目名 社会調査・フィールドワーク入門

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦

テーマ

### 授業の目的（獲得目標）

社会調査・フィールドワークの意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

### 内 容

- 第1回 社会調査とは何か 社会調査の目的
- 第2回 社会学と社会調査の歴史
- 第3回 調査方法論 調査倫理
- 第4回 量的調査と質的調査
- 第5回 国勢調査 官庁統計 事業所・企業統計調査 世論調査
- 第6回 調査票調査
- 第7回 調査票作成
- 第8回 サンプリング
- 第9回 データ化作業
- 第10回 データ分析
- 第11回 フィールドワークとはなにか
- 第12回 フィールドワークの事例
- 第13回 聞き取り調査 参与観察法
- 第14回 ドキュメント分析
- 第15回 （まとめ）社会調査の意義

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（期末レポート70%）

科目名 社会調査方法論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 佳絵子

テーマ

### 授業の目的（獲得目標）

社会調査の設計と実施に必要な基礎的知識、技法、それから心構えを学ぶ。すなわち、自らが関心あるテーマを設定し、それに応じて、現実世界から第一次資料（直接自らが利用できる資料）を収集し、分析できる形にまで整理していく能力を養う。そういった意味で、本講義は理論と実践をつなぐ橋渡しの役割を担う。

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 調査の目的と方法

第3回 調査のプロセス

第4回 調査の企画設計

第5回 サンプリング（1）

第6回 サンプリング（2）

第7回 中間試験

第8回 調査票作成（1）

第9回 調査票作成（2）

第10回 インタビュー調査

第11回 調査の実施

第12回 コーディング・データのクリーニング、データの集計と分析

第13回 さまざまな社会調査

第14回 調査の倫理、社会への還元

第15回 まとめ 授業方式 講義と実習を平行して行う。実習では、課題や模擬調査を通じて、知識と技法を体感的に身につける。

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

### 成績評価

試験（30）小テスト（30）授業中課題（20）授業中発表等（）参加度（20）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 社会調査方法論 <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 統計学基礎論(マ)

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 大澤 光

テーマ

### 授業の目的（獲得目標）

本科目は、官庁や企業が公表する統計や調査結果を理解し、あるいは、社会調査を行うときに必要となる「統計学」の基礎的な知識と態度を身につけることを目的としている。授業では、まず、社会調査における「統計」の意味・目的、「データ」の種類・性質、実際の「統計調査」の事例を学び、続いて、「量的なデータ」のうち、「一変量データ」については、単純集計、度数分布、代表値、ばらつきなど、「二変量データ」については、クロス集計、相関関係などの意味、計算の仕方、グラフの読み方・描き方を学ぶ。

### 内 容

第1回 授業ガイダンス：社会調査と統計学

第2回 調査方法とデータの種類：定性調査と定量調査、質的データと量的データ

第3回 定性調査（フィールドワーク論文）の事例

第4回 定量調査（官庁統計や簡単な調査報告）の事例

第5回 基本統計量：代表値

第6回 基本等計量：ちらばり

第7回 度数分布表とヒストグラム

第8回 正規分布

第9回 様々な図表化

第10回 クロス集計表

第11回 散布図と相関分析

第12回 因果関係と相関関係

第13回 疑似相関

第14回 単回帰分析

第15回 順位相関分析 授業方式 授業は「講義形式」で行う。教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、教員がインターネット上に設けている「授業情報サイト」(<http://groups.yahoo.co.jp/group/osawa-school/>)を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、毎回の授業内容の理解をより確かなものにするため、毎回の授業の終了時に出題される「小演習」の解答をサイトに提出する。

### 授業以外での学習方法

### 教科書

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（授業中に行う「中間試験」(50%)と「最終試験」(50%)の結果の評価による。）

---

科目名 公衆衛生

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 河野 公一

---

### テーマ

公衆衛生学の基礎を理解し、保健・医療・福祉の現況とシステムや対策について学ぶ。

---

### 授業の目的（獲得目標）

地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病予防のための活動や医療、保健、福祉の連携の場で、専門職として有効に機能できる知識を培う。

---

### 内 容

第1回 公衆衛生総論、環境保健

第2回 公衆衛生総論、環境保健

第3回 産業保健1・2

第4回 産業保健1・2

第5回 食品衛生・国民栄養

第6回 食品衛生・国民栄養

第7回 感染症・国際保健

第8回 感染症・国際保健

第9回 学校保健・地域保健

第10回 学校保健・地域保健

第11回 医療経済・障害者福祉

第12回 医療経済・障害者福祉

第13回 疫学統計・老人保健福祉

第14回 疫学統計・老人保健福祉

第15回 母子保健・成人保健・まとめ

第16回 母子保健・成人保健・まとめ

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（）



---

科目名 基礎解剖学

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 川上 ゆかり

---

テーマ

正常な人体の形態と構造について学ぶ

---

### 授業の目的（獲得目標）

本基礎解剖学は肉眼解剖学、組織学及び発生学の分野を含むが、その中で今後、専門分野を学ぶにあたり、必要と思われる基礎的知識に重点を置き、各部所を関連づけながら正常な人体の形態と構造を立体的に理解する。

---

### 内 容

- 第1回 概論
  - 第2回 細胞・組織
  - 第3回 骨格系
  - 第4回 筋系
  - 第5回 神経系
  - 第6回 感覚系
  - 第7回 循環器系
  - 第8回 血液、脈管系
  - 第9回 呼吸器系
  - 第10回 消化器系Ⅰ
  - 第11回 消化器系Ⅱ
  - 第12回 内分泌系
  - 第13回 泌尿器系
  - 第14回 生殖器系
  - 第15回 発生
- 

### 授業以外での学習方法

解剖学は医学を学ぶにあたって最も基礎となる学問です。専門分野を学ぶ度、解剖学の教科書、参考書に立ち戻り、比較、確認される事でより理解を深めることができます

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（適時行う小テスト・出席状況は、最終判定時考慮する。）

科目名 生理学

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 江口 豊・辻田 靖之

テーマ

基礎生理学・病態生理学

### 授業の目的（獲得目標）

生命現象を主に機能的側面から学ぶ。人体の生体システムについて恒常性の維持や体組成、細胞などについて学習し、血液、神経系、循環器系などについての正常な生理的機能について理解を深める。さらに異常状態である病態生理についても学ぶ。

### 内 容

|      |          |                    |
|------|----------|--------------------|
| 第1回  | 生体システムⅠ  | 生体の構成、細胞の構造、体液の組成  |
| 第2回  | 生体システムⅡ  | 生体維持機能             |
| 第3回  | 神経系の機能Ⅰ  | 中枢神経系              |
| 第4回  | 神経系の機能Ⅱ  | 末梢神経系、運動、知覚        |
| 第5回  | 神経系の機能Ⅲ  | 自律神経系、感覚系          |
| 第6回  | 呼吸系の機能Ⅰ  | 気道、胸郭              |
| 第7回  | 呼吸系の機能Ⅱ  | 肺、酸・塩基平衡           |
| 第8回  | 循環器系の機能Ⅰ | 循環システム             |
| 第9回  | 循環器系の機能Ⅱ | 心臓                 |
| 第10回 | 血液の機能Ⅰ   | 血球成分と血漿成分          |
| 第11回 | 血液の機能Ⅱ   | 止血線溶機能と凝固因子        |
| 第12回 | 消化系機能Ⅰ   | 消化管機能              |
| 第13回 | 消化系機能Ⅱ   | 肝・胆・膵機能            |
| 第14回 | その他      | 泌尿器系、生殖系、内分泌系、免疫機能 |
| 第15回 | まとめ      |                    |

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

### 成績評価

試験（70%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 薬理学

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 天野 博夫

---

テーマ

基礎薬理学・臨床薬理学

---

### 授業の目的（獲得目標）

薬は身体にとって本来異物であり、人に対して利益を与えると同時に危険をもたらす二面性を有している。今日の医療のあらゆる分野において医薬品の使用は不可欠な手段となっており、上記のような薬と生体との複雑な関係についての十分な理解が全ての医療従事者に求められている。本科目においては、生体の機能と薬の関係の理解を土台として薬理学の一般的な基礎知識を身につけることを重点目標とする。加えて、プレホスピタルケアおよび救急医療の特殊性を踏まえ、生体の生命維持機能と関連の深い代表的薬物の作用を理解する。

---

### 内 容

- 第1回 基礎知識の確認と整理 1
  - 第2回 基礎知識の確認と整理 2
  - 第3回 薬理作用の基礎・薬の作用点
  - 第4回 薬物投与と薬物動態 1
  - 第5回 薬物投与と薬物動態 2
  - 第6回 自律神経系作用薬 1
  - 第7回 自律神経系作用薬 2
  - 第8回 循環器系作用薬 1
  - 第9回 循環器系作用薬 2
  - 第10回 呼吸器系作用薬
  - 第11回 中枢神経系作用薬
  - 第12回 薬物の有害作用
  - 第13回 薬物相互作用
  - 第14回 救急医療における薬物投与
  - 第15回 良く用いられる日常薬
  - 第16回 試験
- 

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (70 %) 小テスト (0) 授業中課題 (20 %) 授業中発表等 (0) 参加度 (10 %) 備考 ( )

---

科目名 病理学

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 川上 ゆかり

---

テーマ

身体的変化、組織学的変化から病気の原因、発症のメカニズムを知る。

---

授業の目的（獲得目標）

病気を知る上で必要な基礎的知識、疾患の概念、分類の定義などを学び、病気の原因、発症のメカニズム、形態的变化を学ぶ

---

内 容

第1回 概論

第2回 先天異常と遺伝子異常

第3回 代謝障害

第4回 循環障害

第5回 炎症・発熱

第6回 腫瘍

第7回 感染症・免疫

第8回 循環器系

第9回 呼吸器系

第10回 消化器系Ⅰ

第11回 消化器系Ⅱ

第12回 内分泌系、血液・造血器系

第13回 泌尿器系・生殖器系

第14回 脳神経系

第15回 筋骨・関節、感覚器系

---

授業以外での学習方法

最近、新聞、雑誌などにも病気に関する専門医による解説記事が多数見られます。それらの記事に注目することも病気の原因を知る上で役立つと思います。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（適時行う小テスト・出席状況は、最終判定時考慮する。）

科目名 生化学・微生物学

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期後半 定員

履修条件

クラス指定

担当者 奥村 忠芳

テーマ

生命現象を分子から解明する。

### 授業の目的（獲得目標）

生命現象を分子から解明する生化学では、健康を分子レベルで捉え、その維持と増進を図り栄養の役割を理解する上で必須の知識を習得する。タンパク質、糖質、脂質などの生体構成成分の構造と機能を説明し、生体内で起こる化学変化とエネルギー変換である代謝について理解を深める。また微生物学分野では、通常肉眼では見えない微少かつ単純な生物である微生物の性質や機能を概説した後、感染症の発生機構とその予防、治療に関する基本的な知識を学ぶ。

### 内 容

第1回 生化学序論 1) 生体の構成物質と細胞小器官について 2) 異化と同化→(物質の代謝)

第2回 生体のエネルギー代謝 1) 解糖系 →(エネルギー通貨 ATP とミトコンドリア) 2) クエン酸(TCA) 回路と電子伝達系

第3回 糖質 1) 糖質の種類と構造 2) 糖質代謝(解糖系と糖新生、グリコーゲン合成、ペントースリン酸回路)

第4回 脂質 1) 脂質の種類と構造 2) 脂質代謝(脂肪酸の合成と $\beta$ 酸化) 3) コレステロール・ケトン体の形成

第5回 タンパク質とアミノ酸 1) 種類と構造 2) アミノ酸の合成と分解→(アミノ酸代謝と尿素合成)

第6回 酵素・ホルモン・ビタミン 1) 酵素の性質と種類 2) ホルモンと代謝調節 3) ビタミンと欠乏症

第7回 微生物序論 1) 微生物とは 2) 微生物の大きさの特徴 3) 細菌の構造と機能

第8回 細菌の分類について 1) 細菌の増殖と遺伝 2) グラム陽性菌と陰性菌 3) 好気性菌と嫌気性菌

第9回 主なウイルスについて 1) ウィルスとは 2) ウィルス感染の仕組み 3) 主なウイルス

第10回 感染症について 1) 感染症の種類 2) ワクチンと抗菌薬

第11回 免疫学(その1) 1) 免疫学序論 2) 非特異的生体防御と特異的生体防御 3) 抗原と抗体

第12回 免疫学(その2) 1) 免疫の特性 2) 抗原抗体反応 3) 抗体産生 4) サイトカイン

第13回 免疫学(その3) 1) 細胞性免疫 2) アレルギー反応

第14回 生化学・微生物学・免疫学 各領域における最近のトピックスについて説明する

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書



**成績評価**

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（）

---

科目名 救急医学総論 I

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 夏目 美樹

---

テーマ

救急救命士の使命・基礎知識と代表的応急処置

---

### 授業の目的（獲得目標）

救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、救急救命士の業務を担保する科学的思考の基礎知識や人間の体、心、暮らしへの理解を深める。さらに、救急救命士の行う応急処置と種類、代表的な処置としての心肺蘇生法までを習得し、一連の講義を通して、職業としての救急救命士の具体的なイメージを持てるようにする。

---

### 内 容

- 第1回 救急業務とは、救急業務の沿革
  - 第2回 心肺蘇生法・病院前救護
  - 第3回 科学的思考の基礎・人間と人間生活
  - 第4回 救急救命士の役割と責任
  - 第5回 救急医療体制とは
  - 第6回 救急医療システムとは
  - 第7回 人の身体の仕組み
  - 第8回 人の身体の仕組み
  - 第9回 人の身体の仕組み
  - 第10回 救急救命士に関する法規
  - 第11回 救急活動要領について
  - 第12回 救急活動要領について
  - 第13回 死者の対応要領について
  - 第14回 医療保険等について
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（50）小テスト（10）授業中課題（10）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

科目名 救急救命実習 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈

テーマ

一次救命処置法および応急手当を習得する

授業の目的（獲得目標）

尊い人命を救助するための知識や技術を日常生活において実践して、自他の生命を尊重し、安全で健康な生活を営めるようにする。また、事故を防止し、災害時などにお互い助け合えるようなボランティアの精神を育てるとともに、医療人である救急救命士としての自覚を養う。さらに一次救急処置の理論と基本的実技について具体的な実習を通じて習得する。 ※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 一次救命処置(成人)
- 第3回 一次救命処置(成人)
- 第4回 一次救命処置(成人・小児)
- 第5回 AED取り扱い
- 第6回 AED取り扱い
- 第7回 一次救命処置(乳児)
- 第8回 一次救命処置(乳児)
- 第9回 一次救命処置まとめ
- 第10回 三角巾取扱い
- 第11回 三角巾法・止血法
- 第12回 搬送法(徒手搬送法)
- 第13回 搬送法(徒手搬送法)
- 第14回 三角巾法・搬送法まとめ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (50) 小テスト (10) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 救急の検査

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹下 仁. 山口 桂司. 富士原 彰

テーマ

救急疾患と臨床検査の関係を理解する。

授業の目的（獲得目標）

頻度の高い救急疾患と臨床検査の関連を理解する。

内 容

- 第1回 9月30日 検査総論 【竹下 仁】
- 第2回 9月30日 血液の基礎 【竹下 仁】
- 第3回 10月7日 出血／失血性ショックと検査 【竹下 仁】
- 第4回 10月7日 凝固異常（血栓・塞栓）と検査 【竹下 仁】
- 第5回 10月14日 肺動脈塞栓症と検査 【山口 桂司】
- 第6回 10月14日 黄疸と検査 【山口 桂司】
- 第7回 10月21日 血液ガス分析検査（基礎） 【竹下 仁】
- 第8回 10月21日 血液ガス分析検査（代謝性異常） 【竹下 仁】
- 第9回 10月28日 血液ガス分析検査（呼吸性異常） 【山口 桂司】
- 第10回 10月28日 糖尿病と検査 【山口 桂司】
- 第11回 11月4日 胸部痛救急の検査 【山口 桂司】
- 第12回 11月4日 心電図検査（基礎） 【山口 桂司】
- 第13回 11月11日 心電図検査（心筋梗塞と不整脈） 【竹下 仁】
- 第14回 11月11日 腹痛救急と検査 【竹下 仁】
- 第15回 11月18日 まとめ（超音波・X線撮影・CT・MRI・内視鏡） 【富士原 彰】
- 第16回 11月18日 試験 【富士原 彰】

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

---

科目名 救急医学総論Ⅱ

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 夏目 美樹

---

テーマ

プレホスピタルケアと救急救命

---

### 授業の目的（獲得目標）

救急医療においては、医療機関での受診を待たず、少しでも発症時にさかのぼって医療が開始されなければならない。また救急現場での観察・応急処置と病院内での診断治療が、一貫して傷病者に提供される救急医療体制をつくる必要がある。このようなプレホスピタルケアの中心的な担い手である消防隊員としての救急救命士の役割と責務について学習する。さらに病院前救護の質を管理する事後検証についても理解を深める。また通常の救急医療体制での対応が困難となる災害発生時の、組織的な救命救急医療についても学習する。

---

### 内 容

- 第1回 外傷処置
  - 第2回 救急医療体制
  - 第3回 人の身体の仕組み
  - 第4回 メディカルコントロール
  - 第5回 大規模災害・トリアージ
  - 第6回 現場救護所
  - 第7回 NBC災害・NBC災害対応要領
  - 第8回 国内・国外の災害事例
  - 第9回 救急活動事例と医事紛争
  - 第10回 ストレスマネジメント
  - 第11回 人の身体の仕組み
  - 第12回 人工呼吸と気道確保資機材
  - 第13回 法医学総論・死体現象
  - 第14回 特定行為
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (50) 小テスト (10) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 救急疾病 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 福井 道彦・小尾口 邦彦・阪口 雅洋

テーマ

呼吸器系（総論）・循環器系（総論）・神経系の疾病の理解

### 授業の目的（獲得目標）

呼吸系・循環系を中心に構造と機能、観察と診断法、疾患に応じた症状の特徴、さらに応急処置と搬送法について学習する。また関連して、呼吸困難、喀血、発熱、胸痛、動悸・不整脈などの症候や、高齢者に特有の疾患について、原因と病態、観察・判断応急処置と搬送までの修得を目指す。この他、神経系の疾患などについても理解を深める。

### 内 容

第1回 呼吸器①解剖と生理 1

第2回 呼吸器②解剖と生理 2

第3回 呼吸器③呼吸器疾患の病態生理

第4回 呼吸器④疾患の診断 問診・症状・理学所見、検査 喀血、呼吸困難、胸痛など ※小テスト（呼吸器分野）

第5回 循環器①解剖と生理 1

第6回 循環器②解剖と生理 2

第7回 循環器③病態生理 循環電気生理

第8回 循環器④病態生理疾患の診断 問診・症状・理学所見、胸痛、呼吸困難、動悸・不整脈、発熱 ※小テスト（循環器分野）

第9回 神経系①解剖・生理 1 脳神経

第10回 神経系②解剖生理 2 脊髄・末梢神経

第11回 神経系③主要な神経症候 神経感染症、脳血管障害、脊髄疾患感覚系疾患、その他神経疾患

第12回 神経系④脳血管障害、神経外傷学 ※小テスト（神経系分野）

第13回 高齢者に特有の疾患① 原因と病態

第14回 高齢者に特有の疾患② 高齢者をめぐる社会状況 観察・判断、処置・搬送

第15回 まとめ ※13～15 講はワークショップ形式で高齢者問題を考え、グループ発表とレポート提出を予定している。

### 授業以外での学習方法

高齢者の授業はワークショップ形式で「高齢社会の問題と対策」を行います。高齢者との暮らしについて各自考えておくこと。救急救命士標準テキスト「健康と社会保障」（上巻 P.175）の章・インターネット他を参照のこと。



教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (30%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 救急疾病Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 富士原 彰・大石 泰男・筈井 寛

テーマ

循環器系・呼吸器系・消化器系の疾病の理解

### 授業の目的（獲得目標）

循環器系・呼吸器系の救急疾病について主な疾患を取り上げてその特徴と応急処置などを詳しく学ぶ。循環器系は心不全、虚血性疾患、不整脈、先天性心疾患、心筋疾患など、呼吸器は呼吸不全、呼吸器感染症、気管支喘息、肺炎、肺血管疾患その他の疾患の病態、診断、処置などを習得する。また消化器系の疾患の病態についても理解を深める。

### 内 容

- |      |           |                                 |
|------|-----------|---------------------------------|
| 第1回  | 循環器系疾患各論① | 【筈井 寛】 基本的な病態及び診断・検査方法、治療に用いる薬剤 |
| 第2回  | 循環器系疾患各論② | 【筈井 寛】 心不全、虚血性心疾患               |
| 第3回  | 循環器系疾患各論③ | 【筈井 寛】 虚血性心疾患の救急医療 高血圧          |
| 第4回  | 循環器系疾患各論④ | 【筈井 寛】 不整脈                      |
| 第5回  | 循環器系疾患各論⑤ | 【筈井 寛】 先天性心疾患、心臓弁膜症             |
| 第6回  | 循環器系疾患各論⑥ | 【筈井 寛】 心筋疾患、血管系疾患（動脈、静脈）        |
| 第7回  | 呼吸器系疾患各論① | 【大石 泰男】 呼吸器感染症                  |
| 第8回  | 呼吸器系疾患各論② | 【大石 泰男】 気管支喘息とCOPD、肺腫瘍          |
| 第9回  | 呼吸器系疾患各論③ | 【大石 泰男】 間質性肺炎と周辺疾患、呼吸不全         |
| 第10回 | 呼吸器系疾患各論④ | 【大石 泰男】 肺血管疾患、胸膜・横隔疾患、その他の呼吸器疾患 |
| 第11回 | 消化器系疾患各論① | 【富士原 彰】 胃・十二指腸疾患                |
| 第12回 | 消化器系疾患各論② | 【富士原 彰】 大腸・小腸疾患                 |
| 第13回 | 消化器系疾患各論③ | 【富士原 彰】 肝炎・肝硬変、肝腫瘍、胆石症          |
| 第14回 | 消化器系疾患各論④ | 【富士原 彰】 腫瘍、腹痛、吐血・下血など           |
| 第15回 | まとめ       | 【富士原 彰】                         |

### 授業以外での学習方法

授業・実習を充実したものにするため、日常汎用医学用語および略語を知る。解剖・生理を理解する。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (20%) 小テスト (30%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 救急症候学 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 江口 豊

テーマ

外傷総論

### 授業の目的（獲得目標）

救急医療のうち、特に外傷救急医学について学ぶ。外傷とは機械的外力により身体が形態的、機能的に障害を被ることであり、損傷の種類や緊急度の評価により適切な処置を習得する。また外傷を引き起こす原因・メカニズムや（受傷機転）、複数以上の部位に一定以上の重症度を有する外傷（多発外傷）の特徴や病態・症状、観察と応急処置なども理解する。なお、各授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを毎回行います。

### 内 容

- 第1回 外傷総論 外傷の定義と種類、疫学
- 第2回 出血と止血機構、創傷と感染 出血の種類と病態生理、創傷の治療機転
- 第3回 受傷機転、損傷の特徴 外傷別発生機序とそれらの特徴
- 第4回 多発外傷 多発外傷の病態と観察・処置
- 第5回 妊婦・小児・高齢者の外傷 特徴と観察・処置
- 第6回 ショックについて 原因と分類
- 第7回 ショックの病態生理 生体反応と重症度
- 第8回 観察と判断 観察のポイント
- 第9回 重症度評価 状況評価と重症度評価のポイント
- 第10回 応急処置と搬送 初期評価と応急処置
- 第11回 応急処置と搬送 搬送時の注意点
- 第12回 演習
- 第13回 演習
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験とまとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%) 小テスト (30%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (10%) 備考 ( )

科目名 救急救命実習Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈

テーマ

救急資器材の取り扱いを学ぶ

授業の目的（獲得目標）

観察用医療資器材を用いた救急救命処置等の理論及び、具体的な救急処置技術について実習を通じて理解を深める。実習では、聴診器、血圧計・パルスオキシメータ、心電図モニター、呼吸管理用資器材などの取り扱い要領や測定法を習得する。 ※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 骨折時の固定法

第3回 搬送用資機材

第4回 搬送用資機材

第5回 血圧計・聴診器

第6回 血圧計・聴診器

第7回 心電計・パルスオキシメーター

第8回 心電計・パルスオキシメーター

第9回 患者観察器具まとめ

第10回 器具を使用した人工呼吸・器具による気道確保

第11回 器具を使用した人工呼吸・器具による気道確保

第12回 器具を使用した異物除去

第13回 器具を使用した異物除去

第14回 器具を使用した異物除去

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50) 小テスト (10) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 救急救命実習Ⅲ

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 集中 定員 50

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 安田 康晴. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈. 夏目 美樹

---

テーマ

消防署及び関連施設での実習（見学実習）

---

授業の目的（獲得目標）

近隣地域の消防署及び関係機関の協力の下、救急業務それに関連する業務について見学実習を行う。消防署及び関係機関の施設、設備と機能や、活動内容、救急事務や、救急用自動車、救急用資機材等を実地見学する。

---

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 臨地実習

第3回 臨地実習

第4回 臨地実習

第5回 臨地実習

第6回 臨地実習

第7回 臨地実習

第8回 臨地実習

第9回 臨地実習

第10回 臨地実習

第11回 臨地実習

第12回 臨地実習

第13回 臨地実習

第14回 臨地実習

第15回 臨地実習

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (80) 備考 (※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。)



科目名 現代企業論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の目的（獲得目標）

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

内 容

- 第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点
- 第2回 企業の目的と存在価値
- 第3回 財・サービスの提供機関としての企業
- 第4回 企業の形態論
- 第5回 株式会社制度の出現と展開
- 第6回 株式会社の本質と特徴
- 第7回 株式会社の組織
- 第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
- 第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較
- 第10回 企業の境界
- 第11回 企業間関係の構造と行動
- 第12回 企業統合の形態論と M&A
- 第13回 公企業論
- 第14回 協同組合
- 第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック

授業以外での学習方法

日経新聞を読む習慣を身に付けてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験、出席率、受講態度を総合的に考慮し、成績評価を行う。授業中、私語、食事等は厳禁となっているので、注意を要する。）

科目名 医療マネジメント入門

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントの入門

### 授業の目的（獲得目標）

医療問題を解決するうえでマネジメントの知見は有益である。この授業では、医療分野におけるマネジメントの基本的な内容について、制度レベル、経営レベル、技術レベルの3つのレベルで理解を深める。

### 内 容

- 第1回 ガイダンスと話題提供
- 第2回 医療マネジメントの特徴
- 第3回 医療制度のマネジメント（1） 医療保険制度
- 第4回 医療制度のマネジメント（2） 介護保険制度
- 第5回 医療制度のマネジメント（3） 医療福祉複合体
- 第6回 医療制度のマネジメント（4） 医療法人制度改革
- 第7回 医療経営のマネジメント（1） 診療報酬
- 第8回 医療経営のマネジメント（2） 人的資源管理
- 第9回 医療経営のマネジメント（3） 業務管理
- 第10回 医療経営のマネジメント（4） ファイナンス
- 第11回 医療技術のマネジメント（1） 医療の経済評価の基礎
- 第12回 医療技術のマネジメント（2） 費用効果分析
- 第13回 医療技術のマネジメント（3） 費用効用分析
- 第14回 医療技術のマネジメント（4） 費用便益分析
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

新聞や雑誌の記事に目を通すなど、医療に対する理解と関心を持つこと。授業中に紹介した参考書などを積極的に読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (25) 授業中発表等 (0) 参加度 (25) 備考 ( )

科目名 ビジネス数学

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 大澤 光

### テーマ

Excel を利用して、企業・団体・行政・組織の経営を科学的に取り扱う「経営科学（マネジメントサイエンス）」の基礎的な考え方とその実践的な方法を学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

Excel を利用して、企業・団体・行政・組織の経営を科学的に取り扱う「経営科学（マネジメントサイエンス）」の基礎的な考え方とその実践的な方法を身につける。

### 内 容

- 第1回 1 授業ガイダンス&Excel の基礎（トレーニング）
- 第2回 2 簡単なモデルシミュレーション（会計モデルなど）（1）
- 第3回 3 簡単なモデルシミュレーション（会計モデルなど）（2）
- 第4回 4 簡単なモデルシミュレーション（会計モデルなど）（3）
- 第5回 5 乱数を利用したモンテカルロシミュレーション（生産・在庫モデルなど）（1）
- 第6回 6 乱数を利用したモンテカルロシミュレーション（生産・在庫モデルなど）（2）
- 第7回 7 乱数を利用したモンテカルロシミュレーション（生産・在庫モデルなど）（3）
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 9 待ち行列シミュレーション（顧客の到着とサービス窓口バデルなど）（1）
- 第10回 10 待ち行列シミュレーション（顧客の到着とサービス窓口バデルなど）（2）
- 第11回 11 最適な解決案を求める（線形計画法、整数計画法、0-1問題など）（1）
- 第12回 12 最適な解決案を求める（線形計画法、整数計画法、0-1問題など）（2）
- 第13回 13 最適な解決案を求める（線形計画法、整数計画法、0-1問題など）（3）
- 第14回 14 最適な解決案を求める（線形計画法、整数計画法、0-1問題など）（4）
- 第15回 最終まとめ

### 授業以外での学習方法

教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、「授業情報サイト」を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、毎回の授業についての「小レポート」（分かったこと／分からなかったこと）を教室で提出し、また、出題される「小演習」に取り組んだ結果をサイトに提出する。

### 教科書

**成績評価**

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（6回以上欠席すると（累計出席時間 2/3 未満）、単位は取得できない。）

---

科目名 経営学概論 <a>

---

クラス a

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 李 在鎬

---

テーマ

社会科学として経営学の生成と発展過程を辿り、現代経営学の基礎を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

現代産業社会の進化の主役は企業・学校・病院・行政機関のような組織体といっても過言ではない。このような組織体の存在意義と、その成長・発展のために役に立つ基本的な諸理論を概観することが本科目の主要目標である。

---

内 容

- 第1回 講義概要と経営学の概説
  - 第2回 産業革命による産業社会の到来とスミスの分業理論
  - 第3回 テイラーの科学的管理法(1)
  - 第4回 テイラーの科学的管理法(2)
  - 第5回 ヴェーバーの官僚制組織論
  - 第6回 フェイヨールの管理過程論
  - 第7回 フォードの大量生産方式
  - 第8回 古典的組織論の総括
  - 第9回 ホーソン実験と人間関係論(1)
  - 第10回 ホーソン実験と人間関係論(2)
  - 第11回 新人間関係論(1)
  - 第12回 新人間関係論(2)
  - 第13回 近代理論とコンティンジェンシー理論
  - 第14回 戦略論の基本概念
  - 第15回 人間関係と環境対応を重視する諸理論の総括
- 

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験（持ち込み不可）と出席率、受講態度で評価します。授業中、私語や食事は厳禁ですので、ご注意ください。）

科目名 経営学概論 <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

社会科学として経営学の生成と発展過程を辿り、現代経営学の基礎を学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

現代産業社会の進化の主役は企業・学校・病院・行政機関のような組織体といっても過言ではない。このような組織体の存在意義と、その成長・発展のために役に立つ基本的な諸理論を概観することが本科目の主要目標である。

内 容

- 第1回 講義概要と経営学の概説
- 第2回 産業革命による産業社会の到来とスミスの分業理論
- 第3回 テイラーの科学的管理法(1)
- 第4回 テイラーの科学的管理法(2)
- 第5回 ヴェーバーの官僚制組織論
- 第6回 フェイヨールの管理過程論
- 第7回 フォードの大量生産方式
- 第8回 古典的組織論の総括と理解度チェック
- 第9回 ホーソン実験と人間関係論(1)
- 第10回 ホーソン実験と人間関係論(2)
- 第11回 新人間関係論(1)
- 第12回 新人間関係論(2)
- 第13回 近代理論とコンティンジェンシー理論
- 第14回 戦略論の基本概念
- 第15回 人間関係と環境対応を重視する諸理論の総括

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

参考書

成績評価



試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験（持ち込み不可）と出席率、受講態度で評価します。授業中、私語や食事は厳禁ですので、ご注意ください。）

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 25  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 大澤 光      |      |     |

## テーマ

書籍や文献によって、いろいろな「産業（業界）」とその活動（行動）や仕組みや文化を調査／レポート／プレゼンテーション／ディスカッションによって学ぶ。

## 授業の目的（獲得目標）

実際の「産業（業界）」に関する知識と関心力を身につける。

## 内 容

- 第1回 授業ガイダンス&産業ビデオの視聴（1）
- 第2回 産業ビデオの視聴（2）
- 第3回 第1課題（1）
- 第4回 第1課題（2）
- 第5回 第1課題（3）
- 第6回 産業ビデオの視聴（3）
- 第7回 産業ビデオの視聴（4）
- 第8回 第2課題（1）
- 第9回 第2課題（2）
- 第10回 第2課題（3）
- 第11回 産業ビデオの視聴（5）
- 第12回 産業ビデオの視聴（6）
- 第13回 第3課題（1）
- 第14回 第3課題（2）
- 第15回 第3課題（3）

## 授業以外での学習方法

教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、「授業情報サイト」を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、毎回、視聴した産業ビデオについての「小レポート」（分かったこと／感想）を教室で提出し、また、与えられた課題（特定の産業）に対する「レポート」（この産業はどのような産業か）をサイトに提出し教室でプレゼンテーションする。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（6回以上欠席すると（累計出席時間 2/3 未満）、単位は取得できない。）

|             |           |      |     |
|-------------|-----------|------|-----|
| 科目名         | 基礎演習Ⅲ <b> |      |     |
| クラス         | b         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 前期        | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |           |      |     |
| クラス指定       | 大学指定      |      |     |
| 担当者         | 仲田 正機     |      |     |

**テーマ**

大学での学び—東アジアのビジネス圏を話題に—

**授業の目的（獲得目標）**

東アジアにおける中国の経済発展に伴う日本とのビジネス関係の濃密化を話題ににして、大学における基本的な学習スキルを身につける。

**内 容**

第1回 ガイダンスと自己紹介

第2回 大学での学び〈1〉 本を読んで事実を知る

第3回 同上〈2〉 本を読んで様々な考え方・見方を学ぶ

第4回 同上〈3〉 プレゼンテーションの技法を学ぶ

第5回 同上〈4〉 プレゼンテーションの技法を試してみる

第6回 同上〈5〉 同上〈2〉

第7回 討論の技術を学ぶ

第8回 討論の技術を試してみる

第9回 テキストの「はしがき」「東アジア共同体への志向」（77-93 ページ）、 および「中国マーケットへの外資系企業のまなざし」（95-105 ページ）

第10回 テキストの「中国ソフトウェア産業の分析と展望」（119-128 ページ）、 および「経済成長下の雇用と労働環境」（129-139）

第11回 テキストの「中国経済の主体と産業構造の多様性」（23-32 ページ）、 および「中国ソフトウェア産業における人材育成」についての2章（51-64）

第12回 テキストの「電機製造会社におけるトータルシステムの分析」（33-48 ページ）

第13回 テキストの「遼寧省における国有企業と私営企業の改革と発展」（1-8 ページ）、「国有企業の株式会社化と上場会社の改革」（11-21 ページ）

第14回 テキストの最後の3章「見て食べた中国の食文化」、「初めての中国で見たこと感じたこと」、「私が見た中国東北部」を分担して発表、討論。

第15回 総合討論とまとめ

**授業以外での学習方法**

大学の2回生に相応しい学び方を会得することを主眼にしたい。テキストをしっかりと読み取り、レジュメにまとめ、発表・討論する準備をしよう。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 基礎演習Ⅲ <c>

---

クラス c 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 大学指定

---

担当者 河野 充央

---

テーマ

経済の仕組みと企業経営

---

授業の目的（獲得目標）

グローバルな経済の動きが企業経営に及ぼす影響の本質について、経済理論を学びながら習得する。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 為替と企業経営（1）

第3回 為替と企業経営（2）

第4回 為替と企業経営（3）

第5回 為替と企業経営（4）

第6回 為替と企業経営（5）

第7回 金融政策と企業経営（1）

第8回 金融政策と企業経営（2）

第9回 金融政策と企業経営（3）

第10回 金融政策と企業経営（4）

第11回 金融政策と企業経営（5）

第12回 財政政策と企業経営（1）

第13回 財政政策と企業経営（2）

第14回 財政政策と企業経営（3）

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

新聞、テレビ、インターネット等をとおして、経済記事・情報に積極的にアプローチすること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（20）授業中発表等（20）参加度（60）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ <d> |      |     |
| クラス   | d         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   | 25  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 大学指定      |      |     |
| 担当者   | 大野 道邦     |      |     |

## テーマ

現代における人間と社会と文化

## 授業の目的（獲得目標）

急速に変化する現代社会において、われわれはいかに生きるべきか。現代社会の構造と動態に関して、鋭敏な感覚と知性を養う。授業内容は、人間にかかわる問題（アイデンティティ、個性、人格など）、社会にかかわる問題（相互作用、集団、組織、システムなど）、文化にかかわる問題（グローバリゼーション、ポストモダン、カルチュラル・ターンなど）について、さまざまな文献等を参考にしながら、受講生が自らの関心と視点から把握し発表し討論することである。そして、こうした作業の中から自分自身の学習研究テーマを少しずつ明瞭にしていく。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 人間にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(1)
- 第3回 人間にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(2)
- 第4回 人間にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(3)
- 第5回 社会にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(1)
- 第6回 社会にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(2)
- 第7回 社会にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(3)
- 第8回 社会にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(4)
- 第9回 社会にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(5)
- 第10回 社会にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(6)
- 第11回 文化にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。  
(1)
- 第12回 文化にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。

(2)

第13回 文化にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。

(3)

第14回 文化にかかわる問題にかんする諸文献などを選び、各自分担して読み、まとめ、発表し、討論する。

(4)

第15回 まとめ

---

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (50%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

---

科目名 基礎演習Ⅲ <e>

---

クラス e 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 大学指定

---

担当者 安田 康晴. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈. 夏目 美樹

---

テーマ

公務員試験対策

---

授業の目的（獲得目標）

救急救命士の最大の就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学及び時事問題等の理解を目指す。

---

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 公務員試験対策講座

第3回 公務員試験対策講座

第4回 公務員試験対策講座

第5回 公務員試験対策講座

第6回 公務員試験対策講座

第7回 公務員試験対策講座

第8回 公務員試験対策講座

第9回 公務員試験対策講座

第10回 公務員試験対策講座

第11回 公務員試験対策講座

第12回 公務員試験対策講座

第13回 公務員試験対策講座

第14回 公務員試験対策講座

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | その他       | 定員   | 25  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 大澤 光      |      |     |

## テーマ

ビジネス小説の講読によって、新しい企業経営の方法・考え方として世界中から注目を浴びている「TOC」(theory of constraint)つまり「制約理論」を学ぶ。

## 授業の目的（獲得目標）

「TOC」の基本的な考え方と「思考プロセス」の方法を身につける。

## 内 容

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 『ザ・ゴール』（1）
- 第3回 『ザ・ゴール』（2）
- 第4回 『ザ・ゴール』（3）
- 第5回 『ザ・ゴール』（4）
- 第6回 『ザ・ゴール2』（1）
- 第7回 『ザ・ゴール2』（2）
- 第8回 『ザ・ゴール2』（3）
- 第9回 『ザ・ゴール2』（4）
- 第10回 中間まとめ
- 第11回 『クリティカル・チェーン』（1）
- 第12回 『クリティカル・チェーン』（2）
- 第13回 『クリティカル・チェーン』（3）
- 第14回 『クリティカル・チェーン』（4）
- 第15回 最終まとめ

## 授業以外での学習方法

教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、「授業情報サイト」を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、教科書のポイントを要約した「小レポート」を作成しサイトに提出し、(教員の指名によって)教室で説明する。他の受講生は、これに対して議論する。併せて、受講生は、毎回の授業についての「小レポート」(分かったこと/分からなかったこと)を教室で提出する。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（6回以上欠席すると（累計出席時間 2/3 未満）、単位は取得できない。）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ <b> |      |     |
| クラス   | b         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 25  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 河野 充央     |      |     |

### テーマ

財務諸表の仕組みの理解

### 授業の目的（獲得目標）

財務諸表の仕組みの理解をととして、企業の経営活動を会計情報におきかえる方法とその意義を学ぶ。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業経営と資金の流れ
- 第3回 貸借対照表の理解
- 第4回 損益計算書の理解
- 第5回 キャッシュフロー計算書の理解
- 第6回 複式簿記の仕組みの理解（1）
- 第7回 複式簿記の仕組みの理解（2）
- 第8回 複式簿記の仕組みの理解（3）
- 第9回 財務会計の理解（1）
- 第10回 財務会計の理解（2）
- 第11回 財務会計の理解（3）
- 第12回 管理会計の理解（1）
- 第13回 管理会計の理解（2）
- 第14回 管理会計の理解（3）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

応用レベルのプリントを配賦するので、これらを使って積極的に学習すること。わからない点に関しては、積極的に質問するようにすること。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（20）授業中発表等（20）参加度（60）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ <c>

クラス c 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 岡本 哲弥

## テーマ

グループワークを通じて、マーケティング戦略を立案する。

## 授業の目的（獲得目標）

マーケティング論の基本的なフレームに沿って、マーケティング戦略（ビジネスプラン）を立案する。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 商品カテゴリーの選定
- 第3回 市場分析（PLC）
- 第4回 競合分析／市場地位の種類
- 第5回 顧客分析／市場細分化／STP
- 第6回 自社分析／SWOT分析
- 第7回 商品コンセプト（プロダクトコーン理論）
- 第8回 マーケティング・ミックス戦略（1）
- 第9回 マーケティング・ミックス戦略（2）
- 第10回 全体の整理
- 第11回 プレゼンテーション資料の作成（1）
- 第12回 プレゼンテーション資料の作成（2）
- 第13回 グループ・プロジェクト発表会（1）
- 第14回 グループ・プロジェクト発表会（2）
- 第15回 総括

## 授業以外での学習方法

次回の授業に必要な情報をインターネット、雑誌、新聞やテレビなどを用いて収集しておく。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（10%）授業中発表等（45%）参加度（45%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ <d>

クラス d 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 李 在鎬

## テーマ

経営者論

## 授業の目的（獲得目標）

企業の経営者の回顧録を3-6本輪読し、2回の発表を通じて、経営者のリーダーシップや戦略行動、哲学などを学ぶ。

## 内 容

- 第1回 授業の概要、報告やレジュメの作成要領の説明、発表日程の決定
- 第2回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第14回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第15回 全体の総括

## 授業以外での学習方法

経済新聞を読む習慣を身につけてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (70) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 (2回の発表、出席率、議論への

参加度などを総合的に考慮して成績評価を行います。授業中、私語や食事は厳禁としますので、注意してください。)

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ <e> |      |     |
| クラス   | e         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 25  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 高山 一夫     |      |     |

**テーマ**

医療マネジメントの基礎

**授業の目的（獲得目標）**

医療マネジメントの基礎的な知識を学習するとともに、受講生相互の交流を深める。演習内容は受講生と相談の上で最終的に決定する。

**内 容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（1）
- 第3回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（2）
- 第4回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（3）
- 第5回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（4）
- 第6回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（5）
- 第7回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（6）
- 第8回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（7）
- 第9回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（8）
- 第10回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（9）
- 第11回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（10）
- 第12回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（11）
- 第13回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（12）
- 第14回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク（13）
- 第15回 まとめ

**授業以外での学習方法**

学生相互の自主的な勉強を期待します。勉強以外にも相互に積極的に交流して下さい。

**教科書****参考書****成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（20）授業中発表等（50）参加度（30）備考（）



|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 基礎演習Ⅳ < f > |      |     |
| クラス         | f           | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 希望制         |      |     |
| 担当者         | 木下 達文       |      |     |

**テーマ**

プロジェクトマネジメント&空間プロデュース ～基礎学力のチェックと専門演習への準備～

**授業の目的（獲得目標）**

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の応用としての 課題設定、情報（文献）収集、レポート・原稿の書き方、調査（フィールドワーク）の方法など、すこし応用的な方法論を学ぶと同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行う。全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力などより高度に高めることを目的とする。また、授業では、専門演習に向けた自己の将来の方向性や、研究課題についても考える機会としたい。

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション（授業目標・自他理解）
  - 第2回 演習企画の設定1
  - 第3回 演習企画の設定2
  - 第4回 演習企画のまとめと発表
  - 第5回 基礎研究の検討
  - 第6回 理論研究の発表1
  - 第7回 理論研究の発表2
  - 第8回 事例研究の発表1
  - 第9回 事例研究の発表2
  - 第10回 プロジェクト事業計画
  - 第11回 プロジェクト事業設計
  - 第12回 プロジェクト事業準備
  - 第13回 プロジェクト事業実践1
  - 第14回 プロジェクト事業実践2
  - 第15回 プロジェクト事業評価（エヴァリエーション活動）※演習の内容によって多少変更をする場合もある。
- ※授業では表現力向上のため、毎回小スピーチを行うことをしている。

**授業以外での学習方法**

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。また、ゼミ会も行います。現代マネジメントでは、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしてみましよう。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 (特に出席を重視する。)

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ <g> |      |     |
| クラス   | g         | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 25  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 阪本 崇      |      |     |

### テーマ

現代の産業と産業政策～コンテンツ産業を中心に

### 授業の目的（獲得目標）

現代日本の産業と、産業政策について分析する。手始めに、近年発展がめざましく、多くの学生諸君が興味を持つであろう映画や音楽、広告、ゲームなどのコンテンツ産業に関する文献を読み通す。その上で、産業組織論、産業政策論についての学習と、各人がひとつずつ興味のある産業を決めて、文献調査を行う。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表と討論の技術（1）
- 第3回 発表と討論の技術（2）
- 第4回 テキストの輪読：はじめに                    第1章 文化経済とコンテンツ産業入門
- 第5回 テキストの輪読：第2章 コンテンツ産業政策の勃興と発展
- 第6回 テキストの輪読：第3章 デジタル・コンテンツ産業の経済的特徴
- 第7回 テキストの輪読：第4章 ハリウッド・モデルとグローバルなメディア・コングロマリット
- 第8回 テキストの輪読：第5章 コンテンツ産業の内部構造とダイナミクス
- 第9回 テキストの輪読：第6章 コンテンツ産業を取り巻く国際政治と法的環境の変化
- 第10回 テキストの輪読：第7章 ハリウッド・モデルへの対抗
- 第11回 テキストの輪読：第8章 映画産業
- 第12回 テキストの輪読：第9章 音楽産業
- 第13回 テキストの輪読：第10章 広告産業
- 第14回 テキストの輪読：第11章 テレビ放送産業
- 第15回 テキストの輪読：第12章 ゲーム産業                    終章 コンテンツ産業論の展望

### 授業以外での学習方法

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておく必要がある。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければならない。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (60) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 基礎演習Ⅳ〈h〉

---

クラス h 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 安田 康晴. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈. 夏目 美樹

---

テーマ

公務員試験対策

---

授業の目的（獲得目標）

救急救命士の最大の就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学及び時事問題等の理解を目指す。

---

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 公務員試験対策講座

第3回 公務員試験対策講座

第4回 公務員試験対策講座

第5回 公務員試験対策講座

第6回 公務員試験対策講座

第7回 公務員試験対策講座

第8回 公務員試験対策講座

第9回 公務員試験対策講座

第10回 公務員試験対策講座

第11回 公務員試験対策講座

第12回 公務員試験対策講座

第13回 公務員試験対策講座

第14回 公務員試験対策講座

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )

---

科目名 経営情報システム論

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 大澤 光

---

### テーマ

企業などの組織の「経営情報システム」の概念、役割、方法を、経営組織とIT(information technology)の両面から学ぶ。

---

### 授業の目的（獲得目標）

経営組織とITの両面から「経営情報システム」の概念、役割、方法を身につける。

---

### 内 容

- 第1回 授業ガイダンス
  - 第2回 経営+情報+システム、業務+戦術+戦略のこと
  - 第3回 経営管理と経営情報システムのこと
  - 第4回 ITと経営情報システムのこと
  - 第5回 データ、データベース、データ検索のこと
  - 第6回 業務情報システムのこと
  - 第7回 ネットワークのこと
  - 第8回 中間まとめ
  - 第9回 オフィス情報システムのこと
  - 第10回 コミュニケーションのこと
  - 第11回 eコマースのこと
  - 第12回 セキュリティーのこと
  - 第13回 経営戦略と経営情報システムのこと
  - 第14回 経営情報システムの構築と運用のこと
  - 第15回 最終まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、「授業情報サイト」を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、毎回の授業についての「小レポート」（分かったこと／分からなかったこと）を教室で提出する。また、必要に応じて出題される「演習問題」への取り組みの結果をサイトに提出する。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（6回以上欠席すると（累計出席時間 2/3 未満）、単位は取得できない。）

---

科目名 経営戦略論 I

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 仲田 正機

---

テーマ

経営戦略の基本問題と基礎理論を理解する

---

授業の目的（獲得目標）

経営方針もしくは経営戦略の基本問題と基礎理論を学ぶとともに、実際の会社の具体的ケースを取り上げて理解を深める

---

内 容

- 第1回 経営戦略とは何か、それをどのように学ぶか
  - 第2回 経営戦略論の基礎知識—初期の理論から競争戦略論の登場まで
  - 第3回 経営戦略論の新展開を理解する
  - 第4回 今日では「競争優位の戦略」論が主流である
  - 第5回 「継続的な競争優位の源泉」に関する諸理論を知る
  - 第6回 ジョンソン・エンド・ジョンソンの経営戦略
  - 第7回 同上（2）
  - 第8回 マンチェスター・ユナイテッドの経営戦略
  - 第9回 信越化学工業の経営戦略
  - 第10回 同上（2）
  - 第11回 セイコーインスツルの経営戦略
  - 第12回 同上（2）
  - 第13回 ソフトバンクの経営戦略
  - 第14回 同上（2）
  - 第15回 経営戦略論と競争優位論の再検討
  - 第16回 試験
- 

授業以外での学習方法

受講者一人ひとりが、身近なところで観察できる経営戦略について気づいてもらえるようにガイダンスしながら講義を進めるので、各自、自学自習に努めてほしい。

---

教科書

参考書

---



## 成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 経営戦略論Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 仲田 正機

### テーマ

おもに京都の企業人や各種の経済団体等から経験豊かなゲストスピーカーをお招きして組織文化、経営戦略、人材育成方針等について学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

企業経営や経済団体等の運営に直接に関係しておられるトップ・マネジメント職位にある人々から実務体験を直接にお聞きして、組織文化と経営戦略について理解を深めるのが獲得目標である。

### 内 容

- 第1回 4月15日 講義のねらいと計画（現代ビジネス学部 仲田正機教授）  
 第2回 4月22日 大日本スクリーン製造（株）（前 常任監査役 野栗和哉 様）  
 第3回 4月29日 オムロン〈株〉（元 副社長 明致親吾 様）  
 第4回 5月6日 宝ホールディングス（株）（経営企画部副部長 高谷竜一 様）  
 第5回 5月13日 島津メクテム（株）（代表取締役社長 藤城 享 様）  
 第6回 5月20日 京都電子計算（株）（元 専務取締役 駒井一正 様）  
 第7回 5月27日 社団法人 京都工業会（前 専務理事 浅井利彦 様）  
 第8回 6月3日（株）ミトラ・トヨタカ・インドネシア（前社長 細川一郎 様）  
 第9回 6月10日（株）福田巧芸社（社長付部長 徳岡宏武 様）  
 第10回 6月17日（有）キャップス（代表取締役 清水智子 様）  
 第11回 6月24日 京都生活協同組合（専務理事 山本祐司 様）  
 第12回 7月1日 共英製鋼（株）（常務取締役 合六直吉 様）  
 第13回 7月8日（株）ケーケーシ情報システム（取締役 松下直弘 様）  
 第14回 7月15日 京都経営者協会（専務理事 向井仲和美 様）  
 第15回 7月22日 まとめと今後の展望（現代ビジネス学部 仲田正機教授）

### 授業以外での学習方法

まず、経営戦略に関する専門書をよむこと、これに関しては講義の中で折にふれて紹介する。講義に関連する会社や団体のホームページを見て、事前に調べた上で講義に出席し、質問を用意するように指導します。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 人事・労務管理論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

組織成員の能力と意欲を高める組織経営のあり方について

授業の目的（獲得目標）

授業の前半において人的資源開発の基本的概念を習い、後半では関連理論を学習する。

内 容

- 第1回 労務管理の概要
- 第2回 採用と退職
- 第3回 人事異動
- 第4回 人事制度
- 第5回 能力開発
- 第6回 職場の能率
- 第7回 労働条件と職場環境
- 第8回 人事・労務管理と関連制度の総括と理解度チェック
- 第9回 人間関係論（1）
- 第10回 人間関係論（2）
- 第11回 モチベーション論（1）
- 第12回 モチベーション論（2）
- 第13回 リーダーシップ論（1）
- 第14回 リーダーシップ論（2）
- 第15回 人的資源の関連理論の総括と理解度チェック

授業以外での学習方法

経済新聞を読む習慣を身につけてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験（持ち込み不可）と出席率、受講態度で評価します。授業中、私語や食事は厳禁ですので、ご注意ください。）

科目名 企業と社会的責任

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

社会に信頼される企業の構築について

授業の目的（獲得目標）

企業を巡った利害関係者の存在を理解し、社会の良き市民としての企業像を探る。

内 容

- 第1回 講義概要と社会的脈絡での企業像
- 第2回 日本における企業の社会的責任とステイクホルダー
- 第3回 企業犯罪・不祥事
- 第4回 企業行動憲章の試みと限界
- 第5回 課業環境の構造変化(1)
- 第6回 課業環境の構造変化(2)
- 第7回 企業価値を計る新しい尺度
- 第8回 企業の社会的責任の基礎概念の総括及び理解度チェック
- 第9回 CSR の概念
- 第10回 CSR の3つの次元
- 第11回 CSR の国際比較(1)
- 第12回 CSR の国際比較(2)
- 第13回 企業行動基準
- 第14回 企業評価基準の変化
- 第15回 積極的な社会的責任論の主要理論の総括及び理解度チェック

授業以外での学習方法

経済新聞を読む習慣を身に付けてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験（持ち込み不可）と出席率、受講態度で評価します。授業中、私語や食事は厳禁ですので、ご注意ください。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 マーケティング論 I

---

クラス a

配当回生 2回生

---

講義期間 前期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 岡本 哲弥

---

テーマ

現実のマーケティングへの理解を深める

---

授業の目的（獲得目標）

今日のビジネス、特にマーケティングや流通に関する新聞記事などを読みこなせる（理論的に把握できる）だけのマーケティング論の知識を修得する。

---

内 容

第1回 ガイダンス／マーケティングとは

第2回 製品

第3回 価格

第4回 流通

第5回 プロモーション

第6回 セグメンテーション

第7回 製品ライフサイクル

第8回 市場地位別のマーケティング戦略

第9回 業界の競争構造分析

第10回 全社・事業戦略

第11回 事業とドメイン

第12回 消費者行動論

第13回 市場調査

第14回 サービス・マーケティング

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に注意を向け、授業で学んだマーケティング論の視点から解釈するように心がける。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (70%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 ( )

---

科目名 マーケティング論Ⅱ

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 岡本 哲弥

---

テーマ

マーケティング論における重要なトピック（各論）について理解する。

---

授業の目的（獲得目標）

マーケティングに関する現象について実際のケースを取り上げながら、理論的に把握するための重要な概念を学んでいく。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ブランド論（1）

第3回 ブランド論（2）

第4回 ブランド論（3）

第5回 消費者行動論（1）

第6回 消費者行動論（2）

第7回 顧客満足度（1）

第8回 顧客満足度（2）

第9回 価格（1）

第10回 価格（2）

第11回 マーケティング・チャネル論（1）

第12回 マーケティング・チャネル論（2）

第13回 ロジスティクス（1）

第14回 ロジスティクス（2）

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に注意を向け、授業で学んだマーケティング論の視点から解釈するように心がける。（スケジュールについては、受講生の理解度などに配慮して、若干の入れ替え・変更を行う可能性がある。）

---

教科書

参考書

---



## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (70%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 マーケティングリサーチ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡本 哲弥

テーマ

マーケティング・リサーチを学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

本科目はマーケティング・リサーチでよく用いられる代表的な統計解析の基本的な考え方と適用方法を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 統計解析の概要
- 第3回 SPSS の基礎
- 第4回 相関分析
- 第5回 重回帰分析の理論（1）：最小2乗法と決定係数
- 第6回 重回帰分析の理論（2）：回帰モデルの仮説検定
- 第7回 重回帰分析の実際
- 第8回 因子分析の考え方
- 第9回 因子分析の実際
- 第10回 分散分析の考え方
- 第11回 分散分析の実際
- 第12回 調査データを用いた分析（1）
- 第13回 調査データを用いた分析（2）
- 第14回 レポートの作成（1）
- 第15回 レポートの作成（2）

授業以外での学習方法

マーケティングリサーチを習得するには一步一步積み上げていく必要があるので、理解不足の部分は必ず復習して下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（レポートの評価を重視す

るので、課題には積極的に取り組む必要があります。)

科目名 国際マーケティング論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 文男

テーマ

日本企業の国際マーケティング

### 授業の目的（獲得目標）

国内マーケティングが国内市場を対象とするのに対して、国際マーケティングは国際市場を対象とする。国際市場は国内市場と異なり、国によって生活習慣や文化の違いが大きく、その戦略は国際マーケティングとは異なる特異な形態をとる。本講義では、国際マーケティングの基本原則を踏まえ、日本の電機企業を中心とし、その他自動車、アパレル、トイレタリー、食品などの企業をケースとして具体的に紹介し、その特徴について認識を深める。

### 内 容

- 第1回 国際マーケティングの定義と国際マーケティング学説
- 第2回 国際マーケティングの製品戦略
- 第3回 国際マーケティングのブランド戦略とプロモーション戦略
- 第4回 国際マーケティングの価格戦略
- 第5回 国際マーケティングのチャネル戦略
- 第6回 三洋電機の輸出マーケティング
- 第7回 パナソニックの輸出マーケティング
- 第8回 ソニーの輸出マーケティング
- 第9回 ユニクロのグローバル・マーケティング
- 第10回 花王のグローバル・マーケティング
- 第11回 味の素のグローバル・マーケティング
- 第12回 トヨタ自動車のグローバル・マーケティング
- 第13回 ソニーのグローバル・マーケティング
- 第14回 パナソニックのグローバル・マーケティング
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

国際マーケティングに関するニュースや新聞記事・雑誌などに注目し、国際マーケティングに関する関心を高めること。

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（授業中課題として毎回感想文・質問を中心とするレポートを提出してもらいます。）

科目名 会計学

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 会計学入門を修得済みであること。

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

財務諸表の見方を理解する

### 授業の目的（獲得目標）

会計学入門で学んだ基礎知識・基礎理論をもとに、財務諸表（B/S, P/L, C/F）の構造に関して、さらに高度な知識を習得し、財務諸表の正しい見方を理解するための基礎を作る。なお、「会計学入門」の講義を受講し、単位を取得したものでなければ、あるいは、それに相応する学力を有するものでなければ、本講義を受講しても、目標に達することは困難であり、単位の取得は難しい。

### 内 容

- 第1回 費用・収益の会計（1） ①発生主義 ②実現主義 現金主義 など
- 第2回 費用・収益の会計（2） ①費用収益対応の原則 ②個別対応・期間対応 など
- 第3回 資産の評価（1） ①取得原価 ②取替原価 など
- 第4回 資産の評価（2） ①売却時価 ②正味実現可能価額 ②割引現在価値 など
- 第5回 資産会計（1） ①資産会計の意義 ②資産の分類基準 など
- 第6回 資産会計（2） ①流動資産 ②有形固定資産 など
- 第7回 資産会計（3） ①無形固定資産 ②繰延資産 など
- 第8回 負債会計（1） ①負債会計の意義 ②金銭債務 など
- 第9回 負債会計（2） ①引当金 ②社債 など
- 第10回 資本会計（1） ①資本会計の意義 ②純資産の分類 など
- 第11回 資本会計（2） ①株式会社の設立 ②増資 など
- 第12回 資本会計（3） ①自己株式 ②剰余金の配当 など
- 第13回 その他（1） ①金融商品の会計 ②外貨換算の会計 など
- 第14回 その他（2） ①税効果会計 ②連結会計 など
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

テキスト以外に、応用レベルのプリントを、かなり配賦するので、これらを使って積極的に学習すること。わからない点に関しては、積極的に質問するようにすること。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（40）小テスト（30）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30）備考（ 講義期間中に、数回の小テストを実施する。小テストの点数は、最終成績に大きく影響するので、毎回の講義を真剣に受講すること。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 応用簿記演習 I

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員 100

---

履修条件 簿記演習 I および簿記演習 II を修得済みもしくは日商簿記 3 級を取得済みであること。

---

クラス指定

---

担当者 河野 充央

---

### テーマ

複雑な商取引の理解

---

### 授業の目的（獲得目標）

商取引の分析方法の習得。 本講義は、簿記の基礎的仕組み（簿記一巡の手続等）を理解しているということ  
を前提に進められるので、簿記演習 I および II の単位取得者、もしくは、日商簿記 3 級合格者レベルの学力がな  
いものは、本講義の単位取得は困難である。

---

### 内 容

- 第 1 回 ガイダンスー資金の流れと会計の役割ー
  - 第 2 回 現金預金取引
  - 第 3 回 有価証券取引
  - 第 4 回 債権債務取引
  - 第 5 回 手形取引（1） 裏書取引等
  - 第 6 回 手形取引（2） 不渡処理等
  - 第 7 回 引当金取引
  - 第 8 回 商品売買取引（1） 商品勘定の分割 等
  - 第 9 回 商品売買取引（2） 割引割戻 等
  - 第 10 回 特殊商品売買取引（1） 未着品取引 等
  - 第 11 回 特殊商品売買取引（2） 割賦販売 等
  - 第 12 回 固定資産取引（1） 取得・減価償却 等
  - 第 13 回 固定資産取引（2） 無形固定資産・投資 等
  - 第 14 回 損益取引
  - 第 15 回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

講義中に配賦する教材プリントや参考書をよく読んで、積極的に学習し、質問に来ることを希望する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価



試験 (30) 小テスト (30) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( 小テストを数回実施する。  
小テストの評価を重視するので、毎回の講義を真剣に受講すること。)

科目名 応用簿記演習Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 応用簿記演習Ⅰを修得済みであること。

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

株式会社とその会計システムの理解

### 授業の目的（獲得目標）

財務会計システムの基礎を習得。本講義は、応用簿記演習Ⅰの内容に引き続いて行なう。したがって、応用簿記演習Ⅰの単位取得者、もしくは、日商簿記3級合格者レベルの学力がないものの単位取得は困難である。

### 内 容

- 第1回 株式会社会計（1） 設立等
- 第2回 株式会社会計（2） 創立費等
- 第3回 株式会社会計（3） 剰余金等
- 第4回 株式会社会計（4） 企業統合
- 第5回 株式会社会計（5） 社債
- 第6回 税金
- 第7回 決算（1） 決算整理等
- 第8回 決算（2） 決算集合勘定
- 第9回 決算（3） 財務諸表
- 第10回 本支店会計（1） 本支店間取引等
- 第11回 本支店会計（2） 合併財務諸表
- 第12回 帳簿組織
- 第13回 伝票会計（1）
- 第14回 伝票会計（2）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

講義中に配賦する教材プリントや参考書をよく読んで、積極的に学習し、質問に来ることを希望する。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（30）小テスト（30）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（40）備考（小テストを数回実施する。）

小テストの評価を重視するので、毎回の講義を真剣に受講すること。)

科目名 企業法

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 山田 廣己

テーマ

企業と法（企業に関する法規制）

### 授業の目的（獲得目標）

企業（個人企業や会社企業）の組織や活動に関する基本的な法律知識を修得する。

### 内 容

第1回 企業と経済活動： 企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。

第2回 資本主義・市場経済・貨幣（金融）制度： 企業をとりまく資本主義、市場経済について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。

第3回 企業をめぐる法規制： 企業組織・企業活動に関するさまざまな法律、法規定、たとえば、商法、会社法、民法や独占禁止法や金融商品取引法などに触れる。

第4回 企業の組織： 個人企業や組合、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社などの組織を説明し、さらに、国内で活動する外国会社についても触れる。

第5回 企業の経営者・従業員： 経営者である取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。

第6回 企業グループ： 会社はグループを形成して企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合併（ごうべん）企業についても触れる。

第7回 企業の資金： 企業（株式会社）が企業活動を行うには資金が必要である。その資金の調達方法を説明する。金融市場の国際化についても触れる。

第8回 投資と利殖（りしょく）： 株式会社が発行する株式や社債は人々の投資・利殖の対象であり、証券をはじめとして金融商品の取引、商品先物取引や為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。

第9回 企業の失敗： 企業の事業活動が失敗に終わったとき（倒産）の処理方法を説明する。

第10回 企業の責任： 企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織・活動に関して発生するさまざまな責任を概説する。

第11回 競争と独占（1）： 独占禁止法の話をする。

第12回 競争と独占（2）： 独占禁止法の話をする。

第13回 企業の決済手段： 手形・小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明 する。

第14回 企業の決済手段： 手形・小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明

第15回 予 備

### 授業以外での学習方法

新聞などを読んで企業（会社）の組織・活動に興味を持つように心がけてください。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（50%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間中ごろにレポートの提出を求める。最終講義日に筆記試験を行う。以上を総合的に判断して評価する。）

科目名 医療福祉政策論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

格差拡大社会における医療福祉制度の役割と課題

授業の目的（獲得目標）

医療福祉制度を中心に日本の社会保障制度に関する基本的な知識を習得するとともに、格差拡大社会を生き抜くための基本的なリテラシーを身につける。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会保障の理念と歩み
- 第3回 社会保障論の展開
- 第4回 日本の社会保障の全体像
- 第5回 社会保険と民間保険
- 第6回 医療保険制度（1）一保険者間格差
- 第7回 医療保険制度（2）一無保険者と混合診療
- 第8回 公的年金制度（1）基礎年金と厚生年金
- 第9回 公的年金制度（2）企業年金、ポートフォリオ運用
- 第10回 労働保険（1）雇用保険
- 第11回 労働保険（2）労災保険
- 第12回 公的扶助と社会福祉（1）
- 第13回 公的扶助と社会福祉（2）
- 第14回 自助、共助、公助
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業中で指示する参考文献にできるだけ目を通すとともに、医療問題や社会保障に関する新聞、雑誌記事等に注意を払ってください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (理解度の確認のために小テストを実施します。)

科目名 ヒューマンサービス論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 重田 博正

テーマ

ヒューマン・サービス(以下HSと略)における労働者の健康・働きがいとマネジメント

授業の目的(獲得目標)

HSの担い手である労働者の健康問題の重要性を理解し、その健康と働きがいを保障するマネジメントのポイントを理解する。

内 容

第1回 HSとHS労働者の健康問題

第2回 職業性疲労と筋骨格系負担

第3回 労働と健康の実態①—保育労働

第4回 労働と健康の実態②—障害児学校、手話通訳者

第5回 労働と健康の実態③—ホームヘルパー、看護師

第6回 夜間労働の負担

第7回 HS労働のストレス① ストレスの生理学的研究からメンタルストレス研究へ

第8回 HS労働のストレス② 職業性ストレスの枠組

第9回 HS労働のストレス③ コミュニケーション労働のストレス

第10回 HS労働のストレス④ ストレスの緩衝要因

第11回 HS労働のストレス⑤ ストレスの社会性

第12回 HSの組織とマネジメント① HS組織の特徴と基本課題

第13回 HSの組織とマネジメント② 組織運営の実例

第14回 HSの組織とマネジメント③ 職場集団の理論

第15回 HS労働者の健康を守るために

授業以外での学習方法

教科書

参考書

書籍1 : ストレスもつかれもとんでいけ

著者1 : 重田博正

出版社1 : フォーラム・A

出版年1 : 1999年



書籍 2 : 保育士のメンタルヘルス

著者 2 : 重田博正

出版社 2 : かもがわ出版

出版年 2 : 2007 年

書籍 3 : 手話通訳者のメンタルヘルス

著者 3 : 重田博正

出版社 3 : 文理閣

出版年 3 : 2009 年

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0) 参加度 (60%) 備考 ( )

---

科目名 非営利組織論

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 高山 一夫

---

テーマ

非営利組織の役割

---

### 授業の目的（獲得目標）

現代社会における非営利セクター、非営利組織の役割に関する基本的な知識を習得し、今後の経済社会のあり方を構想する。

---

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 非営利組織とは
  - 第3回 非営利組織の理論
  - 第4回 政府、企業、非営利組織
  - 第5回 英米の非営利セクターと法制度
  - 第6回 日本の非営利セクターと法制度
  - 第7回 日本の非営利セクターの活動領域（1）
  - 第8回 日本の非営利セクターの活動領域（2）
  - 第9回 日本の非営利セクターの活動領域（3）
  - 第10回 日本の非営利セクターの活動領域（4）
  - 第11回 日本の非営利セクターの活動領域（5）
  - 第12回 非営利組織の人的資源管理
  - 第13回 非営利組織の資金管理
  - 第14回 非営利組織と経済社会の変革
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

授業中に指示する参考文献や配布する資料にしっかり目を通すこと。新聞、雑誌等で非営利組織に関する記事に注意を払うこと。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (理解度の確認のために小テストを実施します。)

---

科目名 医療経済論

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 高山 一夫

---

テーマ

医療経済学入門

---

### 授業の目的（獲得目標）

医療経済学の基礎を学習します。医療制度や経済理論に関する知識を必ずしも前提とはしませんが、「医療マネジメント入門」「医療福祉政策論」「経済学Ⅰ」「公衆衛生学」なども併せて履修すると、理解が深まると思います。

---

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 健康と保健医療サービスの需要
  - 第3回 需要、弾力性、健康
  - 第4回 投入要素の効率的な使用
  - 第5回 保健医療サービス供給の費用
  - 第6回 基本的な市場モデル
  - 第7回 供給者誘発需要と代理関係
  - 第8回 市場の失敗と政府
  - 第9回 経済評価の理論的基礎
  - 第10回 費用の測定
  - 第11回 便益の測定
  - 第12回 選択の枠組みとしての経済評価
  - 第13回 世界の保健医療システム
  - 第14回 保健医療セクター改革の国際動向
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

授業中配布する資料や参考文献を用いてしっかり復習すること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (50) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (理解度を確認する目的で小テストを実施します。)

科目名 コミュニケーション論

クラス

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 コミュニケーション演習

クラス

配当回生

講義期間

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 マスコミ論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 松田 いりあ

テーマ

マス・コミュニケーションの歴史と現状の理解およびメディア・リテラシーの向上

授業の目的（獲得目標）

携帯・インターネットの普及により、あらためてマスコミの存在理由が問われる状況が生まれている。この授業では、マス・コミュニケーションの発展を、背景に存在した近代社会の動きとともに理解した上で、個人化・匿名化したメディアが見過ごすことのできない影響力をもつようになった現代社会への想像力を養う

内 容

第1回 はじめに：マス・コミュニケーションとは

第2回 新聞と市民（1）

第3回 新聞と市民（2）

第4回 ラジオと大衆（1）

第5回 ラジオと大衆（2）

第6回 映画と国民（1）

第7回 映画と国民（2）

第8回 テレビと家族（1）

第9回 テレビと家族（2）

第10回 マス・コミュニケーションと携帯・インターネット（1）

第11回 マス・コミュニケーションと携帯・インターネット（2）

第12回 マス・コミュニケーションの今後（1）：ビジネスとして

第13回 マス・コミュニケーションの今後（2）：ジャーナリズムとして

第14回 マス・コミュニケーションの今後（3）：他のメディアとの関係

第15回 試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（授業中課題とし



て授業中に紹介する資料へのコメントを課す)

## 2010 Syllabus

科目名 マスメディア実践

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦・加賀田 茂敏

テーマ

メディア制作の現場——広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネット——

### 授業の目的（獲得目標）

グローバル化とポストモダンの交錯する今日、広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどのメディアが社会や文化や人間に及ぼす影響はきわめておおい。本講は、メディアの解読の仕方や生成の条件・プロセスを知り（メディア・リテラシー）、メディアを能動的に使いこなす自ら作り出しうる能力（メディア・プラクティス）の基礎を与える。こうして、メディアの実態とその可能性を理解する。本講は、将来、広告を中心としてマス・メディアのさまざまな領域で活躍しようとする学生に対する第一線の現場からのメッセージでもある。

### 内 容

- 第1回 本講義の趣旨 大野 道邦
- 第2回 広告とは—〈広告産業論〉 (株)大広関西 営業推進局 加賀田 茂敏
- 第3回 広告マーケティング (株)大広 大阪本社 ソリューション開発局
- 第4回 クリエイティブ (株)大広 大阪本社 クリエイティブ局
- 第5回 メディア環境論 (株)博報堂DYメディアパートナーズ
- 第6回 インターネットの世界 (株)博報堂DYメディアパートナーズ
- 第7回 テレビ番組制作の現場 KBS京都 アナウンサー
- 第8回 テレビ業界 民放在阪テレビ局
- 第9回 新聞記事 朝日新聞
- 第10回 エンターテインメントビジネス 松竹芸能
- 第11回 出版業界 関西 出版社
- 第12回 ラジオ番組の現場 FM京都 営業局
- 第13回 スポーツビジネス (株)博報堂DYメディアパートナーズ
- 第14回 メディアと社会と文化 大野 道邦
- 第15回 おわりに 大野道邦

### 授業以外での学習方法

メディア関係の図書や資料や電子情報等に適宜、目を通しておくこと。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (備考参照) 授業中発表等 (0%) 参加度 (備考参照) 備考 (参加度+小レポート 60%, 最終レポート 40%)

|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | 空間メディア論  |
| クラス   | 配当回生 2回生 |
| 講義期間  | 後期 定員    |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   | 木下 達文    |

### テーマ

空間メディアにおけるイベントプロデュース・展示メディアの創造

### 授業の目的（獲得目標）

空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としてのイベント・展示会などを中心とし、それら空間メディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、後半では受講者自らグループを組織し、独自のイベント企画を具体的に提案し、企画書をつくり、デザインを考え、コンセプトに関するプレゼンテーションを行う、それを元に可能な範囲でイベントを開催する（1月予定）。考える能力と組織力を身に付けることを重要な目標としたい。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業目標）
- 第2回 イベントメディア・展示メディアとは（1）
- 第3回 イベントメディア・展示メディアとは（2）
- 第4回 イベント・展示の歴史
- 第5回 イベント・展示の種類1
- 第6回 イベント・展示の種類2（情報収集・見学等含む）
- 第7回 イベント・展示のできるまで
- 第8回 ワークショップ：ブレインストーミング1
- 第9回 ワークショップ：ブレインストーミング2
- 第10回 ワークショップ：企画書の作成
- 第11回 コンペティション：企画の発表と絞り込み
- 第12回 ワークショップ：ゾーニング・デザイニング
- 第13回 ワークショップ：詳細プラン・事前準備
- 第14回 プログラムの開催
- 第15回 評価とまとめ
- 第16回 ※授業の内容によって多少変更をする場合もある。

### 授業以外での学習方法

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの空間メディア表現に関心を持ち社会を見つめてみる。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 (グループワークを主体として授業を進めるため、オリエンテーションを除き欠席は3回までとしているので、良く考えて履修をすること。)

科目名 消費社会論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 松田 いりあ

テーマ

21世紀消費社会のゆくえ

### 授業の目的（獲得目標）

経済成長を通じた社会の安定を実現した 20 世紀型の消費社会が危機に瀕している。この授業では、経済成長と社会の安定がイコールでなくなった現代社会において、なお「社会を持続可能にする」消費のリアリティを検討する

### 内 容

- 第 1 回 はじめに：この授業の概要の説明
- 第 2 回 消費社会への視点
- 第 3 回 現代資本主義と消費社会
- 第 4 回 消費社会を作ったもの—広告と企業活動（1）
- 第 5 回 消費社会を作ったもの—広告と企業活動（2）
- 第 6 回 消費社会の諸問題
- 第 7 回 消費社会の人間像
- 第 8 回 消費文化のゆくえ
- 第 9 回 消費の記号論考
- 第 10 回 消費者と環境問題の関わり
- 第 11 回 消費社会化の進行と環境問題の解決
- 第 12 回 消費社会の将来に向けて
- 第 13 回 映像にみる消費社会の歴史
- 第 14 回 まとめ：この授業の総括
- 第 15 回 試験

### 授業以外での学習方法

テキストの該当箇所は授業前に読んでおくこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (70%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | データ分析基礎論 |
| クラス   | 配当回生 2回生 |
| 講義期間  | 後期 定員    |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   | 阪本 崇     |

テーマ

推測統計の基礎となる理論を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

社会調査の過程では、アンケート調査などを通じて様々な数値データを得ることができる。こうしたデータは一見ただけでは何の意味もない数字の集まりであるかのようにしか見えないかもしれない。しかし、統計的な手法を用いて分析すれば、こうしたデータの中に様々な意味を見いだすことができるようになる。この授業の目的は、第一に、社会調査において必要となる統計学、とりわけ推測統計の基礎を理解することである。第二に、授業の中で得た統計学の知識を実際にデータ（現実のデータの場合もあれば、仮説的なデータの場合もある）に適用して

### 内 容

第1回 イントロダクション：記述統計と推測統計、データの種類

第2回 記述統計の復習（1）：中心の特性値（なぜ平均値だけではいけないのか）

第3回 記述統計の復習（2）：バラツキの特性値（散らばっている異の表し方）

第4回 母集団と標本：母集団と標本の基本的な考え方、無作為抽出、記述統計と推測統計

第5回 確率論の基礎と離散確率分布：ベルヌーイ分布と二項分布を中心に

第6回 連続確率の考え方と連続確率分布：正規分布と中心極限定理を中心に

第7回 母集団の平均がありそうな範囲を求める（平均の推定）

第8回 平均についての仮説が正しいかを調べる（平均と平均差の検定）

第9回 統計を支持率調査やリスク評価に応用する：比率と分散の推定・検定

第10回 練習問題と解答・解説

第11回 2つのデータに関係はあるか？（オッズ比と相関係数）

第12回 2つのデータの関係にはどのような意味があるのか？（回帰分析）

第13回 見せかけの関係と真の関係（偏相関分析）

第14回 関係は本当にあるのか？（相関関係と回帰式の検定）

第15回 練習問題と解答・解説、まとめ 授業方式 講義＋実習課題を基本的な形式とするが、受講整数が少なければ情報教室を利用して演習を行う可能性がある。

### 授業以外での学習方法

### 教科書



**成績評価**

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 救急医学総論Ⅲ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 鈴木 靖奈.加藤 好美.判澤 恵

テーマ

局所所見観察と在宅処置、看護、リスクマネジメントなど

### 授業の目的（獲得目標）

救急現場では、傷病者とその周囲の状況を短時間で情報収集し、まず何をすべきかの判断を下さなければならない。そのために必要な環境観察と傷病者観察の意義を学び、全身・局所観察の基本を習得する。さらに患者の増加に伴い重要となる在宅療養者に対する救急活動時の問題と在宅医療の知識、処置の方法について習得する。また感染とその予防、安全管理とリスクマネジメント、看護概念と救急医療についても理解を深める。

### 内 容

- 第1回 看護とは、接遇について（判澤）
- 第2回 感染症とその取扱について（加藤）
- 第3回 消毒と滅菌、清潔と不潔について（加藤）
- 第4回 在宅におけるケア【演習】（判澤）
- 第5回 在宅におけるストーマケアの基礎知識【演習】（判澤）
- 第6回 在宅におけるケア【演習】（加藤）
- 第7回 在宅におけるケア【演習】（加藤）
- 第8回 褥瘡ケアの基礎知識と基本的な処置について【演習】（判澤）
- 第9回 生命倫理とは（鈴木）
- 第10回 救急通信とは（鈴木）
- 第11回 安全管理とリスクマネジメント（1）（鈴木）
- 第12回 安全管理とリスクマネジメント（2）（鈴木）
- 第13回 観察（全身）（鈴木）
- 第14回 観察（局所）（鈴木）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50) 小テスト (10) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 救急医学総論IV

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 安田 康晴

テーマ

救急活動の基本と病院前救護体制

授業の目的（獲得目標）

救急救命士として業務を行うために必要な救急活動の基本と病院前救護体制を理解すること目標とする。

内 容

- 第1回 救急の歴史
- 第2回 救急業務の歴史
- 第3回 救急活動の基本1
- 第4回 救急活動の基本2
- 第5回 救急救助活動の実際1
- 第6回 救急救助活動の実際2
- 第7回 救急救命士と傷病者の関係
- 第8回 コミュニケーション技法1
- 第9回 コミュニケーション技法2
- 第10回 救急関係法規1
- 第11回 救急関係法規2
- 第12回 日本における病院前救護体制
- 第13回 海外の病院前救護体制
- 第14回 安全管理とリスクマネジメント
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（40）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（60）備考（）

科目名 救急症候学Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期後半 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 榊原 毅彦. 松井 道宣. 山木 垂水. 北川 一智

テーマ

ショック概念と様々な外傷の症状、処置・搬送方法の習得を目指す

授業の目的（獲得目標）

医学用語としてのショック概念を学び、その原因と分類を理解する。また外傷に伴うショック（外傷性ショック）の分類とそれぞれの原因、病態生理と観察と判断法を習得する。さらに、腹部外傷、胸部外傷、頭部外傷について発生機序と病態、それぞれの外傷の種類について理解を深める。このほか感染症と救急、死の概念についても学習する。

内 容

第1回 ショックについて 原因・病態生理、循環不全

第2回 ショックの観察と判断 応急処置と搬送

第3回 外傷性ショック 原因と分類

第4回 外傷性ショックの病態生理 観察と判断

第5回 腹部外傷① 解剖、発生機序と病態・主な腹部外傷

第6回 腹部外傷② 症状と観察、判断・応急処置・搬送等

第7回 胸部外傷① 解剖、主な胸部外傷

第8回 胸部外傷② 症状と観察、判断・応急処置・搬送等

第9回 顔面・頸部外傷① 解剖、主な顔面・頸部外傷

第10回 顔面・頸部外傷② 症状と観察、判断・応急処置・搬送等

第11回 頭部外傷① 解剖、発生機序と病態、外傷の分類と主な損傷

第12回 頭部外傷② 頭部外傷続発症、後遺症、小児・高齢者の頭部外傷、症状と観察、判断・処置運送等

第13回 熱傷、電撃症他、化学損傷、異物、縊頸・絞頸、刺咬症 外傷関連特殊感染症

第14回 感染症と救急、死の概念と判定

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 環境障害

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期前半 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小尾口 邦彦

テーマ

中毒・環境傷害、放射線傷害について理解する。

授業の目的（獲得目標）

中毒、熱傷、低体温、圧力などによる損傷など環境により人体に影響を与える救急の病態について理解する。また、放射線についての基礎知識を学習し、放射線事故による放射線被爆と障害と、その対応について習得する。

内 容

第1回 中毒総論① 中毒経路・病態生理

第2回 中毒総論② 観察と判断、応急処置と搬送

第3回 中毒各論 医療品・農薬・工業薬品・ガス中毒 アルコール・自然毒・家庭用品・覚醒剤中毒

第4回 溺水、熱中症、低体温、凍傷

第5回 減圧症、酸素欠乏症、高山病

第6回 紫外線と放射線 放射線事故と傷害

第7回 まとめ

第8回 試験とまとめ

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（50%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（）

科目名 救急症候学Ⅲ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 富士原 彰. 大石 泰男. 小畑 仁司. 西本 泰久

テーマ

救急症候・病態生理学

授業の目的（獲得目標）

プレホスピタルの主体は観察・判断・処置で構成されているが、本講義では傷病者観察、特に外科鑑別診断学の領域について教授し、この分野の実践能力向上のために、判断・処置の知識の整理を行い、理解を深めます。

内 容

- 第1回 胸痛・動悸・不整脈 【大石 泰男】
- 第2回 心肺停止① 【西本 泰久】
- 第3回 喀血・痙攣 【大石 泰男】
- 第4回 心肺停止② 【西本 泰久】
- 第5回 意識障害 【小畑 仁司】
- 第6回 頭痛・めまい 【小畑 仁司】
- 第7回 運動障害・感覚障害 【小畑 仁司】
- 第8回 ショック・循環不全 【西本 泰久】
- 第9回 喀血・痙攣 【大石 泰男】
- 第10回 呼吸困難・発熱 【西本 泰久】
- 第11回 性器出血・鼻出血 【大石 泰男】
- 第12回 腹痛・吐下血・血尿 【富士原 彰】
- 第13回 嘔吐・下痢・歯痛 【富士原 彰】
- 第14回 鑑別診断（外科） 【富士原 彰】
- 第15回 まとめ 【富士原 彰】

授業以外での学習方法

講義・実習をより理解するために、日常のやり取りのなかで、出てくる医学用語（略語を含む）を自分でまとめ、理解する。 医学大辞典（医歯薬出版）

教科書

参考書

成績評価



試験 (20%) 小テスト (30%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 救急症候学Ⅳ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 石津 恒彦・田中 英夫

テーマ

整形外科・脳神経外科

### 授業の目的（獲得目標）

外科学のうち、主に整形外科と脳神経外科について学ぶ。まず、我々の身近なスポーツによる外傷について学習し、皮膚・軟部組織外傷、骨盤・四肢外傷、筋・骨格系疾患、脊椎・脊髄外傷、腰痛・背部痛についてその発生機序と主な外傷、症状・観察・応急処置などを習得する。

### 内 容

- 第1回 スポーツ外傷① 解剖・発生機序と病態
- 第2回 スポーツ外傷② 症状と観察、判断・応急処置等
- 第3回 皮膚・軟部組織外傷① 局所解剖、皮膚の損傷
- 第4回 皮膚・軟部組織外傷② 皮膚の損傷、特殊な外傷
- 第5回 骨盤・四肢外傷① 骨盤骨折
- 第6回 骨盤・四肢外傷② 四肢外傷
- 第7回 脳神経① 神経系の構造・機能、観察・判断等
- 第8回 脳神経② 応急処置、おもな疾患等
- 第9回 脊椎・脊髄外傷① 解剖、発生機序、主な外傷
- 第10回 脊椎・脊髄外傷② 症状と観察・応急処置、運送等
- 第11回 筋・骨格系の疾患① 構造と機能、観察と判断
- 第12回 筋・骨格系の疾患② おもな疾患、応急処置と搬送
- 第13回 腰痛・背部痛① 原因と解剖生理、問診のポイント
- 第14回 腰痛・背部痛② 観察と判断、応急処置・搬送等
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

講義・実習をより理解するために、日常のやり取りのなかで、出てくる医学用語（略語を含む）を自分でまとめ、理解する。 救急救命士医学用語辞典（へるす出版）、医学大辞典（医歯薬出版）

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (20%) 小テスト (30%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (0%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                              |      |     |
|-------|------------------------------|------|-----|
| 科目名   | 救急救命実習Ⅴ                      |      |     |
| クラス   |                              | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 通年                           | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 救急救命実習Ⅰおよび救急救命実習Ⅱを修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 |                              |      |     |
| 担当者   | 安田 康晴. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈          |      |     |

## テーマ

救急救命処置と救急活動の基本

## 授業の目的（獲得目標）

救急救命士として救急活動を行うために必要な基本処置及び技術を理解し、習得すること目標とする。

## 内 容

- 第1回 観察1 (状況評価・意識観察及び評価)
- 第2回 観察2 (呼吸・循環観察及び評価)
- 第3回 観察3 (瞳孔・体温観察及び評価、聴診・打診、その他の観察)
- 第4回 気道管理1 (用手による気道確保・バッグバルブマスク法)
- 第5回 気道管理2 (経口・経鼻エアウェイによる気道確保・バッグバルブマスク法)
- 第6回 気道管理3 (喉頭鏡・マギル鉗子・吸引による気道確保・バッグバルブマスク法)
- 第7回 呼吸管理1 (酸素投与・血中酸素飽和度・バッグバルブマスク法)
- 第8回 循環管理1 (血圧測定・心電図・除細動・胸骨圧迫)
- 第9回 循環管理2 (ショックパンツ・体位・ストレッチャー操作・胸骨圧迫)
- 第10回 循環管理3 (ストレッチャー操作・胸骨圧迫)
- 第11回 呼吸・循環管理1 (床での心肺蘇生法)
- 第12回 呼吸・循環管理2 (ストレッチャー及び救急車での心肺蘇生法)
- 第13回 呼吸・循環管理3 (想定に基づいた心肺蘇生法)
- 第14回 前期まとめ
- 第15回 前期総括
- 第16回 課題効果測定 ガイダンス
- 第17回 外傷観察
- 第18回 外傷処置
- 第19回 受傷機転 外傷処置
- 第20回 外傷シナリオ1
- 第21回 外傷シナリオ2
- 第22回 外傷シナリオ3
- 第23回 疾病観察
- 第24回 疾病シナリオ1
- 第25回 疾病シナリオ2
- 第26回 疾病シナリオ3
- 第27回 特定行為 器具を用いた気道確保・静脈路確保

第 28 回 特定行為 器具を用いた気道確保・静脈路確保

第 29 回 後期まとめ

第 30 回 後期総括

---

### 授業以外での学習方法

救急救命士標準テキスト・救急処置スキルマスター等の参考書を読むこと 指定授業日以外に集中講義を実施する

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（40）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（60）備考（※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。）

## 2010 Syllabus

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 専門演習 I <a> |      |     |
| クラス   | a          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 25  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 仲田 正機      |      |     |

**テーマ**

会社が事業を営むとは、いったい、どんなことか？理論と実例を使って分析していきます

**授業の目的（獲得目標）**

会社が行うマネジメントについて、構造的・立体的に理解することを目指します。また、ゼミ合宿や旅行を適宜行い、ゼミの仲間づくりにも力を入れます。

**内 容**

- 第1回 ゼミ概要の説明と自己紹介・ゼミのクラス役員分担の決定
- 第2回 ゼミの統一テーマ・課題の設定
- 第3回 各自の問題関心の報告（1）
- 第4回 同上（2）
- 第5回 同上（3）
- 第6回 個人研究に基づく発表と討論
- 第7回 同上（2）
- 第8回 同上（3）
- 第9回 同上（4）
- 第10回 同上（5）
- 第11回 レポート纏め方の打ち合わせ
- 第12回 レポート作成の個人報告
- 第13回 同上（2）
- 第14回 同上（3）
- 第15回 まとめと課題について協議

**授業以外での学習方法**

専門書に親しみ、経済誌や新聞やインターネットからの情報を絶えず収集する習慣を身につける

**教科書****参考書****成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（20）授業中発表等（50）参加度（30）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 専門演習 I <c> |      |     |
| クラス   | c          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 25  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 河野 充央      |      |     |

## テーマ

財務諸表の分析の仕方を習得

## 授業の目的（獲得目標）

財務諸表の分析をととした企業の経営活動の専門的理解 なお、専門演習Ⅱの内容にも触れながら（並行して）ゼミを進めるので、専門演習Ⅱのシラバスの内容も参照しておくこと。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 資金管理と財務諸表（1）
- 第3回 資金管理と財務諸表（2）
- 第4回 財務諸表分析と比較（1）
- 第5回 財務諸表分析と比較（2）
- 第6回 収益性の分析法（1）
- 第7回 収益性の分析法（2）
- 第8回 生産性の分析法（1）
- 第9回 生産性の分析法（2）
- 第10回 流動性の分析法（1）
- 第11回 流動性の分析法（2）
- 第12回 損益分岐点分析（1）
- 第13回 損益分岐点分析（2）
- 第14回 成長性の分析法
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

新聞や経済誌の記事に目をととし、政治、経済、国際問題等々、企業経営に関わるあらゆることに興味を持ってもらいたい。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (60) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 専門演習 I <d> |      |     |
| クラス   | d          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 25  |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 | 希望制        |      |     |
| 担当者   | 岡本 哲弥      |      |     |

**テーマ**

「マーケティング」を中心テーマとして据え、マーケティング・リサーチ（プロジェクト・リサーチ）の内容で演習を進める。

**授業の目的（獲得目標）**

プロジェクト・リサーチにおいて、マーケティング・リサーチや商品企画を立案することを通じて、企画能力を養成する。ゼミのメンバーとのリサーチ・プロジェクト、講演会への参加等を通じて、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などビジネスで求められるスキルを養うことである。

**内 容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 図書館ガイダンス
- 第3回 グループ分け
- 第4回 テーマの選定
- 第5回 調査問題の検討
- 第6回 仮説の構成
- 第7回 調査企画の立案
- 第8回 調査票の作成
- 第9回 標本抽出の方法
- 第10回 調査の実施
- 第11回 データ分析（1）
- 第12回 データ分析（2）
- 第13回 報告書の作成
- 第14回 報告結果の発表
- 第15回 総括

**授業以外での学習方法**

夏季期間中に合宿を企画する。※プロジェクト・リサーチにおいては、状況によって受講生と相談の上、専門演習Ⅱの内容と入れ替えることがある。※進捗状況に応じて、上記の順番を変更することがある。

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (25%) 参加度 (45%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |            |      |      |
|-------|------------|------|------|
| 科目名   | 専門演習 I <e> |      |      |
| クラス   | e          | 配当回生 | 3 回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 25   |
| 履修条件  |            |      |      |
| クラス指定 | 希望制        |      |      |
| 担当者   | 李 在鎬       |      |      |

## テーマ

経営者論

## 授業の目的（獲得目標）

経営者のリーダーシップ、状況判断力、戦略、管理能力について理解を深める。

## 内 容

- 第1回 授業概要、報告、レジュメ作成要領の説明、報告者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第14回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)
- 第15回 全体の総括

## 授業以外での学習方法

2回の報告、出席率、受講態度などを総合的に考慮して成績評価を行います。授業中、私語、お菓子など食事は厳禁ですので、ご注意ください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（70）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30）備考（経済新聞を読む習慣を身につけ

てください。)

---

科目名 専門演習 I < f >

---

クラス f

配当回生 3回生

---

講義期間 前期

定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 高山 一夫

---

テーマ

医療マネジメントの学習

---

授業の目的（獲得目標）

医療マネジメントに関する知見を深めるとともに、受講生相互の交流を通じて、各自の研究テーマやキャリアパスについて考える。演習の具体的な内容は受講生と相談の上で最終的に決定する。さしあたり、「不平等と健康」について考えたい。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 テキストを用いた討論（1）

第3回 テキストを用いた討論（2）

第4回 テキストを用いた討論（3）

第5回 テキストを用いた討論（4）

第6回 テキストを用いた討論（5）

第7回 テキストを用いた討論（6）

第8回 テキストを用いた討論（7）

第9回 テキストを用いた討論（8）

第10回 テキストを用いた討論（9）

第11回 グループ・ワーク（1）

第12回 グループ・ワーク（2）

第13回 グループ・ワーク（3）

第14回 グループ・ワーク（4）

第15回 まとめ（ゼミ合宿）

---

授業以外での学習方法

自主ゼミ（医療マネジメント研究会）なども活用しつつ、積極的主体的に学習する習慣を保持して下さい。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 ( )

|             |            |      |     |
|-------------|------------|------|-----|
| 科目名         | 専門演習 I <g> |      |     |
| クラス         | g          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 前期         | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |            |      |     |
| クラス指定       | 希望制        |      |     |
| 担当者         | 大野 道邦      |      |     |

**テーマ**

社会や文化に関する社会的な見方

**授業の目的（獲得目標）**

「文化」を中心にして社会現象に注目し、社会や組織や集団や相互作用の発生、変化および構造を具体的にとらえる。授業の内容は、時代の流れにそって、伝統文化から近代文化、さらには現代ポストモダン文化への変化を扱い、社会の空間的な差異に応じて、文化の地域間および国際間の比較や移動を分析することである。具体的には、科学・技術・思想・イデオロギー・コミュニケーション・情報などの「認知的な文化」、映画・演劇・パフォーマンス・広告・メディア文化・礼儀作法・ファッションなどの「表出的な文化」、記憶・記念碑・旧跡・ツ

**内 容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 各自、関心のあるテーマの発表
- 第3回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (1)
- 第4回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (2)
- 第5回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (3)
- 第6回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (4)
- 第7回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (5)
- 第8回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (6)
- 第9回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (7)
- 第10回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (8)
- 第11回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (9)
- 第12回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (10)
- 第13回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (11)
- 第14回 関心のあるテーマに関連した文献の内容の要約・考察報告 討論 (12)
- 第15回 関心のあるテーマから「研究テーマ」へ

**授業以外での学習方法**

テーマ関連の文献や参考書や資料などを大学等図書館やインターネットを利用して渉猟すること。合宿を兼ねてフィールドワークも行う。

**教科書**

**成績評価**

試験（期末レポート 40%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（参加度 30% 発表等 30% 期末レポート 40%）



## 2010 Syllabus

|             |            |      |     |
|-------------|------------|------|-----|
| 科目名         | 専門演習 I <h> |      |     |
| クラス         | h          | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 前期         | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |            |      |     |
| クラス指定       | 希望制        |      |     |
| 担当者         | 木下 達文      |      |     |

**テーマ**

プロジェクトマネジメント&空間プロデュース ～自己テーマの確立と基礎知識の習得～

**授業の目的（獲得目標）**

本演習では、各自のテーマを明確にし、文献を通じて基礎的知識を養う。なお、等ゼミにおいては、ゼミ生相互の交流と共同研究を促進するため、「サブプログラム」を実施している。また、夏休みには、アパレンティスシップとして、将来設計に応じたインターンのプログラムを自分自身で設定し、達成することとしている。

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション（授業目標）
- 第2回 自己関心発見ワークショップ
- 第3回 専門領域・テーマの絞り込み（1）
- 第4回 専門領域・テーマの絞り込み（2）
- 第5回 将来目標の設定
- 第6回 基礎文献の収集と購読（1）
- 第7回 基礎文献の収集と購読（2）
- 第8回 中間発表（1）
- 第9回 中間発表（2）
- 第10回 基礎文献の収集と購読（1）
- 第11回 基礎文献の収集と購読（2）
- 第12回 基礎文献の収集と購読（3）
- 第13回 期末発表（1）
- 第14回 期末発表（2）
- 第15回 評価とまとめ ※表題テーマに直接かかわらなくともよい。 ※演習の内容によって多少変更をする場合もある。 ※授業と連動して、新聞記事の情報収集等も行う。 ※実践活動を行う学生に対しては高い評価を行う。

**授業以外での学習方法**

個人研究は基本的に学生自ら行うことなので、計画的に時間をとって研究を進めること。ゼミでは、研究だけでなく、就職支援も積極的に行うので、将来のことを早くから考えるようにする。夏休みにはアパレンティスシップを行う。それぞれが個別で動くことになるので、メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を行うのと、全体で行うサブプログラムを実施する。また、ゼミ会も行います。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 (特に出席を重視する。)

|       |              |      |      |
|-------|--------------|------|------|
| 科目名   | 専門演習 I < i > |      |      |
| クラス   | i            | 配当回生 | 3 回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 25   |
| 履修条件  |              |      |      |
| クラス指定 | 希望制          |      |      |
| 担当者   | 阪本 崇         |      |      |

### テーマ

卒業論文作成のための文献調査方法・文章作成方法

### 授業の目的（獲得目標）

専門演習 I・II では、4 回生で卒業論文を書くための準備を行う。専門演習 I では、各個人がテーマを決めて、半年間をかけて文献レポートを作成する。テーマは自分自身の関心に応じて選んでよい。最初にレポート・論文を書くための基礎的な文章作成方法や文献調査方法などを学んだ上で、それぞれの進捗状況に合わせて中間報告を行う。レポート・論文の書き方について、参考書をいくつか挙げておくが、これ以外にもたくさん刊行されているので、自分にあったものを選んでよい。

### 内 容

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 文献・資料の調べ方

第 3 回 テクニカル・ライティング入門 (1)

第 4 回 テクニカル・ライティング入門 (2)

第 5 回 レポート発表 I (1)

第 6 回 レポート発表 I (2)

第 7 回 レポート発表 I (3)

第 8 回 中間のまとめ

第 9 回 レポート発表 II (1)

第 10 回 レポート発表 II (2)

第 11 回 レポート発表 II (3)

第 12 回 レポート発表 II (4)

第 13 回 レポート発表 II (5)

第 14 回 レポート発表 II (6)

第 15 回 半年間のまとめ

### 授業以外での学習方法

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (60) 参加度 (30) 備考 (授業の最後に作成した文献レポートを提出する。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 専門演習 I <j>

---

クラス j 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 安田 康晴. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈. 夏目 美樹

---

テーマ

公務員試験対策

---

授業の目的（獲得目標）

救急救命士の最大の就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学及び時事問題等の理解を目指す。

---

内 容

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 公務員試験対策
  - 第3回 公務員試験対策
  - 第4回 公務員試験対策
  - 第5回 公務員試験対策
  - 第6回 公務員試験対策
  - 第7回 公務員試験対策
  - 第8回 公務員試験対策
  - 第9回 公務員試験対策
  - 第10回 公務員試験対策
  - 第11回 公務員試験対策
  - 第12回 公務員試験対策
  - 第13回 公務員試験対策
  - 第14回 公務員試験対策
  - 第15回 まとめ
- 

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ〈a〉 |      |     |
| クラス   | a        | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期       | 定員   | 25  |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 | 希望制      |      |     |
| 担当者   | 仲田 正機    |      |     |

## テーマ

企業の経営戦略とは何か？また、それはマネジメントにとって、どんな意義・役割をもつか。

## 授業の目的（獲得目標）

経営戦略について、あるがままの姿を正確に認識することを目指します。また、近年における「競争優位の経営戦略」とは、何かを、事例の研究を通じて理解できるところまで到達したいと思います。

## 内 容

- 第1回 専門演習Ⅲの課題の確認、およびクラス役員分担の決定
- 第2回 ゼミの基本テーマ、運営方針の協議
- 第3回 各自の研究テーマの報告と討論
- 第4回 同上〈2〉
- 第5回 同上〈3〉
- 第6回 個人別の研究発表と討論
- 第7回 同上〈2〉
- 第8回 同上〈3〉
- 第9回 同上〈4〉
- 第10回 同上〈5〉
- 第11回 レポート作成についての打ち合わせ
- 第12回 レポート作成に関わる個人報告
- 第13回 同上〈2〉
- 第14回 同上〈3〉
- 第15回 まとめとゼミの今後の課題について確認

## 授業以外での学習方法

専門書に親しみ、経済誌やインターネットからの情報を絶えず収集し、それらをマネジメントの基礎理論に基づいて分析するように指向させる

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 専門演習Ⅱ <c>

---

クラス c 配当回生 3回生

---

講義期間 通年 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 河野 充央

---

テーマ

企業経営と管理会計

---

授業の目的（獲得目標）

企業経営における管理会計の意義を学ぶ。なお、専門演習Ⅰの内容にも触れながら（並行して）ゼミを進めるので、専門演習Ⅰのシラバスの内容も参照しておくこと。

---

内 容

- 第1回 原価計算の研究（1）
  - 第2回 原価計算の研究（2）
  - 第3回 原価計算の研究（3）
  - 第4回 原価計算の研究（4）
  - 第5回 原価計算の研究（5）
  - 第6回 管理会計の研究（1）
  - 第7回 管理会計の研究（2）
  - 第8回 管理会計の研究（3）
  - 第9回 管理会計の研究（4）
  - 第10回 管理会計の研究（5）
  - 第11回 管理会計の研究（6）
  - 第12回 管理会計の研究（7）
  - 第13回 管理会計の研究（8）
  - 第14回 管理会計の研究（9）
  - 第15回 まとめ
- 

授業以外での学習方法

ゼミの時間に配布するプリントや、紹介する参考書などを積極的に活用して、管理会計の理解を深める。また、問題意識を持ち、自らこれを解決しようとする気持ちも、併せて持つ。

---

教科書

参考書

---

成績評価



試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (60) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|             |           |      |     |
|-------------|-----------|------|-----|
| 科目名         | 専門演習Ⅱ <d> |      |     |
| クラス         | d         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間        | 後期        | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |           |      |     |
| クラス指定       | 希望制       |      |     |
| 担当者         | 岡本 哲弥     |      |     |

**テーマ**

「マーケティング」を中心テーマとして据え、商品企画（プロジェクト・リサーチ）の内容で演習を進める。また、卒業研究に向けて、研究計画の作成を行う。

**授業の目的（獲得目標）**

プロジェクト・リサーチにおいて、マーケティング・リサーチや商品企画を立案すること、卒業論文の研究計画の作成を通じて、企画能力を養成する。ゼミのメンバーとのリサーチ・プロジェクトを通じて、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などビジネスで求められるスキルを養うことである。

**内 容**

- 第1回 商品企画の立案（1）
- 第2回 商品企画の立案（2）
- 第3回 商品企画書の作成（1）
- 第4回 商品企画書の作成（2）
- 第5回 商品企画書の作成（3）
- 第6回 政策系大学・大学院研究交流大会発表準備（1）
- 第7回 政策系大学・大学院研究交流大会発表準備（2）
- 第8回 政策系大学・大学院研究交流大会発表準備（3）
- 第9回 政策系大学・大学院研究交流大会発表
- 第10回 研究計画の作成の仕方
- 第11回 研究計画の発表（1）
- 第12回 研究計画の発表（2）
- 第13回 研究計画の発表（3）
- 第14回 研究計画の発表（4）
- 第15回 総括

**授業以外での学習方法**

授業内でできなかった作業については、メンバーで協力して、次回授業までに終えておく。研究計画の作成に当たっては最低3冊の参考文献（書籍、論文）を読むことを条件とする。※プロジェクト・リサーチにおいては、状況によって受講生と相談の上、専門演習Ⅰの内容と入れ替えることがある。※進捗状況や研究交流大会の日程に応じて、上記の順番を変更することがある。

**教科書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (25%) 参加度 (45%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <e>

クラス e 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 希望制

担当者 李 在鎬

## テーマ

経営者論

## 授業の目的（獲得目標）

組織を成功に導いた経営者の回顧録を分析し、経営者のリーダーシップ、哲学、戦略行動について理解を深める。

## 内 容

- 第1回 授業概要、報告、レジュメ作成要領の説明、報告者及び報告日程の決定  
 第2回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第3回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第4回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第5回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第6回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第7回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第8回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第9回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第10回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第11回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第12回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第13回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第14回 学生による報告(A2, 2枚のレジュメ, 2-30分の発表、質疑応答、議論)  
 第15回 全体の総括

## 授業以外での学習方法

経済新聞を読む習慣を身につけてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験(70) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(30) 備考(2回の報告、出席率、受講態度などを総合的に考慮して成績評価を行います。授業中、私語、お菓子など食事は厳禁ですので、ご注意ください)

い。)

---

科目名 専門演習Ⅱ <f>

クラス f

配当回生 3回生

講義期間 後期

定員 25

---

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高山 一夫

---

テーマ

医療マネジメントの学習

---

授業の目的（獲得目標）

医療マネジメントに関する知見を深めるとともに、受講生相互の交流を通じて、各自の研究テーマやキャリアパスについて考える。演習の具体的な内容は受講生と相談の上で最終的に決定する。さしあたり、「不平等と健康」について考えたい。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 テキストを用いた討論（1）

第3回 テキストを用いた討論（2）

第4回 テキストを用いた討論（3）

第5回 テキストを用いた討論（4）

第6回 テキストを用いた討論（5）

第7回 テキストを用いた討論（6）

第8回 テキストを用いた討論（7）

第9回 テキストを用いた討論（8）

第10回 テキストを用いた討論（9）

第11回 卒業研究構想報告（1）

第12回 卒業研究構想報告（2）

第13回 卒業研究構想報告（3）

第14回 卒業研究構想報告（4）

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

自主ゼミ（医療マネジメント研究会）なども活用して、積極的主体的に学習する習慣を保持して下さい。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 ( )

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <g> |      |     |
| クラス   | g         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 25  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 大野 道邦     |      |     |

**テーマ**

社会や文化に関する社会学的な見方

**授業の目的（獲得目標）**

「文化」を中心にして社会現象に注目し、社会や組織や集団や相互作用の発生、変化および構造を具体的にとらえる。授業内容は、専門演習Ⅰに引き続き、文化と社会の関係について考えることである。各自、自らのテーマを設け、文献・資料・調査データなどをまとめて発表し、みんなで議論する。ひとつのテーマに関して、問題設定・分析方法・論述の展開など論文の書き方を学ぶ。

**内 容**

- 第1回 ガイダンス 社会学という学問とその魅力
- 第2回 「社会学」界における「文献表示」の仕方の学習
- 第3回 「社会学」的な論文の書き方
- 第4回 各自の研究テーマに応じた「発表」(1)
- 第5回 各自の研究テーマに応じた「発表」(2)
- 第6回 各自の研究テーマに応じた「発表」(3)
- 第7回 各自の研究テーマに応じた「発表」(4)
- 第8回 各自の研究テーマに応じた「発表」(5)
- 第9回 各自の研究テーマに応じた「発表」(6)
- 第10回 各自の研究テーマに応じた「発表」(7)
- 第11回 各自の研究テーマに応じた「発表」(8)
- 第12回 社会学的な見方の特徴
- 第13回 社会学の諸テーマの動向
- 第14回 各自の研究テーマと社会学
- 第15回 まとめ 社会学 理論と応用

**授業以外での学習方法**

大学内外の図書館や資料館などを利用し文献や資料やデータを探索すること。

**教科書****参考書**



## 成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (授業中発表等 30% 参加度 20% 期末レポート 50%)

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <h> |      |     |
| クラス   | h         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 25  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 木下 達文     |      |     |

## テーマ

専門研究の展開と仕事研究の準備

## 授業の目的（獲得目標）

本演習では、各自のテーマ内容を深め、卒業論文と就職の準備を行う。また、サブプログラムも継続実施する。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業目標）
- 第2回 アパレンティスシップ報告（1）
- 第3回 アパレンティスシップ報告（2）
- 第4回 前期に確立した研究・活動スケジュールの修正
- 第5回 文献研究の整理（1）
- 第6回 文献研究の整理（2）
- 第7回 文献研究の整理（3）
- 第8回 中間発表（1）
- 第9回 中間発表（1）
- 第10回 個別研究課題の設定
- 第11回 個別研究課題の調査（1）
- 第12回 個別研究課題の調査（2）
- 第13回 期末発表（1）
- 第14回 期末発表（2）
- 第15回 評価とまとめ ※演習の内容によって多少変更をする場合もある。 ※当演習では研究活動と就職活動を同時に進め、かつ両者が高い水準で成果を出せるよう支援する。したがって、個々人にだされる課題はかなり多くなる ことが予想される。また、学生の能力に応じてはさらに高いレベルに達する ことができるよう、可能な範囲での支援を行う予定である。 ※専門研究と仕事研究をあわせたフィールドワークも行う。 ※後半は就職活動が始まるので、それに応じたプログラムも適宜行う。 （OBヒアリング、グループディス

## 授業以外での学習方法

個別研究課題を設定するのに時間がかかる人が多いため、なるべく早くから さまざまな社会的関心をもち、候補をいくつか考えるようにしてほしい。また、文献も 収集するのに時間がかかるため、日頃から文献を集める癖をつけるようにしてほしい。 それぞれが個別で動くことになるので、メールグループやメーリングリストなど インターネット環境使ったコミュニケーションと指導を行うのと、全体で行うサブプログラムを継続実施する。 また、ゼミ会も行います。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 (特に出席を重視する。)

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <i> |      |     |
| クラス   | i         | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   | 25  |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 | 希望制       |      |     |
| 担当者   | 阪本 崇      |      |     |

### テーマ

卒業論文作成に向けた研究とその報告

### 授業の目的（獲得目標）

専門演習Ⅰに引き続き、卒業論文作成にむけた準備を行う。各自が自分自身で決めたテーマのもとで調査研究を行い、進捗状況をそれぞれ2回程度報告する。また、就職活動に向けた準備も平行して行う。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テクニカル・ライティング実践（1）
- 第3回 テクニカル・ライティング実践（2）
- 第4回 プレゼンテーションの技術
- 第5回 卒業論文計画発表Ⅰ（1）
- 第6回 卒業論文計画発表Ⅰ（2）
- 第7回 卒業論文計画発表Ⅰ（3）
- 第8回 中間のまとめ
- 第9回 卒業論文計画発表Ⅱ（1）
- 第10回 卒業論文計画発表Ⅱ（2）
- 第11回 卒業論文計画発表Ⅱ（3）
- 第12回 卒業論文計画発表Ⅱ（4）
- 第13回 卒業論文計画発表Ⅱ（5）
- 第14回 卒業論文計画発表Ⅱ（6）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (60) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 専門演習Ⅱ <j>

---

クラス j 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 希望制

---

担当者 安田 康晴. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈. 夏目 美樹

---

テーマ

公務員試験対策

---

授業の目的（獲得目標）

救急救命士の最大の就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学及び時事問題等の理解を目指す。

---

内 容

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 公務員試験対策
  - 第3回 公務員試験対策
  - 第4回 公務員試験対策
  - 第5回 公務員試験対策
  - 第6回 公務員試験対策
  - 第7回 公務員試験対策
  - 第8回 公務員試験対策
  - 第9回 公務員試験対策
  - 第10回 公務員試験対策
  - 第11回 公務員試験対策
  - 第12回 公務員試験対策
  - 第13回 公務員試験対策
  - 第14回 公務員試験対策
  - 第15回 まとめ
- 

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 救急処置各論 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 安田 康晴, 上山 進, 林 敏雅

テーマ

薬剤投与とメディカルコントロール

授業の目的（獲得目標）

医師の具体的指示のもとに行う特定行為の静脈路確保とアドレナリン投与、救急医療体制とメディカルコントロールについて学びます。

内 容

- 第1回 心肺停止前後の病態
- 第2回 特定行為が適応となる心肺停止の病態
- 第3回 薬物の作用
- 第4回 薬物の吸収・代謝・排泄
- 第5回 薬剤の投与経路と投与方法、薬物の有害作用
- 第6回 薬剤の投与の原則、薬事法と医薬品
- 第7回 輸液製剤、自律神経薬
- 第8回 心肺停止に用いられる代表的な薬剤
- 第9回 医療機関で行われる二次救命処置
- 第10回 心肺停止と特定行為のプロトコル1
- 第11回 心肺停止と特定行為のプロトコル2
- 第12回 事後検証とウツタイン様式
- 第13回 救急救命処置とメディカルコントロール1
- 第14回 救急救命処置とメディカルコントロール2
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (60) 備考 ( )

---

科目名 救急処置各論Ⅱ

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 甲斐 達郎. 富士原 彰. 阪口 雅洋. 新里 泰一

---

テーマ

災害医療および外傷処置

---

### 授業の目的（獲得目標）

我が国における災害時の救急医療体制、医療通信網、患者搬送システムなど救急救命士の業務（基礎知識、社会制度）、日本の災害医療の沿革・医療制度を理解するとともに、外傷患者の重症度・緊急度判定、重症外傷患者の救命に重要な現場活動の基礎、評価と観察などの理解を更に深めることとします。

---

### 内 容

- 第1回 我が国における災害時の救急医療体制
  - 第2回 災害医療における救急救命士の業務
  - 第3回 災害現場における現場活動
  - 第4回 全身所見の観察
  - 第5回 局所所見の観察、重症度・緊急度の判断
  - 第6回 外傷総論
  - 第7回 受傷機転
  - 第8回 外傷性ショック
  - 第9回 頭部、顔面・頸部外傷
  - 第10回 脊椎・脊髄外傷
  - 第11回 胸部外傷・腹部外傷
  - 第12回 骨盤・四肢外傷
  - 第13回 皮膚・軟部組織外傷、多発外傷
  - 第14回 妊婦・小児・高齢者の外傷
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（）



科目名 精神医学

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹村 隆太

テーマ

救急救命の視点からみた精神障害と精神科医療

授業の目的（獲得目標）

精神科における救急救命のいろいろな場面を想定し、病態や関わり方について学ぶ

内 容

第1回 精神科救急総論（関連する社会制度、その歴史、対象となる状態像：興奮・混迷・自殺企図ほか）

第2回 いろいろな病態 ①統合失調症圏の病態と精神科救急

第3回 いろいろな病態 ②躁うつ病圏

第4回 いろいろな病態 ③神経症圏、児童・青年期精神障害、人格障害

第5回 いろいろな病態 ④薬物依存、老年期精神障害

第6回 精神科の視点から見た救急医療（リエゾン精神医学、症状精神病を含めて）

第7回 精神科救急の現場、救命救急士自身の精神保健、その他必要な事項

第8回 テスト

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（50%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 救急症候学 V

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 江口 豊

テーマ

顔面・頸部の外傷

### 授業の目的（獲得目標）

顔面・頸部には気道、頸髄あるいは脳神経など、生命維持にかかわる器官や組織だけではなく、視覚・聴覚・嗅覚・味覚などの感覚器、咀嚼や嚥下機能、唾液分泌、表情筋による表現など機能予後に関わる器官臓器も豊富に存在する。また口腔、舌、歯などは構音、咀嚼、嚥下運動を司り、上気道を司る。鼻腔、副鼻腔、耳下腺など耳鼻科もこの領域に含まれる。頸部には気管、食道、頸動脈など重要臓器が集約している。これらの臓器は、鈍的および鋭的な損傷により、重篤な損傷を起こす可能性が高い。臓器損傷の種類と症状について学習し、観察と判断、応急処

### 内 容

- 第1回 顔面・頸部の組織と機能
- 第2回 顔面の外傷
- 第3回 顔面軟部組織損傷
- 第4回 顔面骨骨折
- 第5回 眼外傷
- 第6回 耳損傷
- 第7回 鼻損傷、鼻出血
- 第8回 口唇・口腔・舌損傷
- 第9回 歯痛、頸部外傷
- 第10回 症状と観察 1
- 第11回 症状と観察 2
- 第12回 判断と応急処置 1
- 第13回 判断と応急処置 2
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験とまとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (60) 小テスト (30) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (10) 備考 ( )

科目名 救急症候学VI

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 富士原 彰. 大石 泰男. 小畑 仁司. 西本 泰久

テーマ

救急症候・病態生理学

### 授業の目的（獲得目標）

プレホスピタルの主体は観察・判断・処置で構成されているが、本講義では傷病者観察、特に内科鑑別診断学の領域について教授し、この分野の実践能力向上のために、すでに2回生時（標準テキスト P458～618）に講義を終了しているが、事例を紹介しながら、判断・処置の知識の整理を行い、さらに理解を深めます。

### 内 容

- 第1回 胸痛・動悸・不整脈 【大石 康男】
- 第2回 心肺停止① 【西本 泰久】
- 第3回 喀血・痙攣 【大石 康男】
- 第4回 心肺停止② 【西本 泰久】
- 第5回 意識障害 【田中 英夫】
- 第6回 頭痛・めまい 【田中 英夫】
- 第7回 運動障害・感覚障害 【田中 英夫】
- 第8回 ショック・循環不全 【西本 泰久】
- 第9回 喀血・痙攣 【大石 康男】
- 第10回 呼吸困難・発熱 【西本 泰久】
- 第11回 性器出血・鼻出血 【大石 康男】
- 第12回 腹痛・吐下血・血尿 【富士原 彰】
- 第13回 嘔吐・下痢・歯痛 【富士原 彰】
- 第14回 鑑別診断学のまとめ 【富士原 彰】
- 第15回 まとめ 【富士原 彰】

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

### 成績評価

試験（20%）小テスト（30%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 小児科学

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉田 匡人

テーマ

小児救急医療の特性

授業の目的（獲得目標）

救急医療における小児の特性を理解し、より実践的な救急救命士を育成する。

内 容

第1回 小児の特徴

第2回 観察と判断

第3回 応急処置と搬送法

第4回 おもな疾患 1 熱性痙攣 4 髄膜炎 5 脳症、脳炎

第5回 おもな疾患 2 クループ、急性喉頭蓋炎 3 喘息

第6回 おもな疾患 6 腸重積 7 溶血性尿毒症症候群 8 乳幼児突然死症候群

第7回 おもな疾患 9 川崎病 10 発疹性感染症 11 流行性耳下腺炎 12 伝染性膿疱性熱傷様皮膚症候群 13 ブドウ球菌

第8回 おもな疾患 14 被虐待児症候群 まとめ

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（25%）参加度（25%）備考（情熱を持って救急救命士を志す人は、高く評価します。授業中の積極的な質問や議論でアピールして下さい。）

## 2010 Syllabus

科目名 産婦人科学

クラス 配当回生 3回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子

テーマ

臨床産科学

### 授業の目的（獲得目標）

救急救命士に必要な臨床産科学及び婦人科学を学ぶ。具体的には、妊娠・分娩・産褥の正常と病態、あまた病歴の聴取観察、医療機関選定と搬送について理解を深める。

### 内 容

第1回 わが国の産科(周産期)救急医療の実態

第2回 生殖器の解剖・生理

第3回 妊娠時の母体と胎児の変化 (1) 生理的経過

第4回 妊娠時の母体と胎児の変化 (2) 合併症、胎児の異常

第5回 分娩の経過

第6回 産褥の変化

第7回 周産期医療に関わる搬送とその対応 1)病歴聴取 2)観察 3)処置 車内分娩の母子

第8回 婦人科疾患 と まとめ

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

### 授業以外での学習方法

授業内で課題の提出

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (50%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                     |      |     |
|-------|---------------------|------|-----|
| 科目名   | 救急救命実習Ⅷ             |      |     |
| クラス   |                     | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 通年                  | 定員   | 50  |
| 履修条件  | 救急救命実習Ⅴを修得済みであること。  |      |     |
| クラス指定 |                     |      |     |
| 担当者   | 夏目 美樹. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈 |      |     |

## テーマ

救急隊における救急活動の修得

## 授業の目的（獲得目標）

救急救命士の活動に必要な知識・技術をシミュレーションし、各事例における基本活動プロトコールの修得とともに隊活動を通して総合的な実践力を養うことを目標とします。

## 内 容

- 第1回 CPA 対応活動 基本活動
- 第2回 CPA 対応活動 基本活動
- 第3回 CPA 対応活動 基本活動
- 第4回 静脈路確保
- 第5回 静脈路確保
- 第6回 静脈路確保・薬剤投与
- 第7回 CPA 対応活動 薬剤投与
- 第8回 CPA 対応活動 薬剤投与
- 第9回 気管挿管
- 第10回 気管挿管
- 第11回 CPA 対応活動 気管挿管
- 第12回 CPA 対応活動 気管挿管
- 第13回 CPA 対応活動 気管挿管・薬剤投与
- 第14回 CPA 対応活動 気管挿管・薬剤投与
- 第15回 CPA 対応活動 気管挿管・薬剤投与
- 第16回 胸・腹・腰背部痛対応活動
- 第17回 胸・腹・腰背部痛対応活動
- 第18回 胸・腹・腰背部痛対応活動
- 第19回 胸・腹・腰背部痛対応活動
- 第20回 呼吸困難・気道閉塞対応活動
- 第21回 呼吸困難・気道閉塞対応活動
- 第22回 呼吸困難・気道閉塞対応活動
- 第23回 外傷対応活動
- 第24回 外傷対応活動
- 第25回 外傷対応活動
- 第26回 分娩介助対応活動

第 27 回 分娩介助対応活動

第 28 回 分娩介助対応活動

第 29 回 まとめ

第 30 回 総括

---

## 授業以外での学習方法

---

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (50) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

---

科目名 救急救命実習Ⅹ

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 秋期集中 定員 50

---

履修条件 救急救命実習Ⅴを修得済みであること。

---

クラス指定

---

担当者 安田 康晴

---

テーマ

救急車同乗実習（集中）

---

### 授業の目的（獲得目標）

近隣地域の消防署の協力の下、救急自動車での同乗実習を行います。実際の救急活動を見学することによって、出勤から現場活動、搬送、医療機関引継、救急活動記録記載や救急訓練などの救急業務について学びます。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス

第2回 救急車同乗実習

第3回 救急車同乗実習

第4回 救急車同乗実習

第5回 救急車同乗実習

第6回 救急車同乗実習

第7回 救急車同乗実習

第8回 救急車同乗実習

第9回 救急車同乗実習

第10回 救急車同乗実習

第11回 救急車同乗実習

第12回 救急車同乗実習

第13回 救急車同乗実習

第14回 救急車同乗実習報告会

第15回 救急車同乗実習報告会

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（100）備考（※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 救急救命実習Ⅵ <a>

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 春期集中 定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 安田 康晴

---

テーマ

海外実習（集中）

---

**授業の目的（獲得目標）**

救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図るため、海外の救急救命機関での実習を行います。海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけます。【実習日程等】 ●日程：2011年2月予定 ●行先：アメリカ ロサンゼルス ●費用：25万程度 ※実習費用については、受講生の人数等によって変動します。実習内容および金額等の詳細については救急救命コースの学生全員に対して説明する機会を別途設けます。 ※海外実習の最少催行人数は10名としています。受講登録の結果、受講生が10名を下回った場合、実習

---

**内 容**

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 海外実習
  - 第3回 海外実習
  - 第4回 海外実習
  - 第5回 海外実習
  - 第6回 海外実習
  - 第7回 海外実習
  - 第8回 海外実習
  - 第9回 海外実習
  - 第10回 海外実習
  - 第11回 海外実習
  - 第12回 海外実習
  - 第13回 海外実習
  - 第14回 海外実習報告会
  - 第15回 海外実習報告会
- 

**授業以外での学習方法**

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (100) 備考 (※この単位履修については、  
頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 救急救命実習Ⅵ <b>

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 春期集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 富士原 彰

---

テーマ

海外実習（集中）

---

**授業の目的（獲得目標）**

救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図るため、海外の救急救命機関での実習を行います。海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけます。 【実習日程等】 ●日程：2011年2月予定 ●行先：上海 ●費用：19万程度 ※実習費用については、受講生の人数等によって変動します。実習内容および金額等の詳細については救急救命コースの学生全員に対して説明する機会を別途設けます。 ※海外実習の最少催行人数は10名としています。受講登録の結果、受講生が10名を下回った場合、実習を中止する場合があります。

---

**内 容**

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 海外実習
  - 第3回 海外実習
  - 第4回 海外実習
  - 第5回 海外実習
  - 第6回 海外実習
  - 第7回 海外実習
  - 第8回 海外実習
  - 第9回 海外実習
  - 第10回 海外実習
  - 第11回 海外実習
  - 第12回 海外実習
  - 第13回 海外実習
  - 第14回 海外実習報告会
  - 第15回 海外実習報告会
- 

**授業以外での学習方法**

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (100) 備考 (※この単位履修については、  
頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。)

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習 I (都) <A>

クラス a 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 五十川 伸矢

## テーマ

大学生としての基本的教養と学習法を身につける。

## 授業の目的（獲得目標）

①見たり聞いたりしたことの中に、社会的な問題を発見することを目的とする。②問題意識をもったことを、参考資料を使い調べる習慣をもつことを目的とする。③自分の考えを、文章・写真・図表で表現して伝える方法の修得をめざす。

## 内 容

- 第 1 回 新入生キャンプで学んだことを話し合う
- 第 2 回 今後の発表の方法の説明
- 第 3 回 新入生キャンプ・レポートの発表①
- 第 4 回 新入生キャンプ・レポートの発表②
- 第 5 回 新入生キャンプ・レポートの発表③
- 第 6 回 新入生キャンプ・レポートの発表④
- 第 7 回 学外授業 博物館・資料館参観
- 第 8 回 日本語のきまりと原稿の書き方（WORD の基本）
- 第 9 回 写真や図による表現方法（ビジュアル・ツール）
- 第 10 回 自由課題の研究発表の説明
- 第 11 回 自由課題の研究発表①
- 第 12 回 自由課題の研究発表②
- 第 13 回 自由課題の研究発表③
- 第 14 回 自由課題の研究発表④
- 第 15 回 基礎レポート（夏休みレポート）の説明

## 授業以外での学習方法

毎日、新聞を読み、テレビニュースを見るという習慣をつけ、時事的で社会的な問題に関心をもって接すること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 基礎演習 I (都) <B>

---

クラス b 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 大学指定

---

担当者 碓井 敏正

---

テーマ

大学生としての基本的教養と学習の方法を学ぶと同時に、プレゼンテーション能力を含めコミュニケーション能力を身につける。

---

授業の目的（獲得目標）

現代日本の社会問題や環境問題などに関する基本的知識を身につける。また各人の関心のあるテーマを選んでもらい、プレゼンテーションを行なってもらうことを通して、コミュニケーション能力を身につける。また論文やレポートの書き方などを学ぶ。また社会人としての最低限のルールやマナーを守ることを学ぶ。

---

内 容

第 1 回 自己紹介（自己アピール）

第 2 回 大学生活の送り方

第 3 回 大学での勉強の仕方

第 4 回 レポートの書き方

第 5 回 プレゼンテーションの仕方

第 6 回 各人の課題研究と発表（1）

第 7 回 同 （2）

第 8 回 同 （3）

第 9 回 同 （4）

第 10 回 同 （5）

第 11 回 現代社会の基本課題（格差と貧困の現実）

第 12 回 現代社会の基本課題（情報社会、グローバル社会の現実）

第 13 回 現代社会の基本課題（環境問題）

第 14 回 学外授業（清水焼団地見学）

第 15 回 夏休みレポート作成に向けて

---

授業以外での学習方法

社会問題に関して幅広く関心を払い、新聞やニュース番組を見ること。なお夏休みレポートについては、事前に説明するが、安易にインターネットの知識に頼らずに、現地に足を運び、そこで感じたことを大事にしてレポートにまとめること。

---

教科書



**成績評価**

試験（20%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（課題ごとにレポートを提出してもらう。参加度はグループ討論などでの発言を参考にする。）

科目名 基礎演習 I (都) <C>

クラス c 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 金武 創

#### テーマ

大学における学びの技法を身につける

#### 授業の目的（獲得目標）

1. 毎回の授業で必ず発言する 2. 基本的な発表と討論の仕方を身につける。 3. レジюмеを作成できるようになる。 どのコースを選択する学生にも必要な学びのスキルを身につけることをめざします。

#### 内 容

第 1 回 大学の学び方

第 2 回 グループ討論 1 就職活動と学校教育との違いを意識する

第 3 回 グループ討論 2 時間内に結論を導く方法

第 4 回 グループ討論 3 商品開発をデザインする

第 5 回 レジюме作成と報告 1 専門文献を読む

第 6 回 レジюме作成と報告 2 一人で報告する

第 7 回 レジюме作成と報告 3 報告から質問する

第 8 回 レジюме作成と報告 4 自分の報告と比べる

第 9 回 図書館の積極的利用 1 書誌情報とは

第 10 回 図書館の積極的利用 2 知的興味と文献探索

第 11 回 図書館の積極的利用 3 夏休みレポートの素材探し

第 12 回 図書館の積極的利用 4 研究対象の確定と参考文献の把握

第 13 回 夏休みレポートの準備 1 焦点の絞られたテーマ設定

第 14 回 夏休みレポートの準備 2 引用文献の探索

第 15 回 夏休みレポートの準備 3 執筆準備の工夫

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (100%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 基礎演習 I (都) <D>

クラス d 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 木下 達文

#### テーマ

大学生がもつべき「学習のための機能」を身につける ～「研究」と「実践」の基礎から考える～

#### 授業の目的（獲得目標）

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての 課題設定、情報（文献）収集、レポート・原稿の書き方、調査（フィールドワーク）の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもってマネジメントのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。同時に夏休みレポートの対応を行う。

#### 内 容

- 第1回 オリエンテーション（授業目標・自己紹介）
- 第2回 セルフスピーチ（自分自身の考えを人に伝える）
- 第3回 シンキングメソッド（自分の興味関心を深く考える）
- 第4回 リサーチプログラム（問題解決のための方法論）
- 第5回 リーディング（文献をきちんと読む）
- 第6回 フィールドワーク（自分の五感で体感する）
- 第7回 フィールドワーク（自分の五感で体感する）
- 第8回 プレゼンテーション（発表） 1
- 第9回 プレゼンテーション（発表） 2
- 第10回 プレゼンテーション（発表） 3
- 第11回 プレゼンテーション（発表） 4
- 第12回 後期演習プロジェクト企画の設定 1
- 第13回 後期演習プロジェクト企画の設定 2
- 第14回 演習プロジェクト企画書のまとめと発表
- 第15回 夏休みレポートの課題設定 ※演習の内容によって多少変更をする場合もある。

#### 授業以外での学習方法

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。また、ゼミ会も行います。現代マネジメントでは、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できる ことはしてみましよう。

#### 教科書

**成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（30）授業中発表等（30）参加度（40）備考（とくに出席を重視します。）

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習 I (都) <E>

クラス e 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小森 治夫

## テーマ

現代日本社会をジェンダーの視点から考える

## 授業の目的 (獲得目標)

入門的文献の講読とビデオ学習により、女性学と男性学の基礎を学ぶ

## 内 容

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 『女性学・男性学』 第 1 章
- 第 3 回 ビデオ「男と女の境界線」
- 第 4 回 『女性学・男性学』 第 2 章
- 第 5 回 『女性学・男性学』 第 3 章
- 第 6 回 ビデオ「揺れる男と女 (1)」
- 第 7 回 ビデオ「揺れる男と女 (3)」
- 第 8 回 『女性学・男性学』 第 4 章
- 第 9 回 ビデオ「多様化する結婚のかたち」
- 第 10 回 『女性学・男性学』 第 5 章
- 第 11 回 『女性学・男性学』 第 6 章
- 第 12 回 『女性学・男性学』 第 7 章
- 第 13 回 ビデオ「父親の存在感」
- 第 14 回 『女性学・男性学』 第 8 章
- 第 15 回 『女性学・男性学』 第 9 章

## 授業以外での学習方法

新聞を毎日読む (とくに経済面、政治面、社会面など) ジェンダー問題を取り上げた番組を見る

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                |      |      |
|-------|----------------|------|------|
| 科目名   | 基礎演習 I (都) <F> |      |      |
| クラス   | f              | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期             | 定員   | 25   |
| 履修条件  |                |      |      |
| クラス指定 | 大学指定           |      |      |
| 担当者   | 杉山 泰           |      |      |

### テーマ

大学生が持つべき「学習のための技能」を身につける

### 授業の目的（獲得目標）

1. 大学生らしい論理的な文章が書けるようになる。(母語としての日本語に目覚める) 2. 基本的な発表討論の仕方を身につける。(fact と opinion の違いを明確にする) 3. レジユメを作成できるようになる。(コンピュータ・リテラシーと 3・3・3 の発表テクニックを身につける) 4. 世界の中の日本を見る視点を身につける。(新聞・雑誌に目を通し図書館を利用する)

### 内 容

第1回 自己紹介（杉山ゼミカードの作成と自己アピール、わがまちを語る）

第2回 近江八幡のヴォーリス建築の印象と近江八幡のまちづくりを各自語ってもらう。

第3回 『日本語教のすすめ』の「日本語ってどんな言語」を全員で読んできて、何が fact なのかを論じる。

第4回 鈴木孝夫が書いた fact を調べる。「日本語は大言語」「世界の言語は 6000 語」「世界の人口は 67 億人」「尾崎行雄の日本語廃止論」は事実なのか。

第5回 各自調べてきた fact を発表してもらう。「森有礼の英語国語論」「志賀直哉の仏語国語論」

第6回 『日本語教のすすめ』の1章-2の発表と討論。「レジユメ」を作成して、1人20分の発表。

第7回 1章-3、1章-4の発表と討論。発表者以外は「チェックリスト」で発表者を点数評価する。

第8回 2章-1、2章-2の発表と討論。

第9回 2章-3、2章-4の発表と討論。

第10回 3章-1、3章-2、3章-3の発表と討論。

第11回 4章-1、4章-2、4章-3の発表と討論。

第12回 4章-4、5章-1、5章-2の発表と討論。

第13回 『小学校でなぜ英語？』を読んで、賛成、反対に分かれて討論する。

第14回 日本語教育と国語教育、小学校での英語教育の必修化について討論する。

第15回 夏休みの過ごし方：「夏休みわがまちレポート」の書き方の説明。

### 授業以外での学習方法

ゼミの主役は学生。授業への参加だけでなく、5月は International theatre company London の英語劇（ミュージカル）を鑑賞してもらう。「弘法さん」「天神さん」「葵祭」「祇園祭」にも積極的に参加してもらう。スポーツ大会、ゼミコンパを担当を決めて、行なう。京都にはヴォーリスだけでなく、安藤忠雄、高松伸、磯崎新といった建築家が建てたビルが山とある。京都タワーは美しいか、醜いか、また琵琶湖疏水周辺の自然散策もしてみたい。すべて、It's up to you. (君次第)

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 基礎演習 I (都) <G>

クラス g 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 中谷 武雄

#### テーマ

大学生としての基本的な学習技能や能力を身につける

#### 授業の目的（獲得目標）

1 大学生にふさわしい論理的な文章を書く 2 基本的な発表と討論に習熟する 3 レジメ（報告資料）の作成  
 内容：伊東光晴『君たちの生きる社会』を教科書として採用し、社会、文化、政治、経済をみる目を養うとともに、発表にもとづいて相互に意見を交換し、討論する習慣や技術を身につける。また、夏休み前には、学科全体で課題としている夏休みレポートの作成準備と後期の計画、採用すべき教科書などについて議論する。

#### 内 容

第1回 （基礎）ゼミナールとは何か？

第2回 自己紹介 1：これまでの私 相互親睦・理解

第3回 自己紹介 2：これからの私

第4回 教科書：はじめに

第5回 I おどろくな、あわてるな 1：食糧問題を考える

第6回 I-2：エネルギー問題を考える

第7回 II お金の世界：内と外 1：欲望をつくりだす世界：君たちは広告にやられていないか

第8回 II-2：お金の世界は油断するとやられる世界でもある)

第9回 II-3：お金の外の経済の世界：公害を考える

第10回 II-4：お金はなぜたやすく手に入らないか

第11回 II-5：もうけはどこからやってくる

第12回 II-6：不平等について

第13回 III 日本の社会を考える：欧米との違いのなかで 1：風土の違い、考え方の違い

第14回 III-2：社会の違い、考え方の違い IV 技能に生きる世界：そこに隠されているもの

第15回 スケジュールを調整して学外散策を実施する。

#### 授業以外での学習方法

基礎ゼミは高校生から大学生への橋渡しの場である。大学生にふさわしい学習習慣や生活態度を身につける場であるとともに、大学生活に適応し、楽しむ道を歩み出す場でもある。此のことを理解して積極的に参加して欲しい。

#### 教科書



**成績評価**

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 基礎演習Ⅱ(都)〈A〉

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 五十川 伸矢

#### テーマ

基礎レポートを発展させて小論文を作成し、発表する力を身につける。

#### 授業の目的（獲得目標）

①基礎レポートを徹底的に磨いたものを、インターゼミで発表して、さらに小論文へと展開することを目的とする。②各種の参考文献を読み、研究課題に対する様々な考え方があることを学ぶことをめざす。③パワーポイント、わかりやすい印刷資料の作成など、プレゼンテーションのための技術を獲得することを目的とする。

#### 内 容

- 第1回 夏休みに学んだことを話し合う
- 第2回 基礎レポートの発表方法の説明
- 第3回 基礎レポートの発表①
- 第4回 基礎レポートの発表②
- 第5回 基礎レポートの発表③
- 第6回 基礎レポートの発表④
- 第7回 学外授業 博物館・資料館参観
- 第8回 プレゼンテーション方法の説明
- 第9回 プレゼンテーション練習①
- 第10回 プレゼンテーション練習②
- 第11回 インターゼミ発表直前対策講座①
- 第12回 インターゼミ発表直前対策講座②
- 第13回 小論文の作成と発表①
- 第14回 小論文の作成と発表②
- 第15回 小論文の作成と発表③

#### 授業以外での学習方法

毎日、新聞を読み、テレビニュースを見るという習慣をつけ、時事的で社会的な問題に関心をもって接すること。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 基礎演習Ⅱ(都)〈B〉

---

クラス b 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 25

---

履修条件

---

クラス指定 大学指定

---

担当者 碓井 敏正

---

テーマ

前期の学習成果を踏まえ、プレゼンテーション能力を高め、街づくりをキーワードに専門に向けての問題意識を深める。

---

授業の目的（獲得目標）

夏休みレポートの成果をプレゼンテーションしてもらうことを通して、コミュニケーション能力の向上を図ると同時に、インターゼミに向けて、各人の研究上の問題意識を深める。またまちづくりの成功例や教訓などを現地見学を含め学ぶ。

---

内 容

- 第1回 夏休みレポートの回収と夏休みの総括
  - 第2回 夏休みレポートの報告（1）
  - 第3回 夏休みレポートの報告（2）
  - 第4回 夏休みレポートの報告（3）
  - 第5回 夏休みレポートの報告（4）
  - 第6回 夏休みレポートの報告（5）
  - 第7回 まちづくりの条件を学ぶ
  - 第8回 まちづくりの成功例を学ぶ（1）
  - 第9回 まちづくりの成功例を学ぶ（2）
  - 第10回 まちづくりの教訓を学ぶ
  - 第11回 まちづくりの見学（伏見のまちづくりを学ぶ）
  - 第12回 インターゼミに向けて
  - 第13回 インターゼミの反省
  - 第14回 2回生進級に向けての準備
  - 第15回 まとめとレポート
- 

授業以外での学習方法

まちづくりの事例は身近に存在するので、学外授業でも訪問するが、自分で関心のあるまちを見学し、問題点を日ごろから学んでおくこと。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（20%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(都)〈C〉

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 金武 創

## テーマ

アカデミックスキルとベーシックスキルの取得

## 授業の目的（獲得目標）

研究テーマを絞る方法を身につける 自らの経験を通して、観察する／理解する／伝えるための言語力を伸ばす

## 内 容

- 第1回 夏休みレポートの再作業① 作業の反省
- 第2回 夏休みレポートの再作業② 図書館でのさらなる文献探索
- 第3回 夏休みレポートの再作業③ 5分間スピーチに向けて
- 第4回 夏休みレポートの再作業④ レジュメの作成
- 第5回 自分なりの研究テーマを考える1 視点を持つこと
- 第6回 自分なりの研究テーマを考える2 視点を変える
- 第7回 自分なりの研究テーマを考える3 逆演算
- 第8回 自分なりの研究テーマを考える4 条件を変えてみる
- 第9回 自分なりの研究テーマを考える5 要素と構造
- 第10回 自分なりの研究テーマを考える6 自分の尺度を持つ
- 第11回 自分なりの研究テーマを考える7 アナロジーを使う
- 第12回 自分なりの研究テーマを考える8 伝える場合、伝えない場合
- 第13回 自分なりの研究テーマを考える9 個で考えて集団で共有する
- 第14回 もう一度レジュメを作ってみる
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0％）小テスト（）授業中課題（100％）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 基礎演習Ⅱ(都)〈D〉 |      |     |
| クラス         | d           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 木下 達文       |      |     |

**テーマ**

現代マネジメントを総合的に考える ～大学における研究と実践（プロジェクト）の実際を学ぶ～

**授業の目的（獲得目標）**

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての 課題設定、情報（文献）収集、レポート・原稿の書き方、調査（フィールドワーク）の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもってマネジメントのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション（授業目標・自他理解）
- 第2回 夏休みレポートの報告1
- 第3回 夏休みレポートの報告2
- 第4回 夏休みレポートの報告3
- 第5回 プロジェクト企画に関する基礎研究の検討
- 第6回 プロジェクト企画に関する理論研究の発表1
- 第7回 プロジェクト企画に関する理論研究の発表2
- 第8回 プロジェクト企画に関する事例研究の発表1
- 第9回 プロジェクト企画に関する事例研究の発表2
- 第10回 プロジェクト企画に関する事業計画
- 第11回 プロジェクト企画に関する事業設計
- 第12回 プロジェクト企画に関する事業準備
- 第13回 プロジェクト企画に関する事業実践1
- 第14回 プロジェクト企画に関する事業実践2
- 第15回 プロジェクト企画に関する事業評価（エヴァリエーション活動） ※演習の内容によって多少変更をする場合もある。

**授業以外での学習方法**

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。また、ゼミ会も行います。現代マネジメントでは、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できる ことはしてみましよう。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 (特に出席を重視する。)



科目名 基礎演習Ⅱ(都)〈E〉

クラス e 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小森 治夫

#### テーマ

小論文とレジюмеを作成し、プレゼンテーションをする

#### 授業の目的（獲得目標）

自分の意見を論理だてて展開した小論文とそのレジюмеを作成するとともに、人を説得するためのプレゼンテーションの技法を身につける

#### 内 容

- 第1回 夏休みレポートの提出とテーマ報告
- 第2回 レジюмеの作成とプレゼンテーションの技法
- 第3回 夏休みレポートの発表（1）
- 第4回 夏休みレポートの発表（2）
- 第5回 夏休みレポートの発表（3）
- 第6回 夏休みレポートの発表（4）
- 第7回 論理的な文章の構成を学ぶ（1）
- 第8回 論理的な文章の構成を学ぶ（2）
- 第9回 論理的な文章の構成を学ぶ（3）
- 第10回 プレゼンテーションの実践（1）
- 第11回 プレゼンテーションの実践（2）
- 第12回 プレゼンテーションの実践（3）
- 第13回 プレゼンテーションの実践（4）
- 第14回 インターゼミナールの反省
- 第15回 1年を振り返って

#### 授業以外での学習方法

新聞を毎日読む（とくに経済面、政治面、社会面など）

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(都)〈F〉

クラス f 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 杉山 泰

## テーマ

小論文の作成と発表

## 授業の目的（獲得目標）

1. 自分の意見の根拠となる証拠を集める技術の獲得。（図書館の利用と本の検索） 2. 自分の意見を論理立てて説明する技術の習得。（「レジюме」の書き方） 3. 他人を説得するためのプレゼンテーションの基礎的技術の習得。（複式呼吸の重要性、英語の発声と日本語の発声の違い、fact と feeling の違いをマスターする）

## 内 容

第1回 夏休みを振り返る。（夏休みの思い出を語り、夏休みレポートを提出）

第2回 各自のテーマを10分で発表してもらう。（「レジюме」の作成）

第3回 発表開始。

第4回 大学の文化政策とも言うべき「橋祭」をどうしたら、活性化できるのか、ゼミとしてユニークな「店」を出す。（店舗の設計、看板、前売り券のデザイン）

第5回 「橋祭」の計画と実践。（いかにマネジメントをしっかりとするか。各自利益額を書いてもらう）

第6回 発表。（「発表のチェックリスト」の提出）

第7回 発表。（「発表のチェックリスト」の提出）

第8回 発表。（「発表のチェックリスト」の提出）

第9回 プレゼンテーションのテクニック。（パワーポイントの利用と英語的発声）

第10回 各自10分間の「レジюме」の作成。

第11回 各自40部ほどの「レジюме」をA4で1枚（最大2枚）でまとめ、完成させる。

第12回 参考書物を各自2冊以上書き出してもらう。写真なども自分で撮ったものを張り付ける。

第13回 「インターゼミナール」の反省と当日の「レジюме」を全員に配る。

第14回 「夏休みレポート」の「論文」の完成。（添削された箇所を手直しし、参考文献を加える）

第15回 1年間のまとめ。（できれば、大学祭のもうけで、全員でコーヒー、ケーキパーティをする）

## 授業以外での学習方法

「夏休みレポート」が最重要課題となる。地元に戻ったとき、「わがまちにある近代建築、古建築、文化財」、さらには、「博物館」「美術館」などに興味を持ってほしい。観光地の場合、観光客数、外国人の数、経済効果などを調べておきたい。寺社仏閣を訪れたときも、「外国語のパンフレット」をください、たとえば、「パンフレット」の比較もできる。10月の「楽陶祭」（清水焼き団地の陶器祭り）への参加、秋の「時代祭」（10月22日）への積極的参加を期待する。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 (後期は「発表」が中心なので、授業への参加が重視される。1/3 以上欠席すると、単位を出せないなので、注意すること。)

科目名 基礎演習Ⅱ(都)〈G〉

クラス g

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 中谷 武雄

#### テーマ

大学生としての基本的な学習技能や能力を身につける。

#### 授業の目的（獲得目標）

1 自分の意見の根拠となる証拠を集める。 2 自分の意見を論理立てて展開する。 3 人を説得するためのプレゼンテーションの基礎技術を身につける。 内容：夏休みレポートをもとに、小論文に仕上げる作業を続け、インターゼミでの発表の準備を整える。後期にも新たに教科書を採用し、その内容についての議論も進める。

#### 内 容

第1回 夏休み報告

第2回 夏休みレポート発表①

第3回 夏休みレポート発表②

第4回 夏休みレポート発表③

第5回 夏休みレポート発表④

第6回 夏休みレポート発表⑤

第7回 論理的な文章の構成を学ぶ①

第8回 論理的な文章の構成を学ぶ②

第9回 論理的な文章の構成を学ぶ③

第10回 プレゼンテーションの方法①

第11回 プレゼンテーションの方法②

第12回 プレゼンテーションの方法③

第13回 インターゼミの反省

第14回 1年を振り返って

第15回 スケジュールを調整して学外散策に出かける

#### 授業以外での学習方法

基礎ゼミは高校生から大学生への橋渡しの間である。大学生にふさわしい学習習慣や生活態度を身につける場であるとともに、大学生活に適応し、楽しむ道を歩み出す場でもある。此のことを理解して積極的に参加して欲しい。

#### 教科書

#### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 ( ) 備考 ( )

|             |             |      |     |
|-------------|-------------|------|-----|
| 科目名         | 基礎演習Ⅱ(都)〈R〉 |      |     |
| クラス         | R           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期          | 定員   | 25  |
| <b>履修条件</b> |             |      |     |
| クラス指定       | 大学指定        |      |     |
| 担当者         | 中谷 武雄       |      |     |

**テーマ**

企業（活動）と文化や社会の関係——経済価値と文化的価値の関係を考える

**授業の目的（獲得目標）**

現代の企業（活動）は、利益指標による経済的な評価だけではなく、社会的存在としての企業の機能に注目して、メセナや社会貢献活動への側面からの評価が重視されるようになってきている（ことを理解する）。内容：柿崎孝夫『企業を文化で語る』を教科書として採用し、毎回分担者を決めて（1章ごとに）内容を要約、説明し、それを受けて全員で議論する。

**内 容**

- 第1回 インTRODクシヨンと自己紹介
- 第2回 I章：企業文化とメセナ 1 企業文化を学ぶ人へ
- 第3回 I-2 企業文化の定義
- 第4回 I-3 企業文化と価値創造
- 第5回 I-4 起業の社会的責任と社会貢献活動
- 第6回 I-5 社会貢献活動と芸術文化支援
- 第7回 I-6 メセナの歴史
- 第8回 I-7 文化で語る企業へ
- 第9回 中間のまとめとテスト
- 第10回 II章：メセナの現状と心得 1 各国のメセナの現状
- 第11回 II-2 日本のメセナの現状
- 第12回 II-3 メセナの心得
- 第13回 全体のまとめとテスト
- 第14回 スケジュールを調整して、企業メセナ活動に触れる機会も企画する
- 第15回 スケジュールを調整して、学外散策に出かける

**授業以外での学習方法**

企業のメセナ活動の参考例などに、実際に参加することも企画する。経済価値とともに、文化的な価値の重要性が強調されるに至る政治、経済の背景（の変化）に目を配る。

**教科書****参考書**

---

## 成績評価

試験（50）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（50）参加度（）備考（）

---

科目名 都市環境デザイン論 I

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 織田 直文

---

テーマ

デザインすることの素晴らしさを発見しよう。

---

### 授業の目的（獲得目標）

都市や環境の概念を明らかにし、都市環境デザインの意義や知識・課題を体系的に述べる。建物や空間を考える際に必要となる地域の社会性、文化性、経済性ならびに法制度などソフト面との関係性にも配慮しつつ、デザインをするにあたっての基礎的な知識・技術を身に付けさせる。

---

### 内 容

- 第1回 講義の進め方及び「都市」や「環境」の概念と都市環境デザインの知識・技術体系
  - 第2回 「空間」と「場所」の重要性
  - 第3回 都市環境デザインの歴史
  - 第4回 社会性から見た都市環境デザイン
  - 第5回 文化性から見た都市環境デザイン
  - 第6回 経済性から見た都市環境デザイン
  - 第7回 法制度から見た都市環境デザイン
  - 第8回 まちづくりと都市環境デザイン
  - 第9回 中間まとめ
  - 第10回 地域・都市調査の手法①（統計資料・文献等の分析）
  - 第11回 地域・都市調査の手法②（フィールドワーク手法）
  - 第12回 都市空間のデザイン事例から学ぶ①（都市としての賑わい空間）
  - 第13回 都市空間のデザイン事例から学ぶ②（歴史文化資源を活かした都市空間）
  - 第14回 都市空間のデザイン事例から学ぶ③（自然環境を活かした都市空間）
  - 第15回 まとめ及び都市環境デザインのこれからの課題と展望
- 

### 授業以外での学習方法

身近な地域での出来事に関心を持つ。都市・地域問題に関する新聞、雑誌などを読み、スクラップする。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価



試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (10) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 都市環境デザイン論Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

ハード面、ソフト面からの多様な都市環境デザイン手法を身につけよう。

授業の目的（獲得目標）

都市環境デザインⅠに引き続き、都市環境デザイン上、必要とされるソフト面に配慮したハード設計の諸技術について解説する。

内 容

第1回 講義の進め方及びデザインノウハウとしてのソフトウェアとハードウェアの関係性

第2回 デザインの構造と実務のプロセス

第3回 デザインの前提条件整理手法（調査と課題の整理）

第4回 デザインのプロセス

第5回 都市環境デザインの技術（都市計画・土地利用）

第6回 都市環境デザインの技術（都市空間と建築の創造）

第7回 都市環境デザインの技術（歴史的空間・建築の再生）

第8回 都市環境デザインの技術（観光・イベント空間の演出）

第9回 中間まとめ

第10回 京都が持つ都市空間の魅力

第11回 アーバンデザインと都市景観デザイン手法

第12回 交通施設・拠点空間のデザイン手法

第13回 公園・緑地のデザイン手法

第14回 パートナーシップによるまちづくりと都市環境デザイン

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（20）授業中課題（40）授業中発表等（10）参加度（30）備考（）

科目名 インテリアデザイン論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 西山 紀子

### テーマ

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて、有識者の話等聞きながら学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

### 授業の目的（獲得目標）

インテリアデザインの歴史を知り、今日のデザインの成り立ちを理解する。人間と空間の関係性を知り、エレメントも含めてヒューマンスケールからの発想を習得する。現代社会におけるインテリアデザインの在りようを知り、問題や課題を発見する。以上を通して、一人ひとりの人間が自分自身の手で触れ、肌で感じ、目や耳で確かめることのできる身近な空間をいかに造り上げていくか？という課題に取り組む力を身に付ける。

### 内 容

- 第1回 暮らしとインテリア
- 第2回 日本の住まいとインテリア 西洋のインテリアと家具の様式
- 第3回 インテリアと寸法
- 第4回 インテリアの性能と安全性
- 第5回 空間のデザイン
- 第6回 インテリアの色彩、テクスチャー
- 第7回 インテリアの仕上げ材料
- 第8回 家具の種類、配置、インテリアファブリック
- 第9回 照明計画と照明器具
- 第10回 インテリアの構法とデザイン
- 第11回 室内環境の計画
- 第12回 インテリアの計画演習1
- 第13回 インテリアの計画演習2
- 第14回 インテリアの計画演習3
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

日常生活においてもインテリアデザインへの関心を忘れずに、身の周りの空間に気を配り、専門書だけでなくさまざまなメディアを通して広く情報を得るように心掛けること。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（20%）小テスト（50%）授業中課題（0%）授業中発表等（20%）参加度（10%）備考（インテリアデザインに関する基礎的知識を確実に修得するため、授業途中に随時行う復習小テストを重視する。）

科目名 インテリアエレメント

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 西山 紀子

### テーマ

インテリアにおいて、構造から仕上に至るまでの基本的な知識を修得する。インテリアを構成する要素の規格や性質等を含め、室内外環境の構成エレメントについて論じる。環境に生きづく構成要素・素材の総合的な知識を学び、居住性及びユニバーサルな環境づくりの観点から材料と空間、生活の相互関連メカニズムにまで言及する。

### 授業の目的（獲得目標）

インテリア空間は人の生活を機能的に成り立たせるだけでなく、美しさやそこに住まう人の個性の表出が求められる場でもある。このことを念頭にエレメントについて広く知り、それぞれの特性を生かした空間構成を学ぶ取る。また近年の社会の動向を考慮して、特にインテリアエレメントにおけるユニバーサルデザイン、エコデザイン、サステイナブルデザインなどを学ぶ取る。

### 内 容

- 第1回 インテリアエレメント・マテリアル概論
- 第2回 文化としての生活・建築・環境づくり-1：インテリア周辺の基本的構成エレメント
- 第3回 文化としての生活・建築・環境づくり-2：インテリア周辺の基本的構築マテリアル
- 第4回 要素と構成-1：要素から室内空間へ・・・（エレメント-1）
- 第5回 要素と構成-2：内外空間構築における要素・（エレメント-2）
- 第6回 重要素の種類と性格・・・・・・・・・・・・・・・・（エレメント-3）
- 第7回 内外環境計画の現場を知る【学外研修】：エレメントとマテリアルへの注目
- 第8回 空間構成と計画・・・（エレメントとマテリアル-1）
- 第9回 空間構成と表現・・・（エレメントとマテリアル-2）
- 第10回 要素と構築-1：石と壁組から・・・・・・・・（マテリアル-1）
- 第11回 要素と構築-2：木と軸組から・・・・・・・・（マテリアル-2）
- 第12回 重要材の種類と性質・・・・・・・・・・・・・・・・（マテリアル-3）
- 第13回 エレメントとマテリアルによる統合-1：共生支援環境構築の課題
- 第14回 エレメントとマテリアルによる統合-2：新たな生活環境創生の課題
- 第15回 総括

### 授業以外での学習方法

日頃からインテリアに関心を持ち、問題意識を持ったことや印象に残ったことなど、記録を取っておく。

### 教科書

**成績評価**

試験 (40%) 小テスト (30%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (10%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 建築・インテリア設計演習Ⅰ〈a〉   |      |     |
| クラス   | a  | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 60  |
| 履修条件  | 建築・インテリア設計演習Ⅰおよび建築・インテリア設計演習Ⅱをセットで登録すること（ただし上回生の再履修を除く）。また、建築・インテリア設計演習Ⅱの履修条件は、建築・インテリア設計演習Ⅰを修得済みであること。したがって、建築・インテリア設計演習Ⅰが不合格となった場合には、自動的に建築・インテリア設計演習Ⅱの登録が削除される。 |      |     |
| クラス指定 |  |      |     |
| 担当者   | 河野 良平  |      |     |

## テーマ

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

## 授業の目的（獲得目標）

始めに教科書に沿って図面をトレースすることから、製図の基本を学ぶ。次に現在自分が住んでいる部屋の実測を行い、スケール感やインテリアのデザインについて考える。最後に小住宅の設計を行い、基本的な設計の進め方と図面と模型による建築・インテリアの表現を修得する。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス1
- 第2回 ガイダンス2
- 第3回 線の引き方1
- 第4回 線の引き方2
- 第5回 木造住宅のトレース1、平面図
- 第6回 木造住宅のトレース2、平面図
- 第7回 木造住宅のトレース3、立面図・断面図
- 第8回 木造住宅のトレース4、立面図・断面図
- 第9回 木造住宅のトレース5、矩計図
- 第10回 木造住宅のトレース6、矩計図
- 第11回 部屋の改装1、実測とエスキース
- 第12回 部屋の改装2、実測とエスキース
- 第13回 部屋の改装3、平面図・展開図
- 第14回 部屋の改装4、平面図・展開図
- 第15回 部屋の改装5、模型制作
- 第16回 部屋の改装6、模型制作
- 第17回 部屋の改装7、模型制作
- 第18回 部屋の改装8、模型制作
- 第19回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
- 第20回 小住宅の設計2、課題趣旨説明、エスキース

- 第 21 回 小住宅の設計 3、エスキース、平面図の作成
  - 第 22 回 小住宅の設計 4、エスキース、平面図の作成
  - 第 23 回 小住宅の設計 5、立面図・断面図の作成
  - 第 24 回 小住宅の設計 6、立面図・断面図の作成
  - 第 25 回 小住宅の設計 7、模型制作
  - 第 26 回 小住宅の設計 8、模型制作
  - 第 27 回 小住宅の設計 9、模型制作
  - 第 28 回 小住宅の設計 10、模型制作
  - 第 29 回 講評とまとめ 1
  - 第 30 回 講評とまとめ 2
- 

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 建築・インテリア設計演習Ⅰ <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 60

履修条件 建築・インテリア設計演習Ⅰおよび建築・インテリア設計演習Ⅱをセットで登録すること（ただし上回生の再履修を除く）。また、建築・インテリア設計演習Ⅱの履修条件は、建築・インテリア設計演習Ⅰを修得済みであること。したがって、建築・インテリア設計演習Ⅰが不合格となった場合には、自動的に建築・インテリア設計演習Ⅱの登録が削除される。

#### クラス指定

担当者 西山 紀子

#### テーマ

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

#### 授業の目的（獲得目標）

製図の基礎を修得し、スケール感覚を身につけ、設計の流れを理解する。

#### 内 容

第1回 ガイダンス1

第2回 ガイダンス2

第3回 線の引き方1

第4回 線の引き方2

第5回 木造住宅のトレース1、平面図

第6回 木造住宅のトレース2、平面図

第7回 木造住宅のトレース3、立面図・断面図

第8回 木造住宅のトレース4、立面図・断面図

第9回 木造住宅のトレース5、矩計図

第10回 木造住宅のトレース6、矩計図

第11回 部屋の改装1、実測とエスキース

第12回 部屋の改装2、実測とエスキース

第13回 部屋の改装3、平面図・展開図

第14回 部屋の改装4、平面図・展開図

第15回 部屋の改装5、模型制作

第16回 部屋の改装6、模型制作

第17回 部屋の改装7、模型制作

第18回 部屋の改装8、模型制作

第19回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース

第20回 小住宅の設計2、課題趣旨説明、エスキース

第21回 小住宅の設計3、エスキース、平面図の作成

第22回 小住宅の設計4、エスキース、平面図の作成

- 第 23 回 小住宅の設計 5、立面図・断面図の作成
  - 第 24 回 小住宅の設計 6、立面図・断面図の作成
  - 第 25 回 小住宅の設計 7、模型制作
  - 第 26 回 小住宅の設計 8、模型制作
  - 第 27 回 小住宅の設計 9、模型制作
  - 第 28 回 小住宅の設計 10、模型制作
  - 第 29 回 講評とまとめ 1
  - 第 30 回 講評とまとめ 2
- 

### **授業以外での学習方法**

普段から興味を持って建築関係の雑誌などに目を通し、出来るだけ実物を見学すること。

---

### **教科書**

### **参考書**

---

### **成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 建築・インテリア設計演習Ⅰ <c>  |      |     |
| クラス   | c  | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 60  |
| 履修条件  | 建築・インテリア設計演習Ⅰおよび建築・インテリア設計演習Ⅱをセットで登録すること（ただし上回生の再履修を除く）。また、建築・インテリア設計演習Ⅱの履修条件は、建築・インテリア設計演習Ⅰを修得済みであること。したがって、建築・インテリア設計演習Ⅰが不合格となった場合には、自動的に建築・インテリア設計演習Ⅱの登録が削除される。 |      |     |
| クラス指定 |  |      |     |
| 担当者   | 富澤 実   |      |     |

## テーマ

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

## 授業の目的（獲得目標）

建築・インテリアの設計を行うための基礎的感覚と技術の習得。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス1
- 第2回 ガイダンス2
- 第3回 線の引き方1
- 第4回 線の引き方2
- 第5回 木造住宅のトレース1、平面図
- 第6回 木造住宅のトレース2、平面図
- 第7回 木造住宅のトレース3、立面図・断面図
- 第8回 木造住宅のトレース4、立面図・断面図
- 第9回 木造住宅のトレース5、矩計図
- 第10回 木造住宅のトレース6、矩計図
- 第11回 部屋の改装1、実測とエスキース
- 第12回 部屋の改装2、実測とエスキース
- 第13回 部屋の改装3、平面図・展開図
- 第14回 部屋の改装4、平面図・展開図
- 第15回 部屋の改装5、模型制作
- 第16回 部屋の改装6、模型制作
- 第17回 部屋の改装7、模型制作
- 第18回 部屋の改装8、模型制作
- 第19回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
- 第20回 小住宅の設計2、課題趣旨説明、エスキース
- 第21回 小住宅の設計3、エスキース、平面図の作成
- 第22回 小住宅の設計4、エスキース、平面図の作成

- 第 23 回 小住宅の設計 5、立面図・断面図の作成
  - 第 24 回 小住宅の設計 6、立面図・断面図の作成
  - 第 25 回 小住宅の設計 7、模型制作
  - 第 26 回 小住宅の設計 8、模型制作
  - 第 27 回 小住宅の設計 9、模型制作
  - 第 28 回 小住宅の設計 10、模型制作
  - 第 29 回 講評とまとめ 1
  - 第 30 回 講評とまとめ 2
- 

#### **授業以外での学習方法**

建物の見学、調査及び雑誌等の文献収集

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (20) 参加度 (10) 備考 (課題に取り組む中で、同じクラスの仲間との意見交換などを行い、設計の基礎的な感覚の習得や技術の向上を目指しているかを見ます。)

## 2010 Syllabus

科目名 建築・インテリア設計演習Ⅱ〈a〉

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 建築・インテリア設計演習Ⅰおよび建築・インテリア設計演習Ⅱをセットで登録すること（ただし上回生の再履修を除く）。また、建築・インテリア設計演習Ⅱの履修条件は、建築・インテリア設計演習Ⅰを修得済みであること。したがって、建築・インテリア設計演習Ⅰが不合格となった場合には、自動的に建築・インテリア設計演習Ⅱの登録が削除される。

#### クラス指定

担当者 河野 良平

#### テーマ

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

#### 授業の目的（獲得目標）

前半は製図を中心に行う。インテリアコーディネーター実技試験程度の図面を中心に練習する。後半は木造小住宅の設計を行う。基本的な設計の進め方、図面、模型とパースによる表現を修得する。木造戸建て住宅の見学を通して、スケール感や平面計画の重要性を学ぶ。

#### 内容

第1回 ガイダンス1

第2回 ガイダンス2

第3回 インテリア・パースの練習1、一点透視図

第4回 インテリア・パースの練習2、一点透視図

第5回 インテリア・パースの練習3、二点透視図1

第6回 インテリア・パースの練習4、二点透視図1

第7回 インテリア・パースの練習5、二点透視図2

第8回 インテリア・パースの練習6、二点透視図2

第9回 アクソノメトリック図の作成1

第10回 アクソノメトリック図の作成2

第11回 アクソノメトリック図の作成3

第12回 アクソノメトリック図の作成4

第13回 講評1

第14回 講評2

第15回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース

第16回 戸建て住宅の設計2、課題趣旨説明、エスキース

第17回 戸建て住宅の設計3、エスキース

第18回 戸建て住宅の設計4、エスキース

第19回 戸建て住宅の設計5、平面図の作成

第20回 戸建て住宅の設計6、平面図の作成

- 第 21 回 戸建て住宅の設計 7、立面図の作成
  - 第 22 回 戸建て住宅の設計 8、立面図の作成
  - 第 23 回 戸建て住宅の設計 9、断面図の作成
  - 第 24 回 戸建て住宅の設計 10、断面図の作成
  - 第 25 回 戸建て住宅の設計 11、模型
  - 第 26 回 戸建て住宅の設計 12、模型
  - 第 27 回 戸建て住宅の設計 13、模型
  - 第 28 回 戸建て住宅の設計 14、模型
  - 第 29 回 講評とまとめ 1
  - 第 30 回 講評とまとめ 2
- 

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 建築・インテリア設計演習Ⅱ〈b〉   |      |     |
| クラス   | b  | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 60  |
| 履修条件  | 建築・インテリア設計演習Ⅰおよび建築・インテリア設計演習Ⅱをセットで登録すること（ただし上回生の再履修を除く）。また、建築・インテリア設計演習Ⅱの履修条件は、建築・インテリア設計演習Ⅰを修得済みであること。したがって、建築・インテリア設計演習Ⅰが不合格となった場合には、自動的に建築・インテリア設計演習Ⅱの登録が削除される。 |      |     |
| クラス指定 |  |      |     |
| 担当者   | 西山 紀子  |      |     |

## テーマ

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

## 授業の目的（獲得目標）

図面・模型の制作を通して、建築・インテリア設計の基礎を習得する。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス1
- 第2回 ガイダンス2
- 第3回 インテリア・パースの練習1、一点透視図
- 第4回 インテリア・パースの練習2、一点透視図
- 第5回 インテリア・パースの練習3、二点透視図1
- 第6回 インテリア・パースの練習4、二点透視図1
- 第7回 インテリア・パースの練習5、二点透視図2
- 第8回 インテリア・パースの練習6、二点透視図2
- 第9回 アクソノメトリック図の作成1
- 第10回 アクソノメトリック図の作成2
- 第11回 アクソノメトリック図の作成3
- 第12回 アクソノメトリック図の作成4
- 第13回 講評1
- 第14回 講評2
- 第15回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
- 第16回 戸建て住宅の設計2、課題趣旨説明、エスキース
- 第17回 戸建て住宅の設計3、エスキース
- 第18回 戸建て住宅の設計4、エスキース
- 第19回 戸建て住宅の設計5、平面図の作成
- 第20回 戸建て住宅の設計6、平面図の作成
- 第21回 戸建て住宅の設計7、立面図の作成
- 第22回 戸建て住宅の設計8、立面図の作成

- 第 23 回 戸建て住宅の設計 9、断面図の作成
  - 第 24 回 戸建て住宅の設計 10、断面図の作成
  - 第 25 回 戸建て住宅の設計 11、模型
  - 第 26 回 戸建て住宅の設計 12、模型
  - 第 27 回 戸建て住宅の設計 13、模型
  - 第 28 回 戸建て住宅の設計 14、模型
  - 第 29 回 講評とまとめ 1
  - 第 30 回 講評とまとめ 2
- 

#### **授業以外での学習方法**

普段から興味を持って建築関係の雑誌などに目を通し、出来るだけ実物を見学すること。

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 建築・インテリア設計演習Ⅱ <c>

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 建築・インテリア設計演習Ⅰおよび建築・インテリア設計演習Ⅱをセットで登録すること（ただし上回生の再履修を除く）。また、建築・インテリア設計演習Ⅱの履修条件は、建築・インテリア設計演習Ⅰを修得済みであること。したがって、建築・インテリア設計演習Ⅰが不合格となった場合には、自動的に建築・インテリア設計演習Ⅱの登録が削除される。

### クラス指定

担当者 富澤 実

### テーマ

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

### 授業の目的（獲得目標）

建築・インテリアの設計を行うための基礎的感覚と技術の習得。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス1
- 第2回 ガイダンス2
- 第3回 インテリア・パースの練習1、一点透視図
- 第4回 インテリア・パースの練習2、一点透視図
- 第5回 インテリア・パースの練習3、二点透視図1
- 第6回 インテリア・パースの練習4、二点透視図1
- 第7回 インテリア・パースの練習5、二点透視図2
- 第8回 インテリア・パースの練習6、二点透視図2
- 第9回 アクソノメトリック図の作成1
- 第10回 アクソノメトリック図の作成2
- 第11回 アクソノメトリック図の作成3
- 第12回 アクソノメトリック図の作成4
- 第13回 講評1
- 第14回 講評2
- 第15回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
- 第16回 戸建て住宅の設計2、課題趣旨説明、エスキース
- 第17回 戸建て住宅の設計3、エスキース
- 第18回 戸建て住宅の設計4、エスキース
- 第19回 戸建て住宅の設計5、平面図の作成
- 第20回 戸建て住宅の設計6、平面図の作成
- 第21回 戸建て住宅の設計7、立面図の作成
- 第22回 戸建て住宅の設計8、立面図の作成

- 第 23 回 戸建て住宅の設計 9、断面図の作成
  - 第 24 回 戸建て住宅の設計 10、断面図の作成
  - 第 25 回 戸建て住宅の設計 11、模型
  - 第 26 回 戸建て住宅の設計 12、模型
  - 第 27 回 戸建て住宅の設計 13、模型
  - 第 28 回 戸建て住宅の設計 14、模型
  - 第 29 回 講評とまとめ 1
  - 第 30 回 講評とまとめ 2
- 

#### **授業以外での学習方法**

建物の見学、調査及び雑誌等の文献収集

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (20) 参加度 (10) 備考 (課題に取り組む中で、同じクラスの仲間との意見交換などを行い、設計の基礎的な感覚の習得や技術の向上を目指しているかを見ます。)

---

科目名 構造力学 I

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 須田 達

---

### テーマ

力に関する基本的な知識を学び、構造物について詳しく理解する。力学で使われる用語の解説から、構造物の反力の求め方、構造物の判別、静定構造物とその弾性解析、断面係数、部材の応力度まで練習問題を通して具体的に理解を深める。

---

### 授業の目的（獲得目標）

静定構造骨組みの応力計算ができること。部材断面の力学的な性能を理解し、計算できること。

---

### 内 容

- 第1回 構造力学について
  - 第2回 力のつり合い
  - 第3回 応力度とひずみ度
  - 第4回 はりの変形 1、曲げモーメントによる変形
  - 第5回 はりの変形 2、せん断力による変形
  - 第6回 断面の性質 1
  - 第7回 断面の性質 2
  - 第8回 構造物の安定と不安定
  - 第9回 静定ラーメンの解析 1、片持はり
  - 第10回 静定ラーメンの解析 2、単純はり
  - 第11回 静定ラーメンの解析 3、3ヒンジラーメン
  - 第12回 静定トラスの解析 1、節点法
  - 第13回 静定トラスの解析 2、切断法
  - 第14回 静定トラスの解析 3、合成ラーメン
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

予習、復習を行いうこと。ノートに書いて計算をすること。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（40）小テスト（）授業中課題（60）授業中発表等（）参加度（）備考（評価は課題 60%、テスト 40%で評価します。ただしテストの評価が 0 の場合は不可とします。課題は基本的に毎週授業の終わりに実施します。テストは 15 週目に実施します。）

科目名 測量実習〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

土地の形状や大きさを計測するため、トラバースング、レベリング、平板測量などの実習を行い、測量の基礎を習得する。

授業の目的（獲得目標）

土地の形状や大きさを計測するため、トラバースング・レベリング・平板測量などの実習をおこない、測量技術の基礎を習得する。

内 容

第1回 ガイダンス（班分け方法、実習上の諸注意、レポートの書き方）

第2回 距離測量1（目測・歩測）

第3回 距離測量2（巻尺による測量、数値の取り扱い、有効数字）

第4回 レベル基本操作、スタジア測量（レベル、標尺（スタッフ）、スタジア、スタジア定数）

第5回 水準測量1（レベル、標尺（スタッフ）、閉合水準測量）

第6回 水準測量2（レベル、標尺（スタッフ）、往復水準測量）

第7回 平板測量1（平板、アリダード、骨組測量、標定、放射法、道線法）

第8回 平板測量2（平板、アリダード、細部測量）

第9回 セオドライト基本操作、測角（セオドライト、水平角、鉛直角）

第10回 トラバース測量（多角測量）1（単測法、倍角法）

第11回 トラバース測量（多角測量）2（トラバース、緯距・経距、閉合誤差）

第12回 地形測量1（平板測量法による）

第13回 地形測量2（地形図を描く）

第14回 写真測量

第15回 測量実習の総括 ※尚、この授業では必要に応じて課外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

地形を図化して地図を作るという作業には、測量機器に慣れるとともに、地形を見抜く目をもつことが必要である。地形を見て、どんな地図ができるか、いつも考えること。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (30%) 小テスト (30%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (15%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 測量実習 <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 五十川 伸矢

## テーマ

土地の形状や大きさを計測するため、トラバースング、レベリング、平板測量などの実習を行い、測量の基礎を習得する。

## 授業の目的（獲得目標）

土地の形状や大きさを計測するため、トラバースング・レベリング・平板測量などの実習をおこない、測量技術の基礎を習得する。授業以外の学修 地形を図化して地図を作るという作業には、測量機器に慣れるとともに、地形を見抜く目をもつことが必要である。地形を見て、どんな地図ができるか、いつも考えること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス（班分け方法、実習上の諸注意、レポートの書き方）
- 第2回 距離測量1（目測・歩測）
- 第3回 距離測量2（巻尺による測量、数値の取り扱い、有効数字）
- 第4回 レベル基本操作、スタジア測量（レベル、標尺（スタッフ）、スタジア、スタジア定数）
- 第5回 水準測量1（レベル、標尺（スタッフ）、閉合水準測量）
- 第6回 水準測量2（レベル、標尺（スタッフ）、往復水準測量）
- 第7回 平板測量1（平板、アリダード、骨組測量、標定、放射法、道線法）
- 第8回 平板測量2（平板、アリダード、細部測量）
- 第9回 セオドライト基本操作、測角（セオドライト、水平角、鉛直角）
- 第10回 トラバース測量（多角測量）1（単測法、倍角法）
- 第11回 トラバース測量（多角測量）2（トラバース、緯距・経距、閉合誤差）
- 第12回 地形測量1（平板測量法による）
- 第13回 地形測量2（地形図を描く）
- 第14回 写真測量
- 第15回 測量実習の総括 ※尚、この授業では必要に応じて課外授業を行うことがある。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (30%) 小テスト (30%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (15%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 都市デザイン論 <a>

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

都市の空間、社会、文化をデザインする。

授業の目的（獲得目標）

快適で美しく、活力に満ちた文化都市を創る思想と技術を獲得する。地方における地域課題を類型化し、主に実践例をもとに、その地域の空間、社会、文化のデザイン手法を解説していく。

内 容

- 第1回 講義の進め方、「都市デザイン」の概念について
- 第2回 文化政策と臨地まちづくりによる地域活性化
- 第3回 コンパクトシティ論と中心市街地活性化の課題と手法
- 第4回 歴史的商店街の意義と活性化方策
- 第5回 まちづくりにおける「溜まり場」論
- 第6回 伝統的な祭りの保存と活用
- 第7回 伝統産業、産地の活性化
- 第8回 文化施設とまちづくり
- 第9回 文化観光とまちづくり
- 第10回 キャラクター活用によるまちづくり
- 第11回 地域づくりコーディネーター論
- 第12回 地域イベントの意義と技術
- 第13回 地域イベント実例の現地調査<1>
- 第14回 地域イベント実例の現地調査<2>
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

様々な都市に出かけ、その都市の長短を観察し、記録をとるよう努める

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 都市デザイン論 <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

都市の空間、社会、文化を地域に添ってデザインする。

授業の目的（獲得目標）

山科地域を事例としつつ、地域の文化と都市の歴史を知りその活用方法を学ぶ。地域の空間、社会、文化のデザインについての企画を学習し実際にやってみる。

内 容

- 第1回 講義の進め方、「都市デザイン」の概念について
- 第2回 文化政策における都市デザイン（ソフト分野）の意味
- 第3回 山科の文化資源とその歴史を探る（1） まちさがし～大宅寺から一里塚まで
- 第4回 山科の文化資源とその歴史を探る（2） まちあそび～志賀直哉が住んでいた頃
- 第5回 銭湯など街角、縁側の資源に注目する
- 第6回 伝統的な祭りの保存と活用 ～文化プロデュースと都市デザインの関係とは？～
- 第7回 伝統産業、職人芸を学ぶ ～産業おこしはまちおこし（活性化）になるか？
- 第8回 まちづくりとまちつかい、まちおこし、まちづたえ
- 第9回 蓮如がいた山科、室町時代の寺内町を思う
- 第10回 神社と寺院と都市デザインとの関係を探る～キャラクターと妖怪との関係～
- 第11回 「山科まちづくり企画～地域イベントを中心に」の書き方提示
- 第12回 地域イベントの意義と技術～スラムダンク（井上雄彦）のイベントを通じて
- 第13回 忠臣蔵の舞台、山科を映画で探る（1） 大石内蔵助の史実と虚構
- 第14回 忠臣蔵の舞台、山科を映画で探る（2） 歌舞伎との関係
- 第15回 まとめ 企画書提出

授業以外での学習方法

山科のイベントなどに参加し、できるだけ、山科の文化ポイントに出かけて、観察し記録をとること

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 都市計画論 I

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中野 茂夫

### テーマ

都市計画の歴史をふり返りながら、その基本理念、技術的背景、都市計画事業手法など都市計画の基礎的知識を学ぶ。その上で、都市計画の実践事例から今後のまちづくりの方向性を探る。

### 授業の目的（獲得目標）

日本の都市計画の歴史について、古代から中近世、近代、現代までについて通時的な理解を深める。特に近代都市計画が誕生した旧都市計画法制定以降の都市計画史について、理解を深め、現在までに通じる都市計画の基本理念や、土地区画整理や用途地域などの基礎的な技術について学ぶ。また近代都市計画がターゲットとした産業革命以後の大都市抑制と工業開発という大きな課題に焦点をあて、日本の都市計画の特徴を理解する。

### 内 容

第1回 都市計画史からなにを学ぶか

第2回 古代都市の都市計画 平城京、平安京、鎌倉

第3回 中近世都市の都市計画 中世都市、近世の城下町建設

第4回 近代都市の都市計画 近代都市計画の誕生、都市計画法の制定

第5回 東京の都市計画 銀座煉瓦街、市区改正、震災復興

第6回 大阪の都市計画 関一の都市政策、近畿地方計画

第7回 京都の都市計画 三大事業、受益者負担、土地区画整理、景観条例

第8回 産業都市の都市計画 倉敷の都市計画

第9回 重工業都市の都市計画 日立の都市計画

第10回 在郷町の都市計画 野田の都市計画

第11回 新興工業都市計画と戦後日本の地域開発 全国 23 地区の新興工業都市建設、新産業都市・工業特区の地域開発

第12回 植民地下の都市計画 北京、満州、韓国、台湾

第13回 戦災復興都市計画 全国 115 都市の戦災復興と土地区画整理事業

第14回 戦後都市計画の変遷 都市計画法改正と建築基準法の制定

第15回 都市保存計画の登場 重要伝統的建造物群保存地区、景観法、歴史まちづくり法

### 授業以外での学習方法

実際の都市を視察し、都市計画の歴史をたどる。特に、都市の歴史がわかる地図を片手に、現在のすがたと比較する。

### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（40）授業中発表等（）参加度（60）備考（授業の出席と期末レポートによって評価する。）

|       |        |     |  |
|-------|--------|-----|--|
| 科目名   | 都市計画論Ⅱ |     |  |
| クラス   | 配当回生   | 1回生 |  |
| 講義期間  | 後期     | 定員  |  |
| 履修条件  |        |     |  |
| クラス指定 |        |     |  |
| 担当者   | 中野 茂夫  |     |  |

### テーマ

都市計画に関する知識について、世界の事例を解説し、我が国の都市計画の政策、動向について展開する。また都市計画による実践例を学び、現代の都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。

### 授業の目的（獲得目標）

国内外の都市計画の歴史をふりかえりながら、都市建設の手法、近代都市計画の考え方、総体的コントロールの手法、良好な市街地形成の仕組みなどの理解する。特に産業革命以後の都市の課題化とそのコントロール手法として登場した都市計画の特徴について理解を深める。都市計画の母とよばれる土地区画整理、ゾーニングによる良好な都市環境の整備といった基礎的な計画制度・手法について学ぶとともに、近年、重要視されている歴史を生かしたまちづくり、景観形成について先進的な事例を取り上げつつ学習する。

### 内 容

- 第1回 イギリス 都市計画・植民地経営<道路・鉄道・運河>、デリー（オールドデリー＋ニューデリー）
- 第2回 アメリカ T.V.A. 地域開発のモデルとしてのT.V.A. ～その成功・失敗～
- 第3回 ソ連の自然改造 消えた湖
- 第4回 中国 孫文の国土計画 三峡ダム・西部大開発、南水北調
- 第5回 日本 本多利明・佐藤信淵の国土開発計画地区交通計画 関東大震災・ビアード東京市政論 後藤新平の大風呂敷、国土計画の歩み（復興、列島改造、田園都市国家、遷都論）
- 第6回 市街地の整備・地区計画
- 第7回 都市の交通体系・交通計画 クルマ社会・東京と地方 京都マイカー観光拒否宣言
- 第8回 オープンスペース、都市公園、環境計画 内務省地方局『田園都市と日本人』
- 第9回 都市防災・都市景観
- 第10回 都市のアメニティ・魅力 J. ジェーコブス『アメリカ大都市の生と死』
- 第11回 都市の再生・活性化 C.A. ドキシアデスのエキュメノポリス、A. クリストファの実験
- 第12回 都市の保存修景計画 地域文化財と文化的景観
- 第13回 都市の保存修景計画 近江八幡、長浜、彦根の実験 都市資産を活かした都市再生
- 第14回 都市の保存修景計画 京都の経験・京都の実験、山科での実験
- 第15回 まとめ 町づくり、都市計画・策定のプロセスを考える

### 授業以外での学習方法

実際の都市を視察し、都市計画の歴史をたどる。都市や建築の歴史がわかる図書を読みながら、理解を深める。

### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（40）授業中発表等（）参加度（60）備考（授業の出席と期末レポートによって評価する。）

科目名 観光政策論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

観光政策の基礎を理解する

授業の目的（獲得目標）

観光振興の利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する

内 容

第1回 観光の基本構造

第2回 観光とレクリエーション

第3回 観光商品

第4回 事例研究 文化遺産と観光

第5回 旅行に対する需要

第6回 パック旅行の長所と短所

第7回 旅行代理店の長所と短所

第8回 観光産業の競争

第9回 観光行動

第10回 観光交通

第11回 国際観光

第12回 観光の経済効果

第13回 観光による受益と負担

第14回 持続可能な観光 自然環境保全と市場規制

第15回 観光振興を推進する主体 ※なお、講師を招いて講演会を実施することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（80%）授業中発表等（）参加度（）備考（受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価（授業中課題）とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない。）

---

科目名 デッサン〈a〉

---

クラス a

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 富家 大器

---

テーマ

演習を通じ「かたち」を表現する基礎を学習する

---

授業の目的（獲得目標）

〔授業概要〕 演習を通じ「かたち」を表現する基礎を学習する。演習を通して、空間における「かたち」を表現する基礎を学ぶ。自分の手を動かし、先人の作品を鑑賞していくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握する能力を高める

---

内 容

第1回 概説

第2回 かたちのありかた

第3回 立方体1

第4回 立方体2

第5回 静物1

第6回 静物2

第7回 静物3

第8回 講評

第9回 手1

第10回 手2

第11回 手3

第12回 建物1

第13回 建物2

第14回 建物3

第15回 講評

---

授業以外での学習方法

上手く描こうと焦る必要はない。むしろ、普段から「物をよく見る」という姿勢のほうが重要。また、先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的であろう。

---

教科書

参考書

---



## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (授業中課題50%、出席・授業中態度・積極性・参加度総合50%。全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なす。)

---

科目名 デッサン <b>

---

クラス b

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 富家 大器

---

テーマ

演習を通じ「かたち」を表現する基礎を学習する

---

授業の目的（獲得目標）

〔授業概要〕 演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する。演習を通して、空間における「かたち」を表現する基礎を学ぶ。自分の手を動かし、先人の作品を鑑賞していくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握する能力を高める

---

内 容

第1回 概説

第2回 かたちのありかた

第3回 立方体1

第4回 立方体2

第5回 静物1

第6回 静物2

第7回 静物3

第8回 講評

第9回 手1

第10回 手2

第11回 手3

第12回 建物1

第13回 建物2

第14回 建物3

第15回 講評

---

授業以外での学習方法

上手く描こうと焦る必要はない。むしろ、普段から「物をよく見る」という姿勢のほうが重要。また、先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的であろう。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (授業中課題<提出物・レポート> 50% 授業中態度・積極性・参加度総合 50%。全授業回数の 1/3 以上の欠席をもって授業放棄と見なす。)

科目名 都市とアート

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 都市とアーツ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

文化プロデュース最初の一步

### 授業の目的（獲得目標）

文化と都市の関係を広く柔軟に学ぶ。映画を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。映画のメイキング過程を知る。

### 内 容

第1回 はじめに

第2回 文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的（社会構成的）な捉え方

第3回 まちと都市と地域と文化と（互いの関係とすみわけ）

第4回 文化のなかのアーツ、その分類と特質

第5回 超自然存在としてのアニメ、妖怪（妖怪と幽霊、妖怪の例示～河童の特性とは？）

第6回 誕生日のあるアーツ、それが映画だ（活動写真からトーキーへ）

第7回 学外授業 6/20 子どもの文化フォーラム参加 東部文化会館

第8回 アニメ映画への接近1（原恵一監督～クレヨンしんちゃん映画の進化）

第9回 アニメ映画への接近2（原恵一監督～「河童のクウの夏休み」から分かること）現在製作中の新しい映画「カラフル」に言及する可能性あり

第10回 実写映画への接近1（黒沢清監督～ホラー映画を冷静に鑑賞するには？）

第11回 実写映画への接近2（黒沢清監督～心理とアクション～）「東京ソナタ」を題材にして

第12回 映画プロデュースに必要なものは

第13回 文化プロデュースから何が生まれるのか

第14回 私たちの文化の未来へ

第15回 まとめ・・・これからの文化プロデュース科目の予告 京都文化ベンチャーコンペティションの説明や学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

### 授業以外での学習方法

古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいて実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。

教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (40) 備考 ( )

---

科目名 文化経済論

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 阪本 崇

---

### テーマ

文化と経済の関係を理解し、文化経済学の基礎を身につける

---

### 授業の目的（獲得目標）

文化と経済との関係は、一見したところ対立こそすれ、両立するものではないかのように見えるかもしれない。しかし、現実には文化の発展には経済的基礎が不可欠であり、また文化の発展が経済の発展をもたらすこともある。このように、文化と経済は不可分の関係にある。本講義では、①文化現象を対象とする経済学はいかなる特徴をもっているのか、②具体的な文化現象は経済学によってどのように解明されるのかのという2つの視点から文化経済学にアプローチする。

---

### 内 容

- 第1回 イントロダクション：なぜ文化経済学を勉強するのか？
  - 第2回 文化と経済との関係：経済学とはどんな学問か？
  - 第3回 芸術と経済のジレンマ：実演芸術は商売にならない。
  - 第4回 「コスト病」の考え方：実演芸術と共通の性質を持つ産業をさがしてみよう。
  - 第5回 まとめ（1）：文化経済学の意義と「コスト病」
  - 第6回 芸術作品の価格とオークション：芸術作品の値段はどのように決まるのか？
  - 第7回 芸術作品の価格と価値：「高い」芸術作品は「よい」芸術作品か？
  - 第8回 資産としての芸術作品：将来値上がりする芸術作品とは？
  - 第9回 創造的生産者としての芸術家：金儲けだけが仕事ではない。
  - 第10回 芸術文化の消費行動：蓼食う虫も好き好き？
  - 第11回 スローライフの経済学：時間をフルに活用するということ。
  - 第12回 文化と情報の経済学：情報は誰のものか？
  - 第13回 まとめ（2）：文化経済学の理論
  - 第14回 芸術文化の公的支援：経済的支援と表現の自由のジレンマ。
  - 第15回 アームズ・レングスの原則：芸術の支援をしやすい環境とは？
- 

### 授業以外での学習方法

経済に関わる問題に限らず、広く文化に関わる現象に親しむようにしてほしい。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )



科目名 社会文化論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

社会と芸術文化の関係を多角的に考察する

授業の目的（獲得目標）

社会学、文化研究学、美学の基礎的な考え方を学ぶ。文化創造者である芸術家が地域社会といかに関わるかを学ぶ。しっかりした文化論を読みこなし自分の意見を形成する。

内 容

第1回 はじめに・・・教材は教科書と宮澤賢治の著作から資料化する予定。あと、映画や演劇映像、絵本、紙芝居など、多角的メディアを活用する予定です。

第2回 限界芸術論入門1・・・限界芸術とは何か。結婚式と葬式、祭祀を例にして。

第3回 限界芸術論入門2・・・引き続き冠婚葬祭を例にしつつ、宮澤賢治とアウトサイダーアーツへの橋渡しを行う

第4回 詩人としての宮澤賢治

第5回 童話作家としての宮澤賢治

第6回 教師・宗教実践家としての宮澤賢治

第7回 社会活動家としての宮澤賢治

第8回 農民芸術概論を読む（1）

第9回 農民芸術概論を読む（2）

第10回 限界芸術論とアウトサイダーアーツの関係について

第11回 学外授業 アウトサイダーライブの鑑賞（予定）

第12回 障害者の文化とは何か

第13回 障害者社会と表現活動の出会い

第14回 めくるめく紙芝居論・・・紙芝居の限界芸術性とは何か

第15回 まとめ・・・文化は社会のなかでどのようにありうるのか、文化社会存在論を自分流に構築するために

授業以外での学習方法

教科書を熟読する授業にしたいので、必携。授業外で宮澤賢治の作品を読むこと。あと、発声やコミュニケーションの勉強にもなるので、宮澤賢治の詩や童話を音読しておくこと。

教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 ( )

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ <a>  |      |     |
| クラス   | a  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 今井 裕夫  |      |     |

## テーマ

「かたち」の研究

## 授業の目的（獲得目標）

私たちを取りまく環境は、いろいろな「かたち」により成立している。環境に漠然と散在する「かたち」の中から、興味を引く「かたち」を求め、それから一つ一つの存在意味を探るデザイン・サーヴェイ(デザイン取材)を写真の撮影により行う。その場所に赴き、凝視(じっとみつめること)を通して建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての感性の獲得とさらに磨きをかけるための感性ノート作りを行う。内 容 毎日の視線から気になる「かたち」を求めて歩く。撮影する。かたちの意味を読み取り、その成立背景から大まか

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 講義（取材方法、批評の参考事例）
- 第3回 講義（参考事例）
- 第4回 取材
- 第5回 発表・講評①
- 第6回 発表・講評①
- 第7回 発表・講評①
- 第8回 取材
- 第9回 発表・講評②
- 第10回 発表・講評②
- 第11回 発表・講評②
- 第12回 発表・講評③
- 第13回 発表・講評③
- 第14回 発表・講評③
- 第15回 ノート作成

## 授業以外での学習方法

つね日頃、カメラを持ち歩くこと。環境に散在するかたちに興味をもつこと。凝視すること。言葉を交わすこと。撮影すること。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (25) 参加度 (25) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ <b>  |      |     |
| クラス   | b  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 上原 恵美  |      |     |

## テーマ

都市的文化装置である文化施設のマネジメントに関する研究

## 授業の目的（獲得目標）

都市的文化装置としての図書館、美術館・博物館、劇場・ホールなどの意義とマネジメントの現状、課題などについて学ぶ

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教科書（平田オリザ「芸術立国論」序章、第1章1を読む。担当者が発表し討議をする。以下同じ
- 第3回 教科書第1章2，第2章を読む
- 第4回 教科書第3章を読む
- 第5回 教科書第4章を読む
- 第6回 新聞スクラップの報告
- 第7回 教科書第5章1，2を読む
- 第8回 教科書第5章3，4，第6章1を読む
- 第9回 美術館について文献・資料を読み、担当者を決めて報告し、討議をする
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 滋賀県立美術館の見学
- 第13回 美術館見学についてレポートをまとめ発表する
- 第14回 新聞スクラップの報告
- 第15回 前期のまとめ

## 授業以外での学習方法

新聞を読んでスクラップし、項目の目次を作る 夏休みに文化施設を訪問したり、舞台や展覧会を鑑賞し、レポートを提出する

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ <c>  |      |     |
| クラス   | c  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 織田 直文  |      |     |

## テーマ

人・まち・文化の面白さを見つけ、自分の考えを表現する力を身につけよう。

## 授業の目的（獲得目標）

「まち」およびそれを形づくる「人」や「文化」の面白さを理解し、それらについて評価し、自分の考えを表現できる能力を身につける。主に京都市内を中心に、まち（都市や地域）の面白さを学ぶとともに、基礎的な学習能力とプレゼンテーション能力を高めるために、各自が読んだ文献の発表「私のお奨め一冊」を行う。機会があれば現地調査を実施する。

## 内 容

- 第1回 ゼミメンバーの自己紹介とゼミの進め方について
- 第2回 京都市内（山科区内）現地調査
- 第3回 京都市内（山科区内）現地調査
- 第4回 日本の都市・地域の歴史と特性を知る（1）。「私のお奨め一冊」の発表。
- 第5回 日本の都市・地域の歴史と特性を知る（2）。「私のお奨め一冊」の発表。
- 第6回 京都市の歴史を知る。「私のお奨め一冊」の発表。
- 第7回 京都市の現状と課題を知る。「私のお奨め一冊」の発表。
- 第8回 京都市内現地調査企画研究（1）。「私のお奨め一冊」の発表。
- 第9回 京都市内現地調査企画研究（2）。「私のお奨め一冊」の発表。
- 第10回 京都市内現地調査。
- 第11回 京都市内現地調査。
- 第12回 現地調査の反省会。
- 第13回 「私のお奨め一冊」の発表。
- 第14回 「私のお奨め一冊」の発表。
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

身近な地域の文化や出来事に関心を持ち、できればそれらについての自分の考えを文章化するようにこころがける。

## 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）



|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ <d>  |      |     |
| クラス   | d  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 河野 良平  |      |     |

### テーマ

建築家・インテリアデザイナーに関する研究

### 授業の目的（獲得目標）

普段から興味をもっている建築家やインテリアデザイナーについて時間をかけて調べ、自分の関心がどこにあるのかを確認する。また、発表の方法について意識し、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるにはどのようにすればいいのか、ということについて考察する。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表1
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表2
- 第9回 発表2
- 第10回 発表3
- 第11回 発表3
- 第12回 発表3
- 第13回 発表3、まとめ
- 第14回 見学
- 第15回 見学

### 授業以外での学習方法

授業内で適宜指示します。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ <e>  |      |     |
| クラス   | e  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 小暮 宣雄  |      |     |

## テーマ

アーツマネジメント入門 (1)

## 授業の目的 (獲得目標)

文化のなかのアーツの概要と特質を知る。アーツの現場に自分で行くことができる。楽しく、アーツプロジェクトに参加する。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション・・・話すこと、メモること、聞き取ること
- 第2回 文化とは・・・自然と文化
- 第3回 アーツとは・・・文化の分類、術の分類
- 第4回 実演芸術とは・・・音楽、演劇、ダンス・・・
- 第5回 視覚芸術とは・・・美術、工芸、映画・・・
- 第6回 学外授業1・・・かえっこバザール、5/30
- 第7回 学外授業2・・・子どもの文化フォーラム、6/20
- 第8回 学外授業3・・・舞台の照明、音響を体験する (学外講師)
- 第9回 学外授業4・・・舞台づくり、舞台美術に触れる (学外講師)
- 第10回 アーツマネジメントとは
- 第11回 アーツのいれものとは
- 第12回 演劇とは・・・芸術鑑賞 (DVD など)
- 第13回 ダンスとは・・・芸術鑑賞 (DVD など)
- 第14回 音楽とは・・・芸術鑑賞 (DVD など)
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。評価の対象とする可能性あり。授業として、数回、休日に学外にでるので、休日の予定を調整する必要がある。授業以外にも、アーツ鑑賞、アーツボランティア、アーツマネジメント・インターンシップを行ってもらうことが必須になるので、そういう学生を歓迎する。この内容の授業順序は行事予定、アーティストなどの事情で自由に入れ替わる。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (30) 参加度 (50) 備考 (記録として、ノート、ブログ、ツイッターなどを活用していく。)

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ < f >  |      |     |
| クラス   | f  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 竹山 清明  |      |     |

## テーマ

望ましい生活空間のあり方を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

使いやすく美しい建築やインテリアの計画・デザインや、その空間の中にある質の高い家具や生活用品などのデザインの魅力を学ぶ。そのようなものを形づくる専門家としての基礎教育である。

## 内 容

- 第1回 生活空間のあり方を歴史的に学ぶ「日本」
- 第2回 生活空間のあり方を歴史的に学ぶ「アジア」
- 第3回 生活空間のあり方を歴史的に学ぶ「西欧」
- 第4回 各自が興味を持つ家具や生活用品について「グループ調査」
- 第5回 各自が興味を持つ家具や生活用品について「グループ調査・発表」
- 第6回 各自が興味を持つ家具や生活用品について「グループ討議1」
- 第7回 各自が興味を持つ家具や生活用品について「グループ討議2」
- 第8回 各自が興味を持つ家具や生活用品について「グループ発表」
- 第9回 事例見学（学外授業）
- 第10回 各自が興味を持つインテリア・建築について「グループ調査」
- 第11回 各自が興味を持つインテリア・建築について「グループ調査・発表」
- 第12回 各自が興味を持つインテリア・建築について「グループ討議1」
- 第13回 各自が興味を持つインテリア・建築について「グループ討議2」
- 第14回 各自が興味を持つインテリア・建築について「グループ討議3」
- 第15回 各自が興味を持つインテリア・建築について「グループ発表」

## 授業以外での学習方法

様々な魅力的な生活空間の見学・調査や、それらが掲載されている写真資料などを眺め学ぶことを生活習慣にして欲しい。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ <g>  |      |     |
| クラス   | g  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 谷口 知司  |      |     |

## テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

## 授業の目的（獲得目標）

世界中で年間 10 億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う 21 世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という 2 つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。

## 内 容

- 第 1 回 「ビジネスとしての観光」概説
- 第 2 回 日本および世界の観光の現状について
- 第 3 回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて 1
- 第 4 回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて 2
- 第 5 回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて 3
- 第 6 回 ツアープランニングと観光地事前調査の方法
- 第 7 回 観光情報誌等の分析 1
- 第 8 回 観光情報誌等の分析 2
- 第 9 回 観光資源（国内・国外）について
- 第 10 回 温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識 1
- 第 11 回 温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識 2
- 第 12 回 世界の観光資源に関する知識 1
- 第 13 回 世界の観光資源に関する知識 2
- 第 14 回 文化情報のデジタル化、収集・加工・発信について
- 第 15 回 課題発表

## 授業以外での学習方法

グループに分けて、各種課題について調査・研究および発表を課すので、授業時間外の学習は必須である。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (40) 参加度 (20) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅲ <h>  |      |     |
| クラス   | h  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 西山 紀子  |      |     |

## テーマ

椅子のモダンデザインについて

## 授業の目的（獲得目標）

20 世紀にデザインされた椅子を通してインテリアデザインに対する理解を深め、客観的に分析・考察を行う力や、文章・図表にまとめる、言葉で話すなどの表現力を身につける。本学リエゾンセンターでは巨匠のデザインによるいすを数点所蔵している。その中から各自 1 点を選び、時代背景を踏まえてその意義を確認し、また今日における役割や影響を学び取る。

## 内 容

第 1 回 購読・討論 1 20 世紀以降のデザインの動向について学ぶため、配布資料の購読、討論を行う。(内容について感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどその根拠を明らかにしたうえで発表し、意見交換を行う。)

第 2 回 購読・討論 2

第 3 回 購読・討論 3

第 4 回 購読・討論 4

第 5 回 発表 1 第 1 回から第 4 回までのまとめと、それを踏まえていすの選定を発表する。発表では写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫する。

第 6 回 発表 2

第 7 回 調査・発表 1 選定したいいすについて各自調べ、発表する。意匠にとどまらず、機能や性能、他の家具との関連性、材料と製法、コストなど統合的に考えることとする。特に機能や性能については、実際のすわり心地や肌ざわりなどを調査し、分析・考察を行うものとする。

第 8 回 調査・発表 2

第 9 回 調査・発表 3

第 10 回 調査・発表 4

第 11 回 調査・発表 5

第 12 回 調査・発表 6

第 13 回 調査・発表 7

第 14 回 ショールームの見学 1

第 15 回 ショールームの見学 2

## 授業以外での学習方法

日常より身の回りの家具について関心を持ち、感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどをデータとして活用できるように記録、整理しておくこと。また建築・インテリア関連の図書や雑誌だけでなく、新聞を読む、テレビや映画を観る、講演会に参加するなど、広い視野を持って情報を得るように心がける。

---

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（20%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ〈a〉   |      |     |
| クラス   | a  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 今井 裕夫  |      |     |

## テーマ

「スペース」の研究

## 授業の目的（獲得目標）

「かたち」につづいて、空間(スペース)について凝視(じっと見つめること)を行う。空間の[質]をいくらか分類し、読み取り、空間と人間の関係性についてイメージすることにより、建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての視線・眼差しを獲得する。 内 容 日常的な環境からの空間の多様な魅力を空間と言葉を交わし獲得すること。撮影すること。空間の[質]を読み取り、人間の基本的所作とイメージを重ねることを行う。 ・写真によるチェックを行う。 ・写生または写真からのドローイングにより記憶素としての確

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 講義（取材方法、批評の参考事例）
- 第3回 講義（取材方法、批評の参考事例）
- 第4回 取材
- 第5回 発表・講評①
- 第6回 発表・講評①
- 第7回 発表・講評①
- 第8回 取材
- 第9回 発表・講評②
- 第10回 発表・講評②
- 第11回 発表・講評②
- 第12回 発表・講評③
- 第13回 発表・講評③
- 第14回 発表・講評③
- 第15回 ノート作成

## 授業以外での学習方法

つね日頃、カメラを持参すること。環境のすみずみに息づく空間に興味をもつこと。空間の[質]を問うこと。撮影すること。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (25) 参加度 (25) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ <b>  |      |     |
| クラス   | b  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 上原 恵美  |      |     |

## テーマ

都市的文化装置である文化施設のマネジメントに関する研究

## 授業の目的（獲得目標）

前期に引き続き、都市的文化装置としての図書館、美術館・博物館、劇場・ホールなどの意義とマネジメントの現状、課題について学ぶ

## 内 容

- 第1回 夏休みの課題の提出と報告
- 第2回 夏休み中の新聞スクラップの報告
- 第3回 教科書「新版 図書館の発見」第1章を読む。担当者が発表し討議をする。以下同じ
- 第4回 教科書第2章を読む
- 第5回 教科書第3章を読む
- 第6回 教科書第4章を読む
- 第7回 教科書第5章を読む
- 第8回 教科書第6章を読む
- 第9回 教科書第7章を読む
- 第10回 滋賀県立図書館を見学する
- 第11回 図書館見学についてのレポート作成し、報告する
- 第12回 劇場・ホールに関する文献資料を読んで、現状、課題を把握する
- 第13回 同上
- 第14回 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの見学とオペラ見学
- 第15回 びわ湖ホールに関するレポートの作成と報告、まとめ

## 授業以外での学習方法

前期に引き続き新聞を読んでスクラップし、新聞記事の目次を作る

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ <c>  |      |     |
| クラス   | c  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 織田 直文  |      |     |

## テーマ

人・まち・文化の面白さを見つけ、デザインする力を身につけよう。

## 授業の目的（獲得目標）

「まち」およびそれを形づくる「人」や「文化」の面白さを理解し、それらをより活かすためのデザイン力を身につける。グループ毎にデザインテーマを決め、作業計画を立て、調査研究を行い、成果をまとめる。デザインテーマは、都市環境デザイン学の範囲であれば、どのような内容でもかまわないが、例えば都市・地域・農村などの地域計画や建築、イベント企画、経済・社会・文化政策、まちづくり等についてのプランがある。なお、専門的な知識とプレゼンテーション能力を高めるために、各自が読んだ専門書の発表「私のお奨め専門書」を実施する。

## 内 容

- 第1回 後期のゼミの進め方および現地調査企画について
- 第2回 京都市内の現地調査
- 第3回 京都市内の現地調査
- 第4回 デザインとは何か（地域計画）について学ぶ。「私のお奨め専門書」の発表
- 第5回 デザインとは何か（ユニバーサルデザイン）について学ぶ
- 第6回 「私のお奨め専門書」の発表
- 第7回 デザインとは何か（政策）について学ぶ。「私のお奨め専門書」の発表
- 第8回 「私のお奨め専門書」の発表。グループ研究分けと自由討論（1）
- 第9回 「私のお奨め専門書」の発表。グループ別研究（1）
- 第10回 「私のお奨め専門書」の発表。グループ別討論（2）
- 第11回 「私のお奨め専門書」の発表。グループ別研究成果のとりまとめ（1）
- 第12回 「私のお奨め専門書」の発表。グループ別研究成果のとりまとめ（2）
- 第13回 グループ別研究の発表。
- 第14回 グループ別研究の発表。
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

身近な地域の行事に関心を持ち、できれば参加してみる。またそれらの体験を文章化するようにこころがける。

## 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）



## 2010 Syllabus

|       |  |     |    |
|-------|--|-----|----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ〈d〉   |     |    |
| クラス   | 配当回生   | 2回生 |    |
| 講義期間  | 後期   | 定員  | 25 |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |     |    |
| クラス指定 | 大学指定   |     |    |
| 担当者   | 河野 良平  |     |    |

## テーマ

建築・インテリア等の見学計画とその実施

## 授業の目的（獲得目標）

テーマに沿った建物見学に加え、各班内でしっかりと打合せし合理的でスムーズな見学計画をまとめることを目標とする。4、5人一班で5班とし（班長を1人選出）、各班一回ずつ見学計画を立てる。各班とも見学の予定表を責任持って作成し、事前にゼミで報告する。見学のテーマ・日程・時間・場所・予算・見学する建物についての説明等について全員で確認する。見学後のゼミでは問題点や改善点について班の全員が意見を述べること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス、班決め
- 第2回 見学計画1班発表
- 第3回 見学計画1班修正、2班発表
- 第4回 見学1班
- 第5回 見学1班反省、見学計画2班修正、3班発表
- 第6回 見学2班
- 第7回 見学2班反省、見学計画3班修正、4班発表
- 第8回 見学3班
- 第9回 見学3班反省、見学計画4班修正、5班発表
- 第10回 見学4
- 第11回 見学4班反省、見学5修正
- 第12回 見学5
- 第13回 5班反省、授業
- 第14回 建築に関する授業
- 第15回 授業のまとめ、来年度への展望

## 授業以外での学習方法

授業内で適宜指示します。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ <e>  |      |     |
| クラス   | e  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 小暮 宣雄  |      |     |

## テーマ

アーツマネジメント入門 (2)

## 授業の目的 (獲得目標)

アーツシーンを出来るだけ具体的に調査できるようになる。アーツの現場で仕事が少しでも出来るようになる。参加した活動を自分の言葉で発表できる。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 夏休みの体験報告1
- 第3回 夏休みの体験報告2
- 第4回 夏休みの体験報告3
- 第5回 視覚芸術の特質
- 第6回 美術を知ろう～ワークショップ体験～
- 第7回 工芸を知ろう
- 第8回 デザインを知ろう
- 第9回 映画とは・・非ハリウッド映画、ドキュメント映画
- 第10回 企画書づくりワークショップ1
- 第11回 企画書づくりワークショップ2
- 第12回 企画書づくりワークショップ3
- 第13回 実演芸術鑑賞 (学外授業または映像鑑賞)
- 第14回 視覚芸術鑑賞 (学外授業または映像鑑賞)
- 第15回 まとめ～アーツマネジメントと私たち

## 授業以外での学習方法

授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。なお、アーツ体験のさい、授業時間外の課題としてアーツマネージャーへのインタビューを行ってもらう予定にしているため、そういうアーツのプロの言葉が教科書ということになるかも知れない。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（20）授業中発表等（30）参加度（50）備考（夏休みにアーツ体験をしてみよう、その発表を行い、継続的にアーツシーンに関わってもらおう。学外授業については、他の授業などとの調整のため学内鑑賞に変える可能性あり。可能性としてだが、アーティストとの交流、アーツ・ワークショップ体験もあるかも知れない。この内容の授業順序はアーティストなどの事情で自由に入れ替わる。）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ < f >  |      |     |
| クラス   | f  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 竹山 清明  |      |     |

## テーマ

望ましい生活空間のつくり方を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

使いやすく美しい建築やインテリアの計画・デザインや、その空間の中にある質の高い家具や生活用品などのデザインの進め方を学ぶ。そのようなものを形づくる専門家としての基礎教育である。

## 内 容

- 第1回 各自が興味を持つ家具や生活用品で創作の参考にしたいもの「調査」
- 第2回 各自が興味を持つ家具や生活用品で創作の参考にしたいもの「調査・グループ討議」
- 第3回 各自が興味を持つ家具や生活用品で創作の参考にしたいもの「グループ討議・エスキース」
- 第4回 各自が興味を持つ家具や生活用品で創作の参考にしたいもの「グループ討議・エスキース」
- 第5回 各自が興味を持つ家具や生活用品で創作の参考にしたいもの「グループ発表」
- 第6回 各自が興味を持つ家具や生活用品で創作の参考にしたいもの「作図」
- 第7回 各自が興味を持つ家具や生活用品で創作の参考にしたいもの「発表・成果物提出」
- 第8回 事例見学（学外学習）
- 第9回 各自が興味を持つインテリアで創作の参考にしたいもの「調査」
- 第10回 各自が興味を持つインテリアで創作の参考にしたいもの「調査・グループ討議」
- 第11回 各自が興味を持つインテリアで創作の参考にしたいもの「グループ討議・エスキース」
- 第12回 各自が興味を持つインテリアで創作の参考にしたいもの「グループ討議・エスキース」
- 第13回 各自が興味を持つインテリアで創作の参考にしたいもの「グループ発表」
- 第14回 各自が興味を持つインテリアで創作の参考にしたいもの「グループ制作」
- 第15回 各自が興味を持つインテリアで創作の参考にしたいもの「グループ発表・成果物提出」

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ〈g〉   |      |     |
| クラス   | d  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 谷口 知司  |      |     |

## テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

## 授業の目的（獲得目標）

世界中で年間 10 億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う 21 世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という 2 つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。特に基礎演習Ⅳ（後期）では、「文化現象としての観光」を中心に扱います。

## 内 容

- 第 1 回 文化と何か？
- 第 2 回 文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について
- 第 3 回 観光人類学の視点
- 第 4 回 ニューツーリズムについて 1 文化観光、グリーンツーリズム、エコツーリズム等
- 第 5 回 ニューツーリズムについて 2
- 第 6 回 ニューツーリズムについて 3
- 第 7 回 京都町中アーカイブ事前研究 1
- 第 8 回 京都町中アーカイブ事前研究 2
- 第 9 回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化 1
- 第 10 回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化 2
- 第 11 回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化 3
- 第 12 回 世界遺産現地調査事前研究 1
- 第 13 回 世界遺産現地調査事前研究 2
- 第 14 回 世界遺産現地調査事前研究 3
- 第 15 回 課題発表

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (40) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 基礎演習Ⅳ〈h〉   |      |     |
| クラス   | h  | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習ⅠまたはⅡのいずれかを修得し、かつ、(2) 1回生時の全必修科目 18 単位中 10 単位以上を修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 大学指定   |      |     |
| 担当者   | 西山 紀子  |      |     |

## テーマ

モダンデザインとインテリアコーディネートについて

## 授業の目的（獲得目標）

インテリアコーディネートを通してインテリアデザインに対する理解を深め、客観的に分析・考察を行う力や、文章・図面にまとめる、言葉で話すなどの表現力を身につける。基礎演習Ⅲで学んだことをもとに、モダンデザインを活用して各部位のデザイン、カラーコーディネーション、家具や照明器具などのエレメントの選択を行い、インテリアコーディネートを学び取る。

## 内 容

第1回 インテリアスタイルについて

第2回 インテリアスタイル演習1 写真からインテリアスタイルを分析する。各自関心を持ったインテリアの写真を1枚持参し、それぞれについて討論を行い、インテリアスタイルを読み取り、要素を分析する。(感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどその根拠を明らかにしたうえで発表し、意見交換を行う。)

第3回 インテリアスタイル演習2

第4回 インテリアスタイル演習3

第5回 インテリアコーディネート演習1 各自が好むインテリアスタイルをもとにコンセプトを決め、シミュレーションソフトなどを用いてインテリアコーディネートを考える。

第6回 インテリアコーディネート演習2

第7回 インテリアコーディネート演習3

第8回 インテリアコーディネート演習4

第9回 インテリアコーディネート演習5

第10回 インテリアコーディネート演習6

第11回 インテリアコーディネート演習7

第12回 発表1 発表では図面、スケッチ、写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫する。

第13回 発表2

第14回 ショールームの見学1

第15回 ショールームの見学2

## 授業以外での学習方法

日常より身の回りのインテリアについて関心を持ち、感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどをデータとして活用できるように記録、整理しておくこと。また建築・インテリア関連の図書や雑誌だけでなく、



新聞を読む、テレビや映画を観る、講演会に参加するなど、広い視野を持って情報を得るように心がける。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（20%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

科目名 建築計画 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹山 清明

### テーマ

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

### 授業の目的（獲得目標）

居住者の生活要求を大切にした住宅設計・計画のあり方を学ぶ。平均的な家族像を中心に、若年者や高齢者も含め多様な生活要求を探り、豊かな家庭生活・地域生活の高いレベルでの実現をサポートする平面計画・空間計画・環境計画・構造計画・材料工法などの有るべき姿を学び考える

### 内 容

第1回 ガイダンス、建築計画の役割

第2回 住活様式と住宅の変化

第3回 人間の基本動作 1

第4回 人間の基本動作 2

第5回 戸建住宅の配置計画

第6回 戸建住宅の平面計画

第7回 戸建住宅の各室計画

第8回 戸建住宅の基本計画 1

第9回 戸建住宅の基本計画 2

第10回 団地計画

第11回 集合住宅の形式と配置計画

第12回 集合住宅の平面計画

第13回 集合住宅の住戸計画 1

第14回 集合住宅の住戸計画 2

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

住宅の計画やデザインを学ぶ上で、人々の日常生活のあり方を学ぶことは重要である。また質の高い空間イメージの理解や把握も最も大きい役割を果たす。建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して、様々な生活のあり方や課題、魅力的な空間イメージや美しいデザインを常日頃から学ぶことは重要である。

### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (50%) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | 建築計画Ⅱ    |
| クラス   | 配当回生 2回生 |
| 講義期間  | 後期 定員    |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   | 竹山 清明    |

### テーマ

居住施設以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設や劇場等について、具体的な事例を挙げながら検証し、簡単な基本計画を行うことで各施設の機能、動線や配置計画についての理解を深める。

### 授業の目的（獲得目標）

住居以外の建築についての計画やデザインについて学ぶ。現代建築の基本である20世紀初頭に成立したモダニズムの建築計画・デザインの歴史的社会的な流れを、事例を俯瞰しながら、その限界と課題について学ぶ。そしてこれからの建築計画・デザインの発展方向を考える。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス、建築計画における共通事項
- 第2回 学校建築の歴史、学校における教育システムと各室計画
- 第3回 小学校の計画、計画事例
- 第4回 図書館の歴史、規模類型、全体計画、各室計画
- 第5回 図書館の計画、計画事例
- 第6回 美術館の歴史、全体計画、各室計画
- 第7回 美術館の計画、計画事例
- 第8回 医療福祉施設の役割、部門構成、各室計画
- 第9回 医療福祉施設の計画、計画事例
- 第10回 劇場の歴史、劇場空間の機能的特性、全体計画
- 第11回 演劇・音楽の場、舞台と客席の設計計画と寸法
- 第12回 劇場、音楽ホールの計画、計画事例
- 第13回 事務所の全体計画、平面計画、モジュール計画
- 第14回 事務所の計画、計画事例
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

建築の計画やデザインを学ぶ上で、質の高い空間イメージの理解や把握が最も大きい役割を果たす。建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して魅力的な空間イメージや美しいデザインを常日頃から学ぶことは重要である。また国内外の旅行の機会に建築や街並みの優れた事例を実体験することも進めたい。

### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 (50) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 建築・インテリア設計演習Ⅲ〈a〉     |      |     |
| クラス   | a                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 60  |
| 履修条件  | 建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 竹山 清明                |      |     |

## テーマ

木造戸建て住宅の建築計画とデザインを学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソノメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

## 内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント
- 第2回 配置計画案の作成
- 第3回 平面計画案の作成
- 第4回 立面・断面計画案の作成
- 第5回 架構計画案の作成
- 第6回 中間発表
- 第7回 配置図・平面図の作成1
- 第8回 平面図の作成2
- 第9回 立面図の作成
- 第10回 断面図の作成
- 第11回 展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成
- 第12回 模型1
- 第13回 模型2
- 第14回 模型3
- 第15回 講評とまとめ

## 授業以外での学習方法

建築の計画やデザインを学ぶ上で、質の高い空間イメージの理解や把握が最も大きい役割を果たす。建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して魅力的な空間イメージや美しいデザインを常日頃から学ぶことは重要である。また国内外の旅行の機会に建築や街並みの優れた事例を実体験することも進めたい。

## 教科書

**成績評価**

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (70%) 授業中発表等 (30%) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 建築・インテリア設計演習Ⅲ <b>    |      |     |
| クラス   | b                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 前期                   | 定員   | 60  |
| 履修条件  | 建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 山本 麻子                |      |     |

## テーマ

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソノメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

## 授業の目的（獲得目標）

スケールが小さく、特定の人によって使われる住宅は 満たすべき要件が比較的少ないため さまざまなテーマを追求することが容易である。ここではその利点を最大にいかして テーマを表現する空間とは具体的にどのようなものかについて 試行錯誤してほしい。

## 内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント1
- 第2回 課題主旨説明、設計のポイント2
- 第3回 配置計画案の作成1
- 第4回 配置計画案の作成2
- 第5回 平面計画案の作成1
- 第6回 平面計画案の作成2
- 第7回 立面・断面計画案の作成1
- 第8回 立面・断面計画案の作成2
- 第9回 架構計画案の作成1
- 第10回 架構計画案の作成2
- 第11回 中間発表1
- 第12回 中間発表2
- 第13回 配置図・平面図の作成1
- 第14回 配置図・平面図の作成2
- 第15回 平面図の作成3
- 第16回 平面図の作成4
- 第17回 立面図の作成1
- 第18回 立面図の作成2
- 第19回 断面図の作成1
- 第20回 断面図の作成2
- 第21回 展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成1



第 22 回 展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成 2

第 23 回 模型 1

第 24 回 模型 2

第 25 回 模型 3

第 26 回 模型 4

第 27 回 模型 5

第 28 回 模型 6

第 29 回 講評とまとめ 1

第 30 回 講評とまとめ 2

---

### **授業以外での学習方法**

まず、毎月の「住宅特集」に目を通し、気にかかった作品の写真と図面をコピーする。何度も写真と図面をみくらべる。

---

### **教科書**

### **参考書**

---

### **成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（時間をかける課題となるため、当初の案をいかにねばりよく発展させたかという点を重視したい。）

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 建築・インテリア設計演習Ⅳ〈a〉     |      |     |
| クラス   | a                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 60  |
| 履修条件  | 建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 今井 裕夫                |      |     |

**テーマ**

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみだし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

**授業の目的（獲得目標）**

建築士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーターなどの資格の実技試験に対応した設計力を得ること。

**内 容**

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント
- 第2回 配置計画案の作成
- 第3回 平面計画案の作成
- 第4回 立面・断面計画案の作成
- 第5回 構造計画案の作成1
- 第6回 構造計画案の作成2
- 第7回 建築基準法の確認
- 第8回 中間発表
- 第9回 配置図・平面図の作成1
- 第10回 平面図の作成2
- 第11回 立面図の作成
- 第12回 断面図の作成
- 第13回 模型1
- 第14回 模型2
- 第15回 講評とまとめ

**授業以外での学習方法**

課題で想定された環境と内容をふかく読み取ること。

**教科書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                      |      |     |
|-------|----------------------|------|-----|
| 科目名   | 建築・インテリア設計演習Ⅳ〈b〉     |      |     |
| クラス   | b                    | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                   | 定員   | 60  |
| 履修条件  | 建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み |      |     |
| クラス指定 |                      |      |     |
| 担当者   | 山本 麻子                |      |     |

## テーマ

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみだし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

## 授業の目的（獲得目標）

専用住宅が特定の使い手を想定するのに対し、不特定多数の人が使う店舗併用住宅では、より空間と都市との関係が重要になる。学外授業や各自のこれまでの買物経験をいかし、街に対して魅力的な店舗、そして働きやすさと住みやすさを備えた住宅といった空間と空間の関係について、考えてみてほしい。

## 内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント1
- 第2回 課題主旨説明、設計のポイント2
- 第3回 配置計画案の作成1
- 第4回 配置計画案の作成2
- 第5回 平面計画案の作成1
- 第6回 平面計画案の作成2
- 第7回 立面・断面計画案の作成1
- 第8回 立面・断面計画案の作成2
- 第9回 構造計画案の作成1
- 第10回 構造計画案の作成2
- 第11回 構造計画案の作成3
- 第12回 構造計画案の作成4
- 第13回 建築基準法の確認1
- 第14回 建築基準法の確認2
- 第15回 中間発表1
- 第16回 中間発表2
- 第17回 配置図・平面図の作成1
- 第18回 配置図・平面図の作成2
- 第19回 平面図の作成3
- 第20回 平面図の作成4
- 第21回 立面図の作成1

- 第 22 回 立面図の作成 2
  - 第 23 回 断面図の作成 1
  - 第 24 回 断面図の作成 2
  - 第 25 回 模型 1
  - 第 26 回 模型 2
  - 第 27 回 模型 3
  - 第 28 回 模型 4
  - 第 29 回 講評とまとめ 1
  - 第 30 回 講評とまとめ 2
- 

#### **授業以外での学習方法**

心ひかれる店舗について、空間の幅、高さ、奥行きをそれとなくはかってみる。仕上げの素材、商品の並べ方など具体的にスケッチ・メモしておく。

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（体験に基づいた説得力のある提案を評価する）

---

科目名 構造力学Ⅱ

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件 構造力学Ⅰを修得済み

---

クラス指定

---

担当者 須田 達

---

### テーマ

構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。特に、不静定構造物に外力が働いた時に、構造物の各部分に生じる力、力の流れについて概説する。

---

### 授業の目的（獲得目標）

静定構造骨組みの変形が計算できること 不静定構造骨組みの応力計算ができること。

---

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 柱の座屈1、短柱
  - 第3回 柱の座屈2、長柱
  - 第4回 木柱と鋼柱の構造計算方法
  - 第5回 モールの定理1、単純はり1
  - 第6回 モールの定理1、単純はり2
  - 第7回 モールの定理2、方持はり1
  - 第8回 モールの定理2、方持はり2
  - 第9回 不静定ばりの解析1
  - 第10回 不静定ばりの解析2
  - 第11回 不静定ばりの解析3
  - 第12回 不静定ラーメンについて
  - 第13回 不静定ラーメンの解析1
  - 第14回 不静定ラーメンの解析2
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

参考書をつかって予習、復習をおこなうこと。自分で紙に図を書いて、解いてみること。構造力学Ⅰを受講していることが望ましい。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (評価は課題 60%、テスト 40%で評価します。ただしテストの評価が 0 の場合は不可とします。 課題は基本的に毎週授業の終わりに実施します。 テストは 15 週目に実施します。)

科目名 建築構造

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 福田 浩明

### テーマ

建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。

### 授業の目的（獲得目標）

2級建築士レベルの問題の理解と解答能力を身につける

### 内 容

- 第1回 ガイダンス、建築構造と倫理
- 第2回 地盤特性について
- 第3回 基礎について、免震構造
- 第4回 木質構造 1
- 第5回 木質構造 2
- 第6回 コンクリートブロック構造、組石造
- 第7回 壁式鉄筋コンクリート構造
- 第8回 鉄筋コンクリート構造 1
- 第9回 鉄筋コンクリート構造 2
- 第10回 鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造
- 第11回 建築の各部構造 1、屋根
- 第12回 建築の各部構造 2、床と壁
- 第13回 建築の各部構造 3、天井と階段
- 第14回 建築の各部構造 4、造作と開口部
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（人数、そ



の他の状況で評価方法が変わることもありますが、原則出席をしてのノートの記録を重要視します。100点満点のペーパーテスト（ノートの持ち込みも可とする場合もあり）と一緒に成績の評価とします。）

科目名 建築材料

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐々木 厚司

### テーマ

建築に用いられる主な材料の基本的な性質について理解する。木材、コンクリート、鉄といった構造材と木質系材料、石、ガラス、金属、プラスチック、各種ボード類、左官材、塗料などの仕上材について材料ごとに特徴、施工法や注意点などサンプルや事例を示しながら具体的に説明していく。

### 授業の目的（獲得目標）

1. 建築に用いられる主な材料の基本知識の習得 2. 実物に近い知識を得ながら、材料を基本とする空間・環境づくりの総合的視点を養う 3. 以上を通じて空間・環境づくりにおける実践としての提案力の獲得をめざす

### 内 容

第1回 ガイダンス／建築の設計・施工のプロセス，施工技術と倫理，建築構造の概要

第2回 木構造(1)

第3回 木構造(2)

第4回 木構造(3)

第5回 鉄筋コンクリート構造(1)

第6回 鉄筋コンクリート構造(2)

第7回 鉄骨鉄筋コンクリート構造・組積造

第8回 プレストレストコンクリート構造・特殊コンクリート構造他

第9回 鉄骨構造(1)

第10回 鉄骨構造(2)

第11回 建築の各部構造と仕上げ. 屋根

第12回 建築の各部構造と仕上げ. 床と壁

第13回 建築の各部構造と仕上げ. 天井と階段

第14回 建築の各部構造と仕上げ. 造作と開口部

第15回 試験

### 授業以外での学習方法

講義の流れで適宜実施する見学、視聴などを通じて材料に注目した建築都市環境実現例を十分に参照すること。

教科書：講義時配布の資料による。参考書：講義中に適宜指示する。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（40）小テスト（）授業中課題（30）授業中発表等（）参加度（30）備考（出席状況及び中間時点での報告レポートを勘案の上、期末テストによる評価とする）

科目名 CAD 演習 I

クラス 配当回生 2 回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 山本 麻子

### テーマ

平面図・立面図・断面図といった建築図面の作成ルールを理解し、建築製図用の CAD ソフトを使用してそれら建築図面を制作する。線の種類・太さ・濃淡といった基本的な操作設定から、既存データの再利用や画像の貼付け、他のソフトとのデータの互換性などまで、広くプレゼンテーションに必要な知識を身に付ける。

### 授業の目的（獲得目標）

古今の名建築のさまざまな図面のトレース、立体化を通じて、2次元の図面から3次元空間をよみとれるようになる。

### 内 容

- 第1回 建築図面の作成 平面図
- 第2回 建築図面の作成 立面図
- 第3回 建築図面の作成 展開図
- 第4回 三次元 CAD とは コマンド
- 第5回 3D モデリング 1
- 第6回 3D モデリング 2
- 第7回 3D レンダリング
- 第8回 サーフェスモデル 課題作図
- 第9回 3D インテリアの作図 1
- 第10回 3D インテリアの作図 2
- 第11回 3D インテリアの作図 3
- 第12回 3D 建築物の作図 1
- 第13回 3D 建築物の作図 2
- 第14回 3D 建築物の作図 3
- 第15回 総括

### 授業以外での学習方法

雑誌や本を見るときに、建築の写真と図面をよく見比べてみよう。これを続けることも、3次元の空間を2次元の図面から読み取るよいトレーニングになる。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（75%）授業中発表等（5%）参加度（20%）備考（成績評価は提出された演習課題の採点を中心とするので、演習課題提出は必須。）

---

科目名 CAD 演習 I <b>

---

クラス b

配当回生 2回生

---

講義期間 前期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 竹口 健太郎

---

### テーマ

平面図・立面図・断面図といった建築図面の作成ルールを理解し、建築製図用の CAD ソフトを使用してそれら建築図面を制作する。線の種類・太さ・濃淡といった基本的な操作設定から、既存データの再利用や画像の貼付け、他のソフトとのデータの互換性などまで、広くプレゼンテーションに必要な知識を身に付ける。

---

### 授業の目的（獲得目標）

古今の名建築のさまざまな図面のトレース、立体化を通じて、2次元の図面から3次元空間をよみとれるようになる。

---

### 内 容

- 第1回 建築図面の作成 平面図
  - 第2回 建築図面の作成 立面図
  - 第3回 建築図面の作成 展開図
  - 第4回 三次元 CAD とは コマンド
  - 第5回 3D モデリング 1
  - 第6回 3D モデリング 2
  - 第7回 3D レンダリング
  - 第8回 サーフェスモデル 課題作図
  - 第9回 3D インテリアの作図 1
  - 第10回 3D インテリアの作図 2
  - 第11回 3D インテリアの作図 3
  - 第12回 3D 建築物の作図 1
  - 第13回 3D 建築物の作図 2
  - 第14回 3D 建築物の作図 3
  - 第15回 総括
- 

### 授業以外での学習方法

雑誌や本を見るときに、建築の写真と図面をよく見比べてみよう。これを続けることも、3次元の空間を2次元の図面から読み取るよいトレーニングになる。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（75%）授業中発表等（5%）参加度（20%）備考（成績評価は提出された演習課題の採点を中心とするので、演習課題提出は必須。）

## 2010 Syllabus

|       |                |      |    |
|-------|----------------|------|----|
| 科目名   | CAD 演習 II      |      |    |
| クラス   | 配当回生           | 2 回生 |    |
| 講義期間  | 後期             | 定員   | 40 |
| 履修条件  | CAD 演習 I を修得済み |      |    |
| クラス指定 |                |      |    |
| 担当者   | 山本 麻子          |      |    |

## テーマ

コンピューター・グラフィックスによる 3 次元図面の制作を行う。モデリングの基本操作の習得から始め、屋根・壁・窓など複雑な形態を制作する。レンダリングに関しては、テクスチャーの編集やマッピング、照明の位置や背景の挿入などを行いプレゼンテーションに応用する。

## 授業の目的（獲得目標）

空間デザインの重要な要素である光と影。3DCAD の特性をいかし、小空間の設計演習をくり返すことで、その性質についてまなぶ。学外授業も予定している。

## 内 容

- 第 1 回 オリエンテーション 2 次元 CAD の基本操作
- 第 2 回 3 次元 CAD の基本操作 (1)
- 第 3 回 3 次元 CAD の基本操作 (2)
- 第 4 回 3 次元 CAD の基本操作 (3) (課題提出)
- 第 5 回 3 次元 CAD の応用操作／スカイハウスの作成 (1)
- 第 6 回 3 次元 CAD の応用操作／スカイハウスの作成 (2)
- 第 7 回 3 次元 CAD の応用操作／スカイハウスの作成 (3) (課題提出)
- 第 8 回 自由課題の作成 (課題提出)
- 第 9 回 自由課題の作成 (課題提出)
- 第 10 回 立体の数値表現
- 第 11 回 立体の内部表現
- 第 12 回 表現法と種類
- 第 13 回 立体の演算
- 第 14 回 曲面処理
- 第 15 回 作品制作

## 授業以外での学習方法

3DCAD は空間デザインをエスキスするための強い味方だが、模型をたくさんつくることも 3 次元のセンスを磨く重要なトレーニングとなる。

## 教科書

## 参考書



---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（75%）授業中発表等（5%）参加度（20%）備考（成績評価は提出された演習課題の採点を中心とするので、演習課題提出は必須。）

## 2010 Syllabus

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | CAD 演習Ⅱ <b>  |      |     |
| クラス   | b            | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   | 40  |
| 履修条件  | CAD 演習Ⅰを修得済み |      |     |
| クラス指定 |              |      |     |
| 担当者   | 竹口 健太郎       |      |     |

## テーマ

コンピューター・グラフィックスによる3次元図面の制作を行う。モデリングの基本操作の習得から始め、屋根・壁・窓など複雑な形態を制作する。レンダリングに関しては、テクスチャーの編集やマッピング、照明の位置や背景の挿入などを行いプレゼンテーションに応用する。

## 授業の目的（獲得目標）

空間デザインの重要な要素である光と影。3DCADの特性をいかし、小空間の設計演習をくり返すことで、その性質についてまなぶ。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション 2次元CADの基本操作
- 第2回 3次元CADの基本操作（1）
- 第3回 3次元CADの基本操作（2）
- 第4回 3次元CADの基本操作（3）（課題提出）
- 第5回 3次元CADの応用操作／スカイハウスの作成（1）
- 第6回 3次元CADの応用操作／スカイハウスの作成（2）
- 第7回 3次元CADの応用操作／スカイハウスの作成（3）（課題提出）
- 第8回 自由課題の作成（課題提出）
- 第9回 自由課題の作成（課題提出）
- 第10回 立体の数値表現
- 第11回 立体の内部表現
- 第12回 表現法と種類
- 第13回 立体の演算
- 第14回 曲面処理
- 第15回 作品制作

## 授業以外での学習方法

3DCADは空間デザインをエスキスするための強い味方だが、模型をたくさんつくることも3次元のセンスを磨く重要なトレーニングとなる。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（75%）授業中発表等（5%）参加度（20%）備考（成績評価は提出された演習課題の採点を中心とするので、演習課題提出は必須。）

---

科目名 都市建築文化史 I

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 河野 良平

---

### テーマ

主に西洋の建築が都市や人々の生活の中でどのような役割を果たしてきたかについて事例を挙げながら詳しく検証していく。建築物だけでなく、小説、絵画などの芸術や映画の舞台など、それらにまつわる様々な事象から幅広く都市・建築と文化の関係を概観する。

---

### 授業の目的（獲得目標）

人間の文化水準の向上と共に建築や都市が発生・発展してきた。西洋の文化において建築や都市がどのように現われているかを、映画を中心とした映像、絵画や彫刻（インスタレーション）といった美術作品、ポスターや写真を利用したグラフィック・デザイン、小説等に現われる文学空間等の事例を確認していく。そこから、都市や建築の見方、表現の意図や方法の読み取り方を学び、その面白さに気付いて欲しい。

---

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 教会建築
  - 第3回 「ローマの休日」とローマ
  - 第4回 新古典主義と建築家
  - 第5回 近代建築
  - 第6回 摩天楼
  - 第7回 パリと芸術
  - 第8回 移動する建築
  - 第9回 近代へのアンチテーゼ
  - 第10回 村上春樹の小説空間
  - 第11回 アートと都市・建築
  - 第12回 都市と郊外
  - 第13回 アメリカの西海岸
  - 第14回 未来都市
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

普段から建築・デザイン・アート関係の図書、雑誌、テレビやインターネットを利用して情報を得よう心掛ける。

---

### 教科書

**成績評価**

試験 (40) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 ( )

|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | 都市建築文化史Ⅱ |
| クラス   | 配当回生 2回生 |
| 講義期間  | 前期 定員    |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   | 石井 和浩    |

### テーマ

我が国では、古代においては中国文明に学び都城を建設し、中世においては町衆と武将たちが取り組んだ都市づくりが進み、近世においては、幕藩体制のもとで、城下町と在郷町を成立させてきた都市づくりの歴史的展開をたどり、日本固有の都市・建築の特性を理解することができることを目指す。

### 授業の目的（獲得目標）

住まい（建築）が人を育て、「まち」をつくり、「まち」が「ひと」を育てる。このような事象を日本の都市建築史から検証することによって、冷静な判断力を養い、これからの「生き方」の動機付となる。日本の社会に影響を与えた「まち」「ひと」「建築」を図表資料・映像やエピソードを交えて考察する。

### 内 容

- 第1回 都市の誕生と建築
- 第2回 中国の都城制
- 第3回 日本的「都城」のなりたちと日本的「都城」の特性
- 第4回 「都城」制の変容としての平安京
- 第5回 古代における建築文化
- 第6回 中世・町衆の都市
- 第7回 民衆の町づくりとしての寺内町
- 第8回 戦国武将の町づくり
- 第9回 中世・戦国期の建築文化
- 第10回 城下町の成立と構成
- 第11回 幕藩体制と都市
- 第12回 在郷町の展開と城下町の変容
- 第13回 近世の建築文化
- 第14回 近代都市・近代的統一国家の構想
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

図書館収蔵の関連書籍や出来るだけ実物を事前に見学すること。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 文化産業論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

文化産業論の展開と到達点

### 授業の目的（獲得目標）

獲得目標：文化産業論の生成と発展の過程を検証しつつ現代の到達点を確認する 文化産業を媒介に文化と経済の相互関係の重要性の認識が深まり、先端産業や戦略産業としての位置づけが明確になってきていることを理解する。 内容：以下の順番で講義する

### 内 容

- 第1回 文化産業の定義
- 第2回 スロスビー：文化産業三層同心円モデル
- 第3回 スロスビー：文化資本(と社会発展)
- 第4回 スロスビー：文化価値と経済価値
- 第5回 スロスビー：文化産業政策
- 第6回 スロスビー：創造性の経済学
- 第7回 中間のまとめと試験
- 第8回 トフラー：文化の消費者
- 第9回 トフラー：3極構造
- 第10回 トフラー：文化の爆発・民主化
- 第11回 池上惇：文化の社会的循環と文化産業の3層構造
- 第12回 アドルノ：大衆欺瞞の手段としての文化産業
- 第13回 DCMSと創造産業
- 第14回 デジタル化と著作権
- 第15回 まとめと試験

### 授業以外での学習方法

文化産業の重要性を経済、社会、政治、そして生活の側面から把握するように、幅広い関心をもって参加してほしい。

教科書

参考書



## 成績評価

試験（50）小テスト（50）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 都市アメニティ論

クラス

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 都市景観論

クラス Z

配当回生 2回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

都市の空間、社会、文化をデザインする。

授業の目的（獲得目標）

快適で美しく、活力に満ちた文化都市を創る思想と技術を獲得する。地方における地域課題を類型化し、主に実践例をもとに、その地域の空間、社会、文化のデザイン手法を解説していく。

内 容

- 第1回 講義の進め方、「都市デザイン」の概念について
- 第2回 文化政策と臨地まちづくりによる地域活性化
- 第3回 コンパクトシティ論と中心市街地活性化の課題と手法
- 第4回 歴史的商店街の意義と活性化方策
- 第5回 まちづくりにおける「溜まり場」論
- 第6回 伝統的な祭りの保存と活用
- 第7回 伝統産業、産地の活性化
- 第8回 文化施設とまちづくり
- 第9回 文化観光とまちづくり
- 第10回 キャラクター活用によるまちづくり
- 第11回 地域づくりコーディネーター論
- 第12回 地域イベントの意義と技術
- 第13回 地域イベント実例の現地調査<1>
- 第14回 地域イベント実例の現地調査<2>
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

様々な都市に出かけ、その都市の長短を観察し、記録をとるよう努める

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 観光文化空間論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光地理ならびに観光文化の空間配置について

授業の目的（獲得目標）

観光地理についての包括的理解と、観光対象としての文化所産の空間配置についての知識を獲得することを目的とする（講演会予定）。

内 容

第1回 日本の観光地理 1

第2回 日本の観光地理 2

第3回 日本の観光地理 3

第4回 日本の観光地理 4

第5回 日本の観光地理 5

第6回 世界の観光地理 1

第7回 世界の観光地理 2

第8回 世界の観光地理 3

第9回 世界の観光地理 4

第10回 世界の観光地理 5

第11回 観光対象としての文化所産 1

第12回 観光対象としての文化所産 1

第13回 観光対象としての文化所産 1

第14回 文化所産の空間配置 1

第15回 文化所産の空間配置 2

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（30）小テスト（30）授業中課題（20）授業中発表等（10）参加度（10）備考（）

科目名 観光ビジネス論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報やメディアについて学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報やメディアがかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

内 容

- 第1回 観光情報とは
- 第2回 観光情報とメディア
- 第3回 観光ビジネスとメディア活用について①
- 第4回 観光ビジネスとメディア活用について②
- 第5回 観光ビジネスとメディア活用について③
- 第6回 いろいろな観光情報メディア
- 第7回 観光情報誌を分析する①
- 第8回 観光情報誌を分析する②
- 第9回 観光情報誌を分析する③
- 第10回 観光情報誌を分析する④
- 第11回 観光関連のWebサイトを分析する①
- 第12回 観光関連のWebサイトを分析する②
- 第13回 観光関連のWebサイトを分析する③
- 第14回 観光関連のWebサイトを分析する④
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業時間内で課題発表を求めるので、自宅学習が必要になる。

教科書

参考書

成績評価

試験（20）小テスト（0）授業中課題（30）授業中発表等（30）参加度（20）備考（）

---

科目名 観光情報論

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 谷口 知司

---

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報やメディアについて学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報やメディアがかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

---

内 容

- 第1回 観光情報とは
  - 第2回 観光情報とメディア
  - 第3回 観光ビジネスとメディア活用について①
  - 第4回 観光ビジネスとメディア活用について②
  - 第5回 観光ビジネスとメディア活用について③
  - 第6回 いろいろな観光情報メディア
  - 第7回 観光情報誌を分析する①
  - 第8回 観光情報誌を分析する②
  - 第9回 観光情報誌を分析する③
  - 第10回 観光情報誌を分析する④
  - 第11回 観光関連のWebサイトを分析する①
  - 第12回 観光関連のWebサイトを分析する②
  - 第13回 観光関連のWebサイトを分析する③
  - 第14回 観光関連のWebサイトを分析する④
  - 第15回 まとめ
- 

授業以外での学習方法

授業時間内で課題発表を求めるので、自宅学習が必要になる。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（20）小テスト（0）授業中課題（30）授業中発表等（30）参加度（20）備考（）

科目名 京都の歴史と文化

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

京都古鐘めぐり

### 授業の目的（獲得目標）

いま京都にある古鐘について、最新の研究成果をもとに、その歴史を学習し、それらの梵鐘が、日本の歴史の証人であることを理解する。

### 内 容

- 第1回 坪井良平の梵鐘研究（銘文と実測図）
- 第2回 梵鐘作り（実物観察・鑄造遺跡・民俗）
- 第3回 妙心寺鐘（最古の梵鐘・音は黄鐘調）
- 第4回 神護寺鐘（雄壮優雅な陽鑄銘文の鐘）
- 第5回 平等院鐘（阿弥陀堂に合う華麗な鐘）
- 第6回 学外授業 宇治平等院
- 第7回 笠置寺鐘（中国鐘をまねた重源の鐘）
- 第8回 広隆寺鐘（京都白河で鑄造した鉄鐘）
- 第9回 安祥寺鐘（河内鑄物師の典型的作品）
- 第10回 清水寺鐘（三条釜座の鐘の最古作品）
- 第11回 春光院鐘（南蛮寺 IHS 1577 銘洋鐘）
- 第12回 方広寺鐘（銘文の因縁豊臣滅亡の鐘）
- 第13回 学外授業 東山知恩院
- 第14回 中国梵鐘（日本鐘の淵源と鑄鐘技術）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

京都の寺院や神社をたずねた時には梵鐘を鑑賞し、ひととき功德を積んで仏門へと誘われてほしい

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（65%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（15%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 観光ビジネス実務演習 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 観光ビジネス実務演習Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 鳥羽 都子・長谷川 千廣

テーマ

《鳥羽 都子》 観光ビジネスに関わる人材として、望まれる能力を養う。 《長谷川 千廣》 ツーリズム産業の中核としての旅行業の現状と課題の理解

授業の目的（獲得目標）

《鳥羽 都子》 観光ビジネスには、「知識・技能」と「人間的資質」の両方が必要である。この授業では、観光ビジネスの現場で想定される実務的課題を通し、ビジネス能力を磨く。 《長谷川 千廣》 旅行業と運輸機関や宿泊施設等のサプライヤーとの関係の変化や、一般消費者とのビジネスの変化を学び、旅行業の課題を理解する。

内 容

第1回 クレーム対応の原理・原則、説得技法・交渉術 《鳥羽 都子》

第2回 ツアーコンダクター等におけるトラブルのケーススタディ 《鳥羽 都子》

第3回 受講者自らのクレーム事例を案件としたロールプレイング 《鳥羽 都子》

第4回 企画とは何か 講師がイベントプロモーター・イベントプランナー・ツアープランナーとして企画した事例の紹介 《鳥羽 都子》

第5回 観光振興を目的としたイベントまたはツアーの企画 《鳥羽 都子》

第6回 プレゼンテーションとフィードバック 《鳥羽 都子》

第7回 観光ビジネスにおける企画力の重要性・まとめ 《鳥羽 都子》

第8回 旅行業の変遷と現状 《長谷川 千廣》

第9回 手配旅行と企画旅行の違い 《長谷川 千廣》

第10回 パッケージツアーの企画から実施まで 《長谷川 千廣》

第11回 旅行会社と宿泊施設（旅館）とのビジネス 《長谷川 千廣》

第12回 旅行会社と航空会社（国内線）とのビジネス 《長谷川 千廣》

第13回 旅行会社と観光協会等とのビジネス 《長谷川 千廣》

第14回 旅行会社と一般消費者とのビジネス 《長谷川 千廣》

第15回 苦情から見る旅行における顧客満足 《長谷川 千廣》

授業以外での学習方法

《鳥羽 都子》 《長谷川 千廣》 旅行に関するパンフレットや新聞掲載を見たり、旅行サイトを見る

教科書

書籍1 : 《鳥羽 都子》 『まちづくりと共感、協育としての観光—地域に学ぶ文化政策

著者1 : 井口 貢 , 鳥羽 都子, 津田 敏之, 高見 啓一, 谷口 知司

出版社1 : 水曜社

出版年1 : 2007

書籍2 : 《長谷川 千廣》 『観光ビジネス論

著者2 : 谷口教授編著

出版社2 : ミネルヴァ書房

## 参考書

---

### 成績評価

試験(備考参照) 小テスト(備考参照) 授業中課題(備考参照) 授業中発表等(備考参照) 参加度(備考参照)  
備考(《鳥羽 都子》 試験(0%) 小テスト(30%) 授業中課題(30%) 授業中発表等(30%) 参加度  
(10%) 《長谷川 千廣》 試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(70%) 授業中発表等(10%)  
参加度(20%))

|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | 色彩環境論    |
| クラス   | 配当回生 2回生 |
| 講義期間  | 前期 定員    |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   | 渡邊 安人    |

### テーマ

色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。色の特徴や性質、配色などを具体的な事例を見ながら理解し、建築やインテリアにおける色彩の効果や役割について考える。

### 授業の目的（獲得目標）

昨今は、複数のカラー検定が実施され、「色彩」への関心が高まっています。ファッションから生活用品、インテリア空間、建築、都市景観など、色彩は、身の回りのすべての生活環境の快適性に関係します。色彩の効果や影響は多大です。色彩を単に感性で処理するのではなく、配色理論や色彩心理生理効果を体系的に学んだ上で、広い視野に立脚し、子供から高齢者まで、人にとって望ましい環境色彩のあり方を考え、それを実現させる姿勢を身につけることを目指します。

### 内 容

第1回 色を伝える方法

第2回 色彩調和

第3回 美的造形手法

第4回 目の構造と視覚

第5回 混色と測色

第6回 人工光源と色

第7回 インテリアのカラーコーディネート1

第8回 インテリアのカラーコーディネート2

第9回 外観の色彩設計1

第10回 外観の色彩設計2

第11回 景観調和と色彩1

第12回 景観調和と色彩2

第13回 気候風土と色彩文化1

第14回 気候風土と色彩文化2

第15回 色彩環境のまとめ

### 授業以外での学習方法

日常的に色を意識して見る習慣をつける。東京商工会議所カラーコーディネーター検定、AFT色彩能力検定(どちらも国家試験ではない)などを受験するのもよい。検定は各々のテキストや参考書が発売されている。

### 教科書

**成績評価**

試験（30%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（ただし、6回以上欠席の場合は単位は取得できない。）

## 2010 Syllabus

---

科目名 人間工学

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 西山 紀子

---

### テーマ

人間工学の成り立ち、基本的な考え方、人間中心のシステム設計の諸原則と実践など事例を交えて紹介していく。身近な素材を中心に、人間工学が生活や環境において果たしている役割を理解していく。前半では、人間工学の成り立ちと基本的考え方、人間中心のシステム設計の諸原則と実践を紹介する。後半では、情報・交通・都市などにおける人間工学の役割と事例について考察する。

---

### 授業の目的（獲得目標）

人間の作業能力とその限界を知り、生活空間を人間の生理的・心理的諸特性に適合させていく能力を身に付ける。

---

### 内 容

- 第1回 人間工学とは
  - 第2回 人体寸法と姿勢
  - 第3回 動作と行動特性
  - 第4回 感覚、認知、知覚
  - 第5回 生活と人間工学（家具1）
  - 第6回 生活と人間工学（家具2）
  - 第7回 生活と人間工学（水廻り）
  - 第8回 生活と人間工学（その他の生活空間）
  - 第9回 情報と人間工学1
  - 第10回 情報と人間工学2
  - 第11回 交通と人間工学
  - 第12回 都市と人間工学
  - 第13回 ユニバーサルデザイン
  - 第14回 バリアフリーデザイン
  - 第15回 人間工学のまとめ
- 

### 授業以外での学習方法

ものの使い勝手や安全性に日頃から関心を持っておくこと。また常に人間の行動に関心を持ち、よく観察しておくこと。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（20%）小テスト（50%）授業中課題（0%）授業中発表等（20%）参加度（10%）備考（人間工学の基礎知識を確実に習得するため、授業途中随時行う復習小テストを重視する。）

## 2010 Syllabus

科目名 都市と文化資源

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

都市における文化の種、すなわち文化資源を探しそれを活用するために

授業の目的（獲得目標）

都市の文化資源とはどのようなものかを知る。文化資源を政策として活用するための手法を学ぶ。自分で、文化資源を探し活用することに挑戦する。とくに、チンドン音楽や街頭紙芝居など庶民の文化資源を発掘する。

内 容

第1回 はじめに

第2回 文化資源とは何だろう

第3回 都市における文化資源の特質とは何だろう・・・まちさがしとまちつかいの関係論

第4回 音楽という文化は都市にどのように関わるのか・・・ライブハウス、音楽ホール以外に音楽はどこで鳴っている？

第5回 明治までの音楽と明治からの音楽・・・西洋文化と和 문화との葛藤、芸術の分裂（大衆芸術と純粋芸術、そこからの脱却としての限界芸術論へ）

第6回 軍楽隊から街中バンド、映画館の楽師へ・・・セロ弾きのゴーシュの職業

第7回 チンドン音楽入門・・・富山全国チンドン大会の映像をもとに

第8回 紙芝居とは何か、その歴史と分類

第9回 紙芝居の新しい展開 アウトサイダーライブとの関係について

第10回 京都における文化資源を生かすために 特別講演（林加奈さん 予定）

第11回 学外授業 京都文化ベンチャーコンペティション説明会への参加（予定）

第12回 山科における文化資源はどこにあるのか

第13回 山科の歴史と地理の基礎知識

第14回 山科における文化資源の活かし方（演習的に） 近くのフィールドワーク（予定）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

京都における文化活動を紹介するのでできるだけ、時間外において参加し記録すること。京都ベンチャーコンペティションに応募するために自分で調査すること。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（0）小テスト（20）授業中課題（50）授業中発表等（）参加度（30）備考（京都ベンチャーコンペティションに応募することが課題となります。自分で企画し提出して、そのコピーを提出するのが到達点の一つなので、よくその説明を聞くこと。）



## 2010 Syllabus

科目名 アーツマネジメント論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメントを学ぶ入り口

### 授業の目的（獲得目標）

アーツマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アーツマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アーツマネジメントの分類ができる。

### 内 容

第1回 これからの予定の紹介（冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアーツマネージャーなので、適宜、生のアーツマネジメントの姿を挿入することを促進する。）

第2回 アーツマネジメントのABC

第3回 アーツマネジメントの定義と文化政策、まちづくりとの関係

第4回 アーツスペース（劇場ホール、美術館）とアーツカンパニー（劇団、楽団など）

第5回 学外授業 6/20 東部文化会館（予定）

第6回 アーツスペース論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～

第7回 アーツの分類

第8回 限界芸術論1・・・結婚式など冠婚葬祭を例示する

第9回 限界芸術論2・・・ウェディングプランナーとフューネラルマネージャー

第10回 アーツマネジメントの分類と歴史

第11回 アーツマネージャーを招いて（外部講師）

第12回 指定管理者制度など行政的マネジメント課題

第13回 非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ

第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係

第15回 まとめ・・・アーツ（マネジメント）の公共性とは

### 授業以外での学習方法

アーツマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。なお、東部文化会館でのアーツ体験は、子どもの文化フォーラムの一貫であり、準備や当日の障害者サポートなどのお手伝いを呼びかけるので、できるだけ学修として参加すること。

### 教科書

### 成績評価

試験（0）小テスト（20）授業中課題（30）授業中発表等（0）参加度（50）備考（毎回、A5版程度の用紙（出席確認を兼ねるもの）に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。）

## 2010 Syllabus

科目名 イベントデザイン論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 イベントプランニング研究

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉山 準

テーマ

劇場および舞台芸術の社会的意義を考える

授業の目的（獲得目標）

舞台芸術を作り支える様々なスタッフの仕事を理解するとともに、舞台芸術が上演される場所（劇場）そのものの機構および役割を理解すること、そして舞台芸術を支える環境について理解することを通じて、劇場や舞台芸術の社会的意義を考える。

内 容

第1回 オリエンテーション（評価の仕方、授業のねらい）舞台芸術とは何か。舞台表現の魅力とその可能性について考える。

第2回 イベントを企画する意図や目的について／芸術（イベント）が社会に果たす役割について

第3回 事例を見ながらイベントの考察／目的別の事例について1

第4回 事例を見ながらイベントの考察／目的別の事例について2

第5回 芸術による地域振興の事例を紹介。その歩みと今後について考える

第6回 地域振興の為にアートイベントが行われている現場を見学(学外授業)

第7回 劇場の機構と技術スタッフの仕事について1

第8回 劇場の機構と技術スタッフの仕事について2

第9回 創造に関わるスタッフの仕事について1

第10回 創造に関わるスタッフの仕事について2

第11回 プロデューサー、制作スタッフの仕事について

第12回 実際の上演を見て考察する（劇場見学を兼ねた芸術鑑賞／学外授業）

第13回 地域における舞台芸術の動向

第14回 文化行政と劇場（芸術イベント）との関わりについて

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

イベント現場の視察、劇場の視察と作品鑑賞を行う。それ以外に劇場等が行う何らかの催しにスタッフとして関与し、その意義を考えてみる事を期待する。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（30%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 アーツ演習 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 清水 俊洋

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解と制作実践（※主にグラフィックデザインと写真の領域における）

授業の目的（獲得目標）

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「芸術」は経済なしに存在することができず、「デザイン」はコスト計算では測れない影響力がある。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術（ちらし）デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

内 容

第1回 「アーツ演習」とは？

第2回 心にひびくデザインを考える - たくさんのチラシをみながら -

第3回 文字をみる・文字をつくる - 名刺制作

第4回 文字をつくる - 名刺制作（＝自分を宣伝する道具）

第5回 視覚効果 - 錯覚

第6回 視覚効果 - 隠蔽と想像力

第7回 視覚効果 - 意外性（過剰）／ミスマッチ（差違の効果）

第8回 個性／固有性／アイデンティティ（自己同一性）

第9回 身体と皮膚感覚・インタラクティブ（双方向性）

第10回 商品広告写真を撮る

第11回 心にひびくことばを考える - キャッチコピー

第12回 商品広告デザインをつくる

第13回 文化目的の宣伝チラシをつくる（舞台公演・美術展・コンサートなど）

第14回 文化目的の宣伝チラシをつくる（舞台公演・美術展・コンサートなど）

第15回 文化目的の宣伝チラシをつくる（舞台公演・美術展・コンサートなど）

授業以外での学習方法

Illustrator や Photoshop といったソフトを使って実習します。デザイン制作において上達を目指す学生は空き時間にできるだけ両ソフトをつかっていろいろ作ってみる事をすすめます。技術の向上度は使用時間に間違いなく比例します。それと失敗作を恐れないことも大切。最終的にいい作品をもたらしてくれるのは失敗と試行錯誤の積み重ねです。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（40%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 アーツ演習Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

さまざまな芸術（アーツ）を鑑賞し、言葉化する。

授業の目的（獲得目標）

アーツのジャンルを知り、触れたことのないアーツへの接近に勇気を持つ。実際にいくらかはアーツにじかに（ライブで）触れる。触れたアーツを言葉にする練習を続けるようになる。

内 容

第1回 オリエンテーション・・・（注）土曜日、3時間（2つの時限）で行う予定（原則は隔週だが異なる場合あり）なので、2回分がほぼセットになっていると見てください。

第2回 鑑賞とは何か・・・音楽を例にして

第3回 アーツのジャンル、その創造と鑑賞の関係

第4回 美術工芸デザインにおけるそれぞれの特質、その鑑賞とは

第5回 美術館と画廊における展示の実際を知ろう

第6回 映画の誕生から今日までの駆け足映画史

第7回 映画を鑑賞するコツを知る・・・映画のなかでその演出と役者をクローズアップして考えていく

第8回 演劇のざっとした歴史

第9回 劇作家とは、演出家とは

第10回 演劇鑑賞・・・学外授業の予定：ここでは一応演劇を想定しているが、受講者および実際の公演の予定を見て適宜ふさわしい実演芸術を決める

第11回 アフタートーク・・・学外授業の予定

第12回 ダンスをざっと知る＋伝統芸能の入門の入門

第13回 音楽、ライブとしてのコンサート

第14回 オペラとミュージカル、あるいは、映画と記録映像の関係について

第15回 まとめ アーツを言葉化する演習

授業以外での学習方法

なにせ、美術工芸デザイン、映画、演劇ダンス、音楽、伝統芸能などアーツは多岐にわたるので、少し受講者の興味によって重点化していくことにする。土曜日に2～3回は学外に出る（ので、現地集合になる。ただし、やむをえない理由で欠席になっても別のもので代替出来るようにする。授業以外におけるアーツの鑑賞についても、評価するので、積極的に鑑賞すること 何はともあれ、基本は鑑賞する姿勢とその言葉化である。

教科書



### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40）授業中発表等（）参加度（60）備考（出席をして、そのあとに常にきちんとアーツの言葉化をしていることを最重視する。出席できない場合も配慮するが、どのようなアーツを見るかはこちらが色々提供するので、参考 URL や掲示板を注意してみること。）

科目名 文化施設総論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

総合芸術オペラについて歴史、形態などを学んだ上でオペラのプロデュースについて研究をする。

授業の目的（獲得目標）

舞台芸術の中でも最も多くの要素を持つオペラ、そのプロデュース過程を学ぶことは、演劇、バレエ・ダンス、シンフォニー、美術・衣裳デザインなど多くの要素を同時に学ぶことにつながる。このため、「オペラ」を取り上げて「劇場」「舞台」「舞台制作」「制作過程」「制作スタッフ」などについての理解を深める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 オペラの歴史（1）
- 第3回 オペラの歴史（2）
- 第4回 オペラの音楽的構造
- 第5回 イタリア・オペラとドイツ・オペラ
- 第6回 オペラ劇場の構造
- 第7回 「劇場」で「オペラ」を作る意味について
- 第8回 びわ湖ホール制作担当者をゲストに迎えて
- 第9回 びわ湖ホール舞台制作担当者をゲストに迎えて
- 第10回 びわ湖ホールで行われるオペラ公演についての事前学習
- 第11回 同上
- 第12回 公開リハーサルの見学
- 第13回 びわ湖ホールでオペラを鑑賞する
- 第14回 びわ湖ホールでのオペラ鑑賞についてレポートをまとめ発表する
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

劇場、DVD、テレビなどでできるだけ多くのオペラを鑑賞すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト () 授業中課題 (50%) 授業中発表等 () 参加度 (50%) 備考 ()

科目名 文化施設マネジメント論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

劇場・ホールのマネジメントについての研究

### 授業の目的（獲得目標）

法律・制度の変化と国や自治体の文化政策の変遷の中で、国公立の劇場、ホールが抱える課題とマネジメントのあり方について学ぶ。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 戦後日本の文化政策の変遷
- 第3回 文化芸術振興基本法について
- 第4回 文化関係予算の現状
- 第5回 文化施設の運営主体について～国の文化施設・独立行政法人
- 第6回 文化施設の運営主体について～自治体の文化施設への指定管理者制度の導入
- 第7回 指定管理者制度の現状と課題
- 第8回 劇場とは何をするとところなのか（1）～公共劇場の歴史と現状
- 第9回 劇場とは何をするとところなのか（2）～劇場の種類とモデル
- 第10回 公共劇場の活動事例（1）市立の劇場の活動事例（ゲストを迎えて）
- 第11回 公共劇場の活動事例（2）県立の劇場の活動事例（ゲストを迎えて）
- 第12回 新国立劇場の活動について
- 第13回 劇場の活動を支える組織と資金について
- 第14回 劇場での仕事について
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

できるだけ多くの舞台を鑑賞すること。身近な劇場やホール、文化会館の活動に関心を持つこと

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（）

科目名 文化政策論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

文化政策の理論と実際に触れ、熟達する。

授業の目的（獲得目標）

獲得目標：文化政策の現代的な意義を、文化法、文化経済や文化マネジメントなどの側面より、総合的に理解する。内容：後藤和子編『文化政策学：法・経済・マネジメント』を教科書として採用し、その内容を中心に順次説明し、講義する。

内 容

- 第1回 文化と文化政策
- 第2回 グローバリゼーションと文化政策
- 第3回 教科書：序：文化政策とは何か
- 第4回 1：文化政策の歩み
- 第5回 2：文化政策の理論的基礎
- 第6回 3：文化政策の法的枠組み
- 第7回 中間テスト
- 第8回 4：文化政策のマネジメント
- 第9回 5：文化政策の評価
- 第10回 6：地方自治体における文化政策
- 第11回 7：まちづくりと文化政策
- 第12回 8：文化産業の発展
- 第13回 展望：文化政策研究の国際的動向
- 第14回 文化芸術振興基本法、創造都市論、など
- 第15回 まとめと期末テスト

授業以外での学習方法

社会の文化化の流れの中で、総合政策としての文化政策を理解するために、社会全般の動きに注意すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (50) 小テスト (50) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 専門演習 I <a>  |      |     |
| クラス   | a   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習 I および基礎演習 II を併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計 40 単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 今井 裕夫   |      |     |

## テーマ

「エレメント（建築を構成している要素）」の研究

## 授業の目的（獲得目標）

私たちをとりまく環境は、いろいろな「建築を構成しているエレメント」により成立している。環境に漠然と散在する「エレメント」の中から、興味を引く「エレメント」を求め、それから一つ一つの存在意味を探るデザイン・サーヴェイ（デザイン取材）を写真の撮影により行う。その場所に赴き、凝視（じっとみつめること）を通して建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての感性の獲得とさらに磨きをかけるための感性ノート作りを行う。 内 容 毎日の視線から気になる建築のデザイン要素を求めて歩く。例えば窓や階段とい

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 講義（取材方法、批評の参考事例）
- 第3回 講義（参考事例）
- 第4回 取材
- 第5回 発表・講評①
- 第6回 発表・講評①
- 第7回 発表・講評①
- 第8回 取材
- 第9回 発表・講評②
- 第10回 発表・講評②
- 第11回 発表・講評②
- 第12回 発表・講評③
- 第13回 発表・講評③
- 第14回 発表・講評③
- 第15回 ノート作成

## 授業以外での学習方法

つね日頃、カメラを持ち歩くこと。環境に散在するかたちに興味をもつこと。凝視すること。言葉を交わすこと。撮影すること。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (25) 参加度 (25) 備考 ( )



|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 専門演習 I <b>  |      |     |
| クラス   | b   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習 I および基礎演習 II を併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 上原 恵美   |      |     |

### テーマ

自治体の文化政策や公立文化施設の運営に関する研究

### 授業の目的（獲得目標）

卒業研究に向けて、各自の研究テーマを探し、研究の手法や発表する能力、レポート作成の能力を養う。指定管理者制度について学ぶことによって、自治体の文化政策や公立文化施設の意義、役割、現状と課題について理解を深めるとともに、公立文化施設の運営、マネジメントのあり方について考える。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション 各自の現段階での関心事や究テーマについて発表する
- 第2回 指定管理者制度についての概説を行う
- 第3回 教科書「指定管理者制度 文化的公共性を支えるのは誰か」第1章を読んで、担当者が発表し、討議する。以下同じ
- 第4回 教科書第2章、第4章
- 第5回 新聞記事スクラップ目次の報告
- 第6回 教科書第5種、第6章
- 第7回 教科書第7章、コラム
- 第8回 教科書第8章、第9章
- 第9回 教科書第10章、第11章
- 第10回 教科書第12章
- 第11回 新聞記事スクラップ目次の報告
- 第12回 卒業研究のテーマについて（1）
- 第13回 卒業研究のテーマについて（2）
- 第14回 卒業研究のテーマについて（3）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

新聞記事を読んでスクラップし目次を作って提出する 夏休みにゼミ合宿を行うとともに、研究テーマについて検討を進める。

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 専門演習 I <c>  |      |     |
| クラス   | c   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習 I および基礎演習 II を併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計 40 単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 碓井 敏正   |      |     |

## テーマ

自らの問題意識を踏まえ、現代社会の諸問題に対する認識を深める。

## 授業の目的（獲得目標）

卒論のテーマ設定に向け、関心を有するテーマを確定することを目標とする。そのために、広い視点で様々な角度から、関心を抱くテーマについての認識を深めることとする。同時にプレゼンテーション能力を高めることも課題とする。

## 内 容

- 第 1 回 卒論作成に向けての注意事項
- 第 2 回 進路選択に向けての注意事項
- 第 3 回 各人の発表（1）
- 第 4 回 各人の発表（2）
- 第 5 回 発表に対するコメント（1）
- 第 6 回 各人の発表（3）
- 第 7 回 各人の発表（4）
- 第 8 回 発表に対するコメント（2）
- 第 9 回 各人の発表（5）
- 第 10 回 各人の発表（6）
- 第 11 回 発表に対するコメント（3）
- 第 12 回 各人の発表（7）
- 第 13 回 各人の発表（8）
- 第 14 回 発表に対するコメント（4）
- 第 15 回 前期ゼミのまとめ

## 授業以外での学習方法

卒論テーマに対する認識を深めるために、日ごろから関連する書籍や情報に対して関心を払うこと。また必要に応じて、研究対象となる施設や場所を訪問するように努力すること。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（20%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（40%）参加度（40%）備考（発表の水準も大事であるが、発表に際してどれだけ自分の頭を使い、努力したか、また自分の言葉で話せたかを重視する。インターネットに頼った発表は評価しない。）

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 専門演習 I <d>  |      |     |
| クラス   | d   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習 I および基礎演習 II を併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 織田 直文   |      |     |

## テーマ

まちの病理を見つけ、治療できる力を身につけよう。

## 授業の目的（獲得目標）

「まちづくり」とはどのようなことか、また日本のまちづくり史や現代のまちの様々な病理について学ぶとともに、その解決策（治療方法）の研究を通し、課題解決能力を身につける。また各自の卒業論文テーマ検討を進める。「まち」「まちの病理」「まちづくり」とはどのようなことか、また日本における歴史や現代的課題についてミニ講義をした後、課題解決の方法について討論する。また、卒業研究テーマを各自が考え、研究計画や調査結果などを順番にゼミにて発表し、討論する。卒論テーマは、例えば祭・イベント、歴史事象や人物にちなんだまちづ

## 内 容

- 第1回 ゼミメンバーの自己紹介とゼミの進め方
- 第2回 卒業研究の意義と方法、過去の卒論テーマの紹介
- 第3回 「まちづくり」の内容と歴史についての講義および卒論テーマ報告と討論
- 第4回 「臨地まちづくり学」についての講義および卒論テーマ報告と討論
- 第5回 まちづくりのための技法についての講義および卒論テーマ報告と討論
- 第6回 近現代の地域開発史とまちづくりについての講義および卒論テーマ報告と討論
- 第7回 国民の欲求とまちづくりの関係史についての講義および卒論テーマ報告と討論
- 第8回 まちづくりの特性についての講義および卒論テーマ報告と討論
- 第9回 まちづくりの有効性についての講義および卒論テーマ報告と討論
- 第10回 まちづくり実践現場の見学（1）
- 第11回 まちづくり実践現場の見学（2）
- 第12回 地域イベントへの見学（1）
- 第13回 地域イベントへの見学（2）
- 第14回 地域イベントの評価
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

身近な地域の行事に関心を持ち、できれば参加してみる。またそれらの体験を文章化するようにこころがける。

## 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30 %）授業中発表等（40%）参加度（30 %）備考（）

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 専門演習 I <e>  |      |     |
| クラス   | e   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習 I および基礎演習 II を併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計 40 単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 河野 良平   |      |     |

### テーマ

現代における住宅の表現に関する研究

### 授業の目的（獲得目標）

自分の住宅に対する興味のあるかを確認する。印象や感想を超えて、事実やその関係等から物事を比較分析し、客観的に対象の特徴を抽出する姿勢を身に付ける。自分の意見や考え方を、相手にうまく伝える発表方法を検討する。

### 内 容

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 発表 1
- 第 3 回 発表 1
- 第 4 回 発表 1
- 第 5 回 発表 1
- 第 6 回 発表 2
- 第 7 回 発表 2
- 第 8 回 発表 2
- 第 9 回 発表 2
- 第 10 回 発表 3
- 第 11 回 発表 3
- 第 12 回 発表 3
- 第 13 回 発表 3、まとめ、後期への展望
- 第 14 回 ゼミ合宿
- 第 15 回 ゼミ合宿

### 授業以外での学習方法

授業内で適宜指示します。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅰ <f>  |      |     |
| クラス   | f  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱを併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 小暮 宣雄  |      |     |

## テーマ

アーツマネジメントの基礎的経験づくり

## 授業の目的（獲得目標）

アーツマネジメントの基礎概念を学ぶ。夏休みまでにアーツマネジメントの実践場所を各自選んで、夏休みには、その活動に参加することを目指す。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アーツマネジメントの基礎
- 第3回 アーツプロジェクト入門～藤浩志かえっこバザールなど～
- 第4回 アーツプロジェクト体験Ⅰ～子どもの文化フォーラム参加
- 第5回 アーツプロジェクト体験Ⅱ～めくるめく紙芝居プロジェクト参加
- 第6回 芸術体験を文章化する
- 第7回 宣伝美術を生かしたチラシづくり
- 第8回 障害者によるアーツ～めくるめく紙芝居プロジェクトなど～
- 第9回 実際の文化現場に触れる～山科青少年活動センターなどでの実践～
- 第10回 現代美術と環境政策
- 第11回 アウトサイダーアートとアウトサイダーライブ
- 第12回 公共ホールと公共美術館
- 第13回 アーツNPO～大阪アーツアポリア、NPO 劇研などの研究～
- 第14回 夏休みにおける各自の活動情報を探す
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

ツイッターの活用を検討する。山科においては、「めくるめく紙芝居プロジェクト」を継続して行っているため、障害のある人びとがいかにアーツと社会に向かい合うか、実演芸術・視覚芸術両面におけるアウトサイダーアーツの実験現場なので、授業外にはなるが、積極的に参加することを推奨する。それ以外に、京都や滋賀、大阪などにおけるさまざまなアーツセンターのボランティアなどをゼミで提示するので、活用する。

## 教科書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (30) 参加度 (50) 備考 (授業中課題は、ノート (ファイル) 提出となる予定なので、きちんと情報を整理すること。)

## 2010 Syllabus

|       |   |      |     |
|-------|---|------|-----|
| 科目名   | 専門演習 I <g>  |      |     |
| クラス   | g   | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 前期  | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習 I および基礎演習 II を併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計 40 単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制   |      |     |
| 担当者   | 竹山 清明   |      |     |

## テーマ

愛着を持って住み続けられる住宅・建築・まちづくりの計画とデザインを学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

ヨーロッパやアメリカ・アジアの優れた事例に学びつつ、我が国における愛着を持って住み続けられる住宅・建築・まちづくりの計画とデザインの理論と実践を学ぶ。見学などを通してそのような優れた生活空間の意味を、環境問題や幸せな生活・資産維持などの立場から考える。ものを考える基礎になる論文の作成法を学ぶ。

## 内 容

- 第 1 回 アメニティと生活空間
- 第 2 回 マズローピラミッドと生活空間
- 第 3 回 教科書の輪読
- 第 4 回 教科書の輪読
- 第 5 回 教科書の輪読
- 第 6 回 教科書の輪読
- 第 7 回 教科書の輪読
- 第 8 回 各自の論文課題の選択・学習
- 第 9 回 論文要旨の発表
- 第 10 回 論文要旨の発表
- 第 11 回 論文要旨の発表
- 第 12 回 論文要旨の発表
- 第 13 回 論文要旨の発表
- 第 14 回 論文要旨の発表
- 第 15 回 論文の発表・提出

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 ( )

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 専門演習 I <h>   |      |    |
| クラス   | 配当回生   | 3 回生 |    |
| 講義期間  | 前期   | 定員   | 25 |
| 履修条件  | (1) 基礎演習 I および基礎演習 II を併せて修得し、かつ、(2) 2 回生終了までに合計 40 単位以上修得済みであること。 |      |    |
| クラス指定 | 希望制  |      |    |
| 担当者   | 谷口 知司  |      |    |

### テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

### 授業の目的（獲得目標）

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、併せて教科書の輪読を行う。

### 内 容

- 第 1 回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
- 第 2 回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
- 第 3 回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
- 第 4 回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
- 第 5 回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
- 第 6 回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
- 第 7 回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
- 第 8 回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
- 第 9 回 課題についての発表
- 第 10 回 課題についての発表
- 第 11 回 旅（調査）をプランニングする。夏休み中に海外観光地（香港およびマカオを予定）の現地調査（観光資源調査を含む）を行う。そのための①現地予備調査（書籍・雑誌・Web・ビデオ等）をする。②現地予備調査を基に旅（調査）のプランニングをする。なお、ゼミメンバー各人が責任分担し全体を構成する。
- 第 12 回 旅（調査）をプランニングする。
- 第 13 回 旅（調査）をプランニングする。
- 第 14 回 旅（調査）をプランニングする。
- 第 15 回 まとめ

### 授業以外での学習方法

様々な観光資源や地域資料等の収集やその方法を身につけるためのフィールドワークを行う。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <a>  |      |     |
| クラス   | a  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱを併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 今井 裕夫  |      |     |

## テーマ

「マテリアル（建築素材）」の研究

## 授業の目的（獲得目標）

素材、材料として建築や工作物の美しさや時間、物質的な滅びや腐食を読み取り、空間と人間の関係性についてイメージすることにより、建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての視線・眼差しを獲得する。 内 容 日常的な環境からの建築の素材や材料の多様な魅力を素材と言葉を交わし獲得すること。撮影すること。建築材料の[質]を読み取り、人間の感性とイメージを重ねることを行う。・写真によるチェックを行う。・写生または写真からのドローイングにより記憶素としての確認を行う。・眼差しによる言葉をつづ

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 講義（取材方法、批評の参考事例）
- 第3回 講義（取材方法、批評の参考事例）
- 第4回 取材
- 第5回 発表・講評①
- 第6回 発表・講評①
- 第7回 発表・講評①
- 第8回 取材
- 第9回 発表・講評②
- 第10回 発表・講評②
- 第11回 発表・講評②
- 第12回 発表・講評③
- 第13回 発表・講評③
- 第14回 発表・講評③
- 第15回 ノート作成

## 授業以外での学習方法

つね日頃、カメラを持参すること。環境のすみずみに息づく空間に興味をもつこと。空間の[質]を問うこと。撮影すること。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (25) 参加度 (25) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <b>  |      |     |
| クラス   | b  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱを併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 上原 恵美  |      |     |

## テーマ

卒業論文に向けて研究を進める

## 授業の目的（獲得目標）

卒業研究のテーマを決めて、文献調査を行い、文献を読んで報告するなど、卒業研究を深めることにする。夏休み中に研究テーマについてまとめ、後期はその発表から始める。

## 内 容

- 第1回 夏休みの課題（卒業研究のテーマ設定とその理由について）を発表する。
- 第2回 同上
- 第3回 同上
- 第4回 夏休み中の新聞スクラップの報告
- 第5回 同上
- 第6回 4回生の卒論中間発表会に参加する
- 第7回 卒業研究のすすめ方について
- 第8回 卒業研究について各自の取り組みを順次発表し、これからのすすめ方について検討する
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 新聞スクラップの報告
- 第12回 卒業研究について、この時点でのまとめを行い、4回生になってからの研究の方向性を検討する
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

卒業研究を進める。前期に引き続き新聞スクラップを行い目次を作って報告する

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <c>  |      |     |
| クラス   | c  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱを併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 碓井 敏正  |      |     |

## テーマ

前期の成果を踏まえ、卒論作成に向けての問題意識をさらに深め、プレゼンテーション能力をさらに高める。

## 授業の目的（獲得目標）

卒論作成に向けて、テーマを確定するように努力すること。そのために関連図書などを見つけ、一定数読んでおくこと、また卒業後の進路についても、方向性を明確にすることを授業の目標とする。

## 内 容

- 第1回 後期の授業の課題
- 第2回 進路確定にむけての学習
- 第3回 各人の発表（1）
- 第4回 各人の発表（2）
- 第5回 発表に対するコメント（1）
- 第6回 各人の発表（3）
- 第7回 各人の発表（4）
- 第8回 発表に対するコメント（2）
- 第9回 各人の発表（5）
- 第10回 各人の発表（6）
- 第11回 発表に対するコメント（3）
- 第12回 各人の発表（7）
- 第13回 各人の発表（8）
- 第14回 発表に対するコメント（4）
- 第15回 後期のまとめ

## 授業以外での学習方法

基本的には前期と同じであるが、さらにその水準を上げるように努力すること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（20%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（40%）参加度（40%）備考（発表の水準も重要であるが、テーマに対してどれだけ自分の頭と足を使って追究したのか、また自分の言葉で話せたかを重視する。インターネットに頼った安易な報告は評価しない。）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <d>  |      |     |
| クラス   | d  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱを併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 織田 直文  |      |     |

## テーマ

まちの病理を見つけ、治療できる力を身につけよう。

## 授業の目的（獲得目標）

まちづくりをめぐる現代的テーマのいくつかについて学ぶとともに、まちの病理診断や計画（治療）手法を身につける。また各自の卒業論文テーマ検討を進め、研究能力を高める。「協働型まちづくり」や「主題と地域資源を活かしたまちづくり」などについてミニ講義をした後、まちづくりの方法について討論する。また、各自が卒業研究テーマにそった研究成果を順番にゼミにて発表し、討論する。卒論テーマは、例えば祭・イベント、歴史事象や人物にちなんだまちづくり、自然・環境を活かしたまちづくり、伝統産業・観光等の振興、町家・町並み、中心

## 内 容

- 第1回 後期のゼミの進め方
- 第2回 まちづくり実践現場の見学（1）
- 第3回 まちづくり実践現場の見学（2）
- 第4回 協働型まちづくりとは何か、またその進め方についての講義および卒論研究内容の報告と討論
- 第5回 まちづくりへの参加と参画に関する諸問題の提起と討論および卒論研究内容の報告と討論
- 第6回 「産公民学際連携型まちづくり」の提案と討論および卒論研究内容の報告と討論
- 第7回 まちづくり教育の意義についての講義および卒論研究内容の報告と討論
- 第8回 テーマタウン方式によるまちづくりの有効性についての講義と卒論研究内容の報告と討論
- 第9回 まちかど文化を活かしたまちづくりについての講義と卒論研究内容の報告と討論
- 第10回 歴史的商店街の文化的価値と街の再生についての講義と卒論研究内容の報告と討論
- 第11回 卒論研究内容の年間まとめの報告<1>
- 第12回 卒論研究内容の年間まとめの報告<2>
- 第13回 卒論研究内容の年間まとめの報告<3>
- 第14回 卒論研究内容の年間まとめの報告<4>
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

身近な地域の行事に関心を持ち、できれば参加してみる。またそれらの体験を文章化するようにこころがける。

## 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30 %）授業中発表等（40%）参加度（30 %）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <e>  |      |     |
| クラス   | e  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 通年   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱを併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 河野 良平  |      |     |

## テーマ

現代における住宅の表現に関する研究

## 授業の目的（獲得目標）

住宅空間の表現に対する自分の興味を再確認し、それらに関する知識を増やす。専門演習1で発表したテーマから一つを選び、それに対する他の学生からの発表や意見を聞くことで自分の選んだテーマについてより一層理解を深める。また、就活に関する発表と見学も予定している。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 業界研究発表
- 第9回 業界研究発表
- 第10回 業界研究発表
- 第11回 見学
- 第12回 見学
- 第13回 発表3
- 第14回 発表3
- 第15回 発表3、まとめ、卒業研究への展望

## 授業以外での学習方法

授業内で適宜指示します。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ < f >  |      |     |
| クラス   | f  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱを併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 小暮 宣雄  |      |     |

## テーマ

アーツマネジメント経験の伝達と理論化

## 授業の目的（獲得目標）

アーツマネジメント経験を効果的に要約し発表する。アーツマネジメントに関する研究テーマを探す。アーツマネジメント領域を冠婚葬祭など限界芸術へと展開する。

## 内 容

- 第1回 今後の進め方
- 第2回 夏休みの報告を卒業研究に生かすために
- 第3回 地域芸術環境論を個別研究に生かすには
- 第4回 アーツマネジメント論を個別研究に生かすには
- 第5回 冠婚葬祭論を個別研究に生かすには
- 第6回 限界芸術論を個別研究に生かすには
- 第7回 卒業研究への第一歩発表 1
- 第8回 卒業研究への第一歩発表 2
- 第9回 卒業研究への第一歩発表 3
- 第10回 アーツマネジメントや政策学を学ぶ他大学との交流・・・学外授業（キャンパスプラザ京都を予定：政策系大学交流発表会）
- 第11回 文化プロデュースの実践の仕方・・・めくるめく紙芝居など、現地でのワークショップ
- 第12回 自分のキャリアとアーツマネジメント
- 第13回 生活とアーツマネジメント
- 第14回 限界芸術とアウトサイダーアーツとの関係論
- 第15回 まとめ 卒業研究をこれから深めるために

## 授業以外での学習方法

ひきつづき「めくるめく紙芝居プロジェクト」を継続して行うとともに、各自のフィールド調査を支援するようにするので、頻繁に研究室などをたずねて情報を受けるように。卒業研究に向けて、自分が購読すべき文献リストとスケジュールを作る課題を出すので、それに従って努力すること。また、学外で研究成果を発表する機会を作る（紹介する）ので、積極的に参加すること。

## 教科書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (30) 参加度 (50) 備考 (日ごろの実践活動をノートやブログ、ツイッターなどにして見えるようにすること。その自分の行動のプロセスを客体化している様子を評価に加えたい。)

|       |  |      |     |
|-------|--|------|-----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <g>  |      |     |
| クラス   | g  | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期   | 定員   | 25  |
| 履修条件  | (1) 基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱを併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |      |     |
| クラス指定 | 希望制  |      |     |
| 担当者   | 竹山 清明  |      |     |

### テーマ

着を持って住み続けられる住宅・建築・まちづくりの計画とデザインを学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

前期に学んだ内容をベースに、住宅・まちづくりのそれぞれの計画やデザインを具体的に考え、理論化を深めるとともに、様々な成果物を作成する。それにより愛着の持てる住宅・建築・まちづくりなどの質の高い生活空間創造の方法論を学ぶ。フリーハンドでの計画作成に重点を置く。

### 内 容

- 第1回 住宅の計画方法論について学ぶ
- 第2回 住宅の内外の空間デザイン論について学ぶ
- 第3回 好ましい住宅計画とデザインを探り発表する
- 第4回 住宅計画とデザインをグループで議論する
- 第5回 住宅計画とデザインのグループ討議と発表
- 第6回 住宅建築計画とデザインのエスキース
- 第7回 住宅建築計画の成果物提出と発表
- 第8回 事例見学（学外授業）
- 第9回 集合住宅の計画論を学ぶ
- 第10回 好ましい集合住宅計画とデザインを探り発表する
- 第11回 集合住宅計画とデザインをグループで議論する
- 第12回 集合住宅計画とデザインのグループ討議と発表
- 第13回 集合住宅建築計画とデザインのエスキース1
- 第14回 集合住宅建築計画とデザインのエスキース2
- 第15回 集合住宅建築計画の成果物提出と発表

### 授業以外での学習方法

この演習で経験する住宅・集合住宅・街並み景観づくりなどの計画やデザインに役立つ情報を様々なメディアから数多く集めること。建築計画やデザインは、質の高い先例に学ぶことが基本となるため、各々が好きで学びたいと思う事例を選び出し、それに関する計画やデザイン情報を歴史や文化まで踏み込んで多数集めておくこと

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 ( )

|       |  |     |    |
|-------|--|-----|----|
| 科目名   | 専門演習Ⅱ <h>  |     |    |
| クラス   | 配当回生   | 3回生 |    |
| 講義期間  | 後期   | 定員  | 25 |
| 履修条件  | (1) 基礎演習Ⅰおよび基礎演習Ⅱを併せて修得し、かつ、(2) 2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること。 |     |    |
| クラス指定 | 希望制  |     |    |
| 担当者   | 谷口 知司  |     |    |

## テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

## 授業の目的（獲得目標）

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、教科書の輪読を併せて行う。

## 内 容

第1回 京都まちなかアーカイブ事前学習 前期で学習したデジタル・アーカイブの知識や技術を活用し、京都まちなかアーカイブを行う。また、新たにGPSによる位置情報や撮影方向などの記録を同時に取得する方法について学ぶ。

第2回 京都まちなかアーカイブ事前学習

第3回 京都まちなかアーカイブ事前学習

第4回 まちなかアーカイブを行う。

第5回 ツーリズムの形態について学ぶ。1班3名~5名のグループを構成し、グループによる課題研究方式で、ツーリズムの形態（エコ、グリーン、産業、都市 etc）や、その意味・意義・課題等について研究する。また、特定の地域におけるそれぞれの形態での旅の計画を行う。なお、研究成果は指定された日に発表することを要求する。課題解決の方法ならびに発表内容については適宜指導する。

第6回 ツーリズムの形態について学ぶ。

第7回 ツーリズムの形態について学ぶ。

第8回 ツーリズムの形態について学ぶ。

第9回 研究成果発表

第10回 世界遺産現地調査のための事前学習。世界遺産現地調査（観光資源調査を含む）を行うための具体的な計画を立てる。なお、ゼミメンバー各人が責任分担し全体を構成する。

第11回 世界遺産現地調査のための事前学習。

第12回 世界遺産現地調査のための事前学習。

第13回 世界遺産現地調査のための事前学習。

第14回 世界遺産現地調査のための計画立案。

第15回 世界遺産現地調査を実践する。

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 建築・インテリア設計演習V

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 60

履修条件 建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み

クラス指定

担当者 今井 裕夫

### テーマ

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

### 授業の目的（獲得目標）

建築士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーターなどの資格の実技試験に対応した設計力を得ること。

### 内容

- 第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
- 第2回 集合住宅の事例調査発表
- 第3回 配置計画、全体計画案の作成
- 第4回 構造計画案の作成
- 第5回 設備計画案の作成
- 第6回 全体計画案の修正、建築基準法の確認
- 第7回 基本住戸平面計画案の作成
- 第8回 立面・断面・内装計画案の作成
- 第9回 中間発表
- 第10回 配置図の作成
- 第11回 平面図の作成
- 第12回 立面・断面図の作成
- 第13回 模型1
- 第14回 模型2
- 第15回 講評とまとめ

### 授業以外での学習方法

課題で想定された環境と内容をふかく読み取ること。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (40%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 建築・インテリア設計演習Ⅵ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み

クラス指定

担当者 竹山 清明

### テーマ

公共施設（コミュニティーセンター・図書館・学校）の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。

### 授業の目的（獲得目標）

建築士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーターなどの資格の実技試験に対応した設計力を得ること。

### 内 容

- 第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
- 第2回 コミュニティーセンターの事例調査発表
- 第3回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
- 第4回 平面・立面・断面図の作成
- 第5回 講評
- 第6回 図書館の事例調査発表
- 第7回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
- 第8回 平面計画図の作成
- 第9回 立面・断面図の作成
- 第10回 講評
- 第11回 学校の事例調査発表
- 第12回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
- 第13回 平面計画図の作成
- 第14回 立面・断面図の作成
- 第15回 講評

### 授業以外での学習方法

課題で想定された環境と内容をふかく読み取ること。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 建築設備

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮本 征一

テーマ

快適な建築環境を構築するための建築設備の基礎的な知識

### 授業の目的（獲得目標）

快適な建築空間を構築するために、建築と建築設備との関わりを理解した上で、給排水・衛生設備、空気調和設備、電気設備、搬送設備について、基礎的な知識を得ることとする。2級建築士の問題が解ける程度の知識を獲得することを目的とする。

### 内 容

- 第1回 建築と建築設備との関わり、地球環境と建築設備との関わり
- 第2回 給排水・衛生設備 給水設備について
- 第3回 給排水・衛生設備 給湯設備・ガス設備について
- 第4回 給排水・衛生設備 排水・通気設備について
- 第5回 給排水・衛生設備 排水処理設備・衛生器具設備について
- 第6回 給排水・衛生設備 消火設備について
- 第7回 空気調和設備 空気調和と室内環境について
- 第8回 空気調和設備 空気線図の使い方について
- 第9回 空気調和設備 空調負荷について
- 第10回 空気調和設備 空気調和方式の種類・特徴について
- 第11回 空気調和設備 換気・排煙・自動制御設備について
- 第12回 空気調和設備 空気調和と室内環境について
- 第13回 電気設備 受変電・幹線設備と動力設備について
- 第14回 電気設備 照明・コンセント設備と情報・通信設備について
- 第15回 電気設備 搬送設備 防災設備と搬送設備について
- 第16回 試験

### 授業以外での学習方法

2級建築士の問題などを適時出題しますので解いてくること。

### 教科書

- 書籍1 : 初学者の建築講座 建築設備
- 著者1 : 大塚雅之
- 出版社1 : 市ヶ谷出版社

出版年 1 : 2006

ISBN1 : 4-87071-197-4

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (60) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (10) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 建築施工

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 谷口 浩志

---

テーマ

---

**授業の目的（獲得目標）**

建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容や技術的な手法について具体的に知ることで、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。

---

**内 容**

- 第1回 建築施工について
  - 第2回 建築生産に関わる各種業務；設計・工事発注・施工など
  - 第3回 施工の流れと工程計画作成
  - 第4回 仮設工事について、および、地盤強度と地盤調査
  - 第5回 土工事と、地業工事の種類と施工法
  - 第6回 鉄筋工事と型枠工事
  - 第7回 コンクリートの配合と、その打設手順
  - 第8回 鉄骨の種類と、その接合や建て方について
  - 第9回 メーソソリー（組積）工事とプレキャストパネル
  - 第10回 建具工事
  - 第11回 内外装の機能材料と仕上工事
  - 第12回 給排水・空調・電気設備工事
  - 第13回 工事費の積算の手順
  - 第14回 簡単な構造物の積算演習
  - 第15回 まとめ
- 

**授業以外での学習方法**

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験（60％）小テスト（0％）授業中課題（0％）授業中発表等（0％）参加度（40％）備考（）

---

科目名 建築積算

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 笠井 俊明

---

### テーマ

建築における積算の基本的な考え方を知る。各回とも工事種別ごとの積算方法について事例をあげて説明し、学生は実際に図面を用いて積算を試みる。これらの作業を通して、工事費全体に対する工事種別ごとの割合や工事費全体の予測をたてることについて理解を深める。

---

### 授業の目的（獲得目標）

積算は設計と施工と並んで建築では重要な位置を占めています。どんな建物でも、一体いくらかかるのかがわからなければ、工事をやるかどうかさえ決められません。それぐらい建築生産活動では重要なものなのです。特に近年建築のコストには関心が高く、いいものを安く作るにはどうするか、その過程で設計・施工に大きな影響を与えます。建築積

---

### 内容

- 第1回 積算概論
  - 第2回 課題図面演習
  - 第3回 仮設工事 基礎工事（コンクリート）
  - 第4回 木工事1
  - 第5回 木工事2
  - 第6回 木工事3
  - 第7回 屋根板金工事
  - 第8回 左官・タイル工事
  - 第9回 建具工事
  - 第10回 外装工事
  - 第11回 内装工事
  - 第12回 塗装工事
  - 第13回 設備工事1
  - 第14回 設備工事2
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

課題の演習

---

### 教科書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（授業参加を最重要とします。次に授業中課題（授業以外の課題演習）及び小テストについても考慮したいと思います。）

## 2010 Syllabus

|     |      |
|-----|------|
| 科目名 | 材料実験 |
|-----|------|

|     |      |     |
|-----|------|-----|
| クラス | 配当回生 | 3回生 |
|-----|------|-----|

|      |    |    |    |
|------|----|----|----|
| 講義期間 | 後期 | 定員 | 60 |
|------|----|----|----|

履修条件

クラス指定

|     |      |
|-----|------|
| 担当者 | 谷山 清 |
|-----|------|

テーマ

## 授業の目的（獲得目標）

コンクリートの圧縮実験を中心に行う。材料の調合、供試体の製作と養生、圧縮強度試験などを行い、標準的な供試体と学生の考案したものとの比較を通して、コンクリートの基本的な力学的・化学的性質について理解を深める。

## 内 容

- 第1回 材料実験の概要、最近のコンクリートとその課題1
- 第2回 材料実験の概要、最近のコンクリートとその課題2
- 第3回 工場見学、(実験) 材料実験1
- 第4回 工場見学、(実験) 材料実験2
- 第5回 工場見学、(実験) 材料実験3
- 第6回 工場見学、(実験) 材料実験4
- 第7回 (実験) コンクリートの調合・打設1
- 第8回 (実験) コンクリートの調合・打設2
- 第9回 (実験) コンクリートの調合・打設3
- 第10回 (実験) コンクリートの調合・打設4
- 第11回 (実験) コンクリートの調合・打設(コンテスト用)、キャッピング・脱型、標準養生等1
- 第12回 (実験) コンクリートの調合・打設(コンテスト用)、キャッピング・脱型、標準養生等2
- 第13回 (実験) コンクリートの調合・打設(コンテスト用)、キャッピング・脱型、標準養生等3
- 第14回 (実験) コンクリートの調合・打設(コンテスト用)、キャッピング・脱型、標準養生等4
- 第15回 (実験) 圧縮強度試験・コンテスト1
- 第16回 (実験) 圧縮強度試験・コンテスト2
- 第17回 (実験) 圧縮強度試験・コンテスト3
- 第18回 (実験) 圧縮強度試験・コンテスト4
- 第19回 (実験) 圧縮強度試験・コンテスト5
- 第20回 (実験) 圧縮強度試験・コンテスト6
- 第21回 (実験) 圧縮強度試験・コンテスト7
- 第22回 (実験) 圧縮強度試験・コンテスト8
- 第23回 (実験) 促進中性化試験等1
- 第24回 (実験) 促進中性化試験等2
- 第25回 (実験) 促進中性化試験等3
- 第26回 (実験) 促進中性化試験等4



第 27 回 レポート発表・討論、まとめ 1

第 28 回 レポート発表・討論、まとめ 2

第 29 回 レポート発表・討論、まとめ 3

第 30 回 レポート発表・討論、まとめ 4

---

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 自由時間デザイン論

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

自由時間デザインの基礎理解

### 授業の目的（獲得目標）

1. キャリア開発における自由時間デザインの重要性を理解する
2. 自分自身の「忙しさ」の質を吟味し直す
3. チクセントミハイのフロー理論から自分の自由時間デザインをやってみる

### 内 容

- 第1回 余暇とは何か なぜ予定を埋めてしまうのか
- 第2回 農村生活の再評価 忙しさの質を比較しよう
- 第3回 チクセントミハイのフロー理論1 フロー体験とは何か
- 第4回 チクセントミハイのフロー理論2 主観的な幸福状態
- 第5回 チクセントミハイのフロー理論3 充実した時間を過ごすということ
- 第6回 チクセントミハイのフロー理論4 挑戦と能力
- 第7回 チクセントミハイのフロー理論5 楽しみの社会学
- 第8回 生活行動と時間配分
- 第9回 学生の生活時間
- 第10回 有職者の生活時間
- 第11回 女性の生活時間
- 第12回 高齢者の生活時間
- 第13回 ライフステージと生活時間
- 第14回 企業から見た自由時間
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（100%）授業中発表等（）参加度（）備考（受講人数によって評価方法を変える場合がある。授業中課題の提出を持って日常点評価とするので、単に教室にいるだけでは意味が

ない。)

## 2010 Syllabus

---

科目名 京都ツーリズム論

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 井口 貢

---

### テーマ

京都の観光について、過去・現在を踏まえながら、これからの望ましい在り方について考察する。

---

### 授業の目的（獲得目標）

「観光文化資源と観光対象」、「暮らしと観光」などの視点を重視しながら、わが国を代表する観光文化都市・京都について考え、地域観光の光と影、さらには持続可能な観光振興の在り方について理解する。

---

### 内 容

- 第1回 導入講義
  - 第2回 京都文化と観光の歴史（1）
  - 第3回 同上（2）
  - 第4回 京都の文化資源と景観
  - 第5回 地場産業とまちづくり・観光
  - 第6回 生活文化とまちづくり・観光
  - 第7回 商店街と京の暮らし・観光
  - 第8回 中間のまとめ、グループワークなど
  - 第9回 京都の都市観光の諸相（概論）
  - 第10回 同上（エコツーリズム）
  - 第11回 同上（露地とまちなか観光）
  - 第12回 京都の観光政策（1）
  - 第13回 同上（2）
  - 第14回 外からのまなざしと小京都論
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

自主的なまちなかフィールドワーク。参考・関連文献読解や情報の検索。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（20%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（受

講生数に応じて、グループワークを行う可能性があるが、その場合「授業中発表」「参加度」の評価対象とする。  
また、授業中随時紹介する参考文献等に則った自主レポートを課す予定である。）

---

科目名 空間デザイン演習

---

クラス 配当回生 3回生

---

講義期間 後期 定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 井上 信太

---

テーマ

美術における空間演出とその方法論の演習

---

授業の目的（獲得目標）

空間デザイン演習を通して、目の前にある空間を心で感じ取り、新しい方法論で空間を切り開く事を目標としています。及び公共の場での「空間ピクニック」を自ら企画して提案する事を学びます。

---

内 容

第1回 空間美術とは何か？

第2回 ふしぎな「何か」つくろう1

第3回 ふしぎな「何か」をつくろう&展示

第4回 ピクニック考察1

第5回 ふしぎな鳥の巣箱を作ろう1

第6回 ふしぎな鳥の巣箱を作ろう2

第7回 ふしぎな鳥の巣箱を作ろう&設置

第8回 みんなでピクニックに行こう&合評

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

授業内で適宜、指定

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 (とりあえず楽しい事を本気

で楽しむ演習です。一緒に空間を楽しみましょう。)

科目名 情報科学 I

クラス

配当回生

講義期間

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 情報科学 I

クラス 配当回生

講義期間 定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅰ（看護）〈A〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子・寺口 佐與子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習（6） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習（7） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

科目名 キャリア開発演習Ⅰ（看護）〈B〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 寺口 佐與子・梶谷 佳子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習（6） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習（7） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習 I (看護) <C>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子・加藤 さゆり

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的 (獲得目標)

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験(0) 小テスト(0) 授業中課題(0) 授業中発表等(55) 参加度(45) 備考( )

科目名 キャリア開発演習Ⅰ（看護）〈D〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 加藤 さゆり、竹下 夏美

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習（6） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習（7） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅰ（看護）〈E〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹下 夏美, 小野塚 元子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習（6） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習（7） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅰ（看護）〈F〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子・藤原 正恵

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習（6） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習（7） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅰ（看護）〈G〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤原 正恵・高田 早苗

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習（6） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習（7） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅰ（看護）〈H〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高田 早苗・竹 明美

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習（6） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習（7） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅰ（看護）〈Ⅰ〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹 明美、遠藤 俊子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習（6） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習（7） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

科目名 キャリア開発演習Ⅰ（看護）〈J〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子・伊藤 恵美子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

第1回 全体オリエンテーション 図書館の利用法など

第2回 前半の演習内容のオリエンテーション

第3回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第4回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第5回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第6回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第7回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第8回 全体講義 レポートのまとめ方など

第9回 演習（6） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第10回 演習（7） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第11回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第12回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第13回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第14回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈A〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子・加藤 さゆり

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ -自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける-

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈B〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 加藤 さゆり. 竹下 夏美

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ -自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける-

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈C〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹下 夏美、小野塚 元子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ -自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける-

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈D〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子・藤原 正恵

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ -自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける-

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈E〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤原 正恵・高田 早苗

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ -自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける-

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈F〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高田 早苗・竹 明美

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ -自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける-

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈G〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹 明美, 遠藤 俊子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ - 自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける -

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈H〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子・伊藤 恵美子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ -自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける-

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈Ⅰ〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子. 寺口 佐與子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ -自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける-

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ（看護）〈J〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 寺口 佐與子・梶谷 佳子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ -自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける-

授業の目的（獲得目標）

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける

内 容

- 第1回 演習（1） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第2回 演習（2） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第3回 演習（3） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第4回 演習（4） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第5回 演習（5） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第6回 演習（6） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第7回 演習（7） 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第8回 演習（8） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第9回 演習（9） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第10回 演習（10） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第11回 演習（11） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第12回 演習（12） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第13回 演習（13） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第14回 演習（14） 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など  
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（55）参加度（45）備考（）

科目名 看護学原論 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高田 早苗・高橋 みや子

テーマ

看護学をその成り立ちと本質、人々の健康と取り組みへの支援、社会的観点から理解する。

授業の目的（獲得目標）

1. 看護が人々の健康と福祉に貢献する専門的ケアリングの実践学であることを理解する。 2. 人間の健康と生活、基本的ニードとセルフケアの諸概念およびそれらの関連について具体的に説明する。 3. 看護理論の発展を概観し、看護についての考えを深め、自身の言葉で表現する。 4. 社会機能、社会制度としての看護の発展経緯を知るとともに、今後目指すべき方向を考える。 5. 医療・看護に携わる者として自己を見つめ、理想像を明確にしてその実現に努める姿勢を獲得する。

内 容

|      |                |                             |
|------|----------------|-----------------------------|
| 第1回  | ケア・看護の歴史的発展過程  | 医療的行為並びにケアの起源、看護実践の成り立ち     |
| 第2回  | ケア・看護の歴史的発展過程  | 医療的行為並びにケアの起源、看護実践の成り立ち     |
| 第3回  | 人々の健康・生活とセルフケア | 健康とは                        |
| 第4回  | 人々の健康・生活とセルフケア | 日々の生活とセルフケア                 |
| 第5回  | 人々の健康・生活とセルフケア | 自己のセルフケアを振り返る               |
| 第6回  | 病気や障害の体験       | 星野 富弘「愛、深き淵より」を読む（個人ワークと討論） |
| 第7回  | 病気や障害の体験       | 星野 富弘「愛、深き淵より」を読む（個人ワークと討論） |
| 第8回  | 看護援助を考える       | 先輩から聞く日本の看護                 |
| 第9回  | 看護概念の模索        | 看護理論を読む（グループワークと発表）         |
| 第10回 | 看護概念の模索        | 看護理論を読む（グループワークと発表）         |
| 第11回 | 看護概念の模索        | 看護理論を読む（グループワークと発表）         |
| 第12回 | 看護概念の模索        | 看護理論を読む（グループワークと発表）         |
| 第13回 | 社会における看護と看護倫理  | 法的・制度的にみた看護職者の役割と業務         |
| 第14回 | 社会における看護と看護倫理  | 看護職者の役割と活動の場の拡大             |
| 第15回 | 社会における看護と看護倫理  | 日本看護協会「看護者の倫理綱領」            |

授業以外での学習方法

1～2回を高橋、それ以降を高田が担当します。また、皆さんの先輩をゲスト・カとして招きます。皆さんの将来の基礎固めとして、単に知識を得ることだけではなく、疑問をもち調べる、友人たちと議論して考えを発展させる、自分で発見し創り出す、このような学習姿勢を身につけていくことを期待しています。

教科書

**成績評価**

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（20%）参加度（10%）備考（発表等 20%は、グループワークの貢献度+成果発表（個人点+グループ点）、参加度 10%は、出席点+質問や発言で評価します。名前をアピールしてください。）

## 2010 Syllabus

科目名 災害看護学 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子, 小野塚 元子, 竹 明美, 竹下 夏美, 藤原 正恵, 堀 妙子

### テーマ

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動についてライフサイクルを踏まえて理解する。また、救命救急活動における基本的技術を習得する。

### 授業の目的（獲得目標）

1. 災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する 2. ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する 3. 国内諸地域および国際協力における災害看護活動を理解する 4. 救命救急活動に必要な BLS, 応急手当等を習得する

### 内 容

第1回 災害看護とは、災害に関する基礎知識

第2回 災害サイクル各期（準備期、対応期、回復期、復興期）における災害看護活動

第3回 ライフサイクル各期にみた特徴的な災害看護活動 ー妊産褥婦、ー子ども

第4回 ライフサイクル各期にみた特徴的な災害看護活動 ー高齢者

第5回 災害時における国際協力活動

第6回 BLS, 応急手当等演習(1)

第7回 BLS, 応急手当等演習(2)

第8回 災害への備えと減災に向けた地域連携システムと看護の役割 なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

### 授業以外での学習方法

### 教科書

書籍1 : 災害看護学習テキストー概論編ー

著者1 : 南裕子・山本あい子編集

出版社1 : 日本看護協会出版会



出版年 1 : 2007

ISBN1 : 9784818201271-4

書籍 2 : 災害看護学習テキスト―実践編―

著者 2 : 南裕子・山本あい子編集

出版社 2 : 日本看護協会出版会

出版年 2 : 2007

ISBN2 : 9784818012578

## 参考書

書籍 1 : いのちとこころを救う災害看護

著者 1 : 小原真理子監修

出版社 1 : 学習研究社

出版年 1 : 2008

ISBN1 : 9784051530013

書籍 2 : 新版 災害看護 第 2 版―人間の生命と生活を守る

著者 2 : 黒田裕子・酒井明子監修

出版社 2 : メディカ出版

出版年 2 : 2008

ISBN2 : 9784840425278

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40%) 備考 (レポートテーマ : 「ライフサイクルと活動の場を踏まえた災害サイクル各期における看護・医療職の役割について」 上述のテーマを踏まえ、各自で興味・関心のあるサブテーマを設定すること。 レポート形式 : A4 縦, 3 枚以内, 40 字×40 行, 文字サイズ 10.5 ポイント, 表紙なし, 学生番号と氏名を 1 枚目右上に明記, テーマとサブテーマを 1 枚目中央上に明記, 複数枚の場合, 左上ホチキス留め。 提出期限・場所については後日提示する。)

科目名 ヘルスプロモーション

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 前原 澄子・伊藤 恵美子・奥野 茂代・加藤 さゆり・河原 宣子・竹下 夏美・堀 妙子・松下裕子・  
家根 明子

テーマ

健康の概念とヘルスプロモーションの概念を学び、地域を基盤とした健康増進の考え方と対応の基本および健康づくり戦略について、ライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。

授業の目的（獲得目標）

1. 健康の概念を理解する。 2. ヘルスプロモーションの概念を理解する。 3. ライフサイクル各期の特徴を踏まえたヘルスプロモーションについて理解する。 4. 現代社会・現代文化におけるヘルスプロモーションについて理解する。 5. ヘルスプロモーションと政策について理解する。

内 容

第1回 健康の概念

第2回 ヘルスプロモーションの概念

第3回 地域を基盤とした疾病予防の考え方と対応の基本

第4回 人々の健康行動の特性および効果的介入方法と技術

第5回 健康教育の定義 健康教育の歴史と変遷

第6回 健康教育の理論とモデル

第7回 現代社会、現代文化におけるヘルスプロモーションと政策

第8回 健康教育活動展開の実施例 地域看護

第9回 健康教育活動展開の実施例 母性看護

第10回 健康教育活動展開の実施例 小児看護

第11回 健康教育活動展開の実施例 成人看護

第12回 健康教育活動展開の実施例 成人看護

第13回 健康教育活動展開の実施例 精神看護

第14回 健康教育活動展開の実施例 老年看護

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（10%）授業中発表等（10%）参加度（50%）備考（オムニバス授業ですので、各担当の小テストで評価します。）

## 2010 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

## 履修条件

## クラス指定

担当者 前原 澄子. 伊藤 恵美子. 奥野 茂代. 小野塚 元子. 加藤 さゆり. 河原 宣子. 田邊 美智子. 堀  
妙子. 松下裕子. 家根 明子

## テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に健康増進活動を実施し評価する。

## 授業の目的（獲得目標）

1. 健康教育の理論を理解する。 2. 人々の健康生活を支援する方法を理解する。 3. 人々のセルフケア能力育成のための健康プロセスがわかる。 人々の（小集団）特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる。

## 内 容

第1回 健康教育の企画・実施・評価について

第2回 オリエンテーション

第3回 グループワーク 企画

第4回 グループワーク 企画

第5回 グループワーク 企画

第6回 グループワーク 企画

第7回 グループワーク 企画

第8回 グループワーク 企画

第9回 グループワーク 企画

第10回 グループワーク 企画

第11回 グループワーク 活動の実施

第12回 グループワーク 活動の実施

第13回 グループワーク 活動の実施

第14回 活動の評価 まとめ

第15回 活動の評価 まとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（30%）参加度（50%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 プライマリケア論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

## 履修条件

## クラス指定

担当者 河原 宣子. 伊藤 恵美子. 遠藤 俊子. 奥野 茂代. 加藤 さゆり. 竹下 夏美. 堀 妙子. 松下裕子.  
家根 明子

## テーマ

プライマリケアの基本概念である，人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対する総合的・継続的，全人的に対応する地域の政策と機能について学ぶ。ライフサイクル論やヘルスプロモーションを踏まえ，ライフサイクル各期における様々な健康レベルにある人と政策や施策等との関連および看護活動を理解する。

## 授業の目的（獲得目標）

1. プライマリケアの概念を理解する
2. 地域看護の目的と活動の展開において基本となる考え方と方法を理解する
3. ライフサイクル各期の保健医療福祉対策と看護活動を理解できる

## 内 容

- 第1回 プライマリケアの理念－プライマリケアとは，プライマリヘルスケアとは【河原 宣子】
- 第2回 プライマリヘルスケアと看護職の役割－国際看護の視点から【竹下 夏美】
- 第3回 コミュニティアセスメント【松下 裕子】
- 第4回 在宅看護の理念・目的・歴史【松下 裕子】
- 第5回 在宅看護の展開【加藤 さゆり／家根 明子】
- 第6回 地域組織活動とその育成【家根 明子】
- 第7回 組織行動論【加藤 さゆり】
- 第8回 母子における保健医療福祉対策の現状と課題①【遠藤 俊子】
- 第9回 母子における保健医療福祉対策の現状と課題②【堀 妙子】
- 第10回 地域保健と学校保健①【堀 妙子】
- 第11回 地域保健と学校保健②【堀 妙子】
- 第12回 メンタルヘルスと保健医療福祉対策の現状と課題【伊藤 恵美子】
- 第13回 成人における保健医療福祉対策の現状と課題【河原 宣子】
- 第14回 高齢者における保健医療福祉対策の現状と課題【奥野 茂代】
- 第15回 まとめ-2回生「プライマリケア実習Ⅰ」に向けて【河原 宣子】
- 第16回 試験【河原 宣子】

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍1 : 特に指定しない。参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する。

## 参考書

書籍 1 : 国民衛生の動向

書籍 2 : 国民福祉の動向

---

## 成績評価

試験 (70%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 ライフサイクル論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀 妙子. 伊藤 恵美子. 遠藤 俊子. 小野塚 元子. 加藤 さゆり. 河原 宣子

テーマ

人間のライフサイクルの特徴, 発達段階, 生活のあり方, 健康課題の特徴を理解する.

授業の目的 (獲得目標)

1. ライフサイクルとは何かを理解する. 2. 人間の成長・発達に関する諸理論を理解する. 3. 人間の発達段階各期における保健指標を理解する. 4. 人間の発達段階各期における, 身体的, 心理・社会的特徴を理解する. 5. 人間の発達段階各期における生活のあり方を理解する. 6. 人間の発達段階各期における健康課題の特徴を理解する.

内 容

- 第1回 ライフサイクル論概説 (1)
- 第2回 ライフサイクル論概説 (2)
- 第3回 ライフサイクル論概説 (3)
- 第4回 青年期の成長・発達課題と健康問題 (1)
- 第5回 青年期の成長・発達課題と健康問題 (2)
- 第6回 青年期の成長・発達課題と健康問題 (3)
- 第7回 青年期の成長・発達課題と健康問題 (4)
- 第8回 青年期の成長・発達課題と健康問題 (5)
- 第9回 成人前期の成長・発達課題と健康問題 (1)
- 第10回 成人前期の成長・発達課題と健康問題 (1)
- 第11回 成人前期の成長・発達課題と健康問題 (1)
- 第12回 小児期の成長・発達課題と健康問題 (1)
- 第13回 小児期の成長・発達課題と健康問題 (2)
- 第14回 小児期の成長・発達課題と健康問題 (3)
- 第15回 成人中期の成長・発達課題と健康問題 (1)
- 第16回 成人中期の成長・発達課題と健康問題 (2)
- 第17回 成人中期の成長・発達課題と健康問題 (3)
- 第18回 成人中期の成長・発達課題と健康問題 (4)
- 第19回 小児期の成長・発達課題と健康問題 (4)
- 第20回 小児期の成長・発達課題と健康問題 (5)
- 第21回 成熟期の成長・発達課題と健康問題 (1)
- 第22回 成熟期の成長・発達課題と健康問題 (2)
- 第23回 成熟期の成長・発達課題と健康問題 (3)
- 第24回 成熟期の成長・発達課題と健康問題 (4)



- 第 25 回 成熟期の成長・発達課題と健康問題（5）
  - 第 26 回 老年期の成長・発達課題と健康問題（1）
  - 第 27 回 老年期の成長・発達課題と健康問題（2）
  - 第 28 回 老年期の成長・発達課題と健康問題（3）
  - 第 29 回 老年期の成長・発達課題と健康問題（4）
  - 第 30 回 ライフサイクル論まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

参考書もテキストになります。全ての教科書は、ヘルスプロモーション、プライマリケア論などでも使用します。

---

### 教科書

- 書籍 1 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論  
出版社 1 : 医学書院
- 書籍 2 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護学総論  
出版社 2 : 医学書院
- 書籍 3 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論  
出版社 3 : 医学書院
- 書籍 4 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎  
出版社 4 : 医学書院
- 書籍 5 : 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論  
出版社 5 : 医学書院

### 参考書

- 書籍 1 : 老年看護学 概論と看護の実践  
出版社 1 : ヌーベルヒロカワ
  - 書籍 2 : 公衆衛生マニュアル 2010  
出版社 2 : 南山堂
  - 書籍 3 : 最新保健学講座別巻 1 健康教育論  
出版社 3 : メヂカルフレンド社
  - 書籍 4 : 成人看護学 ヘルスプロモーション  
出版社 4 : ヌーベルヒロカワ
- 

### 成績評価

試験（50％）小テスト（50％）授業中課題（0％）授業中発表等（0％）参加度（0％）備考（）

科目名 ライフサイクル論実習

クラス 配当回生 1回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀 妙子. 奥野 茂代. 小野塚 元子. 藤原 正恵

テーマ

地域で生活するさまざまな発達段階の人と関わり、人のライフサイクルを理解する。

授業の目的（獲得目標）

1. ライフサイクルの視点から、地域で暮らす乳幼児から高齢者の発達段階の特徴を理解する。 2. 地域で暮らす乳幼児から高齢者の日常生活の様子と環境を把握する。 学生1人当たりの実習期間は、合計1週間とする  
実習の詳細は、実習オリエンテーション時に説明する

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 高齢者に関する実習（1）

第3回 高齢者に関する実習（2）

第4回 小児に関する実習（1）

第5回 小児に関する実習（2）

第6回 まとめ

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

ライフサイクル論実習の位置づけ 「ライフサイクル論実習」は、カリキュラムにおいて、「異文化を理解し、人によりそう看護を実践できる能力を育成する一対象を理解する」という区分に位置づけられている。特に、「ライフサイクル論」の講義と連動し、実際に地域で暮らす人々と関わる中で、机上で学んだ知識への理解をさらに深めてほしい。実習の学びの視点 地域で暮らす乳幼児から高齢者と関わり、以下の内容について理解を深める。人の発達段階と健康課題の特徴を理解する。人には個別性があることを理解する。人を取り巻く環境を理解

教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（）

科目名 フィジカルアセスメントⅠ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 川上 ゆかり, 松浦 基博, 梶谷 佳子

## テーマ

看護に必要な解剖学, 生理学, 微生物学の基礎医学を系統的に学び, フィジカルアセスメントを理解する。

## 授業の目的 (獲得目標)

1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義について理解できる
2. 人体の構造と機能を関連付けて理解できる。
3. 人体の各組織や器官の正常機能およびそれらの協調による恒常性の維持などの調節機構を理解する。
4. 人体の免疫機能について理解できる。
5. 病態の理解, 的確な診断および看護援助に役立つ基礎知識を習得する。

## 内容

第1回 生命とは (生命現象, 人体のつくり) 細胞, 組織, 器官と器官系, 身体の区分と生命現象を維持するからだの基本構造 (解剖1)

第2回 生命とは (生命現象, 人体のつくり) 細胞, 組織, 器官と器官系, 身体の区分と生命現象を維持するからだの基本構造 (解剖1)

第3回 筋系からだの枠組みをつくり, 力を発揮する ~骨格系① (解剖3) 骨格, 関節, 骨格筋の構造と機能, 全身の骨と関節

第4回 筋系からだの枠組みをつくり, 力を発揮する ~筋肉系② (解剖4) 全身の骨格筋

第5回 刺激を伝達し, 情報を処理・指令する ~神経系 (解剖5)

第6回 生体を包み, 外界と内部機構との応答を促進するシステム~皮膚, 感覚器 (解剖6) 視覚器, 聴覚器, 味覚器, 嗅覚器, 皮膚, 体性感覚, 痛覚, 内臓感覚

第7回 血液恒常性維持のため生体内を流動し, 物質を運搬する (解剖7)①~血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能, 血管, リンパ管, 心臓, 血管系, 血圧・血流・脈拍, 循環の調整, リンパ循環

第8回 血液恒常性維持のため生体内を流動し, 物質を運搬する (解剖8)②~血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能, 血管, リンパ管, 心臓, 血管系, 血圧・血流・脈拍, 循環の調整, リンパ循環

第9回 気体を取り込み, 代謝産物を排出する ~呼吸器系 (解剖9) 呼吸器系の構造と機能, ガス交換とガスの運搬, 呼吸運動, 呼吸運動の調整

第10回 食物を取り入れ生体を栄養する ~消化・吸収系① (解剖10) 消化・吸収栄養と代謝

第11回 食物を取り入れ生体を栄養する ~消化・吸収系② (解剖11) 消化・吸収栄養と代謝

第12回 内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す ~内分泌系 (解剖12)

第13回 泌尿器系残渣物・老廃物をより分け排出する ~排泄系 (解剖13)

第14回 生殖器系子孫を残す ~生殖と発生, 個体の維持, 生命のおわり (解剖14) 生殖とは, 男性生殖器, 女性生殖器, 授精・妊娠・分娩

第15回 発生 (解剖15)

第16回 微生物学概論

- 第 17 回 感染の定義と経路
  - 第 18 回 感染に対する防御機構 1
  - 第 19 回 感染に対する防御機構 2
  - 第 20 回 細菌学総論
  - 第 21 回 細菌学各論 1
  - 第 22 回 細菌学各論 2
  - 第 23 回 ウイルス学総論
  - 第 24 回 ウイルス学各論 1
  - 第 25 回 ウイルス学各論 2
  - 第 26 回 真核生物とプリオンによる感染症
  - 第 27 回 感染症の診断と治療
  - 第 28 回 感染症の予防
  - 第 29 回 実験：細菌検査
  - 第 30 回 感染看護：感染看護の動向（ゲストスピーカー）
- 

### 授業以外での学習方法

参考図書は講義初回目に紹介します。 視聴覚教材を活用して理解を深めてください。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（100%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（出席は前提です。）

科目名 フィジカルアセスメントⅡ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 天野 博夫, 江口 豊, 川上 ゆかり, 辻田 靖之, 西 彰子

テーマ

看護に必要な生理学, 薬理学, 病理学等の基礎医学を系統的に学び, フィジカルアセスメントを理解する。

授業の目的 (獲得目標)

1. 人体の構造と機能を関連付けて理解できる. 2. 薬物の人体への影響についての基礎知識を理解する. 3. 病態の理解, 的確な診断および看護援助に役立つ基礎知識を統合できる。

内 容

第1回 筋系からだの枠組みをつくり, 力を発揮する ~骨・筋肉系(生理1)① 骨格, 関節, 骨格筋の構造と機能, 運動の調節, 全身の骨と関節, 全身の骨格筋

第2回 筋系からだの枠組みをつくり, 力を発揮する ~骨・筋肉系(生理2)② 骨格, 関節, 骨格筋の構造と機能, 運動の調節, 全身の骨と関節, 全身の骨格筋

第3回 刺激を伝達し, 情報を処理・指令する ~神経系(生理3)①

第4回 刺激を伝達し, 情報を処理・指令する ~神経系(生理4)②

第5回 生体を包み, 外界と内部機構との応答を促進するシステム~皮膚, 感覚器(生理5)① 視覚器, 聴覚器, 味覚器, 嗅覚器, 皮膚, 体性感覚, 痛覚, 内臓感覚

第6回 生体を包み, 外界と内部機構との応答を促進するシステム~皮膚, 感覚器(生理6)② 視覚器, 聴覚器, 味覚器, 嗅覚器, 皮膚, 体性感覚, 痛覚, 内臓感覚

第7回 血液恒常性維持のため生体内を流動し, 物質を運搬する(生理7)①~血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能, 血管, リンパ管, 心臓, 血管系, 血圧・血流・脈拍, 循環の調整, リンパ循環

第8回 血液恒常性維持のため生体内を流動し, 物質を運搬する(生理8)②~血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能, 血管, リンパ管, 心臓, 血管系, 血圧・血流・脈拍, 循環の調整, リンパ循環

第9回 気体を取り込み, 代謝産物を排出する ~呼吸器系①(生理9) 呼吸器系の構造と機能, ガス交換とガスの運搬, 呼吸運動, 呼吸運動の調整

第10回 気体を取り込み, 代謝産物を排出する ~呼吸器系②(生理10) 呼吸器系の構造と機能, ガス交換とガスの運搬, 呼吸運動, 呼吸運動の調整

第11回 食物を取り入れ生体を栄養する ~消化・吸収系①(生理11) 消化・吸収栄養と代謝

第12回 食物を取り入れ生体を栄養する ~消化・吸収系②(生理12) 消化・吸収栄養と代謝

第13回 内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す ~内分泌系(生理13)

第14回 泌尿器系残渣物・老廃物をより分け排出する ~排泄系(生理14)

第15回 生殖器系子孫を残す ~生殖と発生, 個体の維持, 生命のおわり(生理15) 生殖とは, 男性生殖器, 女性生殖器, 授精・妊娠・分娩

第16回 生体機能の変調 ~病理学の基礎 病理学とは, 病因論

第17回 生体機能の変調 ~病理学の基礎 病理学とは, 病因論

- 第 18 回 先天異常と遺伝子異常
  - 第 19 回 代謝障害
  - 第 20 回 循環障害
  - 第 21 回 炎症と修復
  - 第 22 回 腫瘍
  - 第 23 回 生体機能を補う ～薬学の基礎
  - 第 24 回 薬物療法, 薬理作用と作用機序, 薬物動態
  - 第 25 回 薬物の作用と有害作用
  - 第 26 回 薬物中毒
  - 第 27 回 薬物相互作用
  - 第 28 回 薬物療法に影響を与える因子
  - 第 29 回 医薬品の管理
  - 第 30 回 薬剤と看護
- 

### 授業以外での学習方法

参考文献は初回の授業で提示します。 視聴覚教材を活用して理解を深めてください。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (100%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (出席は前提です.)

科目名 フィジカルアセスメント演習 I

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子, 小野塚 元子, 寺口 佐與子, 西 彰子, 藤原 正恵, 堀 妙子

テーマ

フィジカルアセスメント I と対応し、フィジカルアセスメントの技術を獲得する。

授業の目的（獲得目標）

人体の構造と機能を系統的に理解し、各アセスメントの視点に基づいたフィジカルアセスメントができる。

内 容

第 1 回 1. 科目の構造と位置づけ（関連学問との関係） フィジカルアセスメントとは、看護におけるフィジカルアセスメントの意義 看護における観察の意義、観察の種類、観察の方法

第 2 回 生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム（感覚器）のアセスメント；各器管の形態の観察（眼・鼻・耳・皮膚、爪、毛髪、頭皮） 12 対の脳神経の観察；嗅覚、対光反射、視野、眼球運動、触覚、味覚、聴覚、深部知覚

第 3 回 生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム（感覚器）のアセスメント；各器管の形態の観察（眼・鼻・耳・皮膚、爪、毛髪、頭皮） 12 対の脳神経の観察；嗅覚、対光反射、視野、眼球運動、触覚、味覚、聴覚、深部知覚

第 4 回 生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム（感覚器）のアセスメント；各器管の形態の観察（眼・鼻・耳・皮膚、爪、毛髪、頭皮） 12 対の脳神経の観察；嗅覚、対光反射、視野、眼球運動、触覚、味覚、聴覚、深部知覚

第 5 回 刺激を伝達し、情報を処理・指令するシステムのアセスメント（神経系）；生命維持機能、小脳機能の判定、腱反射の評価、高次機能の評価

第 6 回 刺激を伝達し、情報を処理・指令するシステムのアセスメント（神経系）；生命維持機能、小脳機能の判定、腱反射の評価、高次機能の評価

第 7 回 刺激を伝達し、情報を処理・指令するシステムのアセスメント（神経系）；生命維持機能、小脳機能の判定、腱反射の評価、高次機能の評価

第 8 回 恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬するシステムについてのアセスメント；循環器系の問診、視診、打診、触診、心音の聴取、異常心音の観察、血圧の測定、脈拍の観察

第 9 回 恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬するシステムについてのアセスメント；循環器系の問診、視診、打診、触診、心音の聴取、異常心音の観察、血圧の測定、脈拍の観察

第 10 回 恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬するシステムについてのアセスメント；循環器系の問診、視診、打診、触診、心音の聴取、異常心音の観察、血圧の測定、脈拍の観察

第 11 回 気体を取り込み、代謝産物を排出するシステムについてのアセスメント；呼吸器系の問診、視診、打診、触診、呼吸音の聴取、異常呼吸の観察、肺活量

第 12 回 気体を取り込み、代謝産物を排出するシステムについてのアセスメント；呼吸器系の問診、視診、打診、触診、呼吸音の聴取、異常呼吸の観察、肺活量



第 13 回 体腔温の恒常性を保ち燃焼反応を調節するシステムのアセスメント～体温 皮膚温と深部温, 生理的変動体温の観察とアセスメント

第 14 回 体腔温の恒常性を保ち燃焼反応を調節するシステムのアセスメント～体温 皮膚温と深部温, 生理的変動体温の観察とアセスメント

第 15 回 体腔温の恒常性を保ち燃焼反応を調節するシステムのアセスメント～体温 皮膚温と深部温, 生理的変動体温の観察とアセスメント

---

### 授業以外での学習方法

・フィジカルアセスメント I II の知識を活用できるように, 視聴覚教材を用いて知識の理解を深めてください。・技術の習得は 1 回では困難です。主体的に練習を行ってください。

---

### 教科書

書籍 1 : フィジカルアセスメント完全ガイド

著者 1 : 藤崎郁

出版社 1 : Gakken

出版年 1 : 2001

ISBN1 : 4-5-152110-9

### 参考書

書籍 1 : フィジカルアセスメントガイドブック

著者 1 : 山内豊明

出版社 1 : 医学書院

出版年 1 : 2005

ISBN1 : 4-260-114-0

書籍 2 : フィジカルアセスメント

著者 2 : 日野原重明

出版社 2 : 医学書院

出版年 2 : 1978

ISBN2 : 4-260-00233-3

書籍 3 : ヘルスアセスメント

著者 3 : 川村佐和子他編

出版社 3 : メディカ出版

出版年 3 : 2004

ISBN3 : 4-8401-0828-9

---

### 成績評価

試験 (60) 小テスト ( ) 授業中課題 (20) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20) 備考 (・試験にはペーパー試験, 実技試験が含まれます。)

科目名 フィジカルアセスメント演習Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子, 伊藤 恵美子, 小野塚 元子, 寺口 佐與子, 西 彰子, 松本 賢哉

テーマ

フィジカルアセスメントⅡと対応し、フィジカルアセスメントの技術を獲得する。

授業の目的（獲得目標）

1. 人体の構造と機能を系統的に理解し、各アセスメントの視点に基づいたフィジカルアセスメントができる。
2. 身体の機能と構造の知識を活用して、身体の状態を観察し健康状態の評価ができる。

内 容

第1回 食物を取り入れ生体を栄養するシステムのアセスメント 消化器系のアセスメント；腹部の問診，視診，触診，打診，聴診

第2回 食物を取り入れ生体を栄養するシステムのアセスメント 消化器系のアセスメント；腹部の問診，視診，触診，打診，聴診

第3回 栄養状態のアセスメント（身体計測，食生活の評価：身長・体重測定，肥満度測定，肥脂厚測定，頭囲・腹囲測定

第4回 栄養状態のアセスメント（身体計測，食生活の評価：身長・体重測定，肥満度測定，肥脂厚測定，頭囲・腹囲測定

第5回 栄養状態のアセスメント（身体計測，食生活の評価：身長・体重測定，肥満度測定，肥脂厚測定，頭囲・腹囲測定

第6回 梶谷，道重 からだの枠組みをつくり，力を発揮するシステムのアセスメント，ROM測定，MMT測定，ADLのアセスメント

第7回 梶谷，道重 からだの枠組みをつくり，力を発揮するシステムのアセスメント，ROM測定，MMT測定，ADLのアセスメント

第8回 梶谷，道重 からだの枠組みをつくり，力を発揮するシステムのアセスメント，ROM測定，MMT測定，ADLのアセスメント

第9回 梶谷，道重 からだの枠組みをつくり，力を発揮するシステムのアセスメント，ROM測定，MMT測定，ADLのアセスメント

第10回 残渣物・老廃物をより分け排出するシステムのアセスメント 尿の観察（尿検査），便の観察

第11回 残渣物・老廃物をより分け排出するシステムのアセスメント 尿の観察（尿検査），便の観察

第12回 残渣物・老廃物をより分け排出するシステムのアセスメント 尿の観察（尿検査），便の観察

第13回 症状アセスメント

第14回 症状アセスメント

第15回 症状アセスメント

## 授業以外での学習方法

・時間割内のだけで技術の習得は困難です。主体的に実習室にて練習してください。・内容の理解を深めるために視聴覚教材も準備していますので参考にしてください。

---

## 教科書

書籍 1 : フィジカルアセスメント完全ガイド

著者 1 : 山崎郁

出版社 1 : Gakken

出版年 1 : 2001

ISBN1 : 4-5-152110-9

書籍 2 : よくわかる栄養学

著者 2 : 津田とみ

出版社 2 : 金原出版

出版年 2 : 2007

ISBN2 : 9784307702041

## 参考書

書籍 1 : ナースに必要な診断の知識と技術

著者 1 : 日野原重明編集

出版社 1 : 医学書院

出版年 1 : 1978

ISBN1 : 4-260-233--3

書籍 2 : ヘルスアセスメント

著者 2 : 川村佐和子編

出版社 2 : メディカ出版

出版年 2 : 2004

ISBN2 : 4-8404-828-9

書籍 3 : フィジカルアセスメントガイドブック

著者 3 : 山内豊明

出版社 3 : 医学書院

出版年 3 : 2005

ISBN3 : 4-260-114--0

---

## 成績評価

試験 (60) 小テスト ( ) 授業中課題 (20) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20) 備考 (試験にはペーパー試験, 実技試験を含みます。)

科目名 異文化コミュニケーション論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 戸塚 規子

テーマ

多文化共生社会における異文化理解と看護の異文化コミュニケーション技術

授業の目的（獲得目標）

1. 文化とコミュニケーションの概念を総体的に理解し、看護における異文化理解の意義と必要性を認識する
2. 対人コミュニケーションの要素と発展過程を理解する
3. 人々の生活・ライフサイクルにおける文化現象を異文化コミュニケーションの側面から理解する
4. 多文化共生社会の人々のライフサイクル・生活における文化的側面を理解する
5. 看護実践に必要な異文化コミュニケーション技術を学ぶ

内 容

- 第1回 文化およびコミュニケーションの基礎概念
- 第2回 対人コミュニケーションの要素
- 第3回 異文化への対応と適応モデル
- 第4回 コミュニケーションの発展過程
- 第5回 人々の生活・ライフサイクルにおける文化現象
- 第6回 人々の生活と文化の多様性
- 第7回 看護における異文化コミュニケーション技術
- 第8回 文化の違いを考慮した看護の必要性
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

授業以外での学習方法

特になし

教科書

書籍1 : 特に指定しない

参考書

**成績評価**

試験（終了時レポート(70 %)）小テスト（）授業中課題(10 %) 授業中発表等(10 %) 参加度(10 %)  
備考（）

科目名 家族看護学

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 神崎 光子・加藤 さゆり・河原 宣子・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

家族看護に関する理論的知識体系を学び、家族の持つ健康課題に取り組む看護の役割を考える。

授業の目的（獲得目標）

1. 家族とは何かを考える 2. 家族理解のための諸理論を知る 3. 家族看護に関する代表的な諸理論を知る 4. ライフサイクル各期における家族看護を理解する

内 容

第1回 家族とは、家族機能とは、家族看護学の軌跡と対象

第2回 家族理解のための諸理論

第3回 家族アセスメントモデル・介入モデル、家族看護過程

第4回 ライフサイクル各期における家族看護（家族形成期の援助）

第5回 ライフサイクル各期における家族看護（病児を持つ家族の援助）

第6回 ライフサイクル各期における家族看護（成人期慢性疾患を持つ家族の援助）

第7回 ライフサイクル各期における家族看護（精神障害者を持つ家族の援助）

第8回 ライフサイクル各期における家族看護（在宅における高齢者介護の家族援助）

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（100%）授業中発表等（0）参加度（0）備考（100%出席が原則である。各回の担当教員（オムニバス）により、講義中に出された課題の到達度を合計して成績とする。課題の未提出は、

大幅な減点となるので注意すること。)

科目名 情報科学 I <A>

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小田内 尚美

### テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

### 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

### 内 容

- 第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴
- 第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス
- 第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット
- 第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力
- 第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存
- 第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成
- 第 7 回 Word2003 (4) 練習問題
- 第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作
- 第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数
- 第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集
- 第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題
- 第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成
- 第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 テストとまとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術



参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 情報科学 I <B>

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小田内 尚美

### テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

### 授業の目的（獲得目標）

Word や Excel を活用し、レポート課題などの様々な文書を作成する力を身に付ける。また、研究発表の際に、PowerPoint を使った効果的な技法を身に付ける。

### 内 容

第 1 回 パソコンの基本操作 WindowsXP (OS) の基本操作、ファイルとフォルダ操作、タッチタイピング、日本語入力、様々なアプリケーションの特徴

第 2 回 セキュリティと情報モラル (1) セキュリティとは、コンピュータウイルス、不正アクセス

第 3 回 セキュリティと情報モラル (2) 情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、情報社会のルールとマナー、エチケット

第 4 回 Word2003 (1) Word の起動、画面構成、表示方法、タッチタイピング、文字入力

第 5 回 Word2003 (2) 文書の編集、行の分割と結合、文字の移動・複写、表示倍率の変更、ファイルの保存

第 6 回 Word2003 (3) ページ設定、ヘッダー/フッター、印刷、表の作成

第 7 回 Word2003 (4) 練習問題

第 8 回 Excel2003 (1) Excel の起動、文字/数値の入力、セルの操作

第 9 回 Excel2003 (2) 表の作成、計算/編集/印刷、関数

第 10 回 Excel2003 (3) 関数、グラフの作成、編集

第 11 回 Excel2003 (4) 練習問題

第 12 回 PowerPoint (1) PowerPoint の起動、プレゼンテーションの基本、プレゼンテーション作成

第 13 回 PowerPoint (2) 図表の挿入、Excel の表の挿入、特殊効果の設定

第 14 回 総復習

第 15 回 テストとまとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書

書籍 1 : 繰り返して慣れる! Word&Excel2003

出版社 1 : noa 出版

書籍 2 : 文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶ Office 活用術

参考書

---

成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 情報科学 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 情報科学Ⅱ <A>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小田内 尚美

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メールを活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 情報科学Ⅱ <B>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小田内 尚美

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の目的（獲得目標）

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 内 容

第1回 情報活用力とは

第2回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(1回目)

第3回 情報検索 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ) 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第5回 数値分析Ⅰ 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回 数値分析Ⅱ 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。

第7回 データベース 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回 ファイル・データ管理 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。

第9回 インターネットコミュニケーションⅠ メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対応等)や掲示板の特性を理解する。

第10回 インターネットコミュニケーションⅡ コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。

第11回 文書表現 ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第12回 ビジュアル表現 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第13回 プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第14回 ICT 利活用力診断テスト Rasti 試験(2回目)

第15回 プレゼンテーションⅡ これまでの授業で学んだことを活かし、プレゼンテーション資料を作成する。

## 授業以外での学習方法

## 教科書

書籍 1 : 考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テスト Rasti の 2 回分の受験料を含む)

出版社 1 : noa 出版

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (40%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

---

科目名 情報科学Ⅱ

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 通年 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 論理的思考

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梅本 裕

テーマ

論理的思考の基礎を講義と演習によって身につける

### 授業の目的（獲得目標）

看護の研究と実践に必要な論理的思考の基礎を身につける。（1）思考を深めるための定型を、書きことばと話しことばの両面にわたって身につける。（2）作文と作文の添削という二つの方法により、見学や実習の体験を文章化する技法に習熟する。前半は、受講生がひとまとまりの文章を書き、それをクラスで検討する。翻訳書や論文の文章も検討する。後半はディベートを学ぶことにより主張と根拠の関係を理解し、論理的な文章やディスコースの特質を理解する。授業には常に国語辞書（電子辞書でよいが、携帯電話の辞書機能利用は推奨しない）

### 内 容

- 第1回 200字で作文する
- 第2回 単位文と一文一義
- 第3回 明晰な文体の7原則
- 第4回 論理展開と接続のことば
- 第5回 語句と段落（その1）
- 第6回 語句と段落（その2）
- 第7回 文章推敲の演習
- 第8回 作文演習1
- 第9回 作文演習2
- 第10回 ディベートとは何か？
- 第11回 ディベート演習1：立論の方法
- 第12回 ディベート演習2：質疑の方法
- 第13回 ディベート演習3：反駁の方法
- 第14回 看護実践における論理的思考（その1）
- 第15回 看護実践における論理的思考（その2）

### 授業以外での学習方法

日ごろより本をたくさん読もう。また、文章を書く時には、常に一文一義の文体で書くように心がけよう。

### 教科書

**成績評価**

試験（60%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 統計学基礎論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡本 哲弥

テーマ

統計学の基礎的な知識を修得する。

授業の目的（獲得目標）

看護に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 調査方法とデータの種類
- 第3回 度数分布表とヒストグラム
- 第4回 基本統計量：代表値
- 第5回 基本等計量：ちらばり
- 第6回 確率分布（二項分布）
- 第7回 確率分布（正規分布）
- 第8回 グラフ化と分割表
- 第9回 散布図と相関係数
- 第10回 回帰分析（回帰式）
- 第11回 回帰分析（分散分析表）
- 第12回 分割表の分析（オッズ比、連関係数）
- 第13回 分割表の検定（カイ2乗検定）
- 第14回 偏差値
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

日頃、新聞などに掲載されている統計データを解釈してみる。

教科書

書籍1 : プリントを配布する予定

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（70%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 学校保健

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 堀井 節子

---

テーマ

学校保健の基礎理論

---

### 授業の目的（獲得目標）

1. 教育における学校保健活動の意義を理解する。 2. 児童生徒の心身の発達と健康課題を理解する。 3. 学校における保健管理・保健教育・保健組織活動を理解する。 4. 学校保健の今日的な課題と展望を理解する。

---

### 内 容

第1回 学校保健の概説（学校保健の意義・内容・変遷）

第2回 学校保健の概説（学校保健関係職員、保健室）

第3回 児童生徒の心身の発達と健康

第4回 児童生徒の健康課題

第5回 健康診断

第6回 健康観察・保健指導、疾病管理

第7回 感染症対策、救急処置、学校安全

第8回 保健室の経営（演習）

第9回 健康教育

第10回 健康教育（演習：保健指導案の作成）

第11回 健康教育（演習：保健指導の実施と評価）

第12回 精神保健

第13回 健康相談、環境衛生

第14回 学校保健安全計画・学校保健組織活動

第15回 学校保健の今日的課題と展望

第16回 テスト

---

### 授業以外での学習方法

学校教育や学校保健に関するトピックスなど把握に努める。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）

科目名 養護概説

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 寺口 佐與子

テーマ

学校保健における養護教諭の役割を理解し、児童生徒の健康維持増進および健康問題解決に必要な知識と方法を学習する

授業の目的（獲得目標）

1. 養護教諭の役割と職務が理解できる 2. 学校における児童・生徒の健康問題の把握と支援の方法が理解できる 3. 養護教諭が行う保健指導、保健教育が理解できる

内 容

第1回 養護の本質と養護教諭の役割

第2回 学校保健に関する規程と保健室の経営

第3回 養護教諭が行う活動Ⅰ：健康問題の把握と事後措置 1) 健康観察 2) 健康診断

第4回 養護教諭が行う活動Ⅱ：健康問題と支援①

第5回 健康問題と支援②

第6回 健康問題と支援③

第7回 健康問題と支援④

第8回 健康問題と支援⑤

第9回 環境保健活動

第10回 学校安全活動

第11回 健康教育①

第12回 健康教育②

第13回 健康教育③

第14回 養護教諭の職務の実際

第15回 保健学習

第16回 試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%) 小テスト ( ) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (10%) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 精神保健

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 北尾 敬子

テーマ

1 養護教育に必要な心理学知識 2 養護教育に生かすカウンセリングとグループワーク

授業の目的（獲得目標）

養護教諭として必要な心理学の知識とカウンセリングやグループワークの技法を習得すること。

内 容

第1回 オリエンテーション : 養護教諭の役割について 自己紹介シート記入

第2回 心の発達1 フロイト、エリクソン、ピアジェ、コフート

第3回 心の発達2 愛着理論 ボールビィ、アインスワース、メイン

第4回 発達障害1 知能の発達と社会性の発達 WISC WAIS

第5回 発達障害2 自閉症、ADHD、LD

第6回 性の発達 性の心理学 性教育

第7回 ストレス セリエのストレス理論 PTSD

第8回 学童期・思春期の問題 1

第9回 学童期・思春期の問題 2 不登校、いじめ、非行

第10回 1回目から9回目までのテスト

第11回 カウンセリング

第12回 ロールプレイ 1

第13回 ロールプレイ 2

第14回 交流分析とエゴグラム

第15回 グループワーク 1

第16回 グループワーク 2

授業以外での学習方法

授業で使用したプリントや参考資料を読み、翌週の授業の質問時間に疑問点を解決する。また、希望者には一部参考図書を貸し出すので、それらを読み、理解を深める。

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（）備考（）

科目名 芸術と癒し <a>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 山本 善則

テーマ

芸術が人にもたらす力とは何かを感じ取る。

授業の目的（獲得目標）

芸術とは何であるかを様々な分野から具体的に見つめ、より芸術に対しての理解を深めていく。

内 容

第1回 笑いと芸術1

第2回 全ての芸術の本質とは？

第3回 笑いと芸術2

第4回 自然と芸術

第5回 健康と芸術

第6回 芸術は五感で捉える

第7回 料理と芸術

第8回 音楽と芸術1

第9回 表現者と聴衆

第10回 音楽と芸術2

第11回 ミュージカルから見る、人のリアクションと芸術

第12回 アミューズメントと芸術1

第13回 映画と芸術

第14回 アミューズメントと芸術2

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で行われた内容を、自身の生活の中でも良く感じ取ること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 芸術と癒し <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 日本美術史

クラス Z 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 論理的思考

クラス

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 日本人の宗教と福祉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮城 洋一郎

テーマ

日本人の宗教観と福祉文化

### 授業の目的（獲得目標）

日本社会が伝統として培ってきた宗教の文化的土壌を理解し、福祉との関連を学ぶ。そこから、宗教的な見方、考え方を通じて、人間関係の形成や看護のあり方に豊かな意味を持たせることを理解し、実践に生かしていく態度を形成する。

### 内 容

- 第1回 授業の進め方：日本の宗教に関する基礎知識の確認。日本人の宗教観の多様性を学ぶ。
- 第2回 日本社会の宗教的土壌を考える：通過儀礼の概要およびその社会的意義を理解し、神道と民俗行事から福祉的土壌を理解する。
- 第3回 仏教の福祉思想：原始仏典、大乘仏典にみる平等思想、慈悲観から福祉思想の基盤を理解する。
- 第4回 日本仏教と社会的実践①：古代編・聖徳太子、行基、最澄、空海の思想、実践を検証して、福祉実践の意義を考える。
- 第5回 日本仏教と社会的実践②：中世編・法然、親鸞、叡尊、忍性の思想、実践を検証して、福祉実践の意義を考える。
- 第6回 日本仏教と社会的実践③：近世編・鉄眼、無能の思想、実践を検証して、福祉実践の意義を考える。
- 第7回 墓制、葬送儀礼をとおして地域社会の相互扶助の形成について考える。
- 第8回 臨終行儀をとおして、死の看取りについて考える。
- 第9回 近代社会の形成と宗教者の福祉実践①：近代の社会問題と救済施策
- 第10回 近代社会の形成と宗教者の福祉実践②：キリスト者の慈善事業を学ぶ・石井十次と岡山孤児院
- 第11回 近代社会の形成と宗教者の福祉実践③：キリスト者の慈善事業を学ぶ・留岡幸助と家庭学校
- 第12回 近代社会の形成と宗教者の福祉実践④：キリスト者の慈善事業を学ぶ・石井亮一と瀧乃川学園
- 第13回 近代社会の形成と宗教者の福祉実践⑤：仏教者の感化救済事業・渡辺海旭と浄土宗労働共済会
- 第14回 現代社会の宗教と福祉・医療①：終末期医療と仏教看護について
- 第15回 現代社会の宗教と福祉・医療②：脳死、臓器移植の論議と宗教者の立場
- 第16回 全体のまとめと筆記試験：獲得目標の確認

### 授業以外での学習方法

授業ごとに、提示された課題の整理に努める。配付された講義要約、資料等を点検、復習していくこと。

### 教科書

## 参考書

書籍 1 : 原典仏教福祉

出版社 1 : 北辰堂

出版年 1 : 1995

書籍 2 : 仏教社会福祉辞典

出版社 2 : 法蔵館

出版年 2 : 2006

---

## 成績評価

試験 (60%) 小テスト ( ) 授業中課題 (コメント提出 40%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈A〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション

第3回 文献検索について（2）

第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第10回 文献講読及びディスカッション（1）

第11回 文献講読及びディスカッション（2）

第12回 文献講読及びディスカッション（3）

第13回 文献講読及びディスカッション（4）

第14回 文献講読及びディスカッション（5）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈B〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 寺口 佐與子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション

第3回 文献検索について（2）

第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第10回 文献講読及びディスカッション（1）

第11回 文献講読及びディスカッション（2）

第12回 文献講読及びディスカッション（3）

第13回 文献講読及びディスカッション（4）

第14回 文献講読及びディスカッション（5）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈C〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション

第3回 文献検索について（2）

第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第10回 文献講読及びディスカッション（1）

第11回 文献講読及びディスカッション（2）

第12回 文献講読及びディスカッション（3）

第13回 文献講読及びディスカッション（4）

第14回 文献講読及びディスカッション（5）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈D〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 加藤 さゆり

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション

第3回 文献検索について（2）

第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第10回 文献講読及びディスカッション（1）

第11回 文献講読及びディスカッション（2）

第12回 文献講読及びディスカッション（3）

第13回 文献講読及びディスカッション（4）

第14回 文献講読及びディスカッション（5）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )



科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈E〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹下 夏美

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション

第3回 文献検索について（2）

第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第10回 文献講読及びディスカッション（1）

第11回 文献講読及びディスカッション（2）

第12回 文献講読及びディスカッション（3）

第13回 文献講読及びディスカッション（4）

第14回 文献講読及びディスカッション（5）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈F〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション

第3回 文献検索について（2）

第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第10回 文献講読及びディスカッション（1）

第11回 文献講読及びディスカッション（2）

第12回 文献講読及びディスカッション（3）

第13回 文献講読及びディスカッション（4）

第14回 文献講読及びディスカッション（5）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈G〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤原 正恵

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション
- 第3回 文献検索について（2）
- 第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）
- 第10回 文献講読及びディスカッション（1）
- 第11回 文献講読及びディスカッション（2）
- 第12回 文献講読及びディスカッション（3）
- 第13回 文献講読及びディスカッション（4）
- 第14回 文献講読及びディスカッション（5）
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈H〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高田 早苗

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション

第3回 文献検索について（2）

第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第10回 文献講読及びディスカッション（1）

第11回 文献講読及びディスカッション（2）

第12回 文献講読及びディスカッション（3）

第13回 文献講読及びディスカッション（4）

第14回 文献講読及びディスカッション（5）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈I〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹 明美

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション

第3回 文献検索について（2）

第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第10回 文献講読及びディスカッション（1）

第11回 文献講読及びディスカッション（2）

第12回 文献講読及びディスカッション（3）

第13回 文献講読及びディスカッション（4）

第14回 文献講読及びディスカッション（5）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅲ（看護）〈J〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 文献検索について（1） 図書館オリエンテーション

第3回 文献検索について（2）

第4回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第8回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第9回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第10回 文献講読及びディスカッション（1）

第11回 文献講読及びディスカッション（2）

第12回 文献講読及びディスカッション（3）

第13回 文献講読及びディスカッション（4）

第14回 文献講読及びディスカッション（5）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈A〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈B〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈C〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 寺口 佐與子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈D〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈E〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 加藤 さゆり

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈F〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹下 夏美

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )



科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈G〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈H〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤原 正恵

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈Ⅰ〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高田 早苗

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習Ⅳ（看護）〈J〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹 明美

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の目的（獲得目標）

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（1）

第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する（2）

第4回 テーマに基づき文献検索を行う（1）

第5回 テーマに基づき文献検索を行う（2）

第6回 テーマに基づき文献検索を行う（3）

第7回 テーマに基づき文献検索を行う（4）

第8回 文献講読及びディスカッション（1）

第9回 文献講読及びディスカッション（2）

第10回 文献講読及びディスカッション（3）

第11回 文献講読及びディスカッション（4）

第12回 文献講読及びディスカッション（5）

第13回 卒業演習発表会への参加など

第14回 卒業演習発表会についての情報・意見交換など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献は事前に読み、自分の考えや疑問を明らかにしておく。疑問については自分で調べておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 国際看護学 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹下 夏美, 河原 宣子, 戸塚 規子

テーマ

国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考える

授業の目的（獲得目標）

1. 国際看護・異文化看護について理解するとともに、基礎的な知識を習得する 2. 医療（主として看護）における国際協力の実際を知る 3. 多文化共生社会における看護活動の考え方を理解することができる

内 容

- 第1回 授業ガイダンス、国際保健・国際看護とは何か
- 第2回 国際保健と国際協力、国際協力の実際の事例(JOCV, SHARE)
- 第3回 国際看護と異文化看護、国際協力と開発の思想
- 第4回 日本の看護職による国際協力活動の歴史と変遷
- 第5回 NGOの役割と動向
- 第6回 世界の人々の健康にかかわる諸要因
- 第7回 国際協力に一般的に必要とされる能力、開発途上国で必要とされる知識・技術
- 第8回 文化の違いを考慮した看護
- 第9回 外国人看護師候補生の現状と課題
- 第10回 国際協力の実際① 日本赤十字の医療活動
- 第11回 国際協力の実際② 母子保健、リプロダクティブヘルス
- 第12回 国際協力の実際③ 国際看護と看護管理
- 第13回 国際協力の実際④ 国際看護と看護教育
- 第14回 在日外国人の医療と看護
- 第15回 多文化共生社会における看護について考える（まとめ）

授業以外での学習方法

授業の内容と日程は、外部講師との関連で変更する場合があります。授業に関連した事前学習について、授業中提示したいと思っています。また、学生の皆さん自身も様々なメディアを通じて、世界の動向について、日常的に考える習慣を身につけましょう。また、国内外を問わず、医療や看護に関連した内容について興味・関心をもって考えてみましょう。

教科書

書籍1 : 国際看護学入門

著者1 : 国際看護研究会

出版社 1 : 医学書院  
出版年 1 : 2009  
書籍 2 : 世界の出版  
出版社 2 : 勉誠出版  
出版年 2 : 2011

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (15) 参加度 (15) 備考 ( )

科目名 実践看護学 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子, 小野塚 元子, 片山 由加里, 河原 宣子, 寺口 佐與子, 藤原 正恵, 堀 妙子, 松本 賢哉

テーマ

これまでの学習を踏まえ、発達段階や人間の基本的ニードと関連させながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

1. ライフサイクル各期における人間の基本的ニードを理解する。 2. ライフサイクル各期における日常生活援助を中心とした看護方法を理解する。 3. 看護過程の意義および必要性を理解する。

内 容

- 第1回 看護過程の意義－看護の目的・対象・方法を再確認する
- 第2回 対人関係プロセスとコミュニケーション
- 第3回 対人関係プロセスとコミュニケーション
- 第4回 対人関係プロセスとコミュニケーション
- 第5回 看護過程の要素－情報収集
- 第6回 看護過程の要素－情報収集
- 第7回 看護過程の要素－情報の整理
- 第8回 看護過程の要素－情報の整理
- 第9回 看護過程の要素－情報の分析
- 第10回 看護過程の要素－情報の分析
- 第11回 看護過程の要素－健康問題・課題の明確化
- 第12回 看護過程の要素－健康問題・課題の明確化
- 第13回 看護過程の要素－看護計画
- 第14回 看護過程の要素－実施, 評価
- 第15回 看護過程と記録
- 第16回 看護の方法論－ライフサイクル各期の心身の特徴を理解した日常生活援助の意義
- 第17回 看護技術の安全性・安楽性・経済性
- 第18回 環境とは－生活環境の安全性・安楽性, 環境を整えることの意義
- 第19回 スタンダードプリコーションの考え方
- 第20回 ボディメカニクス, 廃用性症候群
- 第21回 身体活動の援助－活動の意義, ライフサイクル各期の特徴
- 第22回 身体活動の援助－健康レベルに応じた身体活動の方法
- 第23回 身体の清潔の援助－清潔の意義, ライフサイクル各期の特徴
- 第24回 身体の清潔の援助－ライフサイクル各期の身体の清潔方法

- 第 25 回 身体の清潔の援助－健康レベルに応じた清潔方法  
第 26 回 食事の援助－食事の意義，ライフサイクル各期の特徴  
第 27 回 食事の援助－ライフサイクル各期の食事方法，健康レベルに応じた食事の方法  
第 28 回 排泄を整える援助－排泄の意義，ライフサイクル各期の特徴  
第 29 回 排泄を整える援助－ライフサイクル各期の排泄方法  
第 30 回 排泄を整える援助－健康レベルに応じた排泄方法
- 

### 授業以外での学習方法

・看護過程のテキストに関しては講義開始時に提示します。 ・この科目は実践看護学演習と密接にかかわっており、演習の理論編ともいえます。2つの科目を関連づけながら理解してください。 ・視聴覚教材も揃えていますので、活用してください。

---

### 教科書

書籍 1 : 根拠がわかる基礎看護技術  
著者 1 : 岡崎美知子, 角濱春美編集  
出版社 1 : メヂカルフレンド社  
出版年 1 : 2008  
ISBN1 : 9784839214616

### 参考書

書籍 1 : NEW なぜ？がわかる看護技術 LESSON  
著者 1 : 大岡良枝, 大谷真千子  
出版社 1 : Gakken  
出版年 1 : 2006  
ISBN1 : 4-05-152322-5  
書籍 2 : 基礎看護技術  
著者 2 : 香春知永, 齋藤やよい  
出版社 2 : 南江堂  
出版年 2 : 2009  
ISBN2 : 9784524247738  
書籍 3 : 基礎看護技術 I II  
著者 3 : 氏家幸子, 阿曾洋子  
出版社 3 : 医学書院  
出版年 3 : 1982  
ISBN3 : 4-260-33051-9

---

### 成績評価

試験 (60%) 小テスト ( ) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 実践看護学Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子, 伊藤 恵美子, 小野塚 元子, 梶谷 佳子, 片山 由加里, 高田 早苗, 竹 明美, 竹下 夏美, 寺口 佐與子, 藤原 正恵, 堀 妙子, 松本 賢哉

テーマ

実践看護学Ⅰを踏まえ、さまざまな看護の対象と家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

1. 急性期・回復期・リハビリテーション期・慢性期・終末期の健康レベルの考え方を理解する。 2. 健康レベルの各期における看護過程についてライフサイクルを踏まえて理解する。 なお、授業は「橘薫」の事例を基に展開する。

内 容

- 第1回 1. ガイダンス（実践看護学演習Ⅱを含む） 2. 本授業科目の位置づけ 3. 健康レベルの概念
- 第2回 1. 健康レベルと看護過程 2. 急性期-回復期-リハビリテーション期-慢性期-終末期
- 第3回 対人関係プロセス①：コミュニケーション
- 第4回 対人関係プロセス②：精神状態のアセスメント
- 第5回 急性期における看護の特徴①
- 第6回 急性期における看護の特徴②
- 第7回 急性期における看護の特徴③
- 第8回 急性期における看護過程①
- 第9回 急性期における看護過程②
- 第10回 急性期における看護過程③
- 第11回 急性期における看護過程④
- 第12回 急性期における看護過程⑤
- 第13回 急性期における看護過程⑥
- 第14回 急性期における看護過程⑦
- 第15回 周手術期における看護の特徴
- 第16回 術前の看護過程①
- 第17回 術前の看護過程②
- 第18回 術前の看護過程③
- 第19回 術中の看護過程
- 第20回 術直後の看護過程
- 第21回 回復期・リハビリテーション期における看護の特徴 回復期から退院までの看護過程①
- 第22回 回復期から退院までの看護過程②
- 第23回 回復期から退院までの看護過程③

第 24 回 回復期から退院までの看護過程④

第 25 回 回復期から退院までの看護過程⑤

第 26 回 回復期から退院までの看護過程⑥

第 27 回 回復期から退院までの看護過程⑦

第 28 回 回復期から退院までの看護過程⑧

第 29 回 回復期から退院までの看護過程⑨

第 30 回 回復期から退院までの看護過程⑩ まとめ なお外部講師を招いて講演会を実施することがある

---

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (60%) 小テスト (40%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |  |     |  |
|-------|--|-----|--|
| 科目名   | 実践看護学演習 I  |     |  |
| クラス   | 配当回生   | 2回生 |  |
| 講義期間  | 前期   | 定員  |  |
| 履修条件  |  |     |  |
| クラス指定 |  |     |  |
| 担当者   | 梶谷 佳子・伊藤 恵美子・小野塚 元子・片山 由加里・河原 宣子・寺口 佐與子・藤原 正恵・堀 妙子・松本 賢哉 |     |  |

### テーマ

実践看護学 I と対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における発達段階や人間の基本的ニーズに応じた必要な看護技術とその適応方法を学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

1. ライフサイクル各期における日常生活援助の看護方法を修得する。 2. 様々な場における日常生活援助の看護方法を修得する。 3. 基本的ニーズの充足を図る看護の重要性を理解できる。 4. 看護実践の評価の必要性が理解できる。

### 内 容

- 第1回 【環境調整技術】基本的なベッドメイキング
- 第2回 基本的なベッドメイキング
- 第3回 リネンチェンジ, 環境整備
- 第4回 リネンチェンジ, 環境整備
- 第5回 発達段階に応じたリネン; サークルベッドのベッドメイキング
- 第6回 【活動・休息援助技術】安楽な体位
- 第7回 体位変換 (ベッド上での体位を変える・ベッド上で移動する)
- 第8回 車椅子での移乗・移送
- 第9回 ストレッチャーでの移乗・移送
- 第10回 発達段階に応じた移動: 杖・歩行器・老人カー・おんぶひも (スリング)
- 第11回 廃用性症候群の予防
- 第12回 【清潔・衣生活の援助】臥床患者の清拭
- 第13回 臥床患者の清拭
- 第14回 臥床患者の寝衣交換
- 第15回 臥床患者の洗髪
- 第16回 臥床患者の洗髪
- 第17回 部分浴: 足浴, 手浴, 陰部洗浄
- 第18回 部分浴: 足浴, 手浴, 陰部洗浄
- 第19回 口腔ケア
- 第20回 口腔ケア
- 第21回 発達段階に応じた清潔の援助; 沐浴・寝衣交換
- 第22回 整容: ひげ剃り, 爪きり, アルコール結髪, 義歯の手入れ
- 第23回 【食事の援助技術】患者の状態に応じた食事援助

- 第 24 回 患者の状態に応じた食事援助
  - 第 25 回 発達段階に応じた食事の援助；離乳食，調乳
  - 第 26 回 【排泄援助技術】便器・尿器での援助
  - 第 27 回 便器・尿器での援助，ポータブルトイレでの援助
  - 第 28 回 発達段階に応じた排泄の援助；おむつ，おまるの援助
  - 第 29 回 発達段階に応じた排泄の援助；おむつ，おまるの援助
  - 第 30 回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

・実践看護学に基いた演習を行います。・授業時間だけの経験では身につけません。実習室使用可能日にしっかりと練習してください。・視聴覚教材を大いに活用してください。

---

### 教科書

書籍 1 : 根拠がわかる基礎看護技術  
著者 1 : 岡崎美知子，角濱春美編  
出版社 1 : メヂカルフレンド社  
出版年 1 : 1998  
ISBN1 : 9744832914616

### 参考書

書籍 1 : NEW なぜ？がわかる看護 LESSON  
著者 1 : 大岡良枝，大谷真千子編  
出版社 1 : Gakken  
出版年 1 : 2006  
ISBN1 : 4-5-152322-5  
書籍 2 : 基礎看護技術  
著者 2 : 香春知永，齋藤やよい編  
出版社 2 : 南江堂  
出版年 2 : 2009  
ISBN2 : 978452424773-  
書籍 3 : 基礎看護技術 I II  
著者 3 : 氏家幸子，阿曾洋子  
出版社 3 : 医学書院  
出版年 3 : 1982  
ISBN3 : 4-260-33051-9

---

### 成績評価

試験 (60) 小テスト ( ) 授業中課題 (20) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20) 備考 (・試験はペーパー試験と実技試験です。)



## 2010 Syllabus

科目名 実践看護学演習Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

## 履修条件

## クラス指定

担当者 河原 宣子. 伊藤 恵美子. 小野塚 元子. 梶谷 佳子. 片山 由加里. 神崎 光子. 高田 早苗. 竹  
明美. 竹下 夏美. 寺口 佐與子. 藤原 正恵. 堀 妙子. 松本 賢哉

## テーマ

実践看護学Ⅱと対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

## 授業の目的（獲得目標）

健康レベルの各期（急性期・回復期・リハビリテーション期・慢性期・終末期）における看護技術を修得する。

## 内 容

- 第1回 包帯法
- 第2回 無菌操作①
- 第3回 無菌操作②
- 第4回 無菌操作③
- 第5回 無菌操作④
- 第6回 ガウンテクニック①
- 第7回 ガウンテクニック②
- 第8回 ガウンテクニック③
- 第9回 病歴聴取①
- 第10回 病歴聴取②
- 第11回 罨法
- 第12回 注射①
- 第13回 注射②
- 第14回 注射③
- 第15回 注射④
- 第16回 輸液①
- 第17回 輸液②
- 第18回 輸液③
- 第19回 輸液④
- 第20回 採血①
- 第21回 採血②
- 第22回 採血③
- 第23回 採血④
- 第24回 浣腸①
- 第25回 浣腸②

第 26 回 導尿①

第 27 回 導尿②

第 28 回 導尿③

第 29 回 酸素吸入①

第 30 回 酸素吸入②

---

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（60%）小テスト（40%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（最終試験は実技試験を含む。）

## 2010 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 春期集中 定員

## 履修条件

## クラス指定

担当者 梶谷 佳子・伊藤 恵美子・小野塚 元子・加藤 さゆり・河原 宣子・竹 明美・竹下 夏美・寺口  
佐與子・藤原 正恵・松本 賢哉

## テーマ

テーマ 実践看護学Ⅰ・実践看護学演習Ⅰ・実践看護学Ⅱ・実践看護学演習Ⅱを踏まえ、医療施設等をフィールドとして、看護過程を展開し、看護の理論と実践を統合する能力を養う。

## 授業の目的（獲得目標）

実習目的 看護過程の理論を活用し、対象者の健康問題の解決のための根拠に基づいた看護実践ができる基礎的能力を培う。 実習目標 1. 対象者の健康上の問題を解決するために既習の知識を活用し看護を展開することができる。 2. 対象者との人間関係を構築することができる。 3. 医療チームメンバーの一員として適切な人間関係を形成できる。 4. 実習体験を振り返り、自らの看護観を言語化できる。 実習は、医療施設で2週間行う。 1人の患者を受け持ち、対象に応じた看護過程を活用し、患者にとって 必要な看護援助を実施

## 内 容

第1回 詳細については実習要項参照 実習オリエンテーション

第2回 病院実習

第3回 病院実習

第4回 病院実習

第5回 病院実習

第6回 病院実習

第7回 病院実習

第8回 病院実習

第9回 病院実習

第10回 学内まとめ

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

## 授業以外での学習方法

関連既修得の科目の復習を行う。

## 教科書

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（目標の達成度，実習態度，実習記録などを含め総合的に評価する.）

科目名 ヘルスケアシステム I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 加藤 さゆり, 松下裕子

テーマ

人々を取り巻くヘルスケアシステムとその基盤となる関連法規について、ライフサイクル各期の特徴を踏まえて学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

1. 地域で生活している人々の健康問題の特性を疫学・統計学を用いて理解する。 2. 地域ヘルスケアシステムと関連法規について理解する。

内 容

第1回 ヘルスケアシステムとは

第2回 ヘルスケアシステムの基盤となる法規①医療に関する法律

第3回 ヘルスケアシステムの基盤となる法規②保健衛生に関する法律

第4回 ヘルスケアシステムの基盤となる法規③労働に関する法律

第5回 ヘルスケアシステムの基盤となる法規④環境に関する法律

第6回 ヘルスケアシステムの基盤となる法規⑤社会保障に関する法律

第7回 疫学の概念と集団

第8回 疫学的研究方法

第9回 スクリーニング

第10回 ライフサイクル各期で特徴的な疾患の疫学①

第11回 ライフサイクル各期で特徴的な疾患の疫学②

第12回 保健統計(統計学の基礎、人口統計等)

第13回 保健統計調査(国勢調査、人口動態調査、国民栄養調査等)

第14回 感染症の疫学

第15回 今日の課題

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（授業中最終試験 60%）小テスト（小テスト：20%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（出席率：20%）

備考 ( )

科目名 ヘルスケアシステムⅡ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 加藤 さゆり. 松下裕子. 家根 明子

テーマ

我が国の保健医療福祉の実際と看護の役割について学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

1. 保健医療福祉行政の法的基盤および財政について理解する。 2. 保健医療福祉行政における看護職の役割について理解する。

内 容

第1回 保健医療福祉行政の理念と仕組み

第2回 我が国の保健医療福祉の変遷

第3回 社会保障制度①社会保障制度の体系

第4回 社会保障制度②医療保険制度

第5回 社会保障制度③介護保険制度

第6回 社会保障制度④所得保障、年金制度

第7回 社会保障制度⑤児童福祉、母子福祉

第8回 社会保障制度⑥高齢者福祉、障害者(児)福祉

第9回 地域保健行政における看護職の役割①地域保健

第10回 地域保健行政における看護職の役割②地域保健

第11回 地域保健行政における看護職の役割③学校保健、産業保健

第12回 保健医療福祉の計画と評価①演習

第13回 保健医療福祉の計画と評価②演習

第14回 保健医療福祉の計画と評価③演習

第15回 地域ヘルスケアシステムの展望 なお、講師を招いて講演会を実施することがある

授業以外での学習方法

教科書

参考書

書籍1 : 標準保健師講座別巻1-保健医療福祉行政論

著者1 : 藤内修二代表

出版社1 : 医学書院

出版年1 : 2005

---

## 成績評価

試験（授業中最終試験：60%）小テスト（小テスト：20%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（出席率：20%）備考（）



科目名 生命・医療倫理

クラス 配当回生 2回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 荒木 正見

テーマ

医療人としての生命観、倫理観を養う

### 授業の目的（獲得目標）

医療人としての生命観、倫理観を、存在論の根底や倫理の根拠などから厳密に展開するとともに、現実の医療現場の生命、倫理に関する諸問題を理解し解決策を探求することによって、より発展的に磨く。特に、理論として知るとともに、自らの人格発達によって全人格的に対応できることを目指す。なお、随時ナイチンゲール誓詞、ヘルシンキ宣言などの資料や、昔話などにおける価値観を挿入して、社会的理解を深める。

### 内 容

第1回 哲学とバイオエシックスに関する総論的概説

第2回 医療を取り巻く現実的諸問題と倫理学との関係

第3回 人格発達論と自己理解の目安

第4回 生命誕生の科学的、存在論的、倫理的意味

第5回 生命の終末とホスピス、ターミナルケアの問題と倫理的、人間学的意味

第6回 医療倫理をめぐる諸問題とその根本的解決

第7回 優生学と遺伝子診断をめぐる諸問題とその人類学的意味

第8回 真の健康とスポーツをめぐる倫理的諸問題 評価用レポート作成

第9回 人間の尊厳と安楽死、クローン生殖などの諸問題（教育効果を考慮して前後期にわけて授業を行うので、この回以降は、それ以前の内容の確認を交えて講義を行う。）

第10回 医療倫理の教育と理解をめぐる諸問題

第11回 医療倫理理解のための訓練と技法

第12回 チーム医療における医療専門職者としての根拠と自覚

第13回 患者、家族、関係者とのかかわりの社会的意味と在り方

第14回 倫理的諸規定、宣言、法的根拠

第15回 医療従事者としてのQOL 評価用レポート作成

### 授業以外での学習方法

テキストを読むとともに、美術館、博物館、寺社、旧跡などを訪れて見識を深め、自らの癒しを得ることを期待する。

### 教科書

書籍1 : 医療倫理学

著者 1 : 丸山マサ美編著

出版社 1 : 中央法規

出版年 1 : 2004 年初版

ISBN1 : 4-8058-2450-6

### 参考書

書籍 1 : 人格発達と癒し 昔話解釈・夢解釈

著者 1 : 荒木正見

出版社 1 : ナカニシヤ出版

出版年 1 : 2002 年

ISBN1 : 4-88848-679-4

---

### 成績評価

試験 (30%) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 (上記の割合で評価したのち、授業中の態度など考慮し、総合的に再評価して最終評価を行う。)

科目名 災害看護学Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期後半 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子・藤原 正恵・堀 妙子

### テーマ

災害看護学Ⅰを踏まえ、災害看護に関する実践方法論を学び、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における防災訓練の企画・実施・評価を通して災害時における看護の役割を考察する。授業は演習形式で実施する。さまざまな看護の場においてライフサイクル各期の対象に防災訓練を企画・実施し、評価を行う。

### 授業の目的（獲得目標）

1. 災害看護の実例を学び、災害サイクル各期およびライフサイクル各期の特徴を踏まえた看護の役割を理解する。
2. 防災訓練の準備・実施に参加し、準備期における看護の役割を理解する。

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 人と未来防災センター見学（予定）

第3回 講義：（災害）準備期における災害看護－防災訓練における看護の役割

第4回 演習：防災訓練の準備－学内のフィールドワーク、防災・減災力アセスメント トリアージ、傷病者搬送等

第5回 演習：防災訓練の実施(1)

第6回 演習：防災訓練の実施(2)

第7回 演習：防災訓練の実施(3)

第8回 防災訓練の評価、まとめ

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40%) 備考 ( )

|       |               |
|-------|---------------|
| 科目名   | エンカウンターグループ演習 |
| クラス   | 配当回生          |
| 講義期間  | その他 定員        |
| 履修条件  |               |
| クラス指定 |               |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）       |

### テーマ

自己理解、他者理解を基盤として、人と人との出会いとその関係性について体験的に理解を深める。また、グループエクササイズをとおしてグループダイナミクス、グループプロセスや、グループアプローチなどについて体験的に学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

1. 自己理解、他者理解を深める。 2. 言語的、非言語的コミュニケーションについて理解を深める。 3. グループダイナミクス、グループプロセス、グループアプローチなどについて理解する。

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 構成的エンカウンター演習

第3回 構成的エンカウンター演習

第4回 構成的エンカウンター演習

第5回 構成的エンカウンター演習

第6回 構成的エンカウンター演習

第7回 非構成的エンカウンター演習

第8回 非構成的エンカウンター演習

第9回 非構成的エンカウンター演習

第10回 非構成的エンカウンター演習

第11回 非構成的エンカウンター演習

第12回 非構成的エンカウンター演習

第13回 非構成的エンカウンター演習

第14回 非構成的エンカウンター演習

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

#### 教科書

書籍1 : 随時紹介

#### 参考書

書籍1 : 随時紹介

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 体の働き I <Z>  |      |     |
| クラス   | Z           | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 江口 豊, 辻田 靖之 |      |     |

## テーマ

看護に必要な生理学, 薬理学, 病理学等の基礎医学を系統的に学び, フィジカルアセスメントを理解する。

## 授業の目的 (獲得目標)

1. 人体の構造と機能を関連付けて理解できる。 2. 薬物の人体への影響についての基礎知識を理解する。 3. 病態の理解, 的確な診断および看護援助に役立つ基礎知識を統合できる。

## 内 容

- 第1回 筋系からだの枠組みをつくり, 力を発揮する ~骨・筋肉系(生理1) ① 骨格, 関節, 骨格筋の構造と機能, 運動の調節, 全身の骨と関節, 全身の骨格筋
- 第2回 筋系からだの枠組みをつくり, 力を発揮する ~骨・筋肉系(生理2) ② 骨格, 関節, 骨格筋の構造と機能, 運動の調節, 全身の骨と関節, 全身の骨格筋
- 第3回 刺激を伝達し, 情報を処理・指令する ~神経系(生理3) ①
- 第4回 刺激を伝達し, 情報を処理・指令する ~神経系(生理4) ②
- 第5回 生体を包み, 外界と内部機構との応答を促進するシステム~皮膚, 感覚器(生理5) ① 視覚器, 聴覚器, 味覚器, 嗅覚器, 皮膚, 体性感覚, 痛覚, 内臓感覚
- 第6回 生体を包み, 外界と内部機構との応答を促進するシステム~皮膚, 感覚器(生理6) ② 視覚器, 聴覚器, 味覚器, 嗅覚器, 皮膚, 体性感覚, 痛覚, 内臓感覚
- 第7回 血液恒常性維持のため生体内を流動し, 物質を運搬する(生理7) ①~血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能, 血管, リンパ管, 心臓, 血管系, 血圧・血流・脈拍, 循環の調整, リンパ循環
- 第8回 血液恒常性維持のため生体内を流動し, 物質を運搬する(生理8) ②~血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能, 血管, リンパ管, 心臓, 血管系, 血圧・血流・脈拍, 循環の調整, リンパ循環
- 第9回 気体を取り込み, 代謝産物を排出する ~呼吸器系①(生理9) 呼吸器系の構造と機能, ガス交換とガスの運搬, 呼吸運動, 呼吸運動の調整
- 第10回 気体を取り込み, 代謝産物を排出する ~呼吸器系②(生理10) 呼吸器系の構造と機能, ガス交換とガスの運搬, 呼吸運動, 呼吸運動の調整
- 第11回 食物を取り入れ生体を栄養する ~消化・吸収系①(生理11) 消化・吸収栄養と代謝
- 第12回 食物を取り入れ生体を栄養する ~消化・吸収系②(生理12) 消化・吸収栄養と代謝
- 第13回 内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す ~内分泌系(生理13)
- 第14回 泌尿器系残渣物・老廃物をより分け排出する ~排泄系(生理14)
- 第15回 生殖器系子孫を残す ~生殖と発生, 個体の維持, 生命のおわり(生理15) 生殖とは, 男性生殖器, 女性生殖器, 授精・妊娠・分娩
- 第16回 生体機能の変調 ~病理学の基礎 病理学とは, 病因論
- 第17回 生体機能の変調 ~病理学の基礎 病理学とは, 病因論

- 第 18 回 先天異常と遺伝子異常
  - 第 19 回 代謝障害
  - 第 20 回 循環障害
  - 第 21 回 炎症と修復
  - 第 22 回 腫瘍
  - 第 23 回 生体機能を補う ～薬学の基礎
  - 第 24 回 薬物療法, 薬理作用と作用機序, 薬物動態
  - 第 25 回 薬物の作用と有害作用
  - 第 26 回 薬物中毒
  - 第 27 回 薬物相互作用
  - 第 28 回 薬物療法に影響を与える因子
  - 第 29 回 医薬品の管理
  - 第 30 回 薬剤と看護
- 

### 授業以外での学習方法

参考文献は初回の授業で提示します。 視聴覚教材を活用して理解を深めてください。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (100%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (出席は前提です.)



科目名 体の働きⅡ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 代謝と栄養 <Z>   |      |     |
| クラス   | Z           | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 江口 豊, 辻田 靖之 |      |     |

### テーマ

看護に必要な生理学, 薬理学, 病理学等の基礎医学を系統的に学び, フィジカルアセスメントを理解する。

### 授業の目的 (獲得目標)

1. 人体の構造と機能を関連付けて理解できる。 2. 薬物の人体への影響についての基礎知識を理解する。 3. 病態の理解, 的確な診断および看護援助に役立つ基礎知識を統合できる。

### 内 容

- 第1回 筋系からだの枠組みをつくり, 力を発揮する ~骨・筋肉系(生理1) ① 骨格, 関節, 骨格筋の構造と機能, 運動の調節, 全身の骨と関節, 全身の骨格筋
- 第2回 筋系からだの枠組みをつくり, 力を発揮する ~骨・筋肉系(生理2) ② 骨格, 関節, 骨格筋の構造と機能, 運動の調節, 全身の骨と関節, 全身の骨格筋
- 第3回 刺激を伝達し, 情報を処理・指令する ~神経系(生理3) ①
- 第4回 刺激を伝達し, 情報を処理・指令する ~神経系(生理4) ②
- 第5回 生体を包み, 外界と内部機構との応答を促進するシステム~皮膚, 感覚器(生理5) ① 視覚器, 聴覚器, 味覚器, 嗅覚器, 皮膚, 体性感覚, 痛覚, 内臓感覚
- 第6回 生体を包み, 外界と内部機構との応答を促進するシステム~皮膚, 感覚器(生理6) ② 視覚器, 聴覚器, 味覚器, 嗅覚器, 皮膚, 体性感覚, 痛覚, 内臓感覚
- 第7回 血液恒常性維持のため生体内を流動し, 物質を運搬する(生理7) ①~血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能, 血管, リンパ管, 心臓, 血管系, 血圧・血流・脈拍, 循環の調整, リンパ循環
- 第8回 血液恒常性維持のため生体内を流動し, 物質を運搬する(生理8) ②~血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能, 血管, リンパ管, 心臓, 血管系, 血圧・血流・脈拍, 循環の調整, リンパ循環
- 第9回 気体を取り込み, 代謝産物を排出する ~呼吸器系①(生理9) 呼吸器系の構造と機能, ガス交換とガスの運搬, 呼吸運動, 呼吸運動の調整
- 第10回 気体を取り込み, 代謝産物を排出する ~呼吸器系②(生理10) 呼吸器系の構造と機能, ガス交換とガスの運搬, 呼吸運動, 呼吸運動の調整
- 第11回 食物を取り入れ生体を栄養する ~消化・吸収系①(生理11) 消化・吸収栄養と代謝
- 第12回 食物を取り入れ生体を栄養する ~消化・吸収系②(生理12) 消化・吸収栄養と代謝
- 第13回 内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す ~内分泌系(生理13)
- 第14回 泌尿器系残渣物・老廃物をより分け排出する ~排泄系(生理14)
- 第15回 生殖器系子孫を残す ~生殖と発生, 個体の維持, 生命のおわり(生理15) 生殖とは, 男性生殖器, 女性生殖器, 授精・妊娠・分娩
- 第16回 生体機能の変調 ~病理学の基礎 病理学とは, 病因論
- 第17回 生体機能の変調 ~病理学の基礎 病理学とは, 病因論

- 第 18 回 先天異常と遺伝子異常
  - 第 19 回 代謝障害
  - 第 20 回 循環障害
  - 第 21 回 炎症と修復
  - 第 22 回 腫瘍
  - 第 23 回 生体機能を補う ～薬学の基礎
  - 第 24 回 薬物療法, 薬理作用と作用機序, 薬物動態
  - 第 25 回 薬物の作用と有害作用
  - 第 26 回 薬物中毒
  - 第 27 回 薬物相互作用
  - 第 28 回 薬物療法に影響を与える因子
  - 第 29 回 医薬品の管理
  - 第 30 回 薬剤と看護
- 

### 授業以外での学習方法

参考文献は初回の授業で提示します。 視聴覚教材を活用して理解を深めてください。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (100%) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 (出席は前提です.)

科目名 統計学基礎論（看）

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 精神保健〈Z〉

クラス Z

配当回生 3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北尾 敬子

テーマ

1 養護教育に必要な心理学知識 2 養護教育に生かすカウンセリングとグループワーク

授業の目的（獲得目標）

養護教諭として必要な心理学の知識とカウンセリングやグループワークの技法を習得すること。

内 容

第1回 オリエンテーション : 養護教諭の役割について 自己紹介シート記入

第2回 心の発達1 フロイト、エリクソン、ピアジェ、コフート

第3回 心の発達2 愛着理論 ボールビィ、アインスワース、メイン

第4回 発達障害1 知能の発達と社会性の発達 WISC WAIS

第5回 発達障害2 自閉症、ADHD、LD

第6回 性の発達 性の心理学 性教育

第7回 ストレス セリエのストレス理論 PTSD

第8回 学童期・思春期の問題 1

第9回 学童期・思春期の問題 2 不登校、いじめ、非行

第10回 1回目から9回目までのテスト

第11回 カウンセリング

第12回 ロールプレイ 1

第13回 ロールプレイ 2

第14回 交流分析とエゴグラム

第15回 グループワーク 1

第16回 グループワーク 2

授業以外での学習方法

授業で使用したプリントや参考資料を読み、翌週の授業の質問時間に疑問点を解決する。また、希望者には一部参考図書を貸し出すので、それらを読み、理解を深める。

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（）備考（）

科目名 保健社会学

クラス 配当回生 4回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 馬込 武志

テーマ

人々が健康を求める行動（保健行動）を様々な角度から考えたいと思います

授業の目的（獲得目標）

患者の保健行動が患者それぞれの多様な価値観に基づいて行なわれており、その価値観を理解し、支援することの重要性を理解する。

内 容

- |      |  |                          |
|------|--|--------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                                    | 社会学とは何か                  |
| 第2回  | 患者とは何か？                                      | 医学書にも載っていない医療のキーパーソン     |
| 第3回  | 患者の役割  | sick role (T.Parsons) から |
| 第4回  | 医療者の役割                                       | 医療者は勉強し続けなければならない        |
| 第5回  | 新しい患者の出現                                     | 物言う患者                    |
| 第6回  | 医療者の変容と努力                                    | 病院も倒産する                  |
| 第7回  | 自己決定の陥穽①                                     | カルテ開示はちょっと勘弁して           |
| 第8回  | 自己決定の陥穽②                                     | 聖マリアンナ医大事件を考える           |
| 第9回  | 自己決定の陥穽③                                     | モンスター・ペイシエント             |
| 第10回 | 医療過誤①  | なぜ起こるのか                  |
| 第11回 | 医療過誤②  | 医療過誤が起こった。それから…          |
| 第12回 | 健康ブーム①                                       | 雑誌に垣間見える健康観              |
| 第13回 | 健康ブーム②                                       | 健康番組におけるデータ捏造の必然性        |
| 第14回 | 医療・看護の科学性                                    | 不確実性を大切にしよう              |
| 第15回 | まとめ・レポート作成                                   |                          |
| 第16回 | 保健、医療関係の新聞記事やニュースを見て、自分なりの考えをまとめる訓練をしておきましょう |                          |

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (70%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 備考 ( )



科目名 保健社会学

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 保健・医療・福祉行政論

クラス

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 渡邊 能行

テーマ

保健・医療・福祉制度についての医学的接近

### 授業の目的（獲得目標）

社会医学全般について理解する。個人ではなく人々を集団として扱う社会医学について、保健・医療・福祉制度を整理しながら公衆衛生学的技法について学ぶ。

### 内 容

- 第1回 社会医学概論と保健統計
- 第2回 疫学
- 第3回 疾病予防と健康管理(1)原理と感染症予防
- 第4回 疾病予防と健康管理(2)循環器疾患とメタボリック症候群
- 第5回 疾病予防と健康管理(3)がん予防とがん検診
- 第6回 環境保健
- 第7回 地域保健と衛生行政
- 第8回 母子保健
- 第9回 学校保健
- 第10回 産業保健
- 第11回 老人保健・福祉
- 第12回 精神保健
- 第13回 国際保健
- 第14回 保健医療制度と法規
- 第15回 疫学特論：ピロリ菌感染と胃がん

### 授業以外での学習方法

わが国における疾病構造の変化に応じて保健・医療・福祉制度も変わっていくので、新聞等マスコミが報道する動向にも普段から興味をもって注視する姿勢が必要です。

### 教科書

書籍1 : シンプル衛生学公衆衛生学 2010

出版社1 : 南江堂

### 参考書

**成績評価**

試験 (90%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (10%) 備考 ( )

科目名 社会福祉学概論Ⅱ

クラス 配当回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

### テーマ

高齢者と障害者に関する社会保険・社会福祉の理念や近年の社会福祉改革、制度、サービスを理解し、高齢者と障害者に関する社会保険・社会福祉の理念や近年の社会福祉改革、制度、サービスを理解し、高齢者と障害者の生活と権利擁護に対する社会福祉のあり方について考察できる。

### 授業の目的（獲得目標）

1. 社会保障制度としての社会保険と社会福祉について理解する。 2. 高齢者と障害者に関する社会福祉の諸制度とサービスについて理解する。 3. 高齢者と障害者に関する社会福祉制度の現状と課題について理解する。 4. 高齢者と障害者の生活と権利擁護に対する社会福祉のあり方について考察できる。

### 内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 障害者と社会福祉

第3回 身体障害者に関する社会福祉制度の現状と課題

第4回 知的障害者に関する社会福祉制度の現状と課題

第5回 精神障害者に関する社会福祉制度の現状と課題

第6回 障害者自立支援法の現状と課題1

第7回 障害者自立支援法の現状と課題2

第8回 高齢者に関する社会福祉諸制度の現状と課題

第9回 高齢者に関する社会福祉諸制度の現状と課題

第10回 介護保険法の現状と課題

第11回 介護保険法の現状と課題

第12回 高齢者虐待防止法の現状と課題

第13回 成年後見制度の現状と課題

第14回 高齢者の生活、権利擁護と高齢者福祉の今後の展望

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書

書籍1 : 随時紹介

### 参考書

---

## 成績評価

試験（60%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 家族看護学

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|       |         |      |     |
|-------|---------|------|-----|
| 科目名   | 学校保健〈Z〉 |      |     |
| クラス   | Z       | 配当回生 | 3回生 |
| 講義期間  | その他     |      | 定員  |
| 履修条件  |         |      |     |
| クラス指定 |         |      |     |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉） |      |     |

## テーマ

学校保健の基礎理論

## 授業の目的（獲得目標）

1. 教育における学校保健活動の意義を理解する。 2. 児童生徒の心身の発達と健康課題を理解する。 3. 学校における保健管理・保健教育・保健組織活動を理解する。 4. 学校保健の今日的な課題と展望を理解する。

## 内 容

- 第1回 学校保健の概説（学校保健の意義・内容・変遷）
- 第2回 学校保健の概説（学校保健関係職員、保健室）
- 第3回 児童生徒の心身の発達と健康
- 第4回 児童生徒の健康課題
- 第5回 健康診断
- 第6回 健康観察・保健指導、疾病管理
- 第7回 感染症対策、救急処置、学校安全
- 第8回 保健室の経営（演習）
- 第9回 健康教育
- 第10回 健康教育（演習：保健指導案の作成）
- 第11回 健康教育（演習：保健指導の実施と評価）
- 第12回 精神保健
- 第13回 健康相談、環境衛生
- 第14回 学校保健安全計画・学校保健組織活動
- 第15回 学校保健の今日的課題と展望
- 第16回 テスト

## 授業以外での学習方法

学校教育や学校保健に関するトピックスなど把握に努める。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）



科目名 成人看護学実習 I

クラス 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子.m i t e i

### テーマ

既習の知識と技術を統合して、成人期にある人及び健康問題を有する人とその家族への看護実践方法を看護過程の展開を通して学ぶ。また、実習における体験を通して、自らの看護観を養う

### 授業の目的（獲得目標）

- 1) 健康上に問題を有する慢性期およびターミナル期にある対象者とその家族を多面的に理解する。
- 2) 対象者とその家族の quality of life（以下 QOL）が維持・向上するために必要な看護を実践できる能力を養う。
- 3) 援助的人間関係を発展させながら看護を実践できる。
- 4) 対象者の看護上の問題（共同問題を含む）の解決における、チームナーシング、他職種との連携、継続看護の意義を理解する。

### 内 容

第 1 回 実習 1 週目 1 日目 学内にて実習オリエンテーションを行う 実習 1 週目～3 週目 慢性期・ターミナル期にある患者を 1～2 名受け持ち、看護過程の展開を通して健康問題を有する人とその家族への看護実践方法を学ぶ 実習 3 週目最終日 まとめ 具体的な内容については、実習要項を参照してください。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

### 授業以外での学習方法

### 教科書

## 参考書

書籍1 : これまでの講義や演習でもちいた教科書。

書籍2 : 実習するにあたって参考にしたい資料や文献は各自で準備し持参する。

---

## 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（実習目標の達成状況、実習態度、レポートから総合的に評価する。）

科目名 成人看護学実習Ⅱ

クラス 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤原 正恵, 河原 宣子

### テーマ

既習の知識と技術を統合して、成人期にある人および健康問題を有する人とその家族への看護実践方法を看護過程の展開を通して学ぶ。実習における体験を通して自らの看護観を養う。

### 授業の目的（獲得目標）

1. 成人期にある対象者あるいは健康問題を有する対象者が手術療法によってもたらされる心身への影響について理解し、回復過程に則した必要な援助を実践できる能力を養う。 2. 手術が対象者の家族にもたらす影響について理解し、必要な援助を実践できる能力を養う。 3. 手術を受ける対象者の術前・術中・術後における看護の継続の重要性が理解できる。

### 内容

第1回 1日目 学内でオリエンテーション

第2回 1週～3週目 手術を受ける患者1名を受け持ち、看護過程の展開を通して看護実践方法を学ぶ

第3回 3週目最終日 まとめ

第4回 具体的な内容については、実習要項を参照してください。

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（実習目標の達成状況、実習態度、レポートなどから総合的に評価する。）

科目名 精神看護学実習

クラス 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子

テーマ

精神に障害をもつ人及びその家族の理解を深め、対象とかがわるための基礎的能力を養う

授業の目的（獲得目標）

1. 精神障がい者を身体的、心理的、社会的な存在として理解する
2. 援助的な対人関係の基本的技法を学ぶ
3. 精神障がい者のセルフケア能力のアセスメントに焦点をあて看護過程を展開する
4. 精神保健医療福祉における看護職の役割と地域生活支援のあり方を学ぶ

内 容

第1回 1. 実習期間：2週間 2. 実習場所：精神科病院等 3. 実習内容： 1) 患者一人を担当し、セルフケアへの援助を中心として看護過程を展開する 2) 担当患者とのかかわりについてプロセスレコードを作成し、分析を行う 3) リハビリテーションや地域生活支援を理解するために、ディケアなどにおいて実習する 4) 学びを共有するために、カンファレンスを行う 4. 実習スケジュール 第1週目 オリエンテーション  
プロセスレコード検討会 ケースカンファレンス（受持ち患者のアセスメント）

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

疾病論Ⅴ、実践精神看護学概論、実践精神看護学で学んだことを復習しておくこと

教科書

書籍 1 : 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 第3版

著者 1 : 武井麻子, 他

出版社 1 : 医学書院

出版年 1 : 2009

書籍 2 : 武井麻子, 他 : 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2] 第3版

著者 2 : 武井麻子, 他

出版社 2 : 医学書院

出版年 2 : 2009

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50%) 備考 (詳細は実習要項に記載する)

---

科目名 小児看護学実習

---

クラス 配当回生

---

講義期間 通年 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 堀 妙子

---

### テーマ

健康な小児の発達段階を理解し、対象に応じた日常生活の援助方法を学ぶ。また、健康上の問題が小児及び家族に及ぼす影響を理解し、対象に応じた看護が実践できる能力を養う。

---

### 授業の目的（獲得目標）

1. 小児の発達段階を理解することができる。2. 小児の発達段階に応じた日常生活援助の方法が理解できる。3. 小児の発達段階及び疾病や症状に応じて、適切な看護を計画、実施、評価することができる。4. 小児の健康上の問題が小児とその家族に与える影響を理解し、必要な援助を実施することができる。5. 小児にとって望ましい生活環境を理解し、環境調整の援助を実施することができる。6. 小児の看護を行う専門職として自立し、また自分の行動に責任を持ちながら、実習に取り組むことができる。

---

### 内 容

- 第1回 第1週月曜日 オリエンテーション
- 第2回 第1週火曜日～第2週火曜日 病院実習
- 第3回 第2週水曜日～第2週木曜日 保育園実習
- 第4回 第2週金曜日 実習のまとめ
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回
- 

### 授業以外での学習方法

実習スケジュールは、グループによって変更する場合がある。詳細は実習オリエンテーションで説明を行う

---

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（60%）備考（）



科目名 母性看護学実習

クラス 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子. 神崎 光子. 竹 明美. 田邊 美智子

テーマ

マタニティーサイクルにある母児とその家族の看護を実践する

授業の目的（獲得目標）

妊娠、分娩、産褥（新生児）各期にある母児とその家族を生理的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、各期の特徴と対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する能力を養う

内 容

第1回 実習場所：産科病棟（分娩室・新生児室・産褥室）および産科外来 実習内容： 病院実習では、産褥（新生児）期にある母児又は入院中の妊婦を1例受け持ち、看護を実践する \*受け持ち対象の選定基準

①原則として正常の経膈分娩を経過した母児 ②感染症を持つ対象は除く ③正常経膈分娩事例がない場合は、入院中の妊婦もしくは帝王切開事例を受け持つ 対象へのケアは、全て臨床指導者の了解と指導の下に行う 外来実習では、妊娠期の健康管理（妊婦健診）、保健指導（集団・個別）の実際を学ぶ 分娩

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

実践母性看護学での学びを復習する

教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (80) 備考 (・全日出席が原則 ・補講は行わない ・指定した記録物・レポート及び学習態度によって総合的に評価する)

科目名 実践成人看護学Ⅱ

クラス 配当回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤原 正恵

テーマ

急性期にある患者とその家族への看護のあり方を考える

授業の目的（獲得目標）

1. 手術を受ける患者とその家族の特徴を理解できる。 2. 手術療法における健康問題と回復過程に向けた援助方法について理解できる。 3. 急性期に必要な看護技術が習得できる。

内 容

第1回 消化器疾患の手術とケア

第2回 事例展開

第3回 事例展開

第4回 事例展開

第5回 事例展開

第6回 急性心筋梗塞患者の看護

第7回 まとめ

第8回 課題演習

第9回 課題演習

第10回 課題演習

第11回 課題演習

第12回 学内演習（術前呼吸訓練、輸液ポンプ、術後ケア、一次救命処置、 血糖測定）

第13回 学内演習（術前呼吸訓練、輸液ポンプ、術後ケア、一次救命処置、 血糖測定）

第14回 学内演習（術前呼吸訓練、輸液ポンプ、術後ケア、一次救命処置、 血糖測定）

第15回

授業以外での学習方法

既習学習内容、特に「体の仕組み」、「体の働き」、「疾病論Ⅲ」（外科的疾患）について復習しておく

教科書

書籍1 : 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第9版

著者1 : 青木照明他

出版社1 : 医学書院

出版年1 : 2006年

ISBN1 : -4-260-00181-6

書籍 2 : 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 第 7 版

著者 2 : 池田正他

出版社 2 : 医学書院

出版年 2 : 2006 年

ISBN2 : -4-260-00162-5

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (80%) 小テスト ( ) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 実践精神看護学

クラス 配当回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子, 松本 賢哉

テーマ

精神的健康問題をもつ人とその家族に必要な看護方法を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

精神的健康問題をもつ人とその家族を理解し、基本的な看護の実践方法を学ぶ

内 容

- 第1回 統合失調症患者の看護（1）
- 第2回 統合失調症患者の看護（2）
- 第3回 気分障害患者の看護
- 第4回 神経症性障害患者の看護
- 第5回 パーソナリティ障害患者の看護
- 第6回 薬物療法・精神療法などの治療法と看護
- 第7回 試験
- 第8回 事例による看護過程の展開（1）
- 第9回 事例による看護過程の展開（2）
- 第10回 事例による看護過程の展開（3）
- 第11回 事例による看護過程の展開（4）
- 第12回 対人関係技術演習（1）
- 第13回 対人関係技術演習（2）
- 第14回 対人関係技術演習（3）
- 第15回 対人関係技術演習（4）

授業以外での学習方法

教科書

書籍1 : 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1] 第3版

著者1 : 武井麻子, 他

出版社1 : 医学書院

出版年1 : 2009

ISBN1 : 9784260006699

書籍2 : 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2] 第3版

著者2 : 武井麻子, 他

出版社 2 : 医学書院  
出版年 2 : 2009  
ISBN2 : 9784260006705

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (60%) 小テスト ( ) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 実践老年看護学

クラス 配当回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 茂代, 小野塚 元子

テーマ

高齢者の健康上の課題を理解し、健康レベルに応じた看護のアプローチについて学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

1. 健康維持・増進, 障害を予防する看護 高齢者が, 病的老化の進行を予防し, 健康の維持や増進を図ることができるように日常生活の支援と看護のアプローチについて学ぶ. 2. 健康障害を回復する看護 老年期にみられる特徴的な疾患をあげ, 高齢者ができるだけ早く健康障害を回復するような看護を学ぶ. ①病的老化を促進する要因, ②健康の維持・増進や障害の予防に向けての援助方法 3. 機能低下, 障害を有する対象への看護 多様で複雑な疾患をもつ高齢者が, 健康レベルの悪化を防ぎ, 寝たきりや認知症にならないよ

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

第17回 演習：介護老人福祉施設見学実習（特別養護老人ホーム）オリエンテーション グループワーク▼

第19回 演習：介護老人福祉施設見学実習（特別養護老人ホーム）▼

第21回 演習：介護老人福祉施設見学実習の学びの整理・分析・まとめGW▼

第23回 演習：介護老人福祉施設見学実習発表会▼

第25回 筋・骨格系の障害と看護（骨粗鬆症, 大腿骨頸部骨折）

第26回 高齢者の薬物療法

第27回 事例展開の演習（機能的健康パターンの活用とグループワークの進め方・グループワーク▼

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

書籍 1 : 奥野茂代、大西和子（編）老年看護学（概論と看護の実践）ニューヴェルヒロカワ 東京

書籍 2 : 奥野茂代、大西和子（編）老年看護技術（アセスメントのポイントとその根拠）ニューヴェルヒロカワ 東京

### 参考書

---

### 成績評価

試験（40%）小テスト（20%）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）



科目名 実践地域看護学Ⅱ

クラス

配当回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松下裕子

テーマ

地域におけるヘルスケアシステムの実際と構築方法について学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

地域における健康ニーズを明らかにするために、コミュニティアセスメントの方法と地域看護活動計画の立案、実施、評価に必要な知識と技術を学ぶ。また地域組織活動と地域の社会資源を組み込みながらヘルスケアシステムを構築する技法について学ぶ。

### 内 容

- 第1回 地域のヘルスケアシステムの実際（1）
- 第2回 地域のヘルスケアシステムの実際（2）
- 第3回 コミュニティ・アセスメント
- 第4回 地域看護活動計画・看護政策
- 第5回 地域組織活動とその育成
- 第6回 組織行動論
- 第7回 地域活動計画の実際
- 第8回 公衆衛生看護の理念・目的・歴史
- 第9回 公衆衛生看護の展開
- 第10回 在宅看護の理念・目的・歴史
- 第11回 在宅看護の展開
- 第12回 産業看護の理念・目的・歴史
- 第13回 産業看護の展開
- 第14回 学校看護の理念・目的・歴史・展開
- 第15回 災害時の看護
- 第16回 まとめ

### 授業以外での学習方法

地域で生活している自身や家族が健康で文化的な生活ができるためにはどのようなヘルスケアシステムが必要でしょうか。

### 教科書

- 書籍1 : 三訂地域看護学
- 著者1 : 津村智恵子編著

出版社 1 : 中央法規

書籍 2 : 看護法令要地域看護支援技術覧

出版社 2 : 日本看護協会出版会

書籍 3 : 最新保健学講座 2 『地域看護支援技術』

出版社 3 : 株式会社カレント

書籍 4 : 最新保健学講座 6 『疫学／保健統計』

出版社 4 : 株式会社カレント

書籍 5 : 『国民衛生の動向』 最新版

出版社 5 : 厚生統計協会

## 参考書

書籍 1 : 地域看護学講座 2、3、4、5

著者 1 : 島内節、久常節子、野嶋佐由美編

出版社 1 : 医学書院

書籍 2 : 系統看護学講座別巻 14、15

著者 2 : 長谷川浩編

出版社 2 : 医学書院

---

## 成績評価

試験 (100%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 実践小児看護学

クラス 配当回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

健康問題をもつ小児に必要な看護方法についてを学ぶ

授業の目的（獲得目標）

小児の健康問題と、それが小児や家族に及ぼす影響を理解し、小児やその家族に適切な看護を実践するための基礎的な能力を身につけることを目的とする

内 容

- 第1回 検査・処置を受ける小児の看護（1）
- 第2回 検査・処置を受ける小児の看護（2）
- 第3回 先天奇形をもつ小児の看護
- 第4回 先天性疾患をもつ小児の看護（消化器疾患）
- 第5回 先天性疾患をもつ小児の看護（筋・骨疾患）
- 第6回 先天性疾患をもつ小児の看護（循環器系疾患）
- 第7回 ハイリスク新生児の看護
- 第8回 慢性疾患をもつ小児の看護（内分泌疾患）
- 第9回 慢性疾患をもつ小児の看護（悪性腫瘍）
- 第10回 慢性疾患をもつ小児の看護（呼吸系疾患）
- 第11回 慢性疾患をもつ小児の看護（腎疾患）
- 第12回 小児看護に必要な技術（1）
- 第13回 小児看護に必要な技術（2）
- 第14回 小児看護に必要な技術（2）
- 第15回

授業以外での学習方法

教科書

書籍1：系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論

出版社1：医学書院

書籍2：系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護学各論

出版社2：医学書院

参考書

---

## 成績評価

試験（70%）小テスト（20%）授業中課題（10%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（）

科目名 実践母性看護学

クラス 配当回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 神崎 光子・竹 明美

テーマ

母児とその家族の健康状態の理解と看護援助の方法を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1) 妊婦・褥婦および新生児の捉え方、看護計画立案を事例によって学ぶ 2) 母性看護技術と対象のアセスメントのつながりを学ぶ 3) 母性看護における基本技術の原理・方法・留意点などをロールプレイによって学ぶ

内 容

第1回 オリエンテーション、母性看護領域の看護過程

第2回 母性看護領域の看護過程

第3回 看護過程 事例 グループワーク

第4回 看護過程 事例 発表

第5回 看護過程 事例 グループワーク

第6回 看護過程 事例 発表

第7回 母性看護技術の実技演習・ロールプレイ・相互評価

第8回 母性看護技術の実技演習・ロールプレイ・相互評価

第9回 母性看護技術の実技演習・ロールプレイ・相互評価

第10回 母性看護技術の実技演習・ロールプレイ・相互評価

第11回 母性看護技術の実技演習・ロールプレイ・相互評価

第12回 母性看護技術の実技演習・ロールプレイ・相互評価

第13回 母性看護技術の実技演習・ロールプレイ・相互評価

第14回 母性看護技術の実技演習・ロールプレイ・相互評価

第15回 母性看護における保健指導案発表

授業以外での学習方法

教科書

書籍1 : 系統看護学講座 25 母性看護学 (2) 母性看護学各論

出版社1 : 医学書院

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (80) 備考 (実技演習は 100%参加を原則とする。)

---

科目名 緩和ケア

---

クラス 配当回生 4回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 鈴木 要子・餅田 敬司

---

テーマ

緩和ケアの理念や原則を理解し、緩和ケア実践に必要な知識を学ぶ。

---

授業の目的（獲得目標）

1. 緩和ケアの歴史的背景を理解する 2. 緩和ケアにおける倫理的課題について考える。 3. 死への適応過程とケアのあり方について考える。 4. 死生観について内省することができる。

---

内 容

第1回 緩和ケアの定義

第2回 緩和ケア発展の歴史

第3回 緩和ケアにおいて重要な概念・理論①

第4回 緩和ケアにおいて重要な概念・理論②

第5回 死への適応過程

第6回 全人的苦痛

第7回 看護師の役割とケアの実践①

第8回 看護師の役割とケアの実践②

第9回 緩和ケアで直面する倫理的問題①

第10回 緩和ケアで直面する倫理的問題②

第11回 在宅緩和ケア

第12回 悲嘆のケア

第13回 事例検討①

第14回 事例検討②

第15回 まとめ なお、外部講師を招いて講演会を行うことがある。

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（30%）参加度（0%）備考（）

科目名 クリティカルケア

クラス

配当回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤原 正恵

テーマ

生命の危機状態にある患者とその家族に必要な看護方法について学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 生命の危機状態にある患者およびその家族の特徴を理解し、必要な援助方法がわかる。 2. クリティカルケア領域における代表的な疾患の病態とその看護について理解できる。 3. クリティカルケア領域における看護師の役割が理解できる。 4. クリティカルケア領域の現状と今後の課題について理解できる。

内 容

第1回 クリティカルケアとは

第2回 クリティカルケア領域における看護の専門性（講演会あり）

第3回 呼吸・循環状態の理解

第4回 呼吸・循環状態の理解

第5回 人工呼吸器装着中の患者の看護

第6回 救急医療と救急看護

第7回 ショック、意識障害の病態と看護

第8回 外傷の病態と看護

第9回 急性中毒の病態と看護

第10回 熱傷の病態と看護

第11回 多臓器不全の病態と看護

第12回 脳死と臓器移植

第13回 脳死と臓器移植

第14回 クリティカルケア領域における諸問題 など

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

特になし

教科書

参考書

成績評価



試験 (80%) 小テスト ( ) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 看護の質とリスクマネジメント

クラス 配当回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 看護キャリア開発論

クラス 配当回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

1. 看護職の継続教育について学び、キャリア開発の現状と可能性について考えを深める。 2. 専門職として自己のキャリア開発に着手できる。

授業の目的（獲得目標）

1. 専門職及びキャリア開発について自分の考えが持てる。 2. 看護職の継続教育について調べ、キャリア開発の現状と可能性について理解する。 3. 臨床看護実践者、教育者、先輩のキャリア開発を拝聴して参考にし、自己のキャリア開発を考える。 4. 看護専門職者として自己のキャリア開発に着手できる。

内 容

第1回 オリエンテーション ○専門職とは ○キャリア開発とは

第2回 ○キャリア開発の方略（生涯発達の 視点・ベナーの視点） デスカッション

第3回 自己のキャリア開発の計画に参考になる現状を、分担して調べる

第4回 プレゼンテーション①：自己のキャリア開発の計画に参考になる現状について

第5回 プレゼンテーション②：自己のキャリア開発の計画に参考になる現状について

第6回 プレゼンテーション③：自己のキャリア開発の計画に参考になる現状について

第7回 プレゼンテーション④：自己のキャリア開発の計画に参考になる現状について

第8回 ○認定看護師とは、認定看護師教育の実際、認定看護師の業務 ○専門看護師とは、専門看護師教育の実際 専門看護師の業務

第9回 ○認定看護師の活動の実際、自己のキャリア開発 質疑応答・デスカッション

第10回 ○専門看護師の活動の実際、自己のキャリア開発 質疑応答・デスカッション

第11回 ○国際活動で活動するための教育の実際、国際活動の実際

第12回 ○計画立案者になるためには 自己のキャリア開発、質疑応答・デスカッション

第13回 1回生からのメッセージ：就職にあたり準備しておくこと、就職後のリア リティショックと適応、新人教育の実際、院内教育の実際

第14回 1回生からのメッセージ：先輩ナースのキャリア開発、卒業生に向けてのメ ッセージ、質疑応答・デスカッション

第15回 まとめ 課題

授業以外での学習方法

教科書

## 参考書

書籍 1 : 藤原裕美子

著者 1 : 看護師のキャリア論

出版社 1 : ライフサポート

出版年 1 : 2007

書籍 2 : 照林社編集部編

著者 2 : エキスパートナースになるためのキャリア開発

出版社 2 : 照林社

出版年 2 : 2003

書籍 3 : 操華子他

著者 3 : ナースのためのキャリアアップガイド

出版社 3 : 医学書院

出版年 3 : 1999

書籍 4 : パトシリアベナー著井部俊子訳

著者 4 : ベナー看護論新訳版初心者から達人へ

出版社 4 : 医学書院

出版年 4 : 2006

書籍 5 : エドガーH. シャイン著二村敏子他訳

著者 5 : キャリア・ダイナミクス キャリアとは生涯を通しての人間の生き方・表現である

出版社 5 : 白桃社

出版年 5 : 1978

---

## 成績評価

試験（せず）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 総合看護学実習（地域）〈c〉

---

クラス c 配当回生 4回生

---

講義期間 集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 家根 明子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的（獲得目標）

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内 容

第1回 3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 備考 (各領域の実習要項を参照する。)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈a〉 |      |     |
| クラス   | a           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 高田 早苗       |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。 ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。 ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。 ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）

第2回 講義：研究デザイン（高田）

第3回 講義：研究計画の作成（高田）

第4回 講義：論文の書き方（高田）

第5回 演習：自らの研究テーマに沿って、研究計画を実施し、論文を作成する

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

第16回 同上

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 同上

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 同上

第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)



## 2010 Syllabus

|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | 卒業演習（総合） |
| クラス   | 配当回生     |
| 講義期間  | 定員       |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   |          |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈c〉 |      |     |
| クラス   | c           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 梶谷 佳子       |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）

第2回 講義：研究デザイン（高田）

第3回 講義：研究計画の作成（高田）

第4回 講義：論文の書き方（高田）

第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

第16回 同上

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 同上

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 同上

第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈d〉 |      |     |
| クラス   | d           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 片山 由加里      |      |     |

### テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

### 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

### 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈e〉 |      |     |
| クラス   | e           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 堀 妙子        |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)



## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈f〉 |      |     |
| クラス   | f           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 河原 宣子       |      |     |

### テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

### 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

### 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈g〉 |      |     |
| クラス   | g           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 藤原 正恵       |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。 ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。 ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。 ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）

第2回 講義：研究デザイン（高田）

第3回 講義：研究計画の作成（高田）

第4回 講義：論文の書き方（高田）

第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

第16回 同上

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 同上

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 同上

第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈h〉 |      |     |
| クラス   | h           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 寺口 佐與子      |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）

第2回 講義：研究デザイン（高田）

第3回 講義：研究計画の作成（高田）

第4回 講義：論文の書き方（高田）

第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

第16回 同上

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 同上

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 同上

第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈i〉 |      |     |
| クラス   | i           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 奥野 茂代       |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。 ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。 ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。 ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）

第2回 講義：研究デザイン（高田）

第3回 講義：研究計画の作成（高田）

第4回 講義：論文の書き方（高田）

第5回 演習：自らの研究テーマに沿って、研究計画を実施し、論文を作成する

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

第16回 同上

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 同上

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 同上

第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)



## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈j〉 |      |     |
| クラス   | j           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 小野塚 元子      |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈k〉 |      |     |
| クラス   | k           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 伊藤 恵美子      |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈Ⅰ〉 |      |     |
| クラス   | Ⅰ           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 松本 賢哉       |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈m〉 |      |     |
| クラス   | m           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 竹下 夏美       |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)



## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈n〉 |      |     |
| クラス   | n           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 高橋 みや子      |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。 ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。 ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。 ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）

第2回 講義：研究デザイン（高田）

第3回 講義：研究計画の作成（高田）

第4回 講義：論文の書き方（高田）

第5回 演習：自らの研究テーマに沿って、研究計画を実施し、論文を作成する

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

第16回 同上

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 同上

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 同上

第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 卒業演習（総合）〈〇〉 |      |     |
| クラス   | 〇           | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 戸塚 規子       |      |     |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |                |
|-------|----------------|
| 科目名   | 卒業演習（母性・助産）〈a〉 |
| クラス   | 配当回生           |
| 講義期間  | 通年 定員          |
| 履修条件  |                |
| クラス指定 |                |
| 担当者   | 田邊 美智子         |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |                |
|-------|----------------|
| 科目名   | 卒業演習（母性・助産）〈b〉 |
| クラス   | 配当回生           |
| 講義期間  | 集中 定員          |
| 履修条件  |                |
| クラス指定 |                |
| 担当者   | 遠藤 俊子          |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。 ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。 ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。 ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）

第2回 講義：研究デザイン（高田）

第3回 講義：研究計画の作成（高田）

第4回 講義：論文の書き方（高田）

第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

第16回 同上

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 同上

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 同上

第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)



## 2010 Syllabus

|       |                |
|-------|----------------|
| 科目名   | 卒業演習（母性・助産）〈c〉 |
| クラス   | 配当回生           |
| 講義期間  | 集中 定員          |
| 履修条件  |                |
| クラス指定 |                |
| 担当者   | 神崎 光子          |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。 ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。 ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。 ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）

第2回 講義：研究デザイン（高田）

第3回 講義：研究計画の作成（高田）

第4回 講義：論文の書き方（高田）

第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

第16回 同上

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 同上

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 同上

第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |                |
|-------|----------------|
| 科目名   | 卒業演習（母性・助産）〈d〉 |
| クラス   | 配当回生           |
| 講義期間  | 集中 定員          |
| 履修条件  |                |
| クラス指定 |                |
| 担当者   | 竹 明美           |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- 研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

科目名 卒業演習（母性・助産）

クラス

配当回生

講義期間

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |             |
|-------|-------------|
| 科目名   | 卒業演習（地域）〈a〉 |
| クラス   | 配当回生        |
| 講義期間  | 通年 定員       |
| 履修条件  |             |
| クラス指定 |             |
| 担当者   | 松下裕子        |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

- ・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。
- ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。
- ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。
- ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

- 第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）
- 第2回 講義：研究デザイン（高田）
- 第3回 講義：研究計画の作成（高田）
- 第4回 講義：論文の書き方（高田）
- 第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 同上

第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

## 2010 Syllabus

|       |             |
|-------|-------------|
| 科目名   | 卒業演習（地域）〈b〉 |
| クラス   | 配当回生        |
| 講義期間  | 通年 定員       |
| 履修条件  |             |
| クラス指定 |             |
| 担当者   | 加藤 さゆり      |

## テーマ

看護研究の実践を通して、科学的・系統的探究方法の基礎を理解し、研究態度を育成する。

## 授業の目的（獲得目標）

・看護研究に必要な知識を学び、理解できる。 ・看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展できる。 ・研究課題について自ら探究し、論文にまとめることができる。 ・自らの研究を発表することができる。

## 内 容

第1回 講義：看護研究ガイダンス，看護研究における倫理的配慮（高田）

第2回 講義：研究デザイン（高田）

第3回 講義：研究計画の作成（高田）

第4回 講義：論文の書き方（高田）

第5回 演習：自らの研究テーマに沿って，研究計画を実施し，論文を作成する

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 同上

第16回 同上

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 同上

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 同上

第26回 同上



第 27 回 研究発表, 論文作成

第 28 回 研究発表, 論文作成

第 29 回 研究発表, 論文作成

第 30 回 研究発表, まとめ

---

### 授業以外での学習方法

授業時間内に提示する。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 備考 (態度・姿勢 30%, 論文内容 50%, 発表 20%)

科目名 助産学概論

クラス 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子

テーマ

母子の健康を歴史、統計、生活や環境の中でとらえ、助産師の役割機能を考察する。

授業の目的（獲得目標）

1 助産師の定義・役割を理解する。 2 わが国の母子保健を歴史的、統計、法や諸制度から知り、今後の課題を明らかにする。 3 助産師活動に必要な諸理論・倫理を学び、助産過程を展開する能力を獲得する。 4 地域母子保健ならびに施設における助産業務管理について知る。

内 容

- 第1回 助産師の定義と業務・役割
- 第2回 助産師の教育
- 第3回 日本における母子保健の動向
- 第4回 世界の母子保健の動向
- 第5回 国連ミレニアム開発目標など
- 第6回 現在のわが国母子保健に関与する法・制度
- 第7回 保健師助産師看護師法・医療法
- 第8回 助産師が行うケアを支える理論1
- 第9回 助産師が行うケアを支える理論2
- 第10回 助産師が行うケアを支える理論3
- 第11回 助産実践の倫理
- 第12回 女性の健康と人権
- 第13回 お産の歴史と文化
- 第14回 助産業務管理：病院
- 第15回 助産業務管理：助産所 まとめ

授業以外での学習方法

予習を必ずしてくること、課題に積極的に取り組むこと

教科書

書籍1 : 助産師基礎教育テキスト1 助産概論

著者1 : 山本あい子、遠藤俊子

出版社1 : 日本看護協会出版会

出版年1 : 2009

ISBN1 : 9784818014619

書籍 2 : 国民衛生の動向 2009

出版社 2 : 厚生統計協会

出版年 2 : 2009

### 参考書

書籍 1 : 助産師業務要覧増補版

著者 1 : 遠藤俊子ほか

出版社 1 : 日本看護協会出版会

出版年 1 : 2008

ISBN1 : 9784818013582

書籍 2 : 看護法令要覧平成 21 年度

著者 2 : 門脇豊子ほか

出版社 2 : 日本看護協会出版会

出版年 2 : 2009

ISBN2 : 9784818013926

---

### 成績評価

試験 (50%) 小テスト (20%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (10%) 備考 ( )

科目名 助産診断・技術学 I

クラス 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 神崎 光子・竹 明美

テーマ

周産期における助産診断および助産技術の基礎（正常編）を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

1. 妊娠・分娩・産褥（新生児）各期の経過が診断できる 2. 各期の対象のニーズにそった援助方法を獲得する

内 容

第1回 復習（母性看護学領域、助産学概論で学んだ内容）

第2回 復習（母性看護学領域、助産学概論で学んだ内容）

第3回 オリエンテーション

第4回 周産期の看護と助産診断・技術

第5回 基礎看護学・母性看護学において既習得の助産に必要な知識、技術の復習（バイタル測定、清拭、浣腸、導尿、ガウンテクニック、滅菌操作、妊産婦計測等）

第6回 基礎助産技術（助産診断に必要な情報収集、診察法等）

第7回 妊娠期の助産診断と看護（妊婦の健康診査と保健指導等）

第8回 妊産婦のケアに必要な基礎看護技術、基礎助産技術（分娩介助を除く）に関するロールプレイ（演習）

第9回 妊産婦のケアに必要な基礎看護技術、基礎助産技術（分娩介助を除く）に関するロールプレイ（演習）

第10回 胎児の健康診査

第11回 分娩第Ⅰ期の助産診断と看護

第12回 分娩に必要な物品の準備と入院時の産婦へのケア

第13回 レオポルド触診法、内診所見、陣痛による分娩進行のアセスメント

第14回 分娩第Ⅰ期の助産技術（デモンストレーションと演習）

第15回 分娩第Ⅰ期の基礎助産技術（演習）

第16回 分娩第Ⅰ期の基礎助産技術（演習）

第17回 分娩第Ⅱ～Ⅳ期の助産診断と看護

第18回 分娩介助技術の目的と方法

第19回 分娩介助技術（演習）

第20回 新生児出生直後の健康評価と処置（鼻口腔吸引、臍帯切断）、全身観察（奇形の有無等）

第21回 分娩介助技術（新生児出生直後の処置含む）について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイ演習

第22回 分娩介助技術（新生児出生直後の処置含む）について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイ演習

第23回 分娩第Ⅰ～Ⅳ期の助産診断と看護（事例検討）

第24回 分娩第Ⅰ～Ⅳ期の助産診断と看護（事例検討）

- 第 25 回 分娩第 I ～IV 期の助産診断と看護(事例検討)
  - 第 26 回 分娩第 I ～IV 期の助産診断と看護(事例検討)
  - 第 27 回 産婦の入院時～分娩までの看護(ロールプレイ演習)
  - 第 28 回 産婦の入院時～分娩までの看護(ロールプレイ演習)
  - 第 29 回 産婦の入院時～分娩までの看護(ロールプレイ)
  - 第 30 回 周産期における助産診断および助産技術の基礎(正常編)の総括
- 

### 授業以外での学習方法

助産に関する基礎看護技術、実践母性看護学ならびに実習で学んだことを十分に復習しておく。履修中は知識に関する復習と技術習得のための自己学習を行う。

---

### 教科書

- 書籍 1 : 助産師基礎教育テキスト 1～7  
出版社 1 : 日本看護協会出版会  
出版年 1 : 2009
- 書籍 2 : 最新産科学 正常編  
著者 2 : 荒木 勤  
出版社 2 : 文光堂  
出版年 2 : 2008
- 書籍 3 : 最新産科学 異常編  
著者 3 : 荒木 勤  
出版社 3 : 文光堂  
出版年 3 : 2008

### 参考書

- 書籍 1 : 胎児心拍数モニタリング講座 — 大事なサインを見逃さない!  
著者 1 : 藤森敬也  
出版社 1 : メディカ出版  
出版年 1 : 2005
- 

### 成績評価

試験(100%(筆記&実技)) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度( ) 備考(※出席を原則とする。)

|       |             |
|-------|-------------|
| 科目名   | 助産診断・技術学Ⅱ   |
| クラス   | 配当回生        |
| 講義期間  | 通年 定員       |
| 履修条件  |             |
| クラス指定 |             |
| 担当者   | 竹 明美, 神崎 光子 |

### テーマ

周産期における助産診断および助産技術の基礎（異常編）を学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

1. 妊娠・分娩・産褥（新生児）各期の異常について理解する 2. 各期の対象のニーズにそった援助方法を獲得する

### 内 容

第1回 ハイリスク妊娠の看護

第2回 ハイリスク妊娠の看護

第3回 妊娠期の助産診断（異常の早期発見）と看護

第4回 分娩期の助産診断（異常の早期発見）と看護

第5回 分娩期における異常のアセスメント（事例検討）

第6回 新生児蘇生（演習を含む）

第7回 産科救急（産科出血とショック・産科手術と麻酔等）

第8回 産科救急に関連する看護と技術（演習を含む）

第9回 分娩介助技術（会陰縫合・新生児出生直後の処置を含む）について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイ演習

第10回 分娩介助技術（会陰縫合・新生児出生直後の処置を含む）について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイ演習

第11回 分娩介助技術（会陰縫合・新生児出生直後の処置を含む）について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイ演習

第12回 各種記録（助産録・分娩台帳・母子健康手帳・出生証明書・死胎検案書等）

第13回 産褥期の助産診断（異常の早期発見）と看護（褥婦の健康診査と保健指導）

第14回 妊産婦の精神看護

第15回 産褥期の身体的課題（子宮復古不全・乳房トラブル等）に対する看護

第16回 産褥期の心理社会的課題に対する看護

第17回 帝王切開・子どもを失った人に対する看護

第18回 分娩介助技術（会陰縫合・人工破膜・新生児出生直後の処置を含む）について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイ演習

第19回 分娩介助技術（会陰縫合・人工破膜・新生児出生直後の処置を含む）について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイ演習

第20回 分娩介助技術（会陰縫合・人工破膜・新生児出生直後の処置を含む）について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイ演習

第21回 分娩介助技術（会陰縫合・人工破膜・新生児出生直後の処置を含む）について、分娩介助者、間接介助

者、新生児介助者に分かれてのロールプレイ演習

第 22 回 産褥期の継続看護

第 23 回 分娩第 I ～IV期の助産診断と看護(異常経過を含む事例検討)

第 24 回 分娩第 I ～IV期の助産診断と看護(異常経過を含む事例検討)

第 25 回 分娩第 I ～IV期の助産診断と看護(異常経過を含む事例検討)

第 26 回 分娩介助技術(会陰縫合・人工破膜・新生児出生直後の処置を含む)について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイの評価

第 27 回 分娩介助技術(会陰縫合・人工破膜・新生児出生直後の処置を含む)について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイの評価

第 28 回 分娩介助技術(会陰縫合・人工破膜・新生児出生直後の処置を含む)について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイの評価

第 29 回 分娩介助技術(会陰縫合・人工破膜・新生児出生直後の処置を含む)について、分娩介助者、間接介助者、新生児介助者に分かれてのロールプレイの評価

第 30 回 周産期における助産診断および助産技術の基礎(異常編)の総括

---

### 授業以外での学習方法

助産に関する基礎看護技術、実践母性看護学ならびに実習で学んだことを十分に復習しておく。履修中は知識に関する復習と技術習得のための自己学習を行う。

---

### 教科書

書籍 1 : 助産師基礎教育テキスト 1～7

出版社 1 : 日本看護協会出版会

出版年 1 : 2009

書籍 2 : 最新産科学 正常編

著者 2 : 荒木 勤

出版社 2 : 文光堂

出版年 2 : 2008

書籍 3 : 最新産科学 異常編

著者 3 : 荒木 勤

出版社 3 : 文光堂

出版年 3 : 2008

### 参考書

書籍 1 : 胎児心拍数モニタリング講座 — 大事なサインを見逃さない!

著者 1 : 藤森敬也

出版社 1 : メディカ出版

出版年 1 : 2005

---

### 成績評価

試験(100%(筆記&実技)) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度( ) 備考(※出席を原則とする。)

科目名 助産管理学

クラス 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子

### テーマ

助産業務のための環境や条件の整備を効果的・効率的に行うために、助産業務の範囲、法的責任、助産施設の管理などについて学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

1 助産サービスの質管理に必要な概念を理解する。 2 助産サービス管理の実際—病院・診療所における管理の実際を知る。 3 助産サービス管理の実際—助産所における管理の実際を知る。 4 周産期における安全管理とリスクマネジメントを知る。

### 内 容

第1回 周産期医療における質と安全の保証

第2回 日本の周産期医療システム

第3回 世界の周産期医療システム

第4回 周産期におけるリスクマネジメント

第5回 助産サービスの質管理

第6回 助産サービス管理の実際—病院・診療所

第7回 助産サービス管理の実際—助産所

第8回 助産サービス管理の実際—地域

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

### 授業以外での学習方法

### 教科書

書籍1 : 助産師基礎教育テキスト3 周産期における医療の質と安全

著者1 : 成田伸 他

出版社1 : 日本看護協会出版会

出版年1 : 2009



## 参考書

書籍 1 : 助産師業務要覧増補版

著者 1 : 遠藤俊子他

出版社 1 : 日本看護協会出版会

出版年 1 : 2008

書籍 2 : 看護法令要覧平成 21 年度

著者 2 : 門脇豊子他

出版社 2 : 日本看護協会出版会

出版年 2 : 2009

書籍 3 : その他授業の際に、関連文献紹介、資料として提示します。

---

## 成績評価

試験 (50%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 助産学実習

クラス 配当回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子. 神崎 光子. 竹 明美. 田邊 美智子

テーマ

母子保健活動における助産氏の役割を理解し、助産および保健指導が実践できる能力を養う。

授業の目的（獲得目標）

1. 妊婦の健康診査が実施できる。 2. 産婦の健康診査が実施できる。 3. 分娩進行を査定し、助産過程が展開できる。 4. 分娩中の異常徴候を早期に発見し、その対処方法が実践できる。 5. 産科救急の特徴と救急処置の方法が理解できる。 6. 産科手術の特徴と実施方法および介助方法が理解できる。

内 容

第1回 実習場所：産科病棟 具体的実習の展開： 1 学生が実習期間中に、10 例の直接分娩介助を実施する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (80) 備考 (出席、実習記録および実習目

標の達成度、実習態度により総合的に評価する。)

## 2010 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化遺産

クラス 配当回生 4回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

京都の文化遺産とその保護

### 授業の目的（獲得目標）

京都に存在する文化遺産の現状に対する理解を深め、遺産保護のあり方についての課題意識をもてるようになることを目的とする。各ジャンルの文化遺産の保護と課題については、担当者（増淵）と京都市文化財保護課の専門職員のリレー形式で講義を展開する。また、2～3回の見学授業を行う（下記の授業予定は現段階の予定であり、日程・見学先の詳細は決定後にあらためて掲示する）。講義終了後には、指定されたテーマでのレポートを提出する。なお、参加学生には、当該テーマに対する課題意識を要求する。

### 内 容

- 第1回 京都の歴史と文化遺産概観
- 第2回 京都市の文化遺産保護の状況と課題
- 第3回 京都市の文化遺産各論（1）
- 第4回 京都市の文化遺産各論（2）
- 第5回 京都市の文化遺産各論（3）
- 第6回 京都市の文化遺産各論（4）
- 第7回 文化遺産見学（1－1）
- 第8回 文化遺産見学（1－2）
- 第9回 京都市の文化遺産各論（5）
- 第10回 京都市の文化遺産各論（6）
- 第11回 文化遺産見学（2－1）
- 第12回 文化遺産見学（2－1）
- 第13回 文化遺産見学（3）
- 第14回 京都市の文化遺産各論（7）
- 第15回 これからの文化遺産保護のあり方と課題

### 授業以外での学習方法

日ごろから多くの文化遺産を見学し、知見を深めておくことが望ましい。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (0) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 住居と環境

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 人生論研究 <a>

---

クラス a

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 碓井 敏正

---

テーマ

自分らしく生きるために

---

**授業の目的（獲得目標）**

自分のいまを受け入れ、個性を磨き、先人や人生の先輩の生き方に学びながら、自分らしく生きるために何が必要であるかを考える。

---

**内 容**

- 第1回 自分を受け入れる
  - 第2回 自分を知る
  - 第3回 個性を大事にする
  - 第4回 主体的に生きる
  - 第5回 先人の生き方に学ぶ
  - 第6回 自分らしく生きた人の話を聞く（講演）
  - 第7回 共に生きる
  - 第8回 人間の社会性とは
  - 第9回 愛とは何か
  - 第10回 愛の種類
  - 第11回 幸福とは何か
  - 第12回 働くことの意味
  - 第13回 日本的労働の現実
  - 第14回 自由と平和の意味
  - 第15回 まとめ
- 

**授業以外での学習方法**

自分の生き方を常に反省すると同時に、他者の生き方に学ぶこと。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（最終レポート40%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）

科目名 人生論研究 <b>

クラス b

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 碓井 敏正

テーマ

自分らしく生きるために

授業の目的（獲得目標）

自分のいまを受け入れ、個性を磨き、先人や人生の先輩の生き方に学びながら、自分らしく生きるために何が必要であるかを考える。

内 容

第1回 自分を受け入れる

第2回 自分を知る

第3回 個性を大事にする

第4回 主体的に生きる

第5回 先人の生き方に学ぶ

第6回 自分らしく生きた人の話を聞く（講演）

第7回 共に生きる

第8回 人間の社会性とは

第9回 愛とは何か

第10回 愛の種類

第11回 幸福とは何か

第12回 働くことの意味

第13回 日本的労働の現実

第14回 自由と平和の意味

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分の生き方を常に反省すると同時に、他者の生き方に学ぶこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（最終レポート40%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）



科目名 自分探しの旅〈Z a〉

クラス Z a

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

人生というたった一つのドラマを精一杯生きる。

授業の目的（獲得目標）

様々な人間の人生史から、人間としての生き方の美学を学び、自分の生き方を見出す。人生は、かけがえの無いたった一つのドラマである。生きていく上で、バックボーンを形成する必要がある、個々人の生き方の美学が必要である。それぞれが何にこだわり、何を大事に生きていくかを掴みとるために、多くの人々の生き方を知り、学生各自のこれからの生き方を考える。

内 容

- 第1回 人間はなぜ生まれ、生きるのかについて考える。
- 第2回 人間にとって幸せとは何なのかについて考える。いい生き方をするコツを学ぶ。
- 第3回 ノンフィクションを読む（1）ノンフィクションを書く〈レポート出題①〉
- 第4回 ノンフィクションを読む（2）
- 第5回 ノンフィクションを読む（3）ノンフィクションを書く〈レポート出題②〉
- 第6回 ノンフィクションを読む（4）レポート出題①の発表 レポート出題③
- 第7回 自分を分析する①
- 第8回 自分を分析する②
- 第9回 レポート出題②の発表
- 第10回 他人の理解とコミュニケーション
- 第11回 自己アピールとコミュニケーション（1）
- 第12回 自己アピールとコミュニケーション（2）
- 第13回 レポート③の発表（その1）
- 第14回 レポート③の発表（その2）
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

様々なノンフィクション作品を読む。ドキュメンタリー番組を見る。日記を付ける。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40 %）授業中発表等（20 %）参加度（40 %）備考（様々なノンフィクション作品を読む。ドキュメンタリー番組を見る。日記を付ける。）

科目名 自分探しの旅〈Z b〉

クラス Z b

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

人生というたった一つのドラマを精一杯生きる。

授業の目的（獲得目標）

様々な人間の人生史から、人間としての生き方の美学を学び、自分の生き方を見出す。人生は、かけがえの無いたった一つのドラマである。生きていく上で、バックボーンを形成する必要がある、個々人の生き方の美学が必要である。それぞれが何にこだわり、何を大事に生きていくかを掴みとるために、多くの人々の生き方を知り、学生各自のこれからの生き方を考える。

内 容

- 第1回 人間はなぜ生まれ、生きるのかについて考える
- 第2回 人間にとって幸せとは何なのかについて考える。いい生き方をするコツを学ぶ
- 第3回 ノンフィクションを読む（1）ノンフィクションを書く〈レポート出題①〉
- 第4回 ノンフィクションを読む（2）
- 第5回 ノンフィクションを読む（3）ノンフィクションを書く〈レポート出題②〉
- 第6回 ノンフィクションを読む（4）レポート出題①の発表レポート出題③
- 第7回 自分を分析する①
- 第8回 自分を分析する②
- 第9回 レポート出題②の発表
- 第10回 他人の理解とコミュニケーション
- 第11回 自己アピールとコミュニケーション（1）
- 第12回 自己アピールとコミュニケーション（2）
- 第13回 レポート③の発表（その1）
- 第14回 レポート③の発表（その2）
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

様々なノンフィクション作品を読む。ドキュメンタリー番組を見る。日記を付ける。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 自分探しの旅 <d>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 自分探しの旅 <e>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 国際関係と私たち <Z a>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉山 泰

### テーマ

辺境に生きて「鎖国政策」を続ける日本人にとっての「国際関係」を探る

### 授業の目的（獲得目標）

イギリスから日本を1年間眺め続け、気づいたことは、イギリスのGP（general practitioner＝かかりつけ開業医）がインド人であり、看護婦がアフリカ系かアジア系であることだった。イギリスの看護師の新規登録の5割以上が40歳以上であり、28,000人以上の外国人看護師が登録され、新規登録者35,000人のうち、14,000人がフィリピン、インドなどからの就労であることを知って、日本の看護師とのあまりの違いに愕然とした。つまり、イギリスでは、日本国籍のまま、通算20年働けば、男性は自動的に65歳か

### 内 容

- 第1回 「日本」はいつから日本で、「イギリス (U.K.)」はいつからイギリスなのだろうか。まず、己を知ろう。
- 第2回 The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland という「連合王国」の女王の出身地は？
- 第3回 ScotlandにはBank of Scotlandがあり、Walesでは道路標識が2か国語で書いてある理由は？
- 第4回 夏目漱石は1901年、ロンドンでヴィクトリア女王の葬儀の様子を見ていた。地下鉄をどう描いたか？
- 第5回 1901年、イギリスのミス・ハワードが訪日し、薩摩藩邸の島津家の5人の家庭教師をした。何を教えたか？
- 第6回 1902年、日本はイギリスと日英同盟を結び、1904年には日露戦争で勝利した。戦艦はすべてイギリス製？
- 第7回 初めてのイギリス人との出会いは、1600年のWilliam Adams。Plant huntersは日本から何を奪ったのか？
- 第8回 ゴルフやサッカーや競馬はなぜイギリスで生まれたのか。世界万博とオリンピックによる、スポーツの国際化。
- 第9回 オリンピックのロンドン大会でなぜ、野球やソフトボールが廃止となった理由は何か？国際的スポーツとは？
- 第10回 イギリスレストランが世界中にないのはなぜか。日本食（回る寿司など）がイギリスでなぜ受けているのか？
- 第11回 中国ではアヘン戦争を仕掛け、香港も奪ったのに、中国人はなぜイギリス人を憎まず、日本人を憎むのか？
- 第12回 Londonには京都の10倍もの外国人観光客が訪れているのは、なぜなのか。観光の国際化。
- 第13回 150年前のイギリスは晩婚化が進み、出生率1.4を切ったのに、なぜ人口減少がおきなかったのか。
- 第14回 イギリスはブレア首相が£3,000＝45万円の大学授業料を取ったが、なぜ医療は無料なのか？
- 第15回 人口も国土も日本の半分の国イギリスが、なぜ農業大国となり、失業率も下がったのか。日英国際化比較。

---

### 授業以外での学習方法

5月に International Theatre Company London の英語劇を鑑賞して、イギリスに関心を持ってもらう。鑑賞できない学生は、イギリス映画を見て、感想文を書いてもらう。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（最低1回（最後の授業までにならず提出）イギリスについての新聞記事（あるいは雑誌記事）を切り抜いて、それがなぜ国際関係と関係しているのかの、コメントを加えなさい。）



科目名 人間のこころとからだ <a>

クラス a

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻川 典文

テーマ

人間の生涯にわたる心身の発達

授業の目的（獲得目標）

受精から死に至るまで生涯にわたる人の心身の発達のプロセスや変化について理解を深めることを目的とする。

内 容

- 第1回 はじめに：人間のこころとからだの発達について
- 第2回 胎生期：胎児の発達、胎児の身体能力、感覚能力
- 第3回 新生児期・乳児期（1）：生理的早産、赤ちゃんの魅力
- 第4回 新生児期・乳児期（2）：記憶力、運動能力
- 第5回 新生児期・乳児期（3）：赤ちゃんが見る世界
- 第6回 母子関係：愛着の形成
- 第7回 幼児期：社会性の発達、自我の芽生え
- 第8回 児童期：知力の発達と学校への適応
- 第9回 青年期：アイデンティティの獲得
- 第10回 成人期（1）：恋愛、結婚
- 第11回 成人期（2）：労働
- 第12回 成人期（3）：集団行動
- 第13回 成人期（4）：育児
- 第14回 老年期：老年期の悩み、死の受容
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業中適宜参考文献を紹介するので、関心を持った文献を自宅で読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）

科目名 人間のこころとからだ <b>

クラス b

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻川 典文

テーマ

人間の生涯にわたる心身の発達

授業の目的（獲得目標）

受精から死に至るまで生涯にわたる人の心身の発達のプロセスや変化について理解を深めることを目的とする。

内 容

- 第1回 はじめに：人間のこころとからだの発達について
- 第2回 胎生期：胎児の発達、胎児の身体能力、感覚能力
- 第3回 新生児期・乳児期（1）：生理的早産、赤ちゃんの魅力
- 第4回 新生児期・乳児期（2）：記憶力、運動能力
- 第5回 新生児期・乳児期（3）：赤ちゃんが見る世界
- 第6回 母子関係：愛着の形成
- 第7回 幼児期：社会性の発達、自我の芽生え
- 第8回 児童期：知力の発達と学校への適応
- 第9回 青年期：アイデンティティの獲得
- 第10回 成人期（1）：恋愛、結婚
- 第11回 成人期（2）：労働
- 第12回 成人期（3）：集団行動
- 第13回 成人期（4）：育児
- 第14回 老年期：老年期の悩み、死の受容
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業中適宜参考文献を紹介するので、関心を持った文献を自宅で読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）

|       |          |      |     |
|-------|----------|------|-----|
| 科目名   | 発達心理学〈Z〉 |      |     |
| クラス   | Z        | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期       | 定員   |     |
| 履修条件  |          |      |     |
| クラス指定 |          |      |     |
| 担当者   | 宮嶋 邦明    |      |     |

### テーマ

大人になるということ

### 授業の目的（獲得目標）

成人期にいたるまでの人間の発達について概観する。成長するとはどういうことか、大人になるとはどういうことかについての理解を深める。

### 内 容

- 第1回 発達心理学とは、本講義がめざすもの
- 第2回 人格の構造
- 第3回 無条件反射と条件反射
- 第4回 第2信号系としての「ことば」
- 第5回 「カベ」と「シマ」の仮説
- 第6回 ピアジェの知能観と知能発達論
- 第7回 乳幼児期 「循環反応」、「模倣」、「アニミズム」、「直感的思考」、「自己中心的思考」等。
- 第8回 児童期 「保存性」、「経験的思考」、「具体的思考」、「仮説的思考」等。
- 第9回 ヴィゴツキーの「生活的概念」と「科学的概念」
- 第10回 思春期① ケース検討① （「もうひとりの自分」、「自分との対話」）
- 第11回 思春期② ケース検討② （「おとな感覚」、「自立と依存」）
- 第12回 思春期③ ケース検討③ （同性の「友人関係」の意義）
- 第13回 青年期① ケース検討④ （「問題行動」をどうみるか）
- 第14回 青年期② ケース検討⑤ （ある大学生の「成育史」）
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（70％）小テスト（）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（10％）備考（）

科目名 発達心理学 <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 認知心理学〈Z〉

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 藤岡 みずき

---

テーマ

心と脳の情報処理についての理解

---

### 授業の目的（獲得目標）

見る・聞く・覚えるなどの一連の認知的な情報処理を、われわれヒトがどのようにして行っているのかについて概説する。「知覚」・「注意」・「記憶」という3つのテーマを取り上げ、ヒトの情報処理メカニズムについて、心と脳の2側面からの理解を目指す。

---

### 内 容

- 第1回 認知心理学とは（ガイダンス）
  - 第2回 脳1：構造と機能
  - 第3回 脳2：発達
  - 第4回 知覚1：視覚のメカニズム
  - 第5回 知覚2：視覚の性質
  - 第6回 知覚3：視覚の情報処理
  - 第7回 知覚4：聴覚の情報処理
  - 第8回 注意1：注意のメカニズム
  - 第9回 注意2：注意の諸側面
  - 第10回 注意3：注意と意識（脳内機構）
  - 第11回 記憶1：記憶のモデル1（二重貯蔵モデル）
  - 第12回 記憶2：記憶のモデル2（処理水準モデル）
  - 第13回 記憶3：記憶のモデル3（ワーキングメモリモデル）
  - 第14回 記憶4：記憶のメカニズム
  - 第15回 記憶5：記憶障害
  - 第16回 試験
- 

### 授業以外での学習方法

毎回、参考文献を紹介しますので、授業の内容に関心を持ち、もっと詳しく知りたいと思った人は、読んでみてください。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（40%）備考（出席の取り方：名前を書くだけでなく、授業にきちんと参加していたことを示すために、授業内容に関する「お題」に回答することを求めます。小テストではありませんので、難しく考える必要はありません（たとえば、DVDを見たときはその感想を書くなどです）。内容の出来・不出来は問題にしますが、あまりにも不真面目な場合は無効（欠席）にします。また、授業態度も対象になりますので、私語や遅刻・早退は慎んでください。）

科目名 体育理論〈a〉

クラス a

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 新野 守

テーマ

体育・スポーツの体験から認識へ

授業の目的（獲得目標）

①近代の学校体育やスポーツの成立過程を知る。 ②現在の学校体育やスポーツと社会との関連について知る。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 前近代スポーツ

第3回 イギリスのスポーツ教育

第4回 日本の学校体育

第5回 小テスト①

第6回 スポーツ部活動

第7回 実業団スポーツ

第8回 女性スポーツ

第9回 アジア・アフリカのスポーツ

第10回 小テスト②

第11回 近代オリンピック

第12回 プロスポーツ

第13回 生涯スポーツ

第14回 スポーツの行方

第15回 小テスト③

第16回 期末テスト

授業以外での学習方法

講義ノート、配布レジュメ、スライドの整理

教科書

参考書

成績評価

試験（100）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（講義テーマや評価配点は、登録人

数により、変更の可能性はある)



科目名 体育理論〈b〉

クラス b

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 新野 守

テーマ

体育・スポーツの体験から認識へ

授業の目的（獲得目標）

①近代の学校体育やスポーツの成立過程を知る。 ②現在の学校体育やスポーツと社会の関連を知る。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 前近代スポーツ

第3回 イギリスのスポーツ教育

第4回 日本の学校体育

第5回 小テスト①

第6回 スポーツ部活動

第7回 実業団スポーツ

第8回 女性スポーツ

第9回 アジア・アフリカのスポーツ

第10回 小テスト②

第11回 近代オリンピック

第12回 プロスポーツ

第13回 生涯スポーツ

第14回 スポーツの行方

第15回 小テスト③

第16回 期末試験

授業以外での学習方法

講義ノート、配布レジュメ、スライドの整理

教科書

参考書

成績評価

試験（100）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（講義テーマや評価方法は、登録者数

により、変更の可能性がある。)

---

科目名 体育理論 <c>

---

クラス c

配当回生 1回生

---

講義期間 秋期集中

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 新野 守

---

テーマ

体育・スポーツの体験から認識へ

---

授業の目的（獲得目標）

①近代の学校体育やスポーツの成立過程を知る。 ②現在の学校体育やスポーツと社会との関連について知る。

---

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 前近代スポーツ

第3回 イギリスのスポーツ教育

第4回 日本の学校体育

第5回 小テスト①

第6回 スポーツ部活動

第7回 実業団スポーツ

第8回 女性スポーツ

第9回 アジア・アフリカのスポーツ

第10回 小テスト②

第11回 近代オリンピック

第12回 プロスポーツ

第13回 生涯スポーツ

第14回 スポーツの行方

第15回 小テスト③

第16回 期末テスト

---

授業以外での学習方法

講義ノート、配布レジュメ、スライドの整理

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（100）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（講義テーマや評価配点は、登録人

数により、変更の可能性がある)

## 2010 Syllabus

科目名 体育理論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 スポーツコース I <a>

クラス a 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の目的（獲得目標）

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていくが、最終教育目標は集団マネジメント方法の学習である。バレーボールはチームスポーツ、受講生間に一体感が生まれやすく、仲間づくりや集団形成には最適のスポーツと考えます。基本練習からチームづくりの作業過程を通し、一般社会における集団マネジメントへの応用を図りたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス（授業内容・バレーボールの起源・ルール等）
- 第2回 基本技術の練習・公式5号球（パス・サーブ・ミニゲーム）
- 第3回 基本技術の練習・公式5号球（パス・スパイク・ブロック・ミニゲーム）
- 第4回 応用技術の練習（チャンスボールからの三段攻撃・ミニゲーム）
- 第5回 応用技術の練習（サーブレシーブからのフォーメーション・ミニゲーム）
- 第6回 スキルテスト（オーバーパス・アンダーパス・スパイク・サーブ）
- 第7回 簡易ゲームⅠ（アンダーハンドサーブのみ・ドリブルOK・ラリー回数無制限）
- 第8回 簡易ゲームⅡ（ドリブルOK・ラリー回数5回以内）
- 第9回 簡易ゲームⅢ（ラリー回数4回以内）
- 第10回 リーグ戦Ⅰ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第11回 リーグ戦Ⅱ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第12回 リーグ戦Ⅲ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅳ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅴ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 授業のまとめ（ディスカッション等）

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（5%）小テスト（5%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。）

|       |               |      |      |
|-------|---------------|------|------|
| 科目名   | スポーツコース I <b> |      |      |
| クラス   | b             | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期            | 定員   | 45   |
| 履修条件  |               |      |      |
| クラス指定 |               |      |      |
| 担当者   | 藤田 幸光         |      |      |

### テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

### 授業の目的（獲得目標）

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていくが、最終教育目標は集団マネジメント方法の学習である。バレーボールはチームスポーツ、受講生間に一体感が生まれやすく、仲間づくりや集団形成には最適のスポーツと考えます。基本練習からチームづくりの作業過程を通し、一般社会における集団マネジメントへの応用を図りたい。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス（授業内容・バレーボールの起源・ルール等）
- 第2回 基本技術の練習・公式5号球（パス・サーブ・ミニゲーム）
- 第3回 基本技術の練習・公式5号球（パス・スパイク・ブロック・ミニゲーム）
- 第4回 応用技術の練習（チャンスボールからの三段攻撃・ミニゲーム）
- 第5回 応用技術の練習（サーブレシーブからのフォーメーション・ミニゲーム）
- 第6回 スキルテスト（オーバーパス・アンダーパス・スパイク・サーブ）
- 第7回 簡易ゲームⅠ（アンダーハンドサーブのみ・ドリブルOK・ラリー回数無制限）
- 第8回 簡易ゲームⅡ（ドリブルOK・ラリー回数5回以内）
- 第9回 簡易ゲームⅢ（ラリー回数4回以内）
- 第10回 リーグ戦Ⅰ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第11回 リーグ戦Ⅱ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第12回 リーグ戦Ⅲ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅳ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅴ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 授業のまとめ（ディスカッション等）

### 授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

### 教科書

### 参考書



## 成績評価

試験（5%）小テスト（5%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。）

科目名 スポーツコースⅠ〈c〉

クラス c

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の目的（獲得目標）

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていくが、最終教育目標は集団マネジメント方法の学習である。バレーボールはチームスポーツ、受講生間に一体感が生まれやすく、仲間づくりや集団形成には最適のスポーツと考えます。基本練習からチームづくりの作業過程を通し、一般社会における集団マネジメントへの応用を図りたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス（授業内容・バレーボールの起源・ルール等）
- 第2回 基本技術の練習・公式5号球（パス・サーブ・ミニゲーム）
- 第3回 基本技術の練習・公式5号球（パス・スパイク・ブロック・ミニゲーム）
- 第4回 応用技術の練習（チャンスボールからの三段攻撃・ミニゲーム）
- 第5回 応用技術の練習（サーブレシーブからのフォーメーション・ミニゲーム）
- 第6回 スキルテスト（オーバーパス・アンダーパス・スパイク・サーブ）
- 第7回 簡易ゲームⅠ（アンダーハンドサーブのみ・ドリブルOK・ラリー回数無制限）
- 第8回 簡易ゲームⅡ（ドリブルOK・ラリー回数5回以内）
- 第9回 簡易ゲームⅢ（ラリー回数4回以内）
- 第10回 リーグ戦Ⅰ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第11回 リーグ戦Ⅱ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第12回 リーグ戦Ⅲ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅳ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅴ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 授業のまとめ（ディスカッション等）

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（5%）小テスト（5%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。）

|       |                            |      |      |
|-------|----------------------------|------|------|
| 科目名   | スポーツコース I [ラクトスポーツプラザ] <d> |      |      |
| クラス   | d                          | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期                         | 定員   | 30   |
| 履修条件  |                            |      |      |
| クラス指定 |                            |      |      |
| 担当者   | 佐々木 雅人                     |      |      |

## テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

## 授業の目的（獲得目標）

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック) [講義]
- 第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操 [実技]
- 第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較 [実技]
- 第4回 マシンジム: オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ。 [実技]
- 第5回 ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり [実技]
- 第6回 ダイエットの為の栄養と理論: 体脂肪とはなんぞや? 正しい運動ダイエット。リバウンドについて 体脂肪率について [講義]
- 第7回 有酸素運動: 体脂肪を燃焼させるメカニズムについて。 [実技]
- 第8回 エアロビクス I: ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践 [実技]
- 第9回 無酸素運動: ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」 [実技]
- 第10回 自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に [実技]
- 第11回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動 [実技]
- 第12回 ファンク: ファンクダンスで楽しもう [実技]
- 第13回 チューブ&ダンベル体操: チューブ、ダンベル器具を使って筋力体操・部分ひきしめ体操 [実技]
- 第14回 腹部、脚部ひきしめ体操: 腹筋群、背筋群、脚筋群、臀部を強化、ひきしめ体操 [実技]
- 第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動。体脂肪測定 [実技] 【備考】 場所は、ラクト B 南側のエレベーターを5階まで上がるとすぐにわかります。必要な持ち物は、1. 運動靴 2. 運動可能な服装 3. タオル 4. 筆記用具 ※上記1から3は有料レンタル有り 詳細は、初回オリエンテーションで指示します。

## 授業以外での学習方法

(1) JR山科駅前のラクト B 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15~18:45までの時間帯授業になります。(2) 参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (60%) 備考 (態度 20%、技能 20%)

科目名 スポーツコースⅡ〈a〉

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の目的（獲得目標）

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていくが、最終教育目標は集団マネジメント方法の学習である。バレーボールはチームスポーツ、受講生間に一体感が生まれやすく、仲間づくりや集団形成には最適のスポーツと考えます。基本練習からチームづくりの作業過程を通し、一般社会における集団マネジメントへの応用を図りたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス（授業内容・バレーボールの起源・ルール等）
- 第2回 基本技術の練習・公式5号球（パス・サーブ・ミニゲーム）
- 第3回 基本技術の練習・公式5号球（パス・スパイク・ブロック・ミニゲーム）
- 第4回 応用技術の練習（チャンスボールからの三段攻撃・ミニゲーム）
- 第5回 応用技術の練習（サーブレシーブからのフォーメーション・ミニゲーム）
- 第6回 スキルテスト（オーバーパス・アンダーパス・スパイク・サーブ）
- 第7回 簡易ゲームⅠ（アンダーハンドサーブのみ・ドリブルOK・ラリー回数無制限）
- 第8回 簡易ゲームⅡ（ドリブルOK・ラリー回数5回以内）
- 第9回 簡易ゲームⅢ（ラリー回数4回以内）
- 第10回 リーグ戦Ⅰ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第11回 リーグ戦Ⅱ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第12回 リーグ戦Ⅲ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅳ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅴ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 授業のまとめ（ディスカッション等）

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（5%）小テスト（5%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。）

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | スポーツコースⅡ〈b〉 |      |     |
| クラス   | b           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   | 45  |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 藤田 幸光       |      |     |

## テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

## 授業の目的（獲得目標）

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていくが、最終教育目標は集団マネジメント方法の学習である。バレーボールはチームスポーツ、受講生間に一体感が生まれやすく、仲間づくりや集団形成には最適のスポーツと考えます。基本練習からチームづくりの作業過程を通し、一般社会における集団マネジメントへの応用を図りたい。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス（授業内容・バレーボールの起源・ルール等）
- 第2回 基本技術の練習・公式5号球（パス・サーブ・ミニゲーム）
- 第3回 基本技術の練習・公式5号球（パス・スパイク・ブロック・ミニゲーム）
- 第4回 応用技術の練習（チャンスボールからの三段攻撃・ミニゲーム）
- 第5回 応用技術の練習（サーブレシーブからのフォーメーション・ミニゲーム）
- 第6回 スキルテスト（オーバーパス・アンダーパス・スパイク・サーブ）
- 第7回 簡易ゲームⅠ（アンダーハンドサーブのみ・ドリブルOK・ラリー回数無制限）
- 第8回 簡易ゲームⅡ（ドリブルOK・ラリー回数5回以内）
- 第9回 簡易ゲームⅢ（ラリー回数4回以内）
- 第10回 リーグ戦Ⅰ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第11回 リーグ戦Ⅱ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第12回 リーグ戦Ⅲ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅳ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅴ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 授業のまとめ（ディスカッション等）

## 授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

## 教科書

## 参考書



## 成績評価

試験（5%）小テスト（5%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。）

科目名 スポーツコースⅡ〈c〉

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の目的（獲得目標）

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていくが、最終教育目標は集団マネジメント方法の学習である。バレーボールはチームスポーツ、受講生間に一体感が生まれやすく、仲間づくりや集団形成には最適のスポーツと考えます。基本練習からチームづくりの作業過程を通し、一般社会における集団マネジメントへの応用を図りたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス（授業内容・バレーボールの起源・ルール等）
- 第2回 基本技術の練習・公式5号球（パス・サーブ・ミニゲーム）
- 第3回 基本技術の練習・公式5号球（パス・スパイク・ブロック・ミニゲーム）
- 第4回 応用技術の練習（チャンスボールからの三段攻撃・ミニゲーム）
- 第5回 応用技術の練習（サーブレシーブからのフォーメーション・ミニゲーム）
- 第6回 スキルテスト（オーバーパス・アンダーパス・スパイク・サーブ）
- 第7回 簡易ゲームⅠ（アンダーハンドサーブのみ・ドリブルOK・ラリー回数無制限）
- 第8回 簡易ゲームⅡ（ドリブルOK・ラリー回数5回以内）
- 第9回 簡易ゲームⅢ（ラリー回数4回以内）
- 第10回 リーグ戦Ⅰ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第11回 リーグ戦Ⅱ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第12回 リーグ戦Ⅲ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅳ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅴ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 授業のまとめ（ディスカッション等）

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（5%）小テスト（5%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。）

## 2010 Syllabus

|       |                         |      |     |
|-------|-------------------------|------|-----|
| 科目名   | スポーツコースⅡ[ラクトスポーツプラザ]〈d〉 |      |     |
| クラス   | d                       | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                      | 定員   | 30  |
| 履修条件  |                         |      |     |
| クラス指定 |                         |      |     |
| 担当者   | 佐々木 雅人                  |      |     |

## テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と筋力アップ

## 授業の目的（獲得目標）

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、筋力アッププログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション：フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴水分補給 メディカルチェック）[講義]
- 第2回 マシンジム：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ。[実技]
- 第3回 体力・形態測定：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデータとの比較 前期受講者は1回目との体力と形態比較しましょう[実技]
- 第4回 筋力アップの実践：筋持久力、筋力向上の理論と実践。白筋と赤筋とは。[実技]
- 第5回 無酸素運動：筋肉づくりの栄養・理論を学び筋力をつける[実技]
- 第6回 プールエクササイズ：プールでの水中エクササイズ運動[プール実技]
- 第7回 エアロビクス：ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践[実技]
- 第8回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動[実技]
- 第9回 サーキットトレーニング：部屋でできる運動プログラム[実技]
- 第10回 ボールエクササイズ：バランスボールを使ってインナーマッスルを強化する[実技]
- 第11回 ファンク：ファンクダンスで楽しもう。敏捷性を向上させる[実技]
- 第12回 自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に[実技]
- 第13回 腹筋強化運動：腹筋群・背筋群を強化する。腹部を引き締める運動[実技]
- 第14回 脚部強化運動：脚筋群・臀部を強化する。脚部を引き締める運動[実技]
- 第15回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動[実技] 【備考】場所は、ラクトB 南側のエレベーターを5階まで上がるとすぐにわかります。必要な持ち物は、1. 運動靴 2. 運動可能な服装 3. タオル 4. プール授業時（10/26）は、水着・スイミングキャップ・バスタオル 5. 筆記用具 ※ 上記1から4は有料レンタル有り 詳細は、初回オリエンテーションで指示します。

## 授業以外での学習方法

- （1） JR 山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15~18:45までの時間帯授業になります。（2）参考書：「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリー

を学んで下さい。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (60%) 備考 (態度 20%、技能 20%)

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | スポーツコースⅢ <a> |      |     |
| クラス   | a            | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   | 45  |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 |              |      |     |
| 担当者   | 宇部 一         |      |     |

**テーマ**

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化

**授業の目的（獲得目標）**

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

**内 容**

- 第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
- 第2回 バレーボールの基礎技能（パス、サービス）
- 第3回 バレーボールの基礎技能（サーブレシーブ、スパイク）、ミニゲーム
- 第4回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第5回 リーグ戦形式でのゲーム
- 第6回 リーグ戦形式でのゲーム
- 第7回 リーグ戦形式でのゲーム
- 第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト
- 第9回 バスケットボールの基礎技能（ボールハンドリング）
- 第10回 バスケットボールの基礎技能（シュート、ドリブル、パス）、ミニゲーム
- 第11回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第12回 リーグ戦形式でのゲーム
- 第13回 リーグ戦形式でのゲーム
- 第14回 リーグ戦形式でのゲーム
- 第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

**授業以外での学習方法**

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

**教科書****参考書**

## 成績評価

試験（10%）小テスト（5%）授業中課題（5%）授業中発表等（20%）参加度（60%）備考（）

科目名 スポーツコースⅢ <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 宇部 一

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化

授業の目的（獲得目標）

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

内 容

第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など

第2回 バレーボールの基礎技能（パス、サービス）

第3回 バレーボールの基礎技能（サーブレシーブ、スパイク）、ミニゲーム

第4回 グルーピング、チームでの練習の取り組み

第5回 リーグ戦形式でのゲーム

第6回 リーグ戦形式でのゲーム

第7回 リーグ戦形式でのゲーム

第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト

第9回 バスケットボールの基礎技能（ボールハンドリング）

第10回 バスケットボールの基礎技能（シュート、ドリブル、パス）、ミニゲーム

第11回 グルーピング、チームでの練習の取り組み

第12回 リーグ戦形式でのゲーム

第13回 リーグ戦形式でのゲーム

第14回 リーグ戦形式でのゲーム

第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

参考書



## 成績評価

試験（10%）小テスト（5%）授業中課題（5%）授業中発表等（20%）参加度（60%）備考（）

|       |                |      |      |
|-------|----------------|------|------|
| 科目名   | スポーツコースⅢ < c > |      |      |
| クラス   | c              | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期             | 定員   | 45   |
| 履修条件  |                |      |      |
| クラス指定 |                |      |      |
| 担当者   | 藤田 幸光          |      |      |

### テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

### 授業の目的（獲得目標）

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていくが、最終教育目標は集団マネジメント方法の学習である。バレーボールはチームスポーツ、受講生間に一体感が生まれやすく、仲間づくりや集団形成には最適のスポーツと考えます。基本練習からチームづくりの作業過程を通し、一般社会における集団マネジメントへの応用を図りたい。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス（授業内容・バレーボールの起源・ルール等）
- 第2回 基本技術の練習・公式5号球（パス・サーブ・ミニゲーム）
- 第3回 基本技術の練習・公式5号球（パス・スパイク・ブロック・ミニゲーム）
- 第4回 応用技術の練習（チャンスボールからの三段攻撃・ミニゲーム）
- 第5回 応用技術の練習（サーブレシーブからのフォーメーション・ミニゲーム）
- 第6回 スキルテスト（オーバーパス・アンダーパス・スパイク・サーブ）
- 第7回 簡易ゲームⅠ（アンダーハンドサーブのみ・ドリブルOK・ラリー回数無制限）
- 第8回 簡易ゲームⅡ（ドリブルOK・ラリー回数5回以内）
- 第9回 簡易ゲームⅢ（ラリー回数4回以内）
- 第10回 リーグ戦Ⅰ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第11回 リーグ戦Ⅱ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第12回 リーグ戦Ⅲ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅳ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅴ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 授業のまとめ（ディスカッション等）

### 授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験（5%）小テスト（5%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。）

## 2010 Syllabus

科目名 スポーツコースⅢ[ラクトスポーツプラザ]〈d〉

クラス d 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 佐々木 雅人

## テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と柔軟性の向上

## 授業の目的（獲得目標）

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、柔軟性向上プログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

## 内 容

第1回 オリエンテーション:フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック) [講義]

第2回 ストレッチⅠ:柔軟性の向上と準備・整理体操[実技]

第3回 体力・形態測定:自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデータとの比較[実技]

第4回 マシンジム:オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ。[実技]

第5回 ストレッチ理論:ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり[実技]

第6回 ストレッチⅡ:タテックストレッチとは。体前屈で良い結果をだす。[実技]

第7回 マシンジム実践:ジム機器を利用して運動[実技]

第8回 エアロビクスⅠ:ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践[実技]

第9回 マシンジム実践:ジム機器を利用して運動[実技]

第10回 ペアストレッチ:ペアになってストレッチを実践する。[実技]

第11回 マシンジム実践:ジム機器を利用して運動[実技]

第12回 ストレッチⅢ:ストレッチで柔軟性を向上する[実技]

第13回 自律訓練法:ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に[実技]

第14回 肩こり・腰痛体操:柔軟・筋力不足の肩こり、腰痛を解消する。[実技]

第15回 マシンジム実践:ジム機器を利用して運動。[実技] 【備考】場所は、ラクトB 南側のエレベーターを5階まで上がるとすぐにわかります。必要な持ち物は、1. 運動靴 2. 運動可能な服装 3. タオル 4. 筆記用具 ※ 上記1から3は有料レンタル有り 詳細は、初回オリエンテーションで指示します。

## 授業以外での学習方法

(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15~18:45までの時間帯授業になります。(2) 参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (60%) 備考 (態度 20%、技能 20%)

科目名 スポーツコースⅣ〈a〉

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 宇部 一

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化

授業の目的（獲得目標）

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

内 容

第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。種目グループ分け、第2回目から8回目まで卓球を行い9回目以降バドミントンを行うグループと、先にバドミントンを行い後半に卓球を行うグループに分ける。履修者全員2種目とも7回ずつ経験できるように計画する。（下記は先に卓球を行うグループの場合）

第2回 卓球の基礎技能練習、1分間ラリー測定

第3回 基礎練習とシングルスルールの理解

第4回 シングルスでのリーグ戦形式ゲーム

第5回 シングルスでのリーグ戦形式ゲーム

第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習

第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム

第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、1分間ラリー測定

第9回 バドミンントンの基礎技能練習（ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど）

第10回 バドミンントンの基礎技能練習（ドロップショット、ドライブ、サービスなど）

第11回 ダブルスゲームのルールの理解

第12回 リーグ戦形式でのダブルスゲーム

第13回 リーグ戦形式でのダブルスゲーム

第14回 リーグ戦形式でのダブルスゲーム

第15回 バドミンントンの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

**成績評価**

試験（10%）小テスト（5%）授業中課題（5%）授業中発表等（20%）参加度（60%）備考（）

科目名 スポーツコースⅣ〈b〉

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 宇部 一

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化

授業の目的（獲得目標）

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

内 容

第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。種目グループ分け、第2回目から8回目まで卓球を行い9回目以降バドミントンを行うグループと、先にバドミントンを行い後半に卓球を行うグループに分ける。履修者全員2種目とも7回ずつ経験できるように計画する。（下記は先に卓球を行うグループの場合）

第2回 卓球の基礎技能練習、1分間ラリー測定

第3回 基礎練習とシングルスルールの理解

第4回 シングルスでのリーグ戦形式ゲーム

第5回 シングルスでのリーグ戦形式ゲーム

第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習

第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム

第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、1分間ラリー測定

第9回 バドミンントンの基礎技能練習（ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど）

第10回 バドミンントンの基礎技能練習（ドロップショット、ドライブ、サービスなど）

第11回 ダブルスゲームのルールの理解

第12回 リーグ戦形式でのダブルスゲーム

第13回 リーグ戦形式でのダブルスゲーム

第14回 リーグ戦形式でのダブルスゲーム

第15回 バドミンントンの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書



**成績評価**

試験（10%）小テスト（5%）授業中課題（5%）授業中発表等（20%）参加度（60%）備考（）

科目名 スポーツコースⅣ〈c〉

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の目的（獲得目標）

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていくが、最終教育目標は集団マネジメント方法の学習である。バレーボールはチームスポーツ、受講生間に一体感が生まれやすく、仲間づくりや集団形成には最適のスポーツと考えます。基本練習からチームづくりの作業過程を通し、一般社会における集団マネジメントへの応用を図りたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス（授業内容・バレーボールの起源・ルール等）
- 第2回 基本技術の練習・公式5号球（パス・サーブ・ミニゲーム）
- 第3回 基本技術の練習・公式5号球（パス・スパイク・ブロック・ミニゲーム）
- 第4回 応用技術の練習（チャンスボールからの三段攻撃・ミニゲーム）
- 第5回 応用技術の練習（サーブレシーブからのフォーメーション・ミニゲーム）
- 第6回 スキルテスト（オーバーパス・アンダーパス・スパイク・サーブ）
- 第7回 簡易ゲームⅠ（アンダーハンドサーブのみ・ドリブルOK・ラリー回数無制限）
- 第8回 簡易ゲームⅡ（ドリブルOK・ラリー回数5回以内）
- 第9回 簡易ゲームⅢ（ラリー回数4回以内）
- 第10回 リーグ戦Ⅰ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第11回 リーグ戦Ⅱ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第12回 リーグ戦Ⅲ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅳ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅴ（正式ルール・星取表つける）※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 授業のまとめ（ディスカッション等）

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（5%）小テスト（5%）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。）

## 2010 Syllabus

|       |                          |      |      |
|-------|--------------------------|------|------|
| 科目名   | スポーツコースⅣ[ラクトスポーツプラザ] <d> |      |      |
| クラス   | d                        | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 後期                       | 定員   | 30   |
| 履修条件  |                          |      |      |
| クラス指定 |                          |      |      |
| 担当者   | 佐々木 雅人                   |      |      |

## テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

## 授業の目的（獲得目標）

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション:フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック) [実技]
- 第2回 ストレッチ理論・実践:柔軟性の向上と準備・整理体操。やわらかいしなやかな体づくり [実技]
- 第3回 体力・形態測定:自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較 前期受講者は1回目との体力と形態比較しましょう [実技]
- 第4回 マシンジム:オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ。 [実技]
- 第5回 プールエクササイズ プールでの水中エクササイズ運動 [プール実技]
- 第6回 ダイエットの為に栄養と理論:体脂肪とはなんぞや?正しい運動ダイエット。リバウンドについて 体脂肪率について [講義]
- 第7回 有酸素運動:体脂肪を燃焼させるメカニズムについて。 [実技]
- 第8回 エアロビクスⅠ:ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践 [実技]
- 第9回 無酸素運動:ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」 [実技]
- 第10回 自律訓練法:ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に [実技]
- 第11回 ボクシングエアロ:ボクシングスタイルのエアロビクス [実技]
- 第12回 ストレッチ:ストレッチで柔軟性を向上する [実技]
- 第13回 チューブ&ダンベル体操:チューブ、ダンベル器具を使って筋力体操・部分ひきしめ体操 [実技]
- 第14回 腹部、脚部 ひきしめ体操:腹筋群、背筋群、脚筋群、臀部を強化、ひきしめ体操 [実技]
- 第15回 マシンジム実践:ジム機器を利用して運動。体脂肪測定 [実技] 【備考】 場所は、ラクトB 南側のエレベーターを5階まで上がるとすぐにわかります。必要な持ち物は、1. 運動靴 2. 運動可能な服装 3. タオル 4. プール授業時(10/28)は、水着・スイミングキャップ・バスタオル 5. 筆記用具 ※ 上記1から4は有料レンタル有り 詳細は、初回オリエンテーションで指示します。

## 授業以外での学習方法

- (1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動

して 17:15~18:45 までの時間帯授業になります。(2) 参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (60%) 備考 (態度 20%、技能 20%)

科目名 地球環境論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

地球環境問題と水問題

授業の目的（獲得目標）

21世紀の最重要化だえである地球環境問題と水問題についての理解を深める

内 容

第1回 オリエンテーション 地球環境問題と何か

第2回 地球温暖化（1）温暖化危機

第3回 地球温暖化（2）気候大変動

第4回 地球温暖化（3）気候大変動

第5回 地球温暖化（4）北極大変動

第6回 温暖化対策（1）エネルギー転換

第7回 温暖化対策（2）循環型社会

第8回 温暖化対策（3）低炭素社会

第9回 水問題（1）水の世紀が始まった

第10回 水問題（2）水の世紀が始まった

第11回 水問題（3）アラル海

第12回 水問題（4）ウォーター・ビジネス

第13回 水問題（5）ウォーター・クライシス

第14回 水問題（6）ウォーター・クライシス

第15回 エピローグ

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む（とくに経済面、政治面、社会面など） 環境問題を取り上げたテレビ番組を見ること

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 地球環境論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 エコロジー研究

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



---

科目名 エコロジー研究

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 小森 治夫

---

テーマ

環境と開発の総合的研究

---

### 授業の目的（獲得目標）

日本における山と森林・河川・海の開発事例について、ビデオを素材に検討することにより、自然環境と開発の関係をイメージ豊かに学ぶ

---

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 日本の自然保護（1）尾瀬
  - 第3回 日本の自然保護（2）富士山
  - 第4回 山と森林の自然保護（1）白神山地
  - 第5回 山と森林の自然保護（2）国有林の危機
  - 第6回 山と森林の自然保護（3）林業政策の大転換
  - 第7回 川の自然保護（1）川の文化
  - 第8回 川の自然保護（2）四万十川
  - 第9回 川の自然保護（3）四万十川、琵琶湖
  - 第10回 海の自然保護・諫早湾干拓
  - 第11回 日本の世界遺産（1）屋久島
  - 第12回 日本の世界遺産（2）知床
  - 第13回 里山の保護
  - 第14回 日本のエコツーリズム・石垣島
  - 第15回 世界のエコツーリズム
- 

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 自然の中で学ぶ

クラス 配当回生

講義期間 定員 25

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 環境と人間の健康

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮本 邦彦

テーマ

環境と人間の健康について環境問題や環境中の汚染物質の挙動を通して学修する。

授業の目的（獲得目標）

人間が地球上で共生してゆくため何をすべきかを認識するとともに環境を守り、次世代の人々に環境の恵沢を継承してゆくことの重要性を認識する。

内 容

- |      |                    |             |
|------|--------------------|-------------|
| 第1回  | 環境と人間の関係           | 生態系と人間      |
| 第2回  | 自然環境をむしばむ人間生活      |             |
| 第3回  | 近年における環境と健康問題      |             |
| 第4回  | 地球規模の環境問題          | 温暖化、オゾン層の破壊 |
| 第5回  | 酸性雨、海洋汚染、森林破壊      |             |
| 第6回  | 第1～6回の課題討議とレポート作成  |             |
| 第7回  | 国内の環境問題            | 大気と水質汚染     |
| 第8回  | 食品の安全性             |             |
| 第9回  | 廃棄物問題              |             |
| 第10回 | 汚染物質の自然史           | 環境の浄化       |
| 第11回 | 有機りん化合物や重金属等の自然史   |             |
| 第12回 | 第7～12回の課題討議とレポート作成 |             |
| 第13回 | 汚染物質と生体            | 生物濃縮        |
| 第14回 | 毒性の評価              |             |
| 第15回 | 内分泌攪乱物質            |             |

授業以外での学習方法

新聞・テレビ等の環境問題に関心を持っておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（70）授業中発表等（0）参加度（30）備考（課題提出では授業中

に取り上げた課題をグループで討議し、個人レポートとして提出します。35点×2回 参加度は1回欠席で5点減点（5以上の欠席は不可）とします。）

科目名 環境と人間の健康 <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 現代社会の課題A <a>

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 今井 裕夫

テーマ

居心地のいい美しい住宅との出会いを求めて

授業の目的（獲得目標）

居心地のいい美しい住宅建築の魅力について世界の名作住宅を 10 作品ほど選び、空間の美しさや楽しさを資料や写真、平面の簡単なトレースを通して空間を追体験し、その魅力の謎解きをおこなう。

内 容

第1回 講義の説明

第2回 作品① F.L. ライト

第3回 作品② L. コルビジェ

第4回 作品③ M. ローエ

第5回 作品④ W. グロピウス

第6回 作品⑤ A. アアルト

第7回 作品⑥ P. コーニック

第8回 作品⑦ C. ムーア

第9回 作品⑧ L. バラガン

第10回 作品⑨ O. ニーマイヤー

第11回 作品⑩ R. ノイトラ

第12回 作品⑪ G. リートフェルト

第13回 作品⑫ W. モリス

第14回 作品⑬(軽井沢の山荘 吉村順三)

第15回 作品⑭(F邸 藤木忠善)と全体のまとめ 講義の進行具合により、若干の変更あり

授業以外での学習方法

都市や建築に関する新聞記事に興味を持つこと。配布資料作品についての予習を怠らないこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 現代社会の課題A <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

企業（活動）と芸術・文化や社会の関係——経済価値と文化的価値の関係を考える

授業の目的（獲得目標）

現代の企業（活動）は、利益指標による経済的な評価だけではなく、社会的存在としての企業の機能に注目して、メセナや社会貢献活動への側面からの評価が重視されるようになってきている（ことを理解する）。内容：柿崎孝夫『企業を文化で語る』を教科書として採用し、毎回内容を説明する。

内 容

- 第1回 イントロダクション：メセナ、フィランソロピー、CSR
- 第2回 I-1 企業文化を学ぶ人へ
- 第3回 I-2 企業文化の定義
- 第4回 I-3 企業文化と価値創造
- 第5回 I-4 起業の社会的責任と社会貢献活動
- 第6回 I-5 社会貢献活動と芸術文化支援
- 第7回 I-6 メセナの歴史
- 第8回 I-7 文化で語る企業へ
- 第9回 中間のまとめとテスト
- 第10回 II-1 各国のメセナの現状
- 第11回 II-2 日本のメセナの現状
- 第12回 II-3 メセナの心得
- 第13回 教科書のまとめと定期テスト
- 第14回 テストの反省と講義のまとめ
- 第15回 スケジュールを調整して、企業メセナ活動に触れる機会も企画する。

授業以外での学習方法

企業のメセナ活動の参考例などに、実際に参加することも企画する。経済価値とともに、文化的な価値の重要性が強調されるに至る政治、経済の背景（の変化）に目を配る。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（50）小テスト（30）授業中課題（20）授業中発表等（）参加度（）備考（）



|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 現代社会の課題A <c> |      |     |
| クラス   | c            | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   |     |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 |              |      |     |
| 担当者   | 中谷 武雄        |      |     |

### テーマ

企業（活動）と芸術・文化や社会の関係——経済価値と文化的価値の関係を考える

### 授業の目的（獲得目標）

現代の企業（活動）は、利益指標による経済的な評価だけではなく、社会的存在としての企業の機能に注目して、メセナや社会貢献活動への側面からの評価が重視されるようになってきている（ことを理解する）。内容：柿崎孝夫『企業を文化で語る』を教科書として採用し、毎回内容を説明する。

### 内 容

- 第1回 イントロダクション：メセナ、フィランソロピー、CSR
- 第2回 I-1 企業文化を学ぶ人へ
- 第3回 I-2 企業文化の定義
- 第4回 I-3 企業文化と価値創造
- 第5回 I-4 起業の社会的責任と社会貢献活動
- 第6回 I-5 社会貢献活動と芸術文化支援
- 第7回 I-6 メセナの歴史
- 第8回 I-7 文化で語る企業へ
- 第9回 中間のまとめとテスト
- 第10回 II-1 各国のメセナの現状
- 第11回 II-2 日本のメセナの現状
- 第12回 II-3 メセナの心得
- 第13回 教科書のまとめと定期テスト
- 第14回 テストの反省と講義のまとめ
- 第15回 スケジュールを調整して、企業メセナ活動に触れる機会も企画する。

### 授業以外での学習方法

企業のメセナ活動の参考例などに、実際に参加することも企画する。経済価値とともに、文化的な価値の重要性が強調されるに至る政治、経済の背景（の変化）に目を配る。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験 (50) 小テスト (30) 授業中課題 (20) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 現代社会の課題A <d>

クラス d

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

文化と経済の関係の基本的理解

授業の目的（獲得目標）

キャリア形成の基礎となる文化産業研究を深める

内 容

第1回 文化経済学とは何か

第2回 芸術作品の価格

第3回 芸術文化の市場

第4回 価格の持つ意味

第5回 芸術文化の消費

第6回 芸術文化の生産

第7回 芸術文化と情報

第8回 文化資本

第9回 ボランティア経済

第10回 マスツーリズムを超えた温泉観光

第11回 情報財としてのJPOP

第12回 スポーツNPO

第13回 パブリックアート

第14回 デザインとビジネス

第15回 自由時間と芸術文化

第16回 まとめと試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（）備考（毎回の授業で教科書を必ず持参してください。試験にも必要です。）

|       |              |          |
|-------|--------------|----------|
| 科目名   | 現代社会の課題A <e> |          |
| クラス   | e            | 配当回生 1回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員       |
| 履修条件  |              |          |
| クラス指定 |              |          |
| 担当者   | 狭間 芳樹        |          |

### テーマ

キリスト教と応用倫理学を学ぶなかで現代社会が抱える課題について考える。

### 授業の目的（獲得目標）

キリスト教は西欧近代社会の倫理観形成に深く関わってきた宗教である。したがって倫理について考える際キリスト教を学ぶことは意義深い。一方、現代社会が直面する様々な課題を解決していくにあたり、私たちは旧来の倫理を越えた新しい倫理（応用倫理）を援用することも求められている。そこで本講義では、まずキリスト教の歴史や思想を概観した上で、次に応用倫理学の手法を学び、最終的に現代社会の課題について受講者とともに考えていくことを目標とする。

### 内 容

第1回 キリスト教と宗教戦争——パレスチナ問題、中東戦争

第2回 ユダヤ教から始まったキリスト教とイスラーム

第3回 聖書の世界——旧約聖書と新約聖書

第4回 キリスト教の諸概念——罪、義、隣人愛

第5回 ヒューマニズム、ルネサンスとキリスト教

第6回 資本主義の誕生——社会の近代化とキリスト教の倫理

第7回 コペルニクスの地動説とガリレオ裁判

第8回 進化論とキリスト教

第9回 自由主義神学と非神話論

第10回 これまでの倫理と新しい倫理——応用倫理学を学ぶ

第11回 黒人解放の神学、フェミニスト神学

第12回 非西洋化するキリスト教

第13回 生命倫理とキリスト教——脳死、臓器移植、クローン技術

第14回 エコロジー運動と環境倫理学

第15回 まとめ（試験を含む）

### 授業以外での学習方法

大学の図書館を利用するなどして、新聞をできるだけ読むよう努めることを期待する。その他、テレビやインターネットなどのメディアで報じられる社会の諸問題に対して日頃から関心を抱くよう望む。

### 教科書

### 成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（前期末試験の成績を主として評価するが、授業内での課題（授業内容に関する意見や、映像を鑑賞した際の感想文など）、参加度（出席）といった授業への積極的な取り組みも評価の対象とする。評価の割合は上記の通り。なお、忌引きや教育実習などの公欠は「出席」と見なし、また就職活動での欠席も事情により「出席」と見なす場合がある。）

科目名 現代社会の課題A < f >

クラス f

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

文化と経済の関係の基本的理解

授業の目的（獲得目標）

キャリア形成の基礎となる文化産業研究を深める

内 容

第1回 文化経済学とは何か

第2回 芸術作品の価格

第3回 芸術文化の市場

第4回 価格の持つ意味

第5回 芸術文化の消費

第6回 芸術文化の生産

第7回 芸術文化と情報

第8回 文化資本

第9回 ボランティア経済

第10回 マスツーリズムを超えた温泉観光

第11回 情報財としてのJPOP

第12回 スポーツNPO

第13回 パブリックアート

第14回 デザインとビジネス

第15回 自由時間と芸術文化

第16回 まとめと試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（）備考（毎回の授業で教科書を必ず持参してください。試験にも必要です。）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 情報社会論 <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   |     |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 |           |      |     |
| 担当者   | 三輪 幸一     |      |     |

## テーマ

IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識

## 授業の目的（獲得目標）

経営戦略，システム企画，マネジメント，ハードウェア，ネットワーク，情報セキュリティ，著作権，情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること。IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で，経営戦略，システム企画，マネジメント，ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報の漏洩やコンピュータウイルスなどの脅威にさらされており，情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに，国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート

## 内 容

第1回 経営管理と組織論 業務の把握と分析手法

第2回 経営戦略の手法

第3回 システム戦略とシステム企画

第4回 プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント

第5回 コンピュータシステムⅠ ・コンピュータの構成要素（メモリ，CPU，バスシステムなど）

第6回 コンピュータシステムⅡ ・コンピュータの構成要素（補助記憶装置，入出力インタフェースなど）

第7回 コンピュータシステムⅢ ・ソフトウェアシステム（OS，ファイルシステムなど） ・プログラミングとアルゴリズム ・データベース（リレーション，正規化など）

第8回 ネットワークの構成としくみⅠ ・IPアドレスとネットワークのしくみ

第9回 ネットワークの構成としくみⅡ ・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど

第10回 ホームページやソフトウェアの著作権 コンピュータウイルスの種類と対策

第11回 情報セキュリティ ・アクセス権，認証，暗号化，デジタル署名，メッセージ認証 ・ネットワークのセキュリティ対策 ・情報漏えい対策（フィッシング対策，スパイウェア対策など）

第12回 情報分析の手法Ⅰ（決定表とDFDによる分析）

第13回 情報分析の手法Ⅱ（E-R図による分析）

第14回 情報分析の手法Ⅲ（ポートフォリオ図による分析，SWOT分析）

第15回 情報分析の手法Ⅳ アローダイアグラムによる日程計画

## 授業以外での学習方法

ITパスポート試験を受験する場合は，エキストのITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。また70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問題集により傾向把握し問題練習する

のが効果的です。

---

**教科書**

**参考書**

---

### **成績評価**

試験（0%）小テスト（80%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いため、やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は、申し出て小テスト形式の課題を受取り、指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。）



|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 情報社会論 <b> |      |     |
| クラス   | b         | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   |     |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 |           |      |     |
| 担当者   | 三輪 幸一     |      |     |

## テーマ

IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識

## 授業の目的（獲得目標）

経営戦略，システム企画，マネジメント，ハードウェア，ネットワーク，情報セキュリティ，著作権，情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること。IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で，経営戦略，システム企画，マネジメント，ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報の漏洩やコンピュータウィルスなどの脅威にさらされており，情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに，国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート

## 内 容

第1回 経営管理と組織論 業務の把握と分析手法

第2回 経営戦略の手法

第3回 システム戦略とシステム企画

第4回 プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント

第5回 コンピュータシステムⅠ ・コンピュータの構成要素（メモリ，CPU，バスシステムなど）

第6回 コンピュータシステムⅡ ・コンピュータの構成要素（補助記憶装置，入出力インタフェースなど）

第7回 コンピュータシステムⅢ ・ソフトウェアシステム（OS，ファイルシステムなど） ・プログラミングとアルゴリズム ・データベース（リレーション，正規化など）

第8回 ネットワークの構成としくみⅠ ・IPアドレスとネットワークのしくみ

第9回 ネットワークの構成としくみⅡ ・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど

第10回 ホームページやソフトウェアの著作権 コンピュータウィルスの種類と対策

第11回 情報セキュリティ ・アクセス権，認証，暗号化，デジタル署名，メッセージ認証 ・ネットワークのセキュリティ対策 ・情報漏えい対策（フィッシング対策，スパイウェア対策など）

第12回 情報分析の手法Ⅰ（決定表とDFDによる分析）

第13回 情報分析の手法Ⅱ（E-R図による分析）

第14回 情報分析の手法Ⅲ（ポートフォリオ図による分析，SWOT分析）

第15回 情報分析の手法Ⅳ アローダイアグラムによる日程計画

## 授業以外での学習方法

ITパスポート試験を受験する場合は，エキストのITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。また70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問題集により傾向把握し問題練習する

のが効果的です。

---

**教科書**

**参考書**

---

### **成績評価**

試験（0%）小テスト（80%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いので、やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は、申し出て小テスト形式の課題を受取り、指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。）

科目名 現代社会の課題B <a>

クラス a

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

現代社会とジェンダー

授業の目的（獲得目標）

女性として（あるいは男性として）生きていくのに絶対必要なジェンダー問題について、ビデオを素材にイメージ豊かに学ぶ

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 ストーカー

第3回 女性の社会進出

第4回 結婚

第5回 家事分担

第6回 生命と生殖の科学（1）精子バンク

第7回 生命と生殖の科学（2）卵子ビジネス

第8回 生命と生殖の科学（3）親を知りたい

第9回 少子化

第10回 子育て（1）

第11回 子育て（2）

第12回 児童虐待（1）

第13回 児童虐待（2）

第14回 DV（1）

第15回 DV（2）

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 現代社会の課題B <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

男女共同参画社会とはどのような社会なのか、実現には何が必要なのかを考える

授業の目的（獲得目標）

社会、職場、家庭などあらゆる場に男女がともに参画することが現代社会の大きな課題である。その意味、意義について学び将来の人生設計の参考にする。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 憲法上の女性の地位

第3回 映画「ベアテの贈りもの」

第4回 女性の地位の歴史的変遷

第5回 男女の役割に関する意識の現状

第6回 男女雇用機会均等法について（1）

第7回 男女雇用機会均等法について（2）制定当時の内容と2度の改正の内容

第8回 雇用の場における男女平等の実態

第9回 男女共同参画社会基本法、京都府男女共同参画推進条例について

第10回 決定の場、就労の場、家庭における男女の参画状況

第11回 少子化の実態と背景

第12回 少子化対策

第13回 男性の育児休業

第14回 男性の生き方について

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

男性、女性の生き方について常に関心を抱いて資料や新聞記事などを読むこと

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（50%）備考（）

科目名 現代社会の課題 B

クラス c 配当回生 1回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 現代社会の課題B <d>

クラス d

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 井手 幸喜

テーマ

歴史からたどる日本社会の課題－日本社会の人権状況を読み解く－

授業の目的（獲得目標）

今日の日本の人権状況をもたらした原因と改善に向けてのアプローチを理解する 内 容 この授業では、現在直面しているといわれる人権に関わる諸問題を、理念として提示されている人権概念の視点と歴史的背景からどう捉えるかをテーマとして講義をすすめる。例えば女性に限っても、保護規定を取り払って容認された雇用における男女平等、働くことにおいて女性の権利はどう変わりつつあるのか。行き場のないストレスを抱え込む母親、家庭での母性や絆と呼ばれる結びつきが女性にどう作用しているのか。一方、シングルマザーやパラサイトシング

内 容

第1回 そもそも人権とは－権利の歴史から－

第2回 日本における「人権」の登場

第3回 日本近代における人権と民主主義

第4回 近現代社会における人権の具体相－詩歌にみるハンセン病－

第5回 近現代社会における人権の具体相－ハンセン病、療養所入所と無らい県運動－

第6回 近現代社会における人権の具体相－ハンセン病、断種と墮胎からみえてくるものとは－

第7回 近現代社会における人権の具体相－ハンセン病問題から何を学ぶか－

第8回 水俣病問題とは－戦後日本社会の課題をみつめる－

第9回 水俣病問題の歴史から読み取れること－その責任と患者たちの視点－

第10回 「水俣病は終わらない」

第11回 水俣病問題からのメッセージ

第12回 近現代社会における人権の具体相－部落差別、部落問題が辿った道－

第13回 近現代社会における人権の具体相－変化する戦後の部落問題から何を学ぶか－

第14回 戦後日本社会と日本の人権状況－女性、子ども－

第15回 戦後日本社会と日本の人権状況－障害者、高齢者そして、生活保護－

授業以外での学習方法

女性問題など人権状況を考える市民的企画への参加や、授業中に示す参考文献などで、より具体的な人権の学習を希望。

教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（40%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（）

科目名 現代社会の課題B <e>

クラス e 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 大澤 光

テーマ

書籍や文献の調査によって、現代社会の中心的な存在である「企業」の経営者の生きざまを学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

「企業」と「経営者」に関する知識と関心力を身につける。

内 容

第1回 授業ガイダンス&企業経営者ビデオの視聴（1）

第2回 企業経営者ビデオの視聴（2）

第3回 第1課題（レポート／プレゼンテーション）

第4回 企業経営者ビデオの視聴（3）

第5回 企業経営者ビデオの視聴（4）

第6回 企業経営者ビデオの視聴（5）

第7回 第2課題（レポート／プレゼンテーション）

第8回 中間まとめ

第9回 企業経営者ビデオの視聴（6）

第10回 企業経営者ビデオの視聴（7）

第11回 第3課題（レポート／プレゼンテーション）

第12回 企業経営者ビデオの視聴（9）

第13回 企業経営者ビデオの視聴（10）

第14回 企業経営者ビデオの視聴（11）

第15回 第4課題（レポート／プレゼンテーション）

授業以外での学習方法

教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、「授業情報サイト」を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、毎回、視聴した経営者ビデオについての「小レポート」（分かったこと／感想）を教室で提出し、また、与えられた課題（特定の経営者）に対する「レポート」（この経営者はどう生きたか）をサイトに提出し教室でプレゼンテーションすること。

教科書

参考書



## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（6回以上欠席すると（累計出席時間 2/3 未満）、単位は取得できない。）

科目名 現代社会の課題B < f >

クラス f 配当回生 1 回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 久保 妙子

テーマ

高齢社会における課題－福祉および住環境・衣生活からみた諸問題について

### 授業の目的（獲得目標）

この授業では、日本社会における高齢化の状況を知り、社会福祉、住環境、衣生活の各視点からみた諸問題について考察する。社会福祉の分野では、少子高齢化の社会的影響について理解し、現代社会における課題について考える。住環境の分野では、インテリアデザインからコミュニティにいたるまでの、高齢者にとっての住環境を取り上げ、その問題点について考えるとともに、高齢者住宅の現状を概観する。そして衣生活分野では、高齢者や加齢による身体機能の低下した人々の快適な衣生活についてユニバーサルファッションの視点から捉え、またその実現へ

### 内 容

第1回 社会福祉分野 ①少子高齢社会の到来

第2回 社会福祉分野 ②高齢社会における人口構造問題

第3回 社会福祉分野 ③高齢社会における経済構造問題

第4回 社会福祉分野 ④高齢者の生活問題 － 健康, 介護, 経済

第5回 社会福祉分野 ⑤社会福祉ニーズの変化と福祉政策

第6回 社会福祉分野 ⑥福祉社会の創出と福祉政策の展望

第7回 住環境分野 ①高齢社会における住環境について－安全で快適な室内環境

第8回 住環境分野 ②高齢社会とコミュニティのあり方－コミュニティの重要性とコミュニティ喪失の影響

第9回 住環境分野 ③外国におけるコミュニティ事例の紹介－高齢者コミュニティとその住宅（グループホームなど）

第10回 住環境分野 ④住環境に関するユニバーサルデザインについて－高齢者の視点からみた課題

第11回 住環境分野 ⑤新しい高齢者住宅と環境－住宅型の有料老人ホームや高齢者専用賃貸住宅の特徴

第12回 住環境分野 ⑥高齢者にとってのインテリアデザインとは－生活様式、人間工学およびデザインの視点から

第13回 衣生活分野 ①高齢者と衣生活について－衣服の構成要素から考える－

第14回 衣生活分野 ②高齢者と衣生活について－衣生活に関する実態と意識を知る－

第15回 衣生活分野 ③ユニバーサルファッション実現への課題－我が国の繊維産業の現状と今後の展望－

### 授業以外での学習方法

新聞、テレビ、インターネット等を通して、広く社会の出来事や情勢に関心を持ってほしい。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（40%）備考（）

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 生活の中の数学 <Z> |      |     |
| クラス   | a           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 大澤 光        |      |     |

### テーマ

企業・産業・社会などの問題を理解・検討するための方法論で、ビジネスマンに必須の知識ともいわれている「社会システム工学」の方法を学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

企業・産業・社会などの問題を「理解・検討するための方法論である「社会システム工学」の方法の知識と関心力を身につける。

### 内 容

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 問題のはなし
- 第3回 社会とデータと情報のはなし
- 第4回 モデルのはなし
- 第5回 シミュレーションのはなし
- 第6回 モンテカルロ法のはなし
- 第7回 「考える」方法のはなし
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 予測のはなし
- 第10回 ゲームの理論のはなし
- 第11回 確率とベイズの理論のはなし
- 第12回 意思決定と不確実性のはなし
- 第13回 ネットワークの科学のはなし
- 第14回 ITと社会のはなし
- 第15回 最終まとめ

### 授業以外での学習方法

教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、「授業情報サイト」を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、毎回の授業の終了時に、授業についての「小レポート」（分かったこと／分からなかったこと）を教室で提出する。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（6回以上欠席すると（累計出席時間 2/3 未満）、単位は取得できない。）

|       |         |      |
|-------|---------|------|
| 科目名   | 生活の中の数学 |      |
| クラス   | b       | 配当回生 |
| 講義期間  | 定員      |      |
| 履修条件  |         |      |
| クラス指定 |         |      |
| 担当者   | 大澤 光    |      |

### テーマ

企業・産業・社会などの問題を理解・検討するための方法論で、ビジネスマンに必須の知識ともいわれている「社会システム工学」の方法を学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

企業・産業・社会などの問題を「理解・検討するための方法論である「社会システム工学」の方法の知識と関心力を身につける。

### 内 容

- 第1回 授業ガイダンス
- 第2回 問題のはなし
- 第3回 社会とデータと情報のはなし
- 第4回 モデルのはなし
- 第5回 シミュレーションのはなし
- 第6回 モンテカルロ法のはなし
- 第7回 「考える」方法のはなし
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 予測のはなし
- 第10回 ゲームの理論のはなし
- 第11回 確率とベイズの理論のはなし
- 第12回 意思決定と不確実性のはなし
- 第13回 ネットワークの科学のはなし
- 第14回 ITと社会のはなし
- 第15回 最終まとめ

### 授業以外での学習方法

教員と受講生間のコミュニケーションやレポート提出などのため、「授業情報サイト」を利用するので、受講生は“使える”「メールアドレス」を用意しておくこと。受講生は、毎回の授業の終了時に、授業についての「小レポート」（分かったこと／分からなかったこと）を教室で提出する。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（100%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（6回以上欠席すると（累計出席時間 2/3 未満）、単位は取得できない。）

|       |            |      |      |
|-------|------------|------|------|
| 科目名   | 国際関係入門 <a> |      |      |
| クラス   | a          | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期         | 定員   |      |
| 履修条件  |            |      |      |
| クラス指定 |            |      |      |
| 担当者   | 杉山 泰       |      |      |

### テーマ

辺境に生きて「鎖国政策」を続ける日本人にとっての「国際関係」を探る

### 授業の目的（獲得目標）

イギリスから日本を1年間眺め続け、気づいたことは、イギリスのGP（general practitioner＝かかりつけ開業医）がインド人であり、看護婦がアフリカ系かアジア系であることだった。イギリスの看護師の新規登録の5割以上が40歳以上であり、28,000人以上の外国人看護師が登録され、新規登録者35,000人のうち、14,000人がフィリピン、インドなどからの就労であることを知って、日本の看護師とのあまりの違いに愕然とした。つまり、イギリスでは、日本国籍のまま、通算20年働けば、男性は自動的に65歳か

### 内 容

- 第1回 「日本」はいつから日本で、「イギリス (U.K.)」はいつからイギリスなのだろうか。まず、己を知ろう。
- 第2回 The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland という「連合王国」の女王の出身地は？
- 第3回 Scotland には Bank of Scotland があり、Wales では道路標識が2か国語で書いてある理由は？
- 第4回 夏目漱石は1901年、ロンドンでヴィクトリア女王の葬儀の様子を見ていた。地下鉄をどう描いたか？
- 第5回 1901年、イギリスのミス・ハワードが訪日し、薩摩藩邸の島津家の5人の家庭教師をした。何を教えたか？
- 第6回 1902年、日本はイギリスと日英同盟を結び、1904年には日露戦争で勝利した。戦艦はすべてイギリス製？
- 第7回 初めてのイギリス人との出会いは、1600年の William Adams。Plant hunters は日本から何を奪ったのか？
- 第8回 ゴルフやサッカーや競馬はなぜイギリスで生まれたのか。世界万博とオリンピックによる、スポーツの国際化。
- 第9回 オリンピックのロンドン大会でなぜ、野球やソフトボールが廃止となった理由は何か？国際的スポーツとは？
- 第10回 イギリスレストランが世界中にないのはなぜか。日本食（回る寿司など）がイギリスでなぜ受けているのか？
- 第11回 中国ではアヘン戦争を仕掛け、香港も奪ったのに、中国人はなぜイギリス人を憎まず、日本人を憎むのか？
- 第12回 London には京都の10倍もの外国人観光客が訪れているのは、なぜなのか。観光の国際化。
- 第13回 150年前のイギリスは晩婚化が進み、出生率1.4を切ったのに、なぜ人口減少がおきなかったのか。
- 第14回 イギリスはブレア首相が£3,000＝45万円の大学授業料を取ったが、なぜ医療は無料なのか？
- 第15回 人口も国土も日本の半分の国イギリスが、なぜ農業大国となり、失業率も下がったのか。日英国際化比較。



---

### 授業以外での学習方法

5月に International Theatre Company London の英語劇を鑑賞して、イギリスに関心を持ってもらう。鑑賞できない学生は、イギリス映画を見て、感想文を書いてもらう。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（30%）小テスト（）授業中課題（50%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（最低1回（最後の授業までにならず提出）イギリスについての新聞記事（あるいは雑誌記事）を切り抜いて、それがなぜ国際関係と関係しているのかの、コメントを加えなさい。）

科目名 時事問題研究A <a>

クラス a

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

ダム開発の問題点を考える

授業の目的（獲得目標）

河川の開発（とくにダム開発）の事例について、ビデオを素材に検討することにより、自然環境に与える影響の大きさを理解し、自然環境再生への道を探る

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 八つ場ダム（1）

第3回 八つ場ダム（2）

第4回 川辺川ダム

第5回 見直されるダム建設

第6回 長良川河口堰（1）

第7回 長良川河口堰（2）、矢作川

第8回 ダムとは何か

第9回 ダム建設と水没補償問題

第10回 徳山ダム、アメリカのダム政策の大転換

第11回 吉野川河口堰

第12回 細川内ダム、「脱ダム」宣言

第13回 出し平ダム、アメリカのダム撤去

第14回 環境の価値とCVM

第15回 自然の再生

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |              |      |      |
|-------|--------------|------|------|
| 科目名   | 時事問題研究 A <b> |      |      |
| クラス   | b            | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   |      |
| 履修条件  |              |      |      |
| クラス指定 |              |      |      |
| 担当者   | 杉山 泰         |      |      |

## テーマ

英国から眺めた世界のニュース

## 授業の目的（獲得目標）

鳩山内閣は子ども手当 1 人 2 万 6000 円の約束を所得制限なしに実施しようだが、イギリスでは所得制限なしに子ども手当は当たり前のこととして支払われている。ヨーロッパでは子ども手当に所得制限はない。子どもが増えないと、日本でも 2050 年には人口が 9000 万人まで減る。ヨーロッパや北欧では大学まで教育は無料であることが原則になっている。子どもを社会全体で支援している。しかし、日本とアメリカは違う。金がないと病院にも大学にも行けない。奨学金とは本来給付金のはずであり、日本の奨学金は loan（借金）に他ならない。「新

## 内 容

- 第 1 回 1901 年夏目漱石がロンドンで学んだ L (literature) = F (Fact) + f (feeling) (『文学論』) とは何だったのか。
- 第 2 回 2009 年 240 万部も売れた村上春樹の『1Q84』に描かれた「事実」とは何なのか。Fact と opinion の区別は？
- 第 3 回 イギリスの新聞における fact と opinion。どの新聞を読むかで、政党支持が分かる国。イラク報道を続ける BBC。
- 第 4 回 事実とは何か。国連加盟国 193、日本の人口は世界第 10 位。日本語は世界 10 位以内の超大言語。
- 第 5 回 イギリスの新聞は数字が好き。5、4、40、200、0 は？ 5 は核兵器保有宣言国、0 はアラブ諸国の核兵器保有国。
- 第 6 回 EU 加盟国 27 か国なのに 22 の公用語、国連はわずか 6 の公用語。世界の 6000 語の言語と各国の新聞事情。
- 第 7 回 戦争を巡る報道。第二次世界大戦はいつ終わったのか。幕末の薩英戦争の報道とイギリス外務省職員 Ernest Satow。
- 第 8 回 日本の天皇報道とイギリスの王室報道。日本の参議院とイギリスの貴族院。イギリスに貴族は何人いるか。
- 第 9 回 国連で認められた日本の伝統食 Macrobiotics。トム・クルーズやマドンナも食べている日本食はイギリスでは？
- 第 10 回 食料自給率 40% の日本。穀物自給率 28% は世界 123 位。ヴィクトリア時代に自給率 40% のイギリスは今？
- 第 11 回 自動販売機のないイギリス。ブレア首相は公立学校から junk food を一掃した。Coke をなぜ飲ませないのか？
- 第 12 回 イギリスの新聞報道で最も多い記事 = obesity (肥満) と breast cancer (乳がん)。油脂の取りすぎと肥満。

第 13 回 イギリス人が絶対に食べないもの＝犬、馬、クジラ、スズメ。食文化と宗教。マグロやクジラは食べては駄目？

第 14 回 ロンドンオリンピックで野球とソフトボールが消えたのは？近代スポーツのほとんどはイギリス生まれ。

第 15 回 益川教授の英語嫌い、薬師院仁志『英語を学べばバカになる』は本当？英語と米語、どう違う。

---

### 授業以外での学習方法

イギリス映画が数多く上映されるので、ぜひ見てもらいたい。昔のイギリス映画（あるいはニュージーランド映画）を授業中に見ることも計画している。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（毎回、レジュメのほかに、講義の最後に「講義チェックテスト」を配って、翌週返却する。テストといっても5箇所の（ ）を埋めるだけの簡単なもの。ただ、これで出席を取るの、「出席くん」の代理出席？はできない。）

---

科目名 時事問題研究A <c>

クラス c

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

---

テーマ

演習形式による時事問題の研究

---

### 授業の目的（獲得目標）

時事問題を通じて経済社会の動向に関する幅広い知識を獲得し、自分自身のキャリア形成につなげる。また、授業中課題・発表に取り組むなかで、論理的な思考力とプレゼンテーション能力を養う。なお、時事問題として取り上げるテーマは、受講生と相談の上で変更することもある。

---

### 内 容

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 論理的思考の練習（1）
  - 第3回 論理的思考の練習（2）
  - 第4回 レポートの作成法（1）
  - 第5回 レポートの作成法（2）
  - 第6回 時事問題Ⅰ 婚活を考える（1）
  - 第7回 時事問題Ⅰ 婚活を考える（2）
  - 第8回 時事問題Ⅰ 婚活を考える（3）
  - 第9回 時事問題Ⅱ 貧困は自己責任か（1）
  - 第10回 時事問題Ⅱ 貧困は自己責任か（2）
  - 第11回 時事問題Ⅱ 貧困は自己責任か（3）
  - 第12回 時事問題Ⅲ 不平等と健康（1）
  - 第13回 時事問題Ⅲ 不平等と健康（2）
  - 第14回 時事問題Ⅲ 不平等と健康（3）
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

授業中に指示した文献に目を通すこと。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) 備考 ( )

科目名 時事問題研究B <a>

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

消費者行動とビジネス世界の基本的理解

授業の目的（獲得目標）

ビジネス世界を知ることから、自分のキャリア開発をスタートする 学生自身の消費経験（アルバイトによる販売経験も）を客観的にとらえる

内 容

第1回 消費者行動プロセス① 消費者／顧客行動の合理的側面／感情的側面

第2回 消費者行動プロセス② 購買プロセス

第3回 消費者行動プロセス③ 心理的プロセス

第4回 パーソナリティとセルフイメージ

第5回 消費者関与

第6回 問題認識

第7回 動機付け

第8回 情報収集

第9回 学習

第10回 消費者の知覚

第11回 消費者の態度

第12回 準拠集団

第13回 選択肢の分類

第14回 企業と消費者行動①

第15回 企業と消費者行動②

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（70%）授業中発表等（）参加度（）備考（受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価（授業中課題）とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない）

科目名 時事問題研究B <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

事例をとおした企業経営の理解

授業の目的（獲得目標）

日本経済新聞や日経ビジネスなどの経済記事をとおして、企業の経営戦略、マーケティング戦略、財務戦略等のタイムリーな情報を研究する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 企業経営の研究（1）

第3回 企業経営の研究（2）

第4回 企業経営の研究（3）

第5回 企業経営の研究（4）

第6回 企業経営の研究（5）

第7回 企業経営の研究（6）

第8回 企業経営の研究（7）

第9回 企業経営の研究（8）

第10回 企業経営の研究（9）

第11回 企業経営の研究（10）

第12回 企業経営の研究（11）

第13回 企業経営の研究（12）

第14回 企業経営の研究（13）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

テレビのニュース、インターネットの記事などで伝えられる経済情報に、積極的にアプローチする。

教科書

参考書

成績評価

試験（20）小テスト（20）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（60）備考（）



---

科目名 時事問題研究B <c>

クラス c

配当回生 1回生

講義期間 通年

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

---

テーマ

事例をととした企業経営の理解

---

授業の目的（獲得目標）

日本経済新聞や日経ビジネスなどの経済記事をととして、企業の経営戦略、マーケティング戦略、財務戦略等のタイムリーな情報を研究する。

---

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 企業経営の研究（1）

第3回 企業経営の研究（2）

第4回 企業経営の研究（3）

第5回 企業経営の研究（4）

第6回 企業経営の研究（5）

第7回 企業経営の研究（6）

第8回 企業経営の研究（7）

第9回 企業経営の研究（8）

第10回 企業経営の研究（9）

第11回 企業経営の研究（10）

第12回 企業経営の研究（11）

第13回 企業経営の研究（12）

第14回 企業経営の研究（13）

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（20）小テスト（20）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（60）備考（ テレビのニュース、インターネットの記事などで伝えられる経済情報に、積極的にアプローチする。）

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 時事問題研究B <d> |      |     |
| クラス   | d           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | その他         | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）     |      |     |

### テーマ

演習形式で、時事問題について学びます。今年度は、「中国の市場経済・産業発展・企業改革」を取り上げます。この授業では、受講生がリサーチし、発表し、討論するという方式で行ないます。担当教員によるガイダンスや説明もありますが、主体は受講生です。これは大学での学びの基本です。定員は、25名以内とします。

### 授業の目的（獲得目標）

いま、東アジア経済圏ないし東アジアビジネス圏は新たな発展の局面に入っています。なかでも、日本、中国、および韓国を含む東北アジアにおける経済交流・ビジネス提携の進化が顕著になっています。この授業では、いまや「世界の工場」と呼ばれ、また世界で最大の消費国の一つになりつつある中国の市場経済と産業発展について様々な角度から追跡します。

### 内 容

- 第1回 授業の進め方の説明とクラス編成について協議
- 第2回 担当教員の概説：「中国」はどのように「市場経済」を導入してきたか
- 第3回 「市場経済」とは何か、について検討し、その結果を発表し討論する
- 第4回 「中国社会主義共和国」（以下、中国と呼ぶ。）についてリサーチしたことを発表し討論する（以下、リサーチ・発表・討論の方式は同じ）
- 第5回 中国の市場経済は、日本の市場経済と、どこが同じで、どこが違うか
- 第6回 中国の市場経済の現状・特徴・問題点とはなにか
- 第7回 中国の産業を主導してきた外国系企業の役割はなにか
- 第8回 中国の国有企業や民営企業は、どのような産業を担っているか
- 第9回 今、中国の産業で国際競争力があるのは、どんな産業なのか
- 第10回 世界最大の債権国であり、米国を抜いて世界最大の自動車消費国になろうとしている秘密を探る
- 第11回 中国の企業は、ぜんぶ国有企業であるというのは、本当だろうか
- 第12回 ゲスト・スピーカー（中国人の大学教員か研究者）による講義
- 第13回 代表的な中国企業について調べてみよう（1）
- 第14回 同上（2）
- 第15回 中国の市場経済・産業発展・企業改革の全体像をイメージできますか

### 授業以外での学習方法

中国の記事が載っている雑誌やインターネットの記事に接して、各自、関心や興味をもったトピックスにアクセスする習慣を身につける。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 時事問題研究B <e> |      |     |
| クラス   | e           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期          | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 仲田 正機       |      |     |

**テーマ**

演習形式で、時事問題について学びます。今年度は、「中国の市場経済・産業発展・企業改革」を取り上げます。この授業では、受講生がリサーチし、発表し、討論するという方式で行ないます。担当教員によるガイダンスや説明もありますが、主体は受講生です。これは大学での学びの基本です。定員は、25名以内とします。

**授業の目的（獲得目標）**

いま、東アジア経済圏ないし東アジアビジネス圏は新たな発展の局面に入っています。なかでも、日本、中国、および韓国を含む東北アジアにおける経済交流・ビジネス提携の進化が顕著になっています。この授業では、いまや「世界の工場」と呼ばれ、また世界で最大の消費国の一つになりつつある中国の市場経済と産業発展について様々な角度から追跡します。

**内 容**

第1回 授業の進め方の説明とクラス編成について協議

第2回 担当教員の概説：「中国」はどのように「市場経済」を導入してきたか

第3回 「市場経済」とは何か、について検討し、その結果を発表し討論する

第4回 「中華人民共和国」（以下、中国と呼ぶ。）についてリサーチしたことを発表し討論する（以下、リサーチ・発表・討論の方式は同じ）

第5回 中国の市場経済は、日本の市場経済と、どこが同じで、どこが違うか

第6回 中国の市場経済の現状・特徴・問題点とはなにか

第7回 中国の産業を主導してきた外国系企業の役割はなにか

第8回 中国の国有企業や民営企業は、どのような産業を担っているか

第9回 今、中国の産業で国際競争力があるのは、どんな産業なのか

第10回 世界最大の債権国であり、米国を抜いて世界最大の自動車消費国になろうとしている秘密を探る

第11回 中国の企業は、ぜんぶ国有企業であるというのは、本当だろうか

第12回 ゲスト・スピーカー（中国人の大学教員か研究者）による講義

第13回 代表的な中国企業について調べてみよう（1）

第14回 同上（2）

第15回 中国の市場経済・産業発展・企業改革の全体像をイメージできますか

**授業以外での学習方法**

中国の記事が載っている雑誌やインターネットの記事に接して、各自、関心や興味をもったトピックスにアクセスする習慣を身につける。

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 ( )

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 自分探し論 <a>  |      |     |
| クラス   | a          | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   |     |
| 履修条件  | 演習系内容のみ25名 |      |     |
| クラス指定 |            |      |     |
| 担当者   | 織田 直文      |      |     |

### テーマ

人生というたった一つのドラマを精一杯生きる。

### 授業の目的（獲得目標）

様々な人間の人生史から、人間としての生き方の美学を学び、自分の生き方を見出す。人生は、かけがえの無いたった一つのドラマである。生きていく上で、バックボーンを形成する必要がある、個々人の生き方の美学が必要である。それぞれが何にこだわり、何を大事に生きていくかを掴みとるために、多くの人々の生き方を知り、学生各自のこれからの生き方を考える。

### 内 容

- 第1回 人間はなぜ生まれ、生きるのかについて考える。
- 第2回 人間にとって幸せとは何なのかについて考える。いい生き方をするコツを学ぶ。
- 第3回 ノンフィクションを読む（1）ノンフィクションを書く<レポート出題①>
- 第4回 ノンフィクションを読む（2）
- 第5回 ノンフィクションを読む（3）ノンフィクションを書く<レポート出題②>
- 第6回 ノンフィクションを読む（4）レポート出題①の発表 レポート出題③
- 第7回 自分を分析する①
- 第8回 自分を分析する②
- 第9回 レポート出題②の発表
- 第10回 他人の理解とコミュニケーション
- 第11回 自己アピールとコミュニケーション（1）
- 第12回 自己アピールとコミュニケーション（2）
- 第13回 レポート③の発表（その1）
- 第14回 レポート③の発表（その2）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

様々なノンフィクション作品を読む。ドキュメンタリー番組を見る。日記を付ける。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40 %）授業中発表等（20 %）参加度（40 %）備考（様々なノンフィクション作品を読む。ドキュメンタリー番組を見る。日記を付ける。）

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 自分探し論 <b>  |      |     |
| クラス   | b          | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   |     |
| 履修条件  | 演習系内容のみ25名 |      |     |
| クラス指定 |            |      |     |
| 担当者   | 織田 直文      |      |     |

### テーマ

人生というたった一つのドラマを精一杯生きる。

### 授業の目的（獲得目標）

様々な人間の人生史から、人間としての生き方の美学を学び、自分の生き方を見出す。人生は、かけがえの無いたった一つのドラマである。生きていく上で、バックボーンを形成する必要がある、個々人の生き方の美学が必要である。それぞれが何にこだわり、何を大事に生きていくかを掴みとるために、多くの人々の生き方を知り、学生各自のこれからの生き方を考える。

### 内 容

- 第1回 人間はなぜ生まれ、生きるのかについて考える
- 第2回 人間にとって幸せとは何なのかについて考える。いい生き方をするコツを学ぶ
- 第3回 ノンフィクションを読む（1）ノンフィクションを書く<レポート出題①>
- 第4回 ノンフィクションを読む（2）
- 第5回 ノンフィクションを読む（3）ノンフィクションを書く<レポート出題②>
- 第6回 ノンフィクションを読む（4）レポート出題①の発表レポート出題③
- 第7回 自分を分析する①
- 第8回 自分を分析する②
- 第9回 レポート出題②の発表
- 第10回 他人の理解とコミュニケーション
- 第11回 自己アピールとコミュニケーション（1）
- 第12回 自己アピールとコミュニケーション（2）
- 第13回 レポート③の発表（その1）
- 第14回 レポート③の発表（その2）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

様々なノンフィクション作品を読む。ドキュメンタリー番組を見る。日記を付ける。

### 教科書

### 参考書



## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（20%）参加度（40%）備考（）

科目名 教員採用試験特別対策講座Ⅲ 〈初等〉

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 50

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 北原 琢也. 竹中 佳子

#### テーマ

学校教育実践論 I

#### 授業の目的（獲得目標）

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代であると言われています。これからの教職を志望する者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身に付ける必要があります。そのために、現代の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的、複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主

#### 内 容

- 第1回 授業の説明等（教職を志す資質・能力及び教員採用試験）イントロダクション
- 第2回 教師に求められる資質・能力
- 第3回 ワークショップ
- 第4回 教育観について
- 第5回 ワークショップ
- 第6回 今日的な教育課題
- 第7回 ワークショップ
- 第8回 学習指導の在り方
- 第9回 ワークショップ
- 第10回 児童・生徒の問題行動について
- 第11回 ワークショップ
- 第12回 これからの人権教育
- 第13回 ワークショップ
- 第14回 都道府県政令指定都市の教育方針や教育目標などに関する内容
- 第15回 ワークショップとまとめ

#### 授業以外での学習方法

日常から文部科学省のホームページを検索しておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門紙、教育専門月刊誌などを常に意識し、読んでおくこと。

#### 教科書

### 成績評価

試験（なし）小テスト（なし）授業中課題（60%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。）

科目名 教員採用試験特別対策講座Ⅲ 〈中等〉

クラス b 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 50

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 北原 琢也. 竹中 佳子

#### テーマ

学校教育実践論 I

#### 授業の目的（獲得目標）

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代であると言われています。これからの教職を志望する者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身に付ける必要があります。そのために、現代の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的、複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主

#### 内 容

第1回 授業の説明等（教職を志す資質・能力及び教員採用試験）イントロダクション

第2回 教師に求められる資質・能力

第3回 ワークショップ

第4回 教育観について

第5回 ワークショップ

第6回 今日的な教育課題

第7回 ワークショップ

第8回 学習指導の在り方

第9回 ワークショップ

第10回 児童・生徒の問題行動について

第11回 ワークショップ

第12回 これからの人権教育

第13回 ワークショップ

第14回 都道府県政令指定都市の教育方針や教育目標などに関する内容

第15回 ワークショップとまとめ

#### 授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から検索しておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門紙、教育専門月刊誌などを常に意識し、読んでおくこと。

#### 教科書

**成績評価**

試験（なし）小テスト（なし）授業中課題（60%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。）

科目名 教員採用試験特別対策講座Ⅳ 〈初等〉

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 北原 琢也. 竹中 佳子

テーマ

学校教育実践論Ⅱ

### 授業の目的（獲得目標）

今回の学習指導要領改訂において、「生きる力」という理念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成を重視されています。これからの教職を志望する者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけでなく、改訂の趣旨及び背景（例えば、教育基本法の改正、学校教育法の改正など）も含めて理解し、教師としての実践力として身に付けることが大切です。また、将来、教師として採用された後も、学

### 内 容

- 第1回 授業の説明等、イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領の改善点
- 第3回 教育課程の編成、教育課程の意義、教育課程の概念など
- 第4回 教育課程とその基準、教育課程に関する法制など
- 第5回 教育課程編成の一般方針
- 第6回 内容に等に取り扱いに関する共通的事項
- 第7回 授業時数に関する知識1
- 第8回 授業時数に関する知識2
- 第9回 指導計画の作成
- 第10回 教育課程実施上の配慮事項1
- 第11回 教育課程実施上の配慮事項2
- 第12回 教育課程実施上の配慮事項3
- 第13回 道徳、外国語活動
- 第14回 総合的な学習の時間、特別活動
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から検索しておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門紙、教育専門月刊誌などを常に意識し、読んでおくこと。

### 教科書

- 書籍 1 : 小学校学習指導要領  
著者 1 : 文部科学省  
書籍 2 : 解説 総則編  
著者 2 : 文部科学省  
書籍 3 : 解説 道徳、特別活動  
著者 3 : 文部科学省  
書籍 4 : 解説 総合的な学習の時間  
著者 4 : 文部科学省  
書籍 5 : 解説 外国語活動  
著者 5 : 文部科学省

## 参考書

- 書籍 1 : 授業中指示をします。
- 

## 成績評価

試験（なし）小テスト（30％）授業中課題（30％）授業中発表等（20％）参加度（20％）備考（小テスト、授業中課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。）

科目名 教員採用試験特別対策講座Ⅳ 〈中等〉

クラス b 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 北原 琢也. 竹中 佳子

テーマ

学校教育実践論Ⅱ

### 授業の目的（獲得目標）

今回の学習指導要領改訂において、「生きる力」という理念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成を重視されています。これからの教職を志望する者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけでなく、改訂の趣旨及び背景（例えば、教育基本法の改正、学校教育法の改正など）も含めて理解し、教師としての実践力として身に付けることが大切です。また、将来、教師として採用された後も、学

### 内 容

- 第1回 授業の説明等、イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領の改善点
- 第3回 教育課程の編成、教育課程の意義、教育課程の概念など
- 第4回 教育課程とその基準、教育課程に関する法制など
- 第5回 教育課程編成の一般方針
- 第6回 内容に等に取り扱いに関する共通的事項
- 第7回 授業時数に関する知識1
- 第8回 授業時数に関する知識2
- 第9回 指導計画の作成
- 第10回 教育課程実施上の配慮事項1
- 第11回 教育課程実施上の配慮事項2
- 第12回 教育課程実施上の配慮事項3
- 第13回 道徳、特別活動
- 第14回 総合的な学習の時間
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から検索しておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門紙、教育専門月刊誌などを常に意識し、読んでおくこと。

### 教科書



**成績評価**

試験（なし）小テスト（30%）授業中課題（30%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（小テスト、授業中課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。）

科目名 経済学 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

ミクロ経済学の基礎を学び、身近な現象をミクロ経済学の視点から分析する

授業の目的（獲得目標）

ニュースなどを見ていても、経済に関わる論説には分かりにくいものが多い。たとえば「最低賃金の引き上げ」のような一見したところ誰もが望ましいように思うことについても、反対意見を述べる経済学者がいたりする。その背後には経済学独特の考え方があり、それをよく理解していないと、必ずしも「絶対」ではない意見を鵜呑みにしたりしてしまうようになる。この授業では、ミクロ経済学の基本的な概念や考え方について理解し、新聞等で報道される様々な現象について、自分自身の力で理解できるだけの能力を身につける。

内 容

- 第1回 イントロダクション：水とダイヤモンドのパラドックス
- 第2回 市場の調整メカニズム：ものの値段はどのように決まるのか？
- 第3回 消費者余剰と生産者余剰：最低賃金の引き上げは望ましいのか？
- 第4回 弾力性分析：税金をかけるなら、米かブランドもののバッグか？
- 第5回 外部性の理論：エコカー減税はなぜ必要か？
- 第6回 まとめ（1）：市場と価格メカニズム
- 第7回 消費者理論：需要曲線はどのように導き出されるのか？
- 第8回 公共財の理論：どうして一般道はタダで使えるのか？
- 第9回 企業と費用構造：企業は何を指標にして行動を決めているのか？
- 第10回 損益分岐点と操業停止点：赤字でも生産をやめないのはどうしてか？
- 第11回 独占と自然独占・ネットワーク外部性：企業が大きくなるのは望ましいのか？
- 第12回 まとめ（2）：限界分析と市場の失敗
- 第13回 経済行動とリスク：ギャンブルをする人、しない人
- 第14回 保険とモラル・ハザード：火災保険はどうして全額補償ではないのか？
- 第15回 逆選択とクリーム・スキミング：中古車市場は粗悪品ばかり

授業以外での学習方法

身の回りの経済現象に関心を持つようにしてほしい。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (80) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | 経済学Ⅱ     |
| クラス   | 配当回生 1回生 |
| 講義期間  | 後期 定員    |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   | 阪本 崇     |

### テーマ

マクロ経済学の基礎を学び、経済安定化政策にそれがどのように活かされているかを知る

### 授業の目的（獲得目標）

「失われた10年」とも称された平成不況をようやく脱したかに思えた日本経済は、2007年にアメリカで発生したサブプライム・ローン問題に端を発する世界的な景気の減速の中で、再び不況期を迎えることになった。このように、一国の経済は景気の上昇と下降を繰り返すが、その理由は何か、そして政府はそれに対して何らかの対策を立て、景気を安定化を図ることができるのだろうか？この授業では、これらの間に対する答えを、マクロ経済学の基礎を学びながら明らかにしていく。マクロ経済学の基本的な知識を身につけることによって、新聞等で報道さ

### 内 容

第1回 イン트로ダクション：大恐慌とマクロ経済学の誕生

第2回 新しい労働市場分析

第3回 国民所得の諸概念（経済の「大きさ」のはかり方）

第4回 景気に対する2つの考え方：国民所得の決定原理

第5回 公共事業で景気はよくなるのか？

第6回 まとめ：マクロ経済学の基礎

第7回 租税と公債

第8回 投資の決定メカニズム

第9回 貨幣市場の需要と供給

第10回 金融政策と経済安定化

第11回 失業とフィリップス曲線

第12回 インフレーションとデフレーション

第13回 まとめ：マクロ経済学と経済安定化政策

第14回 開放経済のマクロ経済モデル

第15回 開放経済下の経済安定化政策

### 授業以外での学習方法

新聞やテレビのニュースなどで、景気の動きについてどのようなことが報じられているか、注意してみてほしい。

### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (80) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 教育経済学

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

教育の経済価値と教育を支える経済的基盤

### 授業の目的（獲得目標）

教育と経済とを結びつけることについては嫌悪感を示す人も多い。しかし、現実には教育は経済的な基盤がなければ行い得ない営みであるし、また逆に、好むと好まざるとを問わず、教育が経済に与える影響は非常に大きい。この授業では、教育をその経済への影響と、それを支える経済的基盤の2つの視点から分析する。その上で、教育にとって望ましい経済システムのあり方はどのようなものかを考える。

### 内 容

- 第1回 イントロダクション：教育と経済・経済学
- 第2回 教育にはお金がかかる
- 第3回 教育の経済価値
- 第4回 人的資本の理論（1）：シュルツとベッカーの着想
- 第5回 人的資本の理論（2）：教育の収益率分析
- 第6回 人的資本の理論（3）：教育投資と所得の異時点間配分
- 第7回 スクリーニング理論（2）：能力をふるいにかける
- 第8回 スクリーニング理論（3）：学歴と自己選抜
- 第9回 まとめ：教育の経済理論
- 第10回 教育の公共性（1）：教育と所得配分
- 第11回 教育の公共性（2）：政策手段としての教育
- 第12回 株式会社が学校を運営することはできるか？
- 第13回 教育バウチャー制度は現実的か？
- 第14回 所得連動型教育ローンの提言
- 第15回 まとめ：教育を支えるための経済システム

### 授業以外での学習方法

考え方の基礎としてミクロ経済学やマクロ経済学があるので、経済学Ⅰ・Ⅱを受講していない学生は、それらのテキストを読んで理解を補うことが望ましい。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 救急救命士特別対策講座 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 春期集中 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 鈴木 靖奈

テーマ

公務員対策

### 授業の目的（獲得目標）

救急救命士の最大の就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学及び時事問題等の理解を目指す。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 公務員試験対策講座
- 第3回 公務員試験対策講座
- 第4回 公務員試験対策講座
- 第5回 公務員試験対策講座
- 第6回 公務員試験対策講座
- 第7回 公務員試験対策講座
- 第8回 公務員試験対策講座
- 第9回 公務員試験対策講座
- 第10回 公務員試験対策講座
- 第11回 公務員試験対策講座
- 第12回 公務員試験対策講座
- 第13回 公務員試験対策講座
- 第14回 公務員試験対策講座
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )



|       |                |      |      |
|-------|----------------|------|------|
| 科目名   | キャリアデザイン入門 <a> |      |      |
| クラス   | a              | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 後期             | 定員   | 100  |
| 履修条件  |                |      |      |
| クラス指定 | 大学指定           |      |      |
| 担当者   | 岡本 武史          |      |      |

### テーマ

「自己発見」と「キャリアデザイン」について

### 授業の目的（獲得目標）

「自己発見」を通じて自分の可能性を広げるとともに「働くこと」の意義を考え、将来に向けての「キャリアデザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション：キャリアデザインとは何か？（講義内容・ルール・講師紹介等）
- 第2回 キャリアデザイン①「学生自己紹介」（大切なもの・好きな言葉等）
- 第3回 キャリアデザイン②「何のために働くのか？自分らしく働く！」（講義）
- 第4回 キャリアデザイン③「コミュニケーション報酬・自分のモチベーションリソース」（講義）
- 第5回 キャリアデザイン④「自分らしく働く：クロスミーティング」（ゲストスピーカー男性）
- 第6回 キャリアデザイン⑤「自分らしく働く：クロスミーティング」（ゲストスピーカー女性）
- 第7回 自己発見プログラム①「自意識のレベルを知る」と「人脈MAPの過去・未来」（ワークショップ&グループシェアリング）
- 第8回 自己発見プログラム②「10のキーワードで自己紹介する」と「自分をモノに置き換える」（ワークショップ&グループシェアリング）
- 第9回 自己発見プログラム③「ライフ曲線から自分の価値観形成のプロセスを知る」（ワークショップ&グループシェアリング）
- 第10回 自己発見プログラム④「マイキャリアキャンバスを描く（5年後を予想する）」（ワークショップ&グループシェアリング）
- 第11回 自己発見プログラム⑤「自分のコンセプトを知り、オンリーワンのキャッチフレーズを創る」（ワークショップ&グループシェアリング）
- 第12回 自己発見プログラム⑥「褒め言葉から自分の強みと弱みを認識する」（ワークショップ&グループシェアリング）
- 第13回 自己発見プログラム⑦「自分の未来地図を描く（アクションプラン）」（ワークショップ&グループシェアリング）
- 第14回 自己発見のまとめ「質問にすべて答える！」
- 第15回 講義全体のまとめ「キャリアデザインのフローを振り返る」（講義）

### 授業以外での学習方法

本学はもとより、学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することで、さらに効果が出

るようにプログラムされている。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（なし）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（40%）備考（小テスト&授業中課題については毎回の授業の最後にアンケート形式（20分程度）で記入させる。）

|             |                |      |      |
|-------------|----------------|------|------|
| 科目名         | キャリアデザイン入門 <b> |      |      |
| クラス         | b              | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 後期             | 定員   | 100  |
| <b>履修条件</b> |                |      |      |
| クラス指定       | 大学指定           |      |      |
| 担当者         | 香坂 千佳子         |      |      |

**テーマ**

「自己発見」と「キャリア・デザイン」について

**授業の目的（獲得目標）**

「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。 [内容] コンテンツに沿って、講義後、ワークショップ形式で、ワークシートを使って自己分析を行い、その後、グループシェアリングで、お互いに意見交換をして、より客観的に自己分析をする。 [学生への要望・留意点] 授業スタイル：授業内、授業外での課題の取り組み、グループや仲間の考え方から気づきを促す授業形態（“感、の学習）で運営します。 系統的に順序立てた

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション 「キャリアとキャリア・デザイン」（講義内容・ルール・講師紹介）
- 第2回 「自分を表現してみる」①（自分らしさ）（講義）
- 第3回 「何のために働くのか・自分らしく働く」（講義）
- 第4回 「私の欲しいものを探る」
- 第5回 「自意識のレベルを知る」 & 「人脈MAPの過去・未来」
- 第6回 「自分らしく働く／クロスミーティング」（ゲストスピーカー①）
- 第7回 「自分らしく働く／クロスミーティング」（ゲストスピーカー②）
- 第8回 「自分を表現してみる②（10のキーワードで自己紹介する）
- 第9回 「自分のコンセプトを知り、オンリーワンのキャッチを創る」
- 第10回 「私のCMづくり」（ワーク）
- 第11回 「私のビジョンを描く（5年後の私）」（ワーク）
- 第12回 「自分の未来地図を描いてみる①」（アクションプラン）」
- 第13回 「自分の未来地図を描いてみる②」（アクションプラン）」
- 第14回 「多様な働き方とワークライフバランスという考え方」
- 第15回 「全体のまとめ」

**授業以外での学習方法**

本学はもとより学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することにより、さらに効果が出るようにプログラムされている。

**教科書**

### 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（●課題（授業内&授業外）  
=20%●プレゼンテーション=20% ●授業中発表（グループシェアリング参加度）=30% ●参加度=30%）

科目名 キャリアデザイン入門 <c>

クラス c 配当回生 1 回生

講義期間 後期 定員 100

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 岡本 武史

#### テーマ

「自己発見」と「キャリアデザイン」について

#### 授業の目的（獲得目標）

「自己発見」を通じて自分の可能性を広げるとともに「働くこと」の意義を考え、将来に向けての「キャリアデザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。

#### 内 容

第1回 オリエンテーション：キャリアデザインとは何か？（講義内容・ルール・講師紹介等）

第2回 キャリアデザイン①「学生自己紹介」（大切なもの・好きな言葉等）

第3回 キャリアデザイン②「何のために働くのか？自分らしく働く！」（講義）

第4回 キャリアデザイン③「コミュニケーション報酬・自分のモチベーションリソース」（講義）

第5回 キャリアデザイン④「自分らしく働く：クロスミーティング」（ゲストスピーカー男性）

第6回 キャリアデザイン⑤「自分らしく働く：クロスミーティング」（ゲストスピーカー女性）

第7回 自己発見プログラム①「自意識のレベルを知る」と「人脈MAPの過去・未来」（ワークショップ&グループシェアリング）

第8回 自己発見プログラム②「10のキーワードで自己紹介する」と「自分をモノに置き換える」（ワークショップ&グループシェアリング）

第9回 自己発見プログラム③「ライフ曲線から自分の価値観形成のプロセスを知る」（ワークショップ&グループシェアリング）

第10回 自己発見プログラム④「マイキャリアキャンバスを描く（5年後を予想する）」（ワークショップ&グループシェアリング）

第11回 自己発見プログラム⑤「自分のコンセプトを知り、オンリーワンのキャッチフレーズを創る」（ワークショップ&グループシェアリング）

第12回 自己発見プログラム⑥「褒め言葉から自分の強みと弱みを認識する」（ワークショップ&グループシェアリング）

第13回 自己発見プログラム⑦「自分の未来地図を描く（アクションプラン）」（ワークショップ&グループシェアリング）

第14回 自己発見のまとめ「質問にすべて答える！」

第15回 講義全体のまとめ「キャリアデザインのフローを振り返る」（講義）

#### 授業以外での学習方法

本学はもとより、学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することで、さらに効果が出

るようにプログラムされている。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（なし）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（40%）備考（小テスト&授業中課題については毎回の授業の最後にアンケート形式（20分程度）で記入させる。）

|             |                |      |     |
|-------------|----------------|------|-----|
| 科目名         | キャリアデザイン入門 <d> |      |     |
| クラス         | d              | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間        | 後期             | 定員   | 100 |
| <b>履修条件</b> |                |      |     |
| クラス指定       | 大学指定           |      |     |
| 担当者         | 香坂 千佳子         |      |     |

**テーマ**

「自己発見」と「キャリア・デザイン」について

**授業の目的（獲得目標）**

「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。 [内容] コンテンツに沿って、講義後、ワークショップ形式で、ワークシートを使って自己分析を行い、その後、グループシェアリングで、お互いに意見交換をして、より客観的に自己分析をする。 [学生への要望・留意点] 授業スタイル：授業内、授業外での課題の取り組み、グループや仲間の考え方から気づきを促す授業形態（“感、の学習）で運営します。 系統的に順序立てた

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション 「キャリアとキャリア・デザイン」（講義内容・ルール・講師紹介）
- 第2回 「自分を表現してみる」①（自分らしさ）（講義）
- 第3回 「何のために働くのか・自分らしく働く」（講義）
- 第4回 「私の欲しいものを探る」
- 第5回 「自意識のレベルを知る」 & 「人脈MAPの過去・未来」
- 第6回 「自分らしく働く／クロスミーティング」（ゲストスピーカー①）
- 第7回 「自分らしく働く／クロスミーティング」（ゲストスピーカー②）
- 第8回 「自分を表現してみる②（10のキーワードで自己紹介する）
- 第9回 「自分のコンセプトを知り、オンリーワンのキャッチを創る」
- 第10回 「私のCMづくり」（ワーク）
- 第11回 「私のビジョンを描く（5年後の私）」（ワーク）
- 第12回 「自分の未来地図を描いてみる①」（アクションプラン）」
- 第13回 「自分の未来地図を描いてみる②」（アクションプラン）」
- 第14回 「多様な働き方とワークライフバランスという考え方」
- 第15回 「全体のまとめ」

**授業以外での学習方法**

本学はもとより学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することにより、さらに効果が出るようにプログラムされている。

**教科書**

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（●課題（授業内&授業外）  
=20%●プレゼンテーション=20% ●授業中発表（グループシェアリング参加度）=30% ●参加度=30%）



科目名 キャリアデザイン入門 <e>

クラス e

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員 100

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 岡本 武史

#### テーマ

「自己発見」と「キャリアデザイン」について

#### 授業の目的（獲得目標）

「自己発見」を通じて自分の可能性を広げるとともに「働くこと」の意義を考え、将来に向けての「キャリアデザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。

#### 内 容

第1回 オリエンテーション：キャリアデザインとは何か？（講義内容・ルール・講師紹介等）

第2回 キャリアデザイン①「学生自己紹介」（大切なもの・好きな言葉等）

第3回 キャリアデザイン②「何のために働くのか？自分らしく働く！」（講義）

第4回 キャリアデザイン③「コミュニケーション報酬・自分のモチベーションリソース」（講義）

第5回 キャリアデザイン④「自分らしく働く：クロスミーティング」（ゲストスピーカー男性）

第6回 キャリアデザイン⑤「自分らしく働く：クロスミーティング」（ゲストスピーカー女性）

第7回 自己発見プログラム①「自意識のレベルを知る」と「人脈MAPの過去・未来」（ワークショップ&グループシェアリング）

第8回 自己発見プログラム②「10のキーワードで自己紹介する」と「自分をモノに置き換える」（ワークショップ&グループシェアリング）

第9回 自己発見プログラム③「ライフ曲線から自分の価値観形成のプロセスを知る」（ワークショップ&グループシェアリング）

第10回 自己発見プログラム④「マイキャリアキャンバスを描く（5年後を予想する）」（ワークショップ&グループシェアリング）

第11回 自己発見プログラム⑤「自分のコンセプトを知り、オンリーワンのキャッチフレーズを創る」（ワークショップ&グループシェアリング）

第12回 自己発見プログラム⑥「褒め言葉から自分の強みと弱みを認識する」（ワークショップ&グループシェアリング）

第13回 自己発見プログラム⑦「自分の未来地図を描く（アクションプラン）」（ワークショップ&グループシェアリング）

第14回 自己発見のまとめ「質問にすべて答える！」

第15回 講義全体のまとめ「キャリアデザインのフローを振り返る」（講義）

#### 授業以外での学習方法

本学はもとより、学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することで、さらに効果が出

るようにプログラムされている。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（なし）小テスト（20%）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（40%）備考（小テスト&授業中課題については毎回の授業の最後にアンケート形式（20分程度）で記入させる。）

|             |                  |      |      |
|-------------|------------------|------|------|
| 科目名         | キャリアデザイン入門 < f > |      |      |
| クラス         | f                | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間        | 後期               | 定員   | 100  |
| <b>履修条件</b> |                  |      |      |
| クラス指定       | 大学指定             |      |      |
| 担当者         | 香坂 千佳子           |      |      |

**テーマ**

「自己発見」と「キャリア・デザイン」について

**授業の目的（獲得目標）**

「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。 [内容] コンテンツに沿って、講義後、ワークショップ形式で、ワークシートを使って自己分析を行い、その後、グループシェアリングで、お互いに意見交換をして、より客観的に自己分析をする。 [学生への要望・留意点] 授業スタイル：授業内、授業外での課題の取り組み、グループや仲間の考え方から気づきを促す授業形態（“感、の学習）で運営します。 系統的に順序立てた

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション 「キャリアとキャリア・デザイン」（講義内容・ルール・講師紹介）
- 第2回 「自分を表現してみる」①（自分らしさ）（講義）
- 第3回 「何のために働くのか・自分らしく働く」（講義）
- 第4回 「私の欲しいものを探る」
- 第5回 「自意識のレベルを知る」 & 「人脈MAPの過去・未来」
- 第6回 「自分らしく働く／クロスミーティング」（ゲストスピーカー①）
- 第7回 「自分らしく働く／クロスミーティング」（ゲストスピーカー②）
- 第8回 「自分を表現してみる②（10のキーワードで自己紹介する）
- 第9回 「自分のコンセプトを知り、オンリーワンのキャッチを創る」
- 第10回 「私のCMづくり」（ワーク）
- 第11回 「私のビジョンを描く（5年後の私）」（ワーク）
- 第12回 「自分の未来地図を描いてみる①」（アクションプラン）」
- 第13回 「自分の未来地図を描いてみる②」（アクションプラン）」
- 第14回 「多様な働き方とワークライフバランスという考え方」
- 第15回 「全体のまとめ」

**授業以外での学習方法**

本学はもとより学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することにより、さらに効果が出るようにプログラムされている。

**教科書**

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（●課題（授業内&授業外）  
=20%●プレゼンテーション=20% ●授業中発表（グループシェアリング参加度）=30% ●参加度=30%）

科目名 キャリアデザイン入門

クラス g

配当回生 1回生

講義期間

定員 100

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 キャリアデザイン入門 <h>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 救急救命士特別対策講座Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 春期集中 定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 鈴木 靖奈

テーマ

公務員対策

### 授業の目的（獲得目標）

救急救命士の最大の就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学及び時事問題等の理解を目指す。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 公務員試験対策講座
- 第3回 公務員試験対策講座
- 第4回 公務員試験対策講座
- 第5回 公務員試験対策講座
- 第6回 公務員試験対策講座
- 第7回 公務員試験対策講座
- 第8回 公務員試験対策講座
- 第9回 公務員試験対策講座
- 第10回 公務員試験対策講座
- 第11回 公務員試験対策講座
- 第12回 公務員試験対策講座
- 第13回 公務員試験対策講座
- 第14回 公務員試験対策講座
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 ( )

科目名 キャリア開発講座Ⅳ

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 ビジネスリサーチ&プレゼンテーション I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 100

履修条件

クラス指定

担当者 本庄 賢行

テーマ

仕事の世界を知る（I）－業種・業界・職種を学ぶ－

### 授業の目的（獲得目標）

これからの進路となる『働く場』の種類と仕組み、現状と将来性を理解し、自分の興味度を検証することで在学中の学習目標作りにも役立てる

### 内 容

第1回 日本の業界地図と各業界の役割・関連を学ぶ（公務員の役割を含む）

第2回 業界研究方法を学び、業界興味度を考える

第3回 製造業（1）食品・飲料、生活用品（アパレル、医薬品、化粧品）業界を学ぶ

第4回 製造業（2）電機、機械、自動車業界を学ぶ

第5回 卸・小売、商社・貿易業界を学ぶ

第6回 金融（銀行・証券・保険）業界を学ぶ

第7回 レジャー（ホテル・旅行）、エンタテインメント（ゲーム・スポーツ、映画・音楽）業界を学ぶ

第8回 マスコミ（出版・広告・放送・新聞）、サービス（人材・医療福祉・介護）業界を学ぶ

第9回 交通・運輸（陸上・海上・航空・鉄道）業界、IT・情報通信業界を学ぶ

第10回 建設、不動産、住宅業界、エネルギー（電気・ガス）を学ぶ

第11回 職種の理解（1）：モノを売る仕事（営業・販売）、人と接する仕事（教育・保育・接客・医療・福祉）とはどんな仕事か

第12回 職種の理解（2）：モノを作る仕事（製造・開発・デザイン）、機器を扱う仕事（システムエンジニア・プログラマー・技師）とはどんな仕事か

第13回 職種の理解（3）：会社を支える仕事（人事総務・経理財務・経営企画・秘書・広報宣伝）とはどんな仕事か

第14回 関心のある業界に関する意見発表（プレゼンテーション）とコメント

第15回 まとめと「試験」

### 授業以外での学習方法

新聞を読む。テレビの経済ニュースに関心を持つ。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（0）小テスト（50）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（50）備考（授業中の小テスト（50%）と出席数（50%）で評価を行なう）

## 2010 Syllabus

科目名 ビジネスリサーチ&プレゼンテーション I <b>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 ビジネスリサーチ&プレゼンテーション I <c>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 ビジネスリサーチ&プレゼンテーション I <d>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 ビジネスリサーチ&プレゼンテーションⅡ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件

クラス指定

担当者 本庄 賢行

テーマ

仕事の世界を知る（Ⅱ）－会社と会社選びの基本知識を学ぶ－

授業の目的（獲得目標）

これからの進路となる『働く場』（会社）の選び方のほか、会社の仕組みやしきたり、求められる能力を理解し、在学中の学習目標作りにも役立てる

内 容

- 第1回 経済・産業・業界・会社の意味を学び、これからの日本の産業社会を考える
- 第2回 業界・会社研究のポイントを学ぶ
- 第3回 経済情報の見方・読み方を学ぶ
- 第4回 やりたい仕事探しのポイントを学ぶ
- 第5回 会社の仕組み（会社の種類とその違い、会社の仕事の種類とその違い）を学ぶ
- 第6回 働きがいのある会社の条件と探し方を学ぶ
- 第7回 事例研究（小さくとも高い評価を受けている日本の会社事例5社）
- 第8回 働くとは何か（人はなぜ働くのか、自分の仕事観）を考える
- 第9回 これからの『働く場』の変化について学ぶ（多様な働き方とその違い）
- 第10回 働く人の行動の基本（評価され、成長する仕事の仕方）を学ぶ
- 第11回 会社で求められる12の『社会人基礎力』を学ぶ
- 第12回 働きはじめたときに役立つ社会人としてのビジネスマナーを学ぶ
- 第13回 働く人の人間関係づくりの大切さと方法を学ぶ
- 第14回 働くことを通じて学び成長することの大切さと面白さを学ぶ
- 第15回 まとめ&『小テスト』

授業以外での学習方法

新聞を読む。テレビの経済ニュースに関心を持つ。アルバイトで実際に経験する。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（50）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（50）備考（授業中の小テスト（5

0%) と出席数 (50%) で評価する)

## 2010 Syllabus

科目名 ビジネスリサーチ&プレゼンテーションⅡ <b>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 Power Writing <Z>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Improve your real-world writing skills

授業の目的（獲得目標）

In this course we will learn to write with a real reader in mind through practical writing tasks. このコースでは、実用的な課題で読者を意識した作文方法を学びます。

内 容

- 第1回 Introduction: writing basics
- 第2回 Writing e-mail: self-description
- 第3回 A school booklet describing campus life
- 第4回 Problems and solutions: a school web page
- 第5回 Formal e-mail: inquiring about an internship
- 第6回 A movie review in a class blog
- 第7回 Review 1
- 第8回 Another problem and solution: a school web page
- 第9回 Student newsletter: describing special skills and giving advice
- 第10回 A personal story: your best experience
- 第11回 Describing trends over time
- 第12回 A Wikipedia entry about your school
- 第13回 Writing about a personal interest in a blog
- 第14回 Review 2
- 第15回 Looking back: reflection and consolidation

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (15) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (45) 備考 ( )

科目名 Power Writing <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 Power Speaking <Z a>

---

クラス a 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 フライアンバスカヴァイル

---

テーマ

Speaking Up in English

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to help students improve their speaking ability in English.

---

内 容

第1回 classroom English

第2回 introductions

第3回 family

第4回 food

第5回 house & home

第6回 music

第7回 numbers

第8回 TV

第9回 work

第10回 restaurants

第11回 fears

第12回 marriage

第13回 opinions

第14回 movies

第15回 holidays

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (10) 小テスト (10) 授業中課題 (40) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 Power Speaking <Z b>

---

クラス b 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員 30

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 フライアンハスガイル

---

テーマ

Speaking Up in English

---

授業の目的（獲得目標）

The goal of this course is to help students improve their speaking ability in English.

---

内 容

第1回 classroom English

第2回 introductions

第3回 family

第4回 food

第5回 house & home

第6回 music

第7回 numbers

第8回 TV

第9回 work

第10回 restaurants

第11回 fears

第12回 marriage

第13回 opinions

第14回 movies

第15回 holidays

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (10) 小テスト (10) 授業中課題 (40) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 キャリア開発演習 I

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 定員 100

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 経営分析

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 プレゼンテーション概論〈a〉

クラス a

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 林 徳治

---

テーマ

「わかる」、「楽しい」、「ためになる」プレゼンテーション技術をめざして

---

授業の目的（獲得目標）

効果的なプレゼンテーション技術の Plan（計画）—Do（実施）—See（評価）を学び、社会人の教養コアスキルとして活かすことができる。

---

内 容

第1回 コミュニケーションとは

第2回 プレゼントとギフトの違い

第3回 文字と絵によるプレゼンテーション

第4回 非言語によるプレゼンテーション

第5回 相互理解のための訓練法

第6回 プレゼンテーションに利用するメディア 1

第7回 プレゼンテーションに利用するメディア 2

第8回 プレゼンテーションの計画 1（強制連結法）

第9回 プレゼンテーションの計画 2（ロジックツリー）

第10回 プレゼンテーションの実施 1（マイクロプレゼンテーション）

第11回 プレゼンテーションの実施 2（マイクロプレゼンテーション）

第12回 プレゼンテーションの評価 1

第13回 プレゼンテーションの評価 2

第14回 社会でのプレゼンテーション事例 1

第15回 学習の振り返り

---

授業以外での学習方法

Web による e ラーニングの課題があります。 <http://www.td-ict.jp/>

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（質問、発表など参画態

度 30%)



科目名 プレゼンテーション概論 <b>

クラス b

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 徳治

テーマ

「わかる」、「楽しい」、「ためになる」プレゼンテーション技術をめざして

授業の目的（獲得目標）

効果的なプレゼンテーション技術の Plan(計画)―Do(実施)―See(評価)を学び、社会人の教養コアスキルとして活かすことができる。

内 容

第1回 コミュニケーションとは

第2回 プレゼントとギフトの違い

第3回 文字と絵によるプレゼンテーション

第4回 非言語によるプレゼンテーション

第5回 相互理解のための訓練法

第6回 プレゼンテーションに利用するメディア 1

第7回 プレゼンテーションに利用するメディア 2

第8回 プレゼンテーションの計画 1（強制連結法）

第9回 プレゼンテーションの計画 2（ロジックツリー）

第10回 プレゼンテーションの実施 1（マイクロプレゼンテーション）

第11回 プレゼンテーションの実施 2（マイクロプレゼンテーション）

第12回 プレゼンテーションの評価 1

第13回 プレゼンテーションの評価 2

第14回 社会でのプレゼンテーション事例 1

第15回 学習の振り返り

授業以外での学習方法

Webによるeラーニングの課題があります。<http://www.td-ict.jp/>

教科書

参考書

成績評価

試験(0) 小テスト(20) 授業中課題(50) 授業中発表等(0) 参加度(0) 備考(質問、発表など参画態度 30%)

科目名 プレゼンテーション演習 I <Z>

クラス a 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

メディアとコミュニケーションについて理解する。

授業の目的（獲得目標）

人間がコミュニケーションを行う際に用いる各種メディアの特徴を理解し、プレゼンテーションで効果的に利用できるようにする。

内 容

第1回 メディアとコミュニケーション（オリエンテーション）

第2回 図形を並べる

第3回 メディアとしての文字1（文字で図形を表現する）

第4回 メディアとしての文字2（図形を再現する）

第5回 メディアとしての文字2（図形を再現する）

第6回 メディアとしての写真（絵）1（4枚の写真だけで表現する、絵コンテを作る）

第7回 メディアとしての写真（絵）2（写真撮影とスライドの作成）

第8回 メディアとしての写真（絵）3（発表と評価）

第9回 身体で表現する1

第10回 身体で表現する2

第11回 メディアとしての動画1（企画、絵コンテを作る）

第12回 メディアとしての動画2（動画を撮影する）

第13回 メディアとしての動画3（発表と評価）

第14回 マルチメディア表現を学ぶ

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で学んだことを他の授業の発表などで積極的に活用すること。グループでの活動において授業外でも他のメンバーと協力してひとつの作業を完成させる必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (50) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 プレゼンテーション演習 I <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 プレゼンテーション演習Ⅱ〈Z〉

クラス a 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 40

#### 履修条件

#### クラス指定

担当者 谷口 知司

#### テーマ

デジタルプレゼンテーションで表現する。

#### 授業の目的（獲得目標）

PowerPoint を使った様々な場面での実践的なプレゼンテーションが出来るようにする。

#### 内 容

第1回 デジタルプレゼンテーションについて（オリエンテーション含む）

第2回 PowerPoint を学ぶ

第3回 商品を売ろう1（商品の特徴を知る）

第4回 商品を売ろう2（商品のプレゼンを構成する）

第5回 商品を売ろう3（商品のプレゼンを作成する）

第6回 商品を売ろう4（商品のプレゼンを作成する）

第7回 商品を売ろう5（発表と相互評価）

第8回 商品を売ろう6（まとめと評価）

第9回 得意なことについて話そう1（分析をする）

第10回 得意なことについて話そう2（プレゼンを構成する）

第11回 得意なことについて話そう3（プレゼンを作成する）

第12回 得意なことについて話そう4（プレゼン発表とビデオ撮影）

第13回 自分の発表を見る1

第14回 自分の発表を見る2

第15回 まとめ

#### 授業以外での学習方法

授業で学んだことを他の授業の発表などで積極的に活用すること。課題作成が授業時間内に完成しないときが多くなるので、家庭学習でそれを補う必要がある。

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（30）授業中発表等（50）参加度（20）備考（）

科目名 プレゼンテーション演習Ⅱ <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 経済思想史 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

アダム・スミスにおける経済と文化

### 授業の目的（獲得目標）

アダム・スミスの思想形成を辿り、ヒューマニティから社会科学への展開と、道徳哲学体系における経済学の成立を理解する。内容：堂目卓生『アダム・スミス』を教科書として取り上げて、順次その内容を解説する。経済思想（史）を越えて、社会思想（史）にまで及び、経済学や社会科学の基礎、入門ともなるように展開する。

### 内 容

- 第1回 経済学と経済思想史
- 第2回 アダム・スミスの時代的背景(1) 産業革命
- 第3回 アダム・スミスの時代的背景(2) スコットランド啓蒙
- 第4回 アダム・スミスの生涯と著作
- 第5回 教科書：序：光と闇の時代（18世紀イギリスの世相）
- 第6回 I：『道徳感情論』の世界 I-1：秩序を導く人間本性
- 第7回 I-2：繁栄を導く人間性
- 第8回 I-3：国際秩序の可能性
- 第9回 II：『国富論』の世界 II-4：『国富論』の概略
- 第10回 II-5：繁栄の一般原理(1) 分業
- 第11回 II-6：繁栄の一般原理(2) 資本蓄積
- 第12回 II-7：現実の歴史と重商主義の経済政策
- 第13回 II-8：今なすべきこと
- 第14回 終：スミスの遺産
- 第15回 まとめと試験

### 授業以外での学習方法

経済系の科目を履修し、経済の動きに関心を払い、基礎学力の蓄積・形成に励むこと。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（50）小テスト（）授業中課題（30）授業中発表等（20）参加度（）備考（）



科目名 経済思想史Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

文化経済学の成立と「豊かな社会」

### 授業の目的（獲得目標）

第2次世界大戦後アメリカにおいて世界で始めて「豊かな社会」が出現した。この社会は同時に文化経済学の誕生を導いたことにおいても画期的である。この時代には、芸術・文化と社会の関係が、文化産業の発展によって大きな変容を被る。こうした時代背景を下に、文化経済学の成立について考える。内容と計画：アルビン・トフラー『文化の消費者』を教科書として採用し、その内容に沿って順次説明し、講義する。内容（目次）は以下の通りである。

### 内 容

第1回 文化経済学の成立と「ゆたかな社会」

第2回 1：文化のエリート主義者

第3回 2：文化の量

第4回 3：文化の消費者

第5回 4：出世主義を超えて

第6回 5：ゆとりある階層の反乱

第7回 6：大学における文化

第8回 7：文化と企業

第9回 8：組織革命

第10回 9：芸術の報酬

第11回 10：文化産業

第12回 11：文化にかかる高い費用

第13回 12：新しいパトロンたち

第14回 13：芸術と政治

第15回 14：何のための卓越性か？

### 授業以外での学習方法

経済学や社会科学の基礎、入門ともなるように時代的、社会的、経済的、そして思想的な背景も含めて、視野を広くして展開する予定であるので、幅広い関心をもって参加してほしい。

### 教科書

**成績評価**

試験（50）小テスト（）授業中課題（50）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|       |              |      |
|-------|--------------|------|
| 科目名   | ミクロ経済学 I <Z> |      |
| クラス   | Z            | 配当回生 |
| 講義期間  | 前期           | 定員   |
| 履修条件  |              |      |
| クラス指定 |              |      |
| 担当者   | 阪本 崇         |      |

### テーマ

ミクロ経済学の基礎を学び、身近な現象をミクロ経済学の視点から分析する

### 授業の目的（獲得目標）

ニュースなどを見ていても、経済に関わる論説には分かりにくいものが多い。たとえば「最低賃金の引き上げ」のような一見したところ誰もが望ましいように思うことについても、反対意見を述べる経済学者がいたりする。その背後には経済学独特の考え方があり、それをよく理解していないと、必ずしも「絶対」ではない意見を鵜呑みにしたりしてしまうようになる。この授業では、ミクロ経済学の基本的な概念や考え方について理解し、新聞等で報道される様々な現象について、自分自身の力で理解できるだけの能力を身につける。

### 内 容

- 第1回 イントロダクション：水とダイヤモンドのパラドックス
- 第2回 市場の調整メカニズム：ものの値段はどのように決まるのか？
- 第3回 消費者余剰と生産者余剰：最低賃金の引き上げは望ましいのか？
- 第4回 弾力性分析：税金をかけるなら、米かブランドもののバッグか？
- 第5回 外部性の理論：エコカー減税はなぜ必要か？
- 第6回 まとめ（1）：市場と価格メカニズム
- 第7回 消費者理論：需要曲線はどのように導き出されるのか？
- 第8回 公共財の理論：どうして一般道はタダで使えるのか？
- 第9回 企業と費用構造：企業は何を指標にして行動を決めているのか？
- 第10回 損益分岐点と操業停止点：赤字でも生産をやめないのはどうしてか？
- 第11回 独占と自然独占・ネットワーク外部性：企業が大きくなるのは望ましいのか？
- 第12回 まとめ（2）：限界分析と市場の失敗
- 第13回 経済行動とリスク：ギャンブルをする人、しない人
- 第14回 保険とモラル・ハザード：火災保険はどうして全額補償ではないのか？
- 第15回 逆選択とクリーム・スキミング：中古車市場は粗悪品ばかり

### 授業以外での学習方法

身の回りの経済現象に関心を持つようにしてほしい。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (80) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

|       |              |      |
|-------|--------------|------|
| 科目名   | マクロ経済学 I <Z> |      |
| クラス   | Z            | 配当回生 |
| 講義期間  | 後期           | 定員   |
| 履修条件  |              |      |
| クラス指定 |              |      |
| 担当者   | 阪本 崇         |      |

### テーマ

マクロ経済学の基礎を学び、経済安定化政策にそれがどのように活かされているかを知る

### 授業の目的（獲得目標）

「失われた 10 年」とも称された平成不況をようやく脱したかに思えた日本経済は、2007 年にアメリカで発生したサブプライム・ローン問題に端を発する世界的な景気の減速の中で、再び不況期を迎えることになった。このように、一国の経済は景気の上昇と下降を繰り返すが、その理由は何か、そして政府はそれに対して何らかの対策を立て、景気を安定化を図ることができるのだろうか？この授業では、これらの間に対する答えを、マクロ経済学の基礎を学びながら明らかにしていく。マクロ経済学の基本的な知識を身につけることによって、新聞等で報道さ

### 内 容

- 第 1 回 イントロダクション：大恐慌とマクロ経済学の誕生
- 第 2 回 新しい労働市場分析
- 第 3 回 国民所得の諸概念（経済の「大きさ」のはかり方）
- 第 4 回 景気に対する 2 つの考え方：国民所得の決定原理
- 第 5 回 公共事業で景気はよくなるのか？
- 第 6 回 まとめ：マクロ経済学の基礎
- 第 7 回 租税と公債
- 第 8 回 投資の決定メカニズム
- 第 9 回 貨幣市場の需要と供給
- 第 10 回 金融政策と経済安定化
- 第 11 回 失業とフィリップス曲線
- 第 12 回 インフレーションとデフレーション
- 第 13 回 まとめ：マクロ経済学と経済安定化政策
- 第 14 回 開放経済のマクロ経済モデル
- 第 15 回 開放経済下の経済安定化政策

### 授業以外での学習方法

新聞やテレビのニュースなどで、景気の動きについてどのようなことが報じられているか、注意してみてほしい。

### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (80) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 民法 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 右近 潤一

テーマ

民法(総則・契約法)の大枠を知る。

授業の目的(獲得目標)

民法という法律を繙き、どういう体系で、どのような規定があるのかを知る。法律的な発想や言葉遣いに慣れる。

内 容

- 第1回 民法を学ぶ前に1 民法なんて怖くない
- 第2回 民法を学ぶ前に2 民法の適用・運用
- 第3回 民法の世界への登場資格 権利能力；法人
- 第4回 真意を確保するために1 契約の拘束力；意思能力・行為能力
- 第5回 真意を確保するために2 「真の納得」のない意思表示1
- 第6回 真意を確保するために3 「真の納得」のない意思表示2
- 第7回 真意を確保するために4 代理・法人制度
- 第8回 契約の解釈・修正と補充 強行法規と公序良俗
- 第9回 財産を譲渡するための契約1 売買契約・売主の義務
- 第10回 財産を譲渡するための契約2 買主の義務
- 第11回 財産を譲渡するための契約3 売買をめぐる消費者保護；贈与
- 第12回 財産を利用させるための契約1 消費貸借契約1
- 第13回 テスト
- 第14回 テスト解説；財産を利用させるための契約2 消費貸借契約2
- 第15回 財産を利用させるための契約3 賃貸借契約

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験(70) 小テスト( ) 授業中課題(30) 授業中発表等( ) 参加度( ) 備考(成績は原則として期末試験による。講義の最後にそのテーマについての重要な点につき質問をし、その回答結果を評価に加える。)

科目名 民法Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 右近 潤一

テーマ

民法(物権・不法行為など)の大枠を知る。

授業の目的(獲得目標)

民法という法律を繙き、どういう体系で、どのような規定があるのかを知る。法律的な発想や言葉遣いに慣れる。

内 容

第1回 物権とは何か

第2回 物権の公示と対抗要件

第3回 不動産物権変動の対抗要件1 登記をしなければ対抗できない第三者

第4回 不動産物権変動の対抗要件2 登記を要する物権変動

第5回 動産物権変動の対抗要件

第6回 占有権の効力

第7回 所有権の効力

第8回 所有権の効力

第9回 入会権と慣習上の用益物権

第10回 質権

第11回 抵当権

第12回 非典型担保の効力

第13回 非典型担保の効力

第14回 テスト

第15回 テスト解説; 法定担保物権の効力

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験(70) 小テスト( ) 授業中課題(30) 授業中発表等( ) 参加度( ) 備考(成績は原則として期末試験による。講義の最後にそのテーマについての重要な点につき質問をし、その回答結果を評価に加える。)



科目名 行政法 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

法律と行政との間をつなぎ、行政法へと漕ぎ出す

授業の目的（獲得目標）

法律についてまったくはじめての学生にも法学になじむようになる 行政についての入門をしつつ、公法領域に恐怖心をなくしていく 行政法の基礎を学んでいく

内 容

- 第1回 はじめに～法制度と行政システム
- 第2回 行政をとりまく環境をどう解釈するか～政治学、社会学、行政学と行政法学
- 第3回 法律入門（その1）リーガルマインド
- 第4回 法律入門（その2）基礎ルール、基礎知識
- 第5回 法律入門（その3）裁判制度と図解術
- 第6回 法律入門（その4）憲法と行政法～公法のあり方
- 第7回 法律入門（その5）京都府庁に赴いて立法議会と知事の関係を知る
- 第8回 行政法入門（その1）行政法理論
- 第9回 行政法入門（その2）行政機関と行政主体
- 第10回 行政法入門（その3）法律による行政の論理
- 第11回 行政法入門（その4）行政過程への私人の参加
- 第12回 行政法入門（その5）行政行為その1
- 第13回 行政法入門（その6）行政行為その2
- 第14回 行政法入門（その7）行政救済法
- 第15回 まとめ・・・行政法と私たち

授業以外での学習方法

行政の動きを新聞やインターネットで調べ、そのなかにひそむ法律関係を調べる。公務員試験の問題を少し宿題にすることなどによって、自分で考える補習にもする。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（20）授業中課題（40）授業中発表等（0）参加度（40）備考（毎回、A5版程度の用紙（出席確認を兼ねるもの）に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらおう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。）

科目名 行政法Ⅱ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 知的財産所有権論

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 都市と文化

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 京都の歴史と文化財 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 仲田 順和

テーマ

京都の文化を現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

文化がどのように伝承されたかを学び、将来に伝えていく方策を考える。 [内容] この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学術交流協定に基づく授業である。現代に伝わる様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。 各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー形式で行われる。

内 容

第1回 京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。

第2回 文化理解のために必要な古文書への接し方について講義する。

第3回 醍醐の花見について

第4回 文化理解のために必要な古文書への接し方について講義する。

第5回 地元山科の文化について

第6回 現在に生きる山岳信仰

第7回 現在に生きる山岳信仰

第8回 信仰行事にふれる（学外授業）

第9回 生け花等の文化

第10回 日本人の根底に流れる仏教の影響

第11回 日本人の生活の中に生きる仏教

第12回 安土桃山時代について（経済学を中心に）

第13回 華やかな桃山文化について（三宝院庭園を中心に）

第14回 華やかな桃山文化について（三宝院庭園を中心に）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

積極的に街に残る行事に参加あるいは見学すること

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

科目名 京都の歴史と文化財Ⅱ [キャンパスラザ]

クラス 配当回生 1回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

京都の文化遺産とその保護

### 授業の目的（獲得目標）

京都に存在する文化遺産の現状に対する理解を深め、遺産保護のあり方についての課題意識をもてるようになることを目的とする。各ジャンルの文化遺産の保護と課題については、担当者（増淵）と京都市文化財保護課の専門職員のリレー形式で講義を展開する。また、2～3回の見学授業を行う（下記の授業予定は現段階の予定であり、日程・見学先の詳細は決定後にあらためて掲示する）。講義終了後には、指定されたテーマでのレポートを提出する。なお、参加学生には、当該テーマに対する課題意識を要求する。

### 内 容

- 第1回 京都の歴史と文化遺産概観
- 第2回 京都市の文化遺産保護の状況と課題
- 第3回 京都市の文化遺産各論（1）
- 第4回 京都市の文化遺産各論（2）
- 第5回 京都市の文化遺産各論（3）
- 第6回 京都市の文化遺産各論（4）
- 第7回 文化遺産見学（1-1）
- 第8回 文化遺産見学（1-2）
- 第9回 京都市の文化遺産各論（5）
- 第10回 京都市の文化遺産各論（6）
- 第11回 文化遺産見学（2-1）
- 第12回 文化遺産見学（2-1）
- 第13回 文化遺産見学（3）
- 第14回 京都市の文化遺産各論（7）
- 第15回 これからの文化遺産保護のあり方と課題

### 授業以外での学習方法

日ごろから多くの文化遺産を見学し、知見を深めておくことが望ましい。

教科書

参考書



---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (0) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 比較文化論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

文化が分かれば自分がわかる／かわる

### 授業の目的（獲得目標）

1. 世界の諸文化についての知識を深める。 2. 世界で起こっている様々な問題の原因を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考える。 3. 様々な文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを体得する。 世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発する（2001年のアメリカでのテロ以来、それは単なるレトリックではなくなった）。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考え

### 内 容

第1回 イン트로ダクション

第2回 韓国（1）

第3回 韓国（2）

第4回 中国（1）

第5回 中国（2）

第6回 東南アジア

第7回 インド（1）

第8回 インド（2）

第9回 インド（3）

第10回 イスラーム（1）

第11回 イスラーム（2）

第12回 イスラーム（3）

第13回 ヨーロッパ（1）

第14回 ヨーロッパ（2）

第15回 アメリカ；総括

### 授業以外での学習方法

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。

### 教科書

**成績評価**

試験 (40) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 言語コミュニケーション論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

日本語と英語のコミュニケーション

### 授業の目的（獲得目標）

(1) 英語と日本語のコミュニケーションのさまざまなレベルにおける違いを理解すること。(2) 上記のテーマで、短いプレゼンテーションかスキットができるようになること。このクラスでは、日本語によるコミュニケーションとの比較と通じて、英語コミュニケーションの方法の特徴を学ぶ。担当者による講義と、教科書をつかった実践とを組み合わせ、英語コミュニケーションの特徴を自らの体験をとおして理解してもらいたい。各時間の後半は、英語によるプレゼンテーションかスキットにあてる。受講者には、ひとり1回、5～10分ていど

### 内 容

第1回 イントロダクション

第2回 ハグや握手（ノンバーバルコミュニケーション）

第3回 パーティーの習慣（好みを選択させる）

第4回 お礼の表現（ていねいな表現）

第5回 クラスで意見を述べる（間接表現、はっきりと意見を述べる）

第6回 謙遜表現（日本語のていねいな表現）

第7回 感情を表すかどうか（ノンバーバルコミュニケーション）

第8回 教師と学生の呼びかけ方（会話表現の比較、ていねいな言葉使いとは）

第9回 レストランにおける習慣の違い（注文の仕方）

第10回 誤りをはっきりと言葉で伝えるか、それとなく伝えるか（間接コミュニケーション）

第11回 デートに誘うとき（表現には日英でどんな違いがあるか）

第12回 好みを言う場合（自分の意見をどう伝えるか）

第13回 人前でする（言う）と失礼だとされること（鼻をかむ、失礼な表現とは）

第14回 謝罪の表現（遅刻と時間の概念について）

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

英文の教科書は、指定されたところは必ず予習をしておくこと。期末レポートのほか、小レポートをとときどき提出してもらう。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (30%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (10%) 備考 ( )

科目名 経営学概論〈Z a〉

クラス Z a

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

社会科学として経営学の生成と発展過程を辿り、現代経営学の基礎を学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

現代産業社会の進化の主役は企業・学校・病院・行政機関のような組織体といっても過言ではない。このような組織体の存在意義と、その成長・発展のために役に立つ基本的な諸理論を概観することが本科目の主要目標である。

内 容

- 第1回 講義概要と経営学の概説
- 第2回 産業革命による産業社会の到来とスミスの分業理論
- 第3回 テイラーの科学的管理法(1)
- 第4回 テイラーの科学的管理法(2)
- 第5回 ヴェーバーの官僚制組織論
- 第6回 フェイヨールの管理過程論
- 第7回 フォードの大量生産方式
- 第8回 古典的組織論の総括
- 第9回 ホーソン実験と人間関係論(1)
- 第10回 ホーソン実験と人間関係論(2)
- 第11回 新人間関係論(1)
- 第12回 新人間関係論(2)
- 第13回 近代理論とコンティンジェンシー理論
- 第14回 戦略論の基本概念
- 第15回 人間関係と環境対応を重視する諸理論の総括

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

参考書

成績評価

試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験（持ち込み不可）と出席率、受講態度で評価します。授業中、私語や食事は厳禁ですので、ご注意ください。）

科目名 経営学概論 <Z b>

クラス Z b

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

社会科学として経営学の生成と発展過程を辿り、現代経営学の基礎を学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

現代産業社会の進化の主役は企業・学校・病院・行政機関のような組織体といっても過言ではない。このような組織体の存在意義と、その成長・発展のために役に立つ基本的な諸理論を概観することが本科目の主要目標である。

内 容

- 第 1 回 講義概要と経営学の概説
- 第 2 回 産業革命による産業社会の到来とスミスの分業理論
- 第 3 回 テイラーの科学的管理法 (1)
- 第 4 回 テイラーの科学的管理法 (2)
- 第 5 回 ヴェーバーの官僚制組織論
- 第 6 回 フェイヨールの管理過程論
- 第 7 回 フォードの大量生産方式
- 第 8 回 古典的組織論の総括と理解度チェック
- 第 9 回 ホーソン実験と人間関係論 (1)
- 第 10 回 ホーソン実験と人間関係論 (2)
- 第 11 回 新人間関係論 (1)
- 第 12 回 新人間関係論 (2)
- 第 13 回 近代理論とコンティンジェンシー理論
- 第 14 回 戦略論の基本概念
- 第 15 回 人間関係と環境対応を重視する諸理論の総括

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

参考書

成績評価



試験（80）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20）備考（筆記試験（持ち込み不可）と出席率、受講態度で評価します。授業中、私語や食事は厳禁ですので、ご注意ください。）

科目名 修士論文

クラス 配当回生 2回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 特別研究 I (言M 1 前) <Ma>

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 休講

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 特別研究 I (言M1前) <Mb>

---

クラス Mb

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 安達 太郎

---

テーマ

修士論文への取り組み

---

### 授業の目的 (獲得目標)

受講生の報告, 参加者全員による議論, 修正というサイクルをくりかえすことによって, 修士論文作成に向けて着実な成果を上げることが目標とする。

---

### 内 容

第1回 導入

第2回 受講生による報告 (1)

第3回 受講生による報告 (2)

第4回 受講生による報告 (3)

第5回 受講生による報告 (3)

第6回 受講生による報告 (4)

第7回 受講生による報告 (5)

第8回 受講生による報告 (6)

第9回 受講生による報告 (7)

第10回 受講生による報告 (8)

第11回 受講生による報告 (9)

第12回 受講生による報告 (10)

第13回 受講生による報告 (11)

第14回 受講生による報告 (12)

第15回 まとめ

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (70%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (言M 1 前) <M c>

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 休講

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 特別研究 I (言M 1 前) <M d>

---

クラス 配当回生 1 回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 浅井 雅志

---

テーマ

日本文化論の原点を知る

---

**授業の目的 (獲得目標)**

日本文化論、あるいは日本人論は長い伝統を持っているが、その形成に当たって外国人が記した著作は大きな影響を与えてきた。その中でもとりわけ大きなインパクトを与えた、賛否両論の渦を巻き起こしたのはなんともいってもルース・ベネディクトの『菊と刀』であろう。この日本文化論の原点とも言うべき著作を読みながら、日本でどのような賛成論、反論が出たかも検討しつつ、日本人の「自画像」(自己表象)の変遷を追ってみたい

---

**内 容**

第1回 Introduction

第2回 Chap. 1

第3回 Chap. 2

第4回 Chap. 3

第5回 Chap. 4

第6回 Chap. 5

第7回 Chap. 6

第8回 Chap. 7

第9回 Chap. 8

第10回 Chap. 9

第11回 Chap. 10

第12回 Chap. 11

第13回 Chap. 12

第14回 Chap. 13

第15回 Chap. 14

第16回 Summary

---

**授業以外での学習方法**

関連する参考文献を読む

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（最終ペーパー（60%）参加率（20%）発表・ディスカッションへの参加（30%）

科目名 特別研究 I (言M1前) <M f>

クラス M f

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講 (開⇒閉)

テーマ

修士論文の作成

授業の目的 (獲得目標)

修士論文の完成に向けて、調査研究を実施し現段階における論文の構成を描く

内 容

第1回 授業計画全体の説明

第2回 受講生による発表と指導

第3回 受講生による発表と指導

第4回 受講生による発表と指導

第5回 受講生による発表と指導

第6回 受講生による発表と指導

第7回 受講生による発表と指導

第8回 受講生による発表と指導

第9回 受講生による発表と指導

第10回 受講生による発表と指導

第11回 受講生による発表と指導

第12回 受講生による発表と指導

第13回 受講生による発表と指導

第14回 受講生による発表と指導

第15回 受講生による発表と指導

授業以外での学習方法

発表の準備

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 (0) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(言M1後)〈Ma〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 休講

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 特別研究Ⅱ(言M1後)〈Mb〉

クラス Mb

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

修士論文への取り組み

授業の目的(獲得目標)

受講生の報告, 参加者全員による議論, 修正というサイクルをくりかえすことによって, 修士論文作成に向けて着実な成果を上げることが目標とする。

内 容

第1回 導入

第2回 受講生による報告(1)

第3回 受講生による報告(2)

第4回 受講生による報告(3)

第5回 受講生による報告(3)

第6回 受講生による報告(4)

第7回 受講生による報告(5)

第8回 受講生による報告(6)

第9回 受講生による報告(7)

第10回 受講生による報告(8)

第11回 受講生による報告(9)

第12回 受講生による報告(10)

第13回 受講生による報告(11)

第14回 受講生による報告(12)

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(0%) 授業中発表等(70%) 参加度(30%) 備考( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(言M1後)〈Mc〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 休講

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 特別研究Ⅱ(言M1後)〈Md〉

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 浅井 雅志

---

テーマ

外国の日本学者の日本表象

---

授業の目的(獲得目標)

アメリカの日本研究の第一人者の日本論を読み、日本の近現代を「他者」の目から見直す

---

内 容

第1回 インTRODクシヨN

第2回 Imagining Japan (1)

第3回 Imagining Japan (2)

第4回 Imagining Japan (3)

第5回 Imagining Japan (4)

第6回 Imagining Japan (5)

第7回 Imagining Japan (6)

第8回 Imagining Japan (7)

第9回 Imagining Japan (8)

第10回 Imagining Japan (9)

第11回 Imagining Japan (10)

第12回 Imagining Japan (11)

第13回 Imagining Japan (12)

第14回 Imagining Japan (13)

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(50) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等(30) 参加度(20) 備考( )

科目名 特別研究Ⅱ(言M1後)〈M f〉

クラス M f

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講(開⇒閉)

テーマ

修士論文の作成

授業の目的(獲得目標)

修士論文について、これまでの研究調査を踏まえ、一定の結論を獲て、完成を目指す

内 容

第1回 受講生による発表と指導

第2回 受講生による発表と指導

第3回 受講生による発表と指導

第4回 受講生による発表と指導

第5回 受講生による発表と指導

第6回 受講生による発表と指導

第7回 受講生による発表と指導

第8回 受講生による発表と指導

第9回 受講生による発表と指導

第10回 受講生による発表と指導

第11回 受講生による発表と指導

第12回 受講生による発表と指導

第13回 受講生による発表と指導

第14回 受講生による発表と指導

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

発表の準備

教科書

参考書

成績評価

試験(0) 小テスト(0) 授業中課題(50) 授業中発表等(50) 参加度( ) 備考( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ（言M1後）

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) <Ma>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) <Mb>

---

クラス Mb

配当回生 2回生

---

講義期間 その他

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 閉講(開⇒閉)

---

テーマ

修士論文への取り組み

---

### 授業の目的(獲得目標)

受講生の報告, 参加者全員による議論, 修正というサイクルをくりかえすことによって, 修士論文作成に向けて着実な成果を上げることが目標とする。

---

### 内 容

第1回 導入

第2回 受講生による報告(1)

第3回 受講生による報告(2)

第4回 受講生による報告(3)

第5回 受講生による報告(3)

第6回 受講生による報告(4)

第7回 受講生による報告(5)

第8回 受講生による報告(6)

第9回 受講生による報告(7)

第10回 受講生による報告(8)

第11回 受講生による報告(9)

第12回 受講生による報告(10)

第13回 受講生による報告(11)

第14回 受講生による報告(12)

第15回 まとめ

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(0%) 授業中発表等(70%) 参加度(30%) 備考( )



科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) <Mc>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) <Md>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) <M f>

---

クラス 配当回生 2回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 野村 幸一郎

---

テーマ

批評の方法

---

**授業の目的（獲得目標）**

修士論文執筆を視野におさめつつ批評の方法を修得する

---

**内 容**

第1回 文学＝テキストを分析するという行為は、ある一つの「事実」にたどり着くことを目標とするような、自然科学的アプローチとはまったく方法を異にする。たとえば、夏目漱石の『こころ』というテキストを分析する場合、その分析者がフロイドを応用するのか、マルクスを利用するのかによって、まったく異なる作品イメージが浮かび上がってくる、という具合である。論者の立ち位置によって、異なる結論が導き出されるような文学研究（とくに、近現代文学研究）の方法を、私たちは一般的に「批評」という。前期の特別研究では、受講生による批評術

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

**授業以外での学習方法**

発表の準備

---

**教科書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (60%) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ（言M2前）

クラス 配当回生 2回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後) <Ma>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後) <Mb>

---

クラス Mb

配当回生 2回生

---

講義期間 後期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 閉講(開⇒閉)

---

テーマ

修士論文への取り組み

---

### 授業の目的(獲得目標)

受講生の報告, 参加者全員による議論, 修正というサイクルをくりかえすことによって, 修士論文作成に向けて着実な成果を上げることが目標とする。

---

### 内 容

第1回 導入

第2回 受講生による報告(1)

第3回 受講生による報告(2)

第4回 受講生による報告(3)

第5回 受講生による報告(3)

第6回 受講生による報告(4)

第7回 受講生による報告(5)

第8回 受講生による報告(6)

第9回 受講生による報告(7)

第10回 受講生による報告(8)

第11回 受講生による報告(9)

第12回 受講生による報告(10)

第13回 受講生による報告(11)

第14回 受講生による報告(12)

第15回 まとめ

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(0%) 授業中発表等(70%) 参加度(30%) 備考( )

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後)〈Mc〉

クラス Mc

配当回生 2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 睦朗

テーマ

修士論文への取り組み

### 授業の目的（獲得目標）

受講生の報告，参加者全員による議論，修正というサイクルをくりかえすことによって，修士論文作成に向けて着実な成果を上げることが目標とする。

### 内 容

第1回 導入

第2回 受講生による報告（1）

第3回 受講生による報告（2）

第4回 受講生による報告（3）

第5回 受講生による報告（3）

第6回 受講生による報告（4）

第7回 受講生による報告（5）

第8回 受講生による報告（6）

第9回 受講生による報告（7）

第10回 受講生による報告（8）

第11回 受講生による報告（9）

第12回 受講生による報告（10）

第13回 受講生による報告（11）

第14回 受講生による報告（12）

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）



## 2010 Syllabus

---

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後) <Md>

---

クラス Md

配当回生 2回生

---

講義期間 その他

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 浅井 雅志

---

テーマ

外国の日本学者の日本表象

---

授業の目的(獲得目標)

アメリカの日本研究の第一人者の日本論を読み、日本の近現代を「他者」の目から見直す

---

内容

第1回 インTRODクシヨN

第2回 Imagining Japan (1)

第3回 Imagining Japan (2)

第4回 Imagining Japan (3)

第5回 Imagining Japan (4)

第6回 Imagining Japan (5)

第7回 Imagining Japan (6)

第8回 Imagining Japan (7)

第9回 Imagining Japan (8)

第10回 Imagining Japan (9)

第11回 Imagining Japan (10)

第12回 Imagining Japan (11)

第13回 Imagining Japan (12)

第14回 Imagining Japan (13)

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(50) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等(30) 参加度(20) 備考( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後)〈M f〉

クラス M f

配当回生 2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

修士論文の執筆

授業の目的(獲得目標)

前期とは異なり後期では実証主義的な立場から文学作品を分析する方法を修得する

内 容

第1回 前期において、分析＝批評を試みた研究対象に関して、今度は実証主義的視点から再検討する。ふたつの視点からのアプローチを縫合する形で、修士論文の完成をめざす

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

発表の準備

教科書

参考書

成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(0%) 授業中発表等(60%) 参加度(40%) 備考( )

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後) <Mg>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 言語文化研究 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 言語文化研究 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 言語文化研究Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 言語文化研究Ⅱ <M1>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 言語文化研究Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 応用言語学研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

現代語と近代語の対照研究

授業の目的（獲得目標）

明治期に形成された近代語は新しい思想を盛り込むために意識的に作られた言語として非常に興味深い。近代語資料を読みこむことで、資料の取り扱い方を修得するとともに、現代語に通じる問題意識を発見することを目指す。

内 容

- 第1回 この授業の目的と役割分担の決定
- 第2回 明治期の言語状況
- 第3回 近代語分析の一例—人称という概念の発達—
- 第4回 文献講読（1）
- 第5回 文献講読（2）
- 第6回 文献講読（3）
- 第7回 文献講読（4）
- 第8回 資料分析（1）
- 第9回 資料分析（2）
- 第10回 資料分析（3）
- 第11回 資料分析（4）
- 第12回 資料分析（5）
- 第13回 資料分析（6）
- 第14回 資料分析（7）
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（）

科目名 応用言語学研究Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

現代語と近代語の対照研究

授業の目的（獲得目標）

近代語資料を解読することで、近代において何が生まれ、どのように発達して現代語に至るのかを考える。

内 容

第1回 この授業の目的と役割分担の決定

第2回 資料分析（1）

第3回 資料分析（2）

第4回 資料分析（3）

第5回 資料分析（4）

第6回 資料分析（5）

第7回 資料分析（6）

第8回 資料分析（7）

第9回 資料分析（8）

第10回 資料分析（9）

第11回 資料分析（10）

第12回 資料分析（11）

第13回 資料分析（12）

第14回 資料分析（13）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（）

科目名 応用言語学研究Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者 鈴木 泰

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 応用言語学研究Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 日本文学研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 睦朗

テーマ

源氏物語第2部の若菜上下巻の文章表現を歴史や風俗などに目配りしつつ読む

### 授業の目的（獲得目標）

平安時代の女流仮名物語の頂点にたつ源氏物語の文章表現を読む。当時の風俗や制度などの知識・理解を通じた読み方ができるようにする。毎時、用意した課題から一つを選んで小さなレポートを提出する。すぐれたレポートは、次時に紹介して、教室における読みの確かさと広がり確保する。授業計画 源氏物語は主人公光源氏の青年期を中心に描く第1部がよく読まれている。第2部は40歳を迎えて社会的な栄華の極まりを見せる光源氏が家族関係の苦渋を味わう物語が展開する。後期の特講eは、若菜上・下巻を通して、貴族の男女関係、家庭の在り方

### 内 容

- 第1回 紫式部について：紫式部日記 紫式部集 山科とのかかわり、曾祖父藤原兼輔
- 第2回 源氏物語の桐壺巻：桐壺更衣と桐壺帝。藤壺宮と光源氏
- 第3回 源氏物語の第1部：全33巻。若紫巻の藤壺宮との密会の場面など
- 第4回 源氏物語の第3部：宇治の八の宮と大君、中君、浮舟。匂宮と薫中将の競い
- 第5回 源氏物語の第2部：外見の華やかさと内面の苦渋
- 第6回 女三の宮の処遇：結局降嫁の道を選び、年齢差のある光源氏に降嫁させる
- 第7回 紫の上の苦悩：同じ藤壺宮の姪であるが、女三の宮との身分の格差を思う
- 第8回 紫の上危篤：光源氏がつきっきりで看病する。女三の宮は六条院
- 第9回 柏木の登場：夕霧の従兄弟の柏木は、女三の宮との結婚を切望していた
- 第10回 六条院の蹴鞠の遊び：夕霧と柏木は御簾の奥の女三の宮を目撃
- 第11回 女三の宮の飼う猫：女三の宮を見るきっかけになった唐猫を抱き可愛がる柏木
- 第12回 柏木は何度も手紙をとどけるが、相手にしてもらえない
- 第13回 柏木計画して六条院の女三の宮の部屋に侵入
- 第14回 女三の宮懊悩：光源氏が女三の宮の病気を見舞う。女三の宮の歌の応対
- 第15回 光源氏、女三の宮の懐妊の相手が柏木であると知る
- 第16回 試験：全20問から10問を出題し、5問を解答する

### 授業以外での学習方法

源氏物語の第2部の講読としては、第1部の既読が期待される。現代語訳あるいは概要などで源氏物語についての知識を持つようにする。声に出して読む努力をする。図書館の5階の源氏物語の書棚に親しむ。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（30）小テスト（）授業中課題（50）授業中発表等（）参加度（）備考（最終レポート（20%）。なお、出席が10回を下回る場合は、単位を認めない。就職活動のための欠席は単なる欠席とする。）

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| 科目名   | 日本文学研究Ⅱ〈M〉 |      |     |
| クラス   | M          | 担当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期         | 定員   |     |
| 履修条件  |            |      |     |
| クラス指定 |            |      |     |
| 担当者   | 甲斐 睦朗      |      |     |

### テーマ

源氏物語第2部の若菜上下巻の文章表現を歴史や風俗などに目配りしつつ読む

### 授業の目的（獲得目標）

平安時代の女流仮名物語の頂点にたつ源氏物語の文章表現を読む。当時の風俗や制度などの知識・理解を通じた読み方ができるようにする。毎時、用意した課題から一つを選んで小さなレポートを提出する。すぐれたレポートは、次時に紹介して、教室における読みの確かさと広がり確保する。授業計画 源氏物語は主人公光源氏の青年期を中心に描く第1部がよく読まれている。第2部は40歳を迎えて社会的な栄華の極まりを見せる光源氏が家族関係の苦渋を味わう物語が展開する。前期の特講fは、特に若菜上巻を通して、当時の夫婦、家庭の在り方、女

### 内 容

- 第1回 作者紫式部：紫式部日記、紫式部集、山科とのかかわり、曾祖父藤原兼輔
- 第2回 源氏物語桐壺巻：『読み解き源氏物語—桐壺巻の光と影』（明治書院）
- 第3回 源氏物語第1部：全33巻。葵の上、六条の御息所、紫の上など
- 第4回 源氏物語第3部：宇治の八の宮と大君、中君、浮舟。匂宮と薫中将の競い
- 第5回 若菜上巻冒頭：朱雀院の懊悩から始まる書き出しは異質
- 第6回 皇女の生き方：入内、降嫁、斎宮、出家、独身を通す生き方のいずれを選ぶか
- 第7回 女三の宮を降嫁させるとすれば、誰が最適者か。朱雀院の悩み
- 第8回 候補者夕霧：将来性、年齢などの面で適切な人物だが、愛妻雲居の雁が問題
- 第9回 光源氏の若菜の儀：四十歳を迎えて天下に名声が轟く光源氏
- 第10回 女三の宮は、藤壺宮の姪である紫の上とは従姉妹。紫のゆかりの二人の姫君
- 第11回 婿に迷った朱雀院は候補者を光源氏に絞る。断れない、断わりたくない心境
- 第12回 女三の宮の降嫁による光源氏の期待と失望。紫の上の絶望
- 第13回 光源氏の運命を定めた朧月夜の君との逢瀬。何人もの女流作家絶賛の場面
- 第14回 明石の姫君皇子出産。紫の上、女三の宮に対面。屈辱と優しさ
- 第15回 六条院の女あるじ紫の上、二条院に移り住む。二条院は桐壺更衣の実家
- 第16回 試験：全20問から10問を出題し、5問を解答する

### 授業以外での学習方法

源氏物語の第2部の講読としては、第1部の既読が期待される。現代語訳あるいは概要などで知識を持つようにする。声に出して読む努力をする。図書館の5階の源氏物語の書棚に親しむ。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（30）小テスト（）授業中課題（50）授業中発表等（）参加度（）備考（最終レポート（20%）。なお、出席が10回を下回る場合は、単位を認めない。就職活動のための欠席は単なる欠席とする。）



---

科目名 日本文学研究Ⅲ <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

---

テーマ

歌舞伎について学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

京都を代表する文化のひとつとして近世から続いている歌舞伎とは、どのような演劇であるのか、その歴史と作品について知る。

---

内 容

第1回 歌舞伎と浄瑠璃

第2回 出雲の阿国と遊女歌舞伎

第3回 野郎歌舞伎の始まり

第4回 坂田藤十郎と近松門左衛門

第5回 義太夫狂言

第6回 並木宗輔の作品

第7回 市川団十郎と江戸歌舞伎

第8回 江戸歌舞伎と舞踊

第9回 鶴屋南北の怪談劇

第10回 悪婆もの

第11回 黙阿弥の白浪物

第12回 現代の歌舞伎

第13回 受講生による作品紹介①

第14回 受講生による作品紹介②

第15回 これまでのまとめ

---

授業以外での学習方法

機会があれば劇場に足を運び、無理な場合は、メディアセンターのビデオやテレビ放映、シネマ歌舞伎などで鑑賞してください。脚本の翻刻も多数ありますので、読んでください。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 (授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。発表者はレポートを免除されることがあります。)

科目名 日本文学研究Ⅳ 〈M〉

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文楽（人形浄瑠璃）入門

授業の目的（獲得目標）

歌舞伎と並ぶ上方発祥の古典芸能「文楽」（人形浄瑠璃）について知る

内 容

- 第1回 文楽とはどんな芸能か
- 第2回 浄瑠璃の起源
- 第3回 金平浄瑠璃
- 第4回 近松門左衛門とその作品①
- 第5回 近松門左衛門とその作品②
- 第6回 文楽鑑賞（時期は前後することがあります）
- 第7回 これまでのまとめ
- 第8回 三名作①「仮名手本忠臣蔵」
- 第9回 三名作②「義経千本桜」
- 第10回 三名作③「菅原伝授手習鑑」
- 第11回 その他の名作
- 第12回 近代文学と文楽
- 第13回 受講生による作品解説①
- 第14回 受講生による作品解説②
- 第15回 これまでのまとめ

授業以外での学習方法

文楽公演の鑑賞にできるだけ参加してください。また、興味を持った作品を読んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（70）授業中発表等（0）参加度（30）備考（課題レポートは、発表をもって場合があります。）

## 2010 Syllabus

科目名 日本文学研究IV

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 日本文学研究Ⅴ <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮崎駿の思想

授業の目的（獲得目標）

『風の谷のナウシカ』『もののけ姫』を中心として宮崎駿の思想と文明観を理解する

内 容

第1回 イントロダクション・宮崎駿の世界

第2回 『風の谷のナウシカ』読解（1）

第3回 『風の谷のナウシカ』読解（2）

第4回 『風の谷のナウシカ』読解（3）

第5回 『風の谷のナウシカ』から『紅の豚』『ハウルの動く城』へ

第6回 『もののけ姫』読解（1）

第7回 『もののけ姫』から『となりのトトロ』へ

第8回 『もののけ姫』読解（2）

第9回 『もののけ姫』読解（3）

第10回 自立という問題系（1）『魔女の宅急便』

第11回 自立という問題系（2）『千と千尋の神隠し』

第12回 自立という問題系（3）『崖の上のポニョ』

第13回 宮崎駿と宮沢賢治の接点

第14回 宮崎駿の文明批判

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で取り上げる映像作品は必ず事前に鑑賞しておくこと

教科書

参考書

成績評価

試験（60）小テスト（40）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅵ <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮沢賢治の思想と文学

授業の目的（獲得目標）

生命信仰・アニミズムを視座として、宮沢賢治の思想・世界観を理解する

内 容

第1回 宮沢賢治の生涯

第2回 『オツベルと象』読解（1）

第3回 『オツベルと象』読解（2）

第4回 『オツベルと象』読解（3）

第5回 本学客員教授角野栄子氏による講義

第6回 『なめとこ山と熊』読解（1）

第7回 『なめとこ山と熊』読解（2）

第8回 『なめとこ山と熊』読解（3）

第9回 本学客員教授角野栄子氏による講義

第10回 『銀河鉄道の夜』読解（1）

第11回 『銀河鉄道の夜』読解（2）

第12回 『銀河鉄道の夜』読解（3）

第13回 『銀河鉄道の夜』読解（4）

第14回 宮沢賢治の思想

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（70）小テスト（30）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（0）備考（0）

科目名 日本語学研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語教育における文法

授業の目的（獲得目標）

T Aに行く院生を主たる対象として、日本語教育における文法のあり方を理解することを目標とする。

内 容

第1回 導入

第2回 テキストの解説と議論（1）

第3回 テキストの解説と議論（2）

第4回 テキストの解説と議論（3）

第5回 テキストの解説と議論（4）

第6回 テキストの解説と議論（5）

第7回 テキストの解説と議論（6）

第8回 テキストの解説と議論（7）

第9回 テキストの解説と議論（8）

第10回 テキストの解説と議論（9）

第11回 テキストの解説と議論（10）

第12回 テキストの解説と議論（11）

第13回 テキストの解説と議論（12）

第14回 テキストの解説と議論（13）

第15回 テキストの解説と議論（14）

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本語学研究Ⅱ〈M〉

---

クラス M

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 安達 太郎

---

テーマ

日本語教育における文法

---

授業の目的（獲得目標）

T Aに行く院生を主たる対象として、日本語教育における文法のあり方を理解することを目標とする。

---

内 容

第1回 導入

第2回 テキストの解説と議論（1）

第3回 テキストの解説と議論（2）

第4回 テキストの解説と議論（3）

第5回 テキストの解説と議論（4）

第6回 テキストの解説と議論（5）

第7回 テキストの解説と議論（6）

第8回 テキストの解説と議論（7）

第9回 テキストの解説と議論（8）

第10回 テキストの解説と議論（9）

第11回 テキストの解説と議論（10）

第12回 テキストの解説と議論（11）

第13回 テキストの解説と議論（12）

第14回 テキストの解説と議論（13）

第15回 テキストの解説と議論（14）

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）



科目名 日本語学研究Ⅲ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 日本語学研究Ⅲ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 日本語学研究Ⅳ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 漢字文化論 I

---

クラス 配当回生

---

講義期間 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者

---

テーマ

書論選読（一）

---

### 授業の目的（獲得目標）

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考え、それぞれの問題について各々が自分の見解を述べられるようにすることを目標とする。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらおう。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス（「書論とは何か」、参考書・工具書紹介）

第2回 書論選読1

第3回 書論選読2

第4回 書論選読3

第5回 書論選読4

第6回 書論選読5

第7回 書論選読6

第8回 書論選読7

第9回 書論選読8

第10回 書論選読9

第11回 書論選読10

第12回 書論選読11

第13回 書論選読12

第14回 書論選読13

第15回 前期のまとめ。レポート提出。

---

### 授業以外での学習方法

書に関する書物（できれば他の芸術に関しても）をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

---

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業中課題（期末レポート））

---

科目名 漢字文化論Ⅱ

---

クラス 配当回生

---

講義期間 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者

---

テーマ

書論選読（二）

---

### 授業の目的（獲得目標）

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考え、それぞれの問題について各々が自分の見解を述べられるようにすることを目標とする。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス（「書論とは何か」、参考書・工具書紹介）

第2回 書論選読1

第3回 書論選読2

第4回 書論選読3

第5回 書論選読4

第6回 書論選読5

第7回 書論選読6

第8回 書論選読7

第9回 書論選読8

第10回 書論選読9

第11回 書論選読10

第12回 書論選読11

第13回 書論選読12

第14回 書論選読13

第15回 後期のまとめ。レポート提出。

---

### 授業以外での学習方法

書に関する書物（できれば他の芸術に関しても）をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

---

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業中課題（期末レポート））

科目名 かな文化論 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 下野 健児

テーマ

書論選読（一）

### 授業の目的（獲得目標）

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文になれるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養うことが目的となる。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

### 内 容

第1回 ガイダンス（「書論とは何か」、参考書・工具書の紹介）

第2回 書論選読1

第3回 書論選読2

第4回 書論選読3

第5回 書論選読4

第6回 書論選読5

第7回 書論選読6

第8回 書論選読7

第9回 書論選読8

第10回 書論選読9

第11回 書論選読10

第12回 書論選読11

第13回 書論選読12

第14回 書論選読13

第15回 前期のまとめ。レポート提出。

### 授業以外での学習方法

書に関する書物（できれば他の芸術に関しても）をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

教科書

参考書



---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業中課題（期末レポート））

---

科目名 かな文化論Ⅱ <M>

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 下野 健児

---

テーマ

書論選読（二）

---

### 授業の目的（獲得目標）

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文になれるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養うことが目的となる。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

---

### 内 容

第1回 ガイダンス（「書論とは何か」、参考書・工具書の紹介）

第2回 書論選読1

第3回 書論選読2

第4回 書論選読3

第5回 書論選読4

第6回 書論選読5

第7回 書論選読6

第8回 書論選読7

第9回 書論選読8

第10回 書論選読9

第11回 書論選読10

第12回 書論選読11

第13回 書論選読12

第14回 書論選読13

第15回 後期のまとめ。レポート提出。

---

### 授業以外での学習方法

書に関する書物（できれば他の芸術に関しても）をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（70%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（授業中課題（期末レポート））

## 2010 Syllabus

科目名 書法演習 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 書法演習Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 書法演習Ⅲ <M> |      |     |
| クラス   | M         | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   |     |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 |           |      |     |
| 担当者   | 横山 弘平     |      |     |

**テーマ**

古典に基づく創作

**授業の目的（獲得目標）**

基礎からの展開。自らの創作力の養成。 内 容 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。 さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

**内 容**

- 第1回 倣書の方法について
- 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検
- 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首
- 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首
- 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首
- 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首
- 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
- 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
- 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
- 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
- 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)
- 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)
- 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
- 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
- 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

**授業以外での学習方法**

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

**教科書****参考書****成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (20) 参加度 (10) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 書法演習Ⅳ <M> |      |     |
| クラス   | M         | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   |     |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 |           |      |     |
| 担当者   | 横山 弘平     |      |     |

## テーマ

古典に基づく創作

## 授業の目的（獲得目標）

基礎からの展開。自らの創作力の養成。 内 容 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。 さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

## 内 容

|      |                           |        |            |
|------|---------------------------|--------|------------|
| 第1回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (1)    | 配字と構成      |
| 第2回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (2)    | 配字と構成      |
| 第3回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (3)    | 配字と構成      |
| 第4回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (4)    | 運筆のリズムと線質  |
| 第5回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (5)    | 運筆のリズムと線質  |
| 第6回  | 主体的作品制作と鑑賞                | (6)    | 運筆のリズムと線質  |
| 第7回  | 主体的作品の習熟                  | (1)    | 古筆の再確認     |
| 第8回  | 主体的作品の習熟                  | (2)    | 変化と統一      |
| 第9回  | 主体的作品の習熟                  | (3)    | 墨法効果       |
| 第10回 | 制作作品の相互研究                 | ≪中間発表≫ |            |
| 第11回 | 作品の完成に向けて                 | (1)    | 全体構成の研究    |
| 第12回 | 作品の完成に向けて                 | (2)    | 線質の確認と墨法効果 |
| 第13回 | 作品の完成に向けて                 | (3)    | 作品の選別      |
| 第14回 | いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして） | (1)    |            |
| 第15回 | いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして） | (2)    |            |

## 授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (20) 参加度 (10) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 英米文学研究 I <M>

---

クラス M

配当回生 1回生

---

講義期間 後期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 浅井 雅志

---

テーマ

アメリカ南部文学を読む

---

授業の目的（獲得目標）

文学読解能力を深める

---

内 容

第1回 イン트로ダクション、The Sound and the Fury, Introduction

第2回 April Seventh, 1928(1)

第3回 April Seventh, 1928(2)

第4回 April Seventh, 1928(3)

第5回 June Second, 1910 (1)

第6回 June Second, 1910 (2)

第7回 June Second, 1910 (3)

第8回 June Second, 1910 (4)

第9回 April Sixth, 1928 (1)

第10回 April Sixth, 1928 (2)

第11回 April Sixth, 1928 (3)

第12回 April Eighth, 1928 (1)

第13回 April Eighth, 1928 (2)

第14回 April Eighth, 1928 (3)

第15回 総括、ペーパー提出

---

授業以外での学習方法

参考文献を読む

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (40) 参加度 (10) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

---

科目名 英米文学研究Ⅱ <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

---

テーマ

To have a better understanding on the relationship between Japan and USA.

---

授業の目的（獲得目標）

This class is designed for those students who are interested in how Japan has been influenced by the Western cultures, and also how Japan has influenced the West. The class will be run entirely in English. And you have to read a lot! In 1860, the empir

---

内 容

第1回 Introduction

第2回 As We Saw Them (1)

第3回 As We Saw Them (2)

第4回 As We Saw Them (3)

第5回 As We Saw Them (4)

第6回 As We Saw Them (5)

第7回 As We Saw Them (6); Short test (1)

第8回 As We Saw Them (7)

第9回 As We Saw Them (8)

第10回 As We Saw Them (9)

第11回 As We Saw Them (10)

第12回 As We Saw Them (11)

第13回 As We Saw Them (12)

第14回 As We Saw Them (13); Short Test (2)

第15回 Summing Up

---

授業以外での学習方法

Read the textbook and related books

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (30) 小テスト (30) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 英米文学研究Ⅲ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 英米文学研究IV <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

アメリカ南部文学を読む

授業の目的（獲得目標）

文学読解能力を深める

内 容

第1回 イン트로ダクション、The Sound and the Fury, Introduction

第2回 April Seventh, 1928(1)

第3回 April Seventh, 1928(2)

第4回 April Seventh, 1928(3)

第5回 June Second, 1910 (1)

第6回 June Second, 1910 (2)

第7回 June Second, 1910 (3)

第8回 June Second, 1910 (4)

第9回 April Sixth, 1928 (1)

第10回 April Sixth, 1928 (2)

第11回 April Sixth, 1928 (3)

第12回 April Eighth, 1928 (1)

第13回 April Eighth, 1928 (2)

第14回 April Eighth, 1928 (3)

第15回 総括、ペーパー提出

授業以外での学習方法

参考文献を読む

教科書

参考書

成績評価

試験 (50) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (40) 参加度 (10) 備考 ( )

科目名 言語コミュニケーション学研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

英語文体論の諸相

### 授業の目的（獲得目標）

(1) 英語文体論をさまざまなアプローチから検討している英語論文を読みながら、文学と英語学の接点ともいえる文体論について理解を深める。(2) 英語学・言語学関連の英語の文献を批判的に読むスキルを身につける。文学と言語学の接点ともいべき文体論をあつかった英語論文を読み進めながら、両者の融合の可能性を追究してみる。これまで文学の領域でのみ論じられてきたもの、あるいは、逆に、文学研究の対象とはなりえないものとされてきた問題にたいして、言語学的な分析の光をあててみることにする。

### 内 容

- 第1回 S. B. Chatman, Reading Literature as Problem-Solving
- 第2回 S. B. Chatman, Reading Literature as Problem-Solving
- 第3回 G. Leech, Linguistics and the Figure of Rhetoric
- 第4回 G. Leech, Linguistics and the Figure of Rhetoric
- 第5回 G. Lakoff and M. Johnson, Metaphors We Live By
- 第6回 G. Lakoff and M. Johnson, Metaphors We Live By
- 第7回 G. Lakoff and M. Johnson, Metaphors We Live By
- 第8回 M. Reddy, A Semantic Approach to Metaphor
- 第9回 M. Reddy, A Semantic Approach to Metaphor
- 第10回 S. Verma, Topicalization as a Stylistic Mechanism
- 第11回 S. Verma, Topicalization as a Stylistic Mechanism
- 第12回 M. A. K. Halliday and R. Hasan, Cohesion in English
- 第13回 M. A. K. Halliday and R. Hasan, Cohesion in English
- 第14回 D. Blakemore, Linguistic Form and Pragmatic Interpretation
- 第15回 D. Blakemore, Linguistic Form and Pragmatic Interpretation

### 授業以外での学習方法

クラスに関連する文献や参考資料を紹介するので、クラス外で読むこと。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (10%) 備考 ( )

科目名 言語コミュニケーション学研究Ⅱ <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

Understanding English grammar

### 授業の目的（獲得目標）

The objective of this course is to give students a way of understanding English grammar and the chief technical terms needed to describe the English language precisely. In order to communicate in English, the basic knowledge of English grammar is required

### 内 容

- 第1回 What is a sentence?; Types of sentence
- 第2回 The parts of a clause; Making clause patterns
- 第3回 The verb, The subject; The object
- 第4回 Completing a clause; Saying when, where, and how
- 第5回 Making clause parts agree; Statements
- 第6回 Questions; Commands; Exclamations
- 第7回 Nouns; Different kinds of noun
- 第8回 Singular and plural; People, animals, and things
- 第9回 Apostrophe s; Building up noun phrases
- 第10回 Adding words before a noun; Adding words after a noun; The noun phrase
- 第11回 Different kinds of verb; Regular verbs; Irregular verbs
- 第12回 Helping verbs; Multi-word verbs; The time of an action
- 第13回 Completing an action; Active and passive; Verb phrases
- 第14回 Pronouns; Pronouns and gender
- 第15回 Adjectives; Adverbs

### 授業以外での学習方法

Students are expected to read the assignments before coming to the class. For the presentations, students will be required to research materials related to the issue on their own.

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (30%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (10%) 備考 ( )



|       |                 |      |
|-------|-----------------|------|
| 科目名   | 言語コミュニケーション学研究Ⅲ |      |
| クラス   | M               | 配当回生 |
| 講義期間  | 定員              |      |
| 履修条件  |                 |      |
| クラス指定 |                 |      |
| 担当者   |                 |      |

テーマ

英語文体論の諸相

### 授業の目的（獲得目標）

(1) 英語文体論をさまざまなアプローチから検討している英語論文を読みながら、文学と英語学の接点ともいえる文体論について理解を深める。(2) 英語学・言語学関連の英語の文献を批判的に読むスキルを身につける。文学と言語学の接点ともいべき文体論をあつかった英語論文を読み進めながら、両者の融合の可能性を追究してみる。これまで文学の領域でのみ論じられてきたもの、あるいは、逆に、文学研究の対象とはなりえないものとされてきた問題にたいして、言語学的な分析の光をあててみることにする。

### 内 容

- 第1回 S. B. Chatman, Reading Literature as Problem-Solving
- 第2回 S. B. Chatman, Reading Literature as Problem-Solving
- 第3回 G. Leech, Linguistics and the Figure of Rhetoric
- 第4回 G. Leech, Linguistics and the Figure of Rhetoric
- 第5回 G. Lakoff and M. Johnson, Metaphors We Live By
- 第6回 G. Lakoff and M. Johnson, Metaphors We Live By
- 第7回 G. Lakoff and M. Johnson, Metaphors We Live By
- 第8回 M. Reddy, A Semantic Approach to Metaphor
- 第9回 M. Reddy, A Semantic Approach to Metaphor
- 第10回 S. Verma, Topicalization as a Stylistic Mechanism
- 第11回 S. Verma, Topicalization as a Stylistic Mechanism
- 第12回 M. A. K. Halliday and R. Hasan, Cohesion in English
- 第13回 M. A. K. Halliday and R. Hasan, Cohesion in English
- 第14回 D. Blakemore, Linguistic Form and Pragmatic Interpretation
- 第15回 D. Blakemore, Linguistic Form and Pragmatic Interpretation

### 授業以外での学習方法

クラスに関連する文献や参考資料を紹介するので、クラス外で読むこと。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (10%) 備考 ( )

科目名 言語コミュニケーション学研究Ⅲ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 言語コミュニケーション学研究Ⅳ 〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 言語コミュニケーション学研究Ⅳ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 英語表現演習 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 英語表現演習Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 英語表現演習Ⅲ <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西村 友美

テーマ

英日通訳に見る言語理解メカニズムと訳出表現

授業の目的（獲得目標）

通訳という瞬時の言語置換作業では、ディスコースに生起する単語が辞書的な意味レベルで decoding や recoding をしないことが多い。なぜそうなるのか、英日通訳の事例を観察することによって、聞き手兼話し手としての通訳者の言語理解のメカニズムや訳出表現を考察し、ことばをめぐる表現について考えていきたい。

内 容

第1回 通訳の定義・種類

第2回 通訳の定義・種類

第3回 英日通訳事例の観察

第4回 英日通訳事例の観察

第5回 英日通訳事例の観察

第6回 英日通訳事例の観察

第7回 英日通訳事例の観察

第8回 機能主義的翻訳論

第9回 機能主義的翻訳論

第10回 英日通訳事例の観察

第11回 英日通訳事例の観察

第12回 最近の通訳研究から

第13回 最近の通訳研究から

第14回 最近の通訳研究から

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 ( ) 備考 ( )



|       |             |      |     |
|-------|-------------|------|-----|
| 科目名   | 英語表現演習Ⅳ <M> |      |     |
| クラス   | M           | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | その他         | 定員   |     |
| 履修条件  |             |      |     |
| クラス指定 |             |      |     |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）     |      |     |

## テーマ

通訳の理論と集中訓練

## 授業の目的（獲得目標）

「通訳基礎論」で習得した基礎的理論と技術をもとに、より高度な通訳を集中的に訓練する。授業は、プレゼンとディスカッションによって言語の諸側面を考察する理論編と、通訳トレーニングをおこなう実践編の2部構成となる。なお、英語コミュニケーション演習Ⅰcの受講者にはこの科目を同時履修することを勧める。  
 ★★注意★★受講者は毎回授業にノーマルタイプの60分オーディオテープを持参すること。

## 内 容

- 第1回 通訳とは（歴史、仕事）、通訳技法（理解）
- 第2回 通訳とは（資質と能力、通訳と翻訳）、通訳技法（クイック・レスポンス）
- 第3回 異文化コミュニケーションとは、通訳技法（シャドーイング）
- 第4回 異文化コミュニケーターとしての通訳者、通訳技法（パラフレーズ）
- 第5回 通訳と言語学との接点（比喩）、通訳技法（要約）
- 第6回 通訳と言語学との接点（推意）、通訳技法（要約）
- 第7回 通訳と言語学との接点（意味の一致）、通訳技法（メモ取り）
- 第8回 通訳と言語学との接点（通訳プロセス）、通訳技法（メモ取り）
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 通訳と言語学との接点（会話のルール）、通訳技法（サイト・トランスレーション）
- 第11回 通訳と言語学との接点（礼のルール）、通訳技法（サイト・トランスレーション）
- 第12回 通訳と言語学との接点（意味の復元）、（同時通訳）
- 第13回 通訳と言語学との接点（推意の認知プロセス）、通訳技法（同時通訳）
- 第14回 通訳と言語学との接点（通訳に必要な三つの知識）、通訳技法（同時通訳）
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

教科書の理論編を理解するための文献を読む。各種通訳練習。本格的通訳トレーニングは、英検準1級を取得してから始めるというのが通説になっている。この授業では、受講者ができるだけ早くそのレベルに到達することができるよう指導するので、授業外での自習をしっかりとすることが必須条件となる。

## 教科書

**成績評価**

試験 (70) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M 1 前) <M a>

クラス M a

配当回生 1 回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講 (開⇒閉)

テーマ

考古資料を多角的な観点から考察できるよう、知識を蓄積する。

授業の目的 (獲得目標)

学会誌に投稿できるような論文を書き上げる。

内 容

第 1 回 焼物の歴史 1

第 2 回 焼物の歴史 2

第 3 回 焼物の歴史 3

第 4 回 焼物の歴史 4

第 5 回 焼物の歴史 5

第 6 回 焼物の歴史 6

第 7 回 焼物の歴史 7

第 8 回 住まいの歴史 1

第 9 回 住まいの歴史 2

第 10 回 住まいの歴史 3

第 11 回 住まいの歴史 4

第 12 回 住まいの歴史 5

第 13 回 住まいの歴史 6

第 14 回 住まいの歴史 7

第 15 回 まとめ

授業以外での学習方法

博物館・美術館でものを見ながら解説。

教科書

参考書

成績評価

試験 ( 70 ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 30 ) 備考 ( )

科目名 特別研究 I (歴財M1前) <M c>

クラス M c

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 横田 冬彦

テーマ

日本近世史の諸問題

授業の目的 (獲得目標)

日本近世史において修士論文を作成するための演習。あわせて、数年来続けている「奥女中文書」の古文書の解読作業を完成させるとともに、その解題の作成をおこなう。

内 容

第1回 演習のガイダンス

第2回 M1の卒業論文の報告、討論。

第3回 「奥女中文書」について。

第4回 「奥女中文書」について。

第5回 M2の修士論文準備報告。

第6回 M2の修士論文準備報告。

第7回 「奥女中文書」について。

第8回 「奥女中文書」について。

第9回 修士論文中間報告会。

第10回 「奥女中文書」について。

第11回 「奥女中文書」について。

第12回 論文報告。

第13回 論文報告。

第14回 「奥女中文書」について。

第15回 「奥女中文書」について。総括。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (30) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M 1 前) <M d>

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M 1 前) <Me>

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講 (開⇒閉)

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M 1 前) <M f>

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講 (開⇒閉)

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M 1 前) <M g>

クラス M g 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員

**履修条件****クラス指定**

担当者 細川 涼一

**テーマ**

日本中世史の史料・論文を読む

**授業の目的 (獲得目標)**

日本中世史の史料・論文の読解力を身につけ、研究の方法論を深める。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

**内 容**

- 第 1 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 2 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 3 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 4 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 5 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 6 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 7 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 8 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 9 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 10 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 11 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 12 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 13 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 14 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第 15 回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論

**授業以外での学習方法**

事前の予習を行っておくこと。当日は全員に発言を求める。

**教科書****参考書****成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (70%) 参加度 (30%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M 1 前) <M h>

クラス M h

配当回生 1 回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講 (開⇒閉)

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M1前) <Mi>

クラス Mi 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

## 履修条件

## クラス指定

担当者 弓場 紀知

## テーマ

近世の美術品の賞玩の歴史

## 授業の目的 (獲得目標)

日本における骨董としての美術品の賞玩の歴史を理解させる

## 内 容

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 日本での喫茶の誕生と発展
- 第3回 日本での喫茶の誕生と発展
- 第4回 日本での喫茶の誕生と発展
- 第5回 日本での喫茶の誕生と発展
- 第6回 東山御物のなかでの美術品としての唐物
- 第7回 東山御物のなかでの美術品としての唐物
- 第8回 東山御物のなかでの美術品としての唐物
- 第9回 東山御物のなかでの美術品としての唐物
- 第10回 唐物賞玩の実態
- 第11回 唐物賞玩の実態
- 第12回 唐物賞玩の実態
- 第13回 唐物賞玩の実態
- 第14回 唐物賞玩の実態
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M 1 前) <M j>

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ（歴財M1後）〈Ma〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

考古資料を多角的な観点から考察できるよう、知識を蓄積する

授業の目的（獲得目標）

学会誌に投稿できるような論文を書き上げる。

内 容

- 第1回 衣類の歴史1
- 第2回 衣類の歴史2
- 第3回 衣類の歴史3
- 第4回 食の歴史1
- 第5回 食の歴史2
- 第6回 食の歴史3
- 第7回 食の歴史4
- 第8回 食の歴史5
- 第9回 墓の歴史1
- 第10回 墓の歴史2
- 第11回 墓の歴史3
- 第12回 墓の歴史4
- 第13回 墓の歴史5
- 第14回 墓の歴史6
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（70）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(歴財M1後)〈M c〉

クラス M c

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 横田 冬彦

テーマ

日本近世史の諸問題

### 授業の目的(獲得目標)

日本近世史において修士論文を作成するための演習。あわせて、数年来続けている「奥女中文書」の古文書の解読作業を完成させるとともに、その解題の作成をおこなう。

### 内 容

- 第1回 後期ガイダンス。
- 第2回 学部卒業論文中間報告会への参加。
- 第3回 M2論文報告。
- 第4回 M2論文報告。
- 第5回 古文書解読。
- 第6回 古文書解読。
- 第7回 M2論文報告。
- 第8回 M2論文報告。
- 第9回 古文書解読。
- 第10回 M2論文報告。
- 第11回 M2論文報告。
- 第12回 M1論文報告。
- 第13回 論文報告。
- 第14回 論文報告。
- 第15回 まとめ。

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験(0)小テスト(0)授業中課題(20)授業中発表等(30)参加度(50)備考(各自の計画に則って論文作成をすすめる。)

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(歴財M1後)〈Md〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ（歴財M1後）〈Me〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ（歴財M1後）〈M f〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(歴財M1後)〈Mg〉

クラス Mg

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 細川 涼一

テーマ

日本中世史の史料・論文を読む

授業の目的(獲得目標)

日本中世史の史料・論文の読解力を身につけ、研究の方法論を深める。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

内 容

- 第1回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第2回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第3回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第4回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第5回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第6回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第7回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第8回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第9回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第10回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第11回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第12回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第13回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第14回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第15回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論

授業以外での学習方法

事前の予習を行っておくこと。当日は全員に発言を求める。

教科書

参考書

成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(0%) 授業中発表等(70%) 参加度(30%) 備考( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(歴財M1後)〈Mh〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講(開⇒閉)

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験( ) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度( ) 備考( )

科目名 特別研究Ⅱ(歴財M1後)〈Mi〉

クラス Mi 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 紀知

テーマ

近世の美術品の賞玩の歴史

授業の目的(獲得目標)

日本における骨董としての美術品の賞玩の歴史を理解させる

内 容

第1回 授業の進め方

第2回 日本での喫茶の誕生と発展

第3回 日本での喫茶の誕生と発展

第4回 日本での喫茶の誕生と発展

第5回 日本での喫茶の誕生と発展

第6回 東山御物のなかでの美術品としての唐物

第7回 東山御物のなかでの美術品としての唐物

第8回 東山御物のなかでの美術品としての唐物

第9回 東山御物のなかでの美術品としての唐物

第10回 唐物賞玩の実態

第11回 唐物賞玩の実態

第12回 唐物賞玩の実態

第13回 唐物賞玩の実態

第14回 唐物賞玩の実態

第15回 まとめ 尚、この授業では必要に応じて学外(実地)授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(0%) 参加度(50%) 備考( )

科目名 特別研究Ⅱ(歴財M1後)〈Mj〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前)〈Ma〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

考古資料を多角的な観点から考察できるよう、知識を蓄積する。

授業の目的(獲得目標)

学会誌に投稿できるような論文を書き上げる。

内 容

第1回 焼物の歴史1

第2回 焼物の歴史2

第3回 焼物の歴史3

第4回 焼物の歴史4

第5回 焼物の歴史5

第6回 焼物の歴史6

第7回 焼物の歴史7

第8回 住まいの歴史1

第9回 住まいの歴史2

第10回 住まいの歴史3

第11回 住まいの歴史4

第12回 住まいの歴史5

第13回 住まいの歴史6

第14回 住まいの歴史7

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

博物館・美術館でものを見ながら解説。

教科書

参考書

成績評価

試験(70)小テスト( )授業中課題( )授業中発表等( )参加度(30)備考( )

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前)〈M c〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 横田 冬彦

テーマ

日本近世史の諸問題

授業の目的(獲得目標)

日本近世史において修士論文を作成するための演習。あわせて、数年来続けている「奥女中文書」の古文書の解読作業を完成させるとともに、その解題の作成をおこなう。

内 容

第1回 演習のガイダンス

第2回 M1の卒業論文の報告、討論。

第3回 「奥女中文書」について。

第4回 「奥女中文書」について。

第5回 M2の修士論文準備報告。

第6回 M2の修士論文準備報告。

第7回 「奥女中文書」について。

第8回 「奥女中文書」について。

第9回 修士論文中間報告会。

第10回 「奥女中文書」について。

第11回 「奥女中文書」について。

第12回 論文報告。

第13回 論文報告。

第14回 「奥女中文書」について。

第15回 「奥女中文書」について。総括。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験(0) 小テスト(0) 授業中課題(20) 授業中発表等(30) 参加度(50) 備考(0)

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前)〈Md〉

クラス Md

配当回生 2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ（歴財M2前）〈Me〉

クラス Me

配当回生 2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ（歴財M2前）〈M f〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前)〈Mg〉

クラス Mg 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 細川 涼一

テーマ

日本中世史の史料・論文を読む

授業の目的（獲得目標）

日本中世史の史料・論文の読解力を身につけ、研究の方法論を深める。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

内 容

- 第1回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第2回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第3回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第4回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第5回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第6回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第7回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第8回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第9回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第10回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第11回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第12回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第13回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第14回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第15回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論

授業以外での学習方法

事前の予習を行っておくこと。当日は全員に発言を求める。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前)〈Mh〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講(開⇒閉)

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験( ) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度( ) 備考( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前)〈Mj〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後)〈Ma〉

クラス Ma

配当回生 2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

考古資料を多角的な観点から考察できるよう、知識を蓄積する

授業の目的(獲得目標)

学会誌に投稿できるような論文を書き上げる。

内 容

- 第1回 衣類の歴史1
- 第2回 衣類の歴史2
- 第3回 衣類の歴史3
- 第4回 食の歴史1
- 第5回 食の歴史2
- 第6回 食の歴史3
- 第7回 食の歴史4
- 第8回 食の歴史5
- 第9回 墓の歴史1
- 第10回 墓の歴史2
- 第11回 墓の歴史3
- 第12回 墓の歴史4
- 第13回 墓の歴史5
- 第14回 墓の歴史6
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験(70) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(30) 備考( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後) <M c>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 横田 冬彦

テーマ

日本近世史の諸問題

**授業の目的(獲得目標)**

日本近世史において修士論文を作成するための演習。あわせて、数年来続けている「奥女中文書」の古文書の解読作業を完成させるとともに、その解題の作成をおこなう。

**内 容**

- 第1回 後期ガイダンス。
- 第2回 学部卒業論文中間報告会への参加。
- 第3回 M2論文報告。
- 第4回 M2論文報告。
- 第5回 古文書解読。
- 第6回 古文書解読。
- 第7回 M2論文報告。
- 第8回 M2論文報告。
- 第9回 古文書解読。
- 第10回 M2論文報告。
- 第11回 M2論文報告。
- 第12回 M1論文報告。
- 第13回 論文報告。
- 第14回 論文報告。
- 第15回 まとめ。

**授業以外での学習方法**

教科書

参考書

**成績評価**

試験(0) 小テスト(0) 授業中課題(20) 授業中発表等(30) 参加度(50) 備考(各自の計画に則って論文作成をすすめる。)

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後)〈Md〉

クラス Md

配当回生 2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ（歴財M2後）〈Me〉

クラス Me

配当回生 2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ（歴財M2後）〈M f〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後)〈Mg〉

クラス Mg 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 細川 涼一

テーマ

日本中世史の史料・論文を読む

授業の目的（獲得目標）

日本中世史の史料・論文の読解力を身につけ、研究の方法論を深める。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

内 容

- 第1回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第2回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第3回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第4回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第5回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第6回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第7回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第8回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第9回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第10回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第11回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第12回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第13回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第14回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
- 第15回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論

授業以外での学習方法

事前の予習を行っておくこと。当日は全員に発言を求める。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後)〈Mh〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講(開⇒閉)

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験( ) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度( ) 備考( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後)〈Mj〉

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 歴史学・文化財学研究方法論 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 島居 一康

テーマ

中国文化史の研究課題

授業の目的（獲得目標）

中国史の基礎的研究方法の修得を通じて、東アジアの歴史と文化への理解を深める。

内 容

- 第1回 中国の歴史と歴史学研究
- 第2回 歴史学の諸分野
- 第3回 中国文化史研究の課題A（問題提起）
- 第4回 中国史の研究手法(1)－資料・史料－
- 第5回 中国史の研究手法(2)－工具・基礎文献－
- 第6回 中国史の研究手法(3)－参考文献－
- 第7回 中国史の研究分野と研究課題(1)－政治史・軍事史－
- 第8回 中国史の研究分野と研究課題(2)－経済史・産業史－
- 第9回 中国史の研究分野と研究課題(3)－社会史・思想史－
- 第10回 中国史の研究分野と研究課題(4)－文学史・美術史－
- 第11回 中国古代史の研究課題－殷周・春秋戦国・秦漢－
- 第12回 中国中世史の研究課題－三国・魏晋南北朝・隋唐－
- 第13回 中国近世史の研究課題－宋・遼・金・元・明・清－
- 第14回 中国近代史の研究課題－中華民国・中華人民共和国－
- 第15回 中国文化史研究の課題B（まとめ）

授業以外での学習方法

必要に応じて参考書等による予習を指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験（筆記試験は行わない。）小テスト（）授業中課題（各自に課題を与える。）授業中発表等（各自の課題を発表させる。）参加度（）備考（各自に与えた課題を発表させ、その内容によって評価する。）

## 2010 Syllabus

科目名 歴史学・文化財学研究方法論Ⅱ〈M〉

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 紀知

テーマ

文化遺産に関する諸問題とその研究

授業の目的（獲得目標）

博士課程前期1回生であり、修士論文作成のためのディスカッションを中心に授業を進める

内 容

第1回 授業を進めるためのガイダンス

第2回 文化遺産研究法—1

第3回 文化遺産研究法—2

第4回 発表—1

第5回 発表—2

第6回 発表—3

第7回 発表—4

第8回 発表—5

第9回 発表—6

第10回 文献資料研究—1

第11回 文献資料研究—2

第12回 実体資料研究—1

第13回 実体資料研究—2

第14回 実体資料研究—3

第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（授業への参加）

## 2010 Syllabus

科目名 国際関係史論 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 国際関係史論Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

---

科目名 京都の歴史・文化研究 I

---

クラス M

配当回生 1回生

---

講義期間

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 m i t e i

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化研究 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化研究Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹・田端 泰子

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化研究Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 日本古代史研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 告井 幸男

テーマ

平安時代中後期の歴史的位置

### 授業の目的（獲得目標）

・当該期に関する基礎的知識を獲得し、時代の特徴を把握する。 ・関連資料・関連文献の読解力の涵養。 ・特に古記録・古文書・儀式書・法制書・絵巻・文学作品などの記述から、歴史的諸様相を立体的に再構成する能力の錬磨。 ・当該期研究に関するネットやデータベースの利用方法への習熟。

### 内 容

- 第1回 日常的紛争の解決と処理
- 第2回 貴族社会の諸関係
- 第3回 検非違使の位置づけ
- 第4回 後世への展開と他地域との比較
- 第5回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説
- 第6回 平安京の概要―宮外諸司・後院・諸家など―
- 第7回 平安宮諸門・諸司の様相―諸政の具体相―
- 第8回 内裏諸殿舎・諸司と儀式
- 第9回 紫宸殿を中心とする空間の構成
- 第10回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説
- 第11回 行財政における個人的権限の顕現
- 第12回 下級官人の上訴行動
- 第13回 石清水臨時祭の展開
- 第14回 近衛の楽と雅楽の楽
- 第15回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説

### 授業以外での学習方法

授業が始まる前に前回の授業内容を反芻する。授業中に分からない語句などがあった場合は、その日のうちに辞典などで調べる。授業中に出てきた史料や文献について、日頃より図書館などで馴れておく。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（25%×3）授業中課題（5%）授業中発表等（5%）参加度（15%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本古代史研究Ⅱ <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 告井 幸男

テーマ

平安時代の官人社会

授業の目的（獲得目標）

・ 貴族よりは階級が下の、中下級官人たちの具体的様相を把握する。 ・ 単なる人物伝・伝記には終わらない、人物像の構築。 ・ 官司請負制の前史と歴史的可能性の認識。 ・ 歴史資料と文学資料の総合的利用による歴史像の構成。

内 容

第1回 医道官人1

第2回 医道官人2

第3回 天文道・暦道

第4回 陰陽道

第5回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説

第6回 算道

第7回 明法道1

第8回 明法道2

第9回 明法道3

第10回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説

第11回 明経道

第12回 絵師

第13回 楽人

第14回 宮道氏

第15回 4回分のまとめと確認のための小テスト、及び解説

授業以外での学習方法

授業が始まる前に前回の授業内容を反芻する。授業中に分からない語句などがあった場合は、その日のうちに辞典などで調べる。授業中に出てきた史料や文献について、日頃より図書館などで馴れておく。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（25%×3）授業中課題（5%）授業中発表等（5%）参加度（15%）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 日本中・近世史研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 恒春

テーマ

16世紀後期の政治と社会 I

### 授業の目的（獲得目標）

天文12（1543）年、ポルトガル人の種子島来航により日本社会は初めてヨーロッパという異域の人と邂逅することとなった。これからおよそ1世紀のあいだキリスト教の受容を通じてヨーロッパ社会と交流をもつこととなる。当該期、日本社会は戦国の世から統一政権成立への過渡期であり、ヨーロッパ人がもたらした文物は天下一統に大きく寄与するところがあった。16世紀末期に天下を掌握した豊臣秀吉の台頭は、以後の日本社会を考えていく上で重要な劃期となる。講義では豊臣政権の歴史的性格を多面的に宣教師たちの史料をも援用しながら検討し

### 内 容

第1回 大航海時代 その1

第2回 大航海時代 その2

第3回 鉄炮の伝来

第4回 ザビエル来日

第5回 大航海時代 小活

第6回 織田信長の上洛

第7回 室町幕府の崩壊

第8回 信長の諸政策

第9回 信長という男

第10回 信長の台頭 小活

第11回 本能寺、賤ヶ岳、秀吉の天下取り

第12回 小牧長久手の戦い、家康との拮抗

第13回 関白政権の誕生 その1

第14回 関白政権の誕生 その2

第15回 秀吉という男 小活

### 授業以外での学習方法

講義中その都度指示する

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（〈学部生〉最終試験 50%  
授業中課題（レポート）30% 出席率 20% 〈大学院〉最終試験 50% 授業中課題（レポート）50% 出  
席率 0%）

科目名 日本中・近世史研究Ⅱ 〈M〉

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 恒春

テーマ

16世紀後期の日本社会 Ⅱ

### 授業の目的（獲得目標）

天文12（1543）年、ポルトガル人の種子島来航により日本社会は初めてヨーロッパ人という異域の人びとと邂逅することとなった。これからおよそ1世紀のあいだキリスト教の受容を通じてヨーロッパ社会と交流をもつこととなる。当該期、日本社会は戦国の世から統一政権成立への過渡期でありヨーロッパ人のもたらした文物は天下一統に大きく寄与することとなった。16世紀末期、天下を掌握した豊臣秀吉の台頭は、以後の日本社会を考えていくうえで重要な劃期となる。講義では豊臣政権の歴史的な性格を多面的に宣教師たちの史料を援用しながら検

### 内 容

- 第1回 宣教師ルイス・フロイスのみた日本 その1
- 第2回 宣教師ルイス・フロイスのみた日本 その2
- 第3回 アレッサンドロ・ヴァリニャーノの来日 その1
- 第4回 アレッサンドロ・ヴァリニャーノの来日 その2
- 第5回 宣教師たちの見た日本 小活
- 第6回 秀吉の諸政策
- 第7回 小田原攻めと天下一統
- 第8回 朝鮮出兵と国内
- 第9回 挫折と秀頼誕生
- 第10回 豊臣政権の歴史的な性格 小活
- 第11回 16世紀後期の朝廷
- 第12回 正親町天皇・後陽成天皇
- 第13回 武家官位と朝廷
- 第14回 豊臣秀吉発給文書
- 第15回 武家と朝廷 総括

### 授業以外での学習方法

講義中その都度指示する

### 教科書

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（〈学部生〉最終試験 50%  
授業中課題（レポート）30% 出席率 20% 〈大学院〉最終試験 50% 授業中課題（レポート）50% 出  
席率 0%）

科目名 日本近・現代史研究 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代地域社会の変容 I

### 授業の目的（獲得目標）

日本近代の地域社会が明治・大正・昭和戦前期を通じてどのように変化していくか京都府・滋賀県を中心的素材として明らかにする（前期は明治期のみ）。

### 内 容

第1回 前期で何を話すか（概説）

第2回 維新の諸隊（赤報隊、山国隊、山科郷士）

第3回 同上

第4回 国の「文明開化」政策は村々にどのように入っていくか（小学校、徴兵、地租改正など）。

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 府県会と町村会

第9回 同上

第10回 明治維新後、交通体系はどのように変わってくるか

第11回 同上

第12回 琵琶湖疏水

第13回 同上

第14回 明治の自然災害と不況

第15回 同上

### 授業以外での学習方法

京都・滋賀の史蹟を紹介する。できれば歩いてほしい。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本近・現代史研究 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 日本近・現代史研究Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

近代地域社会の変容 Ⅱ

**授業の目的（獲得目標）**

日本近代の地域社会が明治・大正・昭和を通じてどのように変容していくかを京都府・滋賀県を中心的素材として明らかにする。

**内 容**

- 第1回 後期の授業の進め方（概説）
- 第2回 町村合併と新たな村の誕生
- 第3回 同上
- 第4回 日清・日露戦争を通じて地域社会はどう変わるか。
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 日露戦後の地域社会
- 第8回 大正期の地域社会
- 第9回 同上
- 第10回 交通の発達
- 第11回 観光の進展
- 第12回 同上
- 第13回 昭和の戦争と地域社会
- 第14回 同上
- 第15回 同上

**授業以外での学習方法**

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（70%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 日本女性史研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子

---

テーマ

女性史研究の現状と今後の課題

---

**授業の目的（獲得目標）**

日本の女性史研究は戦前期の高群逸枝の著作以来、近年は広く深く研究が進んでいる。この研究の現状を先ず理解し、そこに見られる今後のさまざまな問題点をあぶり出してみる。

---

**内 容**

第1回 原始・古代の労働と性差

第2回 都城の変遷と女性

第3回 平安京の貴族女性

第4回 平安期女性の財産権

第5回 院政期女院論

第6回 鎌倉期女性の財産権

第7回 地頭級領主の存在形態

第8回 南北朝内乱期の女性

第9回 室町期京都の商工業者

第10回 将軍家と日野家

第11回 戦国期東国の女性

第12回 戦国期畿内・西国の女性

第13回 「洛中洛外図」と京の変遷

第14回 織豊政権と大名の妻その1

第15回 織豊政権と大名の妻その2

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験（80%）小テスト（）授業中課題（10%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）



科目名 日本女性史研究Ⅱ <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 細川 涼一

テーマ

動乱の時代を生きた女性たち（源平合戦期・幕末・近代）

授業の目的（獲得目標）

源平合戦期・幕末戊辰戦争・近代を舞台に、動乱期を生きた女性たちの姿を具体的に探る。内容は講義形式で、何回かで一つの話題が完結する方法をとる。

内 容

- 第1回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（1）
- 第2回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（2）
- 第3回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（3）
- 第4回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（4）
- 第5回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―常盤・静・河越重頼の娘―（5）
- 第6回 源平合戦期の女性1 源義経と女性―まとめ『吾妻鏡』の方法
- 第7回 源平合戦期の女性2 女武者巴（1）
- 第8回 源平合戦期の女性2 女武者巴（2）
- 第9回 源平合戦期の女性3 建礼門院
- 第10回 幕末会津戊辰戦争と娘子軍（1）
- 第11回 幕末会津戊辰戦争と娘子軍（2）
- 第12回 幕末会津戊辰戦争と娘子軍（3）
- 第13回 近代の都市空間とモダンガール（1）
- 第14回 近代の都市空間とモダンガール（2）
- 第15回 近代の都市空間とモダンガール（3）

授業以外での学習方法

配布されたプリント（とくに史料）を読んで復習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（50％）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（50％）備考（）

---

科目名 古文書研究 I <M>

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 横田 冬彦

---

テーマ

近世古文書の整理と解説（1）

---

### 授業の目的（獲得目標）

本学所蔵の近世古文書の現物を使って、その扱い方、整理、目録作成などをおこなう。ティーチング・アシスタントや大学院生の指導をうける。将来大学院進学や博物館学芸員をめざす学生のための授業。古文書の解読能力が中級であることを条件とするので（少なくとも古文書学BI・IIは修了していること）、最初の授業で読解試験をおこなう。

---

### 内 容

第1回 古文書読解能力試験

第2回 導入

第3回 古文書を解読する（1）

第4回 古文書を解読する（2）

第5回 古文書を解読する（3）

第6回 古文書を解読する（4）

第7回 古文書を整理する（1）

第8回 古文書を整理する（2）

第9回 古文書を整理する（3）

第10回 古文書を整理する（4）

第11回 古文書を整理する（5）

第12回 古文書を分析する（1）

第13回 古文書を分析する（2）

第14回 古文書を分析する（3）

第15回 報告会

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（30%）授業中課題（30%）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 古文書研究Ⅱ〈M〉

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 横田 冬彦

---

テーマ

近世古文書の整理と解説（2）

---

### 授業の目的（獲得目標）

本学所蔵の近世古文書の現物を使って、その扱い方、整理、目録作成などをおこなう。ティーチング・アシスタントや大学院生の指導を受ける。将来大学院進学や博物館学芸員をめざす学生のための授業。古文書の解読能力が中級であることを条件とする。古文書学Ⅱをとっていることを条件とする。

---

### 内 容

第1回 導入および古文書読解能力についての試験（受講予定者は全員受けること） 受講についての相談にも応じます（前期授業の最後に示したものと一部変更があります）

第2回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第3回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第4回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第5回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第6回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第7回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第8回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第9回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第10回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第11回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第12回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第13回 現物の古文書による、整理・目録作成実習

第14回 整理した古文書によるレポートの報告会

第15回 整理した古文書によるレポートの報告会

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（30%）参加度（30%）備考（）

科目名 アジア政治社会史研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 島居 一康

テーマ

東アジア諸民族の国家形成

授業の目的（獲得目標）

中国とその周辺民族の国家形成の歴史を概観し、現代東アジア世界の構造を理解する。

内 容

- 第1回 東アジアの諸民族と現代東アジア諸国
- 第2回 中国文明の起源－黄河文明と長江文明－
- 第3回 春秋戦国時代の社会と国家
- 第4回 秦漢帝国と漢民族の形成
- 第5回 分裂時代の中国と東アジア世界－五胡・倭国・高句麗－
- 第6回 隋唐世界帝国とトルコ系民族－鮮卑・突厥・ウイグル－
- 第7回 チベット系民族の国家形成－吐蕃・西夏－
- 第8回 モンゴル系民族の国家形成－契丹・蒙古－
- 第9回 ツングース系民族の国家形成－渤海・女真・満洲－
- 第10回 近世東アジアの中華帝国－元・明・清－
- 第11回 東アジアの近代化－アヘン戦争・明治維新・日清戦争－
- 第12回 「中華民族」と中国の国民国家建設－洋務運動・辛亥革命－
- 第13回 中華人民共和国と社会主義建設
- 第14回 「多民族国家」中国の民族問題
- 第15回 現代東アジア世界の諸問題

授業以外での学習方法

基礎的な知識・学術用語等について、概説書・事典等参考文献とともに、インターネットを活用した予習を指示することがある。

教科書

参考書

成績評価

試験（筆記試験を行う。）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（出欠確認を行う。）備考（筆

記試験の成績を 60%、授業への出席状況を 40%の比率で評価する。)

科目名 アジア政治社会史研究Ⅱ〈M〉

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 島居 一康

テーマ

東南アジア諸民族の国家形成

授業の目的（獲得目標）

東南アジア諸民族の国家形成の歴史を概観し、現代東南アジア世界の構造を理解する。

内 容

- 第1回 ベトナム族の始祖伝説と越南国
- 第2回 「独立ベトナム」の発展
- 第3回 クメール帝国とラオス・カンボジア
- 第4回 フランス領インドシナの成立
- 第5回 インドシナ戦争とベトナム戦争
- 第6回 タイ族の南下－スコタイ朝からアユタヤ朝－
- 第7回 ビルマ族・モン族・シャン族の国家形成
- 第8回 タイとビルマの抗争－トンブリ朝・バンコク朝－
- 第9回 タイの近代化－日本との比較－
- 第10回 英領ビルマの成立から「ミャンマー」軍事政権へ
- 第11回 マラッカ海峡の成立と繁栄
- 第12回 英領海峡植民地－マレーシアとシンガポール－
- 第13回 インドネシアの海洋王国－シュリービジャヤ・マジャパヒト－
- 第14回 オランダ領インドネシアの成立と発展
- 第15回 スペイン領フィリピン諸島の歴史

授業以外での学習方法

基礎的な知識・学術用語等について、概説書・事典等参考文献とともに、インターネットを活用した予習を指示することがある。

教科書

参考書

成績評価

試験（筆記試験を行う。）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（出欠確認を行う。）備考（筆



記試験の成績を 60%、授業への出席状況を 40%の比率で評価する。)

科目名 アジア文化史研究 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 島居 一康

テーマ

東アジア諸民族の国家形成

授業の目的（獲得目標）

中国とその周辺民族の国家形成の歴史を概観し、現代東アジア世界の構造を理解する。

内 容

第1回 東アジアの諸民族と現代東アジア諸国

第2回 中国文明の起源－黄河文明と長江文明－

第3回 春秋戦国時代の社会と国家

第4回 秦漢帝国と漢民族の形成

第5回 分裂時代の中国と東アジア世界－五胡・倭国・高句麗－

第6回 隋唐世界帝国とトルコ系民族－鮮卑・突厥・ウイグル－

第7回 チベット系民族の国家形成－吐蕃・西夏－

第8回 モンゴル系民族の国家形成－契丹・蒙古－

第9回 ツングース計民族の国家形成－渤海・女真・満洲－

第10回 近世東アジアの中華帝国－元・明・清－

第11回 東アジアの近代化－アヘン戦争・明治維新・日清戦争－

第12回 「中華民族」と中国の国民国家建設－洋務運動・辛亥革命

第13回 中華人民共和国と社会主義建設

第14回 「多民族国家」中国の民族問題

第15回 現代東アジア世界の諸問題

授業以外での学習方法

基礎的な知識や学術用語等について、概説書・事典等参考文献と共に、インターネットを活用した予習を指示することがある。

教科書

参考書

成績評価

試験（筆記試験を行う。）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（出欠確認を行う。）備考（筆

記試験の成績を 60%、授業への出席状況を 40%の比率で評価する。)

科目名 アジア文化史研究Ⅱ 〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 島居 一康

テーマ

東南アジア諸民族の国家形成

授業の目的（獲得目標）

東南アジア諸民族の国家形成の歴史を概観し、現代東南アジア世界の構造を理解する。

内 容

- 第1回 ベトナム族の始祖伝説と越南国
- 第2回 「独立ベトナム」の発展
- 第3回 クメール帝国とラオス・カンボジア
- 第4回 フランス領インドシナの成立
- 第5回 インドシナ戦争とベトナム戦争
- 第6回 タイ族の南下－スコタイ朝からアユタヤ朝－
- 第7回 ビルマ族・モン族・シャン族の国家形成
- 第8回 タイとビルマの抗争－トンブリ朝からバンコク朝－
- 第9回 タイの近代化－日本との比較－
- 第10回 英領ビルマの成立から「ミャンマー」軍事政権へ
- 第11回 マラッカ王国の成立と繁栄
- 第12回 英領海峡植民地－マレーシアとシンガポール－
- 第13回 インドネシアの海洋王国－シュリービジャヤ・マジャパヒト－
- 第14回 オランダ領インドネシアの成立と発展
- 第15回 スペイン領フィリピン諸島の歴史

授業以外での学習方法

基礎的な知識や学術用語等について、概説書・事典等参考文献とともに、インターネットを活用した予習を指示することがある。

教科書

参考書

成績評価

試験（筆記試験を行う。）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（出欠確認を行う。）備考（筆

記試験の成績を 60%、授業への出席状況を 40%の比率で評価する。)

科目名 アジア史史料講読 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史関連の文献史料と論文を読む

授業の目的（獲得目標）

中央アジア・西アジア史に関連する史料（旅行記も含む）および論文を読み、歴史史料と専門論文の読み方を習得する。 内 容 前近代の中央アジア・西アジア史に関わる文献史料（旅行記を含む）を選び輪読する。英語文献を選定することもある。テキストは出席者の関心を考慮する（コピーにして配布）。毎回全員で輪読し、内容から問題点を読み取る。

内 容

第1回 授業の目的説明、およびテキストの説明と選定。

第2回 史料ないし論文の概略の解説 その1

第3回 輪読と内容の解説 その1

第4回 輪読と内容の解説 その2

第5回 輪読と内容の解説 その3

第6回 輪読と内容の解説 その4

第7回 輪読と内容の解説 その5

第8回 輪読と内容の解説 その6

第9回 史料ないし論文の概略の解説 その2

第10回 輪読と内容の解説 その1

第11回 輪読と内容の解説 その2

第12回 輪読と内容の解説 その3

第13回 輪読と内容の解説 その4

第14回 輪読と内容の解説 その5

第15回 輪読と内容の解説 その6

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（

科目名 アジア史史料講読Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史関連の文献史料と論文を読む

授業の目的（獲得目標）

中央アジア・西アジア史に関連する文献史料（旅行記も含む）および論文を選読し、歴史史料と専門論文の読み方を習得する。 内 容 前近代の中央アジア・西アジア史に関わる文献史料（旅行記を含む）と専門論文を選んで輪読する。英語文献を選定することもある。テキストは出席者の関心を考慮する（コピーして配布）。毎回全員で輪読し、内容から問題点を読み取る。

内 容

第1回 授業の目的、および史料・論文の解説と選定。

第2回 史料・論文の概略説明 その1

第3回 輪読と内容の解説 その1

第4回 輪読と内容の解説 その2

第5回 輪読と内容の解説 その3

第6回 輪読と内容の解説 その4

第7回 輪読と内容の解説 その5

第8回 輪読と内容の解説 その6

第9回 史料・論文の概略説明 その2

第10回 輪読と内容の解説 その1

第11回 輪読と内容の解説 その2

第12回 輪読と内容の解説 その3

第13回 輪読と内容の解説 その4

第14回 輪読と内容の解説 その5

第15回 輪読と内容の解説 その6

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価



試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（

---

科目名 ヨーロッパ中・近世史研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

---

テーマ

食という視点からヨーロッパの歴史を考察する

---

授業の目的（獲得目標）

ヨーロッパの中世から近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ史についての理解を深める。前期の授業では、ヨーロッパ世界が拡大し、非ヨーロッパ世界を支配していく過程と食との関わりを中心に考察する。

---

内 容

第1回 食の歴史の意義

第2回 ヨーロッパの食文化の特質（1）

第3回 ヨーロッパの食文化の特質（2）

第4回 香辛料の世界史的役割（1）

第5回 香辛料の世界史的役割（2）

第6回 「コロンブスの交換」（1）

第7回 「コロンブスの交換」（2）

第8回 「コロンブスの交換」（3）

第9回 ジャガイモとトウモロコシ（1）

第10回 ジャガイモとトウモロコシ（2）

第11回 新しい飲料の導入

第12回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配

第13回 ヨーロッパ的食生活の成立（1）

第14回 ヨーロッパ的食生活の成立（2）

第15回 まとめ・総括

---

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (10) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 ヨーロッパ中・近世史研究Ⅱ〈M〉

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

食という視点からヨーロッパの歴史を考察する

授業の目的（獲得目標）

ヨーロッパの中世から近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ史についての理解を深める。後期はヨーロッパの近代社会の形成と食生活との関わりについて考察する。

内 容

第1回 食にかかわる諸問題

第2回 食品偽装問題（1）

第3回 食品偽装問題（2）

第4回 食品監視システム（1）

第5回 食品監視システム（2）

第6回 食の科学化（1）

第7回 食の科学化（2）

第8回 食教育（1）

第9回 食教育（2）

第10回 食事作法（1）

第11回 食事作法（2）

第12回 外食の発達（1）

第13回 外食の発達（2）

第14回 外食の発達（3）

第15回 まとめ・総括

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（10）授業中課題（60）授業中発表等（0）参加度（30）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 ヨーロッパ・アメリカ近代史研究 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 ヨーロッパ・アメリカ近代史研究Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 ヨーロッパ・アメリカ女性史研究 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

19世紀イギリス社会と女性 I

### 授業の目的（獲得目標）

19世紀にヘゲモニー国家として未曾有の繁栄を誇ったとされるイギリスにあって、女性達はどのような生活を送っていたのか。前期においては、教育と結婚生活を中心に概観する。その仮定で、当時のイギリス社会を特徴づけた「産業革命＝工業化」「階級制度」「植民地帝国」「帝国主義と大衆民主主義」といった要素が、女性達の有り様を公然と、また暗黙裏に規定していたことについて理解することをめざす。

### 内 容

- 第1回 19世紀（ヴィクトリア期）の社会構造
- 第2回 二類型の女性と、それぞれの階級にとっての教育の意味
- 第3回 ガヴァネス教育と女学校教育
- 第4回 女子教育改革運動1（背景としてのガヴァネス問題とフェミニズム）
- 第5回 女子教育改革運動2（成果としての中等教育改革から大学教育へ）
- 第6回 労働者階級女子の教育（労働と教育の狭間）
- 第7回 初等公教育制度
- 第8回 共同学習としての相互改良運動と女性（女性協同組合ギルドの成果）
- 第9回 女性にとっての教育まとめと復習（小テスト）
- 第10回 婚姻制度の変遷
- 第11回 労働者階級女性にとっての結婚①（望ましい選択肢にして危険な賭）
- 第12回 労働者階級女性にとっての結婚②（家計責任者としての奮闘）
- 第13回 中流階級女性にとっての結婚①（唯一の選択肢）
- 第14回 中流階級女性にとっての結婚②（家庭の天使の実態）
- 第15回 結婚の意味についてのまとめと復習（小テスト）

### 授業以外での学習方法

19世紀イギリス社会全般に関する文献を幅広く通読すること

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (40%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (20%) 備考 ( )



科目名 ヨーロッパ・アメリカ女性史研究Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

19世紀イギリス社会と女性Ⅱ

### 授業の目的（獲得目標）

19世紀にヘゲモニー国家として未曾有の繁栄を誇ったとされるイギリスにあって、女性達はどのような生活を送っていたのか。後期においては、労働と余暇生活を中心に概観する。その過程で、当時のイギリス社会を特徴づけた「産業革命＝工業化」「階級制度」「植民地帝国」「帝国主義と大衆民主主義」といった要素が、女性達の在り様を公然と、また暗黙裏に規定していたことについて理解することをめざす。

### 内 容

第1回 前工業化期の女性賃金労働の種類と労働構造の特質

第2回 ヴィクトリア期（工業化社会）における女性賃金労働の種類と労働構造の特質1（センサスデータによる静態型分析）

第3回 ヴィクトリア期（工業化社会）における女性賃金労働の種類と労働構造の特質2（センサスデータによる動態型分析）

第4回 婚姻状況による労働形態の差

第5回 労働組合と女性

第6回 女性労働運動と social feminism

第7回 ホワイトブラウス職（教職、事務職）の登場

第8回 中流階級女性の社会進出としての公務職、専門職

第9回 女性労働のまとめと復習（小テスト）

第10回 近代社会の産物としての余暇時間

第11回 中流階級女性特有の余暇活動1（conspicuous leisure）

第12回 中流階級女性特有の余暇活動2（charity, voluntary society）

第13回 労働者階級女性と余暇（労働の傍らの気晴らし、余暇の商業化）

第14回 労働者階級女性の社会活動（余暇活動としての mothers' meeting）

第15回 女性と余暇のまとめと復習（小テスト）

### 授業以外での学習方法

19世紀イギリス社会全般に関する文献を広く通読すること

### 教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（40%）授業中課題（40%）授業中発表等（0%）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                       |      |     |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 科目名   | ヨーロッパ・アメリカ史史料講読 I <M> |      |     |
| クラス   | M                     | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | その他                   | 定員   |     |
| 履修条件  |                       |      |     |
| クラス指定 |                       |      |     |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）               |      |     |

## テーマ

英語文献の精読と内容理解

## 授業の目的（獲得目標）

英語文献史料の正確な翻訳力と、それを史料として用いる力を身につけることを目指す。西洋史研究において必携である英語文献の読解能力を身につけ向上させるために、比較的平易な英語研究書をゼミ生で輪読し、内容についての質疑応答を行う。テキストは、19世紀イギリスで横行し後に社会問題となった児童労働の実態と、その解消のために尽力した人物ならびに運動を概観した Elizabeth Longmate, *Children at Work 1830-1885*, (Then and There Series), U.K., 1

## 内 容

- 第1回 テキストの紹介、担当箇所の決定
- 第2回 背景としての奴隷制貿易反対運動と博愛主義運動の説明と、冒頭数頁の全訳と特記事項の紹介
- 第3回 これ以降学生の翻訳報告に入る 学生報告①と質疑応答
- 第4回 学生報告②と質疑応答
- 第5回 学生報告③と質疑応答
- 第6回 ここまでの内容に関連する事象についての解説（労働者の家庭と子ども）
- 第7回 学生報告④と質疑応答
- 第8回 学生報告⑤と質疑応答
- 第9回 学生報告⑥と質疑応答
- 第10回 ここまでの内容に関する事象（イギリスの農業事情、教育事情）
- 第11回 学生報告⑦と質疑応答
- 第12回 学生報告⑧と質疑応答
- 第13回 学生報告⑨と質疑応答
- 第14回 学生報告⑩と質疑応答
- 第15回 内容把握確認のための総括と、解説

## 授業以外での学習方法

関連文献の収集と精読

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (50%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 ヨーロッパ・アメリカ史史料講読Ⅱ〈M〉

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

西洋史関連文献を読む

授業の目的（獲得目標）

西洋史学のさまざまなテーマに関する専門的学術論文を読解し、西洋史学学界における基本的な論点や問題関心についての理解を深める。

内 容

第1回 専門論文を読む意義

第2回 専門論文内容紹介（古代）（1）

第3回 専門論文内容紹介（古代）（2）

第4回 専門論文内容紹介（古代）（3）

第5回 専門論文内容紹介（中世）（1）

第6回 専門論文内容紹介（中世）（2）

第7回 専門論文内容紹介（中世）（3）

第8回 専門論文内容紹介（近世）（1）

第9回 専門論文内容紹介（近世）（2）

第10回 専門論文内容紹介（近世）（3）

第11回 専門論文内容紹介（近代）（1）

第12回 専門論文内容紹介（近代）（2）

第13回 専門論文内容紹介（近代）（3）

第14回 専門論文内容紹介（現代）（1）

第15回 専門論文内容紹介（現代）（2）

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（60）参加度（40）備考（）

科目名 考古資料研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

東アジアにおける古代大型墳墓実像の再構築のための文献講読

授業の目的（獲得目標）

研究テーマにそくした関連文献の講読を通して、基本となる資料を収集・整備や研究史の整理、そこから課題を抽出し、検討・解釈を行うという力を養う。今回は古代大型墳墓に焦点をあてる。

内 容

- 第1回 東アジアにおける古代大型墳墓の概観
- 第2回 東アジア初期の古代大型墳墓の抽出
- 第3回 秦漢帝陵コンプレックス構造の把握
- 第4回 漢景帝陽陵の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』の講読
- 第5回 漢景帝陽陵の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』の講読
- 第6回 漢景帝陽陵の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』の講読
- 第7回 漢景帝陽陵の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』の講読
- 第8回 漢景帝陽陵の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』の講読
- 第9回 漢景帝陽陵の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』の講読
- 第10回 漢景帝陽陵の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』の講読
- 第11回 漢景帝陽陵の発掘調査内容の整理
- 第12回 漢景帝陽陵の実態復元
- 第13回 漢景帝陽陵墓コンプレックス構造の再構築の試み
- 第14回 秦始皇帝陵墓コンプレックスとの比較・検討
- 第15回 東アジア初期の古代大型墳墓の実像のまとめ

授業以外での学習方法

東アジア初期の古代大型墳墓資料を収集する

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 備考 ( )

---

科目名 考古資料研究Ⅱ <M>

---

クラス M

配当回生 1回生

---

講義期間 その他

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 閉講（開⇒閉）

---

テーマ

課題研究を修士論文にまとめる。

---

授業の目的（獲得目標）

修士論文の作成

---

内 容

第1回 修士論文作成指導

第2回 修士論文作成指導

第3回 修士論文作成指導

第4回 修士論文作成指導

第5回 修士論文作成指導

第6回 修士論文作成指導

第7回 修士論文作成指導

第8回 修士論文作成指導

第9回 修士論文作成指導

第10回 修士論文作成指導

第11回 修士論文作成指導

第12回 修士論文作成指導

第13回 修士論文作成指導

第14回 宗論発表

第15回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（なし）小テスト（）授業中課題（80%）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 古文書・史料学研究 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 古文書・史料学研究Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 美術工芸資料研究 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 美術工芸資料研究Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 修復・史跡整備資料研究 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 修復・史跡整備資料研究Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 東アジア文化財研究 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

授業の目的（獲得目標）

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

内 容

- 第1回 敦煌石窟（莫高窟、榆林窟、西千仏洞）
- 第2回 敦煌石窟（莫高窟、榆林窟、西千仏洞）
- 第3回 敦煌石窟（莫高窟、榆林窟、西千仏洞）
- 第4回 仏教芸術の東漸（炳靈寺石窟）
- 第5回 仏教芸術の東漸（炳靈寺石窟）
- 第6回 麦積山石窟
- 第7回 麦積山石窟
- 第8回 北魏仏教芸術の興起—雲岡石窟
- 第9回 北魏仏教芸術の興起—雲岡石窟
- 第10回 北魏仏教芸術の興起—雲岡石窟
- 第11回 中原漢民族地域における仏教芸術の繁栄—龍門石窟
- 第12回 中原漢民族地域における仏教芸術の繁栄—龍門石窟
- 第13回 中原漢民族地域における仏教芸術の繁栄—龍門石窟
- 第14回 内容総括
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験（100）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 東アジア文化財研究Ⅱ 〈M〉

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 紀知

テーマ

古代祭祀遺跡の研究

授業の目的（獲得目標）

沖の島祭祀遺跡を中心にして、日本の古代祭祀を考える。さらに韓国の古代祭祀遺跡との比較研究も行い、関連性について考える。

内 容

第1回 授業の進め方に関するガイダンス

第2回 日本の古代祭祀について—原始時代

第3回 日本の古代祭祀について—古墳時代

第4回 日本の古代祭祀について—律令時代

第5回 祭祀遺跡研究史

第6回 沖ノ島祭祀遺跡調査史

第7回 沖ノ島祭祀遺跡—岩上祭祀

第8回 沖ノ島祭祀遺跡—岩陰祭祀

第9回 沖ノ島祭祀遺跡—半岩陰半露天祭祀

第10回 沖ノ島祭祀遺跡—露天祭祀

第11回 韓国竹幕洞祭祀遺跡について

第12回 沖ノ島祭祀遺跡と竹幕洞祭祀遺跡

第13回 沖ノ島祭祀遺跡の歴史的意義—①

第14回 沖ノ島祭祀遺跡の歴史的意義—②

第15回 沖ノ島祭祀の終焉 なお本講義では必要に応じて学外（実地）授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（内容の理解と授業への参加）

科目名 特別研究 I (歴財D 1) <Da>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財D 1) <D b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 特別研究 I (歴財D 1) <D c>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 特別研究Ⅲ(歴財D3)〈Da〉

クラス 配当回生 3回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財D3)

クラス D b

配当回生 3回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財D3)〈Dd〉

クラス 配当回生 3回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 日本中世社会文化論特殊演習 <D>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 歴史資料学特殊演習 I (古文書・古記録) <D>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 修士論文（政）

クラス 配当回生 2回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



|       |                                  |      |      |
|-------|----------------------------------|------|------|
| 科目名   | 課題研究 I (リサーチ・プロジェクト) <Ma>        |      |      |
| クラス   | Ma                               | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期                               | 定員   |      |
| 履修条件  |                                  |      |      |
| クラス指定 |                                  |      |      |
| 担当者   | 青木 圭介, 碓井 敏正, 金武 創, 小暮 宣雄, 中谷 武雄 |      |      |

### テーマ

修士論文作成。論文テーマの研究の到達点を確認し、自己研究の位置を確認する。

### 授業の目的（獲得目標）

前期課程 1 回生の課題研究 I と合同で開催する。2 回生は修士論文の作成経過過程について順次報告し、相互に、そして 1 回生とともに議論する。課題研究は、大学院博士前期課程科目ではあるが、後期課程院生（および修了生）も参加して博士論文完成に向けた個人研究の発表の場でもある。前期・後期課程の院生の交流の場であり、研究交流の場でもある。多人数の議論による共同研究が発展するように心がける。今回は文化経済学が文化産業論として熟成してきた側面に焦点を当て、文化産業とその生産物が他の分野から区別される特徴、現代産業のなかで担

### 内 容

- 第 1 回 個人研究発表：その 1
- 第 2 回 個人研究発表：その 2
- 第 3 回 個人研究発表：その 3
- 第 4 回 個人研究発表：その 4
- 第 5 回 個人研究発表：その 5
- 第 6 回 個人研究発表：その 6
- 第 7 回 個人研究発表：その 7
- 第 8 回 個人研究発表：その 8
- 第 9 回 個人研究発表：その 9
- 第 10 回 個人研究発表：その 10
- 第 11 回 個人研究発表：その 11
- 第 12 回 個人研究発表：その 12
- 第 13 回 個人研究発表：その 13
- 第 14 回 個人研究発表：その 14
- 第 15 回 個人研究発表：その 15

### 授業以外での学習方法

修士論文の作成に向けて精進されたい。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 課題研究 I (リサーチ・プロジェクト) <M b>

クラス M b 配当回生 1 回生

講義期間 前期 定員

## 履修条件

## クラス指定

担当者 織田 直文・小森 治夫・竹山 清明・谷口 知司

## テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究（その1）

## 授業の目的（獲得目標）

履修院生各自が建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究テーマを決定し、計画的に調査・研究が進められるようにする。

## 内 容

第1回 建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する調査・研究として、履修院生が各自で調査活動を行い、それらの成果を順次発表し、討論・指導を行う。● 博士前期課程2回生と合同で行う。  
● 隔週の土曜日毎に2コマ分を使い、研究会方式で開催する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 課題研究 I (リサーチ・プロジェクト) <Mc>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 課題研究 I (リサーチ・プロジェクト) <Md>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講 (開⇒閉)

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 課題研究 I (リサーチ・プロジェクト) <Me>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                                  |      |     |
|-------|----------------------------------|------|-----|
| 科目名   | 課題研究Ⅱ(リサーチ・プロジェクト)〈Ma〉           |      |     |
| クラス   | Ma                               | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期                               | 定員   |     |
| 履修条件  |                                  |      |     |
| クラス指定 |                                  |      |     |
| 担当者   | 青木 圭介. 碓井 敏正. 金武 創. 小暮 宣雄. 中谷 武雄 |      |     |

## テーマ

修士論文を完成させる

## 授業の目的（獲得目標）

前期課程1回生の課題研究Ⅱと合同で開催する。2回生は修士論文の作成を重視する。総括と展望として、文化経済学の今後の発展と、従来の経済学の枠組みについて及ぼす影響を考える。課題研究は、大学院博士前期課程科目ではあるが、後期課程院生（および修了生）も参加して博士論文完成に向けた個人研究の発表の場でもある。前期・後期課程の院生の交流の場であり、研究交流の場でもある。多人数の議論による共同研究が発展するように心がける。

## 内 容

- 第1回 個人研究発表：その1
- 第2回 個人研究発表：その2
- 第3回 個人研究発表：その3
- 第4回 個人研究発表：その4
- 第5回 個人研究発表：その5
- 第6回 個人研究発表：その6
- 第7回 個人研究発表：その7
- 第8回 個人研究発表：その8
- 第9回 個人研究発表：その9
- 第10回 個人研究発表：その10
- 第11回 個人研究発表：その11
- 第12回 個人研究発表：その12
- 第13回 個人研究発表：その13
- 第14回 個人研究発表：その14
- 第15回 個人研究発表：その15

## 授業以外での学習方法

修士論文の完成に向けて精進されたい。

## 教科書

## 参考書



---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 課題研究Ⅱ(リサーチ・プロジェクト)〈M b〉

クラス M b 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

## 履修条件

## クラス指定

担当者 織田 直文・小森 治夫・竹山 清明・谷口 知司

## テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究(その4)

## 授業の目的(獲得目標)

履修院生が各自で決定した建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する修士論文研究テーマにそって原稿を執筆し、論文を完成させる。

## 内 容

第1回 履修院生が各自で決定した建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関するテーマについて調査活動を行い、それらの成果をもとに執筆した修士論文原稿を基に順次発表し、討論を行う。●博士前期課程1回生と合同で行う。●隔週の土曜日毎に2コマ分を使い、研究会方式で開催する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 課題研究Ⅱ(リサーチ・プロジェクト)〈M c〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 課題研究Ⅱ(リサーチ・プロジェクト)〈Md〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講(開⇒閉)

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験( ) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度( ) 備考( )

## 2010 Syllabus

科目名 課題研究Ⅱ(リサーチ・プロジェクト) <Me>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的(獲得目標)

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |                              |          |
|-------|------------------------------|----------|
| 科目名   | 課題研究Ⅲ（リサーチ・プロジェクト）〈Ma〉       |          |
| クラス   | Ma                           | 配当回生 2回生 |
| 講義期間  | 前期                           | 定員       |
| 履修条件  |                              |          |
| クラス指定 |                              |          |
| 担当者   | 青木 圭介・碓井 敏正・金武 創・小暮 宣雄・中谷 武雄 |          |

### テーマ

修士論文作成。論文テーマの研究の到達点を確認し、自己研究の位置を確認する。

### 授業の目的（獲得目標）

前期課程1回生の課題研究Iと合同で開催する。2回生は修士論文の作成経過過程について順次報告し、相互に、そして1回生とともに議論する。課題研究は、大学院博士前期課程科目ではあるが、後期課程院生（および修了生）も参加して博士論文完成に向けた個人研究の発表の場でもある。前期・後期課程の院生の交流の場であり、研究交流の場でもある。多人数の議論による共同研究が発展するように心がける。今回は文化経済学が文化産業論として熟成してきた側面に焦点を当て、文化産業とその生産物が他の分野から区別される特徴、現代産業のなかで担

### 内 容

- 第1回 個人研究発表：その1
- 第2回 個人研究発表：その2
- 第3回 個人研究発表：その3
- 第4回 個人研究発表：その4
- 第5回 個人研究発表：その5
- 第6回 個人研究発表：その6
- 第7回 個人研究発表：その7
- 第8回 個人研究発表：その8
- 第9回 個人研究発表：その9
- 第10回 個人研究発表：その10
- 第11回 個人研究発表：その11
- 第12回 個人研究発表：その12
- 第13回 個人研究発表：その13
- 第14回 個人研究発表：その14
- 第15回 個人研究発表：その15

### 授業以外での学習方法

修士論文の作成に向けて精進されたい。

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 課題研究Ⅲ (リサーチ・プロジェクト) <M b>

クラス M b 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文・小森 治夫・竹山 清明・谷口 知司

テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究(その1)

授業の目的(獲得目標)

履修院生各自が建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究テーマを決定し、計画的に調査・研究が進められるようにする。

内 容

第1回 建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する調査・研究として、履修院生が各自で調査活動を行い、それらの成果を順次発表し、討論・指導を行う。● 博士前期課程2回生と合同で行う。

● 隔週の土曜日毎に2コマ分を使い、研究会方式で開催する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 課題研究Ⅲ (リサーチ・プロジェクト)

---

クラス M d

配当回生

---

講義期間

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者

---

テーマ

---

授業の目的 (獲得目標)

---

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |                              |      |     |
|-------|------------------------------|------|-----|
| 科目名   | 課題研究Ⅳ（リサーチ・プロジェクト）〈Ma〉       |      |     |
| クラス   | Ma                           | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 後期                           | 定員   |     |
| 履修条件  |                              |      |     |
| クラス指定 |                              |      |     |
| 担当者   | 青木 圭介・碓井 敏正・金武 創・小暮 宣雄・中谷 武雄 |      |     |

## テーマ

修士論文を完成させる

## 授業の目的（獲得目標）

前期課程1回生の課題研究Ⅱと合同で開催する。2回生は修士論文の作成を重視する。総括と展望として、文化経済学の今後の発展と、従来の経済学の枠組みについて及ぼす影響を考える。課題研究は、大学院博士前期課程科目ではあるが、後期課程院生（および修了生）も参加して博士論文完成に向けた個人研究の発表の場でもある。前期・後期課程の院生の交流の場であり、研究交流の場でもある。多人数の議論による共同研究が発展するように心がける。

## 内 容

- 第1回 個人研究発表：その1
- 第2回 個人研究発表：その2
- 第3回 個人研究発表：その3
- 第4回 個人研究発表：その4
- 第5回 個人研究発表：その5
- 第6回 個人研究発表：その6
- 第7回 個人研究発表：その7
- 第8回 個人研究発表：その8
- 第9回 個人研究発表：その9
- 第10回 個人研究発表：その10
- 第11回 個人研究発表：その11
- 第12回 個人研究発表：その12
- 第13回 個人研究発表：その13
- 第14回 個人研究発表：その14
- 第15回 個人研究発表：その15

## 授業以外での学習方法

修士論文の完成に向けて精進されたい。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 課題研究Ⅳ（リサーチ・プロジェクト）〈M b〉

クラス M b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

## 履修条件

## クラス指定

担当者 織田 直文・小森 治夫・竹山 清明・谷口 知司

## テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究（その4）

## 授業の目的（獲得目標）

履修院生が各自で決定した建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する修士論文研究テーマにそって原稿を執筆し、論文を完成させる。

## 内 容

第1回 履修院生が各自で決定した建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関するテーマについて調査活動を行い、それらの成果をもとに執筆した修士論文原稿を基に順次発表し、討論を行う。● 博士前期課程1回生と合同で行う。● 隔週の土曜日毎に2コマ分を使い、研究会方式で開催する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 課題研究Ⅳ (リサーチ・プロジェクト)

クラス M d

配当回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 文化政策・文化産業 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

文化経済学入門

### 授業の目的（獲得目標）

文化政策学入門として、その基礎・基盤を形成する文化経済学を理解したうえで、そのカバレッジを概観し、内容を踏まえて、基本構造と特徴を掴む。経済学および公共政策（学）における位置づけとその独自性を理解する。デイヴィッド・スロスビー『文化経済学入門：創造性の探究から都市再生まで』を教科書として採用し、原則として毎回1章ごとに参加者が内容を要約・報告し、議論する。

### 内 容

第1回 授業の概要と導入 教科書の説明 スロスビー 『経済学と文化』 文化経済学

第2回 1：序章 文化経済学 系譜と主要業績

第3回 2：価値の理論 文化的価値 経済的価値 測定・評価

第4回 3：文化資本と持続可能性 文化資本 持続可能性 持続可能な発展・開発

第5回 4：経済発展と文化 教科書 開発と文化 人間中心モデル 文化多様性

第6回 講義：ユネスコの文化政策 4：経済発展と文化（補足） 発展途上国から先進国へ 新しい経済学・経済政策・経済開発への展望

第7回 5：文化遺産の経済側面 文化遺産 文化遺産の価値の測定 不使用価値・外部性

第8回 6：創造性の経済学 創造性の形成プロセス 芸術家の労働供給モデル フルタイム・アーティスト

第9回 7：文化産業 教科書 文化産業の3層同心円モデル 複製・伝達手段（メディア）

第10回 講義：創造産業／創造都市／創造階級 7：文化産業（補足） ソフト・パワー産業 創造性指数 創造都市効果 都市ブランド

第11回 8：文化政策 教科書 文化産業政策から文化政策へ 文化産業振興から経済成長へ 文化政策の（現代的）体系

第12回 講義：日本の文化政策 8：文化政策（補足） 文化庁 文化政策推進会議 文化行政・文化政策 文化財から創造芸術支援へ

第13回 講義：文化芸術振興基本法 8：文化政策（補足） 議員立法 基本方針（手法） 文化権

第14回 9：終章 文化経済学 文化政策学 政策評価

第15回 まとめと感想

### 授業以外での学習方法

経済理論や経済思想関係の科目、および経済政策・公共政策、政策評価関係の科目の知識があることが望ましい。教科書の該当箇所を予め熟読しておく。参考書の関連箇所に目を通す。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（25）授業中発表等（50）参加度（25）備考（）

科目名 文化政策・文化産業Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中谷 武雄

テーマ

文化経済学の展開

### 授業の目的（獲得目標）

文化経済学の展開を踏まえて、文化政策（学）の到達点を確認する。文化経済学・文化政策学の固有概念である固有価値論を理解したうえで、固有価値・地域資源の保存・活用を考える。池上惇『文化と固有価値の経済学』を教科書として採用し、原則として毎回、参加者が内容を要約して報告し、議論する。

### 内 容

- 第1回 講義：文化経済学の源流 ラスキン 固有価値 （主流派）経済学  
 第2回 序 固有価値 人生の質と幸福  
 第3回 序章：多様性と固有性の社会的評価 創造性 厚生経済学（セン）  
 第4回 1：固有価値論の発生と展開 人間的価値（個性） 芸術的価値 固有価値  
 第5回 2：文化資本の社会的蓄積 文化資本 貨幣資本  
 第6回 3：文化的な財と学習的消費の位置 混合財 アート財  
 第7回 4：文化産業の発展と展開 芸術の産業化 3層構造 文化の社会的循環  
 第8回 講義：高度情報化通信ネットワーク社会における都市戦略 創造都市 創造産業 創造階級  
 第9回 5：友愛・芸術の共同体と知的所有権 知的所有権 著作権 共同財・共有財  
 第10回 6：著作物の経済学 再販市場 二重の市場 日本語文化  
 第11回 7：現代の倫理学と経済学 ラスキン セン ロールズ  
 第12回 8：商品開発から人間開発へ 自立支援 持続可能な社会 文化資本  
 第13回 講義：生活の芸術化 アダム・スミス アーツ・アンド・ライフ 芸術と生活  
 第14回 終章：固有性と対話の経済学 文化価値 文化遺産 文化経済学  
 第15回 まとめと感想

### 授業以外での学習方法

生活と労働から、芸術と文化を享受する機会を作るように努めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (25) 授業中発表等 (50) 参加度 (25) 備考 ( )

科目名 文化産業政策 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

文化遺産産業および世界遺産研究

### 授業の目的（獲得目標）

人類にとって価値ある文化遺産および自然遺産の多くが危機に瀕している。この顕著な普遍的価値を次世代に継承するためにはどうしたらいいのだろうか。このような問題意識から 1972 年にユネスコで採択された世界遺産条約は、優れた文化遺産および自然遺産を認定し、保護、保全、公開するとともに、将来世代へ伝えることを目的としている。この授業は、様々な世界遺産を VTR 等を通して紹介しながら、ローカルでかつグローバルな公共政策の対象としての世界遺産について「文化遺産産業」をキーワードに受講生とともに考えていく。ビジネス分

### 内 容

- 第 1 回 世界遺産とは何か 世界遺産条約の歴史、運営と手続き、概念の変遷
- 第 2 回 自然保護政策の基礎
- 第 3 回 文化遺産政策の基礎
- 第 4 回 文化遺産と防災 もう一つの遺産保護策
- 第 5 回 世界遺産の保護と活用①：不動産文化遺産
- 第 6 回 世界遺産の保護と活用②：文化的景観と都市遺産
- 第 7 回 世界遺産の保護と活用③：危機にさらされる文化遺産
- 第 8 回 世界遺産の保護と活用④：無形世界文化遺産
- 第 9 回 世界遺産の保護と活用⑤：文化遺産と国際協力
- 第 10 回 中間まとめ
- 第 11 回 日本の世界遺産① 世界遺産登録運動と負の遺産（原爆ドーム）
- 第 12 回 日本の世界遺産② 自然遺産の課題（屋久島、白神山地、知床）
- 第 13 回 日本の世界遺産③ 中山間地域の課題（白川郷、熊野古道、石見銀山）
- 第 14 回 日本の世界遺産④ 観光による普遍的価値の伝播と喪失
- 第 15 回 最終まとめ

### 授業以外での学習方法

文献報告があります

### 教科書

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 備考 ( )

科目名 文化産業政策 I <M b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化産業政策Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

観光文化と地域振興に関する基礎的理解／文化観光論

### 授業の目的（獲得目標）

多くの人がとは非日常体験としての観光に対する強い関心を持っている。特に文化が観光に与える影響、観光が文化に与える影響、どちらの視点も重要といえる。この授業は、日本特有の文化観光のあり方と観光文化の現在について受講生とともに考えていく。文化経済学をはじめとして、民俗学、資源人類学、文化社会学などの最新研究を織り込みながら、毎回受講生による文献報告と意見表明（対案を出す、問題発見し提案する）という授業にしたい。豊富な事例の理解から抽象的な概念に接近するために、授業の体系を維持しつつ、わかりやすさを工

### 内 容

- 第1回 イン트로ダクション：観光の基本構造、観光と文化の関係
- 第2回 京都観光① メディアが創る観光経験：都市イメージと観光情報、多種多様なガイドブック
- 第3回 京都観光② 儀礼と真正性：宗教／伝統行事と観光 梅棹忠夫の京都観光論
- 第4回 京都観光③ 観光とパートナーシップ：行政、経済界、宗教団体の連携による観光文化の創造
- 第5回 京都観光④ 新たな伝統を創る：観光のまなざしの大衆化と創られる歴史的景観
- 第6回 京都観光⑤ 文化政策と観光：住民参加型まちづくりの問題点
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 イベントと観光① まちづくりイベントと広域連携
- 第9回 イベントと観光② スポーツイベントと都市間交流
- 第10回 イベントと観光③ アートイベントと文化施設、文化観光
- 第11回 地域文化と温泉観光① マスツーリズムへの対抗原理
- 第12回 地域文化と温泉観光② 観光現象による文化の変容と新たな伝統文化の創出
- 第13回 地域文化と温泉観光③ 海外温泉観光における文化交流（国際会議、医療健康、社交場）
- 第14回 特別編 国際観光
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書



---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 備考 ( )

科目名 文化産業政策Ⅱ <M b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化経済・財政 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化経済・財政 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 文化経済・財政 I <M b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化経済・財政Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化経済・財政Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化経済・財政Ⅱ〈M b〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 まちづくり政策 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

「臨地まちづくり学」誕生の背景と特性を知る

授業の目的（獲得目標）

「まちづくり」や「政策」の概念理解とともに、なぜ「臨地」にこだわるのか。またそうした概念や手法が生まれてきた背景、歴史などを理解する。その上で「臨地まちづくり」の特性や有効性、現場における展開例などを学ぶ。〔内容〕講義形式で行うが一部で学外授業・ディスカッションも入れる。

内 容

- 第1回 研究すること、大学院で学ぶことの意義
- 第2回 まちづくり・臨地まちづくりとは何か
- 第3回 まちづくりへの様々な視点と手法
- 第4回 臨地まちづくりのための技法
- 第5回 近現代の地域開発史とまちづくり
- 第6回 国民の欲求とまちづくりの関係史
- 第7回 特論としての地域開発例「琵琶湖疏水」①
- 第8回 特論としての地域開発例「琵琶湖疏水」②
- 第9回 まちづくりの特性
- 第10回 まちづくりの有効性
- 第11回 協働型まちづくりを進めるために
- 第12回 参加のまちづくりのゆくえ
- 第13回 産公民学際連携の提案
- 第14回 まちづくりの実践例から
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

各地のまちづくりの動きを日常的にチェックすること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (40%) 備考 ( )

---

科目名 まちづくり政策Ⅱ <M>

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 織田 直文

---

テーマ

臨地まちづくりの到達点と展望

---

### 授業の目的（獲得目標）

現代的な地域課題を「臨地まちづくり」によって解決しえることを、様々な実践例を通して実証するとともに、「臨地まちづくり」の手法を学ぶ。さらに、まちづくりにおいては主体が重要であり、それらの連携・協働やまちづくりを進めていくうえで「地域づくりコーディネーター」の存在が重要であることなども学ぶ。〔内容〕講義形式で行う。

---

### 内 容

- 第1回 テーマ性をもったまちづくり
  - 第2回 歴史を活かしたまちづくり
  - 第3回 中心市街地活性化論①
  - 第4回 まちかど文化を活かしたまちづくり
  - 第5回 中心市街地活性化論②
  - 第6回 商店街振興問題と解決方策
  - 第7回 地域資源を活かした観光振興
  - 第8回 地域イベント論
  - 第9回 環境にこだわったまちづくり
  - 第10回 景観問題と計画
  - 第11回 文化政策ビジョンと実践
  - 第12回 文化施設のあり方論
  - 第13回 まちづくりの主体と相互の連携・協働
  - 第14回 コミュニティ・ビジネス
  - 第15回 地域づくりコーディネーター論
- 

### 授業以外での学習方法

各地のまちづくりの動きを日常的にチェックすること。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (40%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 まちづくり政策Ⅱ <Mb>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 観光文化振興策 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |              |      |     |
|-------|--------------|------|-----|
| 科目名   | 観光文化振興策Ⅱ <M> |      |     |
| クラス   | M            | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | その他          | 定員   |     |
| 履修条件  |              |      |     |
| クラス指定 |              |      |     |
| 担当者   | 谷口 知司        |      |     |

### テーマ

観光にかかわるさまざまな情報やメディアについて学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報やメディアがかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

### 内 容

- 第1回 観光情報とは
- 第2回 観光情報とメディア
- 第3回 観光ビジネスとメディア活用について①
- 第4回 観光ビジネスとメディア活用について②
- 第5回 観光ビジネスとメディア活用について③
- 第6回 いろいろな観光情報
- 第7回 メディア観光情報誌を分析する①
- 第8回 メディア観光情報誌を分析する②
- 第9回 メディア観光情報誌を分析する③
- 第10回 メディア観光情報誌を分析する④
- 第11回 観光関連のWebサイトを分析する①
- 第12回 観光関連のWebサイトを分析する②
- 第13回 観光関連のWebサイトを分析する③
- 第14回 観光関連のWebサイトを分析する④
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（20）小テスト（0）授業中課題（30）授業中発表等（30）参加度（20）備考（）

科目名 都市建築文化 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 都市建築文化 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹山 清明

テーマ

都市の建築文化をになう戸建て住宅の具体的な計画・デザインのあり方の理論を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

木造戸建て住宅の実施設計の理論を、高い水準で研究・学習する

内 容

第1回 基本計画の理論 1

第2回 基本計画の理論 2

第3回 基本計画の理論 3

第4回 外部空間デザインの理論 1

第5回 外部空間デザインの理論 2

第6回 外部空間デザインの理論 3

第7回 内部空間デザインの理論 1

第8回 内部空間デザインの理論 2

第9回 内部空間デザインの理論 3

第10回 矩計の理論 1

第11回 矩計の理論 2

第12回 矩計の理論 3

第13回 詳細の理論 1

第14回 詳細の理論 2

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

歴史的な建築・街並みやモダニズム建築とその街並みの事例について、常日頃から問題意識をもって眺め、理論などを様々な文献から学んでおく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 都市建築文化Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 都市建築文化Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹山 清明

テーマ

都市の建築文化をになう集合住宅の具体的な計画・デザインのあり方の理論を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

R C造集合住宅の実施設計の理論を、高い水準で研究・学習する

内 容

第1回 基本計画の理論1

第2回 基本計画の理論2

第3回 基本計画の理論3

第4回 外部空間デザインの理論1

第5回 外部空間デザインの理論2

第6回 外部空間デザインの理論3

第7回 内部空間デザインの理論1

第8回 内部空間デザインの理論2

第9回 内部空間デザインの理論3

第10回 矩計の理論1

第11回 矩計の理論2

第12回 矩計の理論3

第13回 詳細の理論1

第14回 詳細の理論2

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

住宅問題・住宅生産・景観問題など、住宅・まちづくりに関する様々な問題に常日頃から興味を持ち、マスコミ報道や文献に目を通しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 建築設計 I <M>

クラス M 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 建築設計Ⅱ <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 地域経済・地域開発 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

地域経済、地域開発についての総合的研究

授業の目的（獲得目標）

水資源開発、とくにダム開発の問題を総合的に研究する

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ハッ場ダム（1）
- 第3回 ハッ場ダム（2）
- 第4回 川辺川ダム
- 第5回 見直されるダム建設
- 第6回 長良川河口堰（1）
- 第7回 長良川河口堰（2）、矢作川
- 第8回 ダム建設と地すべり
- 第9回 ダム建設と水没補償問題
- 第10回 徳山ダム、アメリカのダム政策の大転換
- 第11回 吉野川河口堰
- 第12回 細川内ダム、「脱ダム」宣言
- 第13回 出し平ダム、アメリカのダム撤去
- 第14回 環境の価値とCVM
- 第15回 自然の再生

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む（とくに経済面、政治面、社会面など） 環境問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

科目名 地域経済・地域開発Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

地域経済、地域開発についての総合的研究

授業の目的（獲得目標）

水資源開発、とくにダム開発を中心とする公共事業の改革問題について研究する

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本型地域開発
- 第3回 電力事業と水資源開発（1）
- 第4回 電力事業と水資源開発（2）
- 第5回 ダムによる水資源開発の問題点
- 第6回 水資源開発と地方自治（1）
- 第7回 水資源開発と地方自治（2）
- 第8回 公共事業のシステムと改革
- 第9回 長野県「財政改革プログラム」と公共事業
- 第10回 入札制度改革
- 第11回 公共事業評価制度
- 第12回 建設産業構造改革
- 第13回 公共事業補助金における県一市町村関係
- 第14回 公共事業と住民参加
- 第15回 公共事業改革の課題と展望

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む（とくに経済面、政治面、社会面など） 環境問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 文化開発・文化理論 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 文化開発・文化理論Ⅱ 〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 社会文化 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 社会文化Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 アートマネジメント I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

文化政策におけるアーツマネジメントの特質と事例

授業の目的（獲得目標）

アーツマネジメントの基本理論を学ぶ。関連する文化政策（行政、メセナ）、まちつかいなどの関係を中心とした基礎知識を得る。アーツマネジメント事例を体験的に学び言語化する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション —スケジュールやフィールドワークの心がけ
- 第2回 文化政策とはどのようなものか
- 第3回 アーツマネジメントの定義と分類
- 第4回 アーツマネジメントとまちつかい（まちづくり）、地域公共政策
- 第5回 東部文化会館の見学
- 第6回 京都市、京都府の文化施設について
- 第7回 「子どもの文化フォーラム」に関わってマネジメントを体験する
- 第8回 子どものワークショップの企画と実際
- 第9回 京都文化ベンチャーコンペティションとはなにか
- 第10回 京都府の文化政策の特質と課題
- 第11回 栗東市さきががコミュニティシアター（地域交通劇場）になるために
- 第12回 めくるめく紙芝居プロジェクトの概要
- 第13回 めくるめく紙芝居ワークショップの参加
- 第14回 演劇ダンス音楽 —実演芸術の魅力とアウトリーチ
- 第15回 まとめの対話

授業以外での学習方法

基本文献を提示するので、自宅で学習すること。授業外で体験したり鑑賞するべきアーツ企画を紹介するので参加すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 アートマネジメントⅡ <M>

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 小暮 宣雄

---

テーマ

アーツ NPO とアーツプレースの関係を探求する

---

**授業の目的（獲得目標）**

アーツマネジメントにおけるアーツプレース（劇場、美術館など）の特性を知る アーツプレースにおける企画書づくりができるようになる アーツ NPO の特質を実際、その課題を展望できるようになる

---

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション —スケジュールやフィールドワークの調整
  - 第2回 アーツプレースとアーツカンパニー、アーツ NPO の関係論
  - 第3回 アウトリーチとワークショップ
  - 第4回 劇場とホール、公共とコミュニティと企業との関係
  - 第5回 演劇環境とは何か
  - 第6回 ダンスと学校、福祉（障害者、高齢者）との関係
  - 第7回 アウトサイダーアート論
  - 第8回 アウトサイダーライブ論
  - 第9回 美術館と画廊との関係
  - 第10回 アーツプロジェクトの事例的考察
  - 第11回 劇場技術と実演芸術企画・制作
  - 第12回 コミュニティとまちつかいとアーツ
  - 第13回 アーツの記録と記憶
  - 第14回 アーツ鑑賞と批評、その言語化の課題
  - 第15回 まとめの対話
- 

**授業以外での学習方法**

基本文献を提示するので、自宅で学習すること。授業外で体験したり鑑賞すべきアーツ企画を紹介するので参加すること。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 現代マーケティング I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 現代マーケティング I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 現代マーケティングⅡ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 仲田 正機

テーマ

現代の会社および非営利組織におけるガバナンス改革とユーザー指向的な経営戦略の展開

授業の目的（獲得目標）

現代の会社および非営利組織におけるガバナンス改革とユーザー指向的な経営戦略の展開について理解を深める

内 容

- 第1回 コーポレート・ガバナンスと経営戦略の基本問題
- 第2回 コーポレート・ガバナンスの基底
- 第3回 比較コーポレート・ガバナンスのパースペクティブ
- 第4回 比較制度分析とエージェンシー問題
- 第5回 英国におけるコーポレート・ガバナンスの規制
- 第6回 英国におけるコーポレート・ガバナンスの変貌
- 第7回 日本のコーポレート・ガバナンスの変容
- 第8回 日本企業のガバナンス改革と経営者インセンティブ問題
- 第9回 中国におけるコーポレート・ガバナンスの展開
- 第10回 中国の株式会社化された国有企業のガバナンス改革と経営者インセンティブ問題
- 第11回 現代における経営戦略の基本方向
- 第12回 現代経営戦略の市場指向・ユーザー指向的な性格
- 第13回 資源ベース理論の展開
- 第14回 ユーザー指向的な発展方向
- 第15回 残された論点と今後の研究課題

授業以外での学習方法

各自の身の回り（職場や生活場所）における会社、行政機関、諸団体の活動のなかで、このテーマに関する題材を探して事例研究の素材とする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 (授業中のディスカッションへの参加を重視する)

## 2010 Syllabus

科目名 現代マーケティングⅡ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 企業福祉文化 I <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 企業福祉文化 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 企業福祉文化Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者 m i t e i

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 企業福祉文化Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 文化行政 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 上原 恵美

テーマ

日本の国および自治体の行政の歴史の変遷を把握する

授業の目的（獲得目標）

社会の変化にともなって行政需要、行政課題が変化してきたことを把握し、文化行政が政策課題になってきた必然を確認する

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 社会の変化の中で政策が変遷をしてきた過程を教科書により確認する。教科書の各章を受講生が分担して発表する。教科書第1章 政治・政策と市民

第3回 教科書第2章 都市型社会の政策

第4回 教科書第3章 近代化と政策の歴史

第5回 教科書第4章 分権化・国際化・文化化

第6回 教科書第5章 日本の政策条件

第7回 教科書第6章 政策発想の再編

第8回 教科書第13章 政策開発と管理・行政

第9回 教科書第17章 自治体レベルの政策

第10回 教科書第18章 国レベルの政策

第11回 教科書第19章 国際機構レベルの政策

第12回 教科書第20章 政治制御と市民文化

第13回 教科書通読ののち「1, 近代化と政策の歴史」について再考する

第14回 「2, 自治体、国、国際機構の政策」「3, 市民文化と政治」について再考する

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文化政策、政策決定などについて新聞記事などにより現代的課題を知り、問題意識を醸成すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト ( ) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 ( )

---

科目名 文化行政Ⅱ〈M〉

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 上原 恵美

---

テーマ

現代における文化行政の課題

---

### 授業の目的（獲得目標）

文化行政の歴史を振り返るとともに、現代における文化行政の課題を把握し、今後のあり方を探る。また、近年盛んに取り上げられる「創造都市論」について関連を見る。

---

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 明治期以降戦前の文化行政の歴史
  - 第3回 戦後の文化行政の歴史（1）
  - 第4回 戦後の文化行政の歴史（2）
  - 第5回 文化施設整備の歴史（図書館）
  - 第6回 文化施設整備の歴史（美術館・博物館）
  - 第7回 文化施設整備の歴史（劇場・ホール）
  - 第8回 文化芸術振興基本法について
  - 第9回 国立文化施設の独立行政法人化について
  - 第10回 自治体の文化施設への指定管理者制度の導入について
  - 第11回 創造都市論（1）
  - 第12回 創造都市論（2）
  - 第13回 芸術と地域振興
  - 第14回 芸術と教育
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

新聞報道などで現代の文化政策の課題について把握すること

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0）小テスト（）授業中課題（40％）授業中発表等（30％）参加度（30％）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 大学教育行政 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 大学教育行政Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 教育と人権 I <M>

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 碓井 敏正

---

テーマ

人権の視点から教育の原理と現実を考える

---

#### 授業の目的（獲得目標）

教育と人権のかかわりを原理的側面と現実的側面の両面から考察することにする。なお受講者との関係で、院生の発表と討論を重視する予定である。以下の授業予定はあくまでも予定であり、参加者の問題意識にあわせて、柔軟にテーマを変更することがあることを付け加えておく。テーマについての理解を深めると同時に、プレゼンテーション応力を高めることも、この授業のねらいである。

---

#### 内 容

- 第1回 教育と人権（日本国憲法）
  - 第2回 教育と人権（教育基本法）
  - 第3回 教育権の歴史（1）
  - 第4回 同（2）
  - 第5回 同（3）
  - 第6回 格差・貧困と教育の現状（1）
  - 第7回 同（2）
  - 第8回 同（3）
  - 第9回 日本の高等教育の現状
  - 第10回 世界の高等教育の現状
  - 第11回 報告（1）
  - 第12回 報告（2）
  - 第13回 報告（3）
  - 第14回 報告（4）
  - 第15回 まとめ
- 

#### 授業以外での学習方法

常に教育に関わる時事的なことがらに気をつけておくこと。また関連書籍などに目を通しておくこと。

---

#### 教科書

#### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（）

---

科目名 教育と人権Ⅱ <M>

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 碓井 敏正

---

テーマ

人権の視点から教育の原理と現実を考える。

---

**授業の目的（獲得目標）**

授業では、教育権の現状を理解すると同時に、世界各国の教育制度とその現実を学び、あわせて今後のあるべき教育について考えることとする。なお受講者の関係で院生の発表を中心に運営していく予定であるので、問題意識を明確にしておくことが望ましい。

---

**内 容**

第1回 教育と国際条約

第2回 世界の教育制度（1）

第3回 同（2）

第4回 同（3）

第5回 教育制度の多様性

第6回 教育と評価

第7回 道德教育の問題

第8回 教師と学校

第9回 教師と行政

第10回 報告（1）

第11回 報告（2）

第12回 報告（3）

第13回 報告（4）

第14回 報告（5）

第15回 まとめ

---

**授業以外での学習方法**

教育に関する時事的問題に常に関心を払うこと。また関連書籍にも目を通しておくこと。

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**



試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（60%）参加度（40%）備考（

## 2010 Syllabus

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 文化事情Ⅱ <M> |      |     |
| クラス   | M         | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期        | 定員   |     |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 |           |      |     |
| 担当者   | 杉山 泰      |      |     |

## テーマ

「手紙」は「事実=Fact」を伝えているものなのか — D・H・ロレンスの5700通の手紙は時代を写しているのか また、手紙を運んだ郵便制度の確立と特派員が活躍しだす新聞の果たした役割はどう変わっていくのか。フィクションである「小説」は、では、全く「事実」を伝えていないのだろうか。「歴史的事実」とは何であるのだろうか。

## 授業の目的（獲得目標）

夏目漱石は1900年にイギリスに留学し、数多くの「日記」「手紙」を書き残し、また、作品を書いている。滞英中に「ヴィクトリア女王の急逝」だけでなく、「日英同盟の締結」という日英交流が友好に続いていた最中にあった。では、漱石の「手紙」や「日記」はそうした日英の蜜月関係を伝えていたのだろうか。一体、「手紙」は当時の事実を伝えるものなのだろうか。— 見事を書いているように見える、ヴィクトリア女王の生涯に渡って書かれた日記、ニコライ二世が銃殺される3日前までの「日記」、さらには1901年、イギリスから日本の島津家

## 内 容

- 第1回 「事実」を文字で映し出せるのだろうか？ / 村上春樹『1Q84』のFactとfeelling / ルポルタージュとフィクションとの間
- 第2回 渡邊二郎『芸術の哲学』 / 芸術における虚構と真実 / アポロ的明晰な知性とディオニュソス的暗闇の知恵 / デイオニュソス的な真実とは何か
- 第3回 漱石が見たイギリスヴィクトリア時代末期 / 漱石の1901年の「日記」はどんな真実を語っているのか / ヴィクトリア時代とはどんな時代であったのか
- 第4回 D・H・ロレンスの最初の1901年9月の「手紙」は何を語っているのか / 矯正装着器具製造販売のJ・H・ヘイウッド商会への求人応募の手紙 = ①ボーア戦争での負傷者の増加 ②戦争反対を訴え続けた『ガーディアン』紙とロレンス ③キリスト教リード牧師の推薦状
- 第5回 夏目金之助と1901年のロンドン / ヴィクトリア女王の急逝 = J・M・ケインズの父への手紙と漱石の日記 / 手紙も日記も必ずしも事実を伝えてはいない
- 第6回 ヴィクトリア時代後期とはどんな時代であったか / ダーウィンの進化論（1859年）とアメリカの女子大の創設（1860年） / ナイティンゲールの『看護ノート』（1859年）とスマイルズ『自助論』（1859年）と「適者生存」の思想
- 第7回 手紙は真実を語るものなのか？ / 明治六年政変（西郷隆盛の手紙） / 岩倉使節団と明治政府 / 板垣退助への手紙 = 征韓論を論じていたのか / 手紙は受け取る相手次第で意味が変わる
- 第8回 幕末維新の日本とイギリス / 番所調所の国際情報収集能力と開国論 / イギリスエルギン卿使節団の来航、オリファント初来日 / アーネスト・サトウ 19歳で公使館付け通訳生として来日（1862年）、箱館領事館補佐官券医師ウィリアム・ウィリス来日 / 生麦事件
- 第9回 生麦事件から薩英戦争 / アーネスト・サトウと島津斉彬 = イギリスと薩摩下級武士との深い関係

第 10 回 ミス・ハウードの来日を後押ししたサー・エドワード・アーノルド＝D・H・ロレンスが初めて「涅槃」という世界をエドワード・アーノルドの『アジアの光』から学んでいた / ミス・ハウードが見た、京都の琵琶湖疎水と発電所

第 11 回 世紀末のイギリス (Arts & Crafts 運動) / ウィリアム・モリスと Arts & Crafts 運動 (1859 年の「レッド・ハウス」建設) / 古建築保護協会 (1877 年) とマッキントッシュのデザインと建築＝ジョサイア・コンドル工部大学校造家科に 25 歳で赴任 (1877 年)

第 12 回 万博とデザイン / 第 4 回パリ万博 (1889 年) エッフェル塔建設とエロティシズムとアール・ヌーヴォー / 第 5 回パリ万博 (1900 年) と川上定奴のエロティシズム / 第 2 回オリンピック大会＝万博のアトラクション＝金銀銅メダル・女性の参加者 12 名

第 13 回 世紀末芸術＝植物的装飾＝日本のジャポニスム / 日本の「絵巻物」の影響＝現代のアニメ / 古伊万里の影響とイギリス陶器のジャポニスム

第 14 回 なぜ、日本はロシアと戦ったのか？ 最後のロシア皇帝ニコライ二世の「日記」 / 大津事件と世紀末の日本 / 日本海軍と日露戦争 / 日露戦争を演出した男モリソン / 『タイムズ』紙と日露戦争

第 15 回 日本海軍と日露戦争 / 日露戦争を演出した男モリソン / 『タイムズ』紙と日露戦争 / イギリス外務省の思惑とアメリカユダヤ資本の行方 / 日英の蜜月時代を生み出した「手紙」外交時代から、現在の「ツイッター」時代は何が変わるのだろうか？

---

### 授業以外での学習方法

とにかく、日英交流を映し出した映画を見たり小説を読んでもらいたい。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (60% (レポート)) 小テスト ( ) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 ボランティア・非営利組織 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 ボランティア・非営利組織Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 起業企画〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

会計とマーケティングの視点から考察するベンチャー・ビジネス

授業の目的（獲得目標）

ベンチャー・ビジネスの現代的意義とその役割の理解

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ベンチャー・ビジネスの意義と本質

第3回 ベンチャー・キャピタルの機能

第4回 ベンチャー・ビジネスと会計（1）

第5回 ベンチャー・ビジネスと会計（2）

第6回 ベンチャー・ビジネスと会計（3）

第7回 ベンチャー・ビジネスと会計（4）

第8回 ベンチャー・ビジネスとマーケティング（1）

第9回 ベンチャー・ビジネスとマーケティング（2）

第10回 ベンチャー・ビジネスとマーケティング（3）

第11回 ベンチャー・ビジネスとマーケティング（4）

第12回 ソーシャル・ベンチャーの考え方（1）

第13回 ソーシャル・ベンチャーの考え方（2）

第14回 ベンチャー・ビジネスと文化との関わり

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

経済系新聞・雑誌等を積極的に読んでもらいたい。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（20）授業中発表等（30）参加度（50）備考（）

科目名 比較文化社会学 I <M>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦

テーマ

文化現象の比較文化社会学分析——理論篇——

### 授業の目的（獲得目標）

文化現象の諸形態を空間的（構造的）比較および時間的（歴史的）比較の視点から理論的に把握する。授業の内容概要：グローバル化とポストモダンの交錯する現代の状況を背景として、文化の構造および変容を社会学的見地から理論的に考察する。この場合、文化をシンボル＝記号のシステムとして、社会を行為のシステムとして捉え、これら両システムの相互関係に留意する。そして、こういった視点から、現代文化現象に積極的に発言している社会学者（文化社会学者）の所説を検討し、比較文化社会学の理論的な枠組の一端を提示する。

### 内 容

- 第1回 はじめに——グローバル化、ポストモダン、カルチュラル・ター
- 第2回 表現としての文化
- 第3回 カッシーラー ランガー
- 第4回 ジンメル デュルケーム
- 第5回 行為としての文化
- 第6回 パーソンズ
- 第7回 ゴフマン
- 第8回 記号＝シンボルとしての文化
- 第9回 デュルケーム
- 第10回 レヴィ＝ストロース
- 第11回 ブルデュー ボードリヤール
- 第12回 「聖なるもの」と「社交性」——表現としての文化——
- 第13回 テリック・システムと相互作用儀礼——行為としての文化——
- 第14回 記号と構造とハビトゥス——構造としての文化——
- 第15回 おわりに

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30 %) 備考 (期末レポート 70%)



科目名 比較文化社会学Ⅱ <M>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 大野 道邦

テーマ

文化現象の比較文化社会学分析——経験篇——

### 授業の目的（獲得目標）

文化現象の諸形態を空間的（構造的）比較および時間的（歴史的）比較の視点から経験的に把握する。授業内容概要：グローバル化とポストモダンの交錯する現代の状況を背景として、文化の構造および変容を社会学的見地から経験的に考察する。この場合、表出的文化（「型」や生活様式や演劇表現）、表象的文化（集合的記憶）、規範的文化（モデル・エートス・名誉）、構成的・実存的文化（宗教・世界観・イデオロギー）の文化の四類型を区分し分析する。具体的には、歌舞伎の社会＝文化的な特性、ポストモダンの感覚文化、事件・災害の集

### 内 容

- 第1回 はじめに——表出的文化、表象的文化、規範的文化、構成的文化——
- 第2回 表出的文化——型の文化
- 第3回 「型」とはなにか——歌舞伎を中心として——
- 第4回 いき／甘え 忠／才覚
- 第5回 消費文化とポストモダン
- 第6回 表象的文化——集合的記憶——
- 第7回 災害の記憶——伊勢湾台風をめぐって——
- 第8回 事件の記憶——「赤穂事件」をめぐって——
- 第9回 規範的文化——名誉の社会学——
- 第10回 名誉と社会
- 第11回 ノブレス・オブリージュ——美意識と名誉——
- 第12回 構成的・実存的文化——宗教的なるものと社会的なるもの
- 第13回 「聖なるもの」と集合的沸騰
- 第14回 「聖なるもの」とヴァーチャル・リアリティ
- 第15回 おわりに

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 (期末レポート 70%)

## 2010 Syllabus

科目名 会計学 I <M>

クラス M

配当回生 2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

---

科目名 会計学Ⅱ <M>

---

クラス M

配当回生 2回生

---

講義期間 その他

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者

---

テーマ

---

授業の目的（獲得目標）

---

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

|       |                   |      |      |
|-------|-------------------|------|------|
| 科目名   | 文化政策・文化産業特論 I <D> |      |      |
| クラス   | D                 | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 前期                | 定員   |      |
| 履修条件  |                   |      |      |
| クラス指定 |                   |      |      |
| 担当者   | 中谷 武雄             |      |      |

## テーマ

文化経済学入門

## 授業の目的（獲得目標）

文化政策学入門として、その基礎・基盤を形成する文化経済学を理解したうえで、そのカバレッジを概観し、内容を踏まえて、基本構造と特徴を掴む。経済学および公共政策（学）における位置づけとその独自性を理解する。デイヴィッド・スロスビー『文化経済学入門：創造性の探究から都市再生まで』を教科書として採用し、原則として毎回1章ごとに参加者が内容を要約・報告し、議論する。

## 内 容

- 第1回 授業の概要と導入 教科書の説明 スロスビー 『経済学と文化』 文化経済学
- 第2回 1：序章 文化経済学 系譜と主要業績
- 第3回 2：価値の理論 文化的価値 経済的価値 測定・評価
- 第4回 3：文化資本と持続可能性 文化資本 持続可能性 持続可能な発展・開発
- 第5回 4：経済発展と文化 教科書 開発と文化 人間中心モデル 文化多様性
- 第6回 講義：ユネスコの文化政策 4：経済発展と文化（補足） 発展途上国から先進国へ 新しい経済学・経済政策・経済開発への展望
- 第7回 5：文化遺産の経済側面 文化遺産 文化遺産の価値の測定 不使用価値・外部性
- 第8回 6：創造性の経済学 創造性の形成プロセス 芸術家の労働供給モデル フルタイム・アーティスト
- 第9回 7：文化産業 教科書 文化産業の3層同心円モデル 複製・伝達手段（メディア）
- 第10回 講義：創造産業／創造都市／創造階級 7：文化産業（補足） ソフト・パワー産業 創造性指数 創造都市効果 都市ブランド
- 第11回 8：文化政策 教科書 文化産業政策から文化政策へ 文化産業振興から経済成長へ 文化政策の（現代的）体系
- 第12回 講義：日本の文化政策 8：文化政策（補足） 文化庁 文化政策推進会議 文化行政・文化政策 文化財から創造芸術支援へ
- 第13回 講義：文化芸術振興基本法 8：文化政策（補足） 議員立法 基本方針（手法） 文化権
- 第14回 9：終章 文化経済学 文化政策学 政策評価
- 第15回 まとめと感想

## 授業以外での学習方法

経済理論や経済思想関係の科目、および経済政策・公共政策、政策評価関係の科目の知識があることが望ましい。教科書の該当箇所を予め熟読しておく。参考書の関連箇所に目を通す。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (25) 授業中発表等 (50) 参加度 (25) 備考 ( )

|       |                 |      |     |
|-------|-----------------|------|-----|
| 科目名   | 文化政策・文化産業特論Ⅱ〈D〉 |      |     |
| クラス   | D               | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 後期              | 定員   |     |
| 履修条件  |                 |      |     |
| クラス指定 |                 |      |     |
| 担当者   | 中谷 武雄           |      |     |

### テーマ

文化経済学の展開

### 授業の目的（獲得目標）

文化経済学の展開を踏まえて、文化政策（学）の到達点を確認する。文化経済学・文化政策学の固有概念である固有価値論を理解したうえで、固有価値・地域資源の保存・活用を考える。池上惇『文化と固有価値の経済学』を教科書として採用し、原則として毎回、参加者が内容を要約して報告し、議論する。

### 内 容

- 第1回 講義：文化経済学の源流 ラスキン 固有価値 （主流派）経済学
- 第2回 序 固有価値 人生の質と幸福
- 第3回 序章：多様性と固有性の社会的評価 創造性 厚生経済学（セン）
- 第4回 1：固有価値論の発生と展開 人間的価値（個性） 芸術的価値 固有価値
- 第5回 2：文化資本の社会的蓄積 文化資本 貨幣資本
- 第6回 3：文化的な財と学習的消費の位置 混合財 アート財
- 第7回 4：文化産業の発展と展開 芸術の産業化 3層構造 文化の社会的循環
- 第8回 講義：高度情報化通信ネットワーク社会における都市戦略 創造都市 創造産業 創造階級
- 第9回 5：友愛・芸術の共同体と知的所有権 知的所有権 著作権 共同財・共有財
- 第10回 6：著作物の経済学 再販市場 二重の市場 日本語文化
- 第11回 7：現代の倫理学と経済学 ラスキン セン ロールズ
- 第12回 8：商品開発から人間開発へ 自立支援 持続可能な社会 文化資本
- 第13回 講義：生活の芸術化 アダム・スミス アーツ・アンド・ライフ 芸術と生活
- 第14回 終章：固有性と対話の経済学 文化価値 文化遺産 文化経済学
- 第15回 まとめと感想

### 授業以外での学習方法

生活と労働から、芸術と文化を享受する機会を作るように努めてください。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (25) 授業中発表等 (50) 参加度 (25) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 文化経済・財政特論 I <D>

クラス D

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化経済・財政特論 I <D b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 文化経済・財政特論Ⅱ

クラス D

配当回生 1回生

講義期間

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 文化経済・財政特論Ⅱ〈D b〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 まちづくり政策特論 I <D>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 まちづくり政策特論Ⅱ〈D〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 まちづくり政策特論Ⅱ 〈D b〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 都市建築文化特論 I

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



---

科目名 都市建築文化特論 I <D>

---

クラス D

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 竹山 清明

---

テーマ

都市の建築文化をになう戸建て住宅の具体的な計画・デザインのあり方の理論を学ぶ

---

授業の目的（獲得目標）

木造戸建て住宅の実施設計の理論を、高い水準で研究・学習する

---

内 容

第1回 基本計画の理論 1

第2回 基本計画の理論 2

第3回 基本計画の理論 3

第4回 外部空間デザインの理論 1

第5回 外部空間デザインの理論 2

第6回 外部空間デザインの理論 3

第7回 内部空間デザインの理論 1

第8回 内部空間デザインの理論 2

第9回 内部空間デザインの理論 3

第10回 矩計の理論 1

第11回 矩計の理論 2

第12回 矩計の理論 3

第13回 詳細の理論 1

第14回 詳細の理論 2

第15回 まとめ

---

授業以外での学習方法

歴史的な建築・街並みやモダニズム建築とその街並みの事例について、常日頃から問題意識をもって眺め、理論などを様々な文献から学んでおく。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 都市建築文化特論Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 都市建築文化特論Ⅱ <D>

クラス D

配当回生 1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹山 清明

テーマ

都市の建築文化をになう集合住宅の具体的な計画・デザインのあり方の理論を学ぶ

授業の目的（獲得目標）

R C造集合住宅の実施設計の理論を、高い水準で研究・学習する

内 容

第1回 基本計画の理論1

第2回 基本計画の理論2

第3回 基本計画の理論3

第4回 外部空間デザインの理論1

第5回 外部空間デザインの理論2

第6回 外部空間デザインの理論3

第7回 内部空間デザインの理論1

第8回 内部空間デザインの理論2

第9回 内部空間デザインの理論3

第10回 矩計の理論1

第11回 矩計の理論2

第12回 矩計の理論3

第13回 詳細の理論1

第14回 詳細の理論2

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

住宅問題・住宅生産・景観問題など、住宅・まちづくりに関する様々な問題に常日頃から興味を持ち、マスコミ報道や文献に目を通しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 地域経済・地域開発特論 I <D>

クラス D 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

地域経済、地域開発についての総合的研究

授業の目的（獲得目標）

水資源開発、とくにダム開発の問題を総合的に研究する

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ハッ場ダム（1）
- 第3回 ハッ場ダム（2）
- 第4回 川辺川ダム
- 第5回 見直されるダム建設
- 第6回 長良川河口堰（1）
- 第7回 長良川河口堰（2）、矢作川
- 第8回 ダム建設と地すべり
- 第9回 ダム建設と水没補償問題
- 第10回 徳山ダム、アメリカのダム政策の大転換
- 第11回 吉野川河口堰
- 第12回 細川内ダム、「脱ダム」宣言
- 第13回 出し平ダム、アメリカのダム撤去
- 第14回 環境の価値とCVM
- 第15回 自然の再生

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む（とくに経済面、政治面、社会面など） 環境問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

科目名 地域経済・地域開発特論Ⅱ〈D〉

クラス D 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

地域経済、地域開発についての総合的研究

授業の目的（獲得目標）

水資源開発、とくにダム開発を中心とする公共事業の改革問題について研究する

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 日本型地域開発

第3回 電力事業と水資源開発（1）

第4回 電力事業と水資源開発（2）

第5回 ダムによる水資源開発の問題点

第6回 水資源開発と地方自治（1）

第7回 水資源開発と地方自治（2）

第8回 公共事業のシステムと改革

第9回 長野県「財政改革プログラム」と公共事業

第10回 入札制度改革

第11回 公共事業評価制度

第12回 建設産業構造改革

第13回 公共事業補助金における県一市町村関係

第14回 公共事業と住民参加

第15回 公共事業改革の課題と展望

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む（とくに経済面、政治面、社会面など） 環境問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（70%）参加度（30%）備考（）

科目名 文化開発・文化理論特論 I <D>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 文化開発・文化理論特論Ⅱ〈D〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 社会文化特論 I <D>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 社会文化特論Ⅱ <D>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 現代マーケティング特論 I <D>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

|       |                  |      |     |
|-------|------------------|------|-----|
| 科目名   | 現代マーケティング特論Ⅱ <D> |      |     |
| クラス   | D                | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | その他              | 定員   |     |
| 履修条件  |                  |      |     |
| クラス指定 |                  |      |     |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）          |      |     |

## テーマ

現代の会社および非営利組織におけるガバナンス改革とユーザー指向的な経営戦略の展開

## 授業の目的（獲得目標）

現代の会社および非営利組織におけるガバナンス改革とユーザー指向的な経営戦略の展開について理解を深める

## 内 容

- 第1回 コーポレート・ガバナンスと経営戦略の基本問題
- 第2回 コーポレート・ガバナンスの基底
- 第3回 比較コーポレート・ガバナンスのパースペクティブ
- 第4回 比較制度分析とエージェンシー問題
- 第5回 英国におけるコーポレート・ガバナンスの規制
- 第6回 英国におけるコーポレート・ガバナンスの変貌
- 第7回 日本のコーポレート・ガバナンスの変容
- 第8回 日本企業のガバナンス改革と経営者インセンティブ問題
- 第9回 中国におけるコーポレート・ガバナンスの展開
- 第10回 中国の株式会社化された国有企業のガバナンス改革と経営者インセンティブ問題
- 第11回 現代における経営戦略の基本方向
- 第12回 現代経営戦略の市場指向・ユーザー指向的な性格
- 第13回 資源ベース理論の展開
- 第14回 ユーザー指向的な発展方向
- 第15回 残された論点と今後の研究課題

## 授業以外での学習方法

各自の身の回り（職場や生活場所）における会社、行政機関、諸団体の活動のなかで、このテーマに関する題材を探して事例研究の素材とする。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (30) 参加度 (20) 備考 (授業中のディスカッションへの参加を重視する)

## 2010 Syllabus

科目名 企業福祉文化特論 I

クラス D 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 企業福祉文化特論Ⅱ

クラス D 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 コンソーシアム1 単位認定①

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 コンソーシアム1 単位認定②

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 コンソーシアム1 単位認定③

クラス 配当回生 1 回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 コンソーシアム2 単位認定①

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 コンソーシアム2 単位認定②

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 コンソーシアム2 単位認定③

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 コンソーシアム4 単位認定①

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 コンソーシアム4 単位認定②

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 コンソーシアム4 単位認定③

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 看護理論 <M>

クラス M

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 高田 早苗

テーマ

看護理論と看護実践

### 授業の目的（獲得目標）

看護学の基本理論を歴史的に概観し、看護学と実践の発展において果たしてきた役割について考察する。また、看護理論と研究ならびに実践との関連について確認し、関心領域における理論の活用と限界を検討する。

### 内 容

第1回 看護理論とは、歴史的概観（1）<文献① 1章～5章>を中心に進める。

第2回 看護理論とは、歴史的概観（2）<文献① 1章～5章>を中心に進める。

第3回 看護理論の焦点 メレイスによる分析（1）ニード、相互作用／人間関係、アウトカム <文献② 11章>を中心にプレゼンテーションを準備する。

第4回 看護理論の焦点 メレイスによる分析（2）ニード、相互作用／人間関係、アウトカム <文献② 11章>を中心にプレゼンテーションを準備する。

第5回 看護理論のレベルと実践・研究との関連（1）大理論、中範囲理論、状況特定理論 <文献③1章 文献② 12章>を中心にプレゼンテーションを行う。

第6回 看護理論のレベルと実践・研究との関連（2）大理論、中範囲理論、状況特定理論 <文献③1章 文献② 12章>を中心にプレゼンテーションを行う。

第7回 看護理論のレベルと実践・研究との関連（3）大理論、中範囲理論、状況特定理論 <文献③1章 文献② 12章>を中心にプレゼンテーションを行う。

第8回 看護理論のレベルと実践・研究との関連（4）大理論、中範囲理論、状況特定理論 <文献③1章 文献② 12章>を中心にプレゼンテーションを行う。

第9回 理論の活用：実践への活用、研究への活用（1）

第10回 理論の活用：実践への活用、研究への活用（2）

第11回 理論の活用：実践への活用、研究への活用（3）

第12回 理論の活用：実践への活用、研究への活用（4）

第13回 A 実践事例と理論による現象理解・解釈の深まり B 実践を導く枠組みとしての活用 C 研究への活用 A、B、Cのいずれかを選択し、事例作成や論文選択をする。どの場合でも、なぜ当該理論なのか、どのように理論が活用されているか、それは適切か、理論活用の際に気をつけるべきこと、さらなるアイディアの視点でプレゼンテーションの準備をする。

第14回 看護実践における知のパタン（1）<文献④1,2章>を中心にプレゼンテーションを準備する。

第15回 看護実践における知のパタン（2）<文献④1,2章>を中心にプレゼンテーションを準備する。



## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（出席、プレゼンテーションの内容、討議への参加度並びに貢献を総合して評価します。）

科目名 看護研究 <M>

クラス M a

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 浅野 弘明・高田 早苗

テーマ

看護における研究の意義と役割

授業の目的（獲得目標）

実践に結びついた具体的な研究方法の展開を学ぶ [内容] 看護における研究の意義と役割について論述すると共に、看護研究課題における概念の明確化、概念枠組みの構成、研究方法の活用、論理的問題について講義し、実践に結びついた具体的な研究方法の展開を学ぶ。また、看護現象を説明する研究方法としての質的研究および量的研究等について学ぶ。

内 容

第1回 看護学の発展と科学的アプローチについて文献検索し、看護研究の外観を学ぶ

第2回 看護研究における倫理的配慮について、事例を通して意見交換をする

第3回 研究デザイン（研究方法の種類と概要）

第4回 研究デザイン（研究計画の設計と研究課題の明確化）

第5回 データ処理の基礎(1)：パソコンの活用方法

第6回 データ処理の基礎(2)：表計算ソフトの活用方法

第7回 データ処理の基礎(3)：統計処理ソフトの使い方

第8回 統計学の基礎(1)：基本集計の概略

第9回 統計学の基礎(2)：質的データのまとめ方

第10回 統計学の基礎(3)：量的データのまとめ方

第11回 統計学の応用(1)：質的データに対する検定方法

第12回 統計学の応用(2)：量的データに対する検定方法

第13回 統計学の応用(3)：その他の検定方法、区間推定

第14回 データ処理の応用(1)：プレゼンテーション技法

第15回 データ処理の応用(2)：データの管理方法と効率的な活用方法（浅野）

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する）

|       |           |      |      |
|-------|-----------|------|------|
| 科目名   | 看護教育論 <M> |      |      |
| クラス   | M         | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | その他       | 定員   | 30   |
| 履修条件  |           |      |      |
| クラス指定 |           |      |      |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）   |      |      |

### テーマ

1. 看護継続教育について理解し、継続教育の各種プログラム作成に活用できる。 2. 教育方法や教育評価について理解し、実践活動の場面で活用できる。

### 授業の目的（獲得目標）

1. 看護基礎教育制度及び看護継続教育について理解し、継続教育の各種プログラム作成に活用できる。 2. カリキュラム作成、授業の組み立て、授業の実施・評価、教育方法、教育評価について理解し、実践活動の場面で活用できる。 3. 看護教育関連の研究方法及び研究動向について理解し、活用できる。

### 内 容

- 第1回 教育の本質と看護教育：教育と看護の接点、類似性と差異性
- 第2回 看護教育制度論：日本の看護基礎教育の変遷、問題点と将来展望
- 第3回 看護教育制度論：日本の看護継続教育の変遷、問題点と将来展望
- 第4回 看護基礎教育と看護継続教育の連携・協働：看護教育における看護実践能力育成、看護実践能力育成のための到達目標設定
- 第5回 院生からの話題提供、質疑、ディスカッション
- 第6回 看護教育課程論：保助看法と保助看学校養成所指定規則の日本の看護教育に及ぼした影響
- 第7回 看護教育課程論：看護教育カリキュラム作成過程と具体例
- 第8回 看護教育方法論：授業の組み立て、授業の構造化、授業案作成、教材作成と具体例
- 第9回 看護教育方法論：一般教育技法と具体例
- 第10回 看護教育方法論：講義、演習、演習、実習、実習指導、実習指導者
- 第11回 院生からの話題提供、質疑、ディスカッション
- 第12回 看護教育評価論：組織（学校）評価、プログラム評価、教育者評価、授業成果の評価 評価、授業
- 第13回 看護教育評価論：演習の評価、実習の評価
- 第14回 院生からの話題提供、質疑、ディスカッション
- 第15回 まとめ 質疑、ディスカッション

### 授業以外での学習方法

### 教科書

**成績評価**

試験（せず）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 コンサルテーション論 <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 その他

定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 戸塚 規子・渡壁 晃子・富岡 小百合

## テーマ

コンサルテーション概論と実践技法

## 授業の目的（獲得目標）

[獲得目標] 上級実践看護職は、ケアの対象者に直接かかわるだけでなく、看護職を含むケア提供者に対しても「相談」機能を果たすことが求められる。その効果的な方法を体験的に学習するとともに、コンサルテーションの概念、プロセスや実践モデル、コンサルタンの役割等の知識を習得し課題を探究する。また、管理、教育的支援、コミュニケーション、評価等の機能をもって、かかわる人々の主体性や独自性を尊重しつつ、自らの専門性と他職種との連携について探究する。 [内容] 前半は、コンサルテーションを学習する意義や社会の医療に対する

## 内 容

- 第1回 コンサルテーションとは（ガイダンス、学習の意義と専門看護師の役割）
- 第2回 コンサルテーション概論①（コンサルテーションの概念と歴史的背景）
- 第3回 コンサルテーション概論②（コンサルテーションの理論的基盤）
- 第4回 コンサルテーション概論③（コミュニケーション技法と文化のかかわり）
- 第5回 コンサルタンの役割と機能、コンサルタントに必要な教育
- 第6回 コンサルテーションのプロセスとコンサルテーションモデル
- 第7回 コンサルテーション・コンサルタントに関する文献レビュー
- 第8回 医療分野におけるコンサルテーションの実際①（オンコロジー、リエゾン）
- 第9回 医療分野におけるコンサルテーションの実際②（急性期医療）
- 第10回 医療分野におけるコンサルテーションの実際③（組織変革の推進）
- 第11回 事例検討①（クライアントへのコンサルテーション）
- 第12回 事例検討②（クライアントへのコンサルテーション）
- 第13回 事例検討③（個人・組織へのコンサルテーション）
- 第14回 事例検討④（個人・組織へのコンサルテーション）
- 第15回 より良いコンサルテーションの実践とは ※授業内容の順序が変更となる場合があります。

## 授業以外での学習方法

関連文献の事前学習と発表準備

## 教科書

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する）

|       |           |      |      |
|-------|-----------|------|------|
| 科目名   | 看護管理論 <M> |      |      |
| クラス   | M         | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | その他       | 定員   | 30   |
| 履修条件  |           |      |      |
| クラス指定 |           |      |      |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）   |      |      |

### テーマ

看護管理に関する諸理論と看護サービス・マネジメントへの適用

### 授業の目的（獲得目標）

看護管理に必要な基本的な諸理論、管理プロセス、実践システムについて学習し、効果的な看護サービス・マネジメントのあり方を探求する。さらに実践事例や文献学習によって看護管理者および専門看護師の役割や概念化能力についての自己の課題を認識し、応用能力を養う。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス 看護のマネジメントに係わる主要な用語とその概念
- 第2回 看護管理者を取り巻く環境の変化
- 第3回 看護組織論①組織論に関する一般的知識・概念、組織論と歴史的変遷
- 第4回 看護組織論②保健医療福祉サービス提供組織のしくみに関する事例・文献分析と討議
- 第5回 看護マネジメント論①マネジメントの概念と理論、看護サービス管理のプロセス、看護サービスの質評価
- 第6回 看護マネジメント論②看護サービスの質評価・リスクマネジメントに関する経験事例・文献の分析と討議
- 第7回 看護における人的資源活用論① キャリア開発と人的資源管理
- 第8回 看護における人的資源活用論② 関連する経験事例・文献の分析と討議
- 第9回 情報技術・情報管理論① 医療情報システムの活用と看護情報管理
- 第10回 情報技術・情報管理論② 関連する経験事例・文献の分析と討議
- 第11回 看護経営・経済論① 医療福祉における経済と経営、看護サービスと経営上の課題
- 第12回 看護経営・経済論② 医療経済学のミクロの視点における看護の生産性に関する事例分析と討議
- 第13回 看護制度・政策論① 保健医療制度の中の看護制度
- 第14回 看護制度・政策論② 医療施策と看護施策に関する文献分析と討議
- 第15回 専門職論 看護専門職の機能と活動、専門看護師の役割と課題に関する実践事例の分析と討議

### 授業以外での学習方法

広く関連図書・専門誌等を読む。討議のためのプレゼンテーションの準備。

### 教科書

### 参考書



---

## 成績評価

試験（レポート 40%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（）

|       |               |      |     |
|-------|---------------|------|-----|
| 科目名   | 看護政策論         |      |     |
| クラス   | M             | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 集中            | 定員   | 30  |
| 履修条件  |               |      |     |
| クラス指定 |               |      |     |
| 担当者   | 瀬戸 奈津子. 遠藤 俊子 |      |     |

### テーマ

質の高い看護活動を提供するための看護政策と保健医療福祉政策

### 授業の目的（獲得目標）

看護職の活動の場が拡大し、活動対象者が多様化している中で、質の高い看護活動を提供するための環境づくりとしての看護政策を理解する。また、地域の保健医療福祉政策と看護職者の役割、地域で直面する課題について考察する。〔内容〕看護職の活動の場が拡大し、活動対象者が多様化している中で、質の高い看護活動を提供するための環境づくりとしての看護政策を学習する。また、看護政策の歴史的発展過程と看護職の抱える課題を理解し、課題解決について思考できる能力を養う。さらにわが国における看護制度・看護政策・看護教育制度・諸外国

### 内 容

- 第1回 8月3日2講時 【遠藤 俊子】 政策とは何か、政策過程とは何か、看護職者と政策
- 第2回 8月3日3講時 【遠藤 俊子】 看護に関する政策（1） 保健師助産師看護師法
- 第3回 8月6日3講時 【瀬戸 奈津子】 看護に関する政策（4） 専門職としての看護職
- 第4回 8月6日4講時 【瀬戸 奈津子】 看護に関する政策（5） 診療報酬と看護
- 第5回 8月6日5講時 【瀬戸 奈津子】 政策過程への参画の実際（1） 学術団体の役割—糖尿病看護に強い看護師支援
- 第6回 8月7日2講時 【遠藤 俊子】 看護に関する政策（2） わが国の看護師確策
- 第7回 8月7日3講時 【遠藤 俊子】 看護に関する政策（3） 看護教育制度
- 第8回 8月9日4講時 【遠藤 俊子】 看護に関する政策（6） チーム医療検討会 特定看護師（仮称）
- 第9回 8月28日3講時 【遠藤 俊子】 課題演習 ※今までの臨床経験に照らし改めて感じる専門分化や診療報酬に関する出来事を想起し、診療報酬算定に向けた要望書としてA4 1枚にまとめる、可能ならば根拠書類を添付すること
- 第10回 8月28日4講時 【遠藤 俊子】 課題演習 ※今までの臨床経験に照らし改めて感じる専門分化や診療報酬に関する出来事を想起し、診療報酬算定に向けた要望書としてA4 1枚にまとめる、可能ならば根拠書類を添付すること
- 第11回 9月10日3講時 【瀬戸 奈津子】 意見交換
- 第12回 9月10日4講時 【瀬戸 奈津子】 政策過程への参画の実際（2） 医療安全の取り組み
- 第13回 9月17日3講時 【瀬戸 奈津子】 政策過程への参画の実際（3） 看護ケア技術の明確化のための一連の政策研究政策過程への参画の実際
- 第14回 9月17日4講時 【瀬戸 奈津子】 政策過程への参画の実際（4） 他職種との協働
- 第15回 10月9日4講時 【遠藤 俊子】 まとめ

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 看護の歴史 <M>

クラス M 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 実践看護基礎学特論 <M>

クラス M 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 看護技術学 <M>

クラス M 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 実践看護基礎学演習 I <M>

クラス M 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 実践看護基礎学演習Ⅱ 〈M〉

クラス M 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 実践看護基礎学演習Ⅲ <M>

クラス M 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 実践看護基礎学特別研究 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 実践看護応用学特論 I (老年) <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講 (開⇒閉)

テーマ

高齢者の健康生活とその評価、介護家族の介護力の評価と看護の役割

授業の目的 (獲得目標)

高齢社会の諸現象について関連領域の概念や理論、ならびに高齢期の発達課題や加齢過程に関連する諸理論から学習し、*well-being* を概念枠組みにした高齢者の健康生活の評価、介護家族の介護能力評価などについて探究する。

内 容

第1回 オリエンテーション 【奥野】 ・*well-being* の概念、加齢と高齢者の生活環境と健康課題 ・健康生活の評価の視点

第2回 ”

第3回 老化・加齢の理論と看護アセスメント (生理機能、精神機能的側面) とケア 【奥野】 感覚・運動機能をはじめとする諸生理機能

第4回 ”

第5回 老化・加齢の理論と看護アセスメント (生理機能、精神機能的側面) とケア 【奥野】 知的機能 (認知機能を含む) メンタルヘルス (うつを含む)、ADL、IADL 評価など

第6回 ”

第7回 老化・加齢の理論と看護アセスメント (心理的、発達の側面) とケア 【奥野】 主観的健康感、主観的幸福感、生きがい、生活満足度、セルフケアなど

第8回 ”

第9回 老化・加齢の理論と看護アセスメント (社会的・環境的側面) とケア 【奥野】 生活環境、社会関係、ソーシャルサポート、家族の介護力評価など

第10回 ”

第11回 高齢者の健康生活に対する看護アセスメントと看護の質 【奥野】 (高齢者の QOL, 高齢者アセスメントの枠組みと看護理論)

第12回 ”

第13回 高齢者の健康生活に対する看護アセスメントと看護教育、看護研究の動向と課題 【奥野】

第14回 高齢者の健康生活と総合的アセスメント 【藤田】 ・包括的・全人的アセスメント ・失禁、寝たきりなどの状態に関する評価

第15回 ”

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（授業中課題＜提出物・レポート＞、参加度、授業中発表、プレゼンテーション、レポート、学習態度を総合的に評価する。）

科目名 クリティカル看護学 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

クリティカルな状況にある対象の理解と看護支援

授業の目的（獲得目標）

1. クリティカルな状況にある個人および家族について包括的に理解し、看護支援方法を考究する。2. クリティカルな状況にある対象に活用される諸理論について考究する。3. クリティカルケア場面での倫理的問題について、考究する。

内 容

第1回 クリティカルケアとは

第2回 危機理論-1

第3回 危機理論-2

第4回 ストレス・コーピング理論

第5回 クリティカルな状況にある患者の理解-1（急性心筋梗塞）

第6回 クリティカルな状況にある患者の理解-2（ARDS）

第7回 クリティカルな状況にある患者の理解-3（脳血管障害）

第8回 クリティカルな状況にある患者の理解-4（熱傷）

第9回 クリティカルな状況にある患者の理解-5（多発外傷）

第10回 クリティカルな状況にある患者の理解-6（中毒）

第11回 脳死と臓器移植

第12回 災害医療・災害看護

第13回 救急医療におけるインフォームド・コンセントと倫理的課題

第14回 クリティカルケアにおける看護師の役割

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（100%）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 生活習慣系看護学 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

慢性疾患や慢性疾患を原因とする障害をもつ成人とその家族におよぼす影響を考察する

授業の目的（獲得目標）

1. 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題を包括的に理解できる。 2. 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族を対象とした効果的な看護実践を行うための諸理論と看護介入方法を考究する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション, 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴①
- 第2回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴②
- 第3回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴③
- 第4回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族に適用される看護理論の背景および概念
- 第5回 慢性疾患や障害を体験する人を理解するための諸理論
- 第6回 慢性疾患や障害を体験する人と家族を理解するための諸理論
- 第7回 慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究①：文献検索
- 第8回 慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究②
- 第9回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討①
- 第10回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討②
- 第11回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討③
- 第12回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討④
- 第13回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑤
- 第14回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑥
- 第15回 事例検討の結果を評価し、諸理論と看護介入方法の活用について自己の課題を明確にする。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（100%）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 精神看護学 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

精神看護に関する概念及び理論と実践方法

授業の目的（獲得目標）

心の発達に関する諸理論について概観し、精神の健康と障害について理解を深める。さらに、精神看護を必要とする対象のアセスメント及び援助方法を探究する。また、精神的な健康問題と社会とのつながりを理解し、精神保健福祉に関する課題について考察する。

内 容

第1回 オリエンテーション 精神看護学に関する概念及び理論と実践方法、精神看護における課題

第2回 人間の心のはたらきと発達

第3回 心の発達に関する理論（1）精神力動理論

第4回 心の発達に関する理論（2）漸成的発達理論

第5回 危機介入とストレス理論

第6回 精神の健康と精神障害のとらえ方

第7回 心を病む体験（当事者の活動なども）

第8回 精神看護における対人関係（1）人間関係学からの示唆

第9回 精神看護における対人関係（2）グループからの視点

第10回 精神障害を体験している人と家族の看護（1）統合失調症

第11回 精神障害を体験している人と家族の看護（2）気分障害

第12回 精神障害を体験している人と家族の看護（3）アディクション

第13回 精神障がい者の地域ケアの現状と課題

第14回 精神保健福祉における現状と課題

第15回 精神看護における課題

授業以外での学習方法

主にプレゼンテーションとディスカッションにより授業を進めるため、課題を見出し、準備をすること

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (20%) 備考 ( )



科目名 実践看護応用学演習 I (成人・精神) <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講 (開⇒閉)

テーマ

精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法

授業の目的 (獲得目標)

精神の健康状態をアセスメントし、包括的な援助方法を探究する。また、精神看護における倫理的な課題及び多職種間の連携について考察する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 精神の健康状態のアセスメント方法及び援助方法、倫理について
- 第2回 精神の健康状態のアセスメント 文献及び事例検討 (1)
- 第3回 精神の健康状態のアセスメント 文献及び事例検討 (2)
- 第4回 精神の健康状態のアセスメント 文献及び事例検討 (3)
- 第5回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法 文献及び事例検討 (1)
- 第6回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法 文献及び事例検討 (2)
- 第7回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法 文献及び事例検討 (3)
- 第8回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法 文献及び事例検討 (4)
- 第9回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法 文献及び事例検討 (5)
- 第10回 認知行動療法 (SST、心理教育)
- 第11回 精神看護における多職種間の連携
- 第12回 地域におけるサポートシステム
- 第13回 精神保健福祉における関連法規
- 第14回 精神看護における倫理的課題
- 第15回 精神看護における自己の課題・疑問の明確化

授業以外での学習方法

主にプレゼンテーション及びディスカッションで授業を進めるため、課題を見出し、準備をする

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 実践看護応用学演習Ⅱ（成人・精神）〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子

テーマ

慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人への課題を考察する。

授業の目的（獲得目標）

1. 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題を包括的に理解する方法を説明できる。 2. 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法について自らの考えを述べることができる。 3. 在宅で療養する身体障害者のQOLの維持・向上を目指した看護実践方法について自らの考えを述べることができる。

内 容

第1回 オリエンテーション、慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討

第2回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討

第3回 在宅で療養する身体障害者の事例検討①

第4回 在宅で療養する身体障害者の事例検討②

第5回 在宅で療養する身体障害者の事例検討③

第6回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法に関する文献的検討

第7回 在宅で療養する身体障害者の事例検討①

第8回 在宅で療養する身体障害者の事例検討②

第9回 在宅で療養する身体障害者の事例検討③

第10回 在宅で療養する身体障害者の事例検討④

第11回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討①

第12回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討②

第13回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討①

第14回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討②

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト ( ) 授業中課題 (100%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 実践看護応用学演習Ⅲ（成人・精神）〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

クリティカルな状況にある個人および家族への対応能力

授業の目的（獲得目標）

1. クリティカルな状況にある個人および家族の身体的・心理社会的問題について、 包括的に理解する。 2. クリティカルな状況にある個人および家族への効果的な看護実践方法について考 究できる。 3. クリティカル領域での研究の動向を把握し、看護の課題を探求する。

内 容

第1回 重症患者の体位、活動-1

第2回 重症患者の体位、活動-2

第3回 重症患者の体位、活動-3

第4回 クリティカルな状況にある個人の身体的な問題とケア-1（褥瘡）

第5回 クリティカルな状況にある個人の身体的な問題とケア-2（呼吸理学療法）

第6回 クリティカルな状況にある個人の身体的な問題とケア-3（口腔ケア）

第7回 クリティカルな状況にある個人の身体的な問題とケア-4（身体拘束）

第8回 クリティカルな状況にある個人の心理的問題とケア-1（文献検討）

第9回 自死患者および遺族の理解と対応

第10回 クリティカルな状況にある個人の心理的問題とケア-2（コントロール感）

第11回 クリティカルな状況にある家族の問題とケア-1（ニード）

第12回 クリティカルな状況にある家族の問題とケア-2

第13回 クリティカル領域におけるトータルペイン（文献検討）

第14回 クリティカル領域におけるターミナルケア（文献検討）

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（100%）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 老年看護学 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 茂代. 藤田 冬子

テーマ

高齢者の健康課題と介護家族に対する専門的な看護援助

授業の目的（獲得目標）

高齢者のサクセフルエイジングをめざし自立、セルフケアを支援する看護援助、高齢者に特有な健康問題と看護、ならびに家族援助について探究する。

内 容

第1回 オリエンテーション、サクセフルエイジングをめざした老年看護の課題【奥野】 ・加齢現象と健康課題、高齢期における疾病の回復過程と看護のあり方 ・高齢期に多い疾患や特徴的な症状に対するケアの諸理論、および援助の方向性

第2回 //

第3回 高齢期における健康課題とエンパワメント、ノーマライゼーションをめざすケア諸理論、援助について学ぶ 【奥野】 ・高齢者のQOL、権利擁護、およびセルフケア理論・セルフケア指導方法など

第4回 //

第5回 高齢者の健康課題と看護ケア・評価 【奥野】 ・高齢者と介護家族の多様な価値観、自立・依存などの特性 ・高齢者に特有な症状マネジメントの検討（失禁、寝たきり、せん妄、うつなど）

第6回 //

第7回 高齢者の健康課題と看護ケア・評価 【奥野】 ・高齢者、介護家族ケアにおける倫理的配慮 ・慢性期疾患、寝たきりなど的高齢者に対する実証的な看護援助

第8回 //

第9回 高齢者の健康課題と看護ケア・評価 【奥野】 ・健康課題をもった高齢者の生活調整とセルフケア、高齢者と家族関係の問題と解決方法、介護家族のサポートおよびケア評価

第10回 //

第11回 高齢者の家族システム理論と看護ケア・評価 【藤田・奥野】 ・家族システム理論を理解し、関わり方、家族を単位とした高齢者への援助、生活調整のあり方などの家族援助法と評価

第12回 //

第13回 高齢者の終末期ケアの現状・課題と展望 【奥野】 ・高齢者にとって望ましい死のあり方、終末期ケア、家族の悲嘆に対するケア、倫理的配慮

第14回 //

第15回 高齢者と家族を対象とした看護ケア・評価の課題、研究の動向と展望【奥野】 ・関連する文献や事例を検討し高齢者と家族を対象とした看護ケアと評価の課題、および研究の動向と展望

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（プレゼンテーション、レポート、学習態度を総合的に評価する。）

## 2010 Syllabus

科目名 老年看護学Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 茂代. 田中 涼子

テーマ

高齢者の生活を支援するサポートシステムと看護の役割

授業の目的（獲得目標）

サクセスフルエイジングを概念枠組みにし高齢者（含認知症高齢者）の健康課題の解決・支援に向けたサポートシステムについて探求する。

内 容

第1回 オリエンテーション 【奥野】 サクセスフルエイジングを枠組みとした高齢者に関連する医療・保健・福祉政策と老年看護 ・高齢者の健康・生活課題を解決するために必要な社会資源、サポートシステム

第2回 //

第3回 サクセスフルエイジングを枠組みとした高齢者に関連する医療・保健・福祉政策と老年看護 【奥野】 ・介護保険法をはじめとする関連諸政策の体系と動向 ・QOL と人権擁護

第4回 //

第5回 サポートシステムの現状と有効活用 【奥野】 ・フォーマル・インフォーマル資源の実際 ・サポートシステムの現状と有効活用

第6回 //

第7回 ケアマネジメントに関する諸理論 【奥野】 ・ケアマネジメントの理論とプロセス ・ケアマネジャーの役割と他職種との連携・協働

第8回 //

第9回 対象別に展開されるケアマネジメント 【奥野】 ・ケース、グループ、ケアシステム形成に対するケアマネジメント ・事例検討の意義と方法

第10回 //

第11回 ・高齢者の健康課題に対するサポートシステムを発展させる方法と研究の動向と課題【奥野】 ・施設における看護職のケアマネジメント

第12回 ・介護保険におけるケアマネジメント 【田中】 ・施設における看護職のケアマネジメント【田中】

第13回 //

第14回 ・介護保険におけるケアマネジメント ・在宅における看護職のケアマネジメント

第15回 //

授業以外での学習方法

教科書

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（プレゼンテーション、レポート、学習態度を総合的に評価する。）



## 2010 Syllabus

科目名 老年看護学Ⅲ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

高齢者の生活を支援する保健医療福祉制度と政策と看護の役割

### 授業の目的（獲得目標）

高齢者が生活者としての権利や尊厳を守られ、より好ましい人生設計に基づき健康生活を送れるよう支援するために、世界・日本における高齢者の保健医療福祉制度・政策の現状、および看護の動向と役割の専門性について探究する。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション 【奥野】 高齢者のサクセスフルエイジングとヘルスプロモーション ・高齢者のサクセスフルエイジングとWHOの提唱するヘルスプロモーションの基本概念、保健医療福祉制度・政策の立案、施策
- 第2回 //
- 第3回 高齢社会の課題と保健医療福祉制度・政策の体系の現状と課題 【奥野】 ・法律に基づく諸事業・サービス体系と高齢者ケアの現状 ・保健医療福祉制度・政策にもとづく高齢者ケアの継続、課題
- 第4回 //
- 第5回 高齢者の保健医療福祉制度・政策の歴史的変遷と現状、課題 【青木】 ・西欧など諸外国と日本との共通点、相違点
- 第6回 //
- 第7回 高齢者のQOL、人権、権利擁護を守る保健医療福祉制度・政策の現状と課題【奥野】 ・介護保険法
- 第8回 //
- 第9回 高齢者のQOL、人権、権利擁護を守る保健医療福祉制度・政策の現状と課題【奥野】 ・高齢者虐待防止法、成年後見人法等
- 第10回 //
- 第11回 高齢者の保健医療福祉制度・政策における高齢者ケアと看護の役割機能の専門性【奥野】 ・保健医療福祉制度・政策の動向と看護・介護の役割機能の専門性と役割の拡大 ・多職種との連携
- 第12回 //
- 第13回 看護職の役割機能の拡大と人材育成における課題と展望 【奥野】 ・看護、介護要員の現状、課題と育成の展望 ・老人専門看護師の役割と現状、今後の方向性
- 第14回 //
- 第15回 保健医療福祉システム構築と看護の動向 【奥野】 ・老年看護の専門性と今後の展望

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（プレゼンテーション、レポート、学習態度を総合的に評価する。）

## 2010 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習 I (老年) <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 通年 定員 20

## 履修条件

## クラス指定

担当者 奥野 茂代, 桑田 美代子

## テーマ

認知症高齢者 (含 介護家族) の理解と専門的な看護援助

## 授業の目的 (獲得目標)

認知症高齢者 (介護家族を含む) が生活者としての権利や尊厳を守られ、より好ましい人生設計に基づき健康生活、人生の終末期を送れるよう支援するために、認知症高齢者の理解を深め、専門的な看護について実証的に検討する。

## 内容

- 第1回 オリエンテーション 【奥野】 ・高齢社会における認知症高齢者の動向と課題 ・認知症の発症から死にいたる過程 ・ケアの倫理的視点
- 第2回 ”
- 第3回 認知症の理解 【水谷】 ・認知症の看護の視点からの理解 ・認知症の病因・病態、診断法、治療法
- 第4回 ”
- 第5回 認知高齢者の理解 【奥野】 ・認知症高齢者 (含：在宅で暮らしている) と生活環境の調整：実践、相談、教育
- 第6回 ”
- 第7回 認知高齢者とのコミュニケーションと看護援助 【奥野】 ・コミュニケーションの看護における意義とコミュニケーションスキル ・アセスメント方法
- 第8回 ”
- 第9回 認知高齢者の生活活動と看護援助 【奥野】 ・代表的な周辺症状と看護の検討 ・認知高齢者の生活活動の調整：実践、相談、教育 ・安全性の検討 (リスクマネジメント)
- 第10回 ”
- 第11回 認知高齢者にかかわる倫理的課題 【奥野】 ・インフォームド・コンセント (終末期ケアを含む) ・虐待と人権擁護
- 第12回 ”
- 第13回 認知高齢者 (含：在宅で暮らしている) を介護する家族の負担と支援 【奥野・桑田】 ・家族の介護体験過程と介護負担 ・家族への支援、家族関係の調整：実践、相談、教育
- 第14回 ”
- 第15回 認知症高齢者 (含家族) に関する看護実践、研究の動向と課題 【奥野】

## 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（プレゼンテーション、レポート、学習態度を総合的に評価する）

## 2010 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習Ⅱ（老年）〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 茂代・田中 涼子・松本 尚子

テーマ

高齢者の健康課題と医療・介護施設における専門的な看護援助

授業の目的（獲得目標）

病院・施設において健康課題をもつ高齢者（認知症高齢者を含む）とその家族に対し専門関連領域の理論等を活用した生活環境および生活行動の調整、健康行動の変容をめざした実践的なアセスメント、看護援助について探究する。

内 容

第1回 オリエンテーション 【奥野】 ・高齢者の健康課題と生活環境 ・認知症、感染症、多様な慢性疾患や障害をもち施設でくらす高齢者のアセスメント、ケアと評価

第2回 //

第3回 医療・介護施設で暮らしている高齢者の健康課題と看護の質 【奥野】 ・リスクマネジメントの現状と課題（ケアの継続性を含む）

第4回 //

第5回 高齢者と家族に対する看護コンサルテーション 【奥野】 （高齢者ケアに携わる看護職者へのコンサルテーションを含む）

第6回 //

第7回 高齢者の健康生活の援助に関連する倫理的葛藤・問題についての倫理的調整【奥野】 ・看護職者が関係者間においてリーダーシップを発揮する倫理的調整の検討

第8回 //

第9回 高齢者の健康生活を援助するコーディネーション 【奥野】 ・看護職者の行うコーディネーションの検討

第10回 //

第11回 介護施設に入所している高齢者の健康課題と看護の質 【田中】 ・看護管理システム ・看護職者への継続教育

第12回 //

第13回 病院・施設で暮らす高齢者とその家族の健康課題に対する専門的看護に関する研究の動向と課題【奥野】

第14回 医療施設で療養する高齢者の健康課題と看護の質（療養型病床群を含む）【松本】 ・ケアの提供、看護管理システム ・看護職者への継続教育

第15回 //

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

書籍 1 : 随時紹介

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (0%) 備考 (プレゼンテーション、レポート、学習態度を総合的に評価する。)

## 2010 Syllabus

|       |                 |      |     |
|-------|-----------------|------|-----|
| 科目名   | 実践看護応用学課題研究 <M> |      |     |
| クラス   | M               | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 通年              | 定員   |     |
| 履修条件  |                 |      |     |
| クラス指定 |                 |      |     |
| 担当者   | 奥野 茂代           |      |     |

**テーマ**

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習（老年）において高齢者およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

**授業の目的（獲得目標）**

1. 見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。 2. 研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認をうける。 3. 計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。 4. 収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や開発に向けて考察する。 5. 課題研究論文を作成する。 6. 課題研究論文は、発表会（最終試験）において発表する。

**内 容**

第1回 文献検討

第2回 研究計画書作成

第3回 フィールドにおける研究の実施

第4回 論文作成

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

**授業以外での学習方法****教科書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価）



## 2010 Syllabus

|       |                 |      |     |
|-------|-----------------|------|-----|
| 科目名   | 実践看護応用学課題研究 <M> |      |     |
| クラス   |                 | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 集中              | 定員   | 20  |
| 履修条件  |                 |      |     |
| クラス指定 |                 |      |     |
| 担当者   | 奥野 茂代           |      |     |

**テーマ**

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習（老年）において高齢者およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

**授業の目的（獲得目標）**

1. 見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。 2. 研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認をうける。 3. 計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。 4. 収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や開発に向けて考察する。 5. 課題研究論文を作成する。 6. 課題研究論文は、発表会（最終試験）において発表する。

**内 容**

第1回 文献検討

第2回 研究計画書作成

第3回 フィールドにおける研究の実施

第4回 論文作成

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

**授業以外での学習方法****教科書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価）

## 2010 Syllabus

科目名 次世代育成看護学特論 <M>

クラス M

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員 30

## 履修条件

## クラス指定

担当者 田邊 美智子・遠藤 俊子・堀 妙子・前原 澄子

## テーマ

次世代を育成する女性の健康問題について専門的知識体系を教授する。

## 授業の目的（獲得目標）

1 次世代を育成する女性と家族の対象理解、健康生活及び健康問題について考察する。 2 マタニティサイクルにある女性と家族の対象理解、健康生活及び健康問題を多角的に捉える。

## 内 容

- 第1回 次世代を育成する女性を取り巻く家族・社会・環境の変化および経済についての理解
- 第2回 次世代を育成する女性を取り巻く家族・社会・環境の変化および経済についての理解
- 第3回 次世代を育成する女性を取り巻く家族・社会・環境の変化および経済についての理解
- 第4回 母性健康科学の考え方、日本における母性概念、リプロダクティブヘルス/ライツ
- 第5回 母性健康科学の考え方、日本における母性概念、リプロダクティブヘルス/ライツ
- 第6回 乳児期・幼児期の成長・発達に伴う問題と家族に関する理解
- 第7回 乳児期・幼児期の成長・発達に伴う問題と家族に関する理解
- 第8回 乳児期・幼児期の成長・発達に伴う問題と家族に関する理解
- 第9回 健康な女性に成長するための思春期への理解
- 第10回 健康な女性に成長するための思春期への理解
- 第11回 健康な女性に成長するための思春期への理解
- 第12回 成熟期・更年期女性の健康課題への理解
- 第13回 成熟期・更年期女性の健康課題への理解
- 第14回 周産期における妊産婦とその子ども、家族への理解
- 第15回 周産期における妊産婦とその子ども、家族への理解

## 授業以外での学習方法

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（50%）参加度（30%）備考（）

科目名 小児看護学 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

健康生活に関する理論や健康問題を有する子どもとその家族に関連する理論と最近の知見

授業の目的（獲得目標）

健康問題を有する子どもの看護を、家族を中心とする視点から論理的に理解し、またそれぞれの健康状態特有の問題に関する最新の知見を学び、より効果的な看護援助の方法を自ら考案する能力を獲得する。

内 容

- 第1回 小児看護の役割
- 第2回 小児医療の動向
- 第3回 小児看護の動向
- 第4回 Family Centered Nursing の概念（1）
- 第5回 Family Centered Nursing の概念（2）
- 第6回 入院をしている子どもの権利
- 第7回 入院している子どもの権利を守るための看護
- 第8回 ハイリスク新生児の看護（1）
- 第9回 ハイリスク新生児の看護（2）
- 第10回 慢性的な健康問題をもつ子どもの看護（1）
- 第11回 慢性的な健康問題をもつ子どもの看護（2）
- 第12回 障害をもつ子どもの看護（1）
- 第13回 障害を持つ子どもの看護（2）
- 第14回 在宅療養を行っている子どもの看護
- 第15回 ターミナル期の子どもの看護

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 健康福祉ケア論 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 周産期看護学 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子

テーマ

マタニティサイクルにある母子とその家族の健康問題をめぐる今日的话题を取り上げ、周産期看護援助に関するあり方を学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

1 周産期のプライマリー・ヘルスケアをエビデンスに基づき検討する。 2 周産期にある母子とその家族への査定に必要なアセスメント力と緊急時 対応能力を獲得する。 3 周産期医療における倫理的課題に対応できる基礎力をつける 4 周産期医療チームにおける調整力を獲得する

内 容

第1回 周産期のプライマリー・ヘルスケア

第2回 周産期のプライマリー・ヘルスケア

第3回 周産期の母子とその家族の健康問題査定のためのアセスメント

第4回 周産期の母子とその家族の健康問題査定のためのアセスメント

第5回 周産期の正常性を維持・促進するためのエビデンスとケア

第6回 周産期の正常性を維持・促進するためのエビデンスとケア

第7回 妊産婦健康診査における異常時の対応と救急処置

第8回 妊産婦健康診査における異常時の対応と救急処置

第9回 救急時における助産師の役割

第10回 救急時における助産師の役割

第11回 周産期における倫理的課題

第12回 周産期における倫理的課題

第13回 周産期医療チームにおける調整とリスクマネジメント

第14回 周産期医療チームにおける調整とリスクマネジメント

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (20%) 備考 ( )

科目名 女性健康看護学 <M>

クラス M

配当回生 1 回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 田邊 美智子・遠藤 俊子・前原 澄子

テーマ

思春期・成熟期・更年期にある女性の健康をめぐる今日的な話題を知り、女性 看護学の方向性を考察する。

授業の目的（獲得目標）

1 女性の生涯を通じた健康課題を明らかにする。 思春期・成熟期・更年期にある女性の健康問題を多角的に捉える。 2 女性の健康問題を解決するために実態を知るとともに、介入に必要な理論を学ぶ。 3 行政や自助グループなど支援に関わる組織との連携のあり方を考察する。

内 容

第1回 性差の観点からみた女性の生涯を通じた身体・心理・社会的変化と健康問題を理解する

第2回 性差の観点からみた女性の生涯を通じた身体・心理・社会的変化と健康問題を理解する

第3回 わが国の思春期・成熟期・更年期の女性の健康問題のアセスメントと支援

第4回 わが国の思春期・成熟期・更年期の女性の健康問題のアセスメントと支援

第5回 日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、ウイメンズヘルスの基礎概念と活用されている理論

第6回 日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、ウイメンズヘルスの基礎概念と活用されている理論

第7回 女性看護学領域における課題と支援（1）ドメスティックバイオレンス/乳幼児虐待

第8回 女性看護学領域における課題と支援（1）ドメスティックバイオレンス/乳幼児虐待

第9回 女性看護学領域における課題と支援（1）ドメスティックバイオレンス/乳幼児虐待

第10回 女性看護学領域における課題と支援（1）ドメスティックバイオレンス/乳幼児虐待

第11回 女性看護学領域における課題と支援（2）不妊

第12回 女性看護学領域における課題と支援（2）不妊

第13回 女性看護学領域における課題と支援（2）不妊

第14回 女性看護学領域における課題と支援（2）不妊

第15回 地域における支援と諸制度

授業以外での学習方法

教科書

参考書



## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習 I (小児看護・健康福祉ケア) <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講 (開⇒閉)

テーマ

授業の目的 (獲得目標)

内 容

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅱ（小児看護・健康福祉ケア）〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅲ（小児看護・健康福祉ケア）〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

|       |                        |      |      |
|-------|------------------------|------|------|
| 科目名   | 次世代育成看護学演習 I (周産期) <M> |      |      |
| クラス   | M                      | 配当回生 | 1 回生 |
| 講義期間  | 後期                     | 定員   | 20   |
| 履修条件  |                        |      |      |
| クラス指定 |                        |      |      |
| 担当者   | 田邊 美智子・遠藤 俊子           |      |      |

### テーマ

周産期における母子のプライマリーケアにかかわる看護介入モデルを活用し、質の高いケア提供のあり方を理解する。

### 授業の目的（獲得目標）

1 母子とその家族の生活を基盤とした健康支援を行うためのアセスメントとケア計画、評価の方法を事例を用いて検討する。 2 周産期の母子援助に有益な看護理論を活用し、質の高い看護実践のあり方を理解する。 3 周産期における困難事例を用いて、妊産婦と家族への相談・教育スキルを学ぶ。

### 内 容

- 第 1 回 妊産婦の健康診査を通じた健康診査と正常性を維持するための情報収集スキルの検討
- 第 2 回 妊産婦の健康診査を通じた健康診査と正常性を維持するための情報収集スキルの検討
- 第 3 回 妊産婦の健康診査を通じた健康診査と正常性を維持するための情報収集スキルの検討
- 第 4 回 妊産婦の健康診査を通じた健康診査と正常性を維持するための情報収集スキルの検討
- 第 5 回 妊婦とその家族に必要なケアを、親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討
- 第 6 回 妊婦とその家族に必要なケアを、親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討
- 第 7 回 妊婦とその家族に必要なケアを、親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討
- 第 8 回 妊婦とその家族に必要なケアを、親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討
- 第 9 回 妊婦とその家族に必要なケアを、親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討
- 第 10 回 妊婦とその家族に必要なケアを、親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討
- 第 11 回 分娩期の妊産婦ケアと家族のアセスメントならびと家族間の調整、バースプランの活用、分娩ケアのあり方の検討
- 第 12 回 分娩期の妊産婦ケアと家族のアセスメントならびと家族間の調整、バースプランの活用、分娩ケアのあり方の検討
- 第 13 回 分娩期の妊産婦ケアと家族のアセスメントならびと家族間の調整、バースプランの活用、分娩ケアのあり方の検討
- 第 14 回 分娩期の妊産婦ケアと家族のアセスメントならびと家族間の調整、バースプランの活用、分娩ケアのあり方の検討

第 15 回 分娩期の妊産婦ケアと家族のアセスメントならびと家族間の調整、バースプランの活用、分娩ケアのあり方の検討

第 16 回 エビデンスに基づく母乳育児支援のための支援諸活動

第 17 回 エビデンスに基づく母乳育児支援のための支援諸活動

第 18 回 エビデンスに基づく母乳育児支援のための支援諸活動

第 19 回 産褥期の母子とその家族への家族アセスメントとケア

第 20 回 産褥期の母子とその家族への家族アセスメントとケア

第 21 回 地域周産期医療システムと協働

第 22 回 地域周産期医療システムと協働

第 23 回 地域周産期医療システムと協働

第 24 回 地域周産期医療システムと協働

第 25 回 地域周産期医療システムと協働

第 26 回 周産期に関わる相談・教育活動

第 27 回 周産期に関わる相談・教育活動

第 28 回 周産期に関わる相談・教育活動

第 29 回 周産期に関わる相談・教育活動

第 30 回 周産期に関わる相談・教育活動

---

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（50%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅱ（周産期）〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員 20

## 履修条件

## クラス指定

担当者 遠藤 俊子・田邊 美智子・前原 澄子

## テーマ

周産期におけるプライマリーケアと緊急事態に対応したケアの提供方法を検討する。

## 授業の目的（獲得目標）

1 周産期医療施設における妊産婦ならびに新生児、家族の状況に即した質の高いケアを探求する。 2 周産期救急時の対応を検討する。 3 周産期救急や複雑な事例に対応する能力（実践、相談、調整、倫理調整）について学ぶ。

## 内 容

第1回 わが国の妊産婦ケア、安心・安全な医療提供のための健診のあり方とハイリスク 妊産婦・新生児の実態を知り、異常の早期発見や搬送

第2回 わが国の妊産婦ケア、安心・安全な医療提供のための健診のあり方とハイリスク 妊産婦・新生児の実態を知り、異常の早期発見や搬送

第3回 周産期医療における医療機器の活用

第4回 周産期医療における医療機器の活用

第5回 周産期救急の医療支援 医療介入時の看護職の活動の実際 母子と家族への支援の実際

第6回 周産期救急の医療支援 医療介入時の看護職の活動の実際 母子と家族への支援の実際

第7回 ハイリスク新生児の蘇生

第8回 高度先進医療を受ける女性と家族の理解とその支援

第9回 高度先進医療を受ける女性と家族の理解とその支援

第10回 高度先進医療を受ける女性と家族の理解とその支援

第11回 事例検討 倫理調整を含む 胎児治療を受けている妊産婦の事例  
超低出生体重児を出生した事例

第12回 事例検討 倫理調整を含む 胎児治療を受けている妊産婦の事例  
超低出生体重児を出生した事例

第13回 事例検討 倫理調整を含む 胎児治療を受けている妊産婦の事例  
超低出生体重児を出生した事例

第14回 事例検討 倫理調整を含む 胎児治療を受けている妊産婦の事例  
超低出生体重児を出生した事例

第15回 事例検討 倫理調整を含む 胎児治療を受けている妊産婦の事例  
超低出生体重児を出生した事例

第16回 事例検討 倫理調整を含む 胎児治療を受けている妊産婦の事例

## 超低出生体重児を出生した事例

|   |      |          |
|---|------|----------|
| 第 17 回 複雑な社会的状況を抱える妊産婦とその家族のケア障がいをもつ多胎児を育てている事例 | 事例検討 | 産褥うつ病の事例 |
| 第 18 回 複雑な社会的状況を抱える妊産婦とその家族のケア障がいをもつ多胎児を育てている事例 | 事例検討 | 産褥うつ病の事例 |
| 第 19 回 複雑な社会的状況を抱える妊産婦とその家族のケア障がいをもつ多胎児を育てている事例 | 事例検討 | 産褥うつ病の事例 |
| 第 20 回 複雑な社会的状況を抱える妊産婦とその家族のケア障がいをもつ多胎児を育てている事例 | 事例検討 | 産褥うつ病の事例 |
| 第 21 回 事例検討からみえた倫理的課題                           |      |          |
| 第 22 回 事例検討からみえた倫理的課題                           |      |          |
| 第 23 回 事例検討からみえた倫理的課題                           |      |          |
| 第 24 回 事例からみえた母子とその家族に必要な他職種・他機関などの調整の実際        |      |          |
| 第 25 回 事例からみえた母子とその家族に必要な他職種・他機関などの調整の実際        |      |          |
| 第 26 回 母子とその家族の看護に必要な相談・教育機能                    |      |          |
| 第 27 回 母子とその家族の看護に必要な相談・教育機能                    |      |          |
| 第 28 回 周産期医療システム内でのマネージメント                      |      |          |
| 第 29 回 周産期医療システム内でのマネージメント                      |      |          |
| 第 30 回 周産期医療システム内でのマネージメント                      |      |          |

---

## 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（50%）参加度（20%）備考（）



## 2010 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅲ（周産期）〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

周産期医療提供システムにおける看護職の働き方を創造する。

授業の目的（獲得目標）

1 変化の激しいわが国の周産期医療の実態を分析できる。 2 これからの母子援助のケアを組み込んだ周産期医療提供システムのあり方をチーム医療の観点からとらえる。 3 新たなシステム構築への調整を行い、周産期医療におけるコーディネーションが自律的にとれる基礎能力を獲得する。 4 周産期の母子援助のためのケアを政策へと結びつける観点を学ぶ。

内 容

|      |                                       |                    |              |
|------|---------------------------------------|--------------------|--------------|
| 第1回  | わが国の周産期医療の実態分析に関する情報収集と整理             | 周産期医療統計            | 周産期          |
|      | 医療対策整備事業の方針、設置基準と実際                   | 母体搬送の定義、搬送理由、基準、手順 | 1995         |
|      | ～2007年の産科医療機関数、従事者数の変化                |                    |              |
| 第2回  | 同上                                    |                    |              |
| 第3回  | 同上                                    |                    |              |
| 第4回  | 同上                                    |                    |              |
| 第5回  | 同上                                    |                    |              |
| 第6回  | 諸外国の周産期ヘルスケアシステムについての情報収集と整理          |                    |              |
| 第7回  | 同上                                    |                    |              |
| 第8回  | 同上                                    |                    |              |
| 第9回  | 同上                                    |                    |              |
| 第10回 | 同上                                    |                    |              |
| 第11回 | 周産期医療における医療訴訟                         |                    |              |
| 第12回 | 同上                                    |                    |              |
| 第13回 | 同上                                    |                    |              |
| 第14回 | 同上                                    |                    |              |
| 第15回 | 医療安全と助産師活動                            | 周産期医療における機能評価      | 医療安全に関わるシステム |
| 第16回 | 同上                                    |                    |              |
| 第17回 | 同上                                    |                    |              |
| 第18回 | 同上                                    |                    |              |
| 第19回 | 同上                                    |                    |              |
| 第20回 | 同上                                    |                    |              |
| 第21回 | 新たな周産期医療システムに関わる看護職（助産師）の役割と機能を整理（遠藤） |                    | 助産師          |

ウムへの参加等を通じて現状の理解を深める

第 22 回 同上

第 23 回 同上

第 24 回 同上

第 25 回 同上

第 26 回 同上

第 27 回 同上

第 28 回 同上

第 29 回 同上

第 30 回 同上

---

### 授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 次世代育成看護学課題研究 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

講義・演習の学びと、自己の臨床体験を踏まえた課題について、研究的手法を用いて課題に取り組む。

授業の目的（獲得目標）

1 文献レビューにより、研究課題の焦点化ができる。 2 研究デザイン、データ収集、分析方法など倫理的側面も配慮した計画書が作成できる。 3 研究施設、参加者などの調整ができ、研究に必要なデータが収集できる。 4 分析を深め論文として完成させ、発表する。

内 容

第1回 研究課題の焦点化（1）

第2回 文献レビュー1

第3回 文献レビュー2

第4回 文献レビュー3

第5回 文献レビュー4

第6回 研究計画書の作成1

第7回 研究計画書の作成2

第8回 研究計画書の作成3

第9回 研究計画書の作成4

第10回 研究フィールドおよび研究参加者の調整

第11回 倫理委員会提出書類の作成

第12回 データ収集1

第13回 データ収集2

第14回 データ収集3

第15回 データ収集4

第16回 データ収集5

第17回 データの分析1

第18回 データ分析2

第19回 データの分析3

第20回 データの分析4

第21回 データの分析5

第22回 考察1

第23回 考察2

第24回 考察3

第25回 論文の作成1

- 第 26 回 論文の作成 2
  - 第 27 回 論文の作成 3
  - 第 28 回 論文の作成 4
  - 第 29 回 論文の作成 5
  - 第 30 回 抄録の作成
- 

#### **授業以外での学習方法**

次世代育成看護学実との関連でデータの収集を実施

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（30%）参加度（50%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 次世代育成看護学特別研究 <M a>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 次世代育成看護学特別研究 <M b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 広域看護学特論 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

国際保健・国際看護 異文化看護、看護教育

### 授業の目的（獲得目標）

多文化共生社会における人々の健康や看護の人材育成上の問題について、国際保健・国際看護、異文化看護の概念を踏まえ、地域、管理、教育の各機能が統合した実践活動の応用や活用に関して考察する。

### 内 容

- 第1回 ガイダンス 実践看護基礎学・応用学・次世代育成看護学に基づく看護実践活動領域とは
- 第2回 多文化共生社会における人々の健康問題と医療・看護の現状①国内の動向
- 第3回 医療政策、医療経営・管理の課題に対するアプローチ（看護教育・実践看護）
- 第4回 医療政策、医療経営・管理の課題に対するアプローチ（キャリア開発、看護管理）
- 第5回 多文化共生社会における人々の健康問題と医療・看護の現状②世界の動向
- 第6回 国際保健医療・看護協力の課題に対するアプローチ（内外の開発援助システムと看護職）
- 第7回 文化とのかかわりからみた看護理論、内外研究の動向
- 第8回 優れた看護実践と文化とのかかわりからみた広域看護学の展望と課題
- 第9回 人々の保健行動関連の諸理論
- 第10回 教育方法論：生涯学習と成人教育
- 第11回 教育課程：カリキュラム作成過程、カリキュラムの型
- 第12回 教育課程：理念、教育目標、科目目標、目標分類学、看護教育における行動目標と評価
- 第13回 教育方法：ポートフォリオ、他
- 第14回 教育評価：評価とは
- 第15回 広域看護学関連の研究動向

### 授業以外での学習方法

特になし

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）

参加度 ( ) 備考 ( )



|       |              |     |    |
|-------|--------------|-----|----|
| 科目名   | 国際看護学 <M>    |     |    |
| クラス   | 配当回生         | 1回生 |    |
| 講義期間  | 後期前半         | 定員  | 30 |
| 履修条件  |              |     |    |
| クラス指定 |              |     |    |
| 担当者   | 竹下 夏美, 戸塚 規子 |     |    |

### テーマ

異文化背景をもつ対象に、質の高い看護を提供するために必要な理論とその展開の方法

### 授業の目的（獲得目標）

異文化背景をもつ対象に、質の高い看護を提供するために必要な理論とその展開の方法を理解する。また国際的な健康問題とその動向、国際協力の基本理念・開発目標、地域によって異なる看護の機能をふまえて、看護に期待される役割とその可能性を考察する。 [内容] 看護専門者として、異文化背景を持つ対象の理解に不可欠な視点（文化、信条、価値観など）を深め、同じ文化背景を持つ対象に対するものと変わらぬ質の高い看護を提供する為に必要な理論とその展開法を学習する。また、看護職の視点から世界の健康問題とその動向を学び、状況によっ

### 内 容

- 第1回 国際看護の概念と国際協力の基本理念・開発目標
- 第2回 国際的な健康問題と看護における課題（概要）
- 第3回 国際的な健康問題と看護①：母子保健
- 第4回 国際的な健康問題と看護②：H I V/AIDS
- 第5回 国際的な健康問題と看護③：感染症
- 第6回 看護の国際協力活動①看護行政・管理
- 第7回 看護の国際協力活動②看護教育
- 第8回 看護の国際協力活動③臨床看護
- 第9回 看護の国際協力活動④地域看護
- 第10回 看護の国際協力活動⑤災害看護
- 第11回 日本に居住する外国人に対する看護の役割①
- 第12回 日本に居住する外国人に対する看護の役割②
- 第13回 海外に居住する日本人に対する看護の役割
- 第14回 国際協力の戦略的プログラムと技術協力技法
- 第15回 国際看護学の今後の課題

### 授業以外での学習方法

保健医療分野の国際協力、ODA 関連記事に関心を持って見聞する

### 教科書

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する）

|       |           |     |    |
|-------|-----------|-----|----|
| 科目名   | 地域看護学 <M> |     |    |
| クラス   | 配当回生      | 1回生 |    |
| 講義期間  | その他       | 定員  | 30 |
| 履修条件  |           |     |    |
| クラス指定 |           |     |    |
| 担当者   | 閉講（開⇒閉）   |     |    |

### テーマ

地域看護活動のあり方

### 授業の目的（獲得目標）

地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点を確立する。 [内容] 地域看護の発展の歴史から、概念や活動の理論的根拠を理解し、地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点を確立する。さらに地域の人々の健康ニーズの把握・アセスメント・看護活動の計画・実施・評価の過程を学習するとともに、住民と協働する地域看護活動のあり方を主体的に学ぶ。

### 内 容

- 第1回 地域看護の歴史と概念
- 第2回 Primary Health Care の概念、活動の視点
- 第3回 わが国の保健政策の歩みと健康概念の変遷
- 第4回 Health Promotion の理念と地域看護学
- 第5回 地域看護学の特徴的な考え方① 対象の理解：個人、家族、集団、地域
- 第6回 地域看護学の特徴的な考え方②対象の健康レベルと生活の理解
- 第7回 地域看護学における専門的技術①保健指導：法的根拠と方法
- 第8回 地域看護学における専門的技術②家庭訪問：目的、対象、方法：家族支援
- 第9回 地域看護学における専門的技術③健康相談：目的、対象、方法
- 第10回 地域看護学における専門的技術④健康教育：目的、対象、方法：保健行動
- 第11回 地域看護学における専門的技術⑤グループ作り：集団への支援
- 第12回 Health Promotion の理念に基づいた健康づくり活動の地域での展開法
- 第13回 地域看護活動における保健師の役割①健康ニーズの把握、ケアコーディネート
- 第14回 地域看護活動における保健師の役割②ネットワーク、住民参画と政策化
- 第15回 地域看護学における研究の動向と方法

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（主体的参加状況、レポート）

科目名 看護教育学特論 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 高橋 みや子

テーマ

教育プログラム作成、教育方法、教育評価及授業に関する諸理論を習得し、実践の場面で活用し、看護職者の教育機能を十分に発揮できる。

授業の目的（獲得目標）

1. 日本の看護基礎教育及び看護継続教育を制度的に概観し、現状及び将来の課題を明確にする。 2. 看護学実習を制度的に概観し、現状及び将来の課題を明確にする。 3. 教育プログラム作成、教育方法、教育評価及授業に関する諸理論を習得し、実践の場面で活用できる。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 看護基礎教育制度論：現行学校教育法、大学・短期大学・専修学校の設置

基準

第3回 看護基礎教育制度論：現行保助看法、保助看学校養成所指定規則、運営に  
指導要領

関する

第4回 看護基礎教育制度論：教育機関及び保助看学校養成所指定規則の歴史的変  
状及び将来展望

遷と現

第5回 ②～④の講義に対する質疑、ディスカッション

第6回 看護教育課程：統合カリキュラム製作過程（看護学実習含む）と具体例

第7回 院生の看護教育課程に関するプレゼンテーション

第8回 看護教育方法：授業・演習・実習の組み立て

看護学実習の構造と指導者

第9回 看護教育方法：教材作成・教材解釈、教育方法、教育技法

第10回 看護継続教育：制度化された課程（大学院、専門看護師、認定看護師等）  
現任教育、プリセプター・プリセプティ

新人教育、

第11回 看護基礎教育機関と看護継続教育の連携・協働の現状と問題点

第12回 院生の⑧～⑩に関するプレゼンテーション

第13回 看護教育評価：評価とは、プログラム評価、授業評価、教員・看護職者の

評価

第14回 院生の⑬に関するプレゼンテーション

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

**成績評価**

試験（なし）小テスト（なし）授業中課題（20%）授業中発表等（40%）参加度（40%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 看護管理学特論 <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

ヘルスケアシステムにおける看護管理の実践のあり方

### 授業の目的（獲得目標）

看護管理論で学んだ諸理論、管理プロセス、実践システムを踏まえて、看護サービス管理に係る研究の動向と課題を明らかにし、医療提供システムや看護に影響する看護管理上の要因について認識を深め、ヘルスケアシステムにおける看護管理の実践のあり方を探求する

### 内 容

第1回 看護サービス管理に係る研究の動向と課題

第2回 医療提供システムや看護に影響する看護管理に係る要因の明確化

第3回 第3回～15回は、看護の質保証と顧客満足、リスクマネジメント、人材育成・キャリア開発、人的資源管理、人間の尊厳と権利、生命倫理、医療・看護情報、経営効率、看護制度等の今日的課題から、履修生の関心テーマを考慮して計画し、文献講読と討議を中心に進める。

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

### 授業以外での学習方法

広く関連図書・専門誌・論文を読み、自らの看護管理に係る関心領域を明確にしておく

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）  
参加度（）備考（）



科目名 広域看護学演習 I <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

研究課題を明確にして、適切な研究方法を検討する。

授業の目的（獲得目標）

1. 自己の研究課題に関連する国内外の文献検索を行い、検討し、自己の研究課題を明確にする。 2. 自己の研究課題に活用できる諸理論及び研究方法を習得する。 3. フィールド調査を行い、得たデータの分析を試み、その際に生じた疑問、問題等を解決する過程を通して、研究課題・研究方法・分析方法を明確にする。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 研究課題を明確にするための国内外の文献検索①

第3回 研究課題を明確にするための国内外の文献検索②

第4回 研究課題を明確にするための国内外の文献検索③

第5回 研究課題に活用できる諸理論の検討①

第6回 院生の研究課題に関するプレゼンテーション

第7回 研究課題に活用できる研究方法の検討①

第8回 研究課題に活用できる研究方法の検討②

第9回 研究課題に活用できる分析方法の検討①

第10回 研究課題に活用できる分析方法の検討②

第11回 院生の研究課題と研究方法に関するプレゼンテーション

第12回 フィールドワーク技法の基礎理論として、観察・記録・インタビューの検討①

第13回 フィールドワーク技法の基礎理論として、観察・記録・インタビューの検討②

第14回 院生の研究課題のデータ収集に関するプレゼンテーション

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（なし）小テスト（なし）授業中課題（30%）授業中発表等（40%）参加度（30%）備考（）

科目名 広域看護学演習Ⅱ <M>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

看護管理学の実践への適用を探求する

### 授業の目的（獲得目標）

看護管理学特論での学習を踏まえ、実践への適用を探求する。特に臨床における看護管理を取り巻く現象を取り上げ、理論—実践—研究の関連性を分析し、看護ケアの質の向上に向けての看護管理研究のあり方について探求する。また、病院経営・管理における看護職管理者の活動実例について学び、上級看護管理者が病院経営・管理に参画するための課題と展望について探求する

### 内 容

- 第1回 ガイダンス、(授業目標と授業のすすめ方、学習の意義)
- 第2回 病院経営・管理における看護管理を取り巻く現象①（組織、チーム医療、人的資源の活用）
- 第3回 病院経営・管理における看護管理を取り巻く現象②（クオリティ・インプルーブメント）
- 第4回 病院経営・管理における看護管理を取り巻く現象③（病院経営・経済）
- 第5回 看護管理学の課題および研究における関心領域の明確化と文献検討
- 第6回 関心領域の看護管理学の理論および研究に関する文献学習①
- 第7回 関心領域の看護管理学の理論および研究に関する文献学習②
- 第8回 関心領域の看護管理学の理論および研究に関する文献学習③
- 第9回 関心領域の看護管理学の理論および研究に関する文献学習④
- 第10回 関心領域の看護管理学の理論および研究に関する文献学習⑤
- 第11回 病院経営・管理における上級看護管理者の課題と展望①
- 第12回 病院経営・管理における上級看護管理者の課題と展望②
- 第13回 病院経営・管理における上級看護管理者の課題と展望③
- 第14回 病院経営・管理における上級看護管理者の課題と展望④
- 第15回 看護管理学における実践および研究課題の明確化と発展の方向性

### 授業以外での学習方法

病院経営への上級実践看護管理者の参画の実際を研修する

教科書

参考書

## 成績評価

試験（レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）  
参加度（）備考（）

科目名 広域看護学演習Ⅲ 〈M〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

地域看護および国際看護活動の歴史と変遷を踏まえた国際的理論と多文化共生社会に対する理解

授業の目的（獲得目標）

地域看護活動においては、個人・家族とともに地域全体を対象とした活動が実践される。地域の人びとの活動拡大とともに、地域看護活動の国際的展開が要請されている。国際看護活動の歴史と変遷を踏まえ、国際的理論と多文化共生社会に対する理解を深め、実践された方法や活動例を学ぶ。

内 容

- 第1回 広域看護学演習Ⅲの概要と学習の進め方
- 第2回 対象別地域看護活動①母子保健活動実践例
- 第3回 対象別地域看護活動②成人、老年保健活動実践例
- 第4回 対象別地域看護活動③精神保健活動実践例
- 第5回 対象別地域看護活動④難病保健活動実践例
- 第6回 地域看護活動におけるネットワーク構築
- 第7回 国際看護の概念と国際看護活動
- 第8回 異文化と看護
- 第9回 開発途上国に対する看護および国際看護協力の実際
- 第10回 日本に在住する外国人に対する看護
- 第11回 国際看護・異文化看護の考え方の活用
- 第12回 国際保健・国際看護の課題に対するアプローチ（演習①）
- 第13回 国際保健・国際看護の課題に対するアプローチ（演習②）
- 第14回 国際保健・国際看護の課題に対するアプローチ（演習③）
- 第15回 国際保健・国際看護学分野の研究方法与課題

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）

参加度 ( ) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 広域看護学特別研究 <M c>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 教職入門

クラス 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 西谷 英昭

テーマ

これからの教員に求められる資質や能力を養うための心構えについての認識を深める。

### 授業の目的（獲得目標）

変化の激しい時代を踏まえ、教職の意義や教員の責務を理解する。その職務は人間の心身の発達に関与し、子どもたちの人格形成に大きな影響を与えることを認識する。学校教育上の具体的な課題を主体的に考察する資質・能力を養う。

### 内 容

第1回 授業ガイダンス、「教職入門」イントロダクション（その意義・ねらいを理解し考える）。

第2回 教育とは？（1）：教育基本法、先人の思想・理念などから考える。

第3回 教育とは？（2）：「人格の成長」「可能性に生きる」「自己実現」を実感的に認識する試み。

第4回 教職の特殊性と教師像（聖職者？労働者？専門職者？）

第5回 教師の仕事と役割（1）：教育課程編成、教科指導、生徒指導

第6回 教師の仕事と役割（2）：特別活動、健康安全教育、公簿・書類作成、研  
 修な  
 ど

第7回 教師の仕事と役割（3）：総合的学習の時間、評価の問題など

第8回 先生の日

第9回 教師の法的問題（身分、サービスなど）

第10回 教師の資質と能力

第11回 理想の教師を考える

第12回 今、教育現場では・・・（1）不登校、いじめ、特別支援など

第13回 今、教育現場では・・・（2）家庭、地域、社会との関連など

第14回 先生への道：教員採用試験、教師の喜び（教師冥利）

第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

日常的に、教育に関する情報や資料（テレビ、ラジオ、新聞、教育雑誌等）に目を配るようにして下さい。現場教師の研究会や公開授業、学校でのボランティアなどあれば積極的に参加することを勧める。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（80%）小テスト（0%）授業中課題（20%）授業中発表等（0%）参加度（0%）備考（授業規律を守れない者には減点等あり。）



---

科目名 教育心理学 <a>

---

クラス a

配当回生 1回生

---

講義期間 前期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 宮嶋 邦明

---

テーマ

子どもの発達と教育

---

### 授業の目的（獲得目標）

「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する理解を深めるとともに、指導や支援の際の、基本的な視点の習得をめざす。教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。

---

### 内 容

- 第1回 教育心理学とは、本講義が目指すもの
  - 第2回 系統発生と個体発生
  - 第3回 発達の原理と発達に必要な基本条件
  - 第4回 教育におけるピアジェとヴィゴツキー
  - 第5回 学習の原理と学習理論（「行動主義学派」）
  - 第6回 学習の原理と学習理論（「ゲシュタルト学派」）
  - 第7回 忘却の原理と忘却理論
  - 第8回 学習動機とは、学習動機に関する2つの学説
  - 第9回 学習動機とその発達（障外のある児童の学習課程を含む）
  - 第10回 人格の構造と人格理論（障がいのある児童の発達を含む）
  - 第11回 欲求の階層構造と人格発達
  - 第12回 適応と防衛機制
  - 第13回 教育評価とは、指導と評価
  - 第14回 教育評価の方法（絶対評価、相対評価、到達度評価など）
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

授業は包括的、概論的なものとなるため、それを補う意味で、各柱立てごとにレポートを課す。その際、提示された文献等を必ず参照すること。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (70%) 備考 ( )

---

科目名 教育心理学 <b>

---

クラス b

配当回生 1回生

---

講義期間 後期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 半澤 礼之

---

テーマ

子どもの発達と教育について学ぶ

---

### 授業の目的（獲得目標）

子どもの教育のためには、彼らの「発達」や「学習」、「人格」などについても理解しなければならない。本科目では、心理学における「発達理論」「学習理論」「人格理論」等の基礎概念の習得を通じて子どもに対する理解を深めるとともに、指導や支援の際の基本的な視点の修得をめざす。

---

### 内 容

- 第1回 イントロダクション：教育心理学とは何か・本講義の目的
  - 第2回 発達の理論-1：人間の発達に影響を与えるもの
  - 第3回 発達の理論-2：発達段階論からみた児童期・青年期
  - 第4回 人格の構造と人格理論：子どもの個人差を捉える
  - 第5回 自分らしさの模索：青年期の自我同一性の発達
  - 第6回 学習の原理と学習理論
  - 第7回 学習方略と学習観
  - 第8回 記憶のメカニズム
  - 第9回 欲求の階層構造と動機づけ理論
  - 第10回 動機づけ理論の展開
  - 第11回 特別な教育的ニーズを持つ子どもへの援助
  - 第12回 学級集団の理解と評価
  - 第13回 子どもの学びを評価する：教育評価とは何か
  - 第14回 学校では今、何がおこっているのか
  - 第15回 まとめ：教育心理学を更に理解するために
- 

### 授業以外での学習方法

毎回資料を配布するので、授業後にそれを復習することが望ましい

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（50%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（毎回授業の終わりにコメントシートを提出してもらいます。コメントシートを提出しない場合には出席とはみなしません。）

---

科目名 教育原論〈a〉

---

クラス a

配当回生 1回生

---

講義期間 後期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 八木 英二

---

テーマ

教育事象の基本をつかみ教育的発達の意味を探る

---

### 授業の目的（獲得目標）

具体的事例をふまえた今日の学校教育や幼児教育の実態と今後の課題を明らかにし、教育事象の基本が理解できるようになる。現代教育の課題、教育の本質・目的のあり方、生涯学習の視点を含む教育の制度・行政、学級経営、教育の内容や方法のあり方などの考察を通して、教育事象の基本が理解できるようにする。

---

### 内 容

- 第1回 教育の理念
  - 第2回 教育に関する歴史及び思想
  - 第3回 発達と教育
  - 第4回 不登校・登校拒否への対応
  - 第5回 学力形成と教育方法
  - 第6回 いじめ克服の指導
  - 第7回 ヒューマンサービス労働と教職
  - 第8回 教科指導と生活指導
  - 第9回 幼小中高の接続問題と進路
  - 第10回 学校制度・施設のあり方
  - 第11回 教師の専門職性と役割変化
  - 第12回 教育万能論と教育決定論について
  - 第13回 教職の不確実性と無定量性について
  - 第14回 教育実践と指導力量
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

様々な教育書を意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（40%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（0%） 参加度（30%） 備考（）

---

科目名 教育原論〈b〉

---

クラス b

配当回生 1回生

---

講義期間 春期集中

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 八木 英二

---

テーマ

教育事象の基本をつかみ教育的発達の意味を探る

---

### 授業の目的（獲得目標）

具体的事例をふまえた今日の学校教育や幼児教育の実態と今後の課題を明らかにし、教育事象の基本が理解できるようになる。現代教育の課題、教育の本質・目的のあり方、生涯学習の視点を含む教育の制度・行政、学級経営、教育の内容や方法のあり方などの考察を通して、教育事象の基本が理解できるようにする。

---

### 内 容

- 第1回 教育の素朴概念
  - 第2回 競争社会と教育
  - 第3回 発達と教育
  - 第4回 不登校・登校拒否への対応
  - 第5回 学力形成と教育方法
  - 第6回 いじめ克服の指導
  - 第7回 ヒューマンサービス労働と教職
  - 第8回 教科指導と生活指導
  - 第9回 幼小中高の接続問題と進路
  - 第10回 学校制度・施設のあり方
  - 第11回 教師の専門職性と役割変化
  - 第12回 教育万能論と教育決定論について
  - 第13回 教職の不確実性と無定量性について
  - 第14回 教育実践と指導力量
  - 第15回 授業のまとめ
- 

### 授業以外での学習方法

様々な教育書を各自で意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (40%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (30%) 備考 ( )



科目名 教育制度論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 春期集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 土屋 基規

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

授業の目的（獲得目標）

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。 [授業の概要] 現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 I 憲法・教育基本法制 ①憲法の教育条項

第3回 同 上 ②教育基本法の制定と改正

第4回 同 上 ③国際教育法

第5回 II 学校制度 ①初等・中等教育制度

第6回 同 上 ②就学奨励制度

第7回 同 上 ③教科書制度

第8回 同 上 ④学校の組織運営

第9回 III 教育行政制度 ①中央教育行政組織

第10回 同 上 ②教育委員会制度の創設

第11回 同 上 ③教育委員会制度の展開

第12回 IV 教職員法制 ①教員養成・免許制度

第13回 同 上 ②教員採用制度

第14回 同 上 ③教員研修制度

第15回 同 上 ④教員評価制度

授業以外での学習方法

講義を通じ、または自主的に発見した課題について、教育関係の雑誌、情報等で問題の所在と改革の課題を学習研究し、中間または最終的なレポートにまとめ、提出することを要求する。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (50) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 教育制度論 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 春期集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 土屋 基規

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

授業の目的（獲得目標）

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。 [授業の概要] 現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 I 憲法・教育基本法制 ①憲法の教育条項

第3回 同 上 ②教育基本法の制定と改正

第4回 同 上 ③国際教育法

第5回 II 学校制度 ①初等・中等教育制度

第6回 同 上 ②就学奨励制度

第7回 同 上 ③教科書制度

第8回 同 上 ④学校の組織運営

第9回 III 教育行政制度 ①中央教育行政組織

第10回 同 上 ②教育委員会制度の創設

第11回 同 上 ③教育委員会制度の展開

第12回 IV 教職員法制 ①教員養成・免許制度

第13回 同 上 ②教員採用制度

第14回 同 上 ③教員研修制度

第15回 同 上 ④教員評価制度

授業以外での学習方法

講義を通じ、または自主的に発見した課題について、教育関係の雑誌、情報等で問題の所在と改革の課題を学習研究し、中間または最終的なレポートにまとめ、提出することを要求する。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (50) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 備考 ( )

科目名 教育制度論 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 教育制度論Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 教育制度論Ⅱ <b>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 教育課程研究

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 八木 英二

テーマ

教育課程の構造と教育実践

### 授業の目的（獲得目標）

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわ

### 内 容

- 第1回 教育課程の構造と意味
- 第2回 内申書、通知票について
- 第3回 目標と評価のあり方
- 第4回 観点別評価の意味
- 第5回 教育実践評価と授業公開（中等）
- 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理（中等）
- 第7回 教科書の採択システム
- 第8回 教科書づくり
- 第9回 教科と教科外の教育方法（中等）
- 第10回 総合学習について（中等）
- 第11回 身体と教育課程（中等）
- 第12回 教育課程と授業づくり（中等）
- 第13回 思春期の教育階梯
- 第14回 SNE（特別なニーズ教育）について
- 第15回 授業のまとめ

### 授業以外での学習方法

よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。

### 教科書



**成績評価**

試験（40%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（30%）備考（）

---

科目名 道徳教育〈Z〉

---

クラス Z

配当回生

---

講義期間 秋期集中

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 碓井 敏正

---

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

---

### 授業の目的（獲得目標）

押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

---

### 内 容

- 第1回 道徳とは何か
  - 第2回 中学生期の発達の特徴
  - 第3回 道徳教育の歴史（明治～大正）
  - 第4回 道徳教育の歴史（戦後）
  - 第5回 全面主義と特設主義
  - 第6回 他の教科と道徳教育の関連
  - 第7回 道徳教育と特別活動
  - 第8回 道徳教育と総合学習
  - 第9回 道徳の内容の理解
  - 第10回 道徳教育の要としての道徳の時間
  - 第11回 道徳の時間の展開
  - 第12回 道徳の時間の実践例
  - 第13回 家庭、地域と道徳教育
  - 第14回 道徳教育と評価
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

時事的な話題として取り上げられる、教育問題や現代の青少年の精神状況や行動の特徴などに絶えず、関心を払うこと。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（70%） 小テスト（） 授業中課題（） 授業中発表等（30%） 参加度（） 備考（）

科目名 道徳教育の理論と方法

クラス 配当回生 1回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 碓井 敏正

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

### 授業の目的（獲得目標）

押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

### 内 容

- 第1回 道徳とは何か
- 第2回 中学生期の発達の特徴
- 第3回 道徳教育の歴史（明治～大正）
- 第4回 道徳教育の歴史（戦後）
- 第5回 全面主義と特設主義
- 第6回 他の教科と道徳教育の関連
- 第7回 道徳教育と特別活動
- 第8回 道徳教育と総合学習
- 第9回 道徳の内容の理解
- 第10回 道徳教育の要としての道徳の時間
- 第11回 道徳の時間の展開
- 第12回 道徳の時間の実践例
- 第13回 家庭、地域と道徳教育
- 第14回 道徳教育と評価
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

時事的な話題として取り上げられる、教育問題や現代の青少年の精神状況や行動の特徴などに絶えず、関心を払うこと。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（70%） 小テスト（） 授業中課題（） 授業中発表等（30%） 参加度（） 備考（）

科目名 特別活動論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

特別活動の具体的な事例を考察し、ワークショップを通して学ぶ。

### 授業の目的（獲得目標）

特別活動の事例を理解し、指導計画を作成すること、体験することを目的とする。特別活動が示す領域を理解し、その後、学級活動の指導、行事に関わる指導、安全指導について学ぶ。特に安全指導では、ワークショップを取り入れる。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mail はある程度使えることが望ましい。\* 外部講師の先生のご予定、受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。

### 内 容

第1回 特別活動とは 特別活動が扱う領域を学習指導要領で確認する。

第2回 学級活動 1 日常生活。当番活動、係り活動、教科係り、プロジェクトチーム。学級開き（ゲーム、why-because-game, 流れ）、学級収め、どう言い返すのワーク（データ収集）、掃除指導、席替え、班長会議、連絡カード

第3回 学級活動 2 学級行事。転入生を迎える、転校生を送り出す、進路指導、進路宣言、安全指導

第4回 その他 学芸行事／体育大会／学年行事／学校行事／儀式など 担任の仕事

第5回 課題作成 遠足指導の実踏計画 遠足指導の実踏計画を作成する。

第6回 遠足指導の実踏計画を作成する。（アイデア出し）

第7回 遠足指導の実踏計画を作成する。（まとめ）

第8回 遠足指導の実踏計画を作成する。

第9回 課題回収 お礼状の書き方指導

第10回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。（理論）

第11回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。（実践）

第12回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。（質疑応答）

第13回 特別授業まとめ 授業を受けて、自分の課題、学んだことについての文章を書く。今村先生にお礼状を書く。

第14回 特別授業まとめ 特別授業の講義を受けての体験作文を書く。

第15回 まとめ 特別活動論を振り返りながら評価する。書き込み回覧作文で振り返る。最終課題の提示。

## 授業以外での学習方法

母校に行く機会を作り、各種行事に関する職員会議資料を見せてもらうと良い。想像以上に綿密に計画が立てられていることが分かるだろう。また、それを参考に自分で計画を立ててみるのも勉強になるだろう。

---

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (50%) 備考 ( )

科目名 教育方法の研究

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 梅本 裕

テーマ

授業づくりのイメージをはぐくむ

### 授業の目的（獲得目標）

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得すること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、改善のための処方的知見を得ることができるようになること。80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

### 内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」社会科における発信型の授業とは何か？
- 第2回 「見たこと作文」子どもが＜動く＞授業の条件とは？
- 第3回 「木の葉の駅で」発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか？」教授行為とは何か？
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての＜指示・発問・説明・応答・制御＞
- 第6回 「お化け屋敷で数学を」こどもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」＜雰囲気の良い授業＞の構造は？
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」インターネットとコンピュータでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」＜分析ツールを教える＞国語の授業
- 第11回 「オオカミ狩りはいいことか？」総合学習とは何か？
- 第12回 授業づくりの記号論的構造＜教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価＞
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」授業の機能とITの活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

- (1) 新聞やテレビなどのマスメディアでの教育問題の紹介に注意を払い、理論的説明を試みることを期待する。
- (2) 小中高時代のノートや教科書があれば、それを手がかりにして、自分がどのような授業を受けたかを振り返ってみよう。「教わったようには教えない」とするならば、どんな教え方が可能か考えてみよう。

### 教科書



## 参考書

---

### 成績評価

試験 (50%) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 英語科教育法 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 中原 敦

テーマ

授業業作りの ABC

### 授業の目的（獲得目標）

授業とは・授業づくりとはどういうものかを、体験を通じて理解する。また、英語教師として最低限必要な英語力をつける。模擬授業を積極的に行い、授業づくりに必要な基礎的技術を身につけていく。ほとんどの授業で発表・模擬授業がある。この授業はプロフェッショナルへの第1歩である。受講者は甘えず、真摯に課題に取り組み、積極的に授業に参加することが求められる。

### 内 容

- 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る 体育授業の目的・目標
- 第2回 英語教師のレベルに達する学習の仕方の紹介、発音練習（リズムチャンツ）
- 第3回 「教材研究とは」説明と体験。発音練習（リズムチャンツ2）
- 第4回 英語授業の構造。教案の書き方。発音練習（リズムチャンツ3）
- 第5回 「文法の導入とは」場面づくりの方法。発音練習（破裂音1）
- 第6回 模擬授業1（前置詞、疑問詞）「内容の導入とは」Oral Introductionの方法 発音練習（破裂音2）
- 第7回 模擬授業2（助動詞、中3題材内容）Oral interactionの方法 発音練習（破裂音3）
- 第8回 模擬授業3（不定詞、中2題材内容）先輩の授業から学ぶ 発音練習（摩擦音1）
- 第9回 模擬授業4（現在完了、中1題材内容）単語の提示の仕方 発音練習（摩擦音2）
- 第10回 模擬授業5（比較、高校題材内容）場面転換の方法 発音練習（破擦音）
- 第11回 模擬授業6（受動態、中3題材内容）指示・発問の大切さ 発音練習（鼻音）
- 第12回 模擬授業を通じて、授業の進め方の基礎となる技術を習得する。（種々の言語活動） 発音練習（側音）
- 第13回 模擬授業8（関係代名詞、高校題材内容）生徒への関与、人間関係づくり 発音練習（半母音）
- 第14回 学習指導案の書き方 ビデオによる反省 今までの授業と自分の学びを省察。
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

|       |            |     |    |
|-------|------------|-----|----|
| 科目名   | 英語科教育法Ⅱ    |     |    |
| クラス   | 配当回生       | 3回生 |    |
| 講義期間  | 後期         | 定員  | 40 |
| 履修条件  | 履修許可者のみ履修可 |     |    |
| クラス指定 |            |     |    |
| 担当者   | 中原 敦       |     |    |

## テーマ

授業づくりのABC、 授業者としての感覚づくり、理論と実践の橋渡し。

## 授業の目的（獲得目標）

英語教師として最低限必要な英語力をつける。50分の授業を計画でき、実際に行うことができるようになる。「英語教授のための原理・原則」を学び、実際の授業への応用を考えることができるようになる。英語科教育法Ⅰの達成の上に、教授技術のさらなる体得を目指す。導入や展開のみならず、50分の授業づくりを体験する。4技能に特有な教授技術を学び、総合的なプロジェクト・ワークを体験する。

## 内 容

- 第1回 再イントロダクション 発音練習（子音総復習）
- 第2回 英語授業の構造～導入から説明・音読へ～ 50分授業の組み立て方 種々の音読法 発音練習（短母音1）
- 第3回 グループによる50分模擬授業（1） 理論と実践「第2言語習得理論と教授法」
- 第4回 ビデオによる授業検討会 理論と実践「コミュニケーション能力とは」 発音練習（短母音2）
- 第5回 グループによる50分模擬授業（2）理論と実践「語彙習得論」6回目
- 第6回 ビデオによる授業検討会 理論と実践「自動性の獲得」発音練習（短母音3）
- 第7回 グループによる50分模擬授業（3）理論と実践「有意味学習」
- 第8回 ビデオによる授業検討会 理論と実践「報酬と罰～外発的動機づけ」 発音練習（二重母音）
- 第9回 グループによる50分模擬授業（4）理論と実践「内発的動機づけ」
- 第10回 Reading 活動と授業づくり。理論と実践「学習方略」発音練習（音の変化1）
- 第11回 Listening 活動と授業づくり。理論と実践「言語自我と自信」 発音練習（音の変化2）
- 第12回 Writing 活動と授業づくり。理論と実践「言語と文化」発音練習（総合練習1）
- 第13回 Speaking 活動と授業づくり。理論と実践「中間言語」発音練習（総合練習2）
- 第14回 Project Work 活動と授業づくり。まとめ。
- 第15回

## 授業以外での学習方法

数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。

## 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 備考 ( )

科目名 英語科教育法Ⅲ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

授業作りのABC

### 授業の目的（獲得目標）

(1) 授業とは・授業づくりとはどういうものかを、体験を通じて理解する。また、英語教師として最低限必要な英語力をつける。(2) 国内・国外における英語教育の現状を紹介し、個々の授業においてどのように活かしているかを考察し、実現できるよう工夫していく。

### 内 容

- 第1回 これからの英語教育
- 第2回 異文化コミュニケーションとは？
- 第3回 異文化理解のための教育とは？（日本における異文化理解の歴史から学ぶ）
- 第4回 異文化理解のための教育とは？（諸外国の事例に学ぶ）
- 第5回 リーディングの指導における異文化理解の指導
- 第6回 実践・模擬授業（リーディングを中心としたコミュニケーション）
- 第7回 ライティングの指導における異文化理解の指導
- 第8回 実践・模擬授業（ライティングを中心としたコミュニケーション）
- 第9回 スピーキングとリスニングの指導における異文化理解の指導
- 第10回 実践・模擬授業（スピーキングを中心としたコミュニケーション）
- 第11回 海外におけるESL教育における文化理解指導（アメリカ合衆国、カナダの事例）
- 第12回 海外におけるESL教育における文化理解指導（オーストラリア、ニュージーランドの事例）
- 第13回 異文化への態度変容と外国語学習
- 第14回 実践・模擬授業（第11回目、12回で学んだ海外の事例をもとにして）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。

教科書

参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (20%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|       |            |      |    |
|-------|------------|------|----|
| 科目名   | 国語科教育法 I   |      |    |
| クラス   | 配当回生       | 3 回生 |    |
| 講義期間  | 前期         | 定員   | 40 |
| 履修条件  | 履修許可者のみ履修可 |      |    |
| クラス指定 |            |      |    |
| 担当者   | 池田 修       |      |    |

## テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる。

## 授業の目的（獲得目標）

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。具体的には、漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な参加を期待する。

## 内 容

- 第1回 国語科って何？ 授業ガイダンス 記憶に残る授業は？ 学習指導要領では？ どんな力をつける教科なの？ 国語科教育の歴史 学習権宣言
- 第2回 国語の授業を作る基礎 発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方
- 第3回 メモ指導 聞く生徒を育てるために。 箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法
- 第4回 漢字指導 1 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント
- 第5回 漢字指導 2 自作漢字学習教材の相互評価 四字熟語でポン たほいや 簡単な学習ゲーム論
- 第6回 読書指導 1 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション
- 第7回 読書指導 2 「書き込み回覧作文」による評価 和綴じ本づくり
- 第8回 作文指導 1 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方
- 第9回 作文指導 2 アイディア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価
- 第10回 作文指導 3 「書き込み回覧作文」による評価 テスト問題のつくり方
- 第11回 小テストと定期考査 国語科で行うテストについて、具体的に考え、実際に作ってみる。
- 第12回 音読／プレゼン指導 滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際
- 第13回 句会方式による指導 句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト
- 第14回 小テストと定期考査と採点方法 第11回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
- 第15回 国語科教育法1を評価する 「書き込み回覧作文」による国語科教育法1の評価 \* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

## 授業以外での学習方法

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組で



の授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

---

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（0%）備考（）

科目名 国語科教育法Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 池田 修

## テーマ

実技教科としての国語科のあり方を探る。

## 授業の目的（獲得目標）

教師が「教科書を読んで板書して解説して」という国語科を脱却し、学習者が主体的に学びに参加する国語科の授業を構築するための観点と方法を手に入れることを目的とする。それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として「授業の導入3分間」「教材作り」「学習ゲーム」「模擬授業」などの活動を行う。

## 内容

第1回 国語科と教材作り 授業ガイダンス 夏休みの課題の相互評価。ワークシートの実例から、教材とは何かを考える。学習班づくり。

第2回 国語科を実技教科として考える 学習ゲーム、ワークシート、資料集作り、辞書作り、アンソロジーノート、対義語でポン、和綴じ本作りなど。

第3回 学習ゲームの実際 辞書しり取り、たほいや、why-because ゲーム、無関係ゲーム、ディベート、J1百人一首など。人生名言集

第4回 ワークシートの実際 短編問題集、漢字学習、言語事項学習など。実際にゲームを作ってみる スピーチテスト

第5回 指導案の書き方 1 授業のビデオを見て、その授業の指導案を書いてみる。

第6回 指導案の書き方 2 指導案の相互評価。

第7回 定番教材の指導 韻文 中学校の定番教材として扱われる韻文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。

第8回 定番教材の指導 散文 中学校の定番教材として扱われる散文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。

第9回 定番教材の指導 古典 中学校の定番教材として扱われる古典の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。

第10回 作成教材の検討 1 定番教材として提出した教材を実際を使って、定期考査を作る。

第11回 国語教育の現在 1 メディアリテラシー教育。メディア断食、CMの分析、番組作りなど

第12回 国語教育の現在 2 コンピュータと国語。タッチタイプ、ブログ、デジタルストーリーテリング、読書感想文など

第13回 作成教材の検討 2 第10回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。

第14回 評価／評定指導 評価とは何か、評価から評定への実際

第15回 国語科教育法2を評価する 「書き込み回覧作文」による評価 \* 受講生の取り組み具合、受講生の

リクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

---

### 授業以外での学習方法

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（20%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（0%）備考（）

|       |            |     |    |
|-------|------------|-----|----|
| 科目名   | 国語科教育法Ⅲ    |     |    |
| クラス   | 配当回生       | 3回生 |    |
| 講義期間  | 前期         | 定員  | 40 |
| 履修条件  | 履修許可者のみ履修可 |     |    |
| クラス指定 |            |     |    |
| 担当者   | 神崎 友子      |     |    |

### テーマ

中等国語科教育の実践的な学習指導の研究

### 授業の目的（獲得目標）

中学校における国語科授業の構成、実施、評価にかかわる知識、能力を身につける。特に、教材研究、授業計画、授業分析の実際を通して力量を高める。

### 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 中学校・高等学校国語科の目標と内容
- 第3回 生徒に求められている力（PISA・全国学力テスト）
- 第4回 書くことの学習指導（1）
- 第5回 書くことの学習指導（2）
- 第6回 ルーブリックを用いた評価
- 第7回 小説教材の学習指導（1）
- 第8回 小説教材の学習指導（2）
- 第9回 説明的文章の学習指導（1）
- 第10回 説明的文章の学習指導（2）
- 第11回 古典の学習指導
- 第12回 話すこと・聞くことの学習指導（1）
- 第13回 話すこと・聞くことの学習指導（2）
- 第14回 国語科における新聞活用（NIE）
- 第15回 研究のまとめ

### 授業以外での学習方法

今後、指導者として、一社会人として幅広い知識と教養を身につけるために日々新聞を読むこと。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（60%）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（）

科目名 社会科教育法 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 倉持 祐二

## テーマ

中学校社会科の授業づくりの基礎・基本を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

中学校社会科（地理・歴史・公民）の授業をつくる視点と方法論を獲得する。

## 内 容

- 第1回 社会科の授業を成立させるために
- 第2回 21世紀に求められる中学校の社会科とは
- 第3回 中学校社会科の授業づくりの可能性
- 第4回 地理の授業実践と授業づくりの課題
- 第5回 歴史の授業実践と授業づくりの課題
- 第6回 公民の授業実践と授業づくりの課題
- 第7回 授業で使える教材の選び方・活かし方
- 第8回 学習指導要領と指導案の書き方
- 第9回 地理の学習指導案づくり
- 第10回 地理の学習指導案の検討
- 第11回 歴史の学習指導案づくり
- 第12回 歴史の学習指導案の検討
- 第13回 公民の学習指導案づくり
- 第14回 公民の学習指導案の検討
- 第15回 まとめ（模擬授業の指導案を選ぶ）

## 授業以外での学習方法

中学校の地理・歴史・公民の授業実践に興味をもち、一つでも多くの実践書を読んでほしい。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（単位取得の条件として2/3以上の出席を求める。）

## 2010 Syllabus

科目名 社会科教育法Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 西谷 英昭

テーマ

社会科の実践的授業づくり

### 授業の目的（獲得目標）

中学社会科の授業づくりへの興味・意欲をもつこと。授業の構成要素を理解し、それぞれ（特に板書、発問、教材）に対する実践的能力を培うこと。

### 内 容

- 第1回 授業ガイダンス、中学社会科のねらい。「社会科」誕生の経緯に触れながら。
- 第2回 社会科でつける学力：学力とは？暗記はだめか？
- 第3回 授業を構成するもの：現場の実践から授業の要素を探る。
- 第4回 板書する（1）：語句・文章の吟味、ここで教えたいことは？
- 第5回 板書する（2）：要約する。図示化、順序化を考える
- 第6回 発問を考える：種類、疑問文づくり、指名はどうする？
- 第7回 教材に取り組む（1）：教材づくりの発想
- 第8回 教材に取り組む（2）：副教材・ネタの開発と活用
- 第9回 教材に取り組む（3）：実践家（有田和正氏）のネタづくりから学ぶ
- 第10回 私の教材（ネタ）開発：受講生による「私のネタ」を発表（事前に要領を指示しておく）
- 第11回 授業の型を考える（1）：先生中心と生徒中心。系統学習と問題解決学習
- 第12回 授業の型を考える（2）：バズ、協同学習を中心にさまざまな授業形態を考える
- 第13回 授業をしてみる（1）：受講生による模擬授業（事前に要領を指示する）
- 第14回 授業をしてみる（2）：受講者による模擬授業（事前に要領を指示する）
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

現場教師の実践記録を多く読むこと。現場教師の研究会、公開授業などあれば積極的に参加することを勧める。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（50%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（「授業中課題」に

は、小テストや発表等も含む。「参加度」は出席点で授業態度等がひどい時は減点もある。)

科目名 社会科教育法Ⅲ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 倉持 祐二

## テーマ

模擬授業を通して学ぶ1時間の授業の進め方

## 授業の目的（獲得目標）

中学校社会科の地理・歴史・公民の各分野の模擬授業を行い、授業研究を行う。そして、模擬授業を検討する過程で明らかになった成果と課題を総括し、実践的な指導力を高める。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション、模擬授業のテーマ設定と進め方
- 第2回 集団による指導案の検討
- 第3回 授業研究の方法を学ぶ
- 第4回 模擬授業と授業研究①
- 第5回 模擬授業と授業研究②
- 第6回 模擬授業と授業研究③
- 第7回 模擬授業と授業研究④
- 第8回 模擬授業と授業研究⑤
- 第9回 模擬授業と授業研究⑥
- 第10回 模擬授業と授業研究⑦
- 第11回 模擬授業と授業研究⑧
- 第12回 模擬授業と授業研究⑨
- 第13回 模擬授業と授業研究⑩
- 第14回 模擬授業と授業研究⑪
- 第15回 まとめ

## 授業以外での学習方法

模擬授業の教材研究をすすめる上で、教育内容や教材の研究を深めるための専門書の購読、発問づくりや授業方法を工夫するための実践書の購読をすすめてほしい。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価



試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（単位取得の条件として2/3以上の出席を求める。）

科目名 書道科教育法 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 尾西 正成

## テーマ

模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の現状と課題、その指導の実際を考える

## 授業の目的（獲得目標）

高等学校の現状と指導内容を把握し、教科教材の研究開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備展開できるようにする。授業は、高等学校芸術科書道教員を目指す諸君が、指導の実際を考え、書道の授業に関する諸々を身につけることを目標とする。諸君が書をどうとらえ、生徒たちをどう育てることが出来るのか、講義と模擬授業を通して、さまざまな角度からアプローチを図りたいと思う。※前期は書道1の範囲を中心とする。（漢字、かな他）授業は、受講生の人数とも勘案の上、出来る限り幅広い教材や問題点を取り上げ、実りの

## 内 容

- 第1回 芸術科書道の現状と課題を探る
- 第2回 年間授業計画について①
- 第3回 年間授業計画について②
- 第4回 指導案の基本的な考え方
- 第5回 指導案の書き方
- 第6回 用具用材についての模擬授業と授業研究
- 第7回 楷書領域での模擬授業と授業研究①
- 第8回 楷書領域での模擬授業と授業研究②
- 第9回 楷書領域での模擬授業と授業研究③
- 第10回 仮名領域での模擬授業と授業研究①
- 第11回 仮名領域での模擬授業と授業研究②
- 第12回 行書領域での模擬授業と授業研究①
- 第13回 行書領域での模擬授業と授業研究②
- 第14回 授業研究のまとめ
- 第15回 漢字かな交じりの書について

## 授業以外での学習方法

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

## 教科書

**成績評価**

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40%）授業中発表等（40%）参加度（20%）備考（レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等を総合的に評価することとする）

科目名 書道科教育法Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 尾西 正成

## テーマ

模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の現状と課題、その指導の実際を考える

## 授業の目的（獲得目標）

高等学校の現状と指導内容を把握し、教科教材の研究開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあっては、書道Ⅱ、書道Ⅲ（漢字、かな、漢字仮名交じり他）を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。

## 内 容

- 第1回 授業における興味づけの大切さについて
- 第2回 漢字かな交じり文の展開について
- 第3回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究①
- 第4回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究②
- 第5回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究③
- 第6回 篆書領域での模擬授業と授業研究
- 第7回 隷書領域での模擬授業と授業研究
- 第8回 新しい教材の研究とユニークな授業の展開について また、その吟味と問題点を考える
- 第9回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究①
- 第10回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究②
- 第11回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究③
- 第12回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究④
- 第13回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究⑤
- 第14回 研究授業のまとめ
- 第15回 書道教育の現状と未来のあるべき姿を考える

## 授業以外での学習方法

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

## 教科書

## 参考書

---

## 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（40%）授業中発表等（40%）参加度（20%）備考（レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。）

科目名 地歴科教育法 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

地歴科教育の意義・課題と授業方法

### 授業の目的（獲得目標）

高校地歴科分野の学習内容とその変遷を分析することにより、現代史学習や現代の課題を学ぶことが求められていることを理解する。また、子どもの授業参加を創り出す方法について学ぶ。

### 内 容

- 第1回 教育困難校の授業から考える―「机化」する生徒を起きあがらせる授業はできるか
- 第2回 学習を放棄する高校生が「学ぶ」意味を体感する―学習内容を吟味する
- 第3回 イスラームの導入教材を作る：仮説実験授業でイスラームのイメージをつくる
- 第4回 人物を教材化して歴史を教える：アメリカ社会を動かしたキング牧師
- 第5回 人物を教材化して歴史を教えることの意味：20世紀の人物学習を進めるに当たって
- 第6回 歴史の授業の作り方：資料に語らせる歴史の授業を構想する
- 第7回 歴史学習の課題：現代史学習はなぜ求められているのか
- 第8回 模擬授業づくりに向けて：指導案の作り方、グループ分けとテーマの決定
- 第9回 地理教育の内容と意義
- 第10回 地理の授業を作り方：インドをどう教えるか
- 第11回 模擬授業と授業研究（1）
- 第12回 模擬授業と授業研究（2）
- 第13回 模擬授業と授業研究（3）
- 第14回 模擬授業と授業研究（4）
- 第15回 模擬授業と授業研究（5）

### 授業以外での学習方法

新聞やTVニュース、小説や映画などにふれ、歴史や地理についての関心を深めて欲しい

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（20%）参加度（30%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 地歴科教育法Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

地歴科の授業づくりと模擬授業

### 授業の目的（獲得目標）

現職教師の授業づくりの方法を学ぶとともに、教科書をもとに実際に授業を作って、模擬授業と授業研究をする。

### 内 容

第1回 日本史A」の導入教材をどう作るか（1）：教材研究と教材の開発

第2回 「日本史A」の導入教材をどう作るか（2）：実践報告と授業評価

第3回 模擬授業と授業研究（1）

第4回 模擬授業と授業研究（2）

第5回 模擬授業と授業研究（3）

第6回 模擬授業と授業研究（4）

第7回 模擬授業と授業研究（5）

第8回 模擬授業と授業研究（6）

第9回 模擬授業と授業研究（7）

第10回 模擬授業と授業研究（8）

第11回 模擬授業と授業研究（9）

第12回 模擬授業と授業研究（10）

第13回 模擬授業と授業研究（11）

第14回 模擬授業と授業研究（12）

第15回 模擬授業と授業研究（13）

### 授業以外での学習方法

全国の著名な実践家の授業実践報告を読んだり、民間の教育研究団体の研究会に参加して、現場で授業づくりをおこなっている教師の生の声を聞いて欲しい。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（60%）授業中発表等（10%）参加度（30%）備考（）

科目名 公民科教育法 I

クラス 配当回生 3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

公民科教育の意義・内容・課題

### 授業の目的（獲得目標）

多様化する現代社会について理解を深め、民主的で平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うために、高校公民科教育の意義や内容についての理解を深める。特に、高校での公民科の授業を体験することで、カリキュラム作成、教材開発、授業評価の実際を学ぶ。

### 内 容

- 第1回 学習指導要領のもとの公民科の位置づけとそれを具体化する授業づくりを考える
- 第2回 学習を放棄する生徒を学びの世界に引き戻す授業は可能か？
- 第3回 身近なものを教材化する—コンビニから情報化社会を考える（1）
- 第4回 身近なものを教材化する—コンビニから情報化社会を考える（2）
- 第5回 身近なものを教材化する—コンビニから情報化社会を考える（3）
- 第6回 メディアリテラシー：今日のニュースや国際紛争・事件をどのように教材化するか
- 第7回 新聞で学ぶ現代の社会—「9. 11」からイラク戦争（1）
- 第8回 新聞で学ぶ現代の社会—「9. 11」からイラク戦争（2）
- 第9回 経済分野の授業：絵本『レモンをお金にかえる方』を教材化する（1）
- 第10回 経済分野の授業：絵本『レモンをお金にかえる方』を教材化する（2）
- 第11回 憲法の授業をつくる：日米安保条約と沖縄
- 第12回 憲法の授業をつくる：冷戦終結と日米安保条約
- 第13回 模擬授業と授業研究（1）
- 第14回 模擬授業と授業研究（2）
- 第15回 模擬授業と授業研究（3）

### 授業以外での学習方法

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をすること。新聞を読み、時事問題に留意すること。

### 教科書

### 参考書



## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (30%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 公民科教育法Ⅱ

クラス 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

公民科教育の内容理解と授業づくり

授業の目的（獲得目標）

模擬授業づくりを通して、教材開発の手法とカリキュラムデザインの実際を学ぶ。

内 容

- 第1回 学習指導案を検討する：食糧問題の授業づくり
- 第2回 生命倫理に関する授業を作る：ディベートの手法を学ぶ
- 第3回 倫理の授業をつくる：尾崎豊を教材に青年期の授業をつくる
- 第4回 模擬授業と授業研究（1）
- 第5回 模擬授業と授業研究（2）
- 第6回 模擬授業と授業研究（3）
- 第7回 模擬授業と授業研究（4）
- 第8回 共同研究1：「民主政治の基本原則と日本国憲法」単元の授業案を考える
- 第9回 模擬授業と授業研究（5）
- 第10回 模擬授業と授業研究（6）
- 第11回 共同研究2：「現代の経済」単元の授業案を考える
- 第12回 共同研究3：「現代の国際政治」単元の授業案を考える
- 第13回 「民主政治の基本原則と日本国憲法」の模擬授業
- 第14回 「現代の経済」単元の模擬授業
- 第15回 「現代の国際政治」の模擬授業

授業以外での学習方法

公民科に関する専門教科の学習を深める。また、新聞やメディアの情報を収集して時事問題に関心を持って欲しい。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（20%）参加度（30%）備考（）

科目名 教育相談

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 三山 岳

テーマ

教育相談の理論・カウンセリングマインドの事例理解

### 授業の目的（獲得目標）

学校現場における教育相談の理論と実践、カウンセリングマインドの活用を具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。講義を原則とする。時には具体的な事例や資料を紹介しながら、発言や感想を求め進める。（授業のはじめに前時のまとめと子どもと教育関連ニュースを紹介する）

### 内 容

- 第1回 ガイダンス（子どもの現状と教育相談の意義）
- 第2回 子どもの心・本音と教師・親の悩み、教育相談と学校現場
- 第3回 教育相談の歴史 カウンセリングマインドとは
- 第4回 幼い子どもの登校しぶり
- 第5回 小学生・中学生の不登校
- 第6回 幼い子どもの「いじめ」問題
- 第7回 いじめ問題と子どものうつ病・自殺
- 第8回 現代の子どもの荒れと学級崩壊
- 第9回 子どもの問題行動と非行
- 第10回 少年事件の中の子どもの心と本音
- 第11回 障害を持つ子・発達障害と特別支援教育
- 第12回 現代の子育ての課題と虐待問題
- 第13回 「学力問題」と進路・教育相談
- 第14回 父母保護者・担任の悩みと教育相談
- 第15回 教育相談の理論と実践まとめ 試験・評価について

### 授業以外での学習方法

日頃から新聞等の子ども・教育についての報道に関心を持つ。不登校・いじめ・非行など教育相談・カウンセリングについての教育問題の本を読む。

教科書

参考書

## 成績評価

試験（80%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（）備考（毎授業終了後に小レポート（感想など）の提出を求めます。）

科目名 教職総合演習 <a>

クラス a 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 小寺 隆幸

**テーマ**

平和やいのちのための教育のありかたを考える

**授業の目的（獲得目標）**

平和・いのち・子どもの権利などを巡る事実を認識し、総合学習として取り組んでいくための教材や方法を学ぶ。

**内 容**

- 第1回 問題意識の交流
- 第2回 原爆をどうとらえるか（佐々木禎子さん）
- 第3回 原爆を取り上げた実践から学ぶ
- 第4回 沖縄戦をどうとらえるか（金城重明さん）
- 第5回 沖縄修学旅行の実践から学ぶ
- 第6回 中国侵略をどうとらえるか
- 第7回 ドイツの平和教育の実践から学ぶ
- 第8回 差別を考える（「青い目 茶色い目」）
- 第9回 アウシュビッツで起きたこと
- 第10回 コルチャック先生と子どもの権利条約
- 第11回 現代日本の子どもの権利
- 第12回 いのちの教育
- 第13回 チェルノブイリの子どもたち
- 第14回 現代世界の子どもたち
- 第15回 総合学習の課題

**授業以外での学習方法**

\* 平和や子どもの現状について書かれた新聞や本を読む。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（30%）参加度（20%）備考（）

科目名 教職総合演習 <b>

クラス b

配当回生 3回生

講義期間 秋期集中

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

子どもの心と身体

授業の目的（獲得目標）

文献や資料を読み取り、「課題発見力」の修得を目指す。また、「課題」解決のための方策をグループで話し合い、それをまとめ発表する力の向上を目指す。

内 容

- 第1回 本演習の目標と授業計画について
- 第2回 配布資料の紹介と解説
- 第3回 グループの編成とレポートテーマの討議
- 第4回 レポートテーマと役割分担の確定
- 第5回 グループ討議とレポートの準備
- 第6回 グループ討議とレポートの準備
- 第7回 グループ討議とレポートの作成
- 第8回 グループ討議とレポートの作成
- 第9回 レポート発表
- 第10回 レポート発表
- 第11回 レポート発表
- 第12回 レポート発表
- 第13回 各レポートについての相互批評
- 第14回 各レポートについての相互批評
- 第15回 全体まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（）

科目名 教職総合演習 <c>

クラス c

配当回生 3回生

講義期間 後期

定員 25

**履修条件**

クラス指定 大学指定

担当者 井ノ口 貴史

**テーマ**

現代社会における教育問題について考える

**授業の目的（獲得目標）**

現代社会が抱える課題を見つけ、グループでテーマを設定し、探求し、まとめ、発表することを通して、主体的に現代的課題に取り組む力を身につける。

**内 容**

- 第1回 授業の進め方とガイダンス
- 第2回 現代の教育問題：新自由主義と教育を考える
- 第3回 ビデオ視聴「しのびよる貧困—子どもを救えるか」
- 第4回 テーマにそった発表と討論①
- 第5回 テーマにそった発表と討論②
- 第6回 テーマにそった発表と討論③
- 第7回 テーマにそった発表と討論④
- 第8回 テーマにそった発表と討論⑤
- 第9回 テーマにそった発表と討論⑥
- 第10回 テーマにそった発表と討論⑦
- 第11回 テーマにそった発表と討論⑧
- 第12回 テーマにそった発表と討論⑨
- 第13回 テーマにそった発表と討論⑩
- 第14回 テーマにそった発表と討論⑪
- 第15回 テーマにそった発表と討論⑫

**授業以外での学習方法**

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、研究テーマについての関連図書を読み込むこと。

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (30%) 備考 ( )



## 2010 Syllabus

科目名 教職総合演習 <d>

クラス d 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

## 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 三山 岳

## テーマ

教育における子どもの心の問題にどう取り組むか

## 授業の目的（獲得目標）

教育の現場でみられる子どもの心の問題を取りあげ、グループでそれぞれ探究する研究テーマを決めて報告・発表をします。報告・発表では教室での指導を念頭に、具体的に教材を作り上げていくことを目指します。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教育相談と学校カウンセリング
- 第3回 発達障害と特別支援教育について考える
- 第4回 スクールカウンセラーや専門機関との連携
- 第5回 グループ発表のためのワーキング①
- 第6回 グループ発表のためのワーキング②
- 第7回 「教材」を用いたグループ発表と全体での討論①
- 第8回 「教材」を用いたグループ発表と全体での討論②
- 第9回 「教材」を用いたグループ発表と全体での討論③
- 第10回 「教材」を用いたグループ発表と全体での討論④
- 第11回 「教材」を用いたグループ発表と全体での討論⑤
- 第12回 「教材」を用いたグループ発表と全体での討論⑥
- 第13回 「教材」を用いたグループ発表と全体での討論⑦
- 第14回 「教材」を用いたグループ発表と全体での討論⑧
- 第15回 全体を通してのまとめ

## 授業以外での学習方法

各自のグループで設定したテーマについて書かれた実践報告や記録を探し、どのような教材と取り組みがなされたかについての理解を深めておく

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 教職総合演習〈初a〉

クラス 初a 配当回生 3回生

講義期間 後期 定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 八木 英二

#### テーマ

現代教育問題に意識と関心を持ち、主体的なグループ学習と問題解決型学習の体験と指導力を高める。

#### 授業の目的（獲得目標）

現代社会の教育諸問題他から、グループでテーマを設定し、探求し、まとめ、ディベート、発表することを通して、主にグループ学習、問題解決学習の課題・指導法を学ぶ。とりわけ昨今大きな社会問題として話題を呼んできた教育再生営みの対象としての「教育と社会問題」「教師の資質問題」「学力問題」「いじめ・不登校・体罰の問題」「子どもの権利条約」「モンスターペアレンツ問題」などを捉える視点を掘り下げる。「講義」「グループ討議」「発表」を組み合わせる。

#### 内容

第1回 授業の趣旨・進め方のガイダンス、アイスブレイキング

第2回 共通課題学習（1）

第3回 共通課題学習（2）

第4回 共通課題学習（3）

第5回 共通課題学習（4）

第6回 グループ形成とテーマ選定及び探求方針の検討

第7回 グループ学習と発表準備（1）

第8回 グループ学習と発表準備（2）

第9回 グループ発表（1）と相互評価

第10回 グループ発表（2）と相互評価

第11回 グループ発表（3）と相互評価

第12回 グループ発表（4）と相互評価

第13回 グループ発表（5）と相互評価

第14回 グループ発表（6）と相互評価

第15回 まとめと今後の課題

#### 授業以外での学習方法

○新聞などに必ず目を通し、テーマにそった実践記録や文献を読むこと。 ○現代社会が直面している諸問題に広く深く関心を持つこと。

#### 教科書

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (0%) 備考 ( )

科目名 教職総合演習〈初b〉

クラス 初b

配当回生 3回生

講義期間 後期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小寺 隆幸

#### テーマ

現代教育問題に意識と関心を持ち、主体的なグループ学習と問題解決型学習の体験と指導力を高める。

#### 授業の目的（獲得目標）

現代社会の教育諸問題から、グループでテーマを設定し、探求し、まとめ、発表することを通して、主にグループ学習、問題解決学習の課題・指導法を学ぶ。とりわけ昨今大きな社会問題として話題を呼んできた教育再生営みの対象としての「教育と社会問題」「教師の資質問題」「学力問題」「いじめ・不登校・体罰の問題」「子どもの権利条約」「モンスターペアレンツ問題」などを捉える視点を掘り下げる。

#### 内 容

第1回 授業の趣旨・進め方のガイダンス、アイスブレイキング

第2回 共通課題学習（1）

第3回 共通課題学習（2）

第4回 共通課題学習（3）

第5回 共通課題学習（4）

第6回 グループ形成とテーマ選定及び探求方針の検討

第7回 グループ学習と発表準備（1）

第8回 グループ学習と発表準備（2）

第9回 グループ発表（1）と相互評価

第10回 グループ発表（2）と相互評価

第11回 グループ発表（3）と相互評価

第12回 グループ発表（4）と相互評価

第13回 グループ発表（5）と相互評価

第14回 グループ発表（6）と相互評価

第15回 まとめと今後の課題

#### 授業以外での学習方法

○新聞などに必ず目を通し、テーマにそった実践記録や文献を読むこと。 ○現代社会が直面している諸問題に広く深く関心を持つこと。

#### 教科書

#### 参考書

---

## 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（

科目名 教職総合演習〈初c〉

クラス 初c

配当回生 3回生

講義期間 後期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 三山 岳

#### テーマ

現代教育問題に意識と関心を持ち、主体的なグループ学習と問題解決型学習の体験と指導力を高める。

#### 授業の目的（獲得目標）

現代社会の教育諸問題から、グループでテーマを設定し、探求し、まとめ、発表することを通して、主にグループ学習、問題解決学習の課題・指導法を学ぶ。とりわけ昨今大きな社会問題として話題を呼んできた教育再生営みの対象としての「教育と社会問題」「教師の資質問題」「学力問題」「いじめ・不登校・体罰の問題」「子どもの権利条約」「モンスターペアレンツ問題」などを捉える視点を掘り下げる。

#### 内 容

第1回 授業の趣旨・進め方のガイダンス、アイスブレイキング

第2回 共通課題学習（1）

第3回 共通課題学習（2）

第4回 共通課題学習（3）

第5回 共通課題学習（4）

第6回 グループ形成とテーマ選定及び探求方針の検討

第7回 グループ学習と発表準備（1）

第8回 グループ学習と発表準備（2）

第9回 グループ発表（1）と相互評価

第10回 グループ発表（2）と相互評価

第11回 グループ発表（3）と相互評価

第12回 グループ発表（4）と相互評価

第13回 グループ発表（5）と相互評価

第14回 グループ発表（6）と相互評価

第15回 まとめと今後の課題

#### 授業以外での学習方法

○新聞などに必ず目を通し、テーマにそった実践記録や文献を読むこと。 ○現代社会が直面している諸問題に広く深く関心を持つこと。

#### 教科書

#### 参考書

---

## 成績評価

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%) 参加度 ( ) 備考 ( )



科目名 教職総合演習〈初d〉

クラス 初d

配当回生 3回生

講義期間 後期

定員 25

#### 履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 宮嶋 邦明

#### テーマ

今日の子どもの発達をめぐる諸問題

#### 授業の目的（獲得目標）

文献や資料を読み取り、「課題解決能力」の修得を目指す。また、「課題」解決のための方策をグループで討議し、それをまとめ発表する力の向上を目指す。

#### 内 容

- 第1回 本演習の目標と授業計画について
- 第2回 文献や資料の紹介と解説
- 第3回 文献等の読解と検討
- 第4回 文献等の読解と検討
- 第5回 文献等の読解と検討
- 第6回 文献等の読解と検討
- 第7回 関心「領域」の選定とグループ編成
- 第8回 レポートテーマの検討とグループ討議
- 第9回 レポートテーマの検討とグループ討議
- 第10回 レポートテーマの検討とグループ討議
- 第11回 レポート発表と全体討議
- 第12回 レポート発表と全体討議
- 第13回 レポート発表と全体討議
- 第14回 レポート発表と全体討議
- 第15回 全体とめ

#### 授業以外での学習方法

#### 教科書

#### 参考書

#### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（50%）参加度（0%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 教職総合演習

クラス 初 e

配当回生

講義期間

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 教職総合演習

クラス 初 f

配当回生

講義期間

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 養護実習(3回生枠)〈3回〉

クラス 配当回生 3回生

講義期間 集中 定員

履修条件 履修許可者のみ履修可

クラス指定

担当者 牧野 節子

テーマ

実りある教育実習（教育実習事前指導）

授業の目的（獲得目標）

教職関係学習の総決算として、現場で実習を行い、教師への志を確たるものにする。

内 容

第1回 ●養護実習(4回生枠)と共通開講〈事前指導〉 教職課程ガイダンス・教員の適正・資質について・教育職員免許法、免許取得の心構えについて・養護実習内諾手続について

第2回 養護実習について・養護実習の意義について・養護実習の実態について・養護実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・養護実習受講資格について(内規)

第3回 養護実習体験報告を受けてのグループ討議・発表

第4回 養護実習の流れ・プロセスと心得

第5回 養護教諭の職務、事例検討、グループ学習

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動などに参加することを勧める。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 (教育実習評価・授業中課題 (50%))

---

科目名 福祉とボランティア

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 秋期集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 志藤 修史

---

### テーマ

今日の社会福祉の現状と今後の社会福祉の展望について、積極的な市民の参加の一形態であるボランティア活動から考える

---

### 授業の目的（獲得目標）

1. 社会福祉における市民の参加の意義と意味を理解する 2. 社会福祉におけるボランティアの役割を理解する 3. 社会福祉についての基本的な知識を学ぶ

---

### 内 容

- 第1回 私たちのくらしをとりまく問題
  - 第2回 私たちのくらしと社会福祉
  - 第3回 社会福祉の今日的課題とは何か
  - 第4回 くらしの基盤と生活問題
  - 第5回 くらしを支える条件と生活問題
  - 第6回 くらしに関わる制度・政策
  - 第7回 障害を持つ人のくらしと社会福祉
  - 第8回 高齢者のくらしと社会福祉
  - 第9回 子どものいる世帯のくらしと社会福祉
  - 第10回 世帯構成と家計とくらし
  - 第11回 住宅と健康とくらし
  - 第12回 地域の変化とくらしの変化
  - 第13回 地域におけるくらしを支える条件
  - 第14回 「参加」と「自治」と社会福祉
  - 第15回 社会福祉とボランティア
- 

### 授業以外での学習方法

身近な地域でのボランティア活動への自主的で主体的な参加を期待します

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (50%) 小テスト (5%) 授業中課題 (5%) 授業中発表等 (0) 参加度 (40%) 備考 ( )

|       |          |
|-------|----------|
| 科目名   | 同和教育     |
| クラス   | 配当回生 1回生 |
| 講義期間  | 前期 定員    |
| 履修条件  |          |
| クラス指定 |          |
| 担当者   | 井手 幸喜    |

テーマ

子どもの人権と「同和教育」

### 授業の目的（獲得目標）

人権教育への視座を明確にすることを目的とする 内 容 人権教育提唱のなかで、これまでの同和教育の功罪への言及や、人権教育としてその遺産を継承していくべきであるといった指摘がある。同和教育や人権に関わった教育活動をふまえ、子どもの権利条約が提示する子ども観を視野に入れて、今日取り組まれようとしている人権教育の方向と部落問題の解決との関わりを中心に考えていく予定。特に、社会問題の一つである部落問題の辿った歩みと日本社会が有した人権の変容過程、今日の人権教育の登場した歴史的背景に留意したい。

### 内 容

- 第1回 はじめに一部落問題、部落差別とは何かー
- 第2回 部落問題の現在と日本の人権状況
- 第3回 近代日本における「人権」の導入とその理解
- 第4回 「人権」の変容と部落問題
- 第5回 部落問題の成立と解放運動
- 第6回 近代社会と部落問題ーなぜ部落問題は残ったのかー
- 第7回 戦後の民主主義と部落問題
- 第8回 特別立法と政府の取り組み
- 第9回 戦後日本社会の変化と部落問題
- 第10回 同和教育の成立と子どもの発見
- 第11回 戦後同和教育の展開と発展
- 第12回 戦後同和教育と人権思想
- 第13回 部落問題の現在
- 第14回 差別と差別意識
- 第15回 人権教育の在り方と子どもの権利

### 授業以外での学習方法

受講生の人数によってはフィールドワーク等部落問題の社会学的理解を助ける機会も設定したい。また同和教育へ初めて出会った受講生は、紹介する文献での自主的事前学習を希望する。

### 教科書



**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (30%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|       |            |     |  |
|-------|------------|-----|--|
| 科目名   | 生徒指導論      |     |  |
| クラス   | 配当回生       | 3回生 |  |
| 講義期間  | 秋期集中       | 定員  |  |
| 履修条件  | 看護学科生のみ履修可 |     |  |
| クラス指定 |            |     |  |
| 担当者   | 井ノ口 貴史     |     |  |

## テーマ

生徒指導の理論と実践を学ぶ

## 授業の目的（獲得目標）

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題について具体的に学校現場で一般的に見られる生徒指導のあり方を事例を通して学ぶことを目的とする。

## 内 容

- 第1回 生徒指導の領域と内容：いわゆる「教育困難校」の一日
- 第2回 生徒指導の意義：校務分掌と組織（生徒指導指導体制は？）
- 第3回 生徒指導の意義：生徒指導の方法（ゼロ・トレランス方式）を考える
- 第4回 グループ討議：ゼロ・トレランス方式に賛成か反対か？
- 第5回 養護教諭の一日：教護教諭が生徒指導に果たす役割
- 第6回 グループ討議：養護教諭は生徒指導場面でどのような役割を果たせるだろうか？
- 第7回 養護教諭の立場から、学校現場の生徒指導の在り方を考えてみましょう（1）
- 第8回 養護教諭の立場から、学校現場の生徒指導の在り方を考えてみましょう（2）
- 第9回 養護教諭の役割を考えよう：いじめや不登校に対する指導を手がかりにして
- 第10回 クラスづくりの手法（1）：どんな学級（クラス）も民主的・自治的でなければならない
- 第11回 クラスづくりの手法（2）：生徒が自治的に進める文化祭の取り組みをどう作るのか
- 第12回 グループ討議：あなたはどのような学校・クラスづくりを望むか？
- 第13回 生徒指導の実際：問題行動（授業妨害や校則違反、いじめや暴力行為）を克服するためには、生徒の学校参加のシステムを作ることが大切ではないか。
- 第14回 ケーススタディ：学校で日常的におこる事例を考えてみましょう。
- 第15回 グループ討議：摂食障害の生徒とその保護者、学級担任に対し、どのようなアドバイスをするべきか？

## 授業以外での学習方法

格差社会の中で若者がおかれている状況や労働実態をメディアの報道などから学び取って欲しい。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (20%) 備考 ( )

|       |            |      |      |
|-------|------------|------|------|
| 科目名   | 養護実習(4回生枠) |      |      |
| クラス   | 4 枠        | 配当回生 | 4 回生 |
| 講義期間  | 集中         | 定員   |      |
| 履修条件  | 履修許可者のみ履修可 |      |      |
| クラス指定 |            |      |      |
| 担当者   | 牧野 節子      |      |      |

### テーマ

実りある教育実習（教育実習事前指導）

### 授業の目的（獲得目標）

教職関係学習の総決算として、現場で実習を行い、教師への志を確たるものにする。

### 内 容

- 第1回 ●養護実習(4回生枠)と共通開講〈事前指導〉 教職課程ガイダンス・教員の適正・資質について・教育職員免許法、免許取得の心構えについて・養護実習内諾手続について
- 第2回 養護実習について・養護実習の意義について・養護実習の実態について・養護実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・養護実習受講資格について(内規)
- 第3回 養護実習体験報告を受けてのグループ討議・発表
- 第4回 養護実習の流れ・プロセスと心得
- 第5回 養護教諭の職務、事例検討、グループ学習
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

### 授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動などに参加することを勧める。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%) 備考 (教育実習評価・授業中課題 (50%))

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 日本国憲法 <a> |      |     |
| クラス   | a         | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   |     |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 |           |      |     |
| 担当者   | 上出 浩      |      |     |

### テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

### 授業の目的（獲得目標）

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

### 内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
- 第4回 日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
- 第5回 日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
- 第6回 日本国憲法の人権（信教の自由）
- 第7回 日本国憲法の人権（表現の自由）
- 第8回 日本国憲法の人権（経済的自由）
- 第9回 日本国憲法の人権（社会権）
- 第10回 日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
- 第11回 日本国憲法の統治（三権分立、議会）
- 第12回 日本国憲法の統治（内閣と議会）
- 第13回 日本国憲法の統治（裁判所）
- 第14回 到達度確認試験、復習
- 第15回 総まとめ

### 授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（60%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（上記「成績評価の方法」欄の「試験」は、「授業内容」欄の「到達度確認試験」に該当する。）

|       |           |      |     |
|-------|-----------|------|-----|
| 科目名   | 日本国憲法 <b> |      |     |
| クラス   | b         | 配当回生 | 1回生 |
| 講義期間  | 前期        | 定員   |     |
| 履修条件  |           |      |     |
| クラス指定 |           |      |     |
| 担当者   | 上出 浩      |      |     |

## テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

## 授業の目的（獲得目標）

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

## 内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
- 第4回 日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
- 第5回 日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
- 第6回 日本国憲法の人権（信教の自由）
- 第7回 日本国憲法の人権（表現の自由）
- 第8回 日本国憲法の人権（経済的自由）
- 第9回 日本国憲法の人権（社会権）
- 第10回 日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
- 第11回 日本国憲法の統治（三権分立、議会）
- 第12回 日本国憲法の統治（内閣と議会）
- 第13回 日本国憲法の統治（裁判所）
- 第14回 到達度確認試験、復習
- 第15回 総まとめ

## 授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価



試験（60%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（上記「成績評価の方法」欄の「試験」は、「授業内容」欄の「到達度確認試験」に該当する。）

|       |           |          |
|-------|-----------|----------|
| 科目名   | 日本国憲法 <d> |          |
| クラス   | d         | 配当回生 1回生 |
| 講義期間  | 秋期集中      | 定員       |
| 履修条件  |           |          |
| クラス指定 |           |          |
| 担当者   | 上出 浩      |          |

## テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

## 授業の目的（獲得目標）

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

## 内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
- 第4回 日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
- 第5回 日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
- 第6回 日本国憲法の人権（信教の自由）
- 第7回 日本国憲法の人権（表現の自由）
- 第8回 日本国憲法の人権（経済的自由）
- 第9回 日本国憲法の人権（社会権）
- 第10回 日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
- 第11回 日本国憲法の統治（三権分立、議会）
- 第12回 日本国憲法の統治（内閣と議会）
- 第13回 日本国憲法の統治（裁判所）
- 第14回 到達度確認試験、復習
- 第15回 総まとめ

## 授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験（60%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（上記「成績評価の方法」欄の「試験」は、「授業内容」欄の「到達度確認試験」に該当する。）

---

科目名 日本国憲法 <c>

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 秋期集中 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 上出 浩

---

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

---

### 授業の目的（獲得目標）

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

---

### 内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
  - 第2回 日本国憲法の3大原則
  - 第3回 日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
  - 第4回 日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
  - 第5回 日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
  - 第6回 日本国憲法の人権（信教の自由）
  - 第7回 日本国憲法の人権（表現の自由）
  - 第8回 日本国憲法の人権（経済的自由）
  - 第9回 日本国憲法の人権（社会権）
  - 第10回 日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
  - 第11回 日本国憲法の統治（三権分立、議会）
  - 第12回 日本国憲法の統治（内閣と議会）
  - 第13回 日本国憲法の統治（裁判所）
  - 第14回 到達度確認試験、復習
  - 第15回 総まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（60%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（上記「成績評価の方法」欄の「試験」は、「授業内容」欄の「到達度確認試験」に該当する。）

---

科目名 漢文学 I

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 蒲 豊彦

---

テーマ

漢文学概説

---

### 授業の目的（獲得目標）

中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。「漢文学」概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説（西遊記のようなもの）も取り上げる。具体的には、漢文学 I と II で古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。授業は毎回テーマが決まっており、1 回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1 年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるよ

---

### 内 容

- 第 1 回 授業の内容紹介
  - 第 2 回 神話と画像解読
  - 第 3 回 中国最古の詩集
  - 第 4 回 宗教と歌謡
  - 第 5 回 歴史書の成立
  - 第 6 回 日本の神話、詩集、歴史書
  - 第 7 回 漢字とその意味
  - 第 8 回 儒教と経学
  - 第 9 回 ベトナムの漢文学
  - 第 10 回 五言詩の発生
  - 第 11 回 詩の発達と詩人
  - 第 12 回 隠逸思想の系譜
  - 第 13 回 日本の古典文学と中国 I
  - 第 14 回 日本の古典文学と中国 II
  - 第 15 回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているのです、たとえ 1 ページでもよいので、見ておいてほしい。参考文献と詳しい授業内容については、<http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/> を見ること。

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験（90%） 小テスト（） 授業中課題（） 授業中発表等（） 参加度（10%） 備考（）

科目名 漢文学Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 蒲 豊彦

テーマ

漢文学概説

### 授業の目的（獲得目標）

中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。「漢文学」概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説（西遊記のようなもの）も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるよ

### 内 容

- 第1回 朝鮮半島の漢文学
- 第2回 小説の発生
- 第3回 日本の小説
- 第4回 長安と詩人Ⅰ
- 第5回 長安と詩人Ⅱ
- 第6回 日本の古典小説と中国
- 第7回 中国の音楽と詞
- 第8回 印刷術の発展
- 第9回 中国オペラ
- 第10回 都市の繁栄と通俗小説
- 第11回 読書の歴史
- 第12回 水滸伝と民衆反乱
- 第13回 文学革命Ⅰ
- 第14回 文学革命Ⅱ
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書



---

## 成績評価

試験 (90%) 小テスト ( ) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 備考 ( )

---

科目名 哲学概論

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 前期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 碓井 敏正

---

テーマ

日本社会の貧困と格差を哲学する

---

### 授業の目的（獲得目標）

貧困と格差の問題は日本社会最大のテーマとなった。政権交代でこの問題が解決できるかどうかは未知である。本講義では貧困と格差の現状を学び、どのようにこの問題に取り組んでいくべきかを考える。その際、経済的側面だけでなく、文化的イデオロギー的側面についても追究する予定である。また格差はどのような条件で認められるかといった問題についても考察する。

---

### 内 容

- 第1回 哲学とは何か。規範哲学とは何か。
  - 第2回 格差を分析する手法（ジニ係数、相対的貧困概念など）
  - 第3回 日本社会の貧困と格差の現状（1）
  - 第4回 日本社会の貧困と格差の現状（2）
  - 第5回 ワーキングプア、ネットカフェ難民問題
  - 第6回 健康格差の現実
  - 第7回 地域格差の現実
  - 第8回 家庭の所得と子どもの学歴・学力の関連
  - 第9回 貧困家庭の実態と子どもの教育
  - 第10回 貧困・格差とイデオロギーの関係
  - 第11回 貧困と格差の関係、どちらが重要なのか
  - 第12回 グローバルな貧困と格差の現状
  - 第13回 貧困をなくし、格差を縮小する条件
  - 第14回 国家の再分配政策の意義
  - 第15回 まとめと授業内レポート
- 

### 授業以外での学習方法

貧困と格差の問題についてはマスメディアでもよく報道されるので、日ごろからこの問題に関心を持つこと。またこの問題に対する最近の政治の姿勢、政党の政策にも関心を持つこと。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

---

科目名 倫理学概論

---

クラス 配当回生 1回生

---

講義期間 後期 定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 碓井 敏正

---

テーマ

応用倫理学を学ぶ

---

### 授業の目的（獲得目標）

倫理学の基本を学び、それが現実の社会問題にどのように適用できるのか、具体的には環境問題、医療行為、情報化社会、企業活動などにとって、倫理学はどのような役割を果たせるのかを学ぶ。特に安楽死や代理母、臓器移植などに関わる生命倫理学を重点的に話すつもりである。

---

### 内 容

- 第1回 倫理学とは何か、哲学と倫理学の関係
  - 第2回 応用倫理学の意義
  - 第3回 環境倫理学Ⅰ（環境問題の深刻化）
  - 第4回 環境倫理学Ⅱ（環境的正義とは何か）
  - 第5回 生命倫理学Ⅰ（安楽死問題）
  - 第6回 生命倫理学Ⅱ（代理母問題）
  - 第7回 生命倫理学Ⅲ（臓器移植問題）
  - 第8回 生命倫理学Ⅳ（iPS細胞の可能性）
  - 第9回 生命倫理学Ⅴ（自己決定と生命の尊重）
  - 第10回 生命倫理学Ⅵ（生命の操作はどこまで許されるか）
  - 第11回 情報倫理Ⅰ（情報化社会の明と暗）
  - 第12回 情報倫理Ⅱ（情報化社会と知的所有権）
  - 第13回 企業倫理Ⅰ（企業行動の現実）
  - 第14回 企業倫理Ⅱ（企業の倫理化）
  - 第15回 まとめと授業内レポート
- 

### 授業以外での学習方法

医療技術の進歩や環境問題の深刻化、企業の不祥事などは日常報道されていることなので、時事的な事柄に絶えず注意を払うようにすること。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（テーマごとにレポートを課す（2度ほど）ので、提出を忘れないこと。）

科目名 政治学概論 I

クラス 配当回生 4回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

政治学への入り口

授業の目的（獲得目標）

政治についての意識形成 政治についての基礎知識 政治学を学問としてとらえる

内 容

- 第1回 1) はじめに  
 第2回 2) 政治の日常イメージ  
 第3回 3) 政治と行政、経済、社会、文化  
 第4回 4) 政治学と法学  
 第5回 5) 政治学と社会学、行政学  
 第6回 6) 権力とは  
 第7回 7) デモクラシーとは  
 第8回 8) 政治システムと政治過程  
 第9回 9) 国と地方の分権～地方自治  
 第10回 10) 地方政府の実像  
 第11回 11) 国際政治  
 第12回 12) 宗教と政治  
 第13回 13) 政治過程論（1）官僚内閣制から議院内閣制へ  
 第14回 14) 政治過程論（2）選挙とインターネット  
 第15回 まとめ・・・政治理論と政治過程論

授業以外での学習方法

できるだけ、時事問題と関わるようにするため、新聞、インターネットの政治ニュースを読み、書き留めること。政治学の基礎が社会科学の一つとして位置づけられるようにしたいので、教科書(1800円+税)はいささか高額だが、必要！いつも携帯し、発展問題のところは、ホームワークすること。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）小テスト（30%）授業中課題（20%）授業中発表等（0）参加度（50%）備考（15回の出席は、出席票の記述（ミニテストをするときや自由な意見を求めるときもある）を伴うことを前提とするので、よく聞くこと。）

科目名 政治学概論Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

日本の政治—具体的な政治家・政治現象の事例研究から—

授業の目的（獲得目標）

戦後の日本政治を概観する。日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知る。政治家・政治過程の実際について自分で考え論評できる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション—教科書必携 毎回ミニペーパー提出 欠席の場合の代替措置
- 第2回 政治学理論の復習—新自由主義と社会民主主義—効率（市場）と平等（福祉）
- 第3回 社会史のなかに政治位置づける—戦後政治から、ポスト戦後政治へ
- 第4回 官僚と政治家の実際—大平正芳を例にして
- 第5回 保守・保守主義とは何か
- 第6回 内政と外交の実際—日米関係と日中関係
- 第7回 地方の時代、文化の時代、田園都市国家構想とは
- 第8回 族議員と派閥がいかに形成されてきたか
- 第9回 政権交代と派閥間抗争との関係とは
- 第10回 国家財政—消費税と赤字国債
- 第11回 大平正芳と他の政治家との比較論
- 第12回 いま、日本の政治はどうなっているだろう
- 第13回 政治を映画はどのように表現してきたか
- 第14回 政治への参加とその手法、マスコミとインターネットとの関係
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

『大平正芳—「戦後保守」とは何か』という教科書は必携（最初の回などはなくても大丈夫）。予習として、教科書を読み、そこに登場する政治家を事前に調べておくこと。ミニテストや発言を求められることがあるので。また、欠席した場合は、それに変わるミニ調べを提出するか、以下に明示した参考書や授業中紹介する書物を1冊読んで、レポートを提出する。 <参考書> 田中良紹『裏支配—今明かされる田中角栄の真実』廣済堂出版、2003年 アンソニー・ギデンズ+渡辺聰子著『日本の新たな「第三の道」—市場主義改革と福祉改革の同時推進』ダイ

教科書



**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 生涯学習概論 I <a>

クラス a

配当回生 1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

日本における社会教育・生涯学習の歴史と課題

授業の目的（獲得目標）

わが国における社会教育・生涯学習の歴史と制度について基礎的知識を修得し、現代的課題を学ぶ。

内 容

第1回 オリエンテーション 歴史を学ぶ意味

第2回 文明開化と通俗教育

第3回 通俗教育から社会教育へ

第4回 若者組と青年団

第5回 大正期青年教育の成立

第6回 学校外青少年教育

第7回 婦人教育の成立

第8回 戦後社会教育の理念と制度

第9回 社会教育施設の戦後史

第10回 社会教育施設の現在

第11回 社会教育・生涯学習における職員の役割

第12回 図書館と市民活動

第13回 博物館と市民活動

第14回 生涯学習政策の登場

第15回 指定管理者制度の現在

授業以外での学習方法

授業中紹介した参考文献を読むようにする

教科書

参考書

成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（40%）備考（）

科目名 生涯学習概論 I <b>

クラス b 配当回生 1回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

日本における社会教育・生涯学習の歴史と課題

授業の目的（獲得目標）

わが国における社会教育・生涯学習の歴史と制度について基礎的知識を修得し、現代的課題を学ぶ。

内 容

第1回 オリエンテーション 歴史を学ぶ意味

第2回 文明開化と通俗教育

第3回 通俗教育から社会教育へ

第4回 若者組と青年団

第5回 大正期青年教育の成立

第6回 学校外青少年教育

第7回 婦人教育の成立

第8回 戦後社会教育の理念と制度

第9回 社会教育施設の戦後史

第10回 社会教育施設の現在

第11回 社会教育・生涯学習における職員の役割

第12回 図書館と市民活動

第13回 博物館と市民活動

第14回 生涯学習政策の登場

第15回 指定管理者制度の現在

授業以外での学習方法

授業中紹介した参考文献を読むようにする

教科書

参考書

成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（40%）備考（）

科目名 図書館サービス論〈a〉

クラス a

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 川上 博幸

テーマ

図書館サービスとは？ 図書館サービスの基礎・基本

授業の目的（獲得目標）

図書館サービスの基礎・基本を講じる。高度情報化社会の到来によりすべての図書館のあり方が変わった。近年の激変する社会経済情勢の影響が図書館界にもおし寄せてきた。そこで、「進化する図書館」を視野に、公共図書館、大学図書館等の基本となる働きや、現状と課題を学び、図書館サービスとはなにかを探求する。

内 容

- 第1回 図書館サービス論の概要 図書館サービスとは
- 第2回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の働きと内容
- 第3回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第4回 資料・情報の提供① その意義と社会的責任
- 第5回 資料・情報の提供② 貸出・閲覧
- 第6回 読書案内と予約・リクエスト① 予約・リクエスト
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト② 読書案内とレファレンス
- 第8回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童サービス
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開② ヤングアダルト・サービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開③ その他のサービス
- 第11回 図書館協力
- 第12回 図書館サービスと著作権
- 第13回 図書館サービスの課題① 社会の進展及び技術の進歩にともなう課題
- 第14回 図書館サービスの課題② 補遺
- 第15回 図書館サービス論のまとめと試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（40％）小テスト（20％）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（20％）備考（）

科目名 図書館サービス論〈b〉

クラス b

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 川上 博幸

テーマ

図書館サービスとは？ 図書館サービスの基礎・基本

授業の目的（獲得目標）

図書館サービスの基礎・基本を講じる。高度情報化社会の到来によりすべての図書館のあり方が変わった。近年の激変する社会経済情勢の影響が図書館界にもおし寄せてきた。そこで、「進化する図書館」を視野に、公共図書館、大学図書館等の基本となる働きや、現状と課題を学び、図書館サービスとはなにかを探求する。

内 容

- 第1回 図書館サービス論の概要 図書館サービスとは
- 第2回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の働きと内容
- 第3回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第4回 資料・情報の提供① その意義と社会的責任
- 第5回 資料・情報の提供② 貸出・閲覧
- 第6回 読書案内と予約・リクエスト① 予約・リクエスト
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト② 読書案内とレファレンス
- 第8回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童サービス
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開② ヤングアダルト・サービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開③ その他のサービス
- 第11回 図書館協力
- 第12回 図書館サービスと著作権
- 第13回 図書館サービスの課題① 社会の進展及び技術の進歩にともなう課題
- 第14回 図書館サービスの課題② 補遺
- 第15回 図書館サービス論のまとめと試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（40％）小テスト（20％）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（20％）備考（）

科目名 情報サービス概説〈a〉

クラス a

配当回生 2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 澤谷 とし子

テーマ

図書館における情報サービスとは何か、概念と具体例について学ぶ

授業の目的（獲得目標）

今日インターネットで代表される情報サービス産業もある中、図書館における情報提供へのニーズや、情報サービスを支える情報源の種類や評価などについて理解する。

内 容

- 第1回 情報サービスの概要（意義、他の情報サービス機関、図書館の情報サービス）
- 第2回 情報サービスの基礎（レファレンス、利用案内、レフェラルサービス）
- 第3回 情報サービスの基礎（カレントアウェアネス、オンライン検索 ほか）
- 第4回 情報サービスの展開（読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス）
- 第5回 情報源の種類と評価
- 第6回 情報ニーズへの対応
- 第7回 情報ニーズへの対応（レファレンス質問・インタビュー）
- 第8回 情報の検索と回答①
- 第9回 情報の検索と回答②、情報サービスの管理
- 第10回 事実検索の情報源（辞書、事典、便覧等の種類と特質）
- 第11回 事実検索の情報源（歴史情報・統計情報）
- 第12回 事実検索の情報源（地理／地名情報・人物／団体情報）
- 第13回 文献検索の情報源（書誌、目録、記事索引等の種類と特質）
- 第14回 電子メディアの活用
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの課題解決を図書館の資料・情報源を使って試みる。

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）

科目名 情報サービス概説〈b〉

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 澤谷 とし子

テーマ

図書館における情報サービスとは何か、概念と具体例について学ぶ

授業の目的（獲得目標）

今日インターネットで代表される情報サービス産業もある中、図書館における情報提供へのニーズや、情報サービスを支える情報源の種類や評価などについて理解する。

内 容

- 第1回 情報サービスの概要（意義、他の情報サービス機関、図書館の情報サービス）
- 第2回 情報サービスの基礎（レファレンス、利用案内、レフェラルサービス）
- 第3回 情報サービスの基礎（カレントアウェアネス、オンライン検索 ほか）
- 第4回 情報サービスの展開（読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス）
- 第5回 情報源の種類と評価
- 第6回 情報ニーズへの対応
- 第7回 情報ニーズへの対応（レファレンス質問・インタビュー）
- 第8回 情報の検索と回答①
- 第9回 情報の検索と回答②、情報サービスの管理
- 第10回 事実検索の情報源（辞書、事典、便覧等の種類と特質）
- 第11回 事実検索の情報源（歴史情報・統計情報）
- 第12回 事実検索の情報源（地理／地名情報・人物／団体情報）
- 第13回 文献検索の情報源（書誌、目録、記事索引等の種類と特質）
- 第14回 電子メディアの活用
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの課題解決を図書館の資料・情報源を使って試みる。

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）

科目名 レファレンスサービス演習 <a>

クラス a

配当回生 2回生

講義期間 秋期集中

定員 150

履修条件

クラス指定

担当者 平野 翠

テーマ

情報サービスの中核となるレファレンスサービスの実践演習。

授業の目的（獲得目標）

基本的なレファレンスツールズを利用し、レファレンスを的確に実践できる能力を養う。レファレンスの質問受付から回答処理までのプロセスを、国立国会図書館「レファレンス協同データベース」などを参考にし、具体的事例を基に演習形式で行う。

内 容

第1回 レファレンスサービス演習の概要

第2回 レファレンスサービスの方法と実際

第3回 レファレンスインタビュー

第4回 レファレンス事例集について－国会図書館レファレンス協同データベースを中心に－

第5回 情報源（基本的レファレンスブック等）の評価（1）－事実検索

第6回 情報源（基本的レファレンスブック等）の評価（2）－事実検索

第7回 演習（1）－グループで検索

第8回 演習発表（1）

第9回 情報源（基本的レファレンスブック等）の評価（3）－事実検索

第10回 情報源（基本的レファレンスブック等）の評価（4）－文献検索

第11回 情報源（基本的レファレンスブック等）の評価（5）－文献検索

第12回 演習（2）－グループで検索

第13回 演習発表（2）

第14回 演習（3）－個人で検索（回答提出）

第15回 演習・回答の評価、まとめ

授業以外での学習方法

国立国会図書館ホームページで公開する「レファレンス協同データベース」などを閲覧し、レファレンス事例に接すること。

教科書

参考書



## 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（試験評価は、授業中個人に与えた演習課題の提出回答とする。）

|       |                  |      |     |
|-------|------------------|------|-----|
| 科目名   | レファレンスサービス演習 <b> |      |     |
| クラス   | b                | 配当回生 | 2回生 |
| 講義期間  | 春期集中             | 定員   | 150 |
| 履修条件  | 4回生以上履修不可        |      |     |
| クラス指定 |                  |      |     |
| 担当者   | 平野 翠             |      |     |

### テーマ

情報サービスの中核となるレファレンスサービスの実践演習。

### 授業の目的（獲得目標）

基本的なレファレンスツールズを利用し、レファレンスを的確に実践できる能力を養う。レファレンスの質問受付から回答処理までのプロセスを、国立国会図書館「レファレンス協同データベース」などを参考にし、具体的事例を基に演習形式で行う。

### 内 容

- 第1回 レファレンスサービス演習の概要
- 第2回 レファレンスサービスの方法と実際
- 第3回 レファレンスインタビュー
- 第4回 レファレンス事例集について—国会図書館レファレンス協同データベースを中心に—
- 第5回 情報源（基本的レファレンスブックス等）の評価（1）—事実検索
- 第6回 情報源（基本的レファレンスブックス等）の評価（2）—事実検索
- 第7回 演習（1）—グループで検索
- 第8回 演習発表（1）
- 第9回 情報源（基本的レファレンスブックス等）の評価（3）—事実検索
- 第10回 情報源（基本的レファレンスブックス等）の評価（4）—文献検索
- 第11回 情報源（基本的レファレンスブックス等）の評価（5）—文献検索
- 第12回 演習（2）—グループで検索
- 第13回 演習発表（2）
- 第14回 演習（3）—個人で検索（回答提出）
- 第15回 演習・回答の評価、まとめ

### 授業以外での学習方法

国立国会図書館ホームページで公開する「レファレンス協同データベース」などを閲覧し、レファレンス事例に接すること。

### 教科書

### 参考書

## 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（20%）参加度（20%）備考（試験評価は、授業中個人に与えた演習課題の提出回答とする。）

---

科目名 情報検索演習 <a>

---

クラス a

配当回生 2回生

---

講義期間 秋期集中

定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 米谷 優子

---

テーマ

情報サービスの一環としての、電子情報を主たる対象にした情報探索の演習

---

### 授業の目的（獲得目標）

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、情報検索の技術・実践的能力を育成する。

---

### 内 容

第1回 情報検索とは何か、情報検索の手順

第2回 情報検索の理論（論理演算、トランケーション、検索式等）、データベース

第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索

第4回 検索エンジンによる情報検索演習

第5回 図書情報（書誌情報、所蔵情報）の検索

第6回 図書情報検索演習

第7回 雑誌記事の検索

第8回 新聞記事の検索

第9回 人物情報の検索

第10回 団体情報の検索

第11回 統計情報の検索

第12回 法律情報の検索

第13回 地理的情報の検索

第14回 一般的情報の検索

第15回 まとめ（試験を含む）

---

### 授業以外での学習方法

・キーボード入力など、PCの扱いに慣れておくこと。 ・「情報サービス概説」の授業内容を理解していること。 ・本演習では、回答そのものよりも、回答を求めるプロセスの理解が重要であることを常に意識して授業に臨むこと。

---

### 教科書

### 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（）備考（授業では各回とも、予め定めたテーマで講義・解説を行ったのち、課題として質問例に対する回答処理を課す。毎回の課題提出が、授業参加の必須条件であり、成績評価はこの提出課題の評価が40%、まとめの試験が60%の割合となる。）

---

科目名 情報検索演習 <b>

---

クラス b

配当回生 2回生

---

講義期間 秋期集中

定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 米谷 優子

---

テーマ

情報サービスの一環としての、電子情報を主たる対象にした情報探索の演習

---

### 授業の目的（獲得目標）

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、情報検索の技術・実践的能力を育成する。

---

### 内 容

第1回 情報検索とは何か、情報検索の手順

第2回 情報検索の理論（論理演算、トランケーション、検索式等）、データベース

第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索

第4回 検索エンジンによる情報検索演習

第5回 図書情報（書誌情報、所蔵情報）の検索

第6回 図書情報検索演習

第7回 雑誌記事の検索

第8回 新聞記事の検索

第9回 人物情報の検索

第10回 団体情報の検索

第11回 統計情報の検索

第12回 法律情報の検索

第13回 地理的情報の検索

第14回 一般的情報の検索

第15回 まとめ（試験を含む）

---

### 授業以外での学習方法

・キーボード入力など、PCの扱いに慣れておくこと。 ・「情報サービス概説」の授業内容を理解していること。 ・本演習では、回答そのものよりも、回答を求めるプロセスの理解が重要であることを常に意識して授業に臨むこと。

---

### 教科書

### 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（）備考（授業では各回とも、予め定めたテーマで講義・解説を行ったのち、課題として質問例に対する回答処理を課す。毎回の課題提出が、授業参加の必須条件であり、成績評価はこの提出課題の評価が40%、まとめの試験が60%の割合となる。）

---

科目名 情報検索演習 <c>

---

クラス c

配当回生 2回生

---

講義期間 春期集中

定員 50

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 米谷 優子

---

テーマ

情報サービスの一環としての、電子情報を主たる対象にした情報探索の演習

---

### 授業の目的（獲得目標）

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、情報検索の技術・実践的能力を育成する。

---

### 内 容

第1回 情報検索とは何か、情報検索の手順

第2回 情報検索の理論（論理演算、トランケーション、検索式等）、データベース

第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索

第4回 検索エンジンによる情報検索演習

第5回 図書情報（書誌情報、所蔵情報）の検索

第6回 図書情報検索演習

第7回 雑誌記事の検索

第8回 新聞記事の検索

第9回 人物情報の検索

第10回 団体情報の検索

第11回 統計情報の検索

第12回 法律情報の検索

第13回 地理的情報の検索

第14回 一般的情報の検索

第15回 まとめ（試験を含む）

---

### 授業以外での学習方法

・キーボード入力など、PCの扱いに慣れておくこと。 ・「情報サービス概説」の授業内容を理解していること。 ・本演習では、回答そのものよりも、回答を求めるプロセスの理解が重要であることを常に意識して授業に臨むこと。

---

### 教科書



### 成績評価

試験（60%）小テスト（）授業中課題（40%）授業中発表等（）参加度（）備考（授業では各回とも、予め定めたテーマで講義・解説を行ったのち、課題として質問例に対する回答処理を課す。毎回の課題提出が、授業参加の必須条件であり、成績評価はこの提出課題の評価が40%、まとめの試験が60%の割合となる。）

科目名 資料組織概説〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 澤谷 とし子

テーマ

図書館における資料組織化の意義、目的、方法

授業の目的（獲得目標）

今日電算の導入で見えづらくなっている目録情報であるが、その基本から理解することが司書にとって必要条件であることを理解する。

内 容

- 第1回 資料組織の意義（図書館サービスとの関係）
- 第2回 資料組織の意義（多様化するメディア、資料アクセスと資料組織）
- 第3回 書誌コントロール（意義、歴史、国際標準）
- 第4回 書誌情報の作成・流通・管理
- 第5回 コンピュータによる目録作成の実際
- 第6回 目録法の基礎
- 第7回 記述目録法の基礎
- 第8回 記述の単位と順序／記述目録作成の実際（1）
- 第9回 記述目録作成の実際（2）
- 第10回 記述目録作成の実際（3）標目・排列
- 第11回 主題目録法
- 第12回 分類法の基礎
- 第13回 分類法の基礎 つづき
- 第14回 主題目録作成の実際
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

図書館のOPAC、カード目録を利用し、館内の資料排列方法に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（60％）小テスト（）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（20％）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 資料組織概説 <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 澤谷 とし子

テーマ

図書館における資料組織化の意義、目的、方法

授業の目的（獲得目標）

今日電算の導入で見えづらくなっている目録情報であるが、その基本から理解することが司書にとって必要条件であることを理解する。

内 容

- 第1回 資料組織の意義（図書館サービスとの関係）
- 第2回 資料組織の意義（多様化するメディア、資料アクセスと資料組織）
- 第3回 書誌コントロール（意義、歴史、国際標準）
- 第4回 書誌情報の作成・流通・管理
- 第5回 コンピュータによる目録作成の実際
- 第6回 目録法の基礎
- 第7回 記述目録法の基礎
- 第8回 記述の単位と順序／記述目録作成の実際（1）
- 第9回 記述目録作成の実際（2）
- 第10回 記述目録作成の実際（3）標目・排列
- 第11回 主題目録法
- 第12回 分類法の基礎
- 第13回 分類法の基礎 つづき
- 第14回 主題目録作成の実際
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

図書館のOPAC、カード目録を利用し、館内の資料排列方法に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（60％）小テスト（）授業中課題（20％）授業中発表等（）参加度（20％）備考（）

科目名 資料組織演習 I <a>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 90

履修条件

クラス指定

担当者 平野 翠

テーマ

目録法（目録作業の演習）

### 授業の目的（獲得目標）

実際に NCR（日本目録規則）を使って目録を作成出来るようにする。コンピュータの導入によって、図書館における目録作業は一変した。しかし、目録技術の基礎となるのは、カード目録である。この講義では、標準的な『日本目録規則 1987年版改訂3版』に従って、カード目録作成を中心にした演習を行う。

### 内 容

- 第1回 目録作成作業の概要
- 第2回 記述総則について
- 第3回 書誌的事項の記述（単行資料）－タイトル
- 第4回 同 ー 責任表示
- 第5回 同 ー 版次
- 第6回 同 ー 出版事項
- 第7回 同 ー 形態
- 第8回 同 ー シリーズ
- 第9回 同 ー 注記
- 第10回 同 ー 国際番号・入手条件、小テスト
- 第11回 書誌的事項の記述（継続資料）
- 第12回 標目について（1）タイトル
- 第13回 標目について（2）著者・排列
- 第14回 コンピュータ目録の理解
- 第15回 総括（試験含む）

### 授業以外での学習方法

大学図書館 OPAC、NACSIS-CAT、NDL-OPAC などで、資料検索をすること。

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）

科目名 資料組織演習 I <b>

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 90

履修条件

クラス指定

担当者 平野 翠

テーマ

目録法（目録作業の演習）

### 授業の目的（獲得目標）

実際に NCR（日本目録規則）を使って目録を作成出来るようにする。コンピュータの導入によって、図書館における目録作業は一変した。しかし、目録技術の基礎となるのは、カード目録である。この講義では、標準的な『日本目録規則 1987年版 改訂3版』に従って、カード目録作成を中心にした演習を行う。

### 内 容

- 第1回 目録作成作業の概要
- 第2回 記述総則について
- 第3回 書誌的事項の記述（単行資料）－タイトル
- 第4回 同 ー 責任表示
- 第5回 同 ー 版次
- 第6回 同 ー 出版事項
- 第7回 同 ー 形態
- 第8回 同 ー シリーズ
- 第9回 同 ー 注記
- 第10回 同 ー 国際番号・入手条件、小テスト
- 第11回 書誌的事項の記述（継続資料）
- 第12回 標目について（1）タイトル
- 第13回 標目について（2）著者・排列
- 第14回 コンピュータ目録の理解
- 第15回 総括（試験含む）

### 授業以外での学習方法

大学図書館 OPAC、NACSIS-CAT、NDL-OPAC などで、資料検索をすること。

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）小テスト（20%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）

科目名 資料組織演習Ⅱ〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 90

履修条件

クラス指定

担当者 澤谷 とし子

テーマ

分類法・件名法（分類・件名作業の演習）

授業の目的（獲得目標）

NDC（日本十進分類法）9版、BSH（基本件名標目表）4版を使って、資料の主題を記号及びことばで表現できるようにすること。

内 容

- 第1回 主題分析とその表示
- 第2回 基本件名標目表の概略
- 第3回 基本件名標目表による件名作業
- 第4回 演習とまとめ
- 第5回 日本十進分類法（NDC）の概略
- 第6回 一般補助表（形式区分等）・固有補助表
- 第7回 分類記号付与の実際／分類規程
- 第8回 演習とまとめ
- 第9回 分類記号付与の実際／人文科学（2類、1類）
- 第10回 分類記号付与の実際／人文科学（7類、8類、9類）
- 第11回 分類記号付与の実際／社会科学（3類）
- 第12回 演習とまとめ
- 第13回 分類記号付与の実際／自然科学（4類）；技術（5類）
- 第14回 分類記号付与の実際／産業（6類）；総記（0類）
- 第15回 図書記号・別置記号の付与、演習とまとめ

授業以外での学習方法

図書館利用に際し、書架に配架されている本の背ラベルの数字を意識的に見ること。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（80%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）



科目名 資料組織演習Ⅱ <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 90

履修条件

クラス指定

担当者 澤谷 とし子

テーマ

分類法・件名法（分類・件名作業の演習）

授業の目的（獲得目標）

NDC（日本十進分類法）9版、BSH（基本件名標目表）4版を使って、資料の主題を記号及びことばで表現できるようにすること。

内 容

- 第1回 主題分析とその表示
- 第2回 基本件名標目表の概略
- 第3回 基本件名標目表による件名作業
- 第4回 演習とまとめ
- 第5回 日本十進分類法（NDC）の概略
- 第6回 一般補助表（形式区分等）・固有補助表
- 第7回 分類記号付与の実際／分類規程
- 第8回 演習とまとめ
- 第9回 分類記号付与の実際／人文科学（2類、1類）
- 第10回 分類記号付与の実際／人文科学（7類、8類、9類）
- 第11回 分類記号付与の実際／社会科学（3類）
- 第12回 演習とまとめ
- 第13回 分類記号付与の実際／自然科学（4類）；技術（5類）
- 第14回 分類記号付与の実際／産業（6類）；総記（0類）
- 第15回 図書記号・別置記号の付与、演習とまとめ

授業以外での学習方法

図書館利用に際し、書架に配架されている本の背ラベルの数字を意識的に見ること。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（80%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（20%）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 児童サービス論〈a〉

クラス a 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 澤谷 とし子

テーマ

公共図書館における児童サービス

### 授業の目的（獲得目標）

公共図書館における児童サービスの意義を理解し、子どもを「本好き」にするための方策についての知識を深め、その技術を理解する

### 内 容

第1回 児童サービスの意義と概要

第2回 子どもの発達段階と読書興味

第3回 児童資料の特色と選択（1）絵本

第4回 "（2）創作児童文学

第5回 "（3）昔話、伝承文学、詩

第6回 "（4）ノンフィクション、知識の本

第7回 "（5）児童資料の出版と流通

第8回 児童資料コレクションの形成と管理

第9回 児童サービスの業務（1）資料提供、フロアワーク、レファレンス

第10回 "（2）集会行事、展示、PR

第11回 児童サービスの方法・技術（1）読み聞かせ、ストーリーテリング

第12回 "（2）ブックトーク、書評、ブックリスト

第13回 児童サービスの展開（運営、施設と設備、児童図書館員の役割）

第14回 ヤングアダルトサービス

第15回 各種機関との連携・協力と子ども読書活動の推進及びまとめ

### 授業以外での学習方法

公共図書館の児童室を訪問して、子どもの利用状況を観察すること。また、できるだけ数多く児童書を読むこと。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（40％）小テスト（）授業中課題（30％）授業中発表等（）参加度（30％）備考（）

## 2010 Syllabus

科目名 児童サービス論 <b>

クラス b 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 澤谷 とし子

テーマ

公共図書館における児童サービス

### 授業の目的（獲得目標）

公共図書館における児童サービスの意義を理解し、子どもを「本好き」にするための方策についての知識を深め、その技術を理解する

### 内 容

第1回 児童サービスの意義と概要

第2回 子どもの発達段階と読書興味

第3回 児童資料の特色と選択（1）絵本

第4回 " （2）創作児童文学

第5回 " （3）昔話、伝承文学、詩

第6回 " （4）ノンフィクション、知識の本

第7回 " （5）児童資料の出版と流通

第8回 児童資料コレクションの形成と管理

第9回 児童サービスの業務（1）資料提供、フロアワーク、レファレンス

第10回 " （2）集会行事、展示、PR

第11回 児童サービスの方法・技術（1）読み聞かせ、ストーリーテリング

第12回 " （2）ブックトーク、書評、ブックリスト

第13回 児童サービスの展開（運営、施設と設備、児童図書館員の役割）

第14回 ヤングアダルトサービス

第15回 各種機関との連携・協力と子ども読書活動の推進及びまとめ

### 授業以外での学習方法

公共図書館の児童室を訪問して、子どもの利用状況を観察すること。また、できるだけ数多く児童書を読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（40%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（）参加度（30%）備考（）

科目名 視聴覚メディア論

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

メディアの意味を理解しつつ、視聴覚メディアの活用能力を磨く

### 授業の目的（獲得目標）

博物館や図書館などの文化施設における視聴覚メディアの利用は、単なる視聴覚機器の時代から、デジタルテクノロジーを活用したマルチメディア時代へと大きく転換してきている。それに伴い、運営に携わるスタッフにもそれらを抵抗なく使いこなしていく能力が求められてきている。視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

### 内 容

第1回 オリエンテーション（授業目標）

第2回 メディアの歴史

第3回 メディアの未来

第4回 メディアと認知心理学

第5回 メディアが社会に与える影響（1）

第6回 メディアが社会に与える影響（2）

第7回 アナログ型視聴覚メディア（1）

第8回 アナログ型視聴覚メディア（2）

第9回 デジタル型視聴覚メディア

第10回 メディアと著作権

第11回 メディアプレゼンテーション

第12回 学生によるプレゼンテーション（1）

第13回 学生によるプレゼンテーション（2）

第14回 学生によるプレゼンテーション（3）

第15回 評価とまとめ ※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※上記に関連して、その年のメディア状況に応じたサブテーマ（地域メディア）を設け、授業展開に幅を持たせる。

### 授業以外での学習方法

文化施設で開催される講演会やシンポジウム・映画鑑賞会などに出席したり、テーマパーク等のメディア技術の観察などを行うこと。

### 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (40) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 視聴覚メディア論 <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 学校経営と学校図書館

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀江 信彦

テーマ

学校図書館の理念と意義を学校教育の抱える課題の中に位置づけて理解する。

授業の目的（獲得目標）

今日の学校教育の諸課題をふまえ、学校図書館の教育的意義及び司書教諭の果たすべき任務について理解し、意欲的・創造的に活動する司書教諭をめざす。

内 容

- 第1回 学校図書館の理念と教育的意義
- 第2回 生涯学習社会・知識基盤社会と学校図書館
- 第3回 学校図書館の発展と課題
- 第4回 教育行政と学校図書館
- 第5回 学校図書館法と関係法令
- 第6回 教育サービスとしての学校図書館施策
- 第7回 学校経営組織における学校図書館
- 第8回 学校図書館の施設と設備
- 第9回 司書教諭の任務と役割
- 第10回 学校内の協力体制と司書教諭の職務
- 第11回 学校図書館メディアの構築と管理
- 第12回 学校図書館活動の対象と領域
- 第13回 利用指導と読書指導
- 第14回 「読書のアルマシオン」と「読む力」
- 第15回 学校図書館が築くネットワーク

授業以外での学習方法

○母校を訪問し、無償で図書館ボランティア体験をさせてもらう。

教科書

参考書

成績評価

試験（50）小テスト（）授業中課題（30）授業中発表等（）参加度（20）備考（出席・授業参加が大前提。2



5以上の欠席は履修不可能。試験及び授業ごとのペーパーそして授業参加点を加味し、総合的に評価する。）

科目名 学校図書館メディアの構成

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀江 信彦

テーマ

学校図書館メディアの構成に必要な実務的知識を得る。

授業の目的（獲得目標）

学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成と、学校図書館メディアの専門家である司書教諭としての基本的な知識を獲得する

内 容

第1回 学校図書館の理念、意義とメディア構築の視点

第2回 学校図書館におけるメディアの種類

第3回 学校図書館メディアの特性

第4回 特別な支援のためのメディア

第5回 学校図書館メディアの構築の基本

第6回 学校図書館メディアの選択と収集方針（評価方法を含む）

第7回 メディア選択の主な情報源と発注

第8回 学校図書館メディアの組織化の新しい展開

第9回 学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス

第10回 学校図書館メディア組織化の実際 ―目録の意義と機能

第11回 学校図書館メディアの目録法

第12回 学校図書館メディアの主題索引法

第13回 学校図書館メディアの蓄積と配架

第14回 メディアの提供と活用―メディアの管理・メディアの更新

第15回 学校図書館の総合整備 ―よりよい図書館の構築に向けて

授業以外での学習方法

目の前にある大学図書館に時間があれば足を運ぶこと。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験（50）小テスト（）授業中課題（30）授業中発表等（）参加度（20）備考（出席・授業参加が大前提。2

5%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業ごとのペーパーそして授業参加点を加味し、総合的に評価する。)

科目名 学習指導と学校図書館

クラス 配当回生 2回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件

クラス指定

担当者 中島 幸子

### テーマ

学習センター機能としての学校図書館は、教科学習や読書などと関連付けて活用されることが重要である。司書教諭は教師として、また多様なメディアの専門家としての役割を果たすことが求められている。学校教育の目標と結びついた学校図書館の活用をめざしていく。

### 授業の目的（獲得目標）

学習指導の基盤となる教育の理論を理解した上で、学校図書館メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。教科学習における担当教諭と司書教諭のコラボレーション、学習情報センターとしての学校図書館利用指導などについて事例を研究し、実際に自分で指導案を作成する。情報リテラシー育成の一端を担う学校図書館活用の理論と実践のつながりを理解する。

### 内 容

- 第1回 学校教育と学校図書館
- 第2回 主体的な学習を支える学校図書館
- 第3回 メディア活用能力育成とその方法
- 第4回 メディア活用能力育成の計画と評価
- 第5回 レファレンスサービスと情報サービス
- 第6回 学校図書館メディアの活用—レファレンスブックの利用
- 第7回 情報サービスの新しい展開
- 第8回 インターネット情報源の利用
- 第9回 情報の利用とまとめ方（1）
- 第10回 情報の利用とまとめ方（2）
- 第11回 調べ学習の事例（1）
- 第12回 調べ学習の事例（2）
- 第13回 学校図書館活用を組み込んだ学習指導案の作成
- 第14回 学習指導案の発表
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

教育学、教科教育法の授業を復習しておくこと

### 教科書

**成績評価**

試験（50%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（10%）参加度（10%）備考（集中講義のため、1/3以上欠席した場合は試験を受けられない。）

## 2010 Syllabus

科目名 読書と豊かな人間性

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 澤谷 とし子

テーマ

子どもを本好きにするために何ができるか、読書教育と環境について考える

授業の目的（獲得目標）

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。また、学校図書館における読書教育の方策についての知識と理解を獲得する。

内 容

- 第1回 子どもの読書の現状
- 第2回 子どもの読書と人間形成
- 第3回 学校教育における読書
- 第4回 発達段階と読書
- 第5回 小学生、中学生、高校生の読書
- 第6回 読書指導の実際
- 第7回 生涯学習への読書
- 第8回 子どもを読書に誘う方法（1）読み聞かせとストーリーテリング
- 第9回 子どもを読書に誘う方法（2）ブックトーク
- 第10回 子どもを読書に誘う方法（3）朝の読書 ほか
- 第11回 読書資料の種類と活用（1）絵本
- 第12回 読書資料の種類と活用（2）児童文学 ほか
- 第13回 読書活動における司書教諭の役割
- 第14回 家庭・地域・公共図書館との連携、協力
- 第15回 子ども読書活動の推進とまとめ

授業以外での学習方法

自分自身の読書の他に、できるだけ多く基本的な子どもの本も読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（40％）小テスト（）授業中課題（30％）授業中発表等（）参加度（30％）備考（）

科目名 情報メディアの活用

クラス 配当回生 2回生

講義期間 夏期集中 定員 55

履修条件

クラス指定

担当者 戸田 久美子

テーマ

存在するさまざまなメディアの特色を理解した上で、学校教育への活用を論じる。そして、児童・生徒の情報リテラシーの育成について学ぶ。

授業の目的（獲得目標）

司書教諭資格科目である。教職希望者が情報メディアを学校教育に取り入れる意義を学び、実際に授業で活用することができるよう実習を並行して行う講義である。実践に役立つプロダクトを作成し、情報メディアを活用しての学習指導案を考案する。なお、グループワークを取り入れ、コミュニケーション能力の向上も図る。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、学校図書館と情報メディア、情報メディアと司書教諭、情報社会と図書館
- 第2回 児童生徒と情報検索 情報メディアの特性と選択 情報メディアの評価
- 第3回 グループワーク・学習指導案と情報メディア①テーマの決定
- 第4回 情報検索演習〈データベースとインターネット〉 情報メディアの記録と生産物への活用
- 第5回 インターネットの光と影 — 検索から発信の手段から、ネチケットやネット犯罪まで
- 第6回 視聴覚メディアおよび電子メディアの活用について・実例の紹介
- 第7回 グループワーク〈学習指導案と情報メディア〉②学習指導案の作成
- 第8回 グループワーク〈学習指導案と情報メディア〉③パスファインダーの作成
- 第9回 学校教育と著作権
- 第10回 情報活用能力、メディア・リテラシー
- 第11回 グループワーク〈学習指導案と情報メディア〉④教材メディアの作成
- 第12回 グループワーク〈学習指導案と情報メディア〉⑤パワーポイントの作成
- 第13回 確認テスト
- 第14回 グループワーク〈学習指導案と情報メディア〉⑥プレゼンテーション準備
- 第15回 情報メディアを活用したプレゼンテーションとその評価

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（30）小テスト（10）授業中課題（30）授業中発表等（20）参加度（10）備考（提出物を重視する。作成するときには図書館の資料を活用することが望ましい。また、授業では教材プリントを配布し、教材パワーポイントを中心に講義をおこなう。テキストを必ずしも購入する必要はないが図書と併用することで学習内容への理解が深まるだろう。司書教諭科目の受講をこの講義以前に受けていない学生諸君にはテキストの入手を勧める。テストではテキストのみ持込を認める。）



## 2010 Syllabus

|       |                         |      |     |
|-------|-------------------------|------|-----|
| 科目名   | 博物館実習Ⅲ <c>              |      |     |
| クラス   | c                       | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年                      | 定員   | 48  |
| 履修条件  | 履修許可者のみ履修可、提携先とは提携内容による |      |     |
| クラス指定 |                         |      |     |
| 担当者   | 山下 善也                   |      |     |

## テーマ

国立博物館の特別展覧会観覧者アンケート・ボランティアの体験学習

## 授業の目的（獲得目標）

京都国立博物館で行なわれている文化活動としての展覧会の意義について、外側からでなく内側からの目線で理解する。秋期（10～11月）には、ボランティアとして京都国立博物館で開催される特別展覧会について観覧者アンケート（実施・集計・分析・報告）を実際に体験し、その理解を具体的に確認する。京都国立博物館の歴史と活動、とくに特別展覧会の成り立ちについて学習し、展覧会を提供する館とそれを観覧する利用者、その相互関係について考察しながら、その点検方法を考えていく。

## 内 容

- 第1回 4/19 京都国立博物館の歩み 羽田聡（研究員）
- 第2回 4/26 特別展覧会の企画と実施 ケース1 袈裟展 山川暁（主任研究員）
- 第3回 5/10 京都国立博物館の学芸活動 浅湫毅（主任研究員）
- 第4回 5/17 特別展覧会の企画と実施 ケース2 永青文庫展 浅湫毅（主任研究員）
- 第5回 5/24 特別展覧会の企画と実施 ケース3 Japan 蒔絵展 永島明子（主任研究員）
- 第6回 5/31 特別展覧会の企画と実施 ケース4 暁齋展 山下善也
- 第7回 6/ 7 特別展覧会の企画と実施 ケース5 ヨーロッパ陶磁展 尾野善裕（工芸室長）
- 第8回 6/14 特別展覧会の企画と実施 まとめ 山下善也
- 第9回 6/21 特別展覧会への反応点検1 手法について 山下善也
- 第10回 6/28 特別展覧会への反応点検2 グループ分け・演習 山下善也
- 第11回 7/ 5 特別展覧会への反応点検3 演習 山下善也
- 第12回 7/12 特別展覧会への反応点検4 まとめ 山下善也
- 第13回 7/26 特別展覧会の企画と実施 ケース6 上田秋成展★ 水谷亜希（研究員） 山下善也 ※特別講師は、すべて京都国立博物館学芸部。山下善也は連携協力室長。その他は、付記のとおり。 ※★の日は、京都国立博物館にて実施（東大路妙法院向いの通用口、警備さんのところで記帳。入って右の建物の3F研修室へ）。その他は大学で。
- 第14回
- 第15回

## 授業以外での学習方法

京都国立博物館での特別展覧会見学（京都橘大学はキャンパスメンバーなので、学生証提示による観覧が可能）を各自行なうこと

---

教科書

参考書

---

**成績評価**

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) 備考 ( )

## 2010 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅲ <a>

クラス a 配当回生 4回生

講義期間 通年 定員 48

履修条件 履修許可者のみ履修可、提携先とは提携内容による

クラス指定

担当者 木下 達文

### テーマ

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける

### 授業の目的（獲得目標）

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解をよりいっそう深める。

### 内 容

第1回 展示企画の考え方（1）

第2回 展示企画の考え方（2）

第3回 展示用写真撮影の基礎理論と取り扱い（1）

第4回 展示用写真撮影の基礎理論と取り扱い（2）

第5回 資料撮影の実際（1）

第6回 資料撮影の実際（2）

第7回 展示パネルの制作（1）

第8回 展示パネルの制作（2）

第9回 編集の実務（1）

第10回 編集の実務（2）

第11回 レプリカ資料の制作（1）

第12回 レプリカ資料の制作（2）

第13回 展示の実際（1）

第14回 展示の実際（2）

第15回 評価とまとめ ※授業の内容によって多少変更をする場合もある。 ※レプリカ実習はレプリカ会社の都合により土曜日に行う（日程は早めに連絡する）。

### 授業以外での学習方法

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 ( )

|       |                         |      |     |
|-------|-------------------------|------|-----|
| 科目名   | 博物館実習Ⅲ <b>              |      |     |
| クラス   | b                       | 配当回生 | 4回生 |
| 講義期間  | 通年                      | 定員   | 48  |
| 履修条件  | 履修許可者のみ履修可、提携先とは提携内容による |      |     |
| クラス指定 |                         |      |     |
| 担当者   | 木下 達文                   |      |     |

### テーマ

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける

### 授業の目的（獲得目標）

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解をよりいっそう深める。

### 内 容

- 第1回 展示企画の考え方（1）
- 第2回 展示企画の考え方（2）
- 第3回 展示用写真撮影の基礎理論と取り扱い（1）
- 第4回 展示用写真撮影の基礎理論と取り扱い（2）
- 第5回 資料撮影の実際（1）
- 第6回 資料撮影の実際（2）
- 第7回 展示パネルの制作（1）
- 第8回 展示パネルの制作（2）
- 第9回 編集の実務（1）
- 第10回 編集の実務（2）
- 第11回 レプリカ資料の制作（1）
- 第12回 レプリカ資料の制作（2）
- 第13回 展示の実際（1）
- 第14回 展示の実際（2）
- 第15回 評価とまとめ ※授業の内容によって多少変更をする場合もある。 ※レプリカ実習はレプリカ会社の都合により土曜日に行う（日程は早めに連絡する）。

### 授業以外での学習方法

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 備考 ( )

科目名 生涯学習概論Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

日本と世界の生涯学習

授業の目的（獲得目標）

生涯学習を世界史的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。

内 容

- 第1回 ハンブルク宣言の意味するもの
- 第2回 生涯学習の制度と施設－イギリスにおける大学拡張
- 第3回 生涯学習の制度と施設－成人教育の成立
- 第4回 生涯学習の制度と施設－ドイツにおける民衆大学
- 第5回 生涯学習の制度と施設－市民大学の現在
- 第6回 職業教育・訓練の理念と制度
- 第7回 職業資格と生涯学習
- 第8回 社会的教育学の成立と青少年教育
- 第9回 高齢社会と生涯学習
- 第10回 日本における環境学習
- 第11回 世界の環境学習
- 第12回 エコミュージアムと市民の学習
- 第13回 多文化共生と生涯学習
- 第14回 アジアの生涯学習 中国
- 第15回 アジアの生涯学習 韓国

授業以外での学習方法

授業中紹介した文献を読む。世界の動向や教育改革の動きについて敏感になる。

教科書

参考書

成績評価

試験（30%）小テスト（30%）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（40%）備考（）

科目名 社会教育計画 I

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

学習者の理解と学習課題の把握

授業の目的（獲得目標）

社会教育計画策定の前提として、多様な学習者を理解し、生活課題と学習課題を探ることをねらいとする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 社会教育計画とは
- 第2回 婦人教育から女性の学習へ
- 第3回 子育てに関わる学びとネットワークづくり
- 第4回 はたらくことにかかわる学び
- 第5回 今日の青少年教育施設
- 第6回 子どもと地域 プレイパークの現在
- 第7回 エイジングはよくないことか？高齢者の可能性
- 第8回 文化の創造者としての高齢者
- 第9回 高齢社会にかかわる学習
- 第10回 障害者の学習
- 第11回 障害者の自己表現と自立支援
- 第12回 在日外国人の現在と学習課題
- 第13回 多文化共生社会にかかわる学習
- 第14回 まちづくりと社会教育計画
- 第15回 社会教育計画と住民参加

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（30%）授業中課題（）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）



科目名 社会教育計画Ⅱ

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

地域・学校と社会教育計画

授業の目的（獲得目標）

地域社会における学校教育と社会教育の協力を考える。また学級・講座の企画力を養う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校における施設開放
- 第3回 学社連携の実際
- 第4回 開かれた小学校とは？
- 第5回 校区社会教育の可能性
- 第6回 学校開放における安心と安全を考える
- 第7回 総合型地域スポーツクラブと部活動
- 第8回 高等学校と地域社会
- 第9回 青年・成人の学習と新しい高等学校
- 第10回 大学開放の歴史と現在
- 第11回 社会教育施設としての大学
- 第12回 社会教育としての職業教育・訓練
- 第13回 権利としての職業教育・訓練
- 第14回 企画ないしはテーマ研究の発表・交流
- 第15回 企画ないしはテーマ研究の発表・交流

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（）

科目名 社会教育演習

クラス 配当回生 2回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

社会教育の学習方法

授業の目的（獲得目標）

小集団による話し合い、調査など社会教育実践における主要な学習方法を習得する。

内 容

第1回 オリエンテーション 少し詳しい自己紹介

第2回 関心を持つテーマについて話し合う

第3回 話し合いを発展させる

第4回 ゲーム・スポーツによる親睦交流

第5回 郷土料理を通じて知る地域

第6回 調理実習の企画

第7回 調理実習の実施

第8回 学習のふり返り

第9回 地域社会教育の調査

第10回 地域社会教育の調査

第11回 調査のまとめ

第12回 調査のまとめ

第13回 発表・交流

第14回 発表・交流

第15回 全体のまとめ

授業以外での学習方法

日頃から様々な問題に関心を持ち、自分の意見をまとめるようにする。

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（50%）参加度（50%）備考（）

科目名 社会教育課題研究

クラス 配当回生 2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

施設調査と企画の提案

授業の目的（獲得目標）

身近な近辺の市町村の社会教育関連施設について調べ、グループに分かれて調査もしくは実際にそこで行う企画を立案し、提案する。小集団による学習に習熟し、コミュニケーション能力を高め、プレゼンテーションの経験を積む。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 京都市および周辺市町村の社会教育の特徴
- 第3回 成人の学習の場所について
- 第4回 青年教育施設について
- 第5回 児童館の現在
- 第6回 高齢者等福祉関連施設における学習について
- 第7回 地域の文化施設における学習について
- 第8回 調査のグルーピング
- 第9回 調査のグルーピング
- 第10回 グループに分かれてフィールドワーク
- 第11回 グループに分かれてフィールドワーク
- 第12回 企画立案ないしは調査の設計
- 第13回 企画立案ないしは調査の実施
- 第14回 企画の交流・調査結果の分析の発表
- 第15回 まとめと提案

授業以外での学習方法

日頃から地域の学習・文化施設について関心を持つ

教科書

参考書

成績評価

試験（0%）小テスト（）授業中課題（30%）授業中発表等（30%）参加度（40%）備考（グループワークへの参加度を重視する。）

科目名 デジタルデザイン演習Ⅱ

クラス 配当回生 1回生

講義期間 定員 40

履修条件 都市環境デザイン学科のみ

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 建築数学〈Z〉

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者 閉講（開⇒閉）

テーマ

建築の構造を理解するために必要な数学の基礎を修得する。

授業の目的（獲得目標）

構造力学を学ぶために必要な基礎的な数学について講義を行います。方程式、関数、微分、積分の性質とそれらの応用方法について理解することを目的とします。

内 容

第1回 ガイダンス 数の性質と計算

第2回 式とその計算

第3回 一次方程式

第4回 連立方程式

第5回 行列式

第6回 二次方程式

第7回 グラフと関数

第8回 三角関数とその性質

第9回 三角関数の応用

第10回 図形・面積・体積

第11回 漸近解法

第12回 微分法

第13回 積分法

第14回 積分法の応用

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義した内容の復習や演習問題を紙に書いて、繰り返し解くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験（45）小テスト（）授業中課題（55）授業中発表等（）参加度（）備考（基本的に毎週、講義の後に演習

を行います。最後の週にまとめのテストを行います。演習を 55%、テストを 45%で評価します。)

科目名 建築数学 <b>

クラス 配当回生 1回生

講義期間 その他 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）



科目名 生活文化論

クラス 配当回生 2回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者 m i t e i

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

科目名 室内環境デザイン〈Z〉

クラス Z

配当回生 4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西山 紀子

### テーマ

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて、有識者の話等聞きながら学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

### 授業の目的（獲得目標）

インテリアデザインの歴史を知り、今日のデザインの成り立ちを理解する。人間と空間の関係性を知り、エレメントも含めてヒューマンスケールからの発想を習得する。現代社会におけるインテリアデザインの在りようを知り、問題や課題を発見する。以上を通して、一人ひとりの人間が自分自身の手で触れ、肌で感じ、目や耳で確かめることのできる身近な空間をいかに造り上げていくか？という課題に取り組む力を身に付ける。

### 内 容

- 第1回 暮らしとインテリア
- 第2回 日本の住まいとインテリア 西洋のインテリアと家具の様式
- 第3回 インテリアと寸法
- 第4回 インテリアの性能と安全性
- 第5回 空間のデザイン
- 第6回 インテリアの色彩、テクスチャー
- 第7回 インテリアの仕上げ材料
- 第8回 家具の種類、配置、インテリアファブリック
- 第9回 照明計画と照明器具
- 第10回 インテリアの構法とデザイン
- 第11回 室内環境の計画
- 第12回 インテリアの計画演習1
- 第13回 インテリアの計画演習2
- 第14回 インテリアの計画演習3
- 第15回 まとめ

### 授業以外での学習方法

日常生活においてもインテリアデザインへの関心を忘れずに、身の周りの空間に気を配り、専門書だけでなくさまざまなメディアを通して広く情報を得るように心掛けること。

## 教科書

## 参考書

---

### 成績評価

試験（20%）小テスト（50%）授業中課題（0%）授業中発表等（20%）参加度（10%）備考（インテリアデザインに関する基礎的知識を確実に修得するため、授業途中に随時行う復習小テストを重視する。）

科目名 建築構造〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福田 浩明

テーマ

建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。

授業の目的（獲得目標）

2級建築士レベルの問題の理解と解答能力を身につける

内 容

第1回 ガイダンス、建築構造と倫理

第2回 地盤特性について

第3回 基礎について、免震構造

第4回 木質構造 1

第5回 木質構造 2

第6回 コンクリートブロック構造、組石造

第7回 壁式鉄筋コンクリート構造

第8回 鉄筋コンクリート構造 1

第9回 鉄筋コンクリート構造 2

第10回 鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造

第11回 建築の各部構造 1、屋根

第12回 建築の各部構造 2、床と壁

第13回 建築の各部構造 3、天井と階段

第14回 建築の各部構造 4、造作と開口部

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（50%）備考（人数、そ

の他の状況で評価方法が変わることもありますが、原則出席をしてのノートの記録を重要視します。100点満点のペーパーテスト（ノートの持ち込みも可とする場合もあり）と一緒に成績の評価とします。）

科目名 インテリアエレメント（材料学）〈Z〉

クラス Z

配当回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西山 紀子

### テーマ

インテリアにおいて、構造から仕上に至るまでの基本的な知識を修得する。インテリアを構成する要素の規格や性質等を含め、室内外環境の構成エレメントについて論じる。環境に生きづく構成要素・素材の総合的な知識を学び、居住性及びユニバーサルな環境づくりの観点から材料と空間、生活の相互関連メカニズムにまで言及する。

### 授業の目的（獲得目標）

インテリア空間は人の生活を機能的に成り立たせるだけでなく、美しさやそこに住まう人の個性の表出が求められる場でもある。このことを念頭にエレメントについて広く知り、それぞれの特性を生かした空間構成を学ぶ取る。また近年の社会の動向を考慮して、特にインテリアエレメントにおけるユニバーサルデザイン、エコデザイン、サステイナブルデザインなどを学ぶ取る。

### 内 容

- 第1回 インテリアエレメント・マテリアル概論
- 第2回 文化としての生活・建築・環境づくり-1：インテリア周辺の基本的構成エレメント
- 第3回 文化としての生活・建築・環境づくり-2：インテリア周辺の基本的構築マテリアル
- 第4回 要素と構成-1：要素から室内空間へ・・・・・・・・（エレメント-1）
- 第5回 要素と構成-2：内外空間構築における要素・（エレメント-2）
- 第6回 重要素の種類と性格・・・・・・・・・・・・・・・・（エレメント-3）
- 第7回 内外環境計画の現場を知る【学外研修】：エレメントとマテリアルへの注目
- 第8回 空間構成と計画・・・・・・・・（エレメントとマテリアル-1）
- 第9回 空間構成と表現・・・・・・・・（エレメントとマテリアル-2）
- 第10回 要素と構築-1：石と壁組から・・・・・・・・（マテリアル-1）
- 第11回 要素と構築-2：木と軸組から・・・・・・・・（マテリアル-2）
- 第12回 重要材の種類と性質・・・・・・・・・・・・・・・・（マテリアル-3）
- 第13回 エレメントとマテリアルによる統合-1：共生支援環境構築の課題
- 第14回 エレメントとマテリアルによる統合-2：新たな生活環境創生の課題
- 第15回 総括

### 授業以外での学習方法

日頃からインテリアに関心を持ち、問題意識を持ったことや印象に残ったことなど、記録を取っておく。

### 教科書

**成績評価**

試験（40%）小テスト（30%）授業中課題（20%）授業中発表等（）参加度（10%）備考（）

## 2010 Syllabus

---

科目名 建築施工〈Z〉

---

クラス Z

配当回生

---

講義期間 前期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 谷口 浩志

---

テーマ

---

### 授業の目的（獲得目標）

建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容や技術的な手法について具体的に知ることで、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。

---

### 内 容

- 第1回 建築施工について
  - 第2回 建築生産に関わる各種業務；設計・工事発注・施工など
  - 第3回 施工の流れと工程計画作成
  - 第4回 仮設工事について、および、地盤強度と地盤調査
  - 第5回 土工事と、地業工事の種類と施工法
  - 第6回 鉄筋工事と型枠工事
  - 第7回 コンクリートの配合と、その打設手順
  - 第8回 鉄骨の種類と、その接合や建て方について
  - 第9回 メーソロジー（組積）工事とプレキャストパネル
  - 第10回 建具工事
  - 第11回 内外装の機能材料と仕上工事
  - 第12回 給排水・空調・電気設備工事
  - 第13回 工事費の積算の手順
  - 第14回 簡単な構造物の積算演習
  - 第15回 まとめ
- 

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（60％）小テスト（0％）授業中課題（0％）授業中発表等（0％）参加度（40％）備考（）



---

科目名 デッサンと色彩 <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

---

履修条件

クラス指定

担当者 富家 大器

---

テーマ

演習を通じ「かたち」を表現する基礎を学習する

---

授業の目的（獲得目標）

〔授業概要〕 演習を通じ「かたち」を表現する基礎を学習する。演習を通して、空間における「かたち」を表現する基礎を学ぶ。自分の手を動かし、先人の作品を鑑賞していくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握する能力を高める

---

内 容

第1回 概説

第2回 かたちのありかた

第3回 立方体1

第4回 立方体2

第5回 静物1

第6回 静物2

第7回 静物3

第8回 講評

第9回 手1

第10回 手2

第11回 手3

第12回 建物1

第13回 建物2

第14回 建物3

第15回 講評

---

授業以外での学習方法

上手く描こうと焦る必要はない。むしろ、普段から「物をよく見る」という姿勢のほうが重要。また、先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的であろう。

---

教科書

参考書

---

## 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50) 備考 (授業中課題50%、出席・授業中態度・積極性・参加度総合50%。全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なす。)

科目名 設計製図演習Ⅲ <Z>

クラス Z

配当回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹山 清明

テーマ

木造戸建て住宅の建築計画とデザインを学ぶ

### 授業の目的（獲得目標）

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソノメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

### 内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント
- 第2回 配置計画案の作成
- 第3回 平面計画案の作成
- 第4回 立面・断面計画案の作成
- 第5回 架構計画案の作成
- 第6回 中間発表
- 第7回 配置図・平面図の作成1
- 第8回 平面図の作成2
- 第9回 立面図の作成
- 第10回 断面図の作成
- 第11回 展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成
- 第12回 模型1
- 第13回 模型2
- 第14回 模型3
- 第15回 講評とまとめ

### 授業以外での学習方法

建築の計画やデザインを学ぶ上で、質の高い空間イメージの理解や把握が最も大きい役割を果たす。建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して魅力的な空間イメージや美しいデザインを常日頃から学ぶことは重要である。また国内外の旅行の機会に建築や街並みの優れた事例を実体験することも進めたい。

### 教科書

**成績評価**

試験 ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (70%) 授業中発表等 (30%) 参加度 ( ) 備考 ( )

科目名 設計製図演習Ⅲ

クラス 配当回生

講義期間 定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

授業の目的（獲得目標）

内 容

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）備考（）

---

科目名 設計製図演習Ⅳ <Z>

---

クラス Z

配当回生

---

講義期間 後期

定員

---

履修条件

---

クラス指定

---

担当者 今井 裕夫

---

### テーマ

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

---

### 授業の目的（獲得目標）

建築士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーターなどの資格の実技試験に対応した設計力を得ること。

---

### 内容

- 第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
  - 第2回 集合住宅の事例調査発表
  - 第3回 配置計画、全体計画案の作成
  - 第4回 構造計画案の作成
  - 第5回 設備計画案の作成
  - 第6回 全体計画案の修正、建築基準法の確認
  - 第7回 基本住戸平面計画案の作成
  - 第8回 立面・断面・内装計画案の作成
  - 第9回 中間発表
  - 第10回 配置図の作成
  - 第11回 平面図の作成
  - 第12回 立面・断面図の作成
  - 第13回 模型1
  - 第14回 模型2
  - 第15回 講評とまとめ
- 

### 授業以外での学習方法

課題で想定された環境と内容をふかく読み取ること。

---

### 教科書

### 参考書

---

## 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (40%) 備考 ( )

科目名 教育実習（幼稚園）Ⅰ

担当者 神谷 栄司・三山 岳

### テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

### 授業の目的

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。〔授業の概要〕「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

### 内容

1回目 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの） 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの） 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など） 4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等） 2回目 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する） 3回目 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う） 10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する） 11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する） 4回目 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う） 14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う） 5回目 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う） 17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う） 18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける） 【事後指導】 6回目 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり 7回目 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表 8回目 教育実習事後指導③ ◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

### 授業以外での学習方法

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

### 教科書



**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）

備考（実習事前課題 25% 教育実習評価 50%、実習事後課題 25%）

---

**科目名** 教育実習（幼稚園）Ⅱ

---

**担当者** 神谷 栄司・一柳 敦子・谷口 敦子・三山 岳・山口 陽子

---

**テーマ**テーマ：これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

---

**授業の目的**

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。 [授業の概要] 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

---

**内容**

（教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）

1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する）
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する）
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける）

<授業外での学習方法>

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書****参考書**

---

**成績評価**

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）  
備考（実習事前課題 25% 教育実習評価 50%、実習事後課題 25%）

科目名 保育実習Ⅱ

---

担当者 森本 美絵・春田 真樹

---

### テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

---

### 授業の目的

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

---

### 内 容

① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習評価 70%、事後指導における提出物・レポート・発表 30% 施設実習期間 10日間（80時間）

---

### 授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（0）

備考（施設実習評価 70%、事後指導における提出物・レポート・発表 30%）

**科目名** 保育実習Ⅲ**担当者** 口野 隆史・一柳 敦子・加用 美代子・谷口 敦子・山口 陽子**テーマ**

ここまでの学内・学外で学んできた事をこの実習に生かし、自らの力を発揮し実践に取り組み、保育のより実践的な力を身に付ける

**授業の目的**

実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

**内容**

（保育実習Ⅲにおいては、「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、表記すれば以下のような内容となる） 1. 参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する） 2. 参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する） 3. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う） 4. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 5. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う） 6. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う） 7. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う） 8. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに見てもらい指導・助言を受ける）

**授業以外での学習方法**

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それをういて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

**教科書**

書籍：平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針〈原本〉

著者：文部科学省、厚生労働省

出版社：チルド社

出版年：2008年

**参考書**

書籍：授業中に適宜紹介

**成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（25%）授業中発表等（5%）参加度（70%）

備考（ 学外実習科目であるので、まず欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。実習事前課題 15% 保育実習への参加度 40% 保育実習評価 30%、実習事後課題 15%）

科目名 保育実習Ⅳ

---

担当者 森本 美絵・春田 真樹

---

### テーマ

保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅱ（入所施設）の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

---

### 授業の目的

保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、家庭や地域の福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援に必要とされる能力を養う。

---

### 内容

① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間 10 日間（80 時間）

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（0）授業中発表等（0）参加度（0）

備考（施設からの実習評価 70%、事後指導における提出物・レポート・発表 30%）

科目名 教育演習Ⅲ <i>

---

担当者 森本 美絵

---

テーマ

卒業論文作成に向けて

---

授業の目的

研究テーマを明確にし、多くの文献を読み、卒業論文を作成する。

---

内 容

第1回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評、最終テーマの決定 第2回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評、最終テーマの決定 第3回 卒論進捗報告（序論） 第4回 卒論進捗報告（序論） 第5回 卒論進捗報告（序論） 第6回 卒論進捗報告（序論） 第7回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討） 第8回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討） 第9回 卒論進捗報告（本論：先行研究の検討） 第10回 卒論進捗報告（本論） 第11回 卒論進捗報告（本論） 第12回 卒論進捗報告（本論） 第13回 卒論進捗報告（本論） 第14回 卒論進捗報告（本論） 第15回 振り返り

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (60) 参加度 (40)

備考 ( )



科目名 教育演習Ⅳ < i >

---

担当者 森本 美絵

---

テーマ

卒業論文作成に向けて

---

授業の目的

研究テーマを明確にし、多くの文献を読み、卒業論文を作成する。

---

内 容

①テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。②文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③順次、各自の研究テーマについて発表させる。④中間発表にむけての指導⑤中間発表後、執筆要領、留意事項など細部について指導する。⑥論文作成にむけての個別指導 第1回 卒論進捗報告(結論) 第2回 卒論進捗報告(結論) 第3回 卒論進捗報告(結論) 第4回 卒論進捗報告(結論) 第5回 卒論進捗報告(結論) 第6回 卒論進捗報告(結論) 第7回 卒論最終報告(全体) 第8回 卒論最終報告(全体) 第9回 卒論最終報告(全体) 第10回 卒論最終報告(全体) 第11回 卒論最終報告(全体) 第12回 卒論最終報告(全体) 第13回 卒論原稿相互チェック 第14回 卒論原稿相互チェック 第15回 総括

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (60) 参加度 (40)

備考 ( )

科目名 救急救命実習Ⅳ〈a〉

---

担当者 海老澤 徹二郎

---

テーマ

水難救助実習

---

### 授業の目的

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使つての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。 ※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

---

### 内容

水難救助法の実際を習得 国士舘大学ウエルネス・リサーチセンター（以下、「WRC」という。）が監修する「水難救助マニュアル」に基づき、学科（1日）と実技（3日間）の計4日間で構成され、救急救命士として必要な水難救助事象（プール、河川、湖沼及び海等）に対応できる知識及び能力を養成する。泳力の有無に係わらず誰でもが水難救助事象に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（20%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（50%）

備考（）

科目名 救急救命実習Ⅳ〈b〉

---

担当者 中山 友紀

---

テーマ

水難救助実習

---

### 授業の目的

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使つての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。 ※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

---

### 内 容

水難救助法の実際を習得 国士舘大学ウエルネス・リサーチセンター（以下、「WRC」という。）が監修する「水難救助マニュアル」に基づき、学科（1日）と実技（3日間）の計4日間で構成され、救急救命士として必要な水難救助事象（プール、河川、湖沼及び海等）に対応できる知識及び能力を養成する。泳力の有無に係わらず誰でもが水難救助事象に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（20%）小テスト（0%）授業中課題（30%）授業中発表等（0%）参加度（50%）

備考（）

科目名 救急救命実習Ⅶ〈a〉

---

担当者 海老澤 徹二郎

---

テーマ

水難救助実習

---

授業の目的

水難救助訓練

---

内 容

1. 研修名称 2010年度 救急救命コース「救急救命実習Ⅶ」(水難救助実習) 2. 主催 京都橋大学 現代ビジネス学部 現代マネジメント学科救急救命コース 3. 研修期間 2010年 7月5日(月)～ 7月10日(土)(5泊6日) 4. 研修内容 千葉県岩井海岸において、水難救助訓練を行う 5. 受講対象 現代マネジメント学科救急救命コース生 6. 教員体制 ・引率/本学現代ビジネス学部助教:鈴木靖奈 ・現地合流/本学非常勤講師:海老澤徹二郎および中山友紀 他1名 7. 実施ガイダンス 2010年6月17日(木) 昼休み 125教室

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(0%) 参加度(50%)

備考()

科目名 救急救命実習Ⅶ〈b〉

---

担当者 中山 友紀

---

テーマ

水難救助実習

---

授業の目的

水難救助訓練

---

内 容

1. 研修名称 2010年度 救急救命コース「救急救命実習Ⅶ」(水難救助実習) 2. 主催 京都橋大学 現代ビジネス学部 現代マネジメント学科救急救命コース 3. 研修期間 2010年 7月5日(月)～ 7月10日(土)(5泊6日) 4. 研修内容 千葉県岩井海岸において、水難救助訓練を行う 5. 受講対象 現代マネジメント学科救急救命コース生 6. 教員体制 ・引率/本学現代ビジネス学部助教:鈴木靖奈 ・現地合流/本学非常勤講師:海老澤徹二郎および中山友紀 他1名 7. 実施ガイダンス 2010年6月17日(木)昼休み 125教室

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(0%) 参加度(50%)

備考()

科目名 救急救命実習Ⅹ

---

担当者 夏目 美樹. 北嶋 勝彦. 鈴木 靖奈

---

テーマ

医療機関の現場にて展開される救急医療の現状の把握、及びそれらに必要な知識及び技術の修得。

---

授業の目的

救急医療に関連した知識の応用と、救急救命処置に係る技能の修得を主体とすること。さらに、医行為の介助等を通じて、診療の補助に対する理解を深め観察・判断能力を高めることを目的とする。

---

内容

1 学内にてオリエンテーション、成人看護座学 2 学内にて成人看護演習 3 夏期病院実習 4 春期病院実習 5 各期実習後報告検討会

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50)

備考 ( )

**科目名** 実践看護学実習 I

**担当者** 小野塚 元子. 伊藤 恵美子. 梶谷 佳子. 加藤 さゆり. 河原 宣子. 神崎 光子. 寺口 佐與子. 藤原 正恵. 堀 妙子. 松本 賢哉. 家根 明子

**テーマ**

実践看護学 I ・実践看護学演習 I での学習を踏まえ、主として日常生活援助を実施し、発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルに応じた看護技術を適応する方法の基礎を学ぶ。また、実習での体験を通して、自らの看護観を養う。

**授業の目的**

1. 発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルをふまえ、対象を理解する。 2. 対象の基本的ニード充足のために必要な日常生活援助を実践できる能力を養う。 3. 対象とその家族およびケアチームのメンバーと適切な人間関係を形成できる。 4. 実習での体験を振り返り、自らの看護観を言語化できる。

**内容**

内容 実習は、介護老人保健施設で2週間行う。一人の対象を受け持ち、対象に適した日常生活援助を計画し、指導者・教員と共に実施する。 実習日程 時期： 前半・後半に分かれて実施 前半 2010年8月23日（月）～9月3日（金）、後半 2010年9月6日（月）～9月17日（金）

**授業以外での学習方法****教科書****参考書**

書籍：これまで講義や演習で使用した教科書、実習するにあたって参考にしたい教科書、資料は各自で準備し持参する。

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (実習態度や実習記録などを含め、総合的に評価する。)

科目名 プライマリケア実習 I

---

担当者 加藤 さゆり, 小野塚 元子, 河原 宣子, 藤原 正恵, 堀 妙子

---

### テーマ

自らを取り巻く環境とコミュニティの機能について理解し、産業の場と学校の場における看護職の役割を理解する。

---

### 授業の目的

1. プライマリーファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の生活の場と 看護の必要性を理解することができる。 2. 産業の場における働く人々のヘルスニーズを把握し、産業看護職の役割について理解することができる。 3. 学校の場における児童、生徒、教職員のヘルスニーズを把握し、そこに関わる 看護職の役割について理解することができる。

---

### 内 容

|             |                  |            |       |
|-------------|------------------|------------|-------|
| 1. 実習期間(通年) | プライマリーファミリー(1週間) | 産業、学校(1週間) | 講演会あり |
| 2. 実習場所     | プライマリーファミリー      | 産業         | 学校    |

---

### 授業以外での学習方法

産業看護、学校保健の概要について事前に学習しておくこと。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験(実習態度や実習記録などを含め、総合的に評価する。) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( )  
備考 ( )



科目名 老年看護学実習

---

担当者 奥野 茂代. 小野塚 元子

---

### テーマ

高齢者の特性をふまえ、健康レベルに応じた基本的な看護ケアの方法を学び、多職種との チームアプローチの中で看護の位置づけ、役割機能、専門性を考察する。

---

### 授業の目的

1. 高齢者の特性をふまえたかかわり方ができる。
  2. 高齢者個々のQOLを考慮した看護過程が展開できる。
  3. 介護老人保健施設におけるサービスや職員の協働の現状、看護職の役割機能について理解 できる。
- 

### 内 容

1. 実習は、介護老人保健施設で行う。 2. 臨地実習の進め方 実習は2週間行う。 第1週目は、実習のオリエンテーションと施設のオリエンテーションをうけ、一人の高齢者を受け持ち、高齢者との関わりの中からその高齢者にある健康課題をアセスメントし、その健康課題の一つを取り上げ看護ケア計画を立案する。 第2週目は、立案した看護ケア計画に基づき実施と評価をおこなう。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

書籍 : 実践老年看護学概論と実践老年看護学で用いた教科書、授業中に配布した資料等を参考にしてください。

---

### 成績評価

試験 ( 0 ) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (1) 評価内容: (1) 実習目標到達状況 (5段階評価) (2) カンファレンス参加状況、記録 (5段階評価) (3) 実習態度、出席状況 (2) 評価方法: 学生による自己評価を参考に、教員が総合的に評価する。)

科目名 地域看護学実習

---

担当者 松下裕子

---

### テーマ

地域で暮らす人々のヘルスニーズを把握し、人々の健康な暮らしを支援する活動を学ぶとともに、地域保健活動における看護職の役割を理解する。

---

### 授業の目的

1 保健所および市町村保健センターにおける目標（概略） 1）地域保健活動の実践機関における地域保健・看護活動の展開の実際について学ぶ、等。 2）保健師業務について理解し、地域看護活動で用いられる援助方法を学ぶ、等。 2 訪問看護ステーションにおける目標（概略） 訪問看護ステーションの機能を理解し、看護職の役割と活動内容を学ぶ、等。 3 産業保健における目標（概略） 働く人々の健康管理・健康づくりの実際を学ぶとともに、健康問題とその援助について学ぶ、等。

---

### 内容

1 実習期間 3週間 2 実習場所 6保健所 3保健所支所、8市町村。訪問看護ステーション、地域包括支援センター、企業。 3 実習時間 8時30分～17時 その他、詳細は実習要項で示す。

---

### 授業以外での学習方法

実習施設のある地域の保健指標は事前に学習しておきましょう。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（80%）授業中発表等（20%）参加度（0%）  
備考（）

科目名 国際看護学Ⅱ

---

担当者 竹下 夏美

---

### テーマ

多文化共生社会における看護の役割について事例や実際をとおして学ぶ

---

### 授業の目的

1. 多文化共生社会における看護活動の展開方法について理解することができる。 2. 海外研修をとおして国際看護の実際を知り、重要性について理解することができる。 3. 多文化共生社会における看護職の役割について自分の意見を述べるすることができる。

---

### 内容

1. 国際看護学Ⅱ概論 2. 対象者のもつ文化を重視した看護の展開（日本に在住する外国人の看護） 3. 日本に在住する外国人との健康に関するパートナーシップを考える 4. 日本における多文化共生社会での看護職の役割 5. オーストラリアの文化や看護に関する理解 1) オーストラリアの文化・看護事情の理解 2) 母子保健の現状 3) 老人保健・看護・介護の現状 4) 地域保健・看護の現状 5) 医療機関・医療福祉施設の見学・研修 6. 海外研修のまとめ（研修成果の発表と報告書作成） 7. 国際看護学Ⅱのまとめ（グループワークと最終レポート作成） 海外研修には別途費用が必要となります。 2008年度：38万程度 ※費用は為替レートの変動などにより、変動することがあります。 詳細は後日連絡します。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

書籍：国際看護学入門

### 参考書

書籍：レイニンガー看護論（文化ケアの多様性と普遍性）

---

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（40%）授業中発表等（40%）参加度（20%）

備考（留意点：①海外研修のみに参加することはできない。②海外研修に行かない場合は単位を認めることができない。講義日程等：①8月下旬～9月上旬集中講義 ②海外研修10日間程度 ③帰国後、まとめと討論会）

科目名 総合看護学実習（総合）〈a〉

---

担当者 高田 早苗

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）

---

担当者

---

テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（100）授業中発表等（0）参加度（0）

備考（各領域の実習要項を参照する。）

科目名 総合看護学実習（総合）〈c〉

---

担当者 梶谷 佳子

---

#### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

#### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

#### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

#### 授業以外での学習方法

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈d〉

---

担当者 片山 由加里

---

#### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

#### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

#### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

#### 授業以外での学習方法

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈e〉

---

担当者 堀 妙子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)



科目名 総合看護学実習（総合）〈f〉

---

担当者 河原 宣子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈g〉

---

担当者 藤原 正恵

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈h〉

---

担当者 寺口 佐與子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈i〉

---

担当者 奥野 茂代

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)  
備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈j〉

---

担当者 小野塚 元子

---

#### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

#### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

#### 内 容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

#### 授業以外での学習方法

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈k〉

---

担当者 伊藤 恵美子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈I〉

---

担当者 松本 賢哉

---

#### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

#### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

#### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

#### 授業以外での学習方法

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈m〉

---

担当者 竹下 夏美

---

#### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

#### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

#### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

#### 授業以外での学習方法

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)



科目名 総合看護学実習（総合）〈n〉

---

担当者 高橋 みや子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（総合）〈○〉

---

担当者 戸塚 規子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（母性・助産）〈a〉

---

担当者 田邊 美智子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（母性・助産）〈b〉

---

担当者 遠藤 俊子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（母性・助産）〈c〉

---

担当者 神崎 光子

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（母性・助産）〈d〉

---

担当者 竹 明美

---

### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

### 内 容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 総合看護学実習（母性・助産）

---

担当者

---

テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（100）授業中発表等（0）参加度（0）

備考（各領域の実習要項を参照する。）

科目名 総合看護学実習（地域）〈a〉

---

担当者 松下裕子

---

**テーマ**

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

**授業の目的**

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

**内 容**

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

**授業以外での学習方法**

---

**教科書**

**参考書**

---

**成績評価**

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)  
備考 (各領域の実習要項を参照する。)



科目名 総合看護学実習（地域）〈b〉

---

担当者 加藤 さゆり

---

#### テーマ

さまざまなヘルスケアシステムでのヒューマン・ケアリングを通して、看護学を追究する姿勢と保健・医療・福祉のチームの一員として自立するための基礎的な能力を養う。

---

#### 授業の目的

1. 3回生までの学習を振り返り、看護専門職として自己の自主性を培うための課題を主体的にみつける。 2. さまざまなヘルスケアシステムの関係者とチームの一員として協働し、看護実践能力を高める。 3. 実習を通して見出した看護の課題について、解決する必要性を理解する。

---

#### 内容

3月に領域・担当教員決定後は、担当教員の指導のもとに実施する。

---

#### 授業以外での学習方法

---

#### 教科書

#### 参考書

---

#### 成績評価

試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (100) 授業中発表等 (0) 参加度 (0)

備考 (各領域の実習要項を参照する。)

科目名 特別研究 I (言M1前) <Mg>

---

担当者 横山 弘平

---

テーマ

仮名作品研究と書美論と書道史学の諸問題の研究

---

授業の目的

確実で多様性をもつ書表現の養成および書学書道史の深い理解

---

内容

自らの主体性をもった創作作品づくりと確実な資料収集による論文作製への意見交換とその指導

---

授業以外での学習方法

研究は授業以外が重要な準備時間となるので専念して学習したい。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (備考参照) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( )

備考 (授業での積極的な取り組み、出席率等を総合的に評価したい。)

64002257

2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(言M1後) <Mg>

---

担当者 横山 弘平

---

テーマ

仮名作品制作研究と書美論と書道史学の諸問題の研究

---

授業の目的

より確実に多様な書表現の完成および書学書道史の深い理解

---

内容

自身の意図に基づいた作品制作と論文作製に向けた適確な資料整理と組み立て方の取得

---

授業以外での学習方法

研究は授業以外が重要な準備時間となるので専念して学習したい。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(備考参照) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( )

備考(授業での積極的な取り組み、出席率を総合的に評価したい。)

科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) <M g>

---

担当者 横山 弘平

---

テーマ

仮名作品研究と書美論と書道史学の諸問題の研究

---

授業の目的

確実で多様性をもつ書表現の養成および書学書道史の深い理解

---

内 容

自らの主体性をもった創作作品づくりと確実な資料収集による論文作製への意見交換とその指導

---

授業以外での学習方法

研究は授業以外が重要な準備時間となるので専念して学習したい。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(備考参照) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( )

備考(授業での積極的な取り組み、出席率等を総合的に評価したい。)

64004257

2010 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後)〈Mg〉

---

担当者 横山 弘平

---

テーマ

仮名作品制作研究と書美論と書道史学の諸問題の研究

---

授業の目的

より確実に多様な書表現の完成および書学書道史の深い理解

---

内容

自身の意図に基づいた作品制作と論文作製に向けた適確な資料整理と組み立て方の取得

---

授業以外での学習方法

研究は授業以外が重要な準備時間となるので専念して学習したい。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(備考参照) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( )

備考(授業での積極的な取り組み、出席率を総合的に評価したい。)

科目名 特別研究 I (歴財M1前) <Mk>

---

担当者 王 衛明

---

テーマ

修士論文の指導

---

授業の目的

修士論文の完成

---

内容

内容趣旨論文を完成させるためには、研究対象とした美術作品のデータ収集、それと関連する歴史文献の読破及び研究史の読み込みを徹底的に行うことが最重要課題である。この授業は以下の三項目を内容に、ゼミという形で議論を重ねながら確実な美術史研究の力を身に付けることと、修論の完成を促進させることを目標とする。

①美術作品に関する研究初期段階のデータ収集の方法 ②修論で取り挙げる漢文史料の精読及びその史料内容上の問題点に関する検討 (史料文献学の操作方法) ③修論で取り挙げる美術作品に関する比較分析及び記述の方法

---

授業以外での学習方法

博物館見学への積極的に参加、常時に図書館で資料調査を行うこと。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%)

備考 ( )

科目名 特別研究Ⅱ（歴財M1後）〈Mk〉

---

担当者 王 衛明

---

テーマ

修士論文の指導

---

授業の目的

修士論文の完成

---

内 容

内容趣旨論文を完成させるためには、研究対象とした美術作品のデータ収集、それと関連する歴史文献の読破及び研究史の読み込みを徹底的に行うことが最重要課題である。この授業は以下の三項目を内容に、ゼミという形で議論を重ねながら確実な美術史研究の力を身に付けることと、修論の完成を促進させることを目標とする。

①美術作品に関する研究初期段階のデータ収集の方法 ②修論で取り挙げる漢文史料の精読及びその史料内容上の問題点に関する検討（史料文献学の操作方法） ③修論で取り挙げる美術作品に関する比較分析及び記述の方法

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）

備考（博物館見学への積極的に参加、常時に図書館で資料調査を行うこと。）

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前) <Mk>

---

担当者 王 衛明

---

テーマ

修士論文の指導

---

授業の目的

修士論文の完成

---

内 容

内容趣旨論文を完成させるためには、研究対象とした美術作品のデータ収集、それと関連する歴史文献の読破及び研究史の読み込みを徹底的に行うことが最重要課題である。この授業は以下の三項目を内容に、ゼミという形で議論を重ねながら確実な美術史研究の力を身に付けることと、修論の完成を促進させることを目標とする。

①美術作品に関する研究初期段階のデータ収集の方法 ②修論で取り挙げる漢文史料の精読及びその史料内容上の問題点に関する検討(史料文献学の操作方法) ③修論で取り挙げる美術作品に関する比較分析及び記述の方法

---

授業以外での学習方法

博物館見学への積極的に参加、常時に図書館で資料調査を行うこと。

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(0%) 参加度(50%)

備考( )



科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後)〈Mk〉

---

担当者 王 衛明

---

テーマ

修士論文の指導

---

授業の目的

修士論文の完成

---

内 容

内容趣旨論文を完成させるためには、研究対象とした美術作品のデータ収集、それと関連する歴史文献の読破及び研究史の読み込みを徹底的に行うことが最重要課題である。この授業は以下の三項目を内容に、ゼミという形で議論を重ねながら確実な美術史研究の力を身に付けることと、修論の完成を促進させることを目標とする。

①美術作品に関する研究初期段階のデータ収集の方法 ②修論で取り挙げる漢文史料の精読及びその史料内容上の問題点に関する検討(史料文献学の操作方法) ③修論で取り挙げる美術作品に関する比較分析及び記述の方法

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(0%) 参加度(50%)

備考(博物館見学への積極的に参加、常時に図書館で資料調査を行うこと。)

科目名 看護倫理論 <M>

担当者 高田 早苗

### テーマ

看護倫理、看護実践、ケアリング、患者の権利、倫理コンサルテーション、臨床倫理委員会

### 授業の目的

看護実践に倫理がその本質として備わっていることを踏まえ、実践現場における倫理的問題の分析と解決の能力を開発する。

### 内容

第1回～第4回 I. 看護倫理とは 看護実践と倫理：ケアリングとしての看護、社会的枠組みにおける看護 実践現場における倫理問題：ジレンマ、苦悩、職種間対立と協同 地位と倫理：患者・家族・医療専門職、スタッフ・管理者・専門看護師 意思決定支援モデルと看護者の役割 第5回～第11回 II. 倫理的能力とその開発 1. 事例検討（3コマ） 事例記述：倫理的感受性、事実関係の整理 事例分析・解釈：倫理的推論（倫理問題の所在、性質） 意思決定：看護職としての倫理的価値選択 問題解決方策とリスク対策 2. 模擬臨床倫理委員会（2コマ） 提示事例を用いたロールプレイング：1時間程度の模擬委員会と振り返り 3. 倫理コンサルテーション、調整（2コマ） 提示事例に基づき、グループワーク、ロールプレイング 病棟スタッフからの患者ケアの悩み相談、背景に病棟文化の問題 師長から攻撃的な患者と担当を拒否する看護師への対応の相談 第12回～第15回 III. 看護倫理の探究：文献検討 経験科学的研究（実証）とその限界 事例検討（例証）論考、論証 各自の関心テーマと方法論を意識して文献選択

### 授業以外での学習方法

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（60%）授業中発表等（30%）参加度（10%）  
備考（）

科目名 実践看護応用学特論Ⅱ（成人・精神）〈M〉

---

担当者 閉講（開⇒閉）

---

テーマ

看護アセスメント技術

---

### 授業の目的

1. 成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を、身体的・心理的・社会的側面から全人的に理解するためのアセスメント技術を修得する 2. 様々な健康レベルにある個人および家族の QOL 向上に向けた効果的な看護実践方法を行うための諸理論と看護介入方法、支援システムについて説明できる

---

### 内 容

（オムニバス方式／全15回） 第1回～第4回 慢性疾患や障害を持ち生活する対象（個人、家族）を包括的に理解し、看護援助を行うための諸理論を教授する。 第5回～第7回 精神障害者及び精神症状を呈する人に対するの援助の方法・看護介入の方法を教授する。 第8回～第11回 成人期にある人のクリティカルな状況における包括的なアセスメント技術を教授する。 第12回～第15回 精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての精神状態の査定とセルフケア理論と査定の方法を教授する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（0）小テスト（0）授業中課題（100）授業中発表等（0）参加度（0）

備考（レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する）

87123800

2010 Syllabus

科目名 実践看護応用学特別研究 <Ma>

---

担当者 奥野 茂代

---

テーマ

成人期、高齢期をいきる人々の健康課題と看護

---

授業の目的

修士論文の作成、ただし、専門看護師の場合は課題研究レポート作成

---

内容

修士論文の作成のための演習 専門看護師の場合は課題研究レポート作成のための演習

---

授業以外での学習方法

臨床実習（専門看護師の場合）

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）

備考（）

科目名 実践看護応用学特別研究 <M b>

---

担当者 藤原 正恵

---

テーマ

修士論文の指導

---

授業の目的

自らのテーマに関して修士論文の完成に向けた準備を行う。

---

内 容

1. 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する。 2. 研究の概念枠組みを明確にし、研究に必要なデータ収集を開始する。 3. 集めたデータを分析し、考察する。 4. 論文の作成に取り掛かる。

---

授業以外での学習方法

---

教科書

参考書

---

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (70%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (0%)

備考 ( )

科目名 実践看護応用学実習（老年）〈M〉

担当者 奥野 茂代

### テーマ

講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合し、老人専門看護師として活動できる看護実践能力の形成・向上を図る。そのために病院・施設および在宅などで暮らしている健康課題をもつ高齢者（認知症高齢者を含む）とその家族に対し、専門的老年看護の実践、スタッフや他職種への教育、相談、保健医療福祉に関わる人々の調整、倫理的調整などに研究的視点をもって臨み、また老年看護活動を創始工夫・変革するため実践的研究に取り組む。

### 授業の目的

1) 高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。 2) 高齢者の生活環境とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。 3) 高齢者と家族の関係調整に関する実践・相談・教育、コーディネーションなどの能力を身につける。 4) 高齢者ケアにおける看護活動・組織の検討と関係調整に必要なコーディネーション、リーダーシップを発揮する能力を身につける。 5) 高齢者ケアにおける看護スタッフへの教育・相談の企画・実践・評価およびコンサルテーション、リ-

### 内容

課題： 1) 病院・施設における看護実践、認知症老人看護における看護実践では、3例（必ず認知症高齢者看護に関するものを含む）についてケースレポートを3例作成する。（目標 1.2.3） 2) 在宅高齢者（認知症高齢者を含む）の看護実践を体験し、看護上の課題を論述するレポートを1例作成する（目標 1.2） 3) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護管理実践を行い、看護組織・機関における高齢者ケアに関する実践的・実態的課題についてレポートを1例作成する。（目標 4） 4) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護活動計画、スタッフ教育、相談、調整、コンサルテーションを行い論述するレポートを1例作成する。（目標 5） 5) 病院・施設における実習において倫理的な問題・葛藤について倫理的調整、コーディネーションについて論述するレポートを1例作成する。（目標 3,6） 6) 高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的実態的研究課題を見出しレポートとしてまとめる。（目標 7）

実習単位：6単位 実習時期：1年次後期～2年次前期、後期 場所・期間：実習期間は、下記を基準とするが、老人専門看護師として院生の能力開発強化の必要性を考慮し決める

- ・ 病院・施設における老人看護に関する実習 4週間 長浜赤十字病院、京都第一赤十字病院の実習期間については、学生個別に決める
- ・ 認知症老人看護に関する実習 4週間 社会福祉法人健康園高齢者福祉施設ももやまで実習する
- ・ 在宅における老人看護に関する実習 1週間 訪問看護ステーション桂で実習する。在宅高齢者の看護課題により京都桂病院、高齢者総合福祉施設京都厚生 園で実践を体験する場合は、1週間以上行う（実習期間を延長する）

実習の進め方： 1) 実習目標にもとづき個別行動目標を明確にし、実習計画を立てる、さらに教員、指導者を交えて検討する。 2) 日々の実習記録を記載する。また、複雑な事例に関する臨床判断、実践的知識、他者との関係性、自己の気持ちや感情などについて、丁寧に記述し、経験の意味を考察する。 3) 高齢者や家族に対する倫理的配慮を行うと共に、予測される倫理的課題について指導者やスタッフと調整する。 4) 週1回定期的なカンファレンスにおいて、教員、実習指導者の助言をうけ、専門看護実践に関する自己評価を行うと共に、実習計画を修正する。

スーパービジョン： 1) 実習中は、担当教員より週1回のスーパービジョンを受ける。スーパービジョンは、実習施設におけるベットサイドおよび大学での両方を併用する。 2) 実習施設では、

適宜カンファレンスを行い、実習指導者（専門看護師レベルに相当する看護職）や他の看護職などから、助言・フィードバックを受ける。

---

#### **授業以外での学習方法**

臨床実習、文献学習、学生プレゼンテーション

---

#### **教科書**

#### **参考書**

---

#### **成績評価**

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（0%）授業中発表等（0%）参加度（0%）

備考（実習計画の作成（個別行動目標）、実習状況、実習目標の到達状況、プレゼンテーション、課題レポート、学習態度などを総合的に評価）

科目名 次世代育成看護学実習（周産期）〈M〉

担当者 閉講（開⇒閉）

### テーマ

講義・演習で学んだ理論・知識・技術を実践に応用・統合し、母性看護専門看護師として活動するための能力形成を図る。専門看護師としての役割機能の視点を持ちながら、周産期ケアの質向上のための変革を担う力を育てる。

### 授業の目的

周産期のプライマリーヘルスケアを提供する医療施設、高度医療を提供する医療施設の各々において、妊産婦・子どもとその家族の生活状況や健康問題維持・増進にかかわる高度な看護実践、調整、倫理的調整、専門領域スタッフからの相談、教育、研究や調整の各機能について、実践を通して獲得する。

### 内容

[実習目標] 1 身体的あるいは心理・社会的に複雑な状況をもつ妊産婦と子どもとその家族の支援を計画、実践、評価し、高度看護実践能力を高める。また、あわせて事例のもつ倫理的課題について検討を行う。 2 救急ならびに緊急対応時のケアやハイリスク妊産婦と家族へのケア事例から、チーム医療、他医療機関・地域との連携の調整ができる能力を高める。 3 専門領域スタッフからの相談、教育活動を実践する。 4 周産期ケア改善のために組織における看護活動をアセスメントし、改善に資する企画立案、実施、評価やその調整プロセスなどを学ぶ。 5 施設で行っている事例検討会やデータの整理・分析を行うことを通じて、周産期看護の質改善へのアプローチを学ぶ。 [実習方法] 1. プライマリーヘルスケアが提供される周産期医療施設 1) 妊産婦ケアを中心とした高度看護実践を行う。とりわけ、正常性を維持するケアの重要性やスキルを獲得する。 2) 高度看護実践を行いつつ、事例のもつ状況により、調整、倫理調整の機能を果たす。 3) 実習指導者である専門看護師とともにスタッフへの相談、教育や調整の機能を果たす。 4) 実習施設の行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへの参加を通じて、周産期看護の質の確保への取り組みを学ぶ。 2. 高度医療が提供される医療機関 1) 転送・搬送ケースを中心に、妊産婦ケアを中心とした高度看護実践を行う。 2) 周産期の母子救急、緊急対応に関わる事例の調整、倫理調整の機能を果たす。 3) 実習指導者である専門看護師とスタッフへの相談、教育や他部門や他施設、地域との調整機能を果たす。 4) 実習施設の行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへの参加を通じて、業務改善や政策参加のための取り組みを学ぶ。 [実習期間] 4月～11月 [実習施設] プラマリーヘルスケアを担う周産期医療施設 小阪産病院（外来・LDR・病棟） 高度周産期医療施設 山梨大学医学部附属病院（外来・病棟） 京都府立医科大学附属病院（外来・NICU） [実習指導者] 上記施設の母性看護CNSならびに卓越した能力をもつ助産師

### 授業以外での学習方法

教科書

参考書



---

## 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）

備考（実習状況、実践結果の自己評価、他者評価、課題レポートなどで総合的に評価。）

科目名 広域看護学特別研究 <Ma>

---

担当者 高橋 みや子

---

### テーマ

看護教育学上も課題の中から研究課題を設定し、研究課題を明確にする。課題に対して最も適した研究方法を用い、研究の倫理的配慮を行って研究計画を立案する。倫理委員会の審査後に、研究を実施、結果をまとめ、修士論文を作成する。一連の課程を習得する。

---

### 授業の目的

1 一連の研究プロセスを着実に経て研究を実施できる基礎能力を身につける。 2 論文作成ができる基礎能力を身につける。 3 学術発表ができる基礎能力を身につける。

---

### 内容

1回生 1～2 研究課題別の研究プロセスを学習する。 3～6 研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション 7～9 研究課題に最も適した研究方法の決定。同時に研究の倫理的配慮を十分に行う。 10～15 研究計画立案を作成し、提出する。 16回以降 倫理審査を受ける準備、書類作成。 研究計画を研究委員会にへ申請し、研究倫理に関する審査を受ける。 研究倫理委員会で承認された後、研究対象者へパイロットスタディを実施し、研究計画の修正。研究計画及びデータ収集方法の再検討。中間報告会でプレゼンテーションする準備。 2回生 1～13 研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。 14～15 研究課題にしたがって論文をまとめる。 16回以降 文献検討を行い、助言を受けながら論文を完成させる。論文完成後、投稿論文、学会発表等研究成果の公開に向けて準備する。 教員からのメッセージ 自学自習以外に同級生と研究上の情報交換を多くし、自己の知識を拡大し充実させる 努力をする。社会人学生は、研究計画立案、研究実施、論文作成時、時間的に余裕を持って行動する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）

備考（プレゼンテーション・ディスカッション参加（30%）、論文（60%）、出席（10%））

科目名 広域看護学特別研究〈M b〉

---

担当者 戸塚 規子

---

### テーマ

看護教育学上も課題の中から研究課題を設定し、研究課題を明確にする。課題に対して最も適した研究方法を用い、研究の倫理的配慮を行って研究計画を立案する。倫理委員会の審査後に、研究を実施、結果をまとめ、修士論文を作成する。一連の課程を習得する。

---

### 授業の目的

1 一連の研究プロセスを着実に経て研究を実施できる基礎能力を身につける。 2 論文作成ができる基礎能力を身につける。 3 学術発表ができる基礎能力を身につける。

---

### 内容

1回生 1～2 研究課題別の研究プロセスを学習する。 3～6 研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション 7～9 研究課題に最も適した研究方法の決定。同時に研究の倫理的配慮を十分に行う。 10～15 研究計画立案を作成し、提出する。 16回以降 倫理審査を受ける準備、書類作成。 研究計画を研究委員会にへ申請し、研究倫理に関する審査を受ける。 研究倫理委員会で承認された後、研究対象者へパイロットスタディを実施し、研究計画の修正。研究計画及びデータ収集方法の再検討。中間報告会でプレゼンテーションする準備。 2回生 1～13 研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。 14～15 研究課題にしたがって論文をまとめる。 16回以降 文献検討を行い、助言を受けながら論文を完成させる。論文完成後、投稿論文、学会発表等研究成果の公開に向けて準備する。 教員からのメッセージ 自学自習以外に同級生と研究上の情報交換を多くし、自己の知識を拡大し充実させる 努力をする。社会人学生は、研究計画立案、研究実施、論文作成時、時間的に余裕を持って行動する。

---

### 授業以外での学習方法

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験（備考参照）小テスト（）授業中課題（）授業中発表等（）参加度（）

備考（プレゼンテーション・ディスカッション参加（30%）、論文（60%）、出席（10%））

科目名 教育実習 I

---

担当者 井ノ口 貴史

---

テーマ

実りのある教育実習

---

### 授業の目的

学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。 [授業の概要] 教育実習生として期待することは3つある。(1) 実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2) 大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3) 教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。 実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②

---

### 内 容

○第3週 ・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。 ・児童の新しい面を見いだすように努める。 ・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。 ○第4週 ・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。 ・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。 なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

---

### 授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

---

### 教科書

### 参考書

---

### 成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%)

備考 ( )

科目名 教育実習Ⅱ（3回生枠）〈3回〉

担当者 井ノ口 貴史

### テーマ

実りある教育実習（教育実習事前指導）

### 授業の目的

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする【授業の概要】 授業の日程については、教務課の掲示板に掲示する。見落とすことがないように注意されたい。この授業の欠席は原則認められない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届け出はない場合は、教員免許状取得を放棄したものと見なす。

### 内容

【事前指導】 1回目 教員の適性について ・教育職員免許法について ・教育実習について ・免許取得の心構えについて 2回目 教員の資質について ・教育実習の実態について—実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて ・教育実習受講の心構えについて ・実習校事前訪問の意義と心構えについて ・教育実習受講資格について（内規） 3回目 ビデオによる教育実習の観察指導 4回目 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答 5回目 教育実習の心得 6回目 現場教員による講演 7回目 教育実習直前指導 ・教員に求められている性格、能力、行動、言辞について ・教室管理の方法及び生徒との接触の仕方と限界について ・教材研究の徹底に関して ・実習に際しての具体的な注意と心構え

【事後指導】 8回目 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について 及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う【実習】 ○第1週 ・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。 ・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。 ・学校の一日のくらしの内容をつかむ。 ○第2週 ・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。 ・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。 ・生徒相互の関係に目をむける。

### 授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動などに参加することを望む。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）

備考（）

科目名 教育実習Ⅱ（4回生枠）〈4回〉

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

実りある教育実習（教育実習事前指導）

### 授業の目的

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする【授業の概要】 授業の日程については、教務課の掲示板に掲示する。見落とすことがないように注意されたい。この授業の欠席は原則認められない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届け出はない場合は、教員免許状取得を放棄したものと見なす。

### 内容

【事前指導】 1回目 教員の適性について ・教育職員免許法について ・教育実習について ・免許取得の心構えについて 2回目 教員の資質について ・教育実習の実態について—実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて ・教育実習受講の心構えについて ・実習校事前訪問の意義と心構えについて ・教育実習受講資格について（内規） 3回目 ビデオによる教育実習の観察指導 4回目 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答 5回目 教育実習の心得 6回目 現場教員による講演 7回目 教育実習直前指導 ・教員に求められている性格、能力、行動、言辞について ・教室管理の方法及び生徒との接触の仕方と限界について ・教材研究の徹底に関して ・実習に際しての具体的な注意と心構え

【事後指導】 8回目 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について 及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う【実習】 ○第1週 ・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。 ・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。 ・学校の一日のくらしの内容をつかむ。 ○第2週 ・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。 ・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。 ・生徒相互の関係に目をむける。

### 授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動などに参加することを望む。

### 教科書

### 参考書

### 成績評価

試験（0%）小テスト（0%）授業中課題（50%）授業中発表等（0%）参加度（50%）

備考（）